

1.授業コード (ナンバリング)	25110	2.科目名	産業心理学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	河崎俊博					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	人間行動学研究科 人間行動学専攻			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目では、公認心理師の 5 領域のうち「産業」分野の業務を遂行するために必要な知識と技能を身につけることを目的とします。 【概要】 本科目では、産業分野に必要な法令や知識、キーワードについて学びます。また産業臨床において求められるスキルの一つである「セルフケア研修」などが実施できるよう、研修で活用できるグループワークやフォーカシングのワークなどを体験的に学習します。					
18.学習目標と DPとの関連	【目標】 本科目の学習目標は次の通りです。 ①産業臨床に必要な法令等の知識について説明できる ②適切なメンタルヘルスケアを提供できるようになる 【関連するディプロマポリシー】 (1) 自律性 (2) 多様性理解 (3) 問題発見・解決力 (4) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。教科書は使用しません。					
20.参考文献	【参考文献】 「フォーカシング健康法」森川友子（著）、誠信書房、2015 「フォーカシングはみんなのもの」村山正治（編）、創元社、2013 「マンガで学ぶフォーカシング入門」福盛英明・森川友子編、誠信書房 2005、 「職場のストレスマネジメント」島津明人（編著）誠信書房、2014					
21.成績評価	評価の方法と割合は以下の通りです。 1. 毎回のコメントペーパー（10 点） 2. 模擬メンタルヘルス研修の授業内での実施（50 点） 3. 上記研修のスライド・配布資料の提出（10 点） 4. 上記研修実施について気づいた点、改善点についてのレポート（30 点） すべて指定の内容を踏まえ、提出期限を守って提出されることを合格の基準とします。					
22.コメント	産業領域では研修講師を担当することも多いため、積極的に練習しましょう。					
23.オフィスアワー	授業前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等に対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション、自己紹介					
第 2 回	労働関連の法令（安全配慮義務、ストレスチェック制度含む）			復習：授業内容を振り返り、自分ならどうするかを考える。		
第 3 回	産業分野での臨床（1）EAP（Employee Assistance Program）など			復習：授業内容を振り返り、自分ならどうするかを考える。		
第 4 回	産業分野での臨床（2）企業内カウンセリング、産業保			復習：授業内容を振り返り、自分ならどうす		

	健支援センターなど	るかを考える。
第 5 回	復職支援について	復習：授業内容を振り返り、自分ならどうするかを考える。
第 6 回	セルフケア、ラインケアとその実施法 (1)	復習：授業内で体験したグループワークについて、「自分ならどのように使うか」「どのようにファシリテートするか」を振り返っておく。
第 7 回	セルフケア、ラインケアとその実施法 (2)	復習：授業内で体験したグループワークについて、「自分ならどのように使うか」「どのようにファシリテートするか」を振り返っておく。
第 8 回	模擬メンタルヘルス研修の実施 (1)	復習：実際に各自が 60 分のセルフケア研修を立案し、授業内で実施する。自らが行った研修についてのフィードバックはレポートのために記録しておく。
第 9 回	模擬メンタルヘルス研修の実施 (2)	復習：実際に各自が 60 分のセルフケア研修を立案し、授業内で実施する。自らが行った研修についてのフィードバックはレポートのために記録しておく。
第 10 回	模擬メンタルヘルス研修の実施 (3)	復習：実際に各自が 60 分のセルフケア研修を立案し、授業内で実施する。自らが行った研修についてのフィードバックはレポートのために記録しておく。
第 11 回	模擬メンタルヘルス研修の実施 (4)	復習：実際に各自が 60 分のセルフケア研修を立案し、授業内で実施する。自らが行った研修についてのフィードバックはレポートのために記録しておく。
第 12 回	模擬メンタルヘルス研修の実施 (5)	復習：実際に各自が 60 分のセルフケア研修を立案し、授業内で実施する。自らが行った研修についてのフィードバックはレポートのために記録しておく。
第 13 回	模擬メンタルヘルス研修の実施 (6)	復習：実際に各自が 60 分のセルフケア研修を立案し、授業内で実施する。自らが行った研修についてのフィードバックはレポートのために記録しておく。
第 14 回	模擬メンタルヘルス研修の実施 (7)	復習：実際に各自が 60 分のセルフケア研修を立案し、授業内で実施する。自らが行った研修についてのフィードバックはレポートのために記録しておく。
第 15 回	模擬メンタルヘルス研修の実施 (8)	復習：実際に各自が 60 分のセルフケア研修を立案し、授業内で実施する。自らが行った研修についてのフィードバックはレポートのために記録しておく。

1.授業コード (ナンバリング)	25120	2.科目名	データ分析法		3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学研究科			9.履修学年	1・2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	・多変量解析の手法を用いて、各種調査データを分析し、学術論文の形にまとめる方法を習得する。分析には様々な統計ソフトを用いる（SPSS、HAD など）。 ・受講生の興味に応じてテキストマイニング（KH coder）についても学んでも良い。 ・基礎的な分析（分散分析・因子分析・単回帰分析・重回帰分析等）について実際にデータを扱いながら、分析手法を覚える。 ・最終的に、サンプルデータを用いて、指定された分析手法の解析を行い、その結果から考察ができるようにする。 ※下記 15 回の講義内容は、昨年度のスケジュールである。受講生の興味に応じて、ある程度変更する可能性がある。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（2）調査分析能力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・分析ソフトを用いて各種データの代表的な手法を実行できる。 ・自分で仮説を立てて分析を実行し、結果を正確に読み取り、その含意を考察できる。 ・一連の作業を整合的にレポートにまとめることができる。					
19.教科書・教材	なし。					
20.参考文献	『Excel で今すぐはじめる心理統計ー簡単ツール HAD で基本を身につけるー』 小宮あすか・布井雅人著 講談社 『動かして学ぶ！ はじめてのテキストマイニング』 樋口 耕一，中村 康則，周 景龍著 ナカニシヤ出版					
21.成績評価	1 毎週実施するミニレポート 60 点 2 最終レポート 40 点					
22.コメント	統計学の基礎的知識を修得済みであること。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	オリエンテーション・・・授業の進め方、データの配布					
2	HAD のインストール、HAD の内容理解			データ分析（180 分）		
3	統計分析の基礎知識			データ分析（180 分）		
4	t 検定など			データ分析（180 分）		
5	一要因分散分析など			データ分析（180 分）		

6	二要因分散分析など	データ分析（180 分）
7	相関など	データ分析（180 分）
8	単回帰分析など	データ分析（180 分）
9	テキストマイニングソフトのインストール（KH coder） テキストマイニングとは	データ分析（180 分）
10	前処理、共起ネットワーク作成、読み取り方など	データ分析（180 分）
11	頻出語、未知語、複合語などのチェック	データ分析（180 分）
12	Excel データからプロジェクトを作成する、外部変数等	データ分析（180 分）
13	対応分析など	レポート作成（180 分）
14	コーディングルール、クロス集計など	レポート作成（180 分）
15	統括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	25130	2.科目名	精神医学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美					
5.授業科目の区分	基幹科目 心理学分野における実 務経験のある教員によ る授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学研究科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	公認心理師・臨床心理士受験資格取得		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義、遠隔オンライン・オンデマンド			
16.履修制限	特に設けない。					
17.授業の目的と概要	本科目は、公認心理師受験資格取得に関わる保健医療分野に関する理論と支援の展開、臨床心理士受験資格取得の選択科目 D 群に位置づけられている。メンタルヘルス(精神的健康)に関わる職種や資格は多様化しており、心理師(士)もその 1 つである。メンタルヘルスの問題に適切に関わるために必要な精神医学の知識を理解することを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標には DP(ディプロマポリシー)の 7 つ、専門知識・技能、問題発見力、調査分析能力、論文作成能力、課題解決策への提案力、コミュニケーション能力、倫理観が関わる。 公認心理師・臨床心理士受験資格取得を目指す大学院生として、授業での課題に自律的に関わり、問題発見し、その問題について調査分析し、その結果を基に課題解決策への提案をレポートにまとめ、授業中に倫理観をもって発表する。 本科目の学習目標は、以下の 3 つである。 ①精神医学と心理学の関係を説明できる。 ②さまざまな精神疾患に症状、経過、支援などについて説明できる。 ③各発達期に生じやすい精神障害について説明できる。					
19.教科書・教材	教科書は特に指定しない、他に教材として power point(遠隔オンライン：神戸山手 C 発信)と webclass を使用する。					
20.参考文献	授業中に適宜紹介する。 新訂精神医学特論 石丸昌彦・広瀬宏之著 放送大学教育振興会					
21.成績評価	webclass を利用した授業回毎のレポート（授業内容について考えたこと）@4×14 点、授業態度（質問に対する適切な回答等）14 点、webclass を使用した総括試験（全範囲の知識が記述されたか）30 点					
22.コメント	授業は、遠隔オンライン、遠隔オンデマンドで行う。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：神戸山手 C 火曜日昼休み、センターオフィスアワー：同 C 水曜日昼休み。希望者は事前にメールで連絡をください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	イントロダクション 授業の目的、学習目標と DP との関連、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法			予習：シラバスを読む。 復習：授業中に理解した内容を整理し、まとめて webclass にレポートとして報告する。		
第 2 回	1. 精神医学とは			予習：資料を読む。 復習：日本の精神医療についてあなたの考えをまとめ、webclass にレポートとして報告する。		

第 3 回	2. 統合失調症とは (1)	予習：資料を読む。 復習：統合失調症の遺伝要因と環境要因についてあなたの考えをまとめ、webclass にレポートとして報告する。
第 4 回	2. 統合失調症とは (2)	予習：資料を読む。 復習：統合失調症への対処方法をまとめ、webclass にレポートとして報告する。
第 5 回	3. 気分の障害とは (1)	予習：資料を読む。 復習：うつ病と双極性障害の症状をまとめ、webclass にレポートとして報告する。
第 6 回	3. 気分の障害とは (2)	予習：資料を読む。 復習：うつ病の小精神療法である笠原の 7 原則をまとめ、あなたの考えを webclass にレポートとして報告する。
第 7 回	4. 不安障害と強迫性障害とは	予習：資料を読む。 復習：不安障害と強迫性障害の症状をまとめ、webclass にレポートとして報告する。
第 8 回	5. ストレス関連障害と解離性障害	予習：資料を読む。 復習：ASD、PTSD、解離性障害の症状をまとめ、webclass にレポートとして報告する。
第 9 回	6. 身体疾患による精神障害	予習：資料を読む。 復習：身体疾患 1 つと精神症状の関係について調べ、webclass にレポートとして報告する。
第 10 回	7. 発達障害、小児の心身症と精神疾患	予習：資料を読む。 復習：小児の心身症と精神疾患の対応の原則をまとめ、あなたの考えを webclass にレポートとして報告する。
第 11 回	8. 思春期・青年期の精神疾患	予習：資料を読む。 復習：あなたが関心を持ったパーソナリティ障害について症状、経過、対応をまとめ、webclass にレポートとして報告する。
第 12 回	9. 成人期の精神疾患	予習：資料を読む。 復習：物質関連障害についてまとめ、webclass にレポートとして報告する。
第 13 回	10. 成人後期の精神疾患	予習：資料を読む。 復習：MCI について調べたことをまとめ、webclass にレポートとして報告する。
第 14 回	11. 精神科治療	予習：資料を読む。 復習：薬物治療の効用と副作用について調べ、webclass にレポートとして報告する。
第 15 回	まとめとテスト 授業のまとめと最終確認テストを行う。	

1.授業コード (ナンバリング)	25220	2.科目名	社会統計学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	藤木清					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（パソコンの演習あり）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	政策や対策を実施するためには、「根拠」にもとづくことが重要である。その根拠を導き出す手法の一つが統計的分析手法である。本科目では、統計学の基礎理論、推定と検定の基礎とよく利用される手法について演習やディスカッションを交えながら講義を行う。					
18.学習目標と DPとの関連	<学修目標> 1. 統計学の基礎理論を理解する。 2. 推定および検定手法の理論的背景を理解する。 3. 目的に見合った推定あるいは検定手法を選択でき、利用できる。					
19.教科書・教材	未定 ※補助資料として、適宜プリントを配付する。					
20.参考文献	杉原左右一「統計学（増補第3版）」晃洋書房					
21.成績評価	授業での発言等 50%（学習目標1，2） レポート 50%（学習目標2，3）					
22.コメント						
23.オフィスアワー	※メール等で問い合わせてください					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	統計学の基礎的概念 記述統計と推測統計、仮説検証型と問題発見型、変数と尺度について			第1回の復習 (目安 90 分)		
第2回	記述統計 質的データ、量的データのまとめ方、代表値と散布度について			第2回の復習 (目安 90 分)		
第3回	事象と確率 事象と確率の基本概念について			第3回の復習 (目安 90 分)		
第4回	確率変数と確率分布 離散型及び連続型の確率変数と確率分布の特徴について			第4回の復習 (目安 90 分)		
第5回	母集団と標本 母集団と標本の基本概念について			第5回の復習 (目安 90 分)		
第6回	標本分布 標本分布の性質について			第6回の復習 (目安 90 分)		

第 7 回	中心極限定理と大数の法則 中心極限定理と大数の法則の概念について	第 7 回の復習 (目安 90 分)
第 8 回	推定 点推定と区間推定	第 8 回の復習 (目安 90 分)
第 9 回	検定 統計的仮説検定の基本概念、2 種類の過誤について	第 9 回の復習 (目安 90 分)
第 10 回	平均値の差の検定 SPSS による平均値の差の検定の方法	第 10 回の復習 (目安 90 分)
第 11 回	分散分析 SPSS による一元配置分散分析の方法	第 11 回の復習 (目安 90 分)
第 12 回	相関分析 SPSS による相関分析の方法	第 12 回の復習 (目安 90 分)
第 13 回	回帰分析 回帰分析の基本概念	第 13 回の復習 (目安 90 分)
第 14 回	回帰分析 SPSS による回帰分析の方法	第 14 回の復習 (目安 90 分)
第 15 回	総括 授業全体のまとめ	第 15 回の復習 最終レポート (目安：8 時間)

1.授業コード (ナンバリング)	25250	2.科目名	心理療法特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子					
5.授業科目の区分	【基幹科目】臨床心理分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	臨床心理学コース			9.履修学年	修士 1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義 、グループワーク	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この講義では、臨床心理士の職業的専門性と独自性について学び、クライアントとセラピストとの間で生じることについての基本を学ぶ。具体的には親子並行面接を想定し、前半では子ども面接、後半では親面接についての基礎知識、基本的姿勢を身につけることを目的とする。					
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の 1.専門知識・技能、6.コミュニケーション能力、7.倫理観の学修に関連している。 本科目の学習目標は次の通りである。 ① 心理臨床家の専門性と倫理について理解している ② 心理療法のプロセスの基本的なイメージを持っている ③ クライアントとの間で生じることについての基本的な用語を知っている ④ ケースフォーミュレーションの必要性について理解している ⑤ 心理療法について、わが身に引きつけてイメージができる					
19.教科書・教材						
20.参考文献	授業中に適宜紹介する					
21.成績評価	遊戯療法のロールプレイによるスキルの向上（30％） 親面接のロールプレによる面接スキルの向上（30％） ロールプレイふりかえり（40％）					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回目	前半オリエンテーション 春学期の遊戯療法ふりかえり					
第 2 回目	遊戯療法ロールプレイ ※一人 25 分					
第 3 回目	ロールプレイふりかえり					
第 4 回目	遊戯療法ロールプレイ ※一人 25 分					
第 5 回目	ロールプレイふりかえり					
第 6 回目	遊戯療法ロールプレイ ※一人 25 分					
第 7 回目	ロールプレイふりかえり			コミュニケーションシートの提出		

		次回の輪読文献の下読み
第 8 回目	テキスト輪読	コミュニケーションシートの提出 次回の輪読文献の下読み
第 9 回目	テキスト輪読	コミュニケーションシートの提出 次回の輪読文献の下読み
第 10 回目	テキスト輪読	コミュニケーションシートの提出 次回の輪読文献の下読み
第 11 回目	テキスト輪読	ロールプレイふりかえりの準備
第 12 回目	親面接ロールプレイとふりかえり	ロールプレイふりかえりの準備
第 13 回目	親面接ロールプレイとふりかえり	ロールプレイふりかえりの準備
第 14 回目	親面接ロールプレイとふりかえり	ロールプレイふりかえりの準備
第 15 回目	総括振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	25430	2.科目名	臨床心理学特論Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	松井幸太					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間行動学専攻			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	臨床心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	心の苦しみに対する理解のために、見立てをめぐる心理臨床学の方法論と臨床心理的支援のあり方を学習する。また、箱庭や描画、グループワークを用いて、イメージの自律性を体験することで、心の現象発生のメカニズム解明と臨床心理学的援助を考究する。					
18.学習目標と DPとの関連						
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	授業内でのディスカッション 30% ゲストスピーカーの講話に関するレポート 10% ペアワークの体験レポート 20% 文献講読の書評レポート 10% 総括レポート 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス					
第 2 回	心理療法とは 心理療法のなかでおこなわれていること					
第 3 回	心理臨床実践に関するディスカッション					
第 4 回	心理療法の先人に学ぶ① 河合隼雄氏の軌跡					
第 5 回	心理療法の先人に学ぶ② 成瀬悟策氏の軌跡					
第 6 回	心理療法の先人に学ぶ③ 小此木啓吾氏の軌跡					
第 7 回	心理臨床実践現場で活躍するゲストスピーカーによる 講話					
第 8 回	心理臨床実践現場で活躍するゲストスピーカーによる 講話に関するふりかえり					
第 9 回	心理臨床事例の検討①					
第 10 回	心理臨床事例の検討②					
第 11 回	心理臨床に関するペアワーク体験①					
第 12 回	心理臨床に関するペアワーク体験②					
第 13 回	心理臨床に関するペアワーク体験②					
第 14 回	心理臨床に関する文献講読、書評の発表					
第 15 回	まとめ ふりかえり					

[illegible]

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	25450	2.科目名	犯罪心理学特講		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山誠					
5.授業科目の区分	【基幹科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1・2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	我が国において過去に発生した重要特異事件について、理論的な説明ができる ① ヒトの心理を客観的に理解できる ヒトの心理学的諸現象に対し、複数の理論を適用といて説明できる ② 心理学で得た知識に基づいて、犯罪捜査の問題解決に応用できる					
18.学習目標と DPとの関連	① ベンチマーク：自律できる人間になる 新しい知識や技能を学ぶことに関心や意欲をもつことができる ② ベンチマーク：問題解決能力を身につける 必要な情報をさまざまな方法を使って集め、解決の視点から必要な情報を 取捨選択し、使いやすく整理・保存して、問題を発見することができる					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	文献を読んでレジメを作成し、授業中に発表する 30% 討議への参加 20% ・レポート 50%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション					
	海外からの犯罪心理学についての質問					
	感情と生理反応 ミラーニューロンと呼吸停止					
	学校での犯罪について					
	テロ事件とパーソナリティのポリグラフ					
	個人のポリグラフについて 国防総省会議テーマにそって発表と討議を行う。					
	個人のテーマにそって発表と討議を行う。					
	個人のテーマにそって発表と討議を行う。					
	個人のテーマにそって発表と討議を行う。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	25530	2.科目名	投影法特論Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本喜晴					
5.授業科目の区分	臨床心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1・2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	投影法の中でも、習熟に時間を要する描画法について学ぶ。 特に、風景構成法・BAUM テスト・スクイグル・箱庭について理解を深める。 描画に触発されて生じるさまざまな感情や感覚、気持ちを時間をかけて丁寧に味わい、振り返り、受講者で共有していくことで、投影法を心理臨床で用いることができるようになる。					
18.学習目標と DPとの関連	BAUM テスト・風景構成法・スクイグル等の描画法を、臨床場面で用いられるようになる。 箱庭療法についても臨床場面で用いられるよう習熟を目指す。					
19.教科書・教材	日本描画テスト描画療法学会（編集）『臨床描画研究（1～23）』 金剛出版（1986～2008）					
20.参考文献						
21.成績評価	投影法に関する実技 30％ 投影法に関するレポート 30％ 総括レポート 40％					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センターオフィスアワー：水曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業内容の説明と紹介					
【第 2 回】	BAUM テスト実習					
【第 3 回】	BAUM テスト実習②					
【第 4 回】	風景構成法 実習①					
【第 5 回】	風景構成法 実習②					
【第 6 回】	風景構成法 実習③					
【第 7 回】	スクイグル 実習①					
【第 8 回】	スクイグル 実習②					
【第 9 回】	箱庭 実習①					
【第 10 回】	箱庭 実習②					
【第 11 回】	箱庭 実習③					
【第 12 回】	箱庭 実習④					
【第 13 回】	絵本とイメージ ①					
【第 14 回】	絵本とイメージ②					
【第 15 回】	全体のまとめ					

1.授業コード (ナンバリング)	25540	2.科目名	臨床心理面接特論Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	横川滋章、田中亜裕子、松井幸太、山本喜晴					
5.授業科目の区分	【基幹科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	臨床心理学コース			9.履修学年	1・2 年	
10.取得資格の要件	臨床心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	臨床心理士の職域は広いが、心理面接はすべての職域で必要とされると言っても過言ではない。この講義では、臨床心理面接特論Ⅰで学習した事柄を復習し、習得した知識を確実なものとするとともに、実際の事例を中心とした治療面接に関するさまざまな局面を取り上げ、それらの面接状況により、臨床心理士として必要とされる知識と態度を学習することを目標とする。 臨床心理面接特論Ⅰで学習した事柄を復習し、受講者に臨床家として確実な知識と態度として定着させる。 実際の事例の記録を題材に取り上げ、治療面接のさまざまな局面で想定される事態にどのように対応するかを考えてもらう。 授業では多くの事例を「読みこなす」ことが必要である。そのため、幅広い知識を習得している必要がある。通常の講義形態に加え、内部実習である心理臨床センターでの陪席実習を通じて、インテーク報告書を作成し、ケースカンファレンスにて発表するが含まれる。 臨床心理面接特論Ⅰと同様、この講義内容は、2 年次の臨床心理実習の基礎となる。					
18.学習目標と DPとの関連	陪席実習により、インテーク報告書を作成することができる。					
19.教科書・教材	適宜紹介					
20.参考文献						
21.成績評価	最終レポート 40% 事例発表 40% 授業へのコミット 20%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：火曜日・4 限(山本喜晴)、金曜日昼休み（松井幸太）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回目	科目のオリエンテーション・SV・陪席面接について					
第 2 回目	事例 A の紹介（逐語資料） 事例 A に関するディスカッション					
第 3 回目	事例 A のインテーク報告に関するディスカッション					
第 4 回目	事例 B の紹介（逐語資料） 事例 B に関するディスカッション					
第 5 回目	事例 B のインテーク報告に関するディスカッション					
第 6 回目	事例 C の紹介（逐語資料） 事例 C に関するディスカッション					
第 7 回目	事例 C のインテーク報告に関するディスカッション					
第 8 回目	事例 D の紹介（逐語資料） 事例 D に関するディスカッション					
第 9 回目	事例 D のインテーク報告に関するディスカッション					

第 10 回目	事例 E の紹介（逐語資料） 事例 E に関するディスカッション	
第 11 回目	事例 E のインテーク報告に関するディスカッション	
第 12 回目	今までの事例を通して、心理面接の過程を考える	
第 13 回目	自分が実際の仕事で事例を担当するとすればどのようなことに注意すべきかに関するディスカッション	
第 14 回目	心理臨床における倫理について	
第 15 回目	最終レポートアサイメントのシェア 他機関への情報提供や委託紹介についての講義 講義全体を振り返り、自己点検を行う	

1.授業コード (ナンバリング)	25610	2.科目名	社会調査実習		3.単位数	1
4.授業担当教員	清水美知子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学研究科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	専門社会調査士（必修）		11.先修条件	原則として、「社会調査士」資格を取得済であること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	「社会調査士」資格を取得済、もしくは履修中の大学院生を対象とします。					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会調査における「質的調査」の事例を参照しながら、質的調査法の可能性と限界について学ぶことを目的とします。 【概要】 ①質的調査の手法について学びます。 ②各自の研究テーマについて、質的調査法を使った企画案を考えます。 ③身近なテキストのデータ収集・分析を通して、内容分析の方法について学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は、DP（ディプロマ・ポリシー）の「専門知識・技能」「調査分析能力」の学修に関連しています。 ○質的調査の諸技法について理解する。 ○質的調査の手法を用いて調査を立案して実施する。 ○調査結果を整理して考察を行い、報告書としてまとめる。					
19.教科書・教材	●工藤保則・寺岡伸吾・宮垣元編『〔第3版〕質的調査の方法：都市・文化・メディアの感じ方』法律文化社 毎回の資料は WebClass にあげます。					
20.参考文献	適宜、紹介します。					
21.成績評価	●レジュメ作成 4 回⇒計 40%…①に対応 ●調査企画書⇒20%…②に対応 ●調査企画書および調査報告書⇒計 40%…③に対応					
22.コメント	●「専門社会調査士」資格科目です。資格取得をめざし、前向きに取り組む意欲のある人のみ受講してください。 ●実習を伴いますので、原則、対面で授業を行います。 ●2 回目より原則、2 コマ連続の変則的な授業運営になります。初回にガイダンスを行います。 ●授業は以下の日程を予定しています（10 月 5 日 1 限、10 月 12 日 1 限 2 限、11 月 2 日 1 限 2 限、11 月 16 日 1 限 2 限、11 月 30 日 1 限 2 限、12 月 14 日 1 限 2 限、12 月 21 日 1 限 2 限、1 月 18 日 1 限 2 限）					
23.オフィスアワー	【神戸山手キャンパス】 ●センターオフィスアワー⇒水曜昼休み（神戸山手キャンパス 1 号館 2 階ラーニングコモンズ） ●研究室オフィスアワー水曜 II 限（神戸山手キャンパス 1320 研究室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	●オリエンテーション：授業内容および進め方について			持参するもの：テキスト（以下、毎回）		

	●社会調査における「質的調査」と「量的調査」について	
第2回	●質的調査の方法① インタビュー法を使った事例の輪読を通して、その特徴と手法について学ぶ。	提出物：レジュメ
第3回	●質的調査の方法② 参与観察法を使った事例の輪読を通して、その特徴と手法について学ぶ。	提出物：レジュメ
第4回	●質的調査の方法③ ライフヒストリー法を使った事例の輪読を通して、その特徴と手法について学ぶ。	提出物：レジュメ
第5回	●質的調査の方法④ ドキュメント分析法を使った事例の輪読を通して、その特徴と手法について学ぶ。 ●課題告知：各自の研究テーマについて、質的調査法を使った調査企画案を考えて、調査企画書を作成しなさい。	提出物：調査企画書及びレジュメ
第6回	●質的調査の方法⑤ 質的調査法の可能性と限界について学ぶ。 ●第1回レポートをもとに発表する。	
第7回	●内容分析という手法①： 内容分析とはどんな調査法なのか？ 内容分析を使った調査事例を輪読する。	
第8回	●内容分析という手法②： なぜ大衆文化とテキストとなるのか？ 内容分析を使った調査事例を輪読する。	
第9回	●内容分析という手法③： どのような手順で分析するのか？ 内容分析を使った調査事例を輪読する。	
第10回	●内容分析の実際① 調査テーマの候補案について、どおよな方法で進めるのか話し合う。演習	持参するもの：ノート PC（以下、毎回） 提出物：調査企画書
第11回	●内容分析の実際② テキストの選定、データの収集、演習	
第12回	●内容分析の実際③ 内容のジャンル分け、演習 実際にテキストに当たり、データを収集する。	
第13回	●内容分析の実際④ 内容のジャンル分け、演習 収集したデータを分類別にする。	
第14回	●内容分析の実際⑤ 結果の図表化と内容のジャンル分け、演習 結果に考察を加える。	
第15回	●内容分析の実際⑥： 調査結果の報告、全体のまとめ 調査結果のふりかえり	提出物：調査報告書

1.授業コード (ナンバリング)	28000	2.科目名	健康心理学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美、道免逸子					
5.授業科目の区分	【基幹科目】臨床心理分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	修士 1 年	
10.取得資格の要件	公認心理師資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 グループワーク オンライン／オンデマンド（後半，山本真由美担当部分）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この講義では、健康心理学について学び、公認心理師の業務である、心の健康教育の実践に必要な基本的知識をみにつけることを目的とする。					
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の 1.専門知識・技能、6.コミュニケーション能力、7.倫理観の学修に関連している。 本科目の学習目標は次の通りである。 ①公認心理師の業務である予防のための心理教育について理解し、実践できる。 ②ストレスとストレス関連疾患についての基本的事項について説明できる。 ③ウェルビーイングとポジティブ心理学について説明できる。 ④ストレスマネジメントの基礎を身につけており、自ら実践し、研修できる。 ⑤様々な対象に対するメンタルヘルスの実践について説明できる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	コミュニケーションシート 4 × 13 5 2 % (①②③④⑤に対応) 中間ふりかえり 2 4 % (①②③④に対応) 総括テスト 2 4 % (①②③④⑤に対応)					
22.コメント	成績評価の中間振り返りは、道免先生が行います。総括テストは、後半部分の内容について山本が出題します。					
23.オフィスアワー	冬学期は、ありません。 ご質問等が、あれば、メールで連絡してください。(山本)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回目	ガイダンス 健康心理学とは mindmeister の基本			毎回ノートパソコンを持参する。 コミュニケーションシートの提出 (10 分)		
第 2 回	ストレスとコーピング			コミュニケーションシートの提出 (10 分)		
第 3 回	食に関連した健康問題			コミュニケーションシートの提出 (10 分)		
第 4 回	睡眠に関連した健康問題			コミュニケーションシートの提出 (10 分)		
第 5 回	セルフケア 自律訓練法の基礎 ワーク			コミュニケーションシートの提出 (10 分)		
第 6 回	ポジティブ心理学			コミュニケーションシートの提出 (10 分)		
第 7 回	セルフケア リソース強化と認知修正 ワーク			中間振り返りにかえて、7 回までの内容を mindmeister でまとめて提出する。		
第 8 回	心の健康とウェルビーイング (山本担当)			コミュニケーションシートの提出 (10 分)		
第 9 回	子どものメンタルヘルス (山本担当)			コミュニケーションシートの提出 (10 分)		
第 10 回	職場のメンタルヘルス (山本担当)			コミュニケーションシートの提出 (10 分)		

第 11 回	高齢者のメンタルヘルス（山本担当）	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 12 回	生活習慣とメンタルヘルス（山本担当）	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 13 回	嗜癖とメンタルヘルス（山本担当）	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 14 回	不調を抱える当事者の家族のメンタルヘルス（山本担当）	コミュニケーションシートの提出（10 分）
第 15 回	最終テスト（山本担当）	

1.授業コード (ナンバリング)	30511	2.科目名	教育環境学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	道中 隆					
5.授業科目の区分	共通科目 基幹科目 保健と福祉、行政分野 における実務経験のある 教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間行動学専攻 臨床教育学専攻			9.履修学年	M1 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習形式	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本における格差社会の中で、子どもの貧困問題をはじめとするさまざまな問題がクローズアップされている。こうした子どもの教育や発達上の問題、健康問題が発生する過程については、この間、蓄積された先行研究によって多くのことが解明されてきた。 ここでは、具体的なテーマに沿った文献購読を行うことにより、教育社会学、福祉政策学などの関連分野で必要となる概念と研究方法論の習得をめざす。 本授業のテーマに関する文献を収集し、輪読を通して、論点を整理・分析する。その上で課題に対する政策や研究方法論を理解するとともに課題解決への仮説生成や論点整理を行う。特に、貧困世帯をめぐる子どもの発達や健康、教育への影響に視座に課題解決に向けた研究の意義を理解する。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 学習目標 ①社会保障と教育や福祉等と関係づけて保健・医療・福祉を政策的に捉え論点整理することができる。 ②教育や保健医療福祉をめぐる諸問題について理論的な視点から課題を捉え考察することができる。 ③自ら収集した情報と学習した内容を分析し、その結果を文章化することができる。 2. ベンチマーク ①論文理解能力（専門分野における主要な論文を理解することができる） ②批判能力（関連する学術論文を批判的に読むことができる） ③コミュニケーション能力（他の研究者とディスカッションを行うことができる）					
19.教科書・教材	輪読文献は適宜示す。 ※講義の中で資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。					
20.参考文献	・ 道中隆(2016) 『第2版 貧困の世代間継承—社会的不利益の連鎖を断つ』 晃洋書房 ・ 浅井春夫/松本伊智朗/湯澤直美(2008) 『子どもの貧困-子ども時代のしあわせ平等のために』 ・ 近藤克彦(2007) 『検証「健康格差社会」』 医学書院 ・ OECD 御園生純/稲川英嗣(2004) 『OECD 教育政策分析』 E ducation Policy Analysis 2004 Edition 明石書店 ・ 経済協力開発機構(OECD) 『図表でみる教育 OECD インディケータ(2013)』 Education at					
21.成績評価	①文献の発表：40％ ②『レポートⅠ』：30％ ③『レポートⅡ』：30％ 評価は上記①～③に基づく総合評価とする。なお②および③の評価については、共通ループブックによるものとする					

22.コメント	毎回、各テーマについて議論などをする時間を設けるので、事前に出された課題は必ずするようにしましょう。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回 09/30】	第1回 オリエンテーション 授業の進め方、評価方法等のガイダンス ●支援を行う人の適正とは ●専門性/専門職について ●ワーク Q1-2 摂津市児童虐待を考える	1-3.アサインメント/持参するもの 摂津市の児童虐待事案について調べる
【第2回 10/07】	第2回 (1) 児童虐待「兆候の見逃がしをいかに防止するか」 児童虐待に関する概要 PW (2)個人の発表と討議 ワーク Q③、⑧メディアの視点	文献購読(事前に読んでおく) 『子どもの貧困とウェルビーイングー子どもの幸福と未来を守るため』
【第3回 10/14】 《平常授業》	第3回 (1)教育環境学の隣接科学の文献購読 『子どもの貧困とウェルビーイングー子どもの幸福と未来を守るために』 pp.1-43 (2)政策課題研究 ●ワーク①、②文献を読んで「わが国の里親はなぜ、少ないのか?」について、簡潔に論述する	
【第4回 10/21】	第4回 (1)教育環境学の隣接科学の文献購読 (2)個人の発表と討議	
【第5回 10/28】	第5回 (1)教育環境学の隣接科学の文献購読 (2)個人の発表と討議 ★★【課題】 『レポートⅠ』★★ 『社会的養護における里親制度の現状と課題』 3000 字程度	★★レポートⅠ提出★★ 『社会的養護における里親制度の現状と課題』 3000 字程度
【第6回 11/04】 《平常授業》	第6回 個人の発表と討議(1) 教育環境学の隣接科学の文献購読	・「地域包括ケアシステム」とは何か、まとめる
【第7回 11/11】	第7回 個人の発表と討議(1) 教育環境学の隣接科学の文献購読	・「地域包括ケアシステム」の課題について、まとめる
【第8回 11/18】	第8回 個人の発表と討議(1) 教育環境学の隣接科学の文献購読	・医療介護連携の課題等についてまとめる
【第9回 11/25】	第9回 個人の発表と討議(1) 教育環境学の隣接科学の文献購読	

【第 10 回 12/02】	第 10 回 個人の発表と討議(1) 教育環境学の隣接科学の文 献購読 ◎課題ディスカッション	
第 11 回 12/09】	第 11 回 個人の発表と討議(1) 教育環境学の隣接科学の文 献購読	
第 12 回 12/16】	第 12 回 個人の発表と討議(1) 教育環境学の隣接科学の文 献購読	
第 13 回 12/23】	第 13 回 個人の発表と討議(1) 教育環境学の隣接科学の文 献購読 ★★【課題】レポートⅡ提出★★	★★レポートⅡ提出★★
【第 14 回 01/20】	第 14 回 個人の発表と討議(1) 教育環境学の隣接科学の文 献購読	
第 15 回 01/27】	【最終第 15 回】 個人の発表と討議(1) 保教育環境学の隣接科学の文 献購読 ◎課題 『レポートⅢ』のプレゼンを実施	★レポートⅢ提出★

1.授業コード (ナンバリング)	30521	2.科目名	フィールド演習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	川村光					
5.授業科目の区分	【展開科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	フィールドワークを含む社会調査の行うにあたっての基礎知識と態度を修得するために、フィールドワークなどの社会調査に関する文献を輪読する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ① 質的・量的調査の基本知識について説明することができる。 ② 観察、インタビュー、質問紙調査を行うにあたっての態度を修得する。					
19.教科書・教材	佐藤郁也『社会調査の考え方〈上〉』東京大学出版会、2015 佐藤郁也『社会調査の考え方〈下〉』東京大学出版会、2015					
20.参考文献	■佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社、1992. ■佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002. 他の参考図書、参考資料は適宜授業中に紹介する。					
21.成績評価	担当時の発表 25%×2 回 最終レポート 50%					
22.コメント	フィールドワークなどの社会調査に興味・関心を持ち、自律的に行動できる人の受講を求めます。					
23.オフィスアワー	水曜 2 限目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション ・講義の内容や進め方に関する確認。			○次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 2 回】	社会調査における量的・質的調査の位置づけ			○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 3 回】	リサーチ・リテラシー修得にあたっての態度			○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 4 回】	筋の良い社会調査の条件			○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 5 回】	社会調査における分業と協働			○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 6 回】	リサーチ・トライアングルの時間軸			○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 7 回】	筋の良いリサーチ・クエスチョンの条件			○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 8 回】	筋の良い「仮の答え」の条件			○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 9 回】	社会調査における計画と創発			○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 10 回】	サンプリング			○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		

【第 11 回】	サーベイ	○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 12 回】	フィールドワーク	○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 13 回】	既存資料にもとづいた調査	○今回の復習と次回の章を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 14 回】	報告書のまとめ方	○復習を行う。(120 分) また次回の発表準備を行う。(360 分) また、最終発表に関する調査・データ整理を行う。(360 分)
【第 15 回】	まとめ ・ 講義全体の総括 ・ 学習内容の発表	○今回の復習を行う。(120 分) ★最終レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	30523	2.科目名	言語習得特論Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	長瀬慶來					
5.授業科目の区分	【展開科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院人間行動学研究科 臨床教育学専攻				9.履修学年	M1 年
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	多様化する社会、文化、言語：母語（L1）から複数の第二言語（L2×2）へ ～EU の CEFR（言語の学習、教授、評価のための欧州共通参照枠）にみられる 複言語・複文化主義に相応しい言語観・言語教育へ～					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 ①複言語主義・複文化主義について説明することができる。多様性理解 ②言語習得についての調査分析を実際に行うことができる。課題発見・課題解決能力 ③言語習得研究の成果を報告書としてまとめることができる。専門的知識・技能の活用力 複言語化および複文化化が進むグローバル化世界で、スタンダードとなりつつある、EU の 1+ 2 の言語政策（L1+L2×2 すなわち、母語に加えて外国語 2 カ国語を教授する EU の言語政策） は、日本の教育現場でも進行中の、子供たちの多様なニーズ、外国人子女・帰国子女の増加 等、への対応のためのキー・コンセプトである。通常の言語指導から特別支援教育（特に、イ ンクルーシブ教育）を含めた言語教育・言語習得の諸課題について社会文化的アプローチにより 考察する。					
19.教科書・教材	教科書は受講者と相談したうえで指定する。					
20.参考文献	佐野富士子ほか『第二言語習得』大修館，1992. ピアリストク&ハクタ『外国語はなぜなかなか身につかないか』新曜社，2000. スミス&アロット『チョムスキーの言語理論』新曜社，2019. その他の文献、参考図書は適宜授業中に紹介する。					
21.成績評価	担当時の発表 25%×2 回 最終レポート 50%					
22.コメント	言語習得論についての調査分析法を自分のものにするために、しっかりと課題に取り組んでく ださい。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 水曜日昼休み 研究室オフィスアワー 木曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション 多様化する社会、文化、言語：母語（L1）から 複数の第二言語（L2×2）へ			○各回の授業におけるふりかえりを行う。		
【第 2 回】	EU の CEFR（言語の学習、教授、評価のための欧州共 通参照枠）にみられる複言語・複文化主義					
【第 3 回】	第一言語習得 1．母語の習得の特徴、プラトンの問題					
【第 4 回】	第一言語習得 2．母語の習得の特徴、臨界期仮説					
【第 5 回】	第一言語習得と第二言語習得 1． 類似点と相違点					

【第 6 回】	第一言語習得と第二言語習得 2. 普遍文法と言語習得装置	
【第 7 回】	インプット仮説、 アウトプット仮説、 インプット・アウトプット相互作用仮説	
【第 8 回】	言語習得における二角氷山仮説 (Cummins)	
【第 9 回】	言語習得における障害 Genie の言語研究で分かったこと	
【第 10 回】	構音障害に対処するための Praat による音響・音声学的訓練 イントロダクション	課題 最終レポートの題目提出
【第 11 回】	構音障害に対処するための Praat による音響・音声学的訓練： ①母音	
【第 12 回】	構音障害に対処するための Praat による音響・音声学的訓練： ②子音	
【第 13 回】	構音障害に対処するための Praat による音響・音声学的訓練： ③リズム	
【第 14 回】	構音障害に対処するための Praat による音響・音声学的訓練： ④アクセント	
【第 15 回】	ふりかえり ①実技試験および最終レポートの提出	最終レポートの提出

1.授業コード (ナンバリング)	30524	2.科目名	教育社会学特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	川村光					
5.授業科目の区分	【基幹科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1・2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教育学の領域のうち、教育社会学の分野について、下記の内容を扱います。 ①社会階層と教育の機会に関する研究などについて、文献を輪読し、検討を加える。 ②ペアレントクラシーに関する基本的な文献を輪読する。 ③外国にルーツのある子どもに関する基本的な文献を輪読する。					
18.学習目標と DPとの関連	①社会階層と教育の機会に関する研究などを理解し、批判的に読むことができる。 ②ペアレントクラシーの概念を理解し、この概念を使って現代日本の教育問題を分析するための仮説を立て、検証方法を決定することができる。					
19.教科書・教材	荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗『新・教育の社会学―常識>の問い方、見直し方―』有斐閣アルマ 2023 年 耳塚寛明編『教育格差の社会学』有斐閣アルマ 2014 年 中村高康・松岡亮二編『現場で使える教育社会学―教職のための「教育格差」入門―』ミネルヴァ書房 2021 年 志水宏吉『ペアレントクラシー―「親格差時代」の衝撃―』朝日新聞出版 2022 年 額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子編『移民から教育を考える』ナカニシヤ出版 2019 年 その他、輪読文献を適宜示します。					
20.参考文献	参考文献、参考図書は適宜授業中に紹介します。					
21.成績評価	最終レポート 50% 担当時の発表 50%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション：授業の進め方、評価方法等のガイダンスを行う			○輪読文献を読んでもくる（240 分）		
【第2回】	Ⅰ 社会階層と教育達成の関係を扱った文献を輪読する ①			○輪読文献を読んでもくる（240 分）		
【第3回】	Ⅰ 社会階層と教育達成の関係を扱った文献を輪読する ②			○輪読文献を読んでもくる（240 分）		
【第4回】	Ⅰ 社会階層と教育達成の関係を扱った文献を輪読する ③			○輪読文献を読んでもくる（240 分）		
【第5回】	Ⅰ 社会階層と教育達成の関係を扱った文献を輪読する ④			○輪読文献を読んでもくる（240 分）		
【第6回】	Ⅰ 社会階層と教育達成の関係を扱った文献を輪読する ⑤			○輪読文献を読んでもくる（240 分）		
【第7回】	Ⅱ ペアレントクラシーに関する文献を輪読する①			○輪読文献を読んでもくる（240 分）		

【第 8 回】	Ⅱペアレントクラシーに関する文献を輪読する②	○輪読文献を読んでもくる（240 分）
【第 9 回】	Ⅱペアレントクラシーに関する文献を輪読する③	○輪読文献を読んでもくる（240 分）
【第 10 回】	Ⅱペアレントクラシーに関する文献を輪読する④	○輪読文献を読んでもくる（240 分）
【第 11 回】	Ⅱペアレントクラシーに関する文献を輪読する⑤	○輪読文献を読んでもくる（240 分）
【第 12 回】	Ⅲ外国にルーツのある子どもに関する文献を輪読する ①	○輪読文献を読んでもくる（240 分）
【第 13 回】	Ⅲ外国にルーツのある子どもに関する文献を輪読する ③	○輪読文献を読んでもくる（240 分）
【第 14 回】	Ⅲ外国にルーツのある子どもに関する文献を輪読する ③	○輪読文献を読んでもくる（240 分）
【第 15 回】	子どもの家庭環境と教育達成との関係に関する検討を まとめる	○レポート作成に向けてまとめを行う（240 分）

1.授業コード (ナンバリング)	30531	2.科目名	臨床教育学特論Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学科			9.履修学年	1 - 2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業では、まず発達の基礎理論を学び、胎児期から乳幼児期までの基本的な道すじを理解します。そのうえで、多様な子どもたちの理解と支援についての基本的な態度と考え方について学びます。 近年、乳幼児期からの積極的な発達支援によって、多様な子どものその後の成長に大きく貢献できることが確認されています。早期からの発達支援のための理論についても学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（1）専門的知識・技能、（2）問題発見力、（3）調査分析能力、（5）問題解決策への提案力、（6）コミュニケーション能力、（7）倫理観、の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	資料は授業の中で紹介します。					
20.参考文献						
21.成績評価	① 授業内での討論 40% ② 小レポート 30% ③ 最終レポート 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 授業の概要の説明			特にありません 第 2 回目以降のアサインメントは授業の中で指示します		
第 2 回	発達理論の基礎：胎児期～乳幼児期			授業の中で指定します		
第 3 回	発達理論の基礎：乳幼児期 1			授業の中で指定します		
第 4 回	発達理論の基礎：乳幼児期 2			授業の中で指定します		
第 5 回	発達理論の基礎：乳幼児期 3			授業の中で指定します		
第 6 回	発達理論の基礎：乳幼児期 4			授業の中で指定します		
第 7 回	発達の多様性：養育者との関係性			授業の中で指定します		
第 8 回	発達の評価：新版 K 式発達検査、遠城寺式乳幼児分析的発達検査法			授業の中で指定します		
第 9 回	行動観察からのアセスメント			授業の中で指定します		
第 10 回	要支援度と実行機能の評価			授業の中で指定します		
第 11 回	早期からの発達支援：ESDM			授業の中で指定します		
第 12 回	実態把握 包括的アセスメント：分析的にとらえる			授業の中で指定します		
第 13 回	包括的アセスメントの実際 1			授業の中で指定します		
第 14 回	包括的アセスメントの実際 2			授業の中で指定します		
第 15 回	包括的アセスメントに基づいた発達支援 まとめ					

1.授業コード (ナンバリング)	30532	2.科目名	発達障害教育特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	花熊暁					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学研究科			9.履修学年	1 学年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	発達障害の子どもたちの支援で最も大きな課題となるのが、教科学習の基礎となる読み書き能力の困難への支援と、周囲の人たちとのコミュニケーションの困難への支援です。本授業では、これら2つの課題への支援を行うに際しての、基礎知識・理論を学ぶとともに、子どもたちが示す困難の具体像、実態把握・アセスメントの方法、支援の観点と方法、支援の実際等について、事例等を挙げながら具体的に学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の（1）専門的知識・技能、（2）問題発見力、（5）問題解決策への提案力、（7）倫理観、の学修に関連しています。 ① 読み書きの発達や言語・コミュニケーションの発達とその困難の理解に必要な基本用語を説明することができる。 ② 「読む・書く」「聞く・話す」の実態把握・アセスメントの方法を具体的に挙げるができる。 ③ 発達障害の子どもたちに見られる「読む・書く」と「聞く・話す」の困難の原因と困難の具体像を説明することができる。 ④ 子どものつまずきの原因と支援の方法・内容を関連づけて述べるができる。					
19.教科書・教材	特別支援教育の理論と実践第4版 第2巻「指導」，金剛出版, 2023. 上記テキストのほか、毎回の授業で、教員が作成した資料を配布します。					
20.参考文献	必要に応じて、授業で紹介します。					
21.成績評価	① 授業内での討論 30% ② 小レポート 30 % ③ 最終レポート 40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	非常勤講師のため、オフィスアワーはありません。質問等は、授業中及びメールで受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	読み書き能力を習得することの意義					
第2回	読み書きに関する基礎理論（その1） ①音と文字の対応 ②言語による文字表記体系違い					
第3回	読み書きの基礎理論（その2） 日本語の文字表記体系の特徴					
第4回	読み書きの基礎理論（その3） 読み書き能力の発達過程：エマージェントリテラシーの発達					
第5回	読み書きの基礎理論（その4） 読み書き能力の発達過程：音韻意識、呼称速度、ワーキングメモリー					

第 6 回	特異的な読み書きの困難 ① ディスレクシアと LD ② より広範な困難（ADHD、ASD）	
第 7 回	読み書きの困難の実態把握・アセスメント	
第 8 回	「読む・書く」の指導の実際	
第 9 回	事例による検討	
第 10 回	言語・コミュニケーションに関する基礎知識と基礎理論	
第 11 回	コミュニケーションと言葉の発達の道筋	
第 12 回	発達障害の子どもたちにみられる言語・コミュニケーションの困難の状態像	
第 13 回	「聞く・話す」の領域の実態把握とアセスメント	
第 14 回	言語・コミュニケーション支援の観点と方法	
第 15 回	事例による検討とまとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	30533	2.科目名	教育学特論Ⅱ（2022 年度生）		3.単位数	2
4.授業担当教員	川村光					
5.授業科目の区分	【基幹科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本社会の変化との関連で教育の変容を捉えるために、日本社会の構造変容、家庭教育・学校教育の変容、子どもに関する教育病理を学習する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①日本社会の構造変容と関係づけて教育を歴史的に捉えることができる。また、日本の教育の変容との関連で、教育の理念と思想を解釈することができる。 ②子どもの諸問題について理論的な視点から考察することができる。 ③自ら収集した情報と学習した内容を分析し、その結果を文章化することができる。 該当する専攻 DP ①専門知識・技能 ②問題発見力 ③調査分析能力 ④論文作成能力 ⑤課題解決への提案力					
19.教科書・教材	教科書は受講生と相談したうえで決定する。					
20.参考文献	文献、参考図書は適宜授業中に紹介する。					
21.成績評価	担当時の発表 25%×2 回 最終レポート 50% ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる					
22.コメント	毎回、各テーマについて議論などをする時間を設けるので、事前に出された課題は必ずするようにしましょう。					
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション ・授業の進め方、評価方法等のガイダンス			○次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 2 回】	日本社会の構造変容と教育(1) ・社会化環境の変容			○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 3 回】	日本社会の構造変容と教育(2) ・日本社会の構造変容と家庭教育 ー 明治期から大正期 ー			○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 4 回】	日本社会の構造変容と教育(3) ・日本社会の構造変容と家庭教育 ー 昭和期から現代 ー			○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 5 回】	日本社会の構造変容と教育(4) ・日本社会の構造変容と学校教育 ー 教育の理念と思想 ー			○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 6 回】	日本社会の構造変容と教育(5) ・日本社会の構造変容と学校教育 ー 教育政策の変化 ー			○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 7 回】	非行・少年犯罪(1) ・逸脱理論			○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)		
【第 8 回】	非行・少年犯罪(2)			○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表		

	・逸脱研究に関する研究動向	者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 9 回】	いじめ・不登校(1) ・いじめに関する理論	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 10 回】	いじめ・不登校(2) ・いじめ・不登校に関する研究動向	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 11 回】	学校 ・学校を取り巻く状況の変化	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 12 回】	教育と社会(1) ・教育と社会に関する情報収集① – 調査分析に基づいた文献の収集を中心に –	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 13 回】	教育と社会(2) ・教育と社会に関する情報収集② – 統計資料の収集を中心に –	○復習と次回の論文を読む。なお、次回発表者は発表の準備を行う。(120 分)
【第 14 回】	教育と社会(3) ・教育と社会に関する情報の整理と分析	○復習を行う。(120 分) また次回の発表準備を行う。(360 分) また、最終発表に関する調査・データ整理を行う。(360 分)
【第 15 回】	教育と社会(4) ・研究成果の報告	○復習を行う。(120 分) ★最終レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	30541	2.科目名	障害者教育特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	鳥居深雪					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院 人間行動学研究科			9.履修学年		
10.取得資格の要件	この授業は、特別支援教育士養成セミナーポイント振替対象科目です		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	「発達障害」のある子どもを理解するためのアセスメントについて学びます。発達障害に関連する各種心理検査（WISC-IV・V、KABC-II、Vineland-II、SRS-2 等）の基本的知識と結果の解釈、それらをふまえた包括的アセスメントについて理解できるようにします。包括的アセスメントを基に子どものニーズを把握し、具体的な支援方法を工夫できるようになることを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（1）専門的知識・技能、（2）問題発見力、（5）問題解決策への提案力、（7）倫理観、の学修に関連しています。 ① 発達に障害のある子どもに見られるつまずきの状態像について説明することができる。 ② 視機能のつまずきが学習に及ぼす影響について説明することができる。 ③ 運動の不器用さが学習や日常生活に及ぼす影響について説明することができる。 ④ 発達障害のある子どものアセスメント方法の基本について述べるすることができる。 ⑤ 発達障害のある子どもへの指導方法を具体的に挙げるることができる。					
19.教科書・教材	一般財団法人特別支援教育士資格認定協会 編（2023）特別支援教育の理論と実践 第4版 第1巻 概論・アセスメント、金剛出版					
20.参考文献	鳥居深雪（2020）改訂 脳からわかる発達障害、中央法規出版					
21.成績評価	授業内での討論 30% 小レポート 40% 最終試験 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	【第1回】 オリエンテーション 発達障害に関連する心理検査の概要と倫理 【第2回】 KABC-II の基本的理解 【第3回】 KABC-II の基本的理解：カウフマンモデルと CHC モデル 観察レポート 【第4回】 KABC-II の基本的理解：検査結果の教育への応用 【第5回】 適応機能の評価：Vineland-II の基本 【第6回】 適応機能の評価：Vineland-II の結果の活かし方 【第7回】 発達障害に関連する心理検査 【第8回】 発達障害のある子どもの			PC、教科書 2回目以降は授業の中で指示します		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	30542	2.科目名	発達障害教育特別演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	展開科目 特別支援教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院人間学行動科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義・演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 具体的なテーマに沿った実践研究を行うことにより、発達障害に関する分野での実践・研究に必要となる現場体験及び文献講読による実践分析力と研究方法のと習得をめざす。 【概要】 発達障害児における現場での課題と心理・教育学的に検討するための具体的方法論を知り、また最新の研究動向を知る中で、現在の発達障害教育の教育課題に対するエビデンスの収集と問題のたて方と研究方法を学ぶ。 個別の指導計画 1、「発達障害」のある児童生徒の教育支援における個別の指導計画の意義と目的、領域と内容について説明できる。 2、個別の指導計画の構成内容を説明できる。 3、学校における個別の指導計画の作成と活用の方法について説明できる。 4、個別の指導計画の実施に必要な基礎的環境整備や合理的配慮を具体的に説明できる。 5、個別の教育支援計画の策定についても説明できる。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 学習目標 ① 発達障害教育学の基本概念と研究方法論を知る。 ② 研究課題に沿った、エビデンスと実践での情報収集及び分析を行う。 ③ 修士論文完成に向けた研究課題のまとめを行うことができる。 2. DP/ベンチマーク ① 専門分野における専門知識および研究法を理解し、まとめることができる。 ② 専門分野における主要な分析方法を理解し、まとめることができる。 ③ 修士論文完成に向け、研究課題を企画し遂行することができる。					
19.教科書・教材	特別支援教育士認定協会編（2023）特別支援教育の理論と実践 第4版、金剛出版 第2巻 指導					
20.参考文献						
21.成績評価	実践での分析結果の発表：20% 中間レポート：30% 最終レポート：50%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	・オリエンテーション・授業の進め方 各自の修士論文テーマに沿った発達障害に関する先行研究のまとめとエビデンスの確保のための分析について			★各自の修士論文テーマに沿った発達障害に関する先行研究のまとめとエビデンスの確保のために課題分析を行う。		

	て理解する。	
第 2 回	・実践体験と分析(1) ・発達障害に関する問題の課題分析	★各自の修士論文テーマに沿った発達障害に関する先行研究のまとめとエビデンスの確保のために課題分析を行う。 次回までに、分析の結果をまとめる。①
第 3 回	・実践体験と分析(2) ・発達障害に関する問題の課題分析	★各自の修士論文テーマに沿った発達障害に関する先行研究のまとめとエビデンスの確保のために課題分析を行う。 次回までに、分析の結果をまとめる。②
第 4 回	・実践体験と分析(3) ・	★各自の修士論文テーマに沿った発達障害に関する先行研究のまとめとエビデンスの確保のために課題分析を行う。 次回までに、分析の結果をまとめる。③
第 5 回	・実践体験と分析(4)	★各自の修士論文テーマに沿った発達障害に関する先行研究のまとめとエビデンスの確保のために課題分析を行う。 次回までに、分析の結果をまとめる。④
第 6 回	・実践体験と分析(5)	★修士論文の完成に向けて、最新の研究との比較検討を行い、エビデンスを確保し、まとめていく。①
第 7 回	・実践体験と分析(6)	★修士論文の完成に向けて、最新の研究との比較検討を行い、エビデンスを確保し、まとめていく。② 中間報告のための準備を行う。
第 8 回	・実践体験と分析(7)	★中間報告での検討を基に最終の軌道修正をしていく。
第 9 回	・実践体験と分析(8)	★修士論文の完成に向けて、最新の研究との比較検討を行い、エビデンスを確保し、まとめていく。③
第 10 回	・実践体験と分析(9) ・個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成と活用 ① ①個別の指導計画 ②個別の教育支援計画 ③学習指導要領 ④長期目標 ⑤短期目標	★修士論文の完成に向けて、最新の研究との比較検討を行い、エビデンスを確保し、まとめていく。④
第 11 回	・実践体験と分析(10) ・個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成と活用 ②	★修士論文の完成に向けて、最新の研究との比較検討を行い、エビデンスを確保し、まとめていく。⑤

	⑥指導の手立て ⑦評価 ⑧PDCA ⑨校内委員会 ⑩多機関・多職種との連携発達障害に関する問題の課題分析	
第 12 回	・実践体験と分析(11) ・発達障害に関する個別の指導計画と課題分析	★修士論文の完成に向けて、最新の研究との比較検討を行い、エビデンスを確保し、まとめていく。⑥
第 13 回	・個人の発表と討議(12) ・分析結果のまとめと指導計画の立案・遂行へ	★学会発表等に向けての準備を行う。
第 14 回	・個人の発表と討議(13) ・分析結果のまとめ	★学会発表等に向けての準備を行う。
第 15 回	・個人の発表と討議(14) ・最終報告	

1.授業コード (ナンバリング)	30543	2.科目名	特別支援教育実践研究		3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	基幹科目 特別支援教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院人間行動学研究科			9.履修学年	1.2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義・演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】具体的なテーマに沿った実践研究を行うことにより、特別支援教育学の分野での実践・研究に必要となる現場での実践分析力と研究方法の習得をめざす。 【概要】特別支援教育における現場での課題と心理・教育学的に検討するための具体的方法論を知り、また最新の研究動向を知る中で、現在の特別支援教育の教育課題に対するエビデンスの収集と問題のたて方と研究方法を学ぶ。 ソーシャルスキル 1、「発達障害等」のある子どもにみられるソーシャルスキルの課題と困難について説明できる。 2、ソーシャルスキルのアセスメント方法について説明できる。 3、ソーシャルスキル指導の基本的な原理と指導法について説明できる。 4、ソーシャルスキルに関連するライフスキル、セルフアドボカシーについて説明できる。 感覚運動 1、「発達障害」のある子どもに見られる感覚運動機能のつまずきの状態像について説明できる。 2、感覚運動機能のアセスメント方法の基本について説明できる。 3、姿勢保持の困難や不器用さか?学習や日常生活に及ぼす影響について説明できる。 4、視機能か?学習や日常生活に及ぼす影響について説明できる。 5、感覚運動機能のつまずきの指導方法を具体的に挙げることができる。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 学習目標 ① 特別支援教育学の基本概念と研究方法論を知る。 ② 研究課題に沿った、エビデンスと実践での情報収集及び分析を行う。 ③ 修士論文に向けた研究課題設定を行うことができる。 2. DP/ベンチマーク ① 専門分野における専門知識および研究法を理解することができる。 ② 専門分野における主要な分析方法を理解することができる。 ③ 研究課題を企画し遂行することができる。					
19.教科書・教材	特別支援教育士認定協会編（2023）特別支援教育の理論と実践 第4版、金剛出版 第2巻 指導					
20.参考文献						
21.成績評価	実践での分析結果の発表：20% 中間レポート：30% 最終レポート：50%					

22.コメント		
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・ オリエンテーション ・ 授業の進め方	★自身の研究テーマに沿った実践現場の確保と研究目的の整理
第 2 回	・ 実践体験と分析(1) ・ 特別支援教育現場での実践報告と検討①	★自身の研究テーマに沿った実践現場の確保と研究目的の整理
第 3 回	・ 実践体験と分析(2) ・ 特別支援教育現場での実践報告と検討②	★自身の研究テーマに沿った実践現場の確保と研究目的の整理
第 4 回	・ 実践体験と分析(3) ・ ソーシャルスキルの指導(1) ①ソーシャルスキル ②ライフスキル ・ 特別支援教育現場での実践報告と検討③	★自身の研究テーマに沿った実践現場の確保と研究目的の整理
第 5 回	・ 実践体験と分析(4) ・ ソーシャルスキルの指導(2) ①ソーシャルスキルの指導法 ・ 特別支援教育現場での実践報告と検討④	★自身の研究テーマに沿った実践現場の確保と研究目的の整理
第 6 回	・ 実践体験と分析(5) ・ ソーシャルスキルの指導(3) ①感情と表現 ②適応 ③自尊感情 ④社会情緒的発達 ・ 特別支援教育現場での実践報告と検討⑤	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査実践開始①
第 7 回	・ 実践体験と分析(6) ・ ソーシャルスキルの指導(4) ①自己理解 ②他者理解 ③セルフアドボカシー ・ 特別支援教育現場での実践報告と検討⑥	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査実践開始②と中間報告に向けたまとめ
第 8 回	・ 実践体験と分析(7) ・ 特別支援教育現場での実践中間報告	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査実践開始③
第 9 回	・ 実践体験と分析(8) ・ 感覚と運動の指導 ①感覚運動機能 ②目と手の協応 ③不器用さ(発達性協調運動症) ・ 特別支援教育現場での実践報告と検討⑦	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査結果分析①
第 10 回	・ 実践体験と分析(9) ・ 感覚と運動の指導(2) ①姿勢保持 ②感覚運動機能の指導 ・ 特別支援教育現場での実践報告と検討⑧	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査結果分析②
第 11 回	・ 実践体験と分析(10) ・ 特別支援教育現場での実践報	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調

	告と検討⑨	査結果分析③
第 12 回	・実践体験と分析(11) ・ 特別支援教育現場での実践報告と検討⑩	★自身の研究テーマに沿った実践現場での調査結果分析④
第 13 回	・個人の発表と討議(12)	・分析結果のまとめ
第 14 回	・個人の発表と討議(13)	・分析結果のまとめ
第 15 回	・個人の発表と討議(14) ・ 最終報告	

1.授業コード (ナンバリング)	30551	2.科目名	学校・園における危機管理Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、北村正仁、齋藤富雄、田中綾子、道免逸子、中山誠、房間美恵、松下義行、松尾和宣、椋田善之、村田昌彦、山本秀樹					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	学校園や施設等における安全対策・危機管理の基本を理解したうえで、学校園・施設における安全対策・危機管理のうち、災害、犯罪、事故を中心に、過去の具体的事例の検討から、危機的事象に対する備え、対応に関する要点を理解し、行政や関係団体、地域等と連携しながら、学校園や施設等の危機管理を推進していく方策を学ぶ。また、児童・生徒に対して行う安全教育、防災教育の実際を知り、学校園で・施設等でそれらをマネジメントする方策を知る。授業はすべて具体的事例をもとに演習形式で行う。					
18.学習目標と DPとの関連	学校園や施設等において、行政や関係団体、地域等と連携しながら、下記のことができるようになることをめざす。 ・平常時には、災害や犯罪、事故等への備えを行い、研修計画を立てることができる ・発生時には、必要な課題を的確に判断して、リーダーシップを発揮した活動を行うことができる ・発生後には、それまでの防災・防犯計画、安全管理計画を見直し、改善することができる 大学院のDPとの関連 ・問題発見力 ・課題解決策への提案力					
19.教科書・教材	各担当者が資料を配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	各回のワークシート：65％ 最終レポート：35％					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回 2024 年10月4日 (金6限)	<濱名陽子> オリエンテーション：授業の進め方、評価方法に関するガイダンスを行う					
第2回 10月 11日(金6 限)	<松下義行> 学校園・施設におけるリスクと安全対策・危機管理の基本			ワークシート提出①		
第3回 10月 18日(金6 限)	<松下義行> リスクに対するマネジメント：事例検討			ワークシート提出②		
第4回 10月 25日(金6 限)	<椋田善之> 保育・学習活動等でのリスク（保育・授業等での事故、施設利用時の事故）			ワークシート提出③		
第5回 11月 1日(金6	<中山誠> 登下校時のリスク（交通事故と不審者）			ワークシート提出④		

限)		
第 6 回 11 月 8 日 (金 6 限)	<松下義行> 犯罪や事故への対応と事後対策：事例検討	ワークシート提出⑤
第 7 回 11 月 15 日 (金 6 限)	<道免逸子> 問題行動等 (いじめ)	ワークシート提出⑥
第 8 回 11 月 22 日 (金 6 限)	<北村正仁> 情報に関するリスク (個人情報など)	ワークシート提出⑦
第 9 回 11 月 29 日 (金 6 限)	<松尾和宣> 災害① (学校事故の保護者対応、広報・報道対応)	ワークシート提出⑧
第 10 回 12 月 6 日 (金 6 限)	<田中綾子> 災害② (火災)：事例検討	ワークシート提出⑨
第 11 回 12 月 13 日 (金 6 限)	<齋藤富雄> 災害③ (自然災害 地震・津波)：事例検討	ワークシート提出⑩
第 12 回 12 月 20 日 (金 6 限)	<村田昌彦> 災害④ (自然災害 風水害)：事例検討	ワークシート提出⑪
第 13 回 2025 年 1 月 10 日 (金 6 限)	<房間美恵> アレルギーのメカニズムと対応	ワークシート提出⑫
第 14 回 1 月 17 日 (金 6 限)	<山本秀樹> 施設等での危機管理 (虐待、いじめ等)	ワークシート提出⑬
第 15 回 1 月 24 日 (金 6 限)	<濱名陽子> 学校園・施設での危機管理に向けて：まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	30552	2.科目名	災害と犯罪に対する危機管理（2022 年度生）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、北村正仁、齋藤富雄、田中綾子、道免逸子、中山誠、房間美恵、松下義行、松尾和宣、椋田善之、村田昌彦、山本秀樹					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	学校園や施設等における安全対策・危機管理の基本を理解したうえで、学校園・施設における安全対策・危機管理のうち、災害、犯罪、事故を中心に、過去の具体的事例の検討から、危機的事象に対する備え、対応に関する要点を理解し、行政や関係団体、地域等と連携しながら、学校園や施設等の危機管理を推進していく方策を学ぶ。また、児童・生徒に対して行う安全教育、防災教育の実際を知り、学校園で・施設等でそれらをマネジメントする方策を知る。授業はすべて具体的事例をもとに演習形式で行う。					
18.学習目標と DPとの関連	学校園や施設等において、行政や関係団体、地域等と連携しながら、下記のことができるようになることをめざす。 ・平常時には、災害や犯罪、事故等への備えを行い、研修計画を立てることができる ・発生時には、必要な課題を的確に判断して、リーダーシップを発揮した活動を行うことができる ・発生後には、それまでの防災・防犯計画、安全管理計画を見直し、改善することができる 大学院のDPとの関連 ・問題発見力 ・課題解決策への提案力					
19.教科書・教材	各担当者が資料を配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	各回のワークシート：65％ 最終レポート：35％					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回 2024 年10月4日 (金6限)	＜濱名陽子＞ オリエンテーション：授業の進め方、評価方法に関するガイダンスを行う					
第2回 10月 11日(金6 限)	＜松下義行＞ 学校園・施設におけるリスクと安全対策・危機管理の基本			ワークシート提出①		
第3回 10月 18日(金6 限)	＜松下義行＞ リスクに対するマネジメント：事例検討			ワークシート提出②		
第4回 10月 25日(金6 限)	＜椋田善之＞ 保育・学習活動等でのリスク（保育・授業等での事故、施設利用時の事故）			ワークシート提出③		
第5回 11月 1日(金6	＜中山誠＞ 登下校時のリスク（交通事故と不審者）			ワークシート提出④		

限)		
第 6 回 11 月 8 日 (金 6 限)	<松下義行> 犯罪や事故への対応と事後対策：事例検討	ワークシート提出⑤
第 7 回 11 月 15 日 (金 6 限)	<道免逸子> 問題行動等 (いじめ)	ワークシート提出⑥
第 8 回 11 月 22 日 (金 6 限)	<北村正仁> 情報に関するリスク (個人情報など)	ワークシート提出⑦
第 9 回 11 月 29 日 (金 6 限)	<松尾和宣> 災害① (学校事故の保護者対応、広報・報道対応)	ワークシート提出⑧
第 10 回 12 月 6 日 (金 6 限)	<田中綾子> 災害② (火災)：事例検討	ワークシート提出⑨
第 11 回 12 月 13 日 (金 6 限)	<齋藤富雄> 災害③ (自然災害 地震・津波)：事例検討	ワークシート提出⑩
第 12 回 12 月 20 日 (金 6 限)	<村田昌彦> 災害④ (自然災害 風水害)：事例検討	ワークシート提出⑪
第 13 回 2025 年 1 月 10 日 (金 6 限)	<房間美恵> アレルギーのメカニズムと対応	ワークシート提出⑫
第 14 回 1 月 17 日 (金 6 限)	<山本秀樹> 施設等での危機管理 (虐待、いじめ等)	ワークシート提出⑬
第 15 回 1 月 24 日 (金 6 限)	<濱名陽子> 学校園・施設での危機管理に向けて：まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	30564	2.科目名	学校・園におけるマネジメントの理解と実践		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、江尻真樹、小松郁夫、畠山大志、本木啓三郎					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業は、初中等教育、就学前教育・保育段階の学校・園における組織マネジメントの基本的な理論を修得し、実際に起きるさまざまなトラブルや問題に関する事例検討を通じて、課題解決力や危機管理能力を高めることを目的とする。 具体的な授業内容としては、 1) 学校・園の組織の特徴と、そこでの組織マネジメントの基本を知る。 2) 学校・園という組織のなかでのリーダーシップの重要性和評価のあり方について学ぶ。 3) 学校・園に関する基本的な法務について学ぶ。 ・ 学校事故、いじめ、非行、懲戒処分、虐待 ・ プライバシー、個人情報、肖像権 ・ 成績評価に対するクレーム ・ 教材等のコピーと著作権 ・ 保護者対応、学費等の未払 ・ 近隣との騒音トラブル、不審者対応 等 4) 学校・園における基本的な労務について学ぶ。 ・ 学校園に適用される労働関連法令 ・ 学校法人に適用される労働関連法令 ・ 公立学校に適用される労働関連法令 ・ 学校・園における労働時間管理 等 5) 学校・園における教職員のメンタルヘルスの基本と対応を学ぶ。 毎回の授業において、知識修得とあわせ、具体的な事例検討を行う。					
18.学習目標と DPとの関連	大学院のDPとの関連					
	・ 問題発見力					
	・ 課題解決策への提案力					
19.教科書・教材	テキストは指定しない。					
	各担当教員より参考図書、文献、資料及び授業教材が示される。					
20.参考文献						
21.成績評価	各担当教員が出すレポート課題の合計によって最終評価を行う。					
	レポート課題は、担当教員から指示される。					
	小松先生：40％					
	畠山先生：20％					
	本木先生：20％					
	江尻先生：20％					
22.コメント	4 人の担当者による輪講。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	第 1 回 オリエンテーション（小松郁夫先生） （講義） * 本授業の目標、内容と方法、成績評価、受講上の留意点等 （活動） * 受講者の自己紹介と研究関心 （概要） 本授業の開講目的と目標などについて解説をし、学習目標の理解を深める。 対面とリモートのハイブリッド型で実施する特徴を解説し、その良さを生かせるよう、受講者との協働関係を構築する。 活動として、受講者の履修動機とその研究関心について、相互理解を深める。特に、その後の受講者の発表などについて、考慮すべき点などを確認する。	
第 2 回	第 2 回 子ども・子育て政策の動向（小松郁夫先生） （講義） * 幼児教育に関する法制度、政策動向などを解説する （演習） * 疑問点を解消し、自分の研究関心などとの関連性を整理する （概要） 政府の子ども・子育て政策について、政策動向を把握し、今後の展開などを展望する。特に、子ども家庭庁の創設による総合的政策の実施、中央教育審議会などでの論議の経過を理解し、幼児教育の現場にどのような影響などがあるかを考察する。 演習では、主要なテーマについての議論を行い、疑問点や今後の展望などを共有する。さらに、地元	
第 3 回	第 3 回 幼児教育の現代的テーマを探究する（小松郁夫先生） （演習） * 自身が感じたり、抱えているテーマについて、幅広く出し合い、諸テーマの関連性などを整理する （講義） * 幼児教育に関連するキーワードを整理し、問題点や課題を構造化する （概要） 幼児教育にかかわる最近の動向を幅広く析出し、研究テーマへと結びつける作業を展開する。たとえば、保護者との関係、多様性の問題、さまざまな配慮が必要な子どもなどへの対応、教育・保育内容の再考、設置者や管理者などとの関係、教育者・保育者の養成・採用・研修等の問題、	
第 4 回	第 4 回 幼児教育組織のマネジメント（1）：マネジメントのしくみと働き（小松郁夫先生）	

	(講義) * 幼児教育と関連の深いマネジメント理論を学ぶ (活動) * 諸理論の理解を深め、自己の研究関心との関連性などを考える (概要) 教育や保育と関連性が深いと思われるマネジメント理論を概観し、理解を深める。主な領域としては、組織運営、人材育成、コミュニケーション論、意思決定論、ICT 利活用、マネジメントサイクル、リーダーシップ論、学習する組織、ベンチマーキング、SWOT 分析、デザイン思考、などを必要に応じて概説	
第 5 回	第 5 回 幼児教育組織のマネジメント (2) : 効果的なマネジメントの開発 (小松郁夫先生) (演習) * 自己の実践を振り返り、持続的で効果的なマネジメントの創発 (概要) 演習として、これまでの自分の過去の経験を振り返り、多様な理論や先導的な実践から学び、組織の持続的な発展を目指す視点や手法を開発する。	
第 6 回	第 6 回 幼児教育組織のリーダーシップ (小松郁夫先生) (講義) * リーダーシップ理論の変遷と関連する組織行動 (演習) * これまで経験してきたリーダーシップ様相を振り返り、その意義と課題を共有する (概要) リーダーに共通する特性は何か、リーダーのとるべき行動とは何か、環境条件とリーダー像、組織を変革するリーダーとは? などについて、具体像を思い描きながら考察する。	
第 7 回	第 7 回 幼児教育組織の評価 (小松郁夫先生) (講義) * 幼児教育の評価の意義と課題 (演習) * 自身の関わる施設の評価について再考する (概要) 学校評価システムの展開と課題について再考し、マネジメントサイクルの積極的な活用を通して、組織改革を進行させる手法などについて協議する。	
第 8 回	第 8 回 中間まとめ	
第 9 回	第 9 回 (畠山大志先生) 1. 学校園の法務とは? (全体像)	

	(1) 児童生徒との関係 ・ 学校事故、いじめ、非行、懲戒処分、虐待 ・ プライバシー、個人情報、肖像権 ・ 成績評価に対するクレーム ・ 教材等のコピーと著作権 (2) 保護者との関係 ・ 保護者対応、学費等の未払 (3) 近隣住民との関係 ・ 騒音トラブル、不審者対応	
第 10 回	第 10 回 （畠山大志先生） 1. 続き (4) 教職員との関係 ・ 主として労働法 ⇒ 本木弁護士のパート (5) その他 2. 学校園の法務はなぜ重要なのか？ ・ 法務の機能不全によって悪影響が生じた事例を紹介。 ・ 予防法務に注力すれば、対応コストやトラブルによる悪影響を最小限に抑えられる。 3. 学校園の法務はどう気を付ければよいのか？ (1) コンプライアンスの考え方 (2) 【事例演習】	
第 11 回	第 11 回 （本木啓三郎先生） 1. 学校園に適用される労働関連法令の概要 ・ 学校法人に適用される労働関連法令 ・ （補足）公立学校に適用される労働関連法令 2. 学校園における労働時間管理 (1) 「労働時間」とは (2) 労働時間の状況の把握 (3) 労働時間の上限 (4) 学校園において問題になりやすい論点 ・ 教材研究時間・課外活動時間の労働時間性 ・ 労働時間の把握方法	
第 12 回	第 12 回 （本木啓三郎先生） 3. 学校園における賃金管理 (1) 賃金の支払に関する原則 (2) 最低賃金 (3) 学校園において問題になりやすい論点 ・ 管理監督者 ・ 固定残業代 ・ コマ給 4. 学校園におけるハラスメント (1) 「パワハラ」「セクハラ」とは (2) 事例紹介 5. 学校園における懲戒処分	

	(1) 懲戒処分の種別 (2) 懲戒処分の基本原則	
第 13 回	第 13 回 （江尻真樹先生） 教職員のメンタルヘルス① （講義）メンタルヘルスと、そのマネジメント 総論 ①メンタルヘルスとは何か？ 心の安全と成長 ②メンタルヘルス・マネジメントの目標と、管理者・同僚としての関わり方 （演習） ③自分自身のマネジメント特性や部下の心理特性を知る（心理テストと解説） ④グループセッション 管理者自身のメンタルヘルス・マネジメントについて、アイディアを出し合う 後半での事例提示者も決める * 質問や相談も受け付けます	講義や演習を踏まえ、自身の関わり方を振り返り、具体例も交え考察を行う
第 14 回	第 14 回 （江尻真樹先生） 教職員のメンタルヘルス② ①教職員（感情労働者）を取り巻くストレス因子とその背景 発達障害、精神疾患について ②管理者の役割と限界、他機関との連携 （演習） ③部下や保護者等への関わりについて、マネジメントのアイディアを出し合う * 各グループの事例提示から ④グループセッション 授業を振り返り、受講者間で労いや評価の言葉を贈り合う	講義や演習を踏まえ、自身の関わり方を振り返り、具体例も交え考察を行う
第 15 回	第 15 回 授業の最終まとめ （濱名陽子）	

1.授業コード (ナンバリング)	30565	2.科目名	学校マネジメントの理解と実践（2022 年度 生）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業は、初中等教育、就学前教育・保育段階の学校・園における組織マネジメントの基本的な理論を修得し、実際に起きるさまざまなトラブルや問題に関する事例検討を通じて、課題解決力や危機管理能力を高めることを目的とする。 具体的な授業内容としては、 1) 学校・園の組織の特徴と、そこでの組織マネジメントの基本を知る。 2) 学校・園という組織のなかでのリーダーシップの重要性和評価のあり方について学ぶ。 3) 学校・園に関する基本的な法務について学ぶ。 ・ 学校事故、いじめ、非行、懲戒処分、虐待 ・ プライバシー、個人情報、肖像権 ・ 成績評価に対するクレーム ・ 教材等のコピーと著作権 ・ 保護者対応、学費等の未払 ・ 近隣との騒音トラブル、不審者対応 等 4) 学校・園における基本的な労務について学ぶ。 ・ 学校園に適用される労働関連法令 ・ 学校法人に適用される労働関連法令 ・ 公立学校に適用される労働関連法令 ・ 学校・園における労働時間管理 等 5) 学校・園における教職員のメンタルヘルスの基本と対応を学ぶ。 毎回の授業において、知識修得とあわせ、具体的な事例検討を行う。					
18.学習目標と DPとの関連	大学院のDPとの関連 ・ 問題発見力 ・ 課題解決策への提案力					
19.教科書・教材	テキストは指定しない。 各担当教員より参考図書、文献、資料及び授業教材が示される。					
20.参考文献						
21.成績評価	各担当教員が出すレポート課題の合計によって最終評価を行う。 レポート課題は、担当教員から指示される。 小松先生：40％ 畠山先生：20％ 本木先生：20％ 江尻先生：20％					
22.コメント	4 人の担当者による輪講。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	第 1 回 オリエンテーション（小松郁夫先生） （講義） * 本授業の目標、内容と方法、成績評価、受講上の留意点等 （活動） * 受講者の自己紹介と研究関心 （概要） 本授業の開講目的と目標などについて解説をし、学習目標の理解を深める。 対面とリモートのハイブリッド型で実施する特徴を解説し、その良さを生かせるよう、受講者との協働関係を構築する。 活動として、受講者の履修動機とその研究関心について、相互理解を深める。特に、その後の受講者の発表などについて、考慮すべき点などを確認する。	
第 2 回	第 2 回 子ども・子育て政策の動向（小松郁夫先生） （講義） * 幼児教育に関する法制度、政策動向などを解説する （演習） * 疑問点を解消し、自分の研究関心などとの関連性を整理する （概要） 政府の子ども・子育て政策について、政策動向を把握し、今後の展開などを展望する。特に、子ども家庭庁の創設による総合的政策の実施、中央教育審議会などでの論議の経過を理解し、幼児教育の現場にどのような影響などがあるかを考察する。 演習では、主要なテーマについての議論を行い、疑問点や今後の展望などを共有する。さらに、地元	
第 3 回	第 3 回 幼児教育の現代的テーマを探究する（小松郁夫先生） （演習） * 自身が感じたり、抱えているテーマについて、幅広く出し合い、諸テーマの関連性などを整理する （講義） * 幼児教育に関連するキーワードを整理し、問題点や課題を構造化する （概要） 幼児教育にかかわる最近の動向を幅広く析出し、研究テーマへと結びつける作業を展開する。たとえば、保護者との関係、多様性の問題、さまざまな配慮が必要な子どもなどへの対応、教育・保育内容の再考、設置者や管理者などとの関係、教育者・保育者の養成・採用・研修等の問題、	
第 4 回	第 4 回 幼児教育組織のマネジメント（1）：マネジメントのしくみと働き（小松郁夫先生）	

	(講義) * 幼児教育と関連の深いマネジメント理論を学ぶ (活動) * 諸理論の理解を深め、自己の研究関心との関連性などを考える (概要) 教育や保育と関連性が深いと思われるマネジメント理論を概観し、理解を深める。主な領域としては、組織運営、人材育成、コミュニケーション論、意思決定論、ICT 利活用、マネジメントサイクル、リーダーシップ論、学習する組織、ベンチマーキング、SWOT 分析、デザイン思考、などを必要に応じて概説	
第 5 回	第 5 回 幼児教育組織のマネジメント (2) : 効果的なマネジメントの開発 (小松郁夫先生) (演習) * 自己の実践を振り返り、持続的で効果的なマネジメントの創発 (概要) 演習として、これまでの自分の過去の経験を振り返り、多様な理論や先導的な実践から学び、組織の持続的な発展を目指す視点や手法を開発する。	
第 6 回	第 6 回 幼児教育組織のリーダーシップ (小松郁夫先生) (講義) * リーダーシップ理論の変遷と関連する組織行動 (演習) * これまで経験してきたリーダーシップ様相を振り返り、その意義と課題を共有する (概要) リーダーに共通する特性は何か、リーダーのとるべき行動とは何か、環境条件とリーダー像、組織を変革するリーダーとは? などについて、具体像を思い描きながら考察する。	
第 7 回	第 7 回 幼児教育組織の評価 (小松郁夫先生) (講義) * 幼児教育の評価の意義と課題 (演習) * 自身の関わる施設の評価について再考する (概要) 学校評価システムの展開と課題について再考し、マネジメントサイクルの積極的な活用を通して、組織改革を進行させる手法などについて協議する。	
第 8 回	第 8 回 中間まとめ	
第 9 回	第 9 回 (畠山大志先生) 1. 学校園の法務とは? (全体像)	

	(1) 児童生徒との関係 ・ 学校事故、いじめ、非行、懲戒処分、虐待 ・ プライバシー、個人情報、肖像権 ・ 成績評価に対するクレーム ・ 教材等のコピーと著作権 (2) 保護者との関係 ・ 保護者対応、学費等の未払 (3) 近隣住民との関係 ・ 騒音トラブル、不審者対応	
第 10 回	第 10 回 （畠山大志先生） 1. 続き (4) 教職員との関係 ・ 主として労働法 ⇒ 本木弁護士のパート (5) その他 2. 学校園の法務はなぜ重要なのか？ ・ 法務の機能不全によって悪影響が生じた事例を紹介。 ・ 予防法務に注力すれば、対応コストやトラブルによる悪影響を最小限に抑えられる。 3. 学校園の法務はどう気を付ければよいのか？ (1) コンプライアンスの考え方 (2) 【事例演習】	
第 11 回	第 11 回 （本木啓三郎先生） 1. 学校園に適用される労働関連法令の概要 ・ 学校法人に適用される労働関連法令 ・ （補足）公立学校に適用される労働関連法令 2. 学校園における労働時間管理 (1) 「労働時間」とは (2) 労働時間の状況の把握 (3) 労働時間の上限 (4) 学校園において問題になりやすい論点 ・ 教材研究時間・課外活動時間の労働時間性 ・ 労働時間の把握方法	
第 12 回	第 12 回 （本木啓三郎先生） 3. 学校園における賃金管理 (1) 賃金の支払に関する原則 (2) 最低賃金 (3) 学校園において問題になりやすい論点 ・ 管理監督者 ・ 固定残業代 ・ コマ給 4. 学校園におけるハラスメント (1) 「パワハラ」「セクハラ」とは (2) 事例紹介 5. 学校園における懲戒処分	

	(1) 懲戒処分の種別 (2) 懲戒処分の基本原則	
第 13 回	第 13 回 （江尻真樹先生） 教職員のメンタルヘルス① （講義）メンタルヘルスと、そのマネジメント 総論 ①メンタルヘルスとは何か？ 心の安全と成長 ②メンタルヘルス・マネジメントの目標と、管理者・同僚としての関わり方 （演習） ③自分自身のマネジメント特性や部下の心理特性を知る（心理テストと解説） ④グループセッション 管理者自身のメンタルヘルス・マネジメントについて、アイディアを出し合う 後半での事例提示者も決める * 質問や相談も受け付けます	講義や演習を踏まえ、自身の関わり方を振り返り、具体例も交え考察を行う
第 14 回	第 14 回 （江尻真樹先生） 教職員のメンタルヘルス② ①教職員（感情労働者）を取り巻くストレス因子とその背景 発達障害、精神疾患について ②管理者の役割と限界、他機関との連携 （演習） ③部下や保護者等への関わりについて、マネジメントのアイディアを出し合う * 各グループの事例提示から ④グループセッション 授業を振り返り、受講者間で労いや評価の言葉を贈り合う	講義や演習を踏まえ、自身の関わり方を振り返り、具体例も交え考察を行う
第 15 回	第 15 回 授業の最終まとめ （濱名陽子）	

1.授業コード (ナンバリング)	30811	2.科目 名	幼児教育における情報活用論		3.単位数	2
4.授業担当教員	堀田博史					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区 分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	臨床教育学専攻			9.履修学年	1 ・ 2 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と 概要	小学校以降に一人一台の情報端末が整備され、教員には個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、授業改善が求められている。その中で、就学前教育（特に、幼児教育）における ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）活用は、どのようにあるべきなのかを考え、見つめ直すために、現状の把握とその課題と解決に向けた議論を行う。それにより、幼児教育における ICT に関する指導技術の習得と向上を目指すとともに、ICT 活用のアイデアを企画・共有する。					
18.学習目標と DP との関連	大学院の DP との関連 ・ 問題発見力 ・ 課題解決策への提案力					
19.教科書・教材	テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	レポート及び演習による作品制作 100%					
22.コメント	土曜日の 2～4 限の 3 コマ連続の対面授業が 3 回（前半 2 回は iPad20 台使用）、月曜 6 限のオンライン授業が 2 回、月曜 6 限の対面授業が 4 回で計画しています					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 10 月 7 日月曜 6 限（18 時 30 分～20 時）：対面	オリエンテーション ・ なぜ今、幼児教育で ICT 活用するのか ・ コロナ禍では、ICT はどのように幼児教育で活用されたのか					
第 2 回 10 月 21 日月曜 6 限（18 時 30 分～20 時）：対面	園の情報化はどの程度進んでいるのか ・ 園の情報化認定チェックリストをもとに、園の情報化はどこまで進んでいるのか。また、今後どこまで進むべきなのかを議論する			（予習）園の情報化のひとつ保育システムの機能にはどのようなものがあるのか整理しておく		
第 3 回 10	保育者の情報活用能力はどの程度必要なの			（予習）保育者の情報活用能力と聞いて、求められるもの		

月 28 日月曜 6 限 (18 時 30 分～20 時)：対面	か ・ 保育者の情報活用能力チェックリストを もとに、保育者に求められる情報活用能力 について議論する	力を整理しておく
第 4 回 11 月 11 日月曜 6 限 (18 時 30 分～20 時)：対面	保護者の情報活用能力はどの程度必要なの か ・ 保護者の情報活用能力チェックリストを もとに、保護者に求められる情報活用能力 について議論する	(予習) 保護者の情報活用能力と聞いて、求められるもの能 力を整理しておく
第 5 回 11 月 16 日土曜 2 限 (10 時 45 分～12 時 15 分)：対 面	保育でのタブレット端末活用 (1) ・ 身の回りにあるものを使ってクイズをつ くる	(予習) 子ども向けのクイズの形式について整理しておく
第 6 回 11 月 16 日土曜 3 限 (13 時 15 分～14 時 45 分)：対 面	保育でのタブレット端末活用 (2) ・ NHK for School による放送番組活用法 を考える	(予習) 幼稚園・保育所向け番組には、どのようなものがある のか整理しておく
第 7 回 11 月 16 日土曜 4 限 (15 時 ～16 時 30 分)：対面	保育でのタブレット端末活用 (3) ・ メッセージカードを作成する	(予習) メッセージカードの形式について整理しておく
第 8 回 11 月 18 日月曜 6 限 (18 時 30 分～20 時)：オンラ イン	保育者に求められる情報モラル、デジタル シチズンシップとは何か ・ 子どもだけではなく、保育者や保護者の 情報モラル教育、デジタルシチズンシップ 教育の重要性、個人情報の取り扱い、など を議論する	(予習) 情報モラルとデジタルシチズンシップの共通点、相 違点を整理しておく
第 9 回 11 月 25 日月曜 6 限 (18 時 30 分～20 時)：オンラ イン	Society5.0 で変化する幼児の活動 ・ Society5.0 で幼児のテレビ視聴やスマホ 利用は、どのように変化したのか、その実 態を探る	(予習) Society5.0 とはどのような社会であるかを概観して おく
第 10 回 12 月 14 日土曜 2 限 (10 時 45 分～12 時 15 分)：対	保育でのタブレット端末活用例 ・ 保育でのタブレット端末活用は、家庭と 同じように単にアプリで遊ぶのではなく、 探究的な遊びになることが大切。その事例 をもとに探究的な遊びとは何かを考える	(予習) 保育でのタブレット端末活用と聞いて、イメージす る内容を整理しておく

面		
第 11 回 12 月 14 日土曜 3 限（13 時 15 分～14 時 45 分）：対 面	保育でのタブレット端末活用ルール ・ 幼児がタブレット端末を活用する時に、 どのようなルールが必要なのか。それは保 育者が決めるものなのか、を議論する	（予習）幼児がタブレット端末を使用する時のルールとして 適当と考えるものを箇条書きにしておく
第 12 回 12 月 14 日土曜 4 限（15 時 ～16 時 30 分）：対面	障がいのある子どものタブレット端末活用 ・ 障がいのある子どもは、どのようなアプ リを活用しているのだろうか。その一例を もとに、活用法を探る	（予習）障がいがある幼児向けのアプリには、どのようなも のがあるか整理しておく
第 13 回 12 月 21 日土曜 2 限（10 時 45 分～12 時 15 分）：対 面	発表 ・ 幼児教育での ICT 活用の企画を発表 ・ PowerPoint でスライドを作成し、10 分 のプレゼンと 4 分の質疑を予定	（予習）幼児教育での ICT 活用の企画案を準備しておく
第 14 回 12 月 21 日土曜 3 限（13 時 15 分～14 時 45 分）：対 面	発表 ・ 幼児教育での ICT 活用の企画を発表 ・ PowerPoint でスライドを作成し、10 分 のプレゼンと 4 分の質疑を予定	（予習）幼児教育での ICT 活用の企画案を準備しておく
第 15 回 12 月 21 日土曜 4 限（15 時 ～16 時 30 分）：対面	まとめ ・ OECD 幼児教育・保育白書第 7 部に掲載 された幼児のデジタルリテラシー育成を考 える	（予習）文部科学省の以下のサイトを一読しておく OECD 幼児教育・保育白書第 7 部(Starting Strong 7) https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_01239.html

1.授業コード (ナンバリング)	41004	2.科目名	看護マネジメント論		3.単位数	2
4.授業担当教員	梅田智子、ウィリアムソン彰子、林千冬、花岡澄代、山田明美					
5.授業科目の区分	共通科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業目的】 医療において看護組織が果たす役割を明らかにし看護マネジメントについて理解する。 具体的には看護マネジメント過程を言語化し、看護におけるマネジメントの意義およびその手法を理解できる。 【概要】 看護マネジメント過程における「計画し、組織化し、指示を与え、入手できる財政的・物理的・人的資源を統制・分配する」の実施展開に必要な知識を獲得し、看護の質保証および向上に向けて課題の抽出、問題解決のためのマネジメントのありようを学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 看護組織が果たす役割を言語化できる 2. 看護管理者と高度実践看護師・他職種間の連携に必要なマネジメントを言語化できる 3. 看護マネジメント過程に必要な知識と考え方により自らの役割行動を省察できる					
19.教科書・教材						
20.参考文献	組織行動のマネジメント スティーブン P.ロビンズ ダイヤモンド社 授業内容に応じて文献の紹介、参考資料配布を行う。					
21.成績評価	事前事後レポートによる評価 50% 最終レポートによる評価 50%					
22.コメント	2023 年度 原則 ZOOM での遠隔授業、日程変更があればその都度提示します。 良い医療・看護を提供するためには良質なマネジメント機能が不可欠です。 管理職のみならずマネジメントを理解し管理的視点を持った看護に繋げるために、保健医療福祉の現状を理解し、看護の質および経済効果の検証、人的資源管理、多職種・地域連携、専門性の発揮等、看護マネジメントのありようを考察・検討していきましょう。					
23.オフィスアワー	月曜日 12：15～13：15 梅田研究室 その他、メールで受け付けています。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
20241003 3～5 限	看護管理学概論 ①組織とマネジメント (林千冬)					
同上	看護管理学概論 ②医療における課題と看護組織が果たす役割 (林千冬)					
同上	看護管理学概論 ③マネジメントのタイプと看護管理の実践 (林千冬)					
20241017 1～2 限	④トップマネジメントとミドルマネジメントの役割・権限 (山田明美)					
同上	⑤自部署における自身の役割・権限 (山田明美)					
	⑥モチベーション・ロイヤリティ・コミットメント (梅田智子)					

	⑦安全および危機管理におけるマネジメント（梅田智子）	
20241019 3~5 限	⑧看護サービスの特性と看護（ウィリアムソン彰子）	
同上	⑨看護マネジメントにおける経営資源管理・経済効果（ウィリアムソン彰子）	
同上	⑩看護管理者の高度実践看護師との連携・リソースの効果的活用（ウィリアムソン彰子）	
20241114 1~3 限	⑪組織運営に必要な医療情報管理（花岡澄代）	
同上	⑫看護場面における医療情報管理、情報収集および提供のあり方（花岡澄代）	
同上	⑬看護管理上の医療情報管理および分析（花岡澄代）	
	⑭地域を含む看護職間・他職種連携におけるマネジメント（協働・調整）（梅田智子）	
	⑮コンフリクトマネジメント（協働・多職種連携）看護および医療の質評価（梅田智子）	

1.授業コード (ナンバリング)	41005	2.科目名	コンサルテーション論		3.単位数	2
4.授業担当教員	櫻井信人、小山富美子、正田美紀、峰博子、山田聡子					
5.授業科目の区分	共通科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	大学院看護学研究科			9.履修学年	1・2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	医療・看護の場で、看護職を含むケア提供者が職務遂行上出会う実践的な問題を、自ら解決していけるように、看護におけるコンサルテーションの概念と理論、コンサルタントの役割とプロセス、各看護学の立場から支援する方法、知識、技術、実践モデルについて学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	クライアントを含めて専門職をも対象にしたコンサルタントの能力を養う。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	Ann B.Hamric 他著、中村美鈴他監訳：高度実践看護 統合的アプローチ、へるす出版、 E.H.シャイン著：プロセス・コンサルテーション 援助関係を築くこと、白桃書房、					
21.成績評価	出席状況、課題についてのプレゼンテーション及びレポートにより評価する					
22.コメント	講師は第一線で専門職へのコンサルテーションを実践中の看護への造詣の深い方々です。専門看護師の方もいます。興味深いお話が聞けます。					
23.オフィスアワー	水曜日 1 限、ラーニングcommons					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
(1・2 回目) 月 日土曜 日	(授業担当：山田聡子) コンサルテーションの概念と理論、コンサルタントの役割を学修する。					
(3・4 回目) 月 日木曜 日	(授業担当：小山富美子) がん看護領域におけるコンサルテーションの実際を学修する。					
(5 回目) 月 日木曜 日	(授業担当：小山富美子) 看護職者に対するコンサルテーションの実際を学修する。 事例を用いてコンサルテーションを実際に行うための方法を検討する。			事前課題 対応が難しかった事例について、コンサルテーション依頼書を想定して情報を記載する。 (10 月 16 日までに櫻井へ提出)		
(6・7 回目) 12 月 日木曜 日 3 限 4 限	(授業担当：山田聡子) 重症・急性看護を支える看護職へのコンサルテーションの実際を学修する。					
(8・9 回目) 12 月 日木曜 日 3 限 4 限	(授業担当：峰 博子) 生殖期にある女性とその家族に対し、高度実践看護師が行うコンサルテーションの実際について学修する。					
(10 回目) 12 月 日木曜 日 3 限	(授業担当：櫻井信人) 精神看護学領域におけるコンサルテーションの実際を学修する①					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	41006	2.科目名	看護教育論		3.単位数	2
4.授業担当教員	蛭子真澄、笹谷孝子					
5.授業科目の区分	共通科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義・プレゼンテーション	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教育的機能が求められる高度専門職業人として、看護教育を基礎教育、継続教育、看護の対象者への患者教育まで広く根拠を以て対応できる能力を身につける。					
18.学習目標と DPとの関連	1) 看護教育学に関連する諸理論・概念を考究する。 2) 看護教育の歴史的変遷を理解する。 3) 看護ケアの質を高める教育的な働きかけ、教育環境づくりに関する知識と技術を探究する。 4) 個々の看護職が継続して学習することによる能力の維持・開発に努める際の組織支援の在り方について追及する。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	発表や討議の内容およびレポート提出を総合して評価する					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1～2	担当：蛭子 看護教育学の特徴と課題を見極め、看護学基礎教育の理念と変遷を学修する。 ・教育学の基礎理論の理解 ・看護の役割の変化と看護教育制度の歴史的変遷、我が国の看護教育の課題					
3～9	担当：蛭子 看護学基礎教育の考え方、カリキュラム運営、学生指導の在り方、および看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的働きかけ、教育環境づくり等、看護の基礎教育、継続教育について学修する。 ・看護教育学の基礎的知識の理解 ・看護教育学の基礎理論 ・看護学基礎教育 ・継続教育のカリキュラム構築、教育理念・目的・目標・方法・評価					
10～15	担当：笹谷 ・患者および家族の保健活動および療養生活を支える患者教育の方法論を学修する。 ・各自選んだテーマで対象の特性を反映した教育計画の立案 ・教育計画立案の発表 ・学習課題の評価 ・看護ケアの質の保証					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	41010	2.科目名	フィジカルアセスメントⅡ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子、大江理英、大西純子、高田弥寿子、中山智代美、村上香織、森田幸子、山田聡子					
5.授業科目の区分	共通科目	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科博士前期課程専門看護師コース			9.履修学年	大学院 1 年	
10.取得資格の要件	急性重症患者看護専門看護師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学研究科博士前期課程専門看護師コース					
17.授業の目的と概要	【目的】 急性期にあり集中治療を必要とする患者の状態を把握するために必要なアセスメント能力を養う。 【概要】 系統的観察や生理学的変化、機能学的変化、生活行動をアセスメントするための知識と技術を習得する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(6)コミュニケーション能力と関連しています。 【学修目標】 1) クリティカルケア及び救急看護を必要とする状況での体位、姿勢、および情動を含めた生理学的変化と機序を理解する。 2) クリティカルケア及び救急看護を必要とする状況での生活行動ならびに機能回復状況を把握するためのフィジカルアセスメントと観察枠組みを理解する					
19.教科書・教材	講義の中で適宜紹介する。					
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	ディスカッションへの参加度 60％ プレゼンテーション 40％					
22.コメント	各授業内容について担当院生を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をしてください。					
23.オフィスアワー	高見沢恵美子：センター木曜日 12:10～13:10					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	呼吸器系機能とフィジカルアセスメント（山田）					
第 2 回	呼吸器系機能とフィジカルアセスメント（山田）					
第 3 回	循環器系機能とフィジカルアセスメント（高田）					
第 4 回	循環器系機能とフィジカルアセスメント（高田）					
第 5 回	中枢神経系機能とフィジカルアセスメント（伊藤）					
第 6 回	中枢神経系機能とフィジカルアセスメント（伊藤）					
第 7 回	廃用症候群のフィジカルアセスメント（大江）					
第 8 回	せん妄のフィジカルアセスメント（大西）					
第 9 回	せん妄のフィジカルアセスメント（大西）					
第 10 回	救急看護における primary survey と secondary survey（村上）					
第 11 回	トリアージとフィジカルアセスメント（村上）					
第 12 回	自殺企図とフィジカルアセスメント（村上）					

第 13 回	外傷のフィジカルアセスメント（中山）	
第 14 回	外傷のフィジカルアセスメント（中山）	
第 15 回	薬物中毒のフィジカルアセスメント（中山）	

1.授業コード (ナンバリング)	41222	2.科目名	急性看護学援助特論Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科クリティカルケア専門看護師コース			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	専門看護師認定試験受験資格(急性・重症患者看護)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	看護学研究科クリティカルケア専門看護師コース					
17.授業の目的と概要	【目的】 救命救急看護における初療および集中治療を受ける患者と家族に必要な看護判断、無評価方法および看護援助の在り方を探求する。 【概要】 救命救急治療を受ける患者及び集中治療を受ける患者・家族のアセスメントと看護援助を学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力と関連しています。 1.救命救急及びICU,CCU,SCUなどで集中治療を受ける状況にある患者・家族に必要な看護判断、評価方法および看護援助について理解する。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	課題 7 0 % プレゼンテーション 3 0 %					
22.コメント	各授業内容について担当院生を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をしてください。					
23.オフィスアワー	センター：木曜日 1 2 : 1 0 ~ 1 3 : 1 0					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	1) 救命救急治療管理を受ける患者・家族の特徴と初期対応・災害看護とトリアージ (1) (高見沢)					
第 2 回	救命救急治療管理を受ける患者・家族の特徴と初期対応・災害看護とトリアージ (2) (高見沢)					
第 3 回	救命救急治療を受けるせん妄患者・家族のアセスメントと看護援助(高見沢)					
第 4 回	救命救急治療を受ける外傷患者・家族のアセスメントと看護援助 (1) (高見沢)					
第 5 回	救命救急治療を受ける外傷患者・家族のアセスメントと看護援助 (2) (高見沢)					
第 6 回	救命救急治療を受ける急性腹症患者・家族のアセスメントと看護援助 (1) (高見沢)					
第 7 回	救命救急治療を受ける急性腹症患者・家族のアセスメントと看護援助 (2) (高見沢)					

第 8 回	救命救急治療を受ける熱傷患者・家族のアセスメントと看護援助(高見沢)	
第 9 回	救命救急治療を受ける中毒患者・家族のアセスメントと看護援助(高見沢)	
第 1 0 回	集中治療を受ける SIRS・CARS 患者・家族のアセスメントと看護援助(高見沢)	
第 1 1 回	集中治療を受ける Sepsis・DIC・MODS 患者・家族のアセスメントと看護援助(高見沢)	
第 1 2 回	集中治療を受けるショック、CPA 患者・家族のアセスメントと看護援助(高見沢)	
第 1 3 回	集中治療を受けるショック、CPA 患者・家族のアセスメントと看護援助(2)(高見沢)	
第 1 4 回	集中治療を受ける低体温療法患者・家族のアセスメントと看護援助(1)(高見沢)	
第 1 5 回	集中治療を受ける低体温療法患者・家族のアセスメントと看護援助(2)(高見沢)	

1.授業コード (ナンバリング)	41225	2.科目名	急性看護学演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科急性看護学 専門看護師コース			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	専門看護師認定試験受験資格(急性・重症患者看護)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学研究科急性看護学 専門看護師コース					
17.授業の目的と概要	【目的】 クリティカル状況にある患者・家族が遭遇するさまざまな制限や権利の侵害といった倫理的問題状況に気づき解決する能力を養う。 【概要】 を明らかにし、患者・家族の尊厳を守り個人の選択と自由を支援する倫理的看護実践の在り方をディスカッションを行い検討し、急性・重症患者看護における専門看護師の役割を考察する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(5)課題解決への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1.クリティカルケアを受け拘束状態にある患者・家族の倫理的問題について理解する。 2.患者家族の自由な意思決定とその障害を理解し、患者・家族の権利を擁護する方法を検討する。 3. クリティカルケアにおける倫理的問題を解決するための専門看護師の役割を考察する。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	課題 7 0 % プレゼンテーション 3 0 %					
22.コメント	各授業内容について担当院生を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業でプレゼンテーション・質疑応答をしてください。					
23.オフィスアワー	センター：木曜日 1 2 : 1 0 ~ 1 3 : 1 0					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	拘束状態にある患者・家族のアセスメントと援助 (1) (高見沢)					
第 2 回	拘束状態にある患者・家族のアセスメントと援助 (2) (高見沢)					
第 3 回	クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題と援助 (1) 脳死・臓器移植 (高見沢)					
第 4 回	クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題と援助 (2) 治療の意思決定・身体拘束 (高見沢)					
第 5 回 - 1 1 回	クリティカル状況にある患者・家族の看護問題の分析についてのディスカッション (高見沢)					
第 12 回 - 17	クリティカル状況にある患者・家族の援助計画について					

回	でのディスカッション（高見沢）	
第 18 回－22 回	クリティカル状況にある患者・家族の援助の評価についてのディスカッション（高見沢）	
第 23 回－24 回	クリティカル状況にある患者・家族の倫理的問題に関する援助の評価についてのディスカッション（高見沢）	
第 25 回	クリティカル状況にある患者・家族の心理状態と援助（１）（高見沢、平岡）	
第 26 回	クリティカル状況にある患者・家族の心理状態と援助（２）（高見沢、平岡）	
第 27 回	クリティカル状況にある患者・家族に生じた倫理的問題と援助（１）（高見沢、平岡）	
第 28 回	クリティカル状況にある患者・家族に生じた倫理的問題と援助（２）（高見沢、平岡）	
第 29 回	クリティカルケアにおける倫理的問題に対する専門看護師の役割(1)(高見沢)	
第 30 回	クリティカルケアにおける倫理的問題に対する専門看護師の役割(2)(高見沢)	

1.授業コード (ナンバリング)	41227	2.科目名	急性看護学実習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科急性看護学 専門看護師コース			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	専門看護師認定試験受験資格(急性・重症患者看護)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	看護学研究科急性看護学 専門看護師コース					
17.授業の目的と概要	【目的】 救命救急センターまたは救命救急部において、初療または集中治療を受ける患者・家族のケアについて臨地実習を通して倫理的問題を解決するために必要な実践、調整、コンサルテーション、倫理調整、教育などの能力を養う。 【概要】 救命救急センターまたは救命救急部において患者を受け持ち、アセスメントし看護計画を立案・実践し評価する。実習終了後ケーススタディーを行い、より良い看護のあり方を検討する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・技能・(2)問題発見力・(5)課題解決策への提案力・(6)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1. クリティカル期の患者の身体状態について高度な知識に基づいた看護判断・診断ができる。 2. クリティカル期の患者及び家族の倫理的問題を理解し、高度な看護判断・診断に基づく看護実践を提供することができる。 3. 看護職者を含むケアの提供者に対して、倫理的問題の解決のために専門看護師相当のものが行っているコンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究などの専門職看護師としての役割を理解し、援助を考えることができる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	講義の中で適宜紹介する。					
21.成績評価	課題 70 % プレゼンテーション 30 %					
22.コメント	院生が希望する実習施設を決め、実習 3 か月前に実習施設と実習対象患者について教員に相談し、アドバイスを受けた上で実習施設を決定します。実習施設には、教員と共に実習依頼に行きます。					
23.オフィスアワー	センター：木曜日 12：10～13：10					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1. 実習期間：2018 年 12 月～2019 年 1 月 2. 実習施設：神戸市立医療センター中央市民病院・兵庫医科大学病院・ 国立循環器病研究センター・東宝塚さとう病院 ICU・救急 ICU・CCU・HCU クリティカル期 3. 実習体制：実習指導は、教員（高見沢）と専門看護師または専門看護師相当の者と協力して教育を行う。 4. 実習方法：					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	71010	2.科目名	看護学教育演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見沢恵美子					
5.授業科目の区分	共通科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士後期課程			9.履修学年	博士後期課程 1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	看護学研究科博士後期課程大学院生					
17.授業の目的と概要	【目的】 関西国際大学保健医療学部看護学科における講義・演習・実習のインターンシップを通して、 大学院生の関心ある領域における基礎看護学教育実践能力を養う。					
	【概要】 関心ある領域の専任教員の指導のもと、講義または演習の授業案及び受講資料を作成し授業を 実際に行う。授業終了後受講生のアンケート結果に基づいて自らの授業内容・方法を評価し、 講義・演習の教育のあり方を検討する。さらに、関心ある領域の看護学実習に専任教員と共に 参加し、実習における教育を理解し、実習教育のあり方を探求する。 演習を通して、看護学教育研究者としての自らの抱負と課題を明確にする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題 解決への提案力・(5)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1.大学院生の関心ある領域において、講義または演習の授業計画を立案できる。 2.関心ある領域において、資料を作成し授業を行うことができる。 3.関心ある領域の実習教育のあり方を検討できる。 4. 看護学教育研究者としての抱負と課題を説明できる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	1)B.S.ブルーム他（梶田叡一他訳）：教育評価ハンドブック、第一法規 2)J.S.ブルーナー（鈴木祥蔵他訳）：教育の過程、岩波書店 3)藤岡完治・堀喜久子編集：看護教育の方法、医学書院 4)杉森みど理・舟島なおみ：看護教育学、第5版、医学書院 その他、授業内容に応じて文献の紹介、資料配布を行う。					
21.成績評価	課題レポート 60% プレゼンテーション 40%					
22.コメント	院生の担当授業を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバ イスをもらい資料を修正したうえで、授業・演習を行い・質疑応答をしてください。 実習は指導教員と相談の上院生の希望する臨地実習を指導教員と共に指導します。					
23.オフィスアワー	高見沢：木曜日 12:10～13:10 メディアライブラリー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回 第2回	関心ある領域の講義または演習テーマに関する文献検 索① 関心ある領域の講義または演習テーマに関する文献検 索②					
第3回 第4回	関心ある領域の講義または演習テーマに関する文献検 索② 講義または演習目標の設定					
第5回	授業案作成①					

第 6 回	授業案作成②	
第 7 回	授業案作成③	
第 8 回	授業案作成④	
第 9 回	授業資料・教材作成①	
第 10 回	授業資料・教材作成②	
第 11 回	授業資料・教材作成③	
第 12 回	授業資料・教材作成④	
第 13 回	授業評価表の作成	
第 14 回	講義演習①	
第 15 回	講義演習②	
第 16 回	講義演習③	
第 17 回	授業評価	
第 18 回	看護学実習教育演習①	
第 19 回	看護学実習教育演習②	
第 20 回	看護学実習教育演習③	
第 21 回	授業資料・教材作成④	
第 22 回	看護学実習教育演習⑤	
第 23 回	看護学実習教育演習⑥	
第 24 回	看護学実習教育演習⑦	
第 25 回	看護学実習教育演習⑧	
第 26 回	看護学実習教育演習⑨	
第 27 回	看護学実習教育演習⑩	
第 28 回	看護学実習教育演習⑪	
第 29 回 第 30 回	看護学実習教育演習⑫ 自らの授業評価及び看護学実習教育のあり方の検討内容から、看護学教育研究者としての抱負と課題をまとめる 看護学教育研究者の抱負と課題は授業終了時提出すると共に、e ポートフォリオに記録する。	

1.授業コード (ナンバリング)	71014	2.科目名	看護学教育演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	畑吉節未					
5.授業科目の区分	共通科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士後期課程			9.履修学年	博士後期課程 1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	看護学研究科博士後期課程大学院生					
17.授業の目的と概要	【目的】 関西国際大学保健医療学部看護学科における講義・演習・実習のインターンシップを通して、大学院生の関心ある領域における基礎看護学教育実践能力を養う。 【概要】 関心ある領域の専任教員の指導のもと、講義または演習の授業案及び受講資料を作成し授業を実際に行う。授業終了後受講生のアンケート結果に基づいて自らの授業内容・方法を評価し、講義・演習の教育のあり方を検討する。さらに、関心ある領域の看護学実習に専任教員と共に参加し、実習における教育を理解し、実習教育のあり方を探求する。 演習を通して、看護学教育研究者としての自らの抱負と課題を明確にする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題解決への提案力・(5)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1.大学院生の関心ある領域において、講義または演習の授業計画を立案できる。 2.関心ある領域において、資料を作成し授業を行うことができる。 3.関心ある領域の実習教育のあり方を検討できる。 4. 看護学教育研究者としての抱負と課題を説明できる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	1)B.S.ブルーム他（梶田叡一他訳）：教育評価ハンドブック、第一法規 2)J.S.ブルーナー（鈴木祥蔵他訳）：教育の過程、岩波書店 3)藤岡完治・堀喜久子編集：看護教育の方法、医学書院 4)杉森みど理・舟島なおみ：看護教育学、第5版、医学書院 その他、授業内容に応じて文献の紹介、資料配布を行う。					
21.成績評価	課題レポート 60% プレゼンテーション 40%					
22.コメント	院生の担当授業を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業・演習を行い・質疑応答をしてください。 実習は指導教員と相談の上院生の希望する臨地実習を指導教員と共に指導します。					
23.オフィスアワー	水曜日 12:10～13:10					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回 第2回	関心ある領域の講義または演習テーマに関する文献検索① 関心ある領域の講義または演習テーマに関する文献検索②					
第3回 第4回	授業三観としての教材観・学生観・指導者観を明確にする 講義または演習目標の設定 ①目標と評価においてブルームの教育評価の認知領					

	域・情意領域・精神運動領域を分類できる ②目標の構造として前提目標・中核目標・発展目標を分類できる	
第 5 回	授業案作成①	
第 6 回	授業案作成②	
第 7 回	授業案作成③	
第 8 回	授業案作成④	
第 9 回	授業資料・教材作成①	
第 10 回	授業資料・教材作成②	
第 11 回	授業資料・教材作成③	
第 12 回	授業資料・教材作成④	
第 13 回	授業評価表の作成	
第 14 回	講義演習①	
第 15 回	講義演習②	
第 16 回	講義演習③	
第 17 回	授業評価	
第 18 回	看護学実習教育演習①	
第 19 回	看護学実習教育演習②	
第 20 回	看護学実習教育演習③	
第 21 回	授業資料・教材作成④	
第 22 回	看護学実習教育演習⑤	
第 23 回	看護学実習教育演習⑥	
第 24 回	看護学実習教育演習⑦	
第 25 回	看護学実習教育演習⑧	
第 26 回	看護学実習教育演習⑨	
第 27 回	看護学実習教育演習⑩	
第 28 回	看護学実習教育演習⑪	
第 29 回 第 30 回	看護学実習教育演習⑫ 自らの授業評価及び看護学実習教育のあり方の検討内容から、看護学教育研究者としての抱負と課題をまとめる 看護学教育研究者の抱負と課題は授業終了時提出すると共に、eポートフォリオに記録する。	

1.授業コード (ナンバリング)	71018	2.科目名	看護学教育演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	伊藤尚子					
5.授業科目の区分	共通科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学研究科 博士後期課程			9.履修学年	博士後期課程 1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	看護学研究科博士後期課程大学院生					
17.授業の目的と概要	【目的】 関西国際大学保健医療学部看護学科における講義・演習・実習のインターンシップを通して、大学院生の関心ある領域における基礎看護学教育実践能力を養う。 【概要】 関心ある領域の専任教員の指導のもと、講義または演習の授業案及び受講資料を作成し授業を実際に行う。授業終了後受講生のアンケート結果に基づいて自らの授業内容・方法を評価し、講義・演習の教育のあり方を検討する。さらに、関心ある領域の看護学実習に専任教員と共に参加し、実習における教育を理解し、実習教育のあり方を探求する。 演習を通して、看護学教育研究者としての自らの抱負と課題を明確にする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの(1)専門知識・能力の修得・(2)問題発見力・(3)課題解決への提案力・(5)コミュニケーション能力・(7)倫理観と関連しています。 1.大学院生の関心ある領域において、講義または演習の授業計画を立案できる。 2.関心ある領域において、資料を作成し授業を行うことができる。 3.関心ある領域の実習教育のあり方を検討できる。 4. 看護学教育研究者としての抱負と課題を説明できる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	1)B.S.ブルーム他（梶田叡一他訳）：教育評価ハンドブック、第一法規 2)J.S.ブルーナー（鈴木祥蔵他訳）：教育の過程、岩波書店 3)藤岡完治・堀喜久子編集：看護教育の方法、医学書院 4)杉森みど理・舟島なおみ：看護教育学、第5版、医学書院 その他、授業内容に応じて文献の紹介、資料配布を行う。					
21.成績評価	課題レポート 60% プレゼンテーション 40%					
22.コメント	院生の担当授業を決めます。担当者が文献を検索し資料を作成し、事前に教員に提出しアドバイスをもらい資料を修正したうえで、授業・演習を行い・質疑応答をしてください。 実習は指導教員と相談の上院生の希望する臨地実習を指導教員と共に指導します。					
23.オフィスアワー	高見沢：木曜日 12:10～13:10 メディアライブラリー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回 第2回	関心ある領域の講義または演習テーマに関する文献検索① 関心ある領域の講義または演習テーマに関する文献検索②					
第3回 第4回	関心ある領域の講義または演習テーマに関する文献検索② 講義または演習目標の設定					
第5回	授業案作成①					

第 6 回	授業案作成②	
第 7 回	授業案作成③	
第 8 回	授業案作成④	
第 9 回	授業資料・教材作成①	
第 10 回	授業資料・教材作成②	
第 11 回	授業資料・教材作成③	
第 12 回	授業資料・教材作成④	
第 13 回	授業評価表の作成	
第 14 回	講義演習①	
第 15 回	講義演習②	
第 16 回	講義演習③	
第 17 回	授業評価	
第 18 回	看護学実習教育演習①	
第 19 回	看護学実習教育演習②	
第 20 回	看護学実習教育演習③	
第 21 回	授業資料・教材作成④	
第 22 回	看護学実習教育演習⑤	
第 23 回	看護学実習教育演習⑥	
第 24 回	看護学実習教育演習⑦	
第 25 回	看護学実習教育演習⑧	
第 26 回	看護学実習教育演習⑨	
第 27 回	看護学実習教育演習⑩	
第 28 回	看護学実習教育演習⑪	
第 29 回 第 30 回	看護学実習教育演習⑫ 自らの授業評価及び看護学実習教育のあり方の検討内容から、看護学教育研究者としての抱負と課題をまとめる 看護学教育研究者の抱負と課題は授業終了時提出すると共に、e ポートフォリオに記録する。	

1.授業コード (ナンバリング)	ACC101-A51	2.科目名	ファイナンス		3.単位数	4
4.授業担当教員	河内山 潔					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 様々な企業の活動を記録するための簿記の記帳技術を学び、その結果作成される会計情報の活用について学修します。 【概要】 営利法人、非営利法人を問わず、事業を運営する上において、経営財務についての知識を欠くことはできません。経営財務を学ぶためには、まず、基本的な会計処理を学ぶ必要があります。この講義は、株式会社の会計情報の作成および株式会社の特徴を理解します。会計処理の基礎を学んだ上で、会計原則や関連法規、資金調達の手法等のファイナンスの基礎を学習します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ○簿記一巡の仕組みを理解し、基本的な簿記手続きができる。 ○株式会社会計の基本が説明できる。 ○基礎的な財務諸表分析ができる。					
19.教科書・教材	桑原知之「サクッとわかる日商 3 級商業簿記テキスト」ネットスクール出版 2018 年 適宜、プリントを配布					
20.参考文献						
21.成績評価	1. ワークシート、グループワーク：20％ 2. 中間試験（2 回）：20％+20％ 5. 総括試験：40％					
22.コメント	毎回必ず電卓を持参してください。スマートフォン等の使用は禁止します。 日商簿記検定に挑戦してください。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：金曜日 3 限 研究室オフィスアワー：木曜日 2 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回・第 2 回	オリエンテーション：授業の構成、目標 簿記の基礎① 第 0 章 簿記の自己紹介 第 1 章 身の回りの簿記 (P1～P24)			○復習（180 分）		
第 3 回・第 4 回	簿記の基礎② 第 2 章 仕訳と転記 仕訳、勘定口座記入（P25～P40） 第 3 章 現金と預金 現金、普通預金と定期預金、当座預金（P41～P54）			○簿記の基本ルール、現金・預金について復習（360 分） ○収益と費用、商品売買について予習（120 分）		
第 5 回・第 6 回	第 4 章 収益と費用			○費用と収益、商品売買について復習(360		

回	収益の計上、費用の計上 (P55～P68) 第 5 章 商品売買① 商品売買 (P69～ P91)	分) ○商品売買と債権・債務について予習 (120 分)
第 7 回・第 8 回	第 5 章 商品売買② 売上原価の算定 (P92～P100) 第 6 章 債権と債務 約束手形、貸付金と借入金、電子記録債権・債務、未収入金と未払金 (P101～P126)	○商品売買と債権債務について復習 (360 分) ○固定資産と一時的な処理について予習 (120 分)
第 9 回・第 10 回	第 7 章 固定資産 固定資産 (P127～P142) 第 8 章 一時的な処理 仮払金と仮受金、立替金と預り金、法人税等、消費税、現金過不足 (P143～P174)	○個別取引の仕訳の復習 (420 分)
第 11 回・第 12 回	個別取引の仕訳まとめ 個別取引について、仕訳の練習をする 中間試験① 個別取引の仕訳の確認	○個別取引について復習し、中間試験について予習。(480 分) ○試算表、株式会社会計の予習 (120 分)
第 13 回・第 14 回	第 9 章 試算表 試算表の作成、誤処理の訂正 (P175～P186) 第 10 章 株式の発行・利益の計上・配当 株式会社の設立、帳簿の締切り、株主への配当 (P187～P202)	○試算表、株式会社会計について復習 (360 分) ○精算表、財務諸表について予習 (120 分)
第 15 回・第 16 回	第 11 章 精算表・財務諸表① 決算手続き、これまでの決算整理、当座借越の計上、貸倒れの処理と貸倒引当金の設定(P203～P219) 第 11 章 精算表・財務諸表② 費用・収益の見越と繰延、再振替仕訳、精算表の作成 (P220～P240)	○精算表、財務諸表について復習 (360 分) ○帳簿について予習 (120 分)
第 17 回・第 18 回	第 11 章 精算表・財務諸表③ 損益計算書と貸借対照表の作成、月次決算 (P241～P254) 第 12 章 帳簿① 主要簿、現金・預金に関する帳簿 (P255～P273)	○精算表,財務諸表について復習 (360 分) ○伝票について予習 (120 分)
第 19 回・第 20 回	第 12 章 帳簿② 商品に関する帳簿、債権・債務に関する帳簿、固定資産台帳 (P274～P292) 第 13 章 伝票 伝票会計 (P293～P306)	○帳簿、伝票について復習 (360 分) ○決算処理についてまとめる (120 分)
第 21 回・第 22 回	決算処理のまとめ 決算に関する各種処理と帳簿、伝票のまとめ 中間試験② 決算処理に関する確認	○中間試験の準備 (480 分)
第 23 回・第 24 回	財務諸表論① 会計の基礎概念 財務諸表論② 制度会計	○財務諸表論について復習 (180 分)
第 25 回・第	財務諸表分析①	○財務諸表分析について復習 (180 分)

26 回	貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の分析 財務諸表分析② 財務指標による分析	
第 27 回・第 28 回	管理会計 ファイナンス	○管理会計、ファイナンスについて復習（480 分） ○総括試験に向けて、これまでの授業内容について復習（420 分）
第 29 回・第 30 回	まとめ 授業アンケート 総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	ACC101-M51	2.科目名	ファイナンス		3.単位数	4
4.授業担当教員	浮田泉					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	高校(公民) 中学(社会)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	営利法人、非営利法人を問わず、事業を運営する上において、経営財務についての知識を欠くことはできません。経営財務を学ぶためには、まず、基本的な会計処理を学ぶ必要があります。この講義は、個人商店を中心とした会計情報の作成および、株式会社の特徴を理解します。会計処理の基礎を学んだ上で、会計原則や関連法規、資金調達の手法等のファイナンスの基礎を学習します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①簿記一巡の仕組みを理解し、基本的な簿記手続きができる。 ②株式会社会計の基本が説明できる。 ③基礎的な財務諸表分析ができる。					
19.教科書・教材	桑原知之「サクッとわかる日商 3 級テキスト【第 3 版】商業簿記」ネットスクール出版 2022 年 ISBN:978-4-7810-1327-5 適宜、プリントを配布					
20.参考文献						
21.成績評価	1. ワークシート・・・10 点（学習目標①、③に対応） 2. グループワーク・・・10 点（学習目標③に対応） 3. 小テスト（5 回）・・・10 点（学習目標①、②に対応） 4. Webclass テスト・・・10 点（学習目標①に対応） 5. 中間試験・・・20 点（学習目標①に対応） 6. 総括試験・・・40 点（学習目標①、②、③に対応）					
22.コメント	毎回必ず電卓を持参してください。スマートフォン等の使用は禁止します。 日商簿記検定に挑戦してください。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜 3 限 学修支援センターオフィスアワー（センタープログラム）：月曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 (10/3)・第 2 回(10/5)	オリエンテーション：授業の構成、目標 簿記の基礎① 第 0 章 簿記の自己紹介 第 1 章 身の回りの簿記 (P1～P24)			○復習（180 分）		
第 3 回	簿記の基礎②			○簿記の基本ルール、現金・預金について復		

(10/10)・第4回(10/12)	第2章 仕訳と転記 仕訳、勘定口座記入 (P25～P40) 第3章 現金と預金 現金、普通預金と定期預金、当座預金 (P41～P54)	習 (360 分) ○収益と費用、商品売買について予習 (120 分)
第5回(10/17)・第6回(10/19)	第4章 収益と費用 収益の計上、費用の計上 (P55～P68) 第5章 商品売買① 商品売買 (P69～ P91)	○費用と収益、商品売買について復習(360 分) ○商品売買と債権・債務について予習 (120 分)
第7回(10/24)・第8回(10/26)	第5章 商品売買② 売上原価の算定 (P92～P100) 第6章 債権と債務 約束手形、貸付金と借入金、電子記録債権・債務、未収入金と未払金 (P101～P126)	○商品売買と債権債務について復習 (360 分) ○固定資産と一時的な処理について予習 (120 分)
第9回(10/31)・第10回(11/2)	第7章 固定資産 固定資産 (P127～P142) 第8章 一時的な処理 仮払金と仮受金、立替金と預り金、法人税等、消費税、現金過不足 (P143～P174)	○個別取引の仕訳の復習 (420 分)
第11回(11/7)・第12回(11/9)	個別取引の仕訳まとめ 個別取引について、仕訳の練習をする 中間試験① 個別取引の仕訳の確認	○個別取引について復習し、中間試験について予習。(480 分) ○試算表、株式会社会計の予習 (120 分)
第13回(11/14)・第14回(11/16)	第9章 試算表 試算表の作成、誤処理の訂正 (P175～P186) 第10章 株式の発行・利益の計上・配当 株式会社の設立、帳簿の締切り、株主への配当	○試算表、株式会社会計について復習 (360 分) ○精算表、財務諸表について予習 (120 分)

	(P187～P202)	
第 15 回 (11/21)・第 16 回(11/23)	第 11 章 精算表・財務諸表① 決算手続き、これまでの決算整理、当座借越の計上、貸倒れの処理と貸倒引当金の設定(P203～P219) 第 11 章 精算表・財務諸表② 費用・収益の見越と繰延、再振替仕訳、精算表の作成 (P220～P239)	★課題 1 提出 ○精算表、財務諸表について復習 (360 分) ○帳簿について予習 (120 分)
第 17 回 (11/28)・第 18 回(11/30)	第 11 章 精算表・財務諸表③ 損益計算書と貸借対照表の作成、月次決算 (P240～P254) 第 12 章 帳簿① 主要簿、現金・預金に関する帳簿 (P255～P273)	○精算表,財務諸表について復習 (360 分) ○伝票について予習 (120 分)
第 19 回 (12/5)・第 20 回(12/7)	第 12 章 帳簿② 商品に関する帳簿、債権・債務に関する帳簿、固定資産台帳 (P274～P292) 第 13 章 伝票 伝票会計 (P293～P306)	◎課題 2 : 財務諸表を入手し、グループで比較しなさい。(100 分) ○帳簿、伝票について復習 (360 分) ○決算処理についてまとめる (120 分)
第 21 回 (12/12)・第 22 回(12/14)	決算処理のまとめ 決算に関する各種処理と帳簿、伝票のまとめ 中間試験② 決算処理に関する確認	○中間試験の準備 (480 分)
第 23 回 (12/19)・第 24 回(12/21)	財務諸表論① 会計の基礎概念 財務諸表論② 制度会計	○財務諸表論について復習 (180 分)
第 25 回 (1/9)・第 26 回(1/11)	財務諸表分析① 貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書	○財務諸表分析について復習 (180 分)

	の分析 財務諸表分析② 財務指標による分析	
第 27 回 (1/16)・第 28 回(1/18)	課題 2 発表 管理会計 ファイナンス	★課題 2 提出 ○管理会計、ファイナンスについて復習（480 分） ○総括試験に向けて、これまでの授業内容について復習（420 分）
第 29 回 (1/23)・第 30 回(1/25)	まとめ 授業アンケート 総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	ACC202-M51	2.科目名	財務会計論		3.単位数	2
4.授業担当教員	浮田泉					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	企業会計の目的は、公正妥当な会計処理を行い、株主、債権者、取引先等の利害関係者に適切な情報を提供することである。ビジネスに関わるすべての人にとって、企業情報の根幹となる財務諸表（特に損益計算書と貸借対照表）の意味や内容を理解することは非常に重要である。 本講義では、財務諸表を利用する立場から、企業財務会計に関する基本的な原理を中心に理解し、貸借対照表と損益計算書、キャッシュフロー計算書の基本構成や内容を学習する。					
18.学習目標と D P との関連	○財務諸表の意義・重要性を説明でき、資産・負債・純資産の分類が説明できる。 ○期間損益計算の原理と損益計算のルールを説明できる。 ○株式会社の貸借対照表と損益計算書が作成できる。 ○キャッシュフロー計算書の意義が説明できる。					
19.教科書・教材	大阪商工会議所（編）『ビジネス会計検定試験 3 級公式テキスト』（第 5 版）中央経済社 2023 年 ISBN: 978-4-502-45421-9					
20.参考文献						
21.成績評価	ワークシート：20％ 課題（2 回）：20％ 中間試験：20％ 総括試験：40％					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜 3 限 学修支援センターオフィスアワー：月曜 4 限（センタープログラム）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	・ガイダンス ・財務諸表の役割・種類 教科書 pp.1～8 （ワークシート No.1）			○財務諸表の役割・種類について復習（20 分） ○予習 教科書 pp.9～29（30 分）		
第 2 回	・貸借対照表のしくみ 資産の分類 流動資産 教科書 pp.9～29 （ワークシート No.2）			○流動資産について復習（240 分） ○予習 教科書 pp.30～39（30 分）		
第 3 回	・固定資産 繰延資産 教科書 pp.30～39 （ワークシート No.3）			○固定資産、繰延資産について復習（240 分） ○予習 教科書 pp.40～45（30 分）		
第 4 回	・負債 教科書 pp.40～45 （ワークシート No.4）			○負債について復習（240 分） ○予習 教科書 pp.46～53（30 分） ◎＜課題 1＞選択企業の貸借対照表から財政状態を説明し、グループで比較する。（180 分）		
第 5 回	・純資産 教科書 pp.46～53 （ワークシート No.5）			○純資産について復習（240 分） ○資産、負債、純資産の復習、貸借対照表の作成（120 分）		

第 6 回	・ 中間試験（貸借対照表）	●課題 1 提出 ○予習 教科書 pp.56～65（30 分）
第 7 回	・ 課題 1 の発表 ・ 損益計算書のしくみ 5 つの利益 教科書 pp.56～65	○損益計算書のしくみについて復習（240 分） ○予習 教科書 pp.66～75（30 分）
第 8 回	・ 損益計算のルール、売上総利益 教科書 pp.66～75（ワークシート No.6）	○損益計算のルール、売上総利益について復習（240 分） ○予習 教科書 pp.76～85（30 分）
第 9 回	・ 営業利益、経常利益 教科書 pp.76～85（ワークシート No.7）	○営業利益、経常利益について復習（240 分） ○予習 教科書 pp.86～98（30 分） ◎＜課題 2＞選択企業の損益計算書から経営成績を説明し、グループで比較する。（180 分）
第 10 回	・ 税引前当期純利益 当期純利益 教科書 pp.86～98（ワークシート No.8）	○税引前当期純利益、当期純利益について復習（240 分）
第 11 回	・ 課題 2 の発表	●課題 2 提出 ○予習 教科書 pp.100～122（30 分）
第 12 回	・ キャッシュフロー計算書 教科書 pp.100～122（ワークシート No.9）	○キャッシュフロー計算書について復習（210 分） ○予習 教科書 pp.124～137（30 分）
第 13 回	・ 財務情報分析の基礎 教科書 pp.124～137（ワークシート No.10）	○財務諸表分析の基礎について復習（210 分）
第 14 回	・ まとめと総括試験の準備	総括試験の準備（240 分）
第 15 回	・ 総括試験 ・ 授業アンケート	

1.授業コード (ナンバリング)	ACC202-a81	2.科目名	財務会計論（遠隔:三木 C 発信）		3.単位数	2
4.授業担当教員	浮田泉					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】企業会計は、公正妥当な会計処理を行い、株主、債権者、取引先等の利害関係者に適切な情報を提供する。ビジネスに関わるすべての人にとって重要な、企業情報の根幹となる財務諸表（特に損益計算書と貸借対照表）の意味や内容を理解することを目的とする。 【概要】本講義では、財務諸表を利用する立場から、企業財務会計に関する基本的な原理を中心に理解し、貸借対照表と損益計算書、キャッシュフロー計算書の基本構成や内容を学習する。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の(6)専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 ○財務諸表の意義・重要性を説明でき、資産・負債・純資産の分類が説明できる。 ○期間損益計算の原理と損益計算のルールを説明できる。 ○株式会社の貸借対照表と損益計算書が作成できる。 ○キャッシュフロー計算書の意義が説明できる。					
19.教科書・教材	大阪商工会議所（編）『ビジネス会計検定試験 3 級公式テキスト』（第 5 版）中央経済社 2023 年 ISBN: 978-4-502-45421-9					
20.参考文献						
21.成績評価	ワークシート：2 0 % 課題（2 回）：2 0 % 中間試験：2 0 % 総括試験：4 0 %					
22.コメント	授業時間外の質問は、メール（Outlook）かメッセージ（WebClass）でお願いします。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜 3 限 学修支援センターオフィスアワー（センタープログラム）：月曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	・ガイダンス ・財務諸表の役割・種類 教科書 pp.1～8 （ワークシート No.1）			○財務諸表の役割・種類について復習（20 分） ○予習 教科書 pp.9～29（30 分）		
第 2 回	・貸借対照表のしくみ 資産の分類 流動資産 教科書 pp.9～29 （ワークシート No.2）			○流動資産について復習（240 分） ○予習 教科書 pp.30～39（30 分）		
第 3 回	・固定資産 繰延資産 教科書 pp.30～39 （ワークシート No.3）			○固定資産、繰延資産について復習（240 分） ○予習 教科書 pp.40～45（30 分）		
第 4 回	・負債 教科書 pp.40～45 （ワークシート No.4）			○負債について復習（240 分） ○予習 教科書 pp.46～53（30 分） ◎＜課題 1＞選択企業の貸借対照表から財政状態を説明し、グループで比較する。（180 分）		

第 5 回	・純資産 教科書 pp.46～53 (ワークシート No.5)	○純資産について復習 (240 分) ○資産、負債、純資産の復習、貸借対照表の作成 (120 分)
第 6 回	・中間試験 (貸借対照表)	●課題 1 提出 ○予習 教科書 pp.56～65 (30 分)
第 7 回	・課題 1 の発表 ・損益計算書のしくみ 5 つの利益 教科書 pp.56～65	○損益計算書のしくみについて復習 (240 分) ○予習 教科書 pp.66～75 (30 分)
第 8 回	・損益計算のルール、売上総利益 教科書 pp.66～75 (ワークシート No.6)	○損益計算のルール、売上総利益について復習 (240 分) ○予習 教科書 pp.76～85 (30 分)
第 9 回	・営業利益、経常利益 教科書 pp.76～85 (ワークシート No.7)	○営業利益、経常利益について復習 (240 分) ○予習 教科書 pp.86～98 (30 分) ◎＜課題 2＞選択企業の損益計算書から経営成績を説明し、グループで比較する。(180 分)
第 10 回	・税引前当期純利益 当期純利益 教科書 pp.86～98 (ワークシート No.8)	○税引前当期純利益、当期純利益について復習 (240 分)
第 11 回	・課題 2 の発表	●課題 2 提出 ○予習 教科書 pp.100～122 (30 分)
第 12 回	・キャッシュフロー計算書 教科書 pp.100～122 (ワークシート No.9)	○キャッシュフロー計算書について復習 (210 分) ○予習 教科書 pp.124～137 (30 分)
第 13 回	・財務情報分析の基礎 教科書 pp.124～137 (ワークシート No.10)	○財務諸表分析の基礎について復習 (210 分)
第 14 回	・まとめと総括試験の準備	総括試験の準備 (240 分)
第 15 回	・総括試験 ・授業アンケート	

1.授業コード (ナンバリング)	ACC302-M51	2.科目名	経営分析		3.単位数	2
4.授業担当教員	浮田泉					
5.授業科目の区分	専門科目 展開	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	特に指定しないが、簿記・会計系科目の学修が前提となっている。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】本講義では、企業が公表している財務諸表を入手し、様々な観点から分析することによって、企業を評価する基礎的な手法を習得することを目的とする。 【概要】まず、データの入手方法や加工方法を概説する。次に様々な分析方法のうち、本講義で取り上げる安全性分析、収益性分析、成長性分析について説明する。そして、サンプル企業のデータを利用して具体的に分析を行い、その分析結果を評価し、総合的な企業評価を行うこととする。 ・収集したデータを解析し、その中に潜む項目間の相関関係を把握し、特徴やパターンを説明できる ・経年比較や他社比較の分析結果から、企業の状況を総合的に判断し説明できる。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の(6)専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 ①企業が公開している情報を、経営分析の視点から加工・評価し、得られた結果から経営活動に関して説明できる。 ②分析結果に基づいて企業の状況を判断し、問題点があれば改善提案ができる。					
19.教科書・教材	教科書は指定しない。 必要に応じて、資料を配布する。					
20.参考文献	佐藤裕一著「日経文庫 ビジュアル経営分析の基本（第5版）」日本経済新聞社 大阪商工会議所編「ビジネス会計検定試験公式テキスト3級 [第3版]」中央経済社 平松一夫・山地範明・百合草裕康編著「連結会計情報と企業分析の基礎」東京経済情報出版 桜井久勝著「財務諸表分析」中央経済社					
21.成績評価	課題レポート①～④ 40％ グループワーク記録 5％ プレゼン評価 10％ 最終レポート 45％					
22.コメント	毎回、ノートパソコンを持参すること。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー ：月曜 3 限 学修支援センターオフィスアワー ：月曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回(10/4)	ガイダンス 授業の概要 経営分析の目的と考え方 ・ 経営分析の目的と考え方を理解する。 ・ 分析用データの入手方法を理解する。			○テキスト pp.10~15 を復習する。 ○テキスト pp.16~33 を予習し、わからないところがあれば調べておく。		
第 2 回(10/11)	経営分析の基礎① ・ 決算書（有価証券報告書・損益計算書・貸借対照表他）の内容を理解する。			○テキスト pp.16~33 を復習する。 ○テキスト pp.34~44 を予習し、わからないところがあれば調べておく。		

	・個別決算と連結決算について理解し、データの加工の際に必要な手続きを理解する。	
第 3 回(10/18)	経営分析の基礎② ・経営分析の手法（安全性・収益性・成長性・生産性他）について理解する。（担当したい企業を決定する。）	○テキスト pp.34～44 を復習する。 ○次回授業時に課題レポート①が課されるので、わからないところがあれば調べておく。
第 4 回(10/25)	経営分析の基礎③ サンプルデータの入手・加工 サンプル企業のデータを加工して、分析用データを作成する。 ☆計算作業のため、必ず電卓を持参すること。	○配布された ws に計算結果を記入し、完成させる。（課題レポート①として提出する予定） ○授業時に完成できない場合、シートを完成させる。（課題レポート①） ○テキスト pp.46～84 を熟読し、予習する。
第 5 回(11/1)	安全性分析① 安全性分析の財務指標の解説	☆課題レポート①を提出する。 ○テキスト pp.46～84 を熟読し、復習する。
第 6 回(11/8)	安全性分析② サンプルデータによる安全性分析の実施 配布された ws に計算結果を記入し、完成させる。	○テキスト pp.46～84 を熟読し、復習する。 ○授業時に完成できない場合、ws を完成させる。
第 7 回(11/15)	安全性分析③ サンプルデータによる安全性分析の評価 ws に評価のコメントを記入し、完成させる。（次回提出予定） 分析結果を共有する（GW 記録①）	○テキスト pp.46～84 を熟読し、復習する。 ○テキスト pp.88～131 を熟読し、予習する。
第 8 回(11/22)	収益性分析① 収益性分析の財務指標の解説	☆課題レポート②を提出する。 ○テキスト pp.88～131 を熟読し、復習する。
第 9 回(11/29)	収益性分析② サンプルデータによる収益性分析の実施	○テキスト pp.88～131 を熟読し、復習する。
第 10 回(12/6)	収益性分析③ サンプルデータによる収益性分析の評価（課題レポート③） 分析結果を共有する（GW 記録②）	○テキスト pp.88～131 を熟読し、復習する。 ○テキスト pp.134～145 を熟読し、予習する。
第 11 回 (12/13)	成長性分析① 成長性分析の財務指標の解説・サンプルデータによる成長性分析の実施	☆課題レポート③の提出 ○テキスト pp.134～145 を熟読し、復習する。
第 12 回 (12/20)	成長性分析② 担当企業について、成長性分析を実施する。サンプルデータによる成長性分析の評価する。（課題レポート④として提出予定） GW で分析結果を共有する（GW 記録③）	☆課題レポート④を提出する。 ○テキスト pp.134～145 を熟読し、復習する。
第 13 回(1/10)	総合的分析① サンプルデータについて、総合的評価を実施する。	○テキスト pp.148～161 を熟読し、復習する。
第 14 回(1/17)	総合的分析② 担当企業について、総合的分析を実施する。 担当企業について、セグメント情報からグローバル化の状況を分析する。 プレゼン準備をする（発表用 PPT の準備）	○プレゼン準備

第 15 回(1/24)	総合的分析③ グループ内で発表し、相互評価を行う（GW 記録+プレゼン評価票） 総合的分析のまとめ 授業アンケート実施	☆発表用の PPT を最終レポートとして提出する。

1.授業コード (ナンバリング)		ACC302-a51	2.科目名	経営分析（遠隔：三木 C 発信）		3.単位数	2								
4.授業担当教員		浮田泉													
5.授業科目の区分		専門科目 展開	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期									
8.履修可能な専攻		経営学科			9.履修学年	3 年生以上									
10.取得資格の要件			なし		11.先修条件	特に指定しないが、簿記・会計系科目の学修が前提となっている。									
12.研究室		※※※		13.電話番号	※※※										
14.E-Mail Address		※※※		15.授業形態	講義										
16.履修制限															
17.授業の目的と概要		【目的】本講義では、企業が公表している財務諸表を入手し、様々な観点から分析することによって、企業を評価する基礎的な手法を習得することを目的とする。 【概要】まず、データの入手方法や加工方法を概説する。次に様々な分析方法のうち、本講義で取り上げる安全性分析、収益性分析、成長性分析について説明する。そして、サンプル企業のデータを利用して具体的に分析を行い、その分析結果を評価し、総合的な企業評価を行うこととする。 ・収集したデータを解析し、その中に潜む項目間の相関関係を把握し、特徴やパターンを説明できる ・経年比較や他社比較の分析結果から、企業の状況を総合的に判断し説明できる。													
18.学習目標と DPとの関連		本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の(6)専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 ①企業が公開している情報を、経営分析の視点から加工・評価し、得られた結果から経営活動に関して説明できる。 ②分析結果に基づいて企業の状況を判断し、問題点があれば改善提案ができる。													
19.教科書・教材		教科書は指定しない。 必要に応じて、資料を配布する。													
20.参考文献		佐藤裕一著「日経文庫 ビジュアル経営分析の基本（第 5 版）」日本経済新聞社 大阪商工会議所編「ビジネス会計検定試験公式テキスト 3 級 [第 3 版]」中央経済社 平松一夫・山地範明・百合草裕康編著「連結会計情報と企業分析の基礎」東京経済情報出版 桜井久勝著「財務諸表分析」中央経済社													
21.成績評価		<table><tr><td>課題レポート①～④</td><td>40%</td></tr><tr><td>グループワーク記録</td><td>5%</td></tr><tr><td>プレゼン評価</td><td>10%</td></tr><tr><td>最終レポート</td><td>45%</td></tr></table>						課題レポート①～④	40%	グループワーク記録	5%	プレゼン評価	10%	最終レポート	45%
課題レポート①～④	40%														
グループワーク記録	5%														
プレゼン評価	10%														
最終レポート	45%														
22.コメント		毎回、ノートパソコンを持参すること。													
23.オフィスアワー		（三木）研究室オフィスアワー ：月曜 3 限 （三木）学修支援センターオフィスアワー ：月曜 4 限													
24.授業回数	25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)										
第 1 回(10/4)	ガイダンス 授業の概要 経営分析の目的と考え方 ・ 経営分析の目的と考え方を理解する。 ・ 分析用データの入手方法を理解する。				○テキスト pp.10~15 を復習する。 ○テキスト pp.16~33 を予習し、わからないところがあれば調べておく。										
第 2 回(10/11)	経営分析の基礎① ・ 決算書（有価証券報告書・損益計算書・貸借対照表他）の内容を理解する。				○テキスト pp.16~33 を復習する。 ○テキスト pp.34~44 を予習し、わからないところがあれば調べておく。										

	・個別決算と連結決算について理解し、データの加工の際に必要な手続きを理解する。	
第 3 回(10/18)	経営分析の基礎② ・経営分析の手法（安全性・収益性・成長性・生産性他）について理解する。（担当したい企業を決定する。）	○テキスト pp.34~44 を復習する。 ○次回授業時に課題レポート①が課されるので、わからないところがあれば調べておく。
第 4 回(10/25)	経営分析の基礎③ サンプルデータの入手・加工 サンプル企業のデータを加工して、分析用データを作成する。 ☆計算作業のため、必ず電卓を持参すること。	○配布された ws に計算結果を記入し、完成させる。（課題レポート①として提出する予定） ○授業時に完成できない場合、シートを完成させる。（課題レポート①） ○テキスト pp.46~84 を熟読し、予習する。
第 5 回(11/1)	安全性分析① 安全性分析の財務指標の解説	☆課題レポート①を提出する。 ○テキスト pp.46~84 を熟読し、復習する。
第 6 回(11/8)	安全性分析② サンプルデータによる安全性分析の実施 配布された ws に計算結果を記入し、完成させる。	○テキスト pp.46~84 を熟読し、復習する。 ○授業時に完成できない場合、ws を完成させる。
第 7 回(11/15)	安全性分析③ サンプルデータによる安全性分析の評価 ws に評価のコメントを記入し、完成させる。（次回提出予定） 分析結果を共有する（GW 記録①）	○テキスト pp.46~84 を熟読し、復習する。 ○テキスト pp.88~131 を熟読し、予習する。
第 8 回(11/22)	収益性分析① 収益性分析の財務指標の解説	☆課題レポート②を提出する。 ○テキスト pp.88~131 を熟読し、復習する。
第 9 回(11/29)	収益性分析② サンプルデータによる収益性分析の実施	○テキスト pp.88~131 を熟読し、復習する。
第 10 回(12/6)	収益性分析③ サンプルデータによる収益性分析の評価（課題レポート③） 分析結果を共有する（GW 記録②）	○テキスト pp.88~131 を熟読し、復習する。 ○テキスト pp.134~145 を熟読し、予習する。
第 11 回 (12/13)	成長性分析① 成長性分析の財務指標の解説・サンプルデータによる成長性分析の実施	☆課題レポート③の提出 ○テキスト pp.134~145 を熟読し、復習する。
第 12 回 (12/20)	成長性分析② 担当企業について、成長性分析を実施する。サンプルデータによる成長性分析の評価する。（課題レポート④として提出予定） GW で分析結果を共有する（GW 記録③）	☆課題レポート④を提出する。 ○テキスト pp.134~145 を熟読し、復習する。
第 13 回(1/10)	総合的分析① サンプルデータについて、総合的評価を実施する。	○テキスト pp.148~161 を熟読し、復習する。
第 14 回(1/17)	総合的分析② 担当企業について、総合的分析を実施する。 担当企業について、セグメント情報からグローバル化の状況を分析する。 プレゼン準備をする（発表用 PPT の準備）	○プレゼン準備

第 15 回(1/24)	総合的分析③ グループ内で発表し、相互評価を行う（GW 記録+プレゼン評価票） 総合的分析のまとめ 授業アンケート実施	☆発表用の PPT を最終レポートとして提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	ANT102-Y51	2.科目名	文化人類学		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科 他学科からの受講も可能			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（基本的には講義中心に授業を進めますが、映像資料も頻繁に使用します。映像資料を見ながらわかりやすく異文化について学んでいく授業です。また、必要に応じてディスカッションや発表も行います。） The class will proceed mainly with lectures with the aid of some visual materials which will be shown occasionally. When necessary, students are expected to en		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	文化人類学とは、グローバルな視野をもったり、真の国際人になったり、豊かな見識を養うためにきわめて重要な学問です。文化人類学では、自分が興味と関心をもつ国や地域に実際に行ってフィールドワークをし、メディアを通して間接的ではなく、自分の目と耳で異文化や現地社会のことについて理解を深めていきます。私はこれまで、北米や北欧諸国、イギリス、インドネシア、カンボジア、ベトナム、フィリピン、タイ、中国、台湾、韓国、香港、マカオなどの東南アジアや東アジア諸国でフィールドワークをやってきましたが、授業ではこれらの国や地域で行ったフィールドワークの映像資料などもたくさん見せる予定です。 また、この授業では、文化人類学の基礎のテーマである、教育、観光、性とジェンダー、民族文化、芸術、癒しと健康などのトピックを取りあげて、それらについて比較文化的・多角的に学んでいきます。たとえば、文化人類学では、「芸術は、美術館にあるものだけが芸術ではなく、私たちの身の回りに普遍的に存在する、と捉えます。」なぜなら、祭りやスポーツやミュージシャンのコンサートにも、しばしば芸術的な側面が多々見られるからです。このように、この授業では、私たちの生活とも密接な関連をもつこうしたテーマを取りあげ、それらを幅広い視点で捉えることができる人材の育成を目指します。また、この授業では、人間観察の仕方やインタビューの仕方など、社会に出て役立つような実践的なフィールドワークの技についても学びます。 半期 15 回の授業ですが、授業を通して、異文化理解に役立つ 30～40 本の映画や映像資料も紹介します。そうした映像資料を通して、この授業では、異文化についての総合的な理解を深めていくことを目指します。この授業は、いろいろな国の映画に興味がある人、また、異文化に興味のある人にはとてもおススメです。文化人類学という授業名を見ると何か難しそうに見えますが、少しも難しくありませんし、楽しくて役に立つ内容が満載の授業です。気軽に授業に来てみてください(^^) Please come check out the class. I assure you that you will like it a lot! 本授業は、英語で授業をおこないます。 In this class, we will try to deepen our understanding of ethnic groups and cultures around the world through reference materials and visual materials. Cultural anthropology is an academic subject that tries to understand the diversity and universality of human culture through extensive fieldwork in particular societies. In this class, we will learn about cultural anthropology's basic concepts and assumptions to expand our horizons and broaden our					

	perspectives. I will be showing a lot of movies related to cultural anthropology. I will also show first-hand fieldwork videos and pictures from my fieldwork in China, Indonesia, Norway, Denmark, the U.K., and so on. If you like to watch videos and movies, I'm sure you will enjoy this class a lot! Cultural anthropology helps people to have a global perspective, so if you want to be a cosmopolitan person in the future, please come and check out this class. 本科目では、私たちの日常生活とさまざまな関わりを持つ次の6つのテーマを文化人類学の視点から取り上げます。 1. 教育（多様な教えや学びの在り方などについて） 2. 医療（癒しと健康と病などについて） 3. 性とジェンダー（男らしさ、女らしさ、結婚などについて） 4. 芸術（音楽や上演芸術など多様な芸術文化の比較） 5. 民族文化（さまざまな民族文化の比較） 6. 観光（さまざまな観光地と観光文化について） 以上の6つのテーマを文化人類学の視点から比較文化的に取り上げて、それぞれのテーマについて視野を広げることを目指します。 We have six following themes as main topics in this class. 1. education (about a variety of learning and teaching) 2. medicine (about concepts and practices of health and healing in different cultures) 3. sex and gender (about concepts of masculinity and femininity and types of marriage in different cultures) 4. art (music, performing arts, and fine art in cross-cultural perspectives) 5. ethnic culture (ethnic cultures from cross-cultural perspectives) 6. tourism (tourist culture and tourist spots in the world) We will focus on the above six topics mainly to deepen our understanding of human culture from an anthropological perspective.
18.学習目標とDPとの関連	新しい知識や技能を学ぶことに関心や意欲をもつことができる。修得した知識・技能と社会の現象を関連づけて、新たな疑問や関心について積極的に学ぶ意欲を持つことができる。 他者の発表や文章を傾聴し、読解して、その内容の要点をとらえ、自分の疑問や意見をまとめ、建設的な意見交換をすることができる。他者の主張を理解して、自分の意見や考えと他者の意見を調整して、互いに納得できる結論を得ることができる。 世界の文化の多様性に対して理解を深め、文化人類学の基本的な視点や考えに基づいて、異文化理解や社会現象の分析ができるようになる。 (1) 自律的で主体的な態度（自律性） (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル
19.教科書・教材	授業時に参考資料を配布します No textbook (Some reference materials will be distributed in class)
20.参考文献	『文化人類学キーワード[改訂版]』山下晋司・船曳建男編、有斐閣双書、2008年 『現代人類学のプラクシス：科学技術時代をみる視座』山下晋司・福島真人編、有斐閣アルマ、2005年 These books are for reference only. You don't need to buy them. But if you want to know more about cultural anthropology, I strongly recommend reading them.
21.成績評価	①リアクションペーパー（講義内容についてのまとめと感想を書いたもの） 10% ②学期中に行うキーワード小テスト 10% ③映画レポート 30% ④期末レポート 30%

	⑤ゲストスピーカーの話を聞いて書く小レポート 20 % 1. reaction paper (paper to summarize the key points of and write a personal impression of each day's lecture) 10% 2. short tests that will be c	
22.コメント	<授業の特徴> 文化（異文化や自文化）というものに興味があり、普段あまり意識しないような観点から物事（人や文化などについて）を考察したい人には特に楽しめる授業だと思います。また、教育、医療、性とジェンダー、芸術、民族文化、観光といったテーマをおもに取り上げる予定なので、特にこういうテーマに興味がある人にも楽しめると思います。さらに、文化人類学の醍醐味であるフィールドワークのテクニックについても説明します。こうしたテクニックは、人間観察法（人をより良く観察する方法）やインタビュー法（人からより良く情報を聴き	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	文化人類学とは何か(What is Cultural Anthropology?) 文化人類学の基本的特徴の紹介：文化人類学がどのような特徴をもつ学問であり、国際人の養成にとっていかに重要であり、他の専門（考古学や社会学や民俗学とはどう違うのかなどについて説明・紹介します。また、文化人類学では、どのようなことが研究されており、どのような社会貢献がされているかについても述べます。(Basic introduction of cultural anthropology: I will introduce a	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第2回	フィールドワーク入門1 (Introduction to Fieldwork 1) 異文化（自文化も含む）理解の具体的方法としてのフィールドワークの特徴、および、メリットとデメリットについて紹介します。また、異文化（自文化も含む）をよりよく理解するための心得や秘訣についても紹介します。人間観察法やインタビュー法など、実社会でも役立つフィールドワークのテクニックについても紹介します。(I will introduce basic characteristics and concepts of anthrop	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第3回	フィールドワーク入門2 (Introduction to Fieldwork 2) 私自身の中国や韓国や東南アジアやイギリスや北欧などでの経験に基づいて、フィールドワークの実際について具体的に紹介します。(Based on my fieldwork experiences in China, Korea, Southeast Asia, the U.K., and Norway, I will introduce what actual fieldwork is like.)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第4回	教育と文化 1 (Education and Culture 1) 教育を広く捉える文化化（人が文化を身につける過程）という概念について説明し、それが人生をより良く生きるうえでいかに重要な概念であるかについて考えていきます。また、文化とパーソナリティの関係についての研究も紹介します。(I will explain about the key anthropological concept of enculturation (a process of acquiring and learning a cu	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第5回	教育と文化 2 (Education and Culture 2)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習

	「学校だけが学びの場ではない」という点を理解するために、学校教育や徒弟教育など世界のさまざまな教育形態の比較をします。また、学校教育というものについて、さまざまな観点から捉えて考察します。(I will compare various types of educational modes such as school education and apprenticeship. I will also introduce ways of a	する。(60 minutes)
第 6 回	医療と文化(Culture and Health&Healing) 健康・病・癒しなどに関する文化的に多様な考え方について紹介します。特に、世界の興味深いさまざまな癒しの実践について詳しく紹介します。(I will introduce culturally different ways of understanding health, sickness, and healing.)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 7 回	民族文化(Ethnic Culture) 植民地主義と民族文化の関係などについて取り上げます。また、世界のさまざまな民族文化の比較を行います。(I will introduce the impact of colonialism on ethnic culture. I will also compare ethnic cultures from different parts of the world.)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 8 回	文化人類学関連の映画鑑賞 (watching a movie related to cultural anthropology)	
第 9 回	文化人類学関連の映画鑑賞 (watching a movie related to cultural anthropology)	
第 1 0 回	性とジェンダー(Sex and Gender) 文化や時代による男らしさ、女らしさ、セクシャリティ (性的志向) のあり方や多様性、および、結婚のあり方の多様性について取り上げます。(I will introduce culturally different ways of understanding masculinity and femininity, sexuality, and types of marriage.)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 1 1 回	芸術と文化 1 (Art and Culture 1) 「芸術は美術館にだけあるものではない」という点を理解するために、世界のさまざまな芸術を上演芸術や視覚芸術やスポーツなどの幅広い文脈で捉えて考えます。(I will introduce ways of understanding art from a broad perspective by comparing different genres of art (such as performing arts and visual art) and ar	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 1 2 回	芸術と文化 2 (Art and Culture 2) 芸術と観光、芸術と政治、芸術と宗教の関係について考えます。(I will explain and analyze the relations between art and tourism, art and politics, and art and religion.)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 1 3 回	観光と文化 1 (Tourism and Culture 1) 観光の歴史、世界のさまざまな観光地の比較、観光地に見られる観光文化の特徴について考えます。(I will introduce various tourist spots in the world as well as tourist culture seen in these spots. I will also introduce the history of tourism.)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。(60 minutes)
第 1 4 回	観光と文化 2 (Tourism and Culture 2)	○授業で取り上げたキーワードを各自で復習

	観光を十倍楽しむ方法について、および、観光をする際の心得について紹介します。(I will introduce ways to enjoy tourism ten times more as well as things that we should keep in mind before participating in tourism.)	する。(60 minutes)
第 1 5 回	授業の総括(Summary) これまで取り上げた各テーマのおもな内容を総括し、まとめます。(I will summarize the key points of all the lectures.)	

1.授業コード (ナンバリング)		BRI303-A51	2.科目名	ブライダル産業論		3.単位数	2
4.授業担当教員		河内山潔					
5.授業科目の区分		専門科目 展開	6.必修・ 選択の区分	選択必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻		経営学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件					11.先修条件	セレモニー産業論を履修済みであることが望ましい。	
12.研究室		※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address		※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限							
17.授業の目的と概要		近年において、ブライダルはサービス産業としてビジネス化され、多様な形態を持つに至っている。 本講義では、既存ビジネスの問題点について考察し、自ら立案したプランがビジネスとして有効でかつ実行可能なプランであることを検証し、また結婚による経済効果についても調査する。 また、ドレスコーディネーター認定試験対策を行う。					
18.学習目標と DPとの関連		本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ○既存ビジネスの改善点や新規ビジネスを提案することができる。 ○ウェディングプランナー論Ⅰ・Ⅱ・セレモニー産業特論をふまえて、企画立案したプランを実行できるようにする。 ○グループで異なったウェディングプランを企画・実行できるようにする。 ○結婚による経済効果について興味を持ち調査をする。					
19.教科書・教材		特に指定しない。 必要に応じて資料を配布する。					
20.参考文献		ブライダル業界就職・転職ガイド ブライダル業界の動向とカラクリがよ〜くわかる本 ブライダル産業新聞 ゼクシィ 他					
21.成績評価		中間レポート(学外調査計画書) 20% 中間レポート（学外調査報告書） 20% プレゼン評価 15% 最終レポート 45%					
22.コメント		全回充電済み PC 持参のこと					
23.オフィスアワー		センターオフィスアワー：金曜日 3 限 研究室オフィスアワー：木曜日 2 限					
24.授業回数	25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	「ガイダンス」 シラバスをベースに本講義の内容、学習目標、目指す K U I S ベンチマーク、アサインメント、評価方法について案内する。 ・サービス産業動向調査からブライダル業界の現状を探る。				○サービス産業動向調査を参照しブライダル業界の現状を調べる。(次回提出)		
第 2 回	既存ビジネスの問題点 ブライダル業界の様々な産業における既存ビジネスの問題点と課題を探る				◎グループワーク：ブライダル産業の業種を分析（次回提出）		
第 3 回	ブライダル業界の現状				○調査対象について調べてくる(会場・関連業		

	ブライダル業界の現状の考察、ブライダル業界の概要を発表（個人）	者・斡旋業者など）
第 4 回	学外調査準備① 仮説 調査対象（会場・関連企業・フェア・斡旋業務など）を想定し、調査計画書を作成する	○中間レポート 調査計画書の完成
第 5 回	学外調査準備② 発表 同業 2 社の比較（立地・規模・業態）	○調査計画書に基づき行動計画をたてる
第 6 回	学外調査準備 見直し 見学ポイント・アンケート・洗い出し	○調査対象アポイントメント
第 7 回	学外調査 準備 （テーマ設定）	○学外調査の準備
第 8 回	学外調査 準備 （テーマ検証） 成功と失敗の要因を探る	○中間レポート 学外調査報告書の作成
第 9 回	プラン造成の為の調査準備 改善提案・オリジナルプランの造成とリサーチ検証準備	◎グループワーク：リサーチ準備
第 10 回	リサーチ（ヒアリング・アンケート調査）①計画	
第 11 回	リサーチ（ヒアリング・アンケート調査）②見直し	
第 12 回	リサーチ（ヒアリング・アンケート調査）③まとめ ※第 10 回から第 12 回までにリサーチ実施 調査対象の決定 成功事例・失敗事例の収集	◎グループワーク リサーチまとめ
第 13 回	プラン提案 プレゼン準備 実行可能なプランの裏付けと提案	○PPT 準備（素材集め）
第 14 回	PPT プレゼン発表 全員で評価	○PPT 手直し
第 15 回	結婚による経済効果 ブライダル産業の中のビジネス提案 最終課題レポート提出 授業アンケート	

1.授業コード (ナンバリング)	BSS101-M51	2.科目名	発想法 (1/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	山下泰生					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	何か入り組んだ問題を解決しようとするとき、そもそも何が問題なのかをきちんと整理して考えないと、うまい解決方法が出てこないものだ。また、何か新しいものを生み出そうとするとき、やみくもにアイデアをこね回していても、発想が現実のものになるところまではなかなか到達しないことが多々ある。 この授業では、問題解決や新しいアイデアの創出についても一定の方法論があることを学び、その方法論を実践的にいろいろ試しながら、現実の問題解決や創造的活動に役立つスキルを身につけていく。 授業は講義と演習を交互に繰り返しながら進行する。教科書に沿って、各章の解説を講義した後、章末の練習課題を時には個人で、時には少人数のグループ活動を通じて解決していく。 ほぼ毎回、ワークシートの提出を求めることになる。グループワークが中心となる回では、グループとしてのプレゼンテーションも行う。 最後に、学んだ知識内容やスキルを確認するため、確認試験と最終レポートを課す。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は KUIS 学修ベンチマークの(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力に関連する。 1. 社会で問題になっていることを、普段から気にかけることができる。 2. 既存の考えにとらわれず、フレッシュなアイデアを考え出すことができる。 3. 発想法の手法を身につけ、状況に応じて使い分けることができる。					
19.教科書・教材	『知のワークブック－大学生と新社会人のための』 竹田茂生・藤木清編、くろしお出版、2014 年 (学内での教科書販売で必ず入手すること)					
20.参考文献						
21.成績評価	1. ワークシートの提出状況と解答状況・・・30% 2. 確認テスト・・・20% 3. 最終レポート・・・50%					
22.コメント	掲示板にて、クラス指定を表示するので、第1回目の授業から指定のクラスへ行くこと。 ＊テキストは、事前に教科書販売で購入し、第1回の授業に持参すること。 ・基本的には、毎回1章ずつ進める。 ・各回、章ごとのポイント解説をした後、ワークシートへの書き込みを中心にした演習を行う。 ・「考えること」を中心課題にしている授業なので、直感で簡潔に解答欄を埋めるのではなく、じっくり粘り強く考え、自分のオリジナリティを大いに発揮してもらいたい。 ・必ずしも個人の思考に引きこもる必要はない。アイデアを受講者同士で交					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー 副学長室 ：水昼休み					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	第 1 章 創造的思考法とは何か。この授業の進行等について説明する。 ワークシート 1 (”蓮浦”の情報をまとめる)	○ワークシート 1 を完成させる。(90 分) ○第 1 章を復習する。(90 分)
第 2 回	第 2 章 複眼的思考。ものごとを一つの視点からでなく、複数の視点からみることを意識する。 ワークシート(以下 WS) 2.1(ナンバーについては教科書を参照のこと)	○第 2 章を復習する。(120 分) ○第 3 章を読む。(60 分)
第 3 回	第 3 章 論理的思考。論理性を重視した思考の基本形式、演繹と帰納について学ぶ。WS3.1	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 3 章を復習する。(120 分) ○第 3 章を読む。(60 分)
第 4 回	第 4 章 因果関係。原因と結果のつながりを意識して、問題解決、将来予測などに役立てる。WS4.1	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 4 章を復習する。(120 分) ○第 5 章を読む。(60 分)
第 5 回	第 5 章 図解思考法①。複雑な文章を明快に理解するための工夫を学ぶ。WS5.1 5.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 5 章を復習する。(120 分) ○第 6 章を読む。(60 分)
第 6 回	第 6 章 図解思考法②。よく利用される図解のパターンについて学ぶ。WS6.1 6.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 7 章を復習する。(120 分) ○第 8 章を読む。(60 分)
第 7 回	第 7 章 発散型思考法。ブレインストーミングの方法について学ぶ。WS7.1 7.2 学期の主題② (第 9 回発表)	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 7 章を復習する。(120 分) ○第 8 章を読む。(60 分)
第 8 回	第 8 章 収束型思考法。KJ 法について学ぶ。WS8.1 8.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 8 章を復習する。(120 分) ◎グループで発表準備をする。(240 分)
第 9 回	第 8 章 つづき (グループワーク～プレゼンテーション)。KJ 法の実践とその成果発表。WS なし	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○自分でテーマを決めて、KJ 法を復習する。(120 分)
第 10 回	第 9 章 類比型思考法。NM 法について学ぶ。WS9.1	◎グループで発表準備をする。(240 分)
第 11 回	第 10 章 フレームワークシンキング①。MECE の意味と MECE を基礎にしたフレームワークの一つ、PPM 等について学ぶ。WS10.1 10.2 10.3	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 9 章を復習する。(120 分) ○自分でテーマを決めて、NM 法を復習する。(120 分)
第 12 回	第 11 章 フレームワークシンキング②。SWOT 分析に	○第 10 章を復習する。(120 分)

	ついて学ぶ。WS11.1 11.2 最終レポートに向けた課題 1 を実施する。	○第 1 1 章を読む。(60 分) ○最終レポート課題の資料を収集する。(120 分) 課題 1
第 13 回	最終レポートに向けた課題 2 を実施する。	○最終レポートに向けた課題 2 に取り組む。(120 分)
第 14 回	最終レポートに向けた課題 3 を実施する。 最終レポート課題発表	○最終レポート課題を完成させる。(120 分) ○確認テストの準備として、全体の復習をする。(120 分)
第 15 回	総まとめ 確認テスト実施 最終レポート提出	

1.授業コード (ナンバリング)	BSS101-M52	2.科目名	発想法 (2/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	百済正和					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、問題解決や新しいアイディアの創出についても一定の方法論があることを学び、その方法論を実践的にいろいろ試しながら、現実の問題解決や創造的活動に役立つスキルを身につけていく。 【概要】 何か入り組んだ問題を解決しようとするとき、そもそも何が問題なのかをきちんと整理して考えないと、うまい解決方法が出てこないものだ。また、何か新しいものを生み出そうとするとき、やみくもにアイディアをこね回していても、発想が現実のものになるところまではなかなか到達しないことが多々ある。 授業は講義と演習を交互に繰り返しながら進行する。教科書に沿って、各章の解説を講義した後、章末の練習課題を時には個人で、時にはペアワークや少人数のグループワークを通じて解決していく。 ほぼ毎回、ワークシートの提出を求めることになる。 最後に、学んだ知識内容やスキルを確認するため、確認試験と最終レポートを課す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力の学修に関連しています。 ①論理的・多角的な視点で物事を考えることができる。 ②文章や状況を図解に表現して本質をとらえることができる。 ③拡散型あるいは収束型思考法の手法を身につけ、状況に応じて使い分けることができる。 ④企業で多用される代表的な思考のフレームワークを理解し、使用できる。 ⑤信用できる情報を集め、組み合わせたり連想したりして、フレッシュなアイデアを考え出すことができる。					
19.教科書・教材	『知のワークブックー大学生と新社会人のための』竹田茂生・藤木清編、くろしお出版、2014 年 (学内での教科書販売で必ず入手すること)					
20.参考文献						
21.成績評価	1. ワークシートの提出状況と解答状況・・・30%（学習目標①②③④に対応） 2. 確認テスト・・・20%（学習目標②④に対応） 3. 最終レポート・・・50%（学習目標①②③⑤に対応）					
22.コメント	* 掲示板にて、クラス指定を表示するので、第1回目の授業から指定のクラスで受講すること。 * 毎回ノート PC を使用します。準備しておくこと。 * テキストは第1回の授業から使用します。事前に教科書販売で購入すること。 ・基本的には、毎回1章ずつ進めます。 ・各回、章ごとのポイント解説をした後、ワークシートを中心にした演習を行います。 ・「考えること」を中心課題にしている授業なので、短絡的に解答欄を埋めるのではなく、じっくり粘り強く考え、自分のオリジナリティを大いに発揮してもらいたい。					

	・必ずしも個人の思考に引	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜日 3 限 研究室オフィスアワー：火曜日 3 限	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	第 1 章 創造的思考法とは何か。この授業の進行等について説明する。 ワークシート 1 (“蓮浦”の情報をまとめる)	○ワークシート 1 を完成させる。(90 分) ○第 1 章を復習する。(90 分)
第 2 回	第 2 章 複眼的思考。ものごとを一つの視点からでなく、複数の視点からみることを意識する。 ワークシート(以下 WS) 2.1(ナンバーについては教科書を参照のこと)	○第 2 章を復習する。(120 分) ○第 3 章を読む。(60 分)
第 3 回	第 3 章 論理的思考。論理性を重視した思考の基本形式、演繹と帰納について学ぶ。WS3.1	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 3 章を復習する。(120 分) ○第 3 章を読む。(60 分)
第 4 回	第 4 章 因果関係。原因と結果のつながりを意識して、問題解決、将来予測などに役立てる。WS4.1	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 4 章を復習する。(120 分) ○第 5 章を読む。(60 分)
第 5 回	第 5 章 図解思考法①。複雑な文章を明快に理解するための工夫を学ぶ。WS5.1 5.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 5 章を復習する。(120 分) ○第 6 章を読む。(60 分)
第 6 回	第 6 章 図解思考法②。よく利用される図解のパターンについて学ぶ。WS6.1 6.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 7 章を復習する。(120 分) ○第 8 章を読む。(60 分)
第 7 回	第 7 章 発散型思考法。ブレインストーミングの方法について学ぶ。WS7.1 7.2 学期の主題② (第 9 回発表)	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 7 章を復習する。(120 分) ○第 8 章を読む。(60 分)
第 8 回	第 8 章 収束型思考法。KJ 法について学ぶ。WS8.1 8.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 8 章を復習する。(120 分)
第 9 回	第 8 章 つづき (グループワーク～プレゼンテーション)。KJ 法の実践とその成果発表。WS なし	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○KJ 法を復習する。(120 分)
第 10 回	第 10 章 フレームワークシンキング①。MECE の意味と MECE を基礎にしたフレームワークの一つ、PPM 等について学ぶ。WS10.1 10.2 10.3	○第 10 章を復習する。(120 分) ○第 11 章を読む。(60 分) ○最終レポート課題の資料を収集する。(120 分)
第 11 回	第 11 章 フレームワークシンキング②。SWOT 分析について学ぶ。WS11.1 11.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 11 章を復習する。(120 分)

		○第 1 2 章を読む。(60 分)
第 12 回	最終レポートに向けた課題 1 を実施する。	○最終レポートに向けた課題 1 に取り組む。 (120 分)
第 13 回	最終レポートに向けた課題 2 を実施する。	○最終レポートに向けた課題 2 に取り組む。 (120 分)
第 14 回	最終レポートに向けた課題 3 を実施する。 最終レポート課題発表	○最終レポート課題を完成させる。(120 分) ○確認テストの準備として、全体の復習をする。(120 分)
第 15 回	総まとめ 確認テスト実施 最終レポート提出	

1.授業コード (ナンバリング)	BSS101-M53	2.科目名	発想法 (3/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	北村浩二					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、問題解決や新しいアイディアの創出についても一定の方法論があることを学び、その方法論を実践的にいろいろ試しながら、現実の問題解決や創造的活動に役立つスキルを身につけていく。 【概要】 何か入り組んだ問題を解決しようとするとき、そもそも何が問題なのかをきちんと整理して考えないと、うまい解決方法が出てこないものだ。また、何か新しいものを生み出そうとするとき、やみくもにアイディアをこね回していても、発想が現実のものになるところまではなかなか到達しないことが多々ある。 授業は講義と演習を交互に繰り返しながら進行する。教科書に沿って、各章の解説を講義した後、章末の練習課題を時には個人で、時にはペアワークや少人数のグループワークを通じて解決していく。 ほぼ毎回、ワークシートの提出を求めることになる。 最後に、学んだ知識内容やスキルを確認するため、確認試験と最終レポートを課す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力の学修に関連しています。 ①論理的・多角的な視点で物事を考えることができる。 ②文章や状況を図解に表現して本質をとらえることができる。 ③拡散型あるいは収束型思考法の手法を身につけ、状況に応じて使い分けることができる。 ④企業で多用される代表的な思考のフレームワークを理解し、使用できる。 ⑤信用できる情報を集め、組み合わせたり連想したりして、フレッシュなアイデアを考え出すことができる。					
19.教科書・教材	『知のワークブックー大学生と新社会人のための』竹田茂生・藤木清編、くろしお出版、2014年 (学内での教科書販売で必ず入手すること)					
20.参考文献						
21.成績評価	1. ワークシートの提出状況と解答状況・・・30％（学習目標①②③④に対応） 2. 確認テスト・・・20％（学習目標②④に対応） 3. 最終レポート・・・50％（学習目標①②③⑤に対応）					
22.コメント	* 掲示板にて、クラス指定を表示するので、第1回目の授業から指定のクラスで受講すること。 * 毎回ノートPCを使用します。準備しておくこと。 * テキストは第1回の授業から使用します。事前に教科書販売で購入すること。 ・ 基本的には、毎回1章ずつ進めます。 ・ 各回、章ごとのポイント解説をした後、ワークシートを中心にした演習を行います。 ・ 「考えること」を中心課題にしている授業なので、短絡的に解答欄を埋めるのではなく、じっくり粘り強く考え、自分のオリジナリティを大いに発揮してもらいたい。					

	・必ずしも個人の思考に引	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー： 研究室オフィスアワー：	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	第 1 章 創造的思考法とは何か。この授業の進行等について説明する。 ワークシート 1 (“蓮浦”の情報をまとめる)	○ワークシート 1 を完成させる。(90 分) ○第 1 章を復習する。(90 分)
第 2 回	第 2 章 複眼的思考。ものごとを一つの視点からでなく、複数の視点からみることを意識する。 ワークシート(以下 WS) 2.1(ナンバーについては教科書を参照のこと)	○第 2 章を復習する。(120 分) ○第 3 章を読む。(60 分)
第 3 回	第 3 章 論理的思考。論理性を重視した思考の基本形式、演繹と帰納について学ぶ。WS3.1	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 3 章を復習する。(120 分) ○第 3 章を読む。(60 分)
第 4 回	第 4 章 因果関係。原因と結果のつながりを意識して、問題解決、将来予測などに役立てる。WS4.1	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 4 章を復習する。(120 分) ○第 5 章を読む。(60 分)
第 5 回	第 5 章 図解思考法①。複雑な文章を明快に理解するための工夫を学ぶ。WS5.1 5.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 5 章を復習する。(120 分) ○第 6 章を読む。(60 分)
第 6 回	第 6 章 図解思考法②。よく利用される図解のパターンについて学ぶ。WS6.1 6.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 7 章を復習する。(120 分) ○第 8 章を読む。(60 分)
第 7 回	第 7 章 発散型思考法。ブレインストーミングの方法について学ぶ。WS7.1 7.2 学期の主題② (第 9 回発表)	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 7 章を復習する。(120 分) ○第 8 章を読む。(60 分)
第 8 回	第 8 章 収束型思考法。KJ 法について学ぶ。WS8.1 8.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 8 章を復習する。(120 分)
第 9 回	第 8 章 つづき (グループワーク～プレゼンテーション)。KJ 法の実践とその成果発表。WS なし	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○KJ 法を復習する。(120 分)
第 10 回	第 10 章 フレームワークシンキング①。MECE の意味と MECE を基礎にしたフレームワークの一つ、PPM 等について学ぶ。WS10.1 10.2 10.3	○第 10 章を復習する。(120 分) ○第 11 章を読む。(60 分) ○最終レポート課題の資料を収集する。(120 分)
第 11 回	第 11 章 フレームワークシンキング②。SWOT 分析について学ぶ。WS11.1 11.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 11 章を復習する。(120 分)

		○第 1 2 章を読む。(60 分)
第 12 回	最終レポートに向けた課題 1 を実施する。	○最終レポートに向けた課題 1 に取り組む。 (120 分)
第 13 回	最終レポートに向けた課題 2 を実施する。	○最終レポートに向けた課題 2 に取り組む。 (120 分)
第 14 回	最終レポートに向けた課題 3 を実施する。 最終レポート課題発表	○最終レポート課題を完成させる。(120 分) ○確認テストの準備として、全体の復習をする。(120 分)
第 15 回	総まとめ 確認テスト実施 最終レポート提出	総まとめ

1.授業コード (ナンバリング)	BSS202-Y51	2.科目名	コミュニティビジネス		3.単位数	2
4.授業担当教員	小磯学					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	授業の目的：コミュニティビジネスを理解すること。 授業の概要：コミュニティビジネスとは「市民が主体となって、地域が抱える課題をビジネスの手法により解決する事業」の総称である。1980 年代以降に注目され始め、今なお全世界で発展を続けている。 その背景にあるのが、少子高齢化や少人数世帯の増加によって以前までの家庭の機能が急速に低下し、またとくに地方では地域産業の衰退や過疎化などが進み、社会構造そのものの大きな変化しこれまでにない課題に直面している。市民によってコミュニティビジネスという継続可能な仕組み通じて地域産業の活性化に寄与し、地域における新たな創業や雇?を創出し、働きがい・?きがい?み出すことがこうした課題の解決を図ることを可能にする。 こうした複雑で多様な課題を解決する手段としてのコミュニティビジネスを学修する。					
18.学習目標と DPとの関連	コミュニティビジネス・ソーシャルビジネスを理解し、その社会的重要性を学ぶ。 実際にコミュニティビジネスの事業計画を立てて、ビジネスモデルを作りあげること目標とする。 学習目標① コミュニティビジネスについて、多様な背景から基本的な内容を説明できる。 学習目標② コミュティビジネスの基本的課題について説明できる。 学習目標③ 簡単な、「コミュニティビジネス」を企画できるようになる。					
19.教科書・教材	適宜、簡単なレジメを授業中に配布する。					
20.参考文献	必要に応じて、適宜紹介をします。					
21.成績評価	原則、 ① コミュニティビジネスについて、基本的な内容や基本的課題を説明できる：?中間レポート 5 0 % ②コミュニティビジネス（CB）に影響を与える環境や、CB を成長させていくための方法などが説明できる： ?最終総括試験： 5 0 %					
22.コメント	最重要事項＝やる気、本気、根気、好奇?と情熱。 ?分??で調べ、考えること。					
23.オフィスアワー	水 3 限：3309 室 金 2 限：教育支援センター					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回目	【第 1 回】・ガイダンス ・コミュニティビジネス（CB）とは何かについて（CB の概要について） 社会的、地域的な問題解決を図る手段として有効なコミュニティビジネスの概要を把握します。 ・主として貧困を抱える開発途上国で急速に発展しつつあるコミュニティビジネスが、なぜ必要とされ、進					

	展しつつあるのか、コミュニティビジネスの世界の潮流も理解します。	
2 回目	【第 2 回】コミュニティビジネスの基本ポイント① コミュニティビジネスの基本的な要件について、多様な角度から理解を深めます。	
3 回目	【第 3 回】コミュニティビジネスの基本ポイント② 前回に続いて、コミュニティビジネスの基本的な要件について、多様な角度から 理解を深めます。	課題：「コミュニティビジネスの基本ポイント」の提出
4 回目	【第 4 回】コミュニティビジネスの事例 について コミュニティビジネスの主要分野の事例を把握し、どのような具体的な事例があるか。	
5 回目	【第 5 回】コミュニティビジネスの成功と評価ポイント コミュニティビジネスが成功するポイントとその評価ポイントについて、事例等をも とに理解します。	
6 回目	【第 6 回】住民主導による地域づくり 地域主体の地域づくりは、農山村部、都市部、観光地などの各地で展開されている活動を事業の視点から課題を学ぶ。	課題：「コミュニティビジネスの事例」を 1 つ調べ、提出
7 回目	【第 7 回】コミュニティビジネスの展望と課題 コミュニティビジネスの起業に向けた取り組みとともに、働き方のユニバーサルデザイン、ソーシャルインクルージョン(社会的内包)を踏まえた次世代を担う社会的企業のあり方について考える。	
8 回目	【第 8 回】新しい公共のあり方 新たな公共の構築に向けて、コミュニティビジネスを基軸にコミュニティ戦略を構築していくことが重要、そのため社会変革の視点を提示し 21 世紀のコミュニティについて考える。 ★中間レポート課題を提示予定（課題テーマは適宜設定する）	
9 回目	【第 9 回】コミュニティをつくる方法と、ビジネスへの展開について① それらを活かしたビジネスへの発展の仕方を学ぶ。	
10 回目	【第 10 回】コミュニティをつくる方法とビジネスへの展開について② 具体的なコミュニティをつくる上での個人的な考え方から方法論を学ぶとともに、それらを活かしたビジネ	

	スへの発展の仕方を学びます	
11 回目	【第 11 回】 SDGs と、クラウドファンディングについて コミュニティビジネスと SDGs とクラウドファンディング概要について理解し、今後のグローバルな課題の解決に向けて、コミュニティビジネスが果たす役割を考える。	課題：「SDGs を考慮したコミュニティビジネス」を調べ、提出
12 回目	【第 12 回】 ・地域資源バンク構想について	
13 回目	【第 13 回】 ・ SDGs の内容について解説することと、それが社会に与える影響を解説する。	討議後において、各自は、パワーポイントを素案を完成させる。
14 回目	【第 14 回】 ・クラウドファンディングの内容・具体事例を理解し、今後のグローバルな課題の解決に向けて、コミュニティビジネスが果たす役割を考える。 ・ソーシャルビジネスとは何かを解説する。	各自は、パワーポイントをブラッシュアップ(改善修正追記等) します。
15 回目	【第 15 回】 総括試験 14 回までの講義内容や、事例内容を踏まえて、総括試験を実施します。	

1.授業コード (ナンバリング)	BSS206-A51	2.科目名	発想法		3.単位数	2
4.授業担当教員	河内山 潔					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、問題解決や新しいアイディアの創出についても一定の方法論があることを学び、その方法論を実践的にいろいろ試しながら、現実の問題解決や創造的活動に役立つスキルを身につけていく。 【概要】 何か入り組んだ問題を解決しようとするとき、そもそも何が問題なのかをきちんと整理して考えないと、うまい解決方法が出てこないものだ。また、何か新しいものを生み出そうとするとき、やみくもにアイディアをこね回していても、発想が現実のものになるところまではなかなか到達しないことが多々ある。 授業は講義と演習を交互に繰り返しながら進行する。教科書に沿って、各章の解説を講義した後、章末の練習課題を時には個人で、時にはペアワークや少人数のグループワークを通じて解決していく。 ほぼ毎回、ワークシートの提出を求めることになる。 最後に、学んだ知識内容やスキルを確認するため、確認試験と最終レポートを課す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力の学修に関連しています。 ①論理的・多角的な視点で物事を考えることができる。 ②文章や状況を図解に表現して本質をとらえることができる。 ③拡散型あるいは収束型思考法の手法を身につけ、状況に応じて使い分けることができる。 ④企業で多用される代表的な思考のフレームワークを理解し、使用できる。 ⑤信用できる情報を集め、組み合わせたり連想したりして、フレッシュなアイデアを考え出すことができる。					
19.教科書・教材	『知のワークブックー大学生と新社会人のための』竹田茂生・藤木清編、くろしお出版、2014 年 (学内での教科書販売で必ず入手すること)					
20.参考文献						
21.成績評価	1. ワークシートの提出状況と解答状況・・・30％（学習目標①②③④に対応） 2. 確認テスト・・・20％（学習目標②④に対応） 3. 最終レポート・・・50％（学習目標①②③⑤に対応）					
22.コメント	* 掲示板にて、クラス指定を表示するので、第1回目の授業から指定のクラスで受講すること。 * 毎回ノート PC を使用します。準備しておくこと。 * テキストは第1回の授業から使用します。事前に教科書販売で購入すること。 ・基本的には、毎回1章ずつ進めます。 ・各回、章ごとのポイント解説をした後、ワークシートを中心にした演習を行います。 ・「考えること」を中心課題にしている授業なので、短絡的に解答欄を埋めるのではなく、じっくり粘り強く考え、自分のオリジナリティを大いに発揮してもらいたい。					

	・必ずしも個人の思考に引	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：金曜日 3 限 研究室オフィスアワー：木曜日 2 限	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	第 1 章 創造的思考法とは何か。この授業の進行等について説明する。 ワークシート 1 (“蓮浦”の情報をまとめる)	○ワークシート 1 を完成させる。(90 分) ○第 1 章を復習する。(90 分)
第 2 回	第 2 章 複眼的思考。ものごとを一つの視点からでなく、複数の視点からみることを意識する。 ワークシート(以下 WS) 2.1(ナンバーについては教科書を参照のこと)	○第 2 章を復習する。(120 分) ○第 3 章を読む。(60 分)
第 3 回	第 3 章 論理的思考。論理性を重視した思考の基本形式、演繹と帰納について学ぶ。WS3.1	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 3 章を復習する。(120 分) ○第 3 章を読む。(60 分)
第 4 回	第 4 章 因果関係。原因と結果のつながりを意識して、問題解決、将来予測などに役立てる。WS4.1	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 4 章を復習する。(120 分) ○第 5 章を読む。(60 分)
第 5 回	第 5 章 図解思考法①。複雑な文章を明快に理解するための工夫を学ぶ。WS5.1 5.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 5 章を復習する。(120 分) ○第 6 章を読む。(60 分)
第 6 回	第 6 章 図解思考法②。よく利用される図解のパターンについて学ぶ。WS6.1 6.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 7 章を復習する。(120 分) ○第 8 章を読む。(60 分)
第 7 回	第 7 章 発散型思考法。ブレインストーミングの方法について学ぶ。WS7.1 7.2 学期の主題② (第 9 回発表)	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 7 章を復習する。(120 分) ○第 8 章を読む。(60 分)
第 8 回	第 8 章 収束型思考法。KJ 法について学ぶ。WS8.1 8.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 8 章を復習する。(120 分)
第 9 回	第 8 章 つづき (グループワーク～プレゼンテーション)。KJ 法の実践とその成果発表。WS なし	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○KJ 法を復習する。(120 分)
第 10 回	第 10 章 フレームワークシンキング①。MECE の意味と MECE を基礎にしたフレームワークの一つ、PPM 等について学ぶ。WS10.1 10.2 10.3	○第 10 章を復習する。(120 分) ○第 11 章を読む。(60 分) ○最終レポート課題の資料を収集する。(120 分)
第 11 回	第 11 章 フレームワークシンキング②。SWOT 分析について学ぶ。WS11.1 11.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 11 章を復習する。(120 分)

		○第 1 2 章を読む。(60 分)
第 12 回	最終レポートに向けた課題 1 を実施する。	○最終レポートに向けた課題 1 に取り組む。 (120 分)
第 13 回	最終レポートに向けた課題 2 を実施する。	○最終レポートに向けた課題 2 に取り組む。 (120 分)
第 14 回	最終レポートに向けた課題 3 を実施する。 最終レポート課題発表	○最終レポート課題を完成させる。(120 分) ○確認テストの準備として、全体の復習をする。(120 分)
第 15 回	総まとめ 確認テスト実施 最終レポート提出	

1.授業コード (ナンバリング)	BSS206-A52	2.科目名	発想法		3.単位数	2
4.授業担当教員	陳那森					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	何か入り組んだ問題を解決しようとするとき、そもそも何が問題なのかをきちんと整理して考えないと、うまい解決方法が出てこないものだ。また、何か新しいものを生み出そうとするとき、やみくもにアイデアをこね回していても、発想が現実のものになるところまではなかなか到達しないことが多々ある。 この授業では、問題解決や新しいアイデアの創出についても一定の方法論があることを学び、その方法論を実践的にいろいろ試しながら、現実の問題解決や創造的活動に役立つスキルを身につけていく。 授業は講義と演習を交互に繰り返しながら進行する。教科書に沿って、各章の解説を講義した後、章末の練習課題を時には個人で、時にはペアワークや少人数のグループワークを通じて解決していく。 ほぼ毎回、ワークシートの提出を求めることになる。 最後に、学んだ知識内容やスキルを確認するため、確認試験と最終レポートを課す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力の学修に関連しています ①論理的・多角的な視点で物事を考えることができる。 ②文章や状況を図解に表現して本質をとらえることができる。 ③拡散型あるいは収束型思考法の手法を身につけ、状況に応じて使い分けることができる。 ④企業で多用される代表的な思考のフレームワークを理解し、使用できる。 ⑤信用できる情報を集め、組み合わせたり連想したりして、フレッシュなアイデアを考え出すことができる。					
19.教科書・教材	『知のワークブック－大学生と新社会人のための』竹田茂生・藤木清編、くろしお出版、2014年					
20.参考文献						
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 1. ワークシートの提出状況と解答状況・・・30％（学習目標①②③④に対応） 2. 確認テスト・・・20％（学習目標②④に対応） 3. 最終レポート・・・50％（学習目標①②③⑤に対応）					
22.コメント	＊掲示板にて、クラス指定を表示するので、第1回目の授業から指定のクラスで受講すること。 ＊毎回ノート PC を使用します。必ず、充電のうえ持参すること。 ＊テキストは第1回の授業から使用します。事前に教科書販売で購入すること。 ・基本的には、毎回1章ずつ進めます。 ・各回、章ごとのポイント解説をした後、ワークシートを中心にした演習を行います。 ・「考えること」を中心課題にしている授業なので、短絡的に解答欄を埋めるのではなく、じっくり粘り強く考え、自分のオリジナリティを大いに発揮してもらいたい。 ・必ずしも個					

23.オフィスアワー		研究室オフィスアワー 木曜日 1 限 センターオフィスアワー 水曜日 昼休み
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	第 1 章 創造的思考法とは何か。この授業の進行等について説明する。 ワークシート 1 ("蓮浦"の情報をまとめる)	○ワークシート 1 を完成させる。(90 分) ○第 1 章を復習する。(90 分)
第 2 回	第 2 章 複眼的思考。ものごとを一つの視点からでなく、複数の視点からみることを意識する。 ワークシート(以下 WS) 2.1(ナンバーについては教科書を参照のこと)	○第 2 章を復習する。(120 分) ○第 3 章を読む。(60 分)
第 3 回	第 3 章 論理的思考。論理性を重視した思考の基本形式、演繹と帰納について学ぶ。WS3.1	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 3 章を復習する。(120 分) ○第 3 章を読む。(60 分)
第 4 回	第 4 章 因果関係。原因と結果のつながりを意識して、問題解決、将来予測などに役立てる。WS4.1	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 4 章を復習する。(120 分) ○第 5 章を読む。(60 分)
第 5 回	第 5 章 図解思考法①。複雑な文章を明快に理解するための工夫を学ぶ。WS5.1 5.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 5 章を復習する。(120 分) ○第 6 章を読む。(60 分)
第 6 回	第 6 章 図解思考法②。よく利用される図解のパターンについて学ぶ。WS6.1 6.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 7 章を復習する。(120 分) ○第 8 章を読む。(60 分)
第 7 回	第 7 章 発散型思考法。ブレインストーミングの方法について学ぶ。WS7.1 7.2 学期の主題② (第 9 回発表)	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 7 章を復習する。(120 分) ○第 8 章を読む。(60 分)
第 8 回	第 8 章 収束型思考法。KJ 法について学ぶ。WS8.1 8.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 8 章を復習する。(120 分)
第 9 回	第 8 章 つづき (グループワーク～プレゼンテーション)。KJ 法の実践とその成果発表。WS なし	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○KJ 法を復習する。(120 分)
第 10 回	第 10 章 フレームワークシンキング①。MECE の意味と MECE を基礎にしたフレームワークの一つ、PPM 等について学ぶ。WS10.1 10.2 10.3	○第 10 章を復習する。(120 分) ○第 11 章を読む。(60 分) ○最終レポート課題の資料を収集する。(120 分)
第 11 回	第 11 章 フレームワークシンキング②。SWOT 分析について学ぶ。WS11.1 11.2	○返却されたワークシートを見て、必要があれば修正する。(30 分) ○第 11 章を復習する。(120 分) ○第 12 章を読む。(60 分)

第 12 回	最終レポートに向けた課題 1 を実施する。	○最終レポートに向けた課題 1 に取り組む。 (120 分)
第 13 回	最終レポートに向けた課題 2 を実施する。	○最終レポートに向けた課題 2 に取り組む。 (120 分)
第 14 回	最終レポートに向けた課題 3 を実施する。 最終レポート課題発表	○最終レポート課題を完成させる。(120 分) ○確認テストの準備として、全体の復習をする。(120 分)
第 15 回	総まとめ 確認テスト実施 最終レポート提出	

1.授業コード (ナンバリング)	BSS207-Y51	2.科目名	思考法		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本敏幸					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学部 推奨			9.履修学年	観光学部	
10.取得資格の要件	ソーシャル・アントレプレナーシップ、ディスラプティブなイノベーション、地方創生プロジェクト、SDGs の領域でのスタートアップ・アントレプレナーに興味がある方はぜひ履修してください。		11.先修条件	前学期にサービスラーニング・グローバルスタディ等の実践演習科目を履修しているとより理解が深まり、ものの見方が広がります。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	チームベースの PBL 型アクティブラーニング 実践演習型の授業展開		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	◆本授業の目的◆ ビジネスを取り巻く環境は大きく変化し、それにともない求められる知識やスキルも変化しています。 このような中で、顧客やマーケットのニーズを的確にとらえ、最適な商品やサービスを開発・提供するために知恵を絞ることが、企業の持続的活動やビジネスパーソンにとって益々不可欠な要素となってきました。もちろんインターネット、AI の普及・発展により、膨大なデータも迅速に収集・分析することが可能になりましたが、一方で、脚光を浴びるようになったのが私たち人間の「思考力」「発想方法」「創造力」「センスメイキング力」「システム思考」、「デザイン思考」です。 そのため、世の中には「〇〇シンキング」という様々な思考法、つまり経験則に基づいた様々な問題解決の方法が洪水のように提起されるようになりました。本講義では、課題の発見や解決、新たなアイデアの創造など、ビジネスの現場で役立つ様々な思考法について実際のビジネスシーンでの活用方法を交えながら学び、必要に応じて使いこなすことができるスキルの習得を習得し、シミュレーションしながら、経験値をあげることをめざします。 言い換えると、すべての思考法を取り入れたデザイン思考のフレームワークを活用して、実践さながらのシミュレーション学習で思考法活用の経験値を高めていきます。 ◆思考法とは？◆ 思考法とは、いったい何のために存在するのでしょうか？ーこの問から始めて、以下に上げる思考法を実践的に使っていきます。 （１）クリティカルシンキング（批判的思考）：前提となっている「論理」、つまり「常識」、「前例」、「通説」、「慣習」などに対して、「本当にそうなのか？」と疑問を投げかける思考法、 （２）ラテラルシンキング（水平思考）：既成の理論や概念にとらわれず、様々な異なる角度から物事を見たり、物事の新しい組合せを考えることで、自由なアイデアを生み出すための思考法、 （３）ロジカルシンキング（論理的思考）：「考え方に筋道を通し、主張と根拠を論理的に説明する。つまり、因果関係（原因・結果）、相関関係、包含関係などに整理して考える思考法について学びます。ビジネスシーンでは、「相手が納得できること」、共感、共鳴を得ることが重要となる交渉において必要となる思考法、 （４）戦略立案のフレームワーク（3C、4C、4P、SWOT、PEST、5 フォースなど戦略立案に用いる主なフレームワークを使う思考法、					

	(5) STP、ポジショニングマップ、4P、製品ライフサイクル、AISAS、バリュー分析などマーケティング戦略作成のためのフレームワークを使った思考法、 (6)アントレプレナーの領域で戦略立案に用いるリーンキャンバスを活用する思考法 (7)システム思考、社会の諸問題を体系だった一つのシステムとして捉え、俯瞰的に見ることで問題解決を試みる思考法 (8)デザイン思考、上記の(1)から(7)のすべてを統合的に扱い、ディスラプティブなイノベーションにつなげる思考法 この授業では、上記のすべての思考法をおさらいしながら、実践的な経験値を身につけるために、シミュレーション型の学習をおこなっていきます。 ◆システム思考からデザイン思考へ◆ システム思考では、社会の様々な問題を俯瞰的に見ることで問題解決をする手法について学んできました。客観的な視点から物事を捉えることで、特性を持つ物事1つ1つを分けながら関係性を配慮し、全体を1つのシステムとして捉えることで問題解決をしようという試みです。システム思考を学び、問題解決のプロジェクトチームで実践することで社会の様々な事象の全体像を把握し、 1つ1つに注目していたときには気づかなかった原因や、それに対する解決策を発見できるようになったと思います。 この授業で学ぶデザイン思考とは、「人間中心の問題解決アプローチをする」考え方のことです。 「使う側のユーザー起点で考える」、 「商品の制作側とユーザー間のコミュニケーションを重視する」、 「短い時間のスパンで繰り返し問題解決をおこない、試行錯誤しながら試す」、 といった考え方がコンセプトになっています。 システム思考は既に社会に存在する商品や社会の仕組みなどについて、改善をおこなうことが中心ですが、デザイン思考では、まだ社会に存在しない商品開発や仕組み開発について開発をおこなう手法です。具体的には、人々のニーズを観察し、そこから得たアイデアを具体的にプロトタイプ等に落とし込み、テストや試行錯誤を繰り返して解決していきます。 こういった実験的な工夫はより効率的なデザイン思考の実践を実現します。 システム思考でもデザイン思考でも共通して言えることは、チームで課題に取り組むという姿勢です。システム思考でのチームの考え方はチームリーダーのいる組織体制ですが、一方、デザイン思考ではアジャイルという手法を活用します。授業の中で実際にアジャイルなチームでの問題解決、商品開発、イノベーションをSDGsの領域で考えていきます。社会は人の営みから成っているところですから、そこに住む人々のニーズを見極め、解決すべき課題を見極め、既存の価値観や既存概念に囚われることなく最適な解決策を模索していくことが大切ではないでしょうか。 社会がより便利になり、生活しやすくなり、住みやすい場所になるようにするためにデザイン思考を身に付けましょう！
18.学習目標とDPとの関連	以下に示す本科目の学習目標はDP(ディプロマ・ポリシー)の(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ①コンピュータやインターネットといった情報手段の使い、情報収集、情報分析ができる ②収集した情報データを整理、解析し、現状における問題点の同定ができる ③デザイン思考のためのシンキングツールを活用し、現状分析、シナリオプランニングができる ④デザイン思考の学習領域で、チーム活動によるPBLができる ⑤チームのPBLの成果をリッチメディアを駆使して、情報発信・情報共有ができる 到達?標(毎回のチームベースの演習の中でマイクロインサクションで内省化していく) ・予めチームで合意した問題課題の領域で、俯瞰的な視点からクリティカルシンキング・クリエイティブシンキング、イノベティブシンキングができる。

	・クリティカルシンキングのためのシンキングツールを駆使して問題課題を多角的に分析でき、最適な解決策のイノベーションに結び付けることができる。 ・問題解決案の内容的評価方法について計画し、PDCA のサイクルを廻すマインドセットを持つことができる。 ・イノベーションに繋がる様々な思考発想法の功罪について理解し、状況に合わせて活用できる。 チームベース構成で、プロジェクトチームで実践的にそれぞれのチームメンバーの役割の視点から経験を積みながら PBL 型でデザイン思考のプロセスを学んでいく。プロジェクトの成果物はチームによる最終プレゼンテーションで共有し、フィードバックセッションで学びのふりかえりをおこなう。	
19.教科書・教材	教科書は指定しない。授業の進行に合わせて随時紹介する。	
20.参考文献	ロジカル・シンキング (Best solution)/2001/東洋経済新報社/照屋 華子, 岡田 恵子 完訳 7つの習慣 人格主義の回復/2013/キングベアー出版/スティーブン・R.コヴィー エッセンシャル思考 最少の時間で成果を最大にする/ 2014/かんき出版/グレッグ マキューン 論点思考/ 2010/東洋経済新報社/内田 和成 イシューからはじめよ——知的生産の「シンプルな本質」/ 2010/英治出版/安宅和人 問題発見プロフェッショナル「構想力と分析力」/ 2001/ダイヤモンド社/	
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 (個人の学びの評価)・・・授業各回での個人レベルの学びのふりかえりレポート [学習目標①、②、③、④、⑤に対応] 課題作業ファイルの提出・・・4 点×15 回=60 点 ※出席なしでのふりかえりレポートは認めない (チームによる PBL 学習・チーム貢献評価) [学習目標①、②、③、④、⑤に対応] プログレスレポート課題 1: テーマ領域・情報データ収集・現状分析方法・・・10 点 [学習目標①、②、③に対応] プログレスレポート課題 2: 現状分析・課題定義・・・10 点 [学習目標①、②]	
22.コメント	ノート PC を授業中リサーチツール・シンキングツール・学びの共有の場として使用します。必ず持参してください。	
23.オフィスアワー	毎週火曜日 3 限目: 学修支援室 毎週火曜日 4 限目: 個人研究室	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	Introduction: デザイン思考とは? 講義: 本コースの説明, シラバスの説明、ハウスルールの説明 チーム学習活動: チームビルディング、エンパシービルディング、ブレインストーミング	・今回の復習: 教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習: 教科書の該当箇所を読んでおく
【第 2 回】	◆デザイン思考のマインドセット◆ 考えるということ・クリティカルシンキング (1) 講義: シンキングツールを使って考える (マインドマップ・マンドラート・PMI・SWOT 等) チーム学習活動: シンキングツール実践演習	・今回の復習: 教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習: 教科書の該当箇所を読んでおく
【第 3 回】	◆デザイン思考のマインドセット◆ 考えるということ・クリティカルシンキング (2) 講義: シンキングツールを使って考える (ロジカルシンキング・水平思考等) チーム学習活動: 実践演習	・今回の復習: 教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習: 教科書の該当箇所を読んでおく

【第 4 回】	デザイン思考演習 1：課題領域の設定 講義：身の回りの社会の一局面を取り上げ、テーマ領域を絞りこむ チーム学習活動：実践演習（ブレインストーミング・ディスカッション・コンセンサスビルディング）	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 5 回】	デザイン思考演習 2：課題領域の設定→現状分析（1） 講義：絞り込んだテーマ領域について、現状の問題点・利点について分析する チーム学習活動：実践演習（PMI 分析・デザイン思考キャンパス・ディスカッション）	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 6 回】	デザイン思考演習 3：課題領域の設定→現状分析（2） 講義：絞り込んだテーマ領域について、現状の問題点・利点について分析する、進捗確認 チーム学習活動：実践演習（PMI 分析・デザイン思考キャンパス・ディスカッション）	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 7 回】	デザイン思考演習 4：課題領域の設定→現状分析→シナリオプランニング（1） 講義：絞り込んだテーマ領域について、現状の問題点・利点について分析する チーム学習活動：実践演習（デザイン思考キャンパス・SWOT 分析・ディスカッション）	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 8 回】	デザイン思考演習 5：課題領域の設定→現状分析→シナリオプランニング（2） 講義：絞り込んだテーマ領域について、現状の問題点・利点について分析する、進捗確認 チーム学習活動：実践演習（デザイン思考キャンパス・SWOT 分析・ディスカッション）	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 9 回】	デザイン思考演習 6：設定したテーマ領域での最重要課題の同定 講義：絞り込んだテーマ領域についての調査分析結果を踏まえて、予め予測していた課題を評価・吟味する チーム学習活動：実践演習（これまでの演習プロセスのふりかえりと評価・ディスカッション）	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 10 回】	デザイン思考演習 7：前回までの学びの成果を可視化する 講義：これまでの演習活動の成果を可視化する チーム学習活動：実践演習（これまでの演習活動成果をポスター 1 枚にまとめる、クラスで共有）→ピッチ形式プレゼン動画の作成	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 11 回】	デザイン思考演習 8：Pitch 形式によるプロGRESSレポート 講義・チーム学習活動：これまでの演習活動の成果をまとめたポスターを使って、Pitch 形式によるプレゼンテーション＆評価セッションをおこなう チーム学習活動：実践演習（コメントセッションを反映した改善版の作成）	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく

【第 12 回】	デザイン思考演習 9：解決案の作成（1） 講義・チーム学習活動：これまでの演習活動の成果をまとめたポスター等を基に、解決策を提案する チーム学習活動：実践演習（ブレインストーミング・クリエイティブシンキング・ディスカッション）	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 13 回】	デザイン思考演習 10：解決案の作成（2） 講義・チーム学習活動：チームで挙げた解決策案を評価し、最適な解決策を一つ絞り提案する チーム学習活動：実践演習（コンセンサス・ビルディング・ディスカッション）	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 14 回】	デザイン思考演習 11：最終報告書の作成（1） 講義・チーム学習活動：チームのデザイン思考での学びのふりかえりを含めた成果物を動画等のリッチメディアを駆使して作成する チーム学習活動：実践演習（それぞれのチームメンバーの得手とするリッチメディアを駆使して DX 時代の最終報告書を作成する）	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 15 回】	デザイン思考演習 12：最終報告書の作成（2）&ふりかえり 講義・チーム学習活動：チームのデザイン思考での学びのふりかえりを含めた成果物をリッチメディアを駆使して完成する チーム学習活動：実践演習（それぞれのチームメンバーの得手とするリッチメディアを駆使して DX 時代の最終報告書を完成し、クラス全体共有キャンバスで共有・コメントセッションをおこなう）	チーム課題提出：課題 4 を提出（締切） ・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・総括ふりかえりレポートの作成・提出 ・授業アンケート・ポートフォリオ記入

1.授業コード (ナンバリング)	BSS208-Y51	2.科目名	イノベーション論		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	U S J のマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	専攻共通			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 アクティブラーニング導入科目（ディスカッション、プレスト、プレゼンテーション）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 Innovation という言葉は、J.A.シュンペーターが著書「経済発展の理論」の中で提唱した経済発展論の中心的な概念で、直訳すると「革新」や「刷新」という意味を持ちます。労働、土地などの生産要素の組合せを変化させたり、新たな生産要素を導入したりする企業家の行為を指します。生産技術の変化だけでなく、新市場や新製品の開発、新資源の獲得、生産組織の改革あるいは新制度の導入なども含まれるとされています。シュンペーターはイノベーションにより投資需要や消費需要が刺激され、経済の新たな好況局面が作りだされ、経済発展の最も主導的な要因であるとしています。一方で既存産業に壊滅的な影響を与え、市場構造を一変させる場合もあります。 現在では、国際的な経済構造や私たちの社会生活、社会構造にまで大きな影響を与えるものとして認識され、ウイズコロナ、国際関係の緊張・混乱、更に進むグローバル化、それらにともなう価値観の変化など観光産業界をとりまく環境が大きく変動する中、イノベーションを担う人材が求められています。 本講義では、イノベーションが生まれる背景要因、構成要素、プロセス、イノベーションがもたらす影響を理解し、さらにイノベーションを起こすための考え方やマネジメントのあり方、イノベーションの阻害要因について考察し、イノベーションを生むためのアプローチとマネジメントに関する知識とスキル、そしてマインドセットを身につけることをめざします。 【概要】 授業では、講義に加え、個人ワークとグループ・ディスカッションを組み合わせ繰り返し行い、段階的に理解を深め、スキルを身につけ、革新的なアイデアのプレゼンテーションの実践を目指します。このため、主体的な事前学習により自分の考えを明確化し、それをベースに建設的な議論に積極的に参加することが求められます。					
18.学習目標と D P との関連	本講義の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用力に対応しています。 本講義の学習目標は、次の通りです。 ①イノベーションの目的、必要性、プロセス、影響、阻害要因等を理解し説明することができる。 ②イノベーション・ファクターを発見する多角的な視点を獲得する。 ③イノベーション創出のためのアプローチを理解し、実践できること。 ④イノベーション創出のための環境を整えるマネジメントについて理解し、説明できること。 ⑤他者貢献のマインドセットによりチームビルディング、ディスカッションに寄与することができる。					
19.教科書・教材	資料は WebClass で配布					

20.参考文献	適宜、紹介します	
21.成績評価	①対象回の事前提出課題 2 点（2 点×1 回） ②対象回の「授業のまとめシート」 14 点（各回 1 点×9 回、15 回目のみ 5 点） ?個人ワークのプレゼンテーション 34 点（ルーブリックによる相互評価） ④総括試験 50 点 *総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。	
22.コメント	・個人ワークとグループ・ディスカッション、教員とのディスカッションを多用しますので、主体的な事前学習により自分の考えを明確化し、それをベースに建設的な議論に積極的に参加することが求められます。 ・よくわからない時などは、チューター、メンターを活用して下さい。 ・筆記用具とノートを持参のこと ・すべての講義が最終課題につながっていますので、出来る限り欠席しないように心がけて下さい。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	学習目標、授業計画、評価方法、評価基準について説明します。 《ブロック 1》イノベーションとは 【講義】イノベーションの意味 イノベーションの意味を概観します	【予習】イノベーションの意味について調べる 【授業のまとめシート】提出 【復習】イノベーションの意味についてまとめる
第 2 回	《ブロック 1》イノベーションとは 【講義】「イノベーター理論」 イノベーションの普及に関するイノベーター理論について考察します。 【グループワーク】調べて来たイノベーション事例をグループ内で発表し合い、イノベーションとして認識できる事例なのかどうかについてディスカッションを行い、結果を発表してもらいます。	【事前提出課題】イノベーションの事例を複数調べてまとめる 【授業のまとめシート】提出 【復習】イノベーションの事例についてまとめる
第 3 回	《ブロック 1》イノベーションとは 【講義】「イノベーションヒストリー I」 日本、世界のイノベーション事例について学び、その事例を参考にイノベーションのパターン、イノベーターのマインドセット、イノベーションが市場や社会に与える影響について考察します。 【グループワーク】学んだイノベーション事例について、イノベーションを実現した構成要素とアプローチについての考察を深めます。	【事前提出課題】なし 【授業のまとめシート】提出 【復習】イノベーションの事例についてまとめる
第 4 回	《ブロック 1》イノベーションとは 【講義】「イノベーションヒストリー II」 日本、世界のイノベーション事例について学び、その事例を参考にイノベーションのパターン、イノベーターのマインドセット、イノベーションが市場や社会に与える影響について考察します。	【事前提出課題】なし 【授業のまとめシート】提出 【復習】イノベーションの事例についてまとめる

	【グループワーク】学んだイノベーション事例について、イノベーションを実現した構成要素とアプローチについての考察を深めます。	
第5回	《ブロック1》イノベーションとは 【講義】「イノベーションヒストリーⅢ」 日本、世界のイノベーション事例について学び、その事例を参考にイノベーションのパターン、イノベーターのマインドセット、イノベーションが市場や社会に与える影響について考察します。 【グループワーク】学んだイノベーション事例について、イノベーションを実現した構成要素とアプローチについての考察を深めます。	【事前提出課題】なし 【授業のまとめシート】提出 【復習】イノベーションの事例についてまとめる
第6回	《ブロック1》イノベーションとは 【講義】「イノベーションのジレンマと破壊的イノベーション」 イノベーションによる市場、マネジメントへの影響とイノベーションをコントロールするためのマネジメントについて学びます。	【事前提出課題】なし 【授業のまとめシート】提出 【復習】イノベーションのジレンマと破壊的イノベーションについてまとめる
第7回	《ブロック2》イノベーションへのアプローチ 【講義】「イノベーション・アプローチの手法Ⅰ」 イノベーションを生み出すためのフレームワークやマネジメントの具体的手法について学びます。	【事前提出課題】なし 【授業のまとめシート】提出 【復習】習ったフレームワークについてまとめる
第8回	《ブロック2》イノベーションへのアプローチ 【講義】「イノベーション・アプローチの手法Ⅱ」 イノベーションを生み出すためのフレームワークやマネジメントの具体的手法について学びます。	【予習】イノベーションにつながる新たな価値提案アイデアを複数考えてくる。(個人ワーク) 【授業のまとめシート】提出 【復習】習ったフレームワークについてまとめる
第9回	《ブロック3》イノベーション・アイデア 【グループワーク】「イノベーション・アイデアのデザインⅠ（エクササイズ）」 イノベーション・アイデア（第8回予習課題）を発表し合い、ブレストを通じて、構成要素やアプローチ、効果、影響の視点から評価し合います。	【課題】 ブレストの結果を基に一つのアイデアに絞り込みコンセプトシートを作成します。 【授業のまとめシート】不要 【復習】コンセプトシートを完成させる
第10回	《ブロック3》イノベーション・アイデア 【グループワーク】「イノベーション・アイデアのデザインⅡ（エクササイズ）」 イノベーション・アイデアのコンセプト・シート（予習課題）を発表し合い、ブレストを通じてさらに議論を深めます	【予習】イノベーション・アイデアのコンセプト・シートを進行（個人ワーク） 【授業のまとめシート】不要 【復習】イノベーション・アイデアのコンセプト・シートを進行（個人ワーク）
第11回	《ブロック3》イノベーション・アイデア 【講義】イノベーション・アイデアのデザインⅢ（エクササイズ）」	【予習】イノベーション・アイデアのコンセプト・シートを進行（個人ワーク） 【授業のまとめシート】不要

	イノベーション・アイデアのコンセプトをプレゼンテーション資料にまとめる手法を学びます。	【復習】プレゼンテーションの見直し
第 12 回	《ブロック 4》イノベーションの阻害要因 【講義】「日本におけるイノベーションの現況と課題」日本におけるイノベーションの現況と課題について、海外との比較により考察します。 【グループディスカッション】日本におけるイノベーションの阻害要因とそれを乗り越える方法についてディスカッションを行います。	【予習】日本におけるイノベーションの状況を調べる 【授業のまとめシート】提出 【復習】日本におけるイノベーションの阻害要因についてまとめる
第 13 回	《ブロック 5》まとめ 【プレゼンテーション】イノベーション・アイデアを各自発表し、全員で評価を行います。	【予習】イノベーション・アイデアのコンセプト・シートを完成させてくる（個人ワーク） 【授業のまとめシート】不要 【復習】プレゼンテーションの見直し
第 14 回	《ブロック 5》まとめ 【総括試験】まとめと統括試験を行います	【予習】総括試験に備えて、これまでの学習内容を復習 【授業のまとめシート】不要 【復習】試験での不明点の見直し
第 15 回	《ブロック 5》まとめ 全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	【事前提出課題】講義全体および統括試験を経て、教授への質問を作る（一人1つ必須） 【授業のまとめシート】提出（5倍加点） 【復習】皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード (ナンバリング)	BSS209-Y51	2.科目名	DMO論		3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【科目の目的】 この科目は、地域の観光振興において注目されている DMO（Destination Management/Marketing Organization）と呼ばれる組織について学び、組織的な観光地経営の手法を身につけることを目的としています。 【科目の概要】 日本の多くの地方は、過疎化や経済の停滞によって厳しい状況に置かれています。それに対して政府は「観光立国」「地方創生」といった施策で、地域の資源を活かした観光地域づくりを推進してきました。そのなかで注目されるようになったのが DMO という組織です。海外の観光地では、自治体と民間事業者が協力して観光地域経営を推進し、成功を収めています。この講義では、日本と欧米の観光地経営と DMO の特徴を比較しつつ、効果的かつ持続可能な観光地域経営を担う組織のあり方と手法を学びます。 将来、地方の観光地域活性化や自治体での観光地域振興に取り組むことを目指す人にとっては、本科目で学ぶ知識や手法は大いに役立つことでしょう。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP と関連しています。 （１）自立的で主体的な態度 （４）問題発見・解決力 （６）専門的知識・技能の活用力 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①観光地経営とはなにか説明できる。 ②DMO とはなにか説明できる。 ③プレイスブランディングの手法について説明できる。 ④DMO に必要な要素を説明できる。					
19.教科書・教材	特に定めない。					
20.参考文献	高橋一夫『DMO 観光地経営のイノベーション』学芸出版社、2017 年 宮崎裕二・岩田賢 編『DMO のプレイス・ブランディング』学芸出版社、2020 年 高坂晶子『オーバーツーリズム：観光に消費されないまちの作り方』学芸出版社、2020 年 馬場正尊、I 中江研ほか『CREATIVE LOCAL：エリアイノベーション海外編』学芸出版社、2017 年 大社充『DMO 入門 官民連携のイノベーション 』（地方創生シリーズ）,事業構想大学院大学、2018 年 その他、適宜授業で紹介します。					
21.成績評価	課題レポート ・・・20％ 【学習目標①②③④に対応】 到達度確認試験 ・・・30％ 【学習目標①②③に対応】 総括試験 ・・・50％ 【学習目標①②③④に対応】					
22.コメント	『観光地域活性化』という言葉や、『地方創生』といった言葉は耳にしたことがあると思います。では、どのようにしたら「観光」を通じて地域が活性化し、再生するのでしょうか。または、そもそも「地域が活性化する」というのはどのような状態になるのでしょうか。DMO と					

	いう組織とその手法を学びながら、より良い地方・地域のあり方について考えてみてください。	
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 5 限（秋） 学修支援センター：火曜昼休み（秋）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて） ディスカッション：観光と地域活性化のあり方	予習：DMO について基本的な情報を調べてくる。
第 2 回	日本の観光地経営の歴史と課題 ・グループワーク：日本の観光地の課題を考える	予習：日本の観光地域活性化の成功事例を一つ上げて、その概要とポイントをまとめる・・・課題① 復習：地域活性化のさまざまな側面についてまとめておく。
第 3 回	デスティネーション・マネジメントの考え方とその歴史 ・グループワーク：「地域」とは？	予習：「地域」の捉え方について調べてくる。 復習：日本の地域活性化の課題について整理する。
第 4 回	デスティネーション・マネジメントの構成要素	予習：デスティネーション・マネジメントに必要な要素を調べてまとめておく。 復習：デスティネーション・マネジメントが必要とされる理由についてまとめる。
第 5 回	デスティネーション・マネジメントの要素①「観光資源」 ・ディスカッション：観光資源の保全と活用のバランス	予習：歴史的町並みの保全と活用の事例として、イタリアの「アルベルゴ・ディフーズ」について調べておく。 復習：デスティネーション・マネジメントの構成要素を整理しておく。
第 6 回	デスティネーション・マネジメントの視点②「観光サービス」 ・ディスカッション：地域の視点から観光サービスを考える	予習：地域内の観光サービス（宿泊や飲食、観光施設）の連携について事例を調べておく。 復習：オーバーツーリズムの事例を一つあげ、地域が取った対策を調べてまとめなさい・・・課題②
第 7 回	デスティネーション・マネジメントの要素③「交通マネジメント」 ・グループワーク：神戸の交通マネジメントの課題を考える	予習：観光地で利便性を高めるための交通システムの工夫について調べてくる。 復習：観光地の観光サービス連携のポイントを整理しておく。
第 8 回	到達度確認試験	復習：前半の授業のノートを見直し、要点をまとめておく。
第 9 回	デスティネーション・マネジメントの要素④「プレイス・ブランディング」（１） ・グループワーク：神戸のブランドイメージを分析する	予習：「ブランディング」とはなにかについて調べておく。
第 10 回	デスティネーション・マネジメントの要素④「プレイス・ブランディング」（２） ・グループワーク：神戸市のブランドプロモーション	予習：世界の DMO のブランドプロモーションについて、事例を一つ調べてくる。 復習：プレイス・ブランドのさまざまな類型

	を分析する	について自分で事例を探して調べてみる。
第 11 回	デスティネーション・マネジメントの要素⑤ 「観光地域の持続可能性」 ・ディスカッション：地域におけるウェルビーイングと観光の関係を考える	予習：サステイナブル・ツーリズムの概念と手法について調べておく。 復習：プレイス・ブランディングのポイントを整理しておく。
第 12 回	海外 DMO の事例分析① 「ハワイ州（アメリカ合衆国）」 ・グループワーク：ハワイ観光局の HP を分析する	予習：ハワイ州の観光情報を集めて整理しておく。 復習：観光と地域社会のウェルビーイングの関係について自分の考えをまとめる・・・課題③
第 13 回	海外 DMO の事例分析② 「欧州の DMO」 ・グループワーク：欧米各国の DMO の HP を比較分析する。	予習：欧州の DMO を一つ選んで、その HP に目を通しておく。 復習：ハワイ州 DMO の取り組みの特徴をまとめる。
第 14 回	日本の DMO の事例分析 ・ディスカッション：神戸の観光振興にとって必要なことは？	予習：日本版 DMO から一つを選び、その活動を調べておく。 復習：欧州 DMO の特徴をまとめる。
第 15 回	総括試験	予習：それまでの授業の内容を振り返り、要点を整理しておく。

1.授業コード (ナンバリング)	BSS303-A51	2.科目名	顧客満足論		3.単位数	2
4.授業担当教員	酒井良二					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	3 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	？ 営利・非営利、BtoB・BtoC、IT・非 IT の事業形態を問わず、経営上で非常に重要であると認識されている「顧客満足（CS：Customer Satisfaction）」の基礎について理解し、将来ビジネス現場における対応力を身につける。 ？ 「顧客満足」と同じ CS の略語として従来からあった「Customer Service（顧客サービス）」・「Customer Support（顧客サポート）」、更に最近注目されている「CX：Customer Experience（顧客体験価値）」・「Customer Success（顧客の成功）」など、マーケティングや経営戦略のコンセプトについても取り上げ、分かりやすい事例を中心に「顧客満足」に関する理解を深める。 ？ 具体的には、「Customer Success（顧客の成功）」に焦点を当てて、顧客を成功に導き、持続的な利益成長をもたらす実務者「CSM：カスタマー・サクセス・マネジャー」に求められるスキルを理解し、身につける。 ？ 「顧客満足」は顧客の不満を解決し、問題を解決する「受動的」な顧客対応であるのに対し、「Customer Success（顧客の成功）」は顧客とともに伴走し、成功へ導く「能動的」な顧客対応である。					
18.学習目標と DPとの関連	「カスタマー・サクセス・マネジャー」に求められるスキルを理解し、身につけることは、「問題発見」・「問題解決に向けての広い視野と想像力と行動力」・「コミュニケーション能力」を養成ことに直結している。					
19.教科書・教材	アシュヴィン・ヴァイドゥヤネイサン／ルーベン・ラバゴ著『カスタマーサクセス・プロフェッショナル』（弘子ラザヴィ 訳）－顧客の成功を支え、持続的な利益成長をもたらす仕事のすべて－ 英治出版株式会社					
20.参考文献	講義において都度提示する					
21.成績評価	■ 講義ノート提出 …… 20% 「顧客満足論」専用のノート（A4 版）を作成し、毎回の講義ノートを以下の項目に従って作成する。 1) Expectation（予習を通じての講義への期待） 2) Summary & Key Words（講義内容のまとめ） 3) Reflection & Questions（振り返り：分かったこと、分からなかったこと。よかったこと、よくなかったこと。） 4) アサインメント（宿題） ■ 発表 ppt 資料の作成 …… 25% ■ 最終確認試験 …… 5					
22.コメント	講師の 1994 年から 2007 年の 14 年間のアメリカのグローバル企業におけるマネジメント経験と、現在行っている日本企業数社におけるビジネス・コンサルテーションをベースに、グローバル・ビジネスの最前線における顧客満足について、具体的な事例研究を交えて講義する。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	イントロダクション：顧客満足とは何			■「顧客満足論」専用のノート（A4・横書		

	か 本講義で取り上げる学習内容および本講義受講に際しての留意事項等に関する解説	き)を準備し、毎回の授業に持参する。 ■ 毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。
【第2回】	「顧客 (Customer)」とは ■ ドラッカーの「顧客の創造」 ■ CRM (Customer Relationship Management) : 顧客との長期的な信頼関係の構築 ■ 内部顧客 (Internal Customer) と外部顧客 (External Customer) ■ B to B、B to C	■ 課題：(将来の就職先として) 関心のある業界において、「顧客満足度」の向上に積極的に取り組んでいて、将来成長が期待できる上場企業1社を研究対象企業として選んで、その企業概要を調べ、ノートにまとめる。
【第3回】	「満足 (Satisfaction)」とは何か ■ マズローの「欲求5段階説」 ■ 不満の解消 vs. 満足、リアクティブ (Reactive) vs. プロアクティブ (Proactive) ■ マーケティングとイノベーション	■ 課題：研究対象企業の顧客満足向上の取り組みについて調べる。(1)
【第4回】	「不満の解消」とは ■ 「漸進的問題解決 (Incremental Improvement)」 ■ 「顧客満足 (CS : Customer Satisfaction)」 ■ 「顧客サービス (CS : Customer Service)」 ■ 「顧客サポート (CS : Customer Support)」	■ 課題：研究対象企業の顧客満足向上の取り組みについて調べる。(2)
【第5回】	「顧客の成功 (CS : Customer Success)」とは何か ■ 「顧客体験価値 (CX : Customer Experience)」 ■ SaaS (サース) : Software As a Service (サービスとしてのソフトウェア) ■ Subscription (サブスクリプション) : 短期から長期契約で商品やサービスが「定額制」で利用 ■ LTV (Life Time Value 顧客生涯価値) : 企業の長期的かつ継続的な利益を測る指標	■ 課題：研究対象企業の顧客満足向上の取り組みについて調べる。(3)
【第6回】	日本企業の「顧客の成功 (CS : Customer Success)」の取り組み事例	■ 課題：研究対象企業の顧客満足向上の取り組みについて調べる。(4)
【第7回】	「顧客の成功 (CS : Customer Success)」の実現 (1) ■ カスタマー・サクセス・マネジャー (CSM : Customer Success Manager) の役割	■ 課題：研究対象企業の顧客満足向上の取り組みについて調べる。(5)
【第8回】	■ 前半講義の振り返り ■ 研究対象企業の「顧客満足度」向上 ppt 資料作成 ■ 第1回ノート提出	■ 課題：研究対象企業の「顧客満足度」向上に対する取り組みについて、PowerPoint プレゼンテーション資料を作成し、WebClass に提出する (詳細は講義で指示する)。
【第9回】	「顧客の成功 (CS : Customer Success)」の実現 (2) ■ カスタマー・サクセス・マネジャー (CSM : Customer Success Manager) の必要スキル (1)	■ 研究対象企業のカスタマーサクセスへの取り組みについて提案する。(1)
【第10回】	顧客の成功 (CS : Customer Success)」の実現 (3) ■ カスタマー・サクセス・マネジャー (CSM : Customer Success Manager) の必要スキル (2)	■ 研究対象企業のカスタマーサクセスへの取り組みについて提案する。(2)
【第11回】	「顧客の成功 (CS : Customer Success)」の実現	■ 研究対象企業のカスタマーサクセスへの

	(4) ■ カスタマー・サクセスの実践 (1)	取り組みについて提案する。(3)
【第 12 回】	「顧客の成功 (CS : Customer Success)」の実現 (5) ■ カスタマー・サクセスの実践 (2)	■ 研究対象企業のカスタマーサクセスへの取り組みについて提案する。(4)
【第 13 回】	「顧客の成功 (CS : Customer Success)」の実現 (6) ■ カスタマー・サクセス・マネジャーの育成とキャリア・パス ■ 第 2 回ノート提出	■ 研究対象企業のカスタマーサクセス取り組みへの提案をまとめる。 ■ ノート提出・評価
【第 14 回】	■ 後半講義の振り返り ■ e ポートフォリオへの「講義振り返り」の投稿	■ 授業アンケート ■ e ポートフォリオへの振り返り投稿
【第 15 回】	■ 総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	BSS304-A51	2.科目名	ビジネスプロモーション		3.単位数	2
4.授業担当教員	酒井良二					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この講義では以下に定義する「ビジネスプロモーション」を実践するために必要なスキル（コンピテンシー）を修得することを目的とする。 ■ ビジネス：営利・非営利、組織形態等を問わない「事業目的を実現するための活動の総称」。その最終目標（ゴール）は「新しい社会的価値の創出」。 ■ プロモーション：そのゴールを実現するための手法・プロセス。 ■ ビジネス環境の変化：①グローバル化とデジタル・トランスフォーメーション（DX）の急速な進展、②「持続可能な開発目標（SDGs：エス・ディー・ジーズ）」国連の 17 の目標、③終息が見通せない COVID-19 感染拡大・ウクライナ情勢など、ビジネス環境の大きな変化への対応を視点として講義を進める。					
18.学習目標と DP との関連	■ グローバルなビジネス環境・組織・経営の実態を理解し、戦略的なマネジメントを実践する能力を身につける。 ■ 「グローバルなビジネス環境で活躍できる個性豊かな人材となる」を目標に、社会人に求められ 3 つの基礎力を知識⇒理解⇒スキル（コンピテンシー）として総合化し、実践する能力を身につける。 1) 自ら情報を収集し、変化の中から問題の所在を見つける発見力 2) 発見した問題を独創的に解決し、新しい価値を生み出す創造力 3) 自分の考えを発信し、他者と共有・共感できるコミュニケーション力					
19.教科書・教材	指定なし（毎回プリント資料を配布）					
20.参考文献	初回講義（ガイダンス）で提示する					
21.成績評価	■ 講義ノート …… 20% 「ビジネス・プロモーション」専用のノート（A4 版）を作成し、毎回の講義ノートを以下の項目に従って作成する。第 1 回授業で配布するワークシートを参照。 1) Expectation（予習を通じての講義への期待） 2) Summary & Key Words（講義内容のまとめ） 3) Reflection & Questions（振り返り：分かったこと、分からなかったこと。よかったこと、よくなかったこと。） 4) アサインメント（宿題） ■ 学修成果発表 ppt 資料作					
22.コメント	この講義では、講師の 1994 年から 2007 年の 14 年間のアメリカのグローバル企業におけるマネジメント経験と、現在行っている企業コンサルティング経験をベースに、ビジネス最前線の事例を用いて講義概要で定義した「ビジネスプロモーション」の具体的手法を修得する。なお、使用するテキストの一部には英文資料が含まれる。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	<ガイダンス&イントロダクション> ■ 授業計画（シラバス）の説明 ■ この講義を通してどのようなビジネス・スキル			■ 「ビジネス・プロモーション」専用のノート（A4・横書き）を準備し、毎回の授業に持参する。		

	(コンピテンシー) を身に付けることができるか? ■ 知識・理解とスキルの違い ■ ビジネスとは? 新しい社会的価値の創出を目的とした事業活動 ■ プロモーションとは? 仮説⇒検証の繰り返しによる問題発見・解決のプロセス ■ ビジネスプロモーションとは?	■ 毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■ PC は毎回の授業に持参する。
【第 2 回】	<①グローバリゼーションと、②デジタルトランスフォーメーション (DX) の急速な進展、③2020 年に発生した COVID-19 感染拡大・今年発生したウクライナ情勢などによるビジネス環境の変化を理解する> ■ Think Global, Act Local ■ IoT、AI ■ Pandemic	■ 毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■ PC は毎回の授業に持参する。
【第 3 回】	<問題発見・解決のスキルを身に付ける> ■ グローバル企業 Haemonetics Corporation (アメリカ) のケーススタディ ■ Global Competency Model ■ WV Model“7-Step Problem Solving Method”	■ 毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■ PC は毎回の授業に持参する。
【第 4 回】	<問題解決にチームで取り組む> ■ Team Building ■ Leadership	■ 毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■ PC は毎回の授業に持参する。
【第 5 回】	<CM づくりで、「伝える」を学ぶ…電通「広告小学校」の演習(1)> ■ CM の基礎を学び、チームで CM を制作する ■ ABC チョコレート CM	■ 毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■ PC は毎回の授業に持参する。
【第 6 回】	<CM づくりで、「伝える」を学ぶ…電通「広告小学校」の演習(2)> ■ 自分探検 CM のストーリーを制作する	■ 毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■ PC は毎回の授業に持参する。
【第 7 回】	<CM づくりで、「伝える」を学ぶ…電通「広告小学校」の演習(3)> ■ 自分探検 CM のストーリーを制作する	■ 課題:「自分探検 CM」の PowerPoint プレゼンテーション資料を作成し、WebClass に提出する (詳細は講義で指示する)。
【第 8 回】	<Innovation: 企業に学ぶ新しい社会的価値の創出> ■ 両利きの経営 ■ Open Innovation ■ Connecting the Dots ■ Risk Management	■ 毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■ PC は毎回の授業に持参する。
【第 9 回】	<国連「持続可能な開発目標 (SDGs: エス・ディー・ジーズ)」17 の目標> ■ SDGs の 17 の目標を理解する	■ 毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■ PC は毎回の授業に持参する。
【第 10 回】	<問題解決のスキルを身に付ける…WV Model“7-Step Problem Solving Method”の演習(1)> Step-1: テーマの設定…問題を明確にする ■ Mind Map ■ Visual Thinking Strategy ■ SMART Goal Setting	■ 毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■ PC は毎回の授業に持参する。

【第 11 回】	<問題解決のスキルを身に付ける・・・WV Model“7-Step Problem Solving Method”の演習(2)> Step-2：データの収集と解析・・・現状を把握する Step-3：原因の究明・・・真因を掘り下げる ■ Tree Diagram/ Logic Tree ■ 5 Whys	■ 毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■ PC は毎回の授業に持参する。
【第 12 回】	<問題解決のスキルを身に付ける・・・WV Model“7-Step Problem Solving Method”の演習(3)> Step-4：解決手段の立案と実施・・・解決策（仮説）を抽出し、実施する Step-5：成果の評価・・・仮説の有効性を検証する Step-6：標準化・・・プロセスを共有し、成果を定着させる Step-7：振り返りと次の課題の設定・・・問題解決に終わりはしない ■ Solution Selection Matrix ■ 4W1H&1C ■ Shared Learning ■ Con	■ 毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。 ■ PC は毎回の授業に持参する。
【第 13 回目】	<問題解決のスキルを身に付ける・・・WV Model“7-Step Problem Solving Method”の演習(4)> ■ 各自のチャレンジ目標の設定 国連の「持続可能な開発目標（SDGs：エス・ディー・ジェズ）」17 の目標の中から 1 つを選んで、問題解決のテーマを設定する ■ PowerPoint Presentation 資料の作成	■ 課題：「SDGs の問題解決」の PowerPoint プレゼンテーション資料を作成し、WebClass に提出する（詳細は講義で指示する）。 ■ ノート提出・評価
【第 14 回】	<授業の総括と振り返り>	■ 課題：e-Portfolio へ「振り返り」を投稿する。
【第 15 回】	<総括試験>	

1.授業コード (ナンバリング)	BSS305-Y51	2.科目名	ビジネスモデル・アセスメント		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	U S J のマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	専攻必修	7.開講学期・年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全専攻			9.履修学年	3 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：ビジネスモデルとは何かを理解し、代表的なビジネスモデルの内容（コンセプト・事業戦略など）を理解して、ビジネスの評価の方法を知ることが目的とします。 概要：ビジネスモデルとは、「コンセプト、事業戦略、スキーム、収支」の4つの要素で説明されます。この講義では、それらの要素の意味を理解するとともに、代表的なビジネスモデルを学びます。 【ご注意】講義前半の「ビジネスモデルの要素理解」の部分は、2023 年春学期に開講した「ビジネスモデル・デザイン」と一部内容が重複します。2023 年春学期の「ビジネスモデル・デザイン」を履修済みの場合、講義前半はその復習となることを理解したうえで履修してください。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(6)専門的知識・技能の活用力と最も深く関連しています。ビジネスモデルに関して、新規ビジネスの構築・運営や、既存ビジネスの分析・改善に広く活用できる汎用的なフレームワークを習得し、さまざまな場面で活用できるようになります。					
19.教科書・教材	資料は webclass で配布					
20.参考文献	適宜紹介					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ?対象回の「提出課題」 18 点 （各回 2 点 x 9 回） ?対象回の「授業のまとめシート」 16 点（各回 1 点 x 11 回、15 回目のみ 5 点） ?グループワークのプレゼンテーション 16 点 （16 点 x 1 回） ?総括試験 50 点 *総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。					
22.コメント	・遅刻・早退が 20 分を超える場合は欠席とします。（厳守）					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	講義：ガイダンス ビジネスモデルとは① ビジネスモデルの意義			予習：なし 授業のまとめシート：提出 復習：ビジネスモデルの意義をまとめる		
第 2 回	講義：ガイダンス ビジネスモデルとは②			予習：なし 授業のまとめシート：提出 復習：ビジネスモデルについてまとめる		
第 3 回	講義：BtoC と BtoB ビジネスモデルの基本となる「BtoC」および「BtoB」			事前提出課題：「BtoB とは何か」について調べる		

	の考え方を理解します。	授業のまとめシート：提出 復習：BtoC および BtoB についてまとめる
第 4 回	講義：コンセプトとは ビジネスモデルの基本的な構成要素を一つ一つ理解していきます。まずは「コンセプト」について解説します。 個人ワーク：コンセプトを読み取ろう	事前提出課題：「コンセプトとは何か」について調べる 授業のまとめシート：提出 復習：コンセプトについてまとめる
第 5 回	講義： 戦略とは もっとも重要な要素である「戦略」について、解説します。 個人ワーク：戦略を読み解こう	事前提出課題：「戦略とは何か」について調べる 授業のまとめシート：提出 復習：戦略についてまとめる
第 6 回	講義： スキームとは ビジネスモデルの構成要素の一つである「スキーム」について、解説します。 個人ワーク：スキームを読み解こう	事前提出課題：「スキームとは何か」について調べる 授業のまとめシート：提出 復習：スキームについてまとめる
第 7 回	講義：収支とは ビジネスモデルの最後の要素である収支について、解説します。 個人ワーク：収支を読み解こう	予習：これまでのまとめ 授業のまとめシート：提出 復習：収支についてまとめる
第 8 回	講義：代表的なビジネスモデル① 代表的なビジネスモデルのうち、「広告モデル」「アフィリエイトモデル」について解説します。	事前提出課題：「アフィリエイトモデルとは何か」について調べる 授業のまとめシート：提出 復習：学習したビジネスモデルについてまとめる
第 9 回	講義：代表的なビジネスモデル② 代表的なビジネスモデルのうち、「サブスクモデル」「フリーミアムモデル」について解説します。	事前提出課題：「サブスクモデルとは何か」について調べる 授業のまとめシート：提出 復習：学習したビジネスモデルについてまとめる
第 10 回	講義：代表的なビジネスモデル③ 代表的なビジネスモデルのうち、「プラットフォームモデル」「コンサルティングモデル」について解説します。	事前提出課題：「プラットフォームモデルとは何か」について調べる 授業のまとめシート：提出 復習：学習したビジネスモデルについてまとめる
第 11 回	講義：代表的なビジネスモデル④ 代表的なビジネスモデルのうち、「フランチャイズモデル」「ライセンスモデル」について解説します。 グループワーク：ビジネスモデルを評価しよう これまで学習した内容をもとに、実際のビジネスモデルについて評価します	事前提出課題：「フランチャイズモデルとは何か」について調べる 授業のまとめシート：提出 復習：グループでワークを進行

第 12 回	グループワーク：ビジネスモデルを評価しよう グループでディスカッションします。	予習：グループワークを進行 授業のまとめシート：不要 復習：プレゼンテーションの準備
第 13 回	プレゼンテーション：ビジネスモデルを評価しよう 講義：ここまでのまとめ、総括試験に向けて	予習：プレゼンテーションの準備 授業のまとめシート：不要 復習：総括試験に向けて、全体の学びの整理
第 14 回	まとめと統括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する。 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	事前提出課題：講義全体および統括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 授業のまとめシート：提出（5 倍加点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード (ナンバリング)	CB0149-Y51	2.科目名	倫理学	3.単位数	2
4.授業担当教員	Bartneck Tobias				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校(公?) 中学(社会) 副専攻(生命 と生活を考える)	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし				
17.授業の目的と概要	【目的】 本講義では、倫理理論の基礎知識を学ぶとともに、現代社会における「生命」の諸問題に対する意識を高めることを目的とします。 【概要】 本講義では、倫理学の基礎概念と代表的理論を紹介します。倫理学の立場から、「生命」をめぐる現代社会の諸問題、特に「インフォームド・コンセント」、「人工妊娠中絶」、「延命治療」、「安楽死」、「遺伝子工学」、「人間強化技術」や「トランスヒューマニズム」などのような、医療および近年の科学技術の発展を背景とした諸問題について考察していきます。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 日常生活における倫理的問題に気づき、倫理的概念を用いてその問題にいかに対処すべきかを学ぶこと。 と。 自分自身が当たり前に思っていることを疑い、社会の常識を問い直す力を身につけること。 また、さまざまな考え方や価値観を理解し、多角的に問題をとらえ、倫理的な知識を用いて自分の 疑問や意見を明確に表現する能力を養うこと。 【関連するディプロマポリシー】 (1)自律性 (3)多様性理解 (4)問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	毎回、資料を配布し、WebClass で公開します(教科書は使用しません)。				
20.参考文献	適宜、授業中に紹介します。				
21.成績評価	二回のレポート(400~1200 字)と毎回のコメントシートで評価します。 毎回のコメントシート (全 15 回合計) 30 点 中間レポート(第 8 回講義) 30 点 期末レポート(第 15 回講義) 40 点 出席確認は、コメントシートで行います。 詳しい内容は授業で説明します。				
22.コメント	本講義は、単に情報を伝えたり、決まった答えを示したりするのではなく、自分なりに自由に考え、問いを立てることの楽しさ・有意義さをお伝えできればと思います。				
23.オフィスアワー	質問等は、授業の前後で対応します。				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
【第 1 回】	【ガイダンス】 本授業の進め方、成績評価の方法などの確認、授業目的・概要の解説			【以下第 15 回講義まで共通】 Web Class を使うので、パソコンを持参してください。 予習:Web Class 上にアップロードされる授業	

		資料を事前に 目を通しておいてください。 復習:授業ノートを整理し、わからないところがないか確認してください。 毎回授業後にコメントシート を書いてもらいます。
【第 2 回】	倫理・倫理学とはなにか	
【第 3 回】	生命倫理の歴史と問題意識	
【第 4 回】	インフォームド・コンセント概念について	
【第 5 回】	出生前診断・人工妊娠中絶をめぐって①	
【第 6 回】	人工妊娠中絶をめぐって②	
【第 7 回】	臓器移植の諸問題	
【第 8 回】	【レポート書き方講座・相談会】	中間レポート提出(Web Class)
【第 9 回】	延命治療をめぐって	
【第 10 回】	安楽死・尊厳死をめぐって	
【第 11 回】	自殺をめぐって	
【第 12 回】	遺伝子工学の倫理的諸問題	
【第 13 回】	人間強化技術の倫理	
【第 14 回】	トランスヒューマニズム	
【第 15 回】	【まとめと振り返り・レポート相談会】	期末レポート提出(Web Class)

1.授業コード (ナンバリング)	CB0151-Y51	2.科目名	ことばと人間		3.単位数	2
4.授業担当教員	阿部忍					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科・観光学科			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	100 名以内					
17.授業の目的と概要	【目的】言語学の基礎を概説し、ことばについて深く考察する方法を身に付けることを目的とします。 【概要】毎回プリントを配付し、講義形式で行います。 また、リアクションペーパーなどを用い、受講生の理解度を見ながら解説を加えたり、必要に応じてアクティブラーニング的なワーク（グループワーク、ディスカッション等）を行ったりします。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は DP の S1「修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力」、S2「社会や文化について科学的に理解する力」、S3「新たな文化創造のための豊かな感性を涵養し、社会発展に貢献する力」（2019 年度以前入学生）、(3) 多様性理解（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（2020 年度以降入学生）、の学修に関連しています。 学習目標は以下の通りです。 ①言語学の基礎（知識、考え方）を理解し、説明できる。 ②身近なことばについて深く考察することができる。					
19.教科書・教材	毎回プリントを配布します。					
20.参考文献	授業の中で適宜紹介します。					
21.成績評価	以下を成績評価の目安とします。 ①授業中の質疑応答や提出課題を含む積極的な取り組み 60％ [学習目標①に対応] ②期末レポート 40％ [学習目標②に対応]					
22.コメント	普段から身近な言語現象に注目し、必要に応じて調べる習慣を身につけるようにしてください。					
23.オフィスアワー	学修支援センター：月曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	人間のことば			今回の復習、次回の予習		
【第 2 回】	世界の言語			今回の復習、次回の予習		
【第 3 回】	言語の変化			今回の復習、次回の予習		
【第 4 回】	文字の発達			今回の復習、次回の予習		
【第 5 回】	音の構造(1)：音声学			今回の復習、次回の予習		
【第 6 回】	音の構造(2)：音韻論			今回の復習、次回の予習		
【第 7 回】	語の構造(1)：語、形態素、語の構造			今回の復習、次回の予習		
【第 8 回】	語の構造(2)：語形成のプロセス			今回の復習、次回の予習		
【第 9 回】	文の構造(1)：文、統語構造			今回の復習、次回の予習		
【第 10 回】	文の構造(2)：補文、文の変形			今回の復習、次回の予習		
【第 11 回】	意味の構造、談話の構造			今回の復習、次回の予習		
【第 12 回】	ことばの運用			今回の復習、次回の予習		
【第 13 回】	ことばと脳			今回の復習、次回の予習		
【第 14 回】	ことばと社会			今回の復習、次回の予習、期末レポート仕上		

		げ
【第 15 回】	ことば遊び	今回の復習、全体のふりかえり

1.授業コード (ナンバリング)	CB0154-Y51	2.科目名	宗教と社会		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	基礎科目（2019 年度以降入学生）/専門共通科目（2018 年度以前入学生）	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	現代社会学部			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 多文化共生の実現には相手文化の「内的な論理」の把握が絶対の条件となります。この授業では、特に誤解と衝突の多い「宗教」について、その内的論理を把握するための諸概念・諸理論を、豊富な具体例とその分析を通じて解説します。 【概要】 ユダヤ教やイスラム教などの一神教は「一人しか神様がいない宗教」ではありません。彼らが「神」と呼んでいるものは世界の原理や掟といった、もっと抽象的な概念です。そこからはじまって「祈り」の意味も、聖典の扱いも、他宗教のとらえ方も、すべてが私たちとは異なる論理に編み込まれています。異文化を理解するとは、そうした「内的な論理」を何とかして把握することです。宗教体系の一部分だけを、内的な論理を無視して取り出して、自分の文化の尺度であれこれ言っても、それはこちら側で作った勝手な意味にしかありません。 この授業では、異文化の内的な論理を何とかして把握しようとしてきた文化人類学者たちの理論や概念を、世界各地の様々な信仰を材料に解説していきます。 その際は、私自身のニューギニア調査など遠い遠い異文化の事例と、ポップカルチャーなどみなさんに非常に身近な自文化の事例を同等に取り上げ、同じ理論で分析してみせることで、それらが地続きの世界の事象であることを示したいと考えています。					
18.学習目標とDPとの関連	この授業の学習目標は DP の（3）多様性の理解と（2）問題解決力の学修に関連しています。 ①宗教のあり方を社会的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる ②社会のあり方を宗教的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる。 ③それらの理論を使い、様々な文化事象を分析することができる。					
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します（教科書は使用しません）					
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト（15 回） … 45%（学習目標①②に対応） ・期末レポート … 55%（学習目標①②③に対応）					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 2 限（学修支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業ガイダンス ― 多文化共生と宗教の「理解」			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 2 回】	「神」とは何か ― ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の基本論理			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 3 回】	精霊たちが来る季節 ― キリスト教が排除したもうひとつのヨーロッパ世界			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 4 回】	私は世界で世界は私 ― 仏教、ヒンドゥー教の基本論			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		

	理	
【第 5 回】	「運」という観念の発明 ― 道教の基本論理	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 6 回】	魔法少女とメラネシア ― 呪力マナに関する報告と 19 世紀の理論の崩壊	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 7 回】	お父さんのいない島 ― フィールドワークと近代人類学の成立（1）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 8 回】	異文化の内的論理を把握する ― フィールドワークと近代人類学の成立（2）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 9 回】	妖術師ルイスの告白 ― 機能主義とその限界	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 10 回】	アスディワルの奇妙な冒険 ― 構造主義と神話分析	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 11 回】	境界とタブーと非日常 ― ダグラスの境界論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 12 回】	死と再生、あるいは儀礼的な逆転 ― リーチの境界論、ターナーの境界論、トリックスター論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 13 回】	病を投げ捨てる方法 ― 治癒儀礼の論理 1：象徴論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 14 回】	呪医は何を治したのか？― 治癒儀礼の論理 2：社会関係の組み立て直しとしての癒し	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 15 回】	痛みと説明 ― 治癒儀礼の論理 3：災因論・物語論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

1.授業コード (ナンバリング)	CB1201-Y01	2.科目名	コンピュータ・リテラシーⅢ(ネットワーク・プレゼンテーション)		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本久					
5.授業科目の区分	基礎科目／情報分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科・観光学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	コンピュータ・リテラシーⅠまたはⅡを履修済みであること	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	PC 演習室の収容人数及び良好な活動環境を確保するために、履修者数を最大 50 名とします。教室が PC 演習室で実施でなくなった場合は、毎回各自 PC を持参してもらいます。また 2，3 のフリーソフトをインストールしてもらいます。					
17.授業の目的と概要	この科目ではプレゼンテーションや Web 発信において、より高度な能力を身につけることを目的としています。特に写真や画像・音声や映像などの編集、HTML や CSS などの Web 発信の基本の理解を通し、よりクオリティの高いコンテンツ制作の能力を育成します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の 2. 主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力 に関連しています。 ①画像や写真など、基本的なコンテンツの編集作業ができる ②HTML 言語や CSS など、タグを使って Web ページが構築できる ③上記①②の習得により、より高度なプレゼンテーションや Web コンテンツの構築が行える					
19.教科書・教材	適宜、資料を配付または提示します（教科書は使用しません）。					
20.参考文献	HTML タグページやフリーツールなど、随時ネット上での有用なサイト、アプリを紹介しします。					
21.成績評価	評価の方法と配点（各課題の満点）は次のとおりです。 ・課題 1～4： 各 15 点（計 60 点）（学習目標①②に対応） ・課題 5（最終課題）30 点（学習目標③に対応） ・取り組み姿勢：10 点					
22.コメント	私たちの日常生活は SNS をはじめ、インターネットを利用することなく成り立たないものとなっています。また単にネット上の情報やコンテンツを閲覧するだけでなく、自らがより正確でクオリティの高いものを発信していくことがますます求められていく時代になっています。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センタオフィスアワー：水曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価方法・受講上の留意点など）			復習：学習内容の確認、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習		
【第 2 回】	コンテンツ編集 1－1			復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習		
【第 3 回】	コンテンツ編集 1－2			復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習		

【第 4 回】	コンテンツ編集 1 課題 【課題 1】	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 5 回】	コンテンツ編集 2 - 1	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 6 回】	コンテンツ編集 2 - 2	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 7 回】	コンテンツ編集 2 課題 【課題 2】	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 8 回】	コンテンツ編集 3 - 1	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 9 回】	コンテンツ編集 3 - 2	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 10 回】	コンテンツ編集 3 課題 【課題 3】	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 11 回】	コンテンツ編集 4 - 1	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 12 回】	コンテンツ編集 4 - 2	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 13 回】	コンテンツ編集課題 【課題 4】	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 14 回】	最終課題 【課題 5】	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 15 回】	最終課題提出、総括	復習：学習内容の総括、授業ノートの整理

1.授業コード (ナンバリング)	CB1202-Y51	2.科目名	コンピュータ・リテラシーⅣ(データ処理演習)		3.単位数	2
4.授業担当教員	疋田浩一					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科・総合社会学科 (2018 年度以前入学生)			9.履修学年	3 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	情報教室の収容人数の都合により、履修者数上限は 50 名です。					
17.授業の目的と概要	MS-Excel 全般のスキル向上を目指します。また、社会学系の調査で用いられるアンケート調査について、その作成から Excel を利用した集計方法までを学びます。					
18.学習目標と DP との関連	以下に示す本科目の学習目標は Diploma Policy の「2. 主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力」の学修に関連しています。 1. Word を利用して、効果的なアンケートを作成できる 2. Excel を利用して、適切な関数を利用して集計・分析ができる 3. PowerPoint を利用して、効果的な調査結果の発表ができる					
19.教科書・教材	資料を適宜配布					
20.参考文献	『30 時間でマスター Office2019』, 実教出版, 他					
21.成績評価	課題 1: Excel 課題・・・45 点 【学習目標 2 に対応】 課題 2: アンケート (Word)・・・12 点 【学習目標 1 に対応】 課題 3: アンケートの集計 (Excel)・・・25 点 【学習目標 2 に対応】 (クロス集計+5 点加点) 課題 4: 分析結果の発表 (PowerPoint)・・・18 点 【学習目標 3 に対応】 ※課題条件を満たした課題 1～4 全ての提出と、授業への 10 回以上の出席が、合格のための最低限の条件です					
22.コメント	オリジナル教材で進めます。毎回 Web 経由で講義資料と作業ファイルを配布します。授業で扱った作業ファイルを授業後 Web 経由で提出してもらいます。 MS-Office のスキルを習得済み (コンピューターリテラシー2 修得済み程度) の人が受講してください。					
23.オフィスアワー	個人研究室：金曜昼休み 学修支援センター：木曜 5 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	Introduction 講義：本講座の説明, PC 基本スキル・メール設定確認 作業：PC の起動, Windows ログイン, Office サインイン, Email 設定・送信			復習：配布資料の復習		
【第 2 回】	PC の基礎 講義：PC 基礎, ファイル・データ管理、Cloud サービス 作業：Email 送信			復習：配布資料の復習, ドキュメントフォルダの整理		
【第 3 回】	数値分析① 講義・作業：Excel の基礎 (基礎・入力)			復習：配布資料・課題ファイルの復習		
【第 4 回】	数値分析② 講義・作業：Excel の基礎 (参照)			復習：配布資料・課題ファイルの復習		
【第 5 回】	数値分析③ 講義・作業：Excel の基礎 (関数 1 SUM,			復習：配布資料・課題ファイルの復習		

	AVERAGE, COUNT)	
【第 6 回】	数値分析④ 講義・作業：Excel の基礎（関数 2 IF, COUNTIF）	復習：配布資料・課題ファイルの復習
【第 7 回】	数値分析⑤ 講義・作業：Excel の基礎（グラフと分析）	復習：配布資料・課題ファイルの復習
【第 8 回】	数値分析⑥ 講義・作業：Excel の応用（データベース, 伝票の集計）	復習：配布資料・課題ファイルの復習
【第 9 回】	数値分析⑦ 講義・作業：Excel の応用（アンケートの集計 1 基本）	復習：配布資料・課題ファイルの復習
【第 10 回】	数値分析⑧ 講義・作業：Excel の応用（アンケートの集計 2 クロス集計）, 【課題 1 Excel】	課題提出：【課題 1 Excel】を提出 復習：配布資料・課題ファイルの復習 予習：アンケートのテーマを考えておく
【第 11 回】	アンケートの作成 作業：Word で各自アンケートを作成 【課題 2 アンケート作成 (Word)】	課題提出：【課題 2 アンケート作成(Word)】を提出 次回の準備：20 名分のアンケートを集めてくる
【第 12 回】	アンケートの集計 作業：Excel でアンケート集計作業 【課題 3 アンケート集計 (Excel)】	今回の準備：20 名分のアンケートを集めてくる 課題提出：【課題 3 アンケート集計(Excel)】を提出 復習：アンケート集計内容を確認
【第 13 回】	分析結果のまとめ 作業：PowerPoint で発表資料作成 【課題 4 分析結果の発表 (Powerpoint)】	課題提出：【課題 4 分析結果の発表 (Powerpoint)】の発表資料を提出 予習：発表資料の完成, リハーサル
【第 14 回】	成果発表プレゼンテーション① 作業：各自成果発表 【課題 4 分析結果の発表 (Powerpoint)】	成果発表：【課題 4 分析結果の発表 (Powerpoint)】 復習：発表時に指摘された点の修正 予習：次回発表者は発表資料の完成, リハーサル
【第 15 回】	成果発表プレゼンテーション② 作業：各自成果発表 【課題 4 分析結果の発表 (Powerpoint)】	成果発表：【課題 4 分析結果の発表 (Powerpoint)】 復習：発表時に指摘された点の修正

1.授業コード (ナンバリング)	CC1102-Y51	2.科目名	社会学入門		3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一、山本晃輔、八木寛之					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 個別のトピックを通して現代社会を観察し、分析する能力を習得する。日本社会がかかえる問題点を考察し、将来社会を構想するための糸口をさがす。 概要： つぎの2つのテーマについて、学習する。 各回の授業テーマと担当者については、各回の授業内容を参照すること。 Ⅰ 社会の謎を解くー現代日本社会におけるさまざまな疑問について考えるー Ⅱ 社会の未来を考えるー社会問題の解決とのぞましい社会の構想ー					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は以下のとおり。 ・社会学の概要を理解することができる。 ・関西国際大学社会学部社会学科で学ぶことの意味を理解することができる。 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 (1) 自律的で主体的な態度(自律性) (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力(多様性理解) (4) 問題発見・解決力					
19.教科書・教材	友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典編『社会学で描く現代社会のスケッチ』みらい、2019 年					
20.参考文献	授業内で適宜指示する。					
21.成績評価	2～13 回授業で出される小レポート（60％） 1、14 回の授業に関する課題・小レポート（10％） 期末試験（30％）					
22.コメント	3 人の教員が交代で授業をするリレー授業です。一部の授業は 3 人で一緒に行います。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	序章 21 世紀の日本社会を生きるー今、大学で学ぶこと（永井、八木、山本）			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 2 章 「絆」を強くすれば自殺は減るのか？（永井）			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 10 章 なぜ結婚する人が減っているのか？（永井）？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 14 章 なぜ「家族」を求めるのか？（永井）？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 21 章 「人口減少」は地域社会をどう変えるか？（永井）？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 9 章 なぜ「スマイル」は 0 円なのか？（山本）？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 12 章 なぜ若者は SNS にはまるのか？（山本）？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 17 章 「格差と不平等」にどう向き合うか？（山本）？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 22 章 「移民」は社会をどう変えるか？（山本）？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		

	第 6 章 日本人がオリンピックで日本代表を応援するのは当たり前か？（八木）？	教科書の該当箇所を読む。復習する。
	第 15 章 なぜネット上で「炎上」が生じるのか？（八木）？	教科書の該当箇所を読む。復習する。
	第 18 章 「子どもの貧困」にどう向き合うか？（八木）？	教科書の該当箇所を読む。復習する。
	第 20 章 「大規模災害」にどう向き合うか？（八木）	教科書の該当箇所を読む。復習する。
	第 23 章 21 世紀における社会と公共性（永井、八木、山本）	教科書の該当箇所を読む。復習する。
	総括試験	教科書を読み直す。試験勉強をする。

1.授業コード (ナンバリング)	CC1108-Y51	2.科目名	グローバルコミュニケーション (再)		3.単位数	2
4.授業担当教員	小磯学					
5.授業科目の区分	専門教育科目 基幹科目 (共通)	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科を中心に、他学部他学科からも履修できます。			9.履修学年	1 回生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	ありません。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	ありません。					
17.授業の目的と概要	異文化理解を学び、異文化を楽しむ、そして文化のはざまを埋めるコミュニケーションを学びます。 国際コミュニケーションをする上で文化の違いがどう影響するかを学びます。ここでいう文化とは生活スタイルのこと、もちろんその背景に価値観があり、宗教など様々な違いが関わってきます。世界にはいろいろな価値観を持った人がいます。 今の様にグローバル化が進み、人の移動が活発でなければ、そのまま出会うこともなく、その人たちの異った文化に気づくこともなかったのです。しかし、今では観光や移民、難民として日本にもたくさんの人々が来ています。コンビニやファストフード、このキャンパスにもいます。もちろん知らないふりをして過ごしてもいいのですが、友達や恋人になることもあります。一方、皆さん自身が海外に出かければ同じことが起こります。そう国際結婚が今は当たり前になっています。 そこで、まず皆さんの暮らし、そして現在の地域社会で求められる国際的人材になるために「異文化」とはどういうことかを身近なところから一緒に考えていきます。国際結婚だけでなく、外国人の上司や部下、同僚と働く、留学するには外国語だけでなく、異文化の理解が必要です。外国語の習得にもむろん重要です。将来は異文化と出合う、その時にどんな自分を想像しますか。外国人と出合い楽しく親しくなるための異文化理解を学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	先入観に縛られず、客観的に異文化を理解できる幅広い視野を養うことで、国際コミュニケーションの基礎理解を深めます。					
19.教科書・教材	授業の主な内容を資料として配ります。それをもとに独自の教科書を作ってみて下さい。					
20.参考文献	鳥飼玖美子『異文化コミュニケーション学』岩波新書、2021 年 エリン・メイヤー(著),田岡恵 (監修),樋口武志(翻訳)『異文化理解力ー相手と自分の真意がわかる・ビジネスパーソン必須の教養』英治出版、2015 年					
21.成績評価	期末試験 50 点のほか、授業中に数回行う小テスト・レポートの合計 50 点、授業でお話したこと、配付したスライドをよく理解していること。					
22.コメント						
23.オフィスアワー	火曜 3 コース (研究室/3-308)、水曜 1 コース(学修支援センター)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 10 月 3 日	身近な文化と身近で感じる異文化、異文化を知れば変わる？ 文化とは何でしょう？ いろいろないい方がありますが、「文化とは生活スタイルのこと」、衣食住の価値観の違いでもあります。だから、夫婦一緒に暮らしてみると、その文化の違いに驚くことがあります。子供は親と暮らすうちにその文化を受継ぎますから、社会に出ると文化が合わないこともよくあります。			○事前準備 友達とか知り合いの中で、この人とは文化が違うと感じたことを思い出して書き出して下さい。 ○アサインメント 文化とは文学・芸術・学問の意味ではなく、人それぞれの生活様式のことでもあります。身近な異文化対立を探してレポートして下さい。		

	一方、異文化とは言うけれど、国籍や容姿が異なり、信ずる宗教が違って、気持ちを通じ合うこともよくあります。だから国際結婚も珍しくなく、楽しく暮らしています。大切なことは、	
第 2 回 10 月 10 日	世界の文化を見る視点、民族・宗教・国家、グローバル化？ 皆さんが身につけた文化には様々なレベルがあります。生活スタイルの上にファッション等の好み（嗜好）のレベルがあり、その下にその国や地域の風俗習慣とその伝統があり、食や住宅等はそのレベルです。さらにその下には宗教や思想などの深層な文化があります。そこから文化芸術や文学が生まれ、ハイカルチャーと呼びますが、そのずっと上、皆さんの身近にあるのが「サブカルチャー」、アニメとかポップスなどです。このサブカルは、簡単に国境を超えます。グローバル化しやすいのです。世	○事前準備 キリスト教、イスラム教、仏教を世界の三大宗教といいます。その3つと今までどんな接点があったレポートして下さい。 ○アサイメント 現在世界各地にイスラム教徒が広がり、様々な問題を起こしています。調べて一つ紹介して下さい。
第 3 回 10 月 17 日	個人の文化、家族の文化、地域の文化、地方の文化、国民文化？ 皆さんのサブカルはグローバル化していますが、皆さんのご両親や祖父母の皆さんはそれほどでもない、世代の違い、年齢の違いで感覚が保守化します。家族や親族同士でも共通する文化と異文化があるのです。ご年配の方はご自分の若い頃と比較するから、若い人の嗜好を変に感じますが、時代が変わっただけです。新しいファッションや嗜好、サブカルは若い世代から高齢者に、都市から地方（田舎）に、先進国から発展国に広がります。大昔は旅行者が少しずつ伝え、昔は新聞や雑誌で絵や写真	○事前準備 日本人の中にも保守的な考え方とより自由な考え方があります。皆さんの結婚観は保守的ですか、革新的ですか？ ○アサイメント 授業では。個人、家族、地域、地方、そして日本全体の国民文化のレベルに分けて文化の違いを述べました。では、関西の文化とはどんなものだと思いますか？簡単に述べて下さい。
第 4 回 10 月 24 日	文化の意味を考える、衣食住の生活文化は異なるのか？ 親子関係や兄弟、親族、夫婦など家族の形、付き合い方も重要な文化です。今では一夫一妻が当たり前になりましたが、一夫多妻の国も残っています。明治の日本にもありました。昔の男尊女卑もしぶとく生き残っていますが、LGBT への理解は近年急速に広がりました。それに比べれば。衣食住の違いなど些細なことに思えます。 そこで、男尊女卑はいつ、どうして始まったのか？ LGBT は昔からありましたが、なぜ今はカミングアウトして大丈夫なのか？こうした価値観がどう形成され、どう変わっ	○事前学習 最近はずっと減りましたが、街中で見かけた外国人観光客を見て文化の違いを感じた経験があったら述べて下さい。 ○アサイメント アジアの国々には儒教の影響などがあり、長幼の序、年功序列など年配者を敬う習慣があります。それをどう思うか。自由に感想を述べて下さい。
第 5 回 10 月 30 日	ホストとゲストの異文化、見る者とみられる者、男と女、大人と子供 昔から観光は異文化が接触する機会でした。その前には侵略戦争、通商や巡礼でした。こうした旅行者がゲスト（客）、地元の人がホスト（主人）として、それぞれ異なる文化が接触し、その交換が起こります。江戸時代には農民や商人の旅行が盛んになり、農作物品種	○事前学習 異文化接触は、昔は侵略戦争、その後は植民地に進出と移民、逆に先進国への移民が起こり、豊かになった国からは観光を通じても起こります。日本人が移民した時代、どう嫌われたかを考えて見て下さい。 ○アサイメント

	や織物等の反物、陶磁器など、多くのモノが都から地方に伝わりました。明治以降も東京への旅行や京都観光で文物が伝わり、戦後は欧米旅行でスコッチウiskyやワイン、ブランド品がお土産として持ち帰られました。そこ	国際観光は異文化接触であるだけでなく、貧富の大きな格差の接触です。豊かな外国人観光客のために貧しい人々はどう対応するか考えて見て下さい。
第 6 回 11 月 7 日	欧米文化の古典、古代ギリシャと古代ローマは今も生きている？ 欧米化で日本の文化がどう変わったかを見てみましょう。日本人は実に上手に異文化理解をしたのです。世界史の中で、19 姓から 20 世紀の日本人は短期間で本格的に異文化理解をした例はないと言われます。もちろん、江戸時代末に圧倒的な軍勢力、工業力、経済力、知的レベルの差を感じた日本人が、征服されることを怖れたからだとも言えますが、かなり高い文化レベルにあったからこそ理解が早かったとも言われます。 明治の日本人には英語やドイツ語、フランス語を学び、その本を読む	○事前学習 ギリシャ語とラテン語で知っている言葉を上げて下さい。 ○アサイメント ヨーロッパの歴史的建築物を一つ上げて、どんな時代の建物でどんな特徴があるかを述べて下さい。
第 7 回 11 月 14 日	ヨーロッパの文化とキリスト教、建築から見られるキリスト教文化 ヨーロッパ社会は古代から中世にかけてキリスト教会に支配されます。しかし、その当時はイスラム教国の文明の方がより進んでいた言われます。だから多くのヨーロッパ人がイスラム圏の国々に留学、あるいはサラセン人支配下の聖地に巡礼に出かけました。一方、ヨーロッパ内ではキリスト教会がビザンチン帝国などを經由してイスラム圏の文化文明を伝えました。それだけでなく、古代ギリシャや古代ローマ文明を伝えました。そこから大学が生まれ、学生はヨーロッパ中から集まりました。	○事前学習 中世のヴェネツィアは東方貿易といってイスラム教徒との貿易が盛んでした。ヴェネツィアで知っていることを述べて下さい。 ○アサイメント 都市の空気は自由にするといい、当時支配的だったキリスト教の倫理に沿わない自由な生活様式が許されていました。なぜ自由にさせたと思うか述べて下さい
第 8 回 11 月 21 日	ヨーロッパの世界遺産に見る建築と都市の文化 古代と中世の境は西ヨーロッパではローマ帝国の崩壊です。北や東からゲルマン民族と呼ばれる様々な異民族が侵入したからです。13～14 世紀にはモンゴルの侵略もあります。その後 15 世紀には東ローマ帝国の後裔ビザンチン帝国がオスマン・トルコに滅ぼされました。つまり、ヨーロッパの歴史は異民族の侵入の歴史です。その痕跡が色濃く残るのが世界文化遺産ヴェネツィアとその潟です。11～13 世紀の十字軍では重要な拠点港として栄えました。その当時からヴェネツィアの人々は異民族の異文化を理	○事前学習 イタリアの世界遺産を調べて、行ってみたい都市を 3 つ挙げて下さい。 ○アサイメント 十字軍について調べてレポートにまとめて下さい。特に、当時彼らは何語を話していたかを必ず回答して下さい。
第 9 回 11 月 28 日	ルネッサンスとヨーロッパ近代、市民革命と市民の生活文化 東西交流の結果生まれたのがルネッサンス、長い間続いたキリスト教会支配下の閉塞的な社会が開放され、文明復興が起こりました。それまでは異端とされた異民族、異文化、異なった宗教の存在を受容し、より自由で人間性を尊重する文化でした。そこからヨーロッ	○事前学習 市民革命と産業革命の違いを述べて下さい。 ○アサイメント 市民革命で、それまでの身分制度が廃止されました。身分とは何か、調べてみて下さい。

	パの発展が始まりました。多様性を受容れ、新しいものを次々と取り入れたのは異文化理解、異文化を取り入れた成果です。特に、古代の文化は法律の復興、思想の復興でもあり、そこから人権意識が再発見され、1789 年のフランスの	
第 10 回 12 月 5 日	もう一つの革命・産業革命、工業化が実現した豊かさと貧困、福祉 豊かになった一部の市民はビジネスを発展させ、蒸気機関など新しいエネルギーや産業機械を使った大量生産方式を編み出しました。産業革命です。その結果、値段は安いが、性能がよく形も揃った大量の商品（工業製品）が出回ります。それをより多くの人に見てもらい、貿易を盛んにするために、19 世紀中頃に万国博覧会が始まりました。 日本は江戸時代末のパリ万博から日本も陶磁器や漆器を出展し、大好評を博しました。優れた商品を創る異民族として日本人の文化は大歓迎されました	○事前学習 アジアの国々は 19 世紀にどこの国の植民地だったか調べて下さい。 ○アサイメント 1867 パリ万博出展された日本製商品にはどんなものがあったか調べて書き出して下さい。
第 11 回 12 月 12 日	アジアの文化、イスラム・ヒンズー・仏教に見るアジア歴史 ヨーロッパ同様、アジアの歴史も民族の移動、侵入、侵略の歴史が続きました。インドネシアでは、まずヒンズー教が、仏教、次がイスラム教、最後はキリスト教が伝わり、今は大部分の国民がイスラム教とです。一方、日本では 13 世紀後半二度の元寇が有名ですが、大勢の異民族が九州に攻めてきました。もちろん、日本人が朝鮮半島に攻め入ったことも度々あります。私たち日本人は忘れても、攻め入られた方はよく憶えています。また、日本には鎖国の歴史もあります。こうして、歴史とは戦争	○事前学習 神戸にもイスラム教徒が多く暮らしています。だからモスクもあります。知り合いにイスラム教徒がいるか探してみてください。 ○アサイメント ユダヤ教徒はどんな人々か、どんな歴史を持っているか簡単にまとめて下さい。
第 12 回 12 月 19 日	民族国家の誕生、民族文化の形成、国語の誕生、歴史の創生 さて、今世界中で起こっている民族対立は帝国主義とアジアアフリカ、中南米で起こった欧米諸国、そして日本の植民地とその後の独立の結果起こったものです。狭いヨーロッパの中を見ても、ハプスブルグ家のオーストリア・ハンガリー帝国の影響が強く見られます。18 世紀には世界にはスペインやイギリスの植民地が広がっていました。 異文化理解の背景、現在の民族や国家の文化の根底には、この帝国主義と植民地の歴史があり、そこから独立を目指した人々が揚げた民族主義があります。独立	○事前準備 皆さん自身か身近に、朝鮮半島にルーツを持つ親族、友人はいますか？ぜひお一人探し、半島か島か、出身地をお聞きし、どうして日本におられるか、失礼のないように丁寧に尋ねてみて下さい。 ○アサイメント 日本の歴史は高校までで習ったと思いますが、お隣の大韓民国では韓国の歴史をどう教えているか調べてみて下さい。
第 13 回 1 月 9 日	アジアの世界遺産に見る建築と都市の文化 第二次世界大戦が終わり、日本やドイツ、イタリアと戦った連合国はそのまま国際組織を造り、日本で「国際連合」と呼ばれるようになりました。この国連の目的は、戦後独立した数々の国々を支援することでした。独立したのは民族国家、民族を定め、国語をつくり、自分たちの歴史を書き上げ、国民を教育し始めま	○事前学習 難民について調べて下さい。今はウクライナ難民に注目が集まりますが、その前の難民についても調べて下さい。 ○アサイメント どうして母国を離れたのか、いろいろなケースを考えて述べて下さい。

	した。しかし、その多くの国々では民族は定まらず、対立し合い、英語に頼り、歴史研究も進んでいません。教育レベルも低く、人々は貧しいまま、災害や飢餓が続いています。 文化の違いを理解し合う	
第 14 回 1 月 16 日	日中韓の異文化理解、中華思想と民族国家の形成、歴史は争点？ 東アジアには、日中韓三か国の他に、主権が及ばないが、中国固有の領土である台湾、すでに 20 世紀末に英国から中国に返還された旧植民地の香港、北朝鮮等の国々があります。 これらの国々は東アジアの人々に共通する文化的基盤を持ちながら、近代の歴史から数多くの対立の火種を抱えています。これらの国々との間で世界文化遺産、世界記憶遺産の登録の際にいろいろな問題が起こるのは、この歴史が関係しています。 皆さんよく知っているように、大阪には朝鮮半島出身者が多く、神戸	○事前学習 異文化理解の授業でしった興味ある事柄は何かですか、思い出して下さい。 ○アサイメント 皆さんの人生の中でこれから出会う異文化を想像してみてください。どんな文化を知りたいか自由にのべて下さい。
第 15 回 1 月 23 日	身近な異文化、異文化理解の進め、国内の異文化を知る 異文化理解の最終回は身近な国内での異文化を見ていきます。違いにだけ目を向けず、共通した文化を探します。多様なようで違いが消えていくのが、グローバル化の影響、若い世代には違いよりも共通点の方が多くなっています。衣食住の違いが減っても、まだ残っている根底にある文化の部分にも目を向けます。 コロナ禍が去り、一日も早く海外旅行に出かける皆さんが異文化を楽しむための準備期間、コロナの中でまだ見ぬ多様な世界の魅力を感じましょう。	○アサイメント 最終レポートは、異文化を知ることで自分の人生がどう豊かになるかを考えてもらいます。 詳しい内容は授業で説明します。楽しく学び、世界を見て回りましょう。

1.授業コード (ナンバリング)	CC1201-Y51	2.科目名	観光マーケティング基礎 (再)		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	U S J のマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年次	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 アクティブラーニング導入科目（グループディスカッション、プレゼンテーション）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 1. 身近な題材を用いた実践的なワークを通じて、マーケティングの視点を体得する 2. 自らのキャリアも含め、世の中で起きていることをマーケティング視点で考える習慣を付ける 3. マーケティングに対する興味・関心を高め、受講後も学習を継続する動機付けとする 概要： 10 年前までのユニバーサル・スタジオ・ジャパン（U S J）は、来場者が思うように集まらず、経営破綻の危機に陥っていました。それが今や、日本を、いや世界を代表する一大テーマパークとして、たくさんの来場者で賑わっています。その U S J の危機を救ったのが、「マーケティング」の力なのです。 この講義では、U S J の奇跡の復活など、今まさに起きていること、これから起こることを、マーケティングの視点で体感し理解します。授業では、テーマパークの新アトラクション企画など、学生の皆さんが具体的にイメージしやすい、身近で親しみのある題材を多用します。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(4)問題発見・解決力および(6)専門的知識・技能の活用力と最も深く関連しています。マーケティングフレームワークの基本を理解し習得することで、消費者視点に立った戦略的思考を身に着け、問題発見と専門知識を使った問題解決ができるようになります。					
19.教科書・教材	資料は webclass で配布					
20.参考文献	適宜紹介します					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ?対象回の「提出課題」 10 点 （各回 2 点 x 5 回） ?対象回の「授業のまとめシート」 14 点（各回 1 点 x 9 回、15 回目のみ 5 点） ?グループワークのプレゼンテーション 26 点 （各回 6 点 x 3 回、4 回目のみ 8 点） ?総括試験 50 点 *総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。					
22.コメント	遅刻・早退が 20 分を超える場合は欠席とします。（厳守）					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	講義：マーケティングの実例 マーケティングへの関心を高めるために、身近な商品の開発や宣伝に、マーケティングの考え方がどのように活用されているのかの実例をご紹介します。ま			予習：「マーケティング」という言葉の意味を調べてまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：マーケティングの活用事例を振り返る		

	た、授業の進め方、評価方法等について説明を行います。	
第2回	講義：マーケティングの全体像 マーケティング思考の全体像を示し、今後のクラス進行においてどの部分をどのように取り上げるかを概観します。また、中でも特に重要な要素である「環境分析」および「ターゲティング」について、実務における具体例を示しながら、マーケティング思考の効果を実感していただきます。	提出課題：あなたが好きな商品やサービスの、「ターゲット」は誰かを考えて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：ターゲットの重要性について振り返る
第3回	講義：環境分析 マーケティングで最初に行うべき「環境分析」について、基礎的なフレームワークを学びます。 グループワークを始めます。あなたが好きなエンターテインメントの分野（音楽、ドラマ、スポーツイベント、ゲームなど）を選択して、環境分析を行います。	予習：あなたが好きなエンターテインメントの分野を考えてくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第4回	グループワーク：エンターテインメントの環境分析 グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第5回	プレゼンテーション：エンターテインメントの環境分析 講義：環境分析の具体例 既存の商品・サービスにおける環境分析の具体例をご紹介します	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第6回	講義：マーケティングプロセス 基本的なマーケティングプロセスであるSTP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）について、身近な業界の事例を用いて、基礎的なフレームワークを学習します。	提出課題：「セグメンテーション」の言葉の意味を調べてまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第7回	講義：マーケティングの4P マーケティング戦略を実行する際の基本的なフレームワークである4P（製品戦略、価格戦略、プロモーション戦略、流通戦略）について学習します。 2回目のグループワークを始めます。各グループが商品・サービスを選択し、その「値上げ」を企画していただきます。	提出課題：あなたが「安い」と思う商品やサービスを一つ挙げて、なぜそれを安いと感じるかについて書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第8回	グループワーク：値上げをしよう グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第9回	プレゼンテーション：値上げをしよう 講義：マーケティングの全体像（まとめ） ここまでで学習した一連のマーケティングフレームワークについてまとめます	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第10回	講義：マーケティング戦略の具体例 USJの新アトラクション企画を題材に、実際のビジネスでマーケティングフレームワークがどのように活	提出課題：東京ディズニーランドとUSJの入場料の推移を調べてまとめる 授業のまとめシート：提出

	用されているかについて学習します。 3回目のグループワークを始めます。大型テーマパークを想定し、これまで学習してきたマーケティングフレームワークを使って、新アトラクションを企画していただきます。	復習：グループで課題を進行
第 11 回	グループワーク：テーマパークの新アトラクショングループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 12 回	プレゼンテーション：テーマパークの新アトラクション（中間発表） ここまでグループでディスカッションしてきた内容を発表していただきます。教授からのコメントを受けて、次回の最終発表に向けてさらに議論を深めてください。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：不要 復習：教授からのコメントを受けて、さらに議論を深める
第 13 回	プレゼンテーション：テーマパークの新アトラクション（最終発表） 講義：マーケティングとブランディング マーケティング戦略で重要な役割を果たすのが「ブランド」です。ブランドとは何か？その効果について学習します。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 14 回	まとめと統括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する。 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	提出課題：講義全体および統括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 授業のまとめシート：提出（5 倍加点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード (ナンバリング)	CC2103-Y51	2.科目名	アジア文化論		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	専門共通	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	現代社会学部			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業は、広大かつ多様なアジアの文化や歴史について、大まかな概要を把握すること、またそこから自分が関心を持つ地域について研究を進めるための分析手法を身につけてもらうことを目的としています。 授業は、地域文化の分析手法のひとつ（関連性の分析）を、沖縄の文化や歴史を例に取って解説していく「沖縄編」（第 1～4 回）と、アジアの文化や歴史を大きく 6 つの地域に分けて概説していく「アジア概要編」（第 5～15 回）から成り立ちます。 「概要編」で紹介した国や地域からひとつを選び、「沖縄編」で学んだ方法で分析をおこなったレポートを最終課題として提出します。					
18.学習目標と DP との関連	この授業の学習目標は DP の（3）多様性の理解と（2）問題解決力の学修に関連しています。 ①アジア各地の文化や歴史についてその概要を説明できる。 ②ある地域の文化を、その環境、歴史、生活、産業、芸能などの関連性の中でとらえることができる。 ③地域研究の基本的方法を使うことができる。					
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します（教科書は使用しません）					
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト（15 回） … 45%（学習目標①②に対応） ・期末レポート … 55%（学習目標①②③に対応）					
22.コメント						
23.オフィスアワー	火曜 3 限目（学修支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業ガイダンス ― 地域研究の方法、授業テーマ、成績評価、期末レポートについて 方法解説編 1. 沖縄の地域概要			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 2 回】	方法解説編 2. 沖縄の信仰（来訪神マユンガナシ、女性と異界、霊媒師ユタの治療原理）			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 3 回】	方法解説編 3. 沖縄の社会組織（門中と祖先祭祀、門中の時代変化）＋沖縄の歴史（琉球王国まで）			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 4 回】	方法解説編 4. 沖縄の歴史 2 ― 沖縄戦～アメリカ統治時代～本土復帰 ＋ 沖縄における宗教・社会・歴史の関連性			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 5 回】	地域概要編 1. 北アジア ― 地域概要 ＋ 特集「モンゴロイドの拡散」			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 6 回】	地域概要編 2. 中央アジア ― 地域概要 ＋ 特集「遊牧民と国家」			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 7 回】	地域概要編 3. 西アジア（1） ― 地域概要			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		

【第 8 回】	地域概要編 3. 西アジア (2) — 特集「イスラム教における『神』とは何か」	授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)
【第 9 回】	地域概要編 3. 西アジア (3) — 特集「紛争の原因は宗教なのか」	授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)
【第 10 回】	地域概要編 4. 南アジア (1) — 地域概要	授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)
【第 11 回】	地域概要編 4. 南アジア (2) — 特集「解脱の技法」	授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)
【第 12 回】	地域概要編 5. 東アジア (1) — 地域概要 + 特集「歴史の政治性」	授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)
【第 13 回】	地域概要編 5. 東アジア (2) — 特集「歴史の政治性」(続き)	授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)
【第 14 回】	地域概要編 6. 東南アジア (1) — 地域概要	授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)
【第 15 回】	地域概要編 6. 東南アジア (2) — 特集「融合する文化と紛争回避の可能性」	授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)

1.授業コード (ナンバリング)	CC2202-Y51	2.科目名	観光リスクマネジメント (再)		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	専門教育科目 展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件	観光学概論、経営学概論を履修していることが望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 リスクには様々なものがありますが、この科目では純粹リスクを扱います。特に、経営上のリスクに焦点を当て、観光業における個別事象のリスク管理から事業経営継続におけるリスクマネジメントまで必要となる基本的な知識とスキルを修得することを目的とします。 【概要】 まず、基本的な考え方や理論を講義に基づき習得した後、具体的な事例を通じて、より実践的な知識、手法などのポイントを学び、知識の定着を図ることとします。また、災害等の不測の事態に備えるためのリスク管理だけでなく、組織的な原因などについても学習することで、観光産業にとどまらずあらゆる分野の経営において活用できるリスクマネジメントの修得を目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の 【(1)自律性】【(4)問題発見・解決力】【(6)専門的知識・技能の活用】に関連しています。 本科目の学習目標は、以下のとおりです。 ①観光産業を例に企業の抱えるリスクの抽出と評価を行うことができる。 ②観光産業を例に企業の抱えるリスクについて具体的な対策を提案することができる。 ③リスク対策として事前に考え、備えるべき事項およびその前提となる組織風土について理解し、説明できる。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。適宜資料を提示、配布します。					
20.参考文献						
21.成績評価	①授業理解度・・・40 点 (講義の要点を的確に掴んで、その理解した内容を記述する。また自発的にケーススタディに取り組む) ※学習目標①、②、③に対応 ②グループワーク・・・20 点 (ケーススタディにおいて自らの意見を積極的に発信し、他者の意見を傾聴する。ルーブリック-チームワークを評価基準とする。) ※学習目標①、②、③に対応 ③確認テスト・・・40 点 ※学習目標①、②、③に対応					
22.コメント	コロナなどリスクによる影響を実感している学生も多いと思います。この講義では、リスクマネジメントの基本的なプロセスを理解するためにケーススタディなどを活用していきます。エアラインの安全管理部門において、ヒューマンエラーによる事故防止に取り組んだ経験を活かし、履修する学生には、単なるリスクマネジメントだけではなく、会社の組織風土にまで踏み込んでリスクへの備えを考えてもらいたいと考えています。					
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	講義：オリエンテーション 担当教員の紹介、講義の目的、内容、進め方、評定算			復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習		

	出の方法、受講上の留意点について説明する。	
【第2回】	講義：危機に対する意識 日本人における危機意識とその原因について考察する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第3回】	講義：リスクとは何か、リスクの種類 リスクの概念と様々なリスクについて確認する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第4回】	講義：リスクマネジメントとリスクアセスメント リスクの管理と評価について確認する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
第5回	ケーススタディ① 旅行業を例にケーススタディに取り組む。※個人ワークおよびグループワーク	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：ケーススタディの読み込み
第6回	ケーススタディ② 旅行業を例にケーススタディに取り組む。※グループ発表と解説	ケーススタディについてグループで発表のための資料を作成する。
【第7回】	講義：リスク戦略 リスクへの処理手段としてのリスクコントロールおよびリスクファイナンスについて確認する。 確認テスト①	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習及び確認テストに備えここまでの振り返り
【第8回】	講義：リスク戦略：リスクの低減・リスク処理について リスクをどこまで管理するのか、どの様な対策が有効であるのかを考える。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第9回】	ケーススタディ③： 旅行業を例にケーススタディに取り組む。※グループワーク・発表・解説	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第10回】	リスク管理計画・リスク対応の組織： リスク管理を組織的に行うための体制について考える。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：ケーススタディの読み込み
【第11回】	ケーススタディ④ 危機管理組織に関するケーススタディに取り組む。※個人ワークおよびグループワーク	ケーススタディについてグループで発表のための資料を作成する。
【第12回】	ケーススタディ⑤ 危機管理組織に関するケーススタディに取り組む。※発表と解説	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第13回】	講義：リスク管理と組織に関する研究 リスクの少ない組織とはどの様な組織かを考える。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第14回】	講義：マスコミ対策・レピュテーションリスク 危機そのものから波及するリスクについて考える。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第15回】	全体の振り返りと確認テスト②	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：確認テストに備えここまでの振り返り

1.授業コード (ナンバリング)	CC2204-Y51	2.科目名	陸上環境論		3.単位数	2
4.授業担当教員	今井良一					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	副専攻（環境を考える）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】持続可能な社会を次世代が受け継ぐために、私たちがどのように行動すればよいかに ついて考えることを目的とする。 【概要】 人類の生存にかかわる地球環境問題（地球温暖化、水環境の問題、放射能の問題、食環境の問 題など）の現実を学んで、その本質を知るとともに、地球環境を保全していくための方法を学 び、それを身につけていくことを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（2）社会的貢献性（3）多様 性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 学習目標は次のとおりです。 ①地球温暖化や大気汚染、水不足、水質汚染、放射能汚染、食環境の悪化などの環境問題の原 因について正確に理解する。 ②その被害をうけやすい弱者、特に子どもへの深刻な被害について常に思いをはせる気持ちを 育む。 ③トータルで物事を見る能力を養う。 ④問題に対して、適切に対処できるようになる能力を養う。 なお、本講義では、SDGs（持続可能な開発目標）の 17 のゴールのうち、特に、「2. 飢餓を終 わらせ、食糧安定保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」「6. すべての 人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」「7. すべての人々の、安価かつ信 頼できる持続可能な現代のエネルギーへのアクセスを確保する」「10. 各国内および各国間の 不平等を是正する」「12. 持続可能な消費と生産の形態を確保する」「13. 気候変動および その影響を軽減するための緊急対策を講じる」「15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利 用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復および 生物多様性の損失を阻止する」に関して取り扱う。					
19.教科書・教材	今井清一／今井良一（2024）『環境教育学－気候変動～食の安心・安全－』鳥影社 大学にて販売されるので購入すること。					
20.参考文献	授業内で適宜紹介する。					
21.成績評価	①レポート（3 回分）＝45％ 【学習目標①②に対応】 グループで議論した内容をレポートにまとめて提出。意見が教員と異なるとしても減点の対象 にはならない。講義の内容を理解し、きちんと論述できているかどうかで判断する。 ②総括試験＝55％ 【学習目標①②③に対応】 総括試験は論述形式（2 題）とする。答案作成に際しては、まず講義内容を踏まえ解答するよう に心がけ、その上で各自の意見・感想を述べるようにすること。意見・感想が、教員と異なる としても、減点の対象にはならない。各自の意見・感想がない場合は、減点するので注					
22.コメント	①環境問題がいかに深刻であるかを知るとともに、子どもたちが豊かでかけがえのない地球を 受け継ぐために、私たちひとりひとりに一体何ができるかを常に考え、行動する姿勢をもつこ と。					

	②講義の前後以外でも、WebClass にて質問ができます。質問にはできる限り即応するので、積極的に利用しましょう。	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	「環境と生活（環境学）」を学ぶにあたって一子どもたちが持続可能な社会を受け継ぐためにー ・本講義で学習する環境問題について大まかに把握し、講義の目標をしっかりと認識する。	・シラバスを必携のこと。 復習:今回の復習 予習:次回の予習（教科書を使って）
第 2 回	「地球温暖化と気候の変動①」…教科書 pp.11～25 ・地球温暖化のメカニズムと地球温暖化が地球上の生命にどのような影響をおよぼすのかを解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）
第 3 回	「地球温暖化と気候の変動②」…教科書 pp.47～72 ・いくつかの温室効果ガスの性質を知るとともに、地球温暖化を解決するために、私たちひとりひとりができることについて解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）
第 4 回	「水の浪費大国日本①」…教科書 pp.253～266 ・世界および日本における水環境（水不足・水質汚染）について解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）
第 5 回	「水の浪費大国日本②」…教科書 pp.267～288 ・水環境悪化の原因を知るとともに、それを解決するために、私たちひとりひとりができることについて解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って） ◎第 1 回レポート作成「日本における尿尿の処理の歴史について」…資料については Webclass にて配布する。グループで議論して、その結果をまとめる。→第 7 回の講義の日までに Webclass にて提出。
第 6 回	「放射線と環境破壊①」…教科書 pp.83～91 ・放射線の種類や性質について解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）
第 7 回	「放射線と環境破壊②」…教科書 pp.92～112 ・放射線による人体への影響を学び、今後の原発政策のあり方を考える。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って） ◎第 2 回レポート作成「原発稼働に賛成か反対か？」…グループで議論して、その結果をまとめる。→第 9 回の講義の日までに Webclass にて提出。 ★この日までに、第 1 回レポートを Webclass にて提出。
第 8 回	「食料の輸入大国日本の現実①」…教科書 pp.117～123 ・世界および日本の食料事情について解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）
第 9 回	「食料の輸入大国日本の現実②」…教科書 pp.123～135 ・日本人の食生活がいかに輸入に依存しており（食料自給率の低下）、それはなぜかを解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って） ★この日までに、第 2 回レポートを Webclass にて提出。
第 10 回	「食料の輸入大国日本の現実③」…教科書 pp.135～156 ・日本が食料を大幅に輸入に依存していることが引き	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）

	起こしている様々な問題について解説する。	
第 11 回	「食料の輸入大国日本の現実④」…教科書 pp.192～210 ・近年、急速に広まりつつある遺伝子組み換え食品の現状と問題点、対応策について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って） ◎第 3 回レポート作成「生態系のバランスが崩れると何が起こるか？」…資料については、Webclass にて配布する。グループで議論して、その結果をまとめる。→第 13 回の講義の日までに Webclass にて提出。
第 12 回	「国内流通食品の不安①」…教科書 pp.211～249 ・食の大量生産・大量消費を可能にしている抗生物質や食品添加物の問題点について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 13 回	「国内流通食品の不安②」…教科書 pp.161～192 ・複雑な食品表示のあり方について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 ★この日までに、第 3 回レポートを Webclass にて提出。
第 14 回	「総復習」 ・これまでの講義内容を総復習するとともに、総括試験に向けて、論述の方法について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理
第 15 回	「総括試験」	

1.授業コード (ナンバリング)	CC2209-Y51	2.科目名	特殊講義Ⅱ 国内旅行業務		3.単位数	2
4.授業担当教員	松村博之					
5.授業科目の区分	専門科目、旅行業分野 の実務経験がある教員 による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	全学年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	履修人数は、15名までとします。					
17.授業の目的と概要	【目的】 「国内旅行業務取扱管理者」の国家資格取得とします。 この資格は、観光業界、公務員を目指すものにとって有利です。 国家試験は、毎年9月に実施されます。 特に観光業界に就職を目指すためのスキルとして修得することが重要な科目です。 【概要】 JR 運賃・料金、国内航空運賃・料金、貸切バス運賃・料金、フェリー運賃・料金、旅館・ホテルの宿泊料金などに関する解説をします。 講義は、教科書に添ってパワーポイントを使用して行います。また、理解度チェックのために、練習問題を毎回してもらいます。計算問題が中心となりますので、予習復習は計画的、継続的に行う必要があります。					
18.学習目標と DPとの関連	①国内旅行業務取扱管理者試験の合格基準である60%以上の得点を確保すること。 ②各種運賃・料金の算出方法について理解すること。 ③国内旅行に関する知識を修得することで、観光関連産業の理解を深める。 関連するDPは、「専門知識・技術の活用力」です。					
19.教科書・教材	＊旅行実務シリーズ 国内旅行実務 「国内運賃・料金」 (発行：JTB 総合研究所) ＊資料は、適宜配布します。					
20.参考文献	＊JR 時刻表 ＊全国旅行業協会 (ANTA) のHP					
21.成績評価	＊総括試験 (筆記) 60% (学習目標の①、②、③に対応) ＊理解度確認テスト (筆記/3回) 30% (学習目標の①、②、③に対応) ＊練習問題 (各授業) 10% (学習目標の①、②、③に対応)					
22.コメント	①教科書、参考文献などで予習復習をしっかりと行ってください。 ②総括試験は、15回目の授業で行います。 ③理解度確認テストは、授業中に行います。 ④出欠確認、資格喪失などは大学のルールどおりです。 ⑤授業中は、帽子の着用は禁止です。					
23.オフィスアワー	講義終了後、教室などで対応します。また、メールによる対応をします。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション (授業の目的、計画、評価、資格取得などの説明)					
第2回	JR 旅客営業規則、乗車券類の概要			教科書：旅客営業規則の概要、乗車券類発売の概要を熟読		
第3回	JR 運賃計算①			教科書：運賃計算の原則、運賃計算の特例を		

		熟読
第4回	JR 運賃計算②	教科書：運賃計算の原則、運賃計算の特例、 運賃の効力・割引の熟読
第5回	JR 料金計算①	教科書：料金計算、乗継割引、各新幹線の取 扱いを熟読
第6回	JR 料金計算② 第1回理解度確認テスト	教科書：料金計算、乗継割引、各新幹線の取 扱い、第5回までの分野を熟読
第7回	JR 券の変更、取消し、払戻しなど	教科書：変更、払戻し、運行不能、遅延を熟 読
第8回	JR 団体乗車券	教科書：団体乗車券の取扱いを熟読
第9回	JR 特別企画乗車券、JR 時刻表の読み方	教科書：特別企画乗車券、JR 時刻表の読み方 を熟読
第10回	国内航空運賃・料金計算① 第2回理解度確認 テスト	教科書：航空分野を熟読、第6回～第9回ま での内容を復習
第11回	国内航空運賃・料金計算②	教科書：航空分野を熟読
第12回	貸切バス運賃・料金計算	教科書：貸切バス分野を熟読
第13回	フェリー運賃・料金計算	教科書：フェリー分野を熟読
第14回	宿泊料金計算 第3回理解度確認テ スト	教科書：宿泊分野を熟読、第10回～第13 回の内容を復習
第15回	まとめ、総括試験	教科書：国内旅行業務・全分野の復習

1.授業コード (ナンバリング)	CC2213-Y51	2.科目名	特殊講義Ⅵ 現代航空事情		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	専門教育科目 基幹科目 専攻コア	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生または 3 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件	航空産業論	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】この講義ではエアラインビジネスを基盤として、大手航空会社の経営戦略と台頭著しい L C C の戦略について学びます。 【概要】先ず大手航空会社の戦略を学びます。特に現代の国際線を運航する大手航空会社 (FULL SERVICE AIRLINE=FSC)のネットワーク戦略の基本と他エアラインとの提携戦略について理解します。また、マイレージやコストマネジメントなどの企業戦略について、そのポイントをレストラン経営など身近な例から解説します。後半はローコストキャリア (LCC)の経営についてその特徴と具体的なコスト削減の活動内容を学ぶことができます。そして L C C が F S C とは全く異なるビジネスモデルであることを講義により解説します。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の 【(2)社会的貢献性】【(4)問題発見・解決力】【(6)専門的知識・技能の活用力】に関連しています。 本科目の学習目標は以下のとおりです。 ①大手航空会社の基本的な経営戦略について学ぶことができる。特に航空会社の商品である航空路線の展開に関するネットワーク戦略について基本的な考え方を学ぶことができる。 ②在庫が出来ない商品を扱う航空会社の収入戦略、コストマネジメント、マイレージなどの顧客戦略について、レストランの経営を例題に詳しく解説し、その基本的な戦略を学ぶことができる。 ③躍進著しいローコストキャリア (L C C) のビジネスモデルについて学ぶことができる。 ④最新の航空会社の経営状況や戦略について学ぶことができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。適宜資料を提示、配布します。					
20.参考文献	航空産業入門 (第 2 版) 発行：東洋経済新報社					
21.成績評価	①授業理解度 (講義への理解)・・・40 点 (講義を理解し、講義中にポイントを掴み、配布する資料に要点を記入する。※学習目標①、②、③に対応 ②グループワーク・・・15 点 (講義の中でグループワークにおいて自らの意見を積極的に発信し、他者の意見を傾聴する)※学習目標①、②、③に対応 ③確認テスト・・・45 点 (講義全体を通して航空会社のオペレーションのポイントを理解し、考察することができる)※学習目標①、②、③に対応					
22.コメント	現代航空事情では、エアラインビジネスにおいて学んだ航空業界のビジネスの仕組みを基盤として、航空会社の経営戦略を学びます。ANA や JAL に代表される大手航空会社の戦略と台頭著しい L C C (ローコストキャリア) の戦略を比較していきます。					
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	講義【オリエンテーション】 担当教員の紹介、講義の目的、内容、進め方、評定算出の方法、受講上の留意点について説明する。			復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習		
【第 2 回】	講義 エアラインの特性とコロナ危機			復習：今回の復習及び授業ノートの整理		

	エアライン事業の特性ならびにコロナ危機の影響について説明し、今後のエアライン事業の将来性について考察する。	予習：次回の予習
【第3回】	講義 ハブ＆スポーク戦略とアライアンス 現在の大手航空会社が採用するハブ＆スポーク戦略を詳述し、また、その戦略を更に深めるハブ空港における対応や海外他社との提携（アライアンス）の必要性について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第4回】	講義 レベニューマネジメント戦略 航空産業の特性を踏まえ、座席管理の仕組みと価格との連動について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第1回確認テストに備えてここまでの振り返り
第5回	講義 マイレージ戦略 エアラインが進めるマイレージ戦略を中心とした対顧客サービスについてケーススタディにより説明し、その戦略について考察する。 第1回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
第6回	講義 生産性の向上とコストマネジメント 航空機の購入など多額の固定費を負担するエアラインにおけるコストマネジメントとIT導入などによる生産性向上の仕組みを解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第7回】	講義 職掌制度と人材マネジメント 労働集約型産業であるエアラインの様々な職種の役割とその人材要件を解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第8回】	講義 安全管理 エアラインにとって必須命題である安全運航について、その具体的な内容を詳述する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第9回】	講義 貨物事業戦略 旅客運送とは異なり、コロナ拡大下においても収入を確保している航空貨物事業と貨物のオペレーションについて説明する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第1回確認テストに備えてここまでの振り返り
【第10回】	講義 LCCの誕生と成長 LCCが誕生した背景について米国における規制緩和と関連して解説する。またその後のLCCの急成長の理由を掘り下げて考察する。 第2回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第11回】	講義 LCCの戦略① LCCにおけるオペレーションにおける様々なコスト削減の仕組みを学習する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第12回】	講義 LCCの戦略② LCCにおける予約販売及びアンシラリー収入に関する様々な活動について学習する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第13回】	講義 LCCのビジネスモデル LCCは単なるコスト削減ではなく、大手航空会社とは全く異なるビジネスモデルを実現していることを説明する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第14回】	講義 エアラインを取り巻く現状と課題 現代の航空会社を取り巻く現状、例えば脱炭素化社会	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第1回確認テストに備え

	に向けた現状などにや空飛ぶ車などについて国土交通省の資料を基に解説する。	てここまでの振り返り
【第 1 5 回】	講義 エアラインのオペレーション エアラインのオペレーション全体を振り返り、重要なポイントを整理する。 第 3 回小確認テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理

1.授業コード (ナンバリング)	CC2215-Y51	2.科目名	特殊講義Ⅷ 仕事とキャリアⅡ		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 仕事とキャリア形成Ⅰに続き、観光という産業においてキャリア形成を行う上で必要となる知識の修得と具体的な準備を進める。 【概要】 ■「仕事とキャリア形成Ⅰ」で学んだことを活かし、観光業界におけるホテル、旅行、エアラインの各業界についての理解を促進する。 ■企業の仕組みと企業が求める人材について、社会人基礎力を中心に考察する。また企業に関する理解促進のため、財務分析、労働法について基礎を学ぶ。 ■就活を終えた4年生の声やインターンシップの重要性などについて体験者や担当者の話を聞き、今後のキャリア形成の一助とする。					
18.学習目標と DPとの関連	・企業についての理解促進と適切なキャリア形成のための自己認知 企業の目的やマネジメント活動についての理解を深め、その中で働く人材について自己を中心として適切な人材像を認知する。 本科目の学修目標は DP（ディプロマポリシー）の?自律性?問題発見・解決力の学修に関連しています。 ① 社会人基礎力の自己認知から自分の性格や価値観を客観的に把握し、自分なりの目標とする人材像を認識する。 ②観光における職業や業界について、興味を持つことができる。 ③キャリア教育の一科目であることを自覚し、遅刻や早退をせずに出席して、個人、グループ、クラス全体の学習活動を遂行することができる。					
19.教科書・教材	■必要に応じて参考書を紹介もしくは資料を配付する。					
20.参考文献	日本経済新聞					
21.成績評価	■社会人基礎力における個人ワーク、グループワークの取り組み及び確認テスト 40% ■ 講義ごとに実施する講義内容のまとめを通じた授業理解度 30% ■企業分析における財務および労働法に関する確認テスト 30%					
22.コメント	・仕事とキャリア形成Ⅰは全学共通プログラムでしたが、この到達点を活かし、秋学期においては社会人基礎力と観光業界における人材像についての理解を深めます。 ・外部講師を招きますので、その際は、失礼の無い対応をお願いします。					
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション ■ 春学期の振り返りと全体スケジュールについての説明			○ 「仕事とキャリア形成Ⅰ」の復習 150 分 ○ 本時の復習 30 分		

【第2回】	【講義】企業の仕組みとマネジメント 企業がなぜ存在するのか、その中で働くということとはどのような意味があるのかについて講義を行う。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60分 ○ 新聞や雑誌、インターネット情報から企業や組織についてのニュースなどを検索し、その内容と講義内容を比較検討する。 60分
【第3回】	【講義&演習】社会人基礎力 ■社会人基礎力とはどのようなものを講義する。 ■社会人基礎力およびセルフコントロールに関するアンケートに回答する。(第4回以降の講義で自己認知の資料として活用する)	○ 今日学修した事柄について整理する。 60分 ○ 新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でどのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。 60分
【第4回】	【演習】社会人基礎力のケーススタディ「前に踏み出す力」 社会人基礎力についてエアラインの職場を想定したケーススタディに取り組み、能力要素についての理解促進を図る。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60分 ○ 新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でどのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。 60分
【第5回】	【演習】社会人基礎力のケーススタディ「チームで働く力」 社会人基礎力についてエアラインの職場を想定したケーススタディに取り組み、能力要素についての理解促進を図る。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60分 ○ 新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でどのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。 60分
【第6回】	【演習】社会人基礎力のケーススタディ「考え抜く力」 社会人基礎力についてエアラインの職場を想定したケーススタディに取り組み、能力要素についての理解促進を図る。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60分 ○新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でどのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。 60分
【第7回】	【講義および演習】社会人基礎力のまとめ&4年生の就活報告 (1) 社会人基礎力に関する確認テスト (2) この夏就活を経験した先輩に今、皆さんにやっておいて欲しいことなどを語ってもらう。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60分 ○新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でどのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。
【第8回】	業界研究(旅行業界) 外部講師を招聘し、業界説明、特にその業界で求められる人材像を中心にお話し頂く。	○ 事前に業界について調査し、質問などを積極的に行う準備を整える。 60分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業(自分の関心のある職業や知らない職業)について調べ、その内容を理解する。 120分
【第9回】	業界研究(エアライン業界) ANA 関西空港から外部講師を招き、エアライン業界の	○ 事前に業界について調査し、質問などを積極的に行う準備を整える。 60分

	現状と将来、さらに空港で働くスタッフの仕事や求める人材像について講義を行う。	○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 10 回】	業界研究（ホテル業界） 外部講師を招聘し、業界について説明頂く。特にその業界で求められる人材像を中心にお話し頂く。	○ 事前に業界について調査し、質問などを積極的に行う準備を整える。 60 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 11 回】	【講義】企業研究 財務編 経営資源の一つである資金についての理解を深める。 財務諸表への理解と簡単な分析による企業の経営力の分析を行う。尚、最後に確認テストを実施する。	○本日取り組んだ企業分析の手法を自身が望む企業についても実施してみる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 12 回】	【講義】企業研究 労働編 経営資源の一つである人財、特に労働法規等についての理解を深める。労働 3 法への理解と派遣労働や委託業務など態様の異なる働き方についての理解を深める。尚、最後に確認テストを実施する。	○本日取り組んだ企業分析の手法を自身が望む企業についても実施してみる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 13 回】	【講義】企業研究 財務編と労働編の解説 第 11 回と第 12 回で実施したテストの答え合わせを行いながら、財務と労働のポイントを再確認する。	○就活の不安について取りまとめ、授業の中で積極的に質問できる準備を行う。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 14 回】	【講義】インターンシップに向けて インターンシップに向けて具体的なエントリーの方法や学生全体、大学の特徴などについて就活支援の担当者からお話し頂く。	○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 15 回】	【講義】講義全体の振り返り 講義全体を振り返り、この科目で学んだことについて整理する。	○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分

1.授業コード (ナンバリング)	CC2216-Y51	2.科目名	特殊講義Ⅸ（ホスピタリティマネジメント）		3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義を中心とする		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	『目的』 ・授業では、ホスピタリティ産業における最大の目標である「顧客満足実現」について様々な事業や企業を事例を基にその重要性について学ぶ。将来従事する仕事に生きる発想やスキルを身につける。 『概要』 ・授業では、「商品としてのホスピタリティ」の概念を明らかにする。ホスピタリティ産業の経営と管理上必要とされる理論の考察を通じて、顧客満足について正確に理解し、ホスピタリティ産業では、どのようにモノやサービスを提供すればよいのか、そのために人材をどのようにマネジメントすればよいのか、などについて学ぶ。また、優れた顧客満足活動を実践している企業の経営についても考察し、理論がホスピタリティの実践にどのように役立つのかも学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	『学習目標』 1. ホスピタリティ産業の事産業特性を具体的に説明できる。 2. 「ホスピタリティ」「サービス」「おもてなし」などの概念の違いを歴史的な背景を踏まえて説明できる。 3. 特にホスピタリティ産業においてなぜ顧客満足や従業員満足が重要なのかについて説明できる。 4. ホスピタリティ論の学びを通じて、就職活動など、自らのキャリア形成の参考にすることができ る。 『関連するディプロマポリシー』 ①自律性③多様性理解④問題発見・解決力⑥専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書は使用しない。 資料を配布する。					
20.参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。					
21.成績評価	授業参加姿勢 20%（学修目標の1・2・3・4 に対応） 授業理解確認レポート（毎授業） 50%（学修目標の1・2・3・4 に対応） 最終確認テスト 30%（学修目標の1・2・3・4 に対応）					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室 OA(3-306 号室)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	・オリエンテーション 講義内容について、成績評価等 ・サービス / ホスピタリティとは？ ① 日本社会の現状と観光立国宣言 ② サービス/ホスピタリティとは？			予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成		

		・パソコンは持参すること
第2回	・今なぜ、ホスピタリティを重視するのか ・商品としてのサービス/ホスピタリティ	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第3回	・ホスピタリティ産業のビジネス環境の変化について	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第4回	・日本のホスピタリティ産業の現況について - 経済全体におけるホスピタリティ産業規模 - ホスピタリティ産業の地域経済に及ぼす効果 - 宿泊産業に期待される役割等	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第5回	・日本のホスピタリティ産業の課題について	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第6回	・日本のホスピタリティ産業の課題について② - 宿泊施設 ホテル、旅館のビジネス特性等と課題	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第7回	・1回～6回までの復習 ・サービスの概念・サービスの特徴（特性）について① - サービスの定義、基本的性質（特性）、構成要素の全体像について	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第8回	・サービスの概念・サービスの特徴（特性）について② - サービスの成果を左右する態度変数 - 交通サービス、ホテルサービスの構造 - サービスの現状認識	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第9回	・サービス/ホスピタリティ・マネジメント - サービス・マネジメントシステム - マーケットセグメンテーション - サービスコンセプト - 組織理念と文化	予習：事前に資料を配布、予習ポイントを指示するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成

		・パソコンは持参すること
第 10 回	・サービス/ホスピタリティ・マネジメント② - サービスデリバリーシステム - サービス・デリバリー設計のためのツール（サービスブループリント・サービス・スクリプト） - TDL のサービス・マネジメント・システム - スーパーホテル Lohas 東京駅八重洲中央口のマネジメント・システム	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第 11 回	・サービス・マーケティング・ミックスの要素 - サービス・マーケティングの 4 P - 宿泊産業における 4 P - レベニューマネジメントとイールドマネジメント事例	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第 12 回	・顧客満足を実現する組織と人材① - サービス（ホスピタリティ）企業における人材の役割 - 日本のホスピタリティ産業の特徴と課題	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第 13 回	・顧客満足を実現する組織と人材② - 従業員満足の考え方と顧客満足 - 関係性マーケティングの考え方	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第 14 回	・関係性（Relationship）マーケティングの考え方と顧客満足 - 関係性マーケティングの考え方 『事例紹介と学習』	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成. ・パソコンは持参すること
第 15 回	・全体の復習と確認テストの実施	確認テストの実施 パソコンは持参すること。 Web Class でテスト提出。

1.授業コード (ナンバリング)	CC2221-Y51	2.科目名	観光学特別演習（エアライン特別演習Ⅱ）		3.単位数	1
4.授業担当教員	樫本則子					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件	航空産業論を履修済み、もしくは航空実務を併せて履修することが望ましい。	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義 グループワーク	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	ホスピタリティについて多角的な視点で捉えて学習していきます。 自信の感性を磨き、良好な人間関係の形成を目指します。 ホスピタリティの行動力を高め、自己成長を目指します。 航空業界を含め、優れたホスピタリティ産業の理念や行動の特徴について学びます。 世界に目を向け、異文化交流、ダイバーシティなどの必要性を学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①ホスピタリティやサービスについての概念や定義を理解し、説明ができる。 ②ホスピタリティ産業の経営理念や行動を評価できる視点を身につける。 ③多様性・ダイバーシティを理解し、説明できる。 ④異文化を理解し、他者への思いやり、ホスピタリティを身につける。 ⑤自身の生活においてホスピタリティマインドの実践ができるようになる。					
19.教科書・教材	テキストは理論編・実践編・企業研究参考資料などを配布します。 その他適宜、関連資料を配布します。 （特に教科書は使用しません）					
20.参考文献	ホスピタリティ学のすすめ / 服部勝人 / 丸善株式会社					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ①学期末試験・・・40 点【学習目標①～⑤に対応】 ②確認試験・・・20 点【学習目標①②に対応】 ③レポート・・・20 点【学習目標②に対応】 ④グループワークおよび発表・・・20 点【学習目標④⑤に対応】					
22.コメント	ホスピタリティの目的は相手の立場を尊重し、愉快地、温かく、優しくもてなす心を行動に示すこと です。その基本となる挨拶・言葉遣い・態度・身だしなみなどのマナーを受講に際しても実践していきましょう。 また遅刻や欠席をせず、提出物の期限厳守などの時間の管理も行いましょう。 個人で講義を受けるだけでなく、グループワーク等ではチームワークも発揮しましょう。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【オリエンテーション】 学習内容・講義の進め方・留意点など ホスピタリティ理論の復習 春学期に行った「エアライン特別演習Ⅰ」の振り					

	返り	
第 2 回	ホスピタリティ実践 1 食事のマナー（和食）	配布資料「食事のマナー」の内容を復習しておくこと。
第 3 回	ホスピタリティ実践 2 食事のマナー（洋食）	配布資料「食事のマナー」の内容を復習しておくこと
第 4 回	ホスピタリティ実践 3 ユニバーサルサービスとユニバーサルデザイン	ユニバーサルサービスに取り組んでいる企業を選び、調べておくこと。
第 5 回	企業研究 1 航空会社（JAL・ANA）	関心のある航空会社の理念や方針、取り組みについて調べておくこと。
第 6 回	企業研究 2 テーマパーク（TDL・USJ）	自身の関心のあるテーマパークに関して、魅力を感じる点をまとめてみること。
第 7 回	企業研究 3 ホテル（帝国ホテル・リッツカールトン 他）	講義内で視聴した映像についてのレポートを作成しておくこと。
第 8 回	企業研究 4 医療機関（ホスピス）	講義内で視聴した映像についてのレポートを作成しておくこと。
第 9 回	ホスピタリティマネジメント 2 クレーム分析と対応	配布資料を理解し、自身のアルバイトや顧客として経験したクレームやその時の対応、感情についてまとめておくこと。
第 10 回	ホスピタリティマネジメント 3 グループワーク（クレーム対応）および発表	他のグループの発表を客観的に評価できるようになること。
第 11 回	ホスピタリティ総論 1 異文化コミュニケーション	世界に視野を広げ、民族・宗教・タブーを学ぶ。 国際プロトコールを理解する。
第 12 回	ホスピタリティ総論 2 多様性・ダイバーシティ	多様性について理解し、ジェンダー問題について考えてみる。
第 13 回	ホスピタリティ総論 3 交流分析（エゴグラム）	エゴグラム表を完成させ、自身の行動パターンに関して考察しておくこと。
第 14 回	ホスピタリティ総論 4 人間力（考える力・行動する力）を養う	今までのホスピタリティの考え方を基に、人間力といわれる感じる力・考える力・行動する力を DVD を通して学ぶ。
第 15 回	期末試験	

1.授業コード (ナンバリング)	CC2223-Y51	2.科目名	観光学特別演習（観光地域づくり実践Ⅱ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	特に制限はありません。			9.履修学年	1～4 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件	観光学特別演習（観光地域づくり実践Ⅰ）を履修していることが望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	特になし。					
17.授業の目的と概要	○科目の目的 この科目は、地域課題の解決につながる手段としての観光について実践的に学ぶ授業です。実際に地域での活動を行い、地域と協働してイベントや課題解決の活動を実践することを通じて、観光地域づくりの考え方と手法を学びます。 ○科目概要 大都市を除くほとんどの地域では、過疎化や経済の停滞、伝統文化の衰退といった悩みを抱えています。地域の外から人々を呼び込み、賑わいと経済効果をもたらす観光事業は、これらの課題の解決につながる手段の一つとして注目されています。一方で、地域の課題はさまざまな分野に及んでおり、単に観光客を呼び込むことが解決につながるとは限りません。 この授業では、地域の事業者や住民と実際に協力し、具体的な活動を実践することで観光地域づくりの考え方と手法について学びます。 将来、地方の観光地域活性化や地域課題の解決に取り組むことを考えている人や、現実の課題に取り組むことで実践力を磨きたい人にとって、この科目での経験は大いに役立つことでしょう。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP と関連しています。 （１）自立的で主体的な態度 （２）問題発見・解決力 （３）専門的知識・技能の活用力 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①地域の住民・事業者からの確に情報を収集し、分析することができる。 ②地域の問題と原因を明らかにし、解決すべき課題を明確にとらえることができる。 ③地域の課題に対して、観光の視点から実現可能な解決策を提案できる。 ④地域の課題に対する実践的な活動を振り返り、その活動の課題を発見し、改善点を示すことができる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	NPO 法人観光力推進ネットワーク・関西/日本観光研究学会関西支部（編）『地域創造のための観光マネジメント講座』学芸出版社、2016 年。 松永安光・徳田光弘（編著）『世界の地方創生 辺境のスタートアップたち』学芸出版社、2017 年 碓井崧・松宮朝編著『食と農のコミュニティ論』創元社、2013 年 その他、授業中に紹介します					
21.成績評価	現地調査レポート・・・50% 【学習目標①②に対応】 活動実践報告・・・50% 【学習目標③④に対応】					

22.コメント		この授業は集中講義です。予定を調整して全体での活動のほか、グループごとに時間を調整し、地域に実際に行って話を聞き、自分から行動して課題解決に取り組むことになります。いろいろな価値観の人との出会いや、地域の未来を真剣に考える人たちとの出会いを通じて、自らの将来を考えるきっかけも得られると思います。ぜひ積極的に挑戦してみてください。 ※現時点で検討している連携先 ・丹波篠山市福住まちづくり協議会 ・丹波県民局 ・南あわじ市 ・JTB ※授業時間：連携先の都合も踏まえて変則的な授業日程となります。また、土日
23.オフィスアワー		個人研究室：木曜 5 限 学修支援センター：金曜昼休み
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	【オリエンテーション】 ①授業概要の説明：本授業の目標・内容・評定算出の方法・授業日程と進め方の確認、受講上の留意点など ②グループ分け：連携先ごとにグループを決める。 ③ミニ講義：アイディアを生み出す考え方（発想法・デザイン思考 etc.）	【予習】観光地域づくりについて参考資料から 1 冊選び目を通しておく。
第 2 回	活動地域についての調査（1） ・グループ作業：地域の情報を集める。	【予習】自分の活動地域について調べておく。
第 3 回	第 1 回現地フィールドワーク準備 ・グループ作業：調査内容と調査計画を立案し、現地連携先と予定を調整する。	【復習】活動地域について調べた内容を見返して、不足する情報があれば追加する。
第 4 回	第 1 回現地フィールドワーク実施	【予習】現地情報を振り返っておく。 【復習】フィールドワークで得た情報をまとめておく。
第 5 回	現地フィールドワーク振り返りと課題の検討 ・得られた情報を整理し、気づきをまとめる。 ・その地域の問題と解決すべき課題を分析する。	【予習】フィールドワークで気づいたことを整理しておく。 【課題】現地調査報告をまとめて提出する（次回の授業まで。ワードで作成）。
第 6 回	第 2 回現地フィールドワーク準備 ・取り上げる課題について、更に現地で集めるべき情報を検討する。	【復習】第 1 回フィールドワークの結果をもう一度読んでおく。
第 7 回	第 2 回現地フィールドワーク実施	【予習】現地情報を振り返っておく。 【復習】フィールドワークで得た情報をまとめておく。
第 8 回	解決案の検討 ・現地フィールドワークを振り返り、新たに得られた情報をもとに、解決案を検討する。	【予習】フィールドワークで気づいたことを整理しておく。 【課題】①現地調査報告をまとめて提出する

		(次回の授業まで。ワードで作成)。 ②各自が解決案を一つまとめてくる。
第 9 回	解決案の提案と検討 (1) ・連携先と協議し、地域課題の解決案について意見交換をする。	【予習】地域情報をもう一度振り返っておく。
第 10 回	解決案の提案と検討 (2) ・連携先と協議し、実際の活動を決める。	【復習】前回の打ち合わせ内容を整理しておく。
第 11 回	課題解決の取り組み実践 (1) ・連携先と協働して課題解決の活動を進める。	【活動】活動の記録をきちんと残す。
第 12 回	課題解決の取り組み実践 (2) ・連携先と協働して課題解決の活動を進める。	【活動】活動の記録をきちんと残す。
第 13 回	課題解決の取り組み実践 (3) ・連携先と協働して課題解決の活動を進める。	【活動】活動の記録をきちんと残す。
第 14 回	課題解決の取り組み報告の準備 ・実際の活動の過程と結果をまとめ、発表資料を作成する。	【活動】活動の記録をきちんと残す。
第 15 回	活動の報告と振り返り	【課題】活動報告をまとめて提出する。(締切：2 月第 1 週金曜 17 時まで。ワードで作成し、メールで提出。詳細は授業時に説明する)

1.授業コード (ナンバリング)	CLI101-Y51	2.科目名	臨床心理学概論Ⅰ（2023 年度生・2024 年度生）		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子					
5.授業科目の区分	基幹科目 臨床心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	公認心理師 認定心理士 保育士			11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は臨床心理学に関する基本的な知識を身に付けることを目的とします。 【概要】 臨床心理学の全体構造を把握し、臨床心理学の歴史について知る。そしてカウンセリング、アセスメントの基礎について学ぶ。さらに「心の病」や自傷等について考える機会をもつ。これらのことを通して、臨床心理学全般についての基礎的な事柄について学ぶことを目的とする。					
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。DP（ディプロマ・ポリシー）のうち、多様性理解、専門的知識・技能の活用力の学修と関連しています。 ①臨床心理学の全体構造について説明することができる。 ②カウンセリングの基礎的事項について説明することができる。 ③アセスメントの基礎的事項について説明することができる。 ④その他の臨床心理学の基礎的事項について説明することができる。 ⑤心の病を患う人を理解するために、自分の心理状態と関連付けて考察することができる。					
19.教科書・教材	「よくわかる臨床心理学 改訂新版」 下山晴彦編 ミネルヴァ書房					
20.参考文献	適宜、紹介する。					
21.成績評価	◎毎回の感想レポート・・・30%（①②③④⑤に対応） ◎中間レポート・・・30%（①②③④に対応） ①あなたはなぜ臨床心理学を学ぼうと思ったのか ②心理的な問題とあなたはどのように向き合うか 1つの項目につき 800 字以上 1000 字以内 ◎Webclass テスト・・・40%（①②③④⑤に対応）					
22.コメント						
23.オフィスアワー	月曜日昼休み（研究室） 月曜日 2 限（センタープログラム）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 授業の進め方について			次回分のテキストを読む（90 分）		
第 2 回	臨床心理学とは何か 1 臨床心理学の理念と全体構造について			予習：次回分のテキストを読む（90 分） 課題：感想レポート提出		
第 3 回	臨床心理学とは何か 2 臨床心理学の歴史,活動内容			予習：次回分のテキストを読む（90 分） 課題：感想レポート提出		
第 4 回	臨床心理学の基盤となるモデル			予習：次回分のテキストを読む（90 分） 課題：感想レポート提出		
第 5 回	5.各領域における連携の在り方			予習：次回分のテキストを読む（90 分） 課題：感想レポート提出		

第 6 回	6.アセスメント 1 面接法、観察法	予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：感想レポート提出
第 7 回	7.アセスメント 2 検査法	予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：感想レポート提出
第 8 回	8.異常心理学とは	予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：感想レポート提出
第 9 回	9.心の病を考える（1）統合失調症	予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：感想レポート提出
第 10 回	10.心の病を考える（2）うつ病	予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：感想レポート提出 中間レポート
第 11 回	11.心の病を考える（3）不安障害	予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：感想レポート提出
第 12 回	12.心の病を考える（4）その他の精神障害	予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：感想レポート提出
第 13 回	13.心の病を考える（5）発達障害	予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：感想レポート提出
第 14 回	14.不適応行動の理解	課題：感想レポート提出
第 15 回	15.まとめと振り返り（テスト）	総括テスト（持ち込み可）

1.授業コード (ナンバリング)	CLl201-A51	2.科目名	臨床心理学Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	道免逸子					
5.授業科目の区分	臨床心理分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この講義の目的は、学校現場にも関連のあるストレスや健康増進に関する臨床心理の視点をみにつけることである。概要としては、ストレスとその影響及び対処法、食や睡眠など生活習慣と関連のある症状やその対処法、子どもの逆境体験の影響などについて扱う。授業の中で、対象者の理解度や状態に応じて、適宜グループワークも実施する。					
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の 1.自律的で意欲的な態度、2.社会に能動的に貢献する姿勢、 6.専門知識・技能の活用力に関連している。 本科目の学習目標は次の通りである。 ① ストレスとその影響について説明できる ② ストレス対処法についての基本が身についている ③ 予防と健康増進の意義について説明できる ④ 健康増進に役立つ臨床心理の視点を持っている					
19.教科書・教材						
20.参考文献	授業中に適宜紹介する。					
21.成績評価	毎回のコミュニケーションシート 4 × 13 52% 中間振り返り 24% 総括テスト 24%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：木曜日 2 限 山手 1 号館 2 階学修支援室 研究室オフィスアワー：火曜日お昼休み 山手 2 号館 2 階 204					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス			コミュニケーションシートの提出		
第 2 回	ストレスの生理と影響			コミュニケーションシートの提出		
第 3 回	ストレスのアセスメント			コミュニケーションシートの提出		
第 4 回	ストレスのコピーング ワークあり			コミュニケーションシートの提出		
第 5 回	ストレスの極、トラウマ 災害			コミュニケーションシートの提出		
第 6 回	適応障害			コミュニケーションシートの提出		
第 7 回	中間ふりかえり			コミュニケーションシートの提出		
第 8 回	予防と健康増進			コミュニケーションシートの提出		
第 9 回	食に関連した問題と睡眠に関連した問題			コミュニケーションシートの提出		
第 10 回	健康リスクとパーソナリティ研究			コミュニケーションシートの提出		
第 11 回	子どもの発達			コミュニケーションシートの提出		
第 12 回	ターミナルケア 夢分析からみた死			コミュニケーションシートの提出		
第 13 回	子どもの逆境体験とその影響			コミュニケーションシートの提出		
第 14 回	コミュニティ心理学とアウトリーチ			コミュニケーションシートの提出		
第 15 回	総括テスト					

1.授業コード (ナンバリング)	CLI207-Y51	2.科目名	応用犯罪心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山誠					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目は 2023 年度に開講された司法犯罪心理学（中山担当の 15 コマ）と内容が重複するので、同科目の単位を取得した 2023 年度の 2 年生以上の学生の履修は認めないので注意すること。 本科目は、犯罪の発生原因や犯罪捜査、矯正、裁判などに関わる心理学の理論や制度・法律を取りあげ、加害者、被害者、第三者といった様々な側面から、「犯罪」という現象に目を向け、犯罪への理解を深めるとともに、その解決に向けた心理学的支援について学習することを目的とする。 現在の犯罪の発生状況、検挙率の推移について学び、最近、発生が多い犯罪、その原因、判例、犯罪捜査を理解する。 (1)我が国の犯罪情勢について学ぶ (2)特殊詐欺の手口を学び、解決案の提案をする (3)死刑制度の存置と廃止について考える (4)被害者支援について学ぶ (5)犯罪発生メカニズムと理論を学ぶ (6)目撃証言について学ぶ					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ① 犯罪・非行の発生メカニズムを犯罪心理学の視点から説明できるようになる。 ② 犯罪・非行を繰り返させないための指導や効果的な教育・指導の内容を説明できるようになる。 ③ 犯罪・非行の抑止・解決に必要な要因を説明できるようになる。 ④ ①②③の知識をもとに問題を発見し、また、必要な情報を収集し、具体的な解決策を提示することができるようになる。					
19.教科書・教材	WebClass にレジュメをアップするので授業までに印刷しておくこと。					
20.参考文献	資料を配付する					
21.成績評価	・小レポート(講義の数日前までの範囲で新聞記事を読んで、講義の最初に小レポート)：10% 学習目標① と対応 ・ワーク（振り込め詐欺対策、死刑判決についてのグループ討議）：10% 学習目標③と対応 授業の 6 回目にグループ討議 ・レポート提出（死刑制度の存置もしくは廃止について）webclass：20% 学習の目標②に対応 ・最終試験：60%					

22.コメント	事件・裁判に関する資料収集、グループ討議など様々な形で積極的に講義に参加することを望む 遅刻・欠席は厳禁 受講態度により減点を行う場合があります。 (1) レポート作成に当たって a. レポートに引用する文献は、図書館にある専門書や学術雑誌を利用し、その際、出典を明確にしておくこと b. ネットは一次検索として用いるのはかまわないが、なるべく公的機関のホームページなどの情報に基づくこと 出所が不明確、無責任で根拠のない匿名記事は決して引用しないこと c. 専門知識 + 自分の考え 前提となる理論を明ら	
23.オフィスアワー	中山 ●曜日・ 板山：水曜昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	※奇数回は木曜：中山担当 ※偶数回は月曜：板山担当 第 01 回 ガイダンス ・ 本講義のねらいや、全体の構成について説明する。	毎回、犯罪に関する新聞記事を読んで整理しておく(2 時間)
	第 2 回 我が国の犯罪情勢について 警察組織と科学捜査	刑法などの法律用語、警察の組織名、担当部署の役割などについて専門用語調べておく(2 時間) 刑法犯の認知件数、手口別の件数、検挙率の推移を整理して最近の犯罪情勢をまとめる(2 時間)
	第 3 回 特殊詐欺 1 いわゆるオレオレ詐欺としての交通事故を伴う振り込め詐欺、架空請求、還付金詐欺について解説	特殊詐欺の代表的な 4 つの手口に関する専門用語を調べておく(2 時間) 特殊詐欺の発生件数と検挙率などを整理してまとめる(2 時間)
	第 4 回 特殊詐欺 2 融資保証金詐欺、株の取引、男女交際、ギャンブル必勝法詐欺などについて解説する	特殊詐欺の最近の手口に関する専門用語を調べておく(2 時間) 特殊詐欺の具体的手口を整理してまとめる(2 時間)
	第 5 回 特殊詐欺 3 システム詐欺の構造、なぜだまされるのか	これほどの防犯キャンペーンにもかかわらず、なぜ高齢者が特殊詐欺になぜ騙され続けるのかを考えて見る(2 時間) 特殊詐欺の騙しの手口についての社会心理学的考察をおこなう (2 時間)
	第 6 回 特殊詐欺 4 特殊詐欺に遭わないためには何をすればいいか、自分の意見をまとめた上で、グループで発表、討議する	特殊詐欺にあわないようにするにはどうしたらいいかを高齢者の立場で考える(2 時間) 特殊詐欺の発生防止に対する国の施策につ

	(特殊詐欺の対応に向けたレポートの準備)	いて新たな提案を考える (2 時間)
	第 7 回 山口県光市における母子殺人事件(1) 山口県光市で発生した 18 歳の少年による殺人事件 発生から第一審までの経緯	光市事件の概要を調べておく (2 時間) 少年の死刑判決の可能性について整理する (2 時間)
	第 8 回 山口県光市における母子殺人事件(2) 光市事件の二審以降の展開 最高裁判決までの経緯を 説明する 不謹慎な手紙、少年の実名報道について解説する	少年法の基本理念(1 条)、非行少年の分類、 少年の人権擁護(61 条) について調べる (2 時 間) 死刑判決に関する永山基準について整理し てまとめる(2 時間)
	第 9 回 山口県光市における母子殺人事件(3) これまでの死刑判決の判例を説明し、少年の死刑判決 の是非について考える	死刑判決の存置と廃止について諸外国の状況 を調べておく (2 時間) 我が国での死刑判決の判例と死刑判決の理 由について整理する(2 時間)
	第 10 回 死刑判決について グループ討議とレポートの準備	これまでに受けた講義を整理し、遺族の気 持ち、更生可能性、再犯防止の観点から光市 事件の判決の妥当性について、グループ討議 に野菱える (2 時間) 死刑判決の存置か廃止かについてどちらか を選択肢、その理由をまとめてレポートを作 成する(2 時間)
	第 11 回 被害者支援について学ぶ 兵庫県警被害者支援室から外部講師	被害者支援とは何か、なぜ必要かというこ とを予め調べておく(2 時間) 被害者支援に関する国内外の活動を整理 し、その必要性をまとめておく
	第 12 回 犯罪とパーソナリティについて ルーチンアクティビティ理論と犯罪原因論 この日までに、死刑判決の存置・廃止のレポートを webclass に提出。	犯罪の発生するメカニズムに関する理論を予 め調べておく(2 時間) ルーチンアクティビティ理論の有効性とそ の適用範囲についてまとめる(2 時間)
	第 13 回 性犯罪被害,特に少女姦 (ペドフェリア) に ついて 我が国の状況,アメリカのミーガン法と性犯罪者登録 公開システム	我が国で発生している不同意性交、子供に対 する性犯罪の発生状況とその原因を調べてお く(2 時間) ペドフェリアの原因と対策について整理す る (2 時間)
	第 14 回 目撃証言 ロフタスの目撃証言を否定する実験 認知面接法による改善 。	目撃証言に関するロフタスの実験的研究が どのようなものであったか、その概要と専門 用語を調べておく (2 時間) 誤った証言を引き出す理由とその対策につ いて整理しまとめておく (2 時間)

	第 1 5 回 振り返りと最終試験	講義中に学修した専門用語、理論を整理しておく

1.授業コード (ナンバリング)	CLI208-Y51	2.科目名	臨床心理学概論（2022 年度生以前 秋春通 年）		3.単位数	4
4.授業担当教員	田中亜裕子、横川滋章					
5.授業科目の区分	基幹科目 臨床心理学分野にお ける実務経験のある教員 による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期～2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	公認心理師 認定心理士 保育士			11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は臨床心理学に関する基本的な知識を身に付けることを目的とします。 【概要】 臨床心理学の全体構造を把握し、臨床心理学の歴史について知る。そしてカウンセリング、アセスメントの基礎について学ぶ。さらに「心の病」や自傷等について考える機会をもつ。これらのことを通して、臨床心理学全般についての基礎的な事柄について学ぶことを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。DP（ディプロマ・ポリシー）のうち、多様性理解、専門的知識・技能の活用力の学修と関連しています。 ①臨床心理学の全体構造について説明することができる。 ②カウンセリングの基礎的事項について説明することができる。 ③アセスメントの基礎的事項について説明することができる。 ④その他の臨床心理学の基礎的事項について説明することができる。 ⑤心の病を患う人を理解するために、自分の心理状態と関連付けて考察することができる。					
19.教科書・教材	「よくわかる臨床心理学 改訂新版」 下山晴彦編 ミネルヴァ書房					
20.参考文献	適宜、紹介する。					
21.成績評価	◎毎回の感想レポート・・・30%（①②③④⑤に対応） ◎中間レポート・・・30%（①②③④に対応） ①あなたはなぜ臨床心理学を学ぼうと思ったのか ②心理的な問題とあなたはどのように向き合うか 1つの項目につき 800 字以上 1000 字以内 ◎Webclass テスト・・・40%（①②③④⑤に対応）					
22.コメント						
23.オフィスアワー	月曜日昼休み（研究室） 月曜日 2 限（センタープログラム）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 授業の進め方について			次回分のテキストを読む（90分）		
第 2 回	臨床心理学とは何か 1 臨床心理学の理念と全体構造について			予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：感想レポート提出		
第 3 回	臨床心理学とは何か 2 臨床心理学の歴史,活動内容			予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：感想レポート提出		
第 4 回	臨床心理学の基盤となるモデル			予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：感想レポート提出		
第 5 回	5.各領域における連携の在り方			予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：感想レポート提出		

第 6 回	6.アセスメント 1 面接法、観察法	予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：感想レポート提出
第 7 回	7.アセスメント 2 検査法	予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：感想レポート提出
第 8 回	8.異常心理学とは	予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：感想レポート提出
第 9 回	9.心の病を考える（1）統合失調症	予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：感想レポート提出
第 10 回	10.心の病を考える（2）うつ病	予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：感想レポート提出 中間レポート
第 11 回	11.心の病を考える（3）不安障害	予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：感想レポート提出
第 12 回	12.心の病を考える（4）その他の精神障害	予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：感想レポート提出
第 13 回	13.心の病を考える（5）発達障害	予習：次回分のテキストを読む（90分） 課題：感想レポート提出
第 14 回	14.不適応行動の理解	課題：感想レポート提出
第 15 回	15.まとめと振り返り（テスト）	総括テスト（持ち込み可）

1.授業コード (ナンバリング)	CLI209-Y51	2.科目名	心理演習		3.単位数	4
4.授業担当教員	山本喜晴、田中亜裕子、山本真由美					
5.授業科目の区分	展開科目 臨床心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 認定スポーツカウンセラー 公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義，ロールプレイ，グループワーク，ビデオ視聴		
16.履修制限	【履修制限について】 ※1 クラス15名の履修制限があります。 ※第1回授業の前日17：00までに履修登録ができていない場合、第1回授業に欠席の場合は履修を認めません。 ※履修希望者が45名を超える場合、公認心理師資格取得の希望と成績を考慮して履修者を決定します。 ※実技科目のため対面による授業となります。遠隔では受講できませんのでご注意ください。 【第1回授業について】 ※第1回でクラス分けを行います。前日17：00までに履修登録したうえで出席してください。 ※第1回は合同で行いますので教室については掲示					
17.授業の目的と概要	公認心理師としての知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。 心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び?支援計画の作成、心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、多職種連携及び?地域連携、公認心理師としての職業倫理及び?法的義務への理解について、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイ）や事例検討等を行い、これらに関する基本的な知識及び技術の修得を目標とする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①コミュニケーション実習、心理面接のロールプレイングを通して、カウンセラーの基本姿勢を身に付けることができる。 ②心理検査のロールプレイングを通して、心理検査実施に必要な知識を習得し、技能を身に付けることができる。 ③事例検討を通して、事例理解に必要な基本的な知識、および技能を周到することができる。 ④チームアプローチの意義、および多職種間の連携と地域支援について理解することができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	授業中に随時紹介する					
21.成績評価	①実習、ロールプレイングのワークシート 15% 実習、ロールプレイングのパフォーマンス評価 10%					

	②心理検査レポート 25% ③事例検討後のレポート 25% ④総括試験 25%	
22.コメント		
23.オフィスアワー	【山本真】 センターオフィスアワー：神戸山手キャンパス火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：神戸山手キャンパス水曜日昼休み 【山本喜】 センターオフィスアワー：神戸山手キャンパス火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：神戸山手キャンパス火曜 1 限 【田中】 センターオフィスアワー：神戸山手キャンパス水曜昼休み 研究室オフィスアワー： 神戸山手キャンパス木曜 3 限	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	1.オリエンテーションとクラス分け 2.自己紹介のワーク	
第 2 週	3.カウンセリングとは何か 4. コミュニケーション実習 1 受容技法	ワークシートの完成
第 3 週	5.職業倫理と法的義務 6. コミュニケーション実習 2 繰り返し技法	ワークシートの完成
第 4 週	7.地域支援 8.コミュニケーション実習 3. 明確化技法	ワークシートの完成
第 5 週	9.チームアプローチと多職種間連携 10.コミュニケーション実習 4 支持技法	ワークシートの完成
第 6 週	11.遠隔による心理支援 12.コミュニケーション実習 5 質問技法	ワークシートの完成
第 7 週	13.14.心理面接ロールプレイング	ワークシートの完成
第 8 週	15.16.心理検査ロールプレイング 1. 質問紙法	ワークシートの完成
第 9 週	17.18.心理検査ロールプレイング 2 描画法	ワークシートの完成
第 10 週	19.20.心理検査ロールプレイング 3：知能検査	ワークシートの完成
第 11 週	21. 事例検討に必要な視点の理解 22.支援計画作成に必要な視点と支援計画作成の方法	ワークシートの完成
第 12 週	23.事例検討 1 24.支援計画の作成	ワークシートの完成
第 13 週	25.事例検討 2 26.支援計画の作成	ワークシートの完成
第 14 週	27.事例検討 3 28.支援計画の作成	ワークシートの完成

第 15 週	29.総括試験 30.まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	CLI212-Y81	2.科目名	人体の構造と機能及び疾病（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	心理学部心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	公認心理師受験資格取得			11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	オンデマンド	
16.履修制限	制限は設けないが、公認心理師を目指す学生を対象と想定して授業を進める。					
17.授業の目的と概要	本科目は、公認心理師（国家資格）養成に必要な 25 科目の中の必須科目である。公認心理師として疾病を有する者の心理について相談を受けたり、助言したりする。したがって、公認心理師としてさまざまな疾病について知ることを目的とする。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標には DP(ディプロマポリシー)の 6 つ、自律性、社会的貢献性、多様性理解、問題発見・解決力、コミュニケーションスキル、専門的知識・技能の活用力が関わる。 公認心理師受験資格取得を目指す学生として、授業での課題に自律的に関わり、社会にどのように貢献できるかを視野に入れながら、解決を目指した考えをレポートにまとめ、授業中に発表する。 本科目の学習目標は、以下の 2 つである。 ①心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害を説明できる。 ②がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病を説明できる。					
19.教科書・教材	教科書は使用しない。他に教材として power point と webclass, 画像を使用する。					
20.参考文献	授業中に適宜紹介する。 人体の構造と機能及び疾病 武田克彦他編 医歯薬出版株式会社 2019 3,200 円＋税					
21.成績評価	webclass を利用した授業回毎のレポート・課題解答（授業内容について考えたこと）@5×14 点、 webclass を使用した総括試験（全範囲の知識が記述されたか）30 点					
22.コメント	冬学期期間：2 月 4 日～2 月 19 日に受講してください。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：神戸山手 C 水曜日昼休み。 希望者は、事前にメールで予約を取って欲しい。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	イントロダクション 授業の目的、学習目標と DP との関連、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法、心理職に求められる医学的知識			予習：シラバスを読む。 復習：授業中に理解した内容を整理し、まとめて webclass にレポートとして報告する。		
第 2 回	1. 人体の構造と機能			予習：資料を読む。 復習：webclass に提示した課題に解答する。		
第 3 回	2. 心に関わる統合器官系			予習：資料を読む。 復習：webclass に提示した課題に解答する。		
第 4 回	3. 小児の成長発達と疾患			予習：資料を読む。 復習：webclass に提示した課題に解答する。		
第 5 回	4. 加齢と疾患			予習：資料を読む。 復習：webclass に提示した課題に解答する。		
第 6 回	5. 内科疾患への理解			予習：資料を読む。 復習：webclass に提示した課題に解答する。		
第 7 回	6. 整形外科疾患への理解			予習：資料を読む。		

		復習：webclass に提示した課題に解答する。
第 8 回	7. 精神疾患への理解	予習：資料を読む。 復習：webclass に提示した課題に解答する。
第 9 回	8. 神経疾患への理解	予習：資料を読む。 復習：webclass に提示した課題に解答する。
第 10 回	9. 難病への理解	予習：資料を読む。 復習：webclass に提示した課題に解答する。
第 11 回	10. 癌への理解	予習：資料を読む。 復習：webclass に提示した課題に解答する。
第 12 回	11. 周産期医療への理解	予習：資料を読む。 復習：webclass に提示した課題に解答する。
第 13 回	12. 感染症の理解と対策	予習：資料を読む。 復習：webclass に提示した課題に解答する。
第 14 回	まとめと総括試験について	予習：資料を読む。 復習：Web Class に回答
第 15 回	総括試験	最終確認を行う。

1.授業コード (ナンバリング)	CMP104-A51	2.科目名	ICT 活用 A		3.単位数	2
4.授業担当教員	陳那森					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	この授業では、ノートパソコンを利用した演習を中心に進める関係で、受講人数を 30 名に制限する。 履修登録者が制限人数を超えた場合、上級学年から優先して受講者数を決定する。					
17.授業の目的と概要	この授業では、Python（無償）というプログラム（※）を作るためのソフトウェアを各自のパソコンにセットアップした上で、その基本的な使い方を習熟するとともに、実際のデータを用いた分析の基礎、データ可視化の基本技法などを講義・演習を行うことを目的とする。この授業はプログラミング初学者を対象とするため、基本的な内容に絞り、演習時間を多く設ける。 2020 年度から、プログラミング教育が小学校での必修化が始まった。Python はシンプルながら汎用性が高く、データ分析や機械学習、AI を始めとする多くの分野で使われている最も人気のあるプログラミング言語である。 ※ プログラムとは、コンピュータに実行してもらう作業の順番を記述した指示書のことである。					
18.学習目標と DP との関連	①Python プログラミングの必要性を理解する。 ②自分のパソコンに Python のプログラミング環境を構築する。 ③小さなプログラムの作成を通して Python の基本的な構文を理解する。 ④実際のデータを用いたやや実践的な Python プログラムをコーディングできる。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性、(4) 問題発?・解決? (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	いちばんやさしい Python 入門教室 改訂第 2 版、大澤文孝著、ISBN978-4-8007-1321-6					
20.参考文献	Marketing Python マーケティング・パイソン AI 時代マーケターの独習プログラミング入門（できるビジネス）、高田朋貴他著、インプレス、ISBN9784295008613 「スラスラ読める Python ふりがなプログラミング 増補改訂版」、リブロワークス（著）、株式会社ビープラウド（監修）、出版社?:インプレス、ISBN-13:978-4295011743					
21.成績評価	平常提出物：30 点 小課題：30 点 最終課題：40 点					
22.コメント	すべての回で、個人所有の PC を利用する。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 1 回 プログラムってなんだろう 1-1 プログラムとは命令を集めたもの 1-2 プログラムはどうやって作るの？ 1-3 プログラムを作るには、何が必要なの？ 1-4 何を勉強すればいいの？ 第 2 回 Python を始めよう 2-1 Python を使うには 2-2 Python をインストールする			第 2 回以降は、授業中に取組んだ成果物を授業時間中に提出を求める。小課題を 3 回課す。		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CMP104-M51	2.科目名	ICT 活用 A （データサイエンス実践基礎）		3.単位数	2
4.授業担当教員	山下泰生					
5.授業科目の区分	コモンベアソックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学（三木 C）			9.履修学年	1 年秋	
10.取得資格の要件	数理・DS・AI 教育プログラム 選択(4.オプション)科目		11.先修条件	ICT リテラシーの単位を取得していることが望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： データサイエンスは、科学と産業に同様に革命を起こす分野として浮上しており、今後のビッグデータ社会において、欠かせない基礎的素養となる。この科目はデータサイエンス実践の基礎として、Python プログラミングの基礎を修得とともに、データ分析の基本を身につけることを目的とする。 概要： この 10 年間、様々な分野の分析業務において、スプレッドシート（Excel など）の使用は R や Python などコードスクリプトに取って代わられている。ビジネスアナリストにおいても、データサイエンスや機械学習などによる自動化手法が広がっている。その要所は R や Python スクリプトの習得にある。本科目は、Python プログラムを実行する環境の構築、Python プログラミング基本技法を習得した後、応用として Pyhton による実のビジネスデータを分析する基礎を学習する。					
18.学習目標と DP との関連	① コンピュータを用いたデータ分析ツール、環境構築の基礎を理解している。 ② Python プログラミングの基礎と基本技法を習熟している。 ③ 実データ・実課題の演習を通して、データ分析の基礎を理解している。 ④ 社会での実例を使ったデータ分析及びデータ可視化の基本技法が分かる。 ⑤ コンピュータを用いた分析の特徴の概要を説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：使用配布 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料、データを掲載する。					
20.参考文献	参考書：『データサイエンス入門（Python によるビジネスデータサイエンス 1）単行本』（笹嶋宗彦（編集））その他、必要に応じて紹介する。					
21.成績評価	リグレーションシート(20%)、基礎課題(15%)、応用課題(40%)、総合課題(25%) （内訳および学習目標対応） リグレーションシート ： 4 回?5 = 20 点 【学習目標 ①②③④⑤】 基礎課題 ： 3 回?5 = 15 点 【学習目標 ①②】 応用課題 ： 8 回?5 = 40 点 【学習目標 ③④⑤】 総合課題 ： 1 回?25= 25 点 【学習目標					
22.コメント	講義では、ほぼ毎回ノート PC を利?するため、授業前?に動作確認とバッテリーの充電をすること。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー 水曜昼休み（三木 C 副学長室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 1 回 受講ガイダンス ・シラバス説明・授業の進め方 ・コンピュータを用いたデータ分析ツールの基礎			本講義では PC を利用する。 PC 空容量確認 環境構築用配布資料熟読		

	・BYOD のシステム環境確認（次回から P C 必携）	
	第 2 回 データ分析のためのプログラミング環境の構築 ・ Anaconda による環境構築：ウンロード ・ Anaconda のインストール ・ プログラミング環境の動作確認	配布資料 環境構築用配布資料熟読（事前） 動作環境確認チェックシート（チェック後提出）
	第 3 回 Python プログラミングの基礎（1） ・ Python の特徴と Jupyter Notebook ・ 文法の基本 ・ 式とデータ構造（変数、リスト、タプル） ・ 制御構造（1）（順次、分岐） 真偽の判定（比較演算子・論理演算子） ・ 関数とライブラリ（1）	基礎課題 1（提出） リグレーションシート①
	第 4 回 Python プログラミングの基礎（2） ・ 制御構造（2）（繰り返し） 真偽の判定（比較演算子・論理演算子） 繰り返し制御（～まで、～の間） ・ 配列（リスト、タプル） ・ 関数とライブラリ（2） ・ オブジェクトの考え方	基礎課題 2（提出） 制御構造 リグレーションシート②
	第 5 回 Python プログラミングの基礎（3） Python プログラミングのまとめ	基礎課題 3（プログラミング基礎まとめ）（提出）
	第 6 回データを扱う基本（1） ・ データの集計（和、平均、中央値） ・ 表形式のデータ（csv）の扱い ・ データの読み込みと分析演習（1）	応用課題 1（提出） データ入力・集計（1）
	第 7 回データを扱う基本（2） ・ データの並び替え、ランキング ・ 表形式のデータ（csv）の扱い ・ データの読み込みと分析演習（2）	応用課題 2（提出） データ入力・集計（2）
	第 8 回データの読込とデータ可視化の基本技法（1） ・ プログラミングによるデータ分析（ヒストグラム・箱ひげ図） ・ プログラミングによるデータ分析（平均と分散） ・ 気象庁データを用いたグラフ作成演習配布資料	応用課題 3（提出） データ入力・集計（3）
	第 9 回データの読込とデータ可視化の基本技法（2） ・ 変数間の関係を調べる ・ プログラミングによるデータ分析（散布図と相関係数） ・ プログラミングによるデータ分析（回帰直線） ・ 実データを用いた演習配布資料	応用課題 4（提出） データ入力・集計（4）
	第 10 回データを用いた分析（1） ・ オープンデータの入手（気象庁、e-Stat、等） ・ csv ファイルの扱い	応用課題 5（提出） データ入力・集計（5）
	第 11 回データを用いた分析（2） ・ 線形単回帰の概要 ・ 線形回帰による予測	応用課題 6（提出） データ入力・集計（6）

	・ Python による回帰	
	第 1 2 回時系列データ分析（1） ・ 時系列データとは ・ 移動平均 ・ 時系列の季節調整トピック動画	応用課題 7（提出） データ入力・集計（7）
	第 1 3 回時系列データ分析（2） ・ 時系列データ分析課題の要求 ・ 時系列データ分析の取り組み	応用課題 8（提出） データ入力・集計（8）
	第 1 4 回総合課題 ・ 問題の説明 ・ データ入手	総合課題（準備） ・ 実データを用いた分析（データの検索～入手）
	第 1 5 回総括および総合課題	総合課題（提出） ・ 実データを用いた分析（データの分析） リグレーションシート④

1.授業コード (ナンバリング)	CMP104-Y51	2.科目名	ICT 活用 A （データサイエンス実践基礎）		3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史					
5.授業科目の区分	DS 教育プログラム科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学（神戸山手 C）			9.履修学年	2 年秋	
10.取得資格の要件	数理・DS・AI 教育プログラム 選択(4.オプション)科目		11.先修条件	「データサイエンス」「基礎統計学 A」をを 受講していることが望ましい。 社会学部の 2 年春にある「Python プログラ ミング演習」を履修しておくことも強く推奨 する。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： データサイエンスは、科学と産業に同様に革命を起こす分野として浮上しており、今後のビッグデータ社会において、 欠かせない基礎的素養となる。この科目はデータサイエンス実践の基礎として、Python プログラミングの基礎を修得とともに、Python によるデータ分析の基本を身につけることを目的とする。 概要： この 10 年間、様々な分野の分析業務において、スプレッドシート（Excel など）の使用は R や Python などコードスクリプトに取って代わられている。ビジネスアナリストにおいても、データサイエンスや機械学習などによる自動化手法が広がっている。その要所は R や Python スクリプトの習得にある。本科目は、Python プログラムを実行する環境の構築、Python プログラミング基本技法を習得した後、応用として Python による実のビジネスデータを分析する基礎を学習する。					
18.学習目標と DP との関連	1. コンピュータを用いたデータ分析ツール、Anaconda（Python）環境構築の基礎を理解している。 2. Python プログラミングの基礎と基本技法を理解している。 3. 実データ・実課題の演習を通して、Python でデータ扱い基本を理解している。 4. データを読むとデータ可視化の基本技法が分かる。 5. 実データセットを用いてより高度な分析が分かる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：『データサイエンス入門（Python によるビジネスデータサイエンス 1）単行本』（笹嶋宗彦（編集）） 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。					
20.参考文献	参考書：必要に応じて紹介する。 スッキリわかる Python 入門,国本大悟 （著），須藤秋良 （著），株式会社フレアリンク（監修）					
21.成績評価	課題やレポート(70%)、リフレクションシートおよびアピールシート(30%) 課題やレポートは、授業関連内容の調査、考察【学習?標①②③④⑤に対応】 リフレクションシート 【学習?標①②③④⑤に対応】					
22.コメント	講義では、ほぼ毎回でノート PC を利?しますので、授業前?にきちんと動作確認とバッテリーの充電をしてくることをおすすめします。					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー （神戸山手） 研究室オフィスアワー （神戸山手）					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第1回 受講ガイダンス ・シラバス説明・授業の進め方 ・コンピュータを用いたデータ分析ツールの基礎 ・BYOD のシステム環境確認	本講義では PC を利用する。
	第2回 データ分析のためのプログラミング環境の構築 ・Anaconda による環境構築：ダウンロード ・Anaconda のインストール ・プログラミング環境の動作確認	配布資料 課題①
	第3回 Python プログラミングとデータ分析基礎 (1) ・文法の基本 ・変数・四則演算・式・関数 ・オブジェクトの種類と操作・演算 ・実践的プログラミング演習	トピック動画 配付資料 リグレーションシート①
	第4回 Python プログラミングとデータ分析基礎 (2) ・真偽の判定 (比較演算子・論理演算子) ・パッケージのインストール・読み込み ・データセットを使ったプログラミング演習	トピック動画 配付資料 課題②
	第5回 データを扱うの基本 (1) ・データの集計 (和、平均) ・表形式のデータ (csv) の扱い ・データの読み込みと分析演習	トピック動画 配付資料 リグレーションシート②
	第6回 データを扱うの基本 (2) ・データの並び替え、ランキング ・表形式のデータ (csv) の扱い ・データの読み込みと分析演習	トピック動画 配付資料 課題③
	第7回 データを読むとデータ可視化の基本技法 (1) ・プログラミングによるデータ分析 (ヒストグラム・箱ひげ図) ・プログラミングによるデータ分析 (平均と分散) ・気象庁データを用いたグラフ作成演習	配付資料 小テスト①
	第8回 データを読むとデータ可視化の基本技法 (2) ・変数間の関係を調べる ・プログラミングによるデータ分析 (散布図と相関係数) ・プログラミングによるデータ分析 (回帰直線) ・実データを用いた演習	配付資料 小テスト
	第9回 実データを用いた分析 (1) ・オープンデータの入手 (e-Stat) ・csv ファイルの扱い ・「コメ離れ分析」演習	トピック動画 配付資料 課題④
	第10回 実データを用いた分析 (2)	トピック動画

	・線形単回帰の概要 ・線形回帰による予測 ・Python による回帰	配付資料 小テスト 授業感想
	第 1 1 回 時系列データ分析 ・時系列データとは ・移動平均 ・時系列の季節調整	トピック動画 配付資料 課題⑤
	第 1 2 回 時系列データ分析課題 ・時系列データ分析課題の要求 ・時系列データ分析の取り組み	トピック動画 配付資料 小テスト 授業感想
	第 1 3 回 より高度な分析 ・クラスタリングとは ・k-means アルゴリズム ・k-means によるクラスタリング分析演習	配付資料 課題⑥
	第 1 4 回 総合課題	配付資料 参照リンク リフレクションシート
	第 1 5 回 総括および最終レポート	小テスト② アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	CMP105-Y51	2.科目名	情報ネットワーク演習（留）		3.単位数	2
4.授業担当教員	中島康二					
5.授業科目の区分	専門教育科目 基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生クラスです。					
17.授業の目的と概要	？的？テーマ？社会の諸問題の解決のための、情報ネットワーク活？を修得する概要？ 情報社会の有効性と問題点を認識し、主体的に判断して？動できる未来社会に貢献できる？財育成のための授業です。情報ネットワーク技術の仕組みと社会における役割を正しく理解し、同学部で詳しく学ぶモデル化とシミュレーションの技法を？いて、問題発？・明確化による定義・分析・検証をおこない、データサイエンスを活？した評価軸を構築することにより、最先端の情報ネットワーク技術を倫理的且つ適切に活？して、未来社会が豊かになるように問題解決にむけた基礎能？を習得していく。					
18.学習目標と DPとの関連	本科？の学習？標（＝？につくスキル）は次の通りです。 1. コンピュータネットワークの種類や構成？式の基本知識を説明できる 2. データ通信と制御の仕組みに関する基本知識について説明できる 3. BYOD で展開する ICT 学習環境全般（LAN とインターネットの構成、？学の情報ネットワーク環境等）について説明できる 4. ネットワークを介したファイル交換、設定、利？？法などの基本スキルを場？に応じて適切に実？することができる（ユーザー視点） 5. クラウドを含めた情報ネットワーク技術に関する基本的な設定？法やスキルを場？に応じて適切に実？することができる（情報ネットワーク管理者の視点） [関連するディプロマポリシー] （1）？律性（3）多様性理解（4）問題発？・解決？（5）コミュニケーションスキル（6）専？的知識・技能 の活？？					
19.教科書・教材	授業中に適宜資料を配付します。					
20.参考文献	『本当にやさしく学びたい人の！ 絵解き ネットワーク超入門』 増田若奈，技術評論社，2019 年 『クラウド活用テクニック 150 2020 年最新版』 河本 亮，スタンダード株式会社，2020 年					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 （1） 学習日誌「今日学んだこと」の投稿×15 回 （？標 1・2・3・4 に対応） 15% （2） ブロック課題：情報デザインワーク「伝えたいことの整理」（学習？標 2 に対応） 20% （3） ブロック課題：フローチャート図作成（学習？標 3 に対応） 20% （4） ブロック課題：クラウドサービス紹介スライド作成（学習目標 4・5 に対応） 20% （5） 最終課題：この授業で学んだことの整理ワーク（学習？標 1・2・					
22.コメント	・各回の授業で提？される予習・復習は、下表の「26. アサインメント（宿題）など」の欄に記載しています。（個？差はありますが）それぞれ 120 分程度の作業となることを想定しています。					
23.オフィスアワー	月曜日昼休み 学習支援センター（1 号館 2 F） （別途：メール予約で受付）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	オリエンテーション 本授業のカリキュラムにおける位置づけ、本授業の概要、到達目標、評価方法、授業の進め方等	毎回授業終了前_学習日誌「今日やったこと」を WebClass で投稿×15 回
ブロック 1 第 2 回	メディアとコミュニケーション（レクチャー） ・ コミュニケーションツールのワーク（Outlook・Zoom 活用）	事前：Outlook アプリ準備 事後：Zoom 試行
第 3 回	情報デザイン（レクチャー） ・ 抽象化・可視化・構造化のワーク ブロック課題についての解説	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 4 回	情報デザイン（ワークのつづき） ・ 抽象化・可視化・構造化のワーク	事前：引き続きブロック課題の実施 事後：引き続きブロック課題の実施
第 5 回	情報のデジタル化（レクチャー） ・ 文字のデジタル化ワーク	事前：引き続きブロック課題の実施 事後：引き続きブロック課題の実施 ブロック課題①：情報デザインワーク成果物提出
ブロック 2 第 6 回	コンピュータの仕組み（レクチャー） ブロック課題についての解説	事前：配付資料の精読 事後：学習内容の復習
第 7 回	アルゴリズムとプログラム（レクチャー） ・ 手順整理ワーク ・ フローチャート・アクティビティ図作成ワーク	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 8 回	アルゴリズムとプログラム（ワークのつづき） ・ フローチャート・アクティビティ図作成ワーク	事前：引き続きワークの作業 事後：引き続きワークの作業
第 9 回	アルゴリズムとプログラム（ワークのつづき） ・ プログラミングワーク（Scratch） モデル化とシミュレーション（レクチャー） ・ モデルを利用した問題解決ワーク	事前：配付資料の精読 事後：ブロック課題の実施 ブロック課題②：フローチャート作成成果物提出
ブロック 3 第 10 回	情報通信ネットワークのしくみ（レクチャー） ・ ネットワーク設定の確認ワーク	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 11 回	情報通信ネットワークのしくみ（レクチャー） ・ html 作成ワーク（簡単な自己紹介 HP 作成）	事前：配付資料の精読 事後：クラウドサービス紹介スライド作成
第 12 回	html 作成ワークと作成した HP の共有	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 13 回	情報システムとデータの活用（レクチャー） ・ 情報サービスを調べるワーク	事前：配付資料の精読 事後：ワークのつづき作業
第 14 回	情報通信ネットワークのしくみ（レクチャー） ・ クラウドサービス活用ワーク	事前：配付資料の精読 事後：ブロック課題の実施 ブロック課題③：クラウドサービス紹介スライド提出
第 15 回	学びの振り返り、自己評価、ポートフォリオ記述 / 総評	最終課題：この科目で学習したことを整理して提出

1.授業コード (ナンバリング)	CMP106-Y51	2.科目名	データベース基礎		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本敏幸					
5.授業科目の区分	教員の免許状取得のための 必修科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部データサイエンス専攻			9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件	教員の免許状取得のための 必修科目です。 データベースの基礎となる科目 です。		11.先修条件	情報リテラシー		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	授業のテーマ及び概要 テーマ： 現代社会の様々な問題解決に向けて、その判断基準の根拠となる信憑性のある情報データを格納するためのデータベースの設計ができる技能を身に着ける さらに、問題解決の過程で、データベースのデータから導き出される法則性・ルール・傾向等を、統計的なアプローチを使って、モデルを構築できる 授業の概要 現代社会には様々な情報価値が存在します。また、社会には常に既存の社会データ・価値から何らかの新たな価値を生み出そうとする「流れ」があります。データベースを使うと、既存の社会の情報価値を可視化し、未来予測し、新たな価値について知ることができるようになります。本授業では、社会の様々な問題解決のためのツールとして、データベースを活用することを修得します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習到達?標（=?につくスキル）は次の通りです。 到達目標： 1. データベースの目的、データベースモデルの基礎知識について説明できる（知識理解） 2. データベースの設計及びデータベース管理の基本知識について説明できる（知識理解） 3. データ操作における SQL の基本作業（挿入、削除、参照、関係演算など）の基本作業を実行できる（操作スキル） 4. DBMS ツール（データベース管理システム）を用いて、解決すべき問題や課題の領域に合わせて、実分野のデータベース構築を行うことができる（PBL 形式の学びによる実践応用スキルを身に付ける） [関連するディプロマポリシー] （1）?律性（3）多様性理解（4）問題発?・解決?（5）コミュニケーションスキル（6）専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	テキスト 『SQL 第2版 ゼロからはじめるデータベース操作（プログラミング学習シリーズ）』ミック著、翔泳社、2016 年					
20.参考文献	参考書・参考資料等					

	・実践 Python によるデータベース入門 - MySQL, MongoDB, CouchDB の基本操作からアプリプログラミングまで - (Japanese) Tankobon Hardcover ? August 9, 2020. コロナ社. ・Python データベースプログラミング入門. 日向俊二著. 2019.カットシステム. ?授業中、適宜資料を、WebClass を通して電子配付する。	
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 (1) 知識テスト×4 回 (学習?標 1・2 に対応) 40% →各テストは WebClass の画面上で実施します。 →各テストは「満点」で合格です。(何度でもチャレンジできます) →実施時期は、授業の中で指?します。 (2) 総括テストに相当する演習課題 (60%) →演習課題への相互コメント (学習?標 3・4 に対応) 10% →演習課題 (発表・振り返り) (学習?標 3・4 に対応) 50% * 定期試験はおこなわず、平常点で	
22.コメント	・各回の授業で提?される予習・復習は、下表の「26. アサインメント (宿題) など」の欄に記載しています。(個?差はありますが) それぞれ 120 分程度の作業となることを想定しています。	
23.オフィスアワー	火曜日 V 時限目 (山手 C・1 号館 4 0 5 - 1 号室)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	第 1 回：オリエンテーション (ライフロングラーニングから見た、本授業のカリキュラムにおける位置づけ、本授業の概要、到達目標、評価基準、授業の進め方等)、クリティカルシンキング力や PBL 学習でデータベースをツールとして使うという考え方、授業の趣旨説明・進め方について説明する	・(授業前・授業中) 授業では PC を使い、演習形式でおこないます。PC 持参で受講して下さい。 ・(授業中・授業後) 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること ・WebClass の理解度確認テストで理解度を確認すること
第 2 回	第 2 回：エクセルからデータベースへ。「データベース」という考え方・データベースの種類。情報価値のデータ化・データ構造・データの型。主キーの概念。学習環境の構築をおこなう (データベースをインストールする)。	・(授業前・授業中) 授業では PC を使い、演習形式でおこないます。PC 持参で受講して下さい。 ・(授業中・授業後) 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること ・WebClass の理解度確認テストで理解度を確認すること
第 3 回	第 3 回：データベースのデータを操作する (テーブル作成、データ型設定、挿入、削除、参照など)、アルゴリズム (ソート)。データベース演習 I (基本操作編) をおこなう。	・(授業前・授業中) 授業では PC を使い、演習形式でおこないます。PC 持参で受講して下さい。 ・(授業中・授業後) 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること ・WebClass の理解度確認テストで理解度を確認すること
第 4 回	第 4 回：実際にデータベースを使って、データの探索 (配列とデータの探索)。データベース演習 II (データ検索操作編) をおこなう。	・(授業前・授業中) 授業では PC を使い、演習形式でおこないます。PC 持参で受講して下さい。 ・(授業中・授業後) 授業で課す課題に取り組み、授業後に

		WebClass の指示に従い提出すること ・ WebClass の理解度確認テストで理解度を確認すること
第 5 回	第 5 回：第 4 回に引き続き、データの探索（ハッシュを使った探索）について学んでいく。	・（授業前・授業中） 授業では PC を使い、演習形式でおこないます。PC 持参で受講して下さい。 ・（授業中・授業後） 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること ・ WebClass の理解度確認テストで理解度を確認すること
第 6 回	第 6 回：データの可視化について学ぶ。特に、グラフ構造（グラフの基礎、グラフを表現するデータ構造）について実習形式で学びを深める。	・（授業前・授業中） 授業では PC を使い、演習形式でおこないます。PC 持参で受講して下さい。 ・（授業中・授業後） 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること ・ WebClass の理解度確認テストで理解度を確認すること
第 7 回	第 7 回：問題を解くための技術（プログラミング基本）クリティカルシンキングのツールとしてデータベースを活用する方法について学ぶ。	・（授業前・授業中） 授業では PC を使い、演習形式でおこないます。PC 持参で受講して下さい。 ・（授業中・授業後） 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること ・ WebClass の理解度確認テストで理解度を確認すること
第 8 回	第 8 回：問題を解くための技術（プログラミング応用、Python）、実際に身近な問題をデータベースを使って、クリティカルシンキングしてみる。	・（授業前・授業中） 授業では PC を使い、演習形式でおこないます。PC 持参で受講して下さい。 ・（授業中・授業後） 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること ・ WebClass の理解度確認テストで理解度を確認すること
第 9 回	第 9 回：現代社会を支えるアルゴリズム（ハッシュ関数・公開鍵暗号基盤・データ圧縮の技術など）について例を参照しながら、学ぶ。	・（授業前・授業中） 授業では PC を使い、演習形式でおこないます。PC 持参で受講して下さい。 ・（授業中・授業後） 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること ・ WebClass の理解度確認テストで理解度を確認すること
第 10 回	第 10 回： PBL 形式による演習 I（チームビルディング、ブレインストーミング（日常の問題・課題の定義・クリティカルシンキング）、ディスカッション（問題解決に向けて必要となるデータ情報の洗い出し・データベース設計）をおこなう。	・（授業前・授業中） 授業では PC を使い、演習形式でおこないます。PC 持参で受講して下さい。 ・（授業中・授業後） 授業で課す課題に取り組み、授業後に

		WebClass の指示に従い提出すること ・ WebClass の理解度確認テストで理解度を確認すること
第 11 回	第 11 回： PBL 演習 II（データベース設計・作成） 第 10 回： PBL 形式による演習 I に引き続き、日常の問題・課題の定義・クリティカルシンキング、問題解決に向けて必要となるデータ情報の洗い出しからデータベース設計を完成させる。	・（授業前・授業中） 授業では PC を使い、演習形式でおこないます。PC 持参で受講して下さい。 ・（授業中・授業後） 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること ・ WebClass の理解度確認テストで理解度を確認すること
第 12 回	第 12 回： PBL 形式による演習 III（データ収集、データベースへの入力）、問題解決に向けてのモデル構築	・（授業前・授業中） 授業では PC を使い、演習形式でおこないます。PC 持参で受講して下さい。 ・（授業中・授業後） 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること ・ WebClass の理解度確認テストで理解度を確認すること
第 13 回	第 13 回： PBL 形式による演習 IV（問題解決に向けてのモデル構築、分析結果の可視化）	・（授業前・授業中） 授業では PC を使い、演習形式でおこないます。PC 持参で受講して下さい。 ・（授業中・授業後） 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること ・ WebClass の理解度確認テストで理解度を確認すること
第 14 回	第 14 回： PBL 形式による演習 V（最終プレゼンに向けての資料作成作業）	・（授業前・授業中） 授業では PC を使い、演習形式でおこないます。PC 持参で受講して下さい。 ・（授業中・授業後） 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること ・ WebClass の理解度確認テストで理解度を確認すること
第 15 回	第 15 回：最終プレゼン・まとめ・学びのふりかえりシート作成・総評・その先へ（これからの学び） * 定期試験はおこなわず、平常点で評価をおこないます	・（授業前・授業中） 授業では PC を使い、演習形式でおこないます。PC 持参で受講して下さい。 ・（授業中・授業後） 授業で課す課題に取り組み、授業後に WebClass の指示に従い提出すること ・ WebClass の理解度確認テストで理解度を確認すること ◆発表スライド提出 ◆ふりかえりシート提出 その他の提出物は授業内で指示します

1.授業コード (ナンバリング)	CMP107-Y51	2.科目名	画像処理演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	章志華					
5.授業科目の区分	教職「高一種（情報）」 教科および教科の指導 法に関する科目 「ウェブデザイン実務 士」「上級情報処理士」 資格関連科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	1 年秋	
10.取得資格の要件	「ウェブデザイン実務士」「上級情 報処理士」の資格関連科目		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	履修者数は PC 教室台数（4 6）に依存する					
17.授業の目的と概要	目的： 写真の加工，修正のほか，印刷物の制作や Web デザイン，チラシやポスター作成，映像等のコ ンテンツ制作など，さまざまなクリエイティブな場面では画像加工の技術は広く活用されてい る。この科目は画像編集アプリケーションソフトの実技演習を通して，今後の仕事の基礎とな る画像加工の基本技能を身につける。 概要： はじめて触る人でも，画像編集ソフトの画面の名称やよく使う機能の基本操作から始め，サン プルファイルを使用して，カラーや色調補正，画像の修正と変形，選択して編集，レイヤーの 編集と活用，文字の書き込み，写真の合成など，デザインの現場で使用することを前提に，共 通してよく使う機能の操作方法を学ぶ。前半はチュートリアル編で基本操作をしっかりマスタ ーし，後半はリファレンス編でさらなる詳細な編集方法を学ぶ。各回のサンプル問題の演習を 通して編集操作を確認しながら，学習を進めていく。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 画像の基礎概念，基本種類について理解し，説明できる。 2. 画像処理ソフトの基本機能および基本操作について理解している。 3. 写真の編集，写真の修正・加工，文字扱いなどに関する基本的技法についてわかる。 4. Web デザイン用，ロゴ・チラシ・ポストカード作成など目的に合った画像に仕上げるスキ ルが習得している。 5. レイヤー編集と活用，パスの利用などより高度な編集スキルについて理解し，作品制作な どの総合的な運用ができる。 [関連するディプロマポリシー] (5) コミュニケーション技能 (6) 専?的知識・技能の活??					
19.教科書・教材	『できるクリエイター GIMP 2.10 独習ナビ 改訂版 Windows&macOS 対応（できるクリエイ ターシリーズ）単行本』（インプレス社）					
20.参考文献	『すぐに作れる ずっと使える GIMP のすべてが身につく本』（技術評論社）					
21.成績評価	毎回の演習問題： 13 回 X4＝52 点 【学習?標①～④に対応】 リフレクションシート：13 回 X2＝26 点 【学習?標①～④に対応】 期末作品課題： 22 点 【学習?標⑤に対応】					

22.コメント	この授業では、原則として CAI 教室の PC および専用アプリケーションを利用しますので、履修人数が教室の容量に拘束される場合がある。	
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 木曜 3 限（神戸山手） 研究室オフィスアワー 木曜昼休み（神戸山手）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第 1 回 画像編集ソフトという道具を知る 1-1 画像編集ソフトウェアの画面構成 1-2 ツールボックスの利用 1-3 デジタル画像のしくみ 1-4 キャンバスサイズの変更、画像解像度 1-5 画像を指定した形式で保存	
	第 2 回 画像をきれいに補正する 2-1 風景を鮮やかにする 2-2 人物をきれいに见せる 2-3 食べ物をおいしそうに見せる	演習物の提出① リフレクションシート①
	第 3 回 Web 用ヘッダー画像を作成する 3-1 画像の土台を作る 3-2 画像の分割と着色 3-3 グラデーションで色と明るさに変化 3-4 素材の切り取りと画像の合成	演習物の提出② リフレクションシート②
	第 4 回 ロゴを作成する 4-1 正円を描く 4-2 複数の円を着色する 4-3 テキストを入力する 4-4 イラスト文字を入力する	演習物の提出③ リフレクションシート③
	第 5 回 チラシを作成する 5-1 背景写真を貼り付ける 5-2 写真を修飾する 5-3 タイトルを追加する 5-4 テキストを追加して装飾する	演習物の提出④ リフレクションシート④
	第 6 回 ポストカードを作成する 6-1 二つの画像を合成する 6-2 画像の質感を変化させる 6-3 ハガキ印刷の画像を作る 6-4 貼り付けた画像を調整する	演習物の提出⑤ リフレクションシート⑤
	第 7 回 画像の色と明るさを調整する 7-1 色編集の基本用語を知る 7-2 自動補正の活用 7-3 色レベルを調整する 7-4 トーンカーブを調整する 7-5 カラーバランスや色合い・明るさ・彩度の調整 7-6 露出・白黒・ネガポジや色温度を編集する	演習物の提出⑥ リフレクションシート⑥

	第 8 回 画像を修正する 8-1 特定の被写体を増やすや消す 8-2 輪郭をぼかす・シャープにする 8-3 部分的に明るく・暗く・にじませる 8-4 フィルターの効果	演習物の提出⑦ リフレクションシート⑦
	第 9 回 画像を変形させる 9-1 変形ツールを知る 9-2 画像のトリミング・拡大・縮小 9-3 画像の遠近感・斜めにする 9-4 画像を回転・反転させる 9-5 画像の特定の箇所を変形	演習物の提出⑧ リフレクションシート⑧
	第 10 回 画像を選択して編集する 10-1 選択ツールについて知る 10-2 選択範囲と調整 10-3 選択範囲のぼかす・縁取・切り取る 10-4 フリーハンドで曲線や直線で選択 10-5 輪郭の操作 10-6 チャンネルの使用 10-7 選択範囲の保存など	演習物の提出⑨ リフレクションシート⑨
	第 11 回 レイヤーを編集する 11-1 レイヤーとは 11-2 レイヤーの追加・コピー・削除 11-3 レイヤーの表示・重なり順・統合 11-4 レイヤーの不透明度・可視部分 11-5 レイヤーグループの追加・編集 11-6 レイヤーグループの統合	演習物の提出⑩ リフレクションシート⑩
	第 12 回 レイヤーを活用する 12-1 フローティングレイヤーとは 12-2 フローティングレイヤーの操作 12-3 レイヤーマスクと関連操作 12-4 レイヤーマスクの編集と適用 12-5 レイヤーマスクの解除	演習物の提出⑪ リフレクションシート⑪
	第 13 回 文字を書き込む 13-1 テキストツールオプションの見方 13-2 テキストボックスの作成 13-3 文字の色とフォント 13-4 テキスト位置と行間距離 13-5 テキストを画像データにする	演習物の提出⑫ リフレクションシート⑫
	第 14 回 パスを利用する 14-1 パスで直線・曲線を描く 14-2 パスの調整と連結 14-3 パスの追加・削除・移動	演習物の提出⑬ リフレクションシート⑬

	14-4 パスと選択範囲の変換 14-5 パスに沿った描画 14-6 文字テキストとパス変換	
	第 15 回 学習振り返りと期末作成 15-1 学習振り返り 15-2 期末作品の要求 15-3 期末作品の作成と提出について	期末作品（■作成・提出） ルーブリックによる評価

1.授業コード (ナンバリング)	CMP203-A51	2.科目名	ICT 活用 B		3.単位数	2
4.授業担当教員	陳那森					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件	ICT リテラシーを修得済みであること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	★申込者数が 30 名を超えた場合、初回の授業に出席した人の中から、抽選で受講者を決定する。					
17.授業の目的と概要	情報化が進むにつれ、様々なものがデジタル化されるようになった。デジタル化されたものを単に電子的に保存しておくためだけでなく、多くの人に観てもらうことを目的としたものも増加してきた。ブログはその一例であるが、文書やプレゼンテーションなどにおいても、自分の伝えたい情報を単に文字だけでなく画像などを効果的に使うことで人目を引くことができる。 本演習では、デジタル画像に関する基礎知識を学びながら、定評のあるフリーソフトである GIMP を用いて、実際に静止画やアニメーションの修正、加工などの演習を通して、大学でのプレゼンなどのみならず、さまざまな場での活用にも役立つスキルの修得を目指す。					
18.学習目標と DP との関連	新しい知識や技能、社会におけるさまざまな現象や問題を学ぶことに、自ら関心や意欲をもつことができる。具体的には、デジタル画像に関する基礎知識、およびデジタルデータ利用上のマナーを理解し、他者に説明できるようになる。 言語的及び非言語的な表現方法を工夫しながら、自分の思いや考えをわかりやすく効果的に表すことができる。具体的には、静止画像やアニメーションの修整・加工などの基本テクニックの修得により、静止画像を用いた表現力を持つようになる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	資料の配布と画面提示を行う。 教科書は使用しない。					
20.参考文献	すぐわかる GIMP ではじめる フォトレタッチ講座 改訂版、土屋徳子(著)、出版社: アスキー・メディアワークス、ISBN-13: 978-4048869614 GIMP を使おう → http://www.geocities.jp/gimproject/gimp2.0.html					
21.成績評価	評価方法 平常課題： 5 X 6=30% 中間課題： 10 X 2=20% 総合課題： 50%					
22.コメント	この授業では、すべての回でノート PC が必要。					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー (水曜) 昼休み 研究室オフィスアワー (金曜) 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 1 回 ①科目内容の概要、到達目標、評価方法等 ②デジタル画像に関する基礎知識(ピクセル、解像度、カラーモデル) ○本日の復習と次回の予習 第 2 回 GIMP とは何か、GIMP の主な機能の紹介			すべての回で、ノート PC が必要。		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CMP203-M81	2.科目名	ICT 活用 B		3.単位数	2
4.授業担当教員	齋藤勝洋					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	教室の関係上、受講人数制限があるので履修者が多い場合は抽選になる可能性がある。その場合、掲示するので注意すること。					
17.授業の目的と概要	この講義では Microsoft Office Specialist (MOS) の Excel (365&2019) 合格を目的としている。その為、受験する学生、受験を考えている学生が対象となる。また、基本的操作方法や用語説明は一切、行なわないのに十分に注意して欲しい。MOS は一般的な利用方法から高度な編集作業までを含んでおり、一部、マクロも利用する。将来、どのような業種に就いても様々な状況で行かせる IT スキル、特に Microsoft Excel のスキルを修得していく。 なお、この講義はテキスト付属のコードで教材をダウンロードするので、必ずテキストを購入することとテキストを毎回、じ持ってくる必要がある事に特に注意して欲しい。					
18.学習目標と DPとの関連	ベンチマーク ・コミュニケーションスキル レベル3 ・専門的知識・技能の活用力 レベル3					
19.教科書・教材	FOM 出版『よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Excel 365&2019 対策テキスト &問題集』 ISBN : 978-4-86510-429-5 価格 : 2,310 円 (本体 2,100 円) ※2016、365、Expert レベルの本ではないので、自分で買う場合はタイトルをよく見て注意すること！					
20.参考文献	特になし。適時、配布する。					
21.成績評価	中間確認問題×5 回 :50 % 最終テスト :50 %					
22.コメント	この授業は、基礎的なパソコンの技術は習得しているとして、OS の操作方法等については触れないので、不安な学生は事前に基礎的なパソコン操作について学修しておいて欲しい。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 01 回	イントロダクション (授業の進め方、MOS についての説明、セットアップ作業について説明)					
第 02 回	出題範囲 1 ワークシートやブックの作成と管理 1-1 ワークシートやブックを作成する 1-2 ワークシートやブック内を移動する					
第 03 回	1-3 ワークシートやブックの書式を設定する 1-4 ワークシートやブックのオプションと表示をカスタマイズする					
第 04 回	1-5 配布するためにワークシートやブックを設定する 確認問題					
第 05 回	出題範囲 2 セルやセル範囲のデータの管理			○宿題：課題ファイル①②を完成させる		

	2-1 セルやセル範囲にデータを挿入する 2-2 セルやセル範囲の書式を設定する	
第 06 回	2-3 データをまとめる、整理する 確認問題	
第 07 回	出題範囲 3 テーブルの作成 3-1 テーブルを作成する、管理する 3-2 テーブルのスタイルと設定オプションを管理する	
第 08 回	3-3 テーブルのレコードを抽出する、並べ替える 確認問題	
第 09 回	出題範囲 4 数式や関数を使用した演算の実行 4-1 関数を使用してデータを集計する 4-2 関数を使用して条件付きの計算を実行する	
第 10 回	4-3 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する 確認問題	○宿題：課題ファイル③④を完成させる
第 11 回	出題範囲 5 グラフやオブジェクトの作成 5-1 グラフを作成する 5-2 グラフを書式設定する	
第 12 回	5-3 オブジェクトを挿入する、書式設定する 確認問題	
第 13 回	第 1 回模擬試験 第 2 回模擬試験	
第 14 回	第 3 回模擬試験 第 4 回模擬試験	
第 15 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	CMP203-Y01	2.科目名	ICT 活用 B		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本久					
5.授業科目の区分	基礎科目／情報分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科・観光学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	コンピュータ・リテラシーⅠまたはⅡを履修済みであること	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	PC 演習室の収容人数及び良好な活動環境を確保するために、履修者数を最大 50 名とします。教室が PC 演習室で実施でなくなった場合は、毎回各自 PC を持参してもらいます。また 2，3 のフリーソフトをインストールしてもらいます。					
17.授業の目的と概要	この科目ではプレゼンテーションや Web 発信において、より高度な能力を身につけることを目的としています。特に写真や画像・音声や映像などの編集、HTML や CSS などの Web 発信の基本の理解を通し、よりクオリティの高いコンテンツ制作の能力を育成します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の 2. 主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力 に関連しています。 ①画像や写真など、基本的なコンテンツの編集作業ができる ②HTML 言語や CSS など、タグを使って Web ページが構築できる ③上記①②の習得により、より高度なプレゼンテーションや Web コンテンツの構築が行える					
19.教科書・教材	適宜、資料を配付または提示します（教科書は使用しません）。					
20.参考文献	HTML タグページやフリーツールなど、随時ネット上での有用なサイト、アプリを紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と配点（各課題の満点）は次のとおりです。 ・課題 1～4： 各 15 点（計 60 点）（学習目標①②に対応） ・課題 5（最終課題）30 点（学習目標③に対応） ・取り組み姿勢：10 点					
22.コメント	私たちの日常生活は SNS をはじめ、インターネットを利用することなく成り立たないものとなっています。また単にネット上の情報やコンテンツを閲覧するだけでなく、自らがより正確でクオリティの高いものを発信していくことがますます求められていく時代になっています。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センタオフィスアワー：水曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価方法・受講上の留意点など）			復習：学習内容の確認、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習		
【第 2 回】	コンテンツ編集 1－1			復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習		
【第 3 回】	コンテンツ編集 1－2			復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習		

【第 4 回】	コンテンツ編集 1 課題 【課題 1】	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 5 回】	コンテンツ編集 2 - 1	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 6 回】	コンテンツ編集 2 - 2	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 7 回】	コンテンツ編集 2 課題 【課題 2】	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 8 回】	コンテンツ編集 3 - 1	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 9 回】	コンテンツ編集 3 - 2	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 10 回】	コンテンツ編集 3 課題 【課題 3】	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 11 回】	コンテンツ編集 4 - 1	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 12 回】	コンテンツ編集 4 - 2	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 13 回】	コンテンツ編集課題 【課題 4】	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 14 回】	最終課題 【課題 5】	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 15 回】	最終課題提出、総括	復習：学習内容の総括、授業ノートの整理

1.授業コード (ナンバリング)	CMP203-a81	2.科目名	ICT 活用 B		3.単位数	2
4.授業担当教員	齋藤勝洋					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	教室の関係上、受講人数制限があるので履修者が多い場合は抽選になる可能性がある。その場合、掲示するので注意すること。					
17.授業の目的と概要	この講義では Microsoft Office Specialist (MOS) の Excel (365&2019) 合格を目的としている。その為、受験する学生、受験を考えている学生が対象となる。また、基本的操作方法や用語説明は一切、行なわないのに十分に注意して欲しい。MOS は一般的な利用方法から高度な編集作業までを含んでおり、一部、マクロも利用する。将来、どのような業種に就いても様々な状況で行かせる IT スキル、特に Microsoft Excel のスキルを修得していく。 なお、この講義はテキスト付属のコードで教材をダウンロードするので、必ずテキストを購入することとテキストを毎回、じ持ってくる必要がある事に特に注意して欲しい。					
18.学習目標と DPとの関連	ベンチマーク ・コミュニケーションスキル レベル3 ・専門的知識・技能の活用力 レベル3					
19.教科書・教材	FOM 出版『よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Excel 365&2019 対策テキスト &問題集』 ISBN：978-4-86510-429-5 価格：2,310 円 (本体 2,100 円) ※2016、365、Expert レベルの本ではないので、自分で買う場合はタイトルをよく見て注意すること！					
20.参考文献	特になし。適時、配布する。					
21.成績評価	中間確認問題×5 回 :50 % 最終テスト：50 %					
22.コメント	この授業は、基礎的なパソコンの技術は習得しているとして、OS の操作方法等については触れないので、不安な学生は事前に基礎的なパソコン操作について学修しておいて欲しい。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 01 回	イントロダクション (授業の進め方、MOS についての説明、セットアップ作業について説明)					
第 02 回	出題範囲 1 ワークシートやブックの作成と管理 1-1 ワークシートやブックを作成する 1-2 ワークシートやブック内を移動する					
第 03 回	1-3 ワークシートやブックの書式を設定する 1-4 ワークシートやブックのオプションと表示をカスタマイズする					
第 04 回	1-5 配布するためにワークシートやブックを設定する 確認問題					
第 05 回	出題範囲 2 セルやセル範囲のデータの管理			○宿題：課題ファイル①②を完成させる		

	2-1 セルやセル範囲にデータを挿入する 2-2 セルやセル範囲の書式を設定する	
第 06 回	2-3 データをまとめる、整理する 確認問題	
第 07 回	出題範囲 3 テーブルの作成 3-1 テーブルを作成する、管理する 3-2 テーブルのスタイルと設定オプションを管理する	
第 08 回	3-3 テーブルのレコードを抽出する、並べ替える 確認問題	
第 09 回	出題範囲 4 数式や関数を使用した演算の実行 4-1 関数を使用してデータを集計する 4-2 関数を使用して条件付きの計算を実行する	
第 10 回	4-3 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する 確認問題	○宿題：課題ファイル③④を完成させる
第 11 回	出題範囲 5 グラフやオブジェクトの作成 5-1 グラフを作成する 5-2 グラフを書式設定する	
第 12 回	5-3 オブジェクトを挿入する、書式設定する 確認問題	
第 13 回	第 1 回模擬試験 第 2 回模擬試験	
第 14 回	第 3 回模擬試験 第 4 回模擬試験	
第 15 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	CMP204-Y51	2.科目名	ICT 活用 C		3.単位数	2
4.授業担当教員	疋田浩一					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科・総合社会学科 (2018 年度以前入学生)			9.履修学年	3 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	情報教室の収容人数の都合により、履修者数上限は 50 名です。					
17.授業の目的と概要	MS-Excel 全般のスキル向上を目指します。また、社会学系の調査で用いられるアンケート調査について、その作成から Excel を利用した集計方法までを学びます。					
18.学習目標と D P との関連	以下に示す本科目の学習目標は Diploma Policy の「2. 主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力」の学修に関連しています。 1. Word を利用して、効果的なアンケートを作成できる 2. Excel を利用して、適切な関数を利用して集計・分析ができる 3. PowerPoint を利用して、効果的な調査結果の発表ができる					
19.教科書・教材	資料を適宜配布					
20.参考文献	『30 時間でマスター Office2019』, 実教出版, 他					
21.成績評価	課題 1: Excel 課題・・・45 点 【学習目標 2 に対応】 課題 2: アンケート (Word)・・・12 点 【学習目標 1 に対応】 課題 3: アンケートの集計 (Excel)・・・25 点 【学習目標 2 に対応】 (クロス集計+5 点加点) 課題 4: 分析結果の発表 (PowerPoint)・・・18 点 【学習目標 3 に対応】 ※課題条件を満たした課題 1～4 全ての提出と、授業への 10 回以上の出席が、合格のための最低限の条件です					
22.コメント	オリジナル教材で進めます。毎回 Web 経由で講義資料と作業ファイルを配布します。授業で扱った作業ファイルを授業後 Web 経由で提出してもらいます。 MS-Office のスキルを習得済み (コンピューターリテラシー2 修得済み程度) の人が受講してください。					
23.オフィスアワー	個人研究室：金曜昼休み 学修支援センター：木曜 5 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	Introduction 講義：本講座の説明, PC 基本スキル・メール設定確認 作業：PC の起動, Windows ログイン, Office サイン イン, Email 設定・送信			復習：配布資料の復習		
【第 2 回】	PC の基礎 講義：PC 基礎, ファイル・データ管理、Cloud サービス 作業：Email 送信			復習：配布資料の復習, ドキュメントフォル ダの整理		
【第 3 回】	数値分析① 講義・作業：Excel の基礎 (基礎・入力)			復習：配布資料・課題ファイルの復習		
【第 4 回】	数値分析② 講義・作業：Excel の基礎 (参照)			復習：配布資料・課題ファイルの復習		
【第 5 回】	数値分析③ 講義・作業：Excel の基礎 (関数 1 SUM,			復習：配布資料・課題ファイルの復習		

	AVERAGE, COUNT)	
【第 6 回】	数値分析④ 講義・作業：Excel の基礎（関数 2 IF, COUNTIF）	復習：配布資料・課題ファイルの復習
【第 7 回】	数値分析⑤ 講義・作業：Excel の基礎（グラフと分析）	復習：配布資料・課題ファイルの復習
【第 8 回】	数値分析⑥ 講義・作業：Excel の応用（データベース, 伝票の集計）	復習：配布資料・課題ファイルの復習
【第 9 回】	数値分析⑦ 講義・作業：Excel の応用（アンケートの集計 1 基本）	復習：配布資料・課題ファイルの復習
【第 10 回】	数値分析⑧ 講義・作業：Excel の応用（アンケートの集計 2 クロス集計）, 【課題 1 Excel】	課題提出：【課題 1 Excel】を提出 復習：配布資料・課題ファイルの復習 予習：アンケートのテーマを考えておく
【第 11 回】	アンケートの作成 作業：Word で各自アンケートを作成 【課題 2 アンケート作成 (Word)】	課題提出：【課題 2 アンケート作成(Word)】を提出 次回の準備：20 名分のアンケートを集めてくる
【第 12 回】	アンケートの集計 作業：Excel でアンケート集計作業 【課題 3 アンケート集計 (Excel)】	今回の準備：20 名分のアンケートを集めてくる 課題提出：【課題 3 アンケート集計(Excel)】を提出 復習：アンケート集計内容を確認
【第 13 回】	分析結果のまとめ 作業：PowerPoint で発表資料作成 【課題 4 分析結果の発表 (Powerpoint)】	課題提出：【課題 4 分析結果の発表 (Powerpoint)】の発表資料を提出 予習：発表資料の完成, リハーサル
【第 14 回】	成果発表プレゼンテーション① 作業：各自成果発表 【課題 4 分析結果の発表 (Powerpoint)】	成果発表：【課題 4 分析結果の発表 (Powerpoint)】 復習：発表時に指摘された点の修正 予習：次回発表者は発表資料の完成, リハーサル
【第 15 回】	成果発表プレゼンテーション② 作業：各自成果発表 【課題 4 分析結果の発表 (Powerpoint)】	成果発表：【課題 4 分析結果の発表 (Powerpoint)】 復習：発表時に指摘された点の修正

1.授業コード (ナンバリング)	CMP205-Y51	2.科目名	データ構造とアルゴリズム（オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	2
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	授業のテーマ及び到達目標 1) データ構造とアルゴリズムが情報処理における重要性について説明できる標準的なアルゴリズムを理解する 2) データ構造の基本種類および関連アルゴリズムの基礎知識について説明できる 3) アルゴリズム表現としてのフローチャートを書くことができる 4) プログラミングやソフトウェアの設計に必要なアルゴリズム活用技法について説明できる “データ構造”と“アルゴリズム”は、計算機科学において極めて重要な基盤であり、プログラムの処理対象となるデータの特性と格納形式、処理手順の形と効率を追求する学問である。この科目は、基本的なデータ構造と、これを利用したデータの基礎的な操作と表現するフローチャートの基本について学び、ソフトウェアの設計やプログラミングに必要な知識のほか、問題解決の手法や論理的思考・分析の基本的な素養を養う。					
18.学習目標と DPとの関連						
19.教科書・教材	図解！アルゴリズムのツボとコツがゼッタイにわかる本,中田亨,秀和システム					
20.参考文献						
21.成績評価	課題 15 回分：100%					
22.コメント	この授業では、ただ知識を習得するだけでなく、アルゴリズムとデータ構造の問題を解く能力の向上も目指します。また、この授業を通じて、アルゴリズムとデータ構造に関する知識だけでなく、基本情報技術者試験に合格するためのスキルを身につけてもらうことを目標としています。 ICT を使用しない仕事はほぼなくなってきています。そのため、IT パスポートや基本情報技術者試験といった国家資格の取得を強く推奨します。これらの資格を持つことで、皆さんの将来に大きな利点をもたらします。 私は授業時間だけでなく、オフィスアワーでも皆					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	アルゴリズム入門：日常の中でのアルゴリズム			教科書の P.30 までの内容を 1 回をかけて行います。P.30 までの予習・復習を行ってください。		
	変数と配列			教科書の P.46 までの内容を 1 回をかけて行います。P.46 までの予習・復習を行ってください。		
	普段気づいていないだけでよく見かける身近なデータ構造			教科書の P.80 までの内容を 1 回をかけて行います。P.80 までの予習・復習を行ってください。		
	流れ図を疑似言語			教科書の P.120 までの内容を 2 回をかけて行		

		います。P.120 までの予習・復習を行ってください。
	疑似言語を用いて簡単なアルゴリズムを書き下す演習	教科書の P.120 までの内容を 2 回をかけて行います。P.120 までの予習・復習を行ってください。
	再帰アルゴリズムとその応用	教科書の P.160 までの内容を 1 回をかけて行います。P.160 までの予習・復習を行ってください。
	選択ソート、バブルソートおよび挿入ソートに関する演習	教科書の P.183 までの内容を 1 回をかけて行います。P.183 までの予習・復習を行ってください。
	流れ図・疑似言語を使った演習（1）	教科書の P.183 までの内容の演習を 1 回をかけて行います。P.183 までの予習・復習を行ってください。
	シェルソート、マージソートに関する演習	教科書の P.209 までの内容を 1 回をかけて行います。P.209 までの予習・復習を行ってください。
	流れ図・疑似言語を使った演習（2）	教科書の P.209 までの内容の演習を 1 回をかけて行います。P.209 までの予習・復習を行ってください。
	ヒープソートとクイックソートに関する演習	教科書の P.242 までの内容を 1 回をかけて行います。P.242 までの予習・復習を行ってください。
	流れ図・疑似言語を使った演習（3）	教科書の P.242 までの内容の演習を 1 回をかけて行います。P.242 までの予習・復習を行ってください。
	ハッシュ法	資料を配布しますので、それを見て復習をしてください。
	探索/最短経路問題	資料を配布しますので、それを見て復習をしてください。
	確認テスト・アルゴリズムとデータ構造を学んだ後 どう活かすのか	教科書と資料の復習をしてください。

1.授業コード (ナンバリング)	CMP207-Y51	2.科目名	ソフトウェア工学基礎		3.単位数	2
4.授業担当教員	章志華					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	教職の選択科目 「上級情報処理 士」の必修科目	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科 データサイエンス専攻			9.履修学年	2 年秋	
10.取得資格の要件	教科および教科の指導法に関する科目 「上級情報処理士」「ウェブデザイン 実務士」の資格関連科目		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（うち 5 回分はオンデマンドで実施）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 人工知能、データサイエンスなどビッグデータを基にした研究や技術開発が加速している中、それを支えるのは、情報システム開発に関わる情報工学の諸技術である。ソフトウェア工学は、その基礎を固める分野の 1 つで、情報システムの開発・運用・保守に関して体系的・定量的にその応用を考察する分野である。この科目はソフトウェアの設計開発運用にかかわる基礎的な知識を習得する。 概要： この科目は、コンピュータ科学の知識体系に基づき、開発方法論と開発プロセスという観点からソフトウェア開発に必要な様々な考え方、ソフトウェア開発プロセスや代表的なソフトウェア開発手法、ソフトウェア分析・設計と実装、特に UML モデルの基本などソフトウェアの設計開発運用にかかわる基礎的な知識を解説し、ソフトウェア開発における分析やモデリング手法などの基礎を身につける。また、ソフトウェアの品質を高めるためにどのような知識が必要なのかを加えて、必要な解説も行う。					
18.学習目標と DPとの関連	1. ソフトウェア工学とはどんな学問分野かについて説明できる。 2. ソフトウェア開発プロセスや代表的なソフトウェア開発手法について説明できる。 3. ソフトウェア分析・設計と実装、特に UML モデルの基本について理解している。 4. ソフトウェアテスト・形式的手法・保守について理解している。 5. ソフトウェア開発における品質の重要性について理解している。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：『レクチャー ソフトウェア工学』（鶴林 尚靖(著/文)）サイエンス社 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。					
20.参考文献	参考書：『ソフトウェア工学の基礎』（神長裕明など、共立出版社）					
21.成績評価	小テスト：2 回 X20＝40 点 【学習?標①～③に対応】 課 題： 8 回 X5＝40 点 【学習?標①④⑤に対応】 ワークシート：5 回 X4＝20 点 【学習?標②③⑤に対応】 60 点以上で合格					
22.コメント	講義では、ほぼ毎回でノート PC を利?しますので、授業前?にきちんと動作確認とバッテリーの充電をしてくることをおすすめします。 オンデマンド回分の学習の確認は、WebClass で確認小テスト及び課題の提出（出欠確認に）					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 木曜 3 限（神戸山手） 研究室オフィスアワー 木曜お昼（神戸山手）					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第1回 イン트로ダクション ・科?の概要と?的, 到達?標, 全体の流れなどの説明	
	第2回 ソフトウェア工学とは 1.1 ソフトウェアと工学 1.2 ソフトウェア工学誕生の歴史的背景. 1.3 ソフトウェア工学の歴史的歩み 1.4 ソフトウェア工学の概要	トピック動画 配付資料 小テスト 授業感想
	第3回 ソフトウェア開発プロセス 2.1 ソフトウェア開発プロセスモデル 2.2 ウォータフォールモデル 2.3 反復型開発モデル 2.4 アジャイルソフトウェア開発 2.5 DevOps	トピック動画 配付資料 小テスト 授業感想
	第4回 代表的なソフトウェア開発手法 3.1 プログラミング言語と開発手法の関係 3.3 オブジェクト指向開発手法 3.4 アスペクト指向開発手法	トピック動画 配付資料 小テスト 授業感想
	第5回 ソフトウェアモデリングと UML 4.1 モデリングと抽象化 4.2 統一モデリング言語 UML	トピック動画 配付資料 小テスト 授業感想
	第6回 要求獲得 5.1 ソフトウェア開発の難しさ 5.2 ソフトウェア開発の始まりとしての要求獲得 5.3 要求工学 5.4 要求の抽出 5.5 要求の仕様化 5.6 ゴール指向要求工学	トピック動画 配付資料 小テスト 授業感想
	第7回 ソフトウェア分析 6.1 オブジェクト指向による分析 6.2 構造モデリング 6.3 振舞いモデリング 6.4 モデルの洗練	トピック動画 配付資料 小テスト 授業感想 Q&A: 掲示板: 相互レビュー
	第8回 ソフトウェア設計と実装 7.1 ソフトウェアアーキテクチャ 7.2 設計モデルの洗練 7.3 UML モデルからのプログラム実装 7.4 モデル駆動開発 7.5 ソフトウェア再利用	トピック動画 配付資料 小テスト 授業感想
	第9回 ソフトウェアテスト 8.1 効果的なテストとは 8.2 要求仕様テスト 8.3 ブラックボックステストとホワイトボックステスト 8.4 開発プロセスから見たソフトウェアテスト 8.5 効果的なテスト仕様の作成 8.6 テスト駆動開発とテストの自動化	トピック動画 配付資料 小テスト 授業感想

	第 10 回 形式手法 9.1 形式手法とは 9.2 フロイド-ホーア論理によるプログラム検証 9.3 契約による設計と自動検証 9.4 形式手法の導入	トピック動画 配付資料 小テスト 授業感想
	第 11 回 ソフトウェア保守 10.1 ソフトウェアの寿命と保守 10.2 ソフトウェア保守の分類 10.3 保守を支援する手法と技術 10.4 保守からソフトウェア発展へ	トピック動画 配付資料 小テスト 授業感想
	第 12 回 ソフトウェア品質 11.1 ソフトウェア開発における品質の重要性 11.2 プロダクト品質 11.3 プロセス品質 11.4 ソフトウェアレビュー 11.5 ソフトウェアメトリクス 11.6 ソフトウェアリポジトリマイニング	トピック動画 配付資料 小テスト 授業感想
	第 13 回 開発管理と開発環境 12.1 プロジェクトマネジメント 12.2 ソフトウェア開発環境	配付資料 KPT ワークシート
	第 14 回 これからのソフトウェア工学 13.1 ソフトウェア工学の成熟度 13.2 ソフトウェア工学の将来 13.3 ソフトウェア工学研究のあり方	トピック動画 配付資料 参照リンク 小テスト 授業感想
	第 15 回 学習振り返りアピールシート作成 学習成果と今後のスキル活用の可能性についてアピールする文書を作成	総括資料 アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	CMP210-Y51	2.科目名	ウェブプログラミング演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2	
10.取得資格の要件			11.先修条件	ウェブプログラミング演習Ⅰを取っていないと理解できないと思われます。ウェブプログラミング演習Ⅱのみを取る場合はⅠの内容を各自で勉強してください。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面、ノート PC の持参が必須		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	授業のテーマ及び到達目標 1) JavaScript の基本的な構文について説明できる 2) JavaScript を用いて動的なページの作成ができる 3) レスポンシブウェブデザインを実践する ドキュメントの構造言語 HTML で記述したウェブページは基本的に静的なものであり、JavaScript などのスクリプト言語を使ってウェブページに動作をもたせたりすることができる。この講義では、「ウェブプログラミング演習Ⅰ」科目を継続して、HTML、CSS のほか、JavaScript 言語の基本とその応用技術を中心に展開し、JavaScript を用いた動的な Web ページの実例作成を通して、関連するプログラミングの基本概念や基礎技法について習得することを目標とする。					
18.学習目標と DP との関連	1) JavaScript の基本的な構文について説明できる 2) JavaScript を用いて動的なページの作成ができる 3) レスポンシブウェブデザインを実践する 1)-3)は専門的知識・技能 の活用力に関係する。					
19.教科書・教材	確かな力が身につく JavaScript「超」入門,狩野 祐東 (著) (ウェブプログラミング演習Ⅰの教科書) これだけで基本がしっかり身につく HTML/CSS&Web デザイン 1 冊目の本,Capybara Design 竹内 直人, 竹内 瑠美 著					
20.参考文献						
21.成績評価	毎回の授業の作業ファイルの提出 : 50% 中間課題 : 25% 最終課題 : 25%					
22.コメント	HTML の教科書に関しては、ウェブプログラミング演習Ⅰの教科書である ・これだけで基本がしっかり身につく HTML/CSS&Web デザイン 1 冊目の本,Capybara Design 竹内 直人, 竹内 瑠美 著 を使用します。 javascript の教科書は ・確かな力が身につく JavaScript「超」入門,狩野 祐東 (著) を使用します。 Web クリエイターの試験にも対応できるように習熟度に合わせて、 授業内容を変化させる可能性があります。 (3 回が終わった後に HTML/CSS の復習が必要と判					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第一回	HTML と CSS の復習					

第二回	HTML と CSS の復習 よくあるパターンのサイトの作成(1)	
第三回	ウェブページ作成(2)：よくあるパターンのサイトの作成(2)	
第四回	JavaScript の概要と開発者ツールの紹介	
第五回	JavaScript の基本的な記法	
第六回	JavaScript を用いた HTML の書き換え	
第七回	条件分岐を用いた JavaScript の演習	
第八回	繰り返しを用いた JavaScript の演習	
第九回	関数とオブジェクトを用いた JavaScript の演習	
第十回	JavaScript を用いたウェブページ作成(1)：デザインキャンプなどの仕様を把握する	
第十一回	JavaScript を用いたウェブページ作成(2)：指示に従ったウェブページのコーディング	
第十二回	レスポンシブウェブデザインの演習	
第十三回	自由制作(1)：サイト構成とデザイン案の作成	
第十四回	自由制作(2)：HTML、CSS および JavaScript を用いたコーディング	
第十五回	自由制作(3)：マルチデバイスへの対応	

1.授業コード (ナンバリング)	CMP302-Y51	2.科目名	ウェブデザイン総合演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3	
10.取得資格の要件			11.先修条件	「ウェブプログラミング演習Ⅰ」「ウェブプログラミング演習Ⅱ」を受講済みであること。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	対面、ノート PC の持参が必須		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	総合的な応用として、ウェブサイトの構築に関する企画立案、プレゼンテーション、デザイン制作、サーバ転送、総合評価といったプロセスを実践的に学び、開発ツールの役割と生産性を理解してもらう。この科目は、ウェブデザイン実務士資格のコア科目で、最終に履修者各自が本格的なウェブサイト作品を作成し、実際に Web サーバに公開する必要がある。サイトの企画制作から、サーバに公開するまでの一連の作業を学ぶとともに、サイト構築後の更新業務や保守管理の際に必要な知識も身につけられる。					
18.学習目標と DPとの関連	1) ウェブサイトの構築に関する企画立案を行う 2) ウェブサイトの構築作業を行う 3) プレゼンテーション、デザイン制作、サーバ転送、総合評価といったプロセスを実践的に学び、開発ツールの役割と生産性を理解する これらは (1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(6) 専門的知識・技能 の活用力 と関連しています。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	授業課題および途中経過の報告：55% 制作物：45%					
22.コメント	授業を聞いて、手を動かすというタイプの授業ではなく、 自分で作りたいウェブサイトを作る自由制作がメインとなります。 自由にウェブサイトを作って遊んでみてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第一回	HTML と CSS の復習					
第二回	HTML と CSS の復習 よくあるパターンのサイトの作成(1)					
第三回	ウェブページ作成(2)：よくあるパターンのサイトの作成(2)					
第四回	javascript の復習 よくあるパターンのサイトの作成(3)					
第五回	javascript の復習 よくあるパターンのサイトの作成(4)					
第六回	javascript の復習 よくあるパターンのサイトの作成(5)					
第七回	Stable diffusion を用いた画像素材の作成と著作物に関する注意					
第八回	自由制作(1)：サイト構成とデザイン案の作成					

第九回	自由制作(2) : HTML、CSS および JavaScript を用いたコーディング	
第十回	自由制作(3) : HTML、CSS および JavaScript を用いたコーディング	
第十一回	中間発表	
第十二回	自由制作(4) : HTML、CSS および JavaScript を用いたコーディング	
第十三回	自由制作(5) : HTML、CSS および JavaScript を用いたコーディング	
第十四回	自由制作(6) : サーバへの公開準備	
第十五回	最終発表	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-A51	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ（教育福祉）		3.単位数	2
4.授業担当教員	上原昭三					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育学部			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義＆演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	「仕事とキャリア形成Ⅱ」は、就職活動に向けて実践的な能力を強化する授業です。 【授業概要】 「仕事とキャリア形成Ⅰ」の学習をもとに、自己理解を深め、キャリア形成に必要なスキルや知識を磨くことを目的としています。自己理解を促進するためのツールとして、自己分析や自己評価の方法を学びます。また、ビジネス環境でのコミュニケーションやマナー、プレゼンテーション技術の向上を図ることで、将来の職場での成功につながる能力を養います。さらに、実際の職業人からの講演を通じて、様々な職業やキャリアパスに関する洞察を得る機会も提供します。 【授業目的】 ①自己理解の促進: 自分自身の興味や得意分野を見つけ、自己分析や自己評価を通じて自己理解を深め、将来の進路を考える。 ②コミュニケーションとマナーの向上: ビジネス環境での良いマナーや円滑なコミュニケーションの重要性を学び、自信を持って自己表現できる。 ③プレゼンテーション技術の向上: プレゼンテーション技術を磨き、自分の考えやアイデアを明確に伝えるスキルを身につける。 ④職業やキャリアの探求: 社会人の講演を通じて、様々な職業やキャリアの魅力に触れ、自分の将来について考えるきっかけを得る。 ⑤キャリアに関する関心・意欲の向上: 職業やキャリアパスに対する興味と意欲を高め、自己成長と将来のキャリアプランに積極的に取り組む心構えを養う。					
18.学習目標と DPとの関連	DP に基づく学習目標は以下の通りである。 （２）社会的貢献性（３）多様性理解 【学習目標】 ①自己分析や自己評価を通じて自己理解を深め、自身の強みについて具体的に説明することができる。 ②ビジネス環境での良いマナーや円滑なコミュニケーションの方法を学び、自信を持って自己表現できる。 ③自分の考えやアイデアを明確に伝えるスキルを身につけ、資料を作成しプレゼンテーションを行うことができる。 ④職業やキャリアパスに対する興味と意欲を高め、自己成長と将来のキャリアプランに積極的に取り組もうとしている。					
19.教科書・教材	■必要に応じて参考書を紹介もしくは資料を配付する。					

20.参考文献	日本経済新聞 東洋経済	
21.成績評価	■ 授業 ワークシートの記述 50% (目標①②④に関連) ■ プレゼンテーション 2 回 40% (目標③に関連) ■ 学習成果サマリー作成 10% (目標①に関連)	
22.コメント	■ 社会に対する視野を広げ、様々な問題について関心を深めましょう。そのためには、積極的に新聞を読んだり、ニュースを見たりして自分なりの考えをまとめてみましょう。 ■ 様々な立場の社会人ゲストティーチャーの話を聞き、自分の考えを深めましょう。(講演者の皆さんは実際に社会の現場で働いておられますので、都合により、シラバスにおける内容は前後します。) ■ グループワークを基本とし、積極的に活動する場であることを理解しましょう。 ■ ZOOM による遠隔講義の可能性もあり、対応できるよう常に webclass 等での情報収集に	
23.オフィスアワー	月曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション ■ 学校教育と職業生活との接続について ■ ポートフォリオの意義とベンチマーク	○ 「仕事とキャリア形成 I」の復習 150 分 ○ e-portfolio の作成 60 分 ○ 本時の復習 30 分
【第 2 回】	イントロダクション ■ 自分で自分を見つめよう ■ 他者の目をとおして自分を再発見しよう ■ 新聞記事から話題提供	○ 本時の復習 30 分 ○ 新聞各紙から興味ある時事問題を読み取り、presentation がのための資料(切り抜き記事を含む)を作る。 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分
【第 3 回】	就職活動の進め方 ■ 適正を見つけるまでのプロセス ■ 希望職種を基にした JobClub つくり(グループ分け) ■ 新聞記事からプレゼンテーション	○ 本時の復習 30 分 ○ 新聞各紙から興味ある時事問題を読み取り、presentation がのための資料(切り抜き記事を含む)を作る。 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分
【第 4 回】	マナー講座 ■ 身だしなみ ■ ことば遣い ■ 新聞記事からプレゼンテーション	○ 本時の復習 30 分 ○ 新聞各紙から興味ある時事問題を読み取り、presentation がのための資料(切り抜き記事を含む)を作る。 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分
【第 5 回】	採用面接 ■ 面接の重要性 ■ 面接前の注意事項 ■ 新聞記事からプレゼンテーション ロールプレー ■ 模擬面接(個人)	○ 本時の復習 30 分 ○ 新聞各紙から興味ある時事問題を読み取り、presentation がのための資料(切り抜き記事を含む)を作る。 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分

	・実際に、面接官と面接を受ける側になって ■ 新聞記事からプレゼンテーション	
【第 6 回】	小学校教育現場の実際 ■ 神戸市立竜が台小学校 後藤田校長先生特別講義 ■ 小学校教師の仕事とやりがい ■ 最近の学校の課題 ■ 今から養ってほしい力等	○ 本時の復習 30 分 ○ 新聞各紙から興味ある時事問題を読み取り、presentation がのための資料（切り抜き記事を含む）を作る。 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分
【第 7 回】	ロールプレー ■ 模擬面接（グループ） ・実際に、面接官と面接を受ける側になって ■ 新聞記事からプレゼンテーション	◎ 本時の復習 30 分 ○ 新聞各紙から興味ある時事問題を読み取り、presentation がのための資料（切り抜き記事を含む）を作る。 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分
【第 8 回】	社会人基礎力 ■ これが、就職の現実だ！ キャリアセンター藤井部長特別講義 ・さあ、準備を始めよう！ ■ 新聞記事からプレゼンテーション	◎ 本時の復習 30 分 ○ 新聞各紙から興味ある時事問題を読み取り、presentation がのための資料（切り抜き記事を含む）を作る。 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分
【第 9 回】	社会人基礎力 ■ これが、会社の現実だ！ 浜崎学長特別補佐、特別講義 ■ プレゼンテーションの作成	○ 本時の復習 30 分 ◎ 取材先事業所との日程調整 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分
【第 10 回】	■ 社会人基礎力についてまとめよう ■ プレゼンテーションの作成	○ 本時の復習 30 分 ◎ 取材先事業所との打ち合わせ 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分
【第 11 回】	■ 社会人として、未来の設計をしよう！ ・田村フィナンシャルプランナー特別講義 ■ プレゼンテーション	○ 本時の復習 30 分 ◎ 取材計画の点検と取材活動 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分
【第 12 回】	基礎力インタビュー ■ ブックランドフレンズ河田店長特別講義 ・街の本屋さんの仕事を通して、社会を見る！ ■ 基礎力インタビュー	○ 本時の復習 30 分 ◎ DVD（映像作品）の制作 150 分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 60 分
【第 13 回】	■ 講義とインタビューをまとめよう！ ■ プレゼンテーション ○ 本時の復習 30 分	○ 本時の復習 30 分 ◎ 各グループの presentaion をうけ、JobClub 内で話し合い内容を深める。 120 分

		○ e-portfolio への記事の整理と投稿 90分
【第14回】	社会人基礎力 隆生福社会 井上氏さん特別講座 ■保育・施設の仕事のやりがい ■保育・施設の仕事の課題 ■保育・施設の工作的ために、つきたい力等	○ 本時の復習 30分 ◎ 各グループの presentaion をうけ、JobClub 内で話し合い内容を深める。 120分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 90分
【第15回】	社会人基礎力 ■ まとめ	○ 本時の総括 120分 ○ e-portfolio への記事の整理と投稿 120分

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-A52	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ（経営）		3.単位数	2
4.授業担当教員	本田あけみ					
5.授業科目の区分	美容分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	春学期に仕事とキャリア形成Ⅰの単位を取得 済みであること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	仕事とキャリア形成Ⅰ履修済みの学生					
17.授業の目的と概要	■概要 本講義では、「仕事とキャリア形成Ⅰ」でのワークを元に、希望する企業への就職活動において必要とされる社会人としての最低限の基礎学力、思考力、一般教養の確認を行うとともに、企業での面接を踏まえた自己PRのプレゼンテーションなどを修得することを目的とする。 1 自己分析と自己PR 「仕事とキャリア形成Ⅰ」で作成した自己PRのプレゼンテーションをバージョンアップし、希望する企業での動画面接にも対応できるようにする。 2.履歴書とエントリーシート作成することができる。 就職活動において必要な履歴書とエントリーシートを作成する。 3. 基礎学力の確認 kuis ドリル、SPI、一般常識問題等をこなすことで、企業での筆記試験に対応できるように準備する。 尚、この授業はSDGs 8のゴール、「包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生涯的な雇用と働き甲斐のある人間らしい（ディーセントワーク）を促進する」に関連している。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP(ディプロマポリシー)の?自律性?問題発見・解決力の学修に関連。 本科目の学習目標は、 プレゼンテーション力、文章力、基礎的学力を確認し、社会人として業務を遂行する上で必要となるレベルに強化することを目指す。					
19.教科書・教材	「仕事とキャリア形成Ⅰ」教科書及び「仕事とキャリア形成Ⅰ」で作成したワークシート。 必要に応じて資料等を配布する。					
20.参考文献	適宜指示					
21.成績評価	成績評価は以下の通り ・ 中間レポート評価（自己PR 動画 15% 及び 志望動機動画 15%） 30% ・ 総括試験（基礎学力確認筆記試験） 50% ・ 課題レポート①～④ 5点×4 20%					
22.コメント	本格的な就職活動に向けての準備です。自身の人生設計を見据えて取り組みましょう。 基礎学力対策の授業中に完成しなかった問題について、授業外で学習し、次回までに完成するようにしましょう。					

23.オフィスアワー		センターオフィスアワー 月曜日昼休み 研究室オフィスアワー 月曜日 2 限
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 (10/7)	授業ガイダンス エゴグラム診断 http://commutest.com > egogram 採用試験における基礎学力プレテスト	○プレテストに必要な筆記用具（鉛筆・シャープペンシル・ 採点用赤鉛筆又はそれに類するもの） キャリアと仕事形成Ⅰで使用した教科書・ワークシート
第 2 回 (10/14)	キャリアセンター 藤井学部長より講話 ー就職に向けてやるべきことの確認ー (課題レポート①)	藤井課長の講話から学んだこと、就職に向けての決意など記述。 課題レポート①を作成、提出する。
第 3 回 (10/21)	自己分析 ・「仕事とキャリア形成Ⅰ」の自己分析シートを元に、自分自身のキャリア（人生）において、譲れない価値、実現したい生活、それを手に入れる手段はなにかを考えてまとめる。 ・上記を元に自己分析の振り返りをする。必ず、自分の経験・体験（エピソード）を入れること。 (課題レポート②)	◆課題レポート②を提出する。
第 4 回 (10/28)	前回の自己分析を元に希望する企業と職種について調べ（「仕事とキャリア形成Ⅰ」ワークシート参照）、 「仕事とキャリア形成Ⅰ」で作成した自己 PR の読み原稿を修正する。 作成後、chatGTP を使用し完成させる。 (課題レポート③)	◆課題レポート③を提出する。
第 5 回(11/4)	履歴書・エントリーシートの作成 履歴書及び希望する企業への「志望動機」についてまとめる。 志望動機には、自身の経験・体験（エピソード）を必ず入れること。 (課題レポート④)	履歴書及び志望動機（エントリーシート）を、 課題レポート④として提出する。
第 6 回(11/11)	就活用動画基礎講（1） ・導入 準備編と注意事項の説明、見本動画、テスト動画と撮影、 ファイル変換、提出の練習	◎ノート PC 持参 ・宿題：課題動画「自己 PR 動画 NO1」2 分 <課題レポート②を基に話す>を自分で撮影録画し webclass に提出する。 中間レポート 1

		自己PR 動画 2 分間
第 7 回(11/18)	就活用動画基礎講習 (2) ・動画作成	◎ノート PC 持参 ・宿題：課題動画「志望動機動画 NO2」2 分 ＜課題レポート③を基に話す＞を自分で撮影 録画し webclass に提出する。 ○中間レポート 2 志望動機動画 2 分間
第 8 回(11/25)	働く意義と会社の仕組み① web クラス 自習教材第 1 章～第 3 章	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 9 回(12/2)	働く意義と会社の仕組み② web クラス 自習教材第 4 章～第 6 章	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 10 回(12/9)	基礎学力対策(1) 試験の種類と概要	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 11 回 (12/16)	基礎学力対策(2) ◆言語領域：二語の対応関係」 非言語領域：「割 合」・「文字式」 kuis ドリルの問題に取り組む。	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 12 回 (12/23)	基礎学力対策(3) ◆言語領域：「語句の用法」 非言語領域：「割合」「精 算」「割引」「分割払い」	★ノート pc 持参 ○授業時に完全解等できていない場合は宿題 とする
第 13 回(1/20)	基礎学力対策(4) ◆言語領域：「熟語の意味」 非言語領域：「損益算」 「速さ」「グラフと領域」「集合」 基礎学力対策(5) ◆言語領域「熟語の成り立ち」 非言語領域「表の読 み取り」「入出力装置」「経路図」	★ノート pc 持参 ○授業時に完成できていない場合は宿題とす る
第 14 回(1/27)	基礎学力対策(6) 社会人として身につけておくべき時事問題や一般常識 について、再確認してみよう。 基礎学力対策(7) 統括試験に向けて総復習	○授業時に完成できない場合は宿題とする ○総括試験の準備を行う。(120 分)
第 15 回(1/28)	■総括試験 ■最終授業アンケート	筆記用具 (鉛筆・消しゴム) ノート pc 持参

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-M53	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ	3.単位数	2
4.授業担当教員	北村浩二				
5.授業科目の区分	実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件	春学期に仕事とキャリア形成Ⅰの単位を取得済みであること	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限	仕事とキャリア形成Ⅰ履修済みの学生				
17.授業の目的と概要	■概要 本講義では、実際に社会人として企業や団体等で業務を遂行する上で、当然必要とされるであろう基礎的な能力を振り返る。 1 自己分析と自己 PR 「仕事とキャリア形成Ⅰ」を振り返り、就職活動において求められる自己 PR のプレゼンテーションを行うことができる。 2.履歴書とエントリーシート作成することができる。 就職活動において必要な履歴書とエントリーシートを作成する。 3. 基礎学力の確認 就職活動においては、時に SPI 等の基礎学力検査によって、社会人として最低限の思考力、一般教養等が問われる。この種の学力検査については、出題傾向を事前に研究し、試験の形式に慣れることで対処可能な部分も多い。非言語スコアをアップさせる。 尚、この授業は SDGs 8 のゴール、「包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生涯的な雇用と働き甲斐のある人間らしい（ディーセントワーク）を促進する」に関連しています。				
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマポリシー) の?自律性?問題発見・解決力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は、コミュニケーション力、文章力、基礎的学力を確認し、社会人として業務を遂行する上で必要となるレベルに強化することを目指します。				
19.教科書・教材	特に指定しない。必要に応じて資料等を配布する。				
20.参考文献	適宜指示				
21.成績評価	中間レポート評価 30% 総括試験 50% 課題レポート①～④ 5 点 × 4 20%				
22.コメント	講義中の活動が評価対象です。全力で講義にのぞみましょう。 基礎学力対策の授業中に完成しなかった問題について、授業外で学習し、次回までに完成するようにしましょう。				
23.オフィスアワー					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 (9/26)	授業ガイダンス、就職に向けて 採用試験における基礎学力プレテスト	○プレテストに必要な筆記用具（鉛筆・シャープペンシル・ 採点用赤鉛筆又はそれに類するもの） キャリアと仕事形成Ⅰで使用した教科書 ノート
第 2 回 (10/3)	自己分析と文章作成(1) 「過去・現在・未来」について自己分析の振り返りをする。e-ポートフォリオを活用して、自身の経験・体験をまとめて文章化する。また、ペアワークで他己分析も行う。 (課題レポート①)	◆課題レポート①を提出する。 ○「強みと弱み」を考える。(60 分)
第 3 回 (10/17)	合同授業 キャリアセンター 藤井学部長より講話 ー就職にむけてやるべきことの 確認ー (課題レポート②)	◆課題レポート②を提出する。 藤井課長の講話から学んだこと、就職に向けての決意など記述
第 4 回 (10/24)	自分の「強みと弱み」について e-ポートフォリオを活用してまとめ、文章化したものをプレゼンテーションする。 (課題レポート③)	◆課題レポート③を提出する。 ○「将来展望」を考える (60 分)
第 5 回(10/31)	履歴書・エントリーシートの作成(1) 履歴書及び「志望動機・職業観」について文章化する。e-ポートフォリオを活用して、自身の経験・体験と関連付けて文章化する。	○フリースプレゼンテーションについて考える (60 分)
第 6 回(11/7)	合同授業 就活用動画基礎講習 ・導入 準備編と注意事項の説明、見本動画、テスト動画と撮影、 ファイル変換、提出の練習 (提出練習ー課題レポートとして④)	◎ノート PC 持参 ・宿題：課題動画「自己 PR 動画 NO1」2 分 <課題レポート③を基に話す>を自分で撮影録画し webclass に提出する。 課題レポートとして④
第 7 回(11/14)	エントリーシートの作成(3) 「フリースプレゼンテーション」対策の文章化。まとめて文章化し、中間レポートにつながるように準備をする。 エントリーシートに基づくプレゼンテーションを行う。	○中間レポート テーマ「(仮) あなた自身を自由に表現してください」(提出は次回授業時) (120 分)
第 8 回(11/21)	基礎学力対策(1) 試験の種類と概要	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする

第 9 回(11/28)	基礎学力対策(2) ◆言語領域：二語の対応関係」 非言語領域：「割合」・「文字式」 kuis ドリルの問題に取り組む。	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 10 回(12/5)	基礎学力対策(3) ◆言語領域：「語句の用法」 非言語領域：「割合」「精算」「割引」「分割払い」	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 11 回 (12/12)	基礎学力対策(4) ◆言語領域：「熟語の意味」 非言語領域：「損益算」「速さ」「グラフと領域」「集合」	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 12 回 (12/19)	基礎学力対策(5) ◆言語領域「熟語の成り立ち」 非言語領域「表の読み取り」「入出力装置」「経路図」	★ノート pc 持参 ○授業時に完全解等できていない場合は宿題とする
第 13 回(1/16)	基礎学力対策(6) ◆模擬テスト マークシート形式 言語・非言語(7) WEB テスティング形式・テストセンター形式 言語・非言語	★ノート pc 持参 ○授業時に完成できていない場合は宿題とする
第 14 回(1/23)	基礎学力対策(7) 社会人として身につけておくべき時事問題や一般常識について、再確認してみよう。	○授業時に完成できない場合は宿題とする ○総括試験の準備を行う。(120 分)
第 15 回(1/30)	■総括試験 ■最終授業アンケート	筆記用具（鉛筆・消しゴム） ノート pc 持参

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-M54	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	百済正和					
5.授業科目の区分	実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	春学期に仕事とキャリア形成Ⅰの単位を取得済みであること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	仕事とキャリア形成Ⅰ履修済みの学生					
17.授業の目的と概要	■概要 本講義では、実際に社会人として企業や団体等で業務を遂行する上で、当然必要とされるであろう基礎的な能力を振り返る。 1 自己分析と自己 PR 「仕事とキャリア形成Ⅰ」を振り返り、就職活動において求められる自己 PR のプレゼンテーションを行うことができる。 2.履歴書とエントリーシート作成することができる。 就職活動において必要な履歴書とエントリーシートを作成する。 3. 基礎学力の確認 就職活動においては、時に SPI 等の基礎学力検査によって、社会人として最低限の思考力、一般教養等が問われる。この種の学力検査については、出題傾向を事前に研究し、試験の形式に慣れることで対処可能な部分も多い。非言語スコアをアップさせる。 尚、この授業は SDGs 8 のゴール、「包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生涯的な雇用と働き甲斐のある人間らしい（ディーセントワーク）を促進する」に関連しています。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマポリシー) の?自律性?問題発見・解決力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は、コミュニケーション力、文章力、基礎的学力を確認し、社会人として業務を遂行する上で必要となるレベルに強化することを目指します。					
19.教科書・教材	特に指定しない。必要に応じて資料等を配布する。					
20.参考文献	適宜指示					
21.成績評価	中間レポート評価 30% 総括試験 50% 課題レポート①～④ 5 点 × 4 20%					
22.コメント	講義中の活動が評価対象です。全力で講義にのぞみましょう。 基礎学力対策の授業中に完成しなかった問題について、授業外で学習し、次回までに完成するようにしましょう。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 月曜日昼休み					

研究室オフィスアワー 月曜日 2 限		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 (9/26)	授業ガイダンス、就職に向けて 採用試験における基礎学力プレテスト	○プレテストに必要な筆記用具（鉛筆・シャープペンシル・ 採点用赤鉛筆又はそれに類するもの） キャリアと仕事形成Ⅰで使用した教科書 ノート
第 2 回 (10/3)	自己分析と文章作成(1) 「過去・現在・未来」について自己分析の振り返りをする。e-ポートフォリオを活用して、自身の経験・体験をまとめて文章化する。また、ペアワークで他己分析も行う。 (課題レポート①)	◆課題レポート①を提出する。 ○「強みと弱み」を考える。(60 分)
第 3 回 (10/17)	合同授業 キャリアセンター 藤井学部長より講話 ー就職にむけてやるべきことの 確認ー (課題レポート②)	◆課題レポート②を提出する。 藤井課長の講話から学んだこと、就職に向けての決意など記述
第 4 回 (10/24)	自分の「強みと弱み」について e-ポートフォリオを活用してまとめ、文章化したものをプレゼンテーションする。 (課題レポート③)	◆課題レポート③を提出する。 ○「将来展望」を考える (60 分)
第 5 回(10/31)	履歴書・エントリーシートの作成(1) 履歴書及び「志望動機・職業観」について文章化する。e-ポートフォリオを活用して、自身の経験・体験と関連付けて文章化する。	○フリープレゼンテーションについて考える (60 分)
第 6 回(11/7)	合同授業 就活用動画基礎講習 ・導入 準備編と注意事項の説明、見本動画、テスト動画と撮影、 ファイル変換、提出の練習 (提出練習ー課題レポートとして④)	◎ノート PC 持参 ・宿題：課題動画「自己 PR 動画 NO1」2 分 ＜課題レポート③を基に話す＞を自分で撮影録画し webclass に提出する。 課題レポートとして④
第 7 回(11/14)	エントリーシートの作成(3) 「フリープレゼンテーション」対策の文章化。まとめて文章化し、中間レポートにつながるように準備をする。 エントリーシートに基づくプレゼンテーションを行う。	○中間レポート テーマ「(仮) あなた自身を自由に表現してください」(提出は次回授業時) (120 分)
第 8 回(11/21)	基礎学力対策(1)	★ノート pc 持参

	試験の種類と概要	○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 9 回(11/28)	基礎学力対策(2) ◆言語領域：二語の対応関係 非言語領域：「割合」・「文字式」 kuis ドリルの問題に取り組む。	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 10 回(12/5)	基礎学力対策(3) ◆言語領域：「語句の用法」 非言語領域：「割合」「精算」「割引」「分割払い」	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 11 回 (12/12)	基礎学力対策(4) ◆言語領域：「熟語の意味」 非言語領域：「損益算」「速さ」「グラフと領域」「集合」	★ノート pc 持参 ○授業時に終了しない場合は宿題とする
第 12 回 (12/19)	基礎学力対策(5) ◆言語領域「熟語の成り立ち」 非言語領域「表の読み取り」「入出力装置」「経路図」	★ノート pc 持参 ○授業時に完全解等できていない場合は宿題とする
第 13 回(1/16)	基礎学力対策(6) ◆模擬テスト マークシート形式 言語・非言語(7) WEB テスティング形式・テストセンター形式 言語・非言語	★ノート pc 持参 ○授業時に完成できていない場合は宿題とする
第 14 回(1/23)	基礎学力対策(7) 社会人として身につけておくべき時事問題や一般常識について、再確認してみよう。	○授業時に完成できない場合は宿題とする ○総括試験の準備を行う。(120 分)
第 15 回(1/30)	■総括試験 ■最終授業アンケート	筆記用具(鉛筆・消しゴム) ノート pc 持参

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-Y51	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ（心理_1/3）		3.単位数	2
4.授業担当教員	高橋浩樹、老邑敬子、大松光寿					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義等		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】この科目は、社会人として基本的に必要な自己PR力、基礎学力及びビジネスマナーについて、キャリア支援の観点から修得することを目的とします。 【概要】具体的には、3人の教員により次の1～3のキャリア支援内容を学修します。 1 自己分析と自己PR(作文及び動画)・・・高橋 就職活動において求められる自己PR文を作成し、文章による自己表現力を身に付けるとともに、今求められる力としての自己PR動画作成力を醸成します。 2 SPI対策（クイズドリル）・・・大松 就職活動においては、SPI等の基礎学力検査によって社会人として最低限の思考力や一般教養が問われることとなります。この種学力検査については、出題傾向を事前に研究し、試験の形式に慣れることで対処可能な部分も多いことから、そのためのトレーニングを行います。 3 目的 ビジネスマナーの修得・・・老邑 概要 職活動やキャリア形成においては、互いの意思疎通を図るコミュニケーション能力が重要な要素となります。「ビジネスマナー」は常識ある態度や行動の基本であると同時に、周囲の人々への思いやりでもあり、コミュニケーションを円滑に進めるための不可欠な知識と言えます。 この授業では、マナーをただ覚えるのではなく、「なぜ」「どうして」という視点から学びます。社会人としての心構えや考え方、立ち居振る舞いや言葉づかいなどを修得し、自信を持って就職活動に取り組みましょう。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP(ディプロマポリシー)の(1)自律性、(2)社会的貢献性の学修に関連しています 本科目の学習目標は次のとおりです ① 自己分析を繰り返し、相手の求めに応じた文章を構成する能力を高める・・・① ② 社会人として求められる基礎的な思考力、一般教養を身につける・・・①及び② ③ 基本的なビジネスマナーの体得（マナーを理解して自分のものにする）・・・①及び②					
19.教科書・教材	必要に応じて配布					
20.参考文献						
21.成績評価	成績評価方法については、以下の通りです。 高橋 ・自己PRに向けての作文、自己PR動画 30% 老邑					

	・実技点（言葉遣い・姿勢・態度・ビジネスシーンでの立ち居振る舞い・）25% ・小テスト・確認テスト（基本的マナーの理解度をチェック）15% 大松 ・基礎学力確認試験 30%（最終回 SPI 模試 20%、模試以外の取組み 10%） 注 第 1 回～第 5 回内容 高橋担当 第 6 回～第 10 回内容 老邑担当 第 11 回～第 15 回内容 大松担当	
22.コメント	○授業中の活動が評価対象です。全力で講義にのぞみましょう。 ○授業中に完成しなかった問題について、授業外で学習し、次回までに提出するようにしましょう。 ○楽しく学んで「明日から実践できる！」ビジネスマナーを目指します。 ※ 高橋担当の講義回はノートパソコンを使用します。	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：水曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	自分自身のキャリア（人生）において、譲れない価値、実現したい生活、それを手に入れる手段は何かを考えて、文章化する。＝自己分析の出発点として確認してみる。	教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる（2h）
第 2 回	はたらく意義を再考。 人生の価値と現実を踏まえて、働く意義をどこに位置付けるかを考える。	教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる（2h）
第 3 回	現時点で表明できる自己 PR のポイントを到達点として確定しておく。	教室内ワークを踏まえて文章を仕上げる(2h)
第 4 回	動画面接要領、自己 PR 動画作成要領 現在増加しつつある動画面接及び自己 PR 動画作成についての必要性、ポイントを学ぶ。	教室内ワークの続きを行って原稿、動画を仕上げる（2h）
第 5 回	動画面接要領、自己 PR 動画作成要領（前回同様） 現在増加しつつある動画面接及び自己 PR 動画作成についての必要性、ポイントを学ぶ。	動画を仕上げ提出する。(2h)
第 6 回	キャリアとビジネスマナー（1） ☐ キャリアとは ・自身が描くキャリアを考える ☐ ビジネスマナーとは ・第一印象の重要性 ・身だしなみの基本とチェックポイント ・挨拶とお辞儀 ・基本的な立ち方 ☐ マナーとコミュニケーション	
第 7 回	キャリアとビジネスマナー（2） ☐ 敬語について知り、正しく使い分ける ・敬語の種類（尊敬語・丁寧語・謙譲語） ・ビジネスの慣用表現 ・二重敬語と若者言葉 ・効果的なクッション言葉 ☐ 前回授業の振り返り	前回授業の理解度を確認する小テスト

第 8 回	キャリアとビジネスマナー（３） ☐ 企業が求める人間像について ☐ 面接のマナー ・訪問～受付～控室の流れとマナー ・入室～面接～退室の流れとマナー ・質疑応答での話し方と聞き方 ☐ 前回授業の理解度の確認	前回授業の理解度を確認する小テスト
第 9 回	キャリアとビジネスマナー（４） ☐ ビジネスメールの基本 ・ルールに則ったビジネスメールの送信・受信を実際に行う ・プライベートメールとのやりとりとの違い。 ☐ 電話の対応の基本 ☐ 名刺の意味と交換について	ラップトップパソコンを持参すること。実際にメールを受信。応答を作成し、返信する。
第 10 回	キャリアとビジネスマナー（５） ☐ 実技テスト ・全４回のまとめとして、総合的な習熟度を見るための実技テスト ☐ レポート作成→提出	前回授業で作成した名刺を持参すること。
第 11 回	基礎学力対策(1) ◆「推論」 少ない情報から「必ず正しいと推論できる事柄」を導き出そう	Kuis ドリルの S P I を活用して出題内容を確認する
第 12 回	[基礎学力対策(2)] ◆「順列・組合せ」、「確率」 並べ方や組み合わせ方を求めたり、出現する確率を導き出そう	Kuis ドリルの S P I を活用
第 13 回	[基礎学力対策(3)] ◆「金銭の問題」、「ハジキ問題」 売り上げや損益、割引などのお金の出入りを求めたり、距離や 速さ、 時間をはじき出そう	Kuis ドリルの S P I を活用
第 14 回	[基礎学力対策(4)] ◆「言語分野」 敬語やことわざ、文章構成、長文など言語分野を解こう	Kuis ドリルの S P I を活用
第 15 回	[基礎学力対策(5)] ◆「試験の実施」 ４回の授業で学んだ言語・非言語分野の出題傾向	

	を理解して臨 もう	

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-Y52	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ (心理_2/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	高橋浩樹、老邑敬子、大松光寿					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義等		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】この科目は、社会人として基本的に必要な自己PR力、基礎学力及びビジネスマナーについて、キャリア支援の観点から修得することを目的とします。 【概要】具体的には、3人の教員により次の1～3のキャリア支援内容を学修します。 1 自己分析と自己PR(作文及び動画)・・・高橋 就職活動において求められる自己PR文を作成し、文章による自己表現力を身に付けるとともに、今求められる力としての自己PR動画作成力を醸成します。 2 SPI対策(クイズドリル)・・・大松 就職活動においては、SPI等の基礎学力検査によって社会人として最低限の思考力や一般教養が問われることとなります。この種学力検査については、出題傾向を事前に研究し、試験の形式に慣れることで対処可能な部分も多いことから、そのためのトレーニングを行います。 3 目的 ビジネスマナーの修得・・・老邑 概要 職活動やキャリア形成においては、互いの意思疎通を図るコミュニケーション能力が重要な要素となります。「ビジネスマナー」は常識ある態度や行動の基本であると同時に、周囲の人々への思いやりでもあり、コミュニケーションを円滑に進めるための不可欠な知識と言えます。 この授業では、マナーをただ覚えるのではなく、「なぜ」「どうして」という視点から学びます。社会人としての心構えや考え方、立ち居振る舞いや言葉づかいなどを修得し、自信を持って就職活動に取り組みましょう。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP(ディプロマポリシー)の(1)自律性、(2)社会的貢献性の学修に関連しています 本科目の学習目標は次のとおりです ① 自己分析を繰り返し、相手の求めに応じた文章を構成する能力を高める・・・① ② 社会人として求められる基礎的な思考力、一般教養を身につける・・・①及び② ③ 基本的なビジネスマナーの体得(マナーを理解して自分のものにする)・・・①及び②					
19.教科書・教材	必要に応じて配布					
20.参考文献						
21.成績評価	成績評価方法については、以下の通りです。 高橋 ・自己PRに向けての作文、自己PR動画 30% 老邑					

	・実技点（言葉遣い・姿勢・態度・ビジネスシーンでの立ち居振る舞い・）25％ ・小テスト・確認テスト（基本的マナーの理解度をチェック）15％ 大松 ・基礎学力確認試験 30％（最終回 SPI 模試 20％、模試以外の取組 10％） 注 第 1 回～第 5 回内容 高橋担当 第 6 回～第 10 回内容 老邑担当 第 11 回～第 15 回内容 大松担当	
22.コメント	○授業中の活動が評価対象です。全力で講義にのぞみましょう。 ○授業中に完成しなかった問題について、授業外で学習し、次回までに提出するようにしましょう。 ○楽しく学んで「明日から実践できる！」ビジネスマナーを目指します。 ※ 高橋担当の講義回はノートパソコンを使用します。	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：水曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	自分自身のキャリア（人生）において、譲れない価値、実現したい生活、それを手に入れる手段は何かを考えて、文章化する。＝自己分析の出発点として確認してみる。	教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる（2h）
第 2 回	はたらく意義を再考。 人生の価値と現実を踏まえて、働く意義をどこに位置付けるかを考える。	教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる（2h）
第 3 回	現時点で表明できる自己 PR のポイントを到達点として確定しておく。	教室内ワークを踏まえて文章を仕上げる(2h)
第 4 回	動画面接要領、自己 PR 動画作成要領 現在増加しつつある動画面接及び自己 PR 動画作成についての必要性、ポイントを学ぶ。	教室内ワークの続きを行って原稿、動画を仕上げる（2h）
第 5 回	動画面接要領、自己 PR 動画作成要領（前回同様） 現在増加しつつある動画面接及び自己 PR 動画作成についての必要性、ポイントを学ぶ。	動画を仕上げ提出する。(2h)
第 6 回	キャリアとビジネスマナー（1） ☐ キャリアとは ・自身が描くキャリアを考える ☐ ビジネスマナーとは ・第一印象の重要性 ・身だしなみの基本とチェックポイント ・挨拶とお辞儀 ・基本的な立ち方 ☐ マナーとコミュニケーション	
第 7 回	キャリアとビジネスマナー（2） ☐ 敬語について知り、正しく使い分ける ・敬語の種類（尊敬語・丁寧語・謙譲語） ・ビジネスの慣用表現 ・二重敬語と若者言葉 ・効果的なクッション言葉 ☐ 前回授業の振り返り	前回授業の理解度を確認する小テスト

第 8 回	キャリアとビジネスマナー（３） ☐ 企業が求める人間像について ☐ 面接のマナー ・訪問～受付～控室の流れとマナー ・入室～面接～退室の流れとマナー ・質疑応答での話し方と聞き方 ☐ 前回授業の理解度の確認	前回授業の理解度を確認する小テスト
第 9 回	キャリアとビジネスマナー（４） ☐ ビジネスメールの基本 ・ルールに則ったビジネスメールの送信・受信を実際に行う ・プライベートメールとのやりとりとの違い。 ☐ 電話の対応の基本 ☐ 名刺の意味と交換について	ラップトップパソコンを持参すること。実際にメールを受信。応答を作成し、返信する。
第 10 回	キャリアとビジネスマナー（５） ☐ 実技テスト ・全４回のまとめとして、総合的な習熟度を見るための実技テスト ☐ レポート作成→提出	前回授業で作成した名刺を持参すること。
第 11 回	基礎学力対策(1) ◆「推論」 少ない情報から「必ず正しいと推論できる事柄」を導き出そう	Kuis ドリルの S P I を活用して出題内容を確認する（１h）
第 12 回	[基礎学力対策(2)] ◆「順列・組合せ」、「確率」 並べ方や組み合わせ方を求めたり、出現する確率を導き出そう	クイズドリルの SPI の活用
第 13 回	[基礎学力対策(3)] ◆「金銭の問題」、「ハジキ問題」 売り上げや損益、割引などのお金の出入りを求めたり、距離や 速さ、時間をはじき出そう	クイズドリルの SPI の活用
第 14 回	[基礎学力対策(4)] ◆「言語分野」 敬語やことわざ、文章構成、長文など言語分野を解こう	クイズドリルの SPI の活用
第 15 回	[基礎学力対策(5)] ◆「試験の実施」 ４回の授業で学んだ言語・非言語分野の出題傾向	

	を理解して臨 もう	

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-Y53	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ (心理_3/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	高橋浩樹、老邑敬子、大松光寿					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義等		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】この科目は、社会人として基本的に必要な自己PR力、基礎学力及びビジネスマナーについて、キャリア支援の観点から修得することを目的とします。 【概要】具体的には、3人の教員により次の1～3のキャリア支援内容を学修します。 1 自己分析と自己PR(作文及び動画)・・・高橋 就職活動において求められる自己PR文を作成し、文章による自己表現力を身に付けるとともに、今求められる力としての自己PR動画作成力を醸成します。 2 SPI対策(クイズドリル)・・・大松 就職活動においては、SPI等の基礎学力検査によって社会人として最低限の思考力や一般教養が問われることとなります。この種学力検査については、出題傾向を事前に研究し、試験の形式に慣れることで対処可能な部分も多いことから、そのためのトレーニングを行います。 3 目的 ビジネスマナーの修得・・・老邑 概要 職活動やキャリア形成においては、互いの意思疎通を図るコミュニケーション能力が重要な要素となります。「ビジネスマナー」は常識ある態度や行動の基本であると同時に、周囲の人々への思いやりでもあり、コミュニケーションを円滑に進めるための不可欠な知識と言えます。 この授業では、マナーをただ覚えるのではなく、「なぜ」「どうして」という視点から学びます。社会人としての心構えや考え方、立ち居振る舞いや言葉づかいなどを修得し、自信を持って就職活動に取り組みましょう。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP(ディプロマポリシー)の(1)自律性、(2)社会的貢献性の学修に関連しています 本科目の学習目標は次のとおりです ① 自己分析を繰り返し、相手の求めに応じた文章を構成する能力を高める・・・① ② 社会人として求められる基礎的な思考力、一般教養を身につける・・・①及び② ③ 基本的なビジネスマナーの体得(マナーを理解して自分のものにする)・・・①及び②					
19.教科書・教材	必要に応じて配布					
20.参考文献						
21.成績評価	成績評価方法については、以下の通りです。 高橋 ・自己PRに向けての作文、自己PR動画 30% 老邑					

	・実技点（言葉遣い・姿勢・態度・ビジネスシーンでの立ち居振る舞い・）25% ・小テスト・確認テスト（基本的マナーの理解度をチェック）15% 大松 ・基礎学力確認試験 30%（最終回模試20%、模試以外の取組10%） 注 第1回~第5回内容 高橋担当 第6回~第10回内容 老邑担当 第11回~第15回内容 大松担当	
22.コメント	○授業中の活動が評価対象です。全力で講義にのぞみましょう。 ○授業中に完成しなかった問題について、授業外で学習し、次回までに提出するようにしましょう。 ○楽しく学んで「明日から実践できる！」ビジネスマナーを目指します。 ※ 高橋担当の講義回はノートパソコンを使用します。	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：水曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	自分自身のキャリア（人生）において、譲れない価値、実現したい生活、それを手に入れる手段は何かを考えて、文章化する。＝自己分析の出発点として確認してみる。	教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる（2h）
第2回	はたらく意義を再考。 人生の価値と現実を踏まえて、働く意義をどこに位置付けるかを考える。	教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる（2h）
第3回	現時点で表明できる自己PRのポイントを到達点として確定しておく。	教室内ワークを踏まえて文章を仕上げる(2h)
第4回	動画面接要領、自己PR動画作成要領 現在増加しつつある動画面接及び自己PR動画作成についての必要性、ポイントを学ぶ。	教室内ワークの続きを行って原稿、動画を仕上げる（2h）
第5回	動画面接要領、自己PR動画作成要領（前回同様） 現在増加しつつある動画面接及び自己PR動画作成についての必要性、ポイントを学ぶ。	動画を仕上げ提出する。(2h)
第6回	キャリアとビジネスマナー（1） ☐ キャリアとは ・自身が描くキャリアを考える ☐ ビジネスマナーとは ・第一印象の重要性 ・身だしなみの基本とチェックポイント ・挨拶とお辞儀 ・基本的な立ち方 ☐ マナーとコミュニケーション	
第7回	キャリアとビジネスマナー（2） ☐ 敬語について知り、正しく使い分ける ・敬語の種類（尊敬語・丁寧語・謙譲語） ・ビジネスの慣用表現 ・二重敬語と若者言葉 ・効果的なクッション言葉 ☐ 前回授業の振り返り	前回授業の理解度を確認する小テスト

第 8 回	キャリアとビジネスマナー（３） ☐ 企業が求める人間像について ☐ 面接のマナー ・訪問～受付～控室の流れとマナー ・入室～面接～退室の流れとマナー ・質疑応答での話し方と聞き方 ☐ 前回授業の理解度の確認	前回授業の理解度を確認する小テスト
第 9 回	キャリアとビジネスマナー（４） ☐ ビジネスメールの基本 ・ルールに則ったビジネスメールの送信・受信を実際に行う ・プライベートメールとのやりとりとの違い。 ☐ 電話の対応の基本 ☐ 名刺の意味と交換について	ラップトップパソコンを持参すること。実際にメールを受信。応答を作成し、返信する。
第 10 回	キャリアとビジネスマナー（５） ☐ 実技テスト ・全４回のまとめとして、総合的な習熟度を見るための実技テスト ☐ レポート作成→提出	前回授業で作成した名刺を持参すること。
第 11 回	基礎学力対策(1) ◆「推論」 少ない情報から「必ず正しいと推論できる事柄」を導き出そう	Kuis ドリルの S P I を活用して出題内容を確認する（１h）
第 12 回	[基礎学力対策(2)] ◆「順列・組合せ」、「確率」 並べ方や組み合わせ方を求めたり、出現する確率を導き出そう	Kuis ドリルの S P I 活用
第 13 回	[基礎学力対策(3)] ◆「金銭の問題」、「ハジキ問題」 売り上げや損益、割引などのお金の出入りを求めたり、距離や速さ、時間をはじき出そう	Kuis ドリルの S P I 活用
第 14 回	[基礎学力対策(4)] ◆「言語分野」 敬語やことわざ、文章構成、長文など言語分野を解こう	Kuis ドリルの S P I 活用
第 15 回	[基礎学力対策(5)] ◆「試験の実施」 ４回の授業で学んだ言語・非言語分野の出題傾向	

	を理解して臨 もう	

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-Y55	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ（観光・G コミ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 仕事とキャリア形成Ⅰに続き、観光という産業においてキャリア形成を行う上で必要となる知識の修得と具体的な準備を進める。 【概要】 ■「仕事とキャリア形成Ⅰ」で学んだことを活かし、観光業界におけるホテル、旅行、エアラインの各業界についての理解を促進する。 ■企業の仕組みと企業が求める人材について、社会人基礎力を中心に考察する。また企業に関する理解促進のため、財務分析、労働法について基礎を学ぶ。 ■就活を終えた4年生の声やインターンシップの重要性などについて体験者や担当者の話を聞き、今後のキャリア形成の一助とする。					
18.学習目標と DPとの関連	・企業についての理解促進と適切なキャリア形成のための自己認知 企業の目的やマネジメント活動についての理解を深め、その中で働く人材について自己を中心として適切な人材像を認知する。 本科目の学修目標は DP（ディプロマポリシー）の?自律性?問題発見・解決力の学修に関連しています。 ① 社会人基礎力の自己認知から自分の性格や価値観を客観的に把握し、自分なりの目標とする人材像を認識する。 ②観光における職業や業界について、興味を持つことができる。 ③キャリア教育の一科目であることを自覚し、遅刻や早退をせずに出席して、個人、グループ、クラス全体の学習活動を遂行することができる。					
19.教科書・教材	■必要に応じて参考書を紹介もしくは資料を配付する。					
20.参考文献	日本経済新聞					
21.成績評価	■社会人基礎力における個人ワーク、グループワークの取り組み及び確認テスト 40% ■講義ごとに実施する講義内容のまとめを通じた授業理解度 30% ■企業分析における財務および労働法に関する確認テスト 30%					
22.コメント	・仕事とキャリア形成Ⅰは全学共通プログラムでしたが、この到達点を活かし、秋学期においては社会人基礎力と観光業界における人材像についての理解を深めます。 ・外部講師を招きますので、その際は、失礼の無い対応をお願いします。					
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション ■ 春学期の振り返りと全体スケジュールについての説明			○ 「仕事とキャリア形成Ⅰ」の復習 150 分 ○ 本時の復習 30 分		

【第2回】	【講義】企業の仕組みとマネジメント 企業がなぜ存在するのか、その中で働くということとはどのような意味があるのかについて講義を行う。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60分 ○ 新聞や雑誌、インターネット情報から企業や組織についてのニュースなどを検索し、その内容と講義内容を比較検討する。 60分
【第3回】	【講義&演習】社会人基礎力 ■社会人基礎力とはどのようなものを講義する。 ■社会人基礎力およびセルフコントロールに関するアンケートに回答する。(第4回以降の講義で自己認知の資料として活用する)	○ 今日学修した事柄について整理する。 60分 ○ 新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でどのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。 60分
【第4回】	【演習】社会人基礎力のケーススタディ「前に踏み出す力」 社会人基礎力についてエアラインの職場を想定したケーススタディに取り組み、能力要素についての理解促進を図る。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60分 ○ 新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でどのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。 60分
【第5回】	【演習】社会人基礎力のケーススタディ「チームで働く力」 社会人基礎力についてエアラインの職場を想定したケーススタディに取り組み、能力要素についての理解促進を図る。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60分 ○ 新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でどのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。 60分
【第6回】	【演習】社会人基礎力のケーススタディ「考え抜く力」 社会人基礎力についてエアラインの職場を想定したケーススタディに取り組み、能力要素についての理解促進を図る。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60分 ○新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でどのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。 60分
【第7回】	【講義および演習】社会人基礎力のまとめ&4年生の就活報告 (1) 社会人基礎力に関する確認テスト (2) この夏就活を経験した先輩に今、皆さんにやっておいて欲しいことなどを語ってもらう。	○ 今日学修した事柄について整理する。 60分 ○新聞や雑誌、インターネット情報から社会人基礎力や人材について検索し、企業等でどのような人材が求められているのかいくつかの事例を調べ、理解する。
【第8回】	業界研究(旅行業界) 外部講師を招聘し、業界説明、特にその業界で求められる人材像を中心にお話し頂く。	○ 事前に業界について調査し、質問などを積極的に行う準備を整える。 60分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業(自分の関心のある職業や知らない職業)について調べ、その内容を理解する。 120分
【第9回】	業界研究(エアライン業界) ANA 関西空港から外部講師を招き、エアライン業界の	○ 事前に業界について調査し、質問などを積極的に行う準備を整える。 60分

	現状と将来、さらに空港で働くスタッフの仕事や求める人材像について講義を行う。	○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 10 回】	業界研究（ホテル業界） 外部講師を招聘し、業界について説明頂く。特にその業界で求められる人材像を中心に話し頂く。	○ 事前に業界について調査し、質問などを積極的に行う準備を整える。 60 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 11 回】	【講義】企業研究 財務編 経営資源の一つである資金についての理解を深める。 財務諸表への理解と簡単な分析による企業の経営力の分析を行う。尚、最後に確認テストを実施する。	○本日取り組んだ企業分析の手法を自身が望む企業についても実施してみる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 12 回】	【講義】企業研究 労働編 経営資源の一つである人財、特に労働法規等についての理解を深める。労働 3 法への理解と派遣労働や委託業務など態様の異なる働き方についての理解を深める。尚、最後に確認テストを実施する。	○本日取り組んだ企業分析の手法を自身が望む企業についても実施してみる。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 13 回】	【講義】企業研究 財務編と労働編の解説 第 11 回と第 12 回で実施したテストの答え合わせを行いながら、財務と労働のポイントを再確認する。	○就活の不安について取りまとめ、授業の中で積極的に質問できる準備を行う。 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 14 回】	【講義】インターンシップに向けて インターンシップに向けて具体的なエントリーの方法や学生全体、大学の特徴などについて就活支援の担当者からお話し頂く。	○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分
【第 15 回】	【講義】講義全体の振り返り 講義全体を振り返り、この科目で学んだことについて整理する。	○ 新聞や雑誌、テレビ番組、インターネット情報からさまざまな職業（自分の関心のある職業や知らない職業）について調べ、その内容を理解する。 120 分

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-Y57	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ（社会_A）		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本敏幸、老邑敬子、疋田浩一					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では、社会人として基本的に必要な自己 PR 力、基礎学力及びビジネスマナーについて、キャリア支援の観点から修得することを目的とする。 3つのポイント 1 自己分析と自己 PR(作文力) 就職活動において求められる自己 PR 文を作成するなど、文章による自己開示をトレーニングします。 2 基礎学力の確認 就職活動においては、SPI 等の基礎学力検査によって社会人として最低限の思考力や一般教養が問われることとなります。この種学力検査については、出題傾向を事前に研究し、試験の形式に慣れることで対処可能な部分も多いことから、そのためのトレーニングを行います。 3 目的 ビジネスマナーの修得・・・老邑 概要 職活動やキャリア形成においては、互いの意思疎通を図るコミュニケーション能力が重 要な要素となります。「ビジネスマナー」は常識ある態度や行動の基本であると同時に、周囲の人々への思いやりでもあり、コミュニケーションを円滑に進めるための必要 不可欠な知識と言えます。 この授業では、マナーをただ覚えるのではなく、「なぜ」「どうして」という視点から 学びます。社会人としての心構えや考え方、立ち居振る舞いや言葉づかいなどを修得 し、自信を持って就職活動に取り組みましょう。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマポリシー)の(1)自律性、(2)社会的貢献性、の学修に関連しています 本科目の学習目標は次のとおりです ① 自己分析を繰り返し、相手の求めに応じた文章を構成する能力を高める ② 社会人として求められる基礎的な思考力、一般教養を身につける ③ 基本的なビジネスマナーの体得（マナーを理解して自分のものにする）					
19.教科書・教材	必要に応じて配布					
20.参考文献						
21.成績評価	成績評価方法については、以下の通りです。 山本 ・自己 PR に向けての作文ワーク 30% （毎回違ったテーマで文章を作成×5） 老邑					

	・実技点（言葉遣い・姿勢・態度・立ち居振る舞い・話し方など）20% ・小テスト・確認テスト（基本的マナーの理解度をチェック）20% 疋田 基礎学力確認試験（最終回） 30% 注 第 1 回~第 5 回内容 山本担当 第 6 回~第 10 回内容 老邑担当 第 11 回~第 15 回内容 疋田担当	
22.コメント	◆ 本授業は3つのクラスの兼用版です。 授業は3人の担当教員が5回の授業を1セットとして、3つのセッションを順番に担当しながら展開します。 3パターン： 疋田⇒老邑⇒山本 老邑⇒山本⇒疋田 山本⇒疋田⇒老邑 ○授業中の活動が評価対象です。全力で講義にのぞみましょう。 ○授業中に完成しなかった問題について、授業外で学習し、次回までに提出するようにしましょう。 ○楽しく学んで「明日から実践できる！」ビジネスマナーを目指します。 ※ 講義回はノートパソコンを使用します。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	自分自身のキャリア（人生）において、譲れない価値、実現したい生活、それを手に入れる手段は何かを考えて、文章化する。＝自己分析の出発点として確認してみる。	ノート PC を持参すること 教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる (-2h)
第 2 回	人生設計（未来をシナリオプログラミング）とマネープラン。 お金の面から自分の理想の人生を値踏みする。 人生目標の設定と目標達成のために必要となるスキルや能力習得について考える。スキルアップ計画を立てる。	ノート PC を持参すること 教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる (-2h)
第 3 回	はたらく意義を再考。 人生の価値と現実(金銭面)を踏まえて、働く意義をどこに位置付けるかを考える。	ノート PC を持参すること 教室内ワークを踏まえて文章を仕上げる (-2h)
第 4 回	周囲の環境を分析する。 自分が飛び込むことになる社会の将来像を考える。 VUCA の時代をどう生きるか。 Society5.0 (IT と共存する未来社会) のライフスタイル・生活環境について考える。	ノート PC を持参すること 教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる (-2h)
第 5 回	現時点で表明できる自己 PR のポイントを到達点として確定しておく。	ノート PC を持参すること 教室内ワークによって文章を仕上げる (2h)
第 6 回	◇ キャリアとビジネスマナー (1) □ 「キャリア」とは ・自身が描くキャリアを考える □ 「ビジネスマナー」とは ・第一印象の重要性 ・身だしなみの基本とチェックポイント	ノート PC を持参すること

	・挨拶とお辞儀 ・基本的な立ち方 ☐ 「ビジネスマナーとコミュニケーション」	
第 7 回	☒ キャリアとビジネスマナー（2） ☐ 「敬語」について知り、正しく使い分ける ・敬語の種類（尊敬語・丁寧語・謙譲語） ・ビジネスの慣用表現 ・二重敬語と若者言葉 ・効果的なクッション言葉 ☐ 前回授業の振り返り	前回授業の理解度を確認する小テストをおこなう
第 8 回	☒ キャリアとビジネスマナー（3） ☐ 企業が求める人間像について ☐ 「面接」のマナー ・訪問～受付～控室の流れとマナー ・入室～面接～退室の流れとマナー ・質疑応答での話し方と聞き方 ※敬語小テスト ☐ 前回授業の理解度の確認	前回授業の理解度を確認する小テストをおこなう
第 9 回	☒ キャリアとビジネスマナー（4） ☐ 「ビジネスメール」の基本 ・ルールに則ったビジネスメールの送信・受信を実際に行う ・プライベートメールとのやりとりとの違い ・電話の対応の基本 ・名詞の意味と交換について ☐ 前回授業の理解度の確認	ノート PC を持参すること。 実際にメールを受信。応答を作成し、返信する。
第 10 回	☒ キャリアとビジネスマナー（5） ☐ 「実技テスト」と「確認テスト」 ・全 4 回のまとめとして、総合的な習熟度を見るための実技テストと確認テストを行う ☐ レポート作成 → 提出 ☐ 前回授業の理解度の確認	前回授業で作成した名刺を持参すること
第 11 回	1 基礎数学(1) ◆「割合の計算」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する
第 12 回	2 基礎数学(2) ◆「順列・組合せ」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する
第 13 回	3 基礎数学(3) ◆「確率」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する
第 14 回	4 基礎数学(4) ◆「1 次方程式と関数」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する
第 15 回	5 基礎数学(5)	worksheet 30 分

	◆「2次方程式と関数」 ※テキスト・ワークシートを配布します	テキストを読み返し、学習した内容について ノートに整理する

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-Y58	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ (社会_B)		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本敏幸、老邑敬子、疋田浩一					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義・演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では、社会人として基本的に必要な自己 PR 力、基礎学力及びビジネスマナーについて、キャリア支援の観点から修得することを目的とする。 3つのポイント 1 自己分析と自己 PR(作文力) 就職活動において求められる自己 PR 文を作成するなど、文章による自己開示をトレーニングします。 2 基礎学力の確認 就職活動においては、SPI 等の基礎学力検査によって社会人として最低限の思考力や一般教養が問われることになります。この種学力検査については、出題傾向を事前に研究し、試験の形式に慣れることで対処可能な部分も多いことから、そのためのトレーニングを行います。 3 目的 ビジネスマナーの修得 概要 職活動やキャリア形成においては、互いの意思疎通を図るコミュニケーション能力が重要な要素となります。「ビジネスマナー」は常識ある態度や行動の基本であると同時に、周囲の人々への思いやりでもあり、コミュニケーションを円滑に進めるための必要不可欠な知識と言えます。 この授業では、マナーをただ覚えるのではなく、「なぜ」「どうして」という視点から学びます。社会人としての心構えや考え方、立ち居振る舞いや言葉づかいなどを修得し、自信を持って就職活動に取り組みましょう。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマポリシー)の(1)自律性、(2)社会的貢献性、の学修に関連しています 本科目の学習目標は次のとおりです ① 自己分析を繰り返し、相手の求めに応じた文章を構成する能力を高める ② 社会人として求められる基礎的な思考力、一般教養を身につける ③ 基本的なビジネスマナーの体得 (マナーを理解して自分のものにする)					
19.教科書・教材	必要に応じて配布					
20.参考文献	授業の進行にあわせ、随時紹介します。					
21.成績評価	成績評価方法については、以下の通りです。 山本 ・自己 PR に向けての作文ワーク 30 % (毎回違ったテーマで文章を作成×5) 老邑 ・実技点 (言葉遣い・姿勢・態度・立ち居振る舞い・話し方など) 20% ・小テスト・確認テスト (基本的マナーの理解度をチェック) 20% 疋田 基礎学力確認試験 (最終回) 30 % 注 第 1 回~第 5 回内容 山本担当 第 6 回~第 10 回内容 老邑担当					

第 1 1 回~第 1 5 回内容 疋田担当		
22.コメント	◆ 本授業は 3 つのクラスの兼用版です。 授業は 3 人の担当教員が 5 回の授業を 1 セットとして、3 つのセッションを順番に担当しながら展開します。 3 パターン： 疋田⇒老邑⇒山本 老邑⇒山本⇒疋田 山本⇒疋田⇒老邑 ○授業中の活動が評価対象です。全力で講義にのぞみましょう。 ○授業中に完成しなかった問題について、授業外で学習し、次回までに提出するようにしましょう。 ○楽しく学んで「明日から実践できる！」ビジネスマナーを目指します。 ※ 講義回はノートパソコンを使用します。	
23.オフィスアワー	それぞれの担当の第 1 回目の授業で案内します。 研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	自分自身のキャリア（人生）において、譲れない価値、実現したい生活、それを手に入れる手段は何かを考えて、文章化する。＝自己分析の出発点として確認してみる。	ノート PC を持参すること 教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる (-2h)
第 2 回	人生設計（未来をシナリオプランニング）とマネープラン。 お金の面から自分の理想の人生を値踏みする。 人生目標の設定と目標達成のために必要となるスキルや能力習得について考える。スキルアップ計画を立てる。	ノート PC を持参すること 教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる (-2h)
第 3 回	はたらく意義を再考。 人生の価値と現実(金銭面)を踏まえて、働く意義をどこに位置付けるかを考える。	ノート PC を持参すること 教室内ワークを踏まえて文章を仕上げる (-2h)
第 4 回	周囲の環境を分析する。 自分が飛び込むことになる社会の将来像を考える。 VUCA の時代をどう生きるか。 Society5.0 (IT と共存する未来社会) のライフスタイル・生活環境について考える。	ノート PC を持参すること 教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる (-2h)
第 5 回	現時点で表明できる自己 PR のポイントを到達点として確定しておく。	ノート PC を持参すること 教室内ワークによって文章を仕上げる (2h)
第 6 回	◇ キャリアとビジネスマナー (1) □「キャリア」とは ・自身が描くキャリアを考える □「ビジネスマナー」とは ・第一印象の重要性 ・身だしなみの基本とチェックポイント ・挨拶とお辞儀 ・基本的な立ち方 □「ビジネスマナーとコミュニケーション」	ノート PC を持参すること

第 7 回	☐ キャリアとビジネスマナー（2） ☐ 「敬語」について知り、正しく使い分ける ・敬語の種類（尊敬語・丁寧語・謙譲語） ・ビジネスの慣用表現 ・二重敬語と若者言葉 ・効果的なクッション言葉 ☐ 前回授業の振り返り	前回授業の理解度を確認する小テストをおこなう
第 8 回	☐ キャリアとビジネスマナー（3） ☐ 企業が求める人間像について ☐ 「面接」のマナー ・訪問～受付～控室の流れとマナー ・入室～面接～退室の流れとマナー ・質疑応答での話し方と聞き方 ※敬語小テスト ☐ 前回授業の理解度の確認	前回授業の理解度を確認する小テストをおこなう
第 9 回	☐ キャリアとビジネスマナー（4） ☐ 「ビジネスメール」の基本 ・ルールに則ったビジネスメールの送信・受信を実際に行う ・プライベートメールとのやりとりとの違い ・電話の対応の基本 ・名詞の意味と交換について ☐ 前回授業の理解度の確認	ノート PC を持参すること。 実際にメールを受信。応答を作成し、返信する。
第 10 回	☐ キャリアとビジネスマナー（5） ☐ 「実技テスト」と「確認テスト」 ・全 4 回のまとめとして、総合的な習熟度を見るための実技テストと確認テストを行う ☐ レポート作成 → 提出 ☐ 前回授業の理解度の確認	前回授業で作成した名刺を持参すること
第 11 回	1 基礎数学(1) ◆「割合の計算」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する
第 12 回	2 基礎数学(2) ◆「順列・組合せ」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する
第 13 回	3 基礎数学(3) ◆「確率」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する
第 14 回	4 基礎数学(4) ◆「1 次方程式と関数」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する
第 15 回	5 基礎数学(5) ◆「2 次方程式と関数」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する

1.授業コード (ナンバリング)	CRE202-Y59	2.科目名	仕事とキャリア形成Ⅱ（社会_C）		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本敏幸、老邑敬子、疋田浩一					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義・演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では、社会人として基本的に必要な自己 PR 力、基礎学力及びビジネスマナーについて、キャリア支援の観点から修得することを目的とする。 3つのポイント 1 自己分析と自己 PR(作文力) 就職活動において求められる自己 PR 文を作成するなど、文章による自己開示をトレーニングします。 2 基礎学力の確認 就職活動においては、SPI 等の基礎学力検査によって社会人として最低限の思考力や一般教養が問われることになります。この種学力検査については、出題傾向を事前に研究し、試験の形式に慣れることで対処可能な部分も多いことから、そのためのトレーニングを行います。 3 目的 ビジネスマナーの修得 概要 職活動やキャリア形成においては、互いの意思疎通を図るコミュニケーション能力が重要な要素となります。「ビジネスマナー」は常識ある態度や行動の基本であると同時に、周囲の人々への思いやりでもあり、コミュニケーションを円滑に進めるための必要不可欠な知識と言えます。 この授業では、マナーをただ覚えるのではなく、「なぜ」「どうして」という視点から学びます。社会人としての心構えや考え方、立ち居振る舞いや言葉づかいなどを修得し、自信を持って就職活動に取り組みましょう。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマポリシー)の(1)自律性、(2)社会的貢献性、の学修に関連しています 本科目の学習目標は次のとおりです ① 自己分析を繰り返し、相手の求めに応じた文章を構成する能力を高める ② 社会人として求められる基礎的な思考力、一般教養を身につける ③ 基本的なビジネスマナーの体得（マナーを理解して自分のものにする）					
19.教科書・教材	必要に応じて配布					
20.参考文献	授業の進行に合わせ、随時紹介します。					
21.成績評価	成績評価方法については、以下の通りです。 山本 ・自己 PR に向けての作文ワーク 30 % (毎回違ったテーマで文章を作成×5) 老邑 ・実技点（言葉遣い・姿勢・態度・立ち居振る舞い・話し方など）20% ・小テスト・確認テスト（基本的マナーの理解度をチェック）20% 疋田 基礎学力確認試験（最終回） 30 % 注 第 1 回～第 5 回内容 山本担当 第 6 回～第 10 回内容 老邑担当					

第 1 1 回~第 1 5 回内容 疋田担当		
22.コメント	◆ 本授業は 3 つのクラスの兼用版です。 授業は 3 人の担当教員が 5 回の授業を 1 セットとして、3 つのセッションを順番に担当しながら展開します。 3 パターン： 疋田⇒老邑⇒山本 老邑⇒山本⇒疋田 山本⇒疋田⇒老邑 ○授業中の活動が評価対象です。全力で講義にのぞみましょう。 ○授業中に完成しなかった問題について、授業外で学習し、次回までに提出するようにしましょう。 ○楽しく学んで「明日から実践できる！」ビジネスマナーを目指します。 ※ 講義回はノートパソコンを使用します。	
23.オフィスアワー	それぞれの担当教員の第 1 回目の授業で案内します。 研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	自分自身のキャリア（人生）において、譲れない価値、実現したい生活、それを手に入れる手段は何かを考えて、文章化する。＝自己分析の出発点として確認してみる。	ノート PC を持参すること 教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる (-2h)
第 2 回	人生設計（未来をシナリオプランニング）とマネープラン。 お金の面から自分の理想の人生を値踏みする。 人生目標の設定と目標達成のために必要となるスキルや能力習得について考える。スキルアップ計画を立てる。	ノート PC を持参すること 教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる (-2h)
第 3 回	はたらく意義を再考。 人生の価値と現実(金銭面)を踏まえて、働く意義をどこに位置付けるかを考える。	ノート PC を持参すること 教室内ワークを踏まえて文章を仕上げる (-2h)
第 4 回	周囲の環境を分析する。 自分が飛び込むことになる社会の将来像を考える。 VUCA の時代をどう生きるか。 Society5.0 (IT と共存する未来社会) のライフスタイル・生活環境について考える。	ノート PC を持参すること 教室内ワークの続きを行って文章を仕上げる (-2h)
第 5 回	現時点で表明できる自己 PR のポイントを到達点として確定しておく。	ノート PC を持参すること 教室内ワークによって文章を仕上げる (2h)
第 6 回	◇ キャリアとビジネスマナー (1) □ 「キャリア」とは ・自身が描くキャリアを考える □ 「ビジネスマナー」とは ・第一印象の重要性 ・身だしなみの基本とチェックポイント ・挨拶とお辞儀 ・基本的な立ち方 □ 「ビジネスマナーとコミュニケーション」	ノート PC を持参すること

第 7 回	☐ ◇ キャリアとビジネスマナー（2） ☐ 「敬語」について知り、正しく使い分ける ・敬語の種類（尊敬語・丁寧語・謙譲語） ・ビジネスの慣用表現 ・二重敬語と若者言葉 ・効果的なクッション言葉 ☐ 前回授業の振り返り	前回授業の理解度を確認する小テストをおこなう
第 8 回	☐ ◇ キャリアとビジネスマナー（3） ☐ 企業が求める人間像について ☐ 「面接」のマナー ・訪問～受付～控室の流れとマナー ・入室～面接～退室の流れとマナー ・質疑応答での話し方と聞き方 ※敬語小テスト ☐ 前回授業の理解度の確認	前回授業の理解度を確認する小テストをおこなう
第 9 回	☐ ◇ キャリアとビジネスマナー（4） ☐ 「ビジネスメール」の基本 ・ルールに則ったビジネスメールの送信・受信を実際に行う ・プライベートメールとのやりとりとの違い ・電話の対応の基本 ・名詞の意味と交換について ☐ 前回授業の理解度の確認	ノート PC を持参すること。 実際にメールを受信。応答を作成し、返信する。
第 10 回	☐ ◇ キャリアとビジネスマナー（5） ☐ 「実技テスト」と「確認テスト」 ・全 4 回のまとめとして、総合的な習熟度を見るための実技テストと確認テストを行う ☐ レポート作成 → 提出 ☐ 前回授業の理解度の確認	前回授業で作成した名刺を持参すること
第 11 回	1 基礎数学(1) ◆「割合の計算」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する
第 12 回	2 基礎数学(2) ◆「順列・組合せ」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する
第 13 回	3 基礎数学(3) ◆「確率」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する
第 14 回	4 基礎数学(4) ◆「1 次方程式と関数」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する
第 15 回	5 基礎数学(5) ◆「2 次方程式と関数」 ※テキスト・ワークシートを配布します	worksheet 30 分 テキストを読み返し、学習した内容についてノートに整理する

1.授業コード (ナンバリング)	CRE203-Y51	2.科目名	ファシリテーション演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	課題に直結するため、コミュニケーション演習、社会・集団・家族心理学を履修していることが望ましい。	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	教育効果および高校側のクラスサイズを考え、履修者を10～15名程度に制限する。 高校への訪問、授業実践という特殊な授業であり、責任をともなうため、履修者を厳選する。 学生メンター、COC、OC スタッフ、あじあん祭実行委員、学生会などの経験者、コミュニケーション演習履修済みを優先する。 ※課題として、最終的に水曜3～5限目に高校に授業を実施しにいきます。 他のかぶっている授業を休んで、これに参加しても原則公欠にはなりません。 ※初回授業までに履修登録を済ませておくこと、初回授業に出席すること。 ※初回授					
17.授業の目的と概要	ファシリテーションとは、会議やディスカッション等の知的相互作用を促進する働きです。チームを引っ張るリーダーシップは大事ですが、集団活動の流れを管理し、成果を高めるための効率的な支援力も重要です。この授業では、コミュニケーションスキルといったソーシャルスキル教育の基礎を学ぶとともに、高校生に対するソーシャルスキル教育の実践及び振り返りを通して、「リーダーシップ」の在り方、ファシリテーションスキルを身につけます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 グループワークを中心としたチーム活動を通して、各個人それぞれが、権限なきリーダーシップを踏まえ、柔軟なコミュニケーション力、ファシリテーションスキルを高める。 ①自分の言動、活動をふりかえり、自身のスキルを把握し、次回に生かす認知的なコミュニケーション力、ファシリテーションをとることができるようになる（ソーシャルスキルの認知的能力を高める）。 ②他者との社会的相互作用の中で、メンバーで1つの成果物を作成するために自己主張、調整をすることができるようになる（自己主張力、調整力を身につける）。 ③授業内および実践の場で、効果的なファシリテート、プレゼンテーションを行うことができるようになる。					
19.教科書・教材	特に指定しない					
20.参考文献	原田恵理子著 高校生のためのソーシャルスキル教育 ナカニシヤ出版 2013 年					
21.成績評価	①授業中の発表・討議・質疑応答：30％【学習目標①②】 ②グループワーク及び学外活動での成果：40％【学習目標①③】 ③プログラム案（教授案）の提出：30％（eポートフォリオに成果掲載を含む）【学習目標④】					
22.コメント	・高校生 20～30 人を対象に心理学・ソーシャルスキルに関する講義・演習を行います。 ・実践する授業内容をクラスで毎週、随時、会議・調整を行っていきます。 ※心理学科のコミュニケーション演習、社会・集団・家族心理学を履修している前提で授業を行います。 ※高校生の授業において教師として授業を行うため、責任が問われます。					

		※遅刻・欠席は許されません。 【スケジュール】少し変則的に進みます。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
○第1回	リーダーとは何か、理想のリーダー像の探求 ファシリテーションとは何か	
○第2回	ソーシャルスキル教育に関する調べ学修①	
○第3回	ソーシャルスキル教育に関する調べ学修②	
○第4回	ソーシャルスキルプログラムの作成	
○第5回	ソーシャルスキルプログラムの作成	
○第6回	ソーシャルスキルプログラムの作成	
○第7回	ソーシャルスキル教育の実践演習①	
○第8回	ソーシャルスキル教育の実践演習②	
○第9回	ソーシャルスキル教育の実践演習③	
○第10回	ソーシャルスキル教育の実践演習④	
○第11回	高校生に対する Teaching を通して、リーダーシップス キル実践	
○第12回	高校生に対する Teaching を通して、リーダーシップス キル実践	
○第13回	高校生に対する Teaching を通して、リーダーシップス キル実践	
○第14回	グループ内のフィードバック	
○第15回	自分の課題、グループの課題の振り返り、クロージン グ。	

1.授業コード (ナンバリング)		CRE204-Y51	2.科目名		公務員養成演習Ⅰ		3.単位数	1
4.授業担当教員		大松光寿、高橋浩樹						
5.授業科目の区分		自由科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期		
8.履修可能な専攻						9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件					11.先修条件	なし		
12.研究室		※※※			13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address		※※※			15.授業形態	講義		
16.履修制限		特になし。 ただし、資格専門学校 TAC が提供するオンデマンド講座を受講するため、その受講料 22,000 円を負担することが求められる。						
17.授業の目的と概要		<目的> 公務員として稼働することの意味を理解し、その採用試験合格に向けて基礎学力の向上を図る。 <概要> 本学の実務家教員、現職の OB・OG から公務員として望まれる資質、心構え等の講義をオリエンテーションを含め 3 回提供する。また、受講生は資格専門学校 TAC の提供するオンデマンドによる遠隔講座を受講する。毎週新しい教材が提供され、自身のペースで繰り返し学習できる(遠隔講座は翌年の 10 月末まで利用可能)。学びのペースを確認するため、専門学校スタッフによる遠隔でのホームルームを 3 回行う。Google Classroom などを使用しての質疑応答の機会が提供される。						
18.学習目標と DP との関連		<学修目標> ①公務員の仕事について理解を深める。 ②公務員採用試験に向けて基礎学力を身に付ける。						
19.教科書・教材		教材は毎週 TAC からオンデマンドで提供される。						
20.参考文献		必要に応じて参考書を紹介する。						
21.成績評価		本科目の評価は単位認定の可否で行われるため GP はつきません。 そのため、本科目の成績は GPA には影響がなく、卒業要件にも含まれません。 単位認定は以下の基準によって判断します。 ①授業 3 回分の感想レポート提出 ②TAC の受講料を納付していること (22,000 円)						
22.コメント		受講料は期限内に必ず支払うようにしてください。						
23.オフィスアワー		高橋：水曜昼（研究室オフィスアワー）、火曜昼（センターオフィスアワー） 大松：月曜昼（研究室オフィスアワー）、火曜昼（センタープログラム）						
24.授業回数		25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)		
1 回		ガイダンス				課題：レポートの提出		
2 回		実務教員による公務員に関する講義				課題：レポートの提出		
3 回		全体のまとめ				課題：レポートの提出		
		TAC による遠隔ホームルーム 3 回実施						
		毎週公開されるオンデマンド教材によって学習を進める。 必要に応じて Google Classroom による質疑応答				一つの教材につき、3 時間から 6 時間の学習時間を確保する。		

1.授業コード (ナンバリング)	CRE306-Y52	2.科目名	キャリアプランニングⅡ		3.単位数	2
4.授業担当教員	李容淑					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科共通			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】本科目では、就職活動に向けた具体的な準備を進めていきます。就職活動においては、「敵を知り、己を知る」ことが大事です。具体的には企業を良く理解し、求めている人材像を把握すると共に、自分という人間についても思い込みだけではなく、多角的に理解する必要があります。また、社会情勢、特に企業で働く場合には経済に関する基礎的な知識や国際情勢などの政治の分野に関する知識なども習得し、将来に向けた社会動向について考察する力も重要です。 【概要】この講座では、実際の企業において働いた経験を有している講師より、指定するテキスト「会社四季報 業界地図 2023 年版」を教材に用いて、182 業界の動向をつかみ、広く実社会を概観します。具体的には、多種多様な業界・企業への理解を深めること、実社会ではどのような能力を持つ人材が求められるのか等、新卒採用の実情を理解します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の【(1)自律性】【(5)コミュニケーションスキル】【(4)問題発見・解決力】に関連しています。 キャリアプランニングⅡの講義の学習目標は、以下のとおりです。 ①企業を取り巻く環境について認識し、企業を選ぶ視点を磨く。 ②企業研究の視点を理解し、志望する業界または企業について分析することができる。 ③志望する業界のみならず個人発表の中で、広く業界に関する知識を習得する。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	会社四季報業界地図 2024 年					
21.成績評価	1.授業について理解を深める目的で課題の提出を行い、理解度を確認する。=50%※学習目標①及び②に対応 2.最終回において期限内に、期末レポート 50%を作成し、提出する。 ※学習目②及び③に対応					
22.コメント	学科内で学ぶ観光産業以外の業界・企業に着目、多種多様な業界・企業により構成される実社会を俯瞰し、職業選択の幅を自ら広げられることを期待します。自らが実社会を知る手段（アンテナ）を携え、自らの価値観に沿う、自らの職業選択を具体的に検討し判断できる状態になること。					
23.オフィスアワー	水曜日 3 限目 3-306					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 10 月 5 日 (木)	講義【オリエンテーション】 ・授業の概要をシラバスに基づいて説明する。(担当教員の紹介、講義の目的、内容、進め方、評定算出の方法、受講上の留意点について説明する)			予習：シラバスを確認しておく。 復習：授業計画の確認、「講義ノート」を作成すること。 課題の作成。 パソコンを持参すること。		
【第 2 回】 10 月 12 日 (木)	マイナビによる就職ガイダンス マイナビ担当者による就職ガイダンスを開催する。次年度に向けて就活情報を入手する。			復習：登録方法や業界情報の取得。 課題の作成。 予習：自らの将来について考える。		

		パソコンを持参すること。
【第3回】 10月19日 (木)	4年生による就職活動報告 国際コミュニケーション学部 李ジョンギル(ホテル内定者) 今年度、就活を体験した4年生の先輩から就活についてパネルディスカッション方式により話を聞き、就活の苦労や具体的なエントリー数などの情報を得る。	復習：4年生の活動から得た学びについて整理し、課題に回答する。 予習：次回に向けて質問を整理する。 パソコンを持参すること。
【第4回】 10月26日 (木)	【社会人基礎力の理解】その① 【テーマ】 1. 社会変化 2. リーダーシップ 3. 社会人基礎力のチェック 4. イメージマーケティング 5. IQとEQ～DQ	予習：社会人基礎力について調べておく 復習：自らの強み、弱みを確認、自らの価値観に沿う職業を考える。 パソコンを持参すること。
【第5回】 11月2日 (木)	【社会人基礎力の理解】その② 【テーマ】 1. 企業が大学生に期待する能力 2. 自己PRで注意したい点 3. 最悪フォロワー象(新人社員0 4. 日本文化(千利休) 5. 履歴書を書き方	復習：授業で指示する重要用語・内容を確認する。 課題の作成。 予習：事前配布資料を予習してくる。 パソコンを持参すること。
【第6回】 11月9日 (木)	【社会人基礎力に関する理解】その③リッケイ事業説明会 【テーマ】 1. IT企業 2. ベトナム大手IT/アカデミー企業 3. リッケイの募集状況	復習：授業で習った内容を確認する。 課題の作成。 予習：事前配布資料を予習してくる。 パソコンを持参すること。
【第7回】 11月16日 (木)	【社会人基礎力に関する理解】その④ 【テーマ】 1. チームで働く力① 状況把握力 2. チームで働く力② 柔軟性 3. チームで働く力③ 規律性 4. 社会人基礎力 ワーク	復習：授業で学んだ内容を確認する。 課題の作成。 予習：テキスト該当業界を予習してくる。
【第8回】 11月23日 (木)	【社会人基礎力に関する理解】その⑤ 【テーマ】 1. チームで働く力④ ストレスコントロール 力 2. チームで働く力⑤ 傾聴力 3. チームで働く力⑥ 発信力	復習：授業で学んだ内容を確認する。 課題の作成 予習：テキスト該当業界を予習してくる。
【第9回】 11月30日 (木)	【社会人基礎力に関する理解その⑥】 【本日のテーマ】 1. 復習：社会人基礎力とは 2. 復習：前に踏み出す力 3. 復習：考え抜く力 4. 復習：チームで働く力 5. グループワーク 6. 応用としてのフォロアースhip 7. 社会人基礎力 ワーク	復習：授業で学んだ内容を確認する。 課題の作成 予習：テキスト該当業界を予習してくる。

【第 10 回】 12 月 7 日 (木)	卒業生の状況の報告会 泉州 KIX DMO で活躍する留学生出身（金リテイ） 先輩から就活についてパネルディスカッション方式により話を聞き、就活の苦労や具体的なエントリー数などの情報を得る。	復習：授業で学んだ内容を確認する。 課題の作成 予習：テキスト該当業界を予習してくる。
【第 11 回】 12 月 14 日 (木)	【業界・企業に関する理解】② BANYAN TREE グループホテル宮崎総支配人 外資系ホテル全版的な説明	復習：授業で学んだ内容を確認する。 課題の作成 予習：テキスト該当業界を予習してくる。
【第 12 回】 12 月 21 日 (木)	【業界・企業に関する理解】③ 関西空港前副社長、南海鉄道前本部長、住田コンサルタント 空港、鉄道、企業全版的な説明	復習：授業で学んだ内容を確認する。 課題の作成 予習：テキスト該当業界を予習してくる。
【第 13 回】 1 月 11 日 (木)	【業界・企業に関する理解】④	復習：授業で学んだ内容を確認する。 課題の作成 予習：テキスト該当業界を予習してくる。
【第 14 回】 1 月 18 日 (木)	【業界・企業に関する理解】⑤	復習：授業で学んだ内容を確認する。 課題の作成 予習：テキスト該当業界を予習してくる。
【第 15 回】 1 月 25 日 (木)	授業の総括 期末課題・期末レポートの作成	予習：授業全体の整理を行い、課題を残さないようにする。 復習：期限内に「期末課題・期末レポート」を作成し提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	CRI102-Y51	2.科目名	司法・犯罪心理学（2023 年度生・2024 年度生）		3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目は、犯罪の発生原因や犯罪捜査、矯正、裁判などに関わる心理学の理論や制度・法律を取りあげ、加害者、被害者、第三者といった様々な側面から、「犯罪」という現象に目を向け、犯罪への理解を深めるとともに、その解決に向けた心理学的支援について学習することを目的とする。 犯罪の発生原因に関わる理論や犯罪捜査、近年問題となっている犯罪、裁判などを取りあげる。 本授業では、加害者、被害者、第三者といった様々な側面から、「犯罪」という現象に目を向け、犯罪への理解を深める。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ① 犯罪・非行の発生メカニズムを犯罪心理学の視点から説明できるようになる。 ② 犯罪・非行を繰り返させないための指導や効果的な教育・指導の内容を説明できるようになる。 ③ 犯罪・非行の抑止・解決に必要な要因を説明できるようになる。 ④ ①②③の知識をもとに問題を発見し、また、必要な情報を収集し、具体的な解決策を提示することができるようになる。					
19.教科書・教材	入門 司法・犯罪心理学 -- 理論と現場を学ぶ 法と心理学会／監修(2022).有斐閣. 定価 2,530 円（本体 2,300 円） ISBN 978-4-641-17474-0					
20.参考文献	資料を配付する					
21.成績評価	・ 授業毎ミニレポート（学習目標①②③④を問う）：40% ・ 総括試験（学習目標①②③を問う）：60%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	板山：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 01 回 ガイダンス、犯罪心理学とは何か、犯罪統計 本講義のねらいや、全体の構成について説明する。 犯罪心理学とはどういう学問か、アプローチの仕方によって犯罪・非行についての 切口が異なることを確認する。			配布資料を熟読し、疑問点を整理する。		
	第 02 回 犯罪の原因論① 犯罪の原因について生物学的要因の観点から説明する。			教科書第 2 章に目を通しておく（予習 2 時間）		
	第 03 回 犯罪の原因論② 犯罪の原因について、性格の要因など心理学的要因			教科書 第 3 章に目を通しておく（予習 2 時間）		

	の観点から説明する。	
	第 04 回 犯罪の原因論③ 犯罪の原因について、物理的・状況的な「環境」、人間関係などの社会学的観点から説明する。	教科書 第 4 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 05 回 DV について 親密な関係の中で起こる暴力について説明する	最近発生した DV 事件について調べる（1 時間）、教科書第 6 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 06 回 虐待について 子ども虐待や高齢者虐待に関する現状を解説するとともに、発生や防止に関わる心理的問題について解説する。	教科書第 7 章に目を通しておく（予習 2 時間）最近発生した虐待に関する事件を調べ、まとめる（2 時間）
	第 07 回 ストーカーについて ストーカー加害者の特徴などについて解説する。	最近発生したストーカー事件を調べまとめる（2 時間）
	第 08 回 物質・プロセス依存について 物質・プロセス依存の原因や治療について概説する。	教科書 第 8 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 09 回 窃盗について 窃盗の原因、動機、対策について解説する。	教科書 第 9 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 10 回 犯罪捜査・プロファイリング 犯罪捜査とそれにかかわる心理学的問題について解説する	授業資料を振り返る（60 分）
	第 11 回 聴取・目撃証言 被害者や被疑者への聴取、目撃者の証言に関する心理学的問題について解説する。	教科書第 11.12 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 12 回 裁判について学ぶ 裁判について、主に裁判員裁判について解説する。	教科書 第 13 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 13 回 加害者支援について 再犯リスク低減のための取り組みについて学ぶ	教科書 第 14 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 14 回 犯罪被害者について ・被害者が受ける心理的な問題・被害などについて取りあげる。	教科書 第 15 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 15 回 総括試験 ・総括試験を行う（資料の持ち込みは不可）。	これまでの授業を復習し、試験に備える。

1.授業コード (ナンバリング)	CRI206-Y51	2.科目名	司法・犯罪心理学（2022 年度生以前 秋春通 年）		3.単位数	4
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科 人間心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目は、犯罪の発生原因や犯罪捜査、矯正、裁判などに関わる心理学の理論や制度・法律を取りあげ、加害者、被害者、第三者といった様々な側面から、「犯罪」という現象に目を向け、犯罪への理解を深めるとともに、その解決に向けた専門家の関わりや心理学的支援について学習することを目的とする。 犯罪の発生原因に関わる理論や犯罪捜査、近年問題となっている犯罪、裁判などを取りあげる。 本授業では、加害者、被害者、第三者といった様々な側面から、「犯罪」という現象に目を向け、犯罪への理解を深める。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 2023 秋（第 1 回～15 回）：板山 ① 犯罪・非行の発生メカニズムを犯罪心理学の視点から説明できるようになる。 ② 犯罪・非行を繰り返させないための指導や効果的な教育・指導の内容を説明できるようになる。 ③ 犯罪・非行の抑止・解決に必要な要因を説明できるようになる。 ④ ①②③の知識をもとに問題を発見し、また、必要な情報を収集し、具体的な解決策を提示することができるようになる。 2024 春（第 16 回～30 回）： ⑤一連の司法矯正手続きの中で、心理的介入がどのように役立つのか理解する。 ⑥犯罪に関連する事象を多面的に捉えることができる。					
19.教科書・教材	・ 2023 年秋 入門 司法・犯罪心理学 -- 理論と現場を学ぶ 法と心理学会／監修(2022).有斐閣. 定価 2,530 円（本体 2,300 円） ISBN 978-4-641-17474-0 ・ 2024 年春 適宜 WEBCLASS にアップする					
20.参考文献	?安香宏著「犯罪心理学への招待：犯罪・非行を通して人間を考える」サイエンス社 2008 年 ?シャッド・マルナ著「犯罪からの離脱と『人生のやり直し』：元犯罪者のナラティブから学ぶ」明石書店 2013 年 ③森丈弓著「犯罪心理学：再犯防止とリスクアセスメントの科学」ナカニシヤ出版 2017 年 ④藤岡淳子著「非行・犯罪心理臨床におけるグループの活用：治療教育の実践」誠信書房 2014 年					
21.成績評価	・ 2023 年秋学期					

	授業毎ミニレポート（学習目標①②③④を問う）：20% 総括試験（学習目標①②③を問う）：30% ・2024 年春学期 毎回の感想レポート：1 点×15 回 15%（目標⑤，⑥に該当） 最近気になる犯罪非行に関するレポート：5%（目標⑥に該当） 犯罪者の社会復帰に関するレポート：10%（目標⑤に該当） 総括試験：20%（目標⑤，⑥に該当）	
22.コメント	2023 年秋学期 第 01 回～15 回が板山担当 2024 年春学期 第 16 回～30 回が神垣担当	
23.オフィスアワー	・板山：研究室オフィスアワー 水曜昼休み ・神垣：研究室オフィスアワー： 火曜 1 限 センターオフィスアワー：月曜 3 限 ＊オフィスアワー以外でも相談・質問を受けますのでメール等でご連絡ください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第 01 回 ガイダンス、犯罪心理学とは何か、犯罪統計 本講義のねらいや、全体の構成について説明する。 犯罪心理学とはどういう学問か、アプローチの仕方 によって犯罪・非行についての 切口が異なることを 確認する。 第 02 回 犯罪の原因論① 犯罪の原因について生物学的要因の観点から説明す る。	配布資料を熟読し、疑問点を整理する。
	第 03 回 犯罪の原因論② 犯罪の原因について、性格の要因など心理学的要因 の観点から説明する。 第 04 回 犯罪の原因論③ 犯罪の原因について、物理的・状況的な「環境」、人 間関係などの社会学的観点から説明する。	教科書第 2 章に目を通しておく（予習 2 時 間）
	第 05 回 DV について 親密な関係の中で起こる暴力について説明する。 第 06 回 虐待について 子ども虐待や高齢者虐待に関する現状を解説すると ともに、発生や防止に関わる心理的問題について解説 する。	教科書 第 3 章に目を通しておく（予習 2 時 間）
	第 07 回 ストーカーについて ストーカー加害者の特徴などについて解説する。 第 08 回 物質・プロセス依存について 物質・プロセス依存の原因や治療について概説す る。	教科書 第 4 章に目を通しておく（予習 2 時 間）
	第 09 回 窃盗について 窃盗の原因、動機、対策について解説する。 第 10 回 犯罪捜査・プロファイリング 犯罪捜査とそれにかかわる心理学的問題について解 説する。	最近発生した DV 事件について調べる（1 時 間）、教科書第 6 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 11 回 聴取・目撃証言 被害者や被疑者への聴取、目撃者の証言に関する心 理学的問題について解説する。 第 12 回 裁判について学ぶ	教科書第 7 章に目を通しておく（予習 2 時 間）最近発生した虐待に関する事件を調べ、 まとめる（2 時間）

	裁判について、主に裁判員裁判について解説する。	
	第 13 回 加害者支援について 再犯リスク低減のための取り組みについて学ぶ。 第 14 回 犯罪被害者について 被害者が受ける心理的な問題・被害などについて取りあげる。	最近発生したストーカー事件を調べまとめる（2 時間）
	第 15 回 前半の総括試験 ・総括試験を行う（資料の持ち込みは不可）。 第 16 回 犯罪心理学が対象とする領域 ・司法・犯罪領域とは何をさすのか。 ・心理職がどのように活躍しているか。	教科書 第 8 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 17 回 犯罪・非行の移り変わり ・時代背景と犯罪・非行との関係性 ・近年注目されている犯罪 第 18 回 犯罪理論の概要 ・性悪説，性善説 ・原因重視，目的重視 ・発達障害との関係	教科書 第 9 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 19 回 犯罪行為のアセスメント① ・財産犯 第 20 回 犯罪行為のアセスメント？ ・粗暴犯	授業資料を振り返る（60 分）
	第 21 回 犯罪行為のアセスメント③ ・性犯，薬物犯 第 22 回 リスクアセスメント ・リスクアセスメントの歴史 ・RNR 原則	教科書第 11.12 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 23 回 介入の実際① ・認知行動療法に基づくアプローチ 第 24 回 介入の実際② ・動機づけ面接法	教科書 第 13 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 25 回 介入の実際？ ・社会復帰支援 第 26 回 介入の効果検証 ・プログラム評価と効果検証の必要性和手法	教科書 第 14 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 27 回 再犯・再非行に及ぶ理由 生活環境の重要性等 第 28 回 立ち直りの過程 ・グッドライフモデル ・犯罪者のナラティブに関する研究	教科書 第 15 章に目を通しておく（予習 2 時間）
	第 29 回 事例検討 ・架空の事例を用いて，犯罪に至った背景要因の見立て，支援の方法について考える。 第 30 回 総括テスト ・示された事例について，①なぜ犯罪行為に及んだのか，②これからどのような介入が必要なのか考えて記載する。	これまでの授業を復習し、試験に備える。

1.授業コード (ナンバリング)	CRI304-Y51	2.科目名	犯罪関連法論		3.単位数	4
4.授業担当教員	大松光寿					
5.授業科目の区分	警察分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	1 年生春学期開講科目「犯罪学概論」を履修 済みであることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】この科目は、刑法及び刑事訴訟法を中心とした犯罪への対処実態を理解し身につける ことを目的とします。 【概要】刑法については、犯罪と刑罰に関する共通ルールである刑法総論を中心として、ま た、刑事訴訟法については、犯罪の捜査、裁判の手続きなど刑罰法令の適用・実現に必要な手 続きについて学びます。また、近時問題となっている特殊詐欺や暴力団対策等に関する法令な どについても学修します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の (2)社会貢献生、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです ・ 刑法及び刑事訴訟法の仕組みが理解できるようになる ？ 事例を基に犯罪の成立要件を考えることにより、法的思考力が会得できる 。 犯罪情勢の理解と対策を考える ？ 社会の一員として守るべき法規範を理解することができる					
19.教科書・教材	授業時にウェブクラスに掲示する。					
20.参考文献	令和 6 年版 警察白書、犯罪白書					
21.成績評価	・ 中間効果測定 35% 刑法総論及び刑事訴訟法等の理解度に関するテスト ・ 総括効果測定 45% 暴力団対策法、少年法等各種犯罪に関する法律等の理解度に関する テスト ・ 課題レポート 2 回への取り組み 20% (各回 10%)					
22.コメント	？ 警察官や刑務官等公務員を志望する学生は、受講してください。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜昼休み 研究室オフィスアワー：火曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 第 2 回	① オリエンテーション（自己紹介、授業の進め方） 「犯罪と法」の振り返り、犯罪情勢、刑法の仕組 みに触れます ② 刑法へのアプローチ① 刑法とは何なのかを考え、基礎的な考え方から重 要な原則について概括的に学びます			第 2 回 刑法の条文に目を通し、どのような 構成になっているのかを理解する		
第 3 回 第 4 回	③ 警察本部講義(刑事企画課) 刑事手続きの概要に ついて ④ 刑法へのアプローチ② 犯罪の成立要件、違法性阻却事由、有責性等につ			第 3 回 関係する刑法の条文に目を通す 第 4 回 関係する刑法の条文に目を通す		

	いて学びます	
第 5 回 第 6 回	⑤ 警察本部講義(捜査第一課) 性犯罪の現状、対策について ⑥ 刑法へのアプローチ③ 過失犯(福知山線脱線事故から)、因果関係、錯誤、未遂、親告罪、共犯等について学びます	第 5 回 関係する刑法の条文に目を通す 第 6 回 関係する刑法の条文に目を通す
第 7 回 第 8 回	⑦ 警察本部講義(刑事企画課) 近年の刑事関係法令の改正について ⑧ 刑法へのアプローチ④ 刑罰の種類、拘禁刑とは、刑罰の目的、死刑廃止論等について学びます	第 7 回 関係する刑法の条文に目を通す 第 8 回 関係する刑法の条文に目を通す
第 9 回 第 10 回	⑨ 警察本部講義(捜査第一課) 取調べ等刑事の仕事について ⑩ 科学捜査(犯罪捜査への科学技術の活用) 指紋鑑定、DNA 型鑑定、画像識別システム、プロファイリング、デジタルフォレンジックなどについて学びます	第 9 回 関係する刑事訴訟法の条文に目を通す 第 10 回 関係する刑事訴訟法の条文に目を通す
第 11 回 第 12 回	⑪ 警察本部講義(薬物銃器対策課) 薬物犯罪の現状、対策について ⑫ 薬物犯罪 薬物犯罪の実態、対策などについて振り返りながら学びます * 中間期のまとめ	第 11 回 関係する刑事訴訟法の条文に目を通す 第 12 回 講演で学んだ事柄に関する法令を確認する
第 13 回 第 14 回	⑬ 中間期における効果測定 ⑭ 職務質問と捜査の主体 ○ 職務質問の法的根拠や有形力の行使について ○ 警察と検察との関係や特別司法警察職員について	第 14 回 刑訴法等に目を通す。
第 15 回 第 16 回	⑮ 警察本部講義(暴力団対策課) 暴力団対策について ⑯ 暴力団対策法 暴力団対策法の目的、指定暴力団の意味、 禁止行為等について学びます	第 15・16 回 暴力団対策法等関係法令に目を通す
第 17 回 第 18 回	⑰ 任意捜査と強制捜査 1 任意捜査の種別と限界、取調べや任意 同行 ⑱ 任意捜査と強制捜査 2 強制捜査法定主義、逮捕種別、勾留 について学びます。	第 17・18 回 任意捜査の限界や逮捕について、刑事訴訟法等を確認する。
第 19 回 第 20 回	⑲ 捜査と報道 現役記者の講義(報道機関の役割、捜査機関との 関係、記者会見 実技)	第 19 回 報道機関の役割について考える。 第 20 回 講義内容を整理する

	㊟ 暴力団対応要領 暴力団等からの不当要求への具体的対応要領について実演を交えて学びます。	
第 2 1 回 第 2 2 回	？ 刑事被告人の権利と被害者（被害者遺族）の権利被告人に 認められた権利、保釈制度及び被害者支援等について学びます ？ 窃盗犯 窃盗の構成要件、発生状況、着手行為と実行行為等について学びます	第 21 回 関係する刑事訴訟法の条文に目を通す 第 22 回 刑法条文の確認
第 2 3 回 第 2 4 回	？ 警察本部講義（生活安全企画課）特殊詐欺の現状と対策について ？ 詐欺事件 特殊詐欺についての振り返り、詐欺罪の構成要件、事例検討等を行います。	第 23 回 特殊詐欺の現状を踏まえて、被害防止策について考える。 第 24 回 詐欺罪の成立時期や成否について考える。
第 2 5 回 第 2 6 回	？ 少年犯罪について 少年犯罪の現状、問題点、少年非行の種類、少年審判の方式等について学びます ？ 少年犯罪について？ 少年法の仕組み、改正、特定少年についてや児童虐待の現状、対策について学びます	第 2 5 ～ 2 6 回 少年法等の関係条文の確認 警察白書、犯罪白書の確認
第 2 7 回 第 2 8 回	？ 警察本部講義（人身安全対策課）ストーカー、DV 事案の現状と対策について ？ ストーカー、DV 事案について 同種事案の振り返り、具体的事例、対応要領	第 27 ・ 28 回 ST ・ DV 関連法令の確認
第 2 9 回 第 3 0 回	？ 総括効果測定 ？ 殺人事件 殺人事件の現状、法律要件、具体的事例と問題点	第 30 回 殺人事件の現状について警察白書、犯罪白書を確認する。

1.授業コード (ナンバリング)	CS2303-Y51	2.科目名	専門研究Ⅱ（再）		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	専門教育 総合演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	各専攻（エアライン・ホテルブライダル・旅行・観光 ビジネス専攻（地域コース）など			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	①先に単位取得が必須の科目：基礎演習または課題研究Ⅰ・Ⅱのいずれか ②履修を推奨する科目：マーケティング関連科目、エアラインビジネス論、現代航空事情		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	ゼミ振り分けの人数					
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目（専攻研究Ⅰ・Ⅱ）の目的は、連携先の企業・団体の提示する問題の解決に他者と協働して取り組むことで、これまで学んできた知識や技術を統合的に活用する力を強化することにあります。具体的には、ものごとの見方や考え方、資料・データの収集と分析の方法、議論の進め方、柔軟な発想力、深く考える力、他者への理解や共感、不足する知識や技術への気づきと自己能動的学習による知識や技術の修得、プレゼンテーション力を強化します。 【概要】 今年度の全学年に共通する学科の学びのテーマは「ウェルビーイング社会の実現につながる新たな観光価値をデザインする。」です。3 年次では、「ウェルビーイング社会を実現する観光ビジネスを考える」というテーマで、グローバルに変化し続ける社会と経済のなかで、観光ビジネスはどのようにウェルビーイング社会の実現につながるのかについて、以下の内容に取り組みます。 ①ビジネス構造と機能を理解する ②従来の枠にとらわれない「新しい観光価値」を具体的なアイデアにデザインする ③専門分野のビジネス課題について実現可能な提案をする 具体的な成果物としては、以下を作成します。 ・個人ワークで行う成果計画表 ※「何を、なぜ調べる必要があるのか」課題の背景、要因（なぜそれが課題になっているのか）をまとめる。 ・個人ワークで行う工程表 ・個人ワークで行う調査報告書（6000 字） ・グループによる発表（ポスター形式） 授業を進めるにあたっては、「Team」あるいは「Learning Community」を形成し、協働しながら互いに高めあう学びを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目（専攻研究Ⅰ・Ⅱ）の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の(6)「専門的知識・技能の活用力…マーケティングの知識・手法に基づき、観光産業で求められる知識・技能を活用して、既存の課題の解決と新たな企画・提案ができる」に関連しています。 【本科目の学習目標】 ①学んだ知識や技能を統合的に活用することにより課題を発見し、解決することができる。 ② 課題解決あるいは目標達成のために必要となる知識・技能の不足に気づき、それを補うための主体的学習ができる。 ③他者貢献の意味を理解し、コミュニケーションを図り、チームビルディングに主体的に参加しチームに貢献することができる。					

	④目標達成に向かって組織、工程、資源のマネジメントを効率的に行うことができる。 ⑤学外の関係者と積極的かつ効率的にコミュニケーションを図り、ビジネスマナーを適切に行動化することができる。 ⑥創り上げたアイデアをわかりやすくまとめ、的確かつ効果的に相手に伝えるプレゼンテーションができる。	
19.教科書・教材	適宜、資料を配信します。	
20.参考文献	なし	
21.成績評価	専門研究Ⅰ 個人調査の成果物：50％・・・学習目標①② 行程表（個人課題で提出したもの）：30％・・・学習目標④ 専攻課題文献のまとめ（2本）：20％・・・学習目標② 専門研究Ⅱ 調査計画表：20％・・・学習目標②④ 発表 PPT（個人課題で提出したもの）：30％・・・学習目標③⑤⑥ 調査研究報告書（6000 字以上）：50％・・・学習目標①② ※成果物の評価にはルーブリック評価表を使用します。授業初回の説明でよく確認してください。 ※本授業は主体的な学習	
22.コメント	エアライン専攻ゼミでは、最終ゴールはもちろんのこと、以下についても取り組みます。 ①調査研究レポートの作成、就活に向けて文章力を鍛える。⇒毎回、PC を持参し、課題のテーマについて文章を作成します。また課題図書も設けます。 ②データの収集および分析力を高める。⇒アンケートの作成やデータ化、データの分析から表やグラフの作成をできるように I T リテラシーを身につけます。 ③就活に向けた情報力を高める。⇒具体的な業界や企業について担当者を決めて発表します。（キャリアプランニングでも同じ課題が出されます。同じ内容でか	
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 第 2 回	第 1 回：オリエンテーション（進め方全体やゼミで目指す方向を確認） 第 2 回：2 年次の研究内容の発表 グループ決定	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 3 回 第 4 回	第 3 回：研究テーマについての検討（前年度の取り組みについて発表を確認） 第 4 回：フィールドワークに向けてテーマから確認すべき事項を取りまとめる。フィールドワークは空港見学を予定しており、開催は 5 月から 6 月の土曜日の予定。	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 5 回 第 6 回 第 7 回	第 5 回：フィールドワーク後のテーマに関する部分をまとめ、更なる調査項目をピックアップ 第 6 回&第 7 回：フィールドワーク実施により休講	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 8 回 第 9 回	第 8 回：成果計画表の作成 第 9 回：工程表の作成	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 10 回 第 11 回	第 10 回： 合同発表会に向けて準備 第 11 回：テーマ発表会 ANA 総研によるアドバイス	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第 12 回～第	第 12 回～第 14 回：企業からのアドバイスや他大学の	毎回、課題が示されます。その課題に関し

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	CS2303-Y52	2.科目名	専門研究Ⅱ（再）		3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均					
5.授業科目の区分	専門教育 総合演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	指定なし			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件	履修を推奨する科目：マーケティング関連科目、および思考法		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	20 名					
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目の目的は、連携先の企業・団体の提示する問題の解決に他者と協働して取り組むことで、これまで学んできた知識や技術を統合的に活用する力を強化することにあります。具体的には、ものごとの見方や考え方、資料・データの収集と分析の方法、議論の進め方、柔軟な発想力、深く考える力、他者への理解や共感、不足する知識や技術への気づきと自己能動的学習による知識や技術の修得、プレゼンテーション力を強化します。 【概要】 今年度の学びのテーマは「ウェルビーイング社会の実現につながる新たな観光価値をデザインする。」です。3 年次では、「ウェルビーイング社会を実現する観光ビジネスを考える」というテーマで、グローバルに変化し続ける社会と経済のなかで、観光ビジネスはどのようにウェルビーイング社会の実現につながるのかについて、以下の内容に取り組みます。 ①ビジネス構造と機能を理解する ②従来の枠にとらわれない「新しい観光価値」を具体的なアイデアにデザインする ③専門分野のビジネス課題について実現可能な提案をする 具体的な成果物としては、以下を作成します。 ・個人ワークで行う成果計画表 ※「何を、なぜ調べる必要があるのか」課題の背景、要因（なぜそれが課題になっているのか）をまとめる。 ・個人ワークで行う工程表 ・個人ワークで行う調査報告書（6000 字） ・グループによる発表（ポスター形式） 授業を進めるにあたっては、「Team」あるいは「Learning Community」を形成し、協働しながら互いに高めあう学びを目指します。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の(6)「専門的知識・技能の活用力…マーケティングの知識・手法に基づき、観光産業で求められる知識・技能を活用して、既存の課題の解決と新たな企画・提案ができる」に関連しています。 【本科目の学習目標】 ①学んだ知識や技能を統合的に活用することにより課題を発見し、解決することができる。 ② 課題解決あるいは目標達成のために必要となる知識・技能の不足に気づき、それを補うための主体的学習ができる。 ③他者貢献の意味を理解し、コミュニケーションを図り、チームビルディングに主体的に参加しチームに貢献することができる。 ④目標達成に向かって組織、工程、資源のマネジメントを効率的に行うことができる。 ⑤学外の関係者と積極的かつ効率的にコミュニケーションを図り、ビジネスマナーを適切に行動化することができる。 ⑥創り上げたアイデアをわかりやすくまとめ、的確かつ効果的に相手に伝えるプレゼンテーションができる。					

19.教科書・教材	適宜、資料を WEB 配信します。	
20.参考文献	なし	
21.成績評価	調査計画表：20%・・・学習目標②④ 発表 PPT（個人課題で提出したもの）：30%・・・学習目標③⑤⑥ 調査研究報告書（6000 字以上）：50%・・・学習目標①② ※成果物の評価にはルーブリック評価表を使用します。授業初回の説明でよく確認してください。 ※本授業は主体的な学習活動を中心として運営されますので、特別な事情の無い欠席については、基本的には認められませんので留意して下さい。	
22.コメント	前期に続いて PBL の取り組みを続ける一方で、活動を通じて感じたさまざまな問題意識を掘り下げ、調査研究報告書をまとめます。 周囲の社会や出来事にしっかり目を向け、好奇心をもって「なぜ？」という問いを持続けましょう。 また、就職に向けて自分の将来についてもしっかりと考えてください。 将来につながる経験と学びが得られるように、ゼミでの活動を十分に活用しましょう。	
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 5 限（秋） 学修支援センター：火曜昼休み（秋）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	《イントロダクション》 授業の目的、学習目標、成績評価の方法、卒業研究、就活との関係について理解しましょう。 《ブロック 1》課題の解決 ①ディスカッション：解決策の検討 調査報告書に基づき、課題解決の方策を検討します。 解決策の検討に必要な知識やスキルが不足していないかも検討しましょう。	【課題 1－1】 解決策の検討において気づいた不足する知識やスキルについて調べ、次回授業で発表・共有して下さい。（担当割り当て個人ワーク）
第 2 回	《ブロック 1》課題の解決 ①ミニ講義+質疑応答+ディスカッション： 課題 1－1 についてのミニ講義を行い、質疑応答の後、ディスカッションを行い、解決策の検討を行います。	【課題 2】 解決策についてのアイデア出しを行い、レポートにまとめ、次回授業時に提出して下さい。（全員個人ワーク）
第 3 回	《ブロック 1》課題の解決 ①ミニ講義+質疑応答： 課題 1－1 についてミニ講義を行い、不足していた知識やスキルを補完します。 ②発表+ディスカッション： グループに分かれ課題 1－2 を各自発表後、ディスカッションを行い、解決策をまとめます。	【課題 1－2】 企画提案書の作り方について調べ、資料を作成し、次回授業で講義をして下さい。（担当割り当て個人ワーク）
第 4 回	《ブロック 2》企画提案 ①ミニ講義：企画提案のまとめ方 企画提案のまとめ方について詳細を理解します。 ②講義：調査研究報告書の作り方 調査研究報告書の構成、書き方、留意点等について理解します。	【課題 1－3】 プレゼンテーション資料の作り方、プレゼンテーションの方法について、調べ次回授業で講義をして下さい。 【課題 3－1】 調査研究報告書のテーマ案と構成を考えて提出して下さい。（全員個人ワーク）
第 5 回	《ブロック 2》企画提案	【課題 3－2】

	①ミニ講義：プレゼンテーションの方法 プレゼンテーション資料の作り方、方法、留意点について理解します。 ②ディスカッション：プレゼンテーション資料 プレゼンテーション資料の構成、内容、デザイン、スタイルについて検討を行います。	調査研究報告書の『調査計画書』を提出してください。(全員個人ワーク) 【課題4－1】 プレゼンテーション資料のラフ案を作成し、次回授業で発表して下さい。
第6回	《ブロック2》企画提案 ①発表+ディスカッション：プレゼンテーション 各自プレゼンテーションラフ案を発表し、ディスカッションを行い、構成、内容、デザイン、スタイル、作業の役割分担を決めましょう。	【課題3－3】 調査研究報告書の執筆を始めてください。(全員個人ワーク) 【課題4－2】 プレゼン資料の作成を開始(担当割り当て個人ワーク)
第7回	《ブロック2》企画提案 ①講義：論理的な文章の書き方 論理的な文章の書き方についての詳細を理解し、調査研究報告書の作成に活用しましょう。	【課題3】 調査研究報告書の執筆を続けて下さい。(全員個人ワーク) 【課題4－3】 プレゼン資料を完成させて下さい。(グループワーク)
第8回	《ブロック2》企画提案 ①制作：プレゼン資料 グループに分かれ、プレゼン資料案を発表し、とりまとめ作業を行います。全体のデザイン、流れに留意して完成させましょう。	【課題3】 調査研究報告書の執筆を続けて下さい。(全員個人ワーク) 【課題4－3】 プレゼン資料を完成させて下さい。(グループワーク)
第9回	《ブロック2》企画提案 ①発表+審査・講評：プレゼンテーション 各グループごとにプレゼンテーションを行います。全員で審査を行い、審査結果を集計・発表後、講評を行います。 1位となったグループは、各グループの良い処を取り入れ、審査結果、講評を参考に、最終案を作成します。	【課題3】 調査研究報告書の執筆を続けて下さい。(全員個人ワーク) 【課題4－4】 1位となったグループは、審査、講評結果を踏まえ、プレゼン資料を完成させて下さい。(グループワーク)
第10回	《ブロック2》企画提案 ①発表+講評：プレゼンテーション 1位グループが発表を行います。全員で講評を行い、ブラッシュアップします。 ②発表+助言・指導：調査研究報告書 調査研究報告書の進捗状況を各自報告、助言指導を行います。	【課題3】 調査研究報告書の執筆を続けて下さい。(全員個人ワーク)
第11回	《ブロック2》企画提案 ディスカッション： 連携先へのプレゼンテーション審査会の企画を立てます。日程、案内状、設営、資材、当日の運営、役割分担について検討して下さい。	【課題3】 調査研究報告書の執筆を続けて下さい。(全員個人ワーク) 【課題4－5】 プレゼンテーション審査会の準備活動開始
第12回	《ブロック2》企画提案 連携先をお招きし、プレゼンテーション審査会を行います。 各自役割分担に応じて活動して下さい。	【課題】 プレゼンテーションでの指摘について整理し、改善点をまとめる。

第 1 3 回	《ブロック 2》企画提案 ①ディスカッション：ふりかえり プレゼンテーションの振り返りを行います。 ②助言・指導 調査研究報告書の作成状況を報告し、修正点・不足している点について理解します。	【課題 3】 調査研究報告書の最終原稿案を提出して下さい。
第 1 4 回	《ブロック 2》企画提案 調査研究報告書の原稿を返却します。コメントを参考に修正を行い、最終原稿を作成して下さい。	【課題 3】 調査研究報告書の最終原稿を作成し提出して下さい。
第 1 5 回	《ブロック 2》企画提案 調査研究報告書の振り返り ・調査方法が適切だったか ・不足している情報はなにか ・分析は適切だったか ・さらに深めるための課題はなにか 等	【課題 5】 振り返りシートをまとめる

1.授業コード (ナンバリング)	CS2404-Y52	2.科目名	卒業研究Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	4 年次	
10.取得資格の要件				11.先修条件	基礎演習・課題研究・専門演習を修得していること	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目は、大学での学びと経験の総仕上げである卒業論文を執筆することが目的である。ゼミ形式で進める授業のなかで、論文作成の手順や手続きを学び、自らの関心に基づいて専門分野を探究して課題を設定し、先行研究の精査と多様なデータの分析による客観的な論証を通じて、各自が説得力のある結論を導き出すことを目指す。 なお、この授業は SDG s の以下の目標を目指します。 9. 強くしなやかなインフラ構築，包摂的かつ持続可能な産業化の促進およびイノベーションの促進を図る					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 K1：歴史・伝統・文化・自然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる K2：グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関心を持つ K4：異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①既存の概念や定説にとらわれず、観光に関わる幅広い分野において批判的思考に基づき課題を見出すことができる。 ②先行研究を論理的に分析することができる。 ③自らの仮説を客観的なデータで論証できる。 ④自らの考えを論理的に説明できる。 ⑤自らの論考を論理的な文章にまとめることができる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK ブックス、2012 年 石黒圭『論文・レポートの基本：この 1 冊できちんと書ける!』日本実業出版社、2012 年 西村克己『論理的な文章の書き方が面白いほど身につく本：「わかりやすい 文章」を書くための基本ポイント 35』KADOKAWA/中経出版 2011 年					
21.成績評価	・ゼミ内での発表〈春学期〉：10% 【学習目標①④に対応】 ・論文構成報告〈春学期終盤〉：20% 【学習目標①②④⑤に対応】 ・中間発表〈10 月中旬〉：20% 【学習目標②③④⑤に対応】 ・ゼミ内での発表〈秋学期〉：10% 【学習目標②③④に対応】 ・口頭試問〈1 月下旬〉：40% 【学習目標②③④に対応】 ※成果物としての卒業論文については、「卒業論文」科目においてルーブリック評価を用いて評価する（100%） 【学習目標①②③⑤に対応】					
22.コメント	自分の取り上げたテーマについて「なぜだろう?」「本当だろうか?」と批判的に問い続け、検証し、文章で論理的に説明する卒業論文の作成は、大変な時間と労力を必要とします。行き詰					

	った時には、指導教官だけではなく、友人たちとも議論してみましょう。お互いに気が付かない点が見えてくることもあります。大学での学びの総決算として、「やり切った」といえる卒論を書きあげてください。	
23.オフィスアワー	個人研究室：月曜昼休み 学修支援センター：月曜 4 限目	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1～2 回】	・ 春学期オリエンテーション（本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス） ・ 卒業論文作成のためのガイダンスとスケジュールの確認	○卒業論文作成に関する規則やルールの復習 ○先行研究の収集・精読と発表準備
【第 3～4 回】	・ 各自の課題意識と研究テーマの発表、および質疑応答①	○先行研究の収集・精読と発表準備
【第 5～6 回】	・ 各自の課題意識と研究テーマの発表、および質疑応答②	○先行研究の収集・精読と発表準備
【第 7～8 回】	・ 各自の論文章立ての発表、および質疑応答①	○先行研究の収集・精読と発表準備
【第 9～10 回】	・ 各自の論文章立ての発表、および質疑応答②	○先行研究の収集・精読と発表準備
【第 11～12 回】	・ 調査手法の検討と準備について、各自の報告と質疑応答①	○調査手法の準備と発表準備
【第 13～14 回】	・ 調査手法の検討と準備について、各自の報告と質疑応答②	○調査手法の準備と発表準備 ○夏休み中の作業計画の作成
【第 15～16 回】	第 15 回：夏休み中の作業計画の提出 論文構成の報告（副査に提出）・・・春学期終了 第 16 回：夏休み中の論文の進行状況報告と初稿提出までのスケジュール確認	○論文構成報告書の作成 ☆夏休み：本文の執筆・調査の実施 ○夏休み中の論文進行状況報告の準備
【第 17～18 回】	☆10 月中旬：論文の中間発表 ・ 各自の論考の報告と質疑応答①	○中間報告に向けた発表の準備 ○文献・フィールド調査・データ分析
【第 19～20 回】	・ 各自の論考の報告と質疑応答②	○文献・フィールド調査・データ分析 ○本文の執筆
【第 21～22 回】	・ 各自の論考の報告と質疑応答③	○文献・フィールド調査・データ分析 ○本文の執筆
【第 23～24 回】	・ 各自の論考の報告と質疑応答④	○本文の執筆
【第 25～26 回】	☆12 月上旬：論文初稿提出（期日は後日指定） ・ 提出後、副査のコメントをもとに論文の修正について指示	○論文の修正
【第 27～28 回】	・ 論文の修正の確認と口頭試問の準備	○論文の修正 ○口頭試問の準備
【第 29～30 回】	☆1 月中・下旬：口頭試問（2 コマ使用）（各ゼミごとに実施）	○口頭試問の準備

1.授業コード (ナンバリング)	CS2404-Y53	2.科目名	卒業研究Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	基礎演習・課題研究・専門研究を修得済みであること。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの学修の集大成として、秋学期末に提出する調査研究成果報告書／企画提案書の準備をすることを目的とする。 これまで学修、修得した知識とスキルを統合的に活用し、調査研究活動を行い、その成果を、報告書／企画提案書としてまとめるための指導を行う。 とくに、研究及び執筆過程において深く思考するという体験をすることに重点を置く。 【概要】各自が設定する研究テーマについての現状調査、先行研究の収集、考察・分析など、秋学期に提出する調査研究成果報告書／企画提案書の執筆の準備作業を進める。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 K1：歴史・伝統・文化・自然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる K2：グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関心を持つ K4：異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える 本科目の学習目標は以下の通りです。 ① 国際ビジネスに関わる幅広い分野において批判的視点から課題を発見し研究テーマを設定することができる ② 先行研究を論理的に分析することができる。 ③ 研究課題に関する情報の収集・分析を行い、仮説を客観的データに基づき論証することができる。 ④ 研究及び論文執筆の計画を作成し、実施することができる。 ⑤ 研究成果を既定の書式にそって論文としてまとめることができる。 ⑥ 研究成果について論理的に説明でき、意見を交換することができる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。適宜資料を配布する。					
20.参考文献	論文 ・明石芳彦（2018）『社会科学系論文の書き方』ミネルバ書房. ・西村克己（2011）『論理的な文章の書き方が面白いほど身につく本 ：「わかりやすい 文章」を書くための基本ポイント 35』 KADOKAWA. ・二通 信子 他（2009）『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会. 報告書 ザ・アール（2018）『これだけは知っておきたい「レポート・報告書」の基本と常識 改訂版』フォレスト出版. ・学研パブリッシング（2012）『【実例 110】レポー					
21.成績評価	【課題 11、12】（10％）					

	【課題 13】中間発表（20%） 【課題 14】最終原稿案の提出（10%） 【課題 15】調査研究成果報告書／企画提案書（40%） ⇒ これを提出することが、本科目の単位取得かつ卒業の絶対条件。 【課題 16】プレゼンテーションもしくは口頭試問（20%） ※評価についてはルーブリックを用いる。	
22.コメント	？自分の取り上げたテーマについて「なぜだろう？」「本当だろうか？」と批判的に問い続け、検証し、文章で論理的に説明することが大切です。 調査研究成果報告書／企画提案書の作成は、大変な時間と労力を必要とします。行き詰った時には、指導教官だけではなく、友人たちとも議論してみましょ。お互いに気が付かない点が見えてくることもあります。大学での学びの総決算として、「やり切った」といえるモノを書きあげてください。 ・毎回PCを持参使用します。ワード、エクセルのスキルが必要となります。 ・毎回、ノート+筆記用具、	
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション（本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス） ・調査研究成果報告書／企画提案書のためのガイダンスとスケジュールの確認。	・調査研究、報告書作成に関する規則やルールの復習。 ・卒業論文作成に関する規則やルールの復習。 【課題 1】仮テーマ案を 3 つ程度考え提出する。 【課題 2】先輩の卒業論文を 1 つ読み、概要（テーマ、課題、課題解決方法、結論）についてレポートを提出する。
第 2・3 回	？【課題 1、2】の提出、発表及び質疑応答 ？卒論の客観的評価。	【課題 3】テーマについての先行研究を 20 点あげ、年代順に並べるなどして傾向・現状をまとめる。記述方法は執筆要領に従うこと。
第 4・5 回	？【課題 3】の提出、発表及び質疑応答 ？これまで、また現在どのようなことが議論され課題となっているかを確認する。 ？テーマを徐々に固め、テーマが固まったら仮説を立ててみる。	【課題 4】テーマについて仮説を立て、レポートを提出する。
第 6・7 回	？【課題 4】の提出、発表及び質疑応答 ？仮説を検証するために必要な調査課題とその方法を検討。	【課題 5】調査課題と調査方法についてレポートを提出する。
第 8・9 回	？【課題 5】の提出、発表及び質疑応答。 ？改めてテーマの課題を整理し、現状と展望について考察する。	【課題 6】調査課題を整理した上で、目次案を作成し提出する。
第 10・11 回	？【課題 6】の提出、発表及び質疑応答。 ？アンケート、インタビュー、現地踏査などの諸注意。	【課題 7】アンケート、インタビューの質問リストを提出する。
第 12・13 回	？【課題 7】の提出、発表及び質疑応答。 ？研究計画書〔調査の趣旨・目的、調査方法、見込まれる調査結果〕の準備。	【課題 8】アンケート、インタビューの質問リストの校正 文献・資料調査の補足。 【課題 9】夏休み中の作業計画書の提出＝第

		15 回目までに提出
第 14・15 回	? 【課題 8、9、10】の提出、発表及び質疑応答。 ? 夏休み中の作業の確認。	【課題 11】夏休み中の進行状況の確認 1 = 8 月末までに提出 【課題 12】夏休み中の進行状況の確認 2 = 秋学期開始前に提出
【第 16 回】	? 【課題 10、11、12】の発表 ? 夏休み中の調査研究成果報告書／企画提案書の進行状況報告と初稿提出までのスケジュール確認。	【課題 11、12】夏休み中に提出
【第 17～18 回】	? 10 月中旬：調査研究成果報告書／企画提案書の間 発表会。 ? 執筆状況の報告と助言・指導	【課題 13】プレゼンテーションの中間発表会の実施
【第 19～26 回】	★執筆活動 ? 個別指導：執筆状況の報告と助言・指導 ? 11 月上旬：最終原稿案の提出	【課題 14】最終原稿案の提出 10 月中旬 プレゼンテーションの準備・練習。
【第 27～28 回】	★調査研究成果報告書／企画提案書の提出 = 12 月下旬 予定	【課題 15】最終原稿 2 部提出（紙媒体） ? プレゼンテーションの準備・練習。 ★プレゼンテーション = 1 月下旬までにゼミ ごとに実施
【第 29～30 回】	? 調査研究成果報告書／企画提案書の校正作業。 ? 口頭試問の準備・練習。 ★口頭試問 = 1 月下旬（ゼミごとに実施）	【課題 16】プレゼンテーションもしくは 口頭試問

1.授業コード (ナンバリング)	CS2404-Y55	2.科目名	卒業研究Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件	卒業研究Ⅰを修得済みであること。	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 調査研究成果報告書／企画提案書の提出 【概要】 卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえ、実地調査、アンケート調査、インタビューなどによって得たデータに基づき分析・考察を行った結果を調査研究成果報告書／企画提案書として執筆する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 K1：歴史・伝統・文化・自然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる K2：グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関心を持つ K4：異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える 本科目の学習目標は以下の通りです。 ① 国際ビジネスに関わる幅広い分野において批判的視点から課題を発見し研究テーマを設定することができる ② 先行研究を論理的に分析することができる。 ③ 研究課題に関する情報の収集・分析を行い、仮説を客観的データに基づき論証することができる。 ④ 研究及び論文執筆の計画を作成し、実施することができる。 ⑤ 研究成果を既定の書式にそって論文としてまとめることができる。 ⑥ 研究成果について論理的に説明でき、意見を交換することができる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。適宜資料を配布する。					
20.参考文献	論文 ・明石芳彦（2018）『社会科学系論文の書き方』ミネルバ書房. ・西村克己（2011）『論理的な文章の書き方が面白いほど身につく本 ：「わかりやすい 文章」を書くための基本ポイント 35』 KADOKAWA. ・二通 信子 他（2009）『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会. 報告書 ザ・アール（2018）『これだけは知っておきたい「レポート・報告書」の基本と常識 改訂版』フォレスト出版. ・学研パブリッシング（2012）『【実例 110】レポー					
21.成績評価	【課題 11、12】（10％） 【課題 13】 中間発表（20％） 【課題 14】 最終原稿案の提出（10％） 【課題 15】 調査研究成果報告書／企画提案書 （40％） ⇒ これを提出することが、本科目の単位取得かつ卒業の絶対条件。					

	【課題 1 6】 プレゼンテーションもしくは口頭試問（20%） ※評価についてはルーブリックを用いる。	
22.コメント	？ 自分の取り上げたテーマについて「なぜだろう？」「本当だろうか？」と批判的に問い続け、検証し、文章で論理的に説明することが大切です。 調査研究成果報告書／企画提案書の作成は、大変な時間と労力を必要とします。行き詰った時には、指導教官だけではなく、友人たちとも議論してみましょう。お互いに気が付かない点が見えてくることもあります。大学での学びの総決算として、「やり切った」といえるモノを書きあげてください。 ・ 毎回 P C を持参使用します。ワード、エクセルのスキルが必要となります。 ・ 毎回、ノート+筆記用具、	
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 5 限（秋） 学修支援センター：火曜昼休み（秋）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	？ 【課題 10、11、12】 の発表 ？ 夏休み中の調査研究成果報告書／企画提案書の進行状況報告と初稿提出までのスケジュール確認。	【課題 11、12】 夏休み中に提出
第 2 回	？ 10 月中旬：調査研究成果報告書／企画提案書の中間発表会。 ？ 執筆状況の報告と助言・指導	【課題 1 3】 中間発表会の実施
第 3 回	？ 10 月中旬：調査研究成果報告書／企画提案書の中間発表会。 ？ 執筆状況の報告と助言・指導	【課題 1 3】 中間発表会の実施
第 4 回	★執筆活動 ？ 個別指導：執筆状況の報告と助言・指導	【課題】 指導・指示に従い、調査・執筆を進める。
第 5 回	★執筆活動 ？ 個別指導：執筆状況の報告と助言・指導	【課題】 指導・指示に従い、調査・執筆を進める。
第 6 回	★執筆活動 ？ 11 月上旬：最終原稿案の提出 ？ 個別指導：執筆状況の報告と助言・指導	【課題】 指導・指示に従い、調査・執筆を進める。
第 7 回	★執筆活動 ？ 11 月上旬：最終原稿案の提出 ？ 個別指導：執筆状況の報告と助言・指導	【課題 1 4】 最終原稿案の提出
第 8 回	★執筆活動 ・ 個別指導：執筆状況の報告と助言・指導	【課題】 指導・指示に従い、調査・執筆を進める。
第 9 回	★執筆活動 ・ 個別指導：執筆状況の報告と助言・指導	【課題】 指導・指示に従い、調査・執筆を進める。
第 10 回	★執筆活動 ・ 個別指導：執筆状況の報告と助言・指導	【課題】 指導・指示に従い、調査・執筆を進める。
第 11 回	★執筆活動 ・ 個別指導：執筆状況の報告と助言・指導	【課題】 指導・指示に従い、調査・執筆を進める。
第 12 回	？ プレゼンテーションの準備・練習。	【課題 15】 最終原稿 2 部提出（紙媒体） 締切：12 月上旬（具体的な日程はあらためて通知します）
第 13 回	？ プレゼンテーションの準備・練習。	【課題】 口頭試問に向けて、原稿の確認とレジュメの作成を進める。

第 14 回	? プレゼンテーションの準備・練習。 ★プレゼンテーション=1 月下旬までにゼミごとに実施	【課題 1 6】プレゼンテーションもしくは口頭試問
第 15 回	? プレゼンテーションの準備・練習。 ★プレゼンテーション=1 月下旬までにゼミごとに実施	【課題】 指摘事項に基づき原稿を修正し、完成原稿を提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	ECO101-A51	2.科目名	経済学概論		3.単位数	4
4.授業担当教員	林万平					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(公民) 中学(社会)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では、今日の経済社会を理解する上で必要となる経済的知識および経済学的な発想方法を身につけることを目的とする。 本講義の学修内容は以下のとおりである。 第 1 に、経済学における基本的な概念や専門用語を説明し、それらの活用の仕方を学習する。 第 2 に、身近な事例、新聞記事、統計等を題材として様々な経済現象をとりあげ、経済学 で扱われる主要なテーマを具体的に学習する。 第 3 に、個々の経済現象がどのようなメカニズムで起こるのかを理論的に学習する。 なお、週 2 回の講義のうち、1 回は復習も兼ねた回とする。					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 ① 経済学の専門用語の意味を理解し活用することができる。 (DP 専門的知識・技能の活用力と関連) ② データから経済現象を読み取ることができる。 (DP 専門的知識・技能の活用力と関連) ③ 身近な経済現象について経済理論に基づいて他人に説明することができる。 (DP 問題発見・解決力と関連)					
19.教科書・教材	授業中に適宜教員より配布					
20.参考文献	林敏彦「経済学入門」 日本放送出版協会 林敏彦「ハート＆マインド経済学入門」有斐閣アルマ 吉川洋 「マクロ経済学」 岩波書店 神取道宏「ミクロ経済学の力」日本評論社 林敏彦「需要と供給の世界」日本評論社					
21.成績評価	評価・評定については下記項目を基に総合的に行う。 -授業中の提出物 30% (学習目標①に対応) -中間試験 30% (学習目標②、③に対応) -総括試験 40% (学習目標②、③に対応)					
22.コメント	経済学は人々の生活や社会のあり方を理解する上で重要な考え方を教えてくれます。 難しく考えすぎずに取り組んでみることをお勧めします。 わからないことがあれば、そのままにせず積極的に質問してください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 1 回 経済学の考え方 第 2 回 経済学の考え方 (復習)			アサインメント： -教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理		

		持参物：教科書、ノ ー ト
	第 3 回 消費と消費者 第 4 回 消費と消費者（復習）	アサインメント： -教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理 持参物：教科書、ノ ー ト
	第 5 回 生産と企業 第 6 回 生産と企業（復習）	アサインメント： -教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理 持参物：教科書、ノ ー ト
	第 7 回 市場の役割 第 8 回 市場の役割（復習）	アサインメント： -教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理 持参物：教科書、ノ ー ト
	第 9 回 政府の役割 第 10 回 政府の役割（復習）	アサインメント： -教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理 持参物：教科書、ノ ー ト
	第 11 回 中間試験 第 12 回 マクロ経済学の考え方	アサインメント： -教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理 持参物：教科書、ノ ー ト
	第 13 回 国民所得統計と GDP 第 14 回 国民所得統計と GDP（復習）	アサインメント： -教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理 持参物：教科書、ノ ー ト
	第 15 回 貨幣と金融システム 第 16 回 貨幣と金融システム（復習）	アサインメント： -教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理 持参物：教科書、ノ ー ト
	第 17 回 物価と経済社会 第 18 回 物価と経済社会（復習）	アサインメント： -教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理 持参物：教科書、ノ ー ト
	第 19 回 日本の経済成長 第 20 回 日本の経済成長（復習）	アサインメント： -教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理 持参物：教科書、ノ ー ト
	第 21 回 バブルと恐慌 第 22 回 バブルと恐慌（復習）	アサインメント： -教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理 持参物：教科書、ノ ー ト
	第 23 回 世界の中の日本経済 第 24 回 世界の中の日本経済（復習）	アサインメント： -教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理 持参物：教科書、ノ ー ト
	第 25 回 持続可能な開発	アサインメント：

	第 2 6 回 持続可能な開発（復習）	-教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理 持参物：教科書、ノ ー ト
	第 2 7 回 安全安心と幸福 第 2 8 回 安全安心と幸福（復習）	アサインメント： -教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理 持参物：教科書、ノ ー ト
	第 2 9 回 災害と経済 第 3 0 回 総括試験	アサインメント： -教科書の該当箇所の復習 -授業ノート の整理 持参物：教科書、ノ ー ト

1.授業コード (ナンバリング)	ECO101-M51	2.科目名	経済学概論		3.単位数	4
4.授業担当教員	北村浩二					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1～	
10.取得資格の要件	高校（公民）、中学（社会）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	今日の経済社会を理解するうえで必要となる経済的知識および経済学的な発想方法を身につめることを目的とする。 （１）経済学における基本的な概念や専門用語を説明し、それらの活用の仕方を学習する。 （２）身近な事例、新聞記事などを題材としてさまざまな経済現象を取り上げ、経済学で扱われる主要なテーマを具体的に学習する。 （３）個々の経済現象がどのようなメカニズムで起こるかを理論的に学習する。 なお、週２回の講義のうち、１回は復習を兼ねた回とする。					
18.学習目標と DPとの関連	①経済学の専門用語の意味を理解し活用することができる。（DP 専門知識・技能の活用力と関連） ②データから経済現象を読み取ることができる。（DP 専門的知識・技能の活用力と関連） ③身近な経済現象について経済理論に基づいて他人に説明することができる。（DP 問題発見・解決力と関連） DP の（１）自律性、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル、（６）専門的知識・技能の活用力に関連する。					
19.教科書・教材	『入門経済学 第４版』伊藤元重、日本評論社					
20.参考文献	授業内で適宜紹介する					
21.成績評価	ミニ課題：２０％ 中間試験：３０％ 総括試験：５０％					
22.コメント	経済学は人々の生活や社会のあり方を理解する上で重要な考え方を教えてくれます。 難しく考えすぎずに取り組んでみることをお勧めします。 わからないことがあれば、そのままにせず積極的に質問してください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第１回：経済学を学ぶ意義について 第２回：経済学とは何か（復習）			授業内に課題を行う		
	第３回：需要と供給 第４回：需要・供給分析（復習）			授業内に課題を行う		
	第５回：需要曲線と消費者行動 第６回：需要曲線と消費者余剰（復習）			授業内に課題を行う		
	第７回：供給曲線 第８回：利益最大化と供給行動（復習）			授業内に課題を行う		
	第９回：市場取引と資源配分 第１０回：市場競争と経済発展（復習）			授業内に課題を行う		
	第１１回：独占と競争の理論 第１２回：完全競争と独占的競争			授業内に課題を行う		

	第13回：市場の失敗 第14回：外部効果と公共財（復習）	授業内に課題を行う
	第15回：経済をマクロからとらえる 第16回：マクロ経済学とGDP（復習）	授業内に課題を行う
	第17回：有効需要と乗数メカニズム 第18回：マクロで見た需要（復習）	授業内に課題を行う
	第19回：貨幣の機能 第20回：貨幣の定義と機能（復習）	授業内に課題を行う
	第21回：マクロ経済政策 第22回：財政政策と金融政策（復習）	授業内に課題を行う
	第23回：インフレーション 第24回：デフレーション（復習）	授業内に課題を行う
	第25回：高齢化社会の財政運営 第26回：高齢化のもとでの財政運営（復習）	授業内に課題を行う
	第27回：経済成長と経済発展 第28回：経済はなぜ成長するのか（復習）	授業内に課題を行う
	第29回：国際経済学 第30回：期末試験	授業内に課題を行う

1.授業コード (ナンバリング)	ECO104-Y51	2.科目名	経済学基礎		3.単位数	2
4.授業担当教員	井上尚之					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	国際コミ学部 英 語コミ学科必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年以上
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	経済学はお金だけでない、全ての有限なモノを効率的に分配するための手法を考える学問です。住まい、健康、恋愛、働き方、食事といったジャンルも経済学の対照です。経済学の知識は何を選んで何を捨てるかという意志決定をするときの客観的なツールとしても役立ちます。この講義の目的は、ミクロ経済学、マクロ経済、ファイナンス経済学などの基礎をお金をキーワードとして楽しく学びます。 最終目標は上記の内容を皆さんがプレゼンできることです。					
18.学習目標と DPとの関連	グローバル社会で活躍できる人材を養成することをめざし、自ら積極的に行動し、体験を通して社会との関わりの中で考え、行動することができる人間を育成するとともに、それを可能とする学術研究を行うことを目的とする。					
19.教科書・教材	井上尚之『よくわかる基礎経済学－ミクロ経済・マクロ経済－』（大阪公立大学出版会、2024） マイクを回して読んでもらうので初回から必ず購入しておくこと。					
20.参考文献						
21.成績評価	積極的授業参加度・発表 45%、総括試験 55%					
22.コメント	授業中にマイクを回して順に教科書を読んでもらうので、必ず教科書を購入して持参すること。					
23.オフィスアワー	授業終了後又はメール					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	経済学とは何か 需要と供給			準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。		
第 2 回	市場の失敗 需要曲線の移動・供給曲線の移動			準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。		
第 3 回	需要の価格弾力性・供給の価格弾力性			準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。		
第 4 回	無差別曲線と効用（満足度）			準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書		

		く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 5 回	企業の役割 MC 曲線と AVC 曲線	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 6 回	企業の利潤の最大化 生産に関する曲線	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 7 回	GDP と三面等価の原則 経済成長と景気変動	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 8 回	財政政策と金融政策 日銀による経済政策	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 9 回	ケインズ型消費関数 グラフで読み解く財政政策	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 10 回	インフレギャップとデフレギャップ	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 11 回	IS 曲線	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 12 回	LM 曲線	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書

		く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 13 回	為替レートと物価の関係	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 14 回	経済小史 資本主義の発展 総括試験	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 15 回	総括試験返却 総復習	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。

1.授業コード (ナンバリング)	EDE202-A51	2.科目名	英語科教育法Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分	展開科目 教科及び教科の指導法に関する科目-各教科の指導法	6.必修・選択の区分	選択 教職必修	7.開講学期・年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科等			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	中学(英語) コアカリ対応科目		11.先修条件	教職課程履修者		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Addresses	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 四技能および発音、文法、語彙などの指導法に関する従来型の問題点を指摘し、これを改善するための指導法について、グループでの議論（内容によって日本語または英語）を通して考えます。 【概要】 上記の授業の目的を踏まえ、授業における発音指導、文字指導、語彙指導、文法指導、4 技能に関する指導、複数の言語技能を統合した指導、ICT、テストと評価に関する理論を理解し学ぶ。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①第 2 言語習得理論や中学校外国語科における 4 技能など外国語（英語）を指導する上で必要な知識がわかるようになる。 ②①の知識や理解を実践の中で活用できるようになる。					
19.教科書・教材	1）～4）は英語科教育法Ⅰと同じ 1）土屋澄男・秋山朝康・大城賢・千葉克裕・望月正道『最新英語科教育法入門』研究社 2）白畑知彦・富田?一・村野井仁・若林茂則『英語教育用語辞典 第 3 版』大修館書店 3）『中学校学習指導要領解説 -外国語編-』文部科学省(最新版) {WEB 資料,https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_010.pdf}					
20.参考文献	樋口忠彦・高橋一幸（編）（2015）「Q&A 中学英語指導法事典ー現場の悩みに答えるー」教育出版 Reference books will be announced in the class.参考書は授業で指示します。					
21.成	小テスト（単語テスト）20%（3 回分）					

績評価	課題小レポート 30% (10×3 回) グループワーク・プレゼン 20% (発表 15%、まとめ 5%) 総括レポート試験 30%	
22.コメント	・事前に教科書の該当部分を読み、議論する問題点について自分の考えをまとめておくこと ・教員を目指すのなら、授業は無遅刻、欠席も避けること ・教員採用試験の準備として、英検 2 級または TOEIC 550 点以上を取得しておくこと	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	Methods and Techniques in Pronunciation Teaching 第 8 章 発音指導	○第 9 章 予習 (30 分) ●課題 1：英語の綴りが音と一致しない原因を考える (60 分)
第 2 回	Methods and Techniques in Teaching Letters and Spelling 第 9 章 文字と綴り字の指導	○第 10 章 予習 (30 分)
第 3 回	Methods and Techniques in Teaching Vocabulary 第 10 章 語彙指導	◎グループワーク：語彙指導 ○第 11 章 予習・レポート作成 (90 分)
第 4 回	Methods and Techniques in Teaching Grammar 第 11 章 文法指導	○討論準備 (60 分)
第 5 回	Methods and Techniques in Teaching Listening Discussion: Why is listening English so difficult for Japanese people? リスニング指導&討論「なぜ英語の聞き取りが難しいのか」	○第 12 章 予習 (30 分)
第 6 回	Methods and Techniques in Teaching Listening: Theory and Method 第 12 章 リスニング指導：理論と方法	◎グループワークの準備
第 7 回	Methods and Techniques in Teaching Speaking: The Differences in pronunciation between English and Japanese language "Why is it so easy for Japanese people to fall into katakana English?" スピーキング指導：英語と日本語の音の比較 「なぜカタカナ英語になりやすいのか」を考える	●スピーキング課題(60 分)
第 8 回	Methods and Techniques in Teaching Speaking: Comparison of Japanese and English for Teaching Methods 第 13 章 スピーキング指導：日英語の比較から指導法を考える	◎グループワーク ○第 14 章 予習 ・レポート作成 (120 分)
第 9 回	Methods and Techniques in Teaching Reading: The	○討論準備 (30 分)

回	Psychological Process of Reading Comprehension 第 14 章 リーディング指導：読解の心理的プロセス	
第 10 回	Methods and Techniques in Teaching Reading: Specific teaching methods and activities リーディング指導：具体的な指導方法とアクティビティ	◎グループワーク ○第 15 章予習・討論準備（60 分）
第 11 回	Methods and Techniques in Teaching Writing: Theory and Method 第 15 章 ライティング指導：理論と指導法	◎グループワーク ○第 16 章予習・討論準備・（120 分）
第 12 回	Teaching Integrated Language Skills 第 16 章 言語技能を統合した指導	◎グループワーク ○第 19 章予習 ・ 討論準備 ・ レポート作成（150 分）
第 13 回	Utilization of Teaching Methods (ICT, Team Teaching, and ALT), Classroom English 第 19 章 ICT,TT, ALT の活用、教室英語	◎グループワーク ○第 21 章予習（30 分） ●レポート課題 3(60 分)
第 14 回	Testing and Evaluation: Measurement Methods, Evaluation and Assessment Methods, etc. 第 21 章 テストと評価：測定方法・評価方法など	◎グループワーク ○復習（90 分）
第 15 回	Consolidation 総括	

1.授業コード (ナンバリング)	EDE202-Y81	2.科目名	英語科教育法Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	展開科目 英語教育分野における 実務経験のある教員に よる授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択 教職の必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科、 または教育福祉学科子ども学専攻の中学英語免許希望者			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 中学(英語)		11.先修条件	英語科教育法Ⅰを履修済みであることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 英語科指導に必要な知識を身につけ、実際の指導現場で用いることを考えられるようになる。 また、様々な指導法の長所・短所とその改善点について考えられるようになる。 【概要】 四技能および発音、文法、語彙などの指導法に関する従来型の問題点を指摘し、これを改善するための指導法について、グループでの議論（内容によって日本語または英語）を通して考えます。					
18.学習目標と DPとの関連	・英語教育の各スキルの指導法について簡単に説明できる<DP6 専門的知識・技能の活用力> ・従来の指導法の問題点を指摘できる<DP4 問題発見・解決力> ・問題点の改善方法を考えて説明することができる<DP6 専門的知識・技能の活用力>					
19.教科書・教材	(英語科教育法Ⅰと同じ教科書) 土屋澄男・広野威志 『新編英語科教育法入門』 研究社 白畑ほか 『改訂版 英語教育用語辞典』 大修館書店					
20.参考文献	「中学校学習指導要領解説-外国語編-」文部科学省(最新版) 「高等学校学習指導要領解説-外国語編 英語編-」文部科学省(最新版) 中学校・高校の検定教科書(英語)					
21.成績評価	課題レポート 30% (10×3 回) グループワーク 20% (発表 10%、まとめ 10%) 総括試験 50% 総計 100%のうち 60%以上で合格です。					
22.コメント	・事前に教科書の該当部分を読み、議論する問題点について自分の考えをまとめておくこと ・教員を目指すのなら、授業は無遅刻、欠席も避けること ・教員採用試験の準備として、英検 2 級または TOEIC 550 点以上を取得しておくこと					
23.オフィスアワー	月曜日 3 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	発音指導			○第 8 章予習 (30 分) ●課題 1: 英語の綴りが音と一致しない原因を考える (60 分)		

【第 2 回】	文字と綴り字の指導	○第 9 章予習 (30 分)
【第 3 回】	語彙指導	◎グループワーク：語彙指導 ○第 10 章予習・レポート作成 (90 分)
【第 4 回】	文法指導	○討論準備 (60 分)
【第 5 回】	リスニング指導 & 討論「なぜ英語の聞き取りが難しいのか」	○第 11 章予習 (30 分)
【第 6 回】	リスニング指導:理論と方法	◎グループワーク ○第 12 章予習 (30 分)
【第 7 回】	スピーキング指導：英語と日本語の音の比較 なぜカタカナ英語になりやすいのかを考える	●スピーキング課題(60 分) 左欄の内容についてまとめる(次回提出)
【第 8 回】	スピーキング指導：日英語の比較から指導法を考える	◎グループワーク ○第 13 章予習・レポート作成 (120 分)
【第 9 回】	リーディング指導：読解の回路	○討論準備 (30 分)
【第 10 回】	リーディング指導：具体的な指導方法とアクティビティ	◎グループワーク ○第 14 章予習・討論準備 (60 分)
【第 11 回】	ライティング指導：理論と指導法	◎グループワーク ○第 15 章予習・討論準備・(120 分)
【第 12 回】	言語技能を統合した指導	◎グループワーク ○第 16 章予習・討論準備・レポート作成 (150 分)
【第 13 回】	TT, ALT の活用、教室英語	◎グループワーク ○第 17 章予習 (60 分) ●レポート課題 3(60 分)
【第 14 回】	テストと評価：測定方法・評価方法など	◎グループワーク ○復習 (90 分)
【第 15 回】	総括	

1.授業コード (ナンバリング)	EDE203-Y51	2.科目名	英語科教育法Ⅲ		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	展開科目 英語教育分野における 実務経験のある教員に よる授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択 教職の必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科の中学英語免許希望者			9.履修学年	2 年生～(2021 年度のみ英 コミ 2 年生受講可)	
10.取得資格の要件	高校(英語) 中学(英語)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	TOEIC500 点 またはそれに相当する英語の資格試験/スコア保持者					
17.授業の目的と概要	This course is for those who are seeking for teaching job after graduation. This course examines successful foreign language education; how foreign languages are taught and learned in the world. Various teaching methods which have been used around the world. 本科目は、将来教職に就く人を対象とする。日本国内外での外国語教育（特に英語教育）の状況や指導法について学び、指導計画・授業計画の立て方などについて学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	・日本の英語教育の流れがわかる ・第二言語習得理論と英語教育の関連がわかる ・学習指導要領での英語教育の目的が説明できる ・各学年の指導計画を目標に従って立てることができる DP(4)問題発見・解決力 (6)専門的知識・技能の活用力 : 教職や英語に関する知識を活かした英語授業の活動を考えたり、活動の問題点を見つけ改善を検討したりします。					
19.教科書・教材	(英語科教育法Ⅰと同じ教科書) 土屋澄男・広野威志 『新編英語科教育法入門』 研究社 白畑ほか 『改訂版 英語教育用語辞典』 大修館書店					
20.参考文献	村野井仁他 「統合的英語科教育法」(成美堂) ISBN978-4-7919-5094-2 白井恭弘「英語教師のための第二言語習得論入門」(大修館書店) 渡邊時夫他「小中連携を意識した中学校英語の改善」(三省堂) 「中学校学習指導要領解説-外国語編-」文部科学省(最新版) 「高等学校学習指導要領解説-外国語編- 英語編」文部科学省(最新版) 中学校・高校の検定教科書(英語)					
21.成績評価	Demonstration class: 40% (Performance in your demo:20% + Planning of demo activities :20%) Discussion performance 10% In class work: 20 % Final report :30% 総計 100%のうち 60%以上で合格となります					
22.コメント						
23.オフィスアワー	月曜日 3 限					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	Course Orientation : Objectives and course work オリエンテーション	○Review of the class (60min.)
【第 2 回】	Objectives of English Education 英語教育の目的	
【第 3 回】	English Education in Japan & the world 日本と外国の英語教育	
【第 4 回】	MEXT guidelines 学習指導要領	○Reading MEXT Guidelines (120min.)
【第 5 回】	Teaching Methods 指導法の概説	
【第 6 回】	Teaching Plan 学習指導計画	○Make your own lesson plan (120min.)
【第 7 回】	Lesson Plan : Presentation & Discussion on each lesson plan 授業計画：学習指導案の作成と討論	◎Analyze and revise your lesson plan (120min)
【第 8 回】	Evaluation and Assessment 評価とアセスメント ：生徒の評価方法と妥当性	
【第 9 回】	Evaluation and Assessment 評価とアセスメント:教員評価	
【第 10 回】	SLA and EFL、Demonstration class (20 minutes/ student) 第二言語習得と外国語学習	
【第 11 回】	Autonomy (Group discussion) 自立的な学習者の育成 Group Discussion グループ討論 Explanation of the final report 最終レポートの説明	
【第 12 回】	English Education in Elementary Schools 小学校の英語教育	◎Presentation of Group Discussion (90 min.)
【第 13 回】	Cross-cultural Education 異文化理解教育：「異文化理解」の意義	◎make a PPT presentation (60 min.)
【第 14 回】	Cross-cultural Education 異文化理解教育 Group Presentation プレゼンテーションと意見交換	
【第 15 回】	Reflection (Group discussion) 振り返り	★submission of final report

1.授業コード (ナンバリング)	EDE204-A51	2.科目名	英語科教育法Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科等			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	中学 1 種(英語)教員免許等		11.先修条件	英語科教育法Ⅰ～Ⅲを履修済みであることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、模擬授業実施		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	<概要>教材研究、授業の進め方を学び、指導案の作成（日英語の2通り）を通して、中学あるいは高校の検定教科書を教材にして、実際に指導計画を作成する。また、その仕上げとして模擬授業を実施し、教育実習への準備とする。 <目的>学習指導案が日英両言語で作成できる、指導案に沿って授業が実施できる。模擬授業では、自己評価だけでなく、他者の評価もできるようになる。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の(6) 専門的知識の活用の学修に関連しています。 1) より良い授業を実施する為に、様々な教授法や教材などの情報を収集し、指導案に反映できる。 2) 英語科指導法の問題点を発見し、解決のための方策を考え工夫して、模擬授業ができる。 3) 日英語指導案および細案が作成できる。					
19.教科書・教材	1) 『新英語科教育法入門』（英語科教育法 1～3 で使用した教科書と同じ） 2) 山岡大基・田頭憲二（編著）（2023）『英語授業デザインマニュアル』大修館書店 3) ハンドアウト配付					
20.参考文献	英語科教育法Ⅰ～Ⅲの教科書 中学・高校の検定教科書 中高の英語学習指導要領はファイルで配布 ・小橋雅彦『若い英語教師のための教材研究入門』（2021）大学教育出版 ・笹島茂・宮原万寿子・末森咲・守屋亮（編）（2023）『英語授業をよくする質的研究のすすめ』ひつじ書房 ・白畑知彦・冨田?一・村野井仁・若林茂則（1999・2019）『英語教育用語辞典<第3版>』大修館書店 文部科学省（2012）『言語活動の充実に関する指導事例集・中学校版』教育出版発行・文部科学省 ・中嶋洋一（2023）『英語教師の授業』					
21.成績評価	1) 教材研究 10+5=15% （2 回目は修正版）学習目標 1 に対応 2) 指導案（日本語）10+5+7=22% （2 回目は修正版、3 回目は完成版）学習目標 1 に対応 3) 指導細案 10+5 = 15% （2 回目は模擬授業実施版）学習目標 1 に対応 4) 指導案（英語） 13% 学習目標 1 に対応 5) 模擬授業 30% （担当者および受講者による評価）学習目標 2 に対応 6) 模擬授業のふりかえり 5% ふりかえり * 合格基準：教材研究・指導案・細案を各々複数回提出し、模擬授業を実施 ◎模擬授業実施以外のレポート					
22.コメント	※教育実習と直結する科目なので、無欠席で受講することを求めます。					

	※英語能力が低い者は、英語教師に向いていません。 英検準 1 級または TOEIC 730 以上を、3 年終了時に取得、または、このレベルを目標にしておくことが望ましい。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	導入（シラバス説明、スケジュール） 講義：教材研究 1	教材研究(60 分)
第 2 回	講義：教材研究 2、指導案の概略	教材研究レポート作成(90 分)
3	指導案サンプルの説明と書き方の要点と細部について	指導案作成の準備(60 分) 教材研究レポート： Web Class へ提出
4	教材研究レポートの講評、教材研究修正、観点別評価	教材研究レポートの加筆・修正(60 分)
5	細案サンプルの説明と書き方の要点、音読指導の説明と実習	音読の練習（30 分）、教材研究修正案作成(60 分) Web Class へ提出
6	指導過程、指導案作成、音読の実際	指導案レポート 1 作成(90 分) Web Class 経提出
7	指導案の講評および受講者間での評価、指導案修正、板書計画の説明と実技	細案レポート作成(60 分)
8	細案作成、ALT の活用と TT	指導案レポート 1 の加筆・修正(60 分)
9	文法指導の在り方、語彙指導の工夫	細案レポートの作成(90 分) Web Class へ提出
10	細案の講評および受講者間での評価、英語版指導案の要点	指導案 2 の作成（30 分） 模擬授業の準備(60 分)
11	英語による Oral Introduction から新語導入まで、教室英語の実際	細案修正し（45 分）：Web Class へ提出 模擬授業の準備(45 分)
12	細案に基づく模擬授業の練習と振り返り	模擬授業の準備(70 分)
13	模擬授業実施（相互評価）	指導案 2 の修正（30 分） 模擬授業の準備(60 分)
14	模擬授業実施（相互評価）	各レポートを Word ファイルで作成(90 分)
15	模擬授業 2 のふりかえり＋討論 講義：教育実習に向けて 模擬授業のふりかえり、指導案、細案、英語指導案の提出（Web Class へ提出）	指導案（日本語・英語）、細案、模擬授業の振り返りの 4 点を Word ファイルで作成し Web Class へ提出（90 分）

1.授業コード (ナンバリング)	EDS202-M51	2.科目名	社会科教育法Ⅱ（教職２年）		3.単位数	2
4.授業担当教員	小松郁夫					
5.授業科目の区分	中高教職	6.必修・ 選択の区分	中高必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	教職（２年）	
10.取得資格の要件	中学（社会）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業の目的 中学校の社会科教員として求められる学識や資質を身につけ、さらに高めることをめざして、社会科における歴史的分野の授業の方法と実践について学ぶ。 本授業の概要 １ 中学校社会科の歴史教育の目標を含めた全体像を把握するために、現行の学習指導要領を概観し、教育的課題を考察する。 ２ 教員は教科指導の専門家として、教材研究及びさまざまな教材開発を工夫し、授業の質を高める資質が求められる。従って、本科目では、対象となる歴史学の内容から主要なテーマを取り上げて学ぶことにより、歴史学への理解を深めるとともに、歴史教育のための教材の開発や方法を学ぶ。 ３ 授業の実践を学ぶために、模擬授業を演習として実施する。そのための資料作成や準備なども的確に行うことができるようにする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目のDPは（４）問題発見・解決力、（６）専門的知識・技能の活用力の学修に関連している。 １ 中学校社会科の学習の意義を、特に歴史的分野の教育的特質を中心に学ぶ。 ２ 中学校社会科の歴史的分野の教育に必要な歴史に関する専門的学識を学ぶ。 ３ 社会科教員として、専門的学識をもって生徒の価値観や社会認識を育成するための教育を実践する資質を高めることをめざして、社会科授業の理論と実践を学ぶ。					
19.教科書・教材	講義レジュメ及び資料のプリント その他、必要なものがあれば講義中に配布する。					
20.参考文献	中学校用社会科教科書『新しい社会 歴史』（東京書籍） その他、必要に応じて講義の中で指示する。					
21.成績評価	評価については、以下の項目に基づいて総合的に行う。 講義内容についてのレポート（20％）：各回のレポートは歴史学の専門的内容を教材として工夫する試みを中心とする。 模擬授業について、指導案の作成（10％）、模擬授業の実施（30％） 総括試験（40％）：専門的内容の教材化の可能性を総括的に考察するために実施する。					
22.コメント	教育の重要性を理解し、教育者として社会貢献をしたいという志の高い人、知的好奇心が旺盛で、学的探究の意欲の高い人を期待する。 教科教育の趣旨から、深い教材研究の能力とともに、授業実践に際しての教材開発や指導方法の工夫に取り組む力が必要となる。そのために歴史学の専門的学識が歴史教育の前提となることに留意して欲しい。 本科目では模擬授業を演習として重視するので、受講生の人数によっては模擬授業を行う回数に変更があり、その場合は講義内容にも変更を行うことがある。					
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 10/1	ガイダンス、歴史教育論総説：歴史教育の意義、学習指導要領の教育目標と課題、歴史教育の方法	
第2回 10/8	通史学習の方法と教材開発Ⅰ（古代史）：東アジア文明の影響、律令国家形成と古代文化などの指導の留意点と教材開発	○復習及びノートの整理、予習（120分）
第3回 10/15	通史学習の方法と教材開発Ⅱ（中世史）：武家政治の展開、東アジア世界との関係、産業の発達、中世文化などの指導の留意点と教材開発	○復習及びノートの整理、予習（120分）
第4回 10/22	通史学習の方法と教材開発Ⅲ（近世史）：戦国末期の変動、江戸幕府の支配体制、近世の産業、近世の教育と文化などの指導の留意点と教材開発	○復習及びノートの整理、予習（120分） ○レポート作成（360分）
第5回 10/29	通史学習の方法と教材開発Ⅳ（近・現代史）：近代国家の成立、国際関係、近代産業の発達、近代文化、戦後の日本などの指導の留意点と教材開発	○復習及びノートの整理、予習（120分） ★レポート提出★
第6回 11/5	史料を活用する歴史教育の方法：史料の意義、史料を活用する授業の研究、身近な地域の歴史学習のための史料	○復習及びノートの整理、予習（120分）
第7回 11/12	主題学習の方法と教材開発Ⅰ：日本の世界史的考察の視点、日本と諸外国との相互交流の歴史的展開に関する授業の工夫	○復習及びノートの整理、予習（120分）
第8回 11/19	主題学習の方法と教材開発Ⅱ：文化史の捉え方、古典・芸術の歴史教材化の試み	○復習及びノートの整理、予習（120分） ★模擬授業希望調査票提出
第9回 11/26	主題学習の方法と教材開発Ⅲ：人物史学習の視点、人物史から見た転換期の発展的学習について	○復習及びノートの整理、予習（120分） ○レポート作成（360分）
第10回 12/3	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅰ：学習指導案及び関連教材に関する説明（教育機器の活用を含む）、作成	○学習指導案の作成と関連教材の準備（360分） ★レポート提出 ◆ノートパソコン◆
第11回 12/10	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅱ：作成の継続と手直し、各担当内容の教材研究についての指導・助言	○学習指導案の作成及び完成、関連教材の準備、各自担当授業の予習（360分） ◆ノートパソコン◆
第12回 12/17	模擬授業Ⅰ：模擬授業の実施と結果の講評、更なる改善・向上に向けての指導	○各自担当授業の予習（360分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第13回 12/24	模擬授業Ⅱ：同上	○各自担当授業の予習（360分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第14回 1/7	模擬授業Ⅲ：同上	○総括試験の準備（360分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第15回 1/21	歴史教育論の総括：模擬授業の総括的評価、歴史教育の課題及び関連知識に関する確認の総括試験	○総括試験の準備（360分）

1.授業コード (ナンバリング)	EDS202-Y51	2.科目名	社会科教育法Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	小松郁夫					
5.授業科目の区分	中高教職	6.必修・ 選択の区分	中高必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	教職（2年）	
10.取得資格の要件	中学（社会）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業の目的 中学校の社会科教員として求められる学識や資質を身につけ、さらに高めることをめざして、社会科における歴史的分野の授業の方法と実践について学ぶ。 本授業の概要 1 中学校社会科の歴史教育の目標を含めた全体像を把握するために、現行の学習指導要領を概観し、教育的課題を考察する。 2 教員は教科指導の専門家として、教材研究及びさまざまな教材開発を工夫し、授業の質を高める資質が求められる。従って、本科目では、対象となる歴史学の内容から主要なテーマを取り上げて学ぶことにより、歴史学への理解を深めるとともに、歴史教育のための教材の開発や方法を学ぶ。 3 授業の実践を学ぶために、模擬授業を演習として実施する。そのための資料作成や準備なども的確に行うことができるようにする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目のDPは（4）問題発見・解決力、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連している。 1 中学校社会科の学習の意義を、特に歴史的分野の教育的特質を中心に学ぶ。 2 中学校社会科の歴史的分野の教育に必要な歴史に関する専門的学識を学ぶ。 3 社会科教員として、専門的学識をもって生徒の価値観や社会認識を育成するための教育を実践する資質を高めることをめざして、社会科授業の理論と実践を学ぶ。					
19.教科書・教材	講義レジュメ及び資料のプリント その他、必要なものがあれば講義中に配布する。					
20.参考文献	中学校用社会科教科書『新しい社会 歴史』（東京書籍） その他、必要に応じて講義の中で指示する。					
21.成績評価	評価については、以下の項目に基づいて総合的に行う。 講義内容についてのレポート（20％）：各回のレポートは歴史学の専門的内容を教材として工夫する試みを中心とする。 模擬授業について、指導案の作成（10％）、模擬授業の実施（30％） 総括試験（40％）：専門的内容の教材化の可能性を総括的に考察するために実施する。					
22.コメント	教育の重要性を理解し、教育者として社会貢献をしたいという志の高い人、知的好奇心が旺盛で、学的探究の意欲の高い人を期待する。 教科教育の趣旨から、深い教材研究の能力とともに、授業実践に際しての教材開発や指導方法の工夫に取り組む力が必要となる。そのために歴史学の専門的学識が歴史教育の前提となることに留意して欲しい。 本科目では模擬授業を演習として重視するので、受講生の人数によっては模擬授業を行う回数に変更があり、その場合は講義内容にも変更を行うことがある。					
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 10/1	ガイダンス、歴史教育論総説：歴史教育の意義、学習指導要領の教育目標と課題、歴史教育の方法	
第2回 10/8	通史学習の方法と教材開発Ⅰ（古代史）：東アジア文明の影響、律令国家形成と古代文化などの指導の留意点と教材開発	○復習及びノートの整理、予習（120分）
第3回 10/15	通史学習の方法と教材開発Ⅱ（中世史）：武家政治の展開、東アジア世界との関係、産業の発達、中世文化などの指導の留意点と教材開発	○復習及びノートの整理、予習（120分）
第4回 10/22	通史学習の方法と教材開発Ⅲ（近世史）：戦国末期の変動、江戸幕府の支配体制、近世の産業、近世の教育と文化などの指導の留意点と教材開発	○復習及びノートの整理、予習（120分） ○レポート作成（360分）
第5回 10/29	通史学習の方法と教材開発Ⅳ（近・現代史）：近代国家の成立、国際関係、近代産業の発達、近代文化、戦後の日本などの指導の留意点と教材開発	○復習及びノートの整理、予習（120分） ★レポート提出★
第6回 11/5	史料を活用する歴史教育の方法：史料の意義、史料を活用する授業の研究、身近な地域の歴史学習のための史料	○復習及びノートの整理、予習（120分）
第7回 11/12	主題学習の方法と教材開発Ⅰ：日本の世界史的考察の視点、日本と諸外国との相互交流の歴史的展開に関する授業の工夫	○復習及びノートの整理、予習（120分）
第8回 11/19	主題学習の方法と教材開発Ⅱ：文化史の捉え方、古典・芸術の歴史教材化の試み	○復習及びノートの整理、予習（120分） ★模擬授業希望調査票提出
第9回 11/26	主題学習の方法と教材開発Ⅲ：人物史学習の視点、人物史から見た転換期の発展的学習について	○復習及びノートの整理、予習（120分） ○レポート作成（360分）
第10回 12/3	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅰ：学習指導案及び関連教材に関する説明（教育機器の活用を含む）、作成	○学習指導案の作成と関連教材の準備（360分） ★レポート提出 ◆ノートパソコン◆
第11回 12/10	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅱ：作成の継続と手直し、各担当内容の教材研究についての指導・助言	○学習指導案の作成及び完成、関連教材の準備、各自担当授業の予習（360分） ◆ノートパソコン◆
第12回 12/17	模擬授業Ⅰ：模擬授業の実施と結果の講評、更なる改善・向上に向けての指導	○各自担当授業の予習（360分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第13回 12/24	模擬授業Ⅱ：同上	○各自担当授業の予習（360分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第14回 1/7	模擬授業Ⅲ：同上	○総括試験の準備（360分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第15回 1/21	歴史教育論の総括：模擬授業の総括的評価、歴史教育の課題及び関連知識に関する確認の総括試験	○総括試験の準備（360分）

1.授業コード (ナンバリング)	EDS301-Y51	2.科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	小松郁夫					
5.授業科目の区分	中高教職	6.必修・ 選択の区分	中高必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	教職（3年）	
10.取得資格の要件	高校（公民）、中学（社会）		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	教職課程履修者の科目です。教職課程以外の方は履修できません					
17.授業の目的と概要	本授業の目的 高校の公民科教員及び中学校の社会科教員として求められる学識や資質を身につけ、さらに高めることをめざして、高校公民科及び中学校社会科の公民的分野の授業の方法と実践について学ぶ。 本授業の概要 1 高校公民科及び中学校社会科の公民教育の目標を含めた全体像を把握するために、現行の学習指導要領を概観し、教育的課題を考察する。 2 教員は教科指導の専門家として、教材研究及びさまざまな教材開発を工夫し、授業の質を高める資質が求められる。従って、本科目では、対象となる公民的分野の教科内容に相当する人文・社会科学の領域から、主要なテーマを取り上げて学ぶことにより、関連学問領域への理解を深めるとともに、公民教育のための教材の開発や方法を学ぶ。 3 授業の実際を学ぶために、模擬授業を演習として実施する。そのための資料作成や準備なども的確に行うことができるようにする。					
18.学習目標と DP との関連	本科目は DP のDP の（1）自律的で主体的な態度（4）問題発見・解決力と（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています。 1 高校公民科の学習の意義、及び中学校社会科の学習の意義については、特に公民的分野の教育的特質を中心に学ぶ。 2 高校 I 公民科及び中学校社会科の公民的分野の教育に必要なような、人文・社会科学に関する専門的学識を学ぶ。 3 高校公民科及び中学校社会科教員として、専門的学識をもって生徒の価値観や社会認識を育成するための教育を実践する資質を高めることをめざして、公民科及び社会科授業の理論と実践を学ぶ。					
19.教科書・教材	講義レジュメ及び資料のプリント その他、必要なものがあれば講義中に配布する。					
20.参考文献	高校公民科教科書『現代社会』（東京書籍）、中学校用社会科教科書『新しい社会 公民』（東京書籍） その他、必要に応じて講義の中で指示する。					
21.成績評価	評価については、以下の項目に基づいて総合的に行う。 講義内容についてのレポート（20％）：各回のレポートは人文・社会科学の専門的内容を教材として工夫する試みを中心とする。 模擬授業について、指導案の作成（10％）、模擬授業の実施（30％） 総括試験（40％）：専門的内容の教材化の可能性を総括的に考察するために実施する。					
22.コメント	神戸山手キャンパスと三木キャンパスで教職課程履修者向けの授業 2 キャンパス対象のため、対面授業と遠隔授業を交互に実施予定。遠隔対応があるため、授業を ZOOM など録画して授業内の WEB CLASS で公開することがある。					

23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 9/30	ガイダンス、公民科教育論（倫理的・一般社会的分野）総説：倫理教育の課題と方法、学習指導要領（中・高校）の教育目標と課題、人生観・世界観確立をめざす教育について	
第2回 10/7	現代社会分野の方法と教材開発：現代社会の諸相と倫理、社会の一員としての生き方と課題	○復習及びノートの整理、予習（120分）
第3回 10/14	哲学教育論概説：哲学することの意義、倫理の意義、「善く生きること」についての先哲の典籍読解の指導について	○復習及びノートの整理、予習（120分）
第4回 10/21	法と道徳：社会生活における法と道徳の意義とその学習指導	○復習及びノートの整理、予習（120分） ○レポート作成（360分）
第5回 10/28	伝統文化と倫理：文化的アイデンティティを探究する教育課題についての学習方法と教材の工夫	○復習及びノートの整理、予習（120分） ★レポート提出
第6回 11/4	「倫理」分野の方法と教材開発Ⅰ：文化と宗教に関する教育の意義、人生観・世界観の確立の教育的配慮の考察	○復習及びノートの整理、予習（120分）
第7回 11/11	「倫理」分野の方法と教材開発Ⅱ：応用倫理学の諸問題の学習方法	○復習及びノートの整理、予習（120分）
第8回 11/18	主題学習の課題と方法：「人間としての生き方あり方」を考えさせる授業の課題設定の仕方と工夫（分野を越えた発展的学習として）	○復習及びノートの整理、予習（120分） ○レポート作成（360分） ★模擬授業希望調査票提出
第9回 11/25	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅰ：学習指導案及び関連教材に関する説明（教育機器の活用を含む）、作成	○学習指導案の作成と関連教材の準備（360分） ★レポート提出 ◆ノートパソコン◆
第10回 12/2	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅱ：作成の継続と手直し、各担当内容の教材研究についての指導・助言	○学習指導案の作成及び完成、関連教材の準備、各自担当授業の予習（360分） ◆ノートパソコン◆
第11回 12/9	模擬授業Ⅰ：模擬授業の実施と結果の講評、更なる改善・向上に向けての指導	○各自担当授業の予習（360分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第12回 12/16	模擬授業Ⅱ：同上	○各自担当授業の予習（360分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第13回 12/23	模擬授業Ⅲ：同上	○各自担当授業の予習（360分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第14回 1/6	模擬授業Ⅳ：同上	○総括試験の準備（360分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第15回 1/13	倫理教育論の総括：模擬授業の総括的評価、公民科教育の課題及び関連知識に関する確認の総括試験	○総括試験の準備（360分）

1.授業コード (ナンバリング)	EDS302-m51	2.科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	小松郁夫					
5.授業科目の区分	中高教職	6.必修・ 選択の区分	中高必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	教職（3年）	
10.取得資格の要件	高校（公民）、中学（社会）		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	教職課程履修者の科目です。教職課程以外の方は履修できません					
17.授業の目的と概要	本授業の目的 高校の公民科教員及び中学校の社会科教員として求められる学識や資質を身につけ、さらに高めることをめざして、高校公民科及び中学校社会科の公民的分野の授業の方法と実践について学ぶ。 本授業の概要 1 高校公民科及び中学校社会科の公民教育の目標を含めた全体像を把握するために、現行の学習指導要領を概観し、教育的課題を考察する。 2 教員は教科指導の専門家として、教材研究及びさまざまな教材開発を工夫し、授業の質を高める資質が求められる。従って、本科目では、対象となる公民的分野の教科内容に相当する人文・社会科学の領域から、主要なテーマを取り上げて学ぶことにより、関連学問領域への理解を深めるとともに、公民教育のための教材の開発や方法を学ぶ。 3 授業の実際を学ぶために、模擬授業を演習として実施する。そのための資料作成や準備なども的確に行うことができるようにする。					
18.学習目標と DP との関連	本科目は DP の DP の（1）自律的で主体的な態度（4）問題発見・解決力と（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています。 1 高校公民科の学習の意義、及び中学校社会科の学習の意義については、特に公民的分野の教育的特質を中心に学ぶ。 2 高校 I 公民科及び中学校社会科の公民的分野の教育に必要なような、人文・社会科学に関する専門的学識を学ぶ。 3 高校公民科及び中学校社会科教員として、専門的学識をもって生徒の価値観や社会認識を育成するための教育を実践する資質を高めることをめざして、公民科及び社会科授業の理論と実践を学ぶ。					
19.教科書・教材	講義レジュメ及び資料のプリント その他、必要なものがあれば講義中に配布する。					
20.参考文献	高校公民科教科書『現代社会』（東京書籍）、中学校用社会科教科書『新しい社会 公民』（東京書籍） その他、必要に応じて講義の中で指示する。					
21.成績評価	評価については、以下の項目に基づいて総合的に行う。 講義内容についてのレポート（20％）：各回のレポートは人文・社会科学の専門的内容を教材として工夫する試みを中心とする。 模擬授業について、指導案の作成（10％）、模擬授業の実施（30％） 総括試験（40％）：専門的内容の教材化の可能性を総括的に考察するために実施する。					
22.コメント	神戸山手キャンパスと三木キャンパスで教職課程履修者向けの授業 2 キャンパス対象のため、対面授業と遠隔授業を交互に実施予定。遠隔対応があるため、授業を ZOOM など録画して授業内の WEB CLASS で公開することがある。					

23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 9/30	ガイダンス、公民科教育論（倫理的・一般社会的分野）総説：倫理教育の課題と方法、学習指導要領（中・高校）の教育目標と課題、人生観・世界観確立をめざす教育について	
第2回 10/7	現代社会分野の方法と教材開発：現代社会の諸相と倫理、社会の一員としての生き方と課題	○復習及びノートの整理、予習（120分）
第3回 10/14	哲学教育論概説：哲学することの意義、倫理の意義、「善く生きること」についての先哲の典籍読解の指導について	○復習及びノートの整理、予習（120分）
第4回 10/21	法と道徳：社会生活における法と道徳の意義とその学習指導	○復習及びノートの整理、予習（120分） ○レポート作成（360分）
第5回 10/28	伝統文化と倫理：文化的アイデンティティを探究する教育課題についての学習方法と教材の工夫	○復習及びノートの整理、予習（120分） ★レポート提出
第6回 11/4	「倫理」分野の方法と教材開発Ⅰ：文化と宗教に関する教育の意義、人生観・世界観の確立の教育的配慮の考察	○復習及びノートの整理、予習（120分）
第7回 11/11	「倫理」分野の方法と教材開発Ⅱ：応用倫理学の諸問題の学習方法	○復習及びノートの整理、予習（120分）
第8回 11/18	主題学習の課題と方法：「人間としての生き方あり方」を考えさせる授業の課題設定の仕方と工夫（分野を越えた発展的学習として）	○復習及びノートの整理、予習（120分） ○レポート作成（360分） ★模擬授業希望調査票提出
第9回 11/25	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅰ：学習指導案及び関連教材に関する説明（教育機器の活用を含む）、作成	○学習指導案の作成と関連教材の準備（360分） ★レポート提出 ◆ノートパソコン◆
第10回 12/2	学習指導案作成及び教材構成の指導Ⅱ：作成の継続と手直し、各担当内容の教材研究についての指導・助言	○学習指導案の作成及び完成、関連教材の準備、各自担当授業の予習（360分） ◆ノートパソコン◆
第11回 12/9	模擬授業Ⅰ：模擬授業の実施と結果の講評、更なる改善・向上に向けての指導	○各自担当授業の予習（360分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第12回 12/16	模擬授業Ⅱ：同上	○各自担当授業の予習（360分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第13回 12/23	模擬授業Ⅲ：同上	○各自担当授業の予習（360分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第14回 1/6	模擬授業Ⅳ：同上	○総括試験の準備（360分） ★各自の授業終了時に学習指導案提出
第15回 1/13	倫理教育論の総括：模擬授業の総括的評価、公民科教育の課題及び関連知識に関する確認の総括試験	○総括試験の準備（360分）

1.授業コード (ナンバリング)	EDU102-A51	2.科目名	教職概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	川村光					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こ			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目標】 現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について講義とともにアクティブラーニングなどを通して主体的に身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。 【概要】 ●本講義では、教職のあり方や教師像を形成した歴史的・社会的背景を広く概観して理解する。 ●専門職としての教職の意義や教師の役割を理解する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 ②教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 ③教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 ④学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律的で主体的な態度（自律性）(2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）(4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	『教職概論 第6次改訂版』佐藤晴雄 学陽書房					
20.参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。					
21.成績評価	1. 課題1 30%：教師に関する新聞記事（ネット可）を収集し、それを用紙に貼るとともに、記事の内容を通して教師という職業について考えることを書く。【学習目標①②に対応】 2. 課題2 30%：これまで学修してきた内容を踏まえて、自身が考える理想とする教師・保育士像について書く。【学習目標①②④に対応】 3. 総括試験 40%【学習目標①②③④に対応】 ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が60%以上の評価で合格となる					
22.コメント	・子どもたちのお手本となるような授業態度で受講すること。					
23.オフィスアワー	木曜日 3 時間目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	講義：オリエンテーション … 教科書 pp.195-230 ・講義の概要を理解する。また、教職志望度の確認をする。			○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.33-55 を読んで、わからないところをチェックする。(120 分)		
【第2回】	講義：日本の教職観の変遷 … 教科書 pp.33-55 ・教職観の歴史と今日教師に求められる役割を学ぶ。			○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.56-73 を読んで		

		で、わからないところをチェックする。(120分)
【第3回】	講義：教員養成の歴史と現状 … 教科書 pp.56-73 ・教師と教員養成の歴史について学ぶ。	○前回と今回の授業の復習をし、日本の教職の歴史を整理する。(120分) ○次回の予習として、子供を教育するという事は子供に何をすることなのか、調べたり考えたりして整理する。(120分)
【第4回】	講義：教職の意義(1) ・野生児の事例の検討を通して、教職の意義を考える。	○今回の授業の復習をする。(120分)
【第5回】	講義：教職の意義(2) ・ボノボの事例の検討を通して、教職の意義を考える。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.19-32 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第6回】	講義：教職の意義(3) … 教科書 pp.19-32 ・4回目と5回目の講義内容と社会化理論を関連づけて、教職の意義を考える。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.92-115 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第7回】	講義：教師の役割と仕事 … 教科書 pp.92-115 ・教師の職務内容とその特徴(他職業との比較)、勤務実態について学ぶ。	○【課題1】教師に関する新聞記事(ネット可)を収集し、それを用紙に貼るとともに、記事の内容を通して教師という職業について考えることを書く。(180分) ○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.133-154 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第8回】	講演：小学校教員という職業の魅力 … 教科書 pp.133-154 ・特別講師(小学校教員経験者)の講話を通して、教師という職業の魅力について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.116-133 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第9回】	講義：管理職・主任の役割とチーム学校 … 教科書 pp.116-133 ・管理職・主任の役割の概要と、チーム学校運営とそれへの対応について学ぶ。	○【課題2】これまで学修してきた内容を踏まえて、自身が考える理想とする教師・保育士像について書く。(180分) ○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.42-55 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第10回】	講義：メディアと教師 … 教科書 pp.42-55 ・メディアによって形成される教師像について考える。	★課題1 提出 ○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.74-91 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)
【第11回】	講義：教員の任用と服務 … 教科書 pp.74-91 ・教員の任用と服務の概要について学ぶ。	○今回の授業の復習をする。(120分) ○次回の予習として、教科書 pp.155-174 を読んで、わからないところをチェックする。(120分)

【第 12 回】	講義：教師の力量形成 … 教科書 pp.155-174 ・教師の資質向上と研修について学ぶ。	★課題 2 提出 ○今回の授業の復習をする。(120 分) ○次回の予習として、教科書 pp.155-230 を読んで、わからないところをチェックする。 (240 分)
【第 13 回】	講義：養成段階から初任期への移行 … 教科書 pp.155-230 ・教職への進路選択と教員採用選考、新任教師の課題について理解する。	○今回の授業の復習をする。(120 分) ○これまでの学習内容を復習する。(360 分)
【第 14 回】	総括試験	
【第 15 回】	講義：まとめ ・これまでの復習を行い、本科目の自身の学習到達度について理解する。	

1.授業コード (ナンバリング)	EDU201-A52	2.科目名	公教育論		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田武大					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、公教育をめぐる知識を理解し、現代公教育のあり方に関して自身の意見を述べることを目的としています。 【概要】 この授業では、公教育として行われている学校教育に関する知識、具体的には公教育の基本原則、現代日本の公教育体制について学んでいきます。その上で、これらの知識内容を踏まえながら、現代公教育がどのようにあるべきなのかについて、適宜グループワークを行い、プレゼンテーションを実施します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目は、本学の「卒業認定・学位授与の方針（DP）」の(1) 自律的で主体的な態度（自律性：自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができます。）、(6) 専門的知識・技能 の活用力（自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができます。）の2点を重点的に育成することを意図しています。 また、本科目の学習目標は次の通りです。 (1)公教育に関する専門知識を説明することができる。 (2)公教育のあり方に対する自身の意見を論理的に述べることができる。					
19.教科書・教材	坂野慎二、湯藤定宗『学校教育制度概論』玉川大学出版部、2022 年					
20.参考文献	・ 授業の際に適宜紹介します。					
21.成績評価	評価・評定については、以下のすべての課題を、提出要件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とします。配点は次の通りです。 ①小テスト（6 回） 18%（学修目標(1)に対応） ②グループワークとそれに基づく発表（14 回） 42%（学修目標(2)に対応） ③総括試験 40%（学修目標(1)、(2)に対応） なお、レポートのルーブリック等（評価基準）は第 1 回目の授業で示します。					
22.コメント	授業では、公教育に関する基本的な知識内容について説明し、小テストも行いますので、予習・復習など授業時間外の学修をしっかりと行うことが求められます。また、修得した知識内容の理解やグループワークでの議論を通じて、公教育に対する自分なりの意見を持てるようになってほしいと思います。					
23.オフィスアワー	火曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	・オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて） ・「第 1 章 教育制度と教育改革」			復習：配付資料に基づいて、第 1 回について復習する。(60 分) 予習：教科書を活用して第 2 章について学ぶ。(120 分)		
【第 2 回】	・「第 2 章 学校教育制度の基本原則(1)～就学前教育制度と初等教育制度～			復習：配付資料に基づいて、第 2 回の復習を行い、小テストに備える。(180 分) 予習：教科書を活用して第 3 章について学		

		ぶ。(60 分)
【第 3 回】	・「第 3 章 学校教育制度の基本原理(2)～中等教育制度と特別支援教育制度～」 ・小テスト	復習：配付資料に基づいて、第 3 回の復習を行い、小テストに備える。(180 分) 予習：教科書を活用して第 4 章について学ぶ。(60 分)
【第 4 回】	・「第 4 章 高等教育と生涯学習」 ・小テスト	復習：配付資料に基づいて、第 4 回の復習を行い、小テストに備える。(180 分) 予習：教科書を活用して第 5 章について学ぶ。(60 分)
【第 5 回】	・「第 5 章 教育行政の実際(1)～中央教育行政～」 ・小テスト	復習：配付資料に基づいて、第 5 回の復習を行い、小テストに備える。(180 分) 予習：教科書を活用して第 6 章について学ぶ。(60 分)
【第 6 回】	・「第 6 章 教育行政の実際(2)～地方教育行政～」 ・小テスト	復習：配付資料に基づいて、第 6 回の復習を行い、小テストに備える。(180 分) 予習：教科書を活用して第 7 章について学ぶ。(60 分)
【第 7 回】	・「第 7 章 学校の組織と運営」 ・小テスト	復習：配付資料に基づいて、第 7 回の復習を行い、小テストに備える。(180 分) 予習：教科書を活用して第 8 章について学ぶ。(60 分)
【第 8 回】	・「第 8 章 学校の質保証と学校参画」 ・小テスト	復習：配付資料に基づいて、第 8 回の復習を行う。(180 分) 予習：教科書を活用して第 9 章について学ぶ。(60 分)
【第 9 回】	・「第 9 章 選抜システムとしての学校制度」	復習：配付資料に基づいて、第 9 回の復習を行う。(120 分) 予習：教科書を活用して、第 10 章について学ぶ。(120 分)
【第 10 回】	・「第 10 章 学校教育の新たな課題(1)～教育政策の国際化～」	復習：配付資料に基づいて、第 10 回の復習を行う。(120 分) 予習：教科書を活用して第 11 章について学ぶ。(120 分)
【第 11 回】	・「第 11 章 学校教育の新たな課題(2)～学校の安心・安全と未来への準備～」	復習：配付資料に基づいて、第 11 回の復習を行う。(120 分) 予習：教科書を活用して第 12 章について学ぶ。(120 分)
【第 12 回】	・「第 12 章 学校教育制度の成立と発展」	復習：配付資料に基づいて、第 12 回の復習を行う。(120 分) 予習：教科書を活用して第 13 章について学ぶ。(120 分)
【第 13 回】	・「第 13 章 学校教育制度の展開」	復習：配付資料に基づいて、第 13 回の復習を行う。(120 分) 予習：教科書を活用して第 14 章について学ぶ。(120 分)
【第 14 回】	・「第 14 章 学校教育の現在と未来」	復習：配付資料に基づいて、第 14 回の復習を行う。(120 分)

		予習：配付資料や参考書に基づいて、これまでの復習を行い、総括試験に備える。(300分)
【第 15 回】	・ 総括試験と公教育のまとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	EDU203-A51	2.科目名	学校経営論		3.単位数	2
4.授業担当教員	百瀬和夫					
5.授業科目の区分	展開科目 教育の基礎的理解に関する科目 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	6.必修・ 選択の区分	選択 教職選択必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習（一部） 単独		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】「社会的な教育機関である学校の特性・構造等を理解し、学校経営の基礎・基本について学ぶ。」 【概要】 ○社会の中での学校の役割が理解できる。 ○ギガスクール構想の意義とこれからの学校・学級の姿について理解できる。 ○学校組織の構造と特性が理解できる。 ○教職員の職務の特性が理解できる。 ○学校経営・学級経営の本質が理解できる。 ○教師力について理解し、実践力の基礎を身につけることができる。					
18.学習目標と D P との関連	【D P に基づく本授業の学修目標】 (1)自律性：社会的な教育機関である学校の特性・構造等について、自らの経験を振り返りと対照しながら理解できるようになること。 (4)問題発見・解決力：知りえた内容に刺激を受けて、新たな疑問や関心を持つことができる。 (6)専門的知識・技能の活用力：必要かつ信頼できる情報を取捨選択して集め、問題解決のために要点を整理・保存することができる。 【詳細】 (1-1) 社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。 (1-2) 学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。 (4-1) 現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。 (4-2) 学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。 (6) 学校の管理下で起こる多様な事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解し活用できるようにする。					
19.教科書・教材	○笑育ドリル～「育てる」をもっと楽しく・おもしろく～ ※「生徒指導・進路指導論」でも使用します。					
20.参考文献	○笑育のすすめ～「笑顔」の力で教育が変わる～ エイチエス出版					
21.成績評価	○グループワークを含む学修記録としての、ワークシートの作成（ほぼ毎時）と提出					

	・的確に内容が把握しているか ・自分の意見や考えが記述されているか … 60% ○講義内で、自分の意見や考えが発表されているか … 10% ○小レポート（学級通信づくり） … 10% ○学期末まとめのテスト ・総復習で学びを振り返る … 20%	
22.コメント	○教科書「笑育ドリル」を演習などに使用します。必ず購入してください。＊同じ教科書を「生徒指導・進路指導論」でも使用します。2冊購入する必要はありません。 ○小学校生活は誰もが経験しています。いろいろな思い出があると思いますが、皆さんが受けてきた教育には、どのような意味やねらいがあったのでしょうか。一緒に学んでいきましょう。アクティブラーニングを基本とした講義と言うものは、集団思考に価値があります。即ち、出席してナンボです。第1回目から15回目までしっかりと出席できる人を待っています。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	オリエンテーション ・受講のルールの確認 ・シラバスの詳細等々	○小学校での「全校朝会」について想起して、その意義や意味について考察してくる（90分）
【第2回】	◇社会状況の変化と学校教育の課題1) ・学校の歴史 ・学校をめぐる近年の課題について ・「全校朝会」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「朝の会」について想起して、その意義や意味について考察してくる（180分）
【第3回】	◇社会状況の変化と学校教育の課題2) ・子どもを巡る社会の変化と課題 ・学校制度と小学校の役割 ・社会構造の変化と学校 ・「朝の会」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「終わりの会」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120分）
【第4回】	◇社会状況の変化と学校教育の課題3) ・PISA 型調査から見た日本の教育課題 ・学びの個別化・最適化について ・「終わりの会」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「給食」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120分）
【第5回】	◇学校教育制度について考える1) ・公教育の原理と理念（教育基本法から） ・「給食」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○クラスで実施していた「掃除のルール」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120分）
【第6回】	◇学校教育制度について考える2)	○各クラスで実施していた「当番活動」につ

	・教育制度を支える教育行政の仕組みと理念 ・「掃除のルール」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	いて想起して、その意義や意味について考察してくる（120分）
【第7回】	◇学校教育制度について考える3） ・教育制度をめぐる諸課題 ・「当番活動」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「係活動」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120分）
【第8回】	◇学校や教育行政機関の目的と学校経営1） ・公教育の目的と学校経営 ・「係活動」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「シールの活用」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120分）
【第9回】	◇学校や教育行政機関の目的と学校経営2） ・学校の年間計画と学校評価 ・「当番活動」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各自が小学校で経験した「宿題」について想起して、その意義や意味について考察してくる（90分）
【第10回】	◇学校や教育行政機関の目的と学校経営3） ・学校経営の仕組み（校務分掌等）とその方法 ・「宿題」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各自が小学校で経験した「シャープペンシルのルール」について想起して、その意義や意味について考察してくる（90分）
【第11回】	◇学校や教育行政機関の目的と学校経営4） ・教職員の連携 ・「シャープペンシルのルール」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「席替え」について想起して、その意義や意味について考察してくる（90分）
【第12回】	◇学校と地域の連携1） ・地域との連携と協働のあり方 ・「席替えのルール」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「指名の仕方」について想起して、その意義や意味について考察してくる（90分）
【第13回】	◇学校と地域の連携2） ・地域との連携と開かれた学校づくり ・「音読」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○GIGAスクール構想についてそのねらいについて調べてくる。
【第14回】	◇GIGAスクール構想の意味と意義	○レポート課題については、自宅でさらに

	・学校・授業等に関する教師のバイアスについて ・「個別最適化」について ・「ワークシートの作成」	まとめる。(240 分)
【第 15 回】	◇学校のこれから ・未来の学校とは… ・安全管理と安全教育の課題 ・学修のまとめ小学校のこれから…教師のこれから… ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○全時のふり返りとまとめ (120 分)

1.授業コード (ナンバリング)	EDU203-Y51	2.科目名	学校経営論		3.単位数	2
4.授業担当教員	平井正朗					
5.授業科目の区分	中高教職 教育の基礎的理解に関する科目 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	6.必修・選択の区分	教職選択必修	7.開講学期・年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、グループワーク等		
16.履修制限	教職課程の履修登録					
17.授業の目的と概要	学校の“主役”は生徒であり、教師の仕事の中心は授業です。その授業は学校経営の枠内で行われています。本授業ではカリキュラム・マネジメントを通じた学校経営についての先行事例を概観し、そのあり方を理解すると同時に、「チーム学校」の一員として協働することの意味を学修します。 教歴を積み重ねると、ミドル・リーダーとしての役割が期待され、校内での仕事量も増加します。本授業では良循環型学校経営のあり方、スクールリーダーとしてのあり方についての認識も深めます。					
18.学習目標とDPとの関連	①大項目 「問題解決能力を身につける」 中項目 「問題発見力 レベル2 〈現状を認識し、生じている問題に気づき、解決のための課題を見つける。〉」 学校経営は、教職員が教育活動の位置づけを意識しながら「チーム学校」として、さらに保護者や地域の人々、産業界も巻き込みつつ、協働的に生徒の成長に関わることで目標達成が可能となります。教職員一人ひとりが、各自の課題解決に向けて具体的な目標を設定し、その実現に向けて PDCA サイクルを展開することが健全な学校経営とつながるという認識を深めていただきたいと思います。 ②大項目 「社会に貢献できる人間になる」 中項目 「社会的能動性 レベル2 〈集団の中で、他のメンバーと協働しながら行動できる。〉」 一人一人の教師が、課題解決に向けての自己の役割を自覚しながら協働する資質を育成することが重要です。そのような資質を本授業を通して培うことが出来ればと考えます。 学校では日々、様々な課題が発生します。それぞれの事象に対し、教職員は情報を共有、解決に向けて合意形成の下、説明責任を意識しながら解決に向けて取り組まなければなりません。授業改善については、教員の学び合いを基調とする効果的な OJT や Off-JT を例示しつつ、教員に求められる力の指標化や研修指針の策定について考察します。					
19.教科書・教材	教科書は後日、指示します。 各授業時に教材としてプリントを資料として配布するので、それをきちんとファイルすることが必要です。					
20.参考文献	大阪市・大阪市教育委員会「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果に関する報告書」令和 5 年 10 月					

21.成績評価	① 学校経営に関する事例へのコメント 10 回 × 4 = 40 % ② 中間課題 1 回 × 20 = 20 % ③ 最終課題 1 回 × 40 = 40 % 最終評価は、①から③の合計とし、100 点満点とする。	
22.コメント	学校経営とは、安心・安全の下、各校が独自で設定した目標に向けて、地域と連携しつつ、人的・物的資源を有効活用し、最も有効な方法で運営を行い「めざす学校」の形にすることです。社会が加速度的に変化し、予測不能と言われる時代、教科の枠を超えた高度なテーマに取り組む学校、地域社会の課題に取り組む学校など、特色ある学校づくりを経営という視点から考察し、教師の"あるべき"姿を一緒に考えましょう。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	・オリエンテーション (本授業の目標、内容、成績評価、授業を受ける上での留意点) ・学校に求められていること ・学校経営を学ぶ必要性について	学校経営論のプリントを配布する。このプリントをファイルし、毎回、持参すること。 (以下、同様)
2 回目	公教育の経営 ・学校教育への考え方、公教育の実施原則、教育委員会の管理権と自己裁量権、学校に対する管理権の改革について学ぶ。 ・学校で起こった事例へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。	
3 回目	学校づくりと学校経営 ・学校力の構築、学校づくりと経営、学校の意思形成と運営組織、学校 ・教育の変化と学校づくりについて学ぶ。 ・学校で起こった事例へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。	
4 回目	学校づくりと法の関係 ・学校の規範法化、学校の経営法化、学校の私法化について学ぶ。 ・学校で起こった事例へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。	
5 回目	カリキュラムを核にした協働 ・カリキュラム・マネジメントの機能化について学ぶ。 ・学校で起こった事例へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。	
6 回目	生徒指導と学校づくり ・生徒指導体制、支援体制について学び、支援機関について考える。 ・学校で起こった事例へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。	
7 回目	学級・ホームルーム経営 ・学級の歴史、学級の特質、学級経営の理論と実際、学級経営と学級担任について学ぶ。	中間課題の提示

	・学校で起こった事例へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。	
8 回目	学校組織における教師のストレス ・教師のストレス、教育相談システムの構築、管理職のストレスについて学ぶ。 ・学校で起こった事例へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。	
9 回目	学校の危機管理 ・危機管理について学び、学校安全や不審者への対応について考える。 ・学校で起こった事例へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。	中間課題の提出
10 回目	学校におけるミドルリーダーの役割 ・ミドルリーダーの役割、ミドルリーダーの育成と今後の課題、可能性について学ぶ。 ・学校で起こった事例へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。	
11 回目	グループワーク：テーマ 「開かれた学校づくり」 ・グループに分かれ、テーマについてのグループ討議を行い、代表者が発表。 ・グループ討議の感想文を提出すること。この提出をもって出席とする。	
12 回目	学校づくりと保護者・地域住民 ・グループ討議の結果から「開かれた学校づくり」について考える。 開かれた学校づくりの“あるべき姿”を探究的に再構築する。 ・グループ討議の感想文を提出すること。この提出をもって出席とする。	
13 回目	グループワーク：学校評価と学校づくり ・学校評価の制度化、学校評価の方法、学校づくりに生かす学校評価のあり方について学ぶ。 ・グループワーク：グループに分かれ学校評価を作成し、代表者が発表。	最終課題の提示
14 回目	日本における学校について概観 ・日本における公立学校を概観し、特色ある私立学校についても「学校経営」の視点から考察する。 ・学校で起こった事例へのコメントを記入し、授業終了時に提出すること。この提出をもって出席とする。	
15 回目	グループ面談 ・授業を振り返って：自己評価表への記入 ・グループ面談を実施し、授業の在り方や一人一人の授業の参加度等 についての意見交換を行う。 ・最終課題の受け取り、出欠の確認	最終課題の提出

1.授業コード (ナンバリング)	EDU204-A51	2.科目名	教育制度論		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田武大					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 幼稚園一種		11.先修条件	「日本国憲法」をあらかじめ履修しておくことが望ましいです。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、教育制度に関する基本的な知識を理解し、よりよい教育制度にするための提案力を身につけることを目的とします。 【概要】 この授業では、現代教育に関するさまざまなトピックを取り上げ、日々の学校教育の営みと教育に関する法規などの制度がどのように関わっているのかを理解します。これによって、教師として必須の教育制度に関する基礎知識を習得するとともに、教育制度の現状を批判的に検討しながら、いかに現状を改善・改革するかというデザイン力を身につけることもめざします。なお、教育の事例や制度に対して受講者の意見を求めるなど、学生参加型の授業形式も必要に応じて取り入れます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目は、本学の「卒業認定・学位授与の方針（DP）」の(1) 自律的で主体的な態度（自律性：自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができます。）、(6) 専門的知識・技能 の活用力（自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができます。）の2点を重点的に育成することを意図しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 1.教育制度の基本原則について説明できる。 2.学校現場に関する教育制度の基礎知識について説明できる。 3.教育行政に関する教育制度の基礎知識について説明できる。 4.教育制度の改善・改革案を提案することができる。					
19.教科書・教材	資料を適宜配布します。					
20.参考文献	坂田仰/黒川雅子共著『補訂版 事例で学ぶ”学校の法律問題”』教育開発研究所、2013 年。 篠原清昭編著『教育のための法学～子ども・親の権利を守る教育法～』ミネルヴァ書房、2013 年。 坂野慎二・湯藤定宗・福本みちよ編『学校教育制度概論【第2版】』玉川大学出版部、2017 年					
21.成績評価	評価・評定については、以下のすべての課題を、提出要件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とします。配点は次の通りです。 ○ふりかえり 12 回×2 点＝24 点（学習目標の 1、2、3 に対応） ○中間確認試験 26 点（学習目標の 2 に対応） ○総括試験 50 点（学習目標の 1、2、3、4 に対応）					
22.コメント	教職科目であるため、休まずまじめに授業を受講するとともに、授業時間外でも予習・復習など自主的な学習に取り組む姿勢を期待します。					
23.オフィスアワー	火曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

【第 1 回】	・ オリエンテーション（授業の目標・内容、成績評価、授業の進め方、受講マナー等受講上の留意点） ・ 法律－教育行政－学校教育という制度の構造	○予習：参考書を活用して懲戒・体罰、出席停止の概要について学ぶ。(240 分)
【第 2 回】	・ 懲戒・体罰 ・ 出席停止 ・ 第 1 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 2 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用していじめと就学義務について学ぶ。(60 分)
【第 3 回】	・ いじめ ・ 就学義務 ・ 第 2 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 3 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して児童虐待と特別支援教育について学ぶ。(60 分)
【第 4 回】	・ 児童虐待 ・ 特別支援教育 ・ 第 3 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 4 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して教員の服務について学ぶ。(60 分)
【第 5 回】	・ 教員の服務 ・ 第 4 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 5 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して分限処分、著作権について学ぶ。(60 分)
【第 6 回】	・ 分限処分 ・ 著作権 ・ 第 5 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 6 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して教育課程の基準、教科書等の使用について学ぶ。(60 分)
【第 7 回】	・ 教育課程の基準 ・ 教科書等の使用 ・ 第 6 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 7 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して学校安全、学校事故について学ぶ。(60 分)
【第 8 回】	・ 学校安全 ・ 学校事故 ・ 第 7 回のふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 8 回の復習を行う。(180 分) ○復習：配付資料に基づいて、初回から第 8 回の総復習を行い、中間確認試験に備える。(180 分) ○予習：参考書を活用して学校組織について学ぶ。(60 分)
【第 9 回】	・ 中間確認試験 ・ 学校組織 ・ 第 8 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 9 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して学校評価と情報公開、開かれた学校について学ぶ。(60 分)
【第 10 回】	・ 学校評価と情報公開 ・ 開かれた学校 ・ 第 9 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 10 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して教育の市場化について学ぶ。(60 分)
【第 11 回】	・ 教育の市場化 ・ 第 10 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 11 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して教育行政制度について学ぶ。(60 分)

【第 12 回】	・ 教育行政制度 ・ 第 11 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 12 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して教育制度の基本原則について学ぶ。(60 分)
【第 13 回】	・ 教育制度の基本原則 ・ 第 12 回ふりかえり	○復習：配付資料に基づいて、第 13 回の復習を行う。(180 分) ○予習：参考書を活用して学校体系について学ぶ。(60 分)
【第 14 回】	・ 学校体系	○復習：配付資料や参考書に基づいて、これまでの復習を行い、総括試験に備える。(300 分)
【第 15 回】	・ 教育制度のまとめ（総括試験と講評）	○これまでの総復習（240 分）

1.授業コード (ナンバリング)	EDU205-M51	2.科目名	教育課程論	3.単位数	2
4.授業担当教員	佐藤広志				
5.授業科目の区分	自由科目 (教職)	6.必修・ 選択の区分	教職必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 幼稚園一種	11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	教職課程の履修登録をする必要がある。				
17.授業の目的と概要	学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。				
18.学習目標と D P との関連	(1) 教育課程の意義：学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する。 (1-1)学習指導要領の性格及び位置づけ並びに教育課程編成の目的を理解している。 (1-2)学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。 (1-3)教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。 (2) 教育課程の編成の方法：教育課程編成の基本原則、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 (2-1)教育課程編成の基本原則を理解している。 (2-2)教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。 (2-3)単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また生徒や学校、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。 (3) カリキュラム・マネジメント：教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。 (3-1)学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。 (3-2)カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。				
19.教科書・教材	文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編」 (平成 30 年 3 月 東山書房 ISBN978-4-8278-1559-7) (※高校編は当面、文部科学省 HP 等を参照)				
20.参考文献	学習指導要領の本編、その他、文部科学省のホームページからダウンロード可。				
21.成績評価	中間試験（関連法規と学習指導要領の内容） 30% 現代史と教育課程の変遷に関する発表 30% 期末レポート（映像による授業実践例の分析） 40%				
22.コメント					
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)			
	教育課程編成の基本原則 1（PDCA サイクル論をベースにしつつ、計画の前提として目的や目標の設定が重要であることを理解する）	教育基本法と学校教育法の復習（1-2h）			
	教育課程編成の基本原則 2（系統主義と経験主義の二つの考え方を理解する）				

	学習指導要領の性格と位置づけ、教育課程編成の目的を理解する (新学習指導要領のポイントを確認する)	学習指導要領の記述に関する予習復習(1-2h)
	学習指導要領の変遷と現代史の大きな流れ1 (第二次大戦前後から昭和 20 年代まで。戦後復興期と新学校教育体系の確立期)	
	学習指導要領の変遷と現代史の大きな流れ2 (昭和 30 年代から 50 年代。高度経済成長と教育内容の現代化)	
	学習指導要領の変遷と現代史の大きな流れ3 (昭和 50 年代から平成へ。経済の低成長・安定期、ゆとり教育と週五日制、学力低下論争)	
	学習指導要領の変遷と現代史の大きな流れ4 (現在から未来へ。急激な社会変化と脱ゆとり路線、能力観の再構築と現代的な課題。教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解する)	
	中間試験 (学習指導要領の要点に関する基礎知識を問う)	
	中学校の時間割編成 (シミュレーション・グループワーク。標準授業時数の考え方、教科の配列に関する配慮事項についての要点を理解する) 小学校の標準授業時数等についても合わせて理解する。	
	授業計画の立て方(年間授業計画、単元設定、評価の観点、単元ごとの指導案作成、基本的な指導案の構造について理解し、事例も参考にしながら、実際に指導案を作成する)	○○総合的な学習の時間に関する授業計画を立てる
	高等学校の教科科目構成、必修要件について。自分の経験も材料にして討論し、選択パターンの多様性について考える。	
	総合的な学習の時間を想定した授業計画を発表する (第 10 回で分析した事例も参考に、単元・学期・学年をまたいだ長期的視野から、生徒や学校、地域の実態を踏めた教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解する)	
	第 12 回の続き	
	カリキュラム・マネジメントとは何か (その意義と重要性を理解する)	
	カリキュラム評価とは何か (その基本的な考え方を理解する) 期末レポート作成のための授業風景動画の視聴を含む	

1.授業コード (ナンバリング)	EDU206-A51	2.科目名	教育方法論		3.単位数	2
4.授業担当教員	中嶋康二					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目では、これからの社会を担う?供たちに求められる資質・能?を育成するために必要な、教育の効果・効率を高めるためのさまざまな手法や授業設計の考え方のほか、コンピュータやインターネットなどの ICT を教育において効果的に活用する方法を学びます。将来の授業運営に活きる知識とスキルを身につけます。 <わたしが「教えたか?」よりも、子どもたちが「学んだか?」>という観点に重点を置いた、教育の方法や技術について学びましょう。 授業においては、授業設計の活動などでは、進捗管理や相互レビューなどでグループやペア学習を行います。また、各回の作業では、WebClass をはじめとした ICT ツールを活用することで利用効果を実際に経験します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標（=?につくスキル）は次の通りです。 ① 子どもが身につけるべき資質・能力とは何かを説明できる。 ② 教育?法の基本原理に基づいた授業設計手法を適用した授業設計を作成できる。 ③ 学びを支援する指導技術に基づいた学習指導案を授業設計に盛り込むことができる。 ④ 授業設計や指導方略において、必要に応じて適切な ICT 活用を盛り込むことができる。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	『教育の?法と技術 Ver.2～ID と ICT でつくる主体的・対話的で深い学び』稲垣 忠 著, 北?路書房, 2022 年					
20.参考文献	『ICT 活用の理論と実践－DX 時代の教師をめざして』稲垣忠・佐藤和紀編著, 北大路書房, 2021 年 『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』堀田龍也・佐藤和紀, 三省堂, 2019 年 その他、授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 (1) オンライン小テスト (学習目標 1・2・3・4 に対応) 20% →各小テストは、満点で合格です。(何度でも受験可) →実施時期は、授業の中で指示します。 (2) 中課題：学習課題分析図 (学習目標 2 に対応) 25% (3) 小課題 (1)：各回の授業計画検討ワークシート (学習目標 3 に対応) 10% (4) 小課題 (2)：授業への ICT 活用検討ワークシート (学習目標 4 に対応) 10% (5) 最終課題：学習指					
22.コメント	・各回の授業で提示される予習・復習は、下表の「26. アサインメント (宿題) など」の欄に記載しています。(個人差はありますが) それぞれ 120 分程度の作業となることを想定していま					

	す。 ・下記の授業計画に【 】で括った表記（例：【ケラーの ARCS モデル】）は、授業設計時に活用できる様々な手法や考え方を指しています。授業の中で詳しく解説します。	
23.オフィスアワー	質問等があれば随時問い合わせてください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
ブロック 1 第 1 回	・本科目の授業デザインについて解説 ・これからの子どもたちに育みたい資質・能力（情報活用能力を含む）について（第 1 章）	[予習] シラバスと教科書第 1 章を読む [復習] 子どもたちに育みたい資質・能力について、自分の意見をまとめる
第 2 回	・教師に求められる授業力とは（第 2 章） ・授業の魅力を高める ICT の活用（第 12 章） →教育における先端技術の活用について ・主体的学びの促進 ・個別最適学習や共同学習を実現するための ICT 活用の意義 ・学習ログの活用や情報セキュリティの重要性	[予習] 第 2・12 章を精読／理想の教師像について自分の意見をまとめる [復習] 教師を目指す上で重要と考える点をまとめる
第 3 回	授業デザインの基本形について学ぶ（第 3・4 章） ・【メーカー 3 つの質問】 ・【ガニエ 9 教授事象】 など	[予習] 第 3・4 章を精読 [復習] 授業企画案を作成する
第 4 回	・授業企画を書き出してみる ←受講者間で相互レビュー ・学習目標を検討する【ガニエの学習成果 5 分類】（第 4 章）	[予習] 自分の体験で印象に残っている「よい授業」を書き出す [復習] 授業企画案を完成して提出
第 5 回	・学習目標の構造化と系列化 ・学習課題分析図の作成方法（第 9 章）	[予習] 第 9 章を精読／学習目標の分類についての知識をまとめてみる [復習] 自分の授業企画案の学習目標について分類を確認し、必要に応じて修正する
第 6 回	学習課題分析図を作成する（第 9 章） ←受講者間で相互レビュー	[予習] 課題分析図の種類・構成についてまとめてみる [復習] 自分の授業企画案に基づいた課題分析図を描いてみる ◆中課題：課題分析図を WebClass から提出
第 7 回	評価方法：学習目標と適切に対応させる（第 11 章）	[予習] 第 11 章を精読する／授業企画案の学習目標に対応する評価方法を検討する [復習] 授業企画案の学習目標に対応する評価方法を修正する。
ブロック 2 第 8 回	・学習環境について ・デジタルコンテンツの役割について ・教室内外の対話・協働を支える ICT の活用について（特別な支援を必要とする学習者への対応を含む）	[予習] 第 5・6 章を精読する [復習] 授業企画書の指導案を検討する

	・学習指導法（発問などについて） など	
第 9 回	・主体的な学習活動について【ケラーARCS モデル】（第 10 章） ・ICT による学びの保障（学習率：【キャロルの時間モデル】）（第 7 章） ・オンライン授業の意義と活用方法について	[予習] 第 7・10 章を精読する [復習] 授業企画案の指導方法をブラッシュアップする ◆小課題（1）：単元授業計画案「単元・各回の授業検討ワークシート」を WebClass から提出
第 10 回	・教育における、生成 AI を含む ICT の使い方を教える ・情報モラル・セキュリティ教育の重要性について（第 13 章） ・これからの学校・教師の役割について（第 14 章） ・大学との連携等による外部の教育リソースの活用について	[予習] 第 13・14 章を精読する [復習] ICT を活用した授業案を検討する ◆小課題（2）：ICT 活用計画案を WebClass から提出
第 11 回	・ICT を使った授業を考えてみる ・学校の ICT 環境の整備について ・ICT 環境や効果的な ICT 活用の事例を参照 ・ICT を活用した指導方法の修練	[予習] ICT を活用した授業について事例を調べる [復習] 授業企画案の ICT 活用案をブラッシュアップする
ブロック 3 第 12 回	・探究する学習のための授業設計について ・学習指導案のための授業デザインレポートの作成方法（第 8 章） ・各回の授業内容検討シートの作成（ICT 活用の適用検討を含む）	[予習] 第 8 章を精読する／学習指導案を作成開始する [復習] 学習指導案のための授業デザインレポートを作成する
第 13 回	・情報活用能力のカリキュラムマネジメント ・校務における ICT 活用について ・授業設計における生成 AI 活用ワーク ←受講者間で相互レビュー	[予習] 中課題で提出した課題分析図を見直す [復習] 生成 AI で作成した授業設計を批評する
第 14 回	・最終課題（学習指導案のための授業デザインレポート）の完成 ・授業デザイン案（最終課題の学修成果）を共有→相互レビュー ・Q&A	[予習][復習] これまでに学んだことを活かして学習指導案のための授業デザインレポートをブラッシュアップする。
第 15 回	・学んだ事項の総括 ・授業後に実践できるものとなることを目指したふりかえり 【カークパトリックの 4 段階評価】で自分の学びを評価ワーク	[予習] 学習指導案のための授業デザインレポートを完成する ◆最終課題：学習指導案のための授業デザインレポートを WebClass から提出する

1.授業コード (ナンバリング)	EDU206-Y51	2.科目名	教育方法論		3.単位数	2
4.授業担当教員	中嶋康二					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目では、これからの社会を担う?供たちに求められる資質・能?を育成するために必要な、教育の効果・効率を高めるためのさまざまな手法や授業設計の考え方のほか、コンピュータやインターネットなどの ICT を教育において効果的に活用する方法を学びます。将来の授業運営に生きる知識とスキルを身につけます。 <わたしが「教えたか?」よりも、子どもたちが「学んだか?」>という観点に重点を置いた、教育の方法や技術について学びましょう。 授業においては、授業設計の活動などでは、進捗管理や相互レビューなどでグループやペア学習を行います。また、各回の作業では、WebClass をはじめとした ICT ツールを活用することで利用効果を実際に経験します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標 (=?につくスキル) は次の通りです。 ① 子どもが身につけるべき資質・能力とは何かを説明できる。 ② 教育?法の基本原理に基づいた授業設計手法を適用した授業設計を作成できる。 ③ 学びを支援する指導技術に基づいた学習指導案を授業設計に盛り込むことができる。 ④ 授業設計や指導方略において、必要に応じて適切な ICT 活用を盛り込むことができる。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	『教育の?法と技術 Ver.2～ID と ICT でつくる主体的・対話的で深い学び』稲垣 忠 著, 北?路書房, 2022 年					
20.参考文献	『ICT 活用の理論と実践－DX 時代の教師をめざして』稲垣忠・佐藤和紀編著, 北大路書房, 2021 年 『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』堀田龍也・佐藤和紀, 三省堂, 2019 年 その他、授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 (1) オンライン小テスト (学習目標 1・2・3・4 に対応) 20% →各小テストは、満点で合格です。(何度でも受験可) →実施時期は、授業の中で指示します。 (2) 中課題：学習課題分析図 (学習目標 2 に対応) 25% (3) 小課題 (1)：各回の授業計画検討ワークシート (学習目標 3 に対応) 10% (4) 小課題 (2)：授業への ICT 活用検討ワークシート (学習目標 4 に対応) 10% (5) 最終課題：学習指					
22.コメント	・各回の授業で提示される予習・復習は、下表の「26. アサインメント (宿題) など」の欄に記載しています。(個人差はありますが) それぞれ 120 分程度の作業となることを想定していま					

	す。 ・下記の授業計画に【 】で括った表記（例：【ケラーの ARCS モデル】）は、授業設計時に活用できる様々な手法や考え方を指しています。授業の中で詳しく解説します。	
23.オフィスアワー	質問等があれば随時問い合わせてください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
ブロック 1 第 1 回	・本科目の授業デザインについて解説 ・これから子どもたちに育みたい資質・能力（情報活用能力を含む）について（第 1 章）	[予習] シラバスと教科書第 1 章を読む [復習] 子どもたちに育みたい資質・能力について、自分の意見をまとめる
第 2 回	・教師に求められる授業力とは（第 2 章） ・授業の魅力を高める ICT の活用（第 12 章） →教育における先端技術の活用について ・主体的学びの促進 ・個別最適学習や共同学習を実現するための ICT 活用の意義 ・学習ログの活用や情報セキュリティの重要性	[予習] 第 2・12 章を精読／理想の教師像について自分の意見をまとめる [復習] 教師を目指す上で重要と考える点をまとめる
第 3 回	授業デザインの基本形について学ぶ（第 3・4 章） ・【メーカー 3 つの質問】 ・【ガニエ 9 教授事象】 など	[予習] 第 3・4 章を精読 [復習] 授業企画案を作成する
第 4 回	・授業企画を書き出してみる ←受講者間で相互レビュー ・学習目標を検討する【ガニエの学習成果 5 分類】（第 4 章）	[予習] 自分の体験で印象に残っている「よい授業」を書き出す [復習] 授業企画案を完成して提出
第 5 回	・学習目標の構造化と系列化 ・学習課題分析図の作成方法（第 9 章）	[予習] 第 9 章を精読／学習目標の分類についての知識をまとめてみる [復習] 自分の授業企画案の学習目標について分類を確認し、必要に応じて修正する
第 6 回	学習課題分析図を作成する（第 9 章） ←受講者間で相互レビュー	[予習] 課題分析図の種類・構成についてまとめてみる [復習] 自分の授業企画案に基づいた課題分析図を描いてみる ◆中課題：課題分析図を WebClass から提出
第 7 回	評価方法：学習目標と適切に対応させる（第 11 章）	[予習] 第 11 章を精読する／授業企画案の学習目標に対応する評価方法を検討する [復習] 授業企画案の学習目標に対応する評価方法を修正する。
ブロック 2 第 8 回	・学習環境について ・デジタルコンテンツの役割について ・教室内外の対話・協働を支える ICT の活用について（特別な支援を必要とする学習者への対応を含む）	[予習] 第 5・6 章を精読する [復習] 授業企画書の指導案を検討する

	・学習指導法（発問などについて） など	
第 9 回	・主体的な学習活動について【ケラーARCS モデル】（第 10 章） ・ICT による学びの保障（学習率：【キャロルの時間モデル】）（第 7 章） ・オンライン授業の意義と活用方法について	[予習] 第 7・10 章を精読する [復習] 授業企画案の指導方法をブラッシュアップする ◆小課題（1）：単元授業計画案「単元・各回の授業検討ワークシート」を WebClass から提出
第 10 回	・教育における、生成 AI を含む ICT の使い方を教える ・情報モラル・セキュリティ教育の重要性について（第 13 章） ・これからの学校・教師の役割について（第 14 章） ・大学との連携等による外部の教育リソースの活用について	[予習] 第 13・14 章を精読する [復習] ICT を活用した授業案を検討する ◆小課題（2）：ICT 活用計画案を WebClass から提出
第 11 回	・ICT を使った授業を考えてみる ・学校の ICT 環境の整備について ・ICT 環境や効果的な ICT 活用の事例を参照 ・ICT を活用した指導方法の修練	[予習] ICT を活用した授業について事例を調べる [復習] 授業企画案の ICT 活用案をブラッシュアップする
ブロック 3 第 12 回	・探究する学習のための授業設計について ・学習指導案のための授業デザインレポートの作成方法（第 8 章） ・各回の授業内容検討シートの作成（ICT 活用の適用検討を含む）	[予習] 第 8 章を精読する／学習指導案を作成開始する [復習] 学習指導案のための授業デザインレポートを作成する
第 13 回	・情報活用能力のカリキュラムマネジメント ・校務における ICT 活用について ・授業設計における生成 AI 活用ワーク ←受講者間で相互レビュー	[予習] 中課題で提出した課題分析図を見直す [復習] 生成 AI で作成した授業設計を批評する
第 14 回	・最終課題（学習指導案のための授業デザインレポート）の完成 ・授業デザイン案（最終課題の学修成果）を共有→相互レビュー ・Q&A	[予習][復習] これまでに学んだことを活かして学習指導案のための授業デザインレポートをブラッシュアップする。
第 15 回	・学んだ事項の総括 ・授業後に実践できるものとなることを目指したふりかえり 【カークパトリックの 4 段階評価】で自分の学びを評価ワーク	[予習] 学習指導案のための授業デザインレポートを完成する ◆最終課題：学習指導案のための授業デザインレポートを WebClass から提出する

1.授業コード (ナンバリング)	EDU206-m51	2.科目名	教育方法論		3.単位数	2
4.授業担当教員	中嶋康二					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目では、これからの社会を担う?供たちに求められる資質・能?を育成するために必要な、教育の効果・効率を高めるためのさまざまな手法や授業設計の考え方のほか、コンピュータやインターネットなどの ICT を教育において効果的に活用する方法を学びます。将来の授業運営に生きる知識とスキルを身につけます。 <わたしが「教えたか?」よりも、子どもたちが「学んだか?」>という観点に重点を置いた、教育の方法や技術について学びましょう。 授業においては、授業設計の活動などでは、進捗管理や相互レビューなどでグループやペア学習を行います。また、各回の作業では、WebClass をはじめとした ICT ツールを活用することで利用効果を実際に経験します。					
18.学習目標と DP との関連	本科?の学習?標（=?につくスキル）は次の通りです。 ① 子どもが身につけるべき資質・能力とは何かを説明できる。 ② 教育?法の基本原理に基づいた授業設計手法を適用した授業設計を作成できる。 ③ 学びを支援する指導技術に基づいた学習指導案を授業設計に盛り込むことができる。 ④ 授業設計や指導方略において、必要に応じて適切な ICT 活用を盛り込むことができる。 [関連するディプロマポリシー] （1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	『教育の?法と技術 Ver.2～ID と ICT でつくる主体的・対話的で深い学び』稲垣 忠 著，北?路書房，2022 年					
20.参考文献	『ICT 活用の理論と実践－DX 時代の教師をめざして』稲垣忠・佐藤和紀編著，北大路書房，2021 年 『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』堀田龍也・佐藤和紀，三省堂，2019 年 その他、授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 （1）オンライン小テスト （学習目標 1・2・3・4 に対応）20% →各小テストは、満点で合格です。（何度でも受験可） →実施時期は、授業の中で指示します。 （2）中課題：学習課題分析図 （学習目標 2 に対応）25% （3）小課題（1）：各回の授業計画検討ワークシート（学習目標 3 に対応）10% （4）小課題（2）：授業への ICT 活用検討ワークシート （学習目標 4 に対応）10% （5）最終課題：学習指					
22.コメント	・各回の授業で提示される予習・復習は、下表の「26. アサインメント（宿題）など」の欄に記載しています。（個人差はありますが）それぞれ 120 分程度の作業となることを想定していま					

	す。 ・下記の授業計画に【 】で括った表記（例：【ケラーの ARCS モデル】）は、授業設計時に活用できる様々な手法や考え方を指しています。授業の中で詳しく解説します。	
23.オフィスアワー	質問等があれば随時問い合わせてください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
ブロック 1 第 1 回	・本科目の授業デザインについて解説 ・これからの子どもたちに育みたい資質・能力（情報活用能力を含む）について（第 1 章）	[予習] シラバスと教科書第 1 章を読む [復習] 子どもたちに育みたい資質・能力について、自分の意見をまとめる
第 2 回	・教師に求められる授業力とは（第 2 章） ・授業の魅力を高める ICT の活用（第 12 章） →教育における先端技術の活用について ・主体的学びの促進 ・個別最適学習や共同学習を実現するための ICT 活用の意義 ・学習ログの活用や情報セキュリティの重要性	[予習] 第 2・12 章を精読／理想の教師像について自分の意見をまとめる [復習] 教師を目指す上で重要と考える点をまとめる
第 3 回	授業デザインの基本形について学ぶ（第 3・4 章） ・【メーカー 3 つの質問】 ・【ガニエ 9 教授事象】 など	[予習] 第 3・4 章を精読 [復習] 授業企画案を作成する
第 4 回	・授業企画を書き出してみる ←受講者間で相互レビュー ・学習目標を検討する【ガニエの学習成果 5 分類】（第 4 章）	[予習] 自分の体験で印象に残っている「よい授業」を書き出す [復習] 授業企画案を完成して提出
第 5 回	・学習目標の構造化と系列化 ・学習課題分析図の作成方法（第 9 章）	[予習] 第 9 章を精読／学習目標の分類についての知識をまとめてみる [復習] 自分の授業企画案の学習目標について分類を確認し、必要に応じて修正する
第 6 回	学習課題分析図を作成する（第 9 章） ←受講者間で相互レビュー	[予習] 課題分析図の種類・構成についてまとめてみる [復習] 自分の授業企画案に基づいた課題分析図を描いてみる ◆中課題：課題分析図を WebClass から提出
第 7 回	評価方法：学習目標と適切に対応させる（第 11 章）	[予習] 第 11 章を精読する／授業企画案の学習目標に対応する評価方法を検討する [復習] 授業企画案の学習目標に対応する評価方法を修正する。
ブロック 2 第 8 回	・学習環境について ・デジタルコンテンツの役割について ・教室内外の対話・協働を支える ICT の活用について（特別な支援を必要とする学習者への対応を含む）	[予習] 第 5・6 章を精読する [復習] 授業企画書の指導案を検討する

	・学習指導法（発問などについて） など	
第 9 回	・主体的な学習活動について【ケラーARCS モデル】（第 10 章） ・ICT による学びの保障（学習率：【キャロルの時間モデル】）（第 7 章） ・オンライン授業の意義と活用方法について	[予習] 第 7・10 章を精読する [復習] 授業企画案の指導方法をブラッシュアップする ◆小課題（1）：単元授業計画案「単元・各回の授業検討ワークシート」を WebClass から提出
第 10 回	・教育における、生成 AI を含む ICT の使い方を教える ・情報モラル・セキュリティ教育の重要性について（第 13 章） ・これからの学校・教師の役割について（第 14 章） ・大学との連携等による外部の教育リソースの活用について	[予習] 第 13・14 章を精読する [復習] ICT を活用した授業案を検討する ◆小課題（2）：ICT 活用計画案を WebClass から提出
第 11 回	・ICT を使った授業を考えてみる ・学校の ICT 環境の整備について ・ICT 環境や効果的な ICT 活用の事例を参照 ・ICT を活用した指導方法の修練	[予習] ICT を活用した授業について事例を調べる [復習] 授業企画案の ICT 活用案をブラッシュアップする
ブロック 3 第 12 回	・探究する学習のための授業設計について ・学習指導案のための授業デザインレポートの作成方法（第 8 章） ・各回の授業内容検討シートの作成（ICT 活用の適用検討を含む）	[予習] 第 8 章を精読する／学習指導案を作成開始する [復習] 学習指導案のための授業デザインレポートを作成する
第 13 回	・情報活用能力のカリキュラムマネジメント ・校務における ICT 活用について ・授業設計における生成 AI 活用ワーク ←受講者間で相互レビュー	[予習] 中課題で提出した課題分析図を見直す [復習] 生成 AI で作成した授業設計を批評する
第 14 回	・最終課題（学習指導案のための授業デザインレポート）の完成 ・授業デザイン案（最終課題の学修成果）を共有→相互レビュー ・Q&A	[予習][復習] これまでに学んだことを活かして学習指導案のための授業デザインレポートをブラッシュアップする。
第 15 回	・学んだ事項の総括 ・授業後に実践できるものとなることを目指したふりかえり 【カークパトリックの 4 段階評価】で自分の学びを評価ワーク	[予習] 学習指導案のための授業デザインレポートを完成する ◆最終課題：学習指導案のための授業デザインレポートを WebClass から提出する

1.授業コード (ナンバリング)	EED205-A51	2.科目名	保育内容・人間関係（2021 年度生以前）		3.単位数	1
4.授業担当教員	藤井和子					
5.授業科目の区分	基礎科目 保育内容の指導法（情報機器及び教科の活用を含む。）	6.必修・ 選択の区分	選択 教職必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	小学校一種 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（一部演習を含む）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 （１）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。 （２）幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 【概要】 幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させ「人との関わり合う力」を豊かにする保育、保育者の役割やその指導法への理解を深める。その上で、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。情報教育及び教材の活用を理解し、保育の実践力を高めていく。					
18.学習目標と DPとの関連	①自律性'（レベル２：やらなければならないことを、計画的を立てて最後までやり遂げることができる） ②多様性理解（レベル２：自分とは異なる価値観や考え方を持つ人々の社会的・文化的背景を理解し違いがあることを受け容れることができる） ③問題発見・解決力（レベル２：根拠を示しつつ意見や判断を示すことができる） ④コミュニケーションスキル（レベル２：多様な情報源から、必要かつ信頼できる情報を集め、要点を整理できる） ⑤専門的知識・技術の活用力（レベル２：専門基礎知識・技術を相互に関連付け、その概念を使って学んだ内容を説明できる）					
19.教科書・教材	幼稚園教育要領解説 平成 30 年 3 月 文部科学省 フレーベル館 保育所保育指針解説 平成 30 年 3 月 厚生労働省 フレーベル館					
20.参考文献	授業内に適宜紹介					
21.成績評価	レポート等課題提出 40% 総括試験 60%					
22.コメント	人間は、一人で生きていくのではなく、支え合って生きていきます。乳幼児期から集団生活に必要な人と関わる力をどのように身に付けていくのか。そのための保育者の援助について考えていきます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション。本授業の目的と講義概要。 ・ 目標とするベンチマークの説明。評価の基本説明。 ・ 自分自身の人間関係について考えよう。			パソコン 保育所保育指針解説		
第 2 回	幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像を			持参：保育所保育指針解説		

	つかむ。 ・ねらい、内容、内容の取扱いについて理解する。 ・愛着と愛着の形成についてグループで話し合いをする。	幼稚園教育要領解説 復習：保育所保育指針解説 p 89～P 90、P101～109 を読んでまとめる。
第 3 回	教師との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助のあり方について考え、理解する。	復習：幼稚園教育要領解説 p167p168p182 を読んでまとめる。
第 4 回	自立心を育む援助について理解する。 事例に基づいて自立から自律に向かう子どもの姿を考える。 事例についてグループで話し合う。	復習：幼稚園教育要領解説 P169～P172 をまとめる。
第 5 回	友だちとの遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気づき、自分の気持ちを調整する力を育む援助のあり方について考える。	復習：幼稚園教育要領解説 p173～p175 を読んでまとめる。
第 6 回	きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助。ルールのある遊びと援助について考え理解する。 きまり・ルールとは何か。きまりとルールの必要性についてグループで話し合う。	復習：幼稚園教育要領解説 p177～p180 をまとめる。
第 7 回	協同的な遊びのなかで育ち合う協同的な保育の展開を考える。 協同的な遊びとは何かを 3 歳児が遊ぶ姿から 6 歳児の遊ぶ姿を通して考える。	復習：幼稚園教育要領解説 p175186p187 をまとめる
第 8 回	個と集団について考える。 個とは何か。人として育つ過程における集団の役目について考え、個と集団の関係性を考える。	復習：幼稚園教育要領解説 p184p185 をまとめる。
第 9 回	多種多様な社会で生活する子どもにとって必要な人間関係力を考える。多文化保育について考える。	復習：幼稚園教育要領解説 p107～P109 p124～P130 をまとめる。
第 10 回	人間関係づくりを育む保育の実践 教材研究・指導案立案	復習：幼稚園教育要領解説 p 96～103 を読んで指導案を作成する。
第 11 回	人間関係づくりを育む模擬保育実践・振り返り	復習：模擬保育振り返りからの学びをまとめる。
第 12 回	小学校での生活や学習で生かされる力について 幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿から考える。	復習：幼稚園教育要領解説 p56～p 63 をまとめる。
第 13 回	地域の中の幼稚園について考える。 地域の中で育つことについて考える。	復習：幼稚園教育要領解説 P181P191p192 をまとめる。
第 14 回	総括試験（まとめの授業＋試験（60 分）	総括試験持ち込みは不許可 （ただし、授業のワークシートのみ許可）
第 15 回	総括試験の答案返却、内容解説。 領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題	ノートパソコンを持参 授業時にレポート作成、WebClass から提出

1.授業コード (ナンバリング)	EED211-A51	2.科目名	相談援助	3.単位数	1
4.授業担当教員	尾崎慶太				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	保育士は、こどもの保育のみならず、保護者の抱えている課題への対応や、地域における子育てニーズへのかかわりなど多方面に「活躍の場」が期待されています。ソーシャルワーカーとしての保育士に求められる援助技術をいろいろな事例を通して学び、必要な知識やスキルアップ獲得を目指して講義と演習の中で学びあっていきましょう。そして講義や演習の中から理論と実践の大切さを学び、ソーシャルワークの重要性を知り、こどもに寄り添える保育士を目指してほしいと思います。				
18.学習目標と DPとの関連					
19.教科書・教材	毎回プリントを配布します。				
20.参考文献	特にありませんが、必要な時は提示します。				
21.成績評価	一番大事なことは出席することです。 ・出席及びワークシート 30% ・アサイメント 20% (5 回目の授業の時に複数課題を提示します。) ・中間テスト 20% (持ち込み不可とします。) ・最終レポート 30%				
22.コメント	講義と演習の授業形態をとります。演習には積極的に取り組んでください。 出来るだけ具体的な事例を通して考えてもらいたいと思いますので、日々子どもに関するニュース等（虐待など権利擁護）には関心を持ってほしいと思います。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
	① 保育士として重要な専門性とは				
	② 相談援助の目的と意義 演習 事例を通して				
	③ 相談援助の機能 相談援助とソーシャルワーク 演習 自己覚知Ⅰ				
	④ ケアワークとソーシャルワーク 保育とソーシャルワーク 演習 自己覚知Ⅱ 人生曲線				
	⑤ ソーシャルワークの展開				

	相談援助の方法と技術 演習 事例を通して	
	⑥ 相談援助の方法と技術 ケースワークの原則 演習 自己覚知Ⅲ 自分を取りまく環境 アサイメントレポート	
	⑦ 相談援助の方法と技術 基本資料の作成 演習 マッピング技法	
	⑧ 前半の振り返り 演習 ノンバーバルの演習	
	⑨ 相談援助小テスト 演習 他者理解	
	⑩ 相談援助の具体的展開 演習 事例を通して	
	⑪ 相談援助の具体的展開 演習 他者理解Ⅱ	
	⑫ 児童虐待について 演習 事例を通して	
	⑬ 障害のある子どもとその保護者への支援 演習 事例を通して	
	⑭ 個別援助の技術 演習 ロールプレイ	
	⑮ 保育士に求められる相談援助技術（まとめとして） 演習 ロールプレイ	

1.授業コード (ナンバリング)	EED211-A52	2.科目名	相談援助		3.単位数	1
4.授業担当教員	武並朋美					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	保育士は、こどもの保育のみならず、保護者の抱えている課題への対応や、地域における子育てニーズへのかかわりなど多方面に「活躍の場」が期待されています。ソーシャルワーカーとしての保育士に求められる援助技術をいろいろな事例を通して学び、必要な知識やスキルアップ獲得を目指して講義と演習の中で学びあっていきましょう。そして講義や演習の中から理論と実践の大切さを学び、ソーシャルワークの重要性を知り、こどもに寄り添える保育士を目指してほしいと思います。 演習は個人ワーク、グループワーク、ロールプレイなどを行います。					
18.学習目標と DPとの関連	①子育て支援における相談援助の意義と機能を理解できる ②相談援助の基本的な知識と技能を学び、具体的な場面においてどのように活用できるのかを理解することができる ③福祉的な観点から事例をとらえることができる ④自分を知り、他者を理解することの難しさと大切さに気付くことができる 本科目は、DP（ディプロマポリシー）のうち、(3)多様性の理解 (4)問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキルの獲得に関連しています					
19.教科書・教材	毎回プリントを配布します。					
20.参考文献	特にありませんが、必要な時は提示します。					
21.成績評価	・リフレクションシート 30％ ・中間レポート 20％ ・中間テスト 20％ （持ち込み不可とします） ・最終レポート 30％					
22.コメント	講義と演習の授業形態をとります。演習には積極的に取り組んでください。 出来るだけ具体的な事例を通して考えてもらいたいと思いますので、日々子どもに関するニュース等（虐待など権利擁護）には関心を持ってほしいと思います。					
23.オフィスアワー	授業終了後、メールでお願いします					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 10/2	①オリエンテーション 保育士として重要な専門性とは			【復習】授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】次回のテーマに関連する事柄について調べておく		
【第 2 回】 10/9	②相談援助の目的と意義 演習 事例を通して			【復習】授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】次回のテーマに関連する事柄について調べておく		
【第 3 回】 10/16	③相談援助の理論 相談援助の視点、歴史、相談援助技術の体系			【復習】授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する		

	演習 自己覚知Ⅰ	【予習】次回のテーマに関連する事柄について調べておく
【第4回】 10/23	④相談援助の機能 演習 事例を通して	【復習】授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】次回のテーマに関連する事柄について調べておく
【第5回】 10/30	⑤保育とソーシャルワーク 演習 自己覚知Ⅱ 人生曲線	【復習】授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】次回のテーマに関連する事柄について調べておく
【第6回】 11/6	⑥相談援助の対象 保育における相談援助 演習 事例を通して 中間レポートの提示	【復習】授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】次回のテーマに関連する事柄について調べておく 中間レポートの作成
【第7回】 11/13	⑦相談援助の展開過程 演習 自己覚知Ⅲ 自分を取りまく環境	【復習】授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】次回のテーマに関連する事柄について調べておく 中間レポートの作成
【第8回】 11/20	⑧相談援助の技術とアプローチ 演習 非言語コミュニケーション	* 中間レポートの提出 【復習】授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】次回のテーマに関連する事柄について調べておく
【第9回】 11/27	⑨相談援助の計画・記録・評価 演習 マッピング技法 演習 他者理解Ⅰ	【復習】授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】中間テストに向けた学習
【第10回】 12/4	⑩中間テスト 演習	【復習】授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】次回のテーマに関連する事柄について調べておく
【第11回】 12/11	⑪ 相談援助の関係機関・専門職との連携 演習 他者理解Ⅱ	【復習】授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】次回のテーマに関連する事柄について調べておく
【第12回】 12/18	⑫相談援助の社会資源の活用・調整・開発 演習 最終レポートの提示	【復習】授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】次回のテーマに関連する事柄について調べておく 最終レポートの作成
【第13回】 1/8	⑬児童虐待の支援への理解 演習 事例を通して	【復習】授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】次回のテーマに関連する事柄について調べておく 最終レポートの作成

【第 14 回】 1/15	⑭障害のある子どもとその保護者への支援 演習 事例を通して	【復習】授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する 【予習】次回のテーマに関連する事柄について調べておく 最終レポートの作成
【第 15 回】 1/22	⑮保育士に求められる相談援助技術（まとめとして） 演習 ロールプレイ	【復習】今までの授業で配布した資料を読み返し、学習した内容について整理する

1.授業コード (ナンバリング)	EED215-A51	2.科目名	障害児保育Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	春木裕美					
5.授業科目の区分	基幹科目 障害児福祉施設における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科子ども学専攻 教育福祉学科福祉学専攻 福祉・保育コース			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 障害児やことばの遅れのある子どもには、早期から言語・コミュニケーションを促すかかわりが必要になります。保育の場において、毎日、子どもと一緒に過ごす保育士のかかわりが重要です。子どもへのコミュニケーション支援の専門的技術を獲得することを目指します。また、子どもの行動の意味を探り、子どもが落ち着いて過ごせる環境づくり、援助方法について自分なりに考えることができる技術の獲得を目指します。 【概要】 ・ことば・コミュニケーション支援については、インリアル・アプローチの手法を理解します。 ・重症心身障害児へのアプローチとして、シンプルテクノロジーを用いた手法を理解します。 ・子どもの起こす問題行動への対応方法としてソーシャルスキル・トレーニングの手法を理解します。 ・子どもの育ちを支えるために、個別の指導計画の作成プロセスを理解します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の目的を達成するために、以下の学習目標を設定する。 ①障害児やことばの遅れのある子どもに対し、発達を促す関わり方の基本姿勢を説明することができる。 ②重症心身障害児への保育について、子どもの主体性を尊重し、豊かな経験ができるような遊びを提案できる。 ③子どもの起こす問題行動への対応方法を提案することができる。 ④障害児やことばの遅れのある子どもの育ちを支えるために、個別の指導計画の作成プロセスを説明できる。 ⑤保育現場における様々な連携（園内・園外）について、説明できる 本授業は、学位授与方針（DP）の(1)主体性、(5)問題発見・解決力に関連しています。					
19.教科書・教材	特に指定しません。毎回、webclass に資料をアップします。					
20.参考文献						
21.成績評価	①ワークシート（14 回）=60%：学習目標①②③④⑤ ②期末レポート=30%：学習目標⑤ テーマ「障害児保育における園内・園外での連携について」1600 字以上、参考文献を 2 本以上示しながら書くこと。 ③期末ふりかえりシート=10%：①②③④					
22.コメント	・資料の配布や成果物の提出は webclass を使います。					

	・毎回ノートパソコンを持ってきてください。 ・ゲストスピーチは先方との日程調整によって、実施日が多少変動することもあります、事前に必ずアナウンスします。	
23.オフィスアワー		火曜日の昼休み
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	ことばやコミュニケーションの支援①（インリアル・アプローチとは）	○【課題】ワークシート①（90分）
第2回	ことばやコミュニケーションの支援②（言語心理学的技法）	○【課題】ワークシート②（90分）
第3回	ことばやコミュニケーションの支援③（遊びの発達と支援）	○【課題】ワークシート③（90分）
第4回	ことばやコミュニケーションの支援④（事例検討）	○【課題】ワークシート④（90分）
第5回	重症心身障害児の理解と支援（医療的ケア児）	○【課題】ワークシート⑤（90分）
第6回	重症心身障害児の遊びとコミュニケーションの支援	○【課題】ワークシート⑥（90分）
第7回	重症心身障害児のアクティビティを考える①	○【課題】ワークシート⑦（90分）
第8回	重症心身障害児のアクティビティを組み立てる②	○【課題】ワークシート⑧（90分）
第9回	専門機関との連携	○【課題】ワークシート⑨（90分）
第10回	インクルーシブ保育の実際 ※ゲスト（保育園の園長）	○【課題】ワークシート⑩（90分）
第11回	発達障害児へのソーシャル・スキル・トレーニング①	○【課題】ワークシート⑪（90分）
第12回	発達障害児へのソーシャル・スキル・トレーニング②	○【課題】ワークシート⑫（90分）
第13回	個別の指導計画の作成	○【課題】ワークシート⑬（90分）
第14回	個別の指導計画の発表	○【課題】ワークシート⑭（90分）
第15回	・学習のまとめ ・ふりかえりシート ・期末レポートの提出	

1.授業コード (ナンバリング)	EED215-A52	2.科目名	障害児保育Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	春木裕美					
5.授業科目の区分	基幹科目 障害児福祉施設における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科子ども学専攻 教育福祉学科福祉学専攻 福祉・保育コース			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 障害児やことばの遅れのある子どもには、早期から言語・コミュニケーションを促すかわりが必要になります。保育の場において、毎日、子どもと一緒に過ごす保育士のかかわりが重要です。子どもへのコミュニケーション支援の専門的技術を獲得することを目指します。また、子どもの行動の意味を探り、子どもが落ち着いて過ごせる環境づくり、援助方法について自分なりに考えることができる技術の獲得を目指します。 【概要】 ・ことば・コミュニケーション支援については、インリアル・アプローチの手法を理解します。 ・重症心身障害児へのアプローチとして、シンプルテクノロジーを用いた手法を理解します。 ・子どもの起こす問題行動への対応方法としてソーシャルスキル・トレーニングの手法を理解します。 ・子どもの育ちを支えるために、個別の指導計画の作成プロセスを理解します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の目的を達成するために、以下の学習目標を設定する。 ①障害児やことばの遅れのある子どもに対し、発達を促す関わり方の基本姿勢を説明することができる。 ②重症心身障害児への保育について、子どもの主体性を尊重し、豊かな経験ができるような遊びを提案できる。 ③子どもの起こす問題行動への対応方法を提案することができる。 ④障害児やことばの遅れのある子どもの育ちを支えるために、個別の指導計画の作成プロセスを説明できる。 ⑤保育現場における様々な連携（園内、園外）について、説明できる 本授業は、学位授与方針（DP）の(1)主体性、(5)問題発見・解決力に関連しています。					
19.教科書・教材	特に指定しません。毎回、webclass に資料をアップします。					
20.参考文献						
21.成績評価	①ワークシート（14 回）＝60％：学習目標①②③④⑤ ②期末レポート＝30％：学習目標⑤ テーマ「障害児保育における園内・園外での連携について」1600 字以上、参考文献を 2 本以上示しながら書くこと。 ③期末ふりかえりシート＝10％：①②③④					
22.コメント	・資料の配布や成果物の提出は webclass を使います。					

	・毎回ノートパソコンを持ってきてください。 ・ゲストスピーチは先方との日程調整によって、実施日が多少変動することもあります。事前に必ずアナウンスします。	
23.オフィスアワー		火曜日の昼休み
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	ことばやコミュニケーションの支援①（インリアル・アプローチとは）	○【課題】ワークシート①（90分）
第2回	ことばやコミュニケーションの支援②（言語心理学的技法）	○【課題】ワークシート②（90分）
第3回	ことばやコミュニケーションの支援③（遊びの発達と支援）	○【課題】ワークシート③（90分）
第4回	ことばやコミュニケーションの支援④（事例検討）	○【課題】ワークシート④（90分）
第5回	重症心身障害児の理解と支援（医療的ケア児）	○【課題】ワークシート⑤（90分）
第6回	重症心身障害児の遊びとコミュニケーションの支援	○【課題】ワークシート⑥（90分）
第7回	重症心身障害児のアクティビティを考える①	○【課題】ワークシート⑦（90分）
第8回	重症心身障害児のアクティビティを組み立てる②	○【課題】ワークシート⑧（90分）
第9回	専門機関との連携	○【課題】ワークシート⑨（90分）
第10回	インクルーシブ保育の実際 ※ゲスト（保育園の園長）	○【課題】ワークシート⑩（90分）
第11回	発達障害児へのソーシャル・スキル・トレーニング①	○【課題】ワークシート⑪（90分）
第12回	発達障害児へのソーシャル・スキル・トレーニング②	○【課題】ワークシート⑫（90分）
第13回	個別の指導計画の作成	○【課題】ワークシート⑬（90分）
第14回	個別の指導計画の発表	○【課題】ワークシート⑭（90分）
第15回	・学習のまとめ ・ふりかえりシート ・期末レポートの提出	

1.授業コード (ナンバリング)	EED216-A51	2.科目名	社会的養護内容		3.単位数	1
4.授業担当教員	春木裕美					
5.授業科目の区分	基幹科目 障害児福祉施設における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科子ども学専攻 教育福祉学科福祉学専攻 福祉・保育コース			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 保育者として、社会的養護が必要な子どもの心理的側面を理解し、日常をサポートする方法やアフターケアについて学びます。子ども本人だけでなく、家族や地域、関係機関との連携の意義と方法にも焦点を当てて学習します。 【概要】 ・ 児童の権利擁護と保育士等の倫理及び責務を理解する。 ・ 子どもの心理的側面と日常生活支援の方法を理解する。 ・ 個々の児童に応じた支援計画を作成する。 ・ 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術を理解する ・ 家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉への理解を深める。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の目的をを達成するために、以下の学習目標を設定する。 ①社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について理解できる。 ②事例について個々の児童に応じた支援計画を立案できる。 ③社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解できる。 ④社会的養護の演習を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。 本授業は、学位授与方針（DP）の(2)社会的貢献性、(5)問題発見・解決力に関連しています。					
19.教科書・教材	『よりそい支える社会的養護Ⅱ』 中山正雄（監修） 浦田雅夫（編著）教育情報出版 【第2版】 2023 年					
20.参考文献						
21.成績評価	①ワークシート（14 回）＝60％：学習目標①②③④ ②期末レポート＝30％：学習目標③④ テーマ「社会的養護を経験した若者へのアフターケアの課題と対応」2000 字以上、参考文献を3 本以上示しながら書くこと。 ③期末ふりかえりシート＝10％：①②③④					
22.コメント	・ 資料の配布や成果物の提出は webclass を使います。 ・ 毎回ノートパソコンを持ってくるください。					
23.オフィスアワー	火曜日の昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	①社会的養護における保育士等の倫理及び責務 ・ 保育士等の倫理及び責務を理解する ②対人援助職としての関わりの基礎 ・ 対人援助の方法を理解する ・ バーンアウトの予防について理解する			○【課題】 ワークシート①（90 分）		

第 2 回	アセスメントと援助方針 ・アセスメントに必要な観点を知る ・事例のアセスメントを行う	○【課題】ワークシート②（90 分）
第 3 回	日常生活支援 ・日常生活（衣食住）における具体的な支援について考える ・子どもとの関係づくりを考える	○【課題】ワークシート③（90 分）
第 4 回	治療的支援 ・虐待を受けた子どもの心理的側面を理解する ・治療的支援の方法を学ぶ	○【課題】ワークシート④（90 分）
第 5 回	自立支援 ・自立支援を理解する ・リービングケアを理解する ・ライフストーリーワークを学ぶ	○【課題】ワークシート⑤（90 分）
第 6 回	家族再統合・親子関係再構築 ・家族再統合を理解する ・親子関係再構築を理解する ・家庭復帰に必要な支援を理解する	○【課題】ワークシート⑥（90 分）
第 7 回	社会的養護に関するグループ発表準備① 社会的養護について、さらに、深堀りしたいテーマを決める ・リサーチクエスションと目的の決定	○【課題】ワークシート⑦（90 分）
第 8 回	社会的養護に関するグループ発表準備② ・リサーチクエスションと目的にあった文献を探す ・パワーポイントにまとめる	○【課題】ワークシート⑧（90 分）
第 9 回	社会的養護に関するグループ発表 ・分かりやすくプレゼンテーションする ・他者からの意見を受けて学びに活かす ・他グループの発表を聞き、意見を伝える	○【課題】ワークシート⑨（90 分）
第 1 0 回	保育士の専門性とチームワーク ・保育士の専門性について考える ・チームワークについて学ぶ	○【課題】ワークシート⑩（90 分）
第 1 1 回	自立支援計画の作成 ・自立支援計画の作成方法を学ぶ ・事例を基にして、自立支援計画をグループで作成する	○【課題】ワークシート⑪（90 分）
第 1 2 回	自立支援計画のグループ発表 ・自立支援計画を作成し、他者に分かりやすく発表する	○【課題】ワークシート⑫（90 分）
第 1 3 回	子どもの問題行動 ・子どもの問題行動の背景を理解する ・問題行動に対する支援について考える	○【課題】ワークシート⑬（90 分）
第 1 4 回	アフターケア ・継続的支援の必要性を理解する ・多職種との連携・協働のあり方を理解する	○【課題】ワークシート⑭（90 分）
第 1 5 回	・学習のまとめ	

	・ふりかえりシート ・レポート課題提出	

1.授業コード (ナンバリング)	EED217-A51	2.科目名	言語表現技術		3.単位数	1
4.授業担当教員	中西一彦					
5.授業科目の区分	展開 言語表現分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育学部教育福祉学科こども学専攻教育・保育コース			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	[目的] 幼児期言語の特徴を理解し、言語表現技術の具体的展開のための技術を習得することをめざす。 [概要] 言語表現の基礎基本として「聞く・話す、読む、書く」を位置づけることができる。 幼児期においては、ことば獲得段階として「話す・聞く・演じる」ことへの興味・関心が高まることを学ぶ。 幼児期に積極的かつ意欲的な態度を身につけるには、周囲にいる大人の関わり方が大きく影響することを学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目は DP の (5) コミュニケーションスキルと (6) 専門的知識・技能の活用力に関連しています。 言語表現活動の基礎となる技術を習得し、「読む、書く、聞く、話す」の技能を活用してコミュニケーションの成立をめざす。					
19.教科書・教材	授業時に適宜プリント等を配布する。					
20.参考文献						
21.成績評価	講評レポート 40 % (10%×4) 審査用紙 (第 8 回、9 回、13 回、15 回) 授業記録 (毎回の 100 字コメント) 30% 総合レポート (第 14 回) 30%					
22.コメント	先輩方のパフォーマンス作品を超えることをめざしてください。					
23.オフィスアワー	後日確定後連絡					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【第 1 回】オリエンテーション 過去の作品を鑑賞する。 グループ編成。(個人も可とする)			◎パフォーマンス案をグループにおいて検討する。(240 分)		
第 2 回	【第 2 回】パフォーマンス案検討会 グループ又は個人において検討した後、パフォーマンス案を披露し合う。			◎検討会を踏まえてパフォーマンス製作の準備に入る。(240 分)		
第 3 回	【第 3 回】パフォーマンス製作一練習 各グループ、各人において製作手順を作成し、練習する。			◎パフォーマンス完成に向けて準備する。(240 分)		
第 4 回	【第 4 回】パフォーマンス製作一練習 各グループ、各人において製作手順に従い練習する。			◎パフォーマンス完成に向けて活動する。(240 分)		

第 5 回	【第 5 回】パフォーマンス製作一練習 各グループ、各人において、仕上げに向かって練習する。	◎パフォーマンス製作を入念にチェックする。(240 分)
第 6 回	【第 6 回】パフォーマンス製作一リハーサル 本番に向けてリハーサルをそれぞれにおいて実施する。	◎リハーサルを踏まえて気づいたところを改善する。(240 分)
第 7 回	【第 7 回】パフォーマンス発表会（前半チーム） 発表順を決めパフォーマンスを披露する。 審査用紙にコメントを含め評点を記入する。	◎前半チームは、ふり返しを行う。後半チームはパフォーマンス作品をさらに仕上げる。(240 分)
第 8 回	【第 8 回】パフォーマンス発表会（後半チーム） 発表順に従いパフォーマンスを披露する。 審査用紙にコメントも含め評点を記入する。	◎後半チームはふり返しを行う。(240 分) ★審査用紙を提出する。
第 9 回	【第 9 回】 「(教育・保育 B)(福祉・保育コース)」受講者作品を鑑賞する。 審査用紙にコメントも含め評点を記入する。	○朗読劇候補作品を検討する。(240 分) ★審査用紙を提出する。
第 10 回	【第 10 回】朗読劇発表会に向けての準備 対象作品選定とグループ編成	◎朗読劇発表への準備に入る。(240 分)
第 11 回	【第 11 回】朗読劇発表会に向けての練習 各グループにおいて役割分担にそって練習を行う。	◎朗読劇発表に向けての仕上げに入る。(240 分)
第 12 回	【第 12 回】朗読劇発表会（前半チーム） 朗読劇を発表し、相互批評会を行う。	◎前半チームは朗読劇を終えてのふり返しを行い、後半チームは朗読劇発表の最終確認を行う。(240 分)
第 13 回	【第 13 回】朗読劇発表会（後半チーム） 朗読劇を発表し、相互批評会を行う。	◎後半チームは朗読劇を終えてのふり返しを行う。(240 分) ★審査用紙を提出する。
第 14 回	【第 14 回】総合レポート 「言語表現技術の本質を探る」をテーマとするレポートを授業内に記述し、提出する。	○「言語表現技術」の時間をふり返る・(240 分) ★総合レポートを提出する。
第 15 回	【第 15 回】 「(教育・保育 B)(福祉・保育コース)」受講生の朗読劇を鑑賞する。	○総合レポートをふり返る。(240 分) ★審査用紙を提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	EED222-A51	2.科目名	保育心理学演習		3.単位数	1
4.授業担当教員	椋田善之					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教育心理学・発達心理学，そしてさまざまな保育系の科目を踏まえ，保育実践を心理学的な視点で学んでいく。特に、実習で見てきた子どもの発達を共有し、発達の個人差などについての理解を深める。最終的に、保育実践・保育内容について、保育心理学の視点から説明できることをこの授業の目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	<授業の到達目標> 1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。 2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。 3. 保育における発達援助について学ぶ。 (関連する学科の DP) (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力 (多様性理解) 教員・社会福祉従事者として、その人がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域、保護者、他職種等との連携・協働を行うことができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	■ 厚生労働省『保育所保育指針解説書』 ■ 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 ■ 瀧川光治・小栗正裕編『改編 保育の考え方と実践』2012、久美出版					
21.成績評価	課題1 発達段階を踏まえた保育環境のあり方に関するレポート 20％ 課題2 保育における発達援助に関するレポート 30％ HW-WS (13回) 3点×12回+4点×1回 = 40％ e-portfolio 10％ ※提出物の遅れは減点対象になります。WS は基本的に遅れないように気を付けましょう。					
22.コメント	幼児教育は子ども理解から始まります。子どもたちの心の動きが把握できるよう、ビデオ教材などを基にしっかり学んでいきましょう。					
23.オフィスアワー	火曜日お昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回目	ガイダンス／保育者の専門性としての子ども理解 ・1年次の『保育者論』の振り返り			○HW-WS①を実施する。(120分)		
第2回目	子ども理解における発達の把握 (0～2歳児) ・『改編 保育の考え方と実践』 第4部 第1章「子どもの発達について学ぶ」① ・『保育所保育指』 第2章 発達①			○HW-WS②を実施する。(120分)		
第3回目	子ども理解における発達の把握 (3～5歳児) ・『改編 保育の考え方と実践』 第4部 第1章「子どもの発達について学ぶ」① ・『保育所保育指』 第2章 発達①			○HW-WS③を実施する。(120分)		

第 4 回目	発達連続性（乳児の身体的発達） ・『改編 保育の考え方と実践』 第 4 部 第 4 章「3 歳以上の保育」 ・『保育所保育指』 第 2 章 発達③ 3 歳～5 歳児	○HW-WS④を実施する。(120 分)
第 5 回目	発達連続性（3 歳未満児の保育について） ・『改編 保育の考え方と実践』 第 4 部 第 3 章「3 歳未満児の保育」 ・『保育所保育指』 第 2 章 発達④ 0・1・2 歳児	○HW-WS⑤を実施する。(120 分)
第 6 回目	生活や遊びを通した学びの過程－子どもの遊びと学び ・『改編 保育の考え方と実践』 第 4 部 第 2 章「保育の形態」 ・設定保育で使える折り紙の折り方	○HW-WS⑥を実施する。(120 分)
第 7 回目	子どもの視点に立った教材研究 ・子どもにわかりやすい折り紙の折り方の順番を画用紙にまとめる	○HW-WS⑦を実施する。(120 分)
第 8 回目	子どもの行動観察の記録 ・『改編 保育の考え方と実践』 第 4 部 第 8 章「保育者の専門性としての子ども理解」 ・乳幼児の安心・安全に着目する ～SICS による「安心度」理解－	○HW-WS⑧を実施する。(120 分)
第 9 回目	場面に応じた援助を考える ・保育実習のよくある場面を示し、援助方法を考える	○HW-WS⑨を実施する。(120 分)
第 10 回目	保育環境の意味 ・保育所・幼稚園の環境写真から捉えられる保育者の意図性と子どもの主体性について考察する	○HW-WS⑩を実施する。(120 分)
第 11 回目	子どもの発達を踏まえた環境構成 ・子どもの発達に応じた、応答的環境を考える	○HW-WS⑪を実施する。(120 分)
第 12 回目	発達観、子ども観と保育観	○課題 1 を実施する (240 分)
第 13 回目	情緒の発達と自我	○HW-WS⑫を実施する。(120 分)
第 14 回目	保育における発達援助① ・困った場面のビデオを観て援助方法を考える	○課題 2 を実施する。(240 分)
第 15 回目	総括（まとめと課題）	○HW-WS⑬を実施する。(120 分)

1.授業コード (ナンバリング)	EED223-A51	2.科目名	保育課程論		3.単位数	2
4.授業担当教員	馬場住子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法および保育所、幼稚園、認定こども園における計画の実際について、子どもの育ちの過程を大切にしたい保育課程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について理解することを目的とする。 【授業の概要】 本授業では、保育所・幼稚園・認定こども園の計画の実際について、テキストを基に解説する。また、教育・保育における全体的な計画と指導計画の作成について、演習などを通して学修する。さらに、子どもの育ちの過程を大切にしたい保育課程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)についてもグループワークなどを通じて理解を深める。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 1.全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する(学科 DP6)。 2.保育所、幼稚園、認定こども園における計画の実際について理解する(学科 DP4)。 3.子どもの育ちの過程を大切にしたい保育課程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について理解する(学科 DP4)。 【関連する学科の DP】 (4) 問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に構築することができる。					
19.教科書・教材	田中亨胤 三宅茂夫編 『教育・保育カリキュラム論』 みらい					
20.参考文献	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省） 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） ※小櫃智子・田中君枝・小山朝子・遠藤純子 『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』 2019 わかば社 その他授業内で適宜紹介します。					
21.成績評価	（1）部分保育の指導計画の作成：35 点（35％）・発表：5 点（5％）【学習目標①②③に対応】 （2）保護者向けの計画の必要性和年間計画を伝える「園だより」の作成：15 点（15％）・発表：5 点（5％）【学習目標②に対応】 （3）学びのまとめ(4 点×10 回)40 点（40％）【学習目標①～③に対応】 ※提出物の遅れは減点対象になります。					

22.コメント	保育・教育の実践において計画の立案や省察はとても大切なものになります。また、保育・教育実習においても日々の記録・指導案の立案が欠かせません。意欲的に理解し、チャレンジする気持ちを忘れずに受講していただけることを願っています。授業についての連絡は Web Class よりのメール配信で行います。(欠席された方は特に)連絡事項については必ずみておくようお願いいたします。また、担当教員へのご連絡は***までお願いします。	
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション-教育・保育に大切なこと- 保育の構造、保育における「領域の考え方」 学びのまとめ①	教室外学習（予習、復習）(予習)テキスト p.22-37.を読んでおく。(30 分) (復習)教育・保育に大切なことを復習し、理解する。(60 分)
第 2 回	よりよい教育・保育課程を構想するために-保育の方法と技術・環境構成- 学びのまとめ①	教室外学習（予習、復習）(予習)テキスト p.40-56.を読んでおく。(30 分) (復習)よりよい教育・保育課程について復習し、理解する。(60 分)
第 3 回	保育所保育指針などをもとに基本的な計画について考える-保育の目標・計画の基本的な考え方- 学びのまとめ①	教室外学習（予習、復習）(予習)テキスト p.60-70.を読んでおく。(30 分) (復習)保育所保育指針などに示された基本的な教育・保育課程について復習し、理解する。(60 分)
第 4 回	教育課程・全体的な計画の編成と作成の基本 -教育課程・全体的な計画の必要性- 学びのまとめ②	教室外学習（予習、復習）(予習)テキスト p.72-84.を読んでおく。(30 分) (復習)全体的な計画の編成・作成について復習し、理解する。(60 分)
第 5 回	保育の計画・実践・記録・省察・評価・改善-教育課程・全体的な編成の手順- 学びのまとめ②	教室外学習（予習、復習）(予習)テキスト p.86-99.を読んでおく。(30 分) (復習)保育の計画・実践・記録・省察・評価・改善について復習し、理解する。(60 分)
第 6 回	指導計画(長期・短期)作成の基本-子どもの生活に即した指導計画の作成- 学びのまとめ②	教室外学習（予習、復習）(予習)テキスト p.102-114.を読んでおく。(30 分) (復習)指導計画(長期・短期)の作成について復習し、理解する。(60 分)
第 7 回	指導計画作成における配慮事項-年齢別の配慮事項- 学びのまとめ③	教室外学習（予習、復習）(予習)テキスト p.116-132.を読んでおく。(30 分) (復習)指導計画作成における配慮事項について復習し、理解する。(60 分)
第 8 回	計画の実際(1)保育所(0～3 歳)-乳幼児期の子どもの発達に即した保育の展開-	教室外学習（予習、復習）(予習)テキスト p.136-161.を読んでおく。(30 分)

	学びのまとめ③	分) (復習)保育所の計画の実際について復習し、理解する。(60 分)
第 9 回	計画の実際(2)幼稚園 (3～5 歳)-小学校との接続につながる教育の基礎を培う- 学びのまとめ③	教室外学習 (予習、復習) (予習)テキスト p.164-184.を読んでおく。(30 分) (復習)幼稚園の計画の実際について復習し、理解する。(60 分)
第 1 0 回	計画の実際(3)認定こども園-保育ニーズの異なる子どもたちへの配慮- 学びのまとめ④	教室外学習 (予習、復習) (予習)テキスト p.186-200.を読んでおく。(30 分) (復習)認定こども園の計画の実際について復習し、理解する。(60 分)
第 1 1 回	計画の実際(4)異年齢保育 -少子化を補う異年齢でのかわりからの学び- 学びのまとめ④	教室外学習 (予習、復習) (予習)テキスト p.202-220.を読んでおく。(30 分) (復習)異年齢保育の計画の実際について復習し、理解する。(60 分)
第 1 2 回	指導計画の作成-部分保育指導案の作成方法- 指導案の作成	教室外学習 (予習、復習) (予習)指導計画(部分保育実習指導案)の作成方法について配布資料(※参考書 p.125.)を読み、指導計画立案について考える。(60 分) (復習)指導計画(部分保育実習指導案)を作成する。(60 分)
第 1 3 回	指導計画の作成-作成した指導案を共有する- 指導案の発表	教室外学習 (予習、復習) (予習)指導計画(部分保育実習指導案)の発表について準備する。(60 分) (復習)指導計画(部分保育実習指導案)の発表について振り返る。(60 分)
第 1 4 回	園だよりの作成-園だよりの作成方法- 園だよりの作成	教室外学習 (予習、復習) (予習)各自で考えた園だより(保育課程の重要性を伝える)を作成する。(60 分) (復習)各自で考えた園だより(保育課程の重要性を伝える)の発表準備をする。(60 分)
第 1 5 回	総括-保育課程についての総括 ? 園だよりの発表	教室外学習 (予習、復習) (予習)「園だより」の発表準備をする。(30 分) (復習)各自で考えた園だよりの発表を振り返る。(30 分)

1.授業コード (ナンバリング)	EED224-A51	2.科目名	こどもと健康		3.単位数	1
4.授業担当教員	大平誠也					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義（一部演習）	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 ・幼稚園教育における健康・安全に必要な生活習慣や健康づくり、幼児の運動遊びに関する情報や知識及び施設・設備の整備に関する具体的な方法を理解することを目的とします。 【概要】 ・この科目では、プレイリーダーの育成を目指します。プレイリーダーとは、遊びのファシリテーター（促進者）のことです。目標を達成するために、こどもの健康の視点から、保育を展開していくための知識及び技能を習得します。具体的には、運動遊びに着目しこどもにとっての運動遊びの意味やこどもの運動発達の特性と動きの獲得を踏まえ、配慮や工夫の在り方、実践について取り扱い、保育を展開していくための指導の在り方と方法について学びを深めます。さらに、小学校体育との接続についても考察します。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は、DP?自律的で主体的な態度、⑥専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです ?幼児期の健康、生活習慣の指導に関する基本的な知識や技能を身につけ、活用することができる。 ?幼児期の運動の重要性を理解し、発育発達に関する知識や情報を理解し、選択することができる。 ③健康に関する教材資料を作成して、活用することができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	勝木洋子他『保育者をめざすあなたへ 子どもと健康』みらい 2019 文部科学省『幼児期運動指針』 2012					
21.成績評価	・遊びについてのレポート【学習課題??に対応】 ・こどもの遊び発表会についてのレポート【学習課題?に対応】 ・総括レポート又は試験【学習課題???に対応】					
22.コメント	・遊びに対する理解を踏まえたあるべき保育ファシリテーター（促進者）について理解を深めましょう。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション・乳幼児の健康課題について			乳幼児の健康問題について調べておく（60分）		
第2回	乳幼児の健康問題と幼稚園教育要領 ～運動発達の観点から～			乳幼児の健康問題について整理しておく（30分） 幼稚園教育要領の概要をつかんでおく（60分）		
第3回	こどもの生活リズムと基本的な生活習慣について ～保健指導の観点から～			幼稚園教育要領の中で健康に関連するものをまとめておく（30分） こどもの生活リズムについて調べておく（60分）		

		分)
第 4 回	幼児期の食と栄養 ～アレルギー、食育の観点から～	こどもの生活リズムを学んで気になるところ をまとめておく (30 分) 幼児のアレルギーについて調べておく (60 分)
第 5 回	幼稚園におけるこどもたち? ～生活映像で知る幼児の状況～	アレルギーへの対応についてまとめておく (30 分) 幼稚園で過ごすこどもたちについて調べてお く (60 分)
第 6 回	幼稚園におけるこどもたち? ～遊びの映像で知る幼児の状況～	幼稚園での生活の様子をまとめておく (30 分) 幼児の遊びについて調べておく (60 分)
第 7 回	幼児の安全教育? ～生活安全、病気の予防の観点から～	幼児の遊びについてまとめておく (30 分) 幼児の病気について調べておく (60 分)
第 8 回	幼児の安全教育? ～防災安全、救急措置の観点から～	幼児の病気、主として感染症を防ぐにはどの ようにすればよいかまとめておく (30 分) 災害から幼児を守るにはどのようにすればよ いか調べておく (60 分)
第 9 回	幼児の安全教育③ ～交通安全の観点から～	災害から幼児を守るにはどのように行動すれ ばよいかまとめておく (30 分) 幼児はどのような交通事故にあうのか新聞や ニュースの記事を通して調べておく (60 分)
第 10 回	幼稚園教育における運動遊びと指導の実際? ～昔遊び～	幼児が事故に巻き込まれないようにするた めの留意点についてまとめておく (30 分) 昔遊びについて調べておく (60 分)
第 11 回	幼稚園教育における運動遊びと指導の実際? ～身近なものを活用した遊び～	昔遊びの良さについてまとめておく (30 分) 身近なものを活用した遊びについて調べてお く (60 分)
第 12 回	こどもの遊びと指導? ～こどもの遊び企画会議～	グループで展開しようとする遊びについて調 べておく。また、その進め方や役割分担につ いても調べておく (90 分)
第 13 回	こどもの遊びと指導② ～こどもの遊び発表会～	グループで展開しようとする遊びの企画、準 備、展開、役割分担の確認をする (100 分)
第 14 回	こどもの遊びと指導? ～こどもの遊び発表会のふりかえり～	グループで展開した遊びについて、個人のふ りかえりをしておく (90 分)
第 15 回	総まとめ・レポート作成 ～他領域とのつながり、小学校の教科とのつながり～	14 回の学修をふりかえっておく (60 分)

1.授業コード (ナンバリング)	EED225-A51	2.科目名	こどもと人間関係		3.単位数	1												
4.授業担当教員	下里里枝																	
5.授業科目の区分	乳幼児教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 秋学期													
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	2 年生													
10.取得資格の要件	保育士、幼稚園教員一種免許		11.先修条件															
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※														
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義														
16.履修制限																		
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、幼児が人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につけることを目的とする。保育者が子どもたちと適切に関わり、彼らの健やかな成長と発達を支援するための必要なスキルや技能が身に付けられる。主に講義を中心に授業をする。具体的な展開は、「人間関係（指導法）」で学ぶ。 【概要】 ・ 幼児期から学童期にかけての子どもの発達段階や特性を理解する。 ・ 信頼関係の構築方法など、適切な子どもとの関わり方や接し方を学ぶ。 ・ 個々の子どもの特性を理解し、それに適した支援やアプローチを行う能力を養う。特別支援教育の基本的な理解も含む。 ・ 保育者としての倫理規範や職業道徳に理解を深める。保育活動における倫理的な行動のガイドラインなどを学ぶ。																	
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 ①子どもの発達段階や特性を理解することができる。 ②子どもとのコミュニケーションスキルを向上させることができる。 ③子どもの心理的側面や感情の発達を理解し、信頼関係の構築の技術や方法を習得できる。 ④個々の保育と集団保育の両方の大切さを学ぶことができる。 関連する DP は（3）多様性理解（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技術の活用力																	
19.教科書・教材	授業において、適宜資料を配布する。																	
20.参考文献	事例で学ぶ 領域「人間関係」無藤隆監修 萌文書林 人間関係 成田朋子 福村出版 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領																	
21.成績評価	<table border="0"> <tr> <td>・ 授業の振り返りシート記入</td> <td>2 点×9 回</td> <td>18 点</td> </tr> <tr> <td>・ グループワークと発表</td> <td></td> <td>10 点</td> </tr> <tr> <td>・ 理解度小テスト</td> <td>4 回</td> <td>22 点</td> </tr> <tr> <td>・ 総括試験</td> <td></td> <td>50 点</td> </tr> </table>						・ 授業の振り返りシート記入	2 点×9 回	18 点	・ グループワークと発表		10 点	・ 理解度小テスト	4 回	22 点	・ 総括試験		50 点
・ 授業の振り返りシート記入	2 点×9 回	18 点																
・ グループワークと発表		10 点																
・ 理解度小テスト	4 回	22 点																
・ 総括試験		50 点																
22.コメント	・ 提出物は期限を守りましょう。 ・ 授業内容は、資料をウェブクラスで事前に見れるようにしています。予習をしておきましょう。																	
23.オフィスアワー	月曜日昼休み																	
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)														
1 回目	オリエンテーション 領域「人間関係」がめざすこと 授業の進め方、評価など 振り返りシート①記入			振り返りシート①（120 分）を記入し、ウェブクラスに次週までに提出。来週は保育所保育指針を持参。														
2 回目	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型			振り返りシート②を記入し、ウェブクラスに														

	認定こども園教育・保育要領」と領域「人間関係」について 振り返りシート②記入	次週までに提出（120分）
3回目	人とのかかわりからみる乳幼児期の発達ー1 3歳未満児について 振り返りシート③記入	振り返りシート③をウェブクラスに次週までに提出（120分）
4回目	人とのかかわりからみる乳幼児期の発達ー2 3歳以上児 小テスト①実施（保育所保育指針、幼稚園教育要領の「人間関係」のねらいと内容の理解度について）	今日の学びの復習（120分）
5回目	遊びの中の人とのかかわりー1 3歳未満児 振り返りシート④記入	振り返りシート④を次週までにウェブクラスに提出（120分）
6回目	遊びの中の人とのかかわりー2 3歳以上児 振り返りシート⑤記入	振り返りシート⑤記入し次週までにウェブクラスに提出（120分）
7回目	生活を通して育つ人とのかかわり （親、きょうだい、祖父母、園生活など） 小テスト②（乳児期における人間関係の理解度）	今日の学びの復習（120分）
8回目	子どもと保育者とのかかわり 振り返りシート⑥記入	振り返りシート⑥記入し、次週までにウェブクラスに提出（120分）
9回目	園生活における個と集団の育ちについて 振り返りシート⑦記入	振り返りシート⑦記入しウェブクラスに次週までに提出（120分）
10回目	人とのかかわりを見る視点ー1 振り返りシート⑧記入	振り返りシート⑧記入し、ウェブクラスに次週までに提出。（120分）
11回目	人とのかかわりを見る視点ー2 小テスト③（幼児期の人間関係の理解度について）	今日の学びの復習（120分）
12回目	保育の中で育つ人とかわる力 （グループワーク・・・事例研究と発表とまとめ）	グループで発表内容をまとめて、次週までにウェブクラスに提出。 （120分）
13回目	領域「人間関係」における今日の課題 （ICTの発展から考える人間関係他） 小テスト④（人間関係における保育者の役割についての理解度）	今日の学びの復習（120分）
14回目	領域「人間関係」と小学校とのつながり 子どもの人権について 振り返りシート⑨記入	授業の配布したプリントをまとめて、復習しておく。（120分）
15回目	授業の振り返り、まとめ 総括試験	授業の資料をまとめる。（120分）

1.授業コード (ナンバリング)	EED301-A51	2.科目名	幼児教育方法論		3.単位数	2
4.授業担当教員	椋田善之					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻				9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	保育実践の基盤は、保育者の幼児理解にあるといわれている。保育者がその子をどう理解するかによって、保育のありようは大きく変化する。保育者の幼児理解は、保育実践の出発点である。そこで、本授業では、幼児理解にはじまる保育の援助と方法について学ぶ。なお、汐江ふたば保育園へ行き、保育所の5歳児の実態を把握する。その上で、保育の援助と方法について検討し、実践を行えるようにすることを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	【授業の到達目標】 1. 幼児理解をする上での知識を深める。 2. 幼児理解に基づいた具体的な保育場面における保育者の援助の在り方を理解する。 3. 保育の方法を Brush Up するための、サイクルを理解し、実践力を身につける。 【関連する学科の DP】 (4) 問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に活用することができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	■ 厚生労働省『保育所保育指針解説書』 ■ 文部科学省『幼稚園教育要領解説』 ■ 瀧川光治・小栗正裕編『改編 保育の考え方と実践』2012、久美出版					
21.成績評価	課題 1・2 20%+30% → 50% 授業中ワークシートによる評価 13 回 3%×15 回 → 45% e-portfolio 2 回以上の投稿 → 5% ※提出物の遅れは減点対象になります。WS は基本的に遅れないように気を付けましょう。					
22.コメント	この授業では、現場へ実際に出向き、防災の視点から子どもたちへの援助や方法を具体的に検討し、実践します。そのため、防災士を取得していることが望ましいです。 みんなで議論しながら、保育を組み立てて実践していきますので、授業態度として積極的に参加することを求めます。 子どもたちの安全の確保の仕方やどのように意識を高めるのかをじっくり検討していきましょう。					
23.オフィスアワー	火曜日お昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	・ オリエンテーション ・ 保育の方法を Brush Up する〈4つの専門性〉 教育方法の基礎的理論と実践を理解していく。			○ HW-WS①を実施する。 ○ 予習と復習。(120分)		
第 2 回	・ 幼児理解と保育者の援助			○ 予習と復習。(120分)		

	教育方法の基礎的理論と実践を理解していく。 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 （汐江ふたば保育園見学）	○ HW-WS②を実施する。（120分）
第3回	・ 保育の計画（カリキュラム・デザイン）と環境構成 幼児及び教室・教材など保育を構成する基礎的な要件を理解し、保育を計画していくことを知る。 （汐江ふたば保育園 見学）	○ 予習と復習。（120分） ○ HW-WS③を実施する。（120分）
第4回	・ 幼児の遊びと発達 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 幼児に向けた話法・板書など、保育を行う上での基礎的な技術を身に付ける。 （園見学を踏まえた子ども理解を共有する） （防災に関する現状をインターネットや文献を活用して把握する）	○ 予習と復習。（120分） ○HW-WS④を実施する。（120分）
第5回	・ 幼児の遊びと発達② これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 幼児に向けた話法・板書など、保育を行う上での基礎的な技術を身に付ける。 （園見学を踏まえた子ども理解を共有する） （防災に関する現状をインターネットや文献を活用して把握する）	○予習と復習。（120分） ○HW-WS⑤を実施する。（120分）
第6回	・ 防災プロジェクトの立案 * 子どもの気持ち、保育者の支援について考える。 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 幼児に向けた話法・板書など、保育を行う上での基礎的な技術を身に付ける。 カリキュラムを作成する上で、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価等の視点を含めた保育指導案を作成する。 （防災計画案を考える①）	○予習と復習。（120分） ○HW-WS⑥を実施する。（120分）
第7回	・ 防災プロジェクトの立案 * 子どもの気持ち、保育者の支援について考える。 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 幼児に向けた話法・板書など、保育を行う上での基礎的な技術を身に付ける。 カリキュラムを作成する上で、目標・内容、教材・教	○予習と復習。（120分） ○HW-WS⑦を実施する。（120分）

	具、授業・保育展開、育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価等の視点を含めた保育指導案を作成する。 (防災計画案を考える②)	
第 8 回	・ 防災プロジェクトの立案 * 子どもの気持ち、保育者の支援について考える。 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 幼児に向けた話法・板書など、保育を行う上での基礎的な技術を身に付ける。 カリキュラムを作成する上で、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価等の視点を含めた保育指導案を作成する。 (防災計画案を考える③)	○ 予習と復習。(120分) ○ HW-WS⑧を実施する。(120分)
第 9 回	・ 防災プロジェクトに関する立案の検討 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 防災を子どもたちに伝える手立てを考える。 (防災計画案を発表する①) ※できれば園で	○ 予習と復習。(120分) ○ HW-WS⑨を実施する。(120分) ● 【課題 1】 「協同する経験とは？」を実施する。(240分)
第 1 0 回	・ 防災プロジェクトに関する立案の検討 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 防災を子どもたちに伝える手立てを考える。 (防災計画案を発表する②) ※できれば園で	○ 予習と復習。(120分) ○ HW-WS⑩を実施する。(120分)
第 1 1 回	・ 防災プロジェクトの実施（保育と保育者の援助） これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 子ども主体の保育を把握・実施する。 (防災計画案の実施①)	○ 予習と復習。(120分) ○ HW-WS⑪を実施する。(120分)
第 1 2 回	・ 防災プロジェクトの実施（保育と保育者の援助） これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 子ども主体の保育を把握・実施する。 (防災計画案の実施②)	○ 予習と復習。(120分) ○ HW-WS⑫を実施する。(120分)
第 1 3 回	・ 防災プロジェクトの実施（保育と保育者の援助） これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 子ども主体の保育を把握・実施する。 (防災計画案の実施③)	○ 予習と復習。(120分) ○ HW-WS⑬を実施する。(120分)

第 1 4 回	・ 保育者の省察とカンファレンス 子供たちの興味・関心を高めたり保育内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながらパソコンを活用して教材を作成することを知る。写真や動画を活用した保育展開の事例を示す。 (防災計画案の振り返り)	○ 予習と復習。(120分) ○ HW-WS⑭を実施する。(120分)
第 1 5 回	・ 授業の総括	○ 予習と復習。(120分) ○ HW-WS⑮を実施する。(120分) ● 【課題 2】授業のまとめ」を実施する。 (120分)

1.授業コード (ナンバリング)	EED306-A51	2.科目名	家庭支援論		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育学部教育福祉学科こども学専攻（教育・保育コース／福祉・保育コース）			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	家庭支援の力量は今日、保育者の専門性のひとつとして重視されてきています。この授業では、家族とは何かという基本的な理解と現代の家族の多様なあり方を知った上で、とくに支援が必要である「ひとり親家族」「障害児をもつ家族」「虐待がある家族」に対する家庭支援のあり方を学びます。また日本の子育て支援の制度とその歴史を学び、実際に保育現場で保護者支援を行う際のポイントを考えることを行います。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）と(4) 問題発見・解決力 の学習に関連しています。 本科目の学習目標は次の下記のとおりです。 ①日本社会における家族の現状と子育ての問題点を説明できるようになること。 ② 保育所、幼稚園、児童福祉施設などにおいてどのような「家庭支援」が求められているのかを、説明できるようになること。 ③ロールプレイによって実際の家庭支援を模擬体験し、留意点を説明できるようになること。					
19.教科書・教材	小田豊、日浦直美、中橋美穂 編著 『新保育ライブラリ 子どもを知る 家庭支援論』 北大路書房					
20.参考文献	授業中に紹介します。					
21.成績評価	次の 3 項目すべてに取り組んだうえで、合計 60 点以上で単位修得となる。 ①ワークシート(3 点×14 回) 42% → 学習目標の①、②、③ ②学修の定着を確認する筆記試験 50% → 学習目標の①、② ③宿題提出 8% → 学習目標の①、②					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション 第 1 章 家庭とは何か？① 家族、家庭について学ぶ。			○指定された事項を調べてくる(240 分) ★ワークシート 1 を提出		
【第 2 回】	第 1 章 家庭とは何か？② 男女共同参画社会とは何か			○指定された事項を調べてくる（240 分） ★ワークシート 2 を提出		
【第 3 回】	第 2 章 家族と子育て 現代の子育ての現状と問題			○指定された事項を調べてくる（240 分） ★ワークシート 3 を提出		
【第 4 回】	第 3 章 現代家族の子育てと支援の必要性① 母親の子育て不安について			○指定された事項を調べてくる（240 分） ★ワークシート 4 を提出		

【第 5 回】	第 3 章 現代家族の子育てと支援の必要性② 児童虐待について	○指定された事項を調べてくる (240 分) ★ワークシート 5 を提出
【第 6 回】	第 3 章 現代家族の子育てと支援の必要性③ 障害のある子どもと親への支援	○指定された事項を調べてくる (240 分) ★ワークシート 6 を提出
【第 7 回】	第 3 章 現代家族の子育てと支援の必要性④ ひとり親家庭への支援	○指定された事項を調べてくる (240 分) ★ワークシート 7 を提出
【第 8 回】	第 4 章 子育て支援の方法① 日本の子育て支援施策の変遷について	○指定された事項を調べてくる (240 分) ★ワークシート 8 を提出
【第 9 回】	第 4 章 保育所・幼稚園・地域子育て支援センターでの取り組み① 保育所の子育て支援について	○指定された事項を調べてくる (240 分) ★ワークシート 9 を提出
【第 10 回】	第 4 章 保育所・幼稚園・地域子育て支援センターでの取り組み② 幼稚園・地域子育て支援センターの子育て支援について	○指定された事項を調べてくる (240 分) ★ワークシート 10 を提出
【第 11 回】	第 5 章 家族援助の展望と課題 児童虐待のある家庭への援助の実際	○指定された事項を調べてくる (240 分) ★ワークシート 11 を提出
【第 12 回】	第 6 章 保護者の心を聴くために 保育所・幼稚園での保護者支援の実際について	○指定された事項を調べてくる (240 分) ★ワークシート 12 を提出
【第 13 回】	第 7 章 さまざまな家族とのかかわり① 実際のケースに関してグループワークを行う。	○指定された事項を調べてくる (240 分) ★ワークシート 13 を提出
【第 14 回】	第 7 章 さまざまな家族とのかかわり② 実際のケースに関してグループワークを行った結果を全体で共有する。	★ワークシート 14 を提出 ○授業のまとめに向けて、これまでの授業内容の復習を行う。(480 分)
【第 15 回】	授業のまとめ これまでの学修の成果を確かめる筆記試験を行う。	

1.授業コード (ナンバリング)	EED311-A52	2.科目名	幼児指導法	3.単位数	2
4.授業担当教員	今中洋				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 回生～
10.取得資格の要件	小学校一種 幼稚園一種	11.先修条件	1 回生春学期・秋学期開講の体育指導Ⅰ・Ⅱ を履修していれば、理論編として、よりイメ ージが膨らむ。		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限	60～70 名まで				
17.授業の目的と概要	【本授業では】 ※幼児（子ども）の生活環境や発育発達を理解し、運動指導おける様々な知識を身につける。 ※保育・教育現場における運動プログラムのあり方を考える。 ※指導現場の実践を想定した、指導プランニング力を高める。				
18.学習目標と DPとの関連	○学習目標 【専門的知識】【技術の活用力】【多様性理解】などを授業を通して経験し深め身につけます。 具体的にこの科目では、幼児期に相応しい運動プログラムを通して、幼児の特性や身体面、精 神面の特徴を理解し、以下の事柄を学びます。 ①幼児（子ども）の生活環境や発育発達を理解しそれを踏まえた指導法を学ぶ。 ②保育・教育の現場における運動プログラムのあり方を考え、そてに相応しい指導法を学ぶ。 ③幼少期（子ども）における、人とのふれあい、コミュニケーション力、人とかかわる力を育 むをテーマにした 運動プログラム、ふれあいゲームの指導法や指導者のあり方を学ぶ。				
19.教科書・教材	毎回の授業資料には Web クラスにて配信。 また必要に応じて参考資料、プリントを配布（Web クラスにて配信）				
20.参考文献	※幼児期運動指針（文部科学省より）				
21.成績評価	①振り返りレポート＝10％ ②運動指導プランニングシート（2 枚）＝40％ （運動指導プランニングシート作成を行った授業時に提出。） ③総括試験（秋学期最終）＝50％				
22.コメント	※全てにおいて固定概念を取り除き、柔軟で新たな発想力や想像力を待ちましょう。 ※現場実習の経験や知識を活かして、子どもたちの姿や現場を深くイメージする。 ※課題の作成においては、素早くイメージし、見通しを持って計画的に取り組む。 ※毎回、ノート PC を持参すること。				
23.オフィスアワー	月曜日/木曜日の午前中は講師控室にて質問などを受け付けます。				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回目	秋学期オリエンテーション ※授業の概要とテーマ、計画の解説。			○シラバスの内容を事前に確認しておく。 ○幼児の運動プログラムについて自分なりに 調べておく（60 分） ◆シラバス持参	
第 2 回目	子どもを取り巻く環境とその現状			○現代の子どもたちの生活環境について予習	

	※子どもを取り巻く環境の現代と昔。 ※幼児期の身体的特徴と精神的特徴。	予しておく。 ○幼児期の子どもたちの身体の仕組みなどを調べておく。 (120 分)
第 3 回目	運動（体育）指導者の大きな使命と役割 ※幼児、児童に携わる運動指導者に必要な資質とは。	○幼児、児童の運動プログラムの復習として指導のねらい、ポイントを書きだしてまとめておく。 (120 分)
第 4 回目	保育、教育としての運動プログラムについて ※保育、教育の現場における運動あそび、集団あそびの現状とあり方について。	○幼児、児童の運動プログラムの復習として保育としての運動プログラムのねらい、ポイントを書きだしてまとめておく。 (120 分)
第 5 回目	運動指導の現場を想定して、指導プランニングを作成Ⅰ ※ふれあい運動あそび指導案①	○予習として幼児のふれあい運動あそびをいくつかイメージしておく。(60 分) ○作成中のプランニングシート①を別紙に下書きしておく。(60 分)
第 6 回目	運動指導の現場を想定して、指導プランニングを作成Ⅱ ※ふれあい運動あそび指導案②	○予習として幼児のふれあい運動あそびをいくつかイメージしておく。(60 分) ○作成中のプランニングシート②を別紙に下書きしておく。(60 分)
第 7 回目	運動指導の現場を想定して、指導プランニングを作成Ⅲ ※ふれあい運動あそび指導案③	○予習として幼児のふれあい運動あそびをいくつかイメージしておく。(60 分) ○作成中のプランニングシート③を別紙に下書きしておく。(60 分)
第 8 回目	幼児期から児童前期にかけての運動指導と発育発達について ※幼児期運動指針の紹介。 ※幼児期、児童前期の運動指導と発育・発達について	○幼児期運動指針を調べ目をしておく (60 分) ○幼児、児童の運動指導を復習として保育としての運動プログラムのねらい、ポイントを書きだしてまとめておく。 (120 分)
第 9 回目	乳児の運動プログラム ※乳児期の特徴と運動について ※乳児の運動とあそびの紹介	○予習として乳児の特徴や体の仕組みを調べ目をしておく (60 分) ○復習として、乳児の運動プログラムのねらい、ポイントを書きだしてまとめておく。 (120 分)
第 10 回目	技能指導と安全な補助法について ※幼児の年齢や時期時における技能指導、段階指導について ※技能指導ける安全な補助法について	○幼児の技能指導・段階指導・安全な補助法のポイントを書きだしてまとめておく。 (120 分)

第 11 回目	冬の運動プログラム：鬼ごっこあそび ※冬の運動プログラム、鬼ごっこあそびの紹介。 ※冬の運動プログラム・鬼ごっこあそびのねらいとポイント	○冬の運動プログラム・鬼ごっこあそびの指導法やポイントを書きだしてまとめておく。(120 分)
第 12 回目	指導法「コーディネーション」 ※コーディネーショントレーニングについて	○予習としてコーディネーション について前もって調べておく。(60 分) ○コーディネーションの復習としてポイントを書き出してまとめておく。(60 分)
第 13 回目	幼児体育とは ※幼児体育のあり方と幼児体育指導指について	○幼児体育のあり方と指導法について復習としてポイントを書き出してまとめておく。(60 分)
第 14 回目	秋学期の振り返りとまとめ ※これまでの授業でのポイントやキーワードを整理し理解する。	○秋学期の振り返りとまとめを行っておく(60 分)
第 15 回目	総括試験（秋学期）	

1.授業コード (ナンバリング)	EED312-A51	2.科目名	幼稚園教育実習事前事後指導		3.単位数	1
4.授業担当教員	下里里枝、椋田善之					
5.授業科目の区分	乳幼児教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期～2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	これまで学んできた幼児教育にかかわる専門的知識や技能を基礎に、実習という実践現場で総合的に能力が発揮できるための準備を進めていく。また、何のために幼稚園教育実習にいくのか、実習先はどのような所なのか、実習はどのようなことをするのかなどを理解させ、実習を効果的に行うための動機付けを行う。 実習に必要な社会人としてのマナーの自覚や意識化、実習園でのオリエンテーションの持ち方、事務的な手続きについても具体的に指導を行う。 事後指導は、実習体験をどのように捉えているか、実習の学びを考えさせる。実習日誌や実習園の評価を基に振り返り、次回の実習に活かせるよう新たな課題について学び、発揮できるようにする。 ※これからの社会で求められる人材を育成していくため、本授業では、ICT を活用した保育の展開方法の検討や、DX 教材の 360 度カメラを用いた、振り返りを実施します。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP の（４）（５）（６）の学修に関連している。 ①実習記録や指導計画作成の方法をしっかりと学ぶ。 ②模擬保育を通して、実習に必要な知識技能を身に付ける。					
19.教科書・教材	・幼稚園教育実習記録ノート ・幼稚園教育実習ハンドブック （上記 2 冊は授業で配布する） 名須川 知子 監修・大方 美香 監修・亀山 秀郎 編著（2018）『保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園実習』ミネルヴァ書房					
20.参考文献	・「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」					
21.成績評価	・模擬保育（絵本、手遊び、ピアノ等も含む）の評価点 10 点（学習目標①②に対応） ・模擬保育の指導案 30 点（学習目標①②に対応） ・指導案 20 点（学習目標①②に対応） ・実習記録の作成 20 点（学習目標①②に対応） ・レポート 実習目標・実習Ⅰの反省 20 点（学習目標①②に対応） ※ワークシートや資料は締め切りまでにウェブクラスに提出のこと					
22.コメント	・実習は社会へ踏み出すスタートです。実習現場では社会人としての自覚や行動が求められます。 ・授業の遅刻、欠席は厳禁です。 ・大切な子どもの命を預かる現場です。健康管理に留意し、緊張感を持って臨みましょう。 ・保育記録の取り方、子どもの見取り方を身に付けて実習に臨みましょう。 ・幼稚園実習Ⅱを履修した人は、夏学期に 2 回目の実習があります。部分実習、責任実習が入ってきますので、指導案の苦手意識を克服し、手遊びやピアノなど保育技術のメニューを増やすなど自分で準備しておきましょう。					
23.オフィスアワー	・火曜日昼休み（椋田） ・火曜日昼休み（下里）					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	・ 幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱの意義と内容 ・ 幼稚園教育実習Ⅱの実習先の依頼確認 ・ 幼稚園教育実習ハンドブックと実習記録ノートの使い方 ・ 保育の実際 幼稚園での子どもや教師の様子について（文科省ビデオ視聴）	○実習ハンドブックを読み直し、意義と内容を理解し、自分の課題を明確にする。（120分）
2 回目	・ 効果的な実習記録の書き方	○今日の学びと振り返りのまとめ（60分）
3 回目	・ 実習個人票の書き方 ・ 実習記録の書き方	・ 個人票の下書きをする
4 回目	・ 指導案の作成練習①	○指導案作成、ウェブクラスに提出
5 回目	・ 指導案の作成練習② 模擬保育のグループを決める 「お楽しみ会」の内容の検討 ・ 個人票作成	・ 個人票提出
6 回目	・ 指導案の作成練習③ 「お楽しみ会」の流れの確認・指導案作成	★模擬保育の準備
7 回目	・ 指導案に沿った模擬保育の実践	★指導案③提出 ○模擬保育の準備
8 回目	・ 指導案に沿った模擬保育の実践	○模擬保育の準備
9 回目	・ 指導案に沿った模擬保育の実践	○模擬保育の準備
10 回目	・ 指導案に沿った模擬保育の実践 (360度カメラを使用した幼稚園での実践) ※変更があるかもしれません。	○授業の振り返りとまとめ
・ 11 回目、12 回目 日程はウェブクラスで通知 (2023 年 4 月初旬、春学期授業開始前を予定)	・ 実習直前の事前指導 (幼稚園教育実習Ⅰに向けてのオリエンテーションや最終確認をグループでする。事務的な手続き等の確認をする) ・ グループで話し合ったことをまとめる。 ・ お礼状の書き方	○実習に向けて準備
【第 13 回】 日程はウェブクラスで通知	・ 幼稚園教育実習Ⅰ反省会(レポート作成・発表)	○提出物はウェブクラスへ。
14 回目 (ウェブクラスで通知)	・ 幼稚園教育実習Ⅱに向けてのオリエンテーションや最終確認 幼稚園教育実習Ⅱ 2022 年 9 月初旬～10 日間 ＜実習先は 1 年前に依頼して了承を得た幼稚園＞	○提出物はウェブクラスへ
15 回目	・ 幼稚園教育実習Ⅱ反省会(レポート作成・発表)	○提出物はウェブクラスへ

日程はウェブ クラスで通知		

1.授業コード (ナンバリング)	EED313-A51	2.科目名	乳児保育Ⅱ		3.単位数	1																
4.授業担当教員	下里里枝																					
5.授業科目の区分	乳幼児教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期																	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年																	
10.取得資格の要件			11.先修条件																			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※																		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習																		
16.履修制限																						
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目では、乳児保育 1 の学びを踏まえ、乳児期の保育に必要な基本的なスキルや知識を習得し、乳児の健やかな成長と発達を支援する保育者としての役割を果たす能力を身につけることを目的とする。 【概要】 1. 乳児期の発達段階や特性を理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、乳児保育の方法及び環境構成について具体的に理解する。 3. 乳児期に適した遊びや活動、関わり方などについて理解する。 4 乳児の安全管理と衛生管理を確保するための基本的な知識や対策や注意点を学ぶ。 5、乳児保育における指導計画の作成について具体的に理解する。 6、保護者と信頼関係を築き、乳児保育を行う方法を探求する。 ※「乳児保育」とは、3 歳未満児を念頭においた保育を示す。																					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、次の通りです。 ①乳児保育Ⅰで学んだことを踏まえて、乳児保育の意義が理解できる。 ②乳児の発達を理解し、関わり方や援助方法など具体的に対応できる。 ③乳児保育の今日的課題に対して、関心をもって考えることができる。 関連する DP は、（1）自律性（4） 問題発見・解決力 （6）専門的知識・技能の活用力																					
19.教科書・教材	保育所保育指針 教材は適宜配布する。																					
20.参考文献	適宜紹介する。																					
21.成績評価	<table><tr><td>・課題レポート</td><td>1 回</td><td>・ ・ 10 点</td><td>（学習目標①に対応）</td></tr><tr><td>・グループワークと発表・グループワークシート</td><td>1 回</td><td>…10 点</td><td>（学習目標②に対応）</td></tr><tr><td>・ワークシート</td><td>6 回</td><td>・ ・ ・ 30 点</td><td>（学習目標②③に対応）</td></tr><tr><td>・総括試験</td><td></td><td>50 点</td><td>（学習目標①②③に対応）</td></tr></table> ※期日を守って定められた方法で提出することで評価します。 締め切りを過ぎたものは評価しません。						・課題レポート	1 回	・ ・ 10 点	（学習目標①に対応）	・グループワークと発表・グループワークシート	1 回	…10 点	（学習目標②に対応）	・ワークシート	6 回	・ ・ ・ 30 点	（学習目標②③に対応）	・総括試験		50 点	（学習目標①②③に対応）
・課題レポート	1 回	・ ・ 10 点	（学習目標①に対応）																			
・グループワークと発表・グループワークシート	1 回	…10 点	（学習目標②に対応）																			
・ワークシート	6 回	・ ・ ・ 30 点	（学習目標②③に対応）																			
・総括試験		50 点	（学習目標①②③に対応）																			
22.コメント	・ ウェブクラスに事前に授業の資料は見れるようにしておきます。目を通して授業にのぞみましょう。 ・ 保育現場では、乳児保育へのニーズが高まってきています。そのため、乳児保育の重要性や、保育の質が求められています。しっかり学びましょう。 ・ 状況に応じて、授業内容や授業形態が変更するかもしれません。ご承知ください。 ・ 授業を欠席しないようにしましょう。																					
23.オフィスアワー	・ 月曜日昼休み																					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目	・オリエンテーション（授業内容と進め方、評価などについて） ・乳児保育Ⅰのふりかえり	○乳児保育Ⅰの復習をしておくこと(120分)
第 2 回目	・乳児保育の意義 ○「保育所保育指針」における乳児保育の考え方 ○乳児保育の役割と機能 ○乳児保育の現状と課題	○授業で説明した保育所保育指針を復習しておくこと。(120分)
第 3 回目	・乳児の発達に応じた保育内容 ①6 か月未満の子どもの育ちと保育内容 課題レポート①	○課題レポート① 「子どもの発達におけるアタッチメント（愛着）とはどういうことか」（11月30日までにウェブクラスに提出）(120分)
第 4 回目	②6 か月以上 1 歳未満の子どもの育ちと保育内容 食事の援助と環境構成（授乳・離乳食など） ワークシート①	○○ワークシート①ウェブクラスに10月31日までに提出（120分）
第 5 回目	③1 歳以上 2 歳未満の子どもの育ちと保育内容	○今日の学びの振り返り（120分）
第 6 回目	④2 歳～3 歳の子どもの育ちと保育内容 ワークシート②	○ワークシート?、ウェブクラスに11月14日までに提出。(120分)
第 7 回目	乳児保育における健康と安全について（安全対策や事後防止、アレルギー児への対応、園内外での遊びの対応、虐待・防災対策など）	○今日の学びの振り返り（120分）
第 8 回目	乳児保育における排泄・睡眠・着脱・清潔などに関する援助と環境 ワークシート③	○ワークシート③ 11月28日までにウェブクラスに提出。 ○乳児向き絵本と手遊びを調べる（120分）
第 9 回目	グループワーク 課題と発表 グループで「乳児向き絵本と手遊び」を調べて発表	○グループワークシートは12月5日までにウェブクラスに提出。(120分)
第 10 回目	3 歳未満児の指導計画の立て方 ワークシート④	○ワークシート④は12月13日までにウェブクラスに提出。(120分)
第 11 回目	子どもの発達を促すおもちゃについて	○乳児のおもちゃについて調べる（120分）
第 12 回目	乳児保育を支える連携・協働について ワークシート⑤	○ワークシート⑤は12月21日までにウェブクラスに提出 (120分)
第 13 回目	・事例について演習 ワークシート⑥	○ワークシート⑥は1月14日までにウェブクラスに提出 (120分)
第 14 回目	・事例についての演習	○今日の学びの振り返り これまでの配布物・資料をまとめて復習しておく（120分）
第 15 回目	・乳児保育Ⅱのまとめ ・総括試験	○乳児保育Ⅱの復習（120分）

1.授業コード (ナンバリング)	EED313-A52	2.科目名	乳児保育Ⅱ		3.単位数	1																
4.授業担当教員	下里里枝																					
5.授業科目の区分	乳幼児教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期																	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年																	
10.取得資格の要件			11.先修条件																			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※																		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習																		
16.履修制限																						
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目では、乳児保育Ⅰの学びを踏まえ、乳児期の保育に必要な基本的なスキルや知識を習得し、乳児の健やかな成長と発達を支援する保育者としての役割を果たす能力を身につけることを目的とする。 【概要】 1. 乳児期の発達段階や特性を理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、乳児保育の方法及び環境構成について具体的に理解する。 3. 乳児期に適した遊びや活動、関わり方などについて理解する。 4 乳児の安全管理と衛生管理を確保するための基本的な知識や対策や注意点を学ぶ。 5、乳児保育における指導計画の作成について具体的に理解する。 6、保護者と信頼関係を築き、乳児保育を行う方法を探求する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。																					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、次の通りです。 ①乳児保育Ⅰで学んだことを踏まえて、乳児保育の意義が理解できる。 ②乳児の発達を理解し、関わり方や援助方法など具体的に対応できる。 ③乳児保育の今日的課題に対して、関心をもって考えることができる。 関連する DP は、（1）自律性（4） 問題発見・解決力 （6）専門的知識・技能の活用力																					
19.教科書・教材	保育所保育指針 教材は適宜配布する。																					
20.参考文献	適宜紹介する。																					
21.成績評価	<table><tr><td>・課題レポート</td><td>1 回</td><td>・ ・ 10 点</td><td>（学習目標①に対応）</td></tr><tr><td>・グループワークと発表・グループワークシート</td><td>1 回</td><td>…10 点</td><td>（学習目標②に対応）</td></tr><tr><td>・ワークシート</td><td>6 回</td><td>・ ・ ・ 30 点</td><td>（学習目標②③に対応）</td></tr><tr><td>・総括試験</td><td></td><td>50 点</td><td>（学習目標①②③に対応）</td></tr></table> ※期日を守って定められた方法で提出することで評価します。 締め切りを過ぎたものは評価しません。						・課題レポート	1 回	・ ・ 10 点	（学習目標①に対応）	・グループワークと発表・グループワークシート	1 回	…10 点	（学習目標②に対応）	・ワークシート	6 回	・ ・ ・ 30 点	（学習目標②③に対応）	・総括試験		50 点	（学習目標①②③に対応）
・課題レポート	1 回	・ ・ 10 点	（学習目標①に対応）																			
・グループワークと発表・グループワークシート	1 回	…10 点	（学習目標②に対応）																			
・ワークシート	6 回	・ ・ ・ 30 点	（学習目標②③に対応）																			
・総括試験		50 点	（学習目標①②③に対応）																			
22.コメント	・ ウェブクラスに事前に授業の資料は見れるようにしておきます。目を通して授業にのぞみましょう。 ・ 保育現場では、乳児保育へのニーズが高まってきています。そのため、乳児保育の重要性や、保育の質が求められています。しっかり学びましょう。 ・ 状況に応じて、授業内容や授業形態が変更するかもしれません。ご承知ください。 ・ 授業を欠席しないようにしましょう。																					
23.オフィスアワー	・ 月曜日昼休み																					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目	・オリエンテーション（授業内容と進め方、評価などについて） ・乳児保育 I のふりかえり	○乳児保育 I の復習をしておくこと
第 2 回目	・乳児保育の意義 ○「保育所保育指針」における乳児保育の考え方 ○乳児保育の役割と機能 ○乳児保育の現状と課題	○授業で説明した保育所保育指針を復習しておくこと。
第 3 回目	・乳児の発達に応じた保育内容 ①6 か月未満の子どもの育ちと保育内容 課題レポート①	○課題レポート① 「子どもの発達におけるアタッチメント（愛着）とはどういうことか」（11 月 30 日までにウェブクラスに提出）
第 4 回目	②6 か月以上 1 歳未満の子どもの育ちと保育内容 食事の援助と環境構成（授乳・離乳食など） ワークシート①	○今日の学びの振り返り ○ワークシート①ウェブクラスに 10 月 31 日までに提出
第 5 回目	③1 歳以上 2 歳未満の子どもの育ちと保育内容	○今日の学びの振り返り
第 6 回目	④2 歳～3 歳の子どもの育ちと保育内容 ワークシート②	○今日の学びの振り返り ○ワークシート？、ウェブクラスに 11 月 14 日までに提出。
第 7 回目	乳児保育における健康と安全について（安全対策や事後防止、アレルギー児への対応、園内外での遊びの対応、虐待・防災対策など）	○今日の学びの振り返り
第 8 回目	乳児保育における排泄・睡眠・着脱・清潔などに関する援助と環境 ワークシート③	○今日の学びの振り返り ○ワークシート③ 11 月 28 日までにウェブクラスに提出。 ○乳児向き絵本と手遊びを調べる
第 9 回目	グループワーク 課題と発表 グループで「乳児向き絵本と手遊び」を調べて発表	○今日の学びの振り返り ○グループワークシートは 12 月 5 日までにウェブクラスに提出。
第 10 回目	3 歳未満児の指導計画の立て方 ワークシート④	○今日の学びの振り返り ○ワークシート④は 12 月 13 日までにウェブクラスに提出。
第 11 回目	子どもの発達を促すおもちゃについて	○今日の学びの振り返り
第 12 回目	乳児保育を支える連携・協働について ワークシート⑤	○今日の学びの振り返り ○ワークシート⑤は 12 月 21 日までにウェブクラスに提出
第 13 回目	・事例について演習 ワークシート⑥	○今日の学びの振り返り ○ワークシート⑥は 1 月 14 日までにウェブクラスに提出

第 14 回目	・ 事例についての演習	○今日の学びの振り返り これまでの配布物・資料をまとめて復習しておく
第 15 回目	・ 乳児保育Ⅱのまとめ ・ 総括試験	○乳児保育Ⅱの復習

1.授業コード (ナンバリング)	EED316-A51	2.科目名	人間関係(指導法)		3.単位数	2
4.授業担当教員	藤井和子					
5.授業科目の区分	基礎科目 保育内容の指導法（情報機器及び教科の活用を含む。）	6.必修・ 選択の区分	選択 教職必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	小学校一種 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	（１）幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。 １）幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 ２）領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 ３）幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 ４）幼児期の集団生活を通して様々な人と関わる経験と、小学校以降の生活や教科等とのつながりについて理解している。 （２）幼児期の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 １）幼児の心情、認識、思考及び動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。 ２）領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、保育構想に活用することができる。また、情報機器について、幼児の体験との関連を考慮しながら活用するなど留意点を理解している。 ３）指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ４）模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 ５）領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 【授業の概要】 幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させ「人とのかかわりあう力」を豊かにする保育、保育者の役割やその指導法への理解を深める。その上で、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。					
18.学習目標と DPとの関連	①自律性（レベル２：やらなければならないことを、計画を?て最後までやり遂げることができる） ②多様性理解（レベル２：?分とは異なる価値観や考え?を持つ?々の社会的・?化的背景を理解し違いがあることを受け容れることができる） ③問題発見・解決力（レベル２：根拠を?しつつ意?や判断を?すことができる） ④コミュニケーションスキル（レベル２：多様な情報源から、必要かつ信頼できる情報を集め、要点を整理できる） ⑤専門的知識・技能 の活用力（レベル２：専?基礎知識・技能を相互に関連づけ、その概念を					

	使って学んだ内容を説明できる	
19.教科書・教材	幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説	
20.参考文献	授業内に適宜紹介	
21.成績評価	模擬保育の指導案立案及び実践 30% ワークシート 20% 総括試験 50%	
22.コメント	人は、一人で生きていくのではなく支え合って生きていきます。乳幼児期から集団生活に必要な人と関わる力をどのように身に付けていくのか。そのための保育者の援助について考えていきます。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいおよび内容を理解する	持参：パソコン 幼稚園教育要領解説
第 2 回	乳幼児期の子どもの人間関係の発達	持参：保育所保育指針解説 復習：保育所保育指針解説 p101~P109 をまとめる
第 3 階	自立心の芽生えと人間関係 3 歳児の育ちと人との関わり	持参：幼稚園教育要領解説 復習：p167~p172、p182~P183 をまとめる
第 4 回	友達と生活や遊びをつくる 4 歳児の育ちと人との関わり	持参：幼稚園教育要領解説 復習：p173~p175 をまとめる
第 5 回	友達と生活や遊びをつくる 5 歳児の育ちと人との関わり	持参：幼稚園教育要領解説 復習：p176~p180 をまとめる
第 6 回	愛着形成の理論と実際	持参：保育所保育指針解説 復習：保育所保育指針解説 p89p90 をまとめる
第 7 回	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿から考える自立心	持参：幼稚園教育要領解説 復習：幼稚園教育要領解説 p56~P57 をまとめる
第 8 回	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿から考える協同性	持参：幼稚園教育要領解説 復習：幼稚園教育要領解説 p58~P59 をまとめる
第 9 回	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿から考える道徳性・規範意識の芽生え	持参：幼稚園教育要領解説 復習：幼稚園許幾要領解説 p60~P61 をまとめる
第 10 回	個と集団	持参：幼稚園教育要領解説 復習：p184~p185 をまとめる
第 11 回	人間関係づくりを育む保育の実践 教材研究・指導案立案	持参：幼稚園教育要領解説 復習：幼稚園教育要領解説 p96~P103 を読んで指導案を作成する。
第 12 回	人間関係づくりを育む模擬保育実践・振り返り	復習：模擬保育振り返りからの学びをまとめる
第 13 回	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿から考える社会生活との関わり 幼児の関わりを広げる地域との関わり	持参：幼稚園教育要領解説 復習：幼稚園教育要領解説 p62p63 p181P191p192 をまとめる
第 14 回	総括試験（まとめの授業＋試験（60 分））	総括試験持ち込み不許可 （ただし、授業のワークシートのみ許可）
第 15 回	総括試験の答案返却、内容説明	パソコンを持参

	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題	授業時にレポート作成 WebClass から提出

1.授業コード (ナンバリング)	EED321-A51	2.科目名	子どもの家庭支援の心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	馬場住子					
5.授業科目の区分	基幹	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育学部教育福祉学科こども学専攻教育・保育コース			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	保育士資格必修		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 保育の場で出会う子どもたちやそれぞれの家庭への援助においては、子どもがこの先どのように成長していくのかという生涯発達の視点や知識が必要となる。そのため、本授業では生涯発達に関する心理学の基礎的な知識および子どもとその家庭を包括的に捉える視点、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題、子どもの精神保健とその課題について理解することを目的とする。 【授業の概要】 テキストを基に生涯発達のける初期経験の重要性、発達課題などについて解説する。ロールプレイなどを通じて家族・家庭の意義や機能を理解できるようにする。子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について調べ学習を行う。また、具体的な事例を通して、親子関係や家族関係、子どもの精神保健などについても発達の観点から理解を深める。さらに発達に課題がある子どもたちの支援教材について考え、教材見本作成の課題に取り組み、それぞれの学びを共有する。					
18.学習目標と D P との関連	【学習目標】 1.生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。(学科 DP6)。 2.家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。(学科 DP6)。 3.子育て家庭をめぐる現代の社会的状況および子どもの精神保健と課題について理解する。(学科 DP5)。 4. 発達に課題がある子どもたちの支援教材作成に取り組む。(学科 DP4)。 【関連する学科 DP】 (4) 問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 (5) コミュニケーションスキル 教員・社会福祉従事者として教育や福祉の現場で円滑にコミュニケーションをとることができるスキルを獲得し、相互の立場を尊重した人間関係を構築することができる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に活用することができる。					
19.教科書・教材	「子ども家庭支援の心理学」 喜久紀久代編 みらい ISBN 978-4-86015-482-0					
20.参考文献	授業内で適宜紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。					

	・課題①：授業内容に関する調べ学習および授業での学びのレポート 5点(5%)×11回(55%) 〔学習目標①②③に対応〕 ・課題②：発達支援の必要な子どもたちを支援する教材の作成 40点(40%) 発表5点(5%) 〔学習目標④に対応〕	
22.コメント	家庭支援の心理学についての基礎的な専門知識を身に付けていただきたいと思います。できれば楽しみながら意欲的に頑張ってください。支援教材づくりにおいては作成費用がかかることがあります。 授業についての連絡は Web Class よりのメール配信で行います。(欠席された方は特に)予習課題については必ずみておくようにお願いします。また、担当教員へのご連絡は***までお願いします。	
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目	生涯発達とは-ライフサイクルにおける家族-ワーク①	個人作業 ・復習：授業で学んだことをまとめておく(60分) ・予習：次回の学習内容についての調べ学習をする。(60分)
2 回目	乳幼児期から学童期前期の発達-5~7歳の年齢別発達を知る-ワーク②	個人作業 ・復習：授業で学んだことをまとめておく(60分) ・予習：次回の学習内容についての調べ学習をする。(60分)
3 回目	学童期後期から青年期にかけての発達-8~12歳の年齢別発達を知る-ワーク③	個人作業 ・復習：授業で学んだことをまとめておく(60分) ・予習：次回の学習内容についての調べ学習をする。(60分)
4 回目	成人期・老年期における発達-それぞれの社会的状況を知る-ワーク④	個人作業 ・復習：授業で学んだことをまとめておく(60分) ・予習：次回の学習内容についての調べ学習をする。(60分)
5 回目	子育て支援-子育てを取り巻く社会的状況を知る-ワーク⑤	個人作業 ・復習：授業で学んだことをまとめておく(60分) ・予習：次回の学習内容についての調べ学習をする。(60分)
6 回目	家庭の意義と機能-親子・家族関係を理解する-ワーク⑥	個人作業 ・復習：授業で学んだことをまとめておく(60分) ・予習：次回の学習内容についての調べ学習をする。(60分)

7 回目	親になること・子どもを育てること-ライフコースと仕事・子育てについて知る- ワーク⑦	個人作業 ・復習：授業で学んだことをまとめておく(60分) ・予習：次回の学習内容についての調べ学習をする。(60分)
8 回目	多様な家庭形態-多様な家庭形態を理解する- ワーク⑧	個人作業 ・復習：授業で学んだことをまとめておく(60分) ・予習：次回の学習内容についての調べ学習をする。(60分)
9 回目	特別な配慮を必要とする家庭-配慮・支援のポイントを知る- ワーク⑨	個人作業 ・復習：授業で学んだことをまとめておく(60分) ・予習：次回の学習内容についての調べ学習をする。(60分)
10 回目	発達支援が必要な子どものいる家庭-その実態を知る- ワーク⑩	個人作業 ・復習：授業で学んだことをまとめておく(60分) ・予習：次回の学習内容についての調べ学習をする。(60分)
11 回目	子どもの精神保健-子どもの心を知る- ワーク⑪	個人作業 ・復習：授業で学んだことをまとめておく(60分) ・予習：次回の学習内容についての調べ学習をする。(60分)
12 回目	発達支援が必要な子どもへの支援教材-支援教材を考える-	個人作業 ・復習：発達支援が必要な子どもへの支援教材について考える。(60分) ・予習：発達支援が必要な子どもへの支援教材づくりの準備をする。(60分)
13 回目	発達支援が必要な子どもへの支援教材-支援教材を作成する(1)-	個人作業 ・復習：発達支援が必要な子どもへの支援教材づくりをする。(60分) ・予習：発達支援が必要な子どもへの支援教材づくりをする。(60分)
14 回目	発達支援が必要な子どもへの支援教材-支援教材を作成する(2)-	個人作業 ・復習：発達支援が必要な子どもへの支援教材づくりをする。(60分) ・予習：発達支援が必要な子どもへの支援教材発表の準備をする。(60分)
15 回目	総括-子どもの家庭支援の心理- 発達支援が必要な子どもへの支援教材-作成した支援教材について共有する-	個人作業 発達支援が必要な子どもへの支援教材発表の振り返りをする。授業全体を振り返り、習ったことを復習する。(120分)

1.授業コード (ナンバリング)	EED403-A51	2.科目名	教職実践演習（幼）		3.単位数	2
4.授業担当教員	大西洋史、下里里枝、棕田善之、吉田武大					
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	4 年生～	
10.取得資格の要件	幼稚園教員一種免許、保育士資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、幼稚園・保育に関する自己課題に気づき、気付いた自己課題の改善を図るとともに、保育実践力を高めることを目的としています。 【概要】 「教職実践演習（幼）」は、幼稚園教員免許、保育士資格の取得にとって必須の科目です。本科目では、教員・保育者として求められる、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③こども理解やクラス運営等に関する事項、④保育内容等の指導力に関する事項について、総合的・横断的に学ぶと共に、実践について最終的な確認を行うことになります。将来的に教育・保育に携わる際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律的で主体的な態度（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 (1)幼稚園・保育に関するこれまでの学びを踏まえた自己課題に気付くことができる。 (2)気付いた課題に対して改善を図ることができる。 (3)保育実践力を高めることができる。					
19.教科書・教材	適宜案内します。					
20.参考文献	適宜案内します。					
21.成績評価	以下のすべての課題を、提出要件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とします。配点は次のとおりです。 課題 1：履修カルテ → 10% [学習目標(1)(2)に対応] 課題 2：自己課題（WS1） → 10% [学習目標(1)に対応] カ第 3：小レポート（担当教員 4 名それぞれが一つずつ、計 4 つ） →80%（20%×4） [学習目標(1)(2)(3)に対応]					
22.コメント	まさに教職課程の学びの集大成です。これまで得た知識と経験をこの演習で統合し、教職に向けて実力を養いましょう。					
23.オフィスアワー	大西：木曜日昼休み 下里：火曜日昼休み 吉田：火曜日 3 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション（全体） ・グループ分けについて ・本授業のねらいについて ・本授業の内容について ・本授業の評価について ・履修カルテの確認と自己の課題(WS 1)の確認			○提出物：履修カルテ ○復習：今日の学びのふり振り返りとまとめ（180 分）		

【第2回】	※第2回目～第13回目までは、下記にあるA・B・C・Dの4グループに分かれて、各担当教員につき3コマずつ学修する（配布する用紙で確認） 「①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」についての演習（吉田） ◆教職実践演習の意義と保育者に必要な資質能力	○復習：今日の学びの振り返りとまとめ（180分）
【第3回】	「①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」についての実践演習（吉田） ◆幼児にとっての保育者	○復習：今日の学びの振り返りとまとめ（180分）
【第4回】	「①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」についての実践演習（吉田） ◆幼児にとっての保育者	○復習：今日の学びの振り返りとまとめ（180分） ○予習：【第2回】【第3回】【第4回】の学びに関する小レポート（レポート1）作成（225分）
【第5回】	「③こども理解やクラス運営等に関する事項、④保育内容等の指導力に関する事項」についての実践演習（大西） ◆園における造形活動（幼児の発達の側面からと特徴的側面から）	○提出物：レポート1 ○復習：今日の学びの振り返りとまとめ（180分）
【第6回】	「③こども理解やクラス運営等に関する事項、④保育内容等の指導力に関する事項」についての実践演習（大西） ◆園における造形活動（幼児の心理的側面からと美的・造形的側面から）	○持参物：PC ○復習：今日の学びの振り返りとまとめ（180分）
【第7回】	「③こども理解やクラス運営等に関する事項、④保育内容等の指導力に関する事項」についての実践演習（大西） ◆園における造形活動と幼児の造形過程の確認	○持参物：PC ○復習：今日の学びの振り返りとまとめ（180分） ○予習：【第5回】～【第7回】の学びに関する小レポート（レポート2）作成（225分）
【第8回】	「②社会性や対人関係能力に関する事項、③こども理解やクラス運営等に関する事項」についての実践演習（棕田） ◆こどもの視点から見た保育所・幼稚園から小学校への移行経験の把握とその対策を考える	○提出物：レポート2 ○復習：今日の学びの振り返りとまとめ（180分）
【第9回】	「②社会性や対人関係能力に関する事項、③こども理解やクラス運営等に関する事項」についての実践演習（棕田） ◆保育所・幼稚園から小学校へ移行するこどもを持つ保護者の期待や不安の把握と対策を考える	○復習：今日の学びの振り返りとまとめ（180分）
【第10回】	「②社会性や対人関係能力に関する事項、③こども理解やクラス運営等に関する事項」についての実践演習（棕田） ◆アプローチプログラム・スタートカリキュラムの把握と作成	○復習：今日の学びの振り返りとまとめ（180分） ○予習：【第8回】～【第10回】の学びに関する小レポート（レポート3）作成（225分）
【第11回】	「④保育内容等の指導力に関する事項」についての実践演習（下里） ◆履修カルテを通して学びを振り返る	○提出物：レポート3 ○復習：今日の学びの振り返りとまとめ（180分）

【第 12 回】	「④保育内容等の指導力に関する事項」についての実践演習（下里） ◆保育者の専門性について	○復習：今日の学びのふり返りとまとめ（180分）
【第 13 回】	「④保育内容等の指導力に関する事項」についての実践演習（下里） ◆保育実践力をつけるために	○復習：今日の学びのふり返りとまとめ（180分） ○予習：【第 11 回】～【第 13 回】の学びに関する小レポート（レポート 4）作成（225 分）
【第 14 回】	一人一人 4 年間の学びを発表する。	○提出物：レポート 4 ○復習：今日の学びのふり返りとまとめ（180分）
【第 15 回】	これまでの学びの総まとめと自己課題の整理	○復習：今日の学びのふり返りとまとめ（180分）

1.授業コード (ナンバリング)	ENV101-A51	2.科目名	環境と生活		3.単位数	2
4.授業担当教員	今井良一					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	副専攻（環境を考える）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】持続可能な社会を次世代が受け継ぐために、私たちがどのように行動すればよいかに ついて考えることを目的とする。 【概要】 人類の生存にかかわる地球環境問題（地球温暖化、水環境の問題、放射能の問題、食環境の問 題など）の現実を学んで、その本質を知るとともに、地球環境を保全していくための方法を学 び、それを身につけていくことを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（2）社会的貢献性（3）多様 性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 学習目標は次のとおりです。 ①地球温暖化や大気汚染、水不足、水質汚染、放射能汚染、食環境の悪化などの環境問題の原 因について正確に理解する。 ②その被害をうけやすい弱者、特に子どもへの深刻な被害について常に思いをはせる気持ちを 育む。 ③トータルで物事を見る能力を養う。 ④問題に対して、適切に対処できるようになる能力を養う。 なお、本講義では、SDGs（持続可能な開発目標）の 17 のゴールのうち、特に、「2. 飢餓を終 わらせ、食糧安定保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」「6. すべての 人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」「7. すべての人々の、安価かつ信 頼できる持続可能な現代のエネルギーへのアクセスを確保する」「10. 各国内および各国間の 不平等を是正する」「12. 持続可能な消費と生産の形態を確保する」「13. 気候変動および その影響を軽減するための緊急対策を講じる」「15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利 用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復および 生物多様性の損失を阻止する」に関して取り扱う。					
19.教科書・教材	今井清一／今井良一（2024）『環境教育学－気候変動～食の安心・安全－』鳥影社 大学にて販売されるので購入すること。					
20.参考文献	授業内で適宜紹介する。					
21.成績評価	①レポート（3 回分）＝45％ 【学習目標①②に対応】 グループで議論した内容をレポートにまとめて提出。意見が教員と異なるとしても減点の対象 にはならない。講義の内容を理解し、きちんと論述できているかどうかで判断する。 ②総括試験＝55％ 【学習目標①②③に対応】 総括試験は論述形式（2 題）とする。答案作成に際しては、まず講義内容を踏まえ解答するよう に心がけ、その上で各自の意見・感想を述べるようにすること。意見・感想が、教員と異なる としても、減点の対象にはならない。各自の意見・感想がない場合は、減点するので注					
22.コメント	①環境問題がいかに深刻であるかを知るとともに、子どもたちが豊かでかけがえのない地球を 受け継ぐために、私たちひとりひとりに一体何ができるかを常に考え、行動する姿勢をもつこ と。					

	②講義の前後以外でも、WebClass にて質問ができます。質問にはできる限り即応するので、積極的に利用しましょう。	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	「環境と生活（環境学）」を学ぶにあたって一子どもたちが持続可能な社会を受け継ぐためにー ・本講義で学習する環境問題について大まかに把握し、講義の目標をしっかりと認識する。	・シラバスを必携のこと。 復習:今回の復習 予習:次回の予習（教科書を使って）
第 2 回	「地球温暖化と気候の変動①」…教科書 pp.11～25 ・地球温暖化のメカニズムと地球温暖化が地球上の生命にどのような影響をおよぼすのかを解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）
第 3 回	「地球温暖化と気候の変動②」…教科書 pp.47～72 ・いくつかの温室効果ガスの性質を知るとともに、地球温暖化を解決するために、私たちひとりひとりができることについて解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）
第 4 回	「水の浪費大国日本①」…教科書 pp.253～266 ・世界および日本における水環境（水不足・水質汚染）について解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）
第 5 回	「水の浪費大国日本②」…教科書 pp.267～288 ・水環境悪化の原因を知るとともに、それを解決するために、私たちひとりひとりができることについて解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って） ◎第 1 回レポート作成「日本における尿尿の処理の歴史について」…資料については Webclass にて配布する。グループで議論して、その結果をまとめる。→第 7 回の講義の日までに Webclass にて提出。
第 6 回	「放射線と環境破壊①」…教科書 pp.83～91 ・放射線の種類や性質について解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）
第 7 回	「放射線と環境破壊②」…教科書 pp.92～112 ・放射線による人体への影響を学び、今後の原発政策のあり方を考える。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って） ◎第 2 回レポート作成「原発稼働に賛成か反対か？」…グループで議論して、その結果をまとめる。→第 9 回の講義の日までに Webclass にて提出。 ★この日までに、第 1 回レポートを Webclass にて提出。
第 8 回	「食料の輸入大国日本の現実①」…教科書 pp.117～123 ・世界および日本の食料事情について解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）
第 9 回	「食料の輸入大国日本の現実②」…教科書 pp.123～135 ・日本人の食生活がいかに輸入に依存しており（食料自給率の低下）、それはなぜかを解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って） ★この日までに、第 2 回レポートを Webclass にて提出。
第 10 回	「食料の輸入大国日本の現実③」…教科書 pp.135～156 ・日本が食料を大幅に輸入に依存していることが引き	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）

	起こしている様々な問題について解説する。	
第 11 回	「食料の輸入大国日本の現実④」…教科書 pp.192～210 ・近年、急速に広まりつつある遺伝子組み換え食品の現状と問題点、対応策について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って） ◎第 3 回レポート作成「生態系のバランスが崩れると何が起こるか？」…資料については、Webclass にて配布する。グループで議論して、その結果をまとめる。→第 13 回の講義の日までに Webclass にて提出。
第 12 回	「国内流通食品の不安①」…教科書 pp.211～249 ・食の大量生産・大量消費を可能にしている抗生物質や食品添加物の問題点について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 13 回	「国内流通食品の不安②」…教科書 pp.161～192 ・複雑な食品表示のあり方について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 ★この日までに、第 3 回レポートを Webclass にて提出。
第 14 回	「総復習」 ・これまでの講義内容を総復習するとともに、総括試験に向けて、論述の方法について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理
第 15 回	「総括試験」	

1.授業コード (ナンバリング)	ENV101-M51	2.科目名	環境と生活（環境学）		3.単位数	2
4.授業担当教員	今井良一					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	副専攻（環境を考える）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】持続可能な社会を次世代が受け継ぐために、私たちがどのように行動すればよいかに ついて考えることを目的とする。 【概要】 人類の生存にかかわる地球環境問題（地球温暖化、水環境の問題、放射能の問題、食環境の問 題など）の現実を学んで、その本質を知るとともに、地球環境を保全していくための方法を学 び、それを身につけていくことを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（2）社会的貢献性（3）多様 性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 学習目標は次のとおりです。 ①地球温暖化や大気汚染、水不足、水質汚染、放射能汚染、食環境の悪化などの環境問題の原 因について正確に理解する。 ②その被害をうけやすい弱者、特に子どもへの深刻な被害について常に思いをはせる気持ちを 育む。 ③トータルで物事を見る能力を養う。 ④問題に対して、適切に対処できるようになる能力を養う。 なお、本講義では、SDGs（持続可能な開発目標）の 17 のゴールのうち、特に、「2. 飢餓を終 わらせ、食糧安定保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」「6. すべての 人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」「7. すべての人々の、安価かつ信 頼できる持続可能な現代のエネルギーへのアクセスを確保する」「10. 各国内および各国間の 不平等を是正する」「12. 持続可能な消費と生産の形態を確保する」「13. 気候変動および その影響を軽減するための緊急対策を講じる」「15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利 用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復および 生物多様性の損失を阻止する」に関して取り扱う。					
19.教科書・教材	今井清一／今井良一（2024）『環境教育学－気候変動～食の安心・安全－』鳥影社 大学にて販売されるので購入すること。					
20.参考文献	授業内で適宜紹介する。					
21.成績評価	①レポート（3 回分）＝45％ 【学習目標①②に対応】 グループで議論した内容をレポートにまとめて提出。意見が教員と異なるとしても減点の対象 にはならない。講義の内容を理解し、きちんと論述できているかどうかで判断する。 ②総括試験＝55％ 【学習目標①②③に対応】 総括試験は論述形式（2 題）とする。答案作成に際しては、まず講義内容を踏まえ解答するよう に心がけ、その上で各自の意見・感想を述べるようにすること。意見・感想が、教員と異なる としても、減点の対象にはならない。各自の意見・感想がない場合は、減点するので注					
22.コメント	①環境問題がいかに深刻であるかを知るとともに、子どもたちが豊かでかけがえのない地球を 受け継ぐために、私たちひとりひとりに一体何ができるかを常に考え、行動する姿勢をもつこ と。					

	②講義の前後以外でも、WebClass にて質問ができます。質問にはできる限り即応するので、積極的に利用しましょう。	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等および Webclass のメールにて、受講生からの質問等への対応する。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	「環境と生活（環境学）」を学ぶにあたって一子どもたちが持続可能な社会を受け継ぐためにー ・本講義で学習する環境問題について大まかに把握し、講義の目標をしっかりと認識する。	・シラバスを必携のこと。 復習:今回の復習 予習:次回の予習（教科書を使って）
第 2 回	「地球温暖化と気候の変動①」…教科書 pp.11～25 ・地球温暖化のメカニズムと地球温暖化が地球上の生命にどのような影響をおよぼすのかを解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）
第 3 回	「地球温暖化と気候の変動②」…教科書 pp.47～72 ・いくつかの温室効果ガスの性質を知るとともに、地球温暖化を解決するために、私たちひとりひとりができることについて解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）
第 4 回	「水の浪費大国日本①」…教科書 pp.253～266 ・世界および日本における水環境（水不足・水質汚染）について解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）
第 5 回	「水の浪費大国日本②」…教科書 pp.267～288 ・水環境悪化の原因を知るとともに、それを解決するために、私たちひとりひとりができることについて解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って） ◎第 1 回レポート作成「日本における尿尿の処理の歴史について」…資料については Webclass にて配布する。グループで議論して、その結果をまとめる。→第 7 回の講義の日までに Webclass にて提出。
第 6 回	「放射線と環境破壊①」…教科書 pp.83～91 ・放射線の種類や性質について解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）
第 7 回	「放射線と環境破壊②」…教科書 pp.92～112 ・放射線による人体への影響を学び、今後の原発政策のあり方を考える。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って） ◎第 2 回レポート作成「原発稼働に賛成か反対か？」…グループで議論して、その結果をまとめる。→第 9 回の講義の日までに Webclass にて提出。 ★この日までに、第 1 回レポートを Webclass にて提出。
第 8 回	「食料の輸入大国日本の現実①」…教科書 pp.117～123 ・世界および日本の食料事情について解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）
第 9 回	「食料の輸入大国日本の現実②」…教科書 pp.123～135 ・日本人の食生活がいかに輸入に依存しており（食料自給率の低下）、それはなぜかを解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って） ★この日までに、第 2 回レポートを Webclass にて提出。
第 10 回	「食料の輸入大国日本の現実③」…教科書 pp.135～156	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）

	・日本が食料を大幅に輸入に依存していることが引き起こしている様々な問題について解説する。	
第 11 回	「食料の輸入大国日本の現実④」…教科書 pp.192～210 ・近年、急速に広まりつつある遺伝子組み換え食品の現状と問題点、対応策について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って） ◎第 3 回レポート作成「生態系のバランスが崩れると何が起こるか？」…資料については、Webclass にて配布する。グループで議論して、その結果をまとめる。→第 13 回の講義の日までに Webclass にて提出。
第 12 回	「国内流通食品の不安①」…教科書 pp.211～249 ・食の大量生産・大量消費を可能にしている抗生物質や食品添加物の問題点について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 13 回	「国内流通食品の不安②」…教科書 pp.161～192 ・複雑な食品表示のあり方について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 ★この日までに、第 3 回レポートを Webclass にて提出。
第 14 回	「総復習」 ・これまでの講義内容を総復習するとともに、総括試験に向けて、論述の方法について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理
第 15 回	「総括試験」	

1.授業コード (ナンバリング)	ENV101-Y51	2.科目名	環境と生活		3.単位数	2
4.授業担当教員	今井良一					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	副専攻（環境を考える）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】持続可能な社会を次世代が受け継ぐために、私たちがどのように行動すればよいかについて考えることを目的とする。 【概要】 人類の生存にかかわる地球環境問題（地球温暖化、水環境の問題、放射能の問題、食環境の問題など）の現実を学んで、その本質を知るとともに、地球環境を保全していくための方法を学び、それを身につけていくことを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（2）社会的貢献性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 学習目標は次のとおりです。 ①地球温暖化や大気汚染、水不足、水質汚染、放射能汚染、食環境の悪化などの環境問題の原因について正確に理解する。 ②その被害をうけやすい弱者、特に子どもへの深刻な被害について常に思いをはせる気持ちを育む。 ③トータルで物事を見る能力を養う。 ④問題に対して、適切に対処できるようになる能力を養う。 なお、本講義では、SDGs（持続可能な開発目標）の 17 のゴールのうち、特に、「2. 飢餓を終わらせ、食糧安定保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」「6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」「7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代のエネルギーへのアクセスを確保する」「10. 各国内および各国間の不平等を是正する」「12. 持続可能な消費と生産の形態を確保する」「13. 気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる」「15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の促進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復および生物多様性の損失を阻止する」に関して取り扱う。					
19.教科書・教材	今井清一／今井良一（2024）『環境教育学－気候変動～食の安心・安全－』鳥影社 大学にて販売されるので購入すること。					
20.参考文献	授業内で適宜紹介する。					
21.成績評価	①レポート（3 回分）＝45％ 【学習目標①②に対応】 グループで議論した内容をレポートにまとめて提出。意見が教員と異なるとしても減点の対象にはならない。講義の内容を理解し、きちんと論述できているかどうかで判断する。 ②総括試験＝55％ 【学習目標①②③に対応】 総括試験は論述形式（2 題）とする。答案作成に際しては、まず講義内容を踏まえ解答するように心がけ、その上で各自の意見・感想を述べるようにすること。意見・感想が、教員と異なるとしても、減点の対象にはならない。各自の意見・感想がない場合は、減点するので注					
22.コメント	①環境問題がいかに深刻であるかを知るとともに、子どもたちが豊かでかけがえのない地球を受け継ぐために、私たちひとりひとりに一体何ができるかを常に考え、行動する姿勢をもつこと。					

	②講義の前後以外でも、WebClass にて質問ができます。質問にはできる限り即応するので、積極的に利用しましょう。	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	「環境と生活（環境学）」を学ぶにあたって一子どもたちが持続可能な社会を受け継ぐためにー ・本講義で学習する環境問題について大まかに把握し、講義の目標をしっかりと認識する。	・シラバスを必携のこと。 復習:今回の復習 予習:次回の予習（教科書を使って）
第 2 回	「地球温暖化と気候の変動①」…教科書 pp.11～25 ・地球温暖化のメカニズムと地球温暖化が地球上の生命にどのような影響をおよぼすのかを解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）
第 3 回	「地球温暖化と気候の変動②」…教科書 pp.47～72 ・いくつかの温室効果ガスの性質を知るとともに、地球温暖化を解決するために、私たちひとりひとりができることについて解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）
第 4 回	「水の浪費大国日本①」…教科書 pp.253～266 ・世界および日本における水環境（水不足・水質汚染）について解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）
第 5 回	「水の浪費大国日本②」…教科書 pp.267～288 ・水環境悪化の原因を知るとともに、それを解決するために、私たちひとりひとりができることについて解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って） ◎第 1 回レポート作成「日本における尿尿の処理の歴史について」…資料については Webclass にて配布する。グループで議論して、その結果をまとめる。→第 7 回の講義の日までに Webclass にて提出。
第 6 回	「放射線と環境破壊①」…教科書 pp.83～91 ・放射線の種類や性質について解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）
第 7 回	「放射線と環境破壊②」…教科書 pp.92～112 ・放射線による人体への影響を学び、今後の原発政策のあり方を考える。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って） ◎第 2 回レポート作成「原発稼働に賛成か反対か？」…グループで議論して、その結果をまとめる。→第 9 回の講義の日までに Webclass にて提出。 ★この日までに、第 1 回レポートを Webclass にて提出。
第 8 回	「食料の輸入大国日本の現実①」…教科書 pp.117～123 ・世界および日本の食料事情について解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）
第 9 回	「食料の輸入大国日本の現実②」…教科書 pp.123～135 ・日本人の食生活がいかに輸入に依存しており（食料自給率の低下）、それはなぜかを解説する。	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って） ★この日までに、第 2 回レポートを Webclass にて提出。
第 10 回	「食料の輸入大国日本の現実③」…教科書 pp.135～156 ・日本が食料を大幅に輸入に依存していることが引き	復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習（教科書を使って）

	起こしている様々な問題について解説する。	
第 11 回	「食料の輸入大国日本の現実④」…教科書 pp.192～210 ・近年、急速に広まりつつある遺伝子組み換え食品の現状と問題点、対応策について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って） ◎第 3 回レポート作成「生態系のバランスが崩れると何が起こるか？」…資料については、Webclass にて配布する。グループで議論して、その結果をまとめる。→第 13 回の講義の日までに Webclass にて提出。
第 12 回	「国内流通食品の不安①」…教科書 pp.211～249 ・食の大量生産・大量消費を可能にしている抗生物質や食品添加物の問題点について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書を使って）
第 13 回	「国内流通食品の不安②」…教科書 pp.161～192 ・複雑な食品表示のあり方について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理 ★この日までに、第 3 回レポートを Webclass にて提出。
第 14 回	「総復習」 ・これまでの講義内容を総復習するとともに、総括試験に向けて、論述の方法について解説する。	復習：今回の復習および授業ノートの整理
第 15 回	「総括試験」	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE102-A51	2.科目名	体育指導Ⅱ (1/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	大平誠也					
5.授業科目の区分	展開科目 保健体育科教育分野に おける実務経験のある 教員の授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】体育指導Ⅰに引き続き、仲間との協同学修を通して、各種目の運動技能を高めるとともに、小学校における楽しい体育学習のあり方について実践的に学修する。 【概要】 幼保小学校で取り組む教材の中でも、指導が困難と報告されている種目を取り上げ、体験的に指導法を学ぶ。 ・表現運動プログラム（リズムダンス低学年・リズムダンス発表会・創作リズムダンス、発表会） ・器械運動プログラム（さまざまな動きにつながる運動遊び、マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動） ・ボール運動プログラム（ネット型 キャッチバレー、バレーボール、大会の運営） 小学校の体育指導の問題点は、低学年の指導にある（白幡氏）ことから想定される課題解決を重点的に取り組む。大会の運営を通してスポーツ教育としての体育について学修する。第 14 回目には、障害のある人の「ために」ではなく、「ともに」スポーツを楽しむためにユニファイドスポーツ種目を体験する。					
18.学習目標と DPとの関連	DP との関連 ②教育・社会事象を概念から体系的な知識を使って理論的に説明 ③コミュニケーション力の獲得・実践 ・小学校体育への接続を理解することができる（知識） ・子どもに寄り添う支援・指導の技術を習得することができる（技能） ・健康・安全に配慮し、意欲的に運動に取り組むことができる（態度）					
19.教科書・教材	使用しない。					
20.参考文献	「小学校学習指導要領 体育編」 「体育科教育（月刊雑誌）」（大修館書店） 「やってみる ひろげる ふかめる」（光文書院）					
21.成績評価	実技なので、①②は、出席が前提です。 ①授業の振り返りレポート 30％ （毎時間記入し、授業終了時に提出） ②グループワークシート（2 回） 30％ （各運動プログラム後にグループワークを行い、授業後もしくは翌週に提出） ③総括試験 40％					
22.コメント	■注意事項 ・実技の受講にあたっては、指定の体操服、体育館シューズを着用すること。					

		・安全のため、長髪はまとめ、爪は切ること。装飾品（ピアス、ネックレス等）は、禁止。 ・補給用の水分を持参し、運動中の水分補給には気をつけること。 ■場所 ・教室（尼崎キャンパス） ・体育館 *体育館の使用時は、迷惑のかからないようマナーを守ること。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 (4/10) 教室	■オリエンテーション ・体育指導Ⅱについて ・授業参加についての注意事項 ・仲間づくり ・スポーツ教育について	○準備運動について調べておく 50分 ○リズムダンスの基本的な動きについて調べておく 50分
【第2回】体 育館	表現運動プログラム① ・リズムダンス・低学年に挑戦	○紹介されたリズムダンスの技能を身に付ける。 50分 ○大会の運営について協議し、役割分担をしておく。 ○自分の役割分担に応じた準備をする。 1時間
【第3回】体 育館	表現運動プログラム？ リズムダンス発表会をしよう（課題曲）	○発表会についてまとめておく。 50分 ○取り組みたい動き、曲について調べておく。 50分
【第4回】体 育館	表現運動プログラム③ 創作リズムダンスをしよう	○チームリーダーを中心に選曲、動きの確認をしておく。 40分 ○大会の企画、運営について調べておく。 50分
【第5回】体 育館	表現運動プログラム？ 創作リズムダンス発表会	○グループごとに発表したダンスについてまとめておく。 60分 ○他のグループのよいところについてもまとめておく。 30分
【第6回】教 室	表現運動プログラムの指導と評価 VTR視聴による指導と評価 まとめ(グループワーク1)	○PC持参。付箋、マジック等の準備。 ○器械運動とつながる動き（下位運動等）について調べておく。 50分
【第7回】体 育館	器械運動プログラム① ・さまざまな動きにつながる運動遊び	○遊びと運動の関連についてまとめておく。 ○マット運動につながる動きについて調べておく。 50分
【第8回】体 育館	器械運動プログラム？ マット運動 ・前転、後転 ・倒立	○前転などの技のポイントについてまとめておく。 40分 ○跳び箱運動について調べておく。 50分
【第9回】体 育館	器械運動プログラム？ 跳び箱運動 ・開脚跳び、閉脚跳び ・台上前転	○切り替えし系、回転系でまとめておく。 40分 ○鉄棒運動について調べておく。 50分
【第10回】体	器械運動プログラム③	○鉄棒運動の技のポイントについてまとめて

育館	鉄棒運動 ・逆上がり ・腕立て後方回転	おく。 40 分 ○支援・指導の観点から器械運動について調べておく。 50 分
【第 11 回】教室	器械運動プログラムの指導と評価 まとめ（グループワーク 2）	○P C 持参。付箋、マジック等の準備。 ○キャッチバレーボールについて調べておく。 50 分
【第 12 回】体育館	ボール運動プログラム① キャッチバレーボール	○キャッチバレーボールの特性についてまとめておく。 40 分 ○大会の計画、実施についてまとめておく。 50 分
【第 13 回】体育館	ボール運動プログラム？ キャッチバレーボール大会	○大会運営について、まとめておく。 40 分 ○バレーボールについて調べておく。 50 分
【第 14 回】体育館	ユニファイドスポーツプログラム ・障害のある人の「ために」ではなく、「ともに」スポーツを楽しむためにユニファイドスポーツ種目を体験する。 ・ゴールボール、ボッチャ等の中から選択	○技能差を越えてみんなが楽しめる観点からまとめておく。 40 分 ○体育指導Ⅱを受講して、生涯スポーツに対する考え方がどうなったのかをまとめておく。 50 分
【第 15 回】教室	体育指導Ⅰのまとめ・総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE102-A52	2.科目名	体育指導Ⅱ (2/4)(3/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	大平誠也					
5.授業科目の区分	展開科目 保健体育科教育分野に おける実務経験のある 教員の授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 体育指導Ⅰに引き続き、仲間との協同学修を通して、各種目の運動技能を高めるとともに、小学校における楽しい体育学習のあり方について実践的に学修する。 【概要】 幼保小学校で取り組む教材の中でも、指導が困難と報告されている種目を取り上げ、体験的に指導法を学ぶ。 ・表現運動プログラム（リズムダンス低学年・リズムダンス発表会・創作リズムダンス、発表会） ・器械運動プログラム（さまざまな動きにつながる運動遊び、マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動） ・ボール運動プログラム（ネット型 キャッチバレー、バレーボール、大会の運営） 小学校の体育指導の問題点は、低学年の指導にある（白幡氏）ことから想定される課題解決を重点的に取り組む。大会の運営を通してスポーツ教育としての体育について学修する。第 14 回目には、障害のある人の「ために」ではなく、「ともに」スポーツを楽しむためにユニファイドスポーツ種目を体験する。					
18.学習目標と DPとの関連	DP との関連 ②教育・社会事象を概念から体系的な知識を使って理論的に説明 ③コミュニケーション力の獲得・実践 ・小学校体育への接続を理解することができる（知識） ・子どもに寄り添う支援・指導の技術を習得することができる（技能） ・健康・安全に配慮し、意欲的に運動に取り組むことができる（態度）					
19.教科書・教材	使用しない。					
20.参考文献	「小学校学習指導要領 体育編」 「体育科教育（月刊雑誌）」（大修館書店） 「やってみる ひろげる ふかめる」（光文書院）					
21.成績評価	実技なので、①②は、出席が前提です。 ①授業の振り返りレポート 30％ （毎時間記入し、授業終了時に提出） ②グループワークシート（2 回） 30％ （各運動プログラム後にグループワークを行い、授業後もしくは翌週に提出） ③総括試験 40％					
22.コメント	■注意事項 ・実技の受講にあたっては、指定の体操服、体育館シューズを着用すること。					

		・安全のため、長髪はまとめ、爪は切ること。装飾品（ピアス、ネックレス等）は、禁止。 ・補給用の水分を持参し、運動中の水分補給には気をつけること。 ■場所 ・教室（尼崎キャンパス） ・体育館 *体育館の使用時は、迷惑のかからないようマナーを守ること。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 (4/10) 教室	■オリエンテーション ・体育指導Ⅱについて ・授業参加についての注意事項 ・仲間づくり ・スポーツ教育について	○準備運動について調べておく 50分 ○リズムダンスの基本的な動きについて調べておく 50分
【第2回】体 育館	表現運動プログラム① ・リズムダンス・低学年に挑戦	○紹介されたリズムダンスの技能を身に付ける。 50分 ○大会の運営について協議し、役割分担をしておく。 ○自分の役割分担に応じた準備をする。 1時間
【第3回】体 育館	表現運動プログラム？ リズムダンス発表会をしよう（課題曲）	○発表会についてまとめておく。 50分 ○取り組みたい動き、曲について調べておく。 50分
【第4回】体 育館	表現運動プログラム③ 創作リズムダンスをしよう	○チームリーダーを中心に選曲、動きの確認をしておく。 40分 ○大会の企画、運営について調べておく。 50分
【第5回】体 育館	表現運動プログラム？ 創作リズムダンス発表会	○グループごとに発表したダンスについてまとめておく。 60分 ○他のグループのよいところについてもまとめておく。 30分
【第6回】教 室	表現運動プログラムの指導と評価 VTR視聴による指導と評価 まとめ(グループワーク1)	○PC持参。付箋、マジック等の準備。 ○器械運動とつながる動き（下位運動等）について調べておく。 50分
【第7回】体 育館	器械運動プログラム① ・さまざまな動きにつながる運動遊び	○遊びと運動の関連についてまとめておく。 ○マット運動につながる動きについて調べておく。 50分
【第8回】体 育館	器械運動プログラム？ マット運動 ・前転、後転 ・倒立	○前転などの技のポイントについてまとめておく。 40分 ○跳び箱運動について調べておく。 50分
【第9回】体 育館	器械運動プログラム？ 跳び箱運動 ・開脚跳び、閉脚跳び ・台上前転	○切り替えし系、回転系でまとめておく。 40分 ○鉄棒運動について調べておく。 50分
【第10回】体	器械運動プログラム③	○鉄棒運動の技のポイントについてまとめて

育館	鉄棒運動 ・逆上がり ・腕立て後方回転	おく。 40 分 ○支援・指導の観点から器械運動について調べておく。 50 分
【第 11 回】教室	器械運動プログラムの指導と評価 まとめ（グループワーク 2）	○P C 持参。付箋、マジック等の準備。 ○キャッチバレーボールについて調べておく。 50 分
【第 12 回】体育館	ボール運動プログラム① キャッチバレーボール	○キャッチバレーボールの特性についてまとめておく。 40 分 ○大会の計画、実施についてまとめておく。 50 分
【第 13 回】体育館	ボール運動プログラム？ キャッチバレーボール大会	○大会運営について、まとめておく。 40 分 ○バレーボールについて調べておく。 50 分
【第 14 回】体育館	ユニファイドスポーツプログラム ・障害のある人の「ために」ではなく、「ともに」スポーツを楽しむためにユニファイドスポーツ種目を体験する。 ・ゴールボール、ボッチャ等の中から選択	○技能差を越えてみんなが楽しめる観点からまとめておく。 40 分 ○体育指導Ⅱを受講して、生涯スポーツに対する考え方がどうなったのかをまとめておく。 50 分
【第 15 回】教室	体育指導Ⅰのまとめ・総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE102-A53	2.科目名	体育指導Ⅱ (4/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	今中洋					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 回生～	
10.取得資格の要件	小学校一種保育士 幼稚園一種		11.先修条件	3 回生・4 回生秋学期開講の「幼児指導法」を履修することで、より深く実技と理論の両方を学ぶことが出来る。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習＆講義		
16.履修制限	履修の制限として、実技を含みますので最大 50 名までとします。					
17.授業の目的と概要	幼児期の子どもたちに相応しい運動プログラムやふれあいゲームの内容を講義・実技を通して学びます。また、幼児の特性を理解した指導上の「展開」「配慮」「適切な援助やかかわり」など、指導者として必要な資質を身につけます。その他、幼児の運動プログラムを通して、子どもの発育・発達などに触れ、身体面・精神面での特徴（子ども理解）などの知識を深めます。					
18.学習目標と DPとの関連	※この科目では、講義やグループでの演習（実技）にて共に活動を体験し、考えや意見を出し合いながら、以下の事柄を学びます。 主に【専門的知識】【技術活用力】【コミュニケーションスキル】を身に着けます。 具体的には... ①幼児に相応しい運動プログラムの理論と実践を学ぶ。 ②幼児の発育発達を理解し、それを踏まえた指導法を学ぶ。 ③幼児の特性を理解し、適切な配慮と援助（かかわり方）を学ぶ。					
19.教科書・教材	授業内に適宣プリント・テキストを配布。(Web クラスにて配信)					
20.参考文献	幼児期運動指針（文部科学省より）					
21.成績評価	①授業の振り返りレポート＝30％ （実技演習の際、授業の振り返りレポートを A4 レポート用紙にまとめ翌週に提出。） ②グループワークシート（2 回）＝20％ （グループワークを行った授業の際、もしくは翌週に提出。） ③総括試験＝50％					
22.コメント	■「実技演習」の際には、必ず大学指定のジャージ上下を着用のこと。毎回、インシューズを持参。 また、アクセサリー類（ピアス・指輪・ネックレス）などは、事前にはずしておくこと。 ■コミュニケーション力・リーダーシップ・メンバーシップを高める為に、授業の中にグループワークを取り入れる。 ■演習（実技）では、自ら学ぶことと楽しむことを忘れず、仲間と共に積極的に参加すること。					
23.オフィスアワー	月曜日 2 限目・木曜日 1 限目前後の時間帯に講師控室にて質問などを受け付けています。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回目	秋学期オリエンテーション＝「講義」 ※年間授業のテーマと概要の説明。 ※秋学期授業の具体的な内容とテーマの解説。 ※授業シラバス持参。			○幼児の運動/体育について自分なりに調べる（120 分） ○シラバスの内容を事前に確認しておく。		

第 2 回目	運動会に向けた取り組み = 「講義」 ※幼稚園・保育園などの園生活において運動会とは・・・。 ※幼児の運動会種目の紹介（ねらいとポイント）	○幼稚園・保育園での運動会や競技・演技について予習しておく。(60 分) ○幼児の運動会種目を復習として「ポイントやねらいを書きだしてイメージを深める。(60 分)」 ◆ノート PC 持参。
第 3 回目	運動会プログラムⅠ = 「実技」 ※保育としての運動会の取り組みについて。 ※乳児・幼児の運動会競技種目の紹介。	○幼児運動会種目の復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。(60 分) ○幼児の運動会競技、指導展開方法を実践できるようにイメージを深める (60 分)
第 4 回目	運動会プログラムⅡ = 「実技」 ※保育としての運動会の取り組みについて。 ※乳児・幼児の運動会競技種目の紹介②。	○幼児運動会種目の復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。(60 分) ○幼児の運動会競技、指導展開方法を実践できるようにイメージを深める (60 分)
第 5 回目	運動会プログラムⅢ = 「実技」 ※保育としての運動会の取り組みについて。 ※親子・保護者・卒園児の運動会競技種目の紹介②	○親子・保護者・卒園児運動会種目の復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。(60 分) ○親子・保護者・卒園児運動会競技、指導展開方法を実践できるようにイメージを深める (60 分)
第 6 回目	運動会プログラムⅣ = 「講義」 ※運動会プログラムの振り返り & まとめ ※ダンスづくりの内容説明 & グループ決め。	○運動会プログラム全体の復習としてポイントやねらいを書きだして資料としてまとめておく。(60 分) ○グループ内で検討、イメージしてダンスを創作する。(60 分) ◆ノート PC を持参。
第 7 回目	幼児期～児童前期の運動と発育発達 = 「講義」 ※幼児期運動指針の紹介 ※幼児期、児童前期に相応しい運動プログラムと必要な運動。	○予習として幼児期運動指針を調べ、目を通しておく。(60 分) ○幼児期、児童前期の運動プログラムの復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。(60 分)
第 8 回目	冬の運動プログラムⅠ = 「実技」 ※カラダもココロも温まる冬の運動プログラムの紹介。 ※活動を通して、社会性を身に着ける保育的な取り組み。	○冬の運動プログラムの復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。(60 分) ○冬の運動プログラム指導展開方法を実践できるようにイメージを深める (60 分)
第 9 回目	冬の運動プログラムⅡ = 「実技」 ※カラダもココロも温まる冬の運動プログラムの紹介。	○冬の運動プログラムの復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。(60 分)

	※活動を通して、社会性を身に着ける保育的な取り組み	○冬の運動プログラム指導展開方法を実践できるようにイメージを深める（60分）
第10回目	冬の運動プログラムⅢ＝「実技」 ※カラダもココロも温まる冬の運動プログラムの紹介。 ※活動を通して、社会性を身に着ける保育的な取り組み	○冬の運動プログラムの復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。（60分） ○冬の運動プログラム指導展開方法を実践できるようにイメージを深める（60分）
第11回目	ダンスづくり＝「実技」 ※グループごとで創作した「リズムダンス」の発表。 ※「リズムダンス」づくりの復習としてポイントねらいを書きだして資料としてまとめておく。	○いろんなダンスを実践できるようにイメージを深める（60分） ○グループ内で検討、イメージしてダンスを創作する。（60分）
第12回目	鬼ごっこあそび・ちょこっとあしおび・じっくりあそびⅠ＝「実技」 ※いろんな鬼ごっこあそびの紹介。 ※瞬時にできるちょこっとあそび&じっくりかかわるあそびの紹介。	○鬼ごっこあそび・ちょこっとあそび・じっくりあそびの復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。（60分） ○鬼ごっこあそび・ちょこっとあそび・じっくりあそびの指導展開方法を実践できるようにイメージを深める（60分）
第13回	鬼ごっこあそび・ちょこっとあしおび・じっくりあそびⅡ＝「実技」 ※いろんな鬼ごっこあそびの紹介。 ※瞬時にできるちょこっとあそび&じっくりかかわるあそびの紹介。	○鬼ごっこあそび・ちょこっとあそび・じっくりあそびの復習としてポイントやねらいを書き出して資料としてまとめておく。（60分） ○鬼ごっこあそび・ちょこっとあそび・じっくりあそびの指導展開方法を実践できるようにイメージを深める（60分）
第14回目	1年間の振り返り&まとめ＝「講義」 ※春学期・秋学期の実技・講義のまとめ&振り返り。	○秋学期の実技・講義を振り返り、まとめておく。 ◆ノート PC 持参。
第15回目	総括試験（秋学期）	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE106-A51	2.科目名	音楽Ⅱ・器楽 (1/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織、井手智佳子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種保 育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	「ソロ曲」におけるピアノ演奏法の知識・技能の習得及び教育現場教材である歌唱曲における「弾き歌い」技能の習得に向け、個人レッスン及びグループワークを行う。 個人レッスンを受けるに際して、「ソロ曲」については、鍵盤楽器経験に即し以下の 2 つのコースから一つを選択し、課題として与えられた曲群から、指定された曲数を既習すること。 コース A 確認テスト: バイエル 12 番 13 番 14 番から 1 曲 ちょうちょう、チューリップから 1 曲 中間テスト: バイエル 70 番 ドレミ読み(音高)テスト 期末テスト: 原則としてバイエル 83 番 弾き歌い課題曲:おかえりのうた コース B 確認テスト: ちょうちょう チューリップ 中間テスト: バイエル 70 番 バイエル 83 番 期末テスト: バイエル 94 番（ないしは 90 番台から 1 曲） バイエル 104 番(ないしは 100 番台から 1 曲) 弾き歌い課題曲 おはようのうた 弾き歌い課題曲 おかえりのうた					
18.学習目標と DPとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 コース A ・歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・ちょうちょう、チューリップ、バイエル等の作品について、楽譜の形式を理解したうえで、内容にふさわしい演奏表現ができる。 ・音楽的知識の基礎を習得する。 コース B ・歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・自由曲、バイエルから任意に選択した作品について、楽譜の形式を理解したうえで、内容にふさわしい演奏表現ができる。 ・音楽的知識の基礎を習得する。					
19.教科書・教材	バイエル上・下巻 こどものうた 1 0 0					

20.参考文献	こどものうた 200	
21.成績評価	コース A: 確認テスト: バイエル 12 番 13 番 14 番から 1 曲 10% ちょうちょう、チューリップから 1 曲 12% 中間テスト: バイエル 70 番 12% ドレミ読みテスト 10% 期末テスト:原則としてバイエル 83 番 12% 弾き歌い課題曲(おかえりのうた) 12% web class 学修 4%×7=28% 表現のための学修意欲 4% コース B: 確認テスト: ちょうちょう 5% チューリップ 5% 中間テスト:将来の専攻・進路に即した バイエル 70 番 10%	
22.コメント	授業以外の練習が不可欠です。しっかりと予習・復習の練習に励んでください。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2024/04/08	オリエンテーション 今までの音楽及び鍵盤楽器経験について、担当教官と面談を行い 各自の問題点を話し合い、学習コースを決定する。 確認テスト課題を学修する	○学修時間 60 分 ソロ曲、弾き歌い曲の練習
2024/04/15	確認テスト課題を学修する 4/22 オンデマンドでの学修方法を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/04/22	【オンデマンド学修 1】 web class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2024/05/13	確認テスト課題の個人レッスン 5/20,5/27 オンデマンドでの学修方法を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/05/20	【オンデマンド学修 2】 web class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分 WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2024/05/27	【オンデマンド学修 3】 web class で動画を視聴し、学修内容を指定されたワークシートに記述し提出する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分

		WEB CLASS の視聴と学修 30 分 WEB CLASS 学修シート提出
2024/06/03	中間テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/06/10	中間テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/06/17	中間テスト＆個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/06/24	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/01	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/08	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/15	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/22	期末テスト課題の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/07/29	期末テスト(ソロ曲・弾き歌い曲)	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE106-A52	2.科目名	音楽Ⅱ・器楽 (2/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織、西山淳子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種保 育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	講義概要 「ソロ曲」におけるピアノ演奏法の知識・技能の習得及び教育現場教材である歌唱曲における「弾き歌い」技能の習得に向け、個人レッスン及びグループワークを行う。 個人レッスンを受けるに際して、「ソロ曲」については、鍵盤楽器経験に即し以下の 2 つのコースから一つを音楽Ⅰから継続して選択し、課題として与えられた曲群から、指定された曲数を既習すること。 コース A： 確認テスト:「弾き歌い」課題曲 1 曲 中間テスト:バイエル 90 番台から任意に選択した 1 曲、音符確認テスト 期末テスト:バイエル 100 番台から 1 曲任意に選択、「弾き歌い」課題曲 1 曲 コース B： 確認テスト:「弾き歌い」課題曲 2 曲 中間テスト:ブルグミュラー1 頁の作品 1 曲、下記弾き歌い課題から 2 曲 期末テスト:ブルグミュラー1 頁の作品 1 曲、下記弾き歌い課題から 2 曲 弾き歌い課題曲（おもちゃのマーチ・さよならのうた・まつぱっくり・せんろはつづくよどこまでも・虫のこえ・かたつむり） コース A、コース B とも 自主課題として上記より多い曲数を既習すること。					
18.学習目標と DPとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を習得し、実際に想定した場面で活用することができる。 【自律性】 自分の目標をもち、その実現のために自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 コース A： ・「弾き歌い」曲が歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・バイエル 90 番台、100 番台からそれぞれ任意に選択した 2 曲について、楽譜の形式を理解したうえで、作品内容にふさわしい演奏表現ができる。 コース B： ・「弾き歌い」曲が歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・ブルグミュラー25 番練習曲から選択した 2 曲について、楽譜の形式を理解したうえで、作品内容にふさわしい演奏表現ができる。 コース A・B:					

	・音楽的演奏表現の基盤を習得する。 ・演奏表現の基礎知識・技能を習得する。(Aコースのみ)	
19.教科書・教材	バイエル上・下巻、ブルグミュラー25番のうち、 自分の演奏レベルにあったものを1種類選択して購入する こどものうた100は、演奏レベルにかかわらず、全員が購入する	
20.参考文献	こどものうた 200	
21.成績評価	コース A: 確認テスト $15\% \times 1 = 15\%$ 音階テスト $10\% \times 2 = 20\%$ 中間テスト:ソロ曲(バイエル 90 番台から 1 曲) $15\% \times 1 \text{ 曲} = 15\%$ 音符確認テスト = 10% 期末テスト:ソロ曲 $15\% \times 1 \text{ 曲} = 15\%$ (バイエル 100 番台から 1 曲) 弾き歌い課題曲: $15\% \times 1 \text{ 曲} = 15\%$ 自主課題(自由曲を含む) = 10% コース B: 確認テスト $8\% \times 2 = 16\%$ 音階テスト $8\% \times 2 = 16\%$ 中間テスト:ソロ曲 $12\% \times 1 \text{ 曲} = 12\%$ 弾き歌い課題曲 $8\% \times 2 \text{ 曲} = 16\%$	
22.コメント	授業以外の練習が不可欠です。しっかりと予習・復習の練習に励んでください。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2024/10/02	オリエンテーション 音階テストの準備・学習コースを音楽Ⅰから継続し、中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲を相談・決定する。確認テストの読譜をする。	○学修時間 60 分 ソロ曲、弾き歌い曲の練習
2024/10/16	確認テスト、中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/10/23	確認テスト(Bコース)	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/10/30	確認テスト(Aコース)	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/11/06	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/11/13	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分

2024/11/20	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/11/27	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/12/04	中間テスト	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/12/11	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/12/18	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/12/25	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/01/15	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/01/22	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/01/29	期末テスト(ソロ・弾き歌い)	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE106-A53	2.科目名	音楽Ⅱ・器楽 (3/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織、森玉美穂					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種保 育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	講義概要 「ソロ曲」におけるピアノ演奏法の知識・技能の習得及び教育現場教材である歌唱曲における「弾き歌い」技能の習得に向け、個人レッスン及びグループワークを行う。 個人レッスンを受けるに際して、「ソロ曲」については、鍵盤楽器経験に即し以下の 2 つのコースから一つを音楽Ⅰから継続して選択し、課題として与えられた曲群から、指定された曲数を既習すること。 コース A： 確認テスト:「弾き歌い」課題曲 1 曲 中間テスト:バイエル 90 番台から任意に選択した 1 曲、音符確認テスト 期末テスト:バイエル 100 番台から 1 曲任意に選択、「弾き歌い」課題曲 1 曲 コース B： 確認テスト:「弾き歌い」課題曲 2 曲 中間テスト:ブルグミュラー1 頁の作品 1 曲、下記弾き歌い課題から 2 曲 期末テスト:ブルグミュラー1 頁の作品 1 曲、下記弾き歌い課題から 2 曲 弾き歌い課題曲（おもちゃのマーチ・さよならのうた・まつぱっくり・せんろはつづくよどこまでも・虫のこえ・かたつむり） コース A、コース B とも 自主課題として上記より多い曲数を既習すること。					
18.学習目標と DPとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を習得し、実際に想定した場面で活用することができる。 【自律性】 自分の目標をもち、その実現のために自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 コース A： ・「弾き歌い」曲が歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・バイエル 90 番台、100 番台からそれぞれ任意に選択した 2 曲について、楽譜の形式を理解したうえで、作品内容にふさわしい演奏表現ができる。 コース B： ・「弾き歌い」曲が歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・ブルグミュラー25 番練習曲から選択した 2 曲について、楽譜の形式を理解したうえで、作品内容にふさわしい演奏表現ができる。 コース A・B:					

	・音楽的演奏表現の基盤を習得する。 ・演奏表現の基礎知識・技能を習得する。(Aコースのみ)	
19.教科書・教材	バイエル上・下巻、ブルグミュラー25番のうち、 自分の演奏レベルにあったものを1種類選択して購入する こどものうた100は、演奏レベルにかかわらず、全員が購入する	
20.参考文献	こどものうた 200	
21.成績評価	コース A: 確認テスト $15\% \times 1 = 15\%$ 音階テスト $10\% \times 2 = 20\%$ 中間テスト:ソロ曲(バイエル 90 番台から 1 曲) $15\% \times 1 \text{ 曲} = 15\%$ 音符確認テスト $= 10\%$ 期末テスト:ソロ曲 $15\% \times 1 \text{ 曲} = 15\%$ (バイエル 100 番台から 1 曲) 弾き歌い課題曲: $15\% \times 1 \text{ 曲} = 15\%$ 自主課題(自由曲を含む) $= 10\%$ コース B: 確認テスト $8\% \times 2 = 16\%$ 音階テスト $8\% \times 2 = 16\%$ 中間テスト:ソロ曲 $12\% \times 1 \text{ 曲} = 12\%$ 弾き歌い課題曲 $8\% \times 2 \text{ 曲} = 16\%$	
22.コメント	授業以外の練習が不可欠です。しっかりと予習・復習の練習に励んでください。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2024/10/02	オリエンテーション 音階テストの準備・学習コースを音楽Ⅰから継続し、中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲を相談・決定する。確認テストの読譜をする。	○学修時間 60 分 ソロ曲、弾き歌い曲の練習
2024/10/16	確認テスト、中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/10/23	確認テスト(Bコース)	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/10/30	確認テスト(Aコース)	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/11/06	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/11/13	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分

2024/11/20	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/11/27	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/12/04	中間テスト	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/12/11	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/12/18	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/12/25	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/01/15	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/01/22	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/01/29	期末テスト(ソロ・弾き歌い)	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE106-A54	2.科目名	音楽Ⅱ・器楽 (4/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織、青山洋子、榊原契保、田中慈子、藤井巳加					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種保 育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	講義概要 「ソロ曲」におけるピアノ演奏法の知識・技能の習得及び教育現場教材である歌唱曲における「弾き歌い」技能の習得に向け、個人レッスン及びグループワークを行う。 個人レッスンを受けるに際して、「ソロ曲」については、鍵盤楽器経験に即し以下の 2 つのコースから一つを音楽Ⅰから継続して選択し、課題として与えられた曲群から、指定された曲数を既習すること。 コース A： 確認テスト:「弾き歌い」 課題曲 1 曲 中間テスト:バイエル 90 番台から任意に選択した 1 曲、音符確認テスト 期末テスト:バイエル 100 番台から 1 曲任意に選択、「弾き歌い」 課題曲 1 曲 コース B： 確認テスト:「弾き歌い」 課題曲 2 曲 中間テスト:ブルグミュラー1 頁の作品 1 曲、下記弾き歌い課題から 2 曲 期末テスト:ブルグミュラー1 頁の作品 1 曲、下記弾き歌い課題から 2 曲 弾き歌い課題曲（おもちゃのマーチ・さよならのうた・まつぱっくり・せんろはつづくよどこまでも・虫のこえ・かたつむり） コース A、コース B とも 自主課題として上記より多い曲数を既習すること。					
18.学習目標と DPとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を習得し、実際に想定した場面で活用することができる。 【自律性】 自分の目標をもち、その実現のために自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 コース A： ・「弾き歌い」曲が歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・バイエル 90 番台、100 番台からそれぞれ任意に選択した 2 曲について、楽譜の形式を理解したうえで、作品内容にふさわしい演奏表現ができる。 コース B： ・「弾き歌い」曲が歌とピアノのバランスを聴きとりながら、作品の特徴を生かした演奏表現ができる。 ・ブルグミュラー25 番練習曲から選択した 2 曲について、楽譜の形式を理解したうえで、作品内容にふさわしい演奏表現ができる。 コース A・B:					

	・音楽的演奏表現の基盤を習得する。 ・演奏表現の基礎知識・技能を習得する。(Aコースのみ)	
19.教科書・教材	バイエル上・下巻、ブルグミュラー25番のうち、 自分の演奏レベルにあったものを1種類選択して購入する こどものうた100は、演奏レベルにかかわらず、全員が購入する	
20.参考文献	こどものうた 200	
21.成績評価	コース A: 確認テスト $15\% \times 1 = 15\%$ 音階テスト $10\% \times 2 = 20\%$ 中間テスト:ソロ曲(バイエル 90 番台から 1 曲) $15\% \times 1 \text{ 曲} = 15\%$ 音符確認テスト $= 10\%$ 期末テスト:ソロ曲 $15\% \times 1 \text{ 曲} = 15\%$ (バイエル 100 番台から 1 曲) 弾き歌い課題曲: $15\% \times 1 \text{ 曲} = 15\%$ 自主課題(自由曲を含む) $= 10\%$ コース B: 確認テスト $8\% \times 2 = 16\%$ 音階テスト $8\% \times 2 = 16\%$ 中間テスト:ソロ曲 $12\% \times 1 \text{ 曲} = 12\%$ 弾き歌い課題曲 $8\% \times 2 \text{ 曲} = 16\%$	
22.コメント	授業以外の練習が不可欠です。しっかりと予習・復習の練習に励んでください。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
2024/10/02	オリエンテーション 音階テストの準備・学習コースを音楽Ⅰから継続し、中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲を相談・決定する。確認テストの読譜をする。	○学修時間 60 分 ソロ曲、弾き歌い曲の練習
2024/10/16	確認テスト、中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/10/23	確認テスト(Bコース)	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/10/30	確認テスト(Aコース)	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/11/06	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分
2024/11/13	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分 「弾き歌い曲」30 分

2024/11/20	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/11/27	中間テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/12/04	中間テスト	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/12/11	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/12/18	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/12/25	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/01/15	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/01/22	期末テストでのソロ曲、弾き歌い曲の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30分 「弾き歌い曲」30分
2024/01/29	期末テスト(ソロ・弾き歌い)	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE108-A51	2.科目名	音楽Ⅲ・伴奏法		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	音楽Ⅰで学んだピアノ演奏法の知識・技能を基に、教育現場における「弾き歌い」につながる取り組みとしての歌唱・理論を背景とした伴奏法について、一斉授業・グループワーク・個人指導を行う。 ハ長調・ト長調・ヘ長調の伴奏付けが拍子・調・和声を理解したうえで、適切な伴奏形でできるようになる。 授業以外においても、空き時間を利用して、しっかりと予習・復習を行い、演奏技術の向上に向けて努力すること。					
18.学習目標と DPとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を習得し、実際に想定した場面で活用することができる。 【自律性】 自分の目標をもち、その実現のために自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 ・ハ長調・ト長調・ヘ長調の和声伴奏付けができる。 ・拍子・調・和声・コードネームを理解する。 ・ハ長調・ト長調・ヘ長調の伴奏付けが適切な伴奏形でできる。					
19.教科書・教材	こどものうた 100					
20.参考文献						
21.成績評価	☐小テスト カデンツ奏 6％，伴奏形変奏 6％，楽典 6％，コードネーム 6％＝24％ ☐グループ学修 伴奏づけ（和声）3％×2＝6％ ☐歌唱伴奏（グループ発表） 〔両手奏 4％・歌唱 2％・楽曲分析 1％〕×4 曲＝28％ ☐楽典ワークシート 1％×6＝6％ ☐伴奏法・最終テスト 歌唱 5％，暗譜 5％，伴奏法 12％＝22％ ☐DX 機器伴奏法振り返りシート 14％					
22.コメント	伴奏法は積み重ねです。全出席を基本とし、毎回の課題をひとつひとつクリアしましょう。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

	オリエンテーション 伴奏法の基礎を学ぼう① 伴奏法の基礎として、拍子・調性・和声の理論を理解する。 伴奏法の基礎として、ハ長調・ト長調・ヘ長調の主要三和音を左手奏する。	○学修課題【復習】 楽典(調性・和声) 理論の理解 30分 主要三和音(ハ長調・ト長調・ヘ長調)の左手奏 30分
	伴奏法の基礎を学ぼう② 伴奏法の基礎として、拍子・調性・和声・コードネームの理論を理解する。 伴奏法の基礎として、(ハ長調・ト長調・ヘ長調)のカデンツを左手奏する。	○学修課題【復習】 楽典(拍子・調性・和声) 理論の理解 30分 カデンツ(ハ長調・ト長調・ヘ長調)の左手奏 30分
	歌唱曲に親しみ、伴奏法の基礎を学ぼう③ 歌唱課題曲をピアノ伴奏に合わせて歌う。 伴奏法の基礎として、拍子・調性・和声・コードネームを理解する。 伴奏法の基礎として、(ハ長調・ト長調・ヘ長調)のカデンツ及び伴奏形変奏を左手奏する。 グループでメロディーにあった伴奏(和声)を考案・発表する。	○学修課題【復習】 楽典(拍子・調性・和声・コードネーム) 理論の理解 30分 カデンツ及び伴奏形変奏(ハ長調・ト長調・ヘ長調)の左手奏 30分
	歌唱曲に親しみ、伴奏法の基礎を学ぼう④ 歌唱課題曲をピアノ伴奏に合わせて歌う。 伴奏法の基礎として、拍子・調性・和声・コードネームを理解する。 伴奏法の基礎として、(ハ長調・ト長調・ヘ長調)のカデンツ及び伴奏形変奏を左手奏する グループでメロディーにあった伴奏(和声)を考案・発表する。	○学修課題【復習】 楽典(拍子・調性・和声・コードネーム) 理論の理解 60分 カデンツ及び伴奏形変奏(ハ長調・ト長調・ヘ長調)の左手奏 60分
	小テスト 伴奏法の基礎としての拍子・調性・和声・コードネームを理解する。 カデンツ奏、伴奏形変奏(左手)の小テスト(実技) 及び楽典(拍子・調性・和声)、コードネームの小テスト(筆記)を行う。	
	歌唱曲を伴奏しよう① 歌唱曲を歌う。 歌唱課題曲2曲の楽曲分析をシートに記入する。	○学修課題 特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、楽節を抽出して片手奏→通奏で片手奏

	歌唱課題曲における特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、楽節を抽出して片手奏する。 楽典ワークシートの記入	60分
	歌唱曲を伴奏しよう② 歌唱課題曲（2曲）における特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、両手奏する。 楽典ワークシートの記入	○学修課題 特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、グループ発表に向け両手奏 60分
	歌唱曲を伴奏しよう③・グループ発表 既習課題曲2曲の両手伴奏を歌唱と合わせてグループ発表する。 楽典ワークシートの記入	
	歌唱曲を伴奏しよう④ 歌唱曲を歌う。 歌唱課題曲2曲の楽曲分析をシートに記入する。 歌唱課題曲（2曲）における特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、楽節を抽出して片手奏する。 楽典ワークシートの記入	○学修課題 特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、楽節を抽出して片手奏→通奏で片手奏 60分
	歌唱曲を伴奏しよう⑤ 歌唱課題曲（2曲）における特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、両手奏する。 楽典ワークシートの記入	○学修課題 特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、グループ発表に向け両手奏 60分
	歌唱曲を伴奏しよう⑥・グループ発表 既習課題曲2曲の両手伴奏を歌唱と合わせてグループ発表する。 歌唱曲を歌う。 歌唱課題曲2曲の楽曲分析をシートに記入する。 歌唱課題曲における特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、楽節を抽出して片手奏する。 楽典ワークシートの記入	○学修課題 特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、楽節を抽出して片手奏→通奏で片手奏 60分
	DX 機器を使用して歌唱曲を伴奏しよう①	○学修課題 特徴ある音型・運指・奏法を理解したうえで、グループ発表に向け両手奏 60分
	DX 機器を使用して歌唱曲を伴奏しよう②	★既習課題曲6曲の楽曲分析シート提出 ○学修課題 最終テスト課題曲の両手奏 60分

	ペアで歌唱と伴奏を合わせよう① 最終テスト課題曲について、ヘッドホンを利用しペアまたは３人で合わせ練習する。 各グループごとに個別指導を行う。	◎学修課題 最終テスト課題曲の両手奏 １２０分
	ペアで歌唱と伴奏を合わせよう②・伴奏法最終テスト ペアまたは３人で、伴奏法最終テストを実施する。	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE203-A52	2.科目名	音楽Ⅴ・声楽及び理論		3.単位数	1
4.授業担当教員	矢田正一、榊原契保					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	こども学専攻			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	保育士 幼稚園教諭 小学校教諭		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義(演習、実技を含む)		
16.履修制限	音楽室の収容人数により、最大4 5 名とします。					
17.授業の目的と概要	【目的】 声楽・ピアノ演奏技術・理論など音楽全般の指導資質を身に付けます。 【概要】 声楽教本である「コンコーネ5 0 番」や世界の歌などを歌唱力向上の教材として学び、声作りと 表現力を身に付けながら、子どもの歌に取り組みます。 大きな声で表情豊かに歌えるようになります。 また基本的な理論とコードネームを理解し、弾き歌いの能力を高めます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次のとおりです。 ①大きな声で歌えるようになる。 ②表情豊かに歌えるようになる。 ③弾き歌いへの意欲が高まる。 ④基礎理論を身に付けることができる。 [関連するディプロマポリシー] (1) 専門的知識・技能の活用力 (2) 自立性 (3) 問題発見・解決力					
19.教科書・教材	授業内に適宜プリントを配布します。					
20.参考文献	音楽Ⅰの教科書					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。 ワークシート(2 0 %) 中間発表(2 0 %) 学習指導案の作成 (1 0 %) 総括試験(5 0 %)					
22.コメント	幼児・児童にとって最初の音楽の先生となるその日を目標に、歌唱力、ピアノ演奏技術、理論をしっかりと身に付け、子どもたちにとって魅力的な先生となれるよう、努力してください。 採用試験に自信をもって臨めるよう、資質を磨きましょう。					
23.オフィスアワー	各授業後に質問等の時間を確保します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	・オリエンテーション 本授業の目標・内容・進め方の確認などについて 保育者および小学校教員としての資質について ・発声法(声量、美しい音色)			今回の復習 次回の予習：大きな声（声量）の工夫 吸った息をしっかりと支える 1 点A 音で 15 秒以上のロングトーン		
第2回	・発声法 ・理論1 基本的な理論の習得 ・ワークシート1			グループワーク：発声法および理論の問題を 解き合って 次回以降に備える。		

	保育者・小学校教諭に必要な理論の習得	
第 3 回	・豊かな声量による歌唱、呼吸法 ・幼児教育や初等教育に必要な理論 ・ワークシート 2	豊かな声量と演奏の表現力についての復習 グループワーク：発声についての討議
第 4 回	・コンコーネ 1 ・子どもの歌 1 ・歌曲 1 ・基礎理論 1 ・ワークシート 3	歌唱の復習 プレゼンテーション：歌唱表現の工夫
第 5 回	・コンコーネ 2 ・子どもの歌 2 ・歌曲 2 ・基礎理論 2 ・ワークシート 4	ワークシート 3 の提出 コンコーネ・歌曲の復習 ディスカッション：息の支え方について
第 6 回	・コンコーネ 3 ・子どもの歌 3 ・歌曲 3 ・基礎理論 3 ・ワークシート 5	ワークシート 4 の提出 コンコーネ・理論の復習 基礎理論の理解度確認
第 7 回	・子どもの歌選曲練習(弾き歌い) ・中間発表	発声指導 弾き歌いの個人指導
第 8 回	・コンコーネ 4 ・子どもの歌 4 (弾き歌い) ・基礎理論 4 ・ワークシート 6 ・鑑賞「日本の音楽」	コンコーネ、弾き歌いの復習 理論ワークシートの回答、次時に発表・提出 ディスカッション：「日本の音楽」について
第 9 回	・子どもの歌 5 (弾き歌い) ・基礎理論 5 ・ワークシート 7 ・鑑賞「世界の音楽」	弾き歌いの復習 理論のワークシートを回答し、次時に発表・提出 ディスカッション：「世界の音楽」について
第 1 0 回	・子どもの歌 6 (弾き歌い) ・基礎理論 6 ・ワークシート 8	弾き歌いの復習 理論のワークシートを回答し、次時に発表・提出
第 1 1 回	・子どもの歌 7 ・基礎理論 7 ・ワークシート 9	歌いたい曲、表現できる曲を選曲練習し、互いに聴きあう
第 1 2 回	・子どもの歌 8 ・基礎理論 8 ・学習指導案作成の方法と留意点 ・ワークシート 1 0	選曲した歌の練習 グループワーク：学習指導案の作成
第 1 3 回	・子どもの歌発表曲独唱練習 ・理論の復習(総合問題)	発表した独唱について自己評価し、反省を生かして練習 理論復習
第 1 4 回	・総括試験：理論 ・子どもの歌発表練習	独唱練習 互いに聴きあって助言
第 1 5 回	・総括試験：独唱	ディスカッション：求められる「教師像」に

	・採用試験について ・求められる教師像	について

1.授業コード (ナンバリング)	EPE303-A51	2.科目名	音楽Ⅶ・器楽		3.単位数	1
4.授業担当教員	島川香織					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	講義概要 「ソロ曲」におけるピアノ演奏法の知識・技能の習得及び教育現場教材である歌唱曲における「弾き歌い」技能の習得に向け、個人レッスン及びグループワークを行う。 各自のコースの課題レベルに応じた演奏表現技能を習得する。 個人レッスンを受けるに際して、「ソロ曲」については、鍵盤楽器経験に即し以下の 4 つのコースから一つを選択し、課題として与えられた曲群から、指定された曲数を既習すること。 コース A：バイエル 100 番台の作品 1 曲を含む 4 曲 コース B：ブルグミュラー 2 5 番練習曲の作品 3 曲またはブルグミュラー 1 8 番練習曲の作品 2 曲 またはブルグミュラー 1 2 番練習曲の作品 2 曲 コース C：ソナチネアルバムⅠ・Ⅱの緩徐楽章を除く 2 つの楽章 コース D：ソナタアルバムⅠ・Ⅱまたは任意の作曲家によるソナタの緩徐楽章を除く 2 つの楽章 「弾き歌い」自由曲 4 曲を既習すること。					
18.学習目標と DPとの関連	【専門的知識・技能の活用力】 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を習得し、実際に想定した場面で活用することができる。 【自律性】 自分の目標をもち、その実現のために自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 ・中級レベル程度以上の作品のピアノ独奏ができる。 ・中級レベル程度以上の作品の弾き歌いができる。 ・音楽的知識の基礎を完全に習得する。 ・初見演奏ができる。 ・伴奏づけができる。					
19.教科書・教材	バイエル上・下巻 ブルグミュラー 2 5 番・1 8 番・1 2 番練習曲 ソナチネアルバムⅠ・Ⅱ巻 ソナタアルバムⅠ・Ⅱ巻 から自分の演奏レベルに適したもの こどものうた 1 0 0					
20.参考文献	こどものうた 2 0 0					
21.成績評価	既習曲〔ソロ曲〕 6％×4 曲 or 8％×3 曲 or 12％×2 曲＝24％ 〔弾き歌い自由曲〕 3％×4 曲＝12％ 〔自主練習発表ワークシート〕 6％ 〔自主練習発表〕 8％					

	[弾き歌い] 中間テスト 10% (1 曲) + 期末テスト 10% (1 曲) = 20% 最終テスト [ソロ曲] 中間テスト 15% (1 曲) + 期末テスト 15% (1 曲) = 30%	
22.コメント	授業以外の練習が不可欠です。しっかりと予習・復習の練習に励んでください。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	個人レッスン コース A, B, C, D から、自分の鍵盤楽器経験にふさわしいコースを選択する。 次回授業での「ソロ曲」「弾き歌い曲」を各自決定する。 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスンを行う。	○学修時間【予習】 「ソロ曲」予習 30 分 「弾き歌い曲」予習 30 分
	■個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン ■自主学習 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の自主学習	○学修時間【予習】 「ソロ曲」予習 30 分 「弾き歌い曲」予習 30 分
	■個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン ■自主学習 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の自主学習	○学修時間【予習】 「ソロ曲」予習 30 分 「弾き歌い曲」予習 30 分
	■個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン ■自主学習 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の自主学習	○学修時間【予習】 「ソロ曲」予習 30 分 「弾き歌い曲」予習 30 分
	■個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン ■自主学習 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の自主学習	○学修時間【予習】 「ソロ曲」予習 30 分 「弾き歌い曲」予習 30 分
	■弾き歌い・中間テスト 「弾き歌い」自由曲 1 曲「ソロ」自由曲 1 曲を発表する。 ■自主練習発表曲の選曲と学修の観点を理解する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分「自主練習発表曲」30 分
	■個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン ■自主学習 自主練習発表の準備	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分「自主練習発表曲」30 分「初見」小テスト or 「楽曲」テスト課題 30 分
	■個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分「自主練習発表曲」30 分

	■自主学習 自主練習発表の準備	練習発表曲」 30 分 「初見」小テスト or 「楽曲」テスト課題 30 分
	■個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン ■自主学習 自主練習発表の準備	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分「自主練習発表曲」 30 分 「初見」小テスト or 「楽曲」テスト課題 30 分
	■自主練習発表 自主練習発表＆ワークシートに記述する	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分「楽典」小テスト課題 30 分
	■個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン ■自主学習 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の自主学習	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分「楽典」小テスト課題 30 分
	■個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン ■自主学習 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の自主学習	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分「楽典」小テスト課題 30 分
	■個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン ■自主学習 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の自主学習	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」30 分「弾き歌い曲」30 分
	■個人レッスン 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の個人レッスン ■自主学習 「ソロ曲」「弾き歌い曲」の自主学習	○学修時間【予・復習】 「ソロ曲」60 分「弾き歌い曲」60 分
	ソロ曲・弾き歌い・最終テスト 「ソロ曲」自由曲 1 曲「弾き歌い」自由曲 1 曲の最終テストを実施する。	

1.授業コード (ナンバリング)	EPE403-A51	2.科目名	造形Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	大西洋史					
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種 幼稚園一種 保育士	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習(講義・実技を含む)			
16.履修制限	造形室の収容人数及び良好な活動環境を確保するために、履修者数を最大 48 人とします。人数が多い場合には、初回の授業で抽選を行います。					
17.授業の目的と概要	本科目では、図画工作科の「目標」「指導内容」「指導方法」「評価」を子どもの成長と表現・製作の発達といった観点や美術教育の歴史的変遷などから捉え直し、この教科の意味や価値についての認識を深めます。 その上で、題材や授業を具体的に構想する力や子どもの自発的・主体的な学習を保障しながら授業を展開する力など、図画工作科に関する理論的・実践的力量の形成をはかります。 受講生の希望も取り入れながら様々な造形活動に取り組みます。その活動を通して造形教育の理念と方法を理解し、授業を計画実施できる能力を養います。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (1) 自律的で主体的な態度 (6) 専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・図画工作科の指導理念、教材開発の視点、内容について理解を深めます。 ・子どもの視点に立った教科内容の理解を深め、図画工作科の具体的な指導方法の習得を目指します。 ・児童の造形発達の特徴について理解を深め、児童の造形活動や作品に対して受容、共感、反応する 力を養います。					
19.教科書・教材	①大橋功『美術教育概論 (新訂版)』2018. ISBN978-4536601030,もしくは,大橋功『美術教育概論 (改訂版)』2019. ISBN978-4-536-60021-7 ②文部科学省『小学校学習指導要領解説図画工作編』日本文教出版 ③『小学校図画工作科教科書 1・2 上, 1・2 下, 3・4 上, 3・4 下, 5・6 上, 5・6 下』日本文教出版 ④は「造形Ⅰ」(1 年春学期)、「保育内容・表現Ⅰ」(2 年春学期)、「図画工作科Ⅰ」(2 年春学期)、「図画工作科Ⅱ」(2 年秋学期)、「造形Ⅱ」(4 年秋学期)					
20.参考文献	辻泰秀『造形教育の教材と授業づくり』日本文教出版, 2012. ISBN978-4-536-60056-9					
21.成績評価	① 受講ノート=10% (毎回の授業について感想や質問などを 200 字程度でまとめる) ② 個人ワーク (活動①～④) =60% ③ レポート課題=20% ④ e ポートフォリオの内容=10% ・それぞれの評価基準は、1 回目の授業で配布します。					
22.コメント	○本講義では、実際の小学校での具体的な実践にも触れながら演習型の授業を行います。 ○受講生を 3～4 人を基準とするグループに分け、協調自立学習として展開します。したがって、欠席や遅刻は自らの学習効果を損なうだけでなく、グループのメンバーへの迷惑になるということを十分自覚して責任ある態度で学習に参加しましょう。 ○作品を制作しながら学習することが多いので、汚れてもよい服装で参加しましょう。「自分・友達・教室を汚さない」が基本です。					

		※教育実習を経験し実際の教育現場で感じた造形教育に対しての疑問を解決できる内容
23.オフィスアワー		木曜日昼休み
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス(本授業の目標・内容・評価算出の方法・進め方の確認、 準備物、 課題の提出方法、受講上の留意点などについて) グループづくり 活動①「ならべてならべて」(造形遊び 1)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 2 回	活動②「オリジナルキャンバスに描こう」1 材料を集めよう	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 3 回	活動②「オリジナルキャンバスに描こう」2 オリジナルキャンバスをつくろう	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 4 回	活動②「オリジナルキャンバスに描こう」3 オリジナルキャンバスに絵を描こう	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 5 回	活動②「オリジナルキャンバスに描こう」4 作品を仕上げよう	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 6 回	活動③「アクセサリーをつくろう」1 アイデアを考えよう	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 7 回	活動③「アクセサリーをつくろう」2 形を削り出そう	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 8 回	活動③「アクセサリーをつくろう」3 着色しよう	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 9 回	活動③「アクセサリーをつくろう」4 仕上げをしよう	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 10 回	活動④「火の造形 (陶芸)」1	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 11 回	活動④「火の造形 (陶芸)」2	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 12 回	活動④「火の造形 (陶芸)」3	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 13 回	活動④「火の造形 (陶芸)」4	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 14 回	活動④「火の造形 (陶芸)」5	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第 15 回	作品鑑賞会・作品ポートフォリオ 本講義の振り返り	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)

1.授業コード (ナンバリング)	FLC102-A51	2.科目名	中国語Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中智子					
5.授業科目の区分	コモンベシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	特に無し。 ※全くの初心者でも、中国語Ⅰが未履修でも履修できます。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	中国語を母語とする留学生は履修できません。 また、初めて中国語を学ぶ人のためのクラスですので、ある程度の中国語力がある人は、センターオフィスアワー等を利用してください。					
17.授業の目的と概要	この科目は、中国語を初めて勉強する人が中国語の基礎知識や学習スキルを身につけることや、中国語圏の文化や社会に興味を深めてもらうことを目的にしています。 基本的には教科書をもとに、発音練習や口頭練習（暗唱）、リスニング練習を丁寧にしていきます。映画やドラマや音楽ビデオなどの映像資料も時々使用します。また、必要に応じてグループタスクを行ったり、e-learning アプリを利用した学習なども行います。 また、中国語の発音表記についてもある程度習熟することを目指します。この授業を履修すると、中国語の発展的な学びにつながる基礎が身につき、将来グローバルスタディなどで中国語圏に行ったときや、仕事で必要になった時などに現地の人と簡単なコミュニケーションができるようになります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、次のとおりです。 1）ローマ字発音表記と発音を結びつけることができる。 2）簡単な挨拶や自己紹介ができる。 3）相手の年齢や国籍、時間などに関する簡単な質問ができる。 4）基本的な文が簡体字を使って書ける。 5）中国社会や文化に対する理解が深まる 本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の、下記の学修に関連しています。 (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	塚本慶一監修 『《最新版》1年生のコミュニケーション中国語』白水社 ※電子書籍のみ。紙の教材は不可（メルカリ等で、練習問題の答えが掲載された教授用資料や前の人の書き込みがあるものが出回っているため）					
20.参考文献						
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通り。 （1）各課のトレーニング提出（各回指示された期限までに Webclass に提出）25％（学習目標①、②、③に対応） （2）各課のリスニング提出（各回指示された期限までに Webclass に提出）25％（学習目標①、②、③に対応） （3）総括試験 30％（学習目標①、②、③、④に対応） （4）Quizlet での課題 10％（学習目標①、②、③、④に対応）					

	(5) 映画感想レポート 10% (学習目標⑤に対応) 全部の成績の合計が60点以上の場合、合格とする。	
22.コメント	授業への積極的な参加を期待します。また、下記のオフィス・アワーや ChineseClub を利用して、中国語の力を伸ばしましょう。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	オリエンテーション、発音(1)	復習：授業でやった発音や聞き取り練習をもう一度やってみる。
【第3回】 【第4回】	発音(2) 中国語の挨拶	復習：授業でやった発音や聞き取り練習をもう一度やってみる。
【第5回】 【第6回】	第1課 「自己紹介」(本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizletを使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第7回】 【第8回】	第2課 「これは何ですか」(本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizletを使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第9回】 【第10回】	第3課 「これはいかがですか」(本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizletを使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第11回】 【第12回】	第4課 「買い物」(本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizletを使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第13回】 【第14回】	映画「KANO」鑑賞 ※今年度「中国語Ⅰ」の履修者がいる場合は、別の映画に変更します。	感想をミニレポートにまとめ、Webclass から提出。 (締切は授業中に指示する)
【第15回】 【第16回】	第5課 「どこにありますか」(本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizletを使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第17回】 【第18回】	第6課 「何がありますか」(本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizletを使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第19回】 【第20回】	第7課 「ホテルにチェックイン」(本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題

		をもう一度やる。③Quizlet を使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第 21 回】 【第 22 回】	第 8 課 「何時に行きますか」(本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizlet を使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第 23 回】 【第 24 回】	第 9 課 「タクシーに乗る」 (本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizlet を使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第 25 回】 【第 26 回】	第 10 課 「試着と支払い」(本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizlet を使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第 27 回】 【第 28 回】	第 11 課 「苦情を訴える」(本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizlet を使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第 29 回】 【第 30 回】	第 12 課「紛失届を出す」(本文の単語、朗読練習、文法説明)、総括試験（試験範囲 発音～11 課まで）	予習：本文の暗唱、これまで習った内容を整理する 復習：できなかった練習問題をもう一度やる。

1.授業コード (ナンバリング)	FLC102-M51	2.科目名	中国語Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中智子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	特に無し。 ※全くの初心者でも、中国語Ⅰが未履修でも履修できます。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	中国語を母語とする留学生は履修できません。 また、初めて中国語を学ぶ人のためのクラスですので、ある程度の中国語力がある人は、センターオフィスアワー等を利用してください。					
17.授業の目的と概要	この科目は、中国語を初めて勉強する人が中国語の基礎知識や学習スキルを身につけることや、中国語圏の文化や社会に興味を深めてもらうことを目的にしています。 基本的には教科書をもとに、発音練習や口頭練習（暗唱）、リスニング練習を丁寧にしていきます。映画やドラマや音楽ビデオなどの映像資料も時々使用します。また、必要に応じてグループタスクを行ったり、e-learning アプリを利用した学習なども行います。 また、中国語の発音表記についてもある程度習熟することを目指します。この授業を履修すると、中国語の発展的な学びにつながる基礎が身につく、将来グローバルスタディなどで中国語圏に行ったときや、仕事で必要になった時などに現地の人と簡単なコミュニケーションができるようになります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、次のとおりです。 1）ローマ字発音表記と発音を結びつけることができる。 2）簡単な挨拶や自己紹介ができる。 3）相手の年齢や国籍、時間などに関する簡単な質問ができる。 4）基本的な文が簡体字を使って書ける。 5）中国社会や文化に対する理解が深まる 本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の、下記の学修に関連しています。 (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	塚本慶一監修 『《最新版》1年生のコミュニケーション中国語』白水社					
20.参考文献						
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通り。 （1）各課のトレーニング提出（各回指示された期限までに Webclass に提出）25％（学習目標①、②、③に対応） （2）各課のリスニング提出（各回指示された期限までに Webclass に提出）25％（学習目標①、②、③に対応） （3）総括試験 30％（学習目標①、②、③、④に対応） （4）Quizlet での課題 10％（学習目標①、②、③、④に対応） （5）映画感想レポート 10％（学習目標⑤に対応） 全部の成績の合計が60点以上の場合、合格とする。					

22.コメント		授業への積極的な参加を期待します。また、下記のオフィス・アワーや ChineseClub を利用して、中国語の力を伸ばしましょう。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	オリエンテーション、発音（1）	復習：授業でやった発音や聞き取り練習をもう一度やってみる。
【第3回】 【第4回】	発音（2） 中国語の挨拶	復習：授業でやった発音や聞き取り練習をもう一度やってみる。
【第5回】 【第6回】	第1課 「自己紹介」(本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizlet を使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第7回】 【第8回】	第2課 「これは何ですか」(本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizlet を使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第9回】 【第10回】	第3課 「これはいかがですか」(本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizlet を使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第11回】 【第12回】	第4課 「買い物」(本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizlet を使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第13回】 【第14回】	映画「KANO」鑑賞 ※今年度「中国語Ⅰ」の履修者がいる場合は、別の映画に変更します。	感想をミニレポートにまとめ、Webclass から提出。 (締切は授業中に指示する)
【第15回】 【第16回】	第5課 「どこにありますか」(本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizlet を使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第17回】 【第18回】	第6課 「何がありますか」(本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizlet を使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第19回】 【第20回】	第7課 「ホテルにチェックイン」(本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizlet を使って単語を確認する。

		予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第 21 回】 【第 22 回】	第 8 課 「何時に行きますか」(本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizlet を使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第 23 回】 【第 24 回】	第 9 課 「タクシーに乗る」 (本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizlet を使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第 25 回】 【第 26 回】	第 10 課 「試着と支払い」(本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizlet を使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第 27 回】 【第 28 回】	第 11 課 「苦情を訴える」(本文のロールプレイ、トレーニング・リスニングの答え合わせ)	復習：①習ったフレーズを音声を聞きながら繰り返し発音する。②できなかった練習問題をもう一度やる。③Quizlet を使って単語を確認する。 予習：次の課の新出単語の発音を練習する。
【第 29 回】 【第 30 回】	第 12 課「紛失届を出す」(本文の単語、朗読練習、文法説明)、総括試験(試験範囲 発音～11 課まで)	予習：本文の暗唱、これまで習った内容を整理する 復習：できなかった練習問題をもう一度やる。

1.授業コード (ナンバリング)	FLC102-Y51	2.科目名	中国語Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年（全くの初心者でも履修できます。中国語Ⅰが未履修でも履修できます。） ただし、中国語を母語とする中国の留学生は履修が出来ません	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	基本的には講義中心に進めますが、映画やドラマや音楽ビデオなどの映像資料も時々使用します。また、必要に応じてグループタスクやディスカッションなども行います。		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業は、初めて中国語を学ぶ入門者のためのコースであり、発音やイントネーションや文法などの基礎事項の習得を重視します。と同時に、実用性も重視して、旅行や留学などの実際場面で使える実用的な中国語表現の習得をはかります。授業内容でも書いていますが、実際に中国に行った時に遭遇するいろいろな場面で使える表現を具体的に勉強していきます。なお、この授業は、春学期の「中国語Ⅰ」を受講していなくても受講できます(春学期の「中国語Ⅰ」とは内容がまた違います)。					
18.学習目標と DPとの関連	●授業内容に対して、新たな興味や関心をもつことができる ●基本的な中国語力を身に着けることができる ●中国社会や文化に対する理解が深まる (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	授業で教材を配布します。					
20.参考文献	NHK ラジオ中国語 Duolingo 中国語学習アプリ					
21.成績評価	①2 課ごとに行う小テスト（計 4 回：1 回 10 点） 40%、②最終試験 30%、③タスクシート + Duolingo での課題 20%、④中国語スピーチ 10%					
22.コメント	中国語は日本人にとって、とても習得しやすい外国語のひとつです。発音などが少し難しいと言われていますが、特に英語を勉強したことのある日本人にとってはとても勉強しやすいです。なぜなら、英語と文法構造がとても似ており、しかも動詞の変化などは、現在完了形や過去完了形などまである英語ほど複雑ではありません。また、書き言葉で漢字を使用するのも、小さいころから漢字を学んでいる日本人には勉強しやすい理由のひとつです。 中国には 13 億の人がいると言われており、海外に散らばっている華僑の多くも中国語を話します。話者の数だけ					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回、第 2 回	発音や声調の練習			○各自で発音練習や文法の復習をする（6 0 分）。		

第3回、第4回	発音や声調の練習	○各自で発音練習や文法の復習をする（60分）。
第5回、第6回	数を数える表現（年月日の表現も含む）の練習、自己紹介に関する表現の練習	○各自で発音練習や文法の復習をする（60分）。
第7回、第8回	買い物時に使う表現（値段を尋ねたり、値段交渉したりする時に使う表現）の練習、挨拶に関する表現の練習	○各自で発音練習や文法の復習をする（60分）。
第9回、第10回	中国・台湾旅行や留学生活で使う表現の練習	○各自で発音練習や文法の復習をする（60分）。
第11回、第12回	友達の家を訪問する時などに使う表現の練習	○各自で発音練習や文法の復習をする（60分）。
第13回、第14回	観光などで使う表現の練習、中国の友達と交流を深めるための表現の練習	○各自で発音練習や文法の復習をする（60分）。
第15回、第16回	道を尋ねる時に使う表現の練習、恋愛に関する表現の練習	○各自で発音練習や文法の復習をする（60分）。
第17回、第18回	レストランなどで使う表現の練習	○各自で発音練習や文法の復習をする（60分）。
第19回、第20回	趣味について話す時などに使う表現の練習	○各自で発音練習や文法の復習をする（60分）。
第21回、第22回	中国映画の鑑賞	
第23回、第24回	旧正月を過ごす時などに使う表現の練習	○各自で発音練習や文法の復習をする（60分）。
第25回、第26回	別れを告げる時などに使う表現の練習	○各自で発音練習や文法の復習をする（60分）。
第27回、第28回	授業のまとめと復習	○各自で発音練習や文法の復習をする（60分）。
第29回、第30回	最終試験	○各自で発音練習や文法の復習をする（60分）。

1.授業コード (ナンバリング)	FLC203-Y51	2.科目名	中国語基礎 2		3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	展開（第二外国語）	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	先行して履修すべき科目はないが、秋学期には引き続き中国語基礎 2 を履修すること。また、「中国語基礎 1」の内容の理解をより深め、中国語の実践力を身につけるためには、並行して「中国語コミュニケーション 1」を履修することが望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	原則として対面演習の形式。		
16.履修制限	中国語初心者向けの授業であるため、中国語を母国語とするものは、履修対象外となります。履修希望者が 2 0 名を超える場合は、前学期までの累積 GPA や出席状況、履修動機に基づいて選抜を行うこともあります。					
17.授業の目的と概要	【目的】本科目では、中国語の発音（ピンイン）を身につけた上で、自己紹介、学校、買い物、道を尋ねるなどとした場面で使う中国語の学習を目的とします。 【概要】 積極的な授業参加を促すアクティブ・ラーニングの授業を展開します。履修登録者が授業中で習った新しい中国語の単語や文法を活用しながら会話できることを目指します。また、将来、中国関連の仕事や中国語の資格取得などのための長期的な中国語学習に向けて、基礎をしっかりと固めます。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は次の通りです。 ①中国語の発音基礎（ピンイン）を覚える ②中国語で簡単な自己紹介から生活などの場面までコミュニケーションを取ることができる ③自分で中国語の勉強ができるような学習法を取得する 【関連するディプロマポリシー】 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	『新実用漢語課本 1』劉珣（編）第 3 版、北京語言大学出版社、2002 年 上記のテキストについては授業中に印刷物を配布するなど、第一回目のオリエンテーションの際、詳しく説明します。					
20.参考文献	関連する文献は、授業中適宜紹介します。					
21.成績評価	評価の配分は次の通りです。 ・評価の方法：平常評価（小テストなど）＋期末テスト（学習目標の①②③） ・成績の配分：平常評価 50%＋期末テスト 50%（学習目標の①②③） 成績合計 60 点以上を合格とします。					
22.コメント	言葉は生きているものです。習った中国語がすぐに言えるようになって、外国語学習の楽しさを一緒に味わいましょう！					
23.オフィスアワー	授業前後に質問などを受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	・オリエンテーション（本科目の学習目標や成績評			宿題：第 1 課の復習と練習問題		

	価、授業内容と進め方などを説明する) ・第1課の「?好」(こんにちは) ピンインと本文 習うピンイン: b p m n l h a o e i u ? ao en ie in ing uo	
【第2回】	第1課練習問題の解説と発音練習	宿題: 第1課の語彙と発音の復習と第2課の予習
【第3回】	・小テスト ・第2課「?忙?」(あなたは忙しいですか) ピンインと本文 習うピンイン: d t g k f ei ou an ang eng iao iou(-iu)	宿題: 第2課の復習と練習問題
【第4回】	第2課の練習問題の解説と発音練習	宿題: 第2課の語彙と発音の復習と第3課の予習
【第5回】	・小テスト ・第3課「?是?国人」(彼女はどこの国の人ですか) ピンインと本文 習うピンイン: zh ch sh r -i ai uai ong	宿題: 第3課の復習と練習問題
【第6回】	第3課の練習問題の解説と発音練習	宿題: 第1～3課の語彙とピンインの復習と第4課の予習
【第7回】	・(第1～3課) 小テスト ・第4課「???很高?」(はじめまして) ピンインと本文 習うピンイン: j q x ia ian iang uei(-ui) uen(-un) ?e ?an	宿題: 第4課の復習と練習問題
【第8回】	第4課の練習問題の解説と発音練習	宿題: 第4課の語彙とピンインの復習と第5課の予習
【第9回】	・小テストと解説 ・第5課「餐?在?儿」(レストランはどこですか) ピンインと本文 習うピンイン: z c s -i er iong ua uan uang ?n	宿題: 第5課の復習と練習問題
【第10回】	第5課の練習問題の解説と発音練習	宿題: 第5課の語彙とピンインの復習と第6課の予習
【第11回】	・小テスト ・第6課「我?去游泳, 好?」(水泳に行きませんか) ピンインの総復習と本文	宿題: 第6課ピンインの復習と練習問題
【第12回】	第6課の練習問題の解説と発音練習	宿題: 第4～6課の復習(語彙と本文)
【第13回】	(第4～6課) 小テストと解説	第1～6課の語彙と本文の復習
【第14回】	全体の復習	宿題: 期末テストの準備
【第15回】	・期末テスト ・試験問題の解説	全体の振り返り

1.授業コード (ナンバリング)	FLC205-Y51	2.科目名	中国語コミュニケーション 2		3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科・観光学科			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件	HSK3 級～		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	中国語の学習経験のない人は履修できません。中国経験のある人、留学した人、第二外国語として学んできた人、中国語履修者（HSK 3 ～4 級レベルの中国語科目）が対象です。					
17.授業の目的と概要	本講義は「聴く・話す・書く・訳す・調べる」能力の向上に重点を置きながら、中国ビジネスでは常識といえるフレーズ、日中間ビジネスの最前線で活躍する上で必要不可欠とされる「言葉・表現」を、シチュエーション別に受講者とともに確認し、シミュレーションなどを通してその応用力の養成を目指します。また、メールなどを含む中国語ビジネス文章の「構成・表現」を、実例を取り上げながら紹介し、その基本的な書き方の習得を目標とします。日中ビジネス慣習の差異を、社会的、文化的、心理的な側面から解説し、中国人ビジネスマンとの円滑なコミュニケーションを図るためのテクニカルな手法も合わせて確認し学習します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の2、主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力。K2、グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関心を持つ。 K4、異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える、に関連しています。 1. 社内で使われる①上司とのやりとり、②同僚とのやりとり、などのビジネス中国語を身に付けます。 2. 取引先に対する①電話応対、②ビジネスメール、③面談、などのビジネスシーンの基本を身につけます。					
19.教科書・教材	『ストーリーで学ぶビジネス中国語』 山田留里子ほか 駿河台出版社					
20.参考文献	特になし					
21.成績評価	授業ノートの提出 30 点（学習目標 1、2 に対応） 授業課題の完成度 30 点（学習目標 1、2 に対応） 総括レポート 40 点（学習目標 1、2 に対応）					
22.コメント	第一線で活躍するビジネスマンの姿を常に想像しながら授業に臨んでほしいと思います。授業は進行状況に応じて順序を前後したり、内容を変更する場合があります。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	あいさつ			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 2 回】	電話連絡			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 3 回】	ランチタイム			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 4 回】	アポイントメント			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 5 回】	電子メール			中国語で電子メールを作成する		
【第 6 回】	出張			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 7 回】	空港			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 8 回】	宴会			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 9 回】	工場見学			場面練習できるように会話を暗誦する		
【第 10 回】	ビジネスレター			中国語でビジネスレターを作成する		
【第 11 回】	交渉			場面練習できるように会話を暗誦する		

【第 12 回】	クレーム	場面練習できるように会話を暗誦する
【第 13 回】	総合練習①	レポート課題について調べる
【第 14 回】	総合練習②	レポート課題を作成する
【第 15 回】	総合練習③	レポート課題を作成する

1.授業コード (ナンバリング)	FLC305-Y51	2.科目名	中国語リーディングⅡ		3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	留学生は履修できません。					
17.授業の目的と概要	この科目は、中国語や中国文化の基礎知識と、中国語の学習スキルを身につけることを目的にします。 具体的には、次のことを学びます。 1) 発音を中心とした中国語の基礎知識 2) また、インターネットを活用した中国語の学習スキル 3) 中国圏の人々の習慣や文化 アジア圏、特に中国語を公用語とする中国、台湾、香港の人にとって、日本は人気のある観光地です。中国語の基礎だけでなく、文化や習慣、日本人との考え方の違いについて少しでも知識があると、円滑なコミュニケーションができます。また、中国語は発音が大変重要ですので、「通じる中国語」が使えるために、正しい発音のトレーニングを行います。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の、K4. 異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える、に関連しています。 1) 中国語の発音方法がわかる。 2) 中国語で簡単な挨拶や自己紹介ができる。 3) 基本的な文が簡体字を使って書ける 4) 中国語圏の人々の習慣や文化について、日本との相違点を考えて説明ができる。 5) インターネットを利用した中国語学習の方法がわかる。					
19.教科書・教材	リーディング素材のプリントを配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通り。 ・第1課～8課のドリルおよび5, 6課、7, 8課の復習ドリル・・・各5点×10回=50点（学習目標①、③に対応） ・暗唱「5, 6課と7, 8課の本文の朗読」・・・各5点×2回=10点（学習目標①、②に対応） （学習目標①、⑥に対応） ・中間レポート・・・15点（学習目標④に対応） ・関連小テスト・・・5点（学習目標④に対応） ・最終レポート・・・20点（学習目標⑤に対応）					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーションと第1課（単母音、複母音）					
【第2回】	第2課 いろいろな子音の発音			教科書の該当箇所を復習し、発音練習を繰り返す。		
【第3回】	第3課 鼻音			教科書の該当箇所を復習し、発音練習を繰り返す。		

		返す。
【第 4 回】	第 4 課 注意すべき声調	教科書の該当箇所を復習し、発音練習を繰り返す。
【第 5 回】	中国語理解	復習と予習
【第 6 回】	中国語理解	
【第 7 回】	第 5 課 人称代名詞、姓名の言い方	教科書の該当箇所を復習し、発音練習を繰り返す。
【第 8 回】	第 6 課 動詞"是"、疑問文	教科書の該当箇所を復習し、発音練習を繰り返す。
【第 9 回】	5 課と 6 課の復習	5 課と 6 課本文の暗唱
【第 10 回】	1) 暗唱チェック 2) 中国語理解	復習と予習
【第 11 回】	中国語理解	
【第 12 回】	第 7 課 動詞が述語になる文、形容詞が述語になる文	教科書の該当箇所を復習し、発音練習を繰り返す。
【第 13 回】	8 課 指示代詞、疑問詞疑問文	教科書の該当箇所を復習し、発音練習を繰り返す。
【第 14 回】	7 課と 8 課の復習	7 課と 8 課本文の暗唱
【第 15 回】	発音のまとめ、文法のまとめ、総括試験	復習 これまでのノートをまとめる。 これまで学んだ文の読み方を復習する。

1.授業コード (ナンバリング)	FLC306-Y51	2.科目名	中国語ライティングⅡ		3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科・観光学科			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	中国語や中国文化の応用知識と中国語の話すスキルを身につけることを目的にします。 具体的には、①流暢な発音を中心に中国語のコミュニケーションに役立つ会話を学びます。② 実用的な文法を中心に中国語会話の応用方法を学びます。③中国語の聞く力を身に付けます。 授業は中国人講師が担当します。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の3、多様な価値観を認め、他者とのコミ ュニケーションを深め、連携していく 力、K4、異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅 力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える、に関連しています。 ①中国語でコミュニケーションが可能なレベルの議論や主張ができる。 ②HSK 3 級～4 級レベルの文法項目の文が聞き取れて理解できる。 ③HSK 3 級～4 級レベルの内容について中国語で作文できる。					
19.教科書・教材	新谷秀明、王宇南『赤シート付 読み書き話す+聴く 中国語の基本 ステップアップ編』朝 日出版社					
20.参考文献						
21.成績評価	課題の提出 5 0 点（学習目標①②③に対応）授業各回の課題の完成度を評価します。1 5 回の 課題のうち、完成度の高い回の1 0 回分を対象とします。配点5 0 点（1 0 回×5 点）。 総括試験 5 0 点（学習目標①②③に対応）総括試験は中国語で文章を作成するレポートで評 価します。配点5 0 点（内容1 0 点、文法1 0 点、漢字1 0 点、表現力1 0 点、発音1 0 点）。					
22.コメント	1. 授業の進行は予定の内容を前後したりすることがあります。 2. リスニング・トレーナーという音声再生アプリを使います。無料でダウンロードできま す。ダウンロード方法は授業内で案内します。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	音声で方言の内容を聞き取ります。関連の短文を翻訳 します。			第1、2 課を復習し、教科書の練習を完成し ます。		
【第2回】	音声で民族の内容を聞き取ります。関連の短文を翻訳 します。			第3 課を復習し、教科書の練習を完成しま す。		
【第3回】	音声で伝統的祝祭日の内容を聞き取ります。関連の短 文を翻訳します。			第4、5 課を復習し、教科書の練習を完成し ます。		
【第4回】	音声で南方と北方の内容を聞き取ります。関連の短文 を翻訳します。			第6 課を復習し、教科書の練習を完成しま す。		
【第5回】	音声で中華料理の内容を聞き取ります。関連の短文を 翻訳します。			第7 課を復習し、教科書の練習を完成しま す。		
【第6回】	音声で中国茶の内容を聞き取ります。関連の短文を翻 訳します。			第8、9 課を復習し、教科書の練習を完成し ます。		
【第7回】	ジャイアントパンダの内容を聞き取ります。関連の短			第1 0 課を復習し、教科書の練習を完成しま		

	文を翻訳します。	す。
【第 8 回】	音声で京劇の内容を聞き取ります。関連の短文を翻訳します。	第 1 1 課を復習し、教科書の練習を完成します。
【第 9 回】	音声で武術の内容を聞き取ります。関連の短文を翻訳します。	第 1 2 課を復習し、教科書の練習を完成します。
【第 10 回】	音声で万里の長城の内容を聞き取ります。関連の短文を翻訳します。	第 1 3 課を復習し、教科書の練習を完成します。
【第 11 回】	音声で故宮の内容を聞き取ります。関連の短文を翻訳します。	第 1 3 課を復習し、教科書の練習を完成します。
【第 12 回】	音声で四大名著の内容を聞き取ります。関連の短文を翻訳します。	第 1 4 課を復習し、教科書の練習を完成します。
【第 13 回】	中国語で事象、現象について作文して説明します。	第 1 4 課を復習し、教科書の練習を完成します。
【第 14 回】	中国語作文を発表します。	第 1 5 課を復習し、教科書の練習を完成します。
【第 15 回】	一学期の授業振り返りをします。	第 1 5 課を復習し、教科書の練習を完成します。

1.授業コード (ナンバリング)	FLC307-Y81	2.科目名	中国語リスニングⅡ		3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	観光学科 (2018 年度以前入学生)			9.履修学年	3 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	この科目は中国人の歴史、文化、現代生活を学ぶことを通して、伝統と対照的な現代生活を知ることができます。 具体的にはさまざまな角度から中国人の民族アイデンティティと日本観、アジア観を理解していきます。将来は国際社会に立脚する際に有用な学習となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の 3. 多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく 力。 、K4. 異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える、の学習に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①中国人の生活様式を理解し説明できる。 ②中国人の価値観を説明できる。 ③③中国人と日本人の政治に対する態度、社会生活の態度を比較し、分析できる。					
19.教科書・教材	適宜、資料を配布します (教科書は使用しません)。					
20.参考文献	特になし					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 授業課題の提出 50 点 (学習目標①②③に対応) 総括試験 50 点 (学習目標①②③に対応) 授業課題を提出要件に満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することと総括試験の合格を合格基準とします。					
22.コメント	授業の進行について内容を変更する場合があります。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション			中国に関する情報を収集する		
【第 2 回】	漢族と少数民族の歴史、各地の地域特色について			少数民族の情報を収集する		
【第 3 回】	「一国両制」の新中国と改革開放について			香港、マカオの情報を収集する		
【第 4 回】	中国人のアジア観と日本観			アジア主義について調べる		
【第 5 回】	中国人の社会生活① 80 年代～90 年代			80 年代の中国について調べる		
【第 6 回】	中国人の社会生活② 2000 年以降～			2000 年以降の中国について調べる		
【第 7 回】	多民族国家の課題			中国の西部地方と西部政策について調べる		
【第 8 回】	一国両制の現状について			香港問題を考える		
【第 9 回】	中国文化の内と外の構造			ケーススタディを理解し、応用できる。		
【第 10 回】	人民代表と民主主義			中国の政治制度と民意の反映について考える		
【第 11 回】	微信、支付宝とキャッシュレス社会			APP の使い方を身に付ける		
【第 12 回】	伝統と現代			伝統とは何か自分の意見を発表できるようにまとめる		
【第 13 回】	中国人の観光マーケットと日本のインバウンド			海外旅行についての日中両国の国内市場を調べる		

【第 14 回】	「一帯一路」の実現に向けての取り組み	将来の中国を予測できるような情報を調べる
【第 15 回】	振り返り	与えられた課題を完成する

1.授業コード (ナンバリング)	FLC308-Y51	2.科目名	中国語アドバンスト・コミュニケーションⅡ	3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	演習	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件	中国語の科目を履修したことがある。 または、 中国語学習歴がある。	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	講義は観光関連業界での就職を目指す中国語履修者のための特設講座としたい。中国の観光事情、データ、概略を把握すると同時に、中国人観光客に人気のスポットで使える接客の「言葉・表現」を学習するとともに、ホスピタリティに関する日中間のマナーや文化の差異なども確認する。また、添乗員、ツアーガイド、ホテルマンなど各業種の基本的な業界用語・表現を学習する。				
18.学習目標と DPとの関連	・中国の観光事情、データを把握する。 ・観光現場の課題を理解する。 ・中国語で接客できる				
19.教科書・教材	プリント配布				
20.参考文献					
21.成績評価	受講態度（出席、ロールプレイの達成度）50％、レポート50％				
22.コメント	※授業は進行状況に応じて内容を変更したり前後したりして行う場合があります。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
	オリエンテーション				
	中国語の基礎の復習			難しい発音と重要な文法を整理する	
	八大接客用語			授業内容を復習する	
	場面練習			ロールプレイのフレーズを暗記する	
	物販接客用語			授業内容を復習する	
	場面練習			ロールプレイのフレーズを暗記する	
	レストラン接客用語				
	場面練習				
	ホテル接客用語				
	場面練習				
	道案内の用語				
	場面練習				
	フィールドワーク又は実習				
	フィールドワークまたは実習				
	振り返りとレポート課題				

1.授業コード (ナンバリング)	FLE101-A51	2.科目名	基礎英語（再）※再履修の学生のみが履修		3.単位数	2
4.授業担当教員	丸橋良雄、Jason Conrad Beaton					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity： 50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。 * 楽しい授業ですから良かったら受講してください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半			Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半					

第 4 週	Grammar : 006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞① Activity : Unit 02 "What do you do?" 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習 (語彙)
第 5 週	Grammar : 009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity : Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar : 012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity : Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity : Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity : Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity : Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar : 024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity : Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity : Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar : 030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity : Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : 033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity : BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE101-M51	2.科目名	基礎英語 (再)		3.単位数	2
4.授業担当教員	Colin Rogers、家村雅子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	実践的な英語の運用能力を身につけるため、本科目は語彙力の増強と表現力の習得を目的としています。Grammar 授業では、英語で行うコミュニケーションに必要な不可欠なリスニング能力の向上に力を入れます。Activity 授業では、コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図ります。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標 (身につくスキル) は次の通りです。 ①英語の音声を聞き取ることができるようになる。 ②英語独特の表現を理解することができる。 ③音声メッセージを理解することができる。					
19.教科書・教材	初回授業で説明しますが適宜プリントも使用します。 Activity : Smart Choice 1 (Oxford University Press)					
20.参考文献	英和・和英 (英英) 辞書、電子辞書など					
21.成績評価	成績評価については、月曜日の授業 (50%) と木曜日の授業 (50%) を合わせて行います。 下記の 3 項目を基にします。 ・授業内活動 (ペアワーク・グループワークを含む) 30% ・リスニング & 語彙の復習クイズ 30% ・総括試験 (総括・振り返り) 40% Activity : 50 点 (中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点)					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室で受講生からの質問に対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント (宿題など)		
[第 1 回]	[第 1 回 (月)] オリエンテーション 					

	[第4回(木)] Unit 02 "What do you do?" 後半	予習: 次回の予習
[第5回]	[第5回(月)] Unit 4: 音の短縮(3) [第5回(木)] Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	[第5回] 復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習
[第6回]	[第6回(月)] Unit 5: 音の同化(1) [第6回(木)] Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	[第6回] 復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習
[第7回]	[第7回(月)] Unit 6: 音の同化(2) [第7回(木)] Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	[第7回] 復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習
[第8回]	[第8回(月)] Units 4 - 6 の復習 [第8回(木)] 中間テスト	[第8回] 復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習
[第9回]	[第9回(月)] Unit 7: 音の同化(3) [第9回(木)] Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	[第9回] 復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習
[第10回]	[第10回(月)] Unit 8: 音の同化(4) [第10回(木)] Unit 05 "I'm listening to music." 前半	[第10回] 復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習
[第11回]	[第11回(月)] Unit 9: 音の弱化(1) [第11回(木)] Unit 05 "I'm listening to music." 後半	[第11回] 復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習
[第12回]	[第12回(月)] Unit 10: 音の弱化(2) [第12回(木)] Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	[第12回] 復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習
[第13回]	[第13回(月)] Unit 11: 音の脱落(1) [第13回(木)] Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	[第13回] 復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 次回の予習
[第14回]	[第14回(月)] Unit 12: 音の脱落(2) [第14回(木)] BONUS 4-6	[第14回] 復習: 今回の復習および授業ノートの整理
[第15回]	[第15回(月)] 総括試験 [第15回(木)] 総括試験	[第15回] [第15回] 振り返り

1.授業コード (ナンバリング)	FLE101-Y51	2.科目名	基礎英語（再）		3.単位数	2
4.授業担当教員	友繁義典、Binondo Fairlynn Dulla					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity： 50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー	Activity: Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、001 進行形、002 助動詞① Activity：Unit 01 "Nice to meet you!"前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：003 助動詞②、004 助動詞③、005 助動詞④ Activity：Unit 01 "Nice to meet you!" 後半			Grammar: TOEIC IP 受験の準備 Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：TOEIC (L&R) IP Test Activity：Unit 02 "What do you do?" 前半					

第 4 週	Grammar : 006 助動詞⑤、007 助動詞⑥、008 不定詞① Activity : Unit 02 "What do you do?" 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習 (語彙)
第 5 週	Grammar : 009 不定詞②、010 不定詞③、011 不定詞④ Activity : Unit 03 "Do you like noodles?" 前半	
第 6 週	Grammar : 012 不定詞⑤、013 不定詞⑥、014 不定詞⑦ Activity : Unit 03 "Do you like noodles?" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 015 不定詞⑧、016 動名詞①、017 動名詞② Activity : Unit 04 "How often do you exercise?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 018 動名詞③、019 動名詞④、020 動名詞⑤ Activity : Unit 04 "How often do you exercise?" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 021 名詞①、022 名詞②、023 名詞③ Activity : Unit 05 "I'm listening to music." 前半	
第 11 週	Grammar : 024 名詞④、025 名詞⑤、026 名詞⑥ Activity : Unit 05 "I'm listening to music."後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 027 冠詞、028 比較①、029 比較② Activity : Unit 06 "Where were you yesterday?" 前半	
第 13 週	Grammar : 030 比較③、031 比較④、032 比較⑤ Activity : Unit 06 "Where were you yesterday?" 後半	Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : 033 比較⑥、034 比較⑦、035 比較⑧ Activity : BONUS 4-6	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-A51	2.科目名	総合英語Ⅰ T1		3.単位数	2
4.授業担当教員	丸橋良雄、Jason Conrad Beaton					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の４技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の４技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					
第 6 週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③			Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語		

	Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-A52	2.科目名	総合英語 I T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	酒嶋恭平、Colin Rogers					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					
第 6 週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③			Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語		

	Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-A53	2.科目名	総合英語Ⅰ T3		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一、Jasper von Meerheimb					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity： Smart Choice 1 Student Book - Fourth Edition（Oxford University Press）ISBN 978-0-19-406099-8					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity： 50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					

第 6 週	Grammar : 051 文型①、052 文型②、053 文型③ Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-A54	2.科目名	総合英語Ⅰ T4		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一、Jasper von Meerheimb					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity： Smart Choice 1 Student Book - Fourth Edition（Oxford University Press）ISBN 978-0-19-406099-8					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity： 50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					

第 6 週	Grammar : 051 文型①、052 文型②、053 文型③ Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-A55	2.科目名	総合英語Ⅰ T5		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡田房子、Jason Conrad Beaton					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					
第 6 週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③			Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語		

	Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-A56	2.科目名	総合英語Ⅰ T6		3.単位数	2
4.授業担当教員	坂本晃平、Colin Rogers					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					
第 6 週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③			Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語		

	Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-M51	2.科目名	総合英語Ⅰ 経営 T1		3.単位数	2
4.授業担当教員	丸橋良雄、Colin Rogers					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					
第 6 週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③			Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語		

	Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-M52	2.科目名	総合英語Ⅰ 経営 T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	山縣節子、未定					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					
第 6 週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③			Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語		

	Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-M53	2.科目名	総合英語Ⅰ 経営 T3		3.単位数	2
4.授業担当教員	Colin Rogers、丸橋良雄					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					
第 6 週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③			Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語		

	Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-M54	2.科目名	総合英語Ⅰ 経営 T4		3.単位数	2
4.授業担当教員	Duane Edward Rowe、家村雅子					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					
第 6 週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③			Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語		

	Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-M55	2.科目名	総合英語Ⅰ 看護 T1		3.単位数	2
4.授業担当教員	丸橋良雄、Colin Rogers					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					
第 6 週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③			Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語		

	Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-M56	2.科目名	総合英語Ⅰ 看護 T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	山縣節子、未定					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					
第 6 週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③			Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語		

	Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-M57	2.科目名	総合英語Ⅰ 看護 T3		3.単位数	2
4.授業担当教員	Colin Rogers、丸橋良雄					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					
第 6 週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③			Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語		

	Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-M58	2.科目名	総合英語Ⅰ 看護 T4		3.単位数	2
4.授業担当教員	Duane Edward Rowe、家村雅子					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					
第 6 週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③			Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語		

	Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-Y51	2.科目名	総合英語Ⅰ T1		3.単位数	2
4.授業担当教員	川部純巳、Jason Conrad Beaton					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					
第 6 週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③			Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語		

	Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-Y52	2.科目名	総合英語 I T2		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一、Binondo Fairlynn Dulla					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DP との関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press） 4th Edition					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity： 50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー	Activity: Monday-Friday: Kobe Yamate Campus Building 3 (Global Gakushuu Plaza, Rm-016)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					

第 6 週	Grammar : 051 文型①、052 文型②、053 文型③ Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12, REVIEW 10-12, Final Task	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-Y53	2.科目名	総合英語Ⅰ T3		3.単位数	2
4.授業担当教員	友繁義典、Louisa Green					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					
第 6 週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③			Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語		

	Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-Y54	2.科目名	総合英語 I T4		3.単位数	2
4.授業担当教員	和泉有香、Michael Heller					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし			11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半			Grammar: 今回授業分の復習と暗唱		
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③			Grammar: 今回授業分の復習と暗唱		

	Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 前半	
第 6 週	Grammar : 051 文型①、052 文型②、053 文型③ Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	Grammar: 中間テストの準備
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	Grammar: 中間テストの見直し
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	Grammar: 期末テストの準備
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-Y55	2.科目名	総合英語Ⅰ T5		3.単位数	2
4.授業担当教員	平井尚生、Daniel David Scott					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					
第 6 週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③			Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語		

	Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-Y56	2.科目名	総合英語Ⅰ T6		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一、Ian Matthew Allensworth					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					
第 6 週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③			Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語		

	Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-Y57	2.科目名	総合英語 I T7		3.単位数	2
4.授業担当教員	和泉有香、Jason Conrad Beaton					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半			Grammar: 今回授業分の復習と暗唱		
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③			Grammar: 今回授業分の復習と暗唱		

	Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 前半	
第 6 週	Grammar : 051 文型①、052 文型②、053 文型③ Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	Grammar: 中間テストの準備
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	Grammar: 中間テストの見直し
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Grammar: 今回授業分の復習と暗唱 Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	Grammar: 期末テストの準備
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE102-Y58	2.科目名	総合英語Ⅰ T8		3.単位数	2
4.授業担当教員	権延ジュ、Louisa Green					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 1（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：036 比較⑨、037 形容詞①、038 形容詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 前半			Activity: Unit 07 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：039 形容詞③、040 副詞①、041 副詞② Activity：Unit 07 "Which one is cheaper?" 後半			Activity: Unit 07 の復習と Unit08 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：042 副詞③、043 副詞④、044 副詞⑤ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 前半					
第 4 週	Grammar：045 動詞①、046 動詞②、047 動詞③ Activity：Unit 08 "They're very friendly." 後半			Activity: Unit 08 の復習と Unit09 の予習（語彙）		
第 5 週	Grammar：048 受動態①、049 受動態②、050 受動態③ Activity：Unit 09 "You can visit the zoo." 前半					
第 6 週	Grammar：051 文型①、052 文型②、053 文型③			Activity: Unit 09 の復習と Unit10 の予習（語		

	Activity : Unit 09 "You can visit the zoo." 後半 (BONUS 07-09 は任意)	彙)
第 7 週	Grammar : 054 文型④、055 原形不定詞、056 完了形① Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 057 完了形②、058 完了形③、059 完了形④ Activity : Unit 10 "Is there a coffee shop?" 後半	Activity: Unit 10 の復習と Unit11 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 060 完了形⑤、061 完了形⑥、062 時制の一致 Activity : Unit 11 "I had a good time." 前半	
第 11 週	Grammar : 063 分詞①、064 分詞②、065 分詞③ Activity : Unit 11 "I had a good time." 後半	Activity: Unit 11 の復習と Unit12 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 066 分詞④、067 分詞⑤、068 分詞⑥ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."前半	
第 13 週	Grammar : 069 分詞構文①、070 分詞構文②、071 分詞構文③ Activity : Unit 12 "I'm going to go by car."後半	Activity: Unit 12 の復習
第 14 週	Grammar : 072 分詞構文④、073 分詞構文⑤ Activity : BONUS 10-12	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE103-A51	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ T1		3.単位数	1
4.授業担当教員	丸橋良雄					
5.授業科目の区分	必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、450 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 TOEIC L&R450 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] (桐原書店)					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト及び平常点：60 点 期末テスト：40 点					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					
第 4 回	Unit 04					

第 5 回	Unit 05	
第 6 回	Unit 06	
第 7 回	Unit 07	
第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE103-A52	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ T2		3.単位数	1
4.授業担当教員	酒嶋恭平					
5.授業科目の区分	必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、450 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 TOEIC L&R450 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] (桐原書店)					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト及び平常点：60 点 期末テスト：40 点					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					
第 4 回	Unit 04					

第 5 回	Unit 05	
第 6 回	Unit 06	
第 7 回	Unit 07	
第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE103-A53	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ T3		3.単位数	1
4.授業担当教員	佐橋謙一					
5.授業科目の区分	必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、450 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 TOEIC L&R450 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] (桐原書店)					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト及び平常点：60 点 期末テスト：40 点					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					
第 4 回	Unit 04					

第 5 回	Unit 05	
第 6 回	Unit 06	
第 7 回	Unit 07	
第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE103-A54	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ T4		3.単位数	1
4.授業担当教員	佐橋謙一					
5.授業科目の区分	必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、450 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と D P との関連	【学習目標】 TOEIC L&R450 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] (桐原書店)					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト及び平常点：60 点 期末テスト：40 点					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					
第 4 回	Unit 04					

第 5 回	Unit 05	
第 6 回	Unit 06	
第 7 回	Unit 07	
第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE103-A55	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ T5		3.単位数	1
4.授業担当教員	岡田房子					
5.授業科目の区分	必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、450 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 TOEIC L&R450 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] (桐原書店)					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト及び平常点：60 点 期末テスト：40 点					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					
第 4 回	Unit 04					

第 5 回	Unit 05	
第 6 回	Unit 06	
第 7 回	Unit 07	
第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE103-A56	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ T6		3.単位数	1
4.授業担当教員	坂本晃平					
5.授業科目の区分	必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、450 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と D P との関連	【学習目標】 TOEIC L&R450 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] (桐原書店)					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト及び平常点：60 点 期末テスト：40 点					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					
第 4 回	Unit 04					

第 5 回	Unit 05	
第 6 回	Unit 06	
第 7 回	Unit 07	
第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE103-M51	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ 経営 T1		3.単位数	1
4.授業担当教員	Colin Rogers					
5.授業科目の区分	必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、450 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 TOEIC L&R450 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] (桐原書店)					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト及び平常点：60 点 期末テスト：40 点					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					
第 4 回	Unit 04					

第 5 回	Unit 05	
第 6 回	Unit 06	
第 7 回	Unit 07	
第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE103-M53	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ 経営 T3		3.単位数	1
4.授業担当教員	丸橋良雄					
5.授業科目の区分	必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、450 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 TOEIC L&R450 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] (桐原書店)					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト及び平常点：60 点 期末テスト：40 点					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					
第 4 回	Unit 04					

第 5 回	Unit 05	
第 6 回	Unit 06	
第 7 回	Unit 07	
第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE103-M54	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ 経営 T4		3.単位数	1
4.授業担当教員	家村雅子					
5.授業科目の区分	必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、450 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 TOEIC L&R450 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] (桐原書店)					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト及び平常点：60 点 期末テスト：40 点					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					
第 4 回	Unit 04					

第 5 回	Unit 05	
第 6 回	Unit 06	
第 7 回	Unit 07	
第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE103-Y51	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ T1		3.単位数	1
4.授業担当教員	川部純巳					
5.授業科目の区分	必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、450 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 TOEIC L&R450 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] (桐原書店)					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト及び平常点：60 点 期末テスト：40 点					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					
第 4 回	Unit 04					

第 5 回	Unit 05	
第 6 回	Unit 06	
第 7 回	Unit 07	
第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE103-Y52	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ T2		3.単位数	1
4.授業担当教員	佐橋謙一					
5.授業科目の区分	必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、450 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 TOEIC L&R450 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] (桐原書店)					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト及び平常点：60 点 期末テスト：40 点					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					
第 4 回	Unit 04					

第 5 回	Unit 05	
第 6 回	Unit 06	
第 7 回	Unit 07	
第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE103-Y53	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ T3		3.単位数	1
4.授業担当教員	友繁義典					
5.授業科目の区分	必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、450 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 TOEIC L&R450 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] (桐原書店)					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト及び平常点：60 点 期末テスト：40 点					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					
第 4 回	Unit 04					

第 5 回	Unit 05	
第 6 回	Unit 06	
第 7 回	Unit 07	
第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE103-Y54	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ T4		3.単位数	1
4.授業担当教員	和泉有香					
5.授業科目の区分	必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、450 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 TOEIC L&R450 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] (桐原書店)					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト及び平常点：60 点 期末テスト：40 点					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					
第 4 回	Unit 04					

第 5 回	Unit 05	
第 6 回	Unit 06	
第 7 回	Unit 07	
第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE103-Y58	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ T8		3.単位数	1
4.授業担当教員	平井尚生					
5.授業科目の区分	必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、450 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 TOEIC L&R450 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] (桐原書店)					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト及び平常点：60 点 期末テスト：40 点					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					
第 4 回	Unit 04					

第 5 回	Unit 05	
第 6 回	Unit 06	
第 7 回	Unit 07	
第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE103-Y59	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ T9		3.単位数	1
4.授業担当教員	佐橋謙一					
5.授業科目の区分	必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	＊教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 ＊再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、450 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 TOEIC L&R450 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] (桐原書店)					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト及び平常点：60 点 期末テスト：40 点					
22.コメント	＊必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 ＊授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					
第 4 回	Unit 04					

第 5 回	Unit 05	
第 6 回	Unit 06	
第 7 回	Unit 07	
第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE103-Y60	2.科目名	オーラルイングリッシュⅠ T10		3.単位数	1
4.授業担当教員	和泉有香					
5.授業科目の区分	必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、450 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 TOEIC L&R450 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST All in One [New Edition] (桐原書店)					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト及び平常点：60 点 期末テスト：40 点					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					
第 4 回	Unit 04					

第 5 回	Unit 05	
第 6 回	Unit 06	
第 7 回	Unit 07	
第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE105-A81	2.科目名	インテンシブ イングリッシュ II		3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤恵一					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件	以下のいずれかに当てはまること 「TOEIC の受験経験があり、500 点を目標に学習したい」 「夏学期のインテンシブイングリッシュ I を受講して、さらに学習を深めたい」 「上記のいずれでもないが、TOEIC の受験予定があり、準備学習をしたい」		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的 この科目は、英文法の基礎を習得し、TOEIC で合計スコア 500 点以上を取得できるような基礎的な英語力を身につけることを目的とします。 概要 ただ問題を解くだけではなく、英文法を理解し、正しく英文を読むための基礎力を身につけます。学習した英文法を使っの作文や音読などのアウトプット活動も行い、理解の深化と身体化も目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	① 実用的な語学力 ② 他者と協働するコミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	Key Strategies for Success on the TOEIC L&R Test [Level 500]（朝日出版社）					
20.参考文献	授業内で適宜紹介、必要な場合はプリントを配布					
21.成績評価	授業参加度 30 点…学習目標②に対応 小テスト 30 点…学習目標①に対応 最終試験 40 点…学習目標①に対応 合計 60 点以上で合格となる					
22.コメント	・ 授業の進度や内容は受講生の理解度に合わせて変更する場合があります。 ・ ペアワーク、グループワークを使って授業を進めます。積極的な参加を求めます。					
23.オフィスアワー	授業前後に教室や講師控え室で。もしくは e-mail での対応とする。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	コースガイダンスとプレテスト			教科書を必ず持参すること。 プレテストの結果を分析し、自分の弱点を客観的に把握する。		
第 2 回	短文穴埋め問題の学習 Unit R-1：品詞			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		
第 3 回	写真問題の学習 Unit L-1：写真問題（人物が写っている写真） Unit L-2：写真問題（人物が写っていない写真）			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		
第 4 回	短文穴埋め問題の学習 Unit R-2：動詞のかたち 1（受動態／能動態） Unit R-3：動詞のかたち 2（時制、その他）			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		
第 5 回	応答問題の学習			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		

	Unit L-3：疑問詞で始まる疑問文 Unit L-4：Yes/No 疑問文、その他の疑問文	
第 6 回	短文穴埋め問題の学習 Unit R-4：前置詞／接続詞 Unit R-5：代名詞、関係代名詞	単語の予習、文法事項の復習、例文の音読
第 7 回	応答問題の学習 Unit L-5：平叙文、意外な応答 Unit L-6：機能別疑問文	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 8 回	長文穴埋め問題の学習 Unit R-6：長文穴埋め問題 読解問題の学習 Unit R-7：広告、チャット	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 9 回	会話問題の学習 Unit L-7：次の行動を問う問題 Unit L-8：問題点、提案、申し出を問う問題 Unit L-9：目的、依頼、話者の意図を問う問題	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 10 回	読解問題の学習 Unit R-8：Eメール、手紙 Unit R-9：告知、社内回覧 Unit R-10：記事	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 11 回	スピーチ問題の学習 Unit L-10：録音メッセージ、アナウンス Unit L-11：トーク、会議、ニュース Unit L-12：図表がついた問題	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 12 回	読解問題の学習 Unit R-11：ダブルパッセージ Unit R-12：トリプルパッセージ	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 13 回	総復習 1 Unit R-13：穴埋め問題の復習 Unit L-13：写真問題と会話問題の復習	単語の予習、不確かな文法事項の復習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 14 回	Unit R-14：読解問題の復習 Unit L-14：応答問題とスピーチ問題の復習	単語の予習、不確かな文法事項の復習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 15 回	まとめと授業内試験	総復習をして試験に臨む、試験終了後は自分の学習を振り返り今後の学習計画の指針とする

1.授業コード (ナンバリング)	FLE105-M81	2.科目名	インテンシブ イングリッシュ II		3.単位数	1
4.授業担当教員	上仲淳					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	概要：この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じる。 目的：TOEIC テストの得点向上を目指す。					
18.学習目標と DP との関連	TOEIC L&R500 点以上を取得する。 DP ④問題発見・解決力 ⑤コミュニケーションスキルに関連する。					
19.教科書・教材	『KEY STRATEGIES FOR SUCCESS ON THE TOEIC L&R TEST Level 500』朝日出版社					
20.参考文献						
21.成績評価	平常点 30 点 小テスト 30 点 最終テスト 40 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit L-1 Unit R-1					
第 2 回	Unit L-2 Unit R-2					
第 3 回	Unit L-3 Unit R-3					
第 4 回	Unit L-4 Unit R-4					
第 5 回	Unit L-5 Unit R-5					
第 6 回	Unit L-6 Unit R-6					
第 7 回	Unit L-7 Unit R-7					
第 8 回	Unit L-8 Unit R-8					
第 9 回	Unit L-9 Unit R-9					
第 10 回	Unit L-10 Unit R-10					
第 11 回	Unit L-11 Unit R-11					
第 12 回	Unit L-12 Unit R-12					

第 13 回	Unit L-13 Unit R-13	
第 14 回	Unit L-15 Unit R-15	
第 15 回	模擬テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE105-Y81	2.科目名	インテンシブ イングリッシュ II		3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤恵一					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件	以下のいずれかに当てはまること 「TOEIC の受験経験があり、500 点を目標に 学習したい」 「夏学期のインテンシブイングリッシュ I を 受講して、さらに学習を深めたい」 「上記のいずれでもないが、TOEIC の受験 予定があり、準備学習をしたい」		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的 この科目は、英文法の基礎を習得し、TOEIC で合計スコア 500 点以上を取得できるような基礎 的な英語力を身につけることを目的とします。 概要 ただ問題を解くだけではなく、英文法を理解し、正しく英文を読むための基礎力を身につけま す。学習した英文法を使っの作文や音読などのアウトプット活動も行い、理解の深化と身体 化も目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	① 実用的な語学力 ② 他者と協働するコミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	Key Strategies for Success on the TOEIC L&R Test [Level 500]（朝日出版社）					
20.参考文献	授業内で適宜紹介、必要な場合はプリントを配布					
21.成績評価	授業参加度 30 点…学習目標②に対応 小テスト 30 点…学習目標①に対応 最終試験 40 点…学習目標①に対応 合計 60 点以上で合格となる					
22.コメント	・ 授業の進度や内容は受講生の理解度に合わせて変更する場合があります。 ・ ペアワーク、グループワークを使って授業を進めます。積極的な参加を求めます。					
23.オフィスアワー	授業前後に教室や講師控え室で。もしくは e-mail での対応とする。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	コースガイダンスとプレテスト			教科書を必ず持参すること。 プレテストの結果を分析し、自分の弱点を客 観的に把握する。		
第 2 回	短文穴埋め問題の学習 Unit R-1：品詞			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		
第 3 回	写真問題の学習 Unit L-1：写真問題（人物が写っている写真） Unit L-2：写真問題（人物が写っていない写真）			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		
第 4 回	短文穴埋め問題の学習 Unit R-2：動詞のかたち 1（受動態／能動態） Unit R-3：動詞のかたち 2（時制、その他）			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		
第 5 回	応答問題の学習			単語の予習、文法事項の復習、例文の音読		

	Unit L-3：疑問詞で始まる疑問文 Unit L-4：Yes/No 疑問文、その他の疑問文	
第 6 回	短文穴埋め問題の学習 Unit R-4：前置詞／接続詞 Unit R-5：代名詞、関係代名詞	単語の予習、文法事項の復習、例文の音読
第 7 回	応答問題の学習 Unit L-5：平叙文、意外な応答 Unit L-6：機能別疑問文	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 8 回	長文穴埋め問題の学習 Unit R-6：長文穴埋め問題 読解問題の学習 Unit R-7：広告、チャット	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 9 回	会話問題の学習 Unit L-7：次の行動を問う問題 Unit L-8：問題点、提案、申し出を問う問題 Unit L-9：目的、依頼、話者の意図を問う問題	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 10 回	読解問題の学習 Unit R-8：Eメール、手紙 Unit R-9：告知、社内回覧 Unit R-10：記事	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 11 回	スピーチ問題の学習 Unit L-10：録音メッセージ、アナウンス Unit L-11：トーク、会議、ニュース Unit L-12：図表がついた問題	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 12 回	読解問題の学習 Unit R-11：ダブルパッセージ Unit R-12：トリプルパッセージ	単語の予習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 13 回	総復習 1 Unit R-13：穴埋め問題の復習 Unit L-13：写真問題と会話問題の復習	単語の予習、不確かな文法事項の復習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 14 回	Unit R-14：読解問題の復習 Unit L-14：応答問題とスピーチ問題の復習	単語の予習、不確かな文法事項の復習、読解パッセージの復習、例文の音読
第 15 回	まとめと授業内試験	総復習をして試験に臨む、試験終了後は自分の学習を振り返り今後の学習計画の指針とする

1.授業コード (ナンバリング)	FLE106-Y51	2.科目名	英語Ⅱ		3.単位数	4
4.授業担当教員	前田哲男					
5.授業科目の区分	共通選択	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 学年以上	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、記述文法を学び、オーディオ・リンガル・メソッドによるパターン・プラクティスを通して、実際に口頭で運用できるようになることを学習目標とする。 また、基盤教育の必修科目で学んだ英語基礎及び英語総合の内容に加え、より複雑な文章を運用できることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。					
19.教科書・教材	英語のハノン（上級） 筑摩書房					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 通常点 40 点（各ユニット終了後に実施する小テスト、授業参加姿勢等）					
22.コメント	教科書を購入していない学生については、評価の対象外とすることがあります。 対面での授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示で使用する場合を除き、原則禁止とします。					
23.オフィスアワー	特に時間は定めませんが、相談や質問がある場合は、研究室に来てください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	オリエンテーション 第 1 回：Unit 1 関係代名詞(1) 第 2 回：Unit 1 関係代名詞(1) 第 3 回：Unit 1 関係代名詞(1) 第 4 回：Unit 1 関係代名詞(1)					
第 2 週	第 5 回：Unit 2 関係代名詞(2) 第 6 回：Unit 2 関係代名詞(2) 第 7 回：Unit 2 関係代名詞(2) 第 8 回：Unit 2 関係代名詞(2)					
第 3 週	第 9 回：Unit 3 関係代名詞(3) 第 10 回：Unit 3 関係代名詞(3) 第 11 回：Unit 3 関係代名詞(3) 第 12 回：Unit 4 関係代名詞(4)					
第 4 週	第 13 回：Unit 4 関係代名詞(4) 第 14 回：Unit 4 関係代名詞(4) 第 15 回：Unit 5 関係代名詞(5) 第 16 回：Unit 5 関係代名詞(5)					

第 5 週	第 17 回 : Unit 5 関係代名詞(5) 第 18 回 : Unit 5 関係代名詞(5) 第 19 回 : Unit 5 関係代名詞(5) 第 20 回 : Unit 5 関係代名詞(5)	
第 6 週	第 21 回 : Unit 6 関係代名詞(6) 第 22 回 : Unit 6 関係代名詞(6) 第 23 回 : Unit 6 関係代名詞(6) 第 24 回 : Unit 6 関係代名詞(6)	
第 7 週	第 25 回 : Unit 7 関係副詞関係形容詞 第 26 回 : Unit 7 関係副詞関係形容詞 第 27 回 : Unit 7 関係副詞関係形容詞 第 28 回 : Unit 7 関係副詞関係形容詞	
第 8 週	第 29 回 : Unit 7 関係副詞関係形容詞 第 30 回 : 中間テスト 第 31 回 : Unit 8 複合関係詞 第 32 回 : Unit 8 複合関係詞	
第 9 週	第 33 回 : Unit 8 複合関係詞 第 34 回 : Unit 8 複合関係詞 第 35 回 : Unit 9 名詞構文 第 36 回 : Unit 9 名詞構文	
第 10 週	第 37 回 : Unit 9 名詞構文 第 38 回 : Unit 9 名詞構文 第 39 回 : Unit 10 強調構文 第 40 回 : Unit 10 強調構文	
第 11 週	第 41 回 : Unit 10 強調構文 第 42 回 : Unit 10 強調構文 第 43 回 : Unit 10 強調構文 第 44 回 : Unit 11 助動詞 have PP	
第 12 週	第 45 回 : Unit 11 助動詞 have PP 第 46 回 : Unit 11 助動詞 have PP 第 47 回 : Unit 12 仮定法 1 第 48 回 : Unit 12 仮定法 1	
第 13 週	第 49 回 : Unit 12 仮定法 1 第 50 回 : Unit 12 仮定法 1 第 51 回 : Unit 12 仮定法 1 第 52 回 : Unit 13 仮定法 2	
第 14 週	第 53 回 : Unit 13 仮定法 2 第 54 回 : Unit 13 仮定法 2 第 55 回 : Unit 13 仮定法 2 第 56 回 : Unit 14 仮定法 3	
第 15 週	第 57 回 : Unit 14 仮定法 3 第 58 回 : Unit 14 仮定法 3 第 59 回 : Unit 14 仮定法 3 第 60 回 : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE109-Y51	2.科目名	英語基礎 2 【観光】 a		3.単位数	2
4.授業担当教員	権延ジュ					
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	1 学年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	高校までに学んだ学校文法を体系的に総整理しながら、文法の知識にとどまらず、パターン・プラクティスやペアワーク等を通して、何度も自ら発話する機会を多く設け、実際に口頭で運用できるようになることを学習目標とする。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、その言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は、英語を母国語とする文化圏の文化やその地域を理解することにつながり、またグローバルなコミュニケーションスキルを身に付けることに直結するものである。					
19.教科書・教材	英文法授業ノート（ペリカン社）					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 通常点 40 点（各5 ユニット終了後に実施する小テスト、授業参加姿勢等）					
22.コメント	教科書を購入していない学生については、評価の対象外とすることがあります。 対面での授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示で使用する場合を除き、原則禁止とします。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	第1回：オリエンテーション 054 文型④ 第2回：055 原形不定詞、056 完了形①					
第2週	第3回：057 完了形②、058 完了形③ 第4回：059 完了形④、060 完了形⑤					
第3週	第5回：061 完了形⑥、062 時制の一致 第6回：063 分詞①、064 分詞②					
第4週	第7回：065 分詞③、066 分詞④ 第8回：067 分詞⑤、068 分詞⑥					
第5週	第9回：069 分詞構文①、070 分詞構文② 第10回：071 分詞構文③、072 分詞構文④					
第6週	第11回：073 分詞構文⑤、074 関係詞① 第12回：075 関係詞②、076 関係詞③					
第7週	第13回：077 関係詞④、078 関係詞⑤ 第14回：079 関係詞⑥、080 接続詞①					
第8週	第15回：081 接続詞②、082 否定文① 第16回：中間テスト					

第 9 週	第 17 回：083 否定文②、084 否定文③ 第 18 回：085 否定文④、086 否定文⑤	
第 10 週	第 19 回：087 疑問文①、088 疑問文② 第 20 回：089 疑問文③、090 疑問文④	
第 11 週	第 21 回：091 付加疑問①、092 付加疑問② 第 22 回：093 話法①、094 話法②	
第 12 週	第 23 回：095 仮定法①、096 仮定法② 第 24 回：097 仮定法③、098 代名詞①	
第 13 週	第 25 回：099 代名詞②、100 代名詞③ 第 26 回：101 代名詞④、102 数詞①	
第 14 週	第 27 回：103 数詞②、104 数詞③ 第 28 回：105 前置詞①、106 前置詞②	
第 15 週	第 29 回：107 前置詞③、108 前置詞④ 第 30 回：期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE109-Y52	2.科目名	英語基礎 2 【観光】 b		3.単位数	2
4.授業担当教員	前田哲男					
5.授業科目の区分	共通必修		6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科				9.履修学年	1 学年
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	高校までに学んだ学校文法を体系的に総整理しながら、文法の知識にとどまらず、パターン・プラクティスやペアワーク等を通して、何度も自ら発話する機会を多く設け、実際に口頭で運用できるようになることを学習目標とする。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、その言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は、英語を母国語とする文化圏の文化やその地域を理解することにつながり、またグローバルなコミュニケーションスキルを身に付けることに直結するものである。					
19.教科書・教材	英文法授業ノート（ペリカン社）					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 通常点 40 点（各5 ユニット終了後に実施する小テスト、授業参加姿勢等）					
22.コメント	教科書を購入していない学生については、評価の対象外とすることがあります。 対面での授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示で使用する場合を除き、原則禁止とします。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	第1回：オリエンテーション 054 文型④ 第2回：055 原形不定詞、056 完了形①					
第2週	第3回：057 完了形②、058 完了形③ 第4回：059 完了形④、060 完了形⑤					
第3週	第5回：061 完了形⑥、062 時制の一致 第6回：063 分詞①、064 分詞②					
第4週	第7回：065 分詞③、066 分詞④ 第8回：067 分詞⑤、068 分詞⑥					
第5週	第9回：069 分詞構文①、070 分詞構文② 第10回：071 分詞構文③、072 分詞構文④					
第6週	第11回：073 分詞構文⑤、074 関係詞① 第12回：075 関係詞②、076 関係詞③					
第7週	第13回：077 関係詞④、078 関係詞⑤ 第14回：079 関係詞⑥、080 接続詞①					
第8週	第15回：081 接続詞②、082 否定文① 第16回：中間テスト					

第 9 週	第 17 回：083 否定文②、084 否定文③ 第 18 回：085 否定文④、086 否定文⑤	
第 10 週	第 19 回：087 疑問文①、088 疑問文② 第 20 回：089 疑問文③、090 疑問文④	
第 11 週	第 21 回：091 付加疑問①、092 付加疑問② 第 22 回：093 話法①、094 話法②	
第 12 週	第 23 回：095 仮定法①、096 仮定法② 第 24 回：097 仮定法③、098 代名詞①	
第 13 週	第 25 回：099 代名詞②、100 代名詞③ 第 26 回：101 代名詞④、102 数詞①	
第 14 週	第 27 回：103 数詞②、104 数詞③ 第 28 回：105 前置詞①、106 前置詞②	
第 15 週	第 29 回：107 前置詞③、108 前置詞④ 第 30 回：期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE109-Y53	2.科目名	英語基礎 2 【G コミ】 L2 (1/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本由紀子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習 & 講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	(目的) CEFR A1 レベルに必要なスキルのうち、特に文法知識と文構造の理解に焦点を当てて、英語力を養います。 (概要) This course focuses on grammar knowledge of CEFR A1 Level. You will learn the following ; 1) Parts of Speech 2) Types of verbs 3) Basic determiners 4) Basic sentence structure (phrase, clause)					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はDP (ディプロマ・ポリシー) の (1) 自律性 (4) 問題発見・解決力、の学修に関連しています。 1. Show an understanding of basic grammar. 2. Follow and understand basic sentence structure					
19.教科書・教材	私たちの未来を考える 英語で学ぶ SDGs Thinking About Our Future—Learning About the SDGs in English Paul G. Quinn 著/ 岡裏佳幸 著 三修社					
20.参考文献	to be announced in class					
21.成績評価	・ Quiz & Mid-term test 40% ・ Final Test 20% ・ assignment & task 40%					
22.コメント	Bring the textbook and a dictionary.					
23.オフィスアワー	月・木の授業の前後で教室や講師控室で対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Course Orientation			語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)		
Week 2	Group work: discuss the answers SDG 1: No Poverty			語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)		
Week 3	Group work: discuss the answers SDG 2: Zero Hunger			語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)		

Week 4	Group work: discuss the answers SDG 3: Good Health and Well-Being	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
Week 5	Group work: discuss the answers SDG 4: Quality Education	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
	Group work: discuss the answers SDG 5: Gender Equality	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
	Group work: discuss the answers SDG 6: Clean Water and Sanitation	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
	Group work: discuss the answers SDG 7: Affordable and Clean Energy	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
	Group work: discuss the answers SDG 8: Decent Work and Economic Growth	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
	Group work: discuss the answers SDG 9: Industry, Innovation, and Infrastructure	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
	Group work: discuss the answers SDG 10: Reduced Inequalities	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
	Group work: discuss the answers SDG 11: Sustainable Cities and Communities	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
	Group work: discuss the answers SDG 12: Responsible Consumption and Production	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
	Group work: discuss the answers SDG 13: Climate Action	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
	Review and Final Examination	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE109-Y55	2.科目名	英語基礎2 【G コミ】 L2 (2/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	川部純巳					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	At the end of the semester, students are expected acquire both business and everyday conversational English skills. Specifically, they: 1) learn how English is used naturally in a variety of work environments through dialogues between clients, employers, and co-workers, which allows students to see the different styles of conversations in the workplace. 2) strengthen their English knowledge, building up self-confidence, and testing competency, such as TOEIC tests. 3) think critically and discuss with classmates about some case studies of Google, Apple, Amazon and other companies.					
18.学習目標と DPとの関連	At the end of the semester, students are expected to successfully achieve the following abilities set by the Department: 1) 自律的で主体的な態度 (自律性) Autonomous and independent attitude (autonomy) 2) 問題発見・解決力 Problem finding and solving ability 3) コミュニケーションスキル Communication skills 4) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力 (Understanding Diversity)					
19.教科書・教材	CLIL Intercultural Awareness (著 笹島 茂 / 工藤泰三 / 他) ISBN 978-4-384-33494-4 C1082					
20.参考文献						
21.成績評価	平常点 40 点、English Only 10 点、 小テスト 20 点、総括試験(Final test) 30 点					
22.コメント	* 授業中の携帯電話の使用を禁止します。 * テキスト忘れや、授業に参加していない(携帯を見ている/居眠り/私語など)、宿題をしていない等の場合には、欠席扱いとなることがあります。 * 授業内での活動及び assignments を重視している為、欠席しないように十分に注意してください。 * 提出期限が過ぎた assignments などは受理しないので点数はゼロである。 * 翻訳機の使用や剽窃が疑われる課題の点数はゼロである。 * やむ終えず欠席してしまった場合、必ず次の授業までに担当教員より学習内容及び宿題を確認し、次の					
23.オフィスアワー	質問は授業の前と後、もしくはメールにて受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	DAY 1: Course Orientation: Syllabus, UNIT 1 DAY 2: UNIT 1					
Week 2	DAY 3: UNIT 2 DAY 4: UNIT 2					

Week 3	DAY 5: UNIT 3 DAY 6: UNIT 3	
Week 4	DAY 7: UNIT 4 DAY 8: UNIT 4	
Week 5	DAY 9: UNIT 5 DAY 10: UNIT 5	
Week 6	DAY 11: UNIT 6 DAY 12: UNIT 6	
Week 7	DAY 13: UNIT 7 DAY 14: UNIT 7	
Week 8	DAY 15: UNIT 8 DAY 16: UNIT 8	
Week 9	DAY 17: UNIT 9 DAY 18: UNIT 9	
Week 10	DAY 19: UNIT 10 DAY 20: UNIT 10	
Week 11	DAY 21: UNIT 11 DAY 22: UNIT 11	
Week 12	DAY 23: UNIT 12 DAY 24: UNIT 12	
Week 13	DAY 25: Unit 13 DAY 26: Unit 13	
Week 14	DAY 27: Unit 14 DAY 28: Unit 14	
Week 15	DAY 29: UNIT 15 DAY 30: Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE111-Y51	2.科目名	オーラル・コミュニケーション2 【観光】 a		3.単位数	2
4.授業担当教員	Stelen E.Siagto					
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1 学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Discussion based		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	This is a four-skills course that will help students improve their ability to communicate in English.					
18.学習目標と DPとの関連	At the end of the course, the students will be able to: 1. have a real success communicating in English in contexts that are educationally and personally rewarding. 2. practice key reading, writing, listening, pronunciation and grammar skills through a variety of tasks. 3. be confident in bringing their own opinions and ideas in class.					
19.教科書・教材	Title: Smart Choice 2 (4th Edition) Oxford Author: Ken Wilson					
20.参考文献	Additional references will be provided during the class.					
21.成績評価	Homework 5% Worksheets/ Quizzes 25% Class Participation/Attitude 20% Midterm Test 20% Final Test 30% Total 100%					
22.コメント	1. This course is conducted in English. 2. Always bring your textbooks to class. *Please note: Students will not be allowed to take the midterm and final test if they don't purchase the textbook. 3. The use of smartphones in class is prohibited unless					
23.オフィスアワー	The instructor is on campus from Mondays to Fridays and can also be contacted via email. Building 3: Room 016 Global Gakusho Plaza					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	Day 1: Introduction Syllabus Unit 1 Day 2: Unit 1					
	Day 3 & 4: Unit 2					
	Day 5 & 6: Unit 3					
	Day 7 & 8: Unit 4					
	Day 9 & 10: Unit 5					
	Day 11 & 12: Unit 6					
	Day 13 & 14: Bonus Lessons/Project/Activity					

	Day 15: Review Day 16: Midterm Test	
	Day 17 & 18: Unit 7	
	Day 19 & 20: Unit 8	
	Day 21 & 22: Unit 9	
	Day 23 & 24: Unit 10	
	Day 25 & 26: Unit 11	
	Day 27 7 28: Unit 12	
	Day 29: Final Test Part 1 Day 30: Final Test Part 2	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE111-Y52	2.科目名	オーラル・コミュニケーション2 【観光】 b		3.単位数	2
4.授業担当教員	Liane Faye R.Andrade					
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1st year students	
10.取得資格の要件				11.先修条件	Oral Communication 1	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	This course will enable students to communicate with classmates on Zoom calls, demonstrate content knowledge and expertise in oral presentations, and communicate career goals to potential employers in job interviews.					
18.学習目標と D P との関連	Course Objectives: 1. Enable students to express their goals in class through effective oral communication. 2. Enable students to understand English topics and statements. 3. Enable students to create a comprehensive presentation about a topic that will be given to each of them.					
19.教科書・教材	Textbook title: Smart Choice 2 (Student Book) Publisher: Oxford University Press Author: Ken Wilson ISBN: 978-0-19-406114-8					
20.参考文献						
21.成績評価	1. In-class activities (points) 20% 2. Class Participation (cooperation and attitude) 20% 3. Flipgrid Homework 10% 4. Midterm Task 20% 5. Final Task 30%					
22.コメント	Note: Additional points will be given to students who will participate in English Private Lesson sessions this semester.					
23.オフィスアワー	Kobe Yamate Campus Building 3 Global Gakushu Plaza Rm 016 Monday-Friday					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1. Attendance 2. Course introduction (Attendance, syllabus overview, course requirements) 3. Textbook introduction 4. Lesson overview Unit 0: Lesson Introduction: Useful Classroom Language					
	Unit 2: Lesson Introduction and discussion					

	Unit 3: Lesson introduction and discussion	
	Unit 4: Lesson introduction and discussion	
	Unit 5: Lesson introduction and discussion	
	Unit 6: Lesson introduction and discussion	
	Unit 7: Lesson introduction and discussion	
	Midterm Task	
	Unit 8: Lesson introduction and discussion	
	Unit 9: Lesson introduction and discussion	
	Unit 10: Lesson introduction and discussion	
	Unit 11: Lesson introduction and discussion	
	Unit 12: Lesson introduction and discussion	
	Final Task: Presentation	
	Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE111-Y53	2.科目名	オーラル・コミュニケーション2 【Gコミ】 L2 (1/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	稲葉 皐					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション			9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Students of Oral Communication 2 will: ・ Develop the ability to speak in brief monologues and dialogues that include: -frequently used expressions -exchanging information -talking about one's own background and experiences ・ Develop intensive listening skills that focus on features of pronunciation ・ Make an effort to listen for main ideas and details within extensive listening tasks ・ Arrange and participate in dialogues with speaking partners outside of class and report on them					
18.学習目標と DPとの関連						
19.教科書・教材	Smart Choice 2 (Oxford)					
20.参考文献	Using a dictionary is recommended.					
21.成績評価	Speaking Reports (4 x 5%) 20% Listening Homework (5 x 5%) 25% Tests (4 x 10%) 40% Participation and effort 15%					
22.コメント	シラバスの一部の側面は変更される可能性があります。 また、障がい等により、本講義の受講の際に特別な配慮が必要な場合は事前に担当教員に申し出てください。基本は対面授業を行いますが、新型コロナウイルスの感染等特別な事情がある場合には適宜 zoom によるオンラインでの受講も認めます。その場合は事前に担当教員に申し出てください。					
23.オフィスアワー	The instructor may be contacted by email.					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Course Introduction Tech check Instructions on purchasing the textbook Unit 1 - Vocabulary and listening focus			Review course information		
Week 2	Unit 1 - Speaking focus Unit 2 - Vocabulary and listening focus			Speaking Report 1 Listening Homework 1		
Week 3	Unit 2 - Speaking focus Unit 3 - Vocabulary and listening focus			Speaking Report 1		
Week 4	Unit 3 - Speaking focus Test 1 (Units 1~3)			Speaking Report 1		
Week 5	Unit 4 - Vocabulary and listening focus Unit 4 - Speaking focus			Listening Homework 2 Speaking Report 2		
Week 6	Unit 5 - Vocabulary and listening focus			Speaking Report 2		

	Unit 5 - Speaking focus	
Week 7	Unit 6 - Vocabulary and listening focus Unit 6 - Speaking focus	Speaking Report 2
Week 8	Test 2 (Units 4~6) Unit 7 - Vocabulary and listening focus	Listening Homework 3 Speaking Report 3
Week 9	Unit 7 - Speaking focus Unit 8 - Vocabulary and listening focus	Speaking Report 3
Week 10	Unit 8 - Speaking focus Unit 9 - Vocabulary and listening focus	Speaking Report 3
Week 11	Unit 9 - Speaking focus Test 3 (Units 7~9)	Speaking Report 3 Listening Homework 4
Week 12	Unit 10 - Speaking focus Unit 10 - Vocabulary and listening focus	Speaking Report 4
Week 13	Unit 11 - Speaking focus Unit 11 - Vocabulary and listening focus	Speaking Report 4
Week 14	Unit 12 - Speaking focus Unit 12 - Vocabulary and listening focus	Listening Homework 5 Speaking Report 4
Week 15	Test 4 (Units 10~12) Feedback and course wrap-up	Make-up assignments

1.授業コード (ナンバリング)	FLE111-Y55	2.科目名	オーラル・コミュニケーション2 【Gコミ】 L2 (2/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田ひと美					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Discussion based		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	This is a four-skills course that will help students improve their ability to communicate in English. 英語力の基盤となる文法知識を確認しながら、さまざまなエクササイズを通して、英語の4技能の向上を図る。ナレーションや会話を聞いて理解したり、音読して発音練習をしたりすることに加え、パラグラフ・リーディングやライティングなどを通し、英語のインプットとアウトプットのスキルを養成する。					
18.学習目標と DPとの関連	At the end of the course, the students will be able to: 1. have a real success communicating in English in contexts that are educationally and personally rewarding. 2. practice key reading, writing, listening, pronunciation and grammar skills through a variety of tasks. 3. be confident in bringing their own opinions and ideas in class.					
19.教科書・教材	Live Escalate Book 3: Summit 成美堂					
20.参考文献	Additional references will be provided during the class.					
21.成績評価	Homework(Linguaporta) 20% Worksheets/ Essays 20% Class Participation/Attitude 20% Midterm Test 20% Final Test 20% Total 100%					
22.コメント	1. This course is conducted in both Japanese and English. 2. Always bring your textbooks to class. *Please note: Students will NOT be allowed to take the midterm and final test if they don't purchase the textbook. 教科書を購入していない学生は、中間期末テストを受験することはできません。2週目					
23.オフィスアワー	The instructor is on campus from Mondays to Fridays and can also be contacted via email. Building 3: Room 016 Global Gakusho Plaza					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	第1回 オリエンテーション シラバス内容説明、オンライン授業の流れや、Linguaporta の使い方を確認する。 第2回 Unit?1?Electronic?Device			教科書をできるだけ早く購入して授業に持参してください。購入者はLinguaporta のアカウントを作成し学習が開始できます。		
Week 2	第3回 Unit?1?Electronic?Device 第4回 Unit 2 Health and Fitness			Linguaporta Short essay		
Week 3	第5回 Unit 2 Health and Fitness			Linguaporta		

	第 6 回 Unit 3 On the Phone	Short essay
Week 4	第 7 回 Unit 3 On the Phone	Linguaporta
	第 8 回 Unit 4 Household Chores	Short essay
Week 5	第 9 回 Unit 4 Household Chores	Linguaporta
	第 10 回 Unit 5 Environmental Protection	Short essay
Week 6	第 11 回 Unit 5 Environmental Protection	Linguaporta
	第 12 回 Unit 6 Bargaining for Fun	Short essay
Week 7	第 13 回 Unit 6 Bargaining for Fun	Linguaporta
	第 14 回 Review	Short essay
Week 8	第 15 回 Midterm Test	Essay
	第 16 回 Cultural Study and Discussion	
Week 9	第 17 回 Unit 7 Affinity	Linguaporta
	第 18 回 Unit 7 Affinity	Short essay
Week 10	第 19 回 Unit 8 Culture Shock	Linguaporta
	第 20 回 Unit 8 Culture Shock	Short essay
Week 11	第 21 回 Unit 9 School Activities	Linguaporta
	第 22 回 Unit 9 School Activities	Short essay
Week 12	第 23 回 Unit 10 Asking for Directions	Linguaporta
	第 24 回 Unit 10 Asking for Directions	Short essay
Week 13	第 25 回 Unit 11 Tourist Spots	Linguaporta
	第 26 回 Unit 11 Tourist Spots	Short essay
Week 14	第 27 回 Unit 12 Studying Abroad	Linguaporta
	第 28 回 Unit 12 Studying Abroad	Short essay
Week 15	第 29 回 Review	
	第 30 回 Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE113-Y51	2.科目名	総合英語Ⅱ 【G コミ】		3.単位数	2
4.授業担当教員	横山雅彦					
5.授業科目の区分	英語教育分野における 実務経験のある教員に よる授業科目	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	ダイアログのロールプレイングと音読・暗唱、およびパターン・プラクティスによるドリルを通して、英語スピーキングの際に強力な武器となる次のような「フレーズ」を習得する。 1. 「かたまりの表現」として使えるようになっておくべき表現 2. 一般的な文法ルールからはずれた表現 3. 補足的な文法項目を用いた表現 4. 表現の幅を広げるための表現 5. 会話のいきいきとしたフロー（流れ）の中で身につけるべき表現					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 主にチャンク（かたまり）の状態で使えるようになるべき表現を、徹底的に口頭トレーニングし、英語コミュニケーションの基盤を構築する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	『英語のハノン——コミュニケーションのための英会話スーパードリル／フレーズ編』筑摩書房 * 購入については、第 1 回の授業で指示する。					
20.参考文献						
21.成績評価	平常点 60 点 小テスト 40 点					
22.コメント	教科書は、必ず指定の方法で事前に購入すること。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	第 1 回 Unit 1／Dialog 第 2 回 Unit 1／Drill					
第 2 週	第 3 回 Unit 2／Dialog 第 4 回 Unit 2／Drill					
第 3 週	第 5 回 Unit 3／Dialog 第 6 回 Unit 3／Drill					
第 4 週	第 7 回 Unit 4／Dialog 第 8 回 Unit 4／Drill					
第 5 週	第 9 回 Unit 5／Dialog					

	第 10 回 Unit 5／Drill	
第 6 週	第 11 回 Unit 6／Dialog 第 12 回 Unit 6／Drill	
第 7 週	第 13 回 Unit 7／Dialog 第 14 回 Unit 7／Drill	
第 8 週	第 15 回 Unit 8／Dialog 第 16 回 Unit 8／Drill	
第 9 週	第 17 回 Unit 9／Dialog 第 18 回 Unit 9／Drill	
第 10 週	第 19 回 Unit 10／Dialog 第 20 回 Unit 10／Drill	
第 11 週	第 21 回 Unit 11／Dialog 第 22 回 Unit 11／Drill	
第 12 週	第 23 回 Unit 12／Dialog 第 24 回 Unit 12／Drill	
第 13 週	第 25 回 Unit 13／Dialog 第 26 回 Unit 13／Drill	
第 14 週	第 27 回 Unit 14／Dialog 第 28 回 Unit 14／Drill	
第 15 週	第 29 回 Unit 20／Dialog 第 30 回 Unit 20／Drill	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE117-Y81	2.科目名	インテンシブイングリッシュⅡ 【観光】		3.単位数	1
4.授業担当教員	Liane Faye R.Andrade、Stelen E.Siagto					
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・ 選択の区分	選択の区分	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1st year~	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Lecture-discussion, presentation and exercises		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	The aim of this course is to enable students to become more effective communicators that could connect people and build relationships with them. This enables every student to be empowering individuals of the society.					
18.学習目標と D P との関連	The learning objectives (skills to acquire) of this subject are as follows. ① Students will be able to learn essential expressions in hospitality situations through actual conversations. ② Students will be able to improve their vocabulary in hospitality industry and management. ③ Students will be able to develop skills in hospitality such as; teamwork, flexibility, time management, communication, interpersonal skills, and problem-solving.					
19.教科書・教材	Title: Hospitality on the Scene Publisher: Kinseido Publishing Co., Ltd. Authors: Megumi Uesugi, Kay Abe, Chikae Ito, Yasuhiko Matsushima, Takehiko Kozue and Jacob Schere ISBN: 978-4-7647-4067-9					
20.参考文献						
21.成績評価	1. Classroom Activities 40 % (Discussion, presentations and skits) 2. Quizzes and Drills 30% 3. Final Task 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	Kobe Yamate Campus Building 3 Global Gakushu Plaza Rm 016 Monday-Friday					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1. *Course Introduction Unit 1: Transportation In-class Activity					
	2. Unit 2: At a Check-in Counter (Hotel) Goal: Practice response to check-in Group Activity: Role-play (Important sentences and appropriate manner in dealing with customers at a					

	check-in counter of a hotel.	
	3. Unit 3: Facilities and Services Goal: Hotel service such as room service and fitness center (Hotel service information)	
	Activity: Video clip reflection (comprehension test) 4. Unit 4: Giving Directions Goal: How to give directions to customers from overseas.	
	Pair Activity: Giving directions/Asking for directions. (How to get to places around the city.) 5. Unit 5: Recommending a Trip Goal: Recommending Japanese tourism spots to customers from overseas.	
	Group presentation: Name and introduce famous spots around Japan. 6. Unit 6: Dining in Japan Goal: Learn the points when guiding, meals to customers from overseas.	
	Group activity and brainstorming activity: Do's and don'ts in Japanese restaurants. 7. Unit 7: Dining in Japan (2) Goal: We will practice how to explain Japanese food that you can easily enjoy.	
	Brainstorming activity and presentation: Japanese cuisine introduction 8. Unit 8: Arranging a Tour Goal: Learn how to arrange domestic travel to customers from overseas.	
	Group Activity: Role-play (Important sentences and guidelines in arranging domestic tours.) 9. Unit 9: Staying at a Ryokan Goal: Learn the things to know and consider when staying in a Ryokan.	
	Brainstorming activity and group presentation. 10. Unit 10: Culture Experience in Japan Goal: Learn the points when introducing Japanese traditional culture to customers from overseas.	

	Group activity: Introduce Japanese culture to customers from overseas 11. Unit 11: Culture Experience in Japan (2) Goal: Introduce Japanese events and traditional entertainment in Japan. Brainstorming activity and group presentation: Traditional event	
	12. Unit 12: Japanese Souvenirs Goal: Introducing Japanese souvenirs	
	Brainstorming activity and group presentation: Unique souvenirs in different prefectures in Japan. 13. Unit 13: Dealing with Health Problems and Emergencies Goal: Learn how to deal with illnesses and injuries while traveling and how to respond to emer	
	Group Activity: Role-play (Important sentences and guidelines in dealing with unexpected situations and emergencies.) 14. Unit 14: Dealing with Complaints and Accidents Goal: Learn responses from customers to claims and inquiries.	
	Group Activity: Role-play (Important sentences and guidelines in dealing with unexpected situations. How to politely respond under pressure.) 15. Unit 15: Upon Departure Goal: Learn how to check out and make subsequent arrangements.	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE118-Y81	2.科目名	インテンシブイングリッシュⅢ 【G コミ】		3.単位数	1
4.授業担当教員	横山雅彦					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率が上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、450 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 TOEIC L&R550～600 点を取得する。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	TOEIC? L&R TEST への総合アプローチ – Intermediate – BEST PRACTICE FOR THE TOEIC? L&R TEST – Intermediate – https://shop.seibido.co.jp/s1.html?A4jcDt6p4v6rYMj+9mvqFg== (成美堂) * TESTUDY というオンライン学習システムにより、課題やテストを行います。教科書を購入しなければ、TESTUDY が利用できませんので、必ず上記のページから購入をすませてください。その際、「					
20.参考文献						
21.成績評価	小テスト：60 点 Final Test：40 点					
22.コメント	教科書は、必ず指定の方法で事前に購入すること（出版社からの直接購入）。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 1					

第 2 回	Unit 2	
第 3 回	Unit 3	
第 4 回	Unit 4	
第 5 回	Unit 5	
第 6 回	Unit 6	
第 7 回	Unit 7	
第 8 回	Unit 8	
第 9 回	Unit 9	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE119-Y51	2.科目名	英語総合 1 【G コミ】 L3		3.単位数	2
4.授業担当教員	Patrick Shorb					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択 教職必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習 単独		
16.履修制限	Students selected by department English proficiency exam.					
17.授業の目的と概要	This class is intended to raise student's English Communication Abilities to the B1 CEFR Band, ie. as an independent user of the English language. It is to help students become comfortable speaking with others on an increasingly wide array of topics. Over the course of the semester, students will go from speaking about personal/general topics to specific and academic issues.					
18.学習目標と D P との関連	This course is intended to help students approach the CEFR B1 band. According to the Council of Europe, this mastery includes the following abilities: "Can understand the main points of clear standard input on familiar matters regularly encountered in work, school, leisure, etc. Can deal with most situations likely to arise whilst travelling in an area where the language is spoken. Can produce simple connected text on topics which are familiar or of personal interest. Can describe experiences and events, dreams, hopes & ambitions and briefly give reasons and explanations for opinions and plans." https://www.coe.int/en/web/common-european-framework-reference-languages/table-1-cefr-3.3-common-reference-levels-global-scale Specifically, goals are: 1) Listening for main ideas and details 2) Conversation strategies (Interrupting, Giving Advice, Confirmation Questions, etc.) 3) Discussion strategies (Summarizing, Asking for more details, Eliciting Opinions) 4) Writing to express thoughts, ideas, and opinions In keeping with the Kansai University of International Studies' Diploma Policy, this course will enable students to do the following: 1. Can deliver effective presentations on one's own, thereby demonstrating intermediate-level self-initiative. 2. Can talk to people from other cultures by using diverse speaking pragmatics approaches and dialogue cues, thereby demonstrating intermediate-level intercultural understanding. 3. Can express opinions in English effectively and politely disagree with others in multiple academic contexts, thereby demonstrating intermediate-level communication skills.					
	"Contemporary Topics"-vol. 1 by Helen Solrzano, and Lauren Frazier (4th Edition) will be the textbook will be assigned for this course.					
20.参考文献						
21.成績評価	Conversation and Discussion Activities 40% Listening and Presentation assessments: 40% Final project (Debate): 20%					
22.コメント	Students are expected to bring a computer to every class.					

23.オフィスアワー	Usually every Friday, during lunch hour.	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Introduction of Course Psychology of Happiness	Preparation for Class Discussion
Week 2	Psychology of Happiness	Preparation for Class Discussion
Week 3	Learning Languages	Preparation for Class Discussion
Week 4	Learning Languages	Preparation for Class Discussion
Week 5	Public Health and Sleep	Preparation for Class Debate
Week 6	Public Health and Sleep	Preparation for Class Discussion
Week 7	Business and Negotiations	Preparation for Class Discussion
Week 8	Business and Negotiations	Preparation for Class Discussion
Week 9	Media Studies and Interactive Games	Preparation for Class Discussion
Week 10	Media Studies and Interactive Games	Preparation for Class Presentations
Week 11	Philosophy and Ethics	Preparation for Class Discussion
Week 12	Philosophy and Ethics	Preparation for Class Discussion
Week 13	Debate Preparation	Preparation for Class Discussion
Week 14	Debate	Preparation for Class Discussion
Week 15	Debate	Preparation for Final Assessment

1.授業コード (ナンバリング)	FLE120-Y51	2.科目名	英語総合2 【観光】		3.単位数	2
4.授業担当教員	前田哲男					
5.授業科目の区分	共通選択	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	2 学年以上	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	高校まで及び2 学年春学期までに学んだ文法項目等をベースにして、英語を聞き取る力、英語を話す力、英文を読む力、英語を書く力の四技能をバランスよく伸ばすことを目的とした授業を展開します。 また、授業では、一方的な授業にならないように心がけ、教員と学生、学生同士の、双方向的なやり取りを増やす環境づくりに努めます。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。					
19.教科書・教材	English Contrasts イングリッシュ・ガイド 基本文法で学ぶ英語の使い方 (金星堂)					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 通常点 40 点 (各ユニット終了後に実施する小テスト、授業参加姿勢等) なお、English Private Lesson を秋学期中に受けた学生には、その回数に応じて加点をします。					
22.コメント	教科書を購入していない学生については、評価の対象外とすることがあります。 対面での授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示で使用する場合を除き、原則禁止とします。					
23.オフィスアワー	特に時間は定めませんが、相談や質問がある場合は、研究室に来てください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1 週	オリエンテーション 第1 回：Unit 1 See You Soon 第2 回：Unit 1 See You Soon					
第2 週	第3 回：Unit 2 Welcome to Japan! 第4 回：Unit 2 Welcome to Japan!					
第3 週	第5 回：Unit 3 Sandy's First Sushi 第6 回：Unit 3 Sandy's First Sushi					
第4 週	第7 回：Unit 4 Festival Fun 第8 回：Unit 4 Festival Fun					
第5 週	第9 回：Unit 5 Play Ball 第10 回：Unit 5 Play Ball					
第6 週	第11 回：Unit 6 Lucky Cats 第12 回：Unit 6 Lucky Cats					
第7 週	第13 回：Unit 7 No One Sings Like Brian 第14 回：Unit 7 No One Sings Like Brian					

第 8 週	第 15 回：Unit 8 Yui's Cooking Class 第 16 回：中間テスト	
第 9 週	第 17 回：Unit 8 Yui's Cooking Class 第 18 回：Unit 9 Where's Sandy?	
第 10 週	第 19 回：Unit 9 Where's Sandy? 第 20 回：Unit 10 Let's Take a Hike	
第 11 週	第 21 回：Unit 10 Let's Take a Hike 第 22 回：Unit 11 Time for a Tour	
第 12 週	第 23 回：Unit 11 Time for a Tour 第 24 回：Unit 12 Photos from Hakone	
第 13 週	第 25 回：Unit 12 Photos from Hakone 第 26 回：Unit 13 Sho's Barbecue Party	
第 14 週	第 27 回：Unit 13 Sho's Barbecue Party 第 28 回：Unit 14 On the Go	
第 15 週	第 29 回：Unit 14 On the Go 第 30 回：期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE120-Y52	2.科目名	英語総合2 【G コミ】 L4		3.単位数	2
4.授業担当教員	遠藤泰生					
5.授業科目の区分	専門基礎	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	無し		11.先修条件	無し		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習、グループワーク		
16.履修制限	無し					
17.授業の目的と概要	目的：専門性を含んだ英文図書を精読し、その内容を英語で要約、批判する力を養う。 概要：共生グローバル社会の構築に必須の「国際労働力移動」への理解を専門入門書により培う。具体的作業としては、各章ごとの要約を担当者が行い、その報告に対するコメントを学生と教員が共有することで、英語でのディスカッションに必要なスキルを学生は習得する。					
18.学習目標と DPとの関連	① 自分の考えを自立的に表現するコミュニケーション・スキルを身に付ける。 ② 教員免許その他の英語資格を取得するための専門知識と技能を取得する。 ③ 英語文化圏における文化の多様性を理解する。					
19.教科書・教材	Khalid Koser, International Migration: a Very Short Introduction, 2nd Edition (Oxford University Press,2016). および教室で配布する補助教材					
20.参考文献	教室で適宜支持する					
21.成績評価	Routine Oral Report (30%) 学習目標①② Assigned Comment and Discussion (20%) 学習目標①② Final Review Essay (50%) 学習目標①②③ 合算で60%以上の得点を合格とする。					
22.コメント	グローバル化した世界における文化の多様性や経済格差に関する基礎知識がないと専門図書は読み進められない。英文を精読するとともに、邦文基本図書の勉強も必要になる。推奨図書は学生の学習進度に合わせて適宜、指示する。					
23.オフィスアワー	水曜昼休み、もしくは、事前に予約した時間。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	Introducing Yourself			In-class exercise of self-introduction in English		
第2回	Chapter 1 Why migration matters: Part 1			Report in English and class discussion		
第3回	Chapter 1 Why migration matters: Part 2			Report in English and class discussion		
第4回	Chapter 2 : Who is a Migrant? Part 1			Report in English and class discussion		
第5回	Chapter 2 : Who is a Migrant? Part 2			Report in English and class discussion		
第6回	Chapter 3: Migration and globalization Part 1			Report in English and class discussion		
第7回	Chapter 3: Migration and globalization Part 2			Report in English and class discussion		
第8回	Chapter 4: Migration and development Part 1			Report in English and class discussion		
第9回	Chapter 4: Migration and development Part 2			Report in English and class discussion		
第10回	Chapter 5: Irregular Migration			Report in English and class discussion		
第11回	Chapter 6: Refugees and asylum-seekers			Report in English and class discussion		
第12回	Chapter 7: Migrants in society			Report in English and class discussion		
第13回	Chapter 8: The future of international migration			Report in English and class discussion		
第14回	Review paper: proposal of structure			Peer review of ideal maps of review essays		
第15回	Review paper: completion			Due: Final class		

1.授業コード (ナンバリング)	FLE121-A51	2.科目名	アドバンスト・コミュニケーション 1		3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分	共通必修	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	中学英語教員免許 1 種 (高等英語教員免許 1 種)			9.履修学年	3rd year students	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	The goal of this class is to help students improve their communication skills so they can make connections and form relationships with others. This will make each student more able to have a positive influence in society.					
18.学習目標と DP との関連	By the end of the term, the students will be able to: Utilize the four main aspects of the English Language (Speaking, Listening, Reading, and Writing) effectively and efficiently. Improve their communication skills in various situations. Express their opinions and emotions about subjects like life, education, success, and motivation with confidence.					
19.教科書・教材	Textbook title: Smart Choice 3 (Fourth Edition) Student Book Publisher: Oxford University Press Author: Ken Wilson, Alice Savage ISBN: 978-0-19-406129-2					
20.参考文献						
21.成績評価	1. In-class activities (points) 20% 2. Class participation (cooperation and attitude) 10% 3. Homework: 10% 4. Midterm Task: 20% 5. Final Task: 40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Day 1: Course Introduction Unit 1: Introduction Useful Classroom Language Unit1 Vocabulary, Conversation, Language Practice, and Listening Day 2: Unit 1 Reading Unit 1 Speaking					
Week 2	Day 3 Unit 2: Vocabulary and Language Practice Day 4 Unit 2: Listening, Reading and Speaking					

Week 3	Day 5 Unit 3: Vocabulary and Language Practice Day 6 Unit 3: Listening, Reading and Speaking	
Week 4	Day 7 Unit 4: Vocabulary and Language Practice Day 8 Unit 4: Listening, Reading and Speaking	
Week 5	Day 9 Unit 5: Vocabulary and Language Practice Day 10 Unit 5: Listening, Reading and Speaking	
Week 6	Day 11 Unit 6: Vocabulary and Language Practice Day 12 Unit 6: Listening, Reading and Speaking	
Week 7	Day 13 Midterm Review Day 14 Midterm Test (June 3rd)	
Week 8	Day 15 Unit 7: Vocabulary and Language Practice Day 16 Unit 7: Listening, Reading and Speaking	
Week 9	Day 17 Unit 8: Vocabulary and Language Practice Day 18 Unit 8: Listening, Reading and Speaking	
Week 10	Day 19 Unit 9: Vocabulary and Language Practice Day 20 Unit 9: Listening, Reading and Speaking	
Week 11	Day 21 Unit 10: Vocabulary and Language Practice Day 22 Unit 10: Listening, Reading and Speaking	
Week 12	Day 23 Unit 11: Vocabulary and Language Practice Day 24 Unit 11: Listening, Reading and Speaking	
Week 13	Day 25 Unit 12: Vocabulary and Language Practice Day 26 Unit 12: Listening, Reading and Speaking	
Week 14	Day 27	

	Unit Review Final Task Preparation Day 28 Unit Review Final Task Preparation	
Week 15	Day 29 Written Test Final Task Preparation Day 30 Final Task	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE121-Y51	2.科目名	アドバンスト・コミュニケーション 1 L3		3.単位数	2
4.授業担当教員	稲葉 皐					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	This unit gives you: -Presentation Skills - Debating Skills - High Listening Skills - Tools for Independent Lifelong Learning					
18.学習目標と D P との関連	By the end of this course, students should be able to: - research a topic - speak clearly and effectively on a topic of interest to an audience - express your opinion confidently and persuasively - develop your own unique presentation style - plan and organize a presentation using PowerPoint - give a small, logical presentation - understand your audience's expectations - conduct a small survey and report the results					
19.教科書・教材	"Present Yourself 2" Viewpoints (Second Edition) by Steven Gershon [Cambridge University Press] (a blue A4 sized book) ISBN: 978-1-107-43578-0 (check at Maruzen)					
20.参考文献						
21.成績評価	1. Give a 10-minute class presentation on a topic of interest to you, related to your business studies. You will use the format of Introduction / Body / Conclusion / Question Time / References (30 %) 2. 6 x 5-minute mini-presentations (20%) 3. Participatio					
22.コメント	- As this is progressive assessment, your in-class attendance is advised. - Please ONLY use your cell phone to access the recommended dictionary シラバスの一部の側面は変更される可能性があります。 また、障がい等により、本講義の受講の際に特別な配慮が必要な場合は事前に担当教員に申し出てください。基本は対面授業を行いますが、新型コロナウイルスの感					
23.オフィスアワー	** Please contact your Teacher at above email address.					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Course Introduction / tech check / Getting ready			Communication skills		
Week 2	Choosing your topic. CHAPTER 1: A Person to Admire - questionnaire / describe life history & achievements			As directed by your Teacher		

	/ class discussion on famous people - Effective introduction & conclusion , Openers & Closers - Note cards & eye contact	
Week 3	CHAPTER 1 continued -plan and give a mini-presentation 1 on a person you admire	As directed by your Teacher.
Week 4	CHAPTER 2: A Great Vacation Idea - interview classmates / suggestions for beginning and ending your presentation / use of PowerPoint / body language tips and tricks	As directed by your Teacher
Week 5	CHAPTER 2 continued - plan and give a mini-presentation 2 about a vacation you recommend	As directed by your Teacher
Week 6	CHAPTER 3: Young People Today - survey topics, questions & results / describing and conducting a class survey / reporting survey results / raise-your-hand surveys / making effective aids and use of REALIA / emphasising key info	As directed by your Teacher
Week 7	CHAPTER 3: continued - plan and give a mini-presentation 3 about a survey you conducted	As directed by your Teacher
Week 8	CHAPTER 4: Let Me Explain - Q & A for a Fact or Myth quiz - providing context (background) and process steps - interesting presentation beginnings and endings - audience Q & A	As directed by your Teacher
Week 9	CHAPTER 4 continued - plan and give a mini-presentation 4 on how something works or happens	As directed by your Teacher
Week 10	CHAPTER 5: In My Opinion -current issues & surveying classmates - expressing opinions & supporting them with reasons - beginning presentation with a common viewpoint - ending presentation with a "call to action" - using your voice effectively + use of	As directed by your Teacher
Week 11	CHAPTER 5 continued - plan and give a mini-presentation 5	As directed by your Teacher
Week 12	CHAPTER 6: In the News - headlines and stories - conducting a news questionnaire - summarising a news story	As directed by your Teacher

	- describing reactions to a news story	
Week 13	CHAPTER 6 continued - Plan and give a mini-presentation 6 about a news story	As directed by your Teacher
Week 14	-Time in class to prepare final presentations and work on your script. -practice Q&A	Prepare for your Presentation
Week 15	CLASS PRESENTATIONS (10 minute maximum each student) - allow Question and Answer time.	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE122-Y51	2.科目名	アドバンスト・コミュニケーション2 L4		3.単位数	2
4.授業担当教員	Jonathan Aliponga					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション			9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Students of Advanced Communication 2 will: Develop presentation skills along a wide variety of areas including: -logic and clarity of message and contents -behaviors associated with strong public speaking -developing the structure of a presentation -handling questions from the audience Develop accuracy in speaking, as related to presentation topics Share ideas and opinions in classroom discussions Create and perform presentations on topics of interest and importance Do extensive listening within homework tasks					
18.学習目標と DPとの関連						
19.教科書・教材	English Presentations Today (Nan'Un-Do) *Available through the Maruzen website link on UNIPA.					
20.参考文献						
21.成績評価	Presentation Prep Homework (5 x 6%) 30% Presentation assignments (5 x 8%) 40% Listening Homework (4 x 5%) 20% Participation 10%					
22.コメント	Some aspects of the syllabus may be subject to change. シラバスの一部の側面は変更される 可能性があります。					
23.オフィスアワー	The instructor may be contacted by email. ***					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Course Introduction / tech check Unit 1 presentation skills focus			Review course information Presentation Prep Homework 1		
Week 2	Unit 2 presentation skills focus Unit 3 presentation skills focus			Presentation Prep Homework 2 English Central		
Week 3	Develop and practice Presentation 1 Perform Presentation 1			Complete Presentation 1 & practice English Central		
Week 4	Presentation 1 feedback / topic 1 introduction Unit 4 presentation skills focus			Presentation Prep Homework 3		
Week 5	Unit 5 presentation skills focus Unit 6 presentation skills focus			Presentation Prep Homework 4 English Central		

Week 6	Develop and practice Presentation 2 Perform Presentation 2	Complete Presentation 2 & practice English Central
Week 7	Presentation 2 feedback / topic 3 introduction Unit 7 presentation skills focus	Presentation Prep Homework 5
Week 8	Unit 8 presentation skills focus Unit 9 presentation skills focus	Presentation Prep Homework 6 English Central
Week 9	Develop and practice Presentation 3 Perform Presentation 3	Complete Presentation 3 & practice English Central
Week 10	Presentation 3 feedback / topic 4 introduction Unit 10 presentation skills focus	Presentation Prep Homework 7
Week 11	Unit 11 presentation skills focus Unit 12 presentation skills focus	Presentation Prep Homework 8 English Central
Week 12	Develop and practice Presentation 4 Perform Presentation 4	Complete Presentation 4 & practice English Central
Week 13	Presentation 4 feedback / topic 5 introduction Unit 13 presentation skills focus	Presentation Prep Homework 9
Week 14	Unit 14 presentation skills focus Unit 15 presentation skills focus	Presentation Prep Homework 10 English Central
Week 15	Develop and practice Presentation 5 Perform Presentation 5	Complete Presentation 5 & practice English Central

1.授業コード (ナンバリング)	FLE122-Y52	2.科目名	アドバンスト・コミュニケーション2【観光】		3.単位数	2
4.授業担当教員	Liane Faye R.Andrade					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択の区分	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2nd year~	
10.取得資格の要件	none		11.先修条件	none		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Lecture-discussion, presentation and exercises		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	The aim of this course is to enable students to become more effective communicators that could connect people and build relationships with them. This enables every student to be empowering individuals of the society.					
18.学習目標と DPとの関連	At the end of the semester the students will be able to: 1. To efficiently and effectively use the four major skills of the English Language: Speaking, Listening, Reading and Writing. 2.To develop communication skills in a wide range situations. To confidently express their thoughts and feelings on topics such as life, education, success, motivation, etc.					
19.教科書・教材	Textbook: Global Perspectives 1 Authors: Noriko Nakanishi, Nicholas Musty et.al. Publisher: Seibido ISBN: 9784791972616					
20.参考文献						
21.成績評価	1. In-class activities (points) 20% 2. Group work (cooperation and attitude) 20% 3. Homework: Flipgrid Activities 10% 3. Midterm Task: 20% 4. Final Task: 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	Monday-Friday Global Gakushu Plaza, Room 016 Kobe Yamate Building 3					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1. Course Introduction Unit 1: College Life Lesson-Discussion Activities					
	2. Unit 2: Understanding Copyright Lesson-Discussion Activities					

	3. Unit 3: Cyber Bullying Lesson-Discussion Activities	
	4. Unit 4: Tourism Lesson-Discussion Activities	
	5. Unit 5: Foreign Encounters Lesson-Discussion Activities	
	6. Unit 6: Entertainment Lesson-Discussion Activities	
	7. Midterm Task	
	8. Unit 7: International Affairs Lesson-Discussion Activities	
	9. Unit 8: Technology Lesson-Discussion Activities	
	Unit 9: My Future Lesson-Discussion Activities	
	Unit 10: Personal Finance Lesson-Discussion Activities	
	Unit 11: Health Lecture-Discussion Activities	
	Unit 12: Diversity Lecture-Discussion Activities	
	Final Task	
	Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE124-Y81	2.科目名	リーディング・ライティング 2		3.単位数	1
4.授業担当教員	和泉有香					
5.授業科目の区分	共通	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	目的 TOEIC(R) L&R テストに関する全般的な知識を身につけ、「基礎英語力+テスト知識」を以て TOEIC (R)L&R テスト 450 点以上のスコア取得を目指します。 概要 リスニング対策とリーディング対策をバランス良く行うことにより、両分野でスコアに直結す る英語力を付けます。授業では大量のリスニングを行い、同時に発音と音読も重視します。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受 け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 【学習目標】 ① 実用的な語学力 ② 他者と協働するコミュニケーションスキル ・ ただ与えられた問題を解くだけではなく、「聞く人（読む人）が理解しやすい情報の提示 法」を意識し、習得する。 ・ 今現在必要な英語力・コミュニケーション力と同時に、社会人になってからも役立つ知識と 英語力を身につける。					
19.教科書・教材	SMART ROUTE TO THE TOEIC (R) L&R TEST（センゲージ ラーニング）					
20.参考文献	必要に応じて授業内で紹介する。					
21.成績評価	・ 授業参加度： 30 点（学習目標②に対応） ・ 小テスト： 30 点（学習目標①に対応） ・ 期末テスト： 40 点（学習目標①に対応）					
22.コメント	・ 教科書を購入していない学生は、評価の対象外とすることがあります。 ・ 音読に力を入れます。 ・ 発表・発言など、積極的な授業態度を求めます。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室等で、受講生からの質問等への対応をします。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 日目	Unit 6 Web Sites Unit 7 Advertising 単語テスト 1			授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱 った文書を自力で訳せるように／学習箇所全 ての音読		
2 日目	単語テスト 2, 3 Unit 7 Advertising Unit 8 Information Technology			授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱 った文書を自力で訳せるように／学習箇所全 ての音読		
3 日目	単語テスト 4, 5 Unit 8 Information Technology Unit 9 Phone Calls			授業中に使った音声を再び聞く／授業内で扱 った文書を自力で訳せるように／学習箇所全 ての音読		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-A51	2.科目名	総合英語Ⅱ (再))※再履修の学生のみが履修		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一、Colin Rogers					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識をスピーキングで運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の4技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	Grammarでは、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、記述文法を学び、オーディオ・リングル・メソッドによるパターン・プラクティスを通して、実際に口頭で運用できるようになることを学習目標とする。Actiivtyでは、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英語のハノン／中級』筑摩書房 Activity：Smart Choice 2A（Oxford）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50点（中間テスト20点・期末テスト20点・通常点10点） Activity：50点（中間テスト20点・期末テスト20点・通常点10点）					
22.コメント	教科書を購入していない学生については、評価の対象外とすることがあります。 対面での授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とします。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1週	Grammar：オリエンテーション・Unit 1 授業で扱うドリル：Track No. Unit 1.1 / Unit 1.2 * Unit 2 は授業では扱いません。 Activity：“How was your vacation?” 前半					
第2週	Grammar：Unit 3 授業で扱うドリル：Track No. Unit 3.1 / Unit 3.4 Activity: Unit 01 “How was your vacation?” 後半					
第3週	Grammar：Unit 4 授業で扱うドリル：Track No. Unit 4.1 / Unit 4.2 Activity: Unit 02 “I think it's boring!” 前半					
第4週	Grammar：Unit 5 授業で扱うドリル：Track No. Unit 5.1 / Unit 5.2 / Unit					

	5.3 Activity: Unit 02 “I think it’s boring!” 後半	
第 5 週	Grammar : Unit 6 授業で扱うドリル : Track No. Unit 6.4 / Unit 6.5 Activity: Unit 03 “Do it before you’re 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : Unit 7 授業で扱うドリル : Track No. Unit 7.1 / Unit 7.2 Activity: Unit 03 “Do it before you’re 30!” 後半	
第 7 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト Units 01-03	
第 8 週	Grammar : Unit 8 授業で扱うドリル : Track No. Unit 8.1 / Unit 8.2 / Unit 8.3 / Unit 8.4 / Unit 8.5 / Unit 8.6 / Unit 8.7 *すべて 1)と 2)のみ Activity: Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 9 週	Grammar : Unit 9 授業で扱うドリル : Track No. Unit 9.3 / Unit 9.4 / Unit 9.5 Activity: Unit 04 “The best place in the world!” 後半	
第 10 週	Grammar : Unit 10 授業で扱うドリル : Track No. Unit 10.1 / Unit 10.2 Activity: Unit 05 “Where’s the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : Unit 11 授業で扱うドリル : Track No. Unit 11.1 / Unit 11.2 / Unit 11.7 Activity: Unit 05 “Where’s the party?” 後半	
第 12 週	Grammar : Unit 12 授業で扱うドリル : Track No. Unit 12.1 / Unit 12.2 / Unit 12.4 Activity: Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : Unit 13 授業で扱うドリル : Track No. Unit 13.1 / Unit 13.3 / Unit 13.7 Activity: Unit 06 “You should try it!” 後半	
第 14 週	Grammar : 期末テスト 授業で扱うドリル : Track No. Unit 14.1 / Unit 14.3 Activity: Units 04-06 Bonus	
第 15 週	Grammar : Unit 14 Activity : 中間テスト Review Test (Units 04-06)	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-M51	2.科目名	総合英語Ⅱ（再）		3.単位数	2
4.授業担当教員	Duane Edward Rowe、丸橋良雄					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity： 50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 教科書は前年度使用したものであるので、毎回持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。 * 楽しい授業ですから良かったら受講してください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it's boring!” 前半					

第 4 週	Grammar : 082 否定文①、083 否定文③、084 否定文③ Activity : Unit 02 "I think it's boring!" 後半	Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習 (語彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 "Do it before you're 30!" 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 "Do it before you're 30!" 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 "The best place in the world!" 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 "The best place in the world!" 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 "Where's the party?" 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 "Where's the party?" 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 "You should try it!" 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 "You should try it!" 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-Y51	2.科目名	総合英語Ⅱ (再)		3.単位数	2
4.授業担当教員	友繁義典、Jason Conrad Beaton					
5.授業科目の区分	基盤教育	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	Grammar：高校までに学んだ学校文法を整理し、さらにその知識を能動的に運用できるようになる。 Activity：コンテキストやシチュエーションの中で英語の 4 技能習得を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 Grammar では、高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、それを能動的に運用できるようになることを学習目標とする。Activity では、コンテキストやシチュエーションの中で、会話を組み立てる能力を養う。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに連関するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Grammar：『英文法授業ノート』（ペリかん社） Activity：Smart Choice 2A（Oxford University Press）					
20.参考文献						
21.成績評価	Grammar：50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点） Activity： 50 点（中間テスト・期末テスト各 15 点、平常点 20 点）					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示があった場合を除き、原則禁止とする。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	Grammar：オリエンテーション、074 関係詞①、075 関係詞② Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 前半			Activity: Unit 01 の予習（語彙）		
第 2 週	Grammar：076 関係詞③、077 関係詞④、078 関係詞⑤ Activity：Unit 01 “How was your vacation?” 後半			Activity: Unit 01 の復習と Unit02 の予習（語彙）		
第 3 週	Grammar：079 関係詞⑤、080 接続詞①、081 接続詞② Activity：Unit 02 “I think it's boring!” 前半					
第 4 週	Grammar：082 否定文①、083 否定文③、084 否定文			Activity: Unit 02 の復習と Unit03 の予習（語		

	③ Activity : Unit 02 “I think it's boring!” 後半	彙)
第 5 週	Grammar : 085 否定文④、086 否定文⑤、087 疑問文① Activity : Unit 03 “Do it before you're 30!” 前半	
第 6 週	Grammar : 088 疑問文②、089 疑問文③、090 疑問文④ Activity : Unit 03 “Do it before you're 30!” 後半 (BONUS 1-3 は任意)	Activity: Unit 03 の復習と Unit04 の予習 (語彙)
第 7 週	Grammar : 091 付加疑問①、092 付加疑問②、093 話法① Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 前半	
第 8 週	Grammar : 中間テスト Activity : 中間テスト	
第 9 週	Grammar : 094 話法②、095 仮定法①、096 仮定法② Activity : Unit 04 “The best place in the world!” 後半	Activity: Unit 04 の復習と Unit05 の予習 (語彙)
第 10 週	Grammar : 097 仮定法③、098 代名詞①、099 代名詞② Activity : Unit 05 “Where's the party?” 前半	
第 11 週	Grammar : 100 代名詞③、101 代名詞④、102 数詞① Activity : Unit 05 “Where's the party?” 後半	Activity: Unit 05 の復習と Unit06 の予習 (語彙)
第 12 週	Grammar : 103 数詞②、104 数詞③、105 前置詞① Activity : Unit 06 “You should try it!” 前半	
第 13 週	Grammar : 106 前置詞②、107 前置詞③、108 前置詞④ Activity : Unit 06 “You should try it!” 後半	Grammar: TOEICIP 受験の準備 Activity: Unit 06 の復習
第 14 週	Grammar : TOEIC (L&R) IP Test Activity : BONUS 4-6,	
第 15 週	Grammar : 期末テスト Activity : 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE201-Y52	2.科目名	総合英語Ⅱ 【観光】		3.単位数	2
4.授業担当教員	前田哲男					
5.授業科目の区分	共通選択	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	2 学年以上	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	高校までに学んだ学校文法（規範文法）を体系的に総整理しながら、記述文法を学び、オーディオ・リンガル・メソッドによるパターン・プラクティスを通して、実際に口頭で運用できるようになることを学習目標とする。 また、1 学年及び 2 学年の春学期までの必修科目で学んだ英語基礎及び英語総合の内容に加え、より複雑な文章を運用できることを目指す。					
18.学習目標と DP との関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。					
19.教科書・教材	英語のハノン（上級） 筑摩書房					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	中間テスト 30 点 期末テスト 30 点 通常点 40 点（各ユニット終了後に実施する小テスト、授業参加姿勢等） なお、English Private Lesson を秋学期中に受けた学生には、その回数に応じて加点をします。					
22.コメント	教科書を購入していない学生については、評価の対象外とすることがあります。 対面での授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示で使用する場合を除き、原則禁止とします。 Unit 5 と Unit 8 については、ポイントのみの説明とします。					
23.オフィスアワー	特に時間は定めませんが、相談や質問がある場合は、研究室(3310)に来てください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	オリエンテーション 第 1 回：Unit 1 関係代名詞(1) 第 2 回：Unit 1 関係代名詞(1)					
第 2 週	第 3 回：Unit 2 関係代名詞(2) 第 4 回：Unit 2 関係代名詞(2)					
第 3 週	第 5 回：Unit 2 関係代名詞(2) 第 6 回：Unit 3 関係代名詞(3)					
第 4 週	第 7 回：Unit 3 関係代名詞(3) 第 8 回：Unit 4 関係代名詞(4)					
第 5 週	第 9 回：Unit 6 関係代名詞(6) 第 10 回：Unit 6 関係代名詞(6)					
第 6 週	第 11 回：Unit 6 関係代名詞(6) 第 12 回：Unit 7 関係副詞・関係形容詞					
第 7 週	第 13 回：Unit 7 関係副詞・関係形容詞					

	第 14 回：Unit 7 関係副詞・関係形容詞	
第 8 週	第 15 回：Unit 7 関係副詞・関係形容詞 第 16 回：中間テスト	
第 9 週	第 17 回：Unit 9 名詞構文 第 18 回：Unit 9 名詞構文	
第 10 週	第 19 回：Unit 10 強調構文・動詞の強調 第 20 回：Unit 10 強調構文・動詞の強調	
第 11 週	第 21 回：Unit 10 強調構文・動詞の強調 第 22 回：Unit 11 助動詞 + have + p.p.	
第 12 週	第 23 回：Unit 11 助動詞 + have + p.p. 第 24 回：Unit 12 仮定法(1)	
第 13 週	第 25 回：Unit 12 仮定法(1) 第 26 回：Unit 12 仮定法(1)	
第 14 週	第 27 回：Unit 13 仮定法(2) 第 28 回：Unit 14 仮定法(3)	
第 15 週	第 29 回：Unit 14 仮定法(3) 第 30 回：期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE203-A51	2.科目名	オーラルイングリッシュⅢ		3.単位数	1
4.授業担当教員	Jasper von Meerheimb					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	1. このクラスは、あらゆる学習レベルにとって楽しくてアクティブなクラスです。 2. ぜひクラスに参加して、人との出会いを楽しんでください。 3. 学生は実践的な英語でスピーキングとリスニングを練習します。 4. すべてのレッスンには、ペアでの作業、英語の歌や音楽が含まれます。 5. 教科書も宿題もありません。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 集中して明確に考えることができます。 2. 自分のアイデアや意見を表現できます。 3. 世界について考えてみましょう。					
19.教科書・教材	該当なし					
20.参考文献	英語の辞書（紙か電気）を必ず教室に持参して下さい。					
21.成績評価	1) 33.3% = レッスン活動 2) 33.3% = 中間試験 3) 33.3% = 期末試験					
22.コメント						
23.オフィスアワー	なし（授業前後に教室で質問受付/ メールで質問して下さい）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	1. レッソンのプリント 1 2. オリエンテーションと学生ガイド 3. コミュニケーション学習課題 4. ペアワーク（会話と面接） 5. 教師からのフィードバック			教科書も宿題もありません。		
第 2 週	1. レッソンのプリント 2 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック			教科書も宿題もありません。		
第 3 週	1. レッソンのプリント 3 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック			教科書も宿題もありません。		
第 4 週	1. レッソンのプリント 4 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック			教科書も宿題もありません。		
第 5 週	1. レッソンのプリント 5 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック			教科書も宿題もありません。		

第 6 週	1. レッスンのプリント 6 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック	教科書も宿題也没有ありません。
第 7 週	1. レッスンのプリント 7 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック	教科書も宿題也没有ありません。
第 8 週	中間試験 1. テストタスク 2. ペアワーク（会話と面接） 3. テストを提出する	教科書も宿題也没有ありません。
第 9 週	1. レッスンのプリント 9 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック	教科書も宿題也没有ありません。
第 10 週	1. レッスンのプリント 1 0 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック	教科書も宿題也没有ありません。
第 11 週	1. レッスンのプリント 1 1 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック	教科書も宿題也没有ありません。
第 12 週	1. レッスンのプリント 1 2 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック	教科書も宿題也没有ありません。
第 13 週	1. レッスンのプリント 1 3 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック	教科書も宿題也没有ありません。
第 14 週	1. レッスンのプリント 1 4 2. コミュニケーション学習課題 3. ペアワーク（会話と面接） 4. 回答チェック	教科書も宿題也没有ありません。
第 15 週	期末試験 1. テストタスク 2. ペアワーク（会話と面接） 3. テストを提出する	教科書も宿題也没有ありません。

1.授業コード (ナンバリング)	FLE203-M51	2.科目名	オーラルイングリッシュⅢ		3.単位数	1
4.授業担当教員	丸橋良雄					
5.授業科目の区分	選択	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	なし			9.履修学年	2 回生以上	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限	* 教務課発表の掲示に従ってクラスを履修登録すること。 * 再履修者は再履修クラスを履修登録すること。					
17.授業の目的と概要	本来、「TOEIC 英語」など存在しない。英語は英語であって、TOEIC のために英語を学ぶのなら、それはまったくの本末転倒である。英検や TOEFL・TOEIC、IELTS などの資格試験は、あくまで英語学習のベンチマークにすぎない。したがって、正しく英語を学んでいるなら、とくに TOEIC 対策などしなくても、高得点がとれるはずなのだが、TOEIC には他の試験にはない特徴的な傾向があり、その傾向を知っていることで、得点の効率上がることもまた事実である。 以上のことを踏まえた上で、この授業では、TOEIC L&R に特化してその対策を講じ、600 点以上の得点を目指す。とはいえ、それは春学期から学んできた Grammar や Activity の授業の土台があってはじめて可能となるのであり、そうした基礎をないがしろにしたまま、15 回の講義でスコアをアップさせる魔法のようなテクニックがあるわけではない。逆に、これまでの授業に真剣に取り組んだ者は、この 15 回の講義でスコアを劇的にアップさせることができるだろう。					
18.学習目標と DP との関連	【学習目標】 TOEIC L&R600 点以上相当の英語力を身に付けることを目指す。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の 4 技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	門山照彦他 A Communicative Approach to the TOEIC L&R Test Book 1 (成美堂) ISBN978-4-7919-7252-4					
20.参考文献	適宜指示する					
21.成績評価	平常点：60 点 期末テスト：40 点					
22.コメント	* 必ず教科書を購入すること。長期に渡り持参しない学生については、評価の対象外とすることがある。 * 将来就職に役立てるために、TOEIC の受験や高得点を取ることをまじめに考えている人向きの楽しい授業であり、同時に攻略法も指導します。よかったらぜひ受講してください。					
23.オフィスアワー	授業終了後教室で応じます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション unit 01					
第 2 回	Unit 02					
第 3 回	Unit 03					

第 4 回	Unit 04	
第 5 回	Unit 05	
第 6 回	Unit 06	
第 7 回	Unit 07	
第 8 回	Unit 08	
第 9 回	Unit 09	
第 10 回	Unit 10	
第 11 回	Unit 11	
第 12 回	Unit 12	
第 13 回	Unit 13	
第 14 回	Unit 14	
第 15 回	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE203-Y51	2.科目名	オーラルイングリッシュⅢ		3.単位数	1
4.授業担当教員	前田哲男					
5.授業科目の区分	共通選択	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 学年以上	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	目的 TOEIC(R) L&R テストに関する全般的な知識を身につけ、「基礎英語力+テスト知識」を以て TOEIC (R)L&R テストでのスコアアップを目指します。					
	概要 リスニング対策とリーディング対策をバランス良く進め、その中で語彙への興味を高める工夫 や、問題を解く上での考え方に触れながら、スコアアップにつながる学習を目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受 け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。					
19.教科書・教材	Key Strategies for Success on the TOEIC L&R Test [Level 500] (朝日出版社)					
20.参考文献	授業内で適宜紹介、必要な場合はプリントを配布					
21.成績評価	確認小テスト 30 点 (2L ユニット+2R ユニット毎の小テスト)					
	授業参加点等の平常点 30 点					
	期末テスト 40 点					
22.コメント	・ 授業内で自発的に発言した場合は、授業態度参加度等に加点します。					
	・ 特別に指示のあった場合を除いては、スマートフォンの使用を禁止します。					
	・ 教科書を購入していない学生については、出席数が基準を越えていても評価点は不合格とし ます。					
	・ この授業で使用する教科書は、本学の他の授業で使用している可能性があります。よく確認 し、もしすでに学習済みのものであれば、他の科目の履修を検討してください。					
23.オフィスアワー	特に時間は指定しません。相談、質問がある場合は、研究室に来てください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit L-1, R-1					
第 2 回	Unit L-2, R-2					
第 3 回	Unit L-3, R-3			L-1,2 及び R-1,2 の確認小テスト		
第 4 回	Unit L-4, R-4					
第 5 回	Unit L-5, R-5			L-3,4 及び R-3,4 の確認小テスト		
第 6 回	Unit L-6,R-6					
第 7 回	Unit L-7, R-7			L-5,6 及び R-5,6 の確認小テスト		
第 8 回	Unit L-8, R-8					
第 9 回	Unit L-9, R-9			L-7,8 及び R-7,8 の確認小テスト		
第 10 回	Unit L-10, R-10					
第 11 回	Unit L-11, R-11			L-9,10 及び R-9,10 の確認小テスト		
第 12 回	Unit L-12, R-12					
第 13 回	Unit L-13, R-13			L-11,12 及び R-11,12 の確認小テスト		
第 14 回	Unit L-14, R-14					
第 15 回	期末テスト					

	まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE210-Y81	2.科目名	リーディング・ライティング 4		3.単位数	1
4.授業担当教員	和泉有香					
5.授業科目の区分	共通	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	2 学年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義ならびに演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	英語力を測るかなり正確な指標として評価が高い TOEIC(R) L&R TEST の公式問題集を使用し、 実際の問題への取り組み方、解答順序、正解へのたどり着き方など、実践的な演習を繰り返し 行う。 簡単にスコアを伸ばす方法は存在しないが、傾向と対策を正しく知ることによって 1)英語分野 に限らず一生役に立つ Test Taking Skills と、2)自分の英語力を正確にスコアに反映させるため の現実的な方策を身につける。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受 け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、その言語を使う人々や使われている地域を理解することとい うことであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は、英語を母国語とする文化圏の文化やそ の地域を理解することにつながり、またグローバルなコミュニケーションスキルを身に付ける ことに直結するものである。					
19.教科書・教材	公式 TOEIC Listening &Reading TEST 問題集 10 (IIBC 刊)					
20.参考文献	授業中に必要に応じて紹介する。					
21.成績評価	中間、期末テスト 60 点 平常点 40 点（小テスト、授業参加姿勢など）					
22.コメント	・ 指定のテキストを購入することが受講の必須条件となります。 ・ 受講開始時の TOEIC スコアは問いませんが、アサインメントをしっかりとこなしてください。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室等で、受講生からの質問等への対応をします。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 日目	ガイダンス 【TEST 1 使用】 Part1, 2 対策、Part5, 7（1 つの文 書）対策			授業時に使用した問題の音読、授業時に使用 した問題の完全理解		
2 日目	Part3, 4 対策、Part6, 7（複数文書）対策			授業時に使用した問題の音読、授業時に使用 した問題の完全理解		
3 日目	Part4 対策、Part6 対策 【TEST 2 使用】 Part1, 2 対策、Part5, 7（1 つの文 書）対策			授業時に使用した問題の音読、授業時に使用 した問題の完全理解		
4 日目	Part3, 4 対策、Part6, 7（複数文書）対策			授業時に使用した問題の音読、授業時に使用 した問題の完全理解		
5 日目	Part4 対策、Part6 対策 期末テスト			授業時に使用した問題の音読、授業時に使用 した問題の完全理解		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	FLE304-Y51	2.科目名	リーディング・ライティング総合 2		3.単位数	1
4.授業担当教員	権延ジュ					
5.授業科目の区分	共通選択	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	3 学年以上	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	目的 この科目は、1, 2 学年で学んできた事柄を基礎とし、TOEIC でスコア 600 点以上を取得できるような英語力を身につけることを目的とします。 ただ問題を解くだけではなく、ポイントとなる英文法や語彙を確認し、様々な音声や英文にも触れながら、英語を聞いて理解したり、英文を読解するための力を身につけます。学習した表現を使っの作文や音読などのアウトプット活動も行い、理解の深化と身体化も目指します。すでに TOEIC スコア 600 以上を取得している人にもプラスになるような授業を目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は、本学のディプロマポリシーのうち、とりわけ（3）の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、及び（5）のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、その言語を使う人々や使われている地域を理解するということであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は、英語圏地域研究に直結するものであると言える。					
19.教科書・教材	SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST INTERMEDIATE （金星堂）					
20.参考文献	授業内で適宜紹介、必要な場合はプリントを配布					
21.成績評価	確認小テスト 40 点（2 ユニット毎の小テスト） 授業参加点等の平常点 20 点 期末テスト 40 点					
22.コメント	・ 授業内で自発的に発言した場合は、授業態度参加度等に加点します。 ・ 特別に指示のあった場合を除いては、スマートフォンの使用を禁止します。 ・ 教科書を購入していない学生については、出席数が基準を越えていても評価点は不合格とします。					
23.オフィスアワー	特に時間は指定しません。相談、質問がある場合は、メールで連絡下さい。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Unit 1 Travel					
第 2 回	Unit 2 Dining Out					
第 3 回	Unit 3 Media			Unit 1,2 の確認小テスト		
第 4 回	Unit 4 Entertainment					
第 5 回	Unit 5 Purchasing			Unit 3,4 の確認小テスト		
第 6 回	Unit 6 Clients					
第 7 回	Unit 7 Recruiting			Unit 5,6 の確認小テスト		
第 8 回	Unit 8 Personnel					
第 9 回	Unit 9 Advertising			Unit 7,8 の確認小テスト		
第 10 回	Unit 10 Meetings					
第 11 回	Unit 11 Finance			Unit 9,10 の確認小テスト		
第 12 回	Unit 12 Offices					
第 13 回	Unit 13 Daily Life			Unit 11,12 の確認小テスト		

第 14 回	Unit 14 Sales & Marketing	
第 15 回	期末テスト まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE306-Y51	2.科目名	ホテル実務英語Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	権延ジュ					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科・観光学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	初回の授業に、レベル確認テストを受けてもらうので、履修を希望する人は必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	本授業は、訪日外国人観光客に英語で対応する際の基本的な英語表現や説明の仕方を学ぶことを目的とします。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の K4.異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える、に関連しています。 1. 観光及び接客のさまざまな場面で使用される基本的な英語表現と重要語句を学ぶ事ができる。 2. 会話やロールプレイなどの活動を通して、自然な文脈で使用される実践的な英語コミュニケーション能力を養うことができる。 3. 学んだ表現を使って、十分に自己表現（プレゼンテーション）することができる。					
19.教科書・教材	HOSPITALITY ON THE SCENE"（金星堂）"					
20.参考文献						
21.成績評価	・ 授業内活動及び単語・小テスト（発表等）20%（学習目標①に対応） ・ 第 9 回 中間試験 20%（学習目標①、②、③に対応） ・ 第 15 回 総括試験 60%（学習目標①、②、③に対応）					
22.コメント	授業中の携帯電話の使用を禁止します。 ・ テキストを忘れや、授業に参加していない、宿題をしていない等の場合には、欠席扱いとなることがあります。 ・ 授業内での活動及び homework を重視している為、欠席しないように十分に注意してください。 ・ やむ終えず欠席してしまった場合、必ず次の授業までに担当教員より学習内容及び宿題を確認し、次週の授業に臨んでください。 ・ 授業は主に教科書に沿って進めていきますが、授業内活動としてペアやグループによるタスクと、プレゼンテーション（発表）等を行います。したがって、積極的な参					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	Introduction & Unit8 Arranging a Tour 国内旅行の手配			予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information		
【第 2 回】	Unit 8 Arranging a Tour 国内旅行の手配			予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information		
【第 3 回】	Unit 9 Staying at a Ryokan 旅館について			予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information		
【第 4 回】	Unit 9 Staying at a Ryokan 旅館について			予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for		

		information
【第 5 回】	Unit 10 Culture Experience in Japan 日本文化体験①	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 6 回】	Unit 10 Culture Experience in Japan 日本文化体験①	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 7 回】	Unit 11 Culture Experience in Japan 日本文化体験	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 8 回】	Unit 11 Culture Experience in Japan 日本文化体験	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 9 回】	到達確認テスト	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 10 回】	Unit 12 Japanese Souvenirs ショッピング	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 11 回】	Unit 13 Dealing with Health Problems and Emergencies	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 12 回】	Unit 14 Dealing with Complaints and Accidents	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 13 回】	Unit 14 Dealing with Complaints and Accidents	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 14 回】	Unit 15 Upon Departure 帰国に際して & 総復習	予習：Key Expressions& Vocaburary Check 復習：Conversation & Reading for information
【第 15 回】	まとめと総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE308-Y51	2.科目名	エアライン実務英語Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	Liane Faye R.Andrade					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択の区分	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	3rd year	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	Lecture-discussion, presentation and exercises		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	This course aims to develop students' English skills in airport ground staff roles as well as in-flight communication in the airline industry.					
18.学習目標と DPとの関連	. 1. The students will be able to develop confidence and competence in the use of the English language in hospitality roles. 2. Students will be able to communicate effectively and accurately with future colleagues and guests through role-play exercises, audio-visual materials and discussion in class. 3. The students will be able to have a grasp of the kind of hospitality that is required in the services provided by airlines.					
19.教科書・教材	TBA					
20.参考文献						
21.成績評価	1. In-class activities 30% 2.Group work, Speaking task and Presentation 20% 3. Midterm Task 20% 4. Final Task 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	Kobe Yamate Campus Building 3 Global Gakushu Plaza Rm 016 Monday-Friday					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	1. Course Introduction Lesson Discussion: Ground Staff Unit 1: Ticketing for a Domestic Flight					
	In-class activity 2. Lesson Discussion: Ground Staff Unit 2: Domestic Flight Check-in					
	In-class activity 3. Lesson Discussion: Ground Staff Unit 3: International Flight Check-in					
	In-class activity 4. Lesson Discussion: Ground Staff					

	In-class activity 5. Lesson Discussion: Ground Staff Unit 5: Assisting Transit Passengers	
	In-class activity 6. Lesson Discussion: Ground Staff Unit 6: Baggage Issues	
	In-class activity 7. Midterm Task Lesson Discussion: Cabin Attendants Unit 7: Welcome Aboard	
	8. Lesson Discussion: Cabin Attendant Unit 8: Before Takeoff In-class activity	
	9. Lesson Discussion: Cabin Attendant Unit 9: In-flight service In-class activity	
	10. Lesson Discussion: Cabin Attendant Unit 10: In-flight Sales In-class activity	
	11. Lesson Discussion: Cabin Attendant Unit 11: Passenger Care In-class activity	
	12. Lesson Discussion: Cabin Attendant Unit 12: Before Landing In-class activity	
	Collaboration event	
	Final Task: Speaking Activity	
	Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	FLE310-Y51	2.科目名	旅行業実務英語Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	前田哲男					
5.授業科目の区分	共通選択	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	3 学年以上	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	2 学年までに学んだ英文法や英会話の学びを基礎として、将来主に旅行業関連のビジネスの世界で使う英語を導入段階から学び、学んだ表現を活用する場面設定をしながら、実際に口頭で運用できるようになることを学習目標とする。 使用教材は、旅行業務を意識しながらも、より広い範囲のビジネス英語を見据えたものを使用する。また、夏学期の「旅行業実務英語Ⅰ」で使用した教材の後半を扱う。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、その言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は、英語を母国語とする文化圏の文化やその地域を理解することにつながり、またグローバルなコミュニケーションスキルを身に付けることに直結するものである。					
19.教科書・教材	Go Global グローバル時代のビジネスコミュニケーション（成美堂）					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	総括テスト 40 点 通常点 60 点（2 日目、3 日目、4 日目に実施する小テスト、授業参加姿勢等）					
22.コメント	教科書を購入していない学生については、評価の対象外とすることがあります。 対面での授業中にスマートフォンを使用することは、教員の指示で使用する場合を除き、原則禁止とします。					
23.オフィスアワー	決まった時間は設定しませんが、質問や相談があれば、研究室（3310）に来てください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 時間目	第 1 回：オリエンテーション Unit 8 Asking Permission					
第 2 時間目	Unit 8 Asking Permission					
第 3 時間目	Unit 9 Making Invitation					
第 4 時間目	Unit 9 Making Invitation					
第 5 時間目	Unit 10 Making Appointments					
第 6 時間目	Unit 10 Making Appointments					
第 7 時間目	Unit 11 Canceling and Rescheduling					
第 8 時間目	Unit 11 Canceling and Rescheduling					
第 9 時間目	Unit 12 Describing Locations					
第 10 時間目	Unit 12 Describing Locations					
第 11 時間目	Unit 13 Looking after a Visitor					
第 12 時間目	Unit 13 Looking after a Visitor					
第 13 時間目	Unit 14 Making a Phone Call					
第 14 時間目	Unit 15 Taking Messages					
第 15 時間目	第 30 回：総括テスト					

1.授業コード (ナンバリング)	FLE312-Y51	2.科目名	観光ビジネス英語Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	権延ジュ					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	観光ビジネスの現場で使われる必須語彙、表現などを習得する。さまざまな形式のタスクを繰り返し行うことで、無理なく必要な表現を身につけていく。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 ①意思疎通のための基本文法を学ぶ。 ②高頻度の語彙を学習する。 ③学習した文法のパターンを用いて、自分を表現する。					
19.教科書・教材	Travel English at Your Fingertips [Seibido]					
20.参考文献						
21.成績評価	Homework and participation: 30% (学習目標の①、②に対応) Mid-term test: 30% (学習目標の①、②に対応) Final exam: 40% (学習目標の①、②に対応)					
22.コメント						
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	[1] Hotel Service					
	[2] Hotel Service					
	[3] Booking a Tour					
	[4] Booking a Tour					
	[5] Health Care					
	[6] Health Care					
	[7] Shopping					
	[8] Shopping					
	中間テスト					
	[10] Making Complaints					
	[11] Making Complaints					
	[12] Dealing with Problems					
	[13] At the Airport					
	[14] At the Airport					
	期末テスト					

1.授業コード (ナンバリング)	FLE402-Y51	2.科目名	リーディング・ライティング総合 4		3.単位数	1
4.授業担当教員	和泉有香					
5.授業科目の区分	共通	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 観光学科			9.履修学年	4 学年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義ならびに演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	英語力を測るかなり正確な指標として評価が高い TOEIC(R) L&R TEST の公式問題集を使用し、 実際の問題への取り組み方、解答順序、正解へのたどり着き方など、実践的な演習を繰り返し 行う。 簡単にスコアを伸ばす方法は存在しないが、傾向と対策を正しく知ることによって 1)英語分野 に限らず一生役に立つ Test Taking Skills と、2)自分の英語力を正確にスコアに反映させるため の現実的な方策を身につける。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受 け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。 外国語を学ぶということは、その言語を使う人々や使われている地域を理解することというこ とであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は、英語を母国語とする文化圏の文化やそ の地域を理解することにつながり、またグローバルなコミュニケーションスキルを身に付ける ことに直結するものである。					
19.教科書・教材	公式 TOEIC Listening &Reading TEST 問題集 10 (IIBC 刊)					
20.参考文献	授業中に必要に応じて紹介する。					
21.成績評価	中間、期末テスト 60 点 平常点 40 点（小テスト、授業参加姿勢など）					
22.コメント	・ 指定のテキストを購入することが受講の必須条件となります。 ・ 受講開始時の TOEIC スコアは問いませんが、アサインメントをしっかりとこなしてください。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室等で、受講生からの質問等への対応をします。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 週	ガイダンス 【TEST 1 使用】 Part1 対策、Part7（1 つの文書）対 策			授業時に使用した問題の音読、授業時に使用 した問題の完全理解		
第 2 週	Part2 対策、Part7（1 つの文書）対策			授業時に使用した問題の音読、授業時に使用 した問題の完全理解		
第 3 週	Part2 対策、Part5 対策			授業時に使用した問題の音読、授業時に使用 した問題の完全理解		
第 4 週	Part3 対策、Part5 対策			授業時に使用した問題の音読、授業時に使用 した問題の完全理解		
第 5 週	Part3 対策、Part7（複数文書）対策			授業時に使用した問題の音読、授業時に使用 した問題の完全理解		
第 6 週	Part4 対策、Part6 対策			授業時に使用した問題の音読、授業時に使用 した問題の完全理解		
第 7 週	Part4 対策、Part6 対策			授業時に使用した問題の音読、授業時に使用 した問題の完全理解、中間テスト準備		
第 8 週	中間（単語）テスト			授業時に使用した問題の音読、授業時に使用		

	【TEST2 使用】Part1 対策、Part7（1 つの文書）対策	した問題の完全理解
第 9 週	Part2 対策、Part7（1 つの文書）対策	授業時に使用した問題の音読、授業時に使用した問題の完全理解
第 10 週	Part2 対策、Part5 対策	授業時に使用した問題の音読、授業時に使用した問題の完全理解
第 11 週	Part3 対策、Part5 対策	授業時に使用した問題の音読、授業時に使用した問題の完全理解
第 12 週	Part3 対策、Part7（複数文書）対策	授業時に使用した問題の音読、授業時に使用した問題の完全理解
第 13 週	Part4 対策、Part6 対策	授業時に使用した問題の音読、授業時に使用した問題の完全理解
第 14 週	Part4 対策、Part6 対策	授業時に使用した問題の音読、授業時に使用した問題の完全理解、期末テスト準備
第 15 週	期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	FLK102-A51	2.科目名	韓国・朝鮮語Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件	韓国・朝鮮語Ⅰを履修した学生、あるいはハングルの読み書きがある程度できる学生。はじめて学ぶ学生は韓国・朝鮮語Ⅰから受講してください。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	韓国語を入門から継続して学ぶ学生のためのクラスです。 はじめて学ぶ学生は韓国・朝鮮語Ⅰから受講してください。					
17.授業の目的と概要	授業の目的：①ハングル文字がすらすら読めて書けるようになること②初級会話ができるようになること③言葉の学習を通して、韓国の文化に関心を持つことです。 概要：基礎をしっかりと固めながら、初級会話ができるように学習していきます。また、韓国の文化を身近に感じてもらうために、視聴覚教材を取り入れた授業も行います。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の(3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）(5)コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①ハングル文字がすらすら読めて書けるようになること ②初級会話ができるようになること ③言葉の学習を通して、韓国の文化に関心を持つこと					
19.教科書・教材	『基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版』国書刊行会					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：10% ワークシート：10% 単語テスト：10% 暗唱テスト：20% 会話テスト : 10% 総括試験 : 40%					
22.コメント	韓国語は日本語の語順とほぼ同じで、最も習得しやすい外国語だと思います。 入門の授業と同様、授業中はペアワークなどが多く積極的に学ぶ姿勢が求められますが、その分初級会話ができるようになると思います。 初回の授業からテキストを用意してください。 欠席するときは連絡してください。					
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション [主に授業の流れや成績評価についての説明] 【第2回】 ・ハングル文字の総復習 【第2回】 ・パッチム、音変化の総復習			【第1回】 ○復習（30分） 【第2回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120分）		
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・韓国・朝鮮語Ⅰで学習した文法の総復習 【第4回】 ・第9課 1万ウォンです（1）[教科書 pp.90-97] ・ワークシート			【第3回】 ○復習（30分） 【第4回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120分）		

【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・第9課 1万ウォンです(2) [教科書 pp.90-97] ●暗唱テスト 【第6回】 ・第10課 今、何時ですか(1) [教科書 pp.98-105] ・ワークシート ●単語テスト	【第5回】 ○復習(30分) 【第6回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること(120分)
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ・第10課 今、何時ですか(2) [教科書 p98-105] ●本文暗唱テスト 【第8回】 ・第11課 日本語を話されますか(1) [教科書 p106-111] ・ワークシート ●単語テスト	【第7回】 ○復習(30分) 【第8回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること(120分)
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ・第11課 日本語を話されますか(2) [教科書 p106-111] ●本文暗唱テスト 【第10回】 ・第12課 バスは行きません(1) [教科書 p112-117] ・ワークシート ●単語テスト	【第9回】 ○復習(30分) 【第10回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること(120分)
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ・第12課 バスは行きません(2) [教科書 p112-117] ●本文暗唱テスト 【第12回】 ・第13課 いつ韓国に来ましたか(1) [教科書 p118-125] ・ワークシート ●単語テスト	【第11回】 ○復習(30分) 【第12回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること(120分)
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ・第13課 いつ韓国に来ましたか(2) [教科書 p118-125] ●本文暗唱テスト 【第14回】 ・第14課 一緒にお昼を食べましょう(1) [教科書 p126-133] ・ワークシート ●単語テスト	【第13回】 ○復習(30分) 【第14回】 ○次回の授業までに本文を音読・会話テストの練習(120分)
【第15回】 【第16回】	【第15回】 ・第14課 一緒にお昼を食べましょう(2) [教科書 p126-133] ●本文暗唱テスト 【第16回】	【第15回】 ○復習(30分) 【第16回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること(120分)

	・第9課から第14課までの復習 ●単語テスト	
【第17回】 【第18課】	【第17回】 ●会話テスト 【第18回】 ・第15課 パーティの準備をしています(1) [教科書 p134-139] ・ワークシート	【第17回】 ○復習 (30分) 【第18回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること (120分)
【第19回】 【第20課】	【第19回】 ・第15課 パーティの準備をしています(2) [教科書 p134-139] ●本文暗唱テスト 【第20回】 ・第16課 何も食べられませんでした(1) [教科書 p140-147] ・ワークシート ●単語テスト	【第19回】 ○復習 (30分) 【第20回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること (120分)
【第21回】 【第22回】	【第21回】 ・第16課 何も食べられませんでした(2) [教科書 p140-147] ●本文暗唱テスト 【第22回】 ・第17課 陶磁器が見たいです(1) [教科書 p148-153] ・ワークシート ●単語テスト	【第21回】 ○復習 (30分) 【第22回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること (120分)
【第23回】 【第24回】	【第23回】 ・第17課 陶磁器が見たいです(2) [教科書 p148-153] ●本文暗唱テスト 【第24回】 ・第18課 写真を撮ってもいいですか(1) [教科書 p154-159] ・ワークシート	【第23回】 ○復習 (30分) 【第24回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること (120分)
【第25回】 【第26回】	【第25回】 ・第18課 写真を撮ってもいいですか(2) [教科書 p154-159] ●本文暗唱テスト 【第26回】 ・第19課 帰国しなければいけません(1) [教科書 p160-165] ・ワークシート ●単語テスト	【第25回】 ○復習 (30分) 【第26回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること (120分)
【第27回】 【第28回】	【第27回】 ・第19課 帰国しなければいけません(2) [教科書 p160-165] ●本文暗唱テスト	【第27回】 ○復習 (30分) 【第28回】 ○次回の授業までにまとめプリントで復習す

	【第 28 回】 ・ 第 20 課 手紙を書きますよ(1) [教科書 p166-171] ・ ワークシート	ること (240 分)
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ 第 20 課 手紙を書きますよ(2) [教科書 p166-171] ● 本文暗唱テスト 【第 30 回】 ● 総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	FLK102-M51	2.科目名	韓国・朝鮮語Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	韓国語をはじめて学ぶ学生が望ましいです。履修希望者が多数の場合は抽選を行います。必ず初回の授業に出席してください。					
17.授業の目的と概要	授業の目的：①ハングルの読み書きの習得②基礎的な会話ができるようになること③言葉の学習を通して、韓国の文化に関心を持つことです。 概要：ハングル文字の読み書きを中心に学びながら、基礎的な会話もできるように学習していきます。また、韓国の文化を身近に感じてもらうために視聴覚教材を取り入れた授業も行います。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の(3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）(5)コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①ハングルの読み書きの習得 ②ペアやグループ活動を通して、基礎的な会話ができるようになること ③言葉の学習を通して、韓国の文化に関心を持つこと					
19.教科書・教材	プリント配布					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：10% ワークシート：10% ノート ：10% 単語テスト：10% 暗唱テスト ：20% 総括試験：40%					
22.コメント	韓国語は日本語の語順とほぼ同じで、最も習得しやすい外国語だと思います。 授業中は発話することが多いので、積極的に学ぶ姿勢が求められますが、その分基礎的な会話ができるようになります。 初回から授業を進めますので、履修希望者は必ず初回から出席するようにしてください。 この授業は韓国語をはじめて学ぶ学生を対象にしています。					
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション [主に授業の流れや成績評価についての説明] ・韓国語について・ワークシート 【第2回】 ・基本母音・ワークシート			【第1回】 ○予習 (30 分) 【第2回】 ○次回の授業までに基本母音を読めて書けるように練習すること (60 分)		
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・基本子音①・ワークシート ●母音暗唱テスト 【第4回】 ・基本子音②・ワークシート ●単語テスト			【第3回】 ○基本子音を読めて書けるように練習すること (30 分) 【第4回】 ○次回の授業までに基本子音を読めて書けるように練習すること (120 分)		

【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・基本子音③・ワークシート 【第6回】 ・基本子音④・ワークシート ●単語テスト	【第5回】 ○基本子音を読めて書けるように練習すること（30分） 【第6回】 ○次回の授業までに基本子音を読めて書けるように練習すること（120分）
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ・基本子音⑤濃音・ワークシート ●子音暗唱テスト 【第8回】 ・複合母音・ワークシート ●単語テスト ●母音スギテスト	【第7回】 ○基本子音を読めて書けるように練習すること（30分） 【第8回】 ○次回の授業までに複合母音を読めて書けるように練習すること（120分）
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ・パッチム・ワークシート ●ノート確認 【第10回】 ・発音の変化/有声音化/連音化・ワークシート ●単語テスト	【第9回】 ○パッチムを読めて書けるように練習すること（30分） 【第10回】 ○次回の授業までに発音の変化を読めて書けるように練習すること（120分）
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ・発音の変化/流音化/濃音化/口蓋音化・ワークシート 【第12回】 ・発音の変化/hの音変化/鼻音化 ・ワークシート ●子音スギテスト	【第11回】 ○発音の変化を読めて書けるように練習すること（30分） 【第12回】 ○次回の授業までに発音の変化を読めて書けるように練習すること（120分）
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ・自己紹介・肯定文（～です）①・ワークシート 【第14回】 ・自己紹介・肯定文（～です）② ●単語テスト ●暗唱テスト	【第13回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30分） 【第14回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120分）
【第15回】 【第16回】	【第15回】 ・疑問文（～ですか）①・ワークシート 【第16回】 ・疑問文（～ですか）② ●単語テスト ●暗唱テスト	【第15回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30分） 【第16回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120分）
【第17回】 【第18課】	【第17回】 ・否定文（～ではありません）①・ワークシート 【第18回】 ・否定文（～ではありません）② ●単語テスト ●暗唱テスト	【第17回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30分） 【第18回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120分）
【第19回】 【第20課】	【第19回】 ・基本文型（～がありますか）①・ワークシート 【第20回】	【第19回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30分）

	・基本文型（～がありますか）② ●単語テスト ●暗唱テスト	【第20回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120分）
【第21回】 【第22回】	【第21回】 ・基本文型（何をしますか）①・ワークシート 【第22回】 ・基本文型（何をしますか）② ●単語テスト ●暗唱テスト	【第21回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30分） 【第22回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120分）
【第23回】 【第24回】	【第23回】 ・基本文型（～で～ます）① ・ワークシート ●ノート確認 【第24回】 ・基本文型（～で～ます）② ●単語テスト ●暗唱テスト	【第23回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30分） 【第24回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120分）
【第25回】 【第26回】	【第25回】 ・基本文型（～を～ます）① ・ワークシート 【第26回】 ・基本文型（～を～ます）② ●単語テスト ●本文暗唱テスト	【第25回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること（30分） 【第26回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120分）
【第27回】 【第28回】	【第27回】 ・基本文型（～でよく～ます）① ・ワークシート 【第28回】 ・基本文型（～でよく～ます）② ・総復習 [まとめプリント持参] ●本文暗唱テスト	【第27回】 ○本文を音読し、読めて書けるように練習すること・まとめプリント（30分） 【第28回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること・まとめプリント（120分）
【第29回】 【第30回】	【第29回】 ・総復習 [まとめプリント持参] 【第30回】 ●総括試験	【第29課】 ○総復習（60分）

1.授業コード (ナンバリング)	FLK102-Y51	2.科目名	韓国・朝鮮語Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件	韓国・朝鮮語Ⅰを履修済みの学生、あるいはハングル文字の読み書きがある程度できる学生。はじめて学ぶ学生は韓国・朝鮮語Ⅰから受講してください。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	韓国語を入門から継続して学ぶ学生のためのクラスです。 はじめて学ぶ学生は韓国・朝鮮語Ⅰから受講してください。					
17.授業の目的と概要	授業の目的：①ハングル文字がすらすら読めて書けるようになること②初級会話ができるようになること③言葉の学習を通して、韓国の文化に関心を持つことです。 概要：基礎をしっかり固めながら、初級会話ができるように学習していきます。また、韓国の文化を身近に感じてもらうために、視聴覚教材を取り入れた授業も行います。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の(3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力(多様性理解) (5) コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①ハングル文字がすらすら読めて書けるようになること ②初級会話ができるようになること ③言葉の学習を通して、韓国の文化に関心を持つこと					
19.教科書・教材	『できる韓国語 初級Ⅰ』李志暎、新大久保語学院					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：10％ 暗唱テスト：20％		ワークシート：10％ 会話テスト：10％	単語テスト：10％ 総括試験：40％		
22.コメント	韓国語は日本語の語順とほぼ同じで、最も習得しやすい外国語だと思います。 入門の授業と同様、授業中はペアワークなどが多く積極的に学ぶ姿勢が求められますが、その分初級会話ができるようになると思います。 初回の授業から教科書を持参してください。 欠席するときは連絡してください。					
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション ・ハングル文字の総復習 【第2回】 ・パッチム・音変化の総復習			【第1回】 ○復習(30分) 【第2回】 ○復習(30分)		
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・韓国・朝鮮語Ⅰで学習した文法の総復習 【第4回】 ・第9課 釜山までどうやって行きますか(1) [教科書 pp.86-93] ・ワークシート			【第3回】 ○復習(30分) 【第4回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること(120分)		

【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・第 9 課 釜山までどうやって行きますか (2) [教科書 p86-93] ●本文暗唱テスト 【第 6 回】 ・第 10 課 何時からですか (1) [教科書 p94-101] ・ワークシート ●単語テスト	【第 5 回】 ○復習 (30 分) 【第 6 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること (120 分)
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ・第 10 課 何時からですか (2) [教科書 p94-101] ●本文暗唱テスト 【第 8 回】 ・第 11 課 いつ日本へ来ましたか (1) [教科書 p102-109] ・ワークシート ●単語テスト	【第 7 回】 ○復習 (30 分) 【第 8 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること (120 分)
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ・第 11 課 いつ日本へ来ましたか (2) [教科書 p102-109] ●本文暗唱テスト 【第 10 回】 ・第 12 課 お名前は (1) [教科書 p110-117] ・ワークシート ●単語テスト	【第 9 回】 ○復習 (30 分) 【第 10 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること (120 分)
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・第 12 課 お名前は (2) [教科書 p110-117] ●本文暗唱テスト 【第 12 回】 ・第 13 課 どちらへ行っていたらっしゃいましたか (1) [教科書 p118-123] ・ワークシート ●単語テスト	【第 11 回】 ○復習 (30 分) 【第 12 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること (120 分)
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ・第 13 課 どちらへ行っていたらっしゃいましたか (2) [教科書 p118-123] ●本文暗唱テスト 【第 14 回】 ・第 14 課 日本と韓国は似ているけど、けっこう違うでしょう (1) [教科書 p124-129] ・ワークシート ●単語テスト	【第 13 回】 ○復習 (30 分) 【第 14 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、会話テストの練習もすること (120 分)
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ・第 14 課 日本と韓国は似ているけど、けっこう違うでしょう (2) [教科書 p124-129] ●本文暗唱テスト 【第 16 回】 ・第 9 課～第 14 課までの復習 ●単語テスト	【第 15 回】 ○復習 (30 分) 【第 16 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること (120 分)

【第 17 回】 【第 18 課】	【第 17 回】 ●会話テスト 【第 18 回】 ・第 15 課 温泉に行きたいです（1）[教科書 p130-137] ・ワークシート	【第 17 回】 ○復習（30 分） 【第 18 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 19 回】 【第 20 課】	【第 19 回】 ・第 15 課 温泉に行きたいです（2）[教科書 p130-137] ●本文暗唱テスト 【第 20 回】 ・第 16 課 プレゼントを買うのでお金をたくさん使います（1）[教科書 p138-143] ・ワークシート ●単語テスト	【第 19 回】 ○復習（30 分） 【第 20 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ・第 16 課 プレゼントを買うのでお金をたくさん使います（2）[教科書 p138-143] ●本文暗唱テスト 【第 22 回】 ・第 17 課 結婚式に何を着て行けばいいですか（1）[教科書 p144-149] ・ワークシート ●単語テスト	【第 21 回】 ○復習（30 分） 【第 22 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・第 17 課 結婚式に何を着て行けばいいですか（2）[教科書 p144-149] ●本文暗唱テスト 【第 24 回】 ・第 18 課 食事でも一緒にしましょうか（1）[教科書 pp.150-155] ・ワークシート ●単語テスト	【第 23 回】 ○復習（30 分） 【第 24 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・第 18 課 食事でも一緒にしましょうか（2）[教科書 p150-155] ●本文暗唱テスト 【第 26 回】 ・第 19 課 写真をちょっと取っていただけますか（1）[教科書 p156-161] ・ワークシート ●単語テスト	【第 25 回】 ○復習（30 分） 【第 26 回】 ○次回の授業までに本文を音読し、読めて書けるように練習すること（120 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・第 19 課 写真をちょっと取っていただけますか（2）[教科書 p156-161] ●本文暗唱テスト 【第 28 回】 ・第 20 課 自転車に乗ることができますか（1）[教科書 p162-167]	【第 27 回】 ○復習（30 分） 【第 28 回】 ○次回の授業までにまとめプリントで復習すること（240 分）

	科書 p162-168] ・ワークシート	
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・第 20 課 自転車に乗ることができますか（2）[教科書 p162-168] ●本文暗唱テスト 【第 30 回】 ●総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	FOD306-Y51	2.科目名	フードビジネス論		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科の専門科目ですが、他学科他学部の学生さんを歓迎します。			9.履修学年	2～3 回生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本の食品製造業は 30 兆円以上、外食産業は 21 兆円、自動車産業の 15 兆円、観光産業 11 兆円を凌ぐ市場規模に達しています（2018 年）。そのビジネス形態は今も多様に変化しています。消費者と直接接するため現代社会の変化を反映し、国民の日々の生活を支えています。そしてフードビジネスは自動車や電子産業同様に世界に進出し、和食の国際化の立役者でもあります。授業では、フードビジネスを経済・経学の観点から概観し、その社会的特徴を理解することで、観光資源としての可能性を探ります。 また、フードビジネス業界で成功を収めた数々の企業を具体的に見ていくことで、今後も発展が期待されるフードビジネスを通じた和食文化の発信を考える手がかりを探ります。日本を訪れるインバウンドにとってのフードツーリズムを知るために日本の食文化とビジネスを学びます。 授業の後半では、イタリアとフランスを取り上げ、世界のフードツーリズムの最先端事例を知ります。その様子と、今日本で導入が進むフードツーリズムを比較しながら、近未来の観光の形を探ります。					
18.学習目標と DPとの関連	【本科目の学習目標】 日本と世界の「フードビジネス」の全体像を知る。その歴史、関連産業分野への広がりを知り、食品加工業と外食産業を理解する。また、観光との関係で、フードツーリズム、エノガストロノミー、アグリツーリズム、スローフードなどを知る。ディプロマポリシーの「社会的貢献性」「多様性理解」に沿って産業界とその世界的広がりについて充実した内容を学ぶ。これらのキーワードを説明できることが目標です。 【DP（ディプロマ・ポリシー）に関連】 K1?歴史・伝統・?化・?然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる。 K2?グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関?を持つ。 K4?異なる価値観を理解し、?分の考えや?本の魅?を的確に伝えるコミュニケーション?を備える。					
19.教科書・教材	授業中に資料を配布します。参考になる本は、授業の中で紹介します。その一つが、茂木友三郎「キッコーマンのグローバル経営-日本の食文化を世界に-」生産性出版です。その他、宗田の著作をその都度紹介します。					
20.参考文献	宗田好史『創造都市のための観光振興 小さなビジネスを育てるまちづくり』学芸出版社 2009 宗田好史『なぜイタリアの村は美しく元気なのか 市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社 2012 宗田好史『インバウンド再生 コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社 2020					
21.成績評価	出席点と、授業の際に課すレポート、最終レポートで評価し、期末試験はしない予定です。					
22.コメント						

23.オフィスアワー		宗田：火曜 3 コース（研究室/3-308）、火曜 2 コース(学修支援センター)	
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 10 月 5 日：フードビジネスとは何か	ガイダンス：授業内容の説明、食品ビジネスを学ぶ社会的背景と現代的な課題、近年の日本の食品ビジネスの成長とその発展段階、その市場拡大を農業、水産業との比較から考えていきます。観光学科では、世界のフードビジネスも学びます。観光に出かけると食文化は大きな魅力、お土産にも食材は人気です。外食産業を知り、フードツーリズムを学びます。		事前学習：皆さんの好きな食品メーカを 10 社上げて下さい。 アサインメント：海外で楽しみたい食は何ですか？
第 2 回 10 月 12 日：食品ビジネスの歴史	食品ビジネスの歴史：食品ビジネスの背景には、とても長い日本の加工食品業界の歴史があります。それは日本の食文化と密接に結びつき、地域性があります。醤油や味噌、酒には産地があります。この授業では、日本と世界の食文化を知り、近代史から見た食品ビジネスを学び、高度経済成長前後の食生活の変化の中で、日本の食品ビジネスが世界に展開した様子を学びます。		事前学習：味噌と醤油の産地を調べて下さい。 アサインメント：キッコーマンのホームページから海外の製造拠点を調べて下さい。
第 3 回 10 月 19 日：世界のフードビジネス	日本ではキッコーマンが世界的に知られるフードビジネス界の代表選手です。世界にはもっと大きく有名な会社があります。ネスレとかユニリーバなどです。そこで世界のフード・システムを見て、世界の食産業の様子を知り、多様な世界の食ビジネスの国際比較が今日のお話しです。		事前学習：海外の食品メーカーの名前を上げて下さい。 アサインメント：ネスレの商品で皆さんが使ったことのあるものを調べて下さい。
第 4 回 10 月 26 日：フードチェーンの展開	今や、世界の流通システムは巨大化し、欧米先進国や日本は密接に繋がれ、ローカルフードよりもはるかに多くの輸入食品を、我々は消費しています。その食の国際化を可能にした「フードチェーン」の展開のお話です。ロジスティクスとは輸送のこと、どんなに遠くでも少しでも安い方法で確実に届ける仕組みのことです。それがとグローバル化したことでフードビジネスは巨大化しました。日本の食品企業、外食産業もありますが、この世界戦略が得意です。		事前学習：神戸港は日本を代表する港です。どんな海外の食材が輸入されているか調べて下さい。 アサインメント：コンテナ船の大きさを調べて下さい。
第 5 回 11 月 2 日：食生活の変化とフードビジネス	日本人の食生活は大きく変化しました。そのため、フードビジネスでは加工食品を次々と開発し、インスタント食品は大規模化しました。レトルトもコンビニ弁当も、調理品だけでなく菓子類も工場で作られます。このビジネスがどう発展してきたかを知るお話です。前回お話ししたロジスティクスの発達とともに、大量に生産された多様な食品が遠くまで運ばれることで、フードビジネスの市場は拡大、この変化を予測する術を持っていた会社が成功しました。キッコーマンなど有名企業の市場調査手法を紹介します。		アサインメント：冷蔵庫に入っている食品で海外で作られたものを調べてみて下さい。
第 6 回 11 月 9 日：ファストフードの発達と世界展開力	フードビジネスの中でもファストフード業界は最大のもので、マクドナルドが有名です。ファストフードが巨大化した現代社会を捉え、フードビジネスが急拡大しました。これまで述べたロジスティクスの発展が重要ですが、この発展拡大により、社会がどう変わり、我々の食生活がどう変わったかをみます。我々の社会		アサインメント：マクドナルドがどこでどう作られているか、調べてみて下さい。

	がフードビジネスに取り込まれたとも思えるから、これをファストフード化と呼びます。それに反対する人々が始めたのが、スローフード運動です。ファストとスローの近いからフードビジネスを考えます。	
第7回 11月16日：もう一つ巨大化したファミレス業界	ファミレス（ファミリーレストラン）は都市化とともに発展した産業です。アメリカで始まり、日本で大規模化しました。巨大化したフードビジネスの中心的存在です。東京郊外の保谷市（西東京市）のひばりが丘団地のスーパーマーケットが開いたレストラン「すかいらく」は数々の名前です。いろいろな料理を売っています。和食もあれば回転ずし、イタリアンもフレンチもあります。このビジネスモデルはインバウンドにも大人気です。この日本固有の業界を学びます。	事前学習：知っているファミレスの名前を上げて下さい。 アサイメント：セントラルキッチン方式、POS システムなどのお話を復習しておいて下さい。就活にも役立ちます。
第8回 11月23日：飲食業界の全体像を知る	ファストフードとファミレス以外にも飲食業は広がっています。飲食は昔から続く伝統的な業種、零細な個人企業のまま残ったお店が多くあります。ただその9割が短命に終わります。「飲食店はなぜ1年でつぶれるのか」を知り、フードビジネスの経営の側面を見ていきます。 一方、和食文化への関心の高まりから、京都などでは老舗料亭がしっかりと生き残っています。伝統的な食文化を守っているようで、かなり現代的な経営をしています。そして、インバウンドに大人気です。伝統と革新、大企業と零細な事業所、その対比の中でフードビジネスの特殊事情	アサイメント：飲食店を開業しようと思った時に、何が必要か書き出してみして下さい。
第9回 11月30日：世界の食文化と飲食業界	これまで日本を中心にフードビジネスのお話しをしてきましたが、今回から海外に目を向けます。食文化は多様で、フードビジネスの発展の様子もだいぶ違います。すでに紹介した世界でも有名な食品企業はありますが、外食産業の様子は大きく違います。マクドナルドの出店を嫌いファストフード化を否定、スローフード運動を世界に広めたイタリアや、伝統的食文化を守る美食の国フランスなど、固有のフードビジネスを成功させている国のお話しをします。	事前学習：フランスとイタリアの料理を上げて下さい。 アサイメント：今日話に出た外国に関心のある食材、飲食店を上げて下さい。
第10回 12月7日：イタリアのスローフード	1986年に始まったスローフード運動は、イタリアのトリノの郊外ブレに食科学大学を開設し、世界的巨大フードビジネスに対抗しようとしています。スローフードは世界各地に広がり、スローでローカルな食文化を守っています。これは、ガストロノミー観光には魅力です。フードツーリズムも美食だけでなく、スローに健康に美容に、そして環境保全にという展開が起こるからです。有機食材や無農薬の動きも盛んです。イタリアでスローフードがどう広がったかをお話しします。	事前学習：スローフードを知らせて下さい。 アサイメント：オーガニック食品をリストにして下さい。
第11回 12月14日：イタリアのアグリツーリズムとフードビジネス	イタリアにはスローフード以前からアグリツーリズムがあります。農村に行き取れたての食材を楽しむ、農家民宿に泊まる余暇の過ごし方です。農村観光と言われるスタイルで、同時にフードツーリズム、食とワインが人気の秘密です。イタリアの他にもフランスで	事前学習：農村観光をホームページで検索してください。 アサイメント：オーベルジュについて調べて下さい。泊ったことがある人は感想を述べて下さい。

	はグリーンツーリズム、ドイツでは農家民宿、イギリスではB & Bとしてそれぞれ人気のスタイルを持っています。でも日本ではなかなか発達しません。小さいながらローカルな食文化を守る体制の違いを学びます。	
第 12 回 12 月 21 日：フランスのガストロノミーと美酒美食観光	イタリア以上に美食文化の国がフランス、イタリアもエノガストロノミー観光ではフランスから大いに学んでいます。フランスでは、有名なワイン産地にブルゴーニュ、ボルドー、シャンパーニュ地方があり、それぞれの農村景観が世界文化遺産に登録されており、世界から美酒と美食を求める裕福な観光客を集めています。そこには世界有数なワイナリーがあり、LVMH 社系列の世界ブランドのフードビジネス企業が揃っています。このフランス独特のビジネスモデルを学び、フードと観光ビジネスの未来を探ります。	アサイメント：少しワインに詳しくなりましょう。フランスのワイン産地を 5 つ、イタリアの産地を 3 つ挙げて、その特色を述べて下さい。
第 13 回 1 月 11 日：日本のフードツーリズム	もう少し世界をみようと、アメリカのナババレー、スコットランドのウィスキーツアーの話を続けます。この他にも紹介したい国や地域はありますが、日本のフードツーリズムの話に移ります。日本には巨大化したフードビジネスがあるだけでなく、フードツーリズムに取り組む地域があります。京都が輸産名ですが、兵庫テロアール、食の創造都市・鶴岡、そして美酒の国新潟などです。和食のユネスコ無形遺産登録を受け、食文化は登録無形文化財にもなりました。各地に地産地消のオーガニックレストランが増えています。小さなフードビジネスの起こし方を学	事前学習：知っているスコッチ・ウィスキーのブランド名を上げて下さい。 アサイメント：日本国内の食文化観光地を上げて下さい。
第 14 回 1 月 18 日：フードビジネスの未来、グローバル化する食文化と観光	こうして、フードビジネスは様々な形に成長してきました。その未来は洋々とし、皆さんが活躍を待っています。一方、食文化はグローバル化し、日本を訪れるインバウンドの最大の楽しみは日本の食文化にあるといえます。実際、今は世界に 20 万店もの日本食店があり、欧米先進国の食品スーパーには普通にお寿司や握り飯が並んでいます。授業を締めくくる前に、未来の食生活と未来のフードビジネス、フードツーリズムを予測するデータをお見せし、一緒に考えていきます。	アサイメント：皆さんが就職したいと思うような企業は見つかりましたか？もしあれば一つ上げて下さい。
第 15 回 1 月 25 日：フードビジネスへの就活、何を用意するか	これまでの授業を振り返り、身につけて欲しい重要なポイントを整理します。フードビジネスは 30 兆円を超える産業、自動車産業の 2 倍、観光産業の 3 倍あります。つまり、求人数もそれだけ多いのです。ただ、自動車産業と違い大手が多いわけではなく、ローカルな零細企業ばかりですが、中にはキッコーマンやサントリーなど世界展開する企業もあり、国際的な人材を求めています。最後に就活に役立つ知識を総ざらいします。	最終回のまとめのレポート課題をお示しします。

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-A51	2.科目名	基礎演習		3.単位数	1
4.授業担当教員	馬場住子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 初年次セミナー、学習技術の内容を踏まえ、2 年生以降の専門的な学習の基盤となる教養や学習技術（リーディングスキル、レポート作成スキル）の獲得をめざします。 【概要】 主な授業概要として、学習活動前半は、学術的な論文の読み方について進めていきます。それらを通して、学術的なレポートの構成について理解を深めます。学習活動後半では、前半で読んだ学術的な論文を活用し、レポート執筆に取り組みます。また同時履修しているインターンシップ／サービslラーニングで経験した現場の具体的事象との関連性を検討します。					
18.学習目標と DP との関連	本授業の目的を達成するために、以下の学習目標を設定しています。 ①文献の要約がどのように構成されているかを解説することができる ②学術的なレポート作成ができる ③客観的根拠をもとに、自分の考えを論述できる ④作成したレポートと経験学習（IS/SL）との関連性を示すことができる ⑤今後の大学生活の目標を設定できる（専攻決定）					
19.教科書・教材	授業内で適宜資料を配布します。					
20.参考文献	学習技術テキスト「知へのステップ」					
21.成績評価	課題 1：文献要約ワークシート 25%【学習目標①に対応】 ・指定された文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）の要約（5%×2） ・選定した文献の要約（5%×3） 課題 2：プレゼンテーション 25%【学習目標②③に対応】 ・収集した文献を踏まえ、well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマに関するプレゼンテーションを行う。 課題 3：最終レポート 40%【学習目標②③に対応】 テーマ：well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマに関するプレゼンテーションを行う。					
22.コメント	教育福祉学科 1 年生ゼミ（初年次セミナー、基礎演習）では、効果的な学習を進めるために、1 年間を通じてテーマ「教育/保育/福祉現場の抱える安全・安心上の問題とその背景」について取り組みます。秋学期の基礎演習では、well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマについて、インターンシップ/サービslラーニングでの具体的な体験を適宜関連づけながら、文献と具体的事象との往還を意図した学習を進めます。					
23.オフィスアワー	金曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業オリエンテーション ・基礎演習の学習目標、評価、進め方の確認			☆情報検索や文書作成等をリアルタイムで行いますので、各回で PC 持参を推奨します		
【第 2 回】	リーディングと要約① ・指定文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）を用いたリーディングとワークシートを用いた要約			○文献要約ワークシート（60）		

【第3回】	リーディングと要約② ・指定文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（指定文献のうち、1番目にリーディングを行った章） ○文献要約ワークシート（60）
【第4回】	文献検索と文献入手 ・学内の情報検索ツールの活用方法について確認する ・「well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマ」と関連させながら、関心のあるキーワードを検討する ・キーワードを用いて文献検索する ・本学文献検索サイトおよび図書館を利用し、選定した3つの文献を入手する	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（指定文献のうち、2番目にリーディングを行った章） ○文献検索を行い、読みたい文献を3つ選定してくる（60）
【第5回】	リーディングと要約① ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	○文献要約ワークシート（60）
【第6回】	リーディングと要約② ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、1番目にリーディングを行った文献） ○文献要約ワークシート（60）
【第7回】	リーディングと要約③ ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、2番目にリーディングを行った文献） ○文献要約ワークシート（60）
【第8回】	グループプレゼンテーション準備① ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約をもとに、設定した小テーマに基づいたプレゼンテーションの構成をグループごとに検討する	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、3番目にリーディングを行った文献） ○ワークシートを用いてこれまでの文献内容を再確認しておく（60）
【第9回】	グループプレゼンテーション準備② ・プレゼンテーションについて、グループごとに抄録（要約版ポスター）を作成する	○プレゼンテーションの構成案を検討する（60）
【第10回】	グループプレゼンテーション ・抄録（要約版ポスター）を用いたプレゼンテーションを行い、他者と意見交流する	○プレゼンテーションの内容をブラッシュアップしておく（60分）
【第11回】	アカデミックライティング① ・プレゼンテーションを踏まえ、個人単位で最終レポートの構成を検討する	○【課題3】レポートの執筆（90）
【第12回】	アカデミックライティング② ・レポートの構成について、相互レビューを行う ・レポート構成を、ブラッシュアップする	○【課題3】レポートの執筆（90）
【第13回】	アカデミックライティング③ ・最終レポートを作成する	○【課題3】レポートの執筆（90）
【第14回】	まとめ①	★提出：【課題3】レポート

	・アクションプランシートをもとに、執筆したレポートと1年次に履修したインターンシップ／サービスラーニングとの関連性を検討する	○【課題4】アクションプランシートの作成
【第15回】	まとめ② ・アクションプランシートをもとに、学習目標の到達状況及び2年次以降の学びやキャリアについて検討する	★提出：【課題4】アクションプランシート

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-A52	2.科目名	基礎演習		3.単位数	1
4.授業担当教員	上原昭三					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 初年次セミナー、学習技術の内容を踏まえ、2 年生以降の専門的な学習の基盤となる教養や学習技術（リーディングスキル、レポート作成スキル）の獲得をめざします。 【概要】 主な授業概要として、学習活動前半は、学術的な論文の読み方について進めていきます。それらを通して、学術的なレポートの構成について理解を深めます。学習活動後半では、前半で読んだ学術的な論文を活用し、レポート執筆に取り組みます。また同時履修しているインターンシップ／サービslラーニングで経験した現場の具体的事象との関連性を検討します。					
18.学習目標と DP との関連	本授業の目的を達成するために、以下の学習目標を設定しています。 ①文献の要約がどのように構成されているかを解説することができる ②学術的なレポート作成ができる ③客観的根拠をもとに、自分の考えを論述できる ④作成したレポートと経験学習（IS/SL）との関連性を示すことができる ⑤今後の大学生活の目標を設定できる（専攻決定）					
19.教科書・教材	授業内で適宜資料を配布します。					
20.参考文献	学習技術テキスト「知へのステップ」					
21.成績評価	課題 1：文献要約ワークシート 25%【学習目標①に対応】 ・指定された文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）の要約（5%×2） ・選定した文献の要約（5%×3） 課題 2：プレゼンテーション 25%【学習目標②③に対応】 ・収集した文献を踏まえ、well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマに関するプレゼンテーションを行う。 課題 3：最終レポート 40%【学習目標②③に対応】 テーマ：well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼ					
22.コメント	教育福祉学科 1 年生ゼミ（初年次セミナー、基礎演習）では、効果的な学習を進めるために、1 年間を通じてテーマ「教育/保育/福祉現場の抱える安全・安心上の問題とその背景」について取り組みます。秋学期の基礎演習では、well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマについて、インターンシップ/サービslラーニングでの具体的な体験を適宜関連づけながら、文献と具体的事象との往還を意図した学習を進めます。					
23.オフィスアワー	火曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業オリエンテーション ・基礎演習の学習目標、評価、進め方の確認			☆情報検索や文書作成等をリアルタイムで行いますので、各回で PC 持参を推奨します		
【第 2 回】	リーディングと要約① ・指定文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）を用いたリーディングとワークシートを用いた要約			○文献要約ワークシート（60）		

【第3回】	リーディングと要約② ・指定文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（指定文献のうち、1番目にリーディングを行った章） ○文献要約ワークシート（60）
【第4回】	文献検索と文献入手 ・学内の情報検索ツールの活用方法について確認する ・「well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマ」と関連させながら、関心のあるキーワードを検討する ・キーワードを用いて文献検索する ・本学文献検索サイトおよび図書館を利用し、選定した3つの文献を入手する	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（指定文献のうち、2番目にリーディングを行った章） ○文献検索を行い、読みたい文献を3つ選定してくる（60）
【第5回】	リーディングと要約① ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	○文献要約ワークシート（60）
【第6回】	リーディングと要約② ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、1番目にリーディングを行った文献） ○文献要約ワークシート（60）
【第7回】	リーディングと要約③ ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、2番目にリーディングを行った文献） ○文献要約ワークシート（60）
【第8回】	グループプレゼンテーション準備① ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約をもとに、設定した小テーマに基づいたプレゼンテーションの構成をグループごとに検討する	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、3番目にリーディングを行った文献） ○ワークシートを用いてこれまでの文献内容を再確認しておく（60）
【第9回】	グループプレゼンテーション準備② ・プレゼンテーションについて、グループごとに抄録（要約版ポスター）を作成する	○プレゼンテーションの構成案を検討する（60）
【第10回】	グループプレゼンテーション ・抄録（要約版ポスター）を用いたプレゼンテーションを行い、他者と意見交流する	○プレゼンテーションの内容をブラッシュアップしておく（60分）
【第11回】	アカデミックライティング① ・プレゼンテーションを踏まえ、個人単位で最終レポートの構成を検討する	○【課題3】レポートの執筆（90）
【第12回】	アカデミックライティング② ・レポートの構成について、相互レビューを行う ・レポート構成を、ブラッシュアップする	○【課題3】レポートの執筆（90）
【第13回】	アカデミックライティング③ ・最終レポートを作成する	○【課題3】レポートの執筆（90）
【第14回】	まとめ①	★提出：【課題3】レポート

	・アクションプランシートをもとに、執筆したレポートと1年次に履修したインターンシップ／サービスラーニングとの関連性を検討する	○【課題4】アクションプランシートの作成
【第15回】	まとめ② ・アクションプランシートをもとに、学習目標の到達状況及び2年次以降の学びやキャリアについて検討する	★提出：【課題4】アクションプランシート

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-A53	2.科目名	基礎演習		3.単位数	1
4.授業担当教員	下里里枝					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 初年次セミナー、学習技術の内容を踏まえ、2 年生以降の専門的な学習の基盤となる教養や学習技術（リーディングスキル、レポート作成スキル）の獲得をめざします。 【概要】 主な授業概要として、学習活動前半は、学術的な論文の読み方について進めていきます。それらを通して、学術的なレポートの構成について理解を深めます。学習活動後半では、前半で読んだ学術的な論文を活用し、レポート執筆に取り組みます。また同時履修しているインターンシップ／サービslラーニングで経験した現場の具体的事象との関連性を検討します。					
18.学習目標と DP との関連	本授業の目的を達成するために、以下の学習目標を設定しています。 ①文献の要約がどのように構成されているかを解説することができる ②学術的なレポート作成ができる ③客観的根拠をもとに、自分の考えを論述できる ④作成したレポートと経験学習（IS/SL）との関連性を示すことができる ⑤今後の大学生活の目標を設定できる（専攻決定）					
19.教科書・教材	授業内で適宜資料を配布します。					
20.参考文献	学習技術テキスト「知へのステップ」					
21.成績評価	課題 1：文献要約ワークシート 25%【学習目標①に対応】 ・ 指定された文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）の要約（5%×2） ・ 選定した文献の要約（5%×3） 課題 2：プレゼンテーション 25%【学習目標②③に対応】 ・ 収集した文献を踏まえ、well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマに関するプレゼンテーションを行う。 課題 3：最終レポート 40%【学習目標②③に対応】 テーマ：well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼ					
22.コメント	教育福祉学科 1 年生ゼミ（初年次セミナー、基礎演習）では、効果的な学習を進めるために、1 年間を通じてテーマ「教育/保育/福祉現場の抱える安全・安心上の問題とその背景」について取り組みます。秋学期の基礎演習では、well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマについて、インターンシップ/サービslラーニングでの具体的な体験を適宜関連づけながら、文献と具体的事象との往還を意図した学習を進めます。					
23.オフィスアワー	火曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業オリエンテーション ・ 基礎演習の学習目標、評価、進め方の確認			☆情報検索や文書作成等をリアルタイムで行いますので、各回で PC 持参を推奨します		
【第 2 回】	リーディングと要約① ・ 指定文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）を用いたリーディングとワークシートを用いた要約			○文献要約ワークシート（60）		

【第3回】	リーディングと要約② ・指定文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（指定文献のうち、1番目にリーディングを行った章） ○文献要約ワークシート（60）
【第4回】	文献検索と文献入手 ・学内の情報検索ツールの活用方法について確認する ・「well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマ」と関連させながら、関心のあるキーワードを検討する ・キーワードを用いて文献検索する ・本学文献検索サイトおよび図書館を利用し、選定した3つの文献を入手する	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（指定文献のうち、2番目にリーディングを行った章） ○文献検索を行い、読みたい文献を3つ選定してくる（60）
【第5回】	リーディングと要約① ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	○文献要約ワークシート（60）
【第6回】	リーディングと要約② ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、1番目にリーディングを行った文献） ○文献要約ワークシート（60）
【第7回】	リーディングと要約③ ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、2番目にリーディングを行った文献） ○文献要約ワークシート（60）
【第8回】	グループプレゼンテーション準備① ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約をもとに、設定した小テーマに基づいたプレゼンテーションの構成をグループごとに検討する	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、3番目にリーディングを行った文献） ○ワークシートを用いてこれまでの文献内容を再確認しておく（60）
【第9回】	グループプレゼンテーション準備② ・プレゼンテーションについて、グループごとに抄録（要約版ポスター）を作成する	○プレゼンテーションの構成案を検討する（60）
【第10回】	グループプレゼンテーション ・抄録（要約版ポスター）を用いたプレゼンテーションを行い、他者と意見交流する	○プレゼンテーションの内容をブラッシュアップしておく（60分）
【第11回】	アカデミックライティング① ・プレゼンテーションを踏まえ、個人単位で最終レポートの構成を検討する	○【課題3】レポートの執筆（90）
【第12回】	アカデミックライティング② ・レポートの構成について、相互レビューを行う ・レポート構成を、ブラッシュアップする	○【課題3】レポートの執筆（90）
【第13回】	アカデミックライティング③ ・最終レポートを作成する	○【課題3】レポートの執筆（90）
【第14回】	まとめ①	★提出：【課題3】レポート

	・アクションプランシートをもとに、執筆したレポートと1年次に履修したインターンシップ／サービスラーニングとの関連性を検討する	○【課題4】アクションプランシートの作成
【第15回】	まとめ② ・アクションプランシートをもとに、学習目標の到達状況及び2年次以降の学びやキャリアについて検討する	★提出：【課題4】アクションプランシート

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-A54	2.科目名	基礎演習		3.単位数	1
4.授業担当教員	岩本裕子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 初年次セミナー、学習技術の内容を踏まえ、2 年生以降の専門的な学習の基盤となる教養や学習技術（リーディングスキル、レポート作成スキル）の獲得をめざします。 【概要】 主な授業概要として、学習活動前半は、学術的な論文の読み方について進めていきます。それらを通して、学術的なレポートの構成について理解を深めます。学習活動後半では、前半で読んだ学術的な論文を活用し、レポート執筆に取り組みます。また同時履修しているインターンシップ／サービslラーニングで経験した現場の具体的事象との関連性を検討します。					
18.学習目標と DP との関連	本授業の目的を達成するために、以下の学習目標を設定しています。 ①文献の要約がどのように構成されているかを解説することができる ②学術的なレポート作成ができる ③客観的根拠をもとに、自分の考えを論述できる ④作成したレポートと経験学習（IS/SL）との関連性を示すことができる ⑤今後の大学生活の目標を設定できる（専攻決定）					
19.教科書・教材	授業内で適宜資料を配布します。					
20.参考文献	学習技術テキスト「知へのステップ」					
21.成績評価	課題 1：文献要約ワークシート 25%【学習目標①に対応】 ・指定された文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）の要約（5%×2） ・選定した文献の要約（5%×3） 課題 2：プレゼンテーション 25%【学習目標②③に対応】 ・収集した文献を踏まえ、well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマに関するプレゼンテーションを行う。 課題 3：最終レポート 40%【学習目標②③に対応】 テーマ：well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼ					
22.コメント	教育福祉学科 1 年生ゼミ（初年次セミナー、基礎演習）では、効果的な学習を進めるために、1 年間を通じてテーマ「教育/保育/福祉現場の抱える安全・安心上の問題とその背景」について取り組みます。秋学期の基礎演習では、well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマについて、インターンシップ/サービslラーニングでの具体的な体験を適宜関連づけながら、文献と具体的事象との往還を意図した学習を進めます。					
23.オフィスアワー	火曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業オリエンテーション ・基礎演習の学習目標、評価、進め方の確認			☆情報検索や文書作成等をリアルタイムで行いますので、各回で PC 持参を推奨します		
【第 2 回】	リーディングと要約① ・指定文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）を用いたリーディングとワークシートを用いた要約			○文献要約ワークシート（60）		

【第3回】	リーディングと要約② ・指定文献（ウォーミングアップ学習の際に用いた文献）を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（指定文献のうち、1番目にリーディングを行った章） ○文献要約ワークシート（60）
【第4回】	文献検索と文献入手 ・学内の情報検索ツールの活用方法について確認する ・「well-being（ウェル・ビーイング）という大テーマのもと、ゼミごとに設定された小テーマ」と関連させながら、関心のあるキーワードを検討する ・キーワードを用いて文献検索する ・本学文献検索サイトおよび図書館を利用し、選定した3つの文献を入手する	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（指定文献のうち、2番目にリーディングを行った章） ○文献検索を行い、読みたい文献を3つ選定してくる（60）
【第5回】	リーディングと要約① ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	○文献要約ワークシート（60）
【第6回】	リーディングと要約② ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、1番目にリーディングを行った文献） ○文献要約ワークシート（60）
【第7回】	リーディングと要約③ ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約 ・ワークシートの内容を相互レビューする	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、2番目にリーディングを行った文献） ○文献要約ワークシート（60）
【第8回】	グループプレゼンテーション準備① ・選定文献を用いたリーディングとワークシートを用いた要約をもとに、設定した小テーマに基づいたプレゼンテーションの構成をグループごとに検討する	★提出：【課題1】文献要約ワークシート（選定文献のうち、3番目にリーディングを行った文献） ○ワークシートを用いてこれまでの文献内容を再確認しておく（60）
【第9回】	グループプレゼンテーション準備② ・プレゼンテーションについて、グループごとに抄録（要約版ポスター）を作成する	○プレゼンテーションの構成案を検討する（60）
【第10回】	グループプレゼンテーション ・抄録（要約版ポスター）を用いたプレゼンテーションを行い、他者と意見交流する	○プレゼンテーションの内容をブラッシュアップしておく（60分）
【第11回】	アカデミックライティング① ・プレゼンテーションを踏まえ、個人単位で最終レポートの構成を検討する	○【課題3】レポートの執筆（90）
【第12回】	アカデミックライティング② ・レポートの構成について、相互レビューを行う ・レポート構成を、ブラッシュアップする	○【課題3】レポートの執筆（90）
【第13回】	アカデミックライティング③ ・最終レポートを作成する	○【課題3】レポートの執筆（90）
【第14回】	まとめ①	★提出：【課題3】レポート

	・アクションプランシートをもとに、執筆したレポートと1年次に履修したインターンシップ／サービスラーニングとの関連性を検討する	○【課題4】アクションプランシートの作成
【第15回】	まとめ② ・アクションプランシートをもとに、学習目標の到達状況及び2年次以降の学びやキャリアについて検討する	★提出：【課題4】アクションプランシート

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-A56	2.科目名	基礎演習（経営尼崎 1）		3.単位数	1																												
4.授業担当教員	田中智子																																	
5.授業科目の区分	KUIS ベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期																													
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～																													
10.取得資格の要件				11.先修条件																														
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※																													
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習																													
16.履修制限																																		
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 この科目では、春学期の学習技術や初年次セミナーにおけるさまざまな学修をふまえ、2 年次以降の専門教育に向けて基礎を固めることを目的とする 【授業の概要】 具体的には、春学期に初年次セミナーで教材にした「勉強する気はなぜ起こらないのか」を素材として、リーディング力の基礎的を固めると共に、応用的な力や読んだ上での自分の考えをまとめてレポートしていくライティング力の向上に取り組む。 また就職活動などで必要になるビジネスメールやビジネス文書の書き方を修得する。 就職活動だけでなく社会に出てからの自分のキャリア形成をどうしていくのかを考えるため、外部講師の講話と上級生がどう考えて何を 1, 2 年生から実行していったかの話を聞いたり、インタビューを通じて、自分のキャリアについて関心を高める。 更には、PBL 課題についてのグループワークを行い、グループで分担して調べて、論議して、考えを伝えあって、まとめて成果物を作り、発表するという一連のグループワークを行い、主体性と協調性、リーダーシップなどを体得していく。																																	
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）多様性理解、（5）コミュニケーション能力の学修に関連しています。 ①基礎的なライティング・スキルを身に付ける。（ライティンググルーブリック（下位学年用）のレベル 3） ②グループワークに積極的に参加できる。（チームワークグルーブリックのレベル 3） ③社会人として求められる基礎的学力とマナーを身に付ける。																																	
19.教科書・教材	適宜指示する																																	
20.参考文献	○朝日デジタル新聞 ○朝日新聞「時事ワークシート」 ○『知へのステップ（第 5 版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：9784874247891 ○kuis ドリル																																	
21.成績評価	<table><tr><td>・リーディングレポート</td><td>1～4 章</td><td>4 回×5 点</td><td>20 点</td></tr><tr><td>・中間レポート</td><td></td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・ビジネス文書</td><td>2 回×5 点</td><td></td><td>10 点</td></tr><tr><td>・キャリア授業レポート</td><td>2 回×5 点</td><td></td><td>10 点</td></tr><tr><td>・グループ PPT</td><td colspan="2">（個人貢献度 加算）</td><td>15 点</td></tr><tr><td>・最終レポート</td><td></td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・kuis ドリル</td><td colspan="3">SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎</td></tr></table>						・リーディングレポート	1～4 章	4 回×5 点	20 点	・中間レポート			15 点	・ビジネス文書	2 回×5 点		10 点	・キャリア授業レポート	2 回×5 点		10 点	・グループ PPT	（個人貢献度 加算）		15 点	・最終レポート			15 点	・kuis ドリル	SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎		
・リーディングレポート	1～4 章	4 回×5 点	20 点																															
・中間レポート			15 点																															
・ビジネス文書	2 回×5 点		10 点																															
・キャリア授業レポート	2 回×5 点		10 点																															
・グループ PPT	（個人貢献度 加算）		15 点																															
・最終レポート			15 点																															
・kuis ドリル	SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎																																	
22.コメント	特別に説明がない限り、すべての授業でノート PC 持参																																	
23.オフィスアワー																																		
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)																														
第 1 回	・オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等			・宿題 1 章を読んで考えたことをレポート																														

	の説明) ・リーディング①「勉強する気・・・」1章	600 字以上 (字数厳守) ・KUIS ドリル
第 2 回	・リーディング②「勉強する気・・・」2章	・宿題 2章を読んで考えたことをレポート 600 字以上 (字数厳守) ・KUIS ドリル
第 3 回	・リーディング③「勉強する気・・・」3章	・宿題 3章を読んで考えたことをレポート 600 字以上 (字数厳守) ・KUIS ドリル
第 4 回	・リーディング④「勉強する気・・・」4章	・宿題 4章を読んで考えたことをレポート 600 字以上 (字数厳守) ・KUIS ドリル
第 5 回	・リーディング⑤「勉強する気・・・」5章	・宿題 中間レポート「各自の勉強しなかった反省点と今後の克服のための行動計画などをレポートしてください」 1500 字以上 (字数厳守 章立てして作る) 締切は第 7 回前日 ・KUIS ドリル
第 6 回	・リーディング⑥「勉強する気・・・」6章	・中間レポートに取り組む ・KUIS ドリル
第 7 回	・ビジネス文書① あいさつ文やビジネスメールなど	・宿題 ビジネスメール作成 ・KUIS ドリル
第 8 回	・ビジネス文書② ビジネス文書の作成	・宿題 ビジネス文書作成 ・KUIS ドリル
第 9 回	・キャリア授業① ・キャリア支援課から講話予定	・宿題 授業のレポート ・KUIS ドリル
第 10 回	・キャリア授業② ・先輩のトークと質疑応答	・宿題 授業のレポート ・KUIS ドリル
第 11 回	・PBL グループワーク 課題について 11 回から 14 回でグループで論議してパワーポイントで成果物を作り発表する ・課題についての説明	・PBL 課題の検討 ・KUIS ドリル
第 12 回	・PBL グループワーク ・課題を決めてグループディスカッション ・パワーポイント作成 ・グループ単位で評価 (個人貢献度は加算)	・宿題 最終レポート 「関西国際大学の PR を作るにあたり、今の関西国際大学または大学学生での課題をまとめ、それに対してあなたが今後何をするかの行動計画を 1000 字以上でレポートしてください。きちんと章立てしてレポートを作ること」 締切は第 15 回前日 ・KUIS ドリル
第 13 回	・PBL グループワーク ・パワーポイント作成	・宿題 ePF 記事投稿 「基礎演習を受講して」(500 字以上) ・最終レポートに取り組む

		・ KUIS ドリル
第 14 回	・ PBL グループワーク ・ PBL グループワーク ゼミ内発表会 優秀 2 G を選ぶ<発表以外の学生は採点表に採点する>	・ 最終レポートに取り組む ・ ePF 記事投稿に取り組む ・ KUIS ドリル
第 15 回	・ PBL グループワーク全体発表会 ・ 各ゼミ 1 グループ× 6 ゼミ <発表以外の学生は採点表に採点する> ・ 授業の振り返り ・ 最終授業アンケート	・ 授業を振り返る ・ KUIS ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-A57	2.科目名	基礎演習（経営尼崎 2）		3.単位数	1																												
4.授業担当教員	杉林弘仁																																	
5.授業科目の区分	KUIS ベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期																													
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～																													
10.取得資格の要件				11.先修条件	なし																													
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※																													
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習																													
16.履修制限																																		
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 この科目では、春学期の学習技術や初年次セミナーにおけるさまざまな学修をふまえ、2 年次以降の専門教育に向けて基礎を固めることを目的とする 【授業の概要】 具体的には、春学期に初年次セミナーで教材にした「勉強する気はなぜ起こらないのか」を素材として、リーディング力の基礎的を固めると共に、応用的な力や読んだ上での自分の考えをまとめてレポートしていくライティング力の向上に取り組む。 また就職活動などで必要になるビジネスメールやビジネス文書の書き方を修得する。 就職活動だけでなく社会に出てからの自分のキャリア形成をどうしていくのかを考えるため、外部講師の講話と上級生がどう考えて何を 1, 2 年生から実行していったかの話を聞いたり、インタビューを通じて、自分のキャリアについて関心を高める。 更には、PBL 課題についてのグループワークを行い、グループで分担して調べて、論議して、考えを伝えあって、まとめて成果物を作り、発表するという一連のグループワークを行い、主体性と協調性、リーダーシップなどを体得していく。																																	
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）多様性理解、（5）コミュニケーション能力の学修に関連しています。 ①基礎的なライティング・スキルを身に付ける。（ライティンググルーブリック（下位学年用）のレベル 3） ②グループワークに積極的に参加できる。（チームワークグルーブリックのレベル 3） ③社会人として求められる基礎的学力とマナーを身に付ける。																																	
19.教科書・教材	適宜指示する																																	
20.参考文献	○朝日デジタル新聞 ○朝日新聞「時事ワークシート」 ○『知へのステップ（第 5 版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：9784874247891 ○kuis ドリル																																	
21.成績評価	<table><tr><td>・リーディングレポート</td><td>1～4 章</td><td>4 回×5 点</td><td>20 点</td></tr><tr><td>・中間レポート</td><td></td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・ビジネス文書</td><td></td><td>2 回×5 点</td><td>10 点</td></tr><tr><td>・キャリア授業レポート</td><td></td><td>2 回×5 点</td><td>10 点</td></tr><tr><td>・グループ PPT</td><td colspan="2">(個人貢献度 加算)</td><td>15 点</td></tr><tr><td>・最終レポート</td><td></td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・kuis ドリル</td><td colspan="3">SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎</td></tr></table>						・リーディングレポート	1～4 章	4 回×5 点	20 点	・中間レポート			15 点	・ビジネス文書		2 回×5 点	10 点	・キャリア授業レポート		2 回×5 点	10 点	・グループ PPT	(個人貢献度 加算)		15 点	・最終レポート			15 点	・kuis ドリル	SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎		
・リーディングレポート	1～4 章	4 回×5 点	20 点																															
・中間レポート			15 点																															
・ビジネス文書		2 回×5 点	10 点																															
・キャリア授業レポート		2 回×5 点	10 点																															
・グループ PPT	(個人貢献度 加算)		15 点																															
・最終レポート			15 点																															
・kuis ドリル	SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎																																	
22.コメント	特別に説明がない限り、すべての授業でノート PC 持参																																	
23.オフィスアワー	・センターオフィスアワー：(後期)月曜日第 2 限 10:45～12:15 ・研究室オフィスアワー：(後期)月曜日第 3 限 15:00～16:15(研究室 805)																																	
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)																														

第 1 回	・オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等の説明） ・リーディング①「勉強する気・・・」1 章	・宿題 1 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・KUIS ドリル
第 2 回	・リーディング②「勉強する気・・・」2 章	・宿題 2 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・KUIS ドリル
第 3 回	・リーディング③「勉強する気・・・」3 章	・宿題 3 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・KUIS ドリル
第 4 回	・リーディング④「勉強する気・・・」4 章	・宿題 4 章を読んで考えたことをレポート 600 字以上（字数厳守） ・KUIS ドリル
第 5 回	・リーディング⑤「勉強する気・・・」5 章	・宿題 中間レポート「各自の勉強しなかった反省点と今後の克服のための行動計画などをレポートしてください」 1500 字以上（字数厳守 章立てして作る） 締切は第 7 回前日 ・KUIS ドリル
第 6 回	・リーディング⑥「勉強する気・・・」6 章	・中間レポートに取り組む ・KUIS ドリル
第 7 回	・ビジネス文書① あいさつ文やビジネスメールなど	・宿題 ビジネスメール作成 ・KUIS ドリル
第 8 回	・ビジネス文書② ビジネス文書の作成	・宿題 ビジネス文書作成 ・KUIS ドリル
第 9 回	・キャリア授業① ・キャリア支援課から講話予定	・宿題 授業のレポート ・KUIS ドリル
第 10 回	・キャリア授業② ・先輩のトークと質疑応答	・宿題 授業のレポート ・KUIS ドリル
第 11 回	・PBL グループワーク 課題について 11 回から 14 回でグループで論議してパワーポイントで成果物を作り発表する ・課題についての説明	・PBL 課題の検討 ・KUIS ドリル
第 12 回	・PBL グループワーク ・課題を決めてグループディスカッション ・パワーポイント作成・・・グループ単位で評価（個人貢献度は加算）	・宿題 最終レポート 「関西国際大学の PR を作るにあたり、今の関西国際大学または大学学生での課題をまとめ、それに対してあなたが今後何をするかの行動計画を 1000 字以上でレポートしてください。きちんと章立てしてレポートを作ること」 締切は第 15 回前日 ・KUIS ドリル
第 13 回	・PBL グループワーク ・パワーポイント作成	・宿題 ePF 記事投稿 「初年次セミナー」を受講して（500 字以上）

		・最終レポートに取り組む ・KUIS ドリル
第 14 回	・ PBL グループワーク ・ PBL グループワーク ゼミ内発表会 優秀 2 G を選ぶ<発表以外の学生は採点表に採点する>	・最終レポートに取り組む ・ePF 記事投稿に取り組む ・KUIS ドリル
第 15 回	・ PBL グループワーク全体発表会 ・各ゼミ 2 グループ× 4 ゼミ <発表以外の学生は採点表に採点する> ・授業の振り返り ・最終授業アンケート	・授業を振り返る ・KUIS ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-A58	2.科目名	基礎演習（経営尼崎 3）		3.単位数	1																												
4.授業担当教員	福本哲也																																	
5.授業科目の区分	KUIS ベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期																													
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～																													
10.取得資格の要件				11.先修条件																														
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※																													
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習																													
16.履修制限																																		
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 この科目では、春学期の学習技術や初年次セミナーにおけるさまざまな学修をふまえ、2 年次以降の専門教育に向けて基礎を固めることを目的とする 【授業の概要】 具体的には、春学期に初年次セミナーで教材にした「勉強する気はなぜ起こらないのか」を素材として、リーディング力の基礎的を固めると共に、応用的な力や読んだ上での自分の考えをまとめてレポートしていくライティング力の向上に取り組む。 また就職活動などで必要になるビジネスメールやビジネス文書の書き方を修得する。 就職活動だけでなく社会に出てからの自分のキャリア形成をどうしていくのかを考えるため、外部講師の講話と上級生がどう考えて何を 1, 2 年生から実行していったかの話を聞いたり、インタビューを通じて、自分のキャリアについて関心を高める。 更には、PBL 課題についてのグループワークを行い、グループで分担して調べて、論議して、考えを伝えあって、まとめて成果物を作り、発表するという一連のグループワークを行い、主体性と協調性、リーダーシップなどを体得していく。																																	
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）多様性理解、（5）コミュニケーション能力の学修に関連しています。 ①基礎的なライティング・スキルを身に付ける。（ライティンググルーブリック（下位学年用）のレベル 3） ②グループワークに積極的に参加できる。（チームワークグルーブリックのレベル 3） ③社会人として求められる基礎的学力とマナーを身に付ける。																																	
19.教科書・教材	適宜指示する																																	
20.参考文献	○朝日デジタル新聞 ○朝日新聞「時事ワークシート」 ○『知へのステップ（第 5 版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：9784874247891 ○kuis ドリル																																	
21.成績評価	<table><tr><td>・リーディングレポート</td><td>1～4 章</td><td>4 回×5 点</td><td>20 点</td></tr><tr><td>・中間レポート</td><td></td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・ビジネス文書</td><td>2 回×5 点</td><td></td><td>10 点</td></tr><tr><td>・キャリア授業レポート</td><td>2 回×5 点</td><td></td><td>10 点</td></tr><tr><td>・グループ PPT</td><td colspan="2">(個人貢献度 加算)</td><td>15 点</td></tr><tr><td>・最終レポート</td><td></td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・kuis ドリル</td><td colspan="3">SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎</td></tr></table>						・リーディングレポート	1～4 章	4 回×5 点	20 点	・中間レポート			15 点	・ビジネス文書	2 回×5 点		10 点	・キャリア授業レポート	2 回×5 点		10 点	・グループ PPT	(個人貢献度 加算)		15 点	・最終レポート			15 点	・kuis ドリル	SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎		
・リーディングレポート	1～4 章	4 回×5 点	20 点																															
・中間レポート			15 点																															
・ビジネス文書	2 回×5 点		10 点																															
・キャリア授業レポート	2 回×5 点		10 点																															
・グループ PPT	(個人貢献度 加算)		15 点																															
・最終レポート			15 点																															
・kuis ドリル	SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎																																	
22.コメント	特別に説明がない限り、すべての授業でノート PC 持参																																	
23.オフィスアワー																																		
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)																														
第 1 回	・オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等			・宿題 1 章を読んで考えたことをレポート																														

	の説明) ・リーディング①「勉強する気・・・」1章	600 字以上 (字数厳守) ・KUIS ドリル
第 2 回	・リーディング②「勉強する気・・・」2章	・宿題 2章を読んで考えたことをレポート 600 字以上 (字数厳守) ・KUIS ドリル
第 3 回	・リーディング③「勉強する気・・・」3章	・宿題 3章を読んで考えたことをレポート 600 字以上 (字数厳守) ・KUIS ドリル
第 4 回	・リーディング④「勉強する気・・・」4章	・宿題 4章を読んで考えたことをレポート 600 字以上 (字数厳守) ・KUIS ドリル
第 5 回	・リーディング⑤「勉強する気・・・」5章	・宿題 中間レポート「各自の勉強しなかった反省点と今後の克服のための行動計画などをレポートしてください」 1500 字以上 (字数厳守 章立てして作る) 締切は第 7 回前日 ・KUIS ドリル
第 6 回	・リーディング⑥「勉強する気・・・」6章	・中間レポートに取り組む ・KUIS ドリル
第 7 回	・ビジネス文書① あいさつ文やビジネスメールなど	・宿題 ビジネスメール作成 ・KUIS ドリル
第 8 回	・ビジネス文書② ビジネス文書の作成	・宿題 ビジネス文書作成 ・KUIS ドリル
第 9 回	・キャリア授業① ・キャリア支援課から講話予定	・宿題 授業のレポート ・KUIS ドリル
第 10 回	・キャリア授業② ・先輩のトークと質疑応答	・宿題 授業のレポート ・KUIS ドリル
第 11 回	・PBL グループワーク 課題について 11 回から 14 回でグループで論議してパワーポイントで成果物を作り発表する ・課題についての説明	・PBL 課題の検討 ・KUIS ドリル
第 12 回	・PBL グループワーク ・課題を決めてグループディスカッション ・パワーポイント作成 ・グループ単位で評価 (個人貢献度は加算)	・宿題 最終レポート 「関西国際大学の PR を作るにあたり、今の関西国際大学または大学学生での課題をまとめ、それに対してあなたが今後何をするかの行動計画を 1000 字以上でレポートしてください。きちんと章立てしてレポートを作ること」 締切は第 15 回前日 ・KUIS ドリル
第 13 回	・PBL グループワーク ・パワーポイント作成	・宿題 ePF 記事投稿 「基礎演習を受講して」(500 字以上) ・最終レポートに取り組む

		・ KUIS ドリル
第 14 回	・ PBL グループワーク ・ PBL グループワーク ゼミ内発表会 優秀 2 G を選ぶ<発表以外の学生は採点表に採点する>	・ 最終レポートに取り組む ・ ePF 記事投稿に取り組む ・ KUIS ドリル
第 15 回	・ PBL グループワーク全体発表会 ・ 各ゼミ 1 グループ× 6 ゼミ <発表以外の学生は採点表に採点する> ・ 授業の振り返り ・ 最終授業アンケート	・ 授業を振り返る ・ KUIS ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-A59	2.科目名	基礎演習 (経営尼崎 4)		3.単位数	1																												
4.授業担当教員	越山泰子																																	
5.授業科目の区分	KUIS ベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期																													
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～																													
10.取得資格の要件				11.先修条件																														
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※																													
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習																													
16.履修制限																																		
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 この科目では、春学期の学習技術や初年次セミナーにおけるさまざまな学修をふまえ、2 年次以降の専門教育に向けて基礎を固めることを目的とする 【授業の概要】 具体的には、春学期に初年次セミナーで教材にした「勉強する気はなぜ起こらないのか」を素材として、リーディング力の基礎的を固めると共に、応用的な力や読んだ上での自分の考えをまとめてレポートしていくライティング力の向上に取り組む。 また就職活動などで必要になるビジネスメールやビジネス文書の書き方を修得する。 就職活動だけでなく社会に出てからの自分のキャリア形成をどうしていくのかを考えるため、外部講師の講話と上級生がどう考えて何を 1, 2 年生から実行していったかの話を聞いたり、インタビューを通じて、自分のキャリアについて関心を高める。 更には、PBL 課題についてのグループワークを行い、グループで分担して調べて、論議して、考えを伝えあって、まとめて成果物を作り、発表するという一連のグループワークを行い、主体性と協調性、リーダーシップなどを体得していく。																																	
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP (ディプロマ・ポリシー) の (1) 自律性、(4) 多様性理解、(5) コミュニケーション能力の学修に関連しています。 ①基礎的なライティング・スキルを身に付ける。(ライティンググルーブリック (下位学年用) のレベル 3) ②グループワークに積極的に参加できる。(チームワークグルーブリックのレベル 3) ③社会人として求められる基礎的学力とマナーを身に付ける。																																	
19.教科書・教材	適宜指示する																																	
20.参考文献	○朝日デジタル新聞 ○朝日新聞「時事ワークシート」 ○『知へのステップ (第 5 版)』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13 : 9784874247891 ○kuis ドリル																																	
21.成績評価	<table><tr><td>・リーディングレポート</td><td>1～4 章</td><td>4 回×5 点</td><td>20 点</td></tr><tr><td>・中間レポート</td><td></td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・ビジネス文書</td><td>2 回×5 点</td><td></td><td>10 点</td></tr><tr><td>・キャリア授業レポート</td><td>2 回×5 点</td><td></td><td>10 点</td></tr><tr><td>・グループ PPT</td><td>(個人貢献度 加算)</td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・最終レポート</td><td></td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・kuis ドリル</td><td colspan="3">SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎</td></tr></table>						・リーディングレポート	1～4 章	4 回×5 点	20 点	・中間レポート			15 点	・ビジネス文書	2 回×5 点		10 点	・キャリア授業レポート	2 回×5 点		10 点	・グループ PPT	(個人貢献度 加算)		15 点	・最終レポート			15 点	・kuis ドリル	SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎		
・リーディングレポート	1～4 章	4 回×5 点	20 点																															
・中間レポート			15 点																															
・ビジネス文書	2 回×5 点		10 点																															
・キャリア授業レポート	2 回×5 点		10 点																															
・グループ PPT	(個人貢献度 加算)		15 点																															
・最終レポート			15 点																															
・kuis ドリル	SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎																																	
22.コメント	特別に説明がない限り、すべての授業でノート PC 持参																																	
23.オフィスアワー																																		
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)																														
第 1 回	・オリエンテーション (授業の内容と進め方、評価等			・宿題 1 章を読んで考えたことをレポート																														

	の説明) ・リーディング①「勉強する気・・・」1章	600 字以上 (字数厳守) ・KUIS ドリル
第 2 回	・リーディング②「勉強する気・・・」2章	・宿題 2章を読んで考えたことをレポート 600 字以上 (字数厳守) ・KUIS ドリル
第 3 回	・リーディング③「勉強する気・・・」3章	・宿題 3章を読んで考えたことをレポート 600 字以上 (字数厳守) ・KUIS ドリル
第 4 回	・リーディング④「勉強する気・・・」4章	・宿題 4章を読んで考えたことをレポート 600 字以上 (字数厳守) ・KUIS ドリル
第 5 回	・リーディング⑤「勉強する気・・・」5章	・宿題 中間レポート「各自の勉強しなかった反省点と今後の克服のための行動計画などをレポートしてください」 1500 字以上 (字数厳守 章立てして作る) 締切は第 7 回前日 ・KUIS ドリル
第 6 回	・リーディング⑥「勉強する気・・・」6章	・中間レポートに取り組む ・KUIS ドリル
第 7 回	・ビジネス文書① あいさつ文やビジネスメールなど	・宿題 ビジネスメール作成 ・KUIS ドリル
第 8 回	・ビジネス文書② ビジネス文書の作成	・宿題 ビジネス文書作成 ・KUIS ドリル
第 9 回	・キャリア授業① ・キャリア支援課から講話予定	・宿題 授業のレポート ・KUIS ドリル
第 10 回	・キャリア授業② ・先輩のトークと質疑応答	・宿題 授業のレポート ・KUIS ドリル
第 11 回	・PBL グループワーク 課題について 11 回から 14 回でグループで論議してパワーポイントで成果物を作り発表する ・課題についての説明	・PBL 課題の検討 ・KUIS ドリル
第 12 回	・PBL グループワーク ・課題を決めてグループディスカッション ・パワーポイント作成 ・グループ単位で評価 (個人貢献度は加算)	・宿題 最終レポート 「関西国際大学の PR を作るにあたり、今の関西国際大学または大学学生での課題をまとめ、それに対してあなたが今後何をするかの行動計画を 1000 字以上でレポートしてください。きちんと章立てしてレポートを作ること」 締切は第 15 回前日 ・KUIS ドリル
第 13 回	・PBL グループワーク ・パワーポイント作成	・宿題 ePF 記事投稿 「基礎演習を受講して」(500 字以上) ・最終レポートに取り組む

		・ KUIS ドリル
第 14 回	・ PBL グループワーク ・ PBL グループワーク ゼミ内発表会 優秀 2 G を選ぶ<発表以外の学生は採点表に採点する>	・ 最終レポートに取り組む ・ ePF 記事投稿に取り組む ・ KUIS ドリル
第 15 回	・ PBL グループワーク全体発表会 ・ 各ゼミ 1 グループ× 6 ゼミ <発表以外の学生は採点表に採点する> ・ 授業の振り返り ・ 最終授業アンケート	・ 授業を振り返る ・ KUIS ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-A60	2.科目名	基礎演習（経営尼崎 5）		3.単位数	1																												
4.授業担当教員	大西洋史																																	
5.授業科目の区分	KUIS ベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期																													
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～																													
10.取得資格の要件				11.先修条件																														
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※																													
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習																													
16.履修制限																																		
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 この科目では、春学期の学習技術や初年次セミナーにおけるさまざまな学修をふまえ、2 年次以降の専門教育に向けて基礎を固めることを目的とする 【授業の概要】 具体的には、春学期に初年次セミナーで教材にした「勉強する気はなぜ起こらないのか」を素材として、リーディング力の基礎的を固めると共に、応用的な力や読んだ上での自分の考えをまとめてレポートしていくライティング力の向上に取り組む。 また就職活動などで必要になるビジネスメールやビジネス文書の書き方を修得する。 就職活動だけでなく社会に出てからの自分のキャリア形成をどうしていくのかを考えるため、外部講師の講話と上級生がどう考えて何を 1, 2 年生から実行していったかの話を聞いたり、インタビューを通じて、自分のキャリアについて関心を高める。 更には、PBL 課題についてのグループワークを行い、グループで分担して調べて、論議して、考えを伝えあって、まとめて成果物を作り、発表するという一連のグループワークを行い、主体性と協調性、リーダーシップなどを体得していく。																																	
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）多様性理解、（5）コミュニケーション能力の学修に関連しています。 ①基礎的なライティング・スキルを身に付ける。（ライティンググルーブリック（下位学年用）のレベル 3） ②グループワークに積極的に参加できる。（チームワークグルーブリックのレベル 3） ③社会人として求められる基礎的学力とマナーを身に付ける。																																	
19.教科書・教材	適宜指示する																																	
20.参考文献	○朝日デジタル新聞 ○朝日新聞「時事ワークシート」 ○『知へのステップ（第 5 版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：9784874247891 ○kuis ドリル																																	
21.成績評価	<table><tr><td>・リーディングレポート</td><td>1～4 章</td><td>4 回×5 点</td><td>20 点</td></tr><tr><td>・中間レポート</td><td></td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・ビジネス文書</td><td>2 回×5 点</td><td></td><td>10 点</td></tr><tr><td>・キャリア授業レポート</td><td>2 回×5 点</td><td></td><td>10 点</td></tr><tr><td>・グループ PPT</td><td colspan="2">(個人貢献度 加算)</td><td>15 点</td></tr><tr><td>・最終レポート</td><td></td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・kuis ドリル</td><td colspan="3">SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎</td></tr></table>						・リーディングレポート	1～4 章	4 回×5 点	20 点	・中間レポート			15 点	・ビジネス文書	2 回×5 点		10 点	・キャリア授業レポート	2 回×5 点		10 点	・グループ PPT	(個人貢献度 加算)		15 点	・最終レポート			15 点	・kuis ドリル	SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎		
・リーディングレポート	1～4 章	4 回×5 点	20 点																															
・中間レポート			15 点																															
・ビジネス文書	2 回×5 点		10 点																															
・キャリア授業レポート	2 回×5 点		10 点																															
・グループ PPT	(個人貢献度 加算)		15 点																															
・最終レポート			15 点																															
・kuis ドリル	SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎																																	
22.コメント	特別に説明がない限り、すべての授業でノート PC 持参																																	
23.オフィスアワー																																		
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)																														
第 1 回	・オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等			・宿題 1 章を読んで考えたことをレポート																														

	の説明) ・リーディング①「勉強する気・・・」1章	600字以上（字数厳守） ・KUIS ドリル
第2回	・リーディング②「勉強する気・・・」2章	・宿題 2章を読んで考えたことをレポート 600字以上（字数厳守） ・KUIS ドリル
第3回	・リーディング③「勉強する気・・・」3章	・宿題 3章を読んで考えたことをレポート 600字以上（字数厳守） ・KUIS ドリル
第4回	・リーディング④「勉強する気・・・」4章	・宿題 4章を読んで考えたことをレポート 600字以上（字数厳守） ・KUIS ドリル
第5回	・リーディング⑤「勉強する気・・・」5章	・宿題 中間レポート「各自の勉強しなかった反省点と今後の克服のための行動計画などをレポートしてください」 1500字以上（字数厳守 章立てして作る） 締切は第7回前日 ・KUIS ドリル
第6回	・リーディング⑥「勉強する気・・・」6章	・中間レポートに取り組む ・KUIS ドリル
第7回	・ビジネス文書① あいさつ文やビジネスメールなど	・宿題 ビジネスメール作成 ・KUIS ドリル
第8回	・ビジネス文書② ビジネス文書の作成	・宿題 ビジネス文書作成 ・KUIS ドリル
第9回	・キャリア授業① ・キャリア支援課から講話予定	・宿題 授業のレポート ・KUIS ドリル
第10回	・キャリア授業② ・先輩のトークと質疑応答	・宿題 授業のレポート ・KUIS ドリル
第11回	・PBL グループワーク 課題について11回から14回でグループで論議してパワーポイントで成果物を作り発表する ・課題についての説明	・PBL 課題の検討 ・KUIS ドリル
第12回	・PBL グループワーク ・課題を決めてグループディスカッション ・パワーポイント作成・・・グループ単位で評価（個人貢献度は加算）	・宿題 最終レポート 「関西国際大学のPRを作るにあたり、今の関西国際大学または大学学生での課題をまとめ、それに対してあなたが今後何をするかの行動計画を1000字以上でレポートしてください。きちんと章立てしてレポートを作ること」 締切は第15回前日 ・KUIS ドリル
第13回	・PBL グループワーク ・パワーポイント作成	・宿題 ePF 記事投稿 「基礎演習を受講して」(500字以上) ・最終レポートに取り組む

		・ KUIS ドリル
第 14 回	・ PBL グループワーク ・ PBL グループワーク ゼミ内発表会 優秀 2 G を選ぶ<発表以外の学生は採点表に採点する>	・ 最終レポートに取り組む ・ ePF 記事投稿に取り組む ・ KUIS ドリル
第 15 回	・ PBL グループワーク全体発表会 ・ 各ゼミ 2 グループ× 4 ゼミ <発表以外の学生は採点表に採点する> ・ 授業の振り返り ・ 最終授業アンケート	・ 授業を振り返る ・ KUIS ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-A61	2.科目名	基礎演習（経営尼崎 6）		3.単位数	1																												
4.授業担当教員	本田あけみ																																	
5.授業科目の区分	KUIS ベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期																													
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～																													
10.取得資格の要件				11.先修条件																														
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※																													
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習																													
16.履修制限																																		
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 この科目では、春学期の学習技術や初年次セミナーにおけるさまざまな学修をふまえ、2 年次以降の専門教育に向けて基礎を固めることを目的とする 【授業の概要】 具体的には、春学期に初年次セミナーで教材にした「勉強する気はなぜ起こらないのか」を素材として、リーディング力の基礎的を固めると共に、応用的な力や読んだ上での自分の考えをまとめてレポートしていくライティング力の向上に取り組む。 また就職活動などで必要になるビジネスメールやビジネス文書の書き方を修得する。 就職活動だけでなく社会に出てからの自分のキャリア形成をどうしていくのかを考えるため、外部講師の講話と上級生がどう考えて何を 1, 2 年生から実行していったかの話を聞いたり、インタビューを通じて、自分のキャリアについて関心を高める。 更には、PBL 課題についてのグループワークを行い、グループで分担して調べて、論議して、考えを伝えあって、まとめて成果物を作り、発表するという一連のグループワークを行い、主体性と協調性、リーダーシップなどを体得していく。																																	
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）多様性理解、（5）コミュニケーション能力の学修に関連しています。 ①基礎的なライティング・スキルを身に付ける。（ライティンググルーブリック（下位学年用）のレベル 3） ②グループワークに積極的に参加できる。（チームワークルーブリックのレベル 3） ③社会人として求められる基礎的学力とマナーを身に付ける。																																	
19.教科書・教材	適宜指示する																																	
20.参考文献	○朝日デジタル新聞 ○朝日新聞「時事ワークシート」 ○『知へのステップ（第 5 版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：9784874247891 ○kuis ドリル																																	
21.成績評価	<table><tr><td>・リーディングレポート</td><td>1～4 章</td><td>4 回×5 点</td><td>20 点</td></tr><tr><td>・中間レポート</td><td></td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・ビジネス文書</td><td>2 回×5 点</td><td></td><td>10 点</td></tr><tr><td>・キャリア授業レポート</td><td>2 回×5 点</td><td></td><td>10 点</td></tr><tr><td>・グループ PPT</td><td colspan="2">(個人貢献度 加算)</td><td>15 点</td></tr><tr><td>・最終レポート</td><td></td><td></td><td>15 点</td></tr><tr><td>・kuis ドリル</td><td colspan="3">SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎</td></tr></table>						・リーディングレポート	1～4 章	4 回×5 点	20 点	・中間レポート			15 点	・ビジネス文書	2 回×5 点		10 点	・キャリア授業レポート	2 回×5 点		10 点	・グループ PPT	(個人貢献度 加算)		15 点	・最終レポート			15 点	・kuis ドリル	SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎		
・リーディングレポート	1～4 章	4 回×5 点	20 点																															
・中間レポート			15 点																															
・ビジネス文書	2 回×5 点		10 点																															
・キャリア授業レポート	2 回×5 点		10 点																															
・グループ PPT	(個人貢献度 加算)		15 点																															
・最終レポート			15 点																															
・kuis ドリル	SPI 対策コースのうち「算数・数学の基礎																																	
22.コメント	特別に説明がない限り、すべての授業でノート PC 持参																																	
23.オフィスアワー																																		
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)																														
第 1 回	・オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等			・宿題 1 章を読んで考えたことをレポート																														

	の説明) ・リーディング①「勉強する気・・・」1章	600 字以上 (字数厳守) ・KUIS ドリル
第 2 回	・リーディング②「勉強する気・・・」2章	・宿題 2章を読んで考えたことをレポート 600 字以上 (字数厳守) ・KUIS ドリル
第 3 回	・リーディング③「勉強する気・・・」3章	・宿題 3章を読んで考えたことをレポート 600 字以上 (字数厳守) ・KUIS ドリル
第 4 回	・リーディング④「勉強する気・・・」4章	・宿題 4章を読んで考えたことをレポート 600 字以上 (字数厳守) ・KUIS ドリル
第 5 回	・リーディング⑤「勉強する気・・・」5章	・宿題 中間レポート「各自の勉強しなかった反省点と今後の克服のための行動計画などをレポートしてください」 1500 字以上 (字数厳守 章立てして作る) 締切は第 7 回前日 ・KUIS ドリル
第 6 回	・リーディング⑥「勉強する気・・・」6章	・中間レポートに取り組む ・KUIS ドリル
第 7 回	・ビジネス文書① あいさつ文やビジネスメールなど	・宿題 ビジネスメール作成 ・KUIS ドリル
第 8 回	・ビジネス文書② ビジネス文書の作成	・宿題 ビジネス文書作成 ・KUIS ドリル
第 9 回	・キャリア授業① ・キャリア支援課から講話予定	・宿題 授業のレポート ・KUIS ドリル
第 10 回	・キャリア授業② ・先輩のトークと質疑応答	・宿題 授業のレポート ・KUIS ドリル
第 11 回	・PBL グループワーク 課題について 11 回から 14 回でグループで論議してパワーポイントで成果物を作り発表する ・課題についての説明	・PBL 課題の検討 ・KUIS ドリル
第 12 回	・PBL グループワーク ・課題を決めてグループディスカッション ・パワーポイント作成 ・グループ単位で評価 (個人貢献度は加算)	・宿題 最終レポート 「関西国際大学の PR を作るにあたり、今の関西国際大学または大学学生での課題をまとめ、それに対してあなたが今後何をするかの行動計画を 1000 字以上でレポートしてください。きちんと章立てしてレポートを作ること」 締切は第 15 回前日 ・KUIS ドリル
第 13 回	・PBL グループワーク ・パワーポイント作成	・宿題 ePF 記事投稿 「基礎演習を受講して」(500 字以上) ・最終レポートに取り組む

		・ KUIS ドリル
第 14 回	・ PBL グループワーク ・ PBL グループワーク ゼミ内発表会 優秀 2 G を選ぶ<発表以外の学生は採点表に採点する>	・ 最終レポートに取り組む ・ ePF 記事投稿に取り組む ・ KUIS ドリル
第 15 回	・ PBL グループワーク全体発表会 ・ 各ゼミ 1 グループ× 6 ゼミ <発表以外の学生は採点表に採点する> ・ 授業の振り返り ・ 最終授業アンケート	・ 授業を振り返る ・ KUIS ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-M53	2.科目名	基礎演習（経営三木 2）		3.単位数	1
4.授業担当教員	百濟正和					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目では、春学期の学習技術や初年次セミナーにおけるさまざまな学修をふまえ、2 年次以降の専門教育に向けて基礎を固めることを目的とする。 【概要】 具体的には、新聞や各種文献等を素材とし、読解等の基礎的な技術を定着させるとともに、与えられたテーマに沿って、各自で情報収集を行い、実際のデータも取り入れた客観性のある小論文を作成する。この過程で小論文の形式やビジネス文書の書き方を修得する。 また、授業中のグループワークやディスカッションを通じて他者と協働する姿勢を身に付ける。さらに、上級生、卒業生や関心のある業界の社会人などの話を聞いたり、インタビューを通じて、自分のキャリアについて関心を高める。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）多様性理解、（5）コミュニケーション能力の学修に関連しています。 ①基礎的なリーディング・スキルを身に付ける。 ②基礎的なライティング・スキルを身に付ける。（ライティングルーブリック（下位学年用）のレベル 3） ③グループワークに積極的に参加できる。（チームワークルーブリックのレベル 3） ④社会人として求められる基礎学力、時事知識、マナーを身に付ける。					
19.教科書・教材	参考文献や他の資料から、適宜指示する。					
20.参考文献	○朝日デジタル新聞 ○朝日新聞「時事ワークシート」 ○『知へのステップ（第 5 版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：9784874247891 ○KUIS ドリル					
21.成績評価	時事ワークシート 20 点（目標①・②） キャリア教育 WS 10 点（目標③） 中間課題 10 点（目標①・②） ビジネス文書 10 点（目標①） 最終課題とプレゼンテーション 30 点（目標①） KUIS ドリルの成果 10 点（目標③）					
22.コメント	特別に説明がない限り、すべての授業でノート PC 持参です。 ゲスト講師のご都合等により、授業回の入れ替えの変更の可能性があります。					
23.オフィスアワー	学習支援センターからの案内を参照してください					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 (合同授業、 教室は事前に 案内する)	・オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等の説明） ・履修変更の確認 ・Outlook メールの設定およびプッシュ通知の再確認			○学習目標の設定、ベンチマークチェックを完了する（		

	・春学期の成績に基づく今学期の学習目標の設定、ベンチマークチェック ・Kuis ドリル進捗確認 ・「時事ワークシート (WS)」の取り組み方	
第 2 回	リーディング① ・朝日新聞「時事ワークシート」の記事①について、ワークシート①に取り組む ・解答を確認・発表し、このテーマについて議論する。	○ワークシート①を提出する ○朝日新聞「時事ワークシート」の記事②を読み、指定された要領でまとめてくる (60 分 × 2) ○KUIS ドリル
第 3 回	リーディング② ・朝日新聞「時事ワークシート」の記事①について、ワークシート①に取り組む ・解答を確認・発表し、このテーマについて議論する。	○ワークシート②を提出する ○朝日新聞「時事ワークシート」の記事③を読み、指定された要領でまとめてくる (60 分 × 2) ○KUIS ドリル
第 4 回	リーディング③ ・朝日新聞「時事ワークシート」の記事①について、ワークシート①に取り組む ・解答を確認・発表し、このテーマについて議論する。	○ワークシート③を提出する ○朝日新聞「時事ワークシート」の記事④を読み、指定された要領でまとめてくる (60 分 × 2) ○KUIS ドリル
第 5 回	リーディング④ ・朝日新聞「時事ワークシート」の記事①について、ワークシート①に取り組む ・解答を確認・発表し、このテーマについて議論する。	○ワークシート④を提出する ○学習技術の教科書「ライティング」を読んでポイントをまとめてくる KUIS ドリル
第 6 回	ライティング① 中間課題に向けて、ライティングの基本（書式設定、構成、直接・間接引用等）を理解し使えるようにする。	◆学修技術のテキスト持参◆ kuis ドリル
第 7 回	ライティング② リーディングで取り組んだ時事 WS から 1 つを選び、アカデミックライティングによる文章を作成し、ペアワークやグループワークで相互に点検する。	学習技術のテキストとリーディング・ケースを持参。 ○KUIS ドリル
第 8 回	ライティング③ 前回とは異なる時事 WS を利用して、小論文を作成して、中間課題として Webclass に提出する。	中間課題の提出。
第 9 回 合同授業 教室は事前に案内する	キャリア教育プログラム① ・先輩内定者、卒業生、関連する業界の社会人などに対するインタビューとキャリアガイダンスを実施する。	インタビューやガイダンスを聞いて自分の考えをまとめる。 ○KUIS ドリル
第 10 回 合同授業 教室は事前に案内する	キャリア教育プログラム② ・ビジネス・マナー講座	キャリア・プランについての小レポートを提出する。 ○KUIS ドリル
第 11 回	ビジネス文書① 大学生・社会人として守るべきメール文書のルールを理解し、実際に作成、送受信し、相互評価する。	★最終課題 (学期の主題「論理的思考」を考慮しつつ、社会問題や時事問題から出題する。詳細はゼミ毎に案内)

		○KUIS ドリル
第 12 回	ビジネス文書② 依頼文の作成 メールや手紙で、アンケートの依頼、イベント協力の依頼など、自分の目的のために、他者に何かしてもらいための文書のルールを作成し、相互評価する。	○KUIS ドリル
第 13 回	プレゼンテーション① 期末課題の構成と参考文献に関する PPT プレゼン	○最終課題の準備 ○KUIS ドリル
第 14 回	プレゼンテーション② 期末課題の構成と参考文献に関する PPT プレゼン	○最終課題の準備 ○KUIS ドリル
第 15 回	プレゼンテーション③（予備日） e ポーフォリオの作成(秋学期の振り返り、自己 PR の修正) 授業アンケート	★e ポーフォリオを完成させる ○KUIS ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-M54	2.科目名	基礎演習（経営三木 3）		3.単位数	1
4.授業担当教員	浮田泉					
5.授業科目の区分	KUIS ベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目では、春学期の学習技術や初年次セミナーにおけるさまざまな学修をふまえ、2 年次以降の専門教育に向けて基礎を固めることを目的とする。 【概要】 具体的には、新聞や各種文献等を素材とし、読解等の基礎的な技術を定着させるとともに、与えられたテーマに沿って、各自で情報収集を行い、実際のデータも取り入れた客観性のある小論文を作成する。この過程で小論文の形式やビジネス文書の書き方を修得する。 また、授業中のグループワークやディスカッションを通じて他者と協働する姿勢を身に付ける。さらに、上級生、卒業生や関心のある業界の社会人などの話を聞いたり、インタビューを通じて、自分のキャリアについて関心を高める。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）多様性理解、（5）コミュニケーション能力の学修に関連しています。 ①基礎的なリーディング・スキルを身に付ける。 ②基礎的なライティング・スキルを身に付ける。（ライティングルーブリック（下位学年用）のレベル 3） ③グループワークに積極的に参加できる。（チームワークルーブリックのレベル 3） ④社会人として求められる基礎学力、時事知識、マナーを身に付ける。					
19.教科書・教材	参考文献や他の資料から、適宜指示する。					
20.参考文献	○朝日デジタル新聞 ○朝日新聞「時事ワークシート」 ○『知へのステップ（第 5 版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：9784874247891 ○KUIS ドリル					
21.成績評価	時事ワークシート 20 点（目標①・②） キャリア教育 WS 10 点（目標③） 中間課題 10 点（目標①・②） ビジネス文書 10 点（目標①） 最終課題とプレゼンテーション 30 点（目標①） KUIS ドリルの成果 10 点（目標③）					
22.コメント	特別に説明がない限り、すべての授業でノート PC 持参です。 ゲスト講師のご都合等により、授業回の入れ替えの変更の可能性があります。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜日 4 限（センタープログラム） 研究室オフィスアワー：月曜日 3 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 (合同授業、 教室は事前に	・オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等の説明） ・履修変更の確認			○学習目標の設定、ベンチマークチェックを完了する（		

案内する)	・ Outlook メールの設定およびプッシュ通知の再確認 ・ 春学期の成績に基づく今学期の学習目標の設定、ベンチマークチェック ・ Kuis ドリル進捗確認 ・ 「時事ワークシート (WS)」の取り組み方	
第 2 回	リーディング① ・ 朝日新聞「時事ワークシート」の記事①について、ワークシート①に取り組む ・ 解答を確認・発表し、このテーマについて議論する。	○ワークシート①を提出する ○朝日新聞「時事ワークシート」の記事②を読み、指定された要領でまとめてくる (60 分×2) ○KUIS ドリル
第 3 回	リーディング② ・ 朝日新聞「時事ワークシート」の記事①について、ワークシート①に取り組む ・ 解答を確認・発表し、このテーマについて議論する。	○ワークシート②を提出する ○朝日新聞「時事ワークシート」の記事③を読み、指定された要領でまとめてくる (60 分×2) ○KUIS ドリル
第 4 回	リーディング③ ・ 朝日新聞「時事ワークシート」の記事①について、ワークシート①に取り組む ・ 解答を確認・発表し、このテーマについて議論する。	○ワークシート③を提出する ○朝日新聞「時事ワークシート」の記事④を読み、指定された要領でまとめてくる (60 分×2) ○KUIS ドリル
第 5 回	リーディング④ ・ 朝日新聞「時事ワークシート」の記事①について、ワークシート①に取り組む ・ 解答を確認・発表し、このテーマについて議論する。	○ワークシート④を提出する ○学習技術の教科書「ライティング」を読んでポイントをまとめてくる KUIS ドリル
第 6 回	ライティング① 中間課題に向けて、ライティングの基本（書式設定、構成、直接・間接引用等）を理解し使えるようにする。	◆学修技術のテキスト持参◆ kuis ドリル
第 7 回	ライティング② リーディングで取り組んだ時事 WS から 1 つを選び、アカデミックライティングによる文章を作成し、ペアワークやグループワークで相互に点検する。	学習技術のテキストとリーディング・ケースを持参。 ○KUIS ドリル
第 8 回	ライティング③ 前回とは異なる時事 WS を利用して、小論文を作成して、中間課題として Webclass に提出する。	中間課題の提出。
第 9 回 合同授業 教室は事前に案内する	キャリア教育プログラム① ・ 先輩内定者、卒業生、関連する業界の社会人などに対するインタビューとキャリアガイダンスを実施する。	インタビューやガイダンスを聞いて自分の考えをまとめる。 ○KUIS ドリル
第 10 回 合同授業 教室は事前に案内する	キャリア教育プログラム② ・ ビジネス・マナー講座	キャリア・プランについての小レポートを提出する。 ○KUIS ドリル
第 11 回	ビジネス文書① 大学生・社会人として守るべきメール文書のルールを理解し、実際に作成、送受信し、相互評価する。	★最終課題 (学期の主題「論理的思考」を考慮しつつ、社会問題や時事問題から出題する。詳細はゼ

		ミ毎に案内) ○KUIS ドリル
第 12 回	ビジネス文書② 依頼文の作成 メールや手紙で、アンケートの依頼、イベント協力の依頼など、自分の目的のために、他者に何かしてもらいための文書のルールを作成し、相互評価する。	○KUIS ドリル
第 13 回	プレゼンテーション① 期末課題の構成と参考文献に関する PPT プレゼン	○最終課題の準備 ○KUIS ドリル
第 14 回	プレゼンテーション② 期末課題の構成と参考文献に関する PPT プレゼン	○最終課題の準備 ○KUIS ドリル
第 15 回	プレゼンテーション③（予備日） e ポーフォリオの作成(秋学期の振り返り、自己 PR の修正) 授業アンケート	★e ポーフォリオを完成させる ○KUIS ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-M55	2.科目名	基礎演習（経営三木 4）		3.単位数	1												
4.授業担当教員	樋田大二郎																	
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期													
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～													
10.取得資格の要件				11.先修条件														
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※													
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習													
16.履修制限																		
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目では、春学期の学習技術や初年次セミナーにおけるさまざまな学修をふまえ、2 年次以降の専門教育に向けて基礎を固めることを目的とする。 【概要】 具体的には、新聞や各種文献等を素材とし、読解等の基礎的な技術を定着させるとともに、与えられたテーマに沿って、各自で情報収集を行い、実際のデータも取り入れた客観性のある小論文を作成する。この過程で小論文の形式やビジネス文書の書き方を修得する。 また、授業中のグループワークやディスカッションを通じて他者と協働する姿勢を身に付ける。さらに、上級生、卒業生や関心のある業界の社会人などの話を聞いたり、インタビューを通じて、自分のキャリアについて関心を高める。																	
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）多様性理解、（5）コミュニケーション能力の学修に関連しています。 ①基礎的なリーディング・スキルを身に付ける。 ②基礎的なライティング・スキルを身に付ける。（ライティングルーブリック（下位学年用）のレベル 3） ③グループワークに積極的に参加できる。（チームワークルーブリックのレベル 3） ④社会人として求められる基礎学力、時事知識、マナーを身に付ける。																	
19.教科書・教材	参考文献や他の資料から、適宜指示する。																	
20.参考文献	○朝日デジタル新聞 ○朝日新聞「時事ワークシート」 ○『知へのステップ（第 5 版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：9784874247891 ○KUIS ドリル																	
21.成績評価	<table><tr><td>時事ワークシート</td><td>20 点（目標①・②）</td></tr><tr><td>キャリア教育 WS</td><td>10 点（目標③）</td></tr><tr><td>中間課題</td><td>10 点（目標①・②）</td></tr><tr><td>ビジネス文書</td><td>10 点（目標①）</td></tr><tr><td>最終課題とプレゼンテーション</td><td>30 点（目標①）</td></tr><tr><td>KUIS ドリルの成果</td><td>10 点（目標③）</td></tr></table>						時事ワークシート	20 点（目標①・②）	キャリア教育 WS	10 点（目標③）	中間課題	10 点（目標①・②）	ビジネス文書	10 点（目標①）	最終課題とプレゼンテーション	30 点（目標①）	KUIS ドリルの成果	10 点（目標③）
時事ワークシート	20 点（目標①・②）																	
キャリア教育 WS	10 点（目標③）																	
中間課題	10 点（目標①・②）																	
ビジネス文書	10 点（目標①）																	
最終課題とプレゼンテーション	30 点（目標①）																	
KUIS ドリルの成果	10 点（目標③）																	
22.コメント	特別に説明がない限り、すべての授業でノート PC 持参です。 ゲスト講師のご都合等により、授業回の入れ替えの変更の可能性があります。 やむを得ず遅刻、欠席するときは必ず連絡をしてください。																	
23.オフィスアワー																		
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)														
第 1 回 (合同授業、 教室は事前に	・オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等の説明） ・履修変更の確認			○学習目標の設定、ベンチマークチェックを完了する														

案内する)	・ Outlook メールの設定およびプッシュ通知の再確認 ・ 春学期の成績に基づく今学期の学習目標の設定、ベンチマークチェック ・ Kuis ドリル進捗確認 ・ 「時事ワークシート (WS)」の取り組み方	
第 2 回	リーディング① ・ 朝日新聞「時事ワークシート」の記事①について、ワークシート①に取り組む ・ 解答を確認・発表し、このテーマについて議論する。	○ワークシート①を提出する ○朝日新聞「時事ワークシート」の記事②を読み、指定された要領でまとめてくる (60 分 × 2) ○KUIS ドリル
第 3 回	リーディング② ・ 朝日新聞「時事ワークシート」の記事①について、ワークシート①に取り組む ・ 解答を確認・発表し、このテーマについて議論する。	○ワークシート②を提出する ○朝日新聞「時事ワークシート」の記事③を読み、指定された要領でまとめてくる (60 分 × 2) ○KUIS ドリル
第 4 回	リーディング③ ・ 朝日新聞「時事ワークシート」の記事①について、ワークシート①に取り組む ・ 解答を確認・発表し、このテーマについて議論する。	○ワークシート③を提出する ○朝日新聞「時事ワークシート」の記事④を読み、指定された要領でまとめてくる (60 分 × 2) ○KUIS ドリル
第 5 回	リーディング④ ・ 朝日新聞「時事ワークシート」の記事①について、ワークシート①に取り組む ・ 解答を確認・発表し、このテーマについて議論する。	○ワークシート④を提出する ○学習技術の教科書「ライティング」を読んでポイントをまとめてくる KUIS ドリル
第 6 回	ライティング① 中間課題に向けて、ライティングの基本（書式設定、構成、直接・間接引用等）を理解し使えるようにする。	◆学修技術のテキスト持参◆ kuis ドリル
第 7 回	ライティング② リーディングで取り組んだ時事 WS から 1 つを選び、アカデミックライティングによる文章を作成し、ペアワークやグループワークで相互に点検する。	学習技術のテキストとリーディング・ケースを持参。 ○KUIS ドリル
第 8 回	ライティング③ 前回とは異なる時事 WS を利用して、小論文を作成して、中間課題として Webclass に提出する。	中間課題の提出。
第 9 回	キャリア教育プログラム① ・ 先輩内定者、卒業生、関連する業界の社会人などに対するインタビューとキャリアガイダンスを実施する。	インタビューやガイダンスを聞いて自分の考えをまとめる。 ○KUIS ドリル
第 10 回	キャリア教育プログラム② ・ ビジネス・マナー講座	キャリア・プランについての小レポートを提出する。 ○KUIS ドリル
第 11 回	ビジネス文書① 大学生・社会人として守るべきメール文書のルールを理解し、実際に作成、送受信し、相互評価する。	★最終課題 (学期の主題「論理的思考」を考慮しつつ、社会問題や時事問題から出題する。詳細はゼミ毎に案内)

		○KUIS ドリル
第 12 回	ビジネス文書② 依頼文の作成 メールや手紙で、アンケートの依頼、イベント協力の依頼など、自分の目的のために、他者に何かしてもらいための文書のルールを作成し、相互評価する。	○KUIS ドリル
13 回	プレゼンテーション① 期末課題の構成と参考文献に関する PPT プレゼン	○最終課題の準備 ○KUIS ドリル
第 14 回	プレゼンテーション② 期末課題の構成と参考文献に関する PPT プレゼン	○最終課題の準備 ○KUIS ドリル
第 15 回	プレゼンテーション③（予備日） e ポーフォリオの作成(秋学期の振り返り、自己 PR の修正) 授業アンケート	★e ポーフォリオを完成させる ○KUIS ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y51	2.科目名	基礎演習		3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤創、Jonathan Aliponga、片山真理					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	[Objective] The purpose of this seminar is to enhance students' understanding about our local community through Project (Problem) -based Learning, which relates to various aspects of our daily lives: integration of new-comers into our society, gap between rich and poor, environmental issues, pandemics, safety, education, multiculturalism, and so on. [Outline] The class contains two major activities: Understanding topics of various topics related Kobe and finding and examining critical elements of them. The class focuses on deepening and widening students' vision of the society and make them prepared for their study in the second year.					
18.学習目標と DPとの関連	Students can gain knowledge about the international society. They also improve their group work/pair work skills. This course also contain job preparation exercises. The teacher will have advisory functions to help student make study plan and reflect on it. E-portfolio will be used as a tool of students' self-assessment. "本科目の学習目標（＝身につくスキル）は次の通りです。 ①E ポートフォリオに自己 PR に結び付く記事を投稿することができるようになる。 ②簡単な自己 PR 文を書けるようになる。 ③クリティカルシンキングに必要な思考の流れを身に着けることができる。 ④グループワークの進め方を身に着けることができる。 ⑤プレゼンテーションの基礎的スキルを身に着けることができる。 ⑥ライティングの基礎的スキルを身に着けることができる。 DP: (1) 自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができます。 (4) 問題発見・解決力 根拠にもとづいて、問題を発見したり解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができます。 (5) コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	No textbook. References are shown in the class.					
20.参考文献	『新・民族の世界地図』 21 世紀研究会編（文春新書） 『君たちはどう生きるか』 吉野源三郎 / 英語版 How Do You Live? (Genzaburo Yoshino, Bruno Navasky 他) /漫画版 『漫画 君たちはどう生きるか』 羽賀翔一(漫画) マガジンハウス					

21.成績評価	"Presentations in his/her individual class =20% Mid-term research prospectus=20% Reflective Report on E-portfolio : 10% Career-related assignments: 10% Final Paper: 40%	
22.コメント	遅刻・欠席は厳禁です。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
Week 1	Introduction	◆ノート PC、時間割、履修要項
Week 2	Project (Problem)-based Learning: Issues and concerns	○Find background issues, e-portfolio
Week 3	Project (Problem)-based Learning: Issues and concerns	○Find background issues, e-portfolio
Week 4	Findings problems	○Find background issues, e-portfolio
Week 5	Findings problems	○ Presentation preparation (60min.)
Week 6	Sharing your problems	○ Presentation preparation(60min.)
Week 7	Sharing your problems	○Preparation for fieldwork (60min.)
Week 8	Fieldwork	○Preparation for fieldwork (60min.)
Week 9	Fieldwork	○ Identifying background of facts, the problem (90min.)
Week 10	Summarizing (Group)	○ Solutions, Recommendations(90min.)
Week 11	Summarizing (Group)	○ Solutions, Recommendations (90min.)
Week 12	Presentation	○ Presentation preparation (90min.)
Week 13	Presentation	○ Presentation preparation (90min.)
Week 14	Discussion	○e-portfolio (30min.)
Week 15	Wrap-up	○Final Paper Due. ○e-portfolio

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y52	2.科目名	基礎演習		3.単位数	1
4.授業担当教員	橘セツ					
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1 年次	
10.取得資格の要件	とくになし		11.先修条件	とくになし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	とくになし					
17.授業の目的と概要	・観光学科の学生は2年生進級時にホテル・エアライン・旅行ビジネス・地域・流通専攻とビジネスデザイン専攻に分かれます。各専攻の学びを深めていくためには観光の基礎知識、コンセプト、マネジメントの基本を学ぶことに加えて、産学連携を通じた実践的な学修機会において個人ワークとチームワークの両方で取り組むことが必要です。 ・この授業では2年生進級時の専攻選択の準備を行うとともに、業界研究等のグループワーク（外部講師による講話の受講と質疑応答を含む）を行います。 ・本授業は、基礎演習（1年次）⇒PM演習（2年次）⇒専門演習（3年次）⇒卒業研究・卒業論文（4年次）と連なる必修演習（ゼミ）の第一ステップ（後半）として位置づけられます。 そのため、2年次以降のPBL（Project Based Learning)の前段階としてシナリオ型PBLを行い、 チームビルディング、デザイン思考の初期段階のトレーニングなどに取り組むことを主な目的とします。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）多様性理解、（5）コミュニケーション能力の学修に関連しています。 ①基礎的なライティング・スキルを身に付ける。（ライティングルーブリック（下位学年用）のレベル3） ②グループワークに積極的に参加できる。（チームワークルーブリックのレベル3） ③社会人として求められる基礎的学力とマナーを身に付ける。 ④PBLの基本的な進め方を身につけることができる。 ⑤大学卒業後の進路を明確にし、進路にあった適切な専攻を選ぶことができる。					
19.教科書・教材	適宜指示する。					
20.参考文献	○朝日新聞時事ニュース ○kuisドリル その他、授業中に適宜紹介する。					
21.成績評価	以下のすべての課題を、提出条件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とする。 多文化フェスティバル 20%（目標①・②・③・④） ワークシート3回 15%（目標①・②） キャリア教育プログラム 5%（目標③・⑤） 中間レポート 10%（目標①・②） ビジネス文書 10%（目標①） レジュメ・プレゼンテーション 15%（目標①・②） 最終レポート 20%（目標①） KUISドリルの成果 5%（目標③）					

22.コメント	・ 特別に説明がない限り、すべての授業でノート PC 持参してください。 ・ フィールドワーク／グループワークでは、主体的・積極的に参加し発言するとともに、仲間の学生の意見や考えも尊重しましょう。 ・ フィールドワーク／グループワークや発表では、欠席すると仲間に迷惑がかかります。やむなく欠席をする場合には、かならずチームメイトと教員に連絡を入れてください。 ・ 授業の大まかな流れは変わりませんが、諸事情により、細かい内容の変更や順番の入れ替えがある場合があります。詳しくは授業中に指示します。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】 共同実施 9/30	オリエンテーション：春学期のふりかえり、学習目標設定、ベンチマークチェック、KUIS ドリル、秋学期のスケジュールの説明。	Kuis ドリル
【第 2 回】 共同実施 10/7	多文化フェスティバルの説明と事前準備	スパゲッティ、マシュマロ、スカチテープなどが必要。 ワークシート① Kuis ドリル
【第 3 回】 10/14	多文化フェスティバルのグループ分けとグループワーク	ワークシート②を読み、指定された要領でまとめる Kuis ドリル
【第 4 回】 共同実施 10/21	多文化交流フェスティバル 事前学習、ミステリーショッパー（お店の看板、価格設定、サービスの状況、季節商品を経営の観点から評価する）	多文化フェスティバルのワーク要領、分担などを覚える Kuis ドリル
【第 5 回】 10/28 休講	多文化交流フェスティバル、10 月 29 日(日) 本番参加、ミステリーショッパーの点検報告を提出	Kuis ドリル
【第 6 回】 11/4	多文化フェスティバルの振り返り	ワークシート③を読み、指定された要領でまとめる。 Kuis ドリル
【第 7 回】 11/11	リーディング 1 朝日新聞時事ワークシート①② 意見交換、ワークに取り組む	Kuis ドリル
【第 8 回】 11/18	リーディング 2 朝日新聞時事ワークシート③④ 意見交換、ワークに取り組む	学習技術のテキストを持参する Kuis ドリル
【第 9 回】 11/25	リーディング 3 朝日新聞時事ワークシート⑤⑥ 意見交換、ワークに取り組む	学習技術テキスト持参する。中間レポート提出する。 Kuis ドリル
【第 10 回】 共同実施 12/2	ライティング 1 中間レポートに向けてライティングの基本の確認、序本、本論、結論、書式設定など	交流コンテンツに関するワークシート Kuis ドリル
【第 11 回】 12/9	ライティング 2 アカデミックレポートの作成、中間レポートとして作成して Webclass に提出	社会問題などのテーマに関する情報を収集し、文献リストを作成する Kuis ドリル
【第 12 回】 12/16	ビジネス文書 ビジネス文書の作成	情報収集と文章作成 Kuis ドリル
【第 13 回】 12/23	プレゼンテーション 1 レジューメに関する説明、作成、文献の利用、プレゼンの方法	レジューメを完成させる Kuis ドリル

【第 14 回】 1/6	プレゼンテーション 2 パワーポイントを利用した発表	最終レポートに取り組む Kuis ドリル
【第 15 回】 共同実施 1/20	・学期全体のふりかえり：e ポートフォリオ作成、授業アンケート回答 ・1 年間の振り返り：何を学んだか記述し、自らの経験を客観視する。 ・専攻選択エントリーの説明	e ポートフォリオを完成させる Kuis ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y53	2.科目名	基礎演習		3.単位数	1
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1 年次	
10.取得資格の要件	とくになし		11.先修条件	とくになし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	とくになし					
17.授業の目的と概要	・観光学科の学生は2年生進級時にホテル・エアライン・旅行ビジネス・地域・流通専攻とビジネスデザイン専攻に分かれます。各専攻の学びを深めていくためには観光の基礎知識、コンセプト、マネジメントの基本を学ぶことに加えて、産学連携を通じた実践的な学修機会において個人ワークとチームワークの両方で取り組むことが必要です。 ・この授業では2年生進級時の専攻選択の準備を行うとともに、業界研究等のグループワーク（外部講師による講話の受講と質疑応答を含む）を行います。 ・本授業は、基礎演習（1年次）⇒PM演習（2年次）⇒専門演習（3年次）⇒卒業研究・卒業論文（4年次）と連なる必修演習（ゼミ）の第一ステップ（後半）として位置づけられます。 そのため、2年次以降のPBL（Project Based Learning)の前段階としてシナリオ型PBLを行い、 チームビルディング、デザイン思考の初期段階のトレーニングなどに取り組むことを主な目的とします。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）多様性理解、（5）コミュニケーション能力の学修に関連しています。 ①基礎的なライティング・スキルを身に付ける。（ライティングルーブリック（下位学年用）のレベル3） ②グループワークに積極的に参加できる。（チームワークルーブリックのレベル3） ③社会人として求められる基礎的学力とマナーを身に付ける。 ④PBLの基本的な進め方を身につけることができる。 ⑤大学卒業後の進路を明確にし、進路にあった適切な専攻を選ぶことができる。					
19.教科書・教材	適宜指示する。					
20.参考文献	○朝日新聞時事ニュース ○kuisドリル その他、授業中に適宜紹介する。					
21.成績評価	以下のすべての課題を、提出条件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とする。 多文化フェスティバル 20%（目標①・②・③・④） ワークシート3回 15%（目標①・②） キャリア教育プログラム 5%（目標③・⑤） 中間レポート 10%（目標①・②） ビジネス文書 10%（目標①） レジュメ・プレゼンテーション 15%（目標①・②） 最終レポート 20%（目標①） KUISドリルの成果 5%（目標③）					

22.コメント	・ 特別に説明がない限り、すべての授業でノート PC 持参してください。 ・ フィールドワーク／グループワークでは、主体的・積極的に参加し発言するとともに、仲間の学生の意見や考えも尊重しましょう。 ・ フィールドワーク／グループワークや発表では、欠席すると仲間に迷惑がかかります。やむなく欠席をする場合には、かならずチームメイトと教員に連絡を入れてください。 ・ 授業の大まかな流れは変わりませんが、諸事情により、細かい内容の変更や順番の入れ替えがある場合があります。詳しくは授業中に指示します。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	オリエンテーション：春学期のふりかえり、学習目標設定、ベンチマークチェック、KUIS ドリル、秋学期のスケジュールの説明。	Kuis ドリル
【第 2 回】	多文化フェスティバルの説明と事前準備	スパゲッティ、マシュマロ、スカチテープなどが必要。 ワークシート① Kuis ドリル
【第 3 回】	多文化フェスティバルのグループ分けとグループワーク	ワークシート②を読み、指定された要領でまとめる Kuis ドリル
【第 4 回】	多文化交流フェスティバル 事前学習、ミステリーショッパー（お店の看板、価格設定、サービスの状況、季節商品を経営の観点から評価する）	多文化フェスティバルのワーク要領、分担などを覚える Kuis ドリル
【第 5 回】	多文化交流フェスティバル、10 月 29 日(日) 本番参加、ミステリーショッパーの点検報告を提出	Kuis ドリル
【第 6 回】	多文化フェスティバルの振り返り	ワークシート③を読み、指定された要領でまとめる。 Kuis ドリル
【第 7 回】	リーディング 1 朝日新聞時事ワークシート①② 意見交換、ワークに取り組む	Kuis ドリル
【第 8 回】	リーディング 2 朝日新聞時事ワークシート③④ 意見交換、ワークに取り組む	学習技術のテキストを持参する Kuis ドリル
【第 9 回】	リーディング 3 朝日新聞時事ワークシート⑤⑥ 意見交換、ワークに取り組む	学習技術テキスト持参する。中間レポート提出する。 Kuis ドリル
【第 10 回】	ライティング 1 中間レポートに向けてライティングの基本の確認、序本、本論、結論、書式設定など	交流コンテンツに関するワークシート Kuis ドリル
【第 11 回】	ライティング 2 アカデミックレポートの作成、中間レポートとして作成して Webclass に提出	社会問題などのテーマに関する情報を収集し、文献リストを作成する Kuis ドリル
【第 12 回】	ビジネス文書 ビジネス文書の作成	情報収集と文章作成 Kuis ドリル
【第 13 回】	プレゼンテーション 1 レジューメに関する説明、作成、文献の利用、プレゼンの方法	レジューメを完成させる Kuis ドリル
【第 14 回】	プレゼンテーション 2 パワーポイントを利用した発	最終レポートに取り組む

	表	Kuis ドリル
【第 15 回】	・学期全体のふりかえり：e ポートフォリオ作成、授業アンケート回答 ・1 年間の振り返り：何を学んだか記述し、自らの経験を客観視する。 ・専攻選択エントリーの説明	e ポートフォリオを完成させる Kuis ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y54	2.科目名	基礎演習		3.単位数	1
4.授業担当教員	前田哲男					
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	1 年次	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	とくになし					
17.授業の目的と概要	・観光学科の学生は2年生進級時にホテル・エアライン・旅行ビジネス・地域・流通専攻とビジネスデザイン専攻に分かれます。各専攻の学びを深めていくためには観光の基礎知識、コンセプト、マネジメントの基本を学ぶことに加えて、産学連携を通じた実践的な学修機会において個人ワークとチームワークの両方で取り組むことが必要です。 ・この授業では2年生進級時の専攻選択の準備を行うとともに、業界研究等のグループワーク（外部講師による講話の受講と質疑応答を含む）を行います。 ・本授業は、基礎演習（1年次）⇒PM演習（2年次）⇒専門演習（3年次）⇒卒業研究・卒業論文（4年次）と連なる必修演習（ゼミ）の第一ステップ（後半）として位置づけられます。 そのため、2年次以降のPBL（Project Based Learning)の前段階としてシナリオ型PBLを行い、 チームビルディング、デザイン思考の初期段階のトレーニングなどに取り組むことを主な目的とします。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）多様性理解、（5）コミュニケーション能力の学修に関連しています。 ①基礎的なライティング・スキルを身に付ける。（ライティングルーブリック（下位学年用）のレベル3） ②グループワークに積極的に参加できる。（チームワークルーブリックのレベル3） ③社会人として求められる基礎的学力とマナーを身に付ける。 ④PBLの基本的な進め方を身につけることができる。 ⑤大学卒業後の進路を明確にし、進路にあった適切な専攻を選ぶことができる。					
19.教科書・教材	適宜指示する。					
20.参考文献	○朝日新聞時事ニュース ○kuisドリル その他、授業中に適宜紹介する。					
21.成績評価	以下のすべての課題を、提出条件を満たし、かつ、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とする。 多文化フェスティバル 20%（目標①・②・③・④） ワークシート3回 15%（目標①・②） キャリア教育プログラム 5%（目標③・⑤） 中間レポート 10%（目標①・②） ビジネス文書 10%（目標①） レジュメ・プレゼンテーション 15%（目標①・②） 最終レポート 20%（目標①） KUISドリルの成果 5%（目標③）					
22.コメント	・特別に説明がない限り、すべての授業でノートPC持参してください。					

	・フィールドワーク／グループワークでは、主体的・積極的に参加し発言するとともに、仲間の学生の意見や考えも尊重しましょう。 ・フィールドワーク／グループワークや発表では、欠席すると仲間に迷惑がかかります。やむなく欠席をする場合には、かならずチームメイトと教員に連絡を入れてください。 ・授業の大まかな流れは変わりませんが、諸事情により、細かい内容の変更や順番の入れ替えがある場合があります。詳しくは授業中に指示します。	
23.オフィスアワー	特に時間は定めませんが、前もってメールで連絡をした上で研究室に来てください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	オリエンテーション：春学期のふりかえり、学習目標設定、ベンチマークチェック、KUIS ドリル、秋学期のスケジュールの説明。	Kuis ドリル
【第2回】	多文化フェスティバルの説明と事前準備	スパゲッティ、マシュマロ、スカチテープなどが必要。 ワークシート① Kuis ドリル
【第3回】	多文化フェスティバルのグループ分けとグループワーク	ワークシート②を読み、指定された要領でまとめる Kuis ドリル
【第4回】	多文化交流フェスティバル 事前学習、ミステリーショッパー（お店の看板、価格設定、サービスの状況、季節商品を経営の観点から評価する）	多文化フェスティバルのワーク要領、分担などを覚える Kuis ドリル
【第5回】	多文化交流フェスティバル、10月29日(日) 本番参加、ミステリーショッパーの点検報告を提出	Kuis ドリル
【第6回】	多文化フェスティバルの振り返り	ワークシート③を読み、指定された要領でまとめる。 Kuis ドリル
【第7回】	リーディング1 朝日新聞時事ワークシート①② 意見交換、ワークに取り組む	Kuis ドリル
【第8回】	リーディング2 朝日新聞時事ワークシート③④ 意見交換、ワークに取り組む	学習技術のテキストを持参する Kuis ドリル
【第9回】	リーディング3 朝日新聞時事ワークシート⑤⑥ 意見交換、ワークに取り組む	学習技術テキスト持参する。中間レポート提出する。 Kuis ドリル
【第10回】	ライティング1 中間レポートに向けてライティングの基本の確認、序本、本論、結論、書式設定など	交流コンテンツに関するワークシート Kuis ドリル
【第11回】	ライティング2 アカデミックレポートの作成、中間レポートとして作成して Webclass に提出	社会問題などのテーマに関する情報を収集し、文献リストを作成する Kuis ドリル
【第12回】	ビジネス文書 ビジネス文書の作成	情報収集と文章作成 Kuis ドリル
【第13回】	プレゼンテーション1 レジューメに関する説明、作成、文献の利用、プレゼンの方法	レジューメを完成させる Kuis ドリル
【第14回】	プレゼンテーション2 パワーポイントを利用した発表	最終レポートに取り組む Kuis ドリル
【第15回】	・学期全体のふりかえり：e ポートフォリオ作成、授業	e ポートフォリオを完成させる

	アンケート回答 ・1年間の振り返り：何を学んだか記述し、自らの経験を客観視する。 ・専攻選択エントリーの説明	Kuis ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y56	2.科目名	基礎演習		3.単位数	1
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習は、春学期の「初年次セミナー」「学習技術」をふまえ、2 年生以降の専門的な科目を積極的に学修するために必要なレポート作成のスキルを身につけることが目的です。具体的には、「説明文型のレポート」と「考察型のレポート」の書き方を学びます。 また、大学の特徴や課題を発見するためのグループワークをおこない、他者と協働する姿勢と自分の意見を展開するための力を身につけます。 さらに、秋学期の学修の振り返りながら、将来に向けた「アクションプラン」をたてるワークをおこない、キャリアへの関心を高めます。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①他者に理解してもらえる分かりやすい説明を組み立てることができる。 ②適切な資料を検索し、読解し、要約を作成することができる。 ③社会問題や社会現象の背景にまでふみこんだ分析することができる。 ④他者の資料や意見をふまえた上で自分の意見を展開することができる。 ⑤本格的な説明型レポートと考察型レポートを書けるようになる。 ⑥他者との意見交換や共同での意見発表ができる。					
19.教科書・教材	授業進行に沿ってワークシート、資料などを配布していきます。					
20.参考文献	適宜授業内で紹介します。					
21.成績評価	1. フィールドワークのワークシート、発表（20 点） 2. 説明文型レポートのワークシート（30 点） 3. 考察文型レポートのワークシート（30 点） 4. キャリア教育のワークシートおよび e ポートフォリオへの記事投稿（10 点） 5. ふりかえりのワークシートおよび e ポートフォリオへの記事投稿（10 点）					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 2 限（学修支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス 本科目の内容、ねらいについて説明するとともに、春学期の初年次セミナーで学んだことをふりかえる。			予習：初年次セミナーで作成した課題の読み直し		
第 2 回	大学を知るためのフィールドワーク① 学内の改善場所を見つけることを目的としたフィールドワークの準備をおこなう			持参物：ノート PC 宿題：フィールドワーク（観察）記録をまとめる		
第 3 回	大学を知るためのフィールドワーク② フィールドワークの結果をまとめ、プレゼンテーション用の資料を作成する。			持参物：ノート PC 宿題：プレゼン資料の作成		
第 4 回	大学を知るためのフィールドワーク 3			持参物：ノート PC		

	フィールドワークの結果をグループ単位で発表する。	宿題：ふりかえりワークシートの作成
第 5 回	説明文型のレポート① ソーシャルビジネスの定義を文献引用で説明する	持参物：ノート PC 宿題：「用語定義」まで執筆
第 6 回	説明文型のレポート② ソーシャルビジネスの具体例を探す	持参物：ノート PC 宿題：具体例の検索
第 7 回	説明文型のレポート③ 具体例の記述→レポート完成	持参物：ノート PC 宿題：「具体例」まで執筆
第 8 回	キャリア教育 秋学期の学修のふりかえり①	持参物：ノート PC 宿題：e ポートフォリオの確認
第 9 回	説明文型のレポート④ 事例の発表	持参物：ノート PC 宿題：レポートの加筆・修正
第 10 回	考察文型のレポート① 分析型 ワークシート→グループワーク	持参物：ノート PC 宿題：ワークシートの記入
第 11 回	考察型のレポート② 提案型 ワークシート→グループワーク	宿題：レポートの執筆
第 12 回	考察文型のレポート③ 反論型・代案型 ワークシート→グループワーク	持参物：ノート PC 宿題：レポートの執筆
第 13 回	キャリア教育 秋学期の学修のふりかえり②	宿題：e ポートフォリオの確認
第 14 回	キャリア教育 将来を見据えた「アクションプラン」を考えよう	宿題：ワークシートの記入
第 15 回	ふりかえり 基礎演習のふりかえりと、今後（冬学期）について	

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y57	2.科目名	基礎演習		3.単位数	1
4.授業担当教員	永井純一					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習は、春学期の「初年次セミナー」「学習技術」をふまえ、2年生以降の専門的な科目を積極的に学修するために必要なレポート作成のスキルを身につけることが目的です。具体的には、「説明文型のレポート」と「考察型のレポート」の書き方を学びます。 また、大学の特徴や課題を発見するためのグループワークをおこない、他者と協働する姿勢と自分の意見を展開するための力を身につけます。 さらに、秋学期の学修の振り返りながら、将来に向けた「アクションプラン」をたてるワークをおこない、キャリアへの関心を高めます。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①他者に理解してもらえる分かりやすい説明を組み立てることができる。 ②適切な資料を検索し、読解し、要約を作成することができる。 ③社会問題や社会現象の背景にまでふみこんだ分析することができる。 ④他者の資料や意見をふまえた上で自分の意見を展開することができる。 ⑤本格的な説明型レポートと考察型レポートを書けるようになる。 ⑥他者との意見交換や共同での意見発表ができる。					
19.教科書・教材	授業進行に沿ってワークシート、資料などを配布していきます。					
20.参考文献	適宜授業内で紹介します。					
21.成績評価	1. フィールドワークのワークシート、発表（20 点） 2. 説明文型レポートのワークシート（30 点） 3. 考察文型レポートのワークシート（30 点） 4. キャリア教育のワークシートおよび e ポートフォリオへの記事投稿（10 点） 5. ふりかえりのワークシートおよび e ポートフォリオへの記事投稿（10 点）					
22.コメント						
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜昼休み 研究室オフィスアワー：金曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス 本科目の内容、ねらいについて説明するとともに、春学期の初年次セミナーで学んだことをふりかえる。			予習：初年次セミナーで作成した課題の読み直し		
第 2 回	大学を知るためのフィールドワーク① 学内の改善場所を見つけることを目的としたフィールドワークの準備をおこなう			持参物：ノート PC 宿題：フィールドワーク（観察）記録をまとめる		
第 3 回	大学を知るためのフィールドワーク② フィールドワークの結果をまとめ、プレゼンテーション用の資料を作成する。			持参物：ノート PC 宿題：プレゼン資料の作成		

第 4 回	大学を知るためのフィールドワーク 3 フィールドワークの結果をグループ単位で発表する。	持参物：ノート PC 宿題：ふりかえりワークシートの作成
第 5 回	説明文型のレポート① ソーシャルビジネスの定義を文献引用で説明する	持参物：ノート PC 宿題：「用語定義」まで執筆
第 6 回	説明文型のレポート② ソーシャルビジネスの具体例を探す	持参物：ノート PC 宿題：具体例の検索
第 7 回	説明文型のレポート③ 具体例の記述→レポート完成	持参物：ノート PC 宿題：「具体例」まで執筆
第 8 回	キャリア教育 秋学期の学修のふりかえり①	持参物：ノート PC 宿題：e ポートフォリオの確認
第 9 回	説明文型のレポート④ 事例の発表	持参物：ノート PC 宿題：レポートの加筆・修正
第 10 回	考察文型のレポート① 分析型 ワークシート→グループワーク	持参物：ノート PC 宿題：ワークシートの記入
第 11 回	考察型のレポート② 提案型 ワークシート→グループワーク	宿題：レポートの執筆
第 12 回	考察文型のレポート③ 反論型・代案型 ワークシート→グループワーク	持参物：ノート PC 宿題：レポートの執筆
第 13 回	キャリア教育 秋学期の学修のふりかえり②	宿題：e ポートフォリオの確認
第 14 回	キャリア教育 将来を見据えた「アクションプラン」を考えよう	宿題：ワークシートの記入
第 15 回	ふりかえり 基礎演習のふりかえりと、今後（冬学期）について	

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y59	2.科目名	基礎演習（留）		3.単位数	1
4.授業担当教員	疋田浩一					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習は、春学期の「初年次セミナー」「学習技術」をふまえ、2年生以降の専門的な科目を積極的に学修するために必要なレポート作成のスキルを身につけることが目的です。具体的には、「説明文型のレポート」と「考察型のレポート」の書き方を学びます。 また、大学の特徴や課題を発見するためのグループワークをおこない、他者と協働する姿勢と自分の意見を展開するための力を身につけます。 さらに、秋学期の学修の振り返りながら、将来に向けた「アクションプラン」をたてるワークをおこない、キャリアへの関心を高めます。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①他者に理解してもらえる分かりやすい説明を組み立てることができる。 ②適切な資料を検索し、読解し、要約を作成することができる。 ③社会問題や社会現象の背景にまでふみこんだ分析することができる。 ④他者の資料や意見をふまえた上で自分の意見を展開することができる。 ⑤本格的な説明型レポートと考察型レポートを書けるようになる。 ⑥他者との意見交換や共同での意見発表ができる。					
19.教科書・教材	授業進行に沿ってワークシート、資料などを配布していきます。					
20.参考文献	適宜授業内で紹介します。					
21.成績評価	1. フィールドワークのワークシート、発表（20 点） 2. 説明文型レポートのワークシート（30 点） 3. 考察文型レポートのワークシート（30 点） 4. キャリア教育のワークシートおよび e ポートフォリオへの記事投稿（10 点） 5. ふりかえりのワークシートおよび e ポートフォリオへの記事投稿（10 点）					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス 本科目の内容、ねらいについて説明するとともに、春学期の初年次セミナーで学んだことをふりかえる。			予習：初年次セミナーで作成した課題の読み直し		
第 2 回	大学を知るためのフィールドワーク① 学内の改善場所を見つけることを目的としたフィールドワークの準備をおこなう			持参物：ノート PC 宿題：フィールドワーク（観察）記録をまとめる		
第 3 回	大学を知るためのフィールドワーク② フィールドワークの結果をまとめ、プレゼンテーション用の資料を作成する。			持参物：ノート PC 宿題：プレゼン資料の作成		
第 4 回	大学を知るためのフィールドワーク 3			持参物：ノート PC		

	フィールドワークの結果をグループ単位で発表する。	宿題：ふりかえりワークシートの作成
第 5 回	説明文型のレポート① ソーシャルビジネスの定義を文献引用で説明する	持参物：ノート PC 宿題：「用語定義」まで執筆
第 6 回	説明文型のレポート② ソーシャルビジネスの具体例を探す	持参物：ノート PC 宿題：具体例の検索
第 7 回	説明文型のレポート③ 具体例の記述→レポート完成	持参物：ノート PC 宿題：「具体例」まで執筆
第 8 回	キャリア教育 秋学期の学修のふりかえり①	持参物：ノート PC 宿題：e ポートフォリオの確認
第 9 回	説明文型のレポート④ 事例の発表	持参物：ノート PC 宿題：レポートの加筆・修正
第 10 回	考察文型のレポート① 分析型 ワークシート→グループワーク	持参物：ノート PC 宿題：ワークシートの記入
第 11 回	考察型のレポート② 提案型 ワークシート→グループワーク	宿題：レポートの執筆
第 12 回	考察文型のレポート③ 反論型・代案型 ワークシート→グループワーク	持参物：ノート PC 宿題：レポートの執筆
第 13 回	キャリア教育 秋学期の学修のふりかえり②	宿題：e ポートフォリオの確認
第 14 回	キャリア教育 将来を見据えた「アクションプラン」を考えよう	宿題：ワークシートの記入
第 15 回	ふりかえり 基礎演習のふりかえりと、今後（冬学期）について	

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y61	2.科目名	基礎演習		3.単位数	1
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習では、「学習技術」「初年次セミナー」の内容を踏まえ、専門演習（2 年ゼミ）をはじめ、専門教育を積極的に学修するために必要な教養とスキルを養うことを目的としています PBL（課題解決型学習）を通して論理的に考える力やそれを適切に表現し、人に伝える力を身につけることも目指します。					
18.学習目標と D P との関連	本学科の科目目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルに関連しています。 1. PBL 形式の授業の中で、地域における諸問題に関心を持ち、積極的にその解決策に取り組むことができるようになることを目指します。 2. フィールドワークから問題に気づくようになることを目指します。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	○K U I S ドリル ○朝日新聞デジタル					
21.成績評価	○ラーニング・ルートマップの作成および e ポートフォリオへの記事投稿「2023 年度秋学期の学び」（10%） ○ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入、エビデンス登録（10%）・・・学習目標①に対応 ○ワークシート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間レポート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間発表（10%）・・・学修目標①に対応 ○最終レポート（15%）・・・学修目標①②に対応 ○最終発表（15%）・・・学修目標①②に対応 ○K U I S ドリルの成果（ステップアップコース・英数国）（10%）・・・					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜昼休み ＊メールで事前に連絡をしてください。上記時間以外も対応可です。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	○オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等の説明） ○ワーク：履修登録の確認 ○ワーク：ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入			持参物 リフレクション資料一式 ノート P C		
第 2 回	学科 PBL の内容と課題説明			持参物：ノート PC 持参物：学習技術教科書「知へのステップ」 教室外学習：ワークシートの記入（60 分）		
第 3 回	図書館ガイダンス グループワーク			持参物：ノート PC 持参物：学習技術教科書「知へのステップ」		

		教室外学習：ワークシートの記入（60分）
第4回	図書館ガイダンス グループワーク	持参物：ノート PC 持参物：学習技術教科書「知へのステップ」 教室外学習：ワークシートの記入（60分）
第5回	合同ゼミ 情報交換ワーク	持参物：ノート PC 提出物：ワークシート
第6回	グループワーク パワーポイントの作成	持参物：ノート PC 提出物：ワークシート
第7回	中間（ゼミ内）発表	持参物：ノート PC 提出物：中間レポート
第8回	グループワーク キャリア教育	持参物：ノート PC 提出物：ワークシート
第9回	グループワーク 学外ワーク	持参物：ノート PC
第10回	グループワーク 学外ワーク	持参物：ノート PC
第11回	グループワーク 学外ワークを踏まえたパワーポイントの加筆修正	提出物：ワークシート
第12回	最終（ゼミ内）発表	提出物：ワークシート 教室外学習：中間レポートの加筆修正（90分）
第13回	最終レポート作成要領	持参物：ノート PC
第14回	2年時ゼミ紹介 合同ゼミ	持参物：ノート PC 教室外学習：最終レポートの作成（120分）
第15回	○ワーク：2年ゼミ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）エントリーシート作成 ○講義：授業のふりかえりとまとめ	持参物：ノート PC 2年ゼミガイダンス資料 提出物：最終レポート・KUISドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y62	2.科目名	基礎演習		3.単位数	1
4.授業担当教員	道免逸子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習では、「学習技術」「初年次セミナー」の内容を踏まえ、専門演習（2 年ゼミ）をはじめ、専門教育を積極的に学修するために必要な教養とスキルを養うことを目的としています PBL（課題解決型学習）を通して論理的に考える力やそれを適切に表現し、人に伝える力を身につけることも目指します。					
18.学習目標と D P との関連	本学科の科目目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルに関連しています。 1. PBL 形式の授業の中で、地域における諸問題に関心を持ち、積極的にその解決策に取り組むことができるようになることを目指します。 2. フィールドワークから問題に気づくようになることを目指します。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	○K U I S ドリル ○朝日新聞デジタル					
21.成績評価	○ラーニング・ルートマップの作成および e ポートフォリオへの記事投稿「2023 年度秋学期の学び」（10%） ○ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入、エビデンス登録（10%）・・・学習目標①に対応 ○ワークシート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間レポート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間発表（10%）・・・学修目標①に対応 ○最終レポート（15%）・・・学修目標①②に対応 ○最終発表（15%）・・・学修目標①②に対応 ○K U I S ドリルの成果（ステップアップコース・英数国）（10%）・・・					
22.コメント	今後、日程や内容が若干変更になる場合があります。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜 昼休み センターオフィスアワー：金曜 昼休み 学修支援センター					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	○オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等の説明） ○ワーク：履修登録の確認 ○ワーク：ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入			持参物 リフレクション資料一式 ノート P C		
第 2 回	学科 PBL の内容と課題説明			持参物：ノート PC 持参物：学習技術教科書「知へのステップ」 教室外学習：ワークシートの記入（60 分）		
第 3 回	グループワーク			持参物：ノート PC		

		持参物：学習技術教科書「知へのステップ」 教室外学習：ワークシートの記入（60分）
第4回	グループワーク	持参物：ノートPC 持参物：学習技術教科書「知へのステップ」 教室外学習：ワークシートの記入（60分）
第5回	合同ゼミ 情報交換ワーク	持参物：ノートPC 提出物：ワークシート
第6回	グループワーク パワーポイントの作成	持参物：ノートPC 提出物：ワークシート
第7回	中間（ゼミ内）発表	持参物：ノートPC 提出物：中間レポート
第8回	グループワーク キャリア教育	持参物：ノートPC 提出物：ワークシート
第9回	グループワーク 学外ワーク	持参物：ノートPC
第10回	グループワーク 学外ワーク	持参物：ノートPC
第11回	グループワーク 学外ワークを踏まえたパワーポイントの加筆修正	提出物：ワークシート
第12回	最終（ゼミ内）発表	提出物：ワークシート 教室外学習：中間レポートの加筆修正（90分）
第13回	最終レポート作成要領	持参物：ノートPC
第14回	2年時ゼミ紹介 合同ゼミ	持参物：ノートPC 教室外学習：最終レポートの作成（120分）
第15回	○ワーク：2年ゼミ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）エントリーシート作成 ○講義：授業のふりかえりとまとめ	持参物：ノートPC 2年ゼミガイダンス資料 提出物：最終レポート・KUISドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y63	2.科目名	基礎演習		3.単位数	1
4.授業担当教員	村田昌彦					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習では、「学習技術」「初年次セミナー」の内容を踏まえ、専門演習（2 年ゼミ）をはじめ、専門教育を積極的に学修するために必要な教養とスキルを養うことを目的としています PBL（課題解決型学習）を通して論理的に考える力やそれを適切に表現し、人に伝える力を身につけることも目指します。					
18.学習目標と D P との関連	本学科の科目目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルに関連しています。 1. PBL 形式の授業の中で、地域における諸問題に関心を持ち、積極的にその解決策に取り組むことができるようになることを目指します。 2. フィールドワークから問題に気づくようになることを目指します。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	○K U I S ドリル ○朝日新聞デジタル					
21.成績評価	○ラーニング・ルートマップの作成および e ポートフォリオへの記事投稿「2023 年度秋学期の学び」（10%） ○ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入、エビデンス登録（10%）・・・学習目標①に対応 ○ワークシート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間レポート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間発表（10%）・・・学修目標①に対応 ○最終レポート（15%）・・・学修目標①②に対応 ○最終発表（15%）・・・学修目標①②に対応 ○K U I S ドリルの成果（ステップアップコース・英数国）（10%）・・・					
22.コメント	今後、日程や内容が若干変更になる場合があります。					
23.オフィスアワー	オフィスアワー：火曜 3 限 センターオフィスアワー:火曜 昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 10/1	○オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等の説明） ○ワーク：履修登録の確認 ○ワーク：ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入			持参物 リフレクション資料一式 ノート P C		
第 2 回 10/8	学科 PBL の内容と課題説明 ・ 関西国際大学周辺の小学校通学路の問題発見 ・ どうすれば安心安全な通学路になるのか？			持参物：ノート PC 持参物：学習技術教科書「知へのステップ」 教室外学習：ワークシートの記入（60 分）		
第 3 回	グループワーク			持参物：ノート PC		

10/15		持参物：学習技術教科書「知へのステップ」 教室外学習：ワークシートの記入（60分）
第4回 10/22	グループワーク	持参物：ノートPC 持参物：学習技術教科書「知へのステップ」 教室外学習：ワークシートの記入（60分）
第5回 10/29	合同ゼミ：テーマごとに部屋に分かれます。 ☆ 危険個所の発見 ☆ 情報の迅速な共有 ☆ 日常的な見守り ☆ 防犯教育 別のゼミの人と情報交換ワークをします。	持参物：ノートPC 提出物：ワークシート
第6回 11/5	グループワーク パワーポイントの作成	持参物：ノートPC 提出物：ワークシート
第7回 11/12	中間（ゼミ内）発表	持参物：ノートPC 提出物：ワークシート
第8回 11/19	グループワーク 学外ワーク 1	持参物：ノートPC 提出物：ワークシート
第9回 11/26	グループワーク キャリア教育	持参物：ノートPC 提出物：ワークシート
第10回 12/3	グループワーク 学外ワーク 2	持参物：ノートPC 提出物：ワークシート
第11回 12/10	グループワーク 学外ワークを踏まえたパワーポイントの加筆修正	提出物：ワークシート 教室外学習：インタビューまとめ作成
第12回 12/17	最終（ゼミ内）発表	提出物：ワークシート 教室外学習：ワークシートの記入（60分）
第13回 1/7	最終レポート作成	持参物：ノートPC 提出物：ワークシート
第14回 1/14	合同ゼミ ・2年専攻ゼミ紹介 ・専攻ゼミのエントリーシート作成	持参物：ノートPC 提出物：ワークシート 教室外学習：総括レポートの作成（120分）
第15回 1/21	○ワーク：2年ゼミ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）エントリーシート作成 ○講義：授業のふりかえりとまとめ	持参物：ノートPC 2年ゼミガイダンス資料 提出物：総括レポート・KUISドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y64	2.科目名	基礎演習		3.単位数	1
4.授業担当教員	大松光寿					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習では、「学習技術」「初年次セミナー」の内容を踏まえ、専門演習（2 年ゼミ）をはじめ、専門教育を積極的に学修するために必要な教養とスキルを養うことを目的としています PBL（課題解決型学習）を通して論理的に考える力やそれを適切に表現し、人に伝える力を身につけることも目指します。					
18.学習目標と DP との関連	本学科の科目目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルに関連しています。 1. PBL 形式の授業の中で、地域における諸問題に関心を持ち、積極的にその解決策に取り組むことができるようになることを目指します。 2. フィールドワークから問題に気づくようになることを目指します。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	○K U I S ドリル ○朝日新聞クロスサーチ（メディアライブラリー） ○読売新聞ヨミダス（メディアライブラリー）					
21.成績評価	○ラーニング・ルートマップの作成および学修ポートフォリオへの記事投稿「2023 年度秋学期の学び」（10%） ○ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入、エビデンス登録（10%）・・・学習目標①に対応 ○ワークシート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間レポート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間発表（10%）・・・学修目標①に対応 ○最終レポート（15%）・・・学修目標①②に対応 ○最終発表（15%）・・・学修目標①②に対応 ○K U I S ドリルの成果（ステップアップコース・英数国）（10%）・					
22.コメント	今後、日程や内容が若干変更になる場合があります。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：月曜昼休み 研究室オフィスアワー：火曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	○オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等の説明） ○ワーク：履修登録の確認 ○ワーク：ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入			持参物 リフレクション資料一式 ノート P C		
第 2 回	学科 PBL の内容と課題説明 「大学近隣の小学校通学路の安全について」 ○ 防犯対策 ○交通対策			持参物：ノート PC 持参物：学習技術教科書「知へのステップ」 教室外学習：ワークシートの記入（60 分）		

	○見守り活動 ○防犯教育 について、課題と対策を考える。	
第 3 回	図書館ガイダンス グループワーク	持参物：ノート PC 持参物：学習技術教科書「知へのステップ」 教室外学習：ワークシートの記入（60 分）
第 4 回	図書館ガイダンス グループワーク	持参物：ノート PC 持参物：学習技術教科書「知へのステップ」 教室外学習：ワークシートの記入（60 分）
第 5 回	合同ゼミ 情報交換ワーク	持参物：ノート PC 提出物：ワークシート
第 6 回	グループワーク パワーポイントの作成	持参物：ノート PC 提出物：ワークシート
第 7 回	中間（ゼミ内）発表	持参物：ノート PC 提出物：中間レポート
第 8 回	グループワーク キャリア教育	持参物：ノート PC 提出物：ワークシート
第 9 回	グループワーク 学外ワーク	持参物：ノート PC
第 10 回	グループワーク 学外ワーク	持参物：ノート PC
第 11 回	グループワーク 学外ワークを踏まえたパワーポイントの加筆修正	提出物：ワークシート
第 12 回	最終（ゼミ内）発表	提出物：ワークシート 教室外学習：中間レポートの加筆修正（90 分）
第 13 回	最終レポート作成要領	持参物：ノート PC
第 14 回	2 年時ゼミ紹介 合同ゼミ	持参物：ノート P C 教室外学習：最終レポートの作成（120 分）
第 15 回	○ワーク：2 年ゼミ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）エントリーシート作成 ○講義：授業のふりかえりとまとめ	持参物：ノート P C 2 年ゼミガイダンス資料 提出物：最終レポート・KUIS ドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE102-Y65	2.科目名	基礎演習		3.単位数	1
4.授業担当教員	山本喜晴					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習では、「学習技術」「初年次セミナー」の内容を踏まえ、専門演習（2 年ゼミ）をはじめ、専門教育を積極的に学修するために必要な教養とスキルを養います。また、論理的に考える力やそれを適切に表現し、人に伝える力を身につけることも目指します。					
18.学習目標と DP との関連	本学科の科目目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力に該当します。 ○ゼミ形式の授業の中で、学びに関心を持ち、積極的に取り組むことができるようになることを目指します。 ○ゼミで取り組む活動を通して、体験から問題に気づくようになることを目指します。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	○K U I S ドリル ○朝日新聞デジタル					
21.成績評価	○ラーニング・ルートマップの作成および e ポートフォリオへの記事投稿「2023 年度秋学期の学び」（10%） ○ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入、エビデンス登録（10%）・・・学習目標①に対応 ○ワークシート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間レポート（10%）・・・学修目標①に対応 ○中間発表（10%）・・・学修目標①に対応 ○最終レポート（15%）・・・学修目標①②に対応 ○最終発表（15%）・・・学修目標①②に対応 ○K U I S ドリルの成果（ステップアップコース・英数国）（10%）・・・					
22.コメント	今後、日程や内容が若干変更になる場合があります。					
23.オフィスアワー	オフィスアワー： 曜 限 センターオフィスアワー： 曜 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	○オリエンテーション（授業の内容と進め方、評価等の説明） ○ワーク：履修登録の確認 ○ワーク：ベンチマークチェックおよび成長確認シートの記入			持参物 リフレクション資料一式 ノート P C		
第 2 回	・メディアライブラリの利用について			持参物：ノート PC 持参物：学習技術教科書「知へのステップ」 教室外学習：ワークシートの記入（60 分）		
第 3 回	・学修フローチャートについて ・ラーニング・ルートマップの作成			持参物：ノート PC 持参物：学習技術教科書「知へのステップ」 教室外学習：ワークシートの記入（60 分）		
第 4 回	・情報のインプット～ライティング①			持参物：ノート PC		

		持参物：学習技術教科書「知へのステップ」 教室外学習：ワークシートの記入（60分）
第5回	・ビブリオバトル	持参物：ノートPC 提出物：ワークシート
第6回	・SPSSの利用について	持参物：ノートPC 持参物：学習技術教科書「知へのステップ」 教室外学習：ワークシートの記入（60分）
第7回	・情報のインプット～ライティング②	持参物：ノートPC 持参物：学習技術教科書「知へのステップ」 教室外学習：ワークシートの記入（60分）
第8回	・情報のインプット～ライティング③	持参物：ノートPC 持参物：学習技術教科書「知へのステップ」 教室外学習：ワークシートの記入（60分）
第9回	・情報のインプット～ライティング④	持参物：ノートPC 提出物：ワークシート 持参物：学習技術教科書「知へのステップ」 教室外学習：ワークシートの記入（60分）
第10回	・情報のインプット～ライティング⑤	持参物：ノートPC 持参物：学習技術教科書「知へのステップ」 教室外学習：ワークシートの記入（60分）
第11回	・キャリア教育① インタビュー1	提出物：ワークシート 教室外学習：ワークシートの記入（60分）
第12回	・キャリア教育② インタビュー2	提出物：ワークシート 教室外学習：ワークシートの記入（60分）
第13回	2年ゼミ（「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」）ガイダンス 【合同ゼミ】	教室外学習：インタビューまとめ作成（120分）
第14回	キャリア教育③ 共通マナー講座	持参物：ノートPC 提出物：ワークシート 教室外学習：総括レポートの作成（120分）
第15回	○ワーク：2年ゼミ（専門演習Ⅰ・Ⅱ）エントリーシート作成 ○講義：授業のふりかえりとまとめ	持参物：ノートPC 2年ゼミガイダンス資料 提出物：総括レポート・KUISドリル

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-A51	2.科目名	学習技術 (留)		3.単位数	1
4.授業担当教員	本田あけみ					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習科目	
16.履修制限	留学生のためのクラスです					
17.授業の目的と概要	この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1 回の授業につき 1 章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行うものとし ます。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (1) 自律性、(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習 (研究) に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の 5 点で す。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ (第 5 版)』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13 : 978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自 ¥1,800 を忘れずに持参し、科目 担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席 (公欠も含む) は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週 を過ぎた提出は、一律に 1 点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] ※本シラバスの[26.アサイントメント及びレポート課題]の項目を参照のこと。					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要な スキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜日 4 時間目 センターオフィスアワー：金曜日 昼休み (山手キャンパス)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	ガイダンス ・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売			○次回までにテキスト『知へのステップ』の 目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を		

		記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第 2 回】	学習技術とは <テキスト第 1 章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはということか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第 2 章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サンドイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】	概要・要点をよみとる <テキスト第 3 章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】	要約から感想・意見を書く <テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】	情報収集 (1) (2) <テキスト第 5・6 章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】	情報収集 (3)・情報の整理 <テキスト第 7 章・ワークシート No.6> ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術 (Excel を使用)	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。(5 分)

		○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第8回】	レポートを書く <テキスト第8章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第08章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.103-125を読み返し、p124の「まとめ」を確認する。(5分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第9回】	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG'sに関連した10のテーマの中から1つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。(20分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(60分)
【第10回】	わかりやすい表現<テキスト第9章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第09章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.127-140を読み返し、p139の「まとめ」を確認する。(5分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(90分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第11回】	パソコンによるライティング・スキル（1）<テキスト第10章・ワークシート No.9> ・WordとExcelを活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第10章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』pp.141-149を読み返す。(5分) ○Task1～4で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第12回】	パソコンによるライティング・スキル（2）<テキスト第10章・ワークシート No.9> ・WordとExcelを活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第10章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをす

		る」を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162の「まとめ」を確認する。(5分) ○Task5～10で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180分) ★小課題を印刷して提出する。
【第13回】	プレゼンテーションの準備をする<テキスト第11章・ワークシート No.10(1)(2)> ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第11章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180の「まとめ」を確認する。(5分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第14回】	わかりやすいプレゼンテーションのために<テキスト第12章・ワークシート No.11(1)(2)> ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第12章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197の「まとめ」を確認する。(5分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分)
【第15回】	全体のまとめ ・第14回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題（教務課へ提出）

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-M81	2.科目名	学習技術（再）		3.単位数	1
4.授業担当教員	上村和美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	再履修者のみ履修可能（全学部対象：どのキャンパス所属の学生でも履修可能）。3 キャンパス同時に開講し、キャンパス間は ZOOM で接続する。受講者は所属キャンパスの指定教室で受講すること。授業には「知へのステップ」を持参すること。持っていない学生は、初回授業で購入すること（1,600 円）。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の 9 つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1 回の授業につき 1 章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行うものとします。この授業は集中講義形式で開講する形式となります。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、(5) コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習（研究）に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の 5 点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ（第 5 版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13：978-487424789 ※教科書を持っていない場合は、初回授業で¥1,600 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	■ワークシート：40％ ■小課題：10％ 第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ■最終課題：50％ 本シラバスの[13.アサインメント及びレポート課題]の項目を参照のこと。					
22.コメント	※授業日時の詳細は、夏学期の時間割で確認してください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
◇第 1 日目 【第 1 回】 ※授業日時の	ガイダンスおよび講義を聴いてノート・テイキング<テキスト第 2 章> ・授業のねらいと運用についての説明			★事前調査		

詳細は、夏学期の時間割で確認してください。	・事前調査の実施 ・講義ノートをとる技術	
【第2回】	概要・要点を読みとる<テキスト第3章> ・文献を読む技術	
【第3回】	要約から感想・意見を書く<テキスト第4章> ・文献の内容の要約や自分の意見をまとめる技術 ・最終課題についての説明	
◇2日目 【第4回】	情報収集(1)(2)<テキスト第5・6章> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術 ・最終課題ワークシートの提出	★最終課題ワークシート
【第5回】	情報収集(3) ・情報の整理<テキスト第7章> ・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術 (MS-Excel を使用)	
【第6回】	情報収集(4) ・図書館にて資料収集の実習	
◇3日目 【第7回】	レポートを書く(1)<テキスト第8章> ・レポート・論文執筆のための基礎的技術	
【第8回】	レポートを書く(2)<テキスト第8章> ・注、引用などの論文作法	
【第9回】	わかりやすい表現(1)<テキスト第9章> ・わかりやすい表現技術 (文、箇条書き、表、グラフによる表現)	
◇4日目 【第10回】	わかりやすい表現<テキスト第9章> ・わかりやすい表現技術の実践	
【第11回】	パソコンによるライティング・スキル (1) <テキスト第10章> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	
【第12回】	パソコンによるライティング・スキル (2) <テキスト第10章> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	★小課題の提出
◇5日目 【第13回】	プレゼンテーションの準備をする<テキスト第11・12章> ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	
【第14回】	最終課題に関する個別指導 ・各自の最終課題 (レポート) 作成を行う	
【第15回】	全体のまとめ ・これまでの授業のまとめ ・事後調査の実施 ・授業アンケートの実施 ・各自のレポート課題を作成する	★事後調査

1.授業コード (ナンバリング)	FYE103-Y52	2.科目名	学習技術 (留)		3.単位数	1
4.授業担当教員	疋田浩一					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習科目	
16.履修制限	再履修者は、夏学期または冬学期の再履修クラスを履修してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、大学で授業を受けるにあたって必要となる基礎的な能力を養います。基礎的な能力としては「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つを設定し、受講の際に必要な能力から順に習得していきます。最終的には、コンピュータを活用してレポートを作成できるようになることが目標です。 【概要】 授業では、テキスト『知へのステップ』の章構成にしたがって、1回の授業につき1章のペースで進行します。また、ワークシートを用い、その設問をこなしながら実践的に行うものとします。この授業は春学期の前半に週2回で開講する形式となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (1) 自律性、(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 この授業では、大学生としての学習 (研究) に必要な能力を身につけ、ワープロを使ったアカデミックライティングができるようになることを目指します。 具体的には、以下の5点です。 ①「大学で学ぶ」意味を理解できる。 ②ノートをとる技術、文献を読む技術を習得できる。 ③レポート作成のための情報収集ができるようになる。 ④パソコンを使って効率的にレポートが作成できるようになる。 ⑤プレゼンテーションのための基礎的技術が習得できる。					
19.教科書・教材	<教科書>『知へのステップ (第5版)』 学習技術研究会編 くろしお出版 2019 年 ISBN-13 : 978-4874247891 ※教科書は初回授業時に、専用ファイルと共に販売する。各自 ¥2,000 を忘れずに持参し、科目担当者から購入すること。					
20.参考文献						
21.成績評価	○ワークシート：40% [学習目標①～⑤に対応] ※欠席 (公欠も含む) は、次の授業までにワークシートを提出すれば出席と同様に評価。翌週を過ぎた提出は、一律に1点となる。 ○小課題：10% [学習目標④に対応] ※第 11-12 回の授業で Word,Excel を使って作成する文書。印刷して提出する。 ○最終課題：50% [学習目標③④に対応] ※本シラバスの[26.アサインメント及びレポート課題]の項目を参照のこと。					
22.コメント	「学習技術」は全ての授業の基礎となる科目で、15 回の授業を終えると大学生にとって必要なスキルが身に付きます。欠席のないように、頑張りましょう。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】4/	ガイダンス			○次回までにテキスト『知へのステップ』の		

	・授業のねらいと運用についての説明 ・テキストおよび専用ファイルの販売	目次から全体に目を通しておく。 ○購入した専用ファイルに学籍番号と氏名を記入し、次回授業以降も持参する。 (上記と合わせて 20 分)
【第 2 回】 4/	学習技術とは <テキスト第 1 章・ワークシート No.1> ・「大学で学ぶ」とはどういうことか ・タイムマネジメント	○ダウンロードデータ集・第 01 章[スタディ・スキルズとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.3-14 を読み返し、p14「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 3 回】 4/	講義を聴いてノート・テイキング <テキスト第 2 章・ワークシート No.2> ・講義ノートをとる技術	○ダウンロードデータ集・第 02 章[ノートテイキングの基本.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.17-28 を読み返し、p28「まとめ」を確認する。(5 分) ○ダウンロードデータ集・第 2 章の[サントイッチ.wav]または[しろうと理論.wav]を聴いて、ノートテイキングを復習する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 4 回】 4/	概要・要点をよみとる <テキスト第 3 章・ワークシート No.3> ・文献を読むための基礎的な技術	○ダウンロードデータ集第 03 章[リーディングの基本スキル.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.29-41 を読み返し、p41「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 5 回】 4/	要約から感想・意見を書く <テキスト第 4 章・ワークシート No.4(1)(2)> ・文献の内容を要約する技術 ・自分の意見をまとめる技術	○テキスト『知へのステップ』 pp.43-53 を読み返し、p53「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 6 回】 4/	情報収集 (1) (2) <テキスト第 5・6 章・ワークシート No.5> ・図書館の利用方法と文献利用の基礎技術 ・インターネットで情報収集を行う技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 05 章[大学図書館における情報収集.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.57-76 を読み返し、p70 と p83 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 7 回】 5/	情報収集 (3)・情報の整理 <テキスト第 7 章・ワークシート No.6>	◆ノートパソコン使用◆ ○テキスト『知へのステップ』 pp.76-100 を読

	・図書館やインターネットを利用して集めた情報を整理する技術（Excel を使用）	み返し、p82 と p99 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 8 回】 5/	レポートを書く <テキスト第 8 章・ワークシート No.7(1)(2)> ・レポート（論文）を書くための基礎的な技術（＝アカデミック・ライティングスキル）	○ダウンロードデータ集・第 08 章[アカデミック・ライティングの基本スキル.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.103-125 を読み返し、p124 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 9 回】 5/	最終課題についての説明 ・最終課題は、SDG's に関連した 10 のテーマの中から 1 つを選び、レポートを作成し、提出するものである。 ・レポート作成のプロセスを確認するとともに、最終課題作成の手順についての説明を行う。 ・レポート作成にあたって注意すべき、情報倫理のビデオも視聴する。	○授業で配付された[最終課題に向けてのワークシート]に、テーマ番号、主張、レポート提出までのスケジュールを記入し、次時の授業開始時に提出する。（20 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（60 分）
【第 10 回】 5/	わかりやすい表現<テキスト第 9 章・ワークシート No.8(1)(2)> ・わかりやすい表現技術（文、箇条書き、表、グラフによる表現）	★「最終課題」提出に向けてのワークシート ○ダウンロードデータ集・第 09 章[効果的なアカデミック・ライティングのために.pps]を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.127-140 を読み返し、p139 の「まとめ」を確認する。（5 分） ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（90 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 11 回】 5/	パソコンによるライティング・スキル（1）<テキスト第 10 章・ワークシート No.9> ・Word と Excel を活用したレポート作成の技術	◆ノートパソコン使用◆ ○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Workshop～Task4 を見て、復習する。（5 分） ○テキスト『知へのステップ』 pp.141-149 を読み返す。（5 分） ○Task1～4 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。（120 分） ○返却されたワークシートを見直し、加筆や訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。（5 分）
【第 12 回】 5/	パソコンによるライティング・スキル（2）<テキス	◆ノートパソコン使用◆

	ト第 1 0 章・ワークシート No.9> ・ Word と Excel を活用したレポート作成の技術	○ダウンロードデータ集・第 10 章[ライティング・スキル.pps]Task5～最終チェックをする」を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.150-162 を読み返し、p162 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○Task5～10 で遅れている作業があれば、次時までに完成しておく。 ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(180 分) ★小課題を印刷して提出する。
【第 13 回】 5/	プレゼンテーションの準備をする<テキスト第 1 1 章・ワークシート No.10(1)(2)> ・プレゼンテーションを行うための基礎的技術	○ダウンロードデータ集・第 11 章[効果的なプレゼンテーションとは.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.165-180 を読み返し、p180 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(120 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 14 回】 5/	わかりやすいプレゼンテーションのために<テキスト第 1 2 章・ワークシート No.11(1)(2)> ・より効果的なプレゼンテーションを行うための技術	○ダウンロードデータ集・第 12 章[サークル旅行についての提案.pps]を見て、復習する。(5 分) ○テキスト『知へのステップ』 pp.181-197 を読み返し、p197 の「まとめ」を確認する。(5 分) ○スケジュールにしたがって、最終課題を作成するための作業を行う。(130 分) ○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分)
【第 15 回】 6/	全体のまとめ ・第 1 4 回に作成したプレゼンテーションを実際に行う ・これまでの授業のまとめ ・授業アンケート	○返却された小課題を見直し、訂正を行った後、専用ファイルにファイリングする。(5 分) ○最終課題の作業を進め、提出期限までに提出する。 ★最終課題 (WebClass へ提出)

1.授業コード (ナンバリング)	GEO102-Y51	2.科目名	人文地理		3.単位数	2
4.授業担当教員	水谷彰伸					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	「地理学」を履修、または中等教育レベルの 自然環境・地形図の知識を習得しているこ と。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義(対面)		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	〔目的〕 経済活動などの人文現象の成立の背景を理解する。 〔概要〕 地理学の研究対象は人文現象と自然現象とに大別されるが、そのうち前者を扱うのが 人文地理学である。本講義ではとくに人間の居住行動に関わる村落・都市の立地や人口の問題、 そして人間が営む経済活動である農牧業・工業・商業の展開を扱う。ただし地域ごとでの現象や 状態の違いを知ることだけでなくそうした違いを生み出すメカニズムを理解することが目的であ り、 経済活動に関する理論(立地論)を取り上げて具体的事例を提示することで地理学的視点から 諸現象を読み解いていきたい。					
18.学習目標と DPとの関連	①中学校社会科の指導にあたり必要な知識と理論を習得する。 ②人文地理学の知識を通して現代社会におけるものの見方や考え方を養う。 ③地理的現象の成り立ちを把握して身近な経済・社会現象についての理解を深める。					
19.教科書・教材	適宜参考プリントを配布する。 授業内作業で定規を使用するので携帯してほしい。					
20.参考文献	田林明・浅川俊夫・榎本康司・久保純子『最新世界地図』東京書籍 ※他の高校地理学習用地図帳 でも可 浮田典良(1995)『地理学入門—マルチ・スケール・ジオグラフィー—』大明堂 山岡信幸(2005)『忘れてしまった高校の地理を復習する本』中経出版 ※上記に加えて、自宅周辺や通学途中の車窓など、身近な風景がすべて参考教材である。					
21.成績評価	総括試験 50%・小テスト(各章終了後に実施)35%・課題等 15%とする。 ※学習内容の復習・実践および地理的現象の具体的把握のための課題を主に授業時間内に適宜課 す。					
22.コメント	教員資格取得を目標とする者はとくにその自覚を持って講義に臨むこと。 履修者の意向によっては任意参加の学外巡検(エクスカージョン)も実施したい。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等に対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Ⅰ 地理学と人文地理学 地理学の目的と理論			復習：ノート整理		
第 2 回	Ⅱ 集落の展開 (1)村落の立地と展開			復習：ノート整理・地名確認		
第 3 回	Ⅱ 集落の展開 (2)都市の立地と展開			復習：ノート整理・地名確認		
第 4 回	Ⅱ 集落の展開 (3)都市圏の構造と都市化の問題			復習：ノート整理・地名確認		
第 5 回	Ⅲ 第 3 次産業と現代社会 (1)第 3 次産業と中心地理論			復習：ノート整理・地名確認		
第 6 回	Ⅲ 第 3 次産業と現代社会 (2)商業立地と購買行動			復習：ノート整理・地名確認		
第 7 回	Ⅲ 第 3 次産業と現代社会 (3)人口動向とその背景			復習：ノート整理・地名確認		
第 8 回	Ⅲ 第 3 次産業と現代社会 (4)日本の人口分布			復習：ノート整理・地名確認		
第 9 回	Ⅳ 農牧業の展開 (1)農牧業の立地条件			復習：ノート整理・地名確認		
第 10 回	Ⅳ 農牧業の展開 (2)農牧業生産と食文化・ホイットル			復習：ノート整理・地名確認		

	セーの農牧業地域区分	
第 11 回	Ⅳ 農牧業の展開 (3)農牧業の地域区分	復習：ノート整理・地名確認
第 12 回	Ⅴ 工業の展開 (1)工業の立地条件	復習：ノート整理・地名確認
第 13 回	Ⅴ 工業の展開 (2)工業の立地類型	復習：ノート整理・地名確認
第 14 回	Ⅴ 工業の展開 (3)日本の工業発展と工業地域	復習：ノート整理・地名確認
第 15 回	総括試験	復習：試験内容復習

1.授業コード (ナンバリング)	GEO102-m51	2.科目名	人文地理		3.単位数	2
4.授業担当教員	水谷彰伸					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	「地理学」を履修，または中等教育レベルの 自然環境・地形図の知識を習得しているこ と。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義(対面)		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	〔目的〕 経済活動などの人文現象の成立の背景を理解する。 〔概要〕 地理学の研究対象は人文現象と自然現象とに大別されるが，そのうち前者を扱うのが 人文地理学である。本講義ではとくに人間の居住行動に関わる村落・都市の立地や人口の問題， そして人間が営む経済活動である農牧業・工業・商業の展開を扱う。ただし地域ごとでの現象や 状態の違いを知ることだけでなくそうした違いを生み出すメカニズムを理解することが目的であ り， 経済活動に関する理論(立地論)を取り上げて具体的事例を提示することで地理学的視点から 諸現象を読み解いていきたい。					
18.学習目標と DPとの関連	①中学校社会科の指導にあたり必要な知識と理論を習得する。 ②人文地理学の知識を通して現代社会におけるものの見方や考え方を養う。 ③地理的現象の成り立ちを把握して身近な経済・社会現象についての理解を深める。					
19.教科書・教材	適宜参考プリントを配布する。 授業内作業で定規を使用するので携帯してほしい。					
20.参考文献	田林明・浅川俊夫・榎本康司・久保純子『最新世界地図』東京書籍 ※他の高校地理学習用地図帳 でも可 浮田典良(1995)『地理学入門—マルチ・スケール・ジオグラフィー—』大明堂 山岡信幸(2005)『忘れてしまった高校の地理を復習する本』中経出版 ※上記に加えて， 自宅周辺や通学途中の車窓など， 身近な風景がすべて参考教材である。					
21.成績評価	総括試験 50%・小テスト(各章終了後に実施)35%・課題等 15%とする。 ※学習内容の復習・実践および地理的現象の具体的把握のための課題を主に授業時間内に適宜課 す。					
22.コメント	教員資格取得を目標とする者はとくにその自覚を持って講義に臨むこと。 履修者の意向によっては任意参加の学外巡検(エクスカージョン)も実施したい。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で， 受講生からの質問等に対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション Ⅰ 地理学と人文地理学 地理学の目的と理論			復習：ノート整理		
第 2 回	Ⅱ 集落の展開 (1)村落の立地と展開			復習：ノート整理・地名確認		
第 3 回	Ⅱ 集落の展開 (2)都市の立地と展開			復習：ノート整理・地名確認		
第 4 回	Ⅱ 集落の展開 (3)都市圏の構造と都市化の問題			復習：ノート整理・地名確認		
第 5 回	Ⅲ 第 3 次産業と現代社会 (1)第 3 次産業と中心地理論			復習：ノート整理・地名確認		
第 6 回	Ⅲ 第 3 次産業と現代社会 (2)商業立地と購買行動			復習：ノート整理・地名確認		
第 7 回	Ⅲ 第 3 次産業と現代社会 (3)人口動向とその背景			復習：ノート整理・地名確認		
第 8 回	Ⅲ 第 3 次産業と現代社会 (4)日本の人口分布			復習：ノート整理・地名確認		
第 9 回	Ⅳ 農牧業の展開 (1)農牧業の立地条件			復習：ノート整理・地名確認		
第 10 回	Ⅳ 農牧業の展開 (2)農牧業生産と食文化・ホイットル			復習：ノート整理・地名確認		

	セーの農牧業地域区分	
第 11 回	Ⅳ 農牧業の展開 (3)農牧業の地域区分	復習：ノート整理・地名確認
第 12 回	Ⅴ 工業の展開 (1)工業の立地条件	復習：ノート整理・地名確認
第 13 回	Ⅴ 工業の展開 (2)工業の立地類型	復習：ノート整理・地名確認
第 14 回	Ⅴ 工業の展開 (3)日本の工業発展と工業地域	復習：ノート整理・地名確認
第 15 回	総括試験	復習：試験内容復習

1.授業コード (ナンバリング)	GLB102-Y51	2.科目名	異文化理解		3.単位数	2
4.授業担当教員	フィゴニー啓子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	lecture		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	This course aims to foster cross-cultural understanding by observing what culture is, identifying aspects of cultural diversity, researching the surface culture and deep culture of English-speaking countries, and appreciating people and cultures in other countries through discussion, and interaction with international students.					
18.学習目標と DP との関連	You can... 1. observe and identify what culture and cultural diversity are. 2. understand the society, cultures and communication styles of English-speaking countries 3. appreciate people and cultures in other countries. 4. identify the important attitudes of a multi-cultural society DP: 多様性理解					
19.教科書・教材	How Culture Affects Communication, Kinseido, Paul Stapleton, ￥1400					
20.参考文献	to be announced in class					
21.成績評価	平常点 60% (インクラスレポート 30%、リサーチレポート 30%)、 試験 40% (小テスト 20%、エッセイテスト 20%) * 毎授業、教科書の各ユニットの内容確認小テストをする。 * インクラスレポートが未提出の場合は、平常点から－5 %減点となる。 * リサーチレポート提出がない場合、単位の認定を不可にする。 * 提出期限に間に合わなかったレポートは受理しない。 * 教科書を購入しない者は単位の認定を不可にする。					
22.コメント	1. 毎授業、B5 サイズルースリーフ、コンピューターを持参すること。 2. 天候等の諸事情で急遽オンラインになった場合は、WebClass で 連絡事項を確認し、Zoom でオンライン授業に参加すること。 3. 体調不良等で出席停止になった場合は、速やかにメールで連絡を入れること。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室または講師控室にて対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Orientation: Self-Introduction, syllabus, class rules, etc 1. Stereotype and Generalization Lecture, pair/group discussion Writing in-class report			Homework: Review Week1 class ?Bring the textbook		

Week 2	Quiz 1 Review "Stereotype and Generalization" 2. English speaking countries (the U.S.A.) research report writing Writing in-class reports	Homework: Research "U.S.A." and study for Quiz 1 (Unit 1 & 2)
Week 3	Quiz 2 (Unit 1 & 2) 3. Text Unit 1 & 2 Age, Status, Family, Politeness Lecture, pair/group discussion Writing in-class reports	Homework: Research "Canada" and study for Quiz 2 (Unit 3)
Week 4	Quiz 3 Unit 3 4. Text Unit 3 Feedback lecture, discussion Writing in-class report	Homework: Research "UK" and study for Quiz 4 (Unit 4)
Week 5	Quiz 4 Unit 4 5. Text U4 Rituals Lecture, group discussion Writing in-class reports	Homework: Research "Australia" and study for Quiz 5 (Unit 5)
Week 6	Quiz 5 Unit 5 6. Text Unit 5 Titles Lecture, group discussion Writing in-class reports	Homework: Research New Zealand and study for Quiz 6 (Unit 6)
Week 7	Quiz 6 Unit 6 7. Text Unit 6 Modesty Lecture, group discussion, pair activities Writing in-class reports	Homework: Study for Quiz 7 ?Submit the research assignment (5 English speaking countries)
Week 8	Quiz 7 Unit 7 8. Text Unit 7 Hear-to Heart Communiation Review English speaking countries Lecture, pair discussion In-class report	Homework: Study for Quiz 8 (Unit 8)
Week 9	Quiz 8 Unit 8 9. Text Unit 8 Face-to-Face Communication Review English speaking countries Lecture, pair/group discussion Writing in-class reports	Homework: Study for Quiz 9 (Unit 10)
Week 10	Quiz 9 Unit 9 10. Text Unit 9 Proverbs Lecture, discussion Writing in-class report	Homework: Study for Quiz 10 (Unit 13)

Week 11	Quiz 10 Unit 13 11. Text U13 Politically Correct Cultural Stereotype, Prejudice, Discrimination Lecture, pair/group discussion Writing in-class reports	Homework: Study for Quiz 11 (Unit 15)
Week 12	Quiz 11 Unit 15 12. Text Unit 10 Feedback Pair/group discussion In-class report	Homework: Study for Quiz 12 (Unit 16)
Week 13	Quiz 12 Unit 16 13. Unit 16 Language and Culture Holiday Seasons : events and rituals Pair/group discussion In-class report	Homework: Preparation for essay exam
Week 14	14. Essay exam Bring all the in-class reports and your dictionary. No phone or PC allowed.	Submit the report about stereotype.
Week 15	Consolidation Essay exam review Writing reflection paper Grade evaluation	

1.授業コード (ナンバリング)	GLB102-Y53	2.科目名	異文化理解		3.単位数	2
4.授業担当教員	小磯学					
5.授業科目の区分	専門教育科目 基幹科目（共通）	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科を中心に、他学部他学科からも履修できます。			9.履修学年	1 回生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	ありません。	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	ありません。					
17.授業の目的と概要	異文化理解を学び、異文化を楽しむ、そして文化のはざまを埋めるコミュニケーションを学びます。 国際コミュニケーションをする上で文化の違いがどう影響するかを学びます。ここでいう文化とは生活スタイルのこと、もちろんその背景に価値観があり、宗教など様々な違いが関わってきます。世界にはいろいろな価値観を持った人がいます。 今の様にグローバル化が進み、人の移動が活発でなければ、そのまま出会うこともなく、その人たちの異った文化に気づくこともなかったのです。しかし、今では観光や移民、難民として日本にもたくさんの人々が来ています。コンビニやファストフード、このキャンパスにもいます。もちろん知らないふりをして過ごしてもいいのですが、友達や恋人になることもあります。一方、皆さん自身が海外に出かければ同じことが起こります。そう国際結婚が今は当たり前になっています。 そこで、まず皆さんの暮らし、そして現在の地域社会で求められる国際的人材になるために「異文化」とはどういうことかを身近なところから一緒に考えていきます。国際結婚だけでなく、外国人の上司や部下、同僚と働く、留学するには外国語だけでなく、異文化の理解が必要です。外国語の習得にもむろん重要です。将来は異文化と出合う、その時にどんな自分を想像しますか。外国人と出会い楽しく親しくなるための異文化理解を学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	先入観に縛られず、客観的に異文化を理解できる幅広い視野を養うことで、国際コミュニケーションの基礎理解を深めます。					
19.教科書・教材	授業の主な内容を資料として配ります。それをもとに独自の教科書を作ってみて下さい。					
20.参考文献	鳥飼玖美子『異文化コミュニケーション学』岩波新書、2021 年 エリン・メイヤー(著),田岡恵（監修）,樋口武志(翻訳)『異文化理解力ー相手と自分の真意がわかる・ビジネスパーソン必須の教養』英治出版、2015 年					
21.成績評価	期末試験 50 点のほか、授業中に数回行う小テスト・レポートの合計 50 点、授業でお話したこと、配付したスライドをよく理解していること。					
22.コメント						
23.オフィスアワー	火曜 3 コース（研究室/3-308）、水曜 1 コース(学修支援センター)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 10 月 3 日	身近な文化と身近で感じる異文化、異文化を知れば変わる？ 文化とは何でしょう？ いろいろないい方がありますが、「文化とは生活スタイルのこと」、衣食住の価値観の違いでもあります。だから、夫婦一緒に暮らしてみると、その文化の違いに驚くことがあります。子供は親と暮らすうちにその文化を受継ぎますから、社会に出ると文化が合わないこともよくあります。			○事前準備 友達とか知り合いの中で、この人とは文化が違うと感じたことを思い出して書き出して下さい。 ○アサインメント 文化とは文学・芸術・学問の意味ではなく、人それぞれの生活様式のことでもあります。身近な異文化対立を探してレポートして下さい。		

	一方、異文化とは言うけれど、国籍や容姿が異なり、信ずる宗教が違ってても、気持ちが通じ合うこともよくあります。だから国際結婚も珍しくなく、楽しく暮らしています。大切なことは、	
第 2 回 10 月 10 日	世界の文化を見る視点、民族・宗教・国家、グローバル化？ 皆さんが身につけた文化には様々なレベルがあります。生活スタイルの上にファッション等の好み（嗜好）のレベルがあり、その下にその国や地域の風俗習慣とその伝統があり、食や住宅等はそのレベルです。さらにその下には宗教や思想などの深層な文化があります。そこから文化芸術や文学が生まれ、ハイカルチャーと呼びますが、そのずっと上、皆さんの身近にあるのが「サブカルチャー」、アニメとかポップスなどです。このサブカルは、簡単に国境を超えます。グローバル化しやすいのです。世	○事前準備 キリスト教、イスラム教、仏教を世界の三大宗教といいます。その3つと今までどんな接点があったレポートして下さい。 ○アサイメント 現在世界各地にイスラム教徒が広がり、様々な問題を起こしています。調べて一つ紹介して下さい。
第 3 回 10 月 17 日	個人の文化、家族の文化、地域の文化、地方の文化、国民文化？ 皆さんのサブカルはグローバル化していますが、皆さんのご両親や祖父母の皆さんはそれほどでもない、世代の違い、年齢の違いで感覚が保守化します。家族や親族同士でも共通する文化と異文化があるのです。ご年配の方はご自分の若い頃と比較するから、若い人の嗜好を変に感じますが、時代が変わっただけです。新しいファッションや嗜好、サブカルは若い世代から高齢者に、都市から地方（田舎）に、先進国から発展国に広がります。大昔は旅行者が少しずつ伝え、昔は新聞や雑誌で絵や写真	○事前準備 日本人の中にも保守的な考え方とより自由な考え方があります。皆さんの結婚観は保守的ですか、革新的ですか？ ○アサイメント 授業では。個人、家族、地域、地方、そして日本全体の国民文化のレベルに分けて文化の違いを述べました。では、関西の文化とはどんなものだと思いますか？簡単に述べて下さい。
第 4 回 10 月 24 日	文化の意味を考える、衣食住の生活文化は異なるのか？ 親子関係や兄弟、親族、夫婦など家族の形、付き合い方も重要な文化です。今では一夫一妻が当たり前になりましたが、一夫多妻の国も残っています。明治の日本にもありました。昔の男尊女卑もしぶとく生き残っていますが、LGBT への理解は近年急速に広がりました。それに比べれば。衣食住の違いなど些細なことに思えます。 そこで、男尊女卑はいつ、どうして始まったのか？ LGBT は昔からありましたが、なぜ今はカミングアウトして大丈夫なのか？こうした価値観がどう形成され、どう変わっ	○事前学習 最近はずっかり減りましたが、街中で見かけた外国人観光客を見て文化の違いを感じた経験があったら述べて下さい。 ○アサイメント アジアの国々には儒教の影響などがあり、長幼の序、年功序列など年配者を敬う習慣があります。それをどう思うか。自由に感想を述べて下さい。
第 5 回 10 月 30 日	ホストとゲストの異文化、見る者とみられる者、男と女、大人と子供 昔から観光は異文化が接触する機会でした。その前には侵略戦争、通商や巡礼でした。こうした旅行者がゲスト（客）、地元の人がホスト（主人）として、それぞれ異なる文化が接触し、その交換が起こります。江戸時代には農民や商人の旅行が盛んになり、農作物品種	○事前学習 異文化接触は、昔は侵略戦争、その後は植民地に進出と移民、逆に先進国への移民が起こり、豊かになった国からは観光を通じても起こります。日本人が移民した時代、どう嫌われたかを考えて見て下さい。 ○アサイメント

	や織物等の反物、陶磁器など、多くのモノが都から地方に伝わりました。明治以降も東京への旅行や京都観光で文物が伝わり、戦後は欧米旅行でスコッチウISKキーやワイン、ブランド品がお土産として持ち帰られました。そこ	国際観光は異文化接触であるだけでなく、貧富の大きな格差の接触です。豊かな外国人観光客のために貧しい人々はどう対応するか考えて見て下さい。
第 6 回 11 月 7 日	欧米文化の古典、古代ギリシャと古代ローマは今も生きている？ 欧米化で日本の文化がどう変わったかを見てみましょう。日本人は実に上手に異文化理解をしたのです。世界史の中で。19 姓から 20 世紀の日本人は短期間で本格的に異文化理解をした例はないと言われます。もちろん、江戸時代末に圧倒的な軍勢力、工業力、経済力、知的レベルの差を感じた日本人が、征服されることを怖れたからだとも言えますが、かなり高い文化レベルにあったからこそ理解が早かったとも言われます。 明治の日本人には英語やドイツ語、フランス語を学び、その本を読む	○事前学習 ギリシャ語とラテン語で知っている言葉を上げて下さい。 ○アサイメント ヨーロッパの歴史的建築物を一つ上げて、どんな時代の建物でどんな特徴があるかを述べて下さい。
第 7 回 11 月 14 日	ヨーロッパの文化とキリスト教、建築から見られるキリスト教文化 ヨーロッパ社会は古代から中世にかけてキリスト教会に支配されます。しかし、その当時はイスラム教国の文明の方がより進んでいた言われます。だから多くのヨーロッパ人がイスラム圏の国々に留学、あるいはサラセン人支配下の聖地に巡礼に出かけました。一方、ヨーロッパ内ではキリスト教会がビザンチン帝国などを經由してイスラム圏の文化文明を伝えました。それだけでなく、古代ギリシャや古代ローマ文明を伝えました。そこから大学が生まれ、学生はヨーロッパ中から集まりました。	○事前学習 中世のヴェネツィアは東方貿易といってイスラム教徒との貿易が盛んでした。ヴェネツィアで知っていることを述べて下さい。 ○アサイメント 都市の空気は自由にするといい、当時支配的だったキリスト教の倫理に沿わない自由な生活様式が許されていました。なぜ自由にさせたと思うか述べて下さい
第 8 回 11 月 21 日	ヨーロッパの世界遺産に見る建築と都市の文化 古代と中世の境は西ヨーロッパではローマ帝国の崩壊です。北や東からゲルマン民族と呼ばれる様々な異民族が侵入したからです。13～14 世紀にはモンゴルの侵略もあります。その後 15 世紀には東ローマ帝国の後裔ビザンチン帝国がオスマン・トルコに滅ぼされました。つまり、ヨーロッパの歴史は異民族の侵入の歴史です。その痕跡が色濃く残るのが世界文化遺産ヴェネツィアとその潟です。11～13 世紀の十字軍では重要な拠点港として栄えました。その当時からヴェネツィアの人々は異民族の異文化を理	○事前学習 イタリアの世界遺産を調べて、行ってみたい都市を 3 つ挙げて下さい。 ○アサイメント 十字軍について調べてレポートにまとめて下さい。特に、当時彼らは何語を話していたかを必ず回答して下さい。
第 9 回 11 月 28 日	ルネッサンスとヨーロッパ近代、市民革命と市民の生活文化 東西交流の結果生まれたのがルネッサンス、長い間続いたキリスト教会支配下の閉塞的な社会が開放され、文明復興が起こりました。それまでは異端とされた異民族、異文化、異なった宗教の存在を受容し、より自由で人間性を尊重する文化でした。そこからヨーロッ	○事前学習 市民革命と産業革命の違いを述べて下さい。 ○アサイメント 市民革命で、それまでの身分制度が廃止されました。身分とは何か、調べてみて下さい。

	パの発展が始まりました。多様性を受容れ、新しいものを次々と取り入れたのは異文化理解、異文化を取り入れた成果です。特に、古代の文化は法律の復興、思想の復興でもあり、そこから人権意識が再発見され、1789 年のフランスの	
第 10 回 12 月 5 日	もう一つの革命・産業革命、工業化が実現した豊かさと貧困、福祉 豊かになった一部の市民はビジネスを発展させ、蒸気機関など新しいエネルギーや産業機械を使った大量生産方式を編み出しました。産業革命です。その結果、値段は安いが、性能がよく形も揃った大量の商品（工業製品）が出回ります。それをより多くの人に見てもらい、貿易を盛んにするために、19 世紀中頃に万国博覧会が始まりました。 日本は江戸時代末のパリ万博から日本も陶磁器や漆器を出展し、大好評を博しました。優れた商品を創る異民族として日本人の文化は大歓迎されました	○事前学習 アジアの国々は 19 世紀にどこの国の植民地だったか調べて下さい。 ○アサイメント 1867 パリ万博出展された日本製商品にはどんなものがあったか調べて書き出して下さい。
第 11 回 12 月 12 日	アジアの文化、イスラム・ヒンズー・仏教に見るアジア歴史 ヨーロッパ同様、アジアの歴史も民族の移動、侵入、侵略の歴史が続きました。インドネシアでは、まずヒンズー教が、仏教、次がイスラム教、最後はキリスト教が伝わり、今は大部分の国民がイスラム教とです。一方、日本では 13 世紀後半二度の元寇が有名ですが、大勢の異民族が九州に攻めてきました。もちろん、日本人が朝鮮半島に攻め入ったことも度々あります。私たち日本人は忘れても、攻め入られた方はよく憶えています。また、日本には鎖国の歴史もあります。こうして、歴史とは戦争	○事前学習 神戸にもイスラム教徒が多く暮らしています。だからモスクもあります。知り合いにイスラム教徒がいるか探してみてください。 ○アサイメント ユダヤ教徒はどんな人々か、どんな歴史を持っているか簡単にまとめて下さい。
第 12 回 12 月 19 日	民族国家の誕生、民族文化の形成、国語の誕生、歴史の創生 さて、今世界中で起こっている民族対立は帝国主義とアジアアフリカ、中南米で起こった欧米諸国、そして日本の植民地とその後の独立の結果起こったものです。狭いヨーロッパの中を見ても、ハプスブルグ家のオーストリア・ハンガリー帝国の影響が強く見られます。18 世紀には世界にはスペインやイギリスの植民地が広がっていました。 異文化理解の背景、現在の民族や国家の文化の根底には、この帝国主義と植民地の歴史があり、そこから独立を目指した人々が揚げた民族主義があります。独立	○事前準備 皆さん自身か身近に、朝鮮半島にルーツを持つ親族、友人はいますか？ぜひお一人探し、半島か島か、出身地をお聞きし、どうして日本におられるか、失礼のないように丁寧に尋ねてみて下さい。 ○アサイメント 日本の歴史は高校までで習ったと思いますが、お隣の大韓民国では韓国の歴史をどう教えているか調べてみて下さい。
第 13 回 1 月 9 日	アジアの世界遺産に見る建築と都市の文化 第二次世界大戦が終わり、日本やドイツ、イタリアと戦った連合国はそのまま国際組織を造り、日本で「国際連合」と呼ばれるようになりました。この国連の目的は、戦後独立した数々の国々を支援することでした。独立したのは民族国家、民族を定め、国語をつくり、自分たちの歴史を書き上げ、国民を教育し始めま	○事前学習 難民について調べて下さい。今はウクライナ難民に注目が集まりますが、その前の難民についても調べて下さい。 ○アサイメント どうして母国を離れたのか、いろいろなケースを考えて述べて下さい。

	した。しかし、その多くの国々では民族は定まらず、対立し合い、英語に頼り、歴史研究も進んでいません。教育レベルも低く、人々は貧しいまま、災害や飢餓が続いています。 文化の違いを理解し合う	
第 14 回 1 月 16 日	日中韓の異文化理解、中華思想と民族国家の形成、歴史は争点？ 東アジアには、日中韓三か国の他に、主権が及ばないが、中国固有の領土である台湾、すでに 20 世紀末に英国から中国に返還された旧植民地の香港、北朝鮮等の国々があります。 これらの国々は東アジアの人々に共通する文化的基盤を持ちながら、近代の歴史から数多くの対立の火種を抱えています。これらの国々との間で世界文化遺産、世界記憶遺産の登録の際にいろいろな問題が起こるのは、この歴史が関係しています。 皆さんよく知っているように、大阪には朝鮮半島出身者が多く、神戸	○事前学習 異文化理解の授業でしった興味ある事柄は何かですか、思い出して下さい。 ○アサイメント 皆さんの人生の中でこれから出会う異文化を想像してみてください。どんな文化を知りたいか自由にのべて下さい。
第 15 回 1 月 23 日	身近な異文化、異文化理解の進め、国内の異文化を知る 異文化理解の最終回は身近な国内での異文化を見ていきます。違いにだけ目を向けず、共通した文化を探します。多様なようで違いが消えていくのが、グローバル化の影響、若い世代には違いよりも共通点の方が多くなっています。衣食住の違いが減っても、まだ残っている根底にある文化の部分にも目を向けます。 コロナ禍が去り、一日も早く海外旅行に出かける皆さんが異文化を楽しむための準備期間、コロナの中でまだ見ぬ多様な世界の魅力を感じましょう。	○アサイメント 最終レポートは、異文化を知ることで自分の人生がどう豊かになるかを考えてもらいます。 詳しい内容は授業で説明します。楽しく学び、世界を見て回りましょう。

1.授業コード (ナンバリング)	GLB210-Y51	2.科目名	国際協力キャリア論		3.単位数	2
4.授業担当教員	實川真理子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件	ありません。	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	ありません。					
17.授業の目的と概要	目的：海外で、また国内でも、多国籍の仲間と暮らし、働くための国際コミュニケーション術（海外で働くキャリア形成について学ぶ（JICA、eduport 等の人材を想定） 概要：国際コミュニケーション学部で皆さんのために、皆さんが目指す海外の職場を知り、海外での仕事の探し方、働き方を学びます。また、国内で増える多国籍企業、外国籍市民の皆さんとのコミュニケーション術を学びます。 現在、国内の従業員 10 名以上の企業数は 42 万人、その内 7 万 8 千社が海外に進出し、多くの日本人が活躍しています。特に関西企業の多くはアジア各地に進出、そこで働く国際人材を切実に求めています。一方、今や国内に住む人の 2%以上が外国人、171 万人が働き、大部分は首都圏と京阪神に集中、コンビニやファストフードだけでなく、あらゆる中小企業で活躍しています。今後日本人は急速に減少、数十年で外国人の割合が 20%程度に達すると言われています。英語力も必要ですが、英語の通じない国々や国内で通じない人々とのコミュニケーションが必要になります。 では、海外にはどんな就職先があるのでしょうか。国際機関、在外公館、開発援助機関、マスコミ、日系企業の駐在員、航空や旅行会社の現地スタッフ、日本語や柔道や音楽教師などは昔から定番でした。今では、一般事務職が多く、ホテルや飲食店のスタッフ、特に日本レストランが急増しています。昔から留学した現地で就職する、ワーキング・ホリデーやオーペアで海外に渡る、青年海外協力隊で経験を積み現地に残留等の方法がありました。今は海外で働くための求人サイトが増えています。新卒採用は多くありませんが、どうすれば海外でのキャリアを積めるかを学ぶ科目です。 その一つの方法は、まず日本国内で身近な異文化体験を積むことから始まります。関西国際大学での 4 年間のカリキュラムを通じて、海外に向かう皆さんの学習を助ける科目です。					
18.学習目標と DPとの関連	皆さんの身近にも海外で働いたことのある先輩がいると思います。そんな人から直に話を聴く、また授業ではいろいろな職種を知り、仕事の探し方、働き方を学びます。まず、ワーホリとオーペアから始め、海外インターン受入れ先を探しましょう。次が海外協力隊、日本語教員やスポーツ指導、そして海外求人サイトを見て、少しずつ海外で働く可能性を実感してもらいます。国際化する日本の社会経済を知り、上手にバイト探しや仕事探しができるように海外の仕事を探します。こうして、国際キャリアのためのコミュニケーション術を身に着けます。					
19.教科書・教材	求人広告、募集要項を教材にその読み方、労働条件、生活環境、雇用条件などの比較の仕方を学びます。その際、皆さんの関心に沿って必要な資料を教材として用意します。授業スライドは PDF でネット配信します。					
20.参考文献	松崎久純『海外人材と働くための生産現場の英語エッセンシャル』研究社、2021 年、西澤亮一『海外で働こう 世界へ飛び出した日本のビジネスパーソン』幻冬舎、2017 年などを参考にしてください。					
21.成績評価	各回の復習と感想を記す小テストで出席点を数え、海外での働き方をテーマにした小論文を最終レポートとして採点した合計点数で評価します。					
22.コメント						
23.オフィスアワー	火曜 2 コース（研究室/3-308）、木曜 4 コース(学修支援センター)					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 10 月 1 日	海外で働く、多様な国際キャリア、グローバル化する日本社会と日本企業海外で働く 外務省によるとコロナ禍前、海外で働く日本人は約 140 万人、過去 30 年で 2.5 倍に急増しました。増えたのは新たな仕事、様々なキャリアが生まれ、日本の会社や組織と世界各地の間を行き来するビジネスパーソンはその何倍もいます。国内にいただけではなかなか見えない国際キャリアの現状に眼を見張り、その中にいる自分を想像してみましょう。	〈事前準備〉 海外に進出している日本の企業を 3 つ選んで、何を海外でしているか、書き出して下さい。 〈アサインメント〉 海外で働くとなると、どんな仕事があるか書き出して下さい。その中で自分でもできそうなこと、やってみたいことを選んで下さい。
第 2 回 10 月 11 日	世界の中の日本、東アジアと日本、東南アジアと日本人口では今でも世界第 11 位に多い日本は、経済規模（国民総所得）では米中に次ぐ第 3 位、20 世紀後半程ではないものの、今も世界は日本製品で溢れ、その傍らに日本人いて日本の会社があります。特に東南アジア諸国には昔から日系企業が生産拠点を置き、多数の現地社員が働いています。各国主要都市の日本人社会を紹介し、海外で働く具体的なイメージを持ってもらいます。	〈事前準備〉 世界の人口、日本よりも人口の多い国 10 ヶ国の名前と人口をリストにして下さい。 〈アサインメント〉 東南アジアに進出している日本の企業を 3 つ挙げて下さい。
第 3 回 10 月 18 日	海外インターンシップの勧め、ワーキングホリディ（ワーホリ）とオーペア 海外で働く具体的な取組みとして、日系企業を中心に海外でのインターンシップを探してみましょう。夏休みや春休みにワーホリに出る、オーストラリアでオーペアを体験、NGO を通じて国際ボランティアに参加するなど、今直ぐにでも始められる国際キャリアを探してみましょう。	〈事前準備〉 海外でインターンシップするとしたら、どの国でどんな内容を希望するかを書き出して下さい。 〈アサインメント〉 海外で活動する NGO、NPO を調べてリストにして下さい。
第 4 回 10 月 25 日	国際協力と開発援助、大東亜共栄圏（戦前戦中）からコロンボ・プラン（戦争直後） 日本の若者が海外で活躍し始めて早 150 年、戦争中には約 400 万人がアジア各地に送られ、敗戦で膨大な賠償金を払い、開発援助と名を変えた 20 世紀後半にも大勢の企業家や技術者がアジア各国に渡りました。その長い歴史の中で積み重ねられた仕事の数々を知り、これからを展望します。	〈事前準備〉 第二次世界大戦、その中でも太平洋戦争と呼ばれるアジア太平洋での戦争に負けた日本が戦後に賠償した国を調べリストに示して下さい。 〈アサインメント〉 JICA が協力する国々の中で、その援助規模の大きな国を挙げて下さい。
第 5 回 11 月 1 日	東アジアと東南アジアのビジネス環境、アジア経済圏の大都市と市場規模 日本の援助で発展した東・東南アジア圏の大都市と市場は、今や中国経済の勢力に席捲されているとはいいますが、日本の工業製品や農業技術（種苗、機材）、そして日系企業は日本人が設計した港湾や高速道路沿いの工業団地に立地している。日本の企業が見るアジアのビジネスマップを学びます。	〈事前準備〉 国際協力の分野にはいろいろありますが、農業援助にはどんな内容があるか調べて下さい。 〈アサインメント〉 日本の国際協力の効果を一つ事例を挙げて述べて下さい。
第 6 回 11 月 8 日	JICA（国際協力事業案）ボランティア事業と青年海外協力隊 1965 年に始まった協力隊は 2018 年度までに 4 万 6 千人、平均年齢 27 歳の若者が毎年千人以上派遣されています。そのまま現地で働き、起業する人も増えていま	〈事前準備〉 青年海外協力隊について知っていることを述べて下さい。 〈アサインメント〉 自分が青年海外協力隊に応募するとしたらど

	す。1954 年のコロポ・プランから始まった日本の ODA（政府開発援助）の全体像を知り、多様な仕事を見ていきます。	んな分野のどんな仕事か考え書き出して下さい。
第 7 回 11 月 15 日	J.F.ケネディのアメリカ平和部隊と中国のアジア・インフラ投資銀行 JICA の活動の起源はアメリカの平和部隊です。同様にワシントン DC にある世界銀行が米国製ならばアジア開発銀行（マニラ）は日本製、そして今は中国中心のアジア・インフラ投資銀行（北京）が世界の経済活動に強い影響力を持ち、ビジネス慣行・環境が変化しています。その中で海外に進出した地元関西の企業の活動が続きます。国際ビジネスをもう少し掘り下げます。	〈事前準備〉 アメリカの平和部隊について調べてみて下さい。 〈アサイメント〉 アメリカの J.F.ケネディ第 35 代大統領が平和部隊を創設した理由を述べて下さい。
第 8 回 11 月 22 日	海外で仕事を見つける。昔の仕事、これから伸びる仕事 海外求人サイトからどんな人材が求められるかを見ます。金融/IT、商社/航空だけでなく、求められる人材は多様です。授業では青年海外協力隊の部門別仕事リストを参照、商業・観光、スポーツ、教育、手工芸/料理/服飾の分野の仕事の中身を見ながら、そのキャリアへの道を探ります。協力隊に応募するために必要になる卒業後の職業経験を計画します。	〈事前準備〉 海外求人サイトを探し、自分に合った仕事を二つ三つ選んで紹介して下さい。 〈アサイメント〉 ゲームに関する仕事を探して下さい。どこにどんな仕事があるか報告して下さい。
第 9 回 11 月 29 日	日本の企業の海外進出、進出先のアジアの日本企業の事情 JETRO(日本貿易振興機構)の 2020 年調査に応えた海外進出日系企業 2 万余社の 7 割がアジア太平洋地域の 20 ヶ国に集中しています。業種も規模も多様ですが、一様に人手不足の日本から豊富な低賃金で安定した労働力のある国々に進出しています。もちろん日本国内で採用されるに越したことはありませんが、日本人の現地採用が多く、職探しに出る日本人も多くいます。進出企業の集まるバンコックやジャカルタ、ハノイや上海などの事情を紹介、各地の職探し事情を見ていきます。	〈事前準備〉 海外進出企業現地事業所の日本人比率を調べて下さい。 〈アサイメント〉 ジャカルタかバンコックの日本商工会議所 HP を探し、活動内容を調べて下さい。
第 10 回 12 月 6 日	中小企業の海外展開を「海外ビジネスナビ」（中小機構）を通じて探る この回は、中小企業基盤整備機構「海外ビジネスナビ」のネット探索から海外進出した関西企業を調べます。中小機構では、今年度は特に食産業の海外展開セミナーを開催し、食品ビジネスや農産物の輸出入規制をよく説明しています。この事例から身近な海外ビジネスの事例研究を進めます。	〈事前準備〉 今回は「海外ビジネスナビ」を使うので事前にチェックして下さい。 〈アサイメント〉 このサイトから関西から海外に進出している企業を探し出し、求人内容も見て下さい。
第 11 回 12 月 13 日	日本の中の国際化、移民社会日本の実態を知る 現在日本では人口の約 2 %にあたる 282 万人の外国人が暮らし、172 万人が約 27 万社で働いています。国内全企業の 64%、皆さんが就職する 3 社の内 2 社にすでに外国人がいます。人口減少が進む日本では外国人労働力は必要不可欠、上手にコミュニケーションするこ	〈事前準備〉 日本人移民の多い国を選び、日本人、日系人がどれほどいるか調べて下さい。 〈アサイメント〉 日本国内にいる外国人人口を国別に多い順に 10 番までリストにして下さい。

	とも国際キャリア形成に関係します。外国人はどこのどんな企業で増えるのか、実態を分かりやすく説明します。	
第 12 回 12 月 20 日	日本で働く外国人、意外と知られないその実態を知る 日本で働く外国人は 1990 年代から増え始め、2000 年以降特に増加しました。深刻な人手不足でブラジルとペルーの日系人労働者が増え、その後は中国、ベトナム、フィリッピン、ネパールからの技能実習生が増えました。その子供たち二世も町のあちこちで暮らしています。どこでどんな仕事をしているか、統計資料から探ります。	〈事前準備〉 神戸市内にある外国人組織を探して紹介して下さい。 〈アサイメント〉 「技能実習生」制度の問題点を述べて下さい。
第 13 回 1 月 10 日	異文化人材とのコミュニケーション（ワークショップで語り合う私の異文化体験） 皆さんがこれまで体験した外国出身の方々を思い出してください。不自由ながら外国語としての日本語で上手にコミュニケーションをとっています。その言葉の端々から出身国の様子が分かります。思いがけないようないい方や不思議な見方があります。そんな小さな異文化体験を仲間に紹介し、国際コミュニケーションを楽しむ術を身につけます。	〈事前準備〉 日本で働く外国籍の人を探し、どんな仕事をしていたか報告して下さい。 〈アサイメント〉 日本で働く外国籍の人の言葉使いで気になった点を述べて下さい。
第 14 回 1 月 17 日	海外人材と働くための生産現場の英語を知る 関西国際大学の様々な授業で学んだように、国際共通語としての英語は実に多様、国際コミュニケーション術は英語を学ぶだけでは身につけません。もちろん高校までに習った英語の基礎は不可欠、その基礎力を活かして仕事の中で上手に英語を使う技を教えます。それは、相手が誰で何を言いたいかを上手に探る技です。相手が言いそうなことを予めイメージし、その確認のために話を聴く、それが上手な人材が国際コミュニケーションの技、これまでの授業で習ったことを活かして現場で使えるように皆さんの英語を	〈事前学習〉 ビジンイングリッシュとは何か調べて下さい。 〈アサイメント〉 英語が通じない国でコミュニケーションする場合、どんな工夫ができるか述べて下さい。
第 15 回 1 月 24 日	国際キャリア論、海外で働く、海外の人々と働くまでの道筋を考える 最終回はこれまで学んだことを振り返りながら、海外で働くまでの道筋、自分のキャリアパスを考えてみます。グループに分れ、互いにアドバイスして、皆さんそれぞれの個性と特質に沿ったキャリアパスを考えてみます。自分だけの理解でなく、仲間が関西発の国際キャリアをどうイメージしているかを語り合い、できるだけ詳細な筋道を、それも ABC の 3 つの案にまとめて下さい。その後各自ブラッシュアップして提出したら、それが最終レポートになります。	〈事前準備〉 仮に自分が海外で働くとするば、どんなことが考えられるか述べて下さい。 〈アサイメント〉 最終レポートの詳しい内容は授業で説明します。海外キャリアの探し方を考えてもらいます。

1.授業コード (ナンバリング)	GLB302-M51	2.科目名	国際防災協力		3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦					
5.授業科目の区分	展開科目 「防災・減災分野における実務経験のある教員による授業科目」	6.必修・ 選択の区分	選択 <防災・危機マネジメント専攻、災害心理専攻 コア科目>	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間科学部、経営学部、心理学部			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	防災士資格取得者(地域防災減災論履修)が望ましい。		11.先修条件	人間学Ⅱ、地域防災減災論(防災士養成講座)の単位取得が望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義中心		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	大災害発生時には、海外からの被災地支援が必要となる。 本授業では、国際的な災害支援の枠組みやシステム、さらに、わが国の具体的な国際支援や受援の実績などについて、実際に国際防災協力関係の仕事を行っている実務家を授業に呼び、実体験に基づく話を聞き、国際防災協力について体系的に学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	国際社会における、防災・減災に向けた枠組みと日本の貢献について理解する 平時には大災害への備え、災害発生時には、必要な課題を的確に把握し、災害対応、復興に向け、被災国の風土、文化、体制などの多様性を理解しながら、国際的に防災・減災に貢献するための知識や行動力を身につける。					
19.教科書・教材	授業資料は WebClass で電子配布します。毎回、PC かタブレットを持参のこと(スマホでも可)					
20.参考文献	大災害に立ち向かう世界と日本～災害と国際協力～ <明石康・大島賢三 監修 柳沢香枝 編>					
21.成績評価	各回提出物(WebClass)等：60% 総括レポート等：40%					
22.コメント	国境に関係なく発生する大災害。国際支援なくしては、被災地の復興が成し遂げられないことが多々あります。国際防災協力は、政治や宗教に関係なく必要とされる、世界共通の課題です。 普段あまり関わりないかもしれませんが、この分野について目を向ける機会にしてください。 GS で見聞きしたこと、することについて、より理解を深めることにも繋がります。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
秋学期月曜 2 限 10/7～12/23 1/20～1/28	<今後、講師、日程等を変更することがあるので注意してください> 第 15 回授業は、1 月 28 日(火曜日)			☆講師指定のリフレクション課題を WebClass から提出(各回共通) 授業資料は WebClass で電子配布し、WebClass に提出物があるので、PC かタブレットを持参のこと(スマホでも可) <各回共通> 第 14 回、15 回はノートパソコン持参(スマホは不可)		
第 1 回(10/7)	国際社会による防災・減災の取組み <国際防災の 10 年(1990 年代)、兵庫行動枠組(2005-15)の成果から、仙台防災枠組に続く、国際防災の継続			カメラ機能の付いたスマホか PC 等を持参のこと (各回共通)		

	的な取組みと変遷を学ぶ> 講師：関西国際大学教授 村田昌彦	
第 2 回(10/14)	防災の主流化（世界の災害事例を通じて） <世界の災害事例を通じて、防災の取り組みが持続的開発のキーであることを学ぶ> 講師：総務省消防研究センター主任研究官 大津 暢人 関西国際大 教授 村田昌彦	
第 3 回(10/21)	国際情勢と国際連合 <世界の政治、経済社会情勢全般と、国際連合が果たす役割などについて学ぶ> 講師：関西国際大学 教授 川脇康生	
第 4 回(10/28)	増加する世界の災害 <昨今の災害の巨大化、多発傾向とその要因(気候変動等)、アジアにおける災害頻発の要因等について学ぶ> 講師：関西国際大学教授 村田昌彦	
第 5 回(11/04)	防災の主流化（仙台防災枠組の推進） <第 3 回国連防災世界会議で採択された仙台防災枠組(2015-30)の推進について学ぶ> 講師：アジア防災センター所長 笹原顕雄 関西国際大学教授 村田昌彦	
第 6 回(11/11)	アジア地域の国際防災協力 <アジア地域の国際防災協力を推進するアジア防災センターの設立とその活動実績など、兵庫に立地する国際機関の活動について学ぶ> 講師：アジア防災センター 主任研究員 児玉美樹 関西国際大学 教授 村田昌彦	
第 7 回(11/18)	災害時の国際援助の受援事例 <阪神・淡路大震災及び、東日本大震災に際しての国際支援を日本がどのように受け入れたかについての事例を学ぶ> 講師：関西国際大学教授 村田昌彦	
第 8 回(11/25)	日本の国際防災協力 1 <地方からの国際協力（特に兵庫県の国際防災協力）について学ぶ> 講師：関西国際大学客員教授 斉藤 容子	
第 9 回(12/02)	災害への国際支援のスタンダード <国際的な支援の基準となるスフィアスタンダードや人道支援の必須基準（CHS）、人間の安全保障（Human Security）の基本的な考え方を学ぶ> 講師：関西国際大学保健医療学部教授 伊藤尚子	
第 10 回(12/9)	フェイズ別国際支援（応急対応期） <国連防災機関（UNDRR）の理念や、国連人道問題調整事務所(OCHA) が中心となる災害の応急対応支援の国際的なシステムなどを学ぶ> 講師：関西国際大学保健医療学部教授 伊藤 尚子	
第 11 回	フェイズ別国際支援（復旧・復興期）	

(12/16)	<PDNA(Post Disaster Needs Assessment)、クラスター別の復旧・復興支援の国連メカニズムなどについて学ぶ> 講師：関西国際大学教授 川脇康生	
第 12 回 (12/23)	日本の国際防災協力 II <JICA を中心とする日本政府の国際支援の歴史、昨今の状況について学ぶ> 講師：JICA 関西業務第一課 那波 恭子 関西国際大学教授 村田 昌彦	
第 13 回(1/20)	NGO による災害被災地支援 <国際人道支援における NGO の役割と、日本の NGO の活動について、具体的な事例を通じて学ぶ > 講師：CODE 海外災害援助市民センター事務局長 吉椿 雅道 関西国際大学教授 村田 昌彦	
第 14 回(1/27) *注意 第 15 回(1/28) 火曜日	世界の災害データベースから考える WS～ノート PC 持参のこと <ベルギーの CRED のデータベースを使用して、国別、災害種類別の災害統計を作成し、アジアの災害の特性、災害が多発する背景などを考える> 講師：関西国際大学教授 村田昌彦(三木) 関西国際大学客員教授 斉藤容子(山手) 授業全体の振り返り、総括レポートの作成・提出	第 14 回、15 回はノートパソコン持参（スマホは不可）

1.授業コード (ナンバリング)	GLB302-y51	2.科目名	国際防災協力		3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦					
5.授業科目の区分	展開科目 「防災・減災分野における実務経験のある教員による授業科目」	6.必修・ 選択の区分	選択 <防災・危機マネジメント専攻、災害心理専攻 コア科目>	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間科学部、経営学部、心理学部			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	防災士資格取得者(地域防災減災論履修)が望ましい。		11.先修条件	人間学Ⅱ、地域防災減災論(防災士養成講座)の単位取得が望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義中心		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	大災害発生時には、海外からの被災地支援が必要となる。 本授業では、国際的な災害支援の枠組みやシステム、さらに、わが国の具体的な国際支援や受援の実績などについて、実際に国際防災協力関係の仕事を行っている実務家を授業に呼び、実体験に基づく話を聞き、国際防災協力について体系的に学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	国際社会における、防災・減災に向けた枠組みと日本の貢献について理解する 平時には大災害への備え、災害発生時には、必要な課題を的確に把握し、災害対応、復興に向け、被災国の風土、文化、体制などの多様性を理解しながら、国際的に防災・減災に貢献するための知識や行動力を身につける。					
19.教科書・教材	授業資料は WebClass で電子配布します。毎回、PC かタブレットを持参のこと(スマホでも可)					
20.参考文献	大災害に立ち向かう世界と日本～災害と国際協力～ <明石康・大島賢三 監修 柳沢香枝 編>					
21.成績評価	各回提出物(WebClass)等：60% 総括レポート等：40%					
22.コメント	国境に関係なく発生する大災害。国際支援なくしては、被災地の復興が成し遂げられないことが多々あります。国際防災協力は、政治や宗教に関係なく必要とされる、世界共通の課題です。 普段あまり関わりないかもしれませんが、この分野について目を向ける機会にしてください。 GS で見聞きしたこと、することについて、より理解を深めることにも繋がります。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
秋学期月曜 2 限 10/7～12/23 1/20～1/28	<今後、講師、日程等を変更することがあるので注意してください> 第 15 回授業は、1 月 28 日(火曜日)			☆講師指定のリフレクション課題を WebClass から提出(各回共通) 授業資料は WebClass で電子配布し、WebClass に提出物があるので、PC かタブレットを持参のこと(スマホでも可) <各回共通> 第 14 回、15 回はノートパソコン持参(スマホは不可)		
第 1 回(10/7)	国際社会による防災・減災の取組み <国際防災の 10 年(1990 年代)、兵庫行動枠組(2005-15)の成果から、仙台防災枠組に続く、国際防災の継続			カメラ機能の付いたスマホか PC 等を持参のこと (各回共通)		

	的な取組みと変遷を学ぶ> 講師：関西国際大学教授 村田昌彦	
第 2 回(10/14)	防災の主流化（世界の災害事例を通じて） <世界の災害事例を通じて、防災の取り組みが持続的開発のキーであることを学ぶ> 講師：総務省消防研究センター主任研究官 大津 暢人 関西国際大 教授 村田昌彦	
第 3 回(10/21)	国際情勢と国際連合 <世界の政治、経済社会情勢全般と、国際連合が果たす役割などについて学ぶ> 講師：関西国際大学 教授 川脇康生	
第 4 回(10/28)	増加する世界の災害 <昨今の災害の巨大化、多発傾向とその要因(気候変動等)、アジアにおける災害頻発の要因等について学ぶ> 講師：関西国際大学教授 村田昌彦	
第 5 回(11/04)	防災の主流化（仙台防災枠組の推進） <第 3 回国連防災世界会議で採択された仙台防災枠組(2015-30)の推進について学ぶ> 講師：アジア防災センター所長 笹原顕雄 関西国際大学教授 村田昌彦	
第 6 回(11/11)	アジア地域の国際防災協力 <アジア地域の国際防災協力を推進するアジア防災センターの設立とその活動実績など、兵庫に立地する国際機関の活動について学ぶ> 講師：アジア防災センター 主任研究員 児玉美樹 関西国際大学 教授 村田昌彦	
第 7 回(11/18)	災害時の国際援助の受援事例 <阪神・淡路大震災及び、東日本大震災に際しての国際支援を日本がどのように受け入れたかについての事例を学ぶ> 講師：関西国際大学教授 村田昌彦	
第 8 回(11/25)	日本の国際防災協力 1 <地方からの国際協力（特に兵庫県の国際防災協力）について学ぶ> 講師：関西国際大学客員教授 斉藤 容子	
第 9 回(12/02)	災害への国際支援のスタンダード <国際的な支援の基準となるスフィアスタンダードや人道支援の必須基準（CHS）、人間の安全保障（Human Security）の基本的な考え方を学ぶ> 講師：関西国際大学保健医療学部教授 伊藤尚子	
第 10 回(12/9)	フェイズ別国際支援（応急対応期） <国連防災機関（UNDRR）の理念や、国連人道問題調整事務所(OCHA) が中心となる災害の応急対応支援の国際的なシステムなどを学ぶ> 講師：関西国際大学保健医療学部教授 伊藤 尚子	
第 11 回	フェイズ別国際支援（復旧・復興期）	

(12/16)	<PDNA(Post Disaster Needs Assessment)、クラスター別の復旧・復興支援の国連メカニズムなどについて学ぶ> 講師：関西国際大学教授 川脇康生	
第 12 回 (12/23)	日本の国際防災協力 II <JICA を中心とする日本政府の国際支援の歴史、昨今の状況について学ぶ> 講師：JICA 関西業務第一課 那波 恭子 関西国際大学教授 村田 昌彦	
第 13 回(1/20)	NGO による災害被災地支援 <国際人道支援における NGO の役割と、日本の NGO の活動について、具体的な事例を通じて学ぶ > 講師：CODE 海外災害援助市民センター事務局長 吉椿 雅道 関西国際大学教授 村田 昌彦	
第 14 回(1/27) *注意 第 15 回(1/28) 火曜日	世界の災害データベースから考える WS～ノート PC 持参のこと <ベルギーの CRED のデータベースを使用して、国別、災害種類別の災害統計を作成し、アジアの災害の特性、災害が多発する背景などを考える> 講師：関西国際大学教授 村田昌彦(三木) 関西国際大学客員教授 斉藤容子(山手) 授業全体の振り返り、総括レポートの作成・提出	第 14 回、15 回はノートパソコン持参（スマホは不可）

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-A51	2.科目名	リサーチ入門 (A クラス)		3.単位数	1
4.授業担当教員	尾河 勇太					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーカー書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点× 5 = 15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書 + 観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料 + 発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書 + 調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・ 適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書					

		などの成果物は各?が作成します。 ・ 観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。 （質問紙調査は実査を行いません） ・ 本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・ 科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・ データの種類、変数・仮説・ 尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・ 調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・ 観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章） ・ 観察シート作成のポイント *観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含む）】

		★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告（第 6 章） ・観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表（第 6 章） ・観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 8 回	インタビュー調査（第 7 章） ・インタビュー調査の流れとポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート 7）	★提出物 ・ワークシート 7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定（第 8 章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える（第 9 章） ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安：3 時間】

	目」「分析計画」の作成 (Word)	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・ 授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出。 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-A52	2.科目名	リサーチ入門 (B クラス)		3.単位数	1
4.授業担当教員	山守伸也					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーカー書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点× 5 = 15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書 + 観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料 + 発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書 + 調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・ 適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書					

		などの成果物は各?が作成します。 ・ 観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。 （質問紙調査は実査を行いません） ・ 本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・ 科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・ データの種類、変数・仮説・ 尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・ 調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・ 観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章） ・ 観察シート作成のポイント *観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含む）】

		★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告（第 6 章） ・観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表（第 6 章） ・観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 8 回	インタビュー調査（第 7 章） ・インタビュー調査の流れとポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート 7）	★提出物 ・ワークシート 7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定（第 8 章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える（第 9 章） ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安：3 時間】

	目」「分析計画」の作成 (Word)	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の 目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・ 授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出。 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-A53	2.科目名	リサーチ入門 (C クラス)		3.単位数	1
4.授業担当教員	中西 美裕					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワークー書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点× 5 = 15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書 + 観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料 + 発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書 + 調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・ 適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書					

		などの成果物は各?が作成します。 ・ 観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。 （質問紙調査は実査を行いません） ・ 本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・ 科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・ データの種類、変数・仮説・ 尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・ 調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・ 観察調査の種類、 ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章） ・ 観察シート作成のポイント *観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含む）】

		★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告（第 6 章） ・観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表（第 6 章） ・観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 8 回	インタビュー調査（第 7 章） ・インタビュー調査の流れとポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート 7）	★提出物 ・ワークシート 7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定（第 8 章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える（第 9 章） ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安：3 時間】

	目」「分析計画」の作成 (Word)	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の 目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・ 授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出。 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-A54	2.科目名	リサーチ入門 (D クラス)		3.単位数	1
4.授業担当教員	山守伸也					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワークー書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点× 5 = 15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書 + 観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料 + 発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書 + 調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・ 適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書					

		などの成果物は各?が作成します。 ・ 観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。 （質問紙調査は実査を行いません） ・ 本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・ 科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・ データの種類、変数・仮説・ 尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・ 調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・ 観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章） ・ 観察シート作成のポイント *観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含む）】

		★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告（第 6 章） ・観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表（第 6 章） ・観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 8 回	インタビュー調査（第 7 章） ・インタビュー調査の流れとポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート 7）	★提出物 ・ワークシート 7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定（第 8 章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える（第 9 章） ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安：3 時間】

	目」「分析計画」の作成 (Word)	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・ 授業の全体のふりかえり	★提出物 1)調査研究計画書 2)質問紙調査票 3)祭りのアンケート集計まとめ を提出。 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-A55	2.科目名	リサーチ入門 (E クラス)		3.単位数	1
4.授業担当教員	中西 美裕					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーカー書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点× 5 = 15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書 + 観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料 + 発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書 + 調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・ 適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書					

		などの成果物は各?が作成します。 ・ 観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。 （質問紙調査は実査を行いません） ・ 本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・ 科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・ データの種類、変数・仮説・ 尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・ 調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・ 観察調査の種類、 ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章） ・ 観察シート作成のポイント *観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含む）】

		★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告（第 6 章） ・観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表（第 6 章） ・観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 8 回	インタビュー調査（第 7 章） ・インタビュー調査の流れとポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート 7）	★提出物 ・ワークシート 7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定（第 8 章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える（第 9 章） ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安：3 時間】

	目」「分析計画」の作成 (Word)	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・ 授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出。 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-A56	2.科目名	リサーチ入門 (F クラス)		3.単位数	1
4.授業担当教員	轟蕙菁					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーカー書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点× 5 =15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書+観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料+発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書+調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・ 適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書					

		などの成果物は各?が作成します。 ・ 観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。 （質問紙調査は実査を行いません） ・ 本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・ 科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予 習・復習を行うこと ★提出物 ・ ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリな ど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・ データの種類、変数・仮説・ 尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリな ど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・ 調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリな ど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作 成（第 4 章） ・ 観察調査の種類、 ミステリーショッパー（店舗観察 調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究 計画書と観察シートを作成し、指定期日まで に WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリな ど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章） ・ 観察シート作成のポイント *観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含 む）】

		★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告（第 6 章） ・観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表（第 6 章） ・観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 8 回	インタビュー調査（第 7 章） ・インタビュー調査の流れとポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート 7）	★提出物 ・ワークシート 7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定（第 8 章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える（第 9 章） ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安：3 時間】

	目」「分析計画」の作成 (Word)	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・ 授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出。 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-M51	2.科目名	リサーチ入門 (経営_1/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	南裕一郎					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワークー書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点× 5 = 15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書 + 観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料 + 発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書 + 調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・ 適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書					

		などの成果物は各?が作成します。 ・ 観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。 （質問紙調査は実査を行いません） ・ 本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・ 科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・ データの種類、変数・仮説・ 尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・ 調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・ 観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章） ・ 観察シート作成のポイント *観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含む）】

		★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告（第 6 章） ・観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表（第 6 章） ・観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 8 回	インタビュー調査（第 7 章） ・インタビュー調査の流れとポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート 7）	★提出物 ・ワークシート 7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定（第 8 章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える（第 9 章） ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安：3 時間】

	目」「分析計画」の作成 (Word)	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・ 授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出。 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-M52	2.科目名	リサーチ入門 (経営_2/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	轟蕙菁					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーク一書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点×5 =15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書+観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料+発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書+調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・ 適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書					

		などの成果物は各?が作成します。 ・ 観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。 （質問紙調査は実査を行いません） ・ 本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・ 科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・ データの種類、変数・仮説・ 尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・ 調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査＝ 1 ＝観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・ 観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回	観察調査＝ 2 ＝観察シート作成（第 5 章） ・ 観察シート作成のポイント *観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含む）】

		★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告（第 6 章） ・観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表（第 6 章） ・観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 8 回	インタビュー調査（第 7 章） ・インタビュー調査の流れとポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート 7）	★提出物 ・ワークシート 7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定（第 8 章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える（第 9 章） ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安：3 時間】

	目」「分析計画」の作成 (Word)	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の 目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・ 授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出。 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-M53	2.科目名	リサーチ入門（経営_3/4）		3.単位数	1
4.授業担当教員	南裕一郎					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーク一書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格（60 点以上）となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2（3 点× 5 = 15 点） 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書＋観察シート（10 点） 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン（資料＋発表）（25 点） 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書＋調査票（40 点） 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート（10 点） 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・ 適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書					

		などの成果物は各?が作成します。 ・ 観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。 （質問紙調査は実査を行いません） ・ 本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・ 科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・ データの種類、変数・仮説・ 尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・ 調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・ 観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章） ・ 観察シート作成のポイント *観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含む）】

		★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告（第 6 章） ・観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表（第 6 章） ・観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 8 回	インタビュー調査（第 7 章） ・インタビュー調査の流れとポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート 7）	★提出物 ・ワークシート 7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定（第 8 章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える（第 9 章） ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安：3 時間】

	目」「分析計画」の作成 (Word)	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・ 授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出。 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-M54	2.科目名	リサーチ入門 (経営_4/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	轟蕙菁					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワークー書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点×5=15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書+観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料+発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書+調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・ 適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書					

		などの成果物は各?が作成します。 ・ 観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。 （質問紙調査は実査を行いません） ・ 本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・ 科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・ データの種類、変数・仮説・ 尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・ 調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・ 観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章） ・ 観察シート作成のポイント *観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含む）】

		★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告（第 6 章） ・観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表（第 6 章） ・観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 8 回	インタビュー調査（第 7 章） ・インタビュー調査の流れとポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート 7）	★提出物 ・ワークシート 7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定（第 8 章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える（第 9 章） ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安：3 時間】

	目」「分析計画」の作成 (Word)	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・ 授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出。 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-Y53	2.科目名	リサーチ入門 (1/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	沼田真美					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学部心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	※統計学Ⅰを履修していることが望ましい。 なお、本科目はグローバルスタディの先修条件である。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーカー書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点×5=15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書+観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料+発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書+調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこ					

		と) ・適宜、グループワークやペアワークを行います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書などの成果物は各々が作成します。 ・観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。 (質問紙調査は実査を行いません) ・本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・データの種類、変数・仮説・尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章） ・観察シート作成のポイント	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。

	*観察シートを完成する	【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含む）】 ★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告（第 6 章） ・観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表（第 6 章） ・観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 8 回	インタビュー調査（第 7 章） ・インタビュー調査の流れとポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート 7）	★提出物 ・ワークシート 7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定（第 8 章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える（第 9 章） ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・

	項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」「分析計画」の作成 (Word)	目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安： 3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・ 調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の 目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・ データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・ 分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・ 質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC

		・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめを提出。 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-Y54	2.科目名	リサーチ入門 (2/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学部心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	※統計学Ⅰを履修していることが望ましい。 なお、本科目はグローバルスタディの先修条件である。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーカー書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点×5=15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書+観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料+発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書+調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこ					

	と) ・適宜、グループワークやペアワークを行います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書などの成果物は各々が作成します。 ・観察調査は実査を行います。必要な費は各々負担（交通費・コピー代など）です。（質問紙調査は実査を行いません） ・本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜昼休み *メールで事前に連絡をしてください。上記時間以外も対応可です。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・データの種類、変数・仮説・尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章）	○教室外学習

	・観察シート作成のポイント *観察シートを完成する	次回(第6回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3~4 時間（移動時間含む）】 ★提出物 第5回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第6回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告（第6章） ・観察調査の結果の分析 *プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第6回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第7回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表（第6章） ・観察調査結果の発表 *発表のための準備を行う *グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第8回	インタビュー調査（第7章） ・インタビュー調査の流れとポイント *質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート7）	★提出物 ・ワークシート7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第9回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定（第8章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第10回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える（第9章）	○教室外学習

	・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ ＊調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」「分析計画」の作成（Word）	次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安： 3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成（第 9 章） ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文（かがみ文）、回答の配置、ワーディング ＊質問紙の作成（Word） ＊グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の 目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析①（第 10 章） ・データ分析の準備と基礎的な集計 ＊既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析②（第 11 章） ・分析の方法と考察 ＊既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ（第 12 章） ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する ＊祭りのアンケート集計まとめ（Word） ＊分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具

		・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめを提出。 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-Y55	2.科目名	リサーチ入門 (3/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	山本喜晴					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学部心理学科				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワークー書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点×5 = 15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書 + 観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料 + 発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書 + 調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・ 適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書					

		などの成果物は各?が作成します。 ・ 観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。 （質問紙調査は実査を行いません） ・ 本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・ 科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・ データの種類、変数・仮説・ 尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・ 調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・ 観察調査の種類、 ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章） ・ 観察シート作成のポイント *観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含む）】

		★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告（第 6 章） ・観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表（第 6 章） ・観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 8 回	インタビュー調査（第 7 章） ・インタビュー調査の流れとポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート 7）	★提出物 ・ワークシート 7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定（第 8 章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える（第 9 章） ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安：3 時間】

	目」「分析計画」の作成 (Word)	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の 目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・ 授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出。 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-Y56	2.科目名	リサーチ入門 (4/4)		3.単位数	1
4.授業担当教員	道免逸子					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	後日追記します			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーク一書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点× 5 = 15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書 + 観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料 + 発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書 + 調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・ 適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書					

	などの成果物は各?が作成します。 ・ 観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。（質問紙調査は実査を行いません） ・ 本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：金曜日お昼休み 1号館 2階学修支援室 研究室ーオフィスアワー：水曜日お昼休み 2号館 2階 204	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・ 科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回	データの種類と尺度（第 2 章） ・ データの種類、変数・仮説・尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回	調査の基本概念（第 3 章） ・ 調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・ 観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章） ・ 観察シート作成のポイント * 観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含）

		む)】 ★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記 憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・観察シートの下書き
第 6 回	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告 (第 6 章) ・観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料 (ppt) と読み原稿 (Word) を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の観察シート
第 7 回	観察調査 = 4 = 発表準備・発表 (第 6 章) ・観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表 (相互評価を行う) →代表者選出 →全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 8 回	インタビュー調査 (第 7 章) ・インタビュー調査の流れと ポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる (ワークシート 7)	★提出物 ・ワーク シート 7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 9 回	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定 (第 8 章) ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する (Word)	○教室外学習 質問紙調査の 研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 10 回	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える (第 9 章) ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。

	* 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」「分析計画」の作成 (Word)	【所要時間の目安： 3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・ 調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の 目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・ データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・ 分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・ 質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

		ど)
第 15 回	質問紙調査 = 7 = 総括 ・ 授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめを提出。 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-Y57	2.科目名	リサーチ入門		3.単位数	1
4.授業担当教員	小磯学					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部観光学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーク一書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点×5 = 15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書 + 観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料 + 発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書 + 調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・ 適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書					

	などの成果物は各?が作成します。 ・ 観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。（質問紙調査は実査を行いません） ・ 本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。	
23.オフィスアワー	火曜 2 コース（研究室/3-308）、木曜 4 コース(学修支援センター)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 9 月 29 日	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・ 科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回 10 月 6 日	データの種類と尺度（第 2 章） ・ データの種類、変数・仮説・尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回 10 月 13 日	調査の基本概念（第 3 章） ・ 調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回 10 月 20 日	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・ 観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回 10 月 27 日	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章） ・ 観察シート作成のポイント * 観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含む）】

		★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第 6 回 11 月 10 日	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告（第 6 章） ・観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第 7 回 11 月 17 日	観察調査 = 4 = 発表準備・発表（第 6 章） ・観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 8 回 11 月 24 日	インタビュー調査（第 7 章） ・インタビュー調査の流れとポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート 7）	★提出物 ・ワークシート 7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 9 回 12 月 1 日	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定（第 8 章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 10 回 12 月 8 日	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える（第 9 章） ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安：3 時間】

	目」「分析計画」の作成 (Word)	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回 12 月 15 日	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の 目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回 12 月 22 日	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回 1 月 12 日	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回 1 月 19 日	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

第 15 回 1 月 26 日	質問紙調査 = 7 = 総括 ・ 授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出。 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-Y58	2.科目名	リサーチ入門		3.単位数	1
4.授業担当教員	橘セツ					
5.授業科目の区分	コモンベーシック	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部観光学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目では、定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。具体的な調査方法として、観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。 なお、この科目は学部のグローバルスタディ・プログラムの先修科目に指定されている。日本とは異なる社会や文化を理解したり、新しい知見を得たりするには仮説検証型調査の視点が必要である。この科目を通して、調査の基本を身につけてほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は学科 DP のうち、問題発見・解決力とコミュニケーションスキルに関連があります。また、この科目で到達できる学習目標は次のとおりです。 ① 調査の体系・分類について説明できる ② データの種類について説明できる ③ 調査方法の種類について説明できる ④ 初歩的な観察調査が実施できるようになる ⑤ 初歩的なインタビュー調査が実施できるようになる ⑥ 初歩的な質問紙調査の計画書を作成できるようになる ⑦ 初歩的なデータ分析ができるようになる					
19.教科書・教材	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 2013 年 (教科書販売時に購?すること。)					
20.参考文献	・ ??信介 他編著 『新・社会調査へのアプローチ論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 ISBN 9784623066544 ・ 佐藤郁哉 著 『フィールドワーク一書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308 ・ 学習技術研究会 著 『知へのステップ 第 5 版』 くろしお出版 2019 ISBN 487424789X					
21.成績評価	成績は、各学習目標に対応した次の各課題の要件を満たして実施することにより合格 (60 点以上) となる。 ・ ワークシート 1・2・3・7 の 1・7 の 2 (3 点×5 = 15 点) 課題①②③に対応 ・ 観察調査 研究計画書 + 観察シート (10 点) 課題④に対応 ・ 観察調査 プレゼン (資料 + 発表) (25 点) 課題⑤に対応 ・ 質問紙調査 研究計画書 + 調査票 (40 点) 課題⑥に対応 ・ 質問紙調査 レポート (10 点) 課題⑦に対応					
22.コメント	・ すべての授業でノート PC を使いますので、各?で持参してください。(?分に充電しておくこと) ・ 適宜、グループワークやペアワークを?います。ただし、研究計画書、質問紙調査票、報告書					

	などの成果物は各?が作成します。 ・ 観察調査は実査を行います。必要な費?は各?負担（交通費・コピー代など）です。 （質問紙調査は実査を行いません） ・ 本科目の履修はグローバルスタディの先修条件になっています。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 9 月 29 日	科学的方法を学ぶ（第 1 章） ・ 科学する方法、記述と説明、合意と信用 * 社会問題の仮説を考える（ワークシート 1）	○教室外学習 毎回、教科書 や参考書等で予習・復習を行うこと ★提出物 ・ ワーク シート 1 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 2 回 10 月 6 日	データの種類と尺度（第 2 章） ・ データの種類、変数・仮説・ 尺度 * 尺度別にアンケート質問を考える（ワークシート 2）	★提出物 ・ ワーク シート 2 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 3 回 10 月 13 日	調査の基本概念（第 3 章） ・ 調査の種類と特徴 * 最適な調査方法は どれか、議論する（ワークシート 3）	★提出物 ・ ワーク シート 3 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 4 回 10 月 20 日	観察調査 = 1 = 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成（第 4 章） ・ 観察調査の種類、ミステリーショッパー（店舗観察調査）の流れ * 調査研究計画書（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 4 回終了後、各自で、観察調査の調査研究計画書と観察シートを作成し、指定期日までに WEBCLSS で提出する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 5 回 10 月 27 日	観察調査 = 2 = 観察シート作成（第 5 章） ・ 観察シート作成のポイント *観察シートを完成する	○教室外学習 次回(第 6 回)までに、観察調査を実施する。 【実査時間の目安 3～4 時間（移動時間含む）】

		★提出物 第 5 回終了後、観察シートの再提出可。 ◆持参物 ◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・観察シートの下書き
第 6 回 11 月 10 日	観察調査 = 3 = 調査結果の整理と報告（第 6 章） ・観察調査の結果の分析 * プレゼンテーション資料（ppt）と読み原稿（Word）を作成する	○教室外学習 ★提出物 第 6 回終了後、観察調査の発表資料と読み原稿を完成して、指定期日までに WEBCLASS で提出。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど） ・調査実施後の観察シート
第 7 回 11 月 17 日	観察調査 = 4 = 発表準備・発表（第 6 章） ・観察調査結果の発表 * 発表のための準備を行う * グループ内で発表（相互評価を行う）→代表者選出→全体発表を行う	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 8 回 11 月 24 日	インタビュー調査（第 7 章） ・インタビュー調査の流れとポイント * 質問を作って、インタビューをやってみる（ワークシート 7）	★提出物 ・ワークシート 7 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 9 回 12 月 1 日	質問紙調査 = 1 = 概要① = 質問紙調査の理解とテーマの決定（第 8 章） ・質問紙調査の流れ、調査研究計画書「背景・目的」「仮説」の作成、レビュー * 調査研究計画書を作成する（Word）	○教室外学習 質問紙調査の研究計画書を完成する。 【所要時間の目安：1 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体（USB フラッシュメモリなど）
第 10 回 12 月 8 日	質問紙調査 = 2 = 質問項目を考える（第 9 章） ・目的・仮説に沿った「調査対象・方法・時期」「質問項目」、集計・分析のイメージ * 調査研究計画書「調査対象・方法・時期」「質問項目」	○教室外学習 次回(第 11 回)までに調査研究計画書「背景・目的」「仮説」を作成しておく。 【所要時間の目安：3 時間】

	目」「分析計画」の作成 (Word)	◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 11 回 12 月 15 日	質問紙調査 = 3 = 質問紙の作成 (第 9 章) ・調査項目にしたがって、質問紙を作成する、依頼文 (かがみ文)、回答の配置、ワーディング * 質問紙の作成 (Word) * グループもしくはペアで相互に回答し、改善点を議論する	○教室外学習 質問紙調査票の完成 【所要時間の 目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 12 回 12 月 22 日	質問紙調査 = 4 = データ分析① (第 10 章) ・データ分析の準備と基礎的な集計 * 既存データを用いて基礎的な集計のやり方を学ぶ	○教室外学習 基礎的な集計を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)
第 13 回 1 月 12 日	質問紙調査 = 5 = データ分析② (第 11 章) ・分析の方法と考察 * 既存データを用いて基礎的な分析を行う	○教室外学習 分析と考察を行う 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど) ・調査実施後の調査票
第 14 回 1 月 19 日	質問紙調査 = 6 = 報告書の解説とまとめ (第 12 章) ・質問紙調査の結果のまとめ方を理解する * 祭りのアンケート集計まとめ (Word) * 分析イメージをふまえて、自分で作成した調査研究計画書と質問紙について必要な修正を行う。	○教室外学習 ★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出準備。 【所要時間の目安：3 時間】 ◆持参物◆ ・教科書 ・筆記用具 ・ノート PC ・データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

第 15 回 1 月 26 日	質問紙調査 = 7 = 総括 ・ 授業の全体のふりかえり	★提出物 1) 調査研究計画書 2) 質問紙調査票 3) 祭りのアンケート集計まとめ を提出。 ◆持参物◆ ・ 教科書 ・ 筆記用具 ・ ノート PC ・ データ記憶媒体 (USB フラッシュメモリなど)

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-Y81	2.科目名	リサーチ入門		3.単位数	1
4.授業担当教員	實川真理子					
5.授業科目の区分	共通教育科目 コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	指定されたクラスで受講すること					
17.授業の目的と概要	この授業では、おもにグローバルスタディをはじめ、体験型プログラムで必要な定性型の調査方法の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	具体的な調査方法として、観察調査法を取り上げ、調査の基礎、仮説の設定、観察力、分析を演習形式で身につける。 1. 問題発見力 = 社会の中で問題になっていることを、理解することができる → 本授業では観察調査を実施する。調査対象に関する様々な問題に気づいてほしい。(調査の企画および実施を通して) 2. 論理的思考／判断力 = 根拠を?しつつ意?や判断を?することができる → 調査を通して根拠を示す方法を経験して学んでほしい。(仮説の設定から検証、考察まで→観察調査の発表資料で表現) [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	・竹田茂生・藤木清 著 『知的な論文・レポートのための リサーチ入門』 くろしお出版 2013 ・学習技術研究会 編 『知へのステップ第3版』 くろしお出版 2011 ※1 年春学期の「学修技術」で使用した教科書を持参してください。 (発表用資料作成時に参照)					
20.参考文献	・大谷信介 他編著 『社会調査へのアプローチ (第2版)』 ミネルヴァ書房 2005 ISBN 4623041042 ・佐藤郁哉 著 『フィールドワーカー書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308					
21.成績評価	・ワークシート1： 15 % ・ワークシート3： 15 % ・調査研究計画書： 20 % ・プレゼンテーション： 40 % ・ふりかえり：10 %					
22.コメント	・調査に必要な費用は各自負担 (商品の購入など) ・ノートパソコン必携 ・各日の時間数配分は変更になる場合があります。(変更になる場合は事前に告知します)					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
◇第1日目◇	«科学する心、調査する意義を学ぶ»					

【1 限目】	・シラバスに基づいて、本授業の説明を行う。 ・テキスト第 1 章 ・ワークシート 1：個人ワーク	
【2 限目】	«調査の基本概念を知る» ・テキスト第 2 章、第 3 章 ・グループ分け ・ワークシート 3：個人ワーク＋グループワーク	
【3 限目】	«観察調査の理解と仮説さがし» ・テキスト第 4 章 ・事前調査：グループワーク ①比較する 2 店舗を決める ②比較して違いを見る	
【4 限目】	«調査研究計画書の作成» ・ワークシート 4：グループワーク グループで、仮説、調査時間、調査場所を話し合う ・調査研究計画書：個人ワーク 構成を考え、書く内容を書き。	○ワードで調査研究計画書の作成
◇第 2 日目◇ 【1 限目】	«調査研究計画書の作成と発表» ・調査研究計画書の作成：個人ワーク ・グループで発表を行い、各グループから代表者を選出：グループワーク	
【2 限目】	«調査研究計画書の発表と観察シートの作成» ・発表 ・観察シートの作成：グループワーク	
【3 限目】	実査：グループワーク	
【4 限目】	実査：グループワーク	
◇第 3 日目◇ 【1 限目】	«調査結果の整理» ・テキスト第 6 章 ・仮説検証の確認、定性データの整理、評価得点の集計：グループワーク	
【2 限目】	«調査結果の分析» ・定性データの整理、評価得点の集計：グループワーク	
【3 限目】	«発表用資料» ・ワーク：個人ワーク パワーポイントで、発表用資料を作成	
【4 限目】	«読み原稿の作成» ・ワードで、読み原稿を作成（1,000～1,250 字）	○発表用資料と読み原稿の完成

◇第 4 日目◇ 【1 限目】	« 他者の発表を聞き、自ら発表する » ・ クラス内で発表 = 一人 5 分	
【2 限目】	« 他者の発表を聞き、自ら発表する » ・ クラス内で発表 = 一人 5 分 ・ 全体発表	
【3 限目】	« ふりかえり » ・ この授業で身に付いたこと ・ 総括	

1.授業コード (ナンバリング)	GLS101-Y82	2.科目名	リサーチ入門		3.単位数	1
4.授業担当教員	阿部忍					
5.授業科目の区分	共通教育科目 コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	指定されたクラスで受講すること					
17.授業の目的と概要	この授業では、おもにグローバルスタディをはじめ、体験型プログラムで必要な定性型の調査方法の基本的な知識やスキルを修得することを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	具体的な調査方法として、観察調査法を取り上げ、調査の基礎、仮説の設定、観察力、分析を演習形式で身につける。 1. 問題発見力 = 社会の中で問題になっていることを、理解することができる → 本授業では観察調査を実施する。調査対象に関する様々な問題に気づいてほしい。(調査の企画および実施を通して) 2. 論理的思考／判断力 = 根拠を?しつつ意?や判断を?すことができる → 調査を通して根拠を示す方法を経験して学んでほしい。(仮説の設定から検証、考察まで→観察調査の発表資料で表現) [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	・竹田茂生・藤木清 著 『知的な論文・レポートのための リサーチ入門』 くろしお出版 2013 ・学習技術研究会 編 『知へのステップ第3版』 くろしお出版 2011 ※1 年春学期の「学修技術」で使用した教科書を持参してください。 (発表用資料作成時に参照)					
20.参考文献	・大谷信介 他編著 『社会調査へのアプローチ (第2版)』 ミネルヴァ書房 2005 ISBN 4623041042 ・佐藤郁哉 著 『フィールドワーカー書を持って街へ出よう (ワードマップ)』 増訂版 新曜社 2006 ISBN 4788510308					
21.成績評価	・ワークシート1： 15 % ・ワークシート3： 15 % ・調査研究計画書： 20 % ・プレゼンテーション： 40 % ・ふりかえり：10 %					
22.コメント	・調査に必要な費用は各自負担 (商品の購入など) ・ノートパソコン必携 ・各日の時間数配分は変更になる場合があります。(変更になる場合は事前に告知します)					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
◇第1日目◇	«科学する心、調査する意義を学ぶ»					

【1 限目】	・シラバスに基づいて、本授業の説明を行う。 ・テキスト第 1 章 ・ワークシート 1：個人ワーク	
【2 限目】	«調査の基本概念を知る» ・テキスト第 2 章、第 3 章 ・グループ分け ・ワークシート 3：個人ワーク＋グループワーク	
【3 限目】	«観察調査の理解と仮説さがし» ・テキスト第 4 章 ・事前調査：グループワーク ①比較する 2 店舗を決める ②比較して違いを見る	
【4 限目】	«調査研究計画書の作成» ・ワークシート 4：グループワーク グループで、仮説、調査時間、調査場所を話し合う ・調査研究計画書：個人ワーク 構成を考え、書く内容を書き。	○ワードで調査研究計画書の作成
◇第 2 日目◇ 【1 限目】	«調査研究計画書の作成と発表» ・調査研究計画書の作成：個人ワーク ・グループで発表を行い、各グループから代表者を選出：グループワーク	
【2 限目】	«調査研究計画書の発表と観察シートの作成» ・発表 ・観察シートの作成：グループワーク	
【3 限目】	実査：グループワーク	
【4 限目】	実査：グループワーク	
◇第 3 日目◇ 【1 限目】	«調査結果の整理» ・テキスト第 6 章 ・仮説検証の確認、定性データの整理、評価得点の集計：グループワーク	
【2 限目】	«調査結果の分析» ・定性データの整理、評価得点の集計：グループワーク	
【3 限目】	«発表用資料» ・ワーク：個人ワーク パワーポイントで、発表用資料を作成	
【4 限目】	«読み原稿の作成» ・ワードで、読み原稿を作成（1,000～1,250 字）	○発表用資料と読み原稿の完成

◇第 4 日目◇ 【1 限目】	« 他者の発表を聞き、自ら発表する » ・ クラス内で発表 = 一人 5 分	
【2 限目】	« 他者の発表を聞き、自ら発表する » ・ クラス内で発表 = 一人 5 分 ・ 全体発表	
【3 限目】	« ふりかえり » ・ この授業で身に付いたこと ・ 総括	

1.授業コード (ナンバリング)	GLS102-A82	2.科目名	グローバルスタディ I (国内/2024 冬三田市)		3.単位数	1
4.授業担当教員	谷口一也					
5.授業科目の区分	体験学修	6.必修・ 選択の区分	必修あるいは選 択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期～冬学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	2 年生以上
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本プログラムは、兵庫県三田市で外国に関わりのある児童・生徒を対象に日本語教育支援や学校の課題に対する支援を行い、また、三田市に住む外国の人や外国に関わりのある子どもたちの実態や課題を理解し、異文化・多様性理解の促進を行うものである。 活動は、1) 事前学習として、三田市国際交流センターの職員による講義を受けるとともに、現地活動の事前準備を行う。2) 三田市国際交流センター実施の学習教室 SKIP の活動に、支援者として参加する。3) 事後学習として、活動の振り返りや追加調査を行い、外国にゆかりのある子に対する支援の在り方を考える。					
18.学習目標と DP との関連	1.外国にゆかりのある子の実態に関し、自ら調べたり講師の話を聞くことにより、その実態をまとめることが出来る。また、外国にゆかりのある子の課題を把握することが出来る。 2.外国にゆかりのある子の実態に即し、学習支援を行い、支援の方法の在り方について振り返ることが出来る。 3.国内における多様性理解の重要性に気づき、学校現場等での支援に関してどのように関わっていくべきかを記述することが出来る。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	1. 事前学修 (30%) ・外国に関わりのある子どもの実態・課題について ・日本語教育について ・各講義のノート評価 2. 現地での活動の様子と活動記録 (40%) ・現地での活動に関して、積極性・自主性・協調性・子どもたちや外国の方とのかかわり方 ・活動記録 3. 事後学修 (30%) ・最終レポート ・発表資料及び発表内容					
22.コメント	遅刻・欠席や課題を提出しないなど、事前学修に問題がある場合は、履修を取り消します。学内だけで簡潔するプログラムではなく、三田市国際交流協会や子どもたちとの関わりなど、多くの方の協力を得て成り立つプログラムですので、高い意識を持ち、責任が伴うことを自覚して、プログラムに臨んでください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1, 2 回	事前学習 1 ・児童福祉の概要 ・事前課題①の整理と外国に関わりのある子どもたちの概要			事前課題① ・外国に関わりのある子どもたちについて、調べ、A4 用紙 1 枚以上にまとめてくること。特に三田市の現状が分かるとよい。		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	GLS102-Y83	2.科目名	グローバルスタディⅠ（世界展開力:アメリカ/2024 冬学期）観光		3.単位数	1
4.授業担当教員	李容淑、芦沢真五					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期～冬学期	
8.履修可能な専攻	制限なし				9.履修学年	制限なし
10.取得資格の要件	大学が要求する一定の英語力		11.先修条件	リサーチ入門、一定の英語科目履修		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	現地学習（アメリカ）		
16.履修制限	制限なし					
17.授業の目的と概要	授業概要：本授業では、巨大都市、ロスアンゼルス南部に位置する、パーム・スプリング、パーム・デザートなどのリゾート地がこれまでどのように発展してきたのかについて、その歴史、文化、コミュニティ運営などの観点から学ぶ。また、同時に、現地での体験を通じて、実践的な英語コミュニケーション力の強化を目指した学習としておこなう。 授業目的：具体的には、カリフォルニア州パーム・デザート周辺のリゾート地について、観光ホスピタリティビジネスの視点から、リゾート地の運営、マーケティング、環境保全などについて学ぶこと。また、カレッジ・オブ・ザ・デザート（COD）の観光学部教員によるレクチャーに加えて、IR（Integrated Resort）、ホテル、レストランなどの飲食産業が実際にどのように運営されているか、について現場を視察することによって学ぶことである。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は、カレッジ・オブ・ザ・デザートに在籍する学生や実際に働いている学生とのインタビューなどを通じて、現場から学ぶこと。地域における社会貢献活動や環境保全の取り組みについて学ぶこと。また地域交流、ツーリズムにおける環境保全の在り方、起業家意識をもったホスピタリティ事業展開の可能性を学ぶことを目的とする。 【DP との関連】 ①パーム・デザートにおけるリゾート開発の歴史などその地域の観光状況の説明ができる。 ②米国社会におけるリゾートの社会的存在意義と発展目的の説明ができる。 ③College of the Desert について（米国におけるコミュニティ・カレッジの役割を含めて）現地で働きながら学ぶコミュニティ・カレッジの学生と交流し、日本との比較の中でその違いについて説明ができる。 ④専攻学科別、結び付けた学びを今後の方向性として説明ができる。 事前学習、事後学習を通じて、観光ホスピタリティ事業に関連した英語（English for Specific Purposes）を学ぶ機会を増大させる。					
19.教科書・教材	Webclass 掲載参考用資料					
20.参考文献						
21.成績評価	事前学習・プレゼンテーション講習参加など含む 10 点 現場実習のレポート Webclass に提出、現地での発表など含む 40 点 事後学習振り返りレポート・PPT 作成・Webclass に提出 30 点 報告会のポスター作成・発表・e ポートフォリオ含む（20 点）					
22.コメント	一定の英語力、積極的で外国について十分な事前知識を持ち、前向きの姿勢。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	事前学習 事務局 オリエンテーション パスポート、ビザについて 旅程案内、英語特訓について再案内					

	事前学習 事務局 旅行会社からの海外旅行保険請求通知 ESTA 取得 事前学習 担当教員 Global Study 1 (世界展開力・AMERICA/2023 Winter Los Angeles) Travel Theme : Experiential training related to tourist resorts in California (College of the Desert) について 日本のテーマパーク、インバウンド観光の状況、観光産業との関係分野、日本のホスピタリティ、ホテル業界の	
	事前学習 Global Study Pre-departure Workshop on Effective Presentation Skills What is a good presentation? 英語の先生から指導を受ける。	
	1 日目関西国際空港集合 JAL 60 KIX 17:50 p m – LAX11:00am	
	2 日目 LAX 到着 Hotel Check In. Best Western Palm Desert Hotel Pick-up Program Orientation Departure for Date Festival Evening free time	
	3 日目 Hotel pick-up Comprehensive ESL Conversation ESL Lunch Group project Return to hotel Dinner on your own	
	4 日目 Hotel pick -up Hospitality management class presentation/activities Conversations ESL Lunch Hospitality management lecture and group projects Return to hotel	
	5 日目 Hotel pick-up Comprehensive ESL Conversation ESL Lunch Pizza Group project	

	Depart for Palm Springs Return to hotel	
	6 日目 Hotel pick-up Visit Greater Palm Spings lecture Lunch at Sunnylands Agua Caliente Resort tou r Return to hotel Evening free time	
	7 日目 Morning free time ANDREAS CANYON TRAIL 1.5 Kmに参加 Pick up for Cavazon shopping Evening at Dave and Busters Return to hotel	
	8 日目 Morning free time Depart for BBQ at Marbella`s house BBQ party and enjoy the games	
	9 日目 Hotel pick—up JW Marriott Desert Springs Resort tour Lunch party Group project presentations Afternoon free time	
	10 日目 Hotel pick-up Japanese American Cultural Center tour Santa Monica tourism LAX hotel arrival Sonesta LAX	
	11 日目 Hotel departure for 1:15pm JAL 69 flight LAX	
	12 日目 関西国際空港到着 JAL 69 KIX 6:50 p m 解散	

1.授業コード (ナンバリング)	GLS104-A51	2.科目名	地域研究(アジア圏)		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業は、中国、台湾、香港、マカオ、韓国などの東アジアの国や地域について紹介する授業です。東アジアのこうした隣国について理解を深めるとともに、将来こういう国や地域に行ったり、これらの国や地域の人たちと接したりする時に必要となる予備知識をつけることを目的としています。授業では、これらの国や地域の映画なども紹介します。東アジアの映画やドラマが好きな方にはとても楽しめる授業です。					
18.学習目標と DPとの関連	●授業内容に対して、新たな興味や関心をもつことができる ●自分の持つ価値観とは異なる価値観を持つ人がいるということを理解できる ●自分の考え方や行動の仕方について振り返ることができる (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (4)問題発見・解決力					
19.教科書・教材	授業時に参考資料を配布します					
20.参考文献						
21.成績評価	①映画の感想レポート 30%、②プレゼンテーション 30%、③リアクションペーパー（授業内容のまとめを書いて授業後に毎週提出するもの）10%、④期末レポート 30%					
22.コメント	日本の隣国であるにも関わらず、中国、台湾、香港、マカオ、韓国などの国や地域についてよく知らない人は意外と多いと思います。しかし、日本が政治や経済や文化などのいろいろな分野で関わる重要な隣国なので、こうした東アジア諸国のことについて理解を深めることはとても重要です。特に、真の国際人になりたい、あるいは、将来国際的に活躍したい、と思っている方は、まずは日本に近接する東アジア諸国について知識を深めておくことは重要です。この授業は、そうした目的を持っています。授業では、映像資料を多用した講義やプレゼンテーション					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業の紹介、講師の紹介など					
第 2 回	中国についての紹介（中国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します）			授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）		
第 3 回	中国についての紹介（中国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します）			授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）		
第 4 回	中国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション			授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）		
第 5 回	中国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション			授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）		

第 6 回	台湾と香港についての紹介（台湾と香港の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します）	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）
第 7 回	台湾と香港についての紹介（台湾と香港の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します）	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）
第 8 回	韓国についての紹介（韓国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します）	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）
第 9 回	韓国についての紹介（韓国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します）	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）
第 10 回	韓国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）
第 11 回	韓国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）
第 12 回	受講生によるプレゼンテーション（自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表）	
第 13 回	受講生によるプレゼンテーション（自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表）	
第 14 回	受講生によるプレゼンテーション（自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表）	
第 15 回	授業のまとめと復習	

1.授業コード (ナンバリング)	GLS104-Y51	2.科目名	地域研究(アジア圏)		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業は、中国、台湾、香港、マカオ、韓国などの東アジアの国や地域について紹介する授業です。東アジアのこうした隣国について理解を深めるとともに、将来こういう国や地域に行ったり、これらの国や地域の人たちと接したりする時に必要となる予備知識をつけることを目的としています。授業では、これらの国や地域の映画なども紹介します。東アジアの映画やドラマが好きな方にはとても楽しめる授業です。					
18.学習目標と DPとの関連	●授業内容に対して、新たな興味や関心をもつことができる ●自分の持つ価値観とは異なる価値観を持つ人がいるということを理解できる ●自分の考え方や行動の仕方について振り返ることができる (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (4)問題発見・解決力					
19.教科書・教材	授業時に参考資料を配布します					
20.参考文献						
21.成績評価	①映画の感想レポート 30%、②プレゼンテーション 30%、③リアクションペーパー（授業内容のまとめを書いて授業後に毎週提出するもの）10%、④期末レポート 30%					
22.コメント	日本の隣国であるにも関わらず、中国、台湾、香港、マカオ、韓国などの国や地域についてよく知らない人は意外と多いと思います。しかし、日本が政治や経済や文化などのいろいろな分野で関わる重要な隣国なので、こうした東アジア諸国のことについて理解を深めることはとても重要です。特に、真の国際人になりたい、あるいは、将来国際的に活躍したい、と思っている方は、まずは日本に近接する東アジア諸国について知識を深めておくことは重要です。この授業は、そうした目的を持っています。授業では、映像資料を多用した講義やプレゼンテーション					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業の紹介、講師の紹介など					
第 2 回	中国についての紹介（中国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します）			授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（1 2 0 分）		
第 3 回	中国についての紹介（中国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します）			授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（1 2 0 分）		
第 4 回	中国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション			授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（1 2 0 分）		
第 5 回	中国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション			授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（1 2 0 分）		

第 6 回	台湾と香港についての紹介（台湾と香港の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します）	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）
第 7 回	台湾と香港についての紹介（台湾と香港の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します）	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）
第 8 回	韓国についての紹介（韓国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します）	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）
第 9 回	韓国についての紹介（韓国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します）	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）
第 10 回	韓国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）
第 11 回	韓国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）
第 12 回	受講生によるプレゼンテーション（自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表）	
第 13 回	受講生によるプレゼンテーション（自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表）	
第 14 回	受講生によるプレゼンテーション（自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表）	
第 15 回	授業のまとめと復習	

1.授業コード (ナンバリング)	GLS104-m51	2.科目名	地域研究(アジア圏)		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水拓野					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義・演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業は、中国、台湾、香港、マカオ、韓国などの東アジアの国や地域について紹介する授業です。東アジアのこうした隣国について理解を深めるとともに、将来こういう国や地域に行ったり、これらの国や地域の人たちと接したりする時に必要となる予備知識をつけることを目的としています。授業では、これらの国や地域の映画なども紹介します。東アジアの映画やドラマが好きな方にはとても楽しめる授業です。					
18.学習目標と DPとの関連	●授業内容に対して、新たな興味や関心をもつことができる ●自分の持つ価値観とは異なる価値観を持つ人がいるということを理解できる ●自分の考え方や行動の仕方について振り返ることができる (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (4)問題発見・解決力					
19.教科書・教材	授業時に参考資料を配布します					
20.参考文献						
21.成績評価	①映画の感想レポート 30%、②プレゼンテーション 30%、③リアクションペーパー（授業内容のまとめを書いて授業後に毎週提出するもの）10%、④期末レポート 30%					
22.コメント	日本の隣国であるにも関わらず、中国、台湾、香港、マカオ、韓国などの国や地域についてよく知らない人は意外と多いと思います。しかし、日本が政治や経済や文化などのいろいろな分野で関わる重要な隣国なので、こうした東アジア諸国のことについて理解を深めることはとても重要です。特に、真の国際人になりたい、あるいは、将来国際的に活躍したい、と思っている方は、まずは日本に近接する東アジア諸国について知識を深めておくことは重要です。この授業は、そうした目的を持っています。授業では、映像資料を多用した講義やプレゼンテーション					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業の紹介、講師の紹介など					
第 2 回	中国についての紹介（中国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します）			授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）		
第 3 回	中国についての紹介（中国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します）			授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）		
第 4 回	中国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション			授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）		
第 5 回	中国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション			授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）		

第 6 回	台湾と香港についての紹介（台湾と香港の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します）	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）
第 7 回	台湾と香港についての紹介（台湾と香港の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します）	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）
第 8 回	韓国についての紹介（韓国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します）	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）
第 9 回	韓国についての紹介（韓国の歴史、文化、政治、社会、食文化、観光地、映画や芸能情報などについて映像資料を用いて紹介します）	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）
第 10 回	韓国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）
第 11 回	韓国映画の鑑賞、および、内容のディスカッション	授業で取り上げたキーワードを各自で復習する。（120分）
第 12 回	受講生によるプレゼンテーション（自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表）	
第 13 回	受講生によるプレゼンテーション（自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表）	
第 14 回	受講生によるプレゼンテーション（自分が選んだ国や地域の特定テーマに関する発表）	
第 15 回	授業のまとめと復習	

1.授業コード (ナンバリング)	GLS105-Y51	2.科目名	日本事情		3.単位数	2
4.授業担当教員	伊藤創					
5.授業科目の区分	日本語教育分野における実務経験のある教員による授業科目 展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では、政治、社会、文化、歴史、宗教、生活習慣、社会問題など様々な側面から、日本を捉えることによって、日本への理解を深めることを目的とする。また、その過程で、今後、日本が、あるいは世界がどのような方向に進んでいくべきかを議論し、論理的かつ柔軟な思考を養う。本授業では、時事的な問題を取り込むこと、また留学生の国籍や人数によって、比較すべき項目を柔軟にシフトしながら授業で扱う項目を変更しつつ行っていくので、本シラバスに記載されていない日本の側面を扱うこともある。					
18.学習目標と DPとの関連	・文化の普遍性について理解できる。 ・日本の文化・社会を外側から、相対的に捉えることができる。 ・特定のトピックについてさまざまな観点から考察できる					
19.教科書・教材	特になし(適宜レジュメを配布する)					
20.参考文献	「新・英語で語る日本事情」江口裕之(著), ダニエル・ドゥーマス(著)					
21.成績評価	授業内小課題 30% グループワーク、プレゼンテーション 30% 総括試験 40%					
22.コメント	本授業は、留学生と日本人学生の活発な議論を行うことを前提にしている。両学生の積極的な参加を望む。日本人学生は留学生をサポートしながら、意見を聞き出すこと、また留学生は日本人にはない感性、観点から活発に意見を述べる事が求められる。当然のことながら、漫然と講義を聞くだけの姿勢の学生は、歓迎しないし、評価もしない。 留学生と日本人学生の積極的な議論を促すため、人数の調整(抽選)を行うことがある。 下記の授業内容にて、各回ごとにとりあげる予定のテーマを示すが、1)できるだけ、当該の時期に発生した時事問題					
23.オフィスアワー	金曜 2 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【オリエンテーション】 日本の神話と天皇 1					
第 2 回	日本の神話と天皇 2 神話と歴史書			○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習 (60 分)		
第 3 回	日本の天皇と神話 3 武士の台頭～明治維新			○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習 (60 分)		
第 4 回	日本の宗教 1 神道と仏教の伝来			○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習 (60 分)		

第 5 回	日本の宗教 2 キリスト教の伝来と国学	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 6 回	日本の宗教 3 海外との比較、宗教アレルギー等	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 7 回	天皇・神話・宗教のまとめ	○グループワーク 神社・寺院におけるフィールドワーク（120 分）
第 8 回	日本の教育 1 現在の教育の問題点	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 9 回	日本の教育 2 戦後の教育改革	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 10 回	日本の教育 3 教育需要の高まりと教育改革	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 11 回	日本の政治と経済 1 戦後改革と 55 年体制	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 12 回	日本の政治と経済 2 高度経済成長と停滞	○グループワーク 授業の議論のまとめの課題（90 分～120 分）
第 13 回	日本の現代の課題（グループワーク 1 プレゼンテーション作成）	○発表準備(180 分)
第 14 回	日本の現代の課題（グループワーク 2 動画作成）	○総括試験に向けた復習（120 分）
第 15 回	総括試験	総括試験の復習（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	GLS201-A81	2.科目名	グローバルスタディⅡ（カンボジア/2024 冬 プノンペン）		3.単位数	2
4.授業担当教員	尾崎慶太、馬場住子					
5.授業科目の区分	体験学修	6.必修・ 選択の区分	必修あるいは選 択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期～冬学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習、実習（学外活動）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	カンボジアは内戦以降、目覚ましい経済成長が進んでいる一方、様々な側面でその影響を及ぼしている。例えば、都心部以外では絶対的貧困が蔓延しており、生活の維持が困難な状況にある。都心部内でも格差が広がり、路上で生活している人々が多数存在する。子どもに目を向ければ、親の状況によって義務教育から離脱せざるを得ない状況にあり、教育の機会が剥奪されていることが問題視されている。この状況に鑑み、本活動では、学生が小学校を訪問し、十分に登校できなかったり、学習が遅れていたりする子どもを対象にした学習支援を展開し、子どもが安全・安心に教育を受ける機会を保障することに貢献することがねらいとなる。学習支援を通して、歴史的背景と教育への影響を関連付け、子どもの実態に合わせた効果的なプログラムを検討する能力の獲得をめざす。					
18.学習目標と DPとの関連	本プログラムでは、カンボジアの小学生に対する安全で効果的な学習支援が実施できることをねらいとする。その達成のために以下の具体的な学習目標を設定する。 ＜事前学習段階＞ 1.貧困状態にある子どもの特徴および教育格差について説明できる。 2.カンボジアの歴史的背景、教育事情を説明できる。 3.現地小学校で実行する貢献活動計画を作成できる。 ＜現地活動・事後学習段階＞ 4.活動計画実行において、問題点を抽出することができる。 5.問題点を解消する改善案を提案し実行できる。 6.他者からの意見・指摘・改善提案にもとづいた考察を外化できる。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布する					
20.参考文献	阿部彩（2008）『子どもの貧困―日本の不公平を考える―』岩波新書 工藤律子・篠田有史（2008）『子どもたちに寄り添う カンボジア―薬物・HIV・人身売買との闘い』JULA 出版局 山本一巳・山形辰史他（2007）『国際協力の現場から―開発にたずさわる若き専門家たち―』岩波ジュニア新書					
21.成績評価	＜事前学習＞ 【課題 1】小テスト 20％ 学習目標 1,2,対応 ・ 貧困状態にある子どもの特徴や教育の必要性、渡航先の歴史的背景や教育事情に関する内容 ・ webclass にて実施 【課題 2】貢献活動計画書 20％ ※グループ 学習目標 3 に対応 ・ 現地小学校での貢献活動の計画書を作成 ・ 計画書の内容をプレゼンし、他者の意見を反映させた修正案を最終提出とする ＜事後学習＞ 【課題 3】活動実施報告書 20％ ※グループ 学習目標 4,5 に対応 ・ 当初の計画、現地での修正内容、実行した結果をまとめた報告書を作成す					
22.コメント	・ 現地情勢によっては、目的地の変更、期間の短縮、プログラムの中止等になる場合があります。					

		・ 諸般の事情等により経費（航空運賃など）が変更になる場合があります。 以下の点については必須ではありませんが、各自の学びをより深めるために推奨している事項です。 ・ 小学校で算数を教えるプログラムであるため、教職関連科目を履修していると、プログラムに援用することができ、授業での学びと体験とを総合化することができます。 ・ 「東南アジアと日本」や「ボランティア論」の受講を推奨します。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	<事前活動> 参加者は事前活動として次の活動に取り組むこと ・ 現地活動資金確保のための活動（子どもに対する文房具・遊具等の提供資金） ・ 語学学習（クメール語、英語）	
	事前事後学習の日程については、後日案内します。 第1回 ・ オリエンテーション 第2回 ・ カンボジアの概要、活動概要の理解 ・ メンバーの理解	○【課題1】の実施※2/12までに各自で取り組むこと
	第3回 ・ 活動計画書の作成手順の理解 第4回 ・ 活動計画に関するグループディスカッション	◎活動計画書の作成
	第5回 ・ グループによる活動計画のプレゼンテーション 第6回 ・ 活動計画書の改善修正案の作成	◎活動計画書の修正 ★【課題2】の提出※2/12
	第7回-第9回 ・ 活動計画に基づくカンボジア語学習 ・ 教材、教具の作成	○活動計画に基づく指導案の作成
	第10回-第12回 ・ 模擬授業 ・ 模擬授業に対するグループディスカッション	○模擬授業を経た指導案（修正版）の作成
	第13回-第15回 ・ 現地活動プログラムの最終確認 ・ 渡航の準備 ・ 事前学習のふりかえり	
	<現地活動> ※下記日程は現段階での予定です。変更の可能性があります。 2月17日 出国 2月18日 カンボジアに関する学習（キリングフィールド、トゥールスレン） 2月19日-2月23日 小学校での活動 2月24日・25日 市内フィールドワーク 2月26日-3月1日 小学校での活動 3月2日 移動	○日々のふりかえり（日報作成）

	3月3日 カンボジアに関する学習（アンコールクラウ村フィールドワーク） 3月5日 帰国予定	
	第16回-第17回 ※3月中旬 ・現地活動のふりかえり ・活動実施報告書の作成準備	【課題3】◎活動実施報告書の作成 ○プレゼンテーションの準備
	第18回-第20回 ※3月下旬 ・プレゼンテーション ・テーマは事後レポートの内容に準じる	【課題4】○事後レポートの執筆 ★【課題3】活動実施報告書の提出
	第21回 ※3月下旬 ・全体のまとめ ★【課題4】事後レポートの提出※提出日は別途連絡	

1.授業コード (ナンバリング)	GLS203-Y51	2.科目名	課題研究(グローバルリサーチ) (GR 2023 年度生)		3.単位数	16
4.授業担当教員	Jonathan Aliponga					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年秋以降	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目は、グローバル人材として必要となる、「世界の人々の多様な価値観や文化を理解し、自ら考え、行動できる力」を育成することを目的としている。そのために、アジア太平洋地域の協定校を中心に1学期間のオンライン留学を行い、現地の社会や文化に関連した課題に取り組み、国際コミュニケーションについての知識や理解を深める。					
18.学習目標と DPとの関連	◎自分の持つ価値観とは異なる価値観を理解し、尊重できる ◎様々な事項をグローバルな視点から深く考えることができる ◎自分の考え方や行動についてグローバルな視点から振り返ることができる ◎英語によるコミュニケーション力の獲得（終了時に TOEIC600 点相当を最低限度とする） ◎派遣予定だった国の文化、歴史、現地事情、日本との関係について理解し、自分のことばで語ることができる (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (4)問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	授業時に適宜配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	本科目の評価は、下記に示すようにオンラインでの活動、授業成果物、発表、最終レポート等から総合的になされる。 ・ 課題研究ゼミ（評価と実践Ⅱ）での課題 10% ・ 最終レポート and/or ポスター発表 30% 国際社会・文化関連・ビジネスに関連した課題の調査研究のポスター発表 ・ 協定校オンライン科目 and/or 協定校オンライン短期科目 and/or 学科関連科目（グローバル歴史、言語と文化、国際関係の中から状況に応じて履修） 60%（学生によって組み合わせが異なる） 専門演習Ⅰで作成した各自の研究					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	各自リフレクションワーク（専門演習Ⅰでやった内容については詳細に記入）			e-portfolio に、専門演習Ⅰで作成したリサーチ論文を、その後のリサーチ状況や履修内容等に鑑み、更新、投稿		
Week2~4	担当教員と連絡をとりあい、現状の確認 （履修科目等の報告、リサーチ計画の再確認・修正） 授業履修・オンライン活動 etc.			e-portfolio に、 オンラインでの活動報告、 履修科目等確定事項の報告、リサーチ計画の再確認・修正を行い投稿		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	GLS203-Y52	2.科目名	課題研究(グローバルリサーチ) (GR 2023 年度生)		3.単位数	16
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際ビジネス専攻 国際文化専攻			9.履修学年	2 年次以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	集中 (演習、討論)	
16.履修制限	学科で受講を指定された者 (海外 GR は、TOEIC450 点以上)					
17.授業の目的と概要	本科目は、グローバル人材として必要となる、「世界の人々の多様な価値観や文化を理解し、自ら考え、行動できる力」を育成することを目的としている。そのために、アジア太平洋地域の協定校を中心に 1 学期間の留学を行い、国際社会および日本国内における課題を国際的な観点から解決する手段を考えることによって、国際コミュニケーションについての知識や理解を深める。					
18.学習目標と DP との関連	以下の点において本学 DP の学修に関連しています。 ◎自分の持つ価値観とは異なる価値観を理解し、尊重できる ◎様々な事項をグローバルな視点から深く考えることができる ◎自分の考え方や行動についてグローバルな視点から振り返ることができる ◎英語によるコミュニケーション力の獲得 (終了時に TOEIC600 点相当を最低限度とする) ◎滞在国の文化、歴史、現地事情、日本との関係について理解し、自分のことばで語ることができる					
19.教科書・教材	各受講科目の指示による					
20.参考文献	各授業担当者の指示に従う					
21.成績評価	本科目の評価は、下記に示すように現地での活動、授業成果物、現地報告、最終レポート等から総合的になされる。 1) 協定大学授業科目：80% (毎週提出する現地報告書も評価に含む) 2) 課題研究ゼミ (評価と実践 2 のゼミアワー) 最終プレゼンテーション+最終レポート (3000 文字)：20% (ルーブリックに基づき評価) * 1) は、学生 1 人 1 人が異なる組み合わせにより履修するので、各自の履修登録科目により 80% の内訳は異なる。 * 2) のプレゼンテーション、レポートの研究テーマは、原則として					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 2 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	各自リフレクションワーク (特に今学期の目標,現地リサーチテーマについて詳細に記入) アドバイザーと面談し、GR 履修について履修指導を受けて登録する。			e-portfolio に、専門演習 1 で作成したリサーチ計画を、現地での状況、履修内容等に鑑み、更新、投稿		
Weeks 2-4	アドバイザーと連絡をとりあい、現状の確認をする。 (履修科目等の報告、リサーチ計画の再確認・修正) 授業履修			e-portfolio に、履修科目等確定事項の報告、リサーチ計画の再確認・修正を行い投稿、アドバイザーとの面談による報告		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	GLS203-Y53	2.科目名	課題研究(グローバルリサーチ) (GR 2023 年度生)		3.単位数	16
4.授業担当教員	伊藤創					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際ビジネス専攻 国際文化専攻			9.履修学年	2 年次以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	集中(演習、討論)	
16.履修制限	学科で受講を指定された者 (海外 GR は、TOEIC450 点以上)					
17.授業の目的と概要	本科目は、グローバル人材として必要となる、「世界の人々の多様な価値観や文化を理解し、自ら考え、行動できる力」を育成することを目的としている。そのために、アジア太平洋地域の協定校を中心に 1 学期間の留学を行い、国際社会および日本国内における課題を国際的な観点から解決する手段を考えることによって、国際コミュニケーションについての知識や理解を深める。					
18.学習目標と DP との関連	以下の点において本学 DP の学修に関連しています。 ◎自分の持つ価値観とは異なる価値観を理解し、尊重できる ◎様々な事項をグローバルな視点から深く考えることができる ◎自分の考え方や行動についてグローバルな視点から振り返ることができる ◎英語によるコミュニケーション力の獲得(終了時に TOEIC600 点相当を最低限度とする) ◎滞在国の文化、歴史、現地事情、日本との関係について理解し、自分のことばで語ることができる					
19.教科書・教材	各受講科目の指示による					
20.参考文献	各授業担当者の指示に従う					
21.成績評価	本科目の評価は、下記に示すように現地での活動、授業成果物、現地報告、最終レポート等から総合的になされる。 1) 協定大学授業科目: 80% (毎週提出する現地報告書も評価に含む) 2) 課題研究ゼミ(評価と実践 2 のゼミアワー) 最終プレゼンテーション+最終レポート(3000 文字): 20% (ルーブリックに基づき評価) * 1) は、学生 1 人 1 人が異なる組み合わせにより履修するので、各自の履修登録科目により 80% の内訳は異なる。 * 2) のプレゼンテーション、レポートの研究テーマは、原則として					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 2 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	各自リフレクションワーク(特に今学期の目標,現地リサーチテーマについて詳細に記入) アドバイザーと面談し、GR 履修について履修指導を受けて登録する。			e-portfolio に、専門演習 1 で作成したリサーチ計画を、現地での状況、履修内容等に鑑み、更新、投稿		
Weeks 2-4	アドバイザーと連絡をとりあい、現状の確認をする。 (履修科目等の報告、リサーチ計画の再確認・修正) 授業履修			e-portfolio に、履修科目等確定事項の報告、リサーチ計画の再確認・修正を行い投稿、アドバイザーとの面談による報告		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	GLS203-Y54	2.科目名	課題研究(グローバルリサーチ) (国内)		3.単位数	16
4.授業担当教員	實川真理子、清水拓野、Patrick Shorb、Binondo Fairlynn Dulla、吉田ひと美					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部 英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年秋以降	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目は、グローバル人材として必要となる、「世界の人々の多様な価値観や文化を理解し、自ら考え、行動できる力」を育成することを目的としている。そのために、アジア太平洋地域の協定校を中心に1学期間のオンライン留学を行い、現地の社会や文化に関連した課題に取り組み、国際コミュニケーションについての知識や理解を深める。					
18.学習目標と DPとの関連	◎自分の持つ価値観とは異なる価値観を理解し、尊重できる ◎様々な事項をグローバルな視点から深く考えることができる ◎自分の考え方や行動についてグローバルな視点から振り返ることができる ◎英語によるコミュニケーション力の獲得（終了時に TOEIC600 点相当を最低限度とする） ◎派遣予定だった国の文化、歴史、現地事情、日本との関係について理解し、自分のことばで語ることができる (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） (4)問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	授業時に適宜配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	本科目の評価は、下記に示すようにオンラインでの活動、授業成果物、発表、最終レポート等から総合的になされる。 ・ 課題研究ゼミ（評価と実践Ⅱ）での課題 10% ・ 最終レポート and/or ポスター発表 30% 国際社会・文化関連・ビジネスに関連した課題の調査研究のポスター発表 ・ 協定校オンライン科目 and/or 協定校オンライン短期科目 and/or 学科関連科目（グローバル歴史、言語と文化、国際関係の中から状況に応じて履修） 60%（学生によって組み合わせが異なる） 専門演習Ⅰで作成した各自の研究					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	各自リフレクションワーク（専門演習Ⅰでやった内容については詳細に記入）			e-portfolio に、専門演習Ⅰで作成したリサーチ論文を、その後のリサーチ状況や履修内容等に鑑み、更新、投稿		
Week2~4	担当教員と連絡をとりあい、現状の確認 （履修科目等の報告、リサーチ計画の再確認・修正） 授業履修・オンライン活動 etc.			e-portfolio に、 オンラインでの活動報告、 履修科目等確定事項の報告、リサーチ計画の再確認・修正を行い投稿		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	HET101-M51	2.科目名	生涯スポーツⅠ		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種			11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	実技	
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 身体を動かすことの楽しさやスポーツで自己表現することの喜び、仲間と協力することの重要性を理解し、自分自身の健康管理に役立てる能力を身につけることを目指します。 【概要】 授業では、様々な球技種目やニュースポーツを通じて、グループ内での自分の役割を認識して行動することになります。この体験を通して、自己理解を深めると共に他者への貢献という意識も養います。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③戦術の理解やパフォーマンス力・バランス力等を表現できるようになる。 ④自分自身で健康管理を行う能力を身につける。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回授業時課題：8 点→学習目標①に対応 第 2・3・4・5・6・7・9・10・11・12・13 回実技評価：66 点→学習目標①～④に対応 第 8 回課題：10 点→学習目標①～④に対応 第 15 回課題：16 点→学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			◆筆記用具◆		

	(受講希望者が20名を超える場合は、第1回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第2回】	【実技】 「インディアカ」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第3回】	【実技】 「バドミントン(1)」 ・ 種目紹介 ・ ルールの理解 ・ ペアのコミュニケーションドリル ・ ダブルスゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第4回】	【実技】 「バドミントン(2)」 ・ ショットの打ち分け ・ シングルスゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第5回】	【実技】 「卓球」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第6回】	【実技】 「バレーボール(1)」 ・ 種目紹介 ・ 肩慣らしからパスワーク ・ サーブを確実に ・ ルール説明 ・ ゲームシュミレーション	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第7回】	【実技】 「バレーボール(2)」 ・ 基本スキルの確認 ・ レシーブドリル ・ アタックとブロックモーション ・ ゲーム形式	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア・体育館用シューズ
【第8回】	【講義】 「中間レポート」 課題：「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結果・感想をまとめる。	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★レポート提出
【第9回】	【実技】 「ドッチビー」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ◆
【第 10 回】	【実技】 「アルティメット」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキル ・ ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・運動場用シューズ
【第 11 回】	【実技】 「フットサル」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキルを習得 ・ ルールの理解 ・ ゲーム形式	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・運動場用シューズ
【第 12 回】	【実技】 「バスケットボール(1)」 ・ 種目紹介 ・ 基本スキルを習得 ・ ルールの理解 ・ ゲームシュミレーション	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 13 回】	【実技】 「バスケットボール(2)」 ・ 基本スキルの確認 ・ 応用ドリル ・ ゲーム形式	予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・体育館用シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技種目の振り返りとまとめ」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第 15 回】	【講義】 「学期末レポート」 課題：「トップアスリートから学ぶ」と題して、映像資料よりアスリートの状況や心情を観察し、感想をまとめる。	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HET101-M81	2.科目名	生涯スポーツⅠ		3.単位数	1
4.授業担当教員	高見彰					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス (健康とスポーツ)	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	全学部/全学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	教職		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	座学 2 コマ+実技 13 コマ		
16.履修制限	実技指導の関係で、受講者数は 15 名までとする。					
17.授業の目的と概要	本授業では、「ゴルフのまち三木」にある大学という立地を生かし、ゴルフの歴史などのゴルフ文化を学びながら、プロの指導者による体幹トレーニングやゴルフレッスンの実技を通して、身体のメカニズム知り実際にプレーすることで、生涯にわたる自分自身の余暇の充実、健康管理に役立てることをめざす。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業では、以下の 2 つを目標とする。 ①三木市内には 25 のゴルフ場がある。三木市内に唯一の大学として、ゴルフ場内のマナーや文化について学ぶ。 ②生涯にわたってゴルフをプレーすることで、余暇の充実、健康維持を実践するきっかけとする。					
19.教科書・教材	適宜、授業中に配付します。					
20.参考文献	適宜、授業中に紹介します。					
21.成績評価	・実技評価：50％ ・確認テスト：30％ ・レポート：20％ 詳細は授業中に指示する。 テーマ：期間中に提示します					
22.コメント	○この授業は三木市役所、三木市ゴルフ協会との連携によって開講されます。 ○座学部分は三木キャンパスで、実技部分は本学グラウンドと三木ゴルフ倶楽部で実施する予定です。 ○三木ゴルフ倶楽部までは各自で移動してください。大学からの送迎はありません。 ○実技の授業では、ゴルフ用具は用意しますが、スポーツウェアまたは動きやすい服装と屋外用のスポーツシューズ（スニーカー可）は各自で用意してください。寒さが予想されますので外での活動に耐えられる服装を用意してください。 ○終日、三木ゴルフ倶楽部で活動する日の昼食は、ゴル					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
◇1 日目 【1 回目】 大学内施設	ガイダンス 講義：ゴルフの知識			スポーツウエアまたは動きやすい服装		
【2 回目】	実技：スナッグゴルフで「はじめの一步」			スポーツウエアまたは動きやすい服装		
◇2 日目 【3 回目】 三木ゴルフ倶 楽部	実技：ゴルフ基礎レッスン①			スポーツウエアまたは動きやすい服装		
【4 回目】	実技：ゴルフ基礎レッスン②			スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）		

三木ゴルフ倶楽部		
【5回目】 三木ゴルフ倶楽部	実技：ゴルフ基礎レッスン③	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）
【6回目】 三木ゴルフ倶楽部	実技：ゴルフ基礎レッスン④	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）
◇3日目 【7回目】 三木ゴルフ倶楽部	実技：ゴルフ基礎レッスン⑤	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）
【8回目】 三木ゴルフ倶楽部	実技：ゴルフ基礎レッスン⑥	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）
【9回目】 三木ゴルフ倶楽部	実技：ゴルフ基礎レッスン⑦	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）
【10回目】 三木ゴルフ倶楽部	実技：ゴルフ基礎レッスン⑧	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）
◇4日目 【11回目】 三木ゴルフ倶楽部	実技：ゴルフ基礎レッスン⑨	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）
【12回目】 三木ゴルフ倶楽部	実技：ゴルフ基礎レッスン⑩	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）
【13回目】 三木ゴルフ倶楽部	実技：ゴルフ基礎レッスン⑪	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）
【14回目】 三木ゴルフ倶楽部	実技：ゴルフ基礎レッスン⑫	スポーツウエアまたは動きやすい服装と屋外用スポーツシューズ（スニーカー可）
◇5日目 【15回目】 大学教室	まとめと総括テスト	教室にてまとめとテストを行う。ルールやマナーなど授業中の配付資料を再度確認し、理論を確実なモノにしてください。

1.授業コード (ナンバリング)	HET102-A51	2.科目名	生涯スポーツII		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越えた場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 自分達でスポーツイベントを企画し運営することで、企画立案やグループワークに必要な能力を身につけることを目的とします。 【概要】 「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。 テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。 ④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回 j 授業時課題：8 点 → 学習目標①に対応 第 3 回：企画書：10 点 → 学習目標①～④に対応 第 2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13 回実技：66 点 → 学習目標①～④に対応 第 15 回：最終レポート：16 点 → 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			【持参物】筆記用具		

	(受講希望者が 20 名を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第 2 回】	【実技】 企画事例の紹介 「インディアカ」 ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）、クールダウン、後片付け	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 3 回】	【講義】 「実技種目の企画書作成」 企画実施例の紹介 ・企画書作成	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★企画書提出
【第 4 回】	【実技】 「企画種目 1」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 5 回】	【実技】 「企画種目 2」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 6 回】	【実技】 「企画種目 3」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 7 回】	【実技】 『企画種目 4』	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 8 回】	【実技】 「企画種目 5」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 9 回】	【実技】 「企画種目 6」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 10 回】	【実技】 「企画種目 7」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 11 回】	【実技】 「企画種目 8」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 12 回】	【実技】 「企画種目 9」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 13 回】	【実技】 「企画種目 10」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技の振り返りとまとめ」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具
【第 15 回】	【講義】 学期末レポート 課題：「トップアスリートから学ぶこと」と題して、映像資料からアスリートが直面する問題を分析し、まとめる。	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HET102-A52	2.科目名	生涯スポーツII		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越えた場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 自分達でスポーツイベントを企画し運営することで、企画立案やグループワークに必要な能力を身につけることを目的とします。 【概要】 「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。 テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。 ④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回 j 授業時課題：8 点 → 学習目標①に対応 第 3 回：企画書：10 点 → 学習目標①～④に対応 第 2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13 回実技：66 点 → 学習目標①～④に対応 第 15 回：最終レポート：16 点 → 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			【持参物】筆記用具		

	(受講希望者が 20 名を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第 2 回】	【実技】 企画事例の紹介 「インディアカ」 ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）、クールダウン、後片付け	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 3 回】	【講義】 「実技種目の企画書作成」 企画実施例の紹介 ・企画書作成	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★企画書提出
【第 4 回】	【実技】 「企画種目 1」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 5 回】	【実技】 「企画種目 2」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 6 回】	【実技】 「企画種目 3」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 7 回】	【実技】 『企画種目 4』	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 8 回】	【実技】 「企画種目 5」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 9 回】	【実技】 「企画種目 6」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 10 回】	【実技】 「企画種目 7」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 11 回】	【実技】 「企画種目 8」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 12 回】	【実技】 「企画種目 9」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 13 回】	【実技】 「企画種目 10」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技の振り返りとまとめ」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具
【第 15 回】	【講義】 学期末レポート 課題：「トップアスリートから学ぶこと」と題して、映像資料からアスリートが直面する問題を分析し、まとめる。	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HET102-A81	2.科目名	生涯スポーツII		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。					
17.授業の目的と概要	【目的】 自分達でスポーツイベントを企画し運営することで、企画立案やグループワークに必要な能力を身につけることを目的とします。 【概要】 「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。 テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。 ④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回：企画書：10 点： → 学習目標①～④に対応 第 4・7・10 回：授業時課題：18 点 → 学習目標①に対応 第 2・3・5・6・8・9・11・12・13 回実技：54 点 → 学習目標①～④に対応 第 14 回：最終レポート：12 点 → 学習目標①～④に対応 第 15 回：振り返りとまとめ：6 点 → 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・プレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・「実技種目の企画書作成」 企画実施例の紹介 ・企画書作成			★企画書提出 ◆筆記用具◆		

【第2回】	【実技】 「ボディメンテナンス」 ・姿勢&柔軟性チェック ・インナーバランス	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第3回】	【実技】 企画事例の紹介 「インディアカ」 ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）、クールダウン、後片付け	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第4回】	【講義】 ・課題「受講理由と目標」作成 ・自己紹介	★課題提出 ◆筆記用具
【第5回】	【実技】 「企画種目1」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第6回】	【実技】 「企画種目2」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第7回】	【講義】 「中間レポート」 課題：「スポーツ現場から学ぶ」と題して、資料より学んだ結果・感想をまとめる。	★レポート提出 ◆筆記用具
【第8回】	【実技】 「企画種目3」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第9回】	【実技】 「企画種目4」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第10回】	【講義】 「スポーツの可能性について」	★課題提出 ◆筆記用具◆
【第11回】	【実技】 「企画種目5」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第12回】	【実技】 「企画種目6」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。

		【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 13 回】	【実技】 「企画種目 7」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア、シューズ
【第 14 回】	【講義】 学期末レポート 課題：「トップアスリートから学ぶこと」と題して、映像資料からアスリートが直面する問題を分析し、まとめる。	★レポート提出 ◆筆記用具◆
【第 15 回】	【講義】 「振り返りとまとめ」	★課題提出 ◆筆記用具

1.授業コード (ナンバリング)	HET102-M51	2.科目名	生涯スポーツII		3.単位数	1
4.授業担当教員	土肥隆					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件	春学期開講科目「生涯スポーツⅠ」を履修済みであることがのぞましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。					
17.授業の目的と概要	【目的】 自分達でスポーツイベントを企画し運営することで、企画立案やグループワークに必要な能力を身につけることを目的とします。 【概要】 「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。 テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。 ④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 第 1 回：受講理由と目標：5 点 . . . 学習目標①に対応 第 3 回：企画書：5 点 . . . 学習目標①～④に対応 第 2・4・5・6・8・9・10・11・13・14 回実技：50 点 . . . 学習目標①～④に対応 第 7 回：中間レポート：10 点 . . . 学習目標①に対応 第 1 2 回：最終レポート：20 点 . . . 学習目標①～④に対応 第 15 回：ふりかえりシート：10 点 . . . 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	月曜日・昼休み 体育館教員控え室					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	【オリエンテーション】 授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 「受講理由と目標」作成	提出物：「受講理由と目標」 持参物：筆記用具
【第2回】	【実技・グループワーク】 企画事例の紹介 バレーボール ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）、クールダウン、後片付け	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第3回】	【グループワーク】 「実技種目の企画書作成」 企画実施例の紹介 ・企画書作成	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具・スポーツウェア・シューズ
【第4回】	【実技・グループワーク】 「企画種目1」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第5回】	【実技・グループワーク】 「企画種目2」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第6回】	【実技・グループワーク】 「企画種目3」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第7回】	【講義】 中間レポート テーマは当日発表する	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第8回】	【実技・グループワーク】 「企画種目4」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第9回】	【実技・グループワーク】 「企画種目5」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第10回】	【実技・グループワーク】	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整

	「企画種目 6」	えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 11 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 7」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 12 回】	【講義】 最終レポートのテーマ、作成方法、書式等に関する講義を行う	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第 13 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 8」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 14 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 9」 最終レポート提出	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 15 回】	【講義】 今期のふりかえり ふりかえりシート提出	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具

1.授業コード (ナンバリング)	HET102-M52	2.科目名	生涯スポーツII		3.単位数	1
4.授業担当教員	土肥隆					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件	春学期開講科目「生涯スポーツⅠ」を履修済みであることがのぞましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。					
17.授業の目的と概要	【目的】 自分達でスポーツイベントを企画し運営することで、企画立案やグループワークに必要な能力を身につけることを目的とします。 【概要】 「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。 テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。 ④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 第 1 回：受講理由と目標：5 点 . . . 学習目標①に対応 第 3 回：企画書：5 点 . . . 学習目標①～④に対応 第 2・4・5・6・8・9・10・11・13・14 回実技：50 点 . . . 学習目標①～④に対応 第 7 回：中間レポート：10 点 . . . 学習目標①に対応 第 1 2 回：最終レポート：20 点 . . . 学習目標①～④に対応 第 15 回：ふりかえりシート：10 点 . . . 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	月曜日・昼休み 体育館教員控え室					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	【オリエンテーション】 授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 「受講理由と目標」作成	提出物：「受講理由と目標」 持参物：筆記用具
【第 2 回】	【実技・グループワーク】 企画事例の紹介 バレーボール ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）、クールダウン、後片付け	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 3 回】	【グループワーク】 「実技種目の企画書作成」 企画実施例の紹介 ・企画書作成	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具・スポーツウェア・シューズ
【第 4 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 1」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 5 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 2」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 6 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 3」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 7 回】	【講義】 中間レポート テーマは当日発表する	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第 8 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 4」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 9 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 5」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 10 回】	【実技・グループワーク】	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整

	「企画種目 6」	えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 11 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 7」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 12 回】	【講義】 最終レポートのテーマ、作成方法、書式等に関する講義を行う	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具
【第 13 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 8」	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 14 回】	【実技・グループワーク】 「企画種目 9」 最終レポート提出	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】スポーツウェア・シューズ
【第 15 回】	【講義】 今期のふりかえり ふりかえりシート提出	【予習】規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】筆記用具

1.授業コード (ナンバリング)	HET102-M53	2.科目名	生涯スポーツII		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越えた場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 自分達でスポーツイベントを企画し運営することで、企画立案やグループワークに必要な能力を身につけることを目的とします。 【概要】 「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。 テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。 ④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回 j 授業時課題：8 点 → 学習目標①に対応 第 3 回：企画書：10 点 → 学習目標①～④に対応 第 2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13 回実技：66 点 → 学習目標①～④に対応 第 15 回：最終レポート：16 点 → 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			◆筆記用具◆		

	(受講希望者が 20 名を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第 2 回】	【実技】 企画事例の紹介 「インディアカ」 ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）、クールダウン、後片付け	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 3 回】	【講義】 「実技種目の企画書作成」 企画実施例の紹介 ・企画書作成	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★企画書提出
【第 4 回】	【実技】 「企画種目 1」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 5 回】	【実技】 「企画種目 2」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 6 回】	【実技】 「企画種目 3」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 7 回】	【実技】 『企画種目 4』	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 8 回】	【実技】 「企画種目 5」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 9 回】	【実技】 「企画種目 6」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 10 回】	【実技】 「企画種目 7」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 11 回】	【実技】 「企画種目 8」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 12 回】	【実技】 「企画種目 9」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 13 回】	【実技】 「企画種目 10」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技の振り返りとまとめ」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具
【第 15 回】	【講義】 学期末レポート 課題：「トップアスリートから学ぶこと」と題して、映像資料からアスリートが直面する問題を分析し、まとめる。	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HET102-Y51	2.科目名	生涯スポーツII		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越えた場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 自分達でスポーツイベントを企画し運営することで、企画立案やグループワークに必要な能力を身につけることを目的とします。 【概要】 「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。 テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。 ④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回 j 授業時課題：8 点 → 学習目標①に対応 第 3 回：企画書：10 点 → 学習目標①～④に対応 第 2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13 回実技：66 点 → 学習目標①～④に対応 第 15 回：最終レポート：16 点 → 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			【持参物】筆記用具		

	(受講希望者が 20 名を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第 2 回】	【実技】 企画事例の紹介 「インディアカ」 ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）、クールダウン、後片付け	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 3 回】	【講義】 「実技種目の企画書作成」 企画実施例の紹介 ・企画書作成	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★企画書提出
【第 4 回】	【実技】 「企画種目 1」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 5 回】	【実技】 「企画種目 2」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 6 回】	【実技】 「企画種目 3」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 7 回】	【実技】 『企画種目 4』	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 8 回】	【実技】 「企画種目 5」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 9 回】	【実技】 「企画種目 6」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 10 回】	【実技】 「企画種目 7」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 11 回】	【実技】 「企画種目 8」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 12 回】	【実技】 「企画種目 9」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 13 回】	【実技】 「企画種目 10」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技の振り返りとまとめ」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具
【第 15 回】	【講義】 学期末レポート 課題：「トップアスリートから学ぶこと」と題して、映像資料からアスリートが直面する問題を分析し、まとめる。	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HET102-Y52	2.科目名	生涯スポーツII		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越えた場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 自分達でスポーツイベントを企画し運営することで、企画立案やグループワークに必要な能力を身につけることを目的とします。 【概要】 「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。 テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。 ④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回 j 授業時課題：8 点 → 学習目標①に対応 第 3 回：企画書：10 点 → 学習目標①～④に対応 第 2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13 回実技：66 点 → 学習目標①～④に対応 第 15 回：最終レポート：16 点 → 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グランドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			【持参物】筆記用具		

	(受講希望者が 20 名を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第 2 回】	【実技】 企画事例の紹介 「インディアカ」 ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）、クールダウン、後片付け	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 3 回】	【講義】 「実技種目の企画書作成」 企画実施例の紹介 ・企画書作成	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★企画書提出
【第 4 回】	【実技】 「企画種目 1」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 5 回】	【実技】 「企画種目 2」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 6 回】	【実技】 「企画種目 3」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 7 回】	【実技】 『企画種目 4』	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 8 回】	【実技】 「企画種目 5」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 9 回】	【実技】 「企画種目 6」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 10 回】	【実技】 「企画種目 7」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 11 回】	【実技】 「企画種目 8」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 12 回】	【実技】 「企画種目 9」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 13 回】	【実技】 「企画種目 10」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技の振り返りとまとめ」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具
【第 15 回】	【講義】 学期末レポート 課題：「トップアスリートから学ぶこと」と題して、映像資料からアスリートが直面する問題を分析し、まとめる。	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HET102-Y53	2.科目名	生涯スポーツⅡ		3.単位数	1
4.授業担当教員	倉地博美					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実技		
16.履修制限	実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが、最低条件となります。 20 名を越える場合は、選考による履修制限があります。 履修希望者が定員を越えた場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考を行いますので、必ず出席すること。					
17.授業の目的と概要	【目的】 自分達でスポーツイベントを企画し運営することで、企画立案やグループワークに必要な能力を身につけることを目的とします。 【概要】 「スポーツの楽しさを伝える」をテーマに企画書を作成し、計画に基づいた内容を実施します。 テーマ達成のための目標を明らかにし、指導内容やタイムスケジュールの管理など、事前準備から実際の現場までの流れを体験することになります。将来、さまざまな場面でグループやチームで活動する際に有用な学修となります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本授業の学修目標は次のとおりです。 ①スポーツをする・みることに興味・関心を持つ。 ②共に活動するメンバーと協力し、自分の役割を把握・実行できるようになる。 ③他者のために自分の能力を生かすことができるようになる。 ④今何をすべきかを常に考えながら行動できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書は使いません。					
20.参考文献	必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	第 1 回 j 授業時課題：8 点 → 学習目標①に対応 第 3 回：企画書：10 点 → 学習目標①～④に対応 第 2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13 回実技：66 点 → 学習目標①～④に対応 第 15 回：最終レポート：16 点 → 学習目標①～④に対応					
22.コメント	・実技科目につき、原則として講義へ積極的に参加することが最低条件となります。 ・ジャージ等の、運動に適した服装と、体育館の場合は室内専用運動靴、グラウンドの場合は外用運動靴を用意すること。用意しなかった場合は、減点対象となります。 ・ネックレス・ピアス・リング・ブレスレット・腕時計等のアクセサリーは、他者に怪我を及ぼす危険があると見なします。装着の場合は、減点対象となります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・授業のねらい、進め方、評価方法等の説明 ・課題「受講理由と目標」作成			【持参物】筆記用具		

	(受講希望者が 20 名を越える場合は、第 1 回授業時に提示する課題により選考し、履修者を確定)	
【第 2 回】	【実技】 企画事例の紹介 「インディアカ」 ウォーミングアップ・グループごとの練習と戦術・ルール説明・ゲーム（トーナメント又はリーグ戦）、クールダウン、後片付け	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 3 回】	【講義】 「実技種目の企画書作成」 企画実施例の紹介 ・企画書作成	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★企画書提出
【第 4 回】	【実技】 「企画種目 1」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 5 回】	【実技】 「企画種目 2」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 6 回】	【実技】 「企画種目 3」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 7 回】	【実技】 『企画種目 4』	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 8 回】	【実技】 「企画種目 5」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 9 回】	【実技】 「企画種目 6」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 10 回】	【実技】 「企画種目 7」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。

		ニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 11 回】	【実技】 「企画種目 8」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 12 回】	【実技】 「企画種目 9」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 13 回】	【実技】 「企画種目 10」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 スポーツウェア、シューズ
【第 14 回】	【講義】 「実技の振り返りとまとめ」	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具
【第 15 回】	【講義】 学期末レポート 課題：「トップアスリートから学ぶこと」と題して、映像資料からアスリートが直面する問題を分析し、まとめる。	【予習】 規則正しい生活を心がけ、体調を整えて授業に臨む。 【復習】 授業で学習したストレッチやトレーニングを自宅で行う。 【持参物】 筆記用具 ★レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	HIS101-Y51	2.科目名	日本史概説		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田武弘					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業では、政治史を中心に近代日本の歴史について概説する。こうした授業を通じ、受講者の皆さんに、近代という時代、またその延長上にある現在という時代について、歴史学的に考える力を育ててもらうことが本授業の目的である。 こうしたテーマを考えるための視点としてこの授業では、明治憲法体制と呼ばれるシステムに注目する。明治憲法は大日本帝国憲法の別名であり、明治時代に作られたことからこう呼ばれる。明治憲法体制とは文字通り、この憲法下の政治体制のことをいう。 ところで、教科書には必ず出てくるこの憲法だが、その内容をしっかり読み込んだことがある！という方はどれくらいいらっしゃるだろうか。「神聖ニシテ侵スヘカラス」といったいかにも「戦前らしい」文言だけが有名かもしれない。しかし、こうした箇所を乗り越えて読み進めていくと、そこにはたくさんの発見がある。たとえば、現在の日本国憲法と比べたとき、書かれていないことがやたらと多い。主権、総理大臣、内閣……これらは明治憲法に登場しない単語である。近代日本は主権国家を目指して出発したと習われた方も多いだろう。しかし、大日本帝国の根本たるべき憲法に主権という言葉は登場しない。受験対策などで総理大臣の名前をたくさん覚えたという方も多いだろう。しかし、明治憲法自体には、その総理や総理が率いる内閣については記されていない。 なぜだろうか。 実はこのあたりに、近代日本の政治史を理解するヒントがある。そこでこの授業では、①こうした少し「不思議」な憲法（体制）がなぜ出来たのか、②こうした体制の下で政治はどのような影響を受けたのか、③そしてこうした体制はなぜ崩壊していったのか（そして、最後に時間が許せば④こうした体制は現在にどのような影響を与えているのか）についてそれぞれ考えながら、近代日本の政治史を概観していく。 本授業では、人名や年号の暗記を求めることはしないので、高校までの受験科目・日本史が苦手だったという方も気楽に受講してほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業で扱う日本列島地域は、非西洋圏でもかなり早い時期に「近代化」と呼ばれる現象を経験したという世界史的特徴をもつ。その意味で日本を事例に考えることは、地球全体を巻き込んだ「近代」という時代を深くとらえ、そこから様々な地域との共通点や違いを考えることにつながる（DP3.多様性理解）。 また、我々が生活する現在と直接的につながる近代について知り、また自身で考えることは、今日の社会やそこにおける問題をより深くとらえ、必要があれば解決策を検討していく大きな助けともなるだろう（DP4. 問題発見・解決力）。 くわえて、近代日本について必要な知識を学ぶことは、専門的知識や技能の獲得、またそれを活用していくことの重要な一部となるはずである（DP6.専門知識・技能の活用力）。					
19.教科書・教材	とくに教科書は定めない。授業では毎回資料を配布し、これに沿って授業を進める。					
20.参考文献	参考文献は毎回の授業で提示する。ここでは何冊かとくにおすすめの本を挙げておくので、気が向いたらぜひ手に取ってみてほしい。単に目次をながめてみるだけでも、授業を理解する助けになるだろう。					

	川北稔『イギリス近代史講義』（講談社、2010） 「近代」とはそもそもどんな時代なのか。イギリスをテーマにしつつ、近代日本を考える上でも極めて有益。しかも大変読みやすい。 奈良勝司『明治維新をとらえ直す』（有志舎、2018） 近世から近代へと時代が移り変わるとき、日本列島地域に何が起こったのか。それはどのような影響	
21.成績評価	学期末テスト 90% 日常点 10% 基本的には学期末のテストによって評定を行う（内容等は授業のなかで説明する）。 くわえて、毎回、web あるいはペーパーで授業への感想や質問を募集する。提出するかどうかは任意とするが、授業に資するものには前記の範囲で加点を行う（減点は行わない）。ただしいわゆる出席点（この場合、座っているだけで付く点数）を付すためのものではないので、必ずしも提出者全員に加点するわけではない。	
22.コメント	この授業は、人名や事件、年代などを詳しく暗記することは求めない。ただし、全ての事柄を詳しく説明する時間はないので、自信がない場合は必要に応じて高校の教科書などを読み返しておくこと。また、分からない単語などを自分で調べながら受講することも推奨する。	
23.オフィスアワー	質問等は授業後の時間に受け付ける。また、毎回ペーパーまたは web から質問等を受け付けたい。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	近代日本から考える 授業の進め方などに関する説明・導入。	
	明治憲法体制成立編①近世の諸相 近代の1つ前の時代・近世について、東アジアと西ヨーロッパを比較しながら考え、それがどのように近代につながっていくのかを検討する。	
	明治憲法体制成立編②近代日本の出発 ウェスタン・インパクトと呼ばれる現象がどのような影響を与えたのかという視点から近代日本の出発を考える。	
	明治憲法体制成立編③王政復古と近代天皇制の誕生 近代日本を考えるうえで欠かせない近代天皇制がどのような特徴をもち、それがいかなる課題に応えるために誕生してきたのかについて検討する。	
	明治憲法体制成立編④明治憲法の制定 「国の形」とも呼ばれる憲法がこれまでの授業で見てきた流れの中からどのような影響を受け、いかなる特徴をもって成立したのかを考える。	
	明治憲法体制運用編①帝国議会と藩閥政府 憲法の誕生とともに生まれた帝国議会の特徴、そして議会と藩閥政府との関係を中心に明治憲法体制の出発を考える。	
	明治憲法体制運用編②彼らが政党を求めた理由 今日まで多くの国で政治を担う政党。日本における政党がどのように政治的影響力を伸ばしていったのかについて、明治憲法体制との関係を中心に考える。	

	明治憲法体制運用編③政党・官僚と「議会の時代」 憲法とともにスタートした帝国議会在政治の中枢を担っていく時代がどのように成立してきたのかについて、政党と官僚との関係という視点から検討する。	
	明治憲法体制運用編④「国民」の登場 近代日本の重要な構成要素である「国民」が政治的な意味でどのように「登場」してくるのかについて考える。	
	明治憲法体制運用編⑤大正政治史の出発 時代が明治から大正へと移り変わるなかで、どのような新たな課題が現れ、またどのような課題が明治から引き継がれたのかについて考える。	
	明治憲法体制運用編⑥「大衆化」と挙国一致 第1次世界大戦前後から世界的に現れてくる「大衆化」現象と同時期に日本政治のキーワードとなった「挙国一致」という語がもった意味を連関的に検討する。	
	明治憲法体制運用編⑥憲政常道と両院縦断 政党政治の時代が本格的に訪れるなかで、そこにおける政治のあり方をめぐる2つの政党政治構想と両者の衝突が与えた影響を考える。	
	明治憲法体制運用編⑦&崩壊編①政党内閣期は「衆議院の時代」なのか 政党勢力が連続的に政権を担った時代・政党内閣期。この時代の特徴を明治憲法体制との関係また国民の代表が政治を担うということがもった意味という視点から考える。	
	明治憲法体制崩壊編②「真の代表」と統合主体の不在 衆議院が国民の代表として期待できないと考えられたとき、どのような現象が生じたのか、また政党の勢力減退はいかなる影響を与えたのか。こうした問題を明治憲法体制が出発地点の段階から有するタテマエとの関係からとらえ、明治憲法体制の崩壊について考える。	
	再び近代日本から考える これまでの授業を振り返りつつ、明治憲法体制が戦後に与えた影響を検討し、あらためて近代という時代、またその延長上にある現在について考える。	

1.授業コード (ナンバリング)	HIS101-m51	2.科目名	日本史概説		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田武弘					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業では、政治史を中心に近代日本の歴史について概説する。こうした授業を通じ、受講者の皆さんに、近代という時代、またその延長上にある現在という時代について、歴史学的に考える力を育ててもらうことが本授業の目的である。 こうしたテーマを考えるための視点としてこの授業では、明治憲法体制と呼ばれるシステムに注目する。明治憲法は大日本帝国憲法の別名であり、明治時代に作られたことからこう呼ばれる。明治憲法体制とは文字通り、この憲法下の政治体制のことをいう。 ところで、教科書には必ず出てくるこの憲法だが、その内容をしっかり読み込んだことがある！という方はどれくらいいらっしゃるだろうか。「神聖ニシテ侵スヘカラス」といったいかにも「戦前らしい」文言だけが有名かもしれない。しかし、こうした箇所を乗り越えて読み進めていくと、そこにはたくさんの発見がある。たとえば、現在の日本国憲法と比べたとき、書かれていないことがやたらと多い。主権、総理大臣、内閣……これらは明治憲法に登場しない単語である。近代日本は主権国家を目指して出発したと習われた方も多いだろう。しかし、大日本帝国の根本たるべき憲法に主権という言葉は登場しない。受験対策などで総理大臣の名前をたくさん覚えたという方も多いだろう。しかし、明治憲法自体には、その総理や総理が率いる内閣については記されていない。 なぜだろうか。 実はこのあたりに、近代日本の政治史を理解するヒントがある。そこでこの授業では、①こうした少し「不思議」な憲法（体制）がなぜ出来たのか、②こうした体制の下で政治はどのような影響を受けたのか、③そしてこうした体制はなぜ崩壊していったのか（そして、最後に時間が許せば④こうした体制は現在にどのような影響を与えているのか）についてそれぞれ考えながら、近代日本の政治史を概観していく。 本授業では、人名や年号の暗記を求めることはしないので、高校までの受験科目・日本史が苦手だったという方も気楽に受講してほしい。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業で扱う日本列島地域は、非西洋圏でもかなり早い時期に「近代化」と呼ばれる現象を経験したという世界史的特徴をもつ。その意味で日本を事例に考えることは、地球全体を巻き込んだ「近代」という時代を深くとらえ、そこから様々な地域との共通点や違いを考えることにつながる（DP3.多様性理解）。 また、我々が生活する現在と直接的につながる近代について知り、また自身で考えることは、今日の社会やそこにおける問題をより深くとらえ、必要があれば解決策を検討していく大きな助けともなるだろう（DP4. 問題発見・解決力）。 くわえて、近代日本について必要な知識を学ぶことは、専門的知識や技能の獲得、またそれを活用していくことの重要な一部となるはずである（DP6.専門知識・技能の活用力）。					
19.教科書・教材	とくに教科書は定めない。授業では毎回資料を配布し、これに沿って授業を進める。					
20.参考文献	参考文献は毎回の授業で提示する。ここでは何冊かとくにおすすめの本を挙げておくので、気が向いたらぜひ手に取ってみてほしい。単に目次をながめてみるだけでも、授業を理解する助けになるだろう。					

	川北稔『イギリス近代史講義』（講談社、2010） 「近代」とはそもそもどんな時代なのか。イギリスをテーマにしつつ、近代日本を考える上でも極めて有益。しかも大変読みやすい。 奈良勝司『明治維新をとらえ直す』（有志舎、2018） 近世から近代へと時代が移り変わるとき、日本列島地域に何が起こったのか。それはどのような影響	
21.成績評価	学期末テスト 90% 日常点 10% 基本的には学期末のテストによって評定を行う（内容等は授業のなかで説明する）。 くわえて、毎回、web あるいはペーパーで授業への感想や質問を募集する。提出するかどうかは任意とするが、授業に資するものには前記の範囲で加点を行う（減点は行わない）。ただしいわゆる出席点（この場合、座っているだけで付く点数）を付すためのものではないので、必ずしも提出者全員に加点するわけではない。	
22.コメント	この授業は、人名や事件、年代などを詳しく暗記することは求めない。ただし、全ての事柄を詳しく説明する時間はないので、自信がない場合は必要に応じて高校の教科書などを読み返しておくこと。また、分からない単語などを自分で調べながら受講することも推奨する。	
23.オフィスアワー	質問等は授業後の時間に受け付ける。また、毎回ペーパーまたは web から質問等を受け付けたい。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	近代日本から考える 授業の進め方などに関する説明・導入。	
	明治憲法体制成立編①近世の諸相 近代の1つ前の時代・近世について、東アジアと西ヨーロッパを比較しながら考え、それがどのように近代につながっていくのかを検討する。	
	明治憲法体制成立編②近代日本の出発 ウェスタン・インパクトと呼ばれる現象がどのような影響を与えたのかという視点から近代日本の出発を考える。	
	明治憲法体制成立編③王政復古と近代天皇制の誕生 近代日本を考えるうえで欠かせない近代天皇制がどのような特徴をもち、それがいかなる課題に応えるために誕生してきたのかについて検討する。	
	明治憲法体制成立編④明治憲法の制定 「国の形」とも呼ばれる憲法がこれまでの授業で見てきた流れの中からどのような影響を受け、いかなる特徴をもって成立したのかを考える。	
	明治憲法体制運用編①帝国議会と藩閥政府 憲法の誕生とともに生まれた帝国議会の特徴、そして議会と藩閥政府との関係を中心に明治憲法体制の出発を考える。	
	明治憲法体制運用編②彼らが政党を求めた理由 今日まで多くの国で政治を担う政党。日本における政党がどのように政治的影響力を伸ばしていったのかについて、明治憲法体制との関係を中心に考える。	

	明治憲法体制運用編③政党・官僚と「議会の時代」 憲法とともにスタートした帝国議会が政治の中枢を担っていく時代がどのように成立してきたのかについて、政党と官僚との関係という視点から検討する。	
	明治憲法体制運用編④「国民」の登場 近代日本の重要な構成要素である「国民」が政治的な意味でどのように「登場」してくるのかについて考える。	
	明治憲法体制運用編⑤大正政治史の出発 時代が明治から大正へと移り変わるなかで、どのような新たな課題が現れ、またどのような課題が明治から引き継がれたのかについて考える。	
	明治憲法体制運用編⑥「大衆化」と挙国一致 第1次世界大戦前後から世界的に現れてくる「大衆化」現象と同時期に日本政治のキーワードとなった「挙国一致」という語がもった意味を連関的に検討する。	
	明治憲法体制運用編⑥憲政常道と両院縦断 政党政治の時代が本格的に訪れるなかで、そこにおける政治のあり方をめぐる2つの政党政治構想と両者の衝突が与えた影響を考える。	
	明治憲法体制運用編⑦&崩壊編①政党内閣期は「衆議院の時代」なのか 政党勢力が連続的に政権を担った時代・政党内閣期。この時代の特徴を明治憲法体制との関係また国民の代表が政治を担うということがもった意味という視点から考える。	
	明治憲法体制崩壊編②「真の代表」と統合主体の不在 衆議院が国民の代表として期待できないと考えられたとき、どのような現象が生じたのか、また政党の勢力減退はいかなる影響を与えたのか。こうした問題を明治憲法体制が出発地点の段階から有するタテマエとの関係からとらえ、明治憲法体制の崩壊について考える。	
	再び近代日本から考える これまでの授業を振り返りつつ、明治憲法体制が戦後に与えた影響を検討し、あらためて近代という時代、またその延長上にある現在について考える。	

1.授業コード (ナンバリング)	HIS102-M51	2.科目名	外国史概説		3.単位数	2
4.授業担当教員	波部雄一郎					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間科学部、経営学部				9.履修学年	1 年生～
10.取得資格の要件	中学（社会）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	今日、私たちが生きる世界は「グローバルな世界」と呼ばれています。このような今を生きる上で大切なことは、世界には多様な文化と社会を持った人々が暮らしていることを認め、理解することでしょう。そして、そうした人々に対する理解を深めるには、まずその過去（＝歴史）を知らなければなりません。そこで本授業では、現在のオーストリア共和国の前身となったハプスブルク帝国を事例とし、近世から近代にかけてのヨーロッパ地域の歴史を考えます。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 ①歴史に関わる事象の意味や特色を多角的に考察する力を養います。同時に、私たち（＝日本）とは異なる地域の価値観や社会的・文化的背景を理解することで、国際的な価値観を身につけることを目指します。 ?各授業内容に対して、自分なりの意見や所感を持てるようにします。 【DP との関連】 この授業では、本学 DP「多様な文化や背景を理解し受け入れる能力」の涵養を目指します。					
19.教科書・教材	特にありません。					
20.参考文献	①山之内克子『物語オーストリアの歴史』中央公論社、2019 年。 ②増谷英樹・古田善文『図説 オーストリアの歴史』河出書房新社、2011 年。 ③岩崎周一『ハプスブルク帝国』講談社、2019 年。 ※そのほか、授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	【評価方法＝コメントペーパー50%＋総括試験 50%】 ①コメントペーパーの作成 ・ Web Class を使用して、毎授業時に小課題と授業内容へ感想・質問の記入をしてもらいます。 ・ 適切な回答、または講義内容への理解を深めようとする積極性に対して加点します。 ※1 提出回数が全体の 50%未満の場合は成績には反映されません。 ※2 適切な回答と判断できない内容は採点対象とならない場合があります。 ※3.その他不正などが判明した場合は、採点対象外となる場合があります。 ?総括試験 ・ 第 15 回の授業時間を使用し					
22.コメント	?これは世界史の授業ですので、高校世界史などの教科書を使って世界史の概要を把握しておいてください。 ?出席者の確認ならびに不正防止の観点から、座席指定制にする場合があります。					
23.オフィスアワー	授業後に適宜対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【イントロダクション】①本授業の目的、②授業の進め方、③評価方法、④参考書の紹介					
第 2 回	【ハプスブルク帝国とは】近世ハプスブルク帝国の概要（政治体制／社会制度／宗教など）とはどのようなものだったか			復習及び授業ノートの整理		

	・コメントペーパーの作成	
第 3 回	【マリア＝テレジアと国政改革の時代】マリア＝テレジアの生涯と事績／国家と社会の改革とは何だったか ・コメントペーパーの作成	復習及び授業ノートの整理
第 4 回	【ハプスブルク帝国とウィーン宮廷】宮廷とはどのような存在であったのか／宮廷と社会はどのようにつながっていたのか ・コメントペーパーの作成	復習及び授業ノートの整理
第 5 回	【ヨーゼフ 2 世と啓蒙専制】啓蒙専制主義とはどのような政治であったのか／マリア＝テレジアの子供たちの生涯とは ・コメントペーパーの作成	復習及び授業ノートの整理
第 6 回	【フランス革命とナポレオン戦争】フランス革命と対ナポレオン戦争がハプスブルク帝国に与えた影響とは ・コメントペーパーの作成	復習及び授業ノートの整理
第 7 回	【ウィーン体制】ナポレオン戦争後のヨーロッパ世界はどうなったのか ・コメントペーパーの作成	復習及び授業ノートの整理
第 8 回	【1848 年革命とビーダーマイアー期の都市生活】自由主義とナショナリズムの台頭とは／19 世紀ウィーンの生活と文化 ・コメントペーパーの作成	復習及び授業ノートの整理
第 9 回	【「新絶対主義」体制と革命後のハプスブルク】皇帝フランツ＝ヨーゼフ 1 世の生涯と事績／「新絶対主義」の成立と挫折 ・コメントペーパーの作成	復習及び授業ノートの整理
第 10 回	【オーストリア＝ハンガリー二重帝国】オーストリア＝ハンガリー二重帝国の仕組みと社会とは ・コメントペーパーの作成	復習及び授業ノートの整理
第 11 回	【世紀末ウィーン】世紀転換期におけるハプスブルク帝国の文化（音楽／文学／美術） ・コメントペーパーの作成	復習及び授業ノートの整理
第 12 回	【第一次世界大戦】ハプスブルクと第一次世界大戦／兵庫県青野ヶ原捕虜収容所の記憶 ・コメントペーパーの作成	復習及び授業ノートの整理
第 13 回	【ハプスブルク以後の中央ヨーロッパ地域】第二次世界大戦以降の中央ヨーロッパ世界／オーストリア共和国を中心に ・コメントペーパーの作成	復習及び授業ノートの整理
第 14 回	【まとめ】	復習及び授業ノートの整理
第 15 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	HIS103-A51	2.科目名	日本文化史（教職課程用の科目）		3.単位数	2
4.授業担当教員	石橋知之					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科、経営学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	中学社会 1 種教員免許		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 私たちが生きる現代社会は、多様な情報・文化にあふれ、パソコンやスマートフォン等はいまや社会生活に必要不可欠なツールになっています。情報媒体の技術革新は現在進行形であり、それらが社会に及ぼす影響を考えなければならない立場に我々はあるといえます。 本科目では、江戸時代における書物・出版文化をテーマとして、情報媒体（書物）が社会や政治に及ぼす影響を歴史的に見つめ直し、現代社会を相対化し客観的に捉え直すことを目的とします。 【概要】 江戸時代における書物を出版する本屋の営業実態、書物の流通環境、書物を享受し読書する人々のすがたを学びます。そして書物・出版文化が実現しうる文字社会のありようや、書物・出版文化が社会や政治に与えた影響について考えます。また、授業ではそれらを体験的に理解してもらうために、当時の人々が実際に書いた文字資料（古文書）や出版された書物に触れる機会を適宜設けます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 1 日本史について、社会的・文化的背景の理解を深めることで、現代社会における価値観との異同を発見し、私たちが生きる社会を多角的に考察する能力を養う。 2 社会や文化の構造を理解し、その中で生きる人々の営みを知ることで、自分自身と現代社会との関係性を客観的に見つめ直すことができる。 3 江戸時代の書物や古文書に実際に触れることで、くずし字の基礎読解力を身につける。 【関連するディプロマポリシー】 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	授業内にて適宜プリントを配布します。					
20.参考文献	1 橋口侯之介『和本入門 千年生きる書物の世界』平凡社、2005 年 2 橋口侯之介『江戸の古本屋 近世書肆のしごと』平凡社、2018 年 3 油井宏子監修・柏書房編集部編『江戸時代&古文書 虎の巻』柏書房、2009 年 そのほか、授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	評価の方法及びその配点 1 コメントペーパーの作成 40%（WebClass を活用して実施します。毎授業終了後にその日の授業内容についての感想や質問などを記入して提出してください。感想や質問へのリプライは担当教員が次回授業の冒頭で適宜返答します。） 2 総括試験 60%（授業に対する理解度の確認、授業を踏まえた自発的な問題発見・解決力をはかる内容の試験を実施します。）					
22.コメント	授業中に抱いた興味や関心を積極的にアウトプットする姿勢を期待します。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応をします。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	【イントロダクション】 ①授業の進め方・評価方法の説明 ②授業の目的・概要の説明	
第 2 回	【「文化史」の見方を変える－『徒然草』は江戸文学か？－】 鎌倉文学を代表するト部兼好『徒然草』を題材に高等学校で学んだ社会科目「日本史」の一分野である「文化史」のイメージを見つめ直す。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 3 回	【メディアとしての書物の歴史－書物の形態変遷－】 現在は電子書籍が広く普及しているが、物質としての書物がどのような歴史の変遷を経て現在に至るのか、その形態変化のありようを考える。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 4 回	【日本の印刷史と商業出版－宗教活動から商業出版まで－】 書物印刷普及の歴史を概観する。日本で商業的出版が成立したのは江戸時代以降だが、どのような歴史的過程を経て書物が出版され、広く一般に流通する社会が成立したのかを考えてみる。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 5 回	【近世社会と文書管理－幕藩支配体制と識字能力－】 日本社会において、江戸時代に至って商業出版が隆盛し、書物・出版文化が定着した問題について、その大前提となる人々の文字を読み書きする能力に注目する。江戸時代の政治・社会の仕組みと関連させて「文字を読む／書く」行為の意味を考える。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 6 回	【古文書を読んでみる①－基礎知識編－】 江戸時代の人々がどのような文字を書き、読んでいたのか、実際の古文書を用いてくずし字を解読し、江戸時代の寺子屋の勉強を擬似的に体験してみる。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 7 回	【古文書を読んでみる②－実践編－】 江戸時代の人々がどのような文字を書き、読んでいたのか、実際の古文書を用いてくずし字を解読し、江戸時代の寺子屋の勉強を擬似的に体験してみる。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 8 回	【近世社会の形成と情報流通－虚説・異説の横行－】 江戸時代の書物・出版環境を規定した要素の一つは幕府による出版統制・情報統制であった。書物出版の普及に伴って生じた多様な情報流通をめぐる問題を、支配権力によるその対応を通じて考えてみる。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 9 回	【地域支配と学問・文化－生野銀山を事例に－】 江戸時代における地域社会の運営は、その地域を支配する領主層よりむしろ、そこに居住した町人・百姓の代表者（町村役人）の働きにかかっていた。地域社会を運営・維持していくための人材育成はどのように実現したのか、兵庫県北部但馬地域に位置する生野銀山を事例に考えてみる。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 10 回	【地方城下町の本屋と書物流通－姫路・福崎町を事例に－】 江戸時代は書物・出版文化が繁栄した時代であった	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨

	が、当時の人々は実際にどのようにして書物入手し、読むことができたのか。城下町姫路とその北方に位置する播磨国神東郡辻川村（現福崎町）を事例に、出版文化が地方社会に広まっていく具体相を、書物流通の視点から考えてみる。	
第 1 1 回	【読者の成立と情報流通－出版取締り・写本による流通等々－】 第 9 回・第 10 回を踏まえ、江戸時代の書物・出版文化の隆盛について、読者の視点から改めて見つめ直す。広汎な知的読者層の成立、社会通念の成立、情報流通とその統制をめぐる問題について考える。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）／PC の持参推奨
第 1 2 回	【書物を読んでみる－「マンボウ」の小噺－】 実際に出版された書物の内容を読み、江戸時代の書物・出版文化の一端を体験する。江戸時代の人々が書物の中で生き物をどのように描いたか、「マンボウ」という魚を足がかりとしてみていく。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）／PC の持参推奨
第 1 3 回	【大坂の本屋と書物流通－伊丹・大坂を事例に－】 江戸時代の本屋は、現代でいうところの出版業者であると同時に、小売・卸売り、古本売買、貸本業も行う総合的な経営をしていた。当時における出版業の先進地大坂と、その近郊地域にあたる伊丹郷町（現伊丹市）を事例として、江戸時代の本屋の営みについて考える。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）／PC の持参推奨
第 1 4 回	【伊丹の酒造家と書物収集・読書環境－伊丹の酒造家を事例に－】 伊丹の酒造家による書物収集と読書を取りまく環境に注目する。江戸時代の人々が書物とどのように付き合い、どのような環境で書物を読んだかをこれまでの授業を踏まえてもう一度考えてみる。また江戸時代の書物・出版文化について、近代社会への展望についても触れる。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）／PC の持参推奨
第 1 5 回	総括試験を実施します。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）／PC の持参推奨

1.授業コード (ナンバリング)	HIS103-m51	2.科目名	日本文化史		3.単位数	2
4.授業担当教員	石橋知之					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科、経営学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	中学社会 1 種教員免許		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 私たちが生きる現代社会は、多様な情報・文化にあふれ、パソコンやスマートフォン等はいまや社会生活に必要不可欠なツールになっています。情報媒体の技術革新は現在進行形であり、それらが社会に及ぼす影響を考えなければならない立場に我々はあるといえます。 本科目では、江戸時代における書物・出版文化をテーマとして、情報媒体（書物）が社会や政治に及ぼす影響を歴史的に見つめ直し、現代社会を相対化し客観的に捉え直すことを目的とします。 【概要】 江戸時代における書物を出版する本屋の営業実態、書物の流通環境、書物を享受し読書する人々のすがたを学びます。そして書物・出版文化が実現しうる文字社会のありようや、書物・出版文化が社会や政治に与えた影響について考えます。また、授業ではそれらを体験的に理解してもらうために、当時の人々が実際に書いた文字資料（古文書）や出版された書物に触れる機会を適宜設けます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 1 日本史について、社会的・文化的背景の理解を深めることで、現代社会における価値観との異同を発見し、私たちが生きる社会を多角的に考察する能力を養う。 2 社会や文化の構造を理解し、その中で生きる人々の営みを知ることで、自分自身と現代社会との関係性を客観的に見つめ直すことができる。 3 江戸時代の書物や古文書に実際に触れることで、くずし字の基礎読解力を身につける。 【関連するディプロマポリシー】 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	授業内にて適宜プリントを配布します。					
20.参考文献	1 橋口侯之介『和本入門 千年生きる書物の世界』平凡社、2005 年 2 橋口侯之介『江戸の古本屋 近世書肆のしごと』平凡社、2018 年 3 油井宏子監修・柏書房編集部編『江戸時代&古文書 虎の巻』柏書房、2009 年 そのほか、授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	評価の方法及びその配点 1 コメントペーパーの作成 40%（WebClass を活用して実施します。毎授業終了後にその日の授業内容についての感想や質問などを記入して提出してください。感想や質問へのリプライは担当教員が次回授業の冒頭で適宜返答します。） 2 総括試験 60%（授業に対する理解度の確認、授業を踏まえた自発的な問題発見・解決力をはかる内容の試験を実施します。）					
22.コメント	授業中に抱いた興味や関心を積極的にアウトプットする姿勢を期待します。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応をします。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	【イントロダクション】 ①授業の進め方・評価方法の説明 ②授業の目的・概要の説明	
第 2 回	【「文化史」の見方を変える－『徒然草』は江戸文学か？－】 鎌倉文学を代表するト部兼好『徒然草』を題材に高等学校で学んだ社会科目「日本史」の一分野である「文化史」のイメージを見つめ直す。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 3 回	【メディアとしての書物の歴史－書物の形態変遷－】 現在は電子書籍が広く普及しているが、物質としての書物がどのような歴史の変遷を経て現在に至るのか、その形態変化のありようを考える。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 4 回	【日本の印刷史と商業出版－宗教活動から商業出版まで－】 書物印刷普及の歴史を概観する。日本で商業的出版が成立したのは江戸時代以降だが、どのような歴史的過程を経て書物が出版され、広く一般に流通する社会が成立したのかを考えてみる。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 5 回	【近世社会と文書管理－幕藩支配体制と識字能力－】 日本社会において、江戸時代に至って商業出版が隆盛し、書物・出版文化が定着した問題について、その大前提となる人々の文字を読み書きする能力に注目する。江戸時代の政治・社会の仕組みと関連させて「文字を読む／書く」行為の意味を考える。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 6 回	【古文書を読んでみる①－基礎知識編－】 江戸時代の人々がどのような文字を書き、読んでいたのか、実際の古文書を用いてくずし字を解読し、江戸時代の寺子屋の勉強を擬似的に体験してみる。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 7 回	【古文書を読んでみる②－実践編－】 江戸時代の人々がどのような文字を書き、読んでいたのか、実際の古文書を用いてくずし字を解読し、江戸時代の寺子屋の勉強を擬似的に体験してみる。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 8 回	【近世社会の形成と情報流通－虚説・異説の横行－】 江戸時代の書物・出版環境を規定した要素の一つは幕府による出版統制・情報統制であった。書物出版の普及に伴って生じた多様な情報流通をめぐる問題を、支配権力によるその対応を通じて考えてみる。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 9 回	【地域支配と学問・文化－生野銀山を事例に－】 江戸時代における地域社会の運営は、その地域を支配する領主層よりむしろ、そこに居住した町人・百姓の代表者（町村役人）の働きにかかっていた。地域社会を運営・維持していくための人材育成はどのように実現したのか、兵庫県北部但馬地域に位置する生野銀山を事例に考えてみる。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 10 回	【地方城下町の本屋と書物流通－姫路・福崎町を事例に－】 江戸時代は書物・出版文化が繁栄した時代であった	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨

	が、当時の人々は実際にどのようにして書物入手し、読むことができたのか。城下町姫路とその北方に位置する播磨国神東郡辻川村（現福崎町）を事例に、出版文化が地方社会に広まっていく具体相を、書物流通の視点から考えてみる。	
第 1 1 回	【読者の成立と情報流通－出版取締り・写本による流通等々－】 第 9 回・第 10 回を踏まえ、江戸時代の書物・出版文化の隆盛について、読者の視点から改めて見つめ直す。広汎な知的読者層の成立、社会通念の成立、情報流通とその統制をめぐる問題について考える。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）／PC の持参推奨
第 1 2 回	【書物を読んでみる－「マンボウ」の小噺－】 実際に出版された書物の内容を読み、江戸時代の書物・出版文化の一端を体験する。江戸時代の人々が書物の中で生き物をどのように描いたか、「マンボウ」という魚を足がかりとしてみていく。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）／PC の持参推奨
第 1 3 回	【大坂の本屋と書物流通－伊丹・大坂を事例に－】 江戸時代の本屋は、現代でいうところの出版業者であると同時に、小売・卸売り、古本売買、貸本業も行う総合的な経営をしていた。当時における出版業の先進地大坂と、その近郊地域にあたる伊丹郷町（現伊丹市）を事例として、江戸時代の本屋の営みについて考える。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）／PC の持参推奨
第 1 4 回	【伊丹の酒造家と書物収集・読書環境－伊丹の酒造家を事例に－】 伊丹の酒造家による書物収集と読書を取りまく環境に注目する。江戸時代の人々が書物とどのように付き合い、どのような環境で書物を読んだかをこれまでの授業を踏まえてもう一度考えてみる。また江戸時代の書物・出版文化について、近代社会への展望についても触れる。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）／PC の持参推奨
第 1 5 回	総括試験を実施します。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）／PC の持参推奨

1.授業コード (ナンバリング)	HIS103-y51	2.科目名	日本文化史		3.単位数	2
4.授業担当教員	石橋知之					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科、経営学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	中学社会 1 種教員免許		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 私たちが生きる現代社会は、多様な情報・文化にあふれ、パソコンやスマートフォン等はいまや社会生活に必要不可欠なツールになっています。情報媒体の技術革新は現在進行形であり、それらが社会に及ぼす影響を考えなければならない立場に我々はあるといえます。 本科目では、江戸時代における書物・出版文化をテーマとして、情報媒体（書物）が社会や政治に及ぼす影響を歴史的に見つめ直し、現代社会を相対化し客観的に捉え直すことを目的とします。 【概要】 江戸時代における書物を出版する本屋の営業実態、書物の流通環境、書物を享受し読書する人々のすがたを学びます。そして書物・出版文化が実現しうる文字社会のありようや、書物・出版文化が社会や政治に与えた影響について考えます。また、授業ではそれらを体験的に理解してもらうために、当時の人々が実際に書いた文字資料（古文書）や出版された書物に触れる機会を適宜設けます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 1 日本史について、社会的・文化的背景の理解を深めることで、現代社会における価値観との異同を発見し、私たちが生きる社会を多角的に考察する能力を養う。 2 社会や文化の構造を理解し、その中で生きる人々の営みを知ることで、自分自身と現代社会との関係性を客観的に見つめ直すことができる。 3 江戸時代の書物や古文書に実際に触れることで、くずし字の基礎読解力を身につける。 【関連するディプロマポリシー】 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	授業内にて適宜プリントを配布します。					
20.参考文献	1 橋口侯之介『和本入門 千年生きる書物の世界』平凡社、2005 年 2 橋口侯之介『江戸の古本屋 近世書肆のしごと』平凡社、2018 年 3 油井宏子監修・柏書房編集部編『江戸時代&古文書 虎の巻』柏書房、2009 年 そのほか、授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	評価の方法及びその配点 1 コメントペーパーの作成 40%（WebClass を活用して実施します。毎授業終了後にその日の授業内容についての感想や質問などを記入して提出してください。感想や質問へのリプライは担当教員が次回授業の冒頭で適宜返答します。） 2 総括試験 60%（授業に対する理解度の確認、授業を踏まえた自発的な問題発見・解決力をはかる内容の試験を実施します。）					
22.コメント	授業中に抱いた興味や関心を積極的にアウトプットする姿勢を期待します。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応をします。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	【イントロダクション】 ①授業の進め方・評価方法の説明 ②授業の目的・概要の説明	
第 2 回	【「文化史」の見方を変える－『徒然草』は江戸文学か？－】 鎌倉文学を代表するト部兼好『徒然草』を題材に高等学校で学んだ社会科目「日本史」の一分野である「文化史」のイメージを見つめ直す。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 3 回	【メディアとしての書物の歴史－書物の形態変遷－】 現在は電子書籍が広く普及しているが、物質としての書物がどのような歴史の変遷を経て現在に至るのか、その形態変化のありようを考える。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 4 回	【日本の印刷史と商業出版－宗教活動から商業出版まで－】 書物印刷普及の歴史を概観する。日本で商業的出版が成立したのは江戸時代以降だが、どのような歴史的過程を経て書物が出版され、広く一般に流通する社会が成立したのかを考えてみる。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 5 回	【近世社会と文書管理－幕藩支配体制と識字能力－】 日本社会において、江戸時代に至って商業出版が隆盛し、書物・出版文化が定着した問題について、その大前提となる人々の文字を読み書きする能力に注目する。江戸時代の政治・社会の仕組みと関連させて「文字を読む／書く」行為の意味を考える。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 6 回	【古文書を読んでみる①－基礎知識編－】 江戸時代の人々がどのような文字を書き、読んでいたのか、実際の古文書を用いてくずし字を解読し、江戸時代の寺子屋の勉強を擬似的に体験してみる。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 7 回	【古文書を読んでみる②－実践編－】 江戸時代の人々がどのような文字を書き、読んでいたのか、実際の古文書を用いてくずし字を解読し、江戸時代の寺子屋の勉強を擬似的に体験してみる。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 8 回	【近世社会の形成と情報流通－虚説・異説の横行－】 江戸時代の書物・出版環境を規定した要素の一つは幕府による出版統制・情報統制であった。書物出版の普及に伴って生じた多様な情報流通をめぐる問題を、支配権力によるその対応を通じて考えてみる。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 9 回	【地域支配と学問・文化－生野銀山を事例に－】 江戸時代における地域社会の運営は、その地域を支配する領主層よりむしろ、そこに居住した町人・百姓の代表者（町村役人）の働きにかかっていた。地域社会を運営・維持していくための人材育成はどのように実現したのか、兵庫県北部但馬地域に位置する生野銀山を事例に考えてみる。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨
第 10 回	【地方城下町の本屋と書物流通－姫路・福崎町を事例に－】 江戸時代は書物・出版文化が繁栄した時代であった	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出 (必須)、授業内容の復習・授業ノートの整理 (各自の判断) / PC の持参推奨

	が、当時の人々は実際にどのようにして書物を入手し、読むことができたのか。城下町姫路とその北方に位置する播磨国神東郡辻川村（現福崎町）を事例に、出版文化が地方社会に広まっていく具体相を、書物流通の視点から考えてみる。	
第 1 1 回	【読者の成立と情報流通－出版取締り・写本による流通等々－】 第 9 回・第 10 回を踏まえ、江戸時代の書物・出版文化の隆盛について、読者の視点から改めて見つめ直す。広汎な知的読者層の成立、社会通念の成立、情報流通とその統制をめぐる問題について考える。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）／PC の持参推奨
第 1 2 回	【書物を読んでみる－「マンボウ」の小噺－】 実際に出版された書物の内容を読み、江戸時代の書物・出版文化の一端を体験する。江戸時代の人々が書物の中で生き物をどのように描いたか、「マンボウ」という魚を足がかりとしてみていく。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）／PC の持参推奨
第 1 3 回	【大坂の本屋と書物流通－伊丹・大坂を事例に－】 江戸時代の本屋は、現代でいうところの出版業者であると同時に、小売・卸売り、古本売買、貸本業も行う総合的な経営をしていた。当時における出版業の先進地大坂と、その近郊地域にあたる伊丹郷町（現伊丹市）を事例として、江戸時代の本屋の営みについて考える。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）／PC の持参推奨
第 1 4 回	【伊丹の酒造家と書物収集・読書環境－伊丹の酒造家を事例に－】 伊丹の酒造家による書物収集と読書を取りまく環境に注目する。江戸時代の人々が書物とどのように付き合い、どのような環境で書物を読んだかをこれまでの授業を踏まえてもう一度考えてみる。また江戸時代の書物・出版文化について、近代社会への展望についても触れる。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）／PC の持参推奨
第 1 5 回	総括試験を実施します。	授業の最後にコメントペーパーの作成・提出（必須）、授業内容の復習・授業ノートの整理（各自の判断）／PC の持参推奨

1.授業コード (ナンバリング)	HIS105-A51	2.科目名	近現代の歴史		3.単位数	2
4.授業担当教員	石井大輔					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目は、中央ヨーロッパ地域の歴史を中心に、近現代におきた歴史的な出来事を学ぶことを目的とします。 ハプスブルク家が長く統治した中央ヨーロッパ地域では、宗教や民族をめぐって様々な対立があり、その中で大きな戦争や体制転換が繰り返されてきました。なぜ人々是对立し、どのようにして対立を克服しようとしてきたのでしょうか。また、どのような対立が現在でも残されているのでしょうか。これらの問題に焦点を当てることで、日本を含めたグローバルな視点を獲得することを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の具体的な学習目標を以下の通りです。 ①近現代の歴史に関する基本的な知識を身につける。 ②外国史に関する知識を身につける。 ③上記の知識に基づいて、異なる文化や価値観に対する理解を深める。					
19.教科書・教材	毎回プリントを配布して、授業を進めます。					
20.参考文献	必要に応じて適宜指示します。					
21.成績評価	・ コメントペーパーの作成 30％ （毎回の授業終了時に感想や質問などを記?してもらいます。担当教員が次回授業時に質問に答えます。） ・ 授業への参加度 20％ （担当教員の質問に対する積極性） ・ 総括試験テスト 50％ （授業内容に関する論述問題を出題します。）					
22.コメント	この授業では、高校までの世界史の知識を前提とはしませんが、分からないことがある場合は、まずは自分で調べてみてください。そのうえで分からないことがあれば積極的に質問してください。					
23.オフィスアワー	授業前後、教室にて。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	・ ガイダンス ・ 講義「イントロダクション：ハプスブルク家とヨーロッパ」 ・ コメントペーパーの作成			・ 復習および授業ノートの整理		
第 2 回	・ 質問への回答 ・ 講義「神聖ローマ帝国とハプスブルク君主国」 ・ コメントペーパーの作成			・ 復習および授業ノートの整理		
第 3 回	・ 質問への回答			・ 復習および授業ノートの整理		

	・講義「フランス革命と戦争」 ・コメントペーパーの作成	
第 4 回	・質問への回答 ・講義「ウィーン体制下のヨーロッパ」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 5 回	・質問への回答 ・講義「国民国家の形成：ドイツの統一」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 6 回	・質問への回答 ・講義「多民族国家ハプスブルク帝国：アウスグライヒ体制の成立」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 7 回	・質問への回答 ・講義「第一次世界大戦の勃発」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 8 回	・質問への回答 ・講義「第一次世界大戦と日本：日本における捕虜収容所」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 9 回	・質問への回答 ・講義「ポスト・ハプスブルクの国々」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 10 回	・質問への回答 ・講義「ナチ化するドイツ」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 11 回	・質問への回答 ・講義「オーストリア合邦から第二次世界大戦へ」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 12 回	・質問への回答 ・講義「ナチスの経験とその克服」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 13 回	・質問への回答 ・講義「東欧革命と EU 拡大」 ・コメントペーパーの作成	・復習および授業ノートの整理
第 14 回	・質問への回答 ・講義「まとめ：対立と融和の近現代史」	・復習および授業ノートの整理
第 15 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	HOC102-a51	2.科目名	教育社会学（教職）		3.単位数	2
4.授業担当教員	樋田大二郎					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教育制度・教育マネジメント、教育問題にどのように向かい合うかを社会学の視点から考える。					
18.学習目標と DPとの関連	●自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる ●社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができる ●専門的知識・技能の活用力 世界と出会い働きかけるツールとしての専門的知識・技能を使いこなすことができる					
19.教科書・教材	授業中に紹介する。					
20.参考文献	授業中に紹介する。					
21.成績評価	毎回の小レポート（60％）、最終レポート（40％）					
22.コメント	客観的に冷静にそして熱く教育を考える。なお、この講義では、途中にミニワークショップをおこなう。楽しんで参加して欲しい。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回目	・ 授業の導入 ・ 偏差値で人を計ることはできないこと			授業に関連する出来事に触れたり、記事を読んだり、文献を読んでおくことが望まれる。授業後に毎回小レポートを提出すること。		
2 回目	共感的理解-この授業での理解					
3 回目	いじめへの対応の動向といじめの理解、いじめの実態					
4 回目	いじめっ子を集団構造から離脱させる方法－いじめ対策の事例＝集団的出来事を個人的出来事に					
5 回目	不登校（1）見る					
6 回目	不登校（2）知る					
7 回目	不登校（3）理解する					
8 回目	「学校」の多様性（1）5つの海外事例から					
9 回目	「学校」の多様性（2）日本の先進事例					
10 回目	「学校」の多様性（3）日本の先進事例					
11 回目	社会化（1）社会が内在化、身体化される方法と意義					
12 回目	社会化（2）私だって社会化されている					

13 回目	地域の特色を生かした教育＝地域を教材にした教育	
14 回目	教師になる前に考える（1）	
15 回目	教師になる前に考える（2）	

1.授業コード (ナンバリング)	HUM101-A51	2.科目名	人間学Ⅰ (A グループ)		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、谷口一也、濱名篤					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、入学後少なくとも半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋3本ずつのクールレポートと、1本ずつの最終レポートを書く。一つ一つのテーマについて、自らの問題としてとらえ、しっかりとした自分の意見を持ってほしい。 なお、この科目は、履修者を3つのグループに分け、3人の教員による輪講形式で進められるため、グループごとに受講順序が異なる。しかしどのような順序で学んでも、授業の進行には差し支えないよう配慮されている。 KUISSs 学修ベンチマークの「多様性理解」と「問題発見・解決力」のレベル・アップを本科目では目指している。					
18.学習目標と DPとの関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含まれます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の17の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、4 質の高い教育をみんなに、5 ジェンダー平等を実現しよう、8 働きがいも経済成長も <平等・職業> 濱名 篤 「平等・職業」をテーマとして、「職業生活と社会的格差」というテーマで5回の授業を行う。 近年、社会的格差の拡大のメカニズムと、格差の拡大が社会や経済に及ぼす深刻な影響を理解することがいかに重要であるかが再認識されてきている。地方と大都市、性別による格差、教育格差、職業による格差、雇用形態（正規－非正規）による格差など、日本においても他の社会と同様に様々な格差問題がある。 この5回の授業では、人間の一生のなかで大きなウェイトを持つ「職業」を通して、人間と社会の関わりを考えていく。日本は、少子高齢社会への道を着実に歩みつつあり、すでに2006年からは人口も減少に転じており、世代間格差は拡大し、社会としての未来はバラ色には見えにくくなり、様々な社会的格差の存在が顕在化しており、ライフプランを考える際に認識しておく必要がある。					

	これに加え、現代は第4次産業革命の到来と言われ、M・オズボーン&K・フライの予測によれば、AIやロボット技術の進歩によりこれから10～20年の間に“消滅する職業”が多数出てくる可能性が指摘され、職業生活の内容が大きく変化していく職業も予想され、職業間格差が拡大する可能性も大きい。こうした格差社会においては、若者にとって“働くことの意味”は見失われがちである。自らの人生の“幸せ Well-being”と職業との関係を考えることは、学生生活のうちに考え始めておく必要がある課題である。 この講義では、職業、キャリア、社会的格差、第4次産業革命、AIなどをキーワードに、職業と社会的格差をめぐるこれらの諸問題を取り上げる。 <学び> 濱名陽子 私の分担分では、「学び」というキーワードから人間を考える。人間は世代交代の方法として、「遺伝子」、「学ぶ」に加え、「教える」という営みを取り入れている特異な生き物である。まずはじめに、人間の育ちの特質を知り、人間の育ちのプロセスと「教育」とのかかわりについて考える。次に家庭という教育の場での人間の育ちのプロセスについて、とくに「親」の役割に焦点をあてて考え、さらに学校という教育の場での人間形成について、学校が人間の何を育てるのかを考えたのち、「教育を受ける機会の平等」の問題を考える。最後に生涯学習の時代にあって、受講生自身の人生を「学び」の視点から考える。 <科学技術と生命> 谷口一也 私たちは科学技術の恩恵を受け、私たちの生活は豊かになった。また、細胞医療や自動運転技術など様々な分野で新たな科学技術が生まれている。私の担当分では、科学技術の素晴らしさを理解したうえで、科学技術の問題点をいくつかの視点で考えてみたい。具体的には、ノーベル賞、ウイルス、遺伝子に関する話題を取り上げ、科学技術に関する現状を理解し、課題を把握したうえで、グループワークによる議論等を行っていく。また、「社会人のためのSDGs基礎知識」の概要を学んだうえで、SDGsの具体例に関して考える。これらの活動を通して、様々な課題・問題に対して、自分なりの考えを表現できるようになることを目指す。	
19.教科書・教材		
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） <濱名 篤> ◎野口悠紀雄『2040年の日本』幻冬舎新書、2013 ◎阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波新書、2014 ◎濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書、2015 ◎浜屋祐子・中原淳『育児は仕事の役に立つー「ワンオペ育児」から「チーム育児へ」ー』光文社新書、2017 ◎山田 昌弘『底辺への競争 格差放置社会ニッポンの末路』朝日新書、2017 ◎吉川 徹『日本の分断ー切り離される非大卒若者（レッグ	
21.成績評価	3名の担当者のクール小課題レポート（800字以上） 18点×3=54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する） 48点 最終課題（共通課題）：予定 「人が幸せに生きるとはどういうことか、そのために社会やあなたはなにをなすことができるか」 最終レポート課題の詳細は、最終クールの教員が説明する。	
22.コメント	一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 授業ではノートPCを使用しますので、充電やアップデートを確認のうえ、持参してください。	
23.オフィスアワー	未定	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講 1-1	<濱名 篤>	【アサインメント】

	第1回 日本社会にはどのような社会的格差や不平等があるのかを、各自の予習してきた内容を参考に考えてみる。その上で、自分の将来の進路について考えてみる。その上で、職業とはどのようなものなのかについて社会学的な説明を行う。 何のために職業につくのか、就職する上で不安なことは何かについて ZOOM ディスカッションを実施する。	①あなたは日本社会の中にあるどのような社会的格差（人種・民族・性・年齢・世代・職業・正規雇用－非正規雇用、学歴などによる格差・不平等）が問題だと思いますか。どのような地位による格差が、何故気になるのかを 400 字程度にまとめる。【所要時間 30 分】 ②就職する際に、採用する側は大卒者の”何を”評価すると思うか。【所要時間 20 分】 ③なぜ本学のこの学部・学科に入学したのですか。【所要時間 10 分】 ④今回の授業の感想・質問を書いてください。 ※①～④を Webclass の指定箇所へ
輪講 1－2	第2回 社会から期待される能力、自分が伸ばしたい能力をどうすれば身につけられるのか（看護学科と教育福祉学科は「専門的職業とは何か」） 若者を取り巻く社会的格差のうち、学歴、正規労働者と非正規労働者の格差に注目し、その影響について確認する。その上で、社会人基礎力など、社会が大卒者に期待する能力とはどのようなものなのか、自分が伸ばしたい能力とはどのようなものなのか、自らキャリア形成を考えていく上で、どのような具体的課題があるのかを考えていく。 （看護学科と教育福祉学科では、専門職とはどのような職業をいう	【アサインメント】 ①自分が在学中に身につけることが必要な知識、技術・スキル、態度特性を考え、KUISs 学修ベンチマークの大項目 から 1 つを選び、なぜそれが自分にとって大事なのか、それらを具体的どのように身につけていこうと思うのかをまとめる（200 字程度）【所要時間 30 分】 ②自分が就こうとしている職業に AI（生成 AI を含む）がどのような影響を与えていくと思いますか。それらのテクノロジーがもたらす変化について調べたうえで、自分の考えを述べなさい（400 字程度）。【所要時間 60 分】 ※指定する期日ま
輪講 1－3	第3回 職業の持続可能性～就いた職業がなくなったらどうするか～ 就職活動をしていっても自分の希望する勤め先や職業に就くことができなくなった場合に、自分はどのようにするだろう？また、就いた職業が将来消滅したらどうするだろうか？ コロナ禍に加え、少子化、高齢化、AI やロボットの発達などのによって職業構造が変化することが確実視されている中で、消滅が予想されている職業はどのようなものなのかを知り、その理由や背景を考えてみる。その上で、不要とならない職業の条件や人間にしかできない仕事の条件とは何かを考える。	【アサインメント】 ①コロナや第4次産業革命で、おこる社会的変化が自分たちのキャリアに与えている影響にはどのようなことがあるのかについて調べなさい。今後、自分達がとるべき準備や対応とは何でしょうか。今からできること、就職してからできることは何でしょうか。【所要時間 60 分】 ②日本の少子高齢化は世界の国々と比べてどのような点で深刻でしょうか。また”自分の”将来の生活にどのような影響を与えるでしょうか。その中で何が最も深刻か、その理由を説明しなさい。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに Webcl
輪講 1－4	第4回 少子高齢化社会の職業生活と男女共生 少子高齢化が自分たちの将来の生活に与える影響について考えてみる。 女性が出産・育児と職業生活を両立しにくい社会であることが少子 高齢化の原因とみなされ、「働き方改	【アサインメント】 ① 日本社会の男女の不平等は具体的にどのようなところで起こっていますか。他の国と比べ、何が原因でそうなっているのでしょうか（400 字）。【所要時間 20 分】 ②「人生 100 年時代」になると、現在の両親

	革」が検討されている。共働き・共育が標準的なスタイルの社会に変化しつつある状況下において、職業生活と家庭生活における男女共生の在り方について考えてみる。 少子高齢化が自分の人生・将来の生活にどのように影響するのかについて様々なデータを紹介しながら考えていく。ジェンダーによるギャップがどのような	の世代と比べ、人生の過ごし方をどのように変えていかなければならなくなると予想しますか。そのために、卒業して職業に就いたのちに、自分や自分の家族が取り組まなければならないことはどんなことでしょうか。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに Webclass より提出 ※クール小課題は第
輪講 1-5	第5回 「働き方改革」と社会人の学び直し ”2024 年問題”や”2025 年問題”が問題になり、日本社会では「働き方 改革」が求められています。他方、AI 等のテクノロジーの進歩の影響はどのように出てきているのでしょうか。現在の日本社会が直面している格差や危機への影響を考え、個人や世代としてどのように回避や改善を図っていくかを考えていきます。 男女共生のために、あなたは今後、家庭生活でどのような工夫をしていきますか。アクションプランについて ZOOM のブレイクアウトセッションでグループディスカッションを実施	【アサインメント】なし
輪講 2-1	<濱名陽子> 第1回 人間の育ちの特質 人間の育ちの特質を知ったうえで、人間という存在にとって、「学び」と「教育」がなぜ大きな意義を持つのかを考える。	○アサインメント：A.ミルンの詩の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：「母性原理」「父性原理」という言葉の意味を調べてくる。【所要時間 60 分】
輪講 2-2	第2回 家庭教育と親 人間が生まれてはじめて所属する集団である「家族」。そこで出会う「親」と人間の育ちとの関係を、母性原理、父性原理というキーワードからペアワークで考える。	○アサインメント：吉野弘の詩の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：学校の起源について調べてくる。【所要時間 60 分】
輪講 2-3	第3回 学校教育と教育機会の平等（その1） 家庭の次に人間が所属する集団である学校。「学校」が成立してきた歴史を知ったうえで、学校が人間の何を育てるのかをペアワークで考える。	○アサインメント：シルヴァスタイン,S.の『おおきな木』の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：授業で示したことがらが「教育基本法」に定める教育機会均等の原則に反するかどうか自分の意見を書いてくる。【所要時間 60 分】
輪講 2-4	第4回 学校教育と教育機会の平等（その2） 第3回の授業でアサインメントとして考えてきたことを、グループで分かち合い、その後クラス全体で発表する。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第4回の授業の際に説明する）。	○クール小課題を作成する。 【所要時間 360 分】

	【所要時間 360 分】 課題 A：人が「生理的早産」であることは、親子関係にどのような影響を与えているだろうか。授業内容を踏まえ、自分の考えを述べなさい。 課題 B：現在の日本では「教育を受ける機会」は平等になっているだろうか。授業内容を踏まえ	
輪講 2-5	第 5 回 生涯学習と自分の人生 「生涯学習」という考え方がうまれた背景を知ったうえで、受講生が自分の人生のなかに「学び」をどのように位置づけ、これから「学び」とどのようにつきあっていくかを考える。	とくになし
輪講 3-1	<谷口一也> 第 1 回 科学とノーベル賞 現代科学についての概要をつかんだうえで、日本人のノーベル賞やノーベル賞にまつわる不平等に関して考える。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：ノーベル賞受賞者について調べてくる。【所要時間 60 分】
輪講 3-2	第 2 回 ウイルスとは何か ウイルスとは何かを理解するために、コロナウイルスやジカウイルス、エイズウイルス、ヒトパピローマウイルスなどについて学び、ワクチンや感染症対策に関して自ら考える姿勢を身に付けていく。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：出生前診断について調べてくる。【所要時間 60 分】
輪講 3-3	第 3 回 社会人のための SDG s 基礎知識 「社会人のための SDG s 基礎知識」の概要を学んだうえで、SDG s の具体例に関して考える。特に、SDG s 目標 15「陸の豊かさを守ろう」に関わる森林や環境について考える。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30 分】 ○本日の課題：SDG s の目標を 1 つ取り上げ、ワークシートの項目に沿ってまとめる。【所要時間 60 分】
輪講 3-4	第 4 回 がん教育 ”がん”は日本人の 2 人に 1 人がかかる病気である。また、小・中学校においてがん教育も行われるようになってきた。がんに関する基本的な知識を学び、その予防や検診に関して自ら考える力を身に着ける。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：クール小課題を行う。【所要時間 60 分】
輪講 3-5	第 5 回 ゲノム編集と遺伝 ゲノム編集食品が近年販売されるようになった。ゲノム編集とは何か、について学び、その有用性と注意点について考える。また、鎌状赤血球貧血症などを材料に遺伝の不思議についても考える。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第 4 回の授業で説明する）。 * 調べた内容 600 字以上、自分の考えは 200 字以上書くこと。 【所要時間 360 分】 【生成系 AI の活用に関して】 クール課題（人間学、谷口担当分）では生成系 AI や様々なホームページ、文献	

1.授業コード (ナンバリング)	HUM101-A52	2.科目名	人間学Ⅰ（B グループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、谷口一也、濱名篤					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、入学後少なくとも半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋3本ずつのクールレポートと、1本ずつの最終レポートを書く。一つ一つのテーマについて、自らの問題としてとらえ、しっかりとした自分の意見を持ってほしい。 なお、この科目は、履修者を3つのグループに分け、3人の教員による輪講形式で進められるため、グループごとに受講順序が異なる。しかしどのような順序で学んでも、授業の進行には差し支えないよう配慮されている。 KUISSs 学修ベンチマークの「多様性理解」と「問題発見・解決力」のレベル・アップを本科目では目指している。					
18.学習目標と DPとの関連	<DPとの関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含まれます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の17の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、4 質の高い教育をみんなに、5 ジェンダー平等を実現しよう、8 働きがいも経済成長も <平等・職業> 濱名 篤 「平等・職業」をテーマとして、「職業生活と社会的格差」というテーマで5回の授業を行う。 近年、社会的格差の拡大のメカニズムと、格差の拡大が社会や経済に及ぼす深刻な影響を理解することがいかに重要であるかが再認識されてきている。地方と大都市、性別による格差、教育格差、職業による格差、雇用形態（正規－非正規）による格差など、日本においても他の社会と同様に様々な格差問題がある。 この5回の授業では、人間の一生のなかで大きなウェイトを持つ「職業」を通して、人間と社会の関わりを考えていく。日本は、少子高齢社会への道を着実に歩みつつあり、すでに2006年からは人口も減少に転じており、世代間格差は拡大し、社会としての未来はバラ色には見えにくくなり、様々な社会的格差の存在が顕在化しており、ライフプランを考える際に認識しておく必要がある。					

			これに加え、現代は第4次産業革命の到来と言われ、M・オズボーン&K・フライの予測によれば、AIやロボット技術の進歩によりこれから10～20年の間に“消滅する職業”が多数出てくる可能性が指摘され、職業生活の内容が大きく変化していく職業も予想され、職業間格差が拡大する可能性も大きい。こうした格差社会においては、若者にとって“働くことの意味”は見失われがちである。自らの人生の“幸せ Well-being”と職業との関係を考えることは、学生生活のうちに考え始めておく必要がある課題である。 この講義では、職業、キャリア、社会的格差、第4次産業革命、AIなどをキーワードに、職業と社会的格差をめぐるこれらの諸問題を取り上げる。 <学び> 濱名陽子 私の分担分では、「学び」というキーワードから人間を考える。人間は世代交代の方法として、「遺伝子」、「学ぶ」に加え、「教える」という営みを取り入れている特異な生き物である。まずはじめに、人間の育ちの特質を知り、人間の育ちのプロセスと「教育」とのかかわりについて考える。次に家庭という教育の場での人間の育ちのプロセスについて、とくに「親」の役割に焦点をあてて考え、さらに学校という教育の場での人間形成について、学校が人間の何を育てるのかを考えたのち、「教育を受ける機会の平等」の問題を考える。最後に生涯学習の時代にあって、受講生自身の人生を「学び」の視点から考える。 <科学技術と生命> 谷口一也 私たちは科学技術の恩恵を受け、私たちの生活は豊かになった。また、細胞医療や自動運転技術など様々な分野で新たな科学技術が生まれている。私の担当分では、科学技術の素晴らしさを理解したうえで、科学技術の問題点をいくつかの視点で考えてみたい。具体的には、ノーベル賞、ウイルス、遺伝子に関する話題を取り上げ、科学技術に関する現状を理解し、課題を把握したうえで、グループワークによる議論等を行っていく。また、「社会人のためのSDGs基礎知識」の概要を学んだうえで、SDGsの具体例に関して考える。これらの活動を通して、様々な課題・問題に対して、自分なりの考えを表現できるようになることを目指す。
19.教科書・教材			
20.参考文献			文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） <濱名 篤> ◎野口悠紀雄『2040年の日本』幻冬舎新書、2013 ◎阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波新書、2014 ◎濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書、2015 ◎浜屋祐子・中原淳『育児は仕事の役に立つー「ワンオペ育児」から「チーム育児へ」ー』光文社新書、2017 ◎山田 昌弘『底辺への競争 格差放置社会ニッポンの末路』朝日新書、2017 ◎吉川 徹『日本の分断ー切り離される非大卒若者（レッグ
21.成績評価			3名の担当者のクール小課題レポート（800字以上） 18点×3=54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する） 48点 最終課題（共通課題）：予定 「人が幸せに生きるとはどういうことか、そのために社会やあなたはなにをなすことができるか」 最終レポート課題の詳細は、最終クールの教員が説明する。
22.コメント			一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 授業ではノートPCを使用しますので、充電やアップデートを確認のうえ、持参してください。
23.オフィスアワー			未定
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)	
輪講 1-1	<濱名 篤>	【アサインメント】	

	第1回 日本社会にはどのような社会的格差や不平等があるのかを、各自の予習してきた内容を参考に考えてみる。その上で、自分の将来の進路について考えてみる。その上で、職業とはどのようなものなのかについて社会学的な説明を行う。 何のために職業につくのか、就職する上で不安なことは何かについて ZOOM ディスカッションを実施する。	①あなたは日本社会の中にあるどのような社会的格差（人種・民族・性・年齢・世代・職業・正規雇用－非正規雇用・学歴などによる格差・不平等）が問題だと思いますか。どのような地位による格差が、何故気になるのかを 400 字程度にまとめる。【所要時間 30 分】 ②就職する際に、採用する側は大卒者の”何を”評価すると思うか。【所要時間 20 分】 ③なぜ本学のこの学部・学科に入学したのですか。【所要時間 10 分】 ④今回の授業の感想・質問を書いてください。 ※①～④を Webclass の指定箇所へ
輪講 1－2	第2回 社会から期待される能力、自分が伸ばしたい能力をどうすれば身につけられるのか（看護学科と教育福祉学科は「専門的職業とは何か」） 若者を取り巻く社会的格差のうち、学歴、正規労働者と非正規労働者の格差に注目し、その影響について確認する。その上で、社会人基礎力など、社会が大卒者に期待する能力とはどのようなものなのか、自分が伸ばしたい能力とはどのようなものなのか、自らキャリア形成を考えていく上で、どのような具体的課題があるのかを考えていく。 （看護学科と教育福祉学科では、専門職とはどのような職業をいう	【アサインメント】 ①自分が在学中に身につけることが必要な知識、技術・スキル、態度特性を考え、KUISs 学修ベンチマークの大項目 から 1 つを選び、なぜそれが自分にとって大事なのか、それらを具体的どのように身につけていこうと思うのかをまとめる（200 字程度）【所要時間 30 分】 ②自分が就こうとしている職業に AI（生成 AI を含む）がどのような影響を与えていくと思いますか。それらのテクノロジーがもたらす変化について調べたうえで、自分の考えを述べなさい（400 字程度）。【所要時間 60 分】 ※指定する期日ま
輪講 1－3	第3回 職業の持続可能性～就いた職業がなくなったらどうするか～ 就職活動をしていっても自分の希望する勤め先や職業に就くことができなくなった場合に、自分はどのようにするだろう？また、就いた職業が将来消滅したらどうするだろうか？ コロナ禍に加え、少子化、高齢化、AI やロボットの発達などのによって職業構造が変化することが確実視されている中で、消滅が予想されている職業はどのようなものなのかを知り、その理由や背景を考えてみる。その上で、不要とならない職業の条件や人間にしかできない仕事の条件とは何かを考える。	【アサインメント】 ①コロナや第4次産業革命で、おこる社会的変化が自分たちのキャリアに与えている影響にはどのようなことがあるのかについて調べなさい。今後、自分達がとるべき準備や対応とは何でしょうか。今からできること、就職してからできることは何でしょうか。【所要時間 60 分】 ②日本の少子高齢化は世界の国々と比べてどのような点で深刻でしょうか。また”自分の”将来の生活にどのような影響を与えるでしょうか。その中で何が最も深刻か、その理由を説明しなさい。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに Webcl
輪講 1－4	第4回 少子高齢化社会の職業生活と男女共生 少子高齢化が自分たちの将来の生活に与える影響について考えてみる。 女性が出産・育児と職業生活を両立しにくい社会であることが少子 高齢化の原因とみなされ、「働き方改	【アサインメント】 ① 日本社会の男女の不平等は具体的にどのようなところで起こっていますか。他の国と比べ、何が原因でそうなっているのでしょうか（400 字）。【所要時間 20 分】 ②「人生 100 年時代」になると、現在の両親

	革」が検討されている。共働き・共育が標準的なスタイルの社会に変化しつつある状況下において、職業生活と家庭生活における男女共生の在り方について考えてみる。 少子高齢化が自分の人生・将来の生活にどのように影響するのかについて様々なデータを紹介しながら考えていく。ジェンダーによるギャップがどのような	の世代と比べ、人生の過ごし方をどのように変えていかなければならなくなると予想しますか。そのために、卒業して職業に就いたのちに、自分や自分の家族が取り組まなければならないことはどんなことでしょうか。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに Webclass より提出 ※クール小課題は第
輪講 1-5	第5回 「働き方改革」と社会人の学び直し ”2024 年問題”や”2025 年問題”が問題になり、日本社会では「働き方 改革」が求められています。他方、AI 等のテクノロジーの進歩の影響はどのように出てきているのでしょうか。現在の日本社会が直面している格差や危機への影響を考え、個人や世代としてどのように回避や改善を図っていくかを考えていきます。 男女共生のために、あなたは今後、家庭生活でどのような工夫をしていきますか。アクションプランについて ZOOM のブレイクアウトセッションでグループディスカッションを実施	【アサインメント】なし
輪講 2-1	<濱名陽子> 第1回 人間の育ちの特質 人間の育ちの特質を知ったうえで、人間という存在にとって、「学び」と「教育」がなぜ大きな意義を持つのかを考える。	○アサインメント：A.ミルンの詩の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：「母性原理」「父性原理」という言葉の意味を調べてくる。【所要時間 60 分】
輪講 2-2	第2回 家庭教育と親 人間が生まれてはじめて所属する集団である「家族」。そこで出会う「親」と人間の育ちとの関係を、母性原理、父性原理というキーワードからペアワークで考える。	○アサインメント：吉野弘の詩の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：学校の起源について調べてくる。【所要時間 60 分】
輪講 2-3	第3回 学校教育と教育機会の平等（その1） 家庭の次に人間が所属する集団である学校。「学校」が成立してきた歴史を知ったうえで、学校が人間の何を育てるのかをペアワークで考える。	○アサインメント：シルヴァスタイン,S.の『おおきな木』の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：授業で示したことがらが「教育基本法」に定める教育機会均等の原則に反するかどうか自分の意見を書いてくる。【所要時間 60 分】
輪講 2-4	第4回 学校教育と教育機会の平等（その2） 第3回の授業でアサインメントとして考えてきたことを、グループで分かち合い、その後クラス全体で発表する。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第4回の授業の際に説明する）。	○クール小課題を作成する。 【所要時間 360 分】

	【所要時間 360 分】 課題 A：人が「生理的早産」であることは、親子関係にどのような影響を与えているだろうか。授業内容を踏まえ、自分の考えを述べなさい。 課題 B：現在の日本では「教育を受ける機会」は平等になっているだろうか。授業内容を踏まえ	
輪講 2-5	第 5 回 生涯学習と自分の人生 「生涯学習」という考え方がうまれた背景を知ったうえで、受講生が自分の人生のなかに「学び」をどのように位置づけ、これから「学び」とどのようにつきあっていくかを考える。	とくになし
輪講 3-1	<谷口一也> 第 1 回 科学とノーベル賞 現代科学についての概要をつかんだうえで、日本人のノーベル賞やノーベル賞にまつわる不平等に関して考える。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：ノーベル賞受賞者について調べてくる。【所要時間 60 分】
輪講 3-2	第 2 回 ウイルスとは何か ウイルスとは何かを理解するために、コロナウイルスやジカウイルス、エイズウイルス、ヒトパピローマウイルスなどについて学び、ワクチンや感染症対策に関して自ら考える姿勢を身に着けていく。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：出生前診断について調べてくる。【所要時間 60 分】
輪講 3-3	第 3 回 社会人のための SDG s 基礎知識 「社会人のための SDG s 基礎知識」の概要を学んだうえで、SDG s の具体例に関して考える。特に、SDG s 目標 15「陸の豊かさを守ろう」に関わる森林や環境について考える。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30 分】 ○本日の課題：SDG s の目標を 1 つ取り上げ、ワークシートの項目に沿ってまとめる。【所要時間 60 分】
輪講 3-4	第 4 回 がん教育 ”がん”は日本人の 2 人に 1 人がかかる病気である。また、小・中学校においてがん教育も行われるようになってきた。がんに関する基本的な知識を学び、その予防や検診に関して自ら考える力を身に着ける。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：クール小課題を行う。【所要時間 60 分】
輪講 3-5	第 5 回 ゲノム編集と遺伝 ゲノム編集食品が近年販売されるようになった。ゲノム編集とは何か、について学び、その有用性と注意点について考える。また、鎌状赤血球貧血症などを材料に遺伝の不思議についても考える。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第 4 回の授業で説明する）。 * 調べた内容 600 字以上、自分の考えは 200 字以上書くこと。 【所要時間 360 分】 【生成系 AI の活用に関して】 クール課題（人間学、谷口担当分）では生成系 AI や様々なホームページ、文献	

1.授業コード (ナンバリング)	HUM101-A53	2.科目名	人間学Ⅰ (C グループ)		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、谷口一也、濱名篤					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、入学後少なくとも半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋3本ずつのクールレポートと、1本ずつの最終レポートを書く。一つ一つのテーマについて、自らの問題としてとらえ、しっかりとした自分の意見を持ってほしい。 なお、この科目は、履修者を3つのグループに分け、3人の教員による輪講形式で進められるため、グループごとに受講順序が異なる。しかしどのような順序で学んでも、授業の進行には差し支えないよう配慮されている。 KUISSs 学修ベンチマークの「多様性理解」と「問題発見・解決力」のレベル・アップを本科目では目指している。					
18.学習目標と DPとの関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含まれます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の17の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、4 質の高い教育をみんなに、5 ジェンダー平等を実現しよう、8 働きがいも経済成長も <平等・職業> 濱名 篤 「平等・職業」をテーマとして、「職業生活と社会的格差」というテーマで5回の授業を行う。 近年、社会的格差の拡大のメカニズムと、格差の拡大が社会や経済に及ぼす深刻な影響を理解することがいかに重要であるかが再認識されてきている。地方と大都市、性別による格差、教育格差、職業による格差、雇用形態（正規－非正規）による格差など、日本においても他の社会と同様に様々な格差問題がある。 この5回の授業では、人間の一生のなかで大きなウェイトを持つ「職業」を通して、人間と社会の関わりを考えていく。日本は、少子高齢社会への道を着実に歩みつつあり、すでに2006年からは人口も減少に転じており、世代間格差は拡大し、社会としての未来はバラ色には見えにくくなり、様々な社会的格差の存在が顕在化しており、ライフプランを考える際に認識しておく必要がある。					

			これに加え、現代は第4次産業革命の到来と言われ、M・オズボーン&K・フライの予測によれば、AIやロボット技術の進歩によりこれから10～20年の間に“消滅する職業”が多数出てくる可能性が指摘され、職業生活の内容が大きく変化していく職業も予想され、職業間格差が拡大する可能性も大きい。こうした格差社会においては、若者にとって“働くことの意味”は見失われがちである。自らの人生の“幸せ Well-being”と職業との関係を考えることは、学生生活のうちに考え始めておく必要がある課題である。 この講義では、職業、キャリア、社会的格差、第4次産業革命、AIなどをキーワードに、職業と社会的格差をめぐるこれらの諸問題を取り上げる。 <学び> 濱名陽子 私の分担分では、「学び」というキーワードから人間を考える。人間は世代交代の方法として、「遺伝子」、「学ぶ」に加え、「教える」という営みを取り入れている特異な生き物である。まずはじめに、人間の育ちの特質を知り、人間の育ちのプロセスと「教育」とのかかわりについて考える。次に家庭という教育の場での人間の育ちのプロセスについて、とくに「親」の役割に焦点をあてて考え、さらに学校という教育の場での人間形成について、学校が人間の何を育てるのかを考えたのち、「教育を受ける機会の平等」の問題を考える。最後に生涯学習の時代にあって、受講生自身の人生を「学び」の視点から考える。 <科学技術と生命> 谷口一也 私たちは科学技術の恩恵を受け、私たちの生活は豊かになった。また、細胞医療や自動運転技術など様々な分野で新たな科学技術が生まれている。私の担当分では、科学技術の素晴らしさを理解したうえで、科学技術の問題点をいくつかの視点で考えてみたい。具体的には、ノーベル賞、ウイルス、遺伝子に関する話題を取り上げ、科学技術に関する現状を理解し、課題を把握したうえで、グループワークによる議論等を行っていく。また、「社会人のためのSDGs基礎知識」の概要を学んだうえで、SDGsの具体例に関して考える。これらの活動を通して、様々な課題・問題に対して、自分なりの考えを表現できるようになることを目指す。
19.教科書・教材			
20.参考文献			文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） <濱名 篤> ◎野口悠紀雄『2040年の日本』幻冬舎新書、2013 ◎阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波新書、2014 ◎濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書、2015 ◎浜屋祐子・中原淳『育児は仕事の役に立つー「ワンオペ育児」から「チーム育児へ」ー』光文社新書、2017 ◎山田 昌弘『底辺への競争 格差放置社会ニッポンの末路』朝日新書、2017 ◎吉川 徹『日本の分断ー切り離される非大卒若者（レッグ
21.成績評価			3名の担当者のクール小課題レポート（800字以上） 18点×3=54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する） 48点 最終課題（共通課題）：予定 「人が幸せに生きるとはどういうことか、そのために社会やあなたはなにをなすことができるか」 最終レポート課題の詳細は、最終クールの教員が説明する。
22.コメント			一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。 授業ではノートPCを使用しますので、充電やアップデートを確認のうえ、持参してください。
23.オフィスアワー			未定
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)	
輪講 1-1	<濱名 篤>	【アサインメント】	

	第1回 日本社会にはどのような社会的格差や不平等があるのかを、各自の予習してきた内容を参考に考えてみる。その上で、自分の将来の進路について考えてみる。その上で、職業とはどのようなものなのかについて社会学的な説明を行う。 何のために職業につくのか、就職する上で不安なことは何かについて ZOOM ディスカッションを実施する。	①あなたは日本社会の中にあるどのような社会的格差（人種・民族・性・年齢・世代・職業・正規雇用－非正規雇用、学歴などによる格差・不平等）が問題だと思いますか。どのような地位による格差が、何故気になるのかを 400 字程度にまとめる。【所要時間 30 分】 ②就職する際に、採用する側は大卒者の”何を”評価すると思うか。【所要時間 20 分】 ③なぜ本学のこの学部・学科に入学したのですか。【所要時間 10 分】 ④今回の授業の感想・質問を書いてください。 ※①～④を Webclass の指定箇所へ
輪講 1－2	第2回 社会から期待される能力、自分が伸ばしたい能力をどうすれば身につけられるのか（看護学科と教育福祉学科は「専門的職業とは何か」） 若者を取り巻く社会的格差のうち、学歴、正規労働者と非正規労働者の格差に注目し、その影響について確認する。その上で、社会人基礎力など、社会が大卒者に期待する能力とはどのようなものなのか、自分が伸ばしたい能力とはどのようなものなのか、自らキャリア形成を考えていく上で、どのような具体的課題があるのかを考えていく。 （看護学科と教育福祉学科では、専門職とはどのような職業をいう	【アサインメント】 ①自分が在学中に身につけることが必要な知識、技術・スキル、態度特性を考え、KUISs 学修ベンチマークの大項目 から 1 つを選び、なぜそれが自分にとって大事なのか、それらを具体的にどのように身につけていこうと思うのかをまとめる（200 字程度）【所要時間 30 分】 ②自分が就こうとしている職業に AI（生成 AI を含む）がどのような影響を与えていくと思いますか。それらのテクノロジーがもたらす変化について調べたうえで、自分の考えを述べなさい（400 字程度）。【所要時間 60 分】 ※指定する期日ま
輪講 1－3	第3回 職業の持続可能性～就いた職業がなくなったらどうするか～ 就職活動をしていっても自分の希望する勤め先や職業に就くことができなくなった場合に、自分はどのようにするだろう？また、就いた職業が将来消滅したらどうするだろうか？ コロナ禍に加え、少子化、高齢化、AI やロボットの発達などのによって職業構造が変化することが確実視されている中で、消滅が予想されている職業はどのようなものなのかを知り、その理由や背景を考えてみる。その上で、不要とならない職業の条件や人間にしかできない仕事の条件とは何かを考える。	【アサインメント】 ①コロナや第4次産業革命で、おこる社会的変化が自分たちのキャリアに与えている影響にはどのようなことがあるのかについて調べなさい。今後、自分達がとるべき準備や対応とは何でしょうか。今からできること、就職してからできることは何でしょうか。【所要時間 60 分】 ②日本の少子高齢化は世界の国々と比べてどのような点で深刻でしょうか。また”自分の”将来の生活にどのような影響を与えるでしょうか。その中で何が最も深刻か、その理由を説明しなさい。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに Webcl
輪講 1－4	第4回 少子高齢化社会の職業生活と男女共生 少子高齢化が自分たちの将来の生活に与える影響について考えてみる。 女性が出産・育児と職業生活を両立しにくい社会であることが少子 高齢化の原因とみなされ、「働き方改	【アサインメント】 ① 日本社会の男女の不平等は具体的にどのようなところで起こっていますか。他の国と比べ、何が原因でそうなっているのでしょうか（400 字）。【所要時間 20 分】 ②「人生 100 年時代」になると、現在の両親

	革」が検討されている。共働き・子育てが標準的なスタイルの社会に変化しつつある状況下において、職業生活と家庭生活における男女共生の在り方について考えてみる。 少子高齢化が自分の人生・将来の生活にどのように影響するのかについて様々なデータを紹介しながら考えていく。ジェンダーによるギャップがどのような	の世代と比べ、人生の過ごし方をどのように変えていかなければならなくなると予想しますか。そのために、卒業して職業に就いたのちに、自分や自分の家族が取り組まなければならないことはどんなことでしょうか。【所要時間 60 分】 ※指定する期日までに Webclass より提出 ※クール小課題は第
輪講 1-5	第5回 「働き方改革」と社会人の学び直し ”2024 年問題”や”2025 年問題”が問題になり、日本社会では「働き方 改革」が求められています。他方、AI 等のテクノロジーの進歩の影響はどのように出てきているのでしょうか。現在の日本社会が直面している格差や危機への影響を考え、個人や世代としてどのように回避や改善を図っていくかを考えていきます。 男女共生のために、あなたは今後、家庭生活でどのような工夫をしていきますか。アクションプランについて ZOOM のブレイクアウトセッションでグループディスカッションを実施	【アサインメント】なし
輪講 2-1	<濱名陽子> 第1回 人間の育ちの特質 人間の育ちの特質を知ったうえで、人間という存在にとって、「学び」と「教育」がなぜ大きな意義を持つのかを考える。	○アサインメント：A.ミルンの詩の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：「母性原理」「父性原理」という言葉の意味を調べてくる。【所要時間 60 分】
輪講 2-2	第2回 家庭教育と親 人間が生まれてはじめて所属する集団である「家族」。そこで出会う「親」と人間の育ちとの関係を、母性原理、父性原理というキーワードからペアワークで考える。	○アサインメント：吉野弘の詩の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：学校の起源について調べてくる。【所要時間 60 分】
輪講 2-3	第3回 学校教育と教育機会の平等（その1） 家庭の次に人間が所属する集団である学校。「学校」が成立してきた歴史を知ったうえで、学校が人間の何を育てるのかをペアワークで考える。	○アサインメント：シルヴァースタイン,S.の『おおきな木』の感想を書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：授業で示したことがらが「教育基本法」に定める教育機会均等の原則に反するかどうか自分の意見を書いてくる。【所要時間 60 分】
輪講 2-4	第4回 学校教育と教育機会の平等（その2） 第3回の授業でアサインメントとして考えてきたことを、グループで分かち合い、その後クラス全体で発表する。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第4回の授業の際に説明する）。	○クール小課題を作成する。 【所要時間 360 分】

	【所要時間 360 分】 課題 A：人が「生理的早産」であることは、親子関係にどのような影響を与えているだろうか。授業内容を踏まえ、自分の考えを述べなさい。 課題 B：現在の日本では「教育を受ける機会」は平等になっているだろうか。授業内容を踏まえ	
輪講 2-5	第 5 回 生涯学習と自分の人生 「生涯学習」という考え方がうまれた背景を知ったうえで、受講生が自分の人生のなかに「学び」をどのように位置づけ、これから「学び」とどのようにつきあっていくかを考える。	とくになし
輪講 3-1	<谷口一也> 第 1 回 科学とノーベル賞 現代科学についての概要をつかんだうえで、日本人のノーベル賞やノーベル賞にまつわる不平等に関して考える。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：ノーベル賞受賞者について調べてくる。【所要時間 60 分】
輪講 3-2	第 2 回 ウイルスとは何か ウイルスとは何かを理解するために、コロナウイルスやジカウイルス、エイズウイルス、ヒトパピローマウイルスなどについて学び、ワクチンや感染症対策に関して自ら考える姿勢を身に付けていく。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：出生前診断について調べてくる。【所要時間 60 分】
輪講 3-3	第 3 回 社会人のための SDG s 基礎知識 「社会人のための SDG s 基礎知識」の概要を学んだうえで、SDG s の具体例に関して考える。特に、SDG s 目標 15「陸の豊かさを守ろう」に関わる森林や環境について考える。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30 分】 ○本日の課題：SDG s の目標を 1 つ取り上げ、ワークシートの項目に沿ってまとめる。【所要時間 60 分】
輪講 3-4	第 4 回 がん教育 ”がん”は日本人の 2 人に 1 人がかかる病気である。また、小・中学校においてがん教育も行われるようになってきた。がんに関する基本的な知識を学び、その予防や検診に関して自ら考える力を身に着ける。	○アサインメント：授業内容の振り返りを書いてくる。【所要時間 30 分】 ○次回授業の準備：クール小課題を行う。【所要時間 60 分】
輪講 3-5	第 5 回 ゲノム編集と遺伝 ゲノム編集食品が近年販売されるようになった。ゲノム編集とは何か、について学び、その有用性と注意点について考える。また、鎌状赤血球貧血症などを材料に遺伝の不思議についても考える。 クール小課題 次の課題の中からひとつを選び、レポートを書くこと（レポートの詳細は、第 4 回の授業で説明する）。 * 調べた内容 600 字以上、自分の考えは 200 字以上書くこと。 【所要時間 360 分】 【生成系 AI の活用に関して】 クール課題（人間学、谷口担当分）では生成系 AI や様々なホームページ、文献	

1.授業コード (ナンバリング)	HUM102-M51	2.科目名	人間学Ⅱ（Aグループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、川脇康生、北村正仁、田中綾子					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目 実務家教員(防災分野:川脇)	6.必修・ 選択の区分	必修		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	全学共通				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋3本ずつのクールレポートと、1本ずつの最終レポートを書く。一つ一つのテーマについて、自らの問題としてとらえ、しっかりとした自分の意見を持ってほしい。 なお、この科目は、履修者を3つのグループに分け、3人の教員による輪講形式で進められるため、グループごとに受講順序が異なる。しかしどのような順序で学んでも、授業の進行には差し支えないよう配慮されている。					
18.学習目標と DPとの関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含まれます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、9 産業と技術革新の基盤をつくろう、10 人や国の不平等をなくそう、16 平和と公正をすべての人に、17 パートナリーシップで目標を達成しよう <国際社会と公共政策>（川脇康生） 20 世紀に入り交通や通信手段が急速に発達し、人類が自由に地球規模で交流し、友好を深めたり、事業を始めたりすることが盛んになってきた。一方、国家の枠を超えて、地球全体を対象に取り組む必要のある人類共通の課題も生まれてきた。本講義では公共政策とは何かについて学ぶとともに、人類が協力して解決すべき環境問題や大災害への対応について具体的な事例をもとに考え、これから生き抜くうえで必要となるグローバルな視点を身につける。 <災害を生き抜くために>（田中綾子） 私たち人間は有史以前より、自然の豊かさから恩恵を受けると同時に、自然の厳しさと向き合ってきた。とりわけ、四季があり温泉や美味しい食物に恵まれる日本は、多様な災害に多くみまわれることから災害のデパートともいわれている。 この5回の授業では、災害が多発する今を生き抜き、社会や暮らしを守っていくために何が					

	必要なのかを学ぶ。 具体的には、①国内の地震を中心に、過去の代表的な災害事例から発生メカニズムと被害および対策について知る。そして、②都市化やグローバル化によって急速に変わりつつある災害の様相から、今後求められる災害対応を考える。さらに、③さまざまなライフステージや役割において、身近にできることから行動してみる。これらを通じて、防災に関する「知識」「意識」「行動」の基礎的な力を身につけることを目標とする。 <論理的思考とイノベーション> (北村正仁) 私たちは、日々の生活や社会活動の中で様々な問題に直面し、色々な迷いや悩みを抱え、数多くの判断や意思決定をしている。この「意思決定」を少しでも論理的・合理的に行う方法が「論理的思考」である。さらに、より良い生活や人生を送るためには、直面する課題を解決し、新たな価値を生み出す「イノベーション」も重要といえる。ここでは、この「論理的思考」や「イノベーション」について、皆さんと共に考えていく。 授業では、悩み・迷い・問題・課題などを整理し、「論理的思考」(ロジカルシンキング)の考え方や手法を学ぶ。つぎに、社会課題などを解決して新たな革新的な価値を生み出し、新しい未来を創る「イノベーション」について、企業活動やリーダーの「人間学」の視点から考える。	
19.教科書・教材		
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） <川協康生> ◎庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆編著『新グローバル公共政策』晃洋書房 2016 年 ◎「大災害と国際協力」研究会著、明石康・大島賢三監修『大災害に立ち向かう世界と日本 災害と国際協力』佐伯印刷株式会社出版事業部 2013 年 ◎山本民次編『「里海」としての沿岸域の新たな利用』恒星社厚生閣 2010 年 ◎井上恭介・NHK「里海」取材班『里海資本論 日本社会は「共生の原理」で動く』角川新書 2015 年 ◎世	
21.成績評価	3名の担当者のクール小課題レポート（800字以上） 18点×3=54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する） 48点 最終課題（共通課題）予定 「安全・安心な社会をつくっていくために、あなたが取り組めることはなにか」 最終クールの担当教員が、詳細を連絡する。	
22.コメント	一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。	
23.オフィスアワー	未定	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講 1-1	<北村正仁> 第1回 人間はなぜ悩むのか？ 現代社会に生きる私たちは数多くの「悩み」や「迷い」を抱えている。私たち「人類」は「動物」から進化したと言われている。また、私たちは誰も「子供」から「大人」へと成長して行く。この人類の「進化」、人間としての「成長」から、何故人間は悩むのかを考えていく。	〔事前準備〕なぜ人間は悩むのか？「悩み」と「迷い」の違いを考える。【所要時間 30分】 〔アサインメント〕講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30分】
輪講 1-2	第2回 物事を構造的に捉える（ロジックツリー）	〔事前準備〕自分自身や身近な悩み事や迷い

	論理的に思考するためには、物事を「構造的」に捉えることが必要である。この物事を構造的に捉える基盤となる考え方が「MECE」である。MECE は、論理的思考（ロジカル・シンキング）のベースとなるもので、数多くのビジネス・フレームワークでも活用されている。 この「MECE」をベースとして、思考を構造化する「ロジックツリー」（ピラミッド・ストラクチャー）の枠組みについて学ぶ。	事の内容と、その結論や結果を整理し、最終的になぜそう決めたのかを考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 1－3	第3回 行動の選択・理想と目標 「ロジックツリー」によって問題分析と解説策を導き出す。その解決策を実行するため、資源管理や時間管理の方法を学ぶ。その上で、「問題」と「課題」の違いを理解し、人間が掲げる「理想」と「目標」の重要性を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の問題や身近な社会課題について、その課題の解決策を導き出す方法について考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 1－4	第4回 新しい未来を創る（イノベーション） マズローの5段階欲求説から、人間は「あるべき姿」を掲げることが出来る、その意味を考える。その上で、理想の世界・新しい未来を創る「イノベーション」を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の身近な問題について、「ロジックツリー」を使い、原因の分析や解決策の導出を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】 〔クール小課題〕【所要時間 180 分】
輪講 1－5	第5回 イノベーション・視座を高める イノベーションをどのように生み出すのか、知識と知恵、形式知と暗黙知の違いや関係性を考える。その上で「知識創造理論」（SECI モデル）を学ぶ。その上で、視座を高める重要性を考え、5回の授業を振り返る。 〔クール小課題〕 次の小課題レポートを作成する。 課題：イノベーションによる新しい未来の創造・社会課題の解決の視点から、あなたが魅力的だと感ずる人物を一人挙げ、その理由と自分自身が学ぶべき点について考察して下さい。	〔事前準備〕 新しい未来を創りあげた事例（イノベーション事例）を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 2－1	<川脇康生> 第1回 グローバル社会と公共政策 グローバル化の進展とそれがもたらすメリット・デメリットについて理解したうえで、国際社会における公共の利益とは何か、それを実現するための諸政策がどのように形成されるか具体的な事例を題材にして考察する。	〔事前準備〕：特になし。 〔アサインメント〕：講義内容を整理し、グローバル化社会の課題についてまとめる。 （計 60 分） 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講 2－2	第2回：国際社会のアクター 国際社会で「公共政策」をリードしている国家以外の様々なアクターについて学ぶとともに、国際連合、EU、多国籍企業や NGO などにおいて、どのように公共政策が形成され、実行されているのかを学ぶ。	〔事前準備〕：国際社会にどのようなアクターが存在するのか調べる。 〔アサインメント〕：講義内容を整理し、国際連合、EU、多国籍企業、NGO などの活動をまとめる。

		(計 60 分) 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講 2-3	第3回：国際社会の課題（大災害） 国際社会は持続的発展を目指しているが、その前に立ちはだかる阻害要因の一つが自然災害である。災害発生件数や災害による経済的な損失や損害は増大の一途にある。これらがもたらす脅威に対処するために国際社会はどのような活動を行っているのか、国際協力の現状と課題を学ぶ。	[事前準備]：近年、世界で発生した大災害について調べる。 [アサインメント]：講義内容を整理し、災害発生要因と人間活動との関係をまとめる。 (計 60 分) 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講 2-4	第4回：国際社会の課題（環境問題） 国際社会が直面する最も深刻な課題の一つが環境問題である。人口集中が進み経済活動が拡大することにより、沿岸海域の汚染が進展しているほか、プラスチックごみによる深刻な環境問題が発生している。沿岸海域の環境保全を目的にしたグローバルネットワークや「里海」づくりなど人と自然の共生に向けた取り組みを学ぶ。	[事前準備]：世界の海洋汚染について調べる。 [アサインメント]：講義内容を整理し、環境保全に向けた国際的な取り組みをまとめる。 (計 60 分) 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講 2-5	第5回：国際社会と公共政策まとめ 国際社会では絶えず様々な紛争が発生している。人類全体が共生への道を歩むためには、多様な価値観を相互に理解し合うことが重要となる。世界全体の共通課題の解決に向けてどのような国際協力が可能か、これまでの議論を踏まえ総括する。 クール小課題 現在学んでいる専門領域（経営学、看護学）または自らの将来の職業（経営者、看護師など）を念頭に置き、以下の①～⑤の国際課題の中のいずれか一つを選んで、その専門分野からの対応策を提案してください。 ?貧困、②大災害、③海洋汚染、④気候変動、⑤	[事前準備]：講義で示したレポートの書き方についての注意事項を踏まえてクール小課題をまとめ、授業開始時に提出する。 (計 180 分) [アサインメント]：特になし。 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講 3-1	<田中綾子> 第1回：人間社会と災害 日本の風土や自然観に触れながら、これまでの大きな災害について知り、災害とは何かを考える。 <各回共通>アサインメントをテーマにペアワークを3分行う。また、電子掲示板 Padlet と web クラスを用いてアンケートやコメント、質問等による対話的な共有を並行して進める。	事前準備してくること：最も印象深かった災害について、種類と発生日時と被害について web 等で調べる【所要時間 30 分】 アサインメント：日本における災害の特徴について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】
輪講 3-2	第2回：災害のメカニズムと被害 突然発生する地震のメカニズムと被害について知り、今起きた場合の被害を検討する。また、被災者のさまざまな痛みについて考える。	事前準備してくること：地震とその他の災害の相違点や類似点について考える【所要時間 30 分】 アサインメント：地震による被害について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】

輪講 3-3	第3回：災害への対応と対策 災害後の緊急対応、復旧、復興、次の災害への対策について、さまざまな立場の人の取り組みを知る。また備えの障害となる事柄について考える。	事前準備してくること：自宅あるいは帰省先のハザードマップを確認する【所要時間30分】 アサインメント：発生の時間や季節によってどのように被害が変化するかについて、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】
輪講 3-4	第4回：災害の教訓と伝承 過去の災害に学び、その教訓を活かすことの重要性について考える。また、伝承が途絶える要因について分析する。	事前準備してくること：防災教育教材や伝承の事例についてwebクラスの資料を閲覧する【所要時間30分】 アサインメント：さまざまな防災教育・啓発のあり方について、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】 クール小課題【所要時間300分】
輪講 3-5	第5回：わたしたちの役割（SDGs 住み続けられるまちづくり） 懸念される地震災害の想定を知り、どのような取り組みができるかについて考える。また、災害時の協力・連携について考える。 クール小課題 2024年1月1日に発生した能登半島地震の被害と復旧・復興について、①阪神・淡路大震災や東日本大震災の教訓が生かされた点と、②依然として、あるいは新たな課題となっている点を、それぞれ1つ以上具体例やデータを示して説明しなさい。	事前準備してくること：地震災害に対する備えについて、個人として、さらに職業人として何が必要か考える【所要時間30分】 アサインメント：災害時における地域連携と広域連携、さらに同業種・異業種間の連携について、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】

1.授業コード (ナンバリング)	HUM102-M52	2.科目名	人間学Ⅱ（B グループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、川脇康生、北村正仁、田中綾子					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目 実務家教員(防災分野:川脇)	6.必修・ 選択の区分	必修		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	全学共通				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋 3 本ずつのクールレポートと、1 本ずつの最終レポートを書く。一つ一つのテーマについて、自らの問題としてとらえ、しっかりとした自分の意見を持ってほしい。 なお、この科目は、履修者を 3 つのグループに分け、3 人の教員による輪講形式で進められるため、グループごとに受講順序が異なる。しかしどのような順序で学んでも、授業の進行には差し支えないよう配慮されている。					
18.学習目標と DP との関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含みます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、9 産業と技術革新の基盤をつくろう、10 人や国の不平等をなくそう、16 平和と公正をすべての人に、17 パートナリーシップで目標を達成しよう <国際社会と公共政策>（川脇康生） 20 世紀に入り交通や通信手段が急速に発達し、人類が自由に地球規模で交流し、友好を深めたり、事業を始めたりすることが盛んになってきた。一方、国家の枠を超えて、地球全体を対象に取り組む必要のある人類共通の課題も生まれてきた。本講義では公共政策とは何かについて学ぶとともに、人類が協力して解決すべき環境問題や大災害への対応について具体的な事例をもとに考え、これから生き抜くうえで必要となるグローバルな視点を身につける。 <災害を生き抜くために>（田中綾子） 私たち人間は有史以前より、自然の豊かさから恩恵を受けると同時に、自然の厳しさと向き合ってきた。とりわけ、四季があり温泉や美味しい食物に恵まれる日本は、多様な災害に多くみまわれることから災害のデパートともいわれている。 この 5 回の授業では、災害が多発する今を生き抜き、社会や暮らしを守っていくために何が					

	必要なのかを学ぶ。 具体的には、①国内の地震を中心に、過去の代表的な災害事例から発生メカニズムと被害および対策について知る。そして、②都市化やグローバル化によって急速に変わりつつある災害の様相から、今後求められる災害対応を考える。さらに、③さまざまなライフステージや役割において、身近にできることから行動してみる。これらを通じて、防災に関する「知識」「意識」「行動」の基礎的な力を身につけることを目標とする。 <論理的思考とイノベーション> (北村正仁) 私たちは、日々の生活や社会活動の中で様々な問題に直面し、色々な迷いや悩みを抱え、数多くの判断や意思決定をしている。この「意思決定」を少しでも論理的・合理的に行う方法が「論理的思考」である。さらに、より良い生活や人生を送るためには、直面する課題を解決し、新たな価値を生み出す「イノベーション」も重要といえる。ここでは、この「論理的思考」や「イノベーション」について、皆さんと共に考えていく。 授業では、悩み・迷い・問題・課題などを整理し、「論理的思考」(ロジカルシンキング)の考え方や手法を学ぶ。つぎに、社会課題などを解決して新たな革新的な価値を生み出し、新しい未来を創る「イノベーション」について、企業活動やリーダーの「人間学」の視点から考える。	
19.教科書・教材		
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） <川協康生> ◎庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆編著『新グローバル公共政策』晃洋書房 2016 年 ◎「大災害と国際協力」研究会著、明石康・大島賢三監修『大災害に立ち向かう世界と日本 災害と国際協力』佐伯印刷株式会社出版事業部 2013 年 ◎山本民次編『「里海」としての沿岸域の新たな利用』恒星社厚生閣 2010 年 ◎井上恭介・NHK「里海」取材班『里海資本論 日本社会は「共生の原理」で動く』角川新書 2015 年 ◎世	
21.成績評価	3名の担当者のクール小課題レポート（800字以上） 18点×3=54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する） 48点 最終課題（共通課題）予定 「安全・安心な社会をつくっていくために、あなたが取り組めることはなにか」 最終クールの担当教員が、詳細を連絡する。	
22.コメント	一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。	
23.オフィスアワー	未定	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講 1-1	<北村正仁> 第1回 人間はなぜ悩むのか？ 現代社会に生きる私たちは数多くの「悩み」や「迷い」を抱えている。私たち「人類」は「動物」から進化したと言われている。また、私たちは誰も「子供」から「大人」へと成長して行く。この人類の「進化」、人間としての「成長」から、何故人間は悩むのかを考えていく。	〔事前準備〕なぜ人間は悩むのか？「悩み」と「迷い」の違いを考える。【所要時間 30分】 〔アサインメント〕講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30分】
輪講 1-2	第2回 物事を構造的に捉える（ロジックツリー）	〔事前準備〕自分自身や身近な悩み事や迷い

	論理的に思考するためには、物事を「構造的」に捉えることが必要である。この物事を構造的に捉える基盤となる考え方が「MECE」である。MECEは、論理的思考（ロジカル・シンキング）のベースとなるもので、数多くのビジネス・フレームワークでも活用されている。 この「MECE」をベースとして、思考を構造化する「ロジックツリー」（ピラミッド・ストラクチャー）の枠組みについて学ぶ。	事の内容と、その結論や結果を整理し、最終的になぜそう決めたのかを考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 1－3	第3回 行動の選択・理想と目標 「ロジックツリー」によって問題分析と解説策を導き出す。その解決策を実行するため、資源管理や時間管理の方法を学ぶ。その上で、「問題」と「課題」の違いを理解し、人間が掲げる「理想」と「目標」の重要性を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の問題や身近な社会課題について、その課題の解決策を導き出す方法について考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 1－4	第4回 新しい未来を創る（イノベーション） マズローの5段階欲求説から、人間は「あるべき姿」を掲げることが出来る、その意味を考える。その上で、理想の世界・新しい未来を創る「イノベーション」を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の身近な問題について、「ロジックツリー」を使い、原因の分析や解決策の導出を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】 〔クール小課題〕 【所要時間 180 分】
輪講 1－5	第5回 イノベーション・視座を高める イノベーションをどのように生み出すのか、知識と知恵、形式知と暗黙知の違いや関係性を考える。その上で「知識創造理論」（SECI モデル）を学ぶ。その上で、視座を高める重要性を考え、5回の授業を振り返る。 〔クール小課題〕 次の小課題レポートを作成する。 課題：イノベーションによる新しい未来の創造・社会課題の解決の視点から、あなたが魅力的だと感ずる人物を一人挙げ、その理由と自分自身が学ぶべき点について考察して下さい。	〔事前準備〕 新しい未来を創りあげた事例（イノベーション事例）を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 2－1	<川脇康生> 第1回 グローバル社会と公共政策 グローバル化の進展とそれがもたらすメリット・デメリットについて理解したうえで、国際社会における公共の利益とは何か、それを実現するための諸政策がどのように形成されるか具体的な事例を題材にして考察する。	〔事前準備〕：特になし。 〔アサインメント〕：講義内容を整理し、グローバル化社会の課題についてまとめる。 （計 60 分） 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講 2－2	第2回：国際社会のアクター 国際社会で「公共政策」をリードしている国家以外の様々なアクターについて学ぶとともに、国際連合、EU、多国籍企業や NGO などにおいて、どのように公共政策が形成され、実行されているのかを学ぶ。	〔事前準備〕：国際社会にどのようなアクターが存在するのか調べる。 〔アサインメント〕：講義内容を整理し、国際連合、EU、多国籍企業、NGO などの活動をまとめる。

		(計 60 分) 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講 2-3	第3回：国際社会の課題（大災害） 国際社会は持続的発展を目指しているが、その前に立ちはだかる阻害要因の一つが自然災害である。災害発生件数や災害による経済的な損失や損害は増大の一途にある。これらがもたらす脅威に対処するために国際社会はどのような活動を行っているのか、国際協力の現状と課題を学ぶ。	[事前準備]：近年、世界で発生した大災害について調べる。 [アサインメント]：講義内容を整理し、災害発生要因と人間活動との関係をまとめる。 (計 60 分) 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講 2-4	第4回：国際社会の課題（環境問題） 国際社会が直面する最も深刻な課題の一つが環境問題である。人口集中が進み経済活動が拡大することにより、沿岸海域の汚染が進展しているほか、プラスチックごみによる深刻な環境問題が発生している。沿岸海域の環境保全を目的にしたグローバルネットワークや「里海」づくりなど人と自然の共生に向けた取り組みを学ぶ。	[事前準備]：世界の海洋汚染について調べる。 [アサインメント]：講義内容を整理し、環境保全に向けた国際的な取り組みをまとめる。 (計 60 分) 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講 2-5	第5回：国際社会と公共政策まとめ 国際社会では絶えず様々な紛争が発生している。人類全体が共生への道を歩むためには、多様な価値観を相互に理解し合うことが重要となる。世界全体の共通課題の解決に向けてどのような国際協力が可能か、これまでの議論を踏まえ総括する。 クール小課題 現在学んでいる専門領域（経営学、看護学）または自らの将来の職業（経営者、看護師など）を念頭に置き、以下の①～⑤の国際課題の中のいずれか一つを選んで、その専門分野からの対応策を提案してください。 ?貧困、②大災害、③海洋汚染、④気候変動、⑤	[事前準備]：講義で示したレポートの書き方についての注意事項を踏まえてクール小課題をまとめ、授業開始時に提出する。 (計 180 分) [アサインメント]：特になし。 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講 3-1	<田中綾子> 第1回：人間社会と災害 日本の風土や自然観に触れながら、これまでの大きな災害について知り、災害とは何かを考える。 <各回共通>アサインメントをテーマにペアワークを3分行う。また、電子掲示板 Padlet と web クラスを用いてアンケートやコメント、質問等による対話的な共有を並行して進める。	事前準備してくること：最も印象深かった災害について、種類と発生日時と被害について web 等で調べる【所要時間 30 分】 アサインメント：日本における災害の特徴について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】
輪講 3-2	第2回：災害のメカニズムと被害 突然発生する地震のメカニズムと被害について知り、今起きた場合の被害を検討する。また、被災者のさまざまな痛みについて考える。	事前準備してくること：地震とその他の災害の相違点や類似点について考える【所要時間 30 分】 アサインメント：地震による被害について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】

輪講 3-3	第3回：災害への対応と対策 災害後の緊急対応、復旧、復興、次の災害への対策について、さまざまな立場の人の取り組みを知る。また備えの障害となる事柄について考える。	事前準備してくること：自宅あるいは帰省先のハザードマップを確認する【所要時間30分】 アサインメント：発生の時間や季節によってどのように被害が変化するかについて、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】
輪講 3-4	第4回：災害の教訓と伝承 過去の災害に学び、その教訓を活かすことの重要性について考える。また、伝承が途絶える要因について分析する。	事前準備してくること：防災教育教材や伝承の事例についてwebクラスの資料を閲覧する【所要時間30分】 アサインメント：さまざまな防災教育・啓発のあり方について、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】 クール小課題【所要時間300分】
輪講 3-5	第5回：わたしたちの役割（SDGs 住み続けられるまちづくり） 懸念される地震災害の想定を知り、どのような取り組みができるかについて考える。また、災害時の協力・連携について考える。 クール小課題 2024年1月1日に発生した能登半島地震の被害と復旧・復興について、①阪神・淡路大震災や東日本大震災の教訓が生かされた点と、②依然として、あるいは新たな課題となっている点を、それぞれ1つ以上具体例やデータを示して説明しなさい。	事前準備してくること：地震災害に対する備えについて、個人として、さらに職業人として何が必要か考える【所要時間30分】 アサインメント：災害時における地域連携と広域連携、さらに同業種・異業種間の連携について、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】

1.授業コード (ナンバリング)	HUM102-M53	2.科目名	人間学Ⅱ（Cグループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、川脇康生、北村正仁、田中綾子					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目 実務家教員(防災分野:川脇)	6.必修・ 選択の区分	必修		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	全学共通				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋3本ずつのクールレポートと、1本ずつの最終レポートを書く。一つ一つのテーマについて、自らの問題としてとらえ、しっかりとした自分の意見を持ってほしい。 なお、この科目は、履修者を3つのグループに分け、3人の教員による輪講形式で進められるため、グループごとに受講順序が異なる。しかしどのような順序で学んでも、授業の進行には差し支えないよう配慮されている。					
18.学習目標と DPとの関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含まれます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の17の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、9 産業と技術革新の基盤をつくろう、10 人や国の不平等をなくそう、16 平和と公正をすべての人に、17 パートナリーシップで目標を達成しよう <国際社会と公共政策>（川脇康生） 20 世紀に入り交通や通信手段が急速に発達し、人類が自由に地球規模で交流し、友好を深めたり、事業を始めたりすることが盛んになってきた。一方、国家の枠を超えて、地球全体を対象に取り組む必要のある人類共通の課題も生まれてきた。本講義では公共政策とは何かについて学ぶとともに、人類が協力して解決すべき環境問題や大災害への対応について具体的な事例をもとに考え、これから生き抜くうえで必要となるグローバルな視点を身につける。 <災害を生き抜くために>（田中綾子） 私たち人間は有史以前より、自然の豊かさから恩恵を受けると同時に、自然の厳しさと向き合ってきた。とりわけ、四季があり温泉や美味しい食物に恵まれる日本は、多様な災害に多くみまわれることから災害のデパートともいわれている。 この5回の授業では、災害が多発する今を生き抜き、社会や暮らしを守っていくために何が					

	必要なのかを学ぶ。 具体的には、①国内の地震を中心に、過去の代表的な災害事例から発生メカニズムと被害および対策について知る。そして、②都市化やグローバル化によって急速に変わりつつある災害の様相から、今後求められる災害対応を考える。さらに、③さまざまなライフステージや役割において、身近にできることから行動してみる。これらを通じて、防災に関する「知識」「意識」「行動」の基礎的な力を身につけることを目標とする。 <論理的思考とイノベーション> (北村正仁) 私たちは、日々の生活や社会活動の中で様々な問題に直面し、色々な迷いや悩みを抱え、数多くの判断や意思決定をしている。この「意思決定」を少しでも論理的・合理的に行う方法が「論理的思考」である。さらに、より良い生活や人生を送るためには、直面する課題を解決し、新たな価値を生み出す「イノベーション」も重要といえる。ここでは、この「論理的思考」や「イノベーション」について、皆さんと共に考えていく。 授業では、悩み・迷い・問題・課題などを整理し、「論理的思考」(ロジカルシンキング)の考え方や手法を学ぶ。つぎに、社会課題などを解決して新たな革新的な価値を生み出し、新しい未来を創る「イノベーション」について、企業活動やリーダーの「人間学」の視点から考える。	
19.教科書・教材		
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） <川協康生> ◎庄司真理子・宮脇昇・玉井雅隆編著『新グローバル公共政策』晃洋書房 2016 年 ◎「大災害と国際協力」研究会著、明石康・大島賢三監修『大災害に立ち向かう世界と日本 災害と国際協力』佐伯印刷株式会社出版事業部 2013 年 ◎山本民次編『「里海」としての沿岸域の新たな利用』恒星社厚生閣 2010 年 ◎井上恭介・NHK「里海」取材班『里海資本論 日本社会は「共生の原理」で動く』角川新書 2015 年 ◎世	
21.成績評価	3名の担当者のクール小課題レポート（800字以上） 18点×3=54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する） 48点 最終課題（共通課題）予定 「安全・安心な社会をつくっていくために、あなたが取り組めることはなにか」 最終クールの担当教員が、詳細を連絡する。	
22.コメント	一人の教員が5回しか担当しないので、欠席しないようにしましょう。	
23.オフィスアワー	未定	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
輪講 1-1	<北村正仁> 第1回 人間はなぜ悩むのか？ 現代社会に生きる私たちは数多くの「悩み」や「迷い」を抱えている。私たち「人類」は「動物」から進化したと言われている。また、私たちは誰も「子供」から「大人」へと成長して行く。この人類の「進化」、人間としての「成長」から、何故人間は悩むのかを考えていく。	〔事前準備〕なぜ人間は悩むのか？「悩み」と「迷い」の違いを考える。【所要時間 30分】 〔アサインメント〕講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30分】
輪講 1-2	第2回 物事を構造的に捉える（ロジックツリー）	〔事前準備〕自分自身や身近な悩み事や迷い

	論理的に思考するためには、物事を「構造的」に捉えることが必要である。この物事を構造的に捉える基盤となる考え方が「MECE」である。MECEは、論理的思考（ロジカル・シンキング）のベースとなるもので、数多くのビジネス・フレームワークでも活用されている。 この「MECE」をベースとして、思考を構造化する「ロジックツリー」（ピラミッド・ストラクチャー）の枠組みについて学ぶ。	事の内容と、その結論や結果を整理し、最終的になぜそう決めたのかを考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 1-3	第3回 行動の選択・理想と目標 「ロジックツリー」によって問題分析と解説策を導き出す。その解決策を実行するため、資源管理や時間管理の方法を学ぶ。その上で、「問題」と「課題」の違いを理解し、人間が掲げる「理想」と「目標」の重要性を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の問題や身近な社会課題について、その課題の解決策を導き出す方法について考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 1-4	第4回 新しい未来を創る（イノベーション） マズローの5段階欲求説から、人間は「あるべき姿」を掲げることが出来る、その意味を考える。その上で、理想の世界・新しい未来を創る「イノベーション」を学ぶ。	〔事前準備〕 自分自身の身近な問題について、「ロジックツリー」を使い、原因の分析や解決策の導出を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】 〔クール小課題〕 【所要時間 180 分】
輪講 1-5	第5回 イノベーション・視座を高める イノベーションをどのように生み出すのか、知識と知恵、形式知と暗黙知の違いや関係性を考える。その上で「知識創造理論」（SECI モデル）を学ぶ。その上で、視座を高める重要性を考え、5回の授業を振り返る。 〔クール小課題〕 次の小課題レポートを作成する。 課題：イノベーションによる新しい未来の創造・社会課題の解決の視点から、あなたが魅力的だと感ずる人物を一人挙げ、その理由と自分自身が学ぶべき点について考察して下さい。	〔事前準備〕 新しい未来を創りあげた事例（イノベーション事例）を考えてみる。【所要時間 30 分】 〔アサインメント〕 講義内容を自分なりに整理し、自分の感想を加えてまとめる。【所要時間 30 分】
輪講 2-1	<川脇康生> 第1回 グローバル社会と公共政策 グローバル化の進展とそれがもたらすメリット・デメリットについて理解したうえで、国際社会における公共の利益とは何か、それを実現するための諸政策がどのように形成されるか具体的な事例を題材にして考察する。	〔事前準備〕：特になし。 〔アサインメント〕：講義内容を整理し、グローバル化社会の課題についてまとめる。 （計 60 分） 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講 2-2	第2回：国際社会のアクター 国際社会で「公共政策」をリードしている国家以外の様々なアクターについて学ぶとともに、国際連合、EU、多国籍企業や NGO などにおいて、どのように公共政策が形成され、実行されているのかを学ぶ。	〔事前準備〕：国際社会にどのようなアクターが存在するのか調べる。 〔アサインメント〕：講義内容を整理し、国際連合、EU、多国籍企業、NGO などの活動をまとめる。

		(計 60 分) 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講 2-3	第3回：国際社会の課題（大災害） 国際社会は持続的発展を目指しているが、その前に立ちはだかる阻害要因の一つが自然災害である。災害発生件数や災害による経済的な損失や損害は増大の一途にある。これらがもたらす脅威に対処するために国際社会はどのような活動を行っているのか、国際協力の現状と課題を学ぶ。	[事前準備]：近年、世界で発生した大災害について調べる。 [アサインメント]：講義内容を整理し、災害発生要因と人間活動との関係をまとめる。 (計 60 分) 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講 2-4	第4回：国際社会の課題（環境問題） 国際社会が直面する最も深刻な課題の一つが環境問題である。人口集中が進み経済活動が拡大することにより、沿岸海域の汚染が進展しているほか、プラスチックごみによる深刻な環境問題が発生している。沿岸海域の環境保全を目的にしたグローバルネットワークや「里海」づくりなど人と自然の共生に向けた取り組みを学ぶ。	[事前準備]：世界の海洋汚染について調べる。 [アサインメント]：講義内容を整理し、環境保全に向けた国際的な取り組みをまとめる。 (計 60 分) 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講 2-5	第5回：国際社会と公共政策まとめ 国際社会では絶えず様々な紛争が発生している。人類全体が共生への道を歩むためには、多様な価値観を相互に理解し合うことが重要となる。世界全体の共通課題の解決に向けてどのような国際協力が可能か、これまでの議論を踏まえ総括する。 クール小課題 現在学んでいる専門領域（経営学、看護学）または自らの将来の職業（経営者、看護師など）を念頭に置き、以下の①～⑤の国際課題の中のいずれか一つを選んで、その専門分野からの対応策を提案してください。 ?貧困、②大災害、③海洋汚染、④気候変動、⑤	[事前準備]：講義で示したレポートの書き方についての注意事項を踏まえてクール小課題をまとめ、授業開始時に提出する。 (計 180 分) [アサインメント]：特になし。 毎回、パソコンをフル充電し持参すること。
輪講 3-1	<田中綾子> 第1回：人間社会と災害 日本の風土や自然観に触れながら、これまでの大きな災害について知り、災害とは何かを考える。 <各回共通>アサインメントをテーマにペアワークを3分行う。また、電子掲示板 Padlet と web クラスを用いてアンケートやコメント、質問等による対話的な共有を並行して進める。	事前準備してくること：最も印象深かった災害について、種類と発生日時と被害について web 等で調べる【所要時間 30 分】 アサインメント：日本における災害の特徴について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】
輪講 3-2	第2回：災害のメカニズムと被害 突然発生する地震のメカニズムと被害について知り、今起きた場合の被害を検討する。また、被災者のさまざまな痛みについて考える。	事前準備してくること：地震とその他の災害の相違点や類似点について考える【所要時間 30 分】 アサインメント：地震による被害について、web クラスの指定ワークに取り組む【所要時間 60 分】

輪講 3-3	第3回：災害への対応と対策 災害後の緊急対応、復旧、復興、次の災害への対策について、さまざまな立場の人の取り組みを知る。また備えの障害となる事柄について考える。	事前準備してくること：自宅あるいは帰省先のハザードマップを確認する【所要時間30分】 アサインメント：発生の時間や季節によってどのように被害が変化するかについて、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】
輪講 3-4	第4回：災害の教訓と伝承 過去の災害に学び、その教訓を活かすことの重要性について考える。また、伝承が途絶える要因について分析する。	事前準備してくること：防災教育教材や伝承の事例についてwebクラスの資料を閲覧する【所要時間30分】 アサインメント：さまざまな防災教育・啓発のあり方について、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】 クール小課題【所要時間300分】
輪講 3-5	第5回：わたしたちの役割（SDGs 住み続けられるまちづくり） 懸念される地震災害の想定を知り、どのような取り組みができるかについて考える。また、災害時の協力・連携について考える。 クール小課題 2024年1月1日に発生した能登半島地震の被害と復旧・復興について、①阪神・淡路大震災や東日本大震災の教訓が生かされた点と、②依然として、あるいは新たな課題となっている点を、それぞれ1つ以上具体例やデータを示して説明しなさい。	事前準備してくること：地震災害に対する備えについて、個人として、さらに職業人として何が必要か考える【所要時間30分】 アサインメント：災害時における地域連携と広域連携、さらに同業種・異業種間の連携について、webクラスの指定ワークに取り組む【所要時間60分】

1.授業コード (ナンバリング)	HUM102-Y51	2.科目名	人間学Ⅱ（Aグループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、芦沢真五、宗田好史、森永速男					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年次	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	3 人の教員による輪講形式	
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋3本ずつのクールレポートと、1本ずつの最終レポートを書く。一つ一つのテーマについて、自らの問題としてとらえ、しっかりとした自分の意見を持ってほしい。 なお、この科目は、履修者を3つのグループに分け、3人の教員による輪講形式で進められるため、グループごとに受講順序が異なる。しかしどのような順序で学んでも、授業の進行には差し支えないよう配慮されている。					
18.学習目標と DPとの関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含まれます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、9 産業と技術革新の基盤をつくろう、10 人や国の不平等をなくそう、16 平和と公正をすべての人に、17 パートナリシップで目標を達成しよう <多文化共生とイノベーション> （芦沢真五） 人類は、環境問題、人種差別や偏見、貧富の格差、人口減少と高齢化など多様な社会問題に直面しているが、2020 年以降のコロナ禍はそうした矛盾をさらに拡大する役割を果たした。一方、第4次産業革命とデジタル化の波は社会全体の変革（イノベーション）を求めている。こうした複雑な社会課題に対して、課題解決の糸口を見つけるために我々は何をすべきだろうか。5 回の授業を通じて、①異文化理解と多文化共生、②第4次産業革命とイノベーションをテーマとして、行政、NPO、個人の取り組みについて学ぶ。特にイノベーションに関しては、本学が Western Sydney University（オーストラリア）と提携して取り組んでいる Venture Makers というカリキュラムの導入編（Venture Makers Basic）を活用して、イノベーションおよびスタートアップ（起業）について学ぶ。本講義をきっかけとして、多文化共生とイノベーションの時代に適応した、異文化理解力、共感力、起業家マインド、論理的思考力などを育成していくことを目的とする。なお、Venture Makers Basic を使った学習で一定の学習成果を挙げた学生には、本学の提携校である Western Sydney University からデジタルバッジが付与される。					

	〈地球・自然との共生〉 （森永速男） 本科目では、人類の住処である地球で起こる自然現象のメカニズムと自然現象がもたらす恩恵と脅威（自然災害）に関する基礎的な知識を習得する。そのうえで、私たち人類と地球・自然との共生について考える。 地球で起こる自然現象（地震、火山噴火や豪雨）は時に大きな災害を人類にもたらす。しかし、地震や火山噴火により、富士山や六甲山のような美しい景観が作られてきた。また、火山噴火によってもたらされた物質は農業に必要な肥沃な土壌をもたらし、生命にとって重要な淡水や温泉を供給してくれている。さらに、降雨は度を超すと災害（風水害）になるが、適度な降雨は生命維持にとって不可欠な淡水を安定的に提供してくれている。 以上のように、地球で起こるこれらの自然現象を単に「災害＝悪」とみなすのではなく、自然現象がもたらす恩恵にも目を向け、自然現象の両面性を理解したうえで、人類はどう地球で暮らしていくのかを考察していく。この科目を通して培われた考える力は災害の多い時代に極めて重要なリテラシーとなると考えられる。 ＜世界遺産条約と国際連合＞ （宗田好史） 世界遺産条約が 1972 年の UNESCO（国連教育科学文化機関）総会で採択されてから 50 年、そ霊前の国際連合の設立からも間もなく 80 年になります。国連の活動目的は安全保障（世界平和）と、戦後独立した多くの発展途上国への経済・社会・文化に関する国際協力です。その活動として 1960 年に始まった国連開発の 10 年（decade）が少しずつ形を変え、2000 年のミレニウム開発目標（MDGs）に、そして現在の SDGs（持続可能な開発目標）に発展しました。同時に、世界遺産の意義も大きく変わりました。SDGs10「人や国の不平等をなくそう」は社会・経済だけでなく文化、文化遺産の問題と捉え、質の高い教育を通じて取り組むべき課題として認識されています。 一方、現在も世界には貧困や飢餓に苦しみ、健康と福祉の権利も保障されない取り残された多くの人々がいます。国を捨て難民となる人が多い現実を知り、安全保障と国際協力について、世界遺産を通じて学びます。1993 年に姫路城と法隆寺が登録され、古都京都と奈良、紀伊山地の霊場と参詣道が続き、2019 年には百舌鳥古市古墳群が登録された関西では、次は彦根城や飛鳥・藤原京が予定されています。日本の中でも、特に世界文化遺産が集中する関西の発展した社会・経済の背景に、貧困や飢餓のない公正な社会を実現した日本人の歴史文化があります。 世界遺産は単なる観光目的ではありません。様々な国と地域に分かれて暮らす人々が国境を越えて相互に理解しあうためのツールです。相互理解を深め、平和で平等かつ公正な世界を実現するための世界遺産本来の役割を考えていきます。
19.教科書・教材	各先生が紹介する。
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から 1 冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） ＜芦沢真五＞ ◎『『移民時代』の多文化共生論—想像力・創造力を育む 14 のレッスン』 松尾 知明 （明石書店） ◎ 東大 IPC「アントレプレナーとは？意味や語源、必要な心構え・スキルを解説」 https://www.utokyo-ipc.co.jp/column/entrepreneur/ この Web 記事のうち、特に「アントレプレナーに大切な 5 つの心構え」「アントレプレナーに必要な 7 つのスキル」を参考とす
21.成績評価	3 名の担当者の小課題レポート(800 字以上) 18 点×3=54 点 最終レポート（3 名の担当教員のうち 1 名を選び課題図書を読んだ上で、2000 字以上のレポートを提出する） 48 点 最終課題（共通課題）：予定 「安全・安心な社会をつくっていくために、あなたが取り組めることはなにか」 最終レポートの詳細は、最終クールの教員が説明する。

22.コメント		
23.オフィスアワー	各担当者に直接お聞きすること 宗田：火曜 3 コース（研究室/3-308）、火曜 2 コース(学修支援センター)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	<芦沢真五> 第 1 回：異文化理解とは何か？ マジョリティとマイノリティという概念について基本的な理解を得られるように実例とケース・スタディーを通じて学ぶ。	<次回事前学習>「移民時代」の多文化共生論（松尾知明著、明石書店）より「マジョリティとマイノリティ」P.128－137 を読み、日本におけるマジョリティとマイノリティを考えてくる。 (所要時間 40 分)
【第 2 回】	第 2 回：日本の社会における多文化共生の課題 「外国人」「日本人」という二項対立的な考え方が日本社会に強く残っている実情について学ぶ。日系ブラジル人コミュニティを題材として、ディスカッションを深めていく。また、第 3 回から第 5 回の 3 回にわたって実施する、起業家育成カリキュラム、Venture Makers Basic の Module 1-3 について概要を紹介する。	<振り返り>日本におけるマジョリティとマイノリティを授業開始時の導入レポートにまとめる。 <次回事前学習>Venture Makers Basic Module 1 の動画を視聴する。 (所要時間 15 分)
【第 3 回】	第 3 回：起業家マインドについて Venture Makers Basic 1 を題材として、起業家マインドの醸成の意義、実際に起業をおこなった事例などを学ぶ。ここでは、起業が成立する条件をあげつつ、過去のベンチャー企業の創設者の特徴、マインドセットについて考察する。	<振り返り>Venture Makers Basic Module 1 を視聴して学んだことを授業開始時の導入レポートに記載する。 <事前学習>Venture Makers Basic Module 2 の動画を視聴する。 (所要時間 25 分)
【第 4 回】	第 4 回：起業（スタートアップ）の初期段階について Venture Makers Basic 2 を題材として、起業（スタートアップ）の初期段階で軌道にのるまでの条件や要素について分析する。また、スタートアップにとって、既存の企業や自治体など、他のセクターと連携すること（ベンチャーエコシステム）が大きな意義を持つことについても学習する。	<振り返り>Venture Makers Basic Module 2 を視聴して学んだことを授業開始時の導入レポートに記載する。 <事前学習>Venture Makers Basic Module 3 の動画を視聴する。 (所要時間 45 分)
【第 5 回】	第 5 回：イノベーションについて 第 1 回から第 4 回を通じて、①異文化理解と多文化共生の概念、②イノベーションと起業家マインドについて学んできた。第 5 回は、特にイノベーションに焦点をあてて、世界的な人材移動が生じる要因を分析するとともに、異文化適応力やイノベーション・マインドがいかに重要な役割を果たしているか、について理解を深める。 <クール・レポート> 本授業で学んだ Venture Maker Basic の内容に基づいて、起業およびベンチャー養成システムに関連する質問に回答する。	<振り返り>Venture Makers Basic Module 3 を視聴して学んだことを授業開始時の導入レポートに記載する。 <クール・レポート> 授業で学んだ起業（スタートアップ）に関連した課題に回答する。社会変革（イノベーション）が進展する中で、あらゆる職業人は起業家マインドをもつ必要があると言われてる。起業（スタートアップ）ならびにベンチャーエコシステムにかかわる質問に回答する。 (所要時間 120 分)

【第 6 回】	<森永速男> 第 1 回：科学的な思考に挑戦 すべての現象には理由がある。いくつかの科学クイズに挑戦して、これまでの科学的知識の習得程度を各自確認する。さらに科学的に考えるくせを身につけ、考えることの楽しさを理解する。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認する。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 7 回】	第 2 回：プレートテクトニクスー地震・火山の発生メカニズム 地球の自然現象は地球が生物のように活動していることから起こる。自然現象うち、地震と火山噴火が起こるメカニズムを理解する。その中で日本が災害大国である現実を確認し、備え（防災・減災）についてかんがえる。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認する。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 8 回】	第 3 回：六甲山 地震が作った景観がもたらす災害と恩恵 神戸・阪神間の魅力の一つである「六甲山」の生成過程と六甲山の存在がもたらす災害（水害）と恩恵について理解する。その中で、今でも神戸・阪神間に多くの人間が住んでいることを確認する。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認する。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 9 回】	第 4 回：火山噴火 災害と恩恵 火山噴火種類と噴火がもたらした過去の大災害を学び、どう備えるかを理解する。また、火山噴火がもたらす多くの恩恵を確認し、日本などの火山国の魅力となっていることを理解する。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認する。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 10 回】	第 5 回：降雨・降雪と生態系 生命にとって欠くことのできない「淡水」をもたらす降雨や降雪が作った生態系について理解する。度を超す降雨ー大雨や豪雨・豪雪が何と関連して災害（風水害）となるのかを考察し、それへの備え（防災・減災）を確認する。 <クール・レポート課題> 課題 1 南海トラフを震源とする巨大地震が今後 30 年で 8 割の確率で起こるとされています。それに向けてあなたが取り組める対策は何ですか？ 課題 2 近年気候の変動が激しくなっているといわれています。地球は今後どのような気候になると考えます	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認する。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。

	か？ 課題	
【第 11 回】	<宗田好史> 第 1 回：「世界遺産って知ってますか？」 世界遺産とは何か、またその意味は何かを知みましょう？ 世界遺産条約（1972 年採択）までの 50 年とその後の 50 年の歴史を簡単に見ます。文化遺産は変遷する？これまでどう変わってきたかを考えます。 また、国連とユネスコ、世界遺産の背景となる国際連合とその提唱する SDGs の背景を知り、世界遺産を通じて学ぶ国際協力の可能性を学びます。 スライド（パワーポイント）で授業し、その PDF を Web Class で配ります。また、小レポートは書式を同時に配ります	○アサイメント 世界遺産の基礎知識を調べて答えます。 ○事前準備 国内の世界遺産のリストを用意して下さい。 【所要時間 45 分】
【第 12 回】	第 2 回：「文化遺産の保存っていつ始まったの、なぜ古いモノを守るの」 文化財と文化遺産の違いは何、同じようで違うのでしょうか。 そこで、文化財保護の歴史を学びます。その上で、世界の文化遺産を知り、ICOMOS(国際記念物遺産会議)の取組みを知り、次に国際機関を見ていきます。 UNESCO の仕事は何なの？またそれはどう変わったの？ そもそも国際協力に役立っているの？そんな疑問に答えつつ、関西の世界文化遺産を取り上げて、その一つ一つから、私たち現代人へのメッセージをどう読み取れるかを学びます。	○アサイメント 文化財の種類を調べて答えます。 ○事前準備 発展途上国の世界遺産を調べて下さい。 【所要時間 45 分】
【第 13 回】	第 3 回：「世界遺産の悩み－日本での問題点、世界の課題」 世界遺産が変わったなかで、日本では登録できなかった世界遺産候補も増えてきました。それでも運動を続ける地元があります。 一方、世界遺産委員会での 1990 年代から熱心な議論が続くのは、不均衡問題といって、豊かな国と貧しい国の大きな違いの問題があります。どこにでもある格差ですが、この問題の原因は深く、貧困や飢餓はモノの援助では解決しません。公正な社会と誰一人取残さない豊かな経済を実現させるためには公正な社会が必要です。そこにたどり着く道を知る音が質の高	○アサイメント 豊かになった国々となれなかった国々の違いを考えます。 ○事前準備 身近な文化財を一つ選んで紹介します。 【所要時間 45 分】
【第 14 回】	第 4 回：「国際社会と文化遺産を巡る国際協力」 文化財の弊害の一つに文化的権威主義があります。古いモノを守ることで伝統主義が強調され、時にはナショナリズムという大国のエゴが主張されました。普通の人々の間でも伝統を守るといって既得権を主張する考えの人もあります。その極端な姿が文化遺産の政治的利用です。個人的な利用にも過度に偏ったものがあ	○アサイメント 戦前と戦後の文化財行政の違いを考えます。 ○事前準備 これまでに訪れた世界文化遺産を一つ紹介して下さい。 【所要時間 45 分】

	ります。そこに、民主国家の文化遺産保護の限界があり、市民に理解が広がりにくい原因もあります。こうした背景から、日韓両国の争点となる世界遺産問題があります。同様に、世界各国が抱え	
【第 15 回】	第 5 回：「まとめ、世界遺産と観光」 世界遺産は観光資源ではなく、実際に多くの観光客が集まっている訳でもありません。日本にも観光客がほとんど訪れない世界遺産があります。それでも世界遺産登録を望むのは、観光が目的ではないからです。 本来の目的、文化遺産を通じた国際理解の促進と平和教育の取組みについて、少し時間を取って考えてみませんか？ UNESCO には理念があります。いや、ありました。世界平和を実現するために教育が要る。1 本のペンと世界遺産、1 冊の本と世界遺産、観光は本来そんな平和のための活動なのです。	○アサイメント 小レポートにまとめて下さい。 【所要時間 120 分】

1.授業コード (ナンバリング)	HUM102-Y52	2.科目名	人間学Ⅱ (B グループ)		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、芦沢真五、宗田好史、森永速男					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年次	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋3本ずつのクールレポートと、1本ずつの最終レポートを書く。一つ一つのテーマについて、自らの問題としてとらえ、しっかりとした自分の意見を持ってほしい。 なお、この科目は、履修者を3つのグループに分け、3人の教員による輪講形式で進められるため、グループごとに受講順序が異なる。しかしどのような順序で学んでも、授業の進行には差し支えないよう配慮されている。					
18.学習目標と DPとの関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含まれます。 * 各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の 17 の目標との対応> 3 すべての人に健康と福祉を、9 産業と技術革新の基盤をつくろう、10 人や国の不平等をなくそう、16 平和と公正をすべての人に、17 パートナリーシップで目標を達成しよう <多文化共生とイノベーション> （芦沢真五） 人類は、環境問題、人種差別や偏見、貧富の格差、人口減少と高齢化など多様な社会問題に直面しているが、2020 年以降のコロナ禍はそうした矛盾をさらに拡大する役割を果たした。一方、第4次産業革命とデジタル化の波は社会全体の変革（イノベーション）を求めている。こうした複雑な社会課題に対して、課題解決の糸口を見つけるために我々は何をすべきだろうか。5 回の授業を通じて、①異文化理解と多文化共生、②第4次産業革命とイノベーションをテーマとして、行政、NPO、個人の取り組みについて学ぶ。特にイノベーションに関しては、本学が Western Sydney University（オーストラリア）と提携して取り組んでいる Venture Makers というカリキュラムの導入編（Venture Makers Basic）を活用して、イノベーションおよびスタートアップ（起業）について学ぶ。本講義をきっかけとして、多文化共生とイノベーションの時代に適応した、異文化理解力、共感力、起業家マインド、論理的思考力などを育成していくことを目的とする。なお、Venture Makers Basic を使った学習で一定の学習成果を挙げた学生には、本学の提携校である Western Sydney University からデジタルバッジが付与される。					

	〈地球・自然との共生〉 （森永速男） 本科目では、人類の住処である地球で起こる自然現象のメカニズムと自然現象がもたらす恩恵と脅威（自然災害）に関する基礎的な知識を習得する。そのうえで、私たち人類と地球・自然との共生について考える。 地球で起こる自然現象（地震、火山噴火や豪雨）は時に大きな災害を人類にもたらす。しかし、地震や火山噴火により、富士山や六甲山のような美しい景観が作られてきた。また、火山噴火によってもたらされた物質は農業に必要な肥沃な土壌をもたらし、生命にとって重要な淡水や温泉を供給してくれている。さらに、降雨は度を超すと災害（風水害）になるが、適度な降雨は生命維持にとって不可欠な淡水を安定的に提供してくれている。 以上のように、地球で起こるこれらの自然現象を単に「災害＝悪」とみなすのではなく、自然現象がもたらす恩恵にも目を向け、自然現象の両面性を理解したうえで、人類はどう地球で暮らしていくのかを考察していく。この科目を通して培われた考える力は災害の多い時代に極めて重要なリテラシーとなると考えられる。 ＜世界遺産条約と国際連合＞ （宗田好史） 世界遺産条約が 1972 年の UNESCO（国連教育科学文化機関）総会で採択されてから 50 年、そ霊前の国際連合の設立からも間もなく 80 年になります。国連の活動目的は安全保障（世界平和）と、戦後独立した多くの発展途上国への経済・社会・文化に関する国際協力です。その活動として 1960 年に始まった国連開発の 10 年（decade）が少しずつ形を変え、2000 年のミレニアム開発目標（MDGs）に、そして現在の SDGs（持続可能な開発目標）に発展しました。同時に、世界遺産の意義も大きく変わりました。SDGs10「人や国の不平等をなくそう」は社会・経済だけでなく文化、文化遺産の問題と捉え、質の高い教育を通じて取り組むべき課題として認識されています。 一方、現在も世界には貧困や飢餓に苦しみ、健康と福祉の権利も保障されない取り残された多くの人々がいます。国を捨て難民となる人が多い現実を知り、安全保障と国際協力について、世界遺産を通じて学びます。1993 年に姫路城と法隆寺が登録され、古都京都と奈良、紀伊山地の霊場と参詣道が続き、2019 年には百舌鳥古市古墳群が登録された関西では、次は彦根城や飛鳥・藤原京が予定されています。日本の中でも、特に世界文化遺産が集中する関西の発展した社会・経済の背景に、貧困や飢餓のない公正な社会を実現した日本人の歴史文化があります。 世界遺産は単なる観光目的ではありません。様々な国と地域に分かれて暮らす人々が国境を越えて相互に理解しあうためのツールです。相互理解を深め、平和で平等かつ公正な世界を実現するための世界遺産本来の役割を考えていきます。
19.教科書・教材	各先生が紹介する。
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から 1 冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） ＜芦沢真五＞ ◎『『移民時代』の多文化共生論—想像力・創造力を育む 14 のレッスン』 松尾 知明 （明石書店） ◎ 東大 IPC「アントレプレナーとは？意味や語源、必要な心構え・スキルを解説」 https://www.utokyo-ipc.co.jp/column/entrepreneur/ この Web 記事のうち、特に「アントレプレナーに大切な 5 つの心構え」「アントレプレナーに必要な 7 つのスキル」を参考とする
21.成績評価	3 名の担当者の小課題レポート(800 字以上) 18 点×3=54 点 最終レポート（3 名の担当教員のうち 1 名を選び課題図書を読んだ上で、2000 字以上のレポートを提出する） 48 点 最終課題（共通課題）：予定 「安全・安心な社会をつくっていくために、あなたが取り組めることはなにか」 最終レポートの詳細は、最終クールの教員が説明する。

22.コメント		
23.オフィスアワー	各担当者に直接お聞きすること： 宗田：火曜 3 コース（研究室/3-308）、火曜 2 コース(学修支援センター)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	< 芦沢真五 > 第 1 回：異文化理解とは何か？ マジョリティとマイノリティという概念について基本的な理解を得られるように実例とケース・スタディーを通じて学ぶ。	< 次回事前学習 > 「移民時代」の多文化共生論（松尾知明著、明石書店）より「マジョリティとマイノリティ」P.128－137 を読み、日本におけるマジョリティとマイノリティを考えてくる。 （所要時間 40 分）
【第 2 回】	第 2 回：日本の社会における多文化共生の課題 「外国人」「日本人」という二項対立的な考え方が日本社会に強く残っている実情について学ぶ。日系ブラジル人コミュニティを題材として、ディスカッションを深めていく。また、第 3 回から第 5 回の 3 回にわたって実施する、起業家育成カリキュラム、Venture Makers Basic の Module 1-3 について概要を紹介する。	< 振り返り > 日本におけるマジョリティとマイノリティを授業開始時の導入レポートにまとめる。 < 次回事前学習 > Venture Makers Basic Module 1 の動画を視聴する。 （所要時間 15 分）
【第 3 回】	第 3 回：起業家マインドについて Venture Makers Basic 1 を題材として、起業家マインドの醸成の意義、実際に起業をおこなった事例などを学ぶ。ここでは、起業が成立する条件をあげつつ、過去のベンチャー企業の創設者の特徴、マインドセットについて考察する。	< 振り返り > Venture Makers Basic Module 1 を視聴して学んだことを授業開始時の導入レポートに記載する。 < 事前学習 > Venture Makers Basic Module 2 の動画を視聴する。 （所要時間 25 分）
【第 4 回】	第 4 回：起業（スタートアップ）の初期段階について Venture Makers Basic 2 を題材として、起業（スタートアップ）の初期段階で軌道にのるまでの条件や要素について分析する。また、スタートアップにとって、既存の企業や自治体など、他のセクターと連携すること（ベンチャーエコシステム）が大きな意義を持つことについても学習する。	< 振り返り > Venture Makers Basic Module 2 を視聴して学んだことを授業開始時の導入レポートに記載する。 < 事前学習 > Venture Makers Basic Module 3 の動画を視聴する。 （所要時間 45 分）
【第 5 回】	第 5 回：イノベーションについて 第 1 回から第 4 回を通じて、①異文化理解と多文化共生の概念、②イノベーションと起業家マインドについて学んできた。第 5 回は、特にイノベーションに焦点をあてて、世界的な人材移動が生じる要因を分析するとともに、異文化適応力やイノベーション・マインドがいかに重要な役割を果たしているか、について理解を深める。 < クール・レポート > 本授業で学んだ Venture Maker Basic の内容に基づいて、起業およびベンチャー養成システムに関連する質問に回答する。	< 振り返り > Venture Makers Basic Module 3 を視聴して学んだことを授業開始時の導入レポートに記載する。 < クール・レポート > 授業で学んだ起業（スタートアップ）に関連した課題に回答する。社会変革（イノベーション）が進展する中で、あらゆる職業人は起業家マインドをもつ必要があると言われていている。起業（スタートアップ）ならびにベンチャーエコシステムにかかわる質問に回答する。 （所要時間 120 分）

【第 6 回】	<森永速男> 第 1 回：科学的な思考に挑戦 すべての現象には理由がある。いくつかの科学クイズに挑戦して、これまでの科学的知識の習得度を各自確認する。さらに科学的に考えるくせを身につけ、考えることの楽しさを理解する。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認する。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 7 回】	第 2 回：プレートテクトニクスー地震・火山の発生メカニズム 地球の自然現象は地球が生物のように活動していることから起こる。自然現象うち、地震と火山噴火が起こるメカニズムを理解する。その中で日本が災害大国である現実を確認し、備え（防災・減災）についてかんがえる。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認する。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 8 回】	第 3 回：六甲山 地震が作った景観がもたらす災害と恩恵 神戸・阪神間の魅力の一つである「六甲山」の生成過程と六甲山の存在がもたらす災害（水害）と恩恵について理解する。その中で、今でも神戸・阪神間に多くの人間が住んでいることを確認する。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認する。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 9 回】	第 4 回：火山噴火 災害と恩恵 火山噴火種類と噴火がもたらした過去の大災害を学び、どう備えるかを理解する。また、火山噴火がもたらす多くの恩恵を確認し、日本などの火山国の魅力となっていることを理解する。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認する。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 10 回】	第 5 回：降雨・降雪と生態系 生命にとって欠くことのできない「淡水」をもたらす降雨や降雪が作った生態系について理解する。度を超す降雨ー大雨や豪雨・豪雪が何と関連して災害（風水害）となるのかを考察し、それへの備え（防災・減災）を確認する。 <クール・レポート課題> 課題 1 南海トラフを震源とする巨大地震が今後 30 年で 8 割の確率で起こるとされています。それに向けてあなたが取り組める対策は何ですか？	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認する。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。

	課題 2 近年気候の変動が激しくなっているといわれています。地球は今後どのような気候になると考えますか？ 課題	
【第 11 回】	<宗田好史> 第 1 回：「世界遺産って知ってますか？」 世界遺産とは何か、またその意味は何かを知みましょう？ 世界遺産条約（1972 年採択）までの 50 年とその後の 50 年の歴史を簡単に見ます。文化遺産は変遷する？これまでどう変わってきたかを考えます。 また、国連とユネスコ、世界遺産の背景となる国際連合とその提唱する SDGs の背景を知り、世界遺産を通じて学ぶ国際協力の可能性を学びます。 スライド（パワーポイント）で授業し、その PDF を Web Class で配ります。また、小レポートは書式を同時に配ります	○アサイメント 世界遺産の基礎知識を調べて答えます。 ○事前準備 国内の世界遺産のリストを用意して下さい。 【所要時間 45 分】
【第 12 回】	第 2 回：「文化遺産の保存っていつ始まったの、なぜ古いモノを守るの」 文化財と文化遺産の違いは何、同じようで違うのでしょうか。 そこで、文化財保護の歴史を学びます。その上で、世界の文化遺産を知り、ICOMOS(国際記念物遺産会議)の取組みを知り、次に国際機関を見ていきます。 UNESCO の仕事は何なの？またそれはどう変わったの？ そもそも国際協力に役立っているの？そんな疑問に答えつつ、関西の世界文化遺産を取り上げて、その一つ一つから、私たち現代人へのメッセージをどう読み取れるかを学びます。	○アサイメント 文化財の種類を調べて答えます。 ○事前準備 発展途上国の世界遺産を調べて下さい。 【所要時間 45 分】
【第 13 回】	第 3 回：「世界遺産の悩み－日本での問題点、世界の課題」 世界遺産が変わったなかで、日本では登録できなかった世界遺産候補も増えてきました。それでも運動を続ける地元があります。 一方、世界遺産委員会での 1990 年代から熱心な議論が続くのは、不均衡問題といって、豊かな国と貧しい国の大きな違いの問題があります。どこにでもある格差ですが、この問題の原因は深く、貧困や飢餓はモノの援助では解決しません。公正な社会と誰一人取残さない豊かな経済を実現させるためには公正な社会が必要です。そこにたどり着く道を知る音が質の高	○アサイメント 豊かになった国々となれなかった国々の違いを考えます。 ○事前準備 身近な文化財の一つ選んで紹介します。 【所要時間 45 分】
【第 14 回】	第 4 回：「国際社会と文化遺産を巡る国際協力」 文化財の弊害の一つに文化的権威主義があります。古いモノを守ることで伝統主義が強調され、時にはナショナリズムという大国のエゴが主張されました。普通の人々の間でも伝統を守るといって既得権を主張す	○アサイメント 戦前と戦後の文化財行政の違いを考えます。 ○事前準備 これまでに訪れた世界文化遺産の一つ紹介して下さい。

	る考えの人もいます。その極端な姿が文化遺産の政治的利用です。個人的な利用にも過度に偏ったものがあります。そこに、民主国家の文化遺産保護の限界があり、市民に理解が広がりにくい原因もあります。こうした背景から、日韓両国の争点となる世界遺産問題があります。同様に、世界各国が抱え	【所要時間 45 分】
【第 15 回】	第 5 回：「まとめ、世界遺産と観光」 世界遺産は観光資源ではなく、実際に多くの観光客が集まっている訳でもありません。日本にも観光客がほとんど訪れない世界遺産があります。それでも世界遺産登録を望むのは、観光が目的ではないからです。 本来の目的、文化遺産を通じた国際理解の促進と平和教育の取組みについて、少し時間を取って考えてみませんか？ UNESCO には理念があります。いや、ありました。世界平和を実現するために教育が要る。1 本のペンと世界遺産、1 冊の本と世界遺産、観光は本来そんな平和のための活動なのです。	○アサイメント 小レポートにまとめて下さい。 【所要時間 120 分】

1.授業コード (ナンバリング)	HUM102-Y53	2.科目名	人間学Ⅱ（Cグループ）		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名陽子、芦沢真五、宗田好史、森永速男					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年次	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	3 人の教員による輪講形式		
16.履修制限	留学生は、少なくとも入学後半年経過してから履修すること					
17.授業の目的と概要	科学とは、本来「人間」の生活をよりよくするために発達してきた。本科目では、様々な学問（科学）分野から、「人間」に引き寄せて、ライフコースの長いスパンを見通して、自分の人生について主体的に考え、生き抜いていくために必要な「考える手がかり」を提起していく。本科目を通し、受講生が自分自身の人生観や世界観の確立にとって必要な知的刺激を受け、自分の生き方を考える自立した職業人になっていくことを期待している。 人間学では、大学での学びの基本を身につけるとともに、春・秋3本ずつのクールレポートと、1本ずつの最終レポートを書く。一つ一つのテーマについて、自らの問題としてとらえ、しっかりとした自分の意見を持ってほしい。 なお、この科目は、履修者を3つのグループに分け、3人の教員による輪講形式で進められるため、グループごとに受講順序が異なる。しかしどのような順序で学んでも、授業の進行には差し支えないよう配慮されている。					
18.学習目標と DPとの関連	<DP との関連性> 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 ・ DP（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） ・ DP（3）多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） また、(4) 問題発見・解決力の内容も含まれます。 *各教員の講義を通して、社会、文化が多様であることを理解し、世界市民として社会に貢献するための基礎を養います。 また、根拠にもとづいた、また多角的な視点（平等・職業、学び、科学技術と生命）で物事を考える、思考力や判断力を身につけていきます。 <SDGs（エス・ディー・ジーズ）の17の目標との対応> 3すべての人に健康と福祉を、9産業と技術革新の基盤をつくろう、10人や国の不平等をなくそう、16平和と公正をすべての人に、17パートナーシップで目標を達成しよう <多文化共生とイノベーション>（芦沢真五） 人類は、環境問題、人種差別や偏見、貧富の格差、人口減少と高齢化など多様な社会問題に直面しているが、2020年以降のコロナ禍はそうした矛盾をさらに拡大する役割を果たした。一方、第4次産業革命とデジタル化の波は社会全体の変革（イノベーション）を求めている。こうした複雑な社会課題に対して、課題解決の糸口を見つけるために我々は何をすべきだろうか。5回の授業を通じて、①異文化理解と多文化共生、②第4次産業革命とイノベーションをテーマとして、行政、NPO、個人の取り組みについて学ぶ。特にイノベーションに関しては、本学が Western Sydney University（オーストラリア）と提携して取り組んでいる Venture Makers というカリキュラムの導入編（Venture Makers Basic）を活用して、イノベーションおよびスタートアップ（起業）について学ぶ。本講義をきっかけとして、多文化共生とイノベーションの時代に適応した、異文化理解力、共感力、起業家マインド、論理的思考力などを育成していくことを目的とする。なお、Venture Makers Basic を使った学習で一定の学習成果を挙げた学生には、本学の提携校である Western Sydney University からデジタルバッジが付与される。					

	〈地球・自然との共生〉 （森永速男） 本科目では、人類の住処である地球で起こる自然現象のメカニズムと自然現象がもたらす恩恵と脅威（自然災害）に関する基礎的な知識を習得する。そのうえで、私たち人類と地球・自然との共生について考える。 地球で起こる自然現象（地震、火山噴火や豪雨）は時に大きな災害を人類にもたらす。しかし、地震や火山噴火により、富士山や六甲山のような美しい景観が作られてきた。また、火山噴火によってもたらされた物質は農業に必要な肥沃な土壌をもたらし、生命にとって重要な淡水や温泉を供給してくれている。さらに、降雨は度を超すと災害（風水害）になるが、適度な降雨は生命維持にとって不可欠な淡水を安定的に提供してくれている。 以上のように、地球で起こるこれらの自然現象を単に「災害＝悪」とみなすのではなく、自然現象がもたらす恩恵にも目を向け、自然現象の両面性を理解したうえで、人類はどう地球で暮らしていくのかを考察していく。この科目を通して培われた考える力は災害の多い時代に極めて重要なリテラシーとなると考えられる。 ＜世界遺産条約と国際連合＞ （宗田好史） 世界遺産条約が1972年のUNESCO（国連教育科学文化機関）総会で採択されてから50年、その霊前の国際連合の設立からも間もなく80年になります。国連の活動目的は安全保障（世界平和）と、戦後独立した多くの発展途上国への経済・社会・文化に関する国際協力です。その活動として1960年に始まった国連開発の10年（decade）が少しずつ形を変え、2000年のミレニアム開発目標（MDGs）に、そして現在のSDGs（持続可能な開発目標）に発展しました。同時に、世界遺産の意義も大きく変わりました。SDGs10「人や国の不平等をなくそう」は社会・経済だけでなく文化、文化遺産の問題と捉え、質の高い教育を通じて取り組むべき課題として認識されています。 一方、現在も世界には貧困や飢餓に苦しみ、健康と福祉の権利も保障されない取り残された多くの人々がいます。国を捨て難民となる人が多い現実を知り、安全保障と国際協力について、世界遺産を通じて学びます。1993年に姫路城と法隆寺が登録され、古都京都と奈良、紀伊山地の霊場と参詣道が続き、2019年には百舌鳥古市古墳群が登録された関西では、次は彦根城や飛鳥・藤原京が予定されています。日本の中でも、特に世界文化遺産が集中する関西の発展した社会・経済の背景に、貧困や飢餓のない公正な社会を実現した日本人の歴史文化があります。 世界遺産は単なる観光目的ではありません。様々な国と地域に分かれて暮らす人々が国境を越えて相互に理解しあうためのツールです。相互理解を深め、平和で平等かつ公正な世界を実現するための世界遺産本来の役割を考えていきます。
19.教科書・教材	各先生が紹介する。
20.参考文献	文献リスト（下記のうち◎印が課題図書。その中から1冊を選ぶ。それ以外も参考文献として活用すること） ＜芦沢真五＞ ◎『『移民時代』の多文化共生論—想像力・創造力を育む14のレッスン』 松尾 知明 （明石書店） ◎ 東大IPC「アントレプレナーとは？意味や語源、必要な心構え・スキルを解説」 https://www.utokyo-ipc.co.jp/column/entrepreneur/ このWeb記事のうち、特に「アントレプレナーに大切な5つの心構え」「アントレプレナーに必要な7つのスキル」を参考とする
21.成績評価	3名の担当者の小課題レポート(800字以上) 18点×3=54点 最終レポート（3名の担当教員のうち1名を選び課題図書を読んだ上で、2000字以上のレポートを提出する） 48点 最終課題（共通課題）：予定 「安全・安心な社会をつくっていくために、あなたが取り組めることはなにか」 最終レポートの詳細は、最終クールの教員が説明する。

22.コメント		
23.オフィスアワー	各担当者に直接お聞きすること 宗田：火曜 3 コース（研究室/3-308）、火曜 2 コース(学修支援センター)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	< 芦沢真五 > 第 1 回：異文化理解とは何か？ マジョリティとマイノリティという概念について基本的な理解を得られるように実例とケース・スタディーを通じて学ぶ。	< 次回事前学習 > 「移民時代」の多文化共生論（松尾知明著、明石書店）より「マジョリティとマイノリティ」P.128－137 を読み、日本におけるマジョリティとマイノリティを考えてくる。 （所要時間 40 分）
【第 2 回】	第 2 回：日本の社会における多文化共生の課題 「外国人」「日本人」という二項対立的な考え方が日本社会に強く残っている実情について学ぶ。日系ブラジル人コミュニティを題材として、ディスカッションを深めていく。また、第 3 回から第 5 回の 3 回にわたって実施する、起業家育成カリキュラム、Venture Makers Basic の Module 1-3 について概要を紹介する。	< 振り返り > 日本におけるマジョリティとマイノリティを授業開始時の導入レポートにまとめる。 < 次回事前学習 > Venture Makers Basic Module 1 の動画を視聴する。 （所要時間 15 分）
【第 3 回】	第 3 回：起業家マインドについて Venture Makers Basic 1 を題材として、起業家マインドの醸成の意義、実際に起業をおこなった事例などを学ぶ。ここでは、起業が成立する条件をあげつつ、過去のベンチャー企業の創設者の特徴、マインドセットについて考察する。	< 振り返り > Venture Makers Basic Module 1 を視聴して学んだことを授業開始時の導入レポートに記載する。 < 事前学習 > Venture Makers Basic Module 2 の動画を視聴する。 （所要時間 25 分）
【第 4 回】	第 4 回：起業（スタートアップ）の初期段階について Venture Makers Basic 2 を題材として、起業（スタートアップ）の初期段階で軌道にのるまでの条件や要素について分析する。また、スタートアップにとって、既存の企業や自治体など、他のセクターと連携すること（ベンチャーエコシステム）が大きな意義を持つことについても学習する。	< 振り返り > Venture Makers Basic Module 2 を視聴して学んだことを授業開始時の導入レポートに記載する。 < 事前学習 > Venture Makers Basic Module 3 の動画を視聴する。 （所要時間 45 分）
【第 5 回】	第 5 回：イノベーションについて 第 1 回から第 4 回を通じて、①異文化理解と多文化共生の概念、②イノベーションと起業家マインドについて学んできた。第 5 回は、特にイノベーションに焦点をあてて、世界的な人材移動が生じる要因を分析するとともに、異文化適応力やイノベーション・マインドがいかに重要な役割を果たしているか、について理解を深める。 < クール・レポート > 本授業で学んだ Venture Maker Basic の内容に基づいて、起業およびベンチャー養成システムに関連する質問に回答する。	< 振り返り > Venture Makers Basic Module 3 を視聴して学んだことを授業開始時の導入レポートに記載する。 < クール・レポート > 授業で学んだ起業（スタートアップ）に関連した課題に回答する。社会変革（イノベーション）が進展する中で、あらゆる職業人は起業家マインドをもつ必要があると言われてる。起業（スタートアップ）ならびにベンチャーエコシステムにかかわる質問に回答する。 （所要時間 120 分）

【第 6 回】	<森永速男> 第 1 回：科学的な思考に挑戦 すべての現象には理由がある。いくつかの科学クイズに挑戦して、これまでの科学的知識の習得度を各自確認する。さらに科学的に考えるくせを身につけ、考えることの楽しさを理解する。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認する。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 7 回】	第 2 回：プレートテクトニクスー地震・火山の発生メカニズム 地球の自然現象は地球が生物のように活動していることから起こる。自然現象うち、地震と火山噴火が起こるメカニズムを理解する。その中で日本が災害大国である現実を確認し、備え（防災・減災）についてかんがえる。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認する。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 8 回】	第 3 回：六甲山 地震が作った景観がもたらす災害と恩恵 神戸・阪神間の魅力の一つである「六甲山」の生成過程と六甲山の存在がもたらす災害（水害）と恩恵について理解する。その中で、今でも神戸・阪神間に多くの人間が住んでいることを確認する。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認する。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 9 回】	第 4 回：火山噴火 災害と恩恵 火山噴火種類と噴火がもたらした過去の大災害を学び、どう備えるかを理解する。また、火山噴火がもたらす多くの恩恵を確認し、日本などの火山国の魅力となっていることを理解する。	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認する。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。
【第 10 回】	第 5 回：降雨・降雪と生態系 生命にとって欠くことのできない「淡水」をもたらす降雨や降雪が作った生態系について理解する。度を超す降雨ー大雨や豪雨・豪雪が何と関連して災害（風水害）となるのかを考察し、それへの備え（防災・減災）を確認する。 <クール・レポート課題> 課題 1 南海トラフを震源とする巨大地震が今後 30 年で 8 割の確率で起こるとされています。それに向けてあなたが取り組める対策は何ですか？	○事前準備 特に求めないが、講義中に与えられる問いかけにしっかり対応すること。 ○アサイメント 講義後半に感想文を書いてもらい、習得度合いを確認する。また、講義で初めて知ったことをその日のうちに、他者に話し、各自の理解度を確認する。

	課題 2 近年気候の変動が激しくなっているといわれています。地球は今後どのような気候になると考えますか？ 課題	
【第 11 回】	<宗田好史> 第 1 回：「世界遺産って知ってますか？」 世界遺産とは何か、またその意味は何かを知みましょう？ 世界遺産条約（1972 年採択）までの 50 年とその後の 50 年の歴史を簡単に見ます。文化遺産は変遷する？これまでどう変わってきたかを考えます。 また、国連とユネスコ、世界遺産の背景となる国際連合とその提唱する SDGs の背景を知り、世界遺産を通じて学ぶ国際協力の可能性を学びます。 スライド（パワーポイント）で授業し、その PDF を Web Class で配ります。また、小レポートは書式を同時に配ります	○アサイメント 世界遺産の基礎知識を調べて答えます。 ○事前準備 国内の世界遺産のリストを用意して下さい。 【所要時間 45 分】
【第 12 回】	第 2 回：「文化遺産の保存っていつ始まったの、なぜ古いモノを守るの」 文化財と文化遺産の違いは何、同じようで違うのでしょうか。 そこで、文化財保護の歴史を学びます。その上で、世界の文化遺産を知り、ICOMOS(国際記念物遺産会議)の取組みを知り、次に国際機関を見ていきます。 UNESCO の仕事は何なの？またそれはどう変わったの？ そもそも国際協力に役立っているの？そんな疑問に答えつつ、関西の世界文化遺産を取り上げて、その一つ一つから、私たち現代人へのメッセージをどう読み取れるかを学びます。	○アサイメント 文化財の種類を調べて答えます。 ○事前準備 発展途上国の世界遺産を調べて下さい。 【所要時間 45 分】
【第 13 回】	第 3 回：「世界遺産の悩み－日本での問題点、世界の課題」 世界遺産が変わったなかで、日本では登録できなかった世界遺産候補も増えてきました。それでも運動を続ける地元があります。 一方、世界遺産委員会での 1990 年代から熱心な議論が続くのは、不均衡問題といって、豊かな国と貧しい国の大きな違いの問題があります。どこにでもある格差ですが、この問題の原因は深く、貧困や飢餓はモノの援助では解決しません。公正な社会と誰一人取残さない豊かな経済を実現させるためには公正な社会が必要です。そこにたどり着く道を知る音が質の高	○アサイメント 豊かになった国々となれなかった国々の違いを考えます。 ○事前準備 身近な文化財の一つ選んで紹介します。 【所要時間 45 分】
【第 14 回】	第 4 回：「国際社会と文化遺産を巡る国際協力」 文化財の弊害の一つに文化的権威主義があります。古いモノを守ることで伝統主義が強調され、時にはナショナリズムという大国のエゴが主張されました。普通の人々の間でも伝統を守るといって既得権を主張す	○アサイメント 戦前と戦後の文化財行政の違いを考えます。 ○事前準備 これまでに訪れた世界文化遺産の一つ紹介して下さい。

	る考えの人もいます。その極端な姿が文化遺産の政治的利用です。個人的な利用にも過度に偏ったものがあります。そこに、民主国家の文化遺産保護の限界があり、市民に理解が広がりにくい原因もあります。こうした背景から、日韓両国の争点となる世界遺産問題があります。同様に、世界各国が抱え	【所要時間 45 分】
【第 15 回】	第 5 回：「まとめ、世界遺産と観光」 世界遺産は観光資源ではなく、実際に多くの観光客が集まっている訳でもありません。日本にも観光客がほとんど訪れない世界遺産があります。それでも世界遺産登録を望むのは、観光が目的ではないからです。 本来の目的、文化遺産を通じた国際理解の促進と平和教育の取組みについて、少し時間を取って考えてみませんか？ UNESCO には理念があります。いや、ありました。世界平和を実現するために教育が要る。1 本のペンと世界遺産、1 冊の本と世界遺産、観光は本来そんな平和のための活動なのです。	○アサイメント 小レポートにまとめて下さい。 【所要時間 120 分】

1.授業コード (ナンバリング)	HUM103-A51	2.科目名	倫理と社会生活		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡田悠汰					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	高校（公民）中学（社会）副専攻 （生命と生活を考える）		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	この講義では、倫理学という学問と私たちが生きている社会の間の関係についてお話しします。受講者の皆さんには、日常生活ではなじみがないように思われる倫理学が、私たちの生きる社会と密接につながっていることを学んでもらいます。またそのうえで、当たり前のように営まれている社会生活の中に潜んでいる問題について自覚的に考えていくことが、本講義の大きな目的です。					
18.学習目標と DPとの関連	①日常生活に潜んでいる倫理的な問題に気づき、問いを立てられるようになること。 ②その問いにたいして、様々な考え方を知ったうえで自分なりに考えられるようになること。					
19.教科書・教材	特に指定せず、授業資料を中心に進めていきます。					
20.参考文献	各回の授業中に参考文献を挙げていきます。					
21.成績評価	二回のレポート（400～1200 字程度）で評価します。 中間レポート（第 8 回講義） 50 点 期末レポート（第 15 回講義） 50 点 毎回のコメントシートで出席確認を行います。 詳しい内容は授業で説明します。					
22.コメント	私たちの身の回りには、私たちが思っている以上に多くの問題が潜んでいます。これからの社会をより良くしていくためには、こうした問題に気づき、考えていくことが必要です。この授業では、こうした問題に簡単に答えを示すのではなく、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。問題を見つけて、自分なりに考える能力は、大学を出た後の社会生活でも必要な能力です。この講義を通して、自分で考えることの楽しさを感じるとともに、これからの社会に必要とされる能力を身につけてもらえたら幸いです。					
23.オフィスアワー	質問等は、授業の前後で対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【ガイダンス】 受講上の注意、成績評価について、講義で扱うテーマの紹介			【以下第 15 回講義まで共通】 Web Class を使うので、パソコンを持参してください。 毎回授業後にコメントシートを書いてもらいます。 授業資料も Web Class 上にアップロードします。		
第 2 回	【倫理、倫理学とはなにか】 高校科目「倫理」との違い、「道徳」との関係、「法」との関係を考えていきます。					
第 3 回	【「善さ」とはなにか①】 倫理学の扱う最も基本的なテーマである「善さ」につ					

	いて考えていきます。この回では、徳倫理学と共感理論という2つの理論を紹介します。	
第4回	【「善さ」とはなにか②】 前回に引き続き「善さ」について考えていきます。この回では、義務倫理学と功利主義の2つの理論を紹介します。	
第5回	【「正義」とはなにか】 ロールズをはじめとした正義理論を紹介しつつ、「平等」をどのように実現できるのかを考えていきます。この回を通して、「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」、「各国内および各国間の不平等を是正する」といったSDGsのゴールを達成するために必要なことを考えます。	
第6回	【レポート書き方講座&相談会】 この回では、レポート課題に向けての注意点についてお話しします。また授業時間内で、レポートについての個別の質問や相談にお答えしていく予定です。	
第7回	【生命倫理①】 この回からより具体的なテーマについて考えます。まずは、「生命」にかかわる問題について考えていきます。具体的には、生殖補助医療（男女の産み分け、出生前診断など）、人工妊娠中絶の問題を扱う予定です。	
第8回	【生命倫理②】 引き続き「生命」について考えていきます。具体的には、終末期医療や臓器移植の問題を扱う予定です。	中間レポート提出（Web Class）
第9回	【動物倫理①】 この回では、人間の権利だけでなく動物の権利について考えていきます。まずはペットのしつけという身近な問題や、肉食の問題を扱う予定です。	
第10回	【動物倫理②】 引き続き「動物の権利」について考えていきます。具体的には、動物実験（化粧品などの嗜好品開発、医療用の実験）、動物園・水族館のあり方に関する問題を扱う予定です。	
第11回	【ケアについて①】 この回では「ケア」について考えていきます。医療が発達し、高齢化社会が進む現代において、「ケア」はいかなる意味をもちうるのでしょうか？そして、看護やリハビリの現場だけでなく、皆さん全員が関わりうる家族のケアをどう考えていけばよいのでしょうか？	
第12回	【ケアについて②】 この回では、「ケア」において重要な「他者との関係」について、より詳しく考えていきます。そのなかで、医療と患者の関係のあり方について考えなおしつつ、	

	「リハビリテーション」の問題を考察します。また「ケア」される側の「ケア」だけではなく、「ケア」する側の「ケア」についてもお話しする予定です。	
第 13 回	【現代技術】 この回では、「現代技術」とのかかわりを考えます。特に原子力と人工知能を話題にして、どのような議論がされているのかを紹介する予定です。	
第 14 回	【新型コロナと倫理学】 新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、私たちの社会生活を一変させています。この回では、新型コロナウイルスの感染拡大のなかで出てきた倫理的な問題について考えていきます。	
第 15 回	【まとめ&レポート相談会】 今までの授業内容をまとめたうえで、倫理が私たちの生きる現代社会とどのようにかかわるのかを確認し、今後どのように生活していくべきかを考えていきます。 加えて授業時間内で、レポート課題についての質問・相談に答えていきます。	期末レポート提出 (Web Class)

1.授業コード (ナンバリング)	HUM103-Y51	2.科目名	倫理と社会生活		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡田悠汰					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	高校（公民）中学（社会）副専攻 （生命と生活を考える）		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	この講義では、倫理学という学問と私たちが生きている社会の間の関係についてお話しします。受講者の皆さんには、日常生活ではなじみがないように思われる倫理学が、私たちの生きる社会と密接につながっていることを学んでもらいます。またそのうえで、当たり前のように営まれている社会生活の中に潜んでいる問題について自覚的に考えていくことが、本講義の大きな目的です。					
18.学習目標と DPとの関連	①日常生活に潜んでいる倫理的な問題に気づき、問いを立てられるようになること。 ②その問いにたいして、様々な考え方を知ったうえで自分なりに考えられるようになること。					
19.教科書・教材	特に指定せず、授業資料を中心に進めていきます。					
20.参考文献	各回の授業中に参考文献を挙げていきます。					
21.成績評価	二回のレポート（400～1200 字程度）で評価します。 中間レポート（第 8 回講義） 50 点 期末レポート（第 15 回講義） 50 点 毎回のコメントシートで出席確認を行います。 詳しい内容は授業で説明します。					
22.コメント	私たちの身の回りには、私たちが思っている以上に多くの問題が潜んでいます。これからの社会をより良くしていくためには、こうした問題に気づき、考えていくことが必要です。この授業では、こうした問題に簡単に答えを示すのではなく、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。問題を見つけて、自分なりに考える能力は、大学を出た後の社会生活でも必要な能力です。この講義を通して、自分で考えることの楽しさを感じるとともに、これからの社会に必要とされる能力を身につけてもらえたら幸いです。					
23.オフィスアワー	質問等は、授業の前後で対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【ガイダンス】 受講上の注意、成績評価について、講義で扱うテーマの紹介			【以下第 15 回講義まで共通】 Web Class を使うので、パソコンを持参してください。 毎回授業後にコメントシートを書いてもらいます。 授業資料も Web Class 上にアップロードします。		
第 2 回	【倫理、倫理学とはなにか】 高校科目「倫理」との違い、「道徳」との関係、「法」との関係を考えていきます。					
第 3 回	【「善さ」とはなにか①】 倫理学の扱う最も基本的なテーマである「善さ」につ					

	いて考えていきます。この回では、徳倫理学と共感理論という2つの理論を紹介します。	
第4回	【「善さ」とはなにか②】 前回に引き続き「善さ」について考えていきます。この回では、義務倫理学と功利主義の2つの理論を紹介します。	
第5回	【「正義」とはなにか】 ロールズをはじめとした正義理論を紹介しつつ、「平等」をどのように実現できるのかを考えていきます。この回を通して、「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」、「各国内および各国間の不平等を是正する」といったSDGsのゴールを達成するために必要なことを考えます。	
第6回	【レポート書き方講座&相談会】 この回では、レポート課題に向けての注意点についてお話しします。また授業時間内で、レポートについての個別の質問や相談にお答えしていく予定です。	
第7回	【生命倫理①】 この回からより具体的なテーマについて考えます。まずは、「生命」にかかわる問題について考えていきます。具体的には、生殖補助医療（男女の産み分け、出生前診断など）、人工妊娠中絶の問題を扱う予定です。	
第8回	【生命倫理②】 引き続き「生命」について考えていきます。具体的には、終末期医療や臓器移植の問題を扱う予定です。	中間レポート提出（Web Class）
第9回	【動物倫理①】 この回では、人間の権利だけでなく動物の権利について考えていきます。まずはペットのしつけという身近な問題や、肉食の問題を扱う予定です。	
第10回	【動物倫理②】 引き続き「動物の権利」について考えていきます。具体的には、動物実験（化粧品などの嗜好品開発、医療用の実験）、動物園・水族館のあり方に関する問題を扱う予定です。	
第11回	【ケアについて①】 この回では「ケア」について考えていきます。医療が発達し、高齢化社会が進む現代において、「ケア」はいかなる意味をもちうるのでしょうか？そして、看護やリハビリの現場だけでなく、皆さん全員が関わりうる家族のケアをどう考えていけばよいのでしょうか？	
第12回	【ケアについて②】 この回では、「ケア」において重要な「他者との関係」について、より詳しく考えていきます。そのなかで、医療と患者の関係のあり方について考えなおしつつ、	

	「リハビリテーション」の問題を考察します。また「ケア」される側の「ケア」だけではなく、「ケア」する側の「ケア」についてもお話しする予定です。	
第 13 回	【現代技術】 この回では、「現代技術」とのかかわりを考えます。特に原子力と人工知能を話題にして、どのような議論がされているのかを紹介する予定です。	
第 14 回	【新型コロナと倫理学】 新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、私たちの社会生活を一変させています。この回では、新型コロナウイルスの感染拡大のなかで出てきた倫理的な問題について考えていきます。	
第 15 回	【まとめ&レポート相談会】 今までの授業内容をまとめたうえで、倫理が私たちの生きる現代社会とどのようにかかわるのかを確認し、今後どのように生活していくべきかを考えていきます。 加えて授業時間内で、レポート課題についての質問・相談に答えていきます。	期末レポート提出 (Web Class)

1.授業コード (ナンバリング)	HUM104-A51	2.科目名	教育と人間形成		3.単位数	2
4.授業担当教員	飯嶋香織					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 中学(英語) 中学(社会) 小学校 幼稚園 保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	この授業は、「人間形成」という視点から、主に家庭、学校、社会がそれぞれもっている働きや役割を考える ①家庭教育と人間形成との関連を考える。 ②学校教育と人間形成との関連を考える。 ③日本の現代の教育問題のうち、いくつかの問題の概要を理解する。 ④「教育機会の平等」の問題を考える。 SDGs（持続可能な開発目標）17のゴール の中の「4. すべての人に包摂的かつ公平な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」という視点からも考察していきます。					
18.学習目標と DPとの関連	DP の(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能 の活用力に関連している。 ①家庭、学校、社会における教育の概要と人間形成にとっての意義を説明できる。 ②教育機会の平等が現代社会でその程度実現しているのかを分析できる。 ③日本の教育問題の概要を説明できる。 ④「教育とは何か」ということに対して、自分の考えをもちそれを表現することができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。 毎授業で教材を配布します。					
20.参考文献	中村高康他「現場で使える教育社会学」 ミネルヴァ書房 山野 則子 編著「子どもの貧困調査—子どもの生活に関する実態調査から見えてきたもの」 明石書店					
21.成績評価	下記の3項目についてすべてに取り組んだうえで、合計60点以上で単位修得となる。 ①最終レポート : 50% → 学習目標の①、③、④ ②グループワーク: 45%（1回15%×3回: グループワークのまとめと振り返り） → 学習目標の①、② ③宿題提出 : 5% → 学習目標の②、③					
22.コメント	・原則、対面での授業実施 ただし、天候不良など登学禁止となり、対面で授業が実施できない場合は、遠隔での対応となる。その場合、授業を ZOOM など で録画して授業内の WEB CLASS で公開することがある。					
23.オフィスアワー	授業後に教室または非常勤講師室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション：授業の進め方、評価方法についてのガイダンスを行う					
【第2回】	Ⅰ家庭教育：①「家族」とは何か；家族という集団の特徴を知る			【復習】自分が受けた学校教育の中で最も印象に残ったことを書く。		

		【予習】WEB CLASS に関連する動画をアップしますので、視聴し自分の意見をまとめる
【第 3 回】	I 家庭教育：②日本人の子育て；日本人の子育ての特徴を知る	○・「現代の日本では、子どもは大切に育てられているか」について書いてくる（120 分） ・「現代日本の家族の平均人員と核家族の比率」を調べてくる（120 分）
【第 4 回】	I 家庭教育：③現代家族の変化と子ども；近年の家族の変化と、子どもへの影響を考える	◎次回までにグループで、「現代日本の子育ての困難とそこに必要な子育て支援」を考えてくる
【第 5 回】	I 家庭教育：④現代の子育ての困難と子育て支援（その 1）：グループワーク I	○・「グループワーク I のまとめと振り返り」を書いてくる（120 分） ・「現代日本における里親制度について」調べてくる（120 分）
【第 6 回】	I 家庭教育：⑤現代の子育ての困難と子育て支援（その 2）	○・「日本ではなぜ里親制度が広がらないか」について書いてくる（120 分） ・「日本での教育を受ける機会を法律でどのように規定しているか」を調べてくる（120 分） ★ワークシート I 提出
【第 7 回】	II 学校教育：①教育機会の平等（その 1）	◎次回までにグループで、夜間中学校の現状について調べてくる（240 分）
【第 8 回】	II 学校教育：②教育機会の平等（その 2）：グループワーク II	○「グループワークのまとめ」を書いてくる（240 分）
【第 9 回】	II 学校教育：②教育機会の平等（その 2）：グループワーク II 結果の発表と振り返り	○・「グループワーク II の振り返り」を書いてくる（150 分） ・「社会教育法の該当条文について」調べてくる（90 分） ★ワークシート II 提出
【第 10 回】	III 社会教育：①社会教育とは何か；社会教育の種類と主な社会教育施設について知る	・「エリクソンの発達論について」調べてくる（120 分）
【第 11 回】	III 社会教育：②ライフサイクル論と社会教育；ライフサイクルの実際の変化及びライフサイクルについての考え方が、社会教育にもたらした影響を知る	○・「発達課題論と社会教育の関係について」まとめてくる（120 分） ・「現在の日本の非行率と都道府県別の統計」を調べてくる（120 分）
【第 12 回】	IV 子どもの問題行動：①少年非行；少年非行について、その実態と少年非行のとらえ方を知る	◎次回までにグループで、「非行少年の処遇について重要なこと」を考えてくる（240 分）
【第 13 回】	IV 子どもの問題行動：②グループワーク III	○・「グループワークのまとめと振り返り」を書いてくる（150 分） ・「現在日本の不登校の最新データ」を調べてくる（90 分）

【第 14 回】	IV子どもの問題行動：③不登校；不登校について、その実態と不登校のとらえ方を知る	○・「自分は学校にいかないことをどのように考えるか」について書いてくる（120 分） ★ワークシートⅢ 提出
【第 15 回】	IV子どもの問題行動：④いじめ；いじめについて、その実態ととらえ方を知る	○最終レポートに向けて、これまでの学修のまとめを行う（240 分）

1.授業コード (ナンバリング)	HUM105-Y51	2.科目名	比較宗教論		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	基礎科目（2019 年度以降入学生）/専門共通科目（2018 年度以前入学生）	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 多文化共生の実現には相手文化の「内的な論理」の把握が絶対の条件となります。この授業では、特に誤解と衝突の多い「宗教」について、その内的論理を把握するための諸概念・諸理論を、豊富な具体例とその分析を通じて解説します。 【概要】 ユダヤ教やイスラム教などの一神教は「一人しか神様がいない宗教」ではありません。彼らが「神」と呼んでいるものは世界の原理や掟といった、もっと抽象的な概念です。そこからはじまって「祈り」の意味も、聖典の扱いも、他宗教のとらえ方も、すべてが私たちとは異なる論理に編み込まれています。異文化を理解するとは、そうした「内的な論理」を何とかして把握することです。宗教体系の一部分だけを、内的な論理を無視して取り出して、自分の文化の尺度であれこれ言っても、それはこちら側で作った勝手な意味にしかありません。 この授業では、異文化の内的な論理を何とかして把握しようとしてきた文化人類学者たちの理論や概念を、世界各地の様々な信仰を材料に解説していきます。 その際は、私自身のニューギニア調査など遠い遠い異文化の事例と、ポップカルチャーなどみなさんに非常に身近な自文化の事例を同等に取り上げ、同じ理論で分析してみせることで、それらが地続きの世界の事象であることを示したいと考えています。					
18.学習目標とDPとの関連	この授業の学習目標は DP の（3）多様性の理解と（2）問題解決力の学修に関連しています。 ①宗教のあり方を社会的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる ②社会のあり方を宗教的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる。 ③それらの理論を使い、様々な文化事象を分析することができる。					
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します（教科書は使用しません）					
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト（15 回） … 45%（学習目標①②に対応） ・期末レポート … 55%（学習目標①②③に対応）					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 2 限（学修支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業ガイダンス ― 多文化共生と宗教の「理解」			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 2 回】	「神」とは何か ― ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の基本論理			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 3 回】	精霊たちが来る季節 ― キリスト教が排除したもうひとつのヨーロッパ世界			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 4 回】	私は世界で世界は私 ― 仏教、ヒンドゥー教の基本論			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		

	理	
【第 5 回】	「運」という観念の発明 ― 道教の基本論理	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 6 回】	魔法少女とメラネシア ― 呪力マナに関する報告と 19 世紀の理論の崩壊	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 7 回】	お父さんのいない島 ― フィールドワークと近代人類学の成立（1）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 8 回】	異文化の内的論理を把握する ― フィールドワークと近代人類学の成立（2）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 9 回】	妖術師ルイスの告白 ― 機能主義とその限界	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 10 回】	アスディワルの奇妙な冒険 ― 構造主義と神話分析	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 11 回】	境界とタブーと非日常 ― ダグラスの境界論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 12 回】	死と再生、あるいは儀礼的な逆転 ― リーチの境界論、ターナーの境界論、トリックスター論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 13 回】	病を投げ捨てる方法 ― 治癒儀礼の論理 1：象徴論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 14 回】	呪医は何を治したのか？― 治癒儀礼の論理 2：社会関係の組み立て直しとしての癒し	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 15 回】	痛みと説明 ― 治癒儀礼の論理 3：災因論・物語論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

1.授業コード (ナンバリング)	HUM105-m51	2.科目名	比較宗教論 (宗教学)		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	基礎科目 (2019 年度以降入学生) / 専門共通科目 (2018 年度以前入学生)	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 多文化共生の実現には相手文化の「内的な論理」の把握が絶対の条件となります。この授業では、特に誤解と衝突の多い「宗教」について、その内的論理を把握するための諸概念・諸理論を、豊富な具体例とその分析を通じて解説します。 【概要】 ユダヤ教やイスラム教などの一神教は「一人しか神様がいない宗教」ではありません。彼らが「神」と呼んでいるものは世界の原理や掟といった、もっと抽象的な概念です。そこからはじまって「祈り」の意味も、聖典の扱いも、他宗教のとらえ方も、すべてが私たちとは異なる論理に編み込まれています。異文化を理解するとは、そうした「内的な論理」を何とかして把握することです。宗教体系の一部分だけを、内的な論理を無視して取り出して、自分の文化の尺度であれこれ言っても、それはこちら側で作った勝手な意味にしかありません。 この授業では、異文化の内的な論理を何とかして把握しようとしてきた文化人類学者たちの理論や概念を、世界各地の様々な信仰を材料に解説していきます。 その際は、私自身のニューギニア調査など遠い遠い異文化の事例と、ポップカルチャーなどみなさんに非常に身近な自文化の事例を同等に取り上げ、同じ理論で分析してみせることで、それらが地続きの世界の事象であることを示したいと考えています。					
18.学習目標とDPとの関連	この授業の学習目標は DP の (3) 多様性の理解と (2) 問題解決力の学修に関連しています。 ①宗教のあり方を社会的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる ②社会のあり方を宗教的な側面からとらえるための諸理論を説明することができる。 ③それらの理論を使い、様々な文化事象を分析することができる。					
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します (教科書は使用しません)					
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト (15 回) … 45% (学習目標①②に対応) ・期末レポート … 55% (学習目標①②③に対応)					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 2 限 (学修支援センター)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業ガイダンス ― 多文化共生と宗教の「理解」			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 2 回】	「神」とは何か ― ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の基本論理			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 3 回】	精霊たちが来る季節 ― キリスト教が排除したもうひとつのヨーロッパ世界			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		
【第 4 回】	私は世界で世界は私 ― 仏教、ヒンドゥー教の基本論			授業後にキーワードと小テスト送信 (復習)		

	理	
【第 5 回】	「運」という観念の発明 ― 道教の基本論理	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 6 回】	魔法少女とメラネシア ― 呪力マナに関する報告と 19 世紀の理論の崩壊	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 7 回】	お父さんのいない島 ― フィールドワークと近代人類学の成立（1）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 8 回】	異文化の内的論理を把握する ― フィールドワークと近代人類学の成立（2）	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 9 回】	妖術師ルイスの告白 ― 機能主義とその限界	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 10 回】	アスディワルの奇妙な冒険 ― 構造主義と神話分析	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 11 回】	境界とタブーと非日常 ― ダグラスの境界論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 12 回】	死と再生、あるいは儀礼的な逆転 ― リーチの境界論、ターナーの境界論、トリックスター論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 13 回】	病を投げ捨てる方法 ― 治癒儀礼の論理 1：象徴論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 14 回】	呪医は何を治したのか？― 治癒儀礼の論理 2：社会関係の組み立て直しとしての癒し	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 15 回】	痛みと説明 ― 治癒儀礼の論理 3：災因論・物語論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

1.授業コード (ナンバリング)	INF101-M51	2.科目名	情報と社会（情報学）		3.単位数	2
4.授業担当教員	山下泰生					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義形式（ただし、授業外での事前のビデオ 視聴が必須）		
16.履修制限	ネットワーク接続環境のノート P C が必要					
17.授業の目的と概要	コンピュータ技術、マルチメディア技術、インターネットなどの発展によって現在社会は「情報社会」と呼ばれている。個人の好き嫌いや、良い悪いに関わらず、「情報社会」は、我々の生活に大きく関わってきており、そして、今後も情報社会の技術は進んでいくことは容易に予測できる。 ○本講義はでは、まず「情報」とは何か？という点から、改めて考えてみる。その上で、特に「インターネット」を中心とした情報社会について外観し、マルチメディア技術の発展との関連を理解し、その中の光と影を確認する。そして、これからの情報社会のあり方について考える。 ○各回の授業に先立ち、自宅で解説用ビデオ視聴して、あらかじめワークシートに必要事項を記入して受講することを必須条件とする。また、授業中に指定されたテーマに関する w e b による調べ学習も組み入れる。（ただし、第 4 回、7 回、9 回、11 回目の授業は、オンデマンドの授業を予定）					
18.学習目標と D P との関連	本講義では、情報社会がどのように生まれてきて、発展してきたか、また、これからの情報社会で生きていく上で何が必要であるのか、という点を正しく判断できる力を身につけることを目的とし、以下の 3 点を中心に学習目標を設定する。 ①情報社会の在り方と今後の発展にういて理解する。 以下の項目に関して 現状を理解しそれに対する自分の考えを明確に表現する。 ②マルチメディア技術の応用（小課題 1） ③インターネットの活用（小課題 2） ④メディアとコミュニケーション（小課題 3） ⑤これからの情報社会の全般的なポイントを理解する。					
19.教科書・教材	授業中にプリント（ワークシートおよび補助プリント）を配布する。 ワークシートは、各回の授業の最後に、次の授業のシートを配布する。					
20.参考文献	必用に応じて授業中に指示する					
21.成績評価	1) 授業シート、授業時の小テスト（オンラインで解答）・・・学習目標① 第 2、3、4、5、7、8、9、10、11、12、13、14 回目（計 12 回分） （各 5 点×12）／2・・・30％ ＊ただし、小テストは事前に開設ビデオを視聴していることが条件 2) 小課題（5％×3回）15％・・・学習目標②、③、④ 3) 最終試験（筆記形式）55％・・・学習目標⑤ ＊最終的に、上記比率で合計した得点で 10 段階評価をして、10 倍した得点を最終評価点と					

	する。	
22.コメント	○ネットワーク接続可能なノートPCが必要。 (小テストの解答、Webからの調べ学習、等で利用) ○第4回、7回、9回、11回目の授業は、オンデマンドの授業となります。 ！！ビデオ視聴に関する注意事項！！ 解説ビデオの事前視聴はWeb-Class（オンライン学習システム）を通して視聴します。1回の授業が複数のビデオデータに分割されて5分程度のビデオとなっていますが、途中で終わることもできますし、何度も繰り返し視聴できます。 ただし、必ず、1回の視聴が終わったら（途中でも）【資料を閉じる】のボタンを	
23.オフィスアワー	月曜 お昼休み（1号館第1事務室を訪ねてください）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	オリエンテーション、「情報」に対するイメージ ・本授業に関する目的、授業計画、評価基準の説明。 本授業を通したベンチマーク項目の確認。 ・授業の進め方の説明。(事前の開設ビデオの説明も含む) ・「情報」というものに対するイメージを通した、本授業のイントロダクション。 ・第2回目のワークシート配布	○次回までに授業運営状況を確認する。 ○第2回目の解説ビデオを授業までに視聴し、ワークシートを記入してくる。 (計30分)
第2回	「情報」とは ・情報と知識の関係についての説明 ・情報の価値と質に関する説明 ・第3回目のワークシート配布	○授業で説明された「情報」と「データ」の関係を復習しておく。 ○第3回目の解説ビデオを授業までに視聴し、ワークシートを記入してくる。 (計60分)
第3回	マルチメディア ・マルチメディアとは・情報とマルチメディア ・小課題1 指定用紙配布 ・第4、5回目のワークシート配布	○（小課題1）・「マルチメディア技術の応用について」（計200分） ・ Web-Class 提出（締め切り 10/23 17:00）
第4回	◎◎【 オンデマンド（10/24分） 期間：10/18～10/30 】 コンピュータの出現と情報伝達手段（計60分） ・コンピュータの出現まで、・米国での普及 ・コンピュータの利用目的の変化・情報伝達手段	○第4回目の解説ビデオを視聴し、ワークシートを記入する。 第4回目の確認テスト（Web-Class）を実施する。 ○第5回目の解説ビデオを授業までに視聴し、ワークシートを記入してくる。(計60分)
第5回	インターネット ◆ノートPC持参◆ ・インターネットとは、（短編VTR） □ インターネット利用者数について	○情報伝達手段の違いについて復習をする。 ○インターネットの良い点3つとそれに対応する悪い点を復習する。 ○第6回目のアナウンス情報を授業までに確認する。 (計60分)
第6回	インターネット社会 ◆ノートPC持参◆ ・ワークシート配布（小課題2 指定用紙兼ねる） ・インターネットの社会的影響 資料用ビデオ	○（小課題2）：「インターネットの社会的影響（ビデオからの具体的事例をもとに）」 ・ Web-Class 提出（締め切り 11/13 17:00）

	を授業中視聴 第7、8回目のワークシート配布	(計360分)
第7回	◎◎【 オンデマンド (11/14分) 期間:11/8～11/20 】 ネットワーク社会の光と影 (計60分) ○ネットワーク社会の問題点を考える	○第7回目の解説ビデオを視聴し、ワークシートを記入する。 第7回目の確認テスト(Web-Class)を実施する。 ○第8回目の解説ビデオを授業までに視聴し、ワークシートを記入してくる。(計60分)
第8回	ネットワーク社会でのセキュリティ ◆ノートPC持参◆ ・ネットワーク社会におけるセキュリティの必要性 第9回目、10回目のワークシート配布	○セキュリティの必要性を復習する。 (計60分)
第9回	◎◎【 オンデマンド (11/28分) 期間:11/22～12/04 】 セキュリティを守る技術 ・暗号化技術とその応用	○「シーザー暗号化方式」処理を復習する。 第9回目の確認テスト(Web-Class)を実施する。 ○第9回目の解説ビデオを視聴し、ワークシートを記入する。(計90分)
第10回	情報社会の社会的問題 ◆ノートPC持参◆ ・インターネット上の人権 (短編ビデオ視聴) □ nifty 裁判のポイントと判決 第11、12回目のワークシート配布	○ネットワーク社会における人権について考える。 (計60分)
第11回	◎◎【 オンデマンド (12/12分) 期間:12/06～12/18 】 知的所有権と著作権 □ winny 裁判の争点と判決	○第11回目の解説ビデオを視聴し、ワークシートを記入する。 第11回目の確認テスト(Web-Class)を実施する。 ○第12回目の解説ビデオを授業までに視聴し、ワークシートを記入してくる。(計60分)
第12回	メディアとコミュニケーション ◆ノートPC持参◆ ・「メディア」とは、・情報技術と文化 ・小課題3指定用紙配布 ・第13回目のワークシート配布	○(小課題3):「メディアとコミュニケーションについて」(締め切り 1/8 17:00) ○第13回目の解説ビデオを授業までに視聴し、ワークシートを記入してくる。 (計300分)
第13回	ネットワーク社会と情報社会 ◆ノートPC持参◆ ・インターネット上の情報の問題 ・情報を取り込む技術と捨てる技術 ・情報社会がもたらす影響 第14回目のワークシート配布	○第14回目の解説ビデオを授業までに視聴し、ワークシートを記入してくる。 (計60分)
第14回	これからの情報社会 ◆ノートPC持参◆ ・技術の発展とユビキタス情報社会 ・総括試験についての説明	◆ノートPC持参◆ ○第15回目の総括試験にむけて、これまでのワークシートを整理し、確認する。

		(60 分)
第 1 5 回	・ 授業全体のまとめ ・ 総括試験（筆記試験 6 0 分間）	授業全体を振返る(30 分)

1.授業コード (ナンバリング)	INF101-Y51	2.科目名	情報と社会		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	リベラルアーツ 科学 と生活	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	神戸山手キャンパス生対象			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 情報と社会をめぐる様々な概念や理論を、みなさんに身近な事例をあげながら解説していきます。 【概要】 文化人類学者であると同時に情報処理技術者としてプログラムを書いてきた私の経歴を活かし、異文化間交流から地域文化の生成、流行やうわさの拡散、ジャーナリズムと SNS、ネット上で繰り返される二次創作、ネットを活用した販売戦略、AI の仕組みまで、みなさんの広い関心に「情報」という観点から答えていきます。 前半（第 1～8 回）では情報伝達（コミュニケーション）についての基本的な概念を解説したのち、それが情報技術の発展につれてどう変化したか（あるいはしなかったか）を具合例をあげながら説明していきます。 後半（第 9～15 回）はその応用として、ポップカルチャーが政治性を再生産する仕組み、うわさや流行が拡散する仕組み、商品やサービスの現代的な販売戦略などを、前半で学んだ情報理論を拡張しながら解き明かしていきます。					
18.学習目標と DP との関連	学習目標① 情報をめぐる社会現象を体系的にとらえるための諸理論を説明することができる 学習目標② それらの理論を使い、情報をめぐる様々な社会現象を分析することができる ※この授業の学習目標は DP の（3）多様性理解と（2）問題発見・解決力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	教科書は使しません。毎回、教材を配布します。					
20.参考文献	授業進捗に合わせて紹介していきます。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト（15 回） … 45%（学習目標①②に対応） ・期末レポート … 55%（学習目標①②に対応）					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 2 限（学修支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業ガイダンス ①情報伝達（コミュニケーション）と社会 ②インターネットの登場とコミュニケーションの変化／社会の変化 ③授業計画 ④成績評価と受講上の注意			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 2 回】	情報とメディア ①メディアとその分類 ②メディアの歴史（新聞、ラジオ、テレビ） ③インターネットの登場			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		

	④携帯電話の登場資料 {自作 3bit 電卓,https://youtu.be/SMnn-ySjTnE} {自作 8bit コンピューター,https://youtu.be/HQJwaOBfT8c} {自作 4bit コンピューター,https://youtu.be/WMT1Bw-a8cY}	
【第 3 回】	情報の一方向性／双方向性 ①マスコミュニケーションとその分類 ②マスコミュニケーションと情報の一方向性 ③インターネットと情報の双方向性	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 4 回】	情報と文脈（1） ①コミュニケーションと文脈 ②文脈を推測する材料 ③インターネットと文脈の喪失	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 5 回】	情報と文脈（2） ①インターネットと文脈の喪失 ②AI — ディープラーニングと文脈の推測	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 6 回】	情報と文化 ①文脈の参照源としての文化 ②異文化間での情報伝達はいかになされるか？	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 7 回】	情報と解釈とコミュニティ（1） ①解釈と文化の変化 ②解釈とコミュニティ ③事例 — ムラ社会における情報の解釈と習俗の変化	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 8 回】	情報と解釈とコミュニティ（1） ①事例 — ネット上で生じる解釈と n 次創作 ②ネットコミュニティの特異性	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 9 回】	情報と政治（1） ①ポップカルチャーとその情報論的位置づけ ②ポップカルチャーの政治性 — 国策映画など単純なケース ③より複雑なケース — 需要と供給のサイクルの中で自発的に再生産される政治性	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 10 回】	情報と政治（2） ①日本のジャーナリズムとその問題点 ②ジャーナリズムと戦争 — 言論統制をしたのは誰か？ ③SNS とジャーナリズム	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 11 回】	情報拡散の諸相（1） ①流行をめぐる理論 ②模倣と仲間意識 ③現代における地域文化を情報拡散の理論からとらえる	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 12 回】	情報拡散の諸相（2） ①うわさとその類語の整理 ②「感情の共有」としてのうわさ	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

	③うわさから社会を読む ④都市伝説の拡散 ― ローカライズと FOF	
【第 13 回】	情報と経営戦略（1） ①ご当地キャラブームにみる情報の戦略性 ②地域活性化についての基礎知識 ③キャラクタービジネスと「かわいい」をめぐる図像論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 14 回】	情報と経営戦略（2） ①せんとかん登場の衝撃 ②ご当地キャラのテキスト化 ③せんとかんブームと真正性 ④逆張り戦略の登場	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 15 回】	情報と経営戦略（3） ①ロイヤリティフリー戦略 ②非公認キャラ戦略 ③マスツーリズム、ニューツーリズム、そして…… ④ネットの時代の物の売り方	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

1.授業コード (ナンバリング)	INF101-a51	2.科目名	情報と社会		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	リベラルアーツ 科学 と生活	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	尼崎キャンパス生対象			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 情報と社会をめぐる様々な概念や理論を、みなさんに身近な事例をあげながら解説していきます。 【概要】 文化人類学者であると同時に情報処理技術者としてプログラムを書いてきた私の経歴を活かし、異文化間交流から地域文化の生成、流行やうわさの拡散、ジャーナリズムと SNS、ネット上で繰り返される二次創作、ネットを活用した販売戦略、AI の仕組みまで、みなさんの広い関心に「情報」という観点から答えていきます。 前半（第 1～8 回）では情報伝達（コミュニケーション）についての基本的な概念を解説したのち、それが情報技術の発展につれてどう変化したか（あるいはしなかったか）を具合例をあげながら説明していきます。 後半（第 9～15 回）はその応用として、ポップカルチャーが政治性を再生産する仕組み、うわさや流行が拡散する仕組み、商品やサービスの現代的な販売戦略などを、前半で学んだ情報理論を拡張しながら解き明かしていきます。					
18.学習目標と DP との関連	学習目標① 情報をめぐる社会現象を体系的にとらえるための諸理論を説明することができる 学習目標② それらの理論を使い、情報をめぐる様々な社会現象を分析することができる ※この授業の学習目標は DP の（3）多様性理解と（2）問題発見・解決力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	教科書は使しません。毎回、教材を配布します。					
20.参考文献	授業進捗に合わせて紹介していきます。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・授業内小テスト（15 回） … 45%（学習目標①②に対応） ・期末レポート … 55%（学習目標①②に対応）					
22.コメント	※遠隔受講の場合の Zoom の URL はこちらです：{***}					
23.オフィスアワー	金曜 2 限（学修支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	授業ガイダンス ①情報伝達（コミュニケーション）と社会 ②インターネットの登場とコミュニケーションの変化／社会の変化 ③授業計画 ④成績評価と受講上の注意			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		
【第 2 回】	情報とメディア ①メディアとその分類 ②メディアの歴史（新聞、ラジオ、テレビ） ③インターネットの登場			授業後にキーワードと小テスト送信（復習）		

	④携帯電話の登場資料 {自作 3bit 電卓,https://youtu.be/SMnn-ySjTnE} {自作 8bit コンピューター,https://youtu.be/HQJwaOBfT8c} {自作 4bit コンピューター,https://youtu.be/WMT1Bw-a8cY}	
【第 3 回】	情報の一方向性／双方向性 ①マスコミュニケーションとその分類 ②マスコミュニケーションと情報の一方向性 ③インターネットと情報の双方向性	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 4 回】	情報と文脈（1） ①コミュニケーションと文脈 ②文脈を推測する材料 ③インターネットと文脈の喪失	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 5 回】	情報と文脈（2） ①インターネットと文脈の喪失 ②AI — ディープラーニングと文脈の推測	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 6 回】	情報と文化 ①文脈の参照源としての文化 ②異文化間での情報伝達はいかにされるか？	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 7 回】	情報と解釈とコミュニティ（1） ①解釈と文化の変化 ②解釈とコミュニティ ③事例 — ムラ社会における情報の解釈と習俗の変化	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 8 回】	情報と解釈とコミュニティ（1） ①事例 — ネット上で生じる解釈と n 次創作 ②ネットコミュニティの特異性	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 9 回】	情報と政治（1） ①ポップカルチャーとその情報論的位置づけ ②ポップカルチャーの政治性 — 国策映画など単純なケース ③より複雑なケース — 需要と供給のサイクルの中で自発的に再生産される政治性	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 10 回】	情報と政治（2） ①日本のジャーナリズムとその問題点 ②ジャーナリズムと戦争 — 言論統制をしたのは誰か？ ③SNS とジャーナリズム	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 11 回】	情報拡散の諸相（1） ①流行をめぐる理論 ②模倣と仲間意識 ③現代における地域文化を情報拡散の理論からとらえる	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 12 回】	情報拡散の諸相（2） ①うわさとその類語の整理 ②「感情の共有」としてのうわさ	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

	③うわさから社会を読む ④都市伝説の拡散 ― ローカライズと FOF	
【第 13 回】	情報と経営戦略（1） ①ご当地キャラブームにみる情報の戦略性 ②地域活性化についての基礎知識 ③キャラクタービジネスと「かわいい」をめぐる図像論	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 14 回】	情報と経営戦略（2） ①せんとかん登場の衝撃 ②ご当地キャラのテキスト化 ③せんとかんブームと真正性 ④逆張り戦略の登場	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）
【第 15 回】	情報と経営戦略（3） ①ロイヤリティフリー戦略 ②非公認キャラ戦略 ③マスツーリズム、ニューツーリズム、そして…… ④ネットの時代の物の売り方	授業後にキーワードと小テスト送信（復習）

1.授業コード (ナンバリング)	INF102-Y51	2.科目名	情報倫理 (留)		3.単位数	2
4.授業担当教員	中嶋康二					
5.授業科目の区分	専門教育科目 基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	留学生クラスです。					
17.授業の目的と概要	目的： 絶えず変化し続ける情報社会において、適切な情報技術の利活?ができるようになるための判断と?構えを?動に移すことができるようになることを?指します。 概要： 本科?では、情報社会で活動する上で適切な判断と態度を取るために必要になる知識とスキルを事例調査などの学習を通して?に付けます。インターネット等の技術は日々進歩しており、情報社会は常に変化を続けています。このため、知識とスキルを?分でアップデートしていけるようになることを?指して、技術?、法律?、倫理?それぞれにおいて、データを参照しながら情報倫理について考える機会を提供します。授業では、授業?援システム WebClass (e-Learning) を?います。また、適宜グループワークを取り?れます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標 (= ?につくスキル) は次の通りです。 1. インターネット上での情報発信が他者に及ぼしうる影響について説明できる 2. プライバシー権、知的財産権など?他の権利について説明できる 3. 情報社会において、危機回避など安全な利活?のための?法について説明できる 4. データ・AI 活用上の課題について説明できる 5. 情報モラルに関する知識に基づいた適切な意思決定ができる [関連する DP (ディプロマポリシー)] (1) ?律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発?・解決? (5) コミュニケーションスキル (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	『事例でわかる情報モラル&セキュリティ』実教出版, 2022 年					
20.参考文献	『情報倫理_ネット時代のソーシャル・リテラシー』高橋 慈子ほか, 技術評論社, 2020 年 『教養としてのデータサイエンス』内田誠一ほか, 講談社, 2021 年 その他、授業中に適宜資料を配付する。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。それぞれ課題提出したうえで 60 点以上が合格になります。 (1) 知識テスト (学習?標 1・2・3・4 に対応) 10% →各テストは「満点」で合格です。(何度でもチャレンジできます) →実施時期は、授業の中で指?します。 (2) 各ブロックに関する小レポート×4 (学習?標 1・2・3・4・5 に対応) 60% (3) 情報倫理啓発チラシ (学習?標 1・2・3・4・5 に対応) 15% (4) ふりかえりシート (学習?標 1・2・3・4・5 に対応) 15%					
22.コメント	・各回の授業で提?される予習・復習は、下表の「26. アサインメント (宿題) など」の欄に記載しています。(個?差はありますが) それぞれ 120 分程度の作業となることを想定しています。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワーは、月曜日昼休みです。 質問や相談がある場合はこの時間を活用してください。その他、授業期間中は随時質問を受け付けます。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・ 授業概要説明／ICT ツールの利用環境確認 ・ 「情報倫理」の理解度確認ワーク：これまでに学んだ「情報倫理（モラル・セキュリティ）」についてグループディスカッション	授業外学習： シラバスの内容確認 教科書を概観して全体像をつかむ
第 2 回	ブロック(1)他者への影響① SNS と情報モラルについて考える	事前学習：教科書（第 3・4・5・13・14 章のうち指定の範囲）を読んでくる 事後学習：本日の内容を復習
第 3 回	ブロック(1)他者への影響② SNS と情報モラルに関する事例を調べてみる →グループワークで共有	授業外学習： 授業中の調査ワークのつづき
第 4 回	ブロック(1)のまとめ 自分自身の生活とどう関わるのかを考えて発信する	授業外学習： ◆小レポート（1）作成 WebClass から提出
第 5 回	ブロック(2)自他の権利① プライバシー権や個人情報保護について考える	事前学習：教科書（第 8・9 章）を読んでくる 事後学習：本日の内容を復習
第 6 回	ブロック(2)自他の権利② プライバシー権や個人情報保護に関する事例を調べてみる →グループワークで共有	授業外学習： 授業中の調査ワークのつづき
第 7 回	ブロック(2)のまとめ 自分自身の生活とどう関わるのかを考えて発信する	授業外学習： ◆小レポート（2）作成 WebClass から提出
第 8 回	ブロック(3)情報セキュリティ① 情報技術とセキュリティについて考える	授業外学習： 本日の内容を復習 ◆知識テスト の実施
第 9 回	ブロック(3)情報セキュリティ② 情報技術とセキュリティに関する事例を調べてみる →グループワークで共有	事前学習：教科書（第 6・7 章）を読んでくる 事後学習：本日の内容を復習
第 10 回	ブロック(3)のまとめ 自分自身の生活とどう関わるのかを考えて発信する	授業外学習： ◆小レポート（3）作成 WebClass から提出
第 11 回	ブロック(4)データ・AI 活用上の課題① データ倫理や「AI と倫理」について考える	事前学習：教科書（第 10・11・12 章）を読んでくる 事後学習：本日の内容を復習
第 12 回	ブロック(4)データ・AI 活用上の課題② データ倫理や「AI と倫理」に関する事例を調べてみる →グループワークで共有	授業外学習： 授業中の調査ワークのつづき
第 13 回	ブロック(4)のまとめ 自分自身の生活とどう関わるのかを考えて発信する	授業外学習： ◆小レポート（4）作成 WebClass から提出
第 14 回	情報倫理啓発チラシ作成と共有	授業外学習： ◆作成したチラシの提出 事後学習：ここまでの学習内容を振り返り、自身の「態度」にどのような変化があったか

		考えてみる
第 15 回	学びのふりかえり、??評価、ポートフォリオ記述 / 総評	◆ふりかえりシート提出（WebClass：授業中提出）

1.授業コード (ナンバリング)	INF202-Y51	2.科目名	デザイン思考	3.単位数	2
4.授業担当教員	山本敏幸				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	社会学部 データサイエンス専攻 推奨 他学部 推奨			9.履修学年	社会学部 2 年生以上 他学部 2 年生以上
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	チームベースの PBL 型アクティブラーニング	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	◆システム思考からデザイン思考へ◆ システム思考では、社会の様々な問題を俯瞰的に見ることで問題解決をする手法について学んできました。客観的な視点から物事を捉えることで、特性を持つ物事 1 つ 1 つを分けながら関係性を配慮し、全体を 1 つのシステムとして捉えることで問題解決をしようという試みです。システム思考を学び、問題解決のプロジェクトチームで実践することで社会の様々な事象の全体像を把握し、 1 つ 1 つに注目していたときには気づかなかった原因や、それに対する解決策を発見できるようになったと思います。 この授業で学ぶデザイン思考とは、「人間中心の問題解決アプローチをする」考え方のことです。 「使う側のユーザー起点で考える」、 「商品の制作側とユーザー間のコミュニケーションを重視する」、 「短い時間のスパンで繰り返し問題解決をおこない、試行錯誤しながら試す」、 といった考え方がコンセプトになっています。 システム思考は既に社会に存在する商品や社会の仕組みなどについて、改善をおこなうことが中心ですが、デザイン思考では、まだ社会に存在しない商品開発や仕組み開発について開発をおこなう手法です。具体的には、人々のニーズを観察し、そこから得たアイデアを具体的にプロトタイプ等に落とし込み、テストや試行錯誤を繰り返して解決していきます。 こういった実験的な工夫はより効率的なデザイン思考の実践を実現します。 システム思考でもデザイン思考でも共通して言えることは、チームで課題に取り組むという姿勢です。システム思考でのチームの考え方はチームリーダーのいる組織体制ですが、一方、デザイン思考ではアジャイルという手法を活用します。授業の中で実際にアジャイルなチームでの問題解決、商品開発、イノベーションを SDGs の領域で考えていきます。社会は人の営みから成っているところですから、そこに住む人々のニーズを見極め、解決すべき課題を見極め、既存の価値観や既成概念に囚われることなく最適な解決策を模索していくことが大切ではないでしょうか。 社会がより便利になり、生活しやすくなり、住みやすい場所になるようにするためにデザイン思考を身に付けましょう！				
18.学習目標と DP との関連	以下に示す本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ①コンピュータやインターネットといった情報手段の使い、情報収集、情報分析ができる ②収集した情報データを整理、解析し、現状における問題点の同定ができる ③デザイン思考のためのシンキングツールを活用し、現状分析、シナリオプランニングができる ④デザイン思考の学習領域で、チーム活動による PBL ができる ⑤チームの PBL の成果をリッチメディアを駆使して、情報発信・情報共有ができる				

	到達?標（毎回のチームベースの演習の中でマイクロインサージョンで内省化していく） ・ 予めチームで合意した問題課題の領域で、俯瞰的な視点からクリティカルシンキング・クリエイティブシンキング、イノベティブシンキングができる。 ・ クリティカルシンキングのためのシンキングツールを駆使して問題課題を多?的に分析でき、最適な解決策のイノベーションに結び付けることができる。 ・ 問題解決案の内容的評価方法について計画し、PDCA のサイクルを廻すマインドセットを持つことができる。 ・ イノベーションに繋がる様々な思考発想法の功罪について理解し、状況に合わせて活用できる。 チームベース構成で、プロジェクトチームで実践的にそれぞれのチームメンバーの役割の視点から経験を積みながら PBL 型でデザイン思考のプロセスを学んでいく。プロジェクトの成果物はチームによる最終プレゼンテーションで共有し、フィードバックセッションで学びのふりかえりをおこなう。	
19.教科書・教材	教科書：『デザイン思考の教科書』,日経 BP 社 参考書：『デザイン思考の教科書』, ダイヤモンド社 参考資料：授業の進行に合わせて随時紹介する	
20.参考文献	適宜、資料を配布します。 授業の進行に合わせて、随時、WebClass に提示します。	
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 （個人の学びの評価）・・・授業各回での個人レベルの学びのふりかえりレポート [学習目標①、②、③、④、⑤に対応] 課題作業ファイルの提出・・・4 点×15 回=60 点 ※出席なしでのふりかえりレポートは認めない （チームによる PBL 学習・チーム貢献評価）[学習目標①、②、③、④、⑤に対応] プログレスレポート課題 1：テーマ領域・情報データ収集・現状分析方法・・・10 点 [学習目標①、②、③に対応] プログレスレポート課題 2：現状分析・課題定義・・・10 点 [学習目標①、②]	
22.コメント	ノート PC を授業中リサーチツール・シンキングツール・学びの共有の場として使用します。必ず持参してください。	
23.オフィスアワー	毎週火曜日 3 限目：学修支援室 毎週火曜日 4 限目：個人研究室	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	Introduction：デザイン思考とは？ 講義：本コースの説明、シラバスの説明、ハウスルールの説明 チーム学習活動：チームビルディング、エンパシービルディング、ブレインストーミング	・ 今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ ふりかえりレポートの作成・提出 ・ 次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 2 回】	◆デザイン思考のマインドセット◆ 考えるということ・クリティカルシンキング（1） 講義：シンキングツールを使って考える（マインドマップ・マンダラート・PMI・SWOT 等） チーム学習活動：シンキングツール実践演習	・ 今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ ふりかえりレポートの作成・提出 ・ 次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 3 回】	◆デザイン思考のマインドセット◆ 考えるということ・クリティカルシンキング（2） 講義：シンキングツールを使って考える（ロジカルシンキング・水平思考等） チーム学習活動：実践演習	・ 今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ ふりかえりレポートの作成・提出 ・ 次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく

【第 4 回】	デザイン思考演習 1：課題領域の設定 講義：身の回りの社会の一局面を取り上げ、テーマ領域を絞りこむ チーム学習活動：実践演習（ブレインストーミング・ディスカッション・コンセンサスビルディング）	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 5 回】	デザイン思考演習 2：課題領域の設定→現状分析（1） 講義：絞り込んだテーマ領域について、現状の問題点・利点について分析する チーム学習活動：実践演習（PMI 分析・デザイン思考キャンパス・ディスカッション）	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 6 回】	デザイン思考演習 3：課題領域の設定→現状分析（2） 講義：絞り込んだテーマ領域について、現状の問題点・利点について分析する、進捗確認 チーム学習活動：実践演習（PMI 分析・デザイン思考キャンパス・ディスカッション）	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 7 回】	デザイン思考演習 4：課題領域の設定→現状分析→シナリオプランニング（1） 講義：絞り込んだテーマ領域について、現状の問題点・利点について分析する チーム学習活動：実践演習（デザイン思考キャンパス・SWOT 分析・ディスカッション）	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 8 回】	デザイン思考演習 5：課題領域の設定→現状分析→シナリオプランニング（2） 講義：絞り込んだテーマ領域について、現状の問題点・利点について分析する、進捗確認 チーム学習活動：実践演習（デザイン思考キャンパス・SWOT 分析・ディスカッション）	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 9 回】	デザイン思考演習 6：設定したテーマ領域での最重要課題の同定 講義：絞り込んだテーマ領域についての調査分析結果を踏まえて、予め予測していた課題を評価・吟味する チーム学習活動：実践演習（これまでの演習プロセスのふりかえりと評価・ディスカッション）	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 10 回】	デザイン思考演習 7：前回までの学びの成果を可視化する 講義：これまでの演習活動の成果を可視化する チーム学習活動：実践演習（これまでの演習活動成果をポスター 1 枚にまとめる、クラスで共有）→ピッチ形式プレゼン動画の作成	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 11 回】	デザイン思考演習 8：Pitch 形式によるプロGRESSレポート 講義・チーム学習活動：これまでの演習活動の成果をまとめたポスターを使って、Pitch 形式によるプレゼンテーション＆評価セッションをおこなう チーム学習活動：実践演習（コメントセッションを反映した改善版の作成）	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく

【第 12 回】	デザイン思考演習 9：解決案の作成（1） 講義・チーム学習活動：これまでの演習活動の成果をまとめたポスター等を基に、解決策を提案する チーム学習活動：実践演習（ブレインストーミング・クリエイティブシンキング・ディスカッション）	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 13 回】	デザイン思考演習 10：解決案の作成（2） 講義・チーム学習活動：チームで挙げた解決策案を評価し、最適な解決策を一つ絞り提案する チーム学習活動：実践演習（コンセンサス・ビルディング・ディスカッション）	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 14 回】	デザイン思考演習 11：最終報告書の作成（1） 講義・チーム学習活動：チームのデザイン思考での学びのふりかえりを含めた成果物を動画等のリッチメディアを駆使して作成する チーム学習活動：実践演習（それぞれのチームメンバーの得手とするリッチメディアを駆使して DX 時代の最終報告書を作成する）	・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・ふりかえりレポートの作成・提出 ・次回の予習：教科書の該当箇所を読んでおく
【第 15 回】	デザイン思考演習 12：最終報告書の作成（2）&ふりかえり 講義・チーム学習活動：チームのデザイン思考での学びのふりかえりを含めた成果物をリッチメディアを駆使して完成する チーム学習活動：実践演習（それぞれのチームメンバーの得手とするリッチメディアを駆使して DX 時代の最終報告書を完成し、クラス全体共有キャンバスで共有・コメントセッションをおこなう）	チーム課題提出：課題 4 を提出（締切） ・今回の復習：教科書・配布資料の復習 ・総括ふりかえりレポートの作成・提出 ・授業アンケート・ポートフォリオ記入

1.授業コード (ナンバリング)	INF204-Y51	2.科目名	情報管理論		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 ビジネスにおける情報管理の基本的知識を理解し、説明できるようになることを目指します。 【概要】 情報はビジネスにおいて、重要な経営資源のひとつである。情報技術の発達に伴って、様々なビジネス分野で情報システムが活用されている。この科目は、情報システム管理の立場から、経営活動に関わる業務流れの理解と関連問題の解決戦略、情報機器及びシステムの導入と活用、情報システムの開発と技術戦略などについて学習し、社会人として備えておくべき共通の情報管理の基礎素養を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	①企業活動と法規に関する基礎知識について説明できる ②システム戦略や経営マネジメントに関する基本知識について説明できる ③技術戦略マネジメントやサービスマネジメントの知識について説明できる ④プロジェクトマネジメントの基本知識について説明できる ⑤情報機器及びシステムの導入と活用について提案できる ⑥情報システムの開発と技術戦略について提案できる [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発?・解決? (6) 専?的知識・技能 の活??					
19.教科書・教材	指定しない					
20.参考文献	IT パスポート試験のシラバス、解説テキスト					
21.成績評価	1. KPT シート(理解できたこと、できなかったこと、質問などをまとめる) 25% 2. 毎回の授業の確認問題(25 点) 3. 総括試験(50 点)					
22.コメント	・毎回、コンピュータを使った演習を行うため、各?でノートPCを持参すること。(事前に?分な充電をしておくこと／Windows Update を授業中に起動しないよう、定期的に更新処理しておくこと)					
23.オフィスアワー	毎週木曜日 3 限目：個人研究室 毎週金曜日 3 限目：学修支援室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	イントロダクション			今回の復習：配布資料の復習		
【第 2 回】	企業活動と法務(1) 財務諸表			今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出		
【第 3 回】	企業活動と法務(2) 知的財産権・関連法規			今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出		
【第 4 回】	企業活動と法務(3) 業務分析手法			今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出		
【第 5 回】	経営戦略とシステム戦略(1) 企業の組織			今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出		
【第 6 回】	経営戦略とシステム戦略(2) 経営戦略			今回の復習：配布資料の復習		

		確認問題の提出
【第 7 回】	経営戦略とシステム戦略(3) 技術戦略・業績評価	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 8 回】	経営戦略とシステム戦略(4) ビジネスシステム・e-ビジネス	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 9 回】	経営戦略とシステム戦略(5) 人工知能・IoT	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 10 回】	経営戦略とシステム戦略(6) 情報システム戦略・ソリューションビジネス	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 11 回】	マネジメント(1) 企画・要件定義・システム開発	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 12 回】	マネジメント(2) テスト手法・ソフトウェア開発手法	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 13 回】	マネジメント(3) プロジェクトマネジメント・工程管理	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 14 回】	マネジメント(4) IT サービスマネジメント・システム監査	今回の復習：配布資料の復習 確認問題の提出
【第 15 回】	まとめ・総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	INF301-Y51	2.科目名	情報と職業		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本敏幸					
5.授業科目の区分	教職課程・3年次	6.必修・ 選択の区分	教職・必修他・ 選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	2年生以上	
10.取得資格の要件	教職		11.先修条件	仕事とキャリア形成Ⅰ及びⅡを履修済みだと より学びが深まります		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義(演習含む)		
16.履修制限	BYOD 必携					
17.授業の目的と概要	シンギュラリティーが 2045 年頃、あるいはもっと早い時期に私達の社会にやってきます。シンギュラリティーが来ると世の中の約半数の仕事が AI やロボットに置き換わってしまうと言われています。その頃には多くの皆さんは教師として多くの生徒たちの前で教えていることでしよう。シンギュラリティーの中、成長して社会に巣立っていく生徒たちの未来設計・人財育成に携わっているのが皆さんの未来の姿です。この授業では未来社会を、特に教員というキャリアで生きる未来社会の自身の姿を未来デザインしてみましょう。それ以外の職業についても展開していきますので、自身のキャリアデザインに興味のある方は受講してください。 【目的】 既習の仕事とキャリア形成では、職業や仕事に関する知識を広げていくとともに、自分の性格や価値観を客観的に把握して将来のキャリア像を考え、具体的な計画を立てました。本授業では、教職を目指す学生のために、2つのことについていっしょに考えていきたいと思います。 1、これからの未来社会を教師としてキャリア形成をしていく皆さんのマインドセット、ものの見方、人生の行き方や姿勢、社会貢献の視点からの人生設計について、つまり、自身のプロフェッショナル・ディベロプメントについて。 2、教職は未来社会を生きるこれからの世代の人材育成に関わる重要な社会貢献です。教員としての使命の自覚、未来社会で活躍する世代の人材育成に貢献するというプロとしての姿勢について。 授業の中では、時にはクラスでディスカッションをし、時には、個人で考えを展開し、成果は共有しながら、同じ未来のキャリアを目指す仲間たちと質の高い教育者を目指していきましょう。 【概要】 この授業は2部構成になっています。第1部では、コロナ禍で社会の価値観が大きく変わった社会について、みなさんの視野をひろげたり、視点を変えたり、様々な角度から教育機関や社会、教育に従事する仕事のことを見ていきます。第2部では、自分の特性・価値観などに気づき、その特性・価値観を生かせる職業としての教職について、教育従事者にはこれからどのような知識や技能、考え方やマインドセットを身につけなければならないのかを考え、10年後・20年後・30年後の未来社会を生きる自分について、キャリア人生設計を作成します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (1) 自律性、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーション・スキルに関連します。 ① さまざまな職業や業界について、興味を持つことができる。 ② 自分の性格や価値観を客観的に把握することができる。 ③ 自分の教員としてのキャリアと将来の目標に向けて実現可能な計画を立てることができる。そして、俯瞰できる。判断ができる。 教育は未来社会の質保証に関わる重要な部分です。未来社会の人材育成も携わるという重大な					

	使命について自覚できるようになることが大切です。	
19.教科書・教材	竹田茂生・藤木清 編『夢をかなえるキャリアデザイン』くろしお出版 2023 年 あわせて、適宜タイムリーな資料、追加資料を WebClass で共有します。	
20.参考文献	1) 図説 シンギュラリティの科学と哲学 単行本 ? 2018/12/28 野田ユウキ (著) 秀和システム 2) 東洋経済新報社『「会社四季報」業界地図 2022 年版』 3) 瀧本哲史「2020 年 6 月 30 日にあたここで会おう」Kindle 版 講談社 2020.4 4) 岸健二編『業界と職種がわかる本'23』成美堂出版 2021.5 *メディア・ライブラリーやキャリア・サポート室、学修支援室などに、キャリア関連書籍、関連書籍が多数所蔵されているので、適宜参照してください。	
21.成績評価	■ワークシート等の課題 40% (学習目標①および②に関連する) ■最終課題 = キャリアデザイン・ポートフォリオ・自己アピールビデオ・ (学習目標③に関連する) 1.ワークシート (リッチメディア版): 自己アピールビデオ・プレゼンテーション資料 (パワーポイント) 80% 3.ラーニング・ルートマップ等 20% *学期中、6 回以上の無断欠席で、成績評価の資格は喪失します。	
22.コメント	1.教職科目ですから、遅刻・無断欠席は厳禁です。 2.すべての回でノートパソコンを使用します。(ワークシート配付・提出は WebClass にて配布) 3.個人ワーク、グループディスカッション、グループワークで様々な視点からキャリアデザインをしていきましょう。 4.オフィスアワーを活用し、十分に教員としてのキャリア設計をしてください。	
23.オフィスアワー	第 1 回目の授業でご案内します。 曜日 日 時 限 目 1 号館 2F (メディアサポートセンター内)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	未来の職業 (特に教職) というキャリアへの準備～未来の夢を描こう～ 1 ■ この授業の意義 (オリエンテーション) シンギュラリティとキャリアデザイン (1) ■ アフターコロナにおける、多くの職業について俯瞰し、自分のなりたい職業、特定の職業 (教職) について調べる。 (資料 1)	○シンギュラリティの講義、様々な情報源から、自分のなりたい職業を選び、その職業の観点から情報を集め、分析し、まとめる。60 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 2 回	未来の職業 (特に教職) というキャリアへの準備～未来の夢を描こう～ 2 ■ この授業の意義 (オリエンテーション) シンギュラリティとキャリアデザイン (2) ■ アフターコロナにおける、多くの職業について俯瞰し、自分のなりたい職業、特定の職業 (教職) について調べる。シンギュラリティの視点から、消えてしまう職業か否かを調査し、SWOT 分析する。 (資料 2)	○ ワークシート 1 : SWOT 分析 150 分 ○ SWOT 分析結果を報告書にまとめる 30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 3 回	未来の職業 (特に教職) というキャリアへの準備～未来の夢を描こう～ 3 ■ シンギュラリティとキャリアデザイン (3)	○ ワークシート 2 150 分 ○ テーマについて調査し、学習した事柄について整理する。 30 分

	■ 仕事の過去、現状、未来予測 仕事とキャリアについて、歴史的に見よう。 Society 5.0, Industry 5.0, Web 5.0 等の観点から歴史的な進化を再確認する。(1) (資料3)	○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 4 回	未来の職業（特に教職）というキャリアへの準備～未来の夢を描こう～ 4 ■ シンギュラリティーとキャリアデザイン (4) ■ 仕事の過去、現状、未来予測 仕事とキャリアについて、歴史的に見よう。 Society 5.0, Industry 5.0, Web 5.0 等の観点から歴史的な進化を再確認する。(ひき続きおこなう) (2) (資料4)	○ ワークシート 3 150 分 ○ 調査収集した情報について整理する。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 5 回	未来の職業（特に教職）というキャリアへの準備～未来の夢を描こう～ 5 ■ シンギュラリティーとキャリアデザイン (5) ■ 仕事の過去、現状、未来予測 仕事とキャリアについて、歴史的に見よう。 Society 5.0, Industry 5.0, Web 5.0 等の観点から歴史的な進化を再確認する。(ひき続きおこなう) (3) (資料5)	○ ワークシート 4 150 分 ○ 調査収集した情報について整理する。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 6 回	未来の職業（特に教職）というキャリアへの準備～未来の夢を描こう～ 6 ■ シンギュラリティーとキャリアデザイン (6) ■ 仕事の過去、現状、未来予測 仕事とキャリアについて、現状を俯瞰的に見よう。 Society 5.0, Industry 5.0, Web 5.0 等の観点から現状に繋がる歴史的な進化の過程を再確認する。(1) (資料6)	○ ワークシート 5 150 分 ○ 調査収集した情報について整理する。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 7 回	未来の職業（特に教職）というキャリアへの準備～未来の夢を描こう～ 7 ■ シンギュラリティーとキャリアデザイン (7) ■ 仕事の過去、現状、未来予測 仕事とキャリアについて、現状を俯瞰的に見よう。 (引き続きおこなう) Society 5.0, Industry 5.0, Web 5.0 等の観点から現状に繋がる歴史的な進化の過程を再確認する。(2) (資料7)	○ ワークシート 6 150 分 ○ 調査収集した情報について整理する。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 8 回	未来の職業（特に教職）というキャリアへの準備～未来の夢を描こう～ 8 ■ シンギュラリティーとキャリアデザイン (8) ■ 仕事の過去、現状、未来予測 仕事とキャリアについて、シンギュラリティー後の未来をシナリオプランニングしてみよう。 Society 5.0, Industry 5.0, Web 5.0 等の達成後の世界を想定してシナリオプランニングしてみよう。(1) (資料8)	○ ワークシート 7 150 分 ○ 調査収集した情報について整理する。30 分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60 分
第 9 回	未来の職業（特に教職）というキャリアへの準備～未	○ ワークシート 8 150 分

	来の夢を描こう～ 9 ■ シンギュラリティーとキャリアデザイン（9） ■ 仕事の過去、現状、未来予測 仕事とキャリアについて、シンギュラリティー後の未来をシナリオプランニングしてみよう。 Society 5.0, Industry 5.0, Web 5.0 等の達成後の世界を想定してシナリオプランニングしてみよう。（2） そこでは、どのような業種があり、どのようなキャリアスキルが求められるようになっているだろうか。 教育の現場はどのような教育モデル（アクティブラ	○ テキスト第9章を読み返し、学習した事柄について整理する。 30分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60分
第10回	未来の職業（特に教職）というキャリアへの準備～未来の夢を描こう～ 10 ■ シンギュラリティーとキャリアデザイン（10） ■ 仕事の過去、現状、未来予測 仕事とキャリアについて、シンギュラリティー後の未来をシナリオプランニングしてみよう。 これまでの10回の授業での学びで得た経験、知識、俯瞰的に考えたことを一枚のインフォグラフィックスにまとめてみよう。 （資料10）	○ ワークシート9 150分 ○ 配付する追加資料を読み返し、学習した事柄について整理する。インフォグラフィックスを次回までに完成する。 30分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60分
第11回	未来の職業（特に教職）というキャリアへの準備～未来の夢を描こう～ 11 ■ シンギュラリティーとキャリアデザイン（11） ■ 仕事の過去、現状、未来予測 仕事とキャリアについて、シンギュラリティー後の未来をシナリオプランニングしてみよう。 これまでの10回の授業での学びで得た経験、知識、俯瞰的に考えたことを一枚のインフォグラフィックスにまとめてみよう。 ――>完成したインフォグラフィックスを基にして、そんな未来社会で生きることになる自身、或いは教育をする上で教えることとなるスキルや知識等について、マンダ	○ ワークシート10（インフォグラフィックス） 180分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60分
第12回	未来の職業（特に教職）というキャリアへの準備～未来の夢を描こう～ 12 ■ シンギュラリティーとキャリアデザイン（12） ■ 仕事の過去、現状、未来予測 自分自身の未来の仕事とキャリアについて、インフォグラフィックスとマンダラートを参考にして、フューチャースキルマップを作成してみよう。8つのスキルをX軸に年齢を入れて人生グラフ風に8色の色で折れ線グラフで描いてみてください。 （資料12）	○ ワークシート11（マンダラート） 180分 ○ 新聞や雑誌、テレビ番組等から職業や就職に関する話題を読み取り、その内容を理解する。 60分
第13回	これまでの本授業での学びをまとめて、ポートフォリオを準備しよう。 ポートフォリオはこの授業での学びのショーケースです。自分で発信方法を工夫してみてください。 例えば、Web ページ風、Office 365 の SharePoint の	○ ワークシート11（人生グラフ） 180分 ○ 次の3点を実施する。210分 ・ラーニング・ルートマップを修正する。 ・成長確認シートを点検する。

	ファイル共有、Teams のテーマごとのチーム共有プロジェクトサイト、或いは、パワーポイント風、ワード風、YouTube 風などいろいろな形式があります。 様々なメディアを駆使して、本授業での学びの成果を自己アピールしてみてください。	○本授業の授業アンケートをおこなう。
第 14 回	ポートフォリオの準備（2） ■ 13 回目の学習活動の続きをおこなっていきます。 このポートフォリオは自分を売り込むための手段です。魅力的に且つ他の人と差別化をするために、自己アピールビデオ（1 - 2 分程度）も作成してみましょう。 ◆出来上がったポートフォリオはクラスの共有フォルダでみんなで閲覧し、フィードバックをしましょう。	○ ポートフォリオの作成を引き続きおこなってください 210 分
第 15 回	自己アピール ■ 作成した自己アピールポートフォリオをクラスで共有し、ディスカッション・コメントセッションをおこなう。ピッチ形式でプレゼンテーションをおこなう。 ◆ふりかえりセッション 自己の学びのふりかえりをおこなう。 ■授業アンケート	○最終課題（ポートフォリオ）を提出する。

1.授業コード (ナンバリング)	INF303-Y51	2.科目名	情報科指導法Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	常陰則之					
5.授業科目の区分	自由科目	6.必修・ 選択の区分	教職必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会科学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件	高校情報一種免許		11.先修条件	教職課程に関する科目		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	高校情報一種免許取得希望者					
17.授業の目的と概要	平成 30 年度告示の学習指導要領で新設された「情報Ⅱ」の内容について、講義と事例研究、各自作成の学習指導案（教材作成を含む）による複数回の模擬授業実践、小テスト作成・採点実習等で、教職に必要な理論とスキルの両面を学ぶ。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実践のために、様々なグループ活動と個人活動を組み合わせる。					
18.学習目標と DPとの関連	高等学校の情報科教員として求められる学識や資質を身につけ、高めることをめざして、情報科における「情報Ⅱ」の授業の方法と実践について学ぶ。教員の中心業務である教科指導に関して、教育実習を念頭に、以下の基礎・基本を培うことを到達目標とする。 (1) 学校教育関連諸法令及び高等学校学習指導要領等に基づき、高等学校情報科の教科指導に関する基礎知識を学修・研究する。 (2) 高等学校情報科の授業実践に向けて、事例研究・模擬授業、情報機器及び教材の効果的な活用法等を通して、多様な指導方法の基礎を身につける。 (3) 高校生の発達段階に応じた教科指導の精選や教科外の関連学習指導、小中高及び「情報Ⅰ・Ⅱ」の関連に加えて、生徒の生活・進路指導や教育相談等、教員の職務に関する基本的事項についても学修することとする。					
19.教科書・教材	自作教材（第 01 講～第 15 講）					
20.参考文献	・ 出版社は問いませんが、高等学校「情報Ⅰ」の教科書を各自ご準備ください。 ・ {高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 情報編,https://www.mext.go.jp/content/1407073_11_1_2.pdf} （以下、情報解説と表記する） ・ {高等学校情報科「情報Ⅱ」教員研修用教材,https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416746.htm} ・ エリザベス・パークレイ他著『共同学習の技法』ナカニシヤ出版 ISBN97					
21.成績評価	確認テスト、学習指導案、作成した小テスト、模擬授業などで評価する。 模擬授業・講評・参加態度・リアクションシート（40%）、学習指導案・作成した小テスト・採点基準・採点結果（40%）、Web での確認テスト(20%)					
22.コメント	能動的な学修を期待します。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション、学習指導要領のねらいと内容について この科目の内容と概要について説明し、社会環境の変化に伴う普通教科情報、情報Ⅰ、情報Ⅱのねらいとその課題について議論する。また、情報教育の縦の連携と横の連携、高等学校学習指導要領の教育目標と課題について解説する。			（予習） 自作教材第 01 講に目を通しておくこと。 情報解説 p.41 をよく読んでおくこと。 （復習） 講義の復習 （持参物） ノート PC 持参。		
第 2 回	「情報社会の進展と情報技術」について 情報技術の発展の歴史を踏まえて、情報セキュリティ及び情報に関する法規・制度の変化を含めた情報社会			（予習） 自作教材第 02 講に目を通しておくこと。 情報解説 p.42～p.44 をよく読んでおくこと。		

	の進展、情報技術の発展や情報社会の進展によるコミュニケーションの多様化や人の知的活動に与える影響を理解するようにし、コンテンツの創造と活用、情報システムの創造やデータ活用の意義について考える力を養うための指導案と教材の開発。	(復習) 講義の復習 (持参物) ノート PC 持参。
第 3 回	「コミュニケーションとコンテンツ」について コミュニケーションを適切に行うために、目的や状況に応じてコンテンツを制作し、発信する学習活動を通じて、情報の科学的な見方・考え方を働かせ、多様なメディアを組み合わせるコンテンツを制作する方法やコンテンツを発信する方法を理解し、必要な技能を身に付けるとともに、情報デザインに配慮してコンテンツを制作し評価し改善する力を養うための指導案と教材の開発。	(予習) 自作教材第 03 講に目を通しておくこと。 情報解説 p.45～p.47 をよく読んでおくこと。 (復習) 講義の復習 (持参物) ノート PC 持参。
第 4 回	「情報とデータサイエンス」について 情報の科学的な見方・考え方を働かせて、問題を明確にし、分析方針を立て、社会の様々なデータ、情報システムや情報通信ネットワークに接続された情報機器により生成されているデータについて、整理、整形、分析などを行う。また、その結果を考察する学習活動を通して、社会や身近な生活の中でデータサイエンスに関する多様な知識や技術を用いて、人工知能による画像認識、翻訳など、機械学習を活用した様々な製品やサービスが開発されたり、新たな知見が生み出されたりしていることを理解するようにする。更に	(予習) 自作教材第 04 講に目を通しておくこと。 情報解説 p.48～p.52 をよく読んでおくこと。 (復習) 講義の復習 (持参物) ノート PC 持参。
第 5 回	「情報システムとプログラミング」について 実際に稼働している情報システムを調査する活動や情報システムを設計し制作する活動を通して、情報の科学的な見方・考え方を働かせて、情報システムの仕組み、情報セキュリティを確保する方法、情報システムを設計しプログラミングする方法を理解し、必要な技能を身に付けるようにするとともに、情報システムの制作によって課題を解決したり新たな価値を創造したりする力を養うための指導案と教材の開発。	(予習) 自作教材第 05 講に目を通しておくこと。 情報解説 p.53～p.564 をよく読んでおくこと。 (復習) 講義の復習 (持参物) ノート PC 持参。
第 6 回	「情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究」について 教科の目標に沿って、地域や学校の実態及び生徒の状況に応じて情報と情報技術を活用して問題発見・解決の探究を通して、情報の科学的な見方・考え方を働かせて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識及び技能の深化・総合化、思考力、判断力、表現力等の向上を図る。また、このような活動を通して情報社会における問題の発見・解決に情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとする態度、新たな価値を創造しようとする態度、情報社会に参画しその発展に寄与しようとする	(予習) 自作教材第 06 講に目を通しておくこと。 情報解説 p.57～p.59 をよく読んでおくこと。 (復習) 講義の復習 (持参物) ノート PC 持参。
第 7 回	中間まとめと知識及び実技の確認テスト	(予習) 第 1 講から第 6 講までを振り返っておく。

		(復習) 第 1 講から第 6 講までを振り返っておく。 (持参物) ノート PC 持参。
第 8 回	学習指導案の作成と模擬授業の展開と実技小テスト・座学小テストの作成及び採点の検討 情報Ⅱ ①情報社会の進展と情報技術、②コミュニケーションとコンテンツ、③情報とデータサイエンス、④情報システムとプログラミング、⑤情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究 以上の分野より 1 つの分野を重複しないように選択し、学習指導案、板書計画（プレゼンテーション計画）、教材開発を行い、同時に実技小テスト・座学小テスト（各 30 点満点）を作成し、採点基準を検討する。	(予習) 自作教材第 08 講に目を通しておくこと。 情報解説 p.60～p.69 をよく読んでおくこと。 (復習) 講義の復習 (持参物) ノート PC 持参。
第 9 回	模擬授業・小テストの実践Ⅰ 模擬授業（20 分）講評（10 分）小テスト（10 分）を繰り返す。	(予習) 学習指導案・小テストの作成 (復習) 小テストの採点、講評の確認と授業の改善 (持参物) ノート PC 持参。
第 10 回	模擬授業・小テストの実践Ⅱ 模擬授業（20 分）講評（10 分）小テスト（10 分）を繰り返す。	(予習) 学習指導案・小テストの作成 (復習) 小テストの採点、講評の確認と授業の改善 (持参物) ノート PC 持参。
第 11 回	模擬授業・小テストの実践Ⅲ 模擬授業（20 分）講評（10 分）小テスト（10 分）を繰り返す。	(予習) 学習指導案・小テストの作成 (復習) 小テストの採点、講評の確認と授業の改善 (持参物) ノート PC 持参。
第 12 回	模擬授業・小テストの実践Ⅳ 模擬授業（20 分）講評（10 分）小テスト（10 分）を繰り返す。	(予習) 学習指導案・小テストの作成 (復習) 小テストの採点、講評の確認と授業の改善 (持参物) ノート PC 持参。
第 13 回	小テストの分析と学習指導案の改善Ⅰ 小テストの分析と授業の改善 模擬授業の講評、小テストの分析をもとに学習指導案を改善する。 改善された授業案での模擬授業	(予習) 自作教材第 13 講に目を通しておくこと。 情報解説 p.181～p.188 をよく読んでおくこと。 (復習) 講義の復習 (持参物) ノート PC 持参。
第 14 回	小テストの分析と学習指導案の改善Ⅱ 小テストの分析と授業の改善	(予習) 学習指導案・小テストの改善

	模擬授業の講評，小テストの分析をもとに学習指導案を改善する。 改善された授業案での模擬授業	(復習) 小テストの採点、講評の確認と授業の改善 (持参物) ノート PC 持参。
第 15 回	今後の情報教育の展望と課題 教科外の関連学習指導という観点から、課題の追及や解決に情報手段を活用する指導方法を学修し、科学的理解と思考を育む指導案について学修することとする。 授業アンケートの実施。	(予習) 自作教材第 15 講に目を通しておくこと。 (復習) 第 08 講から第 15 講の振り返り (持参物) ノート PC 持参。

1.授業コード (ナンバリング)	INT105-Y72	2.科目名	インターンシップⅢ(産学協議会の分類上『タイプ2』相当)		3.単位数	4
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	英語コミ学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	インターンシップへの参加を認められた者					
17.授業の目的と概要	学内での学習成果としての専門知識やスキルを、特定の業種・業界のビジネスの現場で実践し、その有効性を確認する。また、現実社会における様々な経済現象を、今後の大学での学習にフィードバックする。このように大学と社会の往還を通して、企業の仕組みや作業の流れ、組織内の人間関係などを実際に体験することで、教室で勉強した知識についての理解を深めるとともに、就業意識と学習意欲を高める。 授業は「事前学習」、「実習」と事後のリフレクションという3つの内容からなる。 ・事前学習・・・受入企業及び業務の内容を理解し、実習の現場で必要とされるビジネスマナー、その他必要なスキルを習得する。また、実習により達成すべき課題(実習計画)を作成する。 ・実習・・・各企業の受入担当者の指導に基づき実施される。 ・事後学習・・・実習を行った各業務がどのような役割を分担するかを分析し、それぞれの業務に関する成功要因と失敗要因をまとめる。さらに問題解決のための情報を整理する					
18.学習目標と DPとの関連	・企業の組織や業務を理解できる。 ・組織内の人間関係を円滑に構築できる。 ・与えられた業務に責任を持って遂行できる。 ・実習を通じて自己の課題を発見し、学習に生かすことができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	・事前学修 ・インターンシップ中のリフレクションカレッジ投稿 ・事後学修 ・e-ポートフォリオへの記入 以上をすべて総合した上で評価する。 なお、以上の4点をすべて参加、実施しない場合には単位を認定しない。					
22.コメント	各企業には、業務の時間を割いてインターンシップを受け入れていただきました。学生の将来に期待し、貴重な時間を割いてくれます。感謝の気持ちを持ち、学生らしく、礼儀正しく、元氣よく実習に励んでください。					
23.オフィスアワー	月曜3限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション ・本プログラムの意義と理解 実習を通して、企業への理解を深めると同時に自分自身の適性や志向の把握、新しい価値観・視点の発見等を経験し、働くことの意味や仕事のやりがい・使命の実感、社会で働くことに対する興味や意欲喚起ができ			実習先についての情報を調査し、まとめる		

	る。 (＊インターンシップ経験者の話を聞く) 実習生としての心構え 実習はアルバイトと異なり、社員同様の身分で終業することになる。そのために守るべきルールである就業規則や職場の規定、慣習等について理解し、遵守や適応する必要がある 自己目標設定の考え方について	
【第2回】	ビジネスマナー研修 ・ ルールとマナーの違い ・ ビジネスマナー ・ 職場におけるコミュニケーション ・ 実習日誌の書き方について	実習先にむけて、見出しなみ・注意事項・服装チェックその他準備
【第3回】	リスクマネジメント研修・実習に向けての準備 実習期間内の事故、器物損壊、営業の妨害や損失の発生、機密情報の社外漏洩、セクシャルハラスメント、宗教や文化の違いによるトラブルなど、様々な起こりうるリスクを理解し、しかるべき対応と心構えを理解する。 ＊ 実習先に提出する「誓約書」に署名し提出する。	実習先への質問事項まとめ（その意図を明確に）
【第4回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第5回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第6回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第7回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第8回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第9回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第10回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する

	き、現場で実習する。	
【第 11 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第 12 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	実習企業の指示により対応する
【第 13~43 回】	受入企業にて実習 受入先が提供するインターンシッププログラムに基づき、現場で実習する。	お礼状の作成
【第 44 回】	リフレクション 実習日誌と実習報告書に基づき、振り返りを行ない、実習を通じて身につけたことや学んだこと、今後の課題と行動計画を整理したうえ、報告会に向けた資料作成を行なう	グループワーク：PPT の完成と読み原稿の完成 パフォーマンスの確認
【第 45 回】	学内報告会の発表準備（開催）（実習先協力者 & 担当者を招く） 実習報告書の作成	

1.授業コード (ナンバリング)	INT108-M81	2.科目名	業界研究		3.単位数	2
4.授業担当教員	林万平					
5.授業科目の区分	総合演習 「防災・減災分野における実務経験のある教員による授業科目」	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本実習は、企業訪問実習を通じて、業界研究を行う。 ①各コースの訪問先・研修先企業等の業務内容とありかたを、自分なりにまとめる ②実社会の体験、業界の仕組み、仕事内容を頭と体で理解する。 ③自分の適性にあった職業が判断できるようにする。 業界研究実習は2年次から具体化する専門分野の一部を実体験し、その分野が自分に向いているかについて、体験をすることにより考える機会とする。					
18.学習目標と DPとの関連	安全安心を兵庫で学ぶ上で、必ず知っておくべき、阪神・淡路大震災の被害と復興、兵庫県の防災体制について、人と防災未来センターを訪問することにより学習し、理解する。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	・実習のまとめ ワークシート 50 % ・振り返りを含む報告レポート作成(個人) 50 %					
22.コメント	外部実習に関しては、めったにないチャンスであり、貴重な体験です。時間厳守は勿論、実習で得た学びはその日のうちにまとめ、最終日には、実習先企業の業務内容、社会貢献度をまとめ、自分の進む業界や職業を考えるきっかけにしましょう。 今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、状況によっては企業を実際に訪問することは控えて、遠隔での間接的な訪問とする場合があります。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1～3回 12月 日	【第1・2・3回】 業界研究フェア参加(三木キャンパス内) 就職先の候補と思われる企業のブースを5カ所パッチャル訪問して、事業内容、課題などについて学び、就職先としての魅力を評価する。			PCは必ず持参すること		
第4～5回 1月 日	【第4-5回】 事前学習(三木キャンパス内・PM1 連携) 訪問予定企業の事前学習：阪神南県民センター管内企業、地元企業など、2月に訪問予定企業について、事業内容、課題などについて班別に事前調査研究をおこなう。 最終回には、業界研究に向けた決意表明を行う。			PCは必ず持参すること		
第8-10回 <2月 >	【第8・9・10回】 現地実習-1(予定) AM) 兵庫県広域防災センター 兵庫県の防災対策 兵庫県広域防災センターの役割 兵庫県広域防災センター施設の見学			服装は、基本的にはスーツを着用すること。		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	JAL110-A51	2.科目名	日本語Ⅰ（留）		3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	N1 取得者は履修できません。単位認定を受けるようにしてください。					
17.授業の目的と概要	授業の目的：N2 の取得と N2 レベルの文法を使って自分の意見や考えをまとめて説明できること 概要：N2 の文法項目を網羅している教科書を使用して、文法の意味を理解し文作りを通して日本語力の向上を目指します。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目的は DP の(1) 自律的で主体的な態度（自律性）(4)問題発見・解決力(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 学習目的は次のとおりです。 ①N2 文法を理解し、まとまった内容の文章を読み書きできること ②場面に応じて、適切な語彙や表現が使い分けられること ③自分の意見や考えをまとめて効率よく説明できること					
19.教科書・教材	『テーマ別中級から学ぶ日本語 三訂版』					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：10％ 短作文発表：10％		課題提出：10％ 中間試験：30％		N2 文法発表：10％ 総括試験：30％	
22.コメント	初回の授業からテキストを持参してください。 欠席するときは連絡してください。					
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション [主に授業の流れや成績評価についての説明] ・初級文法復習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習			【第1回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第2回】 ○本文音読、使いましようの練習問題（60 分） ★使いましよう（練習4，5）提出		
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・初級文法復習 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 【第4回】 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 ・第3課「食べる」[教科書 pp.13-16] 文法練習			【第3回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第4回】 ○本文音読、使いましようの練習問題（60 分） ★使いましよう（練習4，5）提出		
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・第3課「たべる」[教科書 pp.17] 文法練習			【第5回】 ○本文音読、次回の予習（60 分）		

	【第 6 回】 ・第 4 課「たとえる」[教科書 pp.21-23] 文法練習	【第 6 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4， 5）提出
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ●N 2 文法発表 ・第 5 課「あきれる」[教科書 pp.27-29] 文法練習 【第 8 回】 ・第 6 課「つたえる」[教科書 pp.33-34] 文法練習	【第 7 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 8 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4， 5）提出
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ●N 2 文法発表 ・第 6 課「つたえる」[教科書 pp.35-36] 文法練習 【第 10 回】 ・第 7 課「かざる」[教科書 pp.40-42] 文法練習 ・短作文作成	【第 9 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 10 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4， 5）提出
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ●N 2 文法発表 ・第 8 課「おもいこむ」[教科書 pp.46-49] 文法練習 【第 12 回】 ・第 9 課「まもる」[教科書 pp.53-54] 文法練習 ・短作文作成	【第 11 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 12 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4， 5）提出
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ●N 2 文法発表 ・第 9 課「まもる」[教科書 pp.54-55] 文法練習 【第 14 回】 ・第 10 課「なれる」[教科書 pp.59-61] 文法練習	【第 13 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 14 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4， 5）提出
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●N2 文法発表 ・第 11 課「つながる」[教科書 pp.65-67] 文法練習 【第 16 回】 ・N2 文法プリント	【第 15 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 16 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分）
【第 17 回】 【第 18 課】	【第 17 回】 ・第 12 課「わかる」[教科書 pp.71-73] 文法練習 【第 18 回】 ●中間試験 [第 1 課～第 10 課]	【第 17 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 18 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4， 5）提出
【第 19 回】 【第 20 課】	【第 19 回】 ・中間試験返却、解説 ・第 13 課「おもいだす」[教科書 pp.77-79] 文法練習 【第 20 回】 ・N 2 文法プリント	【第 19 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 20 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4， 5）提出
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●N 2 文法発表	【第 21 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分）

	・第14課「みなおす」[教科書 pp.83-85] 文法練習 【第22回】 ・第15課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習	【第22回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60分） ★使いまじょう（練習4，5）提出
【第23回】 【第24回】	【第23回】 ●N2文法発表 ・第15課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習 【第24回】 ・第16課「うたう」[教科書 pp.95-99] 文法練習	【第23回】 ○本文音読、次回の予習（60分） 【第24回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60分） ★使いまじょう（練習4，5）提出
【第25回】 【第26回】	【第25回】 ・第17課「なおす」[教科書 pp.103-105] 文法練習 【第26回】 ・第18課「はなれる」[教科書 pp.109-110] 文法練習	【第25回】 ○本文音読、次回の予習（60分） 【第26回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60分） ★使いまじょう（練習4，5）提出
【第27回】 【第28回】	【第27回】 ・第18課「はなれる」[教科書 pp.110-111] 文法練習 ・第19課「かなえる」[教科書 pp.115-116] 文法練習 【第28回】 ・第19課「かなえる」[教科書 pp.116-117] 文法練習	【第27回】 ○本文音読、次回の予習（60分） 【第28回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60分） ★使いまじょう（練習4，5）提出
【第29回】 【第30回】	【第29回】 ・第20課「おぼえる」[教科書 pp.121-123] 文法練習 【第30回】 ●総括試験 [第11課～第19課]	【第29課】 ○復習（60分）

1.授業コード (ナンバリング)	JAL110-Y51	2.科目名	日本語Ⅰ (1/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	松本亮					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語の中級の教科書を使用して、日常の出来事や社会的な話題について学びます。N2レベルの文法を使って自分の意見や考えをまとめて説明できることを目的とします。					
18.学習目標と DPとの関連	①N2 文法を理解し、まとまった内容の文章を読み書きできること。 ②場面に応じて、適切な語彙や表現が使い分けられること。 ③自分の意見や考えをまとめて効率よく説明できること。					
19.教科書・教材	『テーマ別中級から学ぶ日本語 三訂版』					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：10% 課題提出：10% N2 文法発表：10% 短作文発表：10% 中間試験：20% 総括試験：20% N2 文法試験：20%					
22.コメント	教科書の購入については、初回の授業時に指示します。 シラバスのコピーを必ず持参してください。					
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション [主に授業の流れや成績評価についての説明] ・初級文法復習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習 【第2回】 ・第1課「まなぶ」[教科書 pp.1-6] 文法練習 ・N2 文法プリント			【第1回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第2回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分) ★使いまじょう (練習4, 5) 提出		
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・初級文法復習 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 ・N2 文法プリント 【第4回】 ・第2課「みつける」[教科書 pp.7-12] 文法練習 ・第3課「食べる」[教科書 pp.13-16] 文法 AB 練習			【第3回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第4回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分) ★使いまじょう (練習4, 5) 提出		
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ・第3課「たべる」[教科書 pp.17] 文法 C 練習 ・N2 文法プリント 【第6回】 ・第4課「たとえる」[教科書 pp.21-23] 文法練習			【第5回】 ○本文音読、次回の予習 (60 分) 【第6回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題 (60 分) ★使いまじょう (練習4, 5) 提出		

【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ●N2 文法発表 ・第 5 課「あきれる」[教科書 pp.27-29] 文法練習 ・N2 文法プリント 【第 8 回】 ・第 6 課「つたえる」[教科書 pp.33-34] 文法 AB 練習 ・短作文作成	【第 7 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 8 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ●N2 文法発表 ・第 6 課「つたえる」[教科書 pp.35-36] 文法 CD 練習 ・N2 文法プリント 【第 10 回】 ・第 7 課「かざる」[教科書 pp.40-42] 文法練習 ・短作文作成	【第 9 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 10 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ●N2 文法発表 ・第 8 課「おもいこむ」[教科書 pp.46-49] 文法練習 【第 12 回】 ・第 9 課「まもる」[教科書 pp.53-54] 文法 AB 練習 ・N2 文法プリント	【第 11 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 12 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ●N2 文法発表 ・第 9 課「まもる」[教科書 pp.54-55] 文法練習 【第 14 回】 ・第 10 課「なれる」[教科書 pp.59-61] 文法練習 ・N2 文法プリント	【第 13 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 14 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●N2 文法発表 ・第 11 課「つながる」[教科書 pp.65-66] 文法 AB 練習 【第 16 回】 ・N2 文法プリント ・短作文作成	【第 15 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 16 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分）
【第 17 回】 【第 18 課】	【第 17 回】 ・第 12 課「わかる」[教科書 pp.71-76] 文法練習 ・N2 文法プリント 【第 18 回】 ●中間試験 [第 1 課～第 10 課]	【第 17 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 18 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 19 回】 【第 20 課】	【第 19 回】 ・中間試験返却、解説 ・第 13 課「おもいだす」[教科書 pp.77-79] 文法練習 【第 20 回】 ・N2 文法プリント	【第 19 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 20 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4，5）提出
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●N2 文法発表 ・第 14 課「みなおす」[教科書 pp.83-85] 文法練習	【第 21 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 22 回】

	【第 22 回】 ・ 第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習 ・ N2 文法プリント	○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4， 5）提出
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●N2 文法発表 ・ 第 15 課「ふれあう」[教科書 pp.89-91] 文法練習 【第 24 回】 ・ 第 16 課「うたう」[教科書 pp.95-99] 文法練習 ・ N2 文法プリント	【第 23 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 24 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4， 5）提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ・ 第 17 課「なおよす」[教科書 pp.103-105] 文法練習 ・ N2 文法プリント 【第 26 回】 ・ 第 18 課「はなれる」[教科書 pp.109-110] 文法 AB 練習 ・ 短作文作成	【第 25 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 26 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4， 5）提出
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・ 第 18 課「はなれる」[教科書 pp.110-111] 文法 CD 練習 ・ 第 19 課「かなえる」[教科書 pp.115-116] 文法 AB 練習 【第 28 回】 ・ 第 19 課「かなえる」[教科書 pp.116-117] 文法 CD 練習 ●N2 文法試験	【第 27 回】 ○本文音読、次回の予習（60 分） 【第 28 回】 ○本文音読、使いまじょうの練習問題（60 分） ★使いまじょう（練習 4， 5）提出
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・ 第 20 課「おぼえる」[教科書 pp.121-123] 文法練習 【第 30 回】 ・ N2 文法試験返却、解説 ●総括試験 [第 11 課～第 19 課]	【第 29 課】 ○復習（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	JAL111-A51	2.科目名	日本語Ⅱ (留)		3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	授業の目的：大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図ること 概要：N2 文字語彙の模擬問題の練習を行うことで N2 の取得を目指します。一方、教科書の各テーマに沿って学習した語彙を使用してロールプレイや発表を行うことで表現力を豊かにすることを目指します。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目的は DP の(1) 自律的で主体的な態度 (自律性) (4)問題発見・解決力(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 学習目的は次のとおりです。 ①語彙を拡充することで、表現力を高めること ②グループ活動を通して、学んだ語彙の応用力を身につけること					
19.教科書・教材	『にほんご語彙力アップトレーニング』ASK プリント (N2 文字語彙)					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：10% 課題 ：10% 発表 ：20% 小テスト ：20% 最終発表：30% 文字語彙試験：10% ※授業時の携帯やゲーム機器などの使用は減点対象になるので注意					
22.コメント	初回の授業からテキストを持参してください。 欠席するときは連絡してください。					
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや成績評価について説明] ・日本語ウォームアップアクティビティー 【第 2 回】 ・プリント (N2 文字語彙) 学習 ・第 1 課「料理」[教科書 pp.13-20] 語彙・表現のインプット→基礎練習			【第 1 回】 ○授業の復習 (60 分) 【第 2 回】 ○授業の復習 (60 分)		
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ・模擬試験 (N2 文字語彙) の解説 ・第 1 課「料理」[教科書 pp.13-20] 応用練習→発表の原稿作成 【第 4 回】 ・プリント (N2 文字語彙) 学習 ・第 2 課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 語彙・表現のインプット→基礎練習			【第 3 回】 ○授業の復習 (60 分) ★原稿提出 【第 4 回】 ○授業の復習、発表の練習 (60 分)		

【第5回】 【第6回】	【第5回】 ●第1課の発表テスト ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第6回】 ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第5回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第6回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●第2課のロールプレイテスト ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第8回】 ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第7回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第8回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●第3課のロールプレイテスト ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第10回】 ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第9回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第10回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ●第4課のロールプレイテスト ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第12回】 ・プリント（N2文字語彙）学習	【第11回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第12回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ●第1課～第5課の小テスト 【第14回】 ・プリント（N2文字語彙）学習	【第13回】 ○授業の復習（60分） 【第14回】 ○授業の復習（60分）
【第15回】 【第16回】	【第15回】 ●第5課のロールプレイテスト ・プリント（N2文字語彙）学習 【第16回】 ・第6課「結婚」[教科書 pp.53-60] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第15回】 ○授業の復習（60分） 【第16回】 ○授業の復習（60分）
【第17回】 【第18回】	【第17回】 ・第6課「結婚」[教科書 pp.53-60] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第18回】 ・第7課「季節」[教科書 pp.61-68] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第17回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第18回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第19回】	【第19回】	【第19回】

【第 20 課】	●第 6 課のロールプレイテスト ・第 7 課「季節」[教科書 pp.61-68] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 20 回】 ・第 8 課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 語彙・表現のインプット→基礎練習	○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 20 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分）
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 8 課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 22 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 21 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 22 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 応用練習→発表の原稿スライド作成（パソコン、USB 持参） 【第 24 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 発表のスライド作成	【第 23 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 24 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分） ★スライド提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ●第 8 課の発表テスト ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 26 回】 ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 25 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 26 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】【第 28 回】 ●第 9 課の発表テスト ●第 6 課～第 9 課の小テスト	【第 27 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 28 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 応用練習 【第 30 回】 ●N2 文字語彙試験 【第 30 回】 ・生活の語彙、今期の振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL111-Y51	2.科目名	日本語Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	福井武司					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	【目的】 大学での学習に不足のない日本語能力を獲得する 【概要】 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図ります。					
18.学習目標と DPとの関連	①語彙を拡充することで、表現力を高めること ②グループ活動を通して、学んだ語彙の応用力を身につけること					
19.教科書・教材	『にほんご語彙力アップトレーニング』ASK プリント（N2文字語彙）					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：30％ 課題・発表：30％ 中間試験：20％、総括試験：20％ ※授業時の携帯やゲーム機器などの使用は減点対象になるので注意。					
22.コメント	日本での生活や大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙を学びます。語彙の丸暗記ではなく、ロールプレイや発表を通して、豊かな表現力を身につけることを目指します。					
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】 【第2回】	【第1回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや成績評価について説明] ・日本語ウォームアップアクティビティー 【第2回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 語彙・表現のインプット→基礎練習			【第1回】 ○授業の復習（60分） 【第2回】 ○授業の復習（60分）		
【第3回】 【第4回】	【第3回】 ・模擬試験（N2文字語彙）の解説 ・第1課「料理」[教科書 pp.13-20] 応用練習→発表の原稿作成 【第4回】 ・プリント（N2文字語彙）学習 ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 語彙・表現のインプット→基礎練習			【第3回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第4回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）		
【第5回】 【第6回】	【第5回】 ●第1課の発表テスト ・第2課「病気・症状」[教科書 pp.21-28] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習			【第5回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第6回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）		

	【第6回】 ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 語彙・表現のインプット→基礎練習	
【第7回】 【第8回】	【第7回】 ●第2課のロールプレイテスト ・第3課「服選び」[教科書 pp.29-36] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第8回】 ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第7回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第8回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第9回】 【第10回】	【第9回】 ●第3課のロールプレイテスト ・第4課「性格」[教科書 pp.37-44] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第10回】 ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第9回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第10回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第11回】 【第12回】	【第11回】 ●第4課のロールプレイテスト ・第5課「家探し」[教科書 pp.45-52] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 【第12回】 ・プリント（N2文字語彙）学習	【第11回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第12回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第13回】 【第14回】	【第13回】 ・第1課～第5課の復習 【第14回】 ●中間試験	【第13回】 ○授業の復習（60分） 【第14回】 ○授業の復習（60分）
【第15回】 【第16回】	【第15回】 ●第5課のロールプレイテスト ・中間試験の振り返り ・プリント（N2文字語彙）学習 【第16回】 ・第6課「結婚」[教科書 pp.53-60] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第15回】 ○授業の復習（60分） 【第16回】 ○授業の復習（60分）
【第17回】 【第18回】	【第17回】 ・第6課「結婚」[教科書 pp.53-60] 応用練習→ロールプレイの原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習 【第18回】 ・第7課「季節」[教科書 pp.61-68] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第17回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第18回】 ○授業の復習、ロールプレイの練習（60分）
【第19回】 【第20回】	【第19回】 ●第6課のロールプレイテスト ・第7課「季節」[教科書 pp.61-68] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2文字語彙）学習	【第19回】 ○授業の復習（60分） ★原稿提出 【第20回】 ○授業の復習、発表の練習（60分）

	【第 20 回】 ・第 8 課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 語彙・表現のインプット→基礎練習	
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 8 課「慣用句・ことわざ」[教科書 pp.69-78] 応用練習→発表の原稿作成 ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 22 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 21 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 22 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分）
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ●第 7 課の発表テスト ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 応用練習→発表の原稿スライド作成（パソコン、USB 持参） 【第 24 回】 ・第 9 課「世界遺産・名所紹介」[教科書 pp.79-89] 発表のスライド作成	【第 23 回】 ○授業の復習（60 分） ★原稿提出 【第 24 回】 ○授業の復習、発表の練習（60 分） ★スライド提出
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ●第 8 課の発表テスト ・プリント（N2 文字語彙）学習 【第 26 回】 ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 語彙・表現のインプット→基礎練習	【第 25 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 26 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ●第 9 課の発表テスト ・第 10 課「グラフ」[教科書 pp.91-99] 応用練習 【第 28 回】 ・第 6 課～第 10 課の復習 ●N2 試験	【第 27 回】 ○授業の復習（60 分） 【第 28 回】 ○授業の復習（60 分）
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ●総括試験 【第 30 回】 ・N2 試験、総括試験の振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL112-A51	2.科目名	日本語Ⅲ (留)		3.単位数	2
4.授業担当教員	尹郁子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	留学生 また受講を許可されたもの					
17.授業の目的と概要	授業の目的：あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学び、テキスト単位のライティング力を養成することです。 概要：教科書は 10 課で構成され、大きく 3 つのレベルに分かれています。やさしい項目から難しい項目へと進むうちに自然に書く力が身につくように工夫されています。書き方を段階的に積み上げていきながら、最終的にはアカデミックレベルの文章を書く技術が身につくようになっています。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目的は DP の(1) 自律的で主体的な態度（自律性）(4)問題発見・解決力(5) コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 学習目的は次のとおりです。 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学び、テキスト単位のライティング力を養成することです。					
19.教科書・教材	『大学で学ぶための日本語ライティング』 The Japan Times 佐々木瑞枝他 ISBN 4-7890-1221-2					
20.参考文献	授業中に適宜指示します。					
21.成績評価	①学習状況（宿題、授業参加） 20% ②中間試験（作文含む） 20% ③作文 2 回（課題①②） 30% ④総括試験（作文含む） 30%					
22.コメント	初回の授業からテキストを用意してください。 欠席するときは連絡してください。					
23.オフィスアワー	授業外の時間、上記メールでも質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 第 1 課 簡潔に回答する ○表現の練習 ○短く答える練習 ○簡潔に回答する 教室活動：テーマを決めてアンケートを作成する→発表（課題）					
第 2 回	第 2 課 情報を文章にする ○表現の練習 ○情報を文章にする 教室活動：クラスで出かける計画を作成する→発表（課題）					

第 3 回	第 3 課 状況を説明し、意見を述べる ○表現の練習 ○状況を説明し、意見を述べる 教室活動：街で感じたことについてまとめる→発表 (課題)	
第 4 回	第 4 課 中心文と支持文で段落を作る練習 ○中心文と支持文で段落を作る練習 ○文や段落をつなぐ練習 ○段落を作る 作文①を書く (課題)	作文①を完成させる。翌週提出
第 5 回	作文①の提出 第 5 課 体験したことを報告する文を書く ○表現の練習 ○体験したことを報告する文を書く 教室活動：見学の報告書を書く	
第 6 回	作文①のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習 (1) プリント教材	
第 7 回	第 6 課 テーマに沿った意見文を書く ○表現の練習 ○テーマに沿った意見文を書く	
第 8 回	中間試験 (作文含む)	
第 9 回	中間試験のフィードバック 第 7 課 自分をアピールする文を書く ○表現の練習 ○自分をアピールする文を書く	
第 10 回	第 8 課 レポートを書くための基礎知識	
第 11 回	第 8 課 順序立てて、レポートを書く ○表現の練習 ○レポートで使われる表現の練習 ○順序立てて、レポートを書く だ体・である体の練習	
第 12 回	第 9 課 引用して、レポートを書く ○表現の練習 ○語や文を名詞化する練習 ○引用して、レポートを書く 作文②を書く (課題)	作文②を完成させる。翌週提出
第 13 回	作文②の提出 第 10 課 資料を整理して、レポートを書く ○表現の練習 ○グラフの読み方 ○資料を利用して、レポートを書く	
第 14 回	作文②のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習	

	(2) プリント教材	
第 1 5 回	総括試験（発表含む）	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL112-Y51	2.科目名	日本語Ⅲ		3.単位数	2
4.授業担当教員	櫻井かおり					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、それぞれ週2コマずつの授業で、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、日本語能力の四技能（聞く、話す、読む、書く）を高めることを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
19.教科書・教材	『大学で学ぶための日本語ライティング』 The Japan Times 佐々木瑞枝他 ISBN 4-7890-1221-2					
20.参考文献	授業中に適宜指示する。					
21.成績評価	①学習状況（宿題、授業参加） 20% ②中間テスト（作文含む） 20% ③作文2回 30% ④期末テスト（作文含む） 30%					
22.コメント	初回の授業からテキストとノート PC を用意してください。 欠席するときは連絡してください。					
23.オフィスアワー	授業の前後またはメールで対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション 第1課 簡潔に回答する ○表現の練習 ○短く答える練習 ○簡潔に回答する 教室活動：テーマを決めてアンケートを作成する→発表			テキスト 「大学で学ぶための日本語ライティング」		
第2回	第2課 情報を文章にする ○表現の練習					

	○情報を文章にする 教室活動：クラスで出かける計画を作成する→発表	
第 3 回	第 3 課 状況を説明し、意見を述べる ○表現の練習 ○状況を説明し、意見を述べる 教室活動：街で感じたことについてまとめる→発表	
第 4 回	第 4 課 中心文と支持文で段落を作る練習 ○中心文と支持文で段落を作る練習 ○文や段落をつなぐ練習 ○段落を作る 作文①を書く	作文①を完成させる。翌週提出
第 5 回	作文①の提出 第 5 課 体験したことを報告する文を書く ○表現の練習 ○体験したことを報告する文を書く 教室活動：見学の報告書を書く	
第 6 回	作文①のフィードバックを受ける アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習 (1) プリント教材	
第 7 回	第 6 課 テーマに沿った意見文を書く ○表現の練習 ○テーマに沿った意見文を書く	
第 8 回	中間テスト (作文含む)	
第 9 回	中間テストのフィードバック 第 7 課 自分をアピールする文を書く ○表現の練習 ○自分をアピールする文を書く	
第 10 回	第 8 課 レポートを書くための基礎知識	
第 11 回	第 8 課 順序立てて、レポートを書く ○表現の練習 ○レポートで使われる表現の練習 ○順序立てて、レポートを書く だ体・である体の練習	
第 12 回	第 9 課 引用して、レポートを書く ○表現の練習 ○語や文を名詞化する練習 ○引用して、レポートを書く 作文②を書く	作文②を完成させる。翌週提出
第 13 回	作文②の提出 第 10 課 資料を整理して、レポートを書く ○表現の練習 ○グラフの読み方 ○資料を利用して、レポートを書く	
第 14 回	作文②のフィードバックを受ける	

	アカデミック・ライティングに役立つ文章表現の練習 (2) プリント教材	
第15回	期末テスト(作文含む)	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL113-A51	2.科目名	日本語Ⅳ（留）		3.単位数	2
4.授業担当教員	前田達朗					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通（留学生のみ）			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、それぞれ週2コマずつの授業で、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、日本語能力の四技能（聞く、話す、読む、書く）を高めることを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
19.教科書・教材	新完全マスター読解 日本語能力試験 N2 田代 ひとみ（著）、初鹿野 阿れ（著）、清水 知子（著）、福岡 理恵子（著）、中村 則子（著） ISBN-13: 978-4883195725					
20.参考文献						
21.成績評価	学習状況(出席、学習態度)30% 小テスト(2回)20% 中間テスト 20% 期末テスト 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション [対比] ほかのものと比べる ○ 教科書の解説と練習問題 ○ 多様な分野の素材の読解（N2 および N1 レベルの読解問題） ○ ディスカッション（読解した内容について整理し、理解を確認した上で、学生間で意見を述べ合う。）					
第2回	[言い換え] ほかの言葉で言いかえる					
第3回	[比喩] ほかのものにたとえる					

第 4 回	〔疑問提示文〕 疑問文を使って話題を提示する	小テスト①
第 5 回	〔主張表現〕 自分の意見であることを示す	
第 6 回	指示語を使う	
第 7 回	中間テスト + クラス活動①（詳細は指示する）	
第 8 回	「だれが」「何が」「何を」などを問う	
第 9 回	下線部の意味を問う	
第 1 0 回	理由を問う	
第 1 1 回	例を問う	小テスト②
第 1 2 回	内容理解（中文：長めの文章を読む練習）	
第 1 3 回	主張理解（長文：長い文章を読む練習）	
第 1 4 回	期末テスト	
第 1 5 回	期末テストのフィードバック + クラス活動②（詳細は指示する）	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL113-Y51	2.科目名	日本語Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	小川佐由理					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通（留学生のみ）			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語Ⅲ、日本語Ⅳ、日本語Ⅴは、それぞれ週2コマずつの授業で、大学での学習に不足のない日本語能力を獲得するために、日本語能力の四技能（聞く、話す、読む、書く）を高めることを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	各授業では、特に以下の項目・能力に焦点をあて、そのスキルの向上を図る。 「日本語Ⅰ」 様々な文法、構文の拡充を行う（文単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅱ」 日本での生活、大学での学びに不可欠な様々な表現や語彙の拡充を図る。 「日本語Ⅲ」 あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ（テキスト単位のライティング力の養成）。 「日本語Ⅳ」 様々な文献の読解、要約を通じて、まとまった内容の文を読む力を育てる。 「日本語Ⅴ」 スピーチ、口頭発表などを通じて、話す力を育てる。					
19.教科書・教材	新完全マスター読解 日本語能力試験 N2 田代 ひとみ（著）、初鹿野 阿れ（著）、清水 知子（著）、福岡 理恵子（著）、中村 則子（著） ISBN-13: 978-4883195725					
20.参考文献						
21.成績評価	学習状況(学習態度)30% 小テスト(2回)20% 中間テスト 20% 期末テスト 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	授業の前後					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション [対比] ほかのものと比べる ○ 教科書の解説と練習問題 ○ 多様な分野の素材の読解（N2 および N1 レベルの読解問題） ○ ディスカッション（読解した内容について整理し、理解を確認した上で、学生間で意見を述べ合う。）					
第2回	[言い換え] ほかの言葉で言いかえる					
第3回	[比喩] ほかのものにたとえる					

第 4 回	〔疑問提示文〕 疑問文を使って話題を提示する	小テスト①
第 5 回	〔主張表現〕 自分の意見であることを示す	
第 6 回	指示語を使う	
第 7 回	中間テスト + クラス活動①（詳細は指示する）	
第 8 回	「だれが」「何が」「何を」などを問う	
第 9 回	下線部の意味を問う	
第 1 0 回	理由を問う	
第 1 1 回	例を問う	小テスト②
第 1 2 回	内容理解（中文：長めの文章を読む練習）	
第 1 3 回	主張理解（長文：長い文章を読む練習）	
第 1 4 回	期末テスト	
第 1 5 回	期末テストのフィードバック + クラス活動②（詳細は指示する）	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL114-A51	2.科目名	日本語Ⅴ（留）		3.単位数	2
4.授業担当教員	上仲淳					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	概要：読みやすいテキストやその他の資料を使って、日常の出来事や社会的な話題について学び、それらについて、スピーチ、口頭発表をする。 目的：日本語力の中での特に〈話す力〉を身につけることを目標とする。					
18.学習目標と DPとの関連						
19.教科書・教材	トピックによる日本語総合演習－テーマ探しから発表へ 中級後期					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します					
21.成績評価	(1) 各課の発表 20% (2) 小テスト 30% (3) 学期末発表と提出物 30% (4) 学習状況（授業への参加・パフォーマンス)20%					
22.コメント	この授業は教室活動を重視し、個人発表やグループ発表を学期中に複数回行います。よって、履修者は 10 数名が理想的です。 そのため履修人数の上限を 20 名とし、もしそれを超えた場合は先着順もしくは抽選とします。 ※先輩から譲り受けたような既にかき込みのある教科書を使うことはできません。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 オリエンテーション、自己紹介等 教育導入 【第 2 回】 グラフを用いて、自国の教育について話し合い					
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 教育の文法・語彙 【第 4 回】 教育の読解					
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 日本の教育問題 【第 6 回】 自国の教育・教育の問題点などについて話し合い。 各自の発表テーマ決定			発表準備（原稿作成・スライド作成）		
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 自国の教育の問題点に関するミニスピーチ①（発表 1） 【第 8 回】 自国の教育の問題点に関するミニスピーチ②					
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ことば導入 【第 10 回】 慣用表現・擬音語擬態語など					
【第 11 回】	【第 11 回】 文法表現			自国の昔話について発表準備		

【第 12 回】	【第 12 回】 ことば読解 1（読み練習）	
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ことば読解 2 【第 14 回】 自国のことわざ・名言について紹介（グループ発表）	○小テストにむけて復習(90 分)
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 小テスト①（教育・ことば） 【第 16 回】 コミュニケーション導入 図表の説明のしかた 【第 16 回】 文法表現	
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 コミュニケーション語彙、読解 1 【第 18 回】 読解 2	
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 昔話 導入 【第 20 回】 動画視聴	
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 文法表現 【第 22 回】 自国の昔話 を説明 （発表 2）	
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 読解 【第 24 回】 住宅導入 アカデミック・プレゼンテーションについて（学期末発表の説明）	○小テストにむけて復習(90 分)
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 小テスト②（コミュニケーション・昔話） 住宅 【第 26 回】 学期末発表への導入と話し合い。 各自テーマを考える	
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 発表の構成と発表順など 【第 28 回】 最終発表準備	発表準備
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 学期末発表① 【第 30 回】 学期末発表②	最終プレゼンのスライド提出

1.授業コード (ナンバリング)	JAL114-Y51	2.科目名	日本語 V		3.単位数	2
4.授業担当教員	阿部忍					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 自国のこと、自分の考えを日本語で話す力を身に付けることを目的とします。 【概要】 テキストやその他の資料を使って、日常の出来事や社会的な話題について学び、それらについてディスカッションします。また、自分でテーマを探し、調査し、考察して発表します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（１）自律性と（５）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①語彙や文法表現を身に付け、表現力を高める。 ②自分でテーマを見つけ、計画を立てて発表等の準備を進めることができる。 ③他者の考えを理解するとともに自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。 ④聞き手を意識して、スピーチ・発表することができる。					
19.教科書・教材	『トピックによる日本語総合演習－テーマ探しから発表へ 中級後期』					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	(1) 各課の課題(宿題、漢字クイズ等) 20% (2) 各課の発表 20% (3) 小テスト 20% (4) 学期末発表/レポート 20% (5) 学習状況（授業への参加・パフォーマンス)20%					
22.コメント	入国が遅れている学生は Zoom を用いて下記のリンクからミーティングに入室してください。 *** ミーティング ID: *** パスコード: ***					
23.オフィスアワー	学修支援センター：月曜昼休み 個人研究室：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 【第 2 回】	【第 1 回】 ・オリエンテーション、自己紹介、「1 課教育」漢字・語彙 【第 2 回】 ・ ディスカッション：グラフを用いて、自国の教育について話し合い			【第 1 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 2 回】 授業の復習		
【第 3 回】 【第 4 回】	【第 3 回】 ●「1 課教育」漢字クイズ ・「1 課教育」表現・本文 【第 4 回】 ・プレゼンテーションの基本、数字、比較表現等について			【第 3 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 4 回】 授業の復習		

	・活動：「教育」についてアンケート	
【第 5 回】 【第 6 回】	【第 5 回】 ・「1 課教育」本文 【第 6 回】 ・グループワーク：アンケートの結果からわかることを考察する	【第 5 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 6 回】 授業の復習
【第 7 回】 【第 8 回】	【第 7 回】 ●「1 課教育」小テスト ・「2 課言葉」漢字・語彙 【第 8 回】 ・発表：アンケートの結果からわかること ・グループワーク：オノマトペ、大阪弁等について	【第 7 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 8 回】 授業の復習
【第 9 回】 【第 10 回】	【第 9 回】 ●「2 課言葉」漢字クイズ ・「2 課言葉」表現・本文 【第 10 回】 ・発表準備：自国のことわざ、名言について紹介	【第 9 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 10 回】 ・授業の復習 ・発表の準備
【第 11 回】 【第 12 回】	【第 11 回】 ・「2 課言葉」本文 【第 12 回】 ・発表練習：自国のことわざ・名言について紹介	【第 11 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 12 回】 ・授業の復習 ・発表の準備
【第 13 回】 【第 14 回】	【第 13 回】 ●「2 課言葉」小テスト ・「3 課コミュニケーション」漢字・語彙 【第 14 回】 ・発表：自国のことわざ、名言について紹介	【第 13 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 14 回】 授業の復習
【第 15 回】 【第 16 回】	【第 15 回】 ●「3 課コミュニケーション」漢字クイズ ・「3 課コミュニケーション」表現・本文 【第 16 回】 ・ディスカッション：コミュニケーションに関するテーマ	【第 15 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 16 回】 授業の復習
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 ・「3 課コミュニケーション」本文 【第 18 回】 ・ディスカッション	【第 17 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 18 回】 授業の復習
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】 ●「3 課コミュニケーション」小テスト ・「4 課昔話」漢字・語彙 【第 20 回】 ・ストーリー 説明練習	【第 19 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 20 回】 授業の復習
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ●「4 課昔話」漢字クイズ ・「4 課昔話」表現・本文	【第 21 回】 次回の予習（語彙意味調べ） 【第 22 回】 授業の復習

	【第 22 回】 ・発表：ストーリー	
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】 ・「4 課昔話」本文 【第 24 回】 ・期末発表（発表実例、構成等）について説明	【第 23 回】 授業の復習 【第 24 回】 発表準備
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】 ●「4 課昔話」小テスト ・グループワーク：自国の風土、住まい等について 【第 26 回】 ・期末発表準備	【第 25 回】 期末発表準備 【第 26 回】 期末発表準備
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】 ・期末発表準備：修正 【第 28 回】 ・期末発表準備：読む練習	【第 27 回】 期末発表準備 【第 28 回】 期末発表準備
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】 ・発表：期末発表 【第 30 回】 ・発表：期末発表 ・振り返りレポート提出	期末発表について振り返りレポートを書く

1.授業コード (ナンバリング)	JAL202-A51	2.科目名	アカデミック日本語Ⅱ (留)		3.単位数	1
4.授業担当教員	越山泰子					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	(目的) 大学の講義の理解、教室での活動、文化的な背景を含んだ情報の読み取ります。 (概要) さまざまな状況に対応する表現など、日本で生活し、大学で学習するために必要な総合的日本語力の向上を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	日本で大学生として生活する上で必要な日本語を使うことができる。日本の大学の授業で使用される表現を理解し、裏付けを伴った意見を述べることができる。 DP: (3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力 (多様性理解) 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 (5) コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	『大学で学ぶためのアカデミックジャパニーズ』 The Japan Times 佐々木瑞枝 その他 ISBN4-7890-1078-3					
20.参考文献						
21.成績評価	クラスでの活動 (個人、ペア、グループワーク) 10 % 宿題 20 % (翌週の授業で提出、または発表) 小テスト 30 % 総括試験 40 %					
22.コメント						
23.オフィスアワー	授業の前後に受け付けます。または、メールでアポをとってください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	・ ガイダンス: (授業の内容、評価基準について説明) ・ 日本語ウォームアップアクティビティー			○予習として、教科書を読んで、分からないところをチェックする。(60 分)		
第 2 回	予定を立てて、説明する：教科書 pp.46-50 ・ 大学祭とサークルの実施をテーマにして、確認、手配の表現を学ぶ。			○授業を復習して、教科書の問題を解く。(60 分)		
第 3 回	演習の授業： 教科書 pp.55-59 ・ 複雑なことをわかりやすく説明する方法について学ぶ。			○授業を復習して、教科書の問題を解く。(60 分)		
第 4 回	演習の授業：教科書 pp.61-63 ・ 話の構成を考えて話す			○小テスト①に備えて、発表練習しお互いチェックする。(60 分)		
第 5 回	・ 小テスト① ・ 詳しく物の描写をする： プリント教材			○授業を復習して、問題を解く。(60 分)		

第 6 回	・経緯をわかりやすく説明する： プリント教材	○授業を復習して、問題を解く。(60 分)
第 7 回	トラブルへの対処と生活情報： 教科書 pp.74-77 ・わかりやすく伝える表現について知る。	○授業を復習して、教科書の問題を解く。(60 分)
第 8 回	トラブルへの対処と生活情報： 教科書 pp.78-81 ・わかりやすく伝える表現について知る。	○授業を復習して、教科書の問題を解く。(60 分)
第 9 回	・言い換えて話す： プリント教材	○小テスト②に備えて、復習する。(60 分)
第 10 回	・小テスト② ・抽象的な表現を使いこなす。： プリント教材	○授業を復習して、問題を解く。(60 分)
第 11 回	プライベートなコミュニケーション： 教科書 pp.82-84 ・大学生活の日常で起こるコミュニケーションの取り方について学ぶ。	○授業を復習して、教科書の問題を解く。(60 分)
第 12 回	プライベートなコミュニケーション： 教科書 pp.86-92 ・大学生活の日常で起こるコミュニケーションの取り方について学ぶ。	○小テスト③に備えて、復習する。(60 分)
第 13 回	小テスト③ ・これまでの振り返りと期末試験についての説明 ・日本映画鑑賞	○期末試験に備えて、復習する。(60 分)
第 14 回	学期のまとめ ・日本映画鑑賞と映画に関するディスカッション	○総括試験に備えて、復習する。(120 分)
第 15 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL202-Y51	2.科目名	アカデミック日本語Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	小川佐由理					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	概要：大学の講義の理解、教室での活動、文化的な背景を含んだ情報の読み取り、さまざまな状況に対応する表現などを学ぶ。 目的：日本で生活し、大学で学習するために必要な総合的日本語力の向上を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	①大学生として生活する上で必要な日本語を使うことができること ②大学の授業で使用される表現を理解し、裏付けを伴った意見を述べるができること					
19.教科書・教材	初回までに各自、①か②のいずれかを購入してください。 ①『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』 音声ダウンロード版 The Japan Times 佐々木瑞枝、その他 ISBN978-47890-1873-9 ②『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』 CD 付 The Japan Times 佐々木瑞枝、その他 ISBN978-47890-1078-8					
20.参考文献	授業時に適宜紹介します。					
21.成績評価	クラスの参加度・教室活動：30％ 小テスト：20％ クラス内発表：20 総括試験：30％					
22.コメント	基本的に対面で授業を行います。					
23.オフィスアワー	授業の前後、またはメールで質問等を受けつけます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	【第1回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや成績評価についての説明] ・日本語ウォームアップアクティビティー			【第1回】 ○予習として、教科書を読んで、分からないところをチェックする (60 分)		
【第2回】	【第2回】 ・トラブルへの対処と生活情報①：教科書 pp.74-77 ・わかりやすく伝える表現について知る			【第2回】 ○授業の復習をする (60 分)		
【第3回】	【第3回】 ・トラブルへの対処と生活情報②：教科書 pp.78-81 ・わかりやすく伝える表現について知る			【第3回】 ○授業の復習をする		
【第4回】	【第4回】 ・書き換え練習①			【第4回】 ○授業の復習をする (60 分)		
【第5回】	【第5回】 ・書き換え練習②			【第5回】 ○授業の復習をする (60 分) ○小テスト①への準備		
【第6回】	【第6回】 ・小テスト①			【第6回】 ○授業の復習をする (60 分)		

	・Eメールによるコミュニケーション① 教科書 pp.86-92	
【第7回】	【第7回】 ・Eメールによるコミュニケーション②+先生宛	【第7回】 ○小テスト②への準備（60分）
【第8回】	【第8回】 日本映画鑑賞① ・小テスト②	【第8回】 映画の後半を予測する
【第9回】	【第9回】 日本映画鑑賞② ・映画に関するディスカッション	次週の予習をする（60分）
【第10回】	【第10回】 インターネットビジネス① 教科書 pp.64-73	【第10回】 ○授業の復習をする（60分）
【第11回】	【第11回】 インターネットビジネス② 教科書 pp.64-73	【第11回】 ○発表準備
【第12回】	【第12回】 クラス内発表	【第12回】 発表の振り返り
【第13回】	【第13回】 レポートの書き方①（事実と意見）	【第13回】 ○総括試験に備えて、復習する（60分）
【第14回】	【第14回】 レポートの書き方②（内容の整理）	【第14回】 ○総括試験に備えて、復習する（60分）
【第15回】	【第15回】 ・総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL204-A51	2.科目名	日本語ライティングⅡ (留)		3.単位数	1
4.授業担当教員	前田達朗					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	2 年生以上の留学生	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ(テキスト単位のライティング力 の養成)。 大学での学習に必要な、論理的に書く力を養成することを目指す。 特に次の能力を身につけることを目指す。 ○アカデミックな日本語の表現について学び、日常的な日本語からアカデミックな日本語に言い換えられる。 アカデミックな表現を使ってテキスト単位 (まとまった長さの) 文章が書ける。 ○ペアワークやグループワークで自分やクラスメートの作文についてディスカッションすることを通して、文章構成について客観的にとらえることができる (アカデミックで論理的な文とそうでない文の区別ができる)					
18.学習目標と DPとの関連	あるまとまった内容を書く力から academic writing の基礎までを学ぶ(テキスト単位のライティング力 の養成)。 大学での学習に必要な、論理的に書く力を養成することを目指す。					
19.教科書・教材	特になし。授業中にレジュメを配布します。 自分で学びたい人は、参考文献のテキストを購入してください。					
20.参考文献	『大学・大学院 留学生の日本語〈4〉論文作成編』 アカデミックジャパニーズ研究会 (著)					
21.成績評価	授業内・後課題、小テスト：30% 中間テスト等：30% 総括試験：40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 書き言葉と話し言葉					
第 2 回	課題の提示			次回小テストに向けての振り返り・準備 (90 分)		
第 3 回	研究の目的			次回小テストに向けての振り返り・準備 (90 分)		
第 4 回	定義と分類			次回小テストに向けての振り返り・準備 (90 分)		
第 5 回	静的なグラフ・図			次回小テストに向けての振り返り・準備 (90 分)		
第 6 回	動的なグラフ・図			次回小テストに向けての振り返り・準備 (90 分)		
第 7 回	図表、データの対比			中間テストに向けての振り返り・準備 (120 分)		
第 8 回	これまでの振り返り			中間テスト振り返り (60 分)		

	中間テスト	
第 9 回	原因・予測	次回小テストに向けての振り返り・準備（90 分）
第 10 回	事例の列挙	次回小テストに向けての振り返り・準備（90 分）
第 11 回	引用・資料の利用	次回小テストに向けての振り返り・準備（90 分）
第 12 回	同意、反論	次回小テストに向けての振り返り・準備（90 分）
第 13 回	帰結、換言、補足	総括テストに向けての振り返り・準備（180 分）
第 14 回	全体の構成について・まとめ 総括試験	
第 15 回	総括試験返却・解説 振り返り	総括試験振り返り（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	JAL208-A51	2.科目名	専門日本語Ⅱ（留）		3.単位数	1
4.授業担当教員	前田達朗					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	留学生			9.履修学年	1～4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件	N2 を取得していることが望ましい。	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	N1 レベルの 4 技能を総合的に学びながら、高度な日本語力を身につけることを目指します。					
18.学習目標と DP との関連	日本語能力試験 N1 の合格を目指して実践力を養うこと。					
19.教科書・教材	星野恵子、辻和子（2012）『ドリル＆ドリル日本語能力試験 N1 文字語彙』ユニコム 星野恵子、辻和子（2012）『ドリル＆ドリル日本語能力試験 N1 文法』ユニコム					
20.参考文献	適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：10%、課題：10% N1 文法短文作成試験：20% 総括試験①（文字語彙）：30% 総括試験①（文法）：30% ※授業時の携帯やゲーム機器などの使用は減点対象になるので注意すること。					
22.コメント						
23.オフィスアワー	上記メールあるいは授業外の時間で受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【第 1 回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや評価基準について説明] ・N1 文字語彙（漢字読み、文脈規定、言い換え類義、用法）			○予習として、教科書を読んで、分からないところをチェックする。（60 分）		
【第 2 回】	【第 2 回】 ●漢字テスト（文字語彙） ・N1 文法（文の文法 1、文の文法 2、文章の文法） ・N1 文法練習			○授業の復習をする。（60 分）		
【第 3 回】	【第 3 回】 ・N1 文字語彙（漢字読み、文脈規定、言い換え類義、用法） ・N1 文法練習			○授業の復習をする。（60 分）		
【第 4 回】	【第 4 回】 ●漢字テスト（文字語彙） ・N1 聴解模擬試験（課題理解、ポイント理解、概要理解、即時応答、総合理解）			○授業の復習をする。（60 分）		
【第 5 回】	【第 5 回】 ・N1 聴解模擬試験返却、解説 ・N1 読解（内容理解、総合理解、主張理解、情報検索）			○授業の復習をする。（60 分）		
【第 6 回】	【第 6 回】			○授業の復習をする。（60 分）		

	・ N1 読解模擬試験返却、解説 ・ N1 文法（文の文法1、文の文法2、文章の文法）	
【第7回】	【第7回】 ・ N1 文字語彙（漢字読み、文脈規定、言い換え類義、用法） ・ N1 文法練習	○授業の復習をする。(60分)
【第8回】	【第8回】 ●漢字テスト（文字語彙） ・ N1 文法模擬試験（文の文法1、文の文法2、文章の文法）	○授業の復習をする。(60分)
【第9回】	【第9回】 ・ N1 文法模擬試験返却&解説 ・ N1 文法（文の文法1、文の文法2、文章の文法）	○授業の復習をする。(60分)
【第10回】	【第10回】 ・ N1 文字語彙模擬試験（文脈規定、言い換え類義、用法） ・ N1 文字語彙（文脈規定、言い換え類義、用法）	○授業の復習をして、発表の練習をする。(60分)
【第11回】	【第11回】 ・ N1 文字語彙模擬試験返却、解説 ・ N1 文字語彙（文脈規定、言い換え類義、用法）	○授業の復習と発表の練習をする。(60分)
【第12回】	【第12回】 ●漢字テスト（文字語彙） ・ N1 文法（文の文法1、文の文法2、文章の文法） ・ N1 文法練習	○授業の復習と発表の練習をする。(60分)
【第13回】	【第13回】 ・ N1 文字語彙（文脈規定、言い換え類義、用法） ・ N1 文法練習	○授業の復習と発表の練習をする。(60分)
【第14回】	【第14回】 ●N1 文法短文作成試験 ●総括試験（文字語彙）	○授業の復習と発表の練習をする。(60分)
【第15回】	【第15回】 ・ N1 文法短文作成試験、総括試験（文字語彙）返却、解説 ●総括試験（文法）	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL208-Y51	2.科目名	専門日本語Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	福井武司					
5.授業科目の区分	コモンベーシックス	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	留学生			9.履修学年	1～4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件	N2 を取得していることが望ましいです。	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	N1 レベルの 4 技能を総合的に学びながら、高度な日本語力を身につけることを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	日本語能力試験 N1 の合格を目指して実践力を養うこと。					
19.教科書・教材	星野恵子、辻和子（2012）『ドリル＆ドリル日本語能力試験 N1 文字語彙』ユニコム 星野恵子、辻和子（2012）『ドリル＆ドリル日本語能力試験 N1 文法』ユニコム					
20.参考文献	適宜紹介します。					
21.成績評価	クラス活動：20％、課題：20％ N1 文法短文作成試験：10％ 総括試験①（文字語彙）：25％ 総括試験①（文法）：25％ ※授業時の携帯やゲーム機器などの使用は減点対象になるので注意すること。					
22.コメント	【重要】入国できていない留学生のみ、下記の Zoom での受講を認めます。 日本にいる留学生は対面のみです。 *** ミーティング ID: *** パスコード: ***					
23.オフィスアワー	上記メールあるいは授業外の時間で受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【第 1 回】 ・オリエンテーション[主に授業の流れや評価基準について説明] ・N1 文字語彙（漢字読み、文脈規定、言い換え類義、用法）			○予習として、教科書を読んで、分からないところをチェックする。(60 分)		
【第 2 回】	【第 2 回】 ●漢字テスト（文字語彙） ・N1 文法（文の文法 1、文の文法 2、文章の文法） ・N1 文法練習			○授業の復習をする。(60 分)		
【第 3 回】	【第 3 回】 ・N1 文字語彙（漢字読み、文脈規定、言い換え類義、用法） ・N1 文法練習			○授業の復習をする。(60 分)		
【第 4 回】	【第 4 回】 ●漢字テスト（文字語彙） ・N1 聴解模擬試験（課題理解、ポイント理解、概要理解、即時応答、総合理解）			○授業の復習をする。(60 分)		
【第 5 回】	【第 5 回】			○授業の復習をする。(60 分)		

	・ N1 聴解模擬試験返却、解説 ・ N1 読解（内容理解、総合理解、主張理解、情報検索）	
【第 6 回】	【第 6 回】 ・ N1 読解模擬試験返却、解説 ・ N1 文法（文の文法 1、文の文法 2、文章の文法）	○授業の復習をする。(60 分)
【第 7 回】	【第 7 回】 ・ N1 文字語彙（漢字読み、文脈規定、言い換え類義、用法） ・ N1 文法練習	○授業の復習をする。(60 分)
【第 8 回】	【第 8 回】 ●漢字テスト（文字語彙） ・ N1 文法模擬試験（文の文法 1、文の文法 2、文章の文法）	○授業の復習をする。(60 分)
【第 9 回】	【第 9 回】 ・ N1 文法模擬試験返却 & 解説 ・ N1 文法（文の文法 1、文の文法 2、文章の文法）	○授業の復習をする。(60 分)
【第 10 回】	【第 10 回】 ・ N1 文字語彙模擬試験（文脈規定、言い換え類義、用法） ・ N1 文字語彙（文脈規定、言い換え類義、用法）	○授業の復習をして、発表の練習をする。(60 分)
【第 11 回】	【第 11 回】 ・ N1 文字語彙模擬試験返却、解説 ・ N1 文字語彙（文脈規定、言い換え類義、用法）	○授業の復習と発表の練習をする。(60 分)
【第 12 回】	【第 12 回】 ●漢字テスト（文字語彙） ・ N1 文法（文の文法 1、文の文法 2、文章の文法） ・ N1 文法練習	○授業の復習と発表の練習をする。(60 分)
【第 13 回】	【第 13 回】 ・ N1 文字語彙（文脈規定、言い換え類義、用法） ・ N1 文法練習	○授業の復習と発表の練習をする。(60 分)
【第 14 回】	【第 14 回】 ●N1 文法短文作成試験 ●総括試験（文字語彙）	○授業の復習と発表の練習をする。(60 分)
【第 15 回】	【第 15 回】 ・ N1 文法短文作成試験、総括試験（文字語彙）返却、解説 ●総括試験（文法）	

1.授業コード (ナンバリング)	JAL212-Y51	2.科目名	観光日本語Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	前田哲男					
5.授業科目の区分	展開科目（留学生）	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部観光学科			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	・ 観光学で用いる用語について理解し、観光関連の文献を読めるようになる ・ 観光の場面における実践的な日本語力を身につける					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP3（多様性理解）と DP5（コミュニケーションスキル）と関連しています。 ①観光用語を理解し、説明できる ②日本文化、日本の観光資源について理解し、日本語で説明できる ③自国の観光資源について日本語で説明できる ④実践的なリスニング力とスピーキング力を身につける					
19.教科書・教材	授業中に指示します					
20.参考文献	授業中に指示します					
21.成績評価	・ 小テスト 40 点 ・ 作文・スピーチ 30 点 ・ 期末テスト 30 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー	特に時間は定めませんが、質問があるときは、前日までにメールで連絡後、研究室に来てください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	・ オリエンテーション（授業の内容、目標、方法、評価方法について）					
【第 2 回】	・ 読解 ・ 聴解またはスピーキング			復習 小テストの準備		
【第 3 回】	・ 小テスト ・ 読解 ・ 聴解またはスピーキング			復習 小テストの準備		
【第 4 回】	・ 小テスト ・ 読解資料に関連する作文 ・ 聴解またはスピーキング			復習 作文の完成		
【第 5 回】	・ 作文の修正 ・ 聴解またはスピーキング ・ 読解			スピーチの準備		
【第 6 回】	・ スピーチ ・ 読解 ・ 聴解またはスピーキング			復習 小テストの準備		
【第 7 回】	・ 小テスト ・ 読解			復習 小テストの準備		

	・聴解またはスピーキング	
【第 8 回】	・小テスト ・読解 ・聴解またはスピーキング	復習 小テストの準備
【第 9 回】	・小テスト ・読解資料に関連する作文 ・聴解またはスピーキング	復習 作文の完成
【第 10 回】	・作文の修正 ・聴解またはスピーキング ・読解	スピーチの準備
【第 11 回】	・スピーチ ・読解 ・聴解またはスピーキング	復習 小テストの準備
【第 12 回】	・小テスト ・読解 ・聴解またはスピーキング	復習 小テストの準備
【第 13 回】	・小テスト ・読解 ・聴解またはスピーキング	復習 小テストの準備
【第 14 回】	・小テスト ・期末テストに関する模擬試験	・期末テストの準備
【第 15 回】	・期末テスト ・まとめ	テストの復習

1.授業コード (ナンバリング)	JPE102-Y51	2.科目名	日本語の構造Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	伊藤創					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では「人間の言語」という大きな観点、枠組みから、日本語を捉えることを目的とする。その中で、 言語学や音声学、対照言語学といった分野の基礎知識も学び、日本語の理解をより深める。 *「日本語の構造Ⅰ」では、日本語の文法項目に特に焦点をあてて学ぶのに対して、本科目「日本語の構造Ⅱ」では、より大きな「言語」という視点から日本語を捉える。					
18.学習目標と DPとの関連	(1) 自律的で主体的な態度（自律性） 自ら主体的に計画を立てて実行し、 ふりかえりを行いながら取り組むことができる。 (レベル3) (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 自分とは考え方や価値観の異なる人たちを尊重し、地域、人種、宗教など様々な多様性を受け容れながら行動できる。 (レベル2)					
19.教科書・教材	特になし(適宜レジュメを配布する)					
20.参考文献	『よくわかる言語学（日本語教師・分野別マスターシリーズ）』 定延 利之 著 アルク 『世界の言語と日本語－言語類型論からみた日本語』 角田太作 著 くろしお出版 『意味論』 ウルマン 著 紀伊国屋書店					
21.成績評価	授業内課題・復習課題 30% 中間テスト 30% 総括試験 40%					
22.コメント	入国できない留学生のみ、ZOom でも受講を認める。					
23.オフィスアワー	金曜 2 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【オリエンテーション/言語とは?】 授業の進め方についてのオリエンテーション 人間の言語の特徴 世界の言語の中での日本語の位置付け			○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）		
第 2 回	【言語学(言語に対する考え方) 】 日本語の特徴、ルーツ 言語の獲得 など			○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）		
第 3 回	【日本語の音と文字】 日本語の音の特徴と変化、またそれを表す文字について			○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）		

第 4 回	【変音現象】 語が経ていく音の変化とその要因	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 5 回	【語構成】 意味の基本単位である「形態素」「語」の創造とその構成	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 6 回	【文法の変化】 活用の変化 文法規則の変化	○個人ワーク 中間テストに向けての復習（180 分）
第 7 回	これまでのまとめと中間テスト	
第 8 回	【語種/語彙の計量】 和語、漢語、外来語、混種語 学習者の学ぶべき語彙	中間テストの復習（120 分）
第 9 回	【意味変化】 語の意味変化、構文的意味など	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 10 回	【日本語の事態の捉え方/描き方 日本語の特徴】 これまでの言語の対照を踏まえて、日本語がどのように事態を描くのか、その特徴を掴む。	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 11 回	【位相】 地域、社会的階層、性別等による言語の「位相」	○個人ワーク 次回復習課題に向けての復習（60 分）
第 12 回	【敬語】 敬語のシステムと歴史	○個人ワーク 比喩全般についても理解をふかめる課題(120 分)
第 13 回	【他言語との日本語の比較】 他言語と日本語のシステムの違い	○個人ワーク 総括試験に向けての復習（180 分）
第 14 回	総括試験	
第 15 回	総括試験返却・解説 総括	○総括試験の復習、これまでの振り返り（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	JPE103-Y51	2.科目名	言語学概論 (オンデマンド)		3.単位数	2
4.授業担当教員	伊藤創					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義 (オンデマンド)	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業では、言語に関わる様々な現象について、音、語、意味(変化)、文章や談話、といった様々なレベル、角度から考える。言語の持つ様々な規則性を見つけだし、的確に記述する方法を学ぶ中で、言語という直感の働く考察対象を、客観的、科学的に分析する力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	(1) 自律的で主体的な態度 (自律性) 自ら主体的に計画を立てて実行し、ふりかえりを行いながら取り組むことができる。 (レベル3) (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力 (多様性理解) 自分とは考え方や価値観の異なる人たちを尊重し、地域、人種、宗教など様々な多様性を受け容れながら行動できる。 (レベル2)					
19.教科書・教材	特になし(適宜レジュメを配布する)					
20.参考文献	日本語教育能力検定試験に合格するための言語学 22 定延 利之 (著) はじめての言語学 (講談社現代新書) 黒田 龍之助 (著)					
21.成績評価	復習課題・授業内課題等 30% 中間テスト 30% 総括試験 40% *授業の理解度をはかるため、数回の授業ごとに小テストを行う。 また自らの母語について考えてもらうため課題も課す。					
22.コメント	本授業は全てオンデマンドで行う。 毎回の課題の期限内の提出をもって出欠確認を行うため、必ず期限内に課題を提出すること。 中間テスト、および総括試験もオンデマンドで行う。					
23.オフィスアワー	金曜 5 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーションおよびイントロダクション 言語学とは?			○授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60～90 分)		
第 2 回	音声学 1(音韻論と音声学 , IPA)			○授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60～90 分)		
第 3 回	音声学 2(日本語の音声と英語の音声)			○授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60～90 分)		
第 4 回	語彙と意味 1(語形成と意味の拡張)			○授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60～90 分)		
第 5 回	語彙と意味 2(語種と語彙量)			○授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60～90 分)		
第 6 回	語彙と意味 3(意味の変化とメタファー)			○授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60～90 分) 中間テストにむけた復習 (120 分)		

第 7 回	これまでのまとめと中間テスト	○中間テストの振り返り(60~90 分)
第 8 回	テスト結果解説 第二言語習得 1 (文法訳読式~直接法)	○中間テストの振り返り、授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60~90 分)
第 9 回	第二言語習得 2	○授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60~90 分)
第 10 回	対照言語学 1 (言語を比較するとは? 言語と思考の関係)	○授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60~90 分)
第 11 回	対照言語学 2(世界の言語と日本語との比較)	○授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60~90 分)
第 12 回	語用論 (構文や文脈における意味)	○授業内容の復習と次回復習課題にむけた振り返り学習(60~90 分)
第 13 回	社会言語学(言語変種、正書法、国語国字運動)	○総括試験にむけた全体の復習(90 分~180 分)
第 14 回	総括試験	○総括試験の復習 (120 分)
第 15 回	試験解説と授業の総括	

1.授業コード (ナンバリング)	JPE202-Y51	2.科目名	日本語コミュニケーション		3.単位数	2
4.授業担当教員	越山泰子					
5.授業科目の区分	日本語教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	日本語教師養成		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	(目的) この授業では、日本語を外国語として効果的に指導するために、日本語を取り巻く社会的言語活動やコミュニケーションの方法について学習します。 (概要) 講義を通して様々な言語研究を参照し、言語使用とコミュニケーションについての基礎知識を用いながらグループワークを通して日本語の特徴について客観的に考え、身近な「日本語らしい」言語現象について解明していきます。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 日本語のコミュニケーションの方法に着目し、その実態や特徴について説明できる。 2. 日本語を、社会や文化の観点から客観的に分析できる。 3. 日本語コミュニケーションに関する知識を日本語教育に関連付けることができる。 DP: (3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力 (多様性理解) 世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できます。 (5) コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。					
19.教科書・教材	等になし					
20.参考文献						
21.成績評価	クラスでの活動、グループワーク 10% 宿題 20% 中間試験 20% プレゼンテーション 20% 総括試験 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	越山：火曜日 4 時間目 (研究室)、木曜日 3 時間目 (学習支援センター)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	●ガイダンス 目的、授業内容の説明 ●ウォーミングアップ			授業の復習		
第 2 回	●日本語コミュニケーションの種類 コミュニケーションの種類や役割 コミュニケーションと文化 日本語のコミュニケーションの特徴			○授業の復習とノートの整理 (120 分) ○問題に答える。(60 分)		
第 3 回	●日本語の発話行為 日本語の「誘う」、「断る」、「ほめる」、「謝る」、「叱る」などにおける特徴			○授業の復習とノートの整理 (120 分) ○問題に答える。(60 分)		

第4回	●日本語会話のルールとコミュニケーションストラテジー 高コンテキスト VS 低コンテキスト 日本語のユーモア、ジョーク シンパシー VS エンパシー	○授業の復習とノートの整理 (120 分) ○問題に答える。(60 分)
第5回	●コミュニケーションにおける自分の捉え方、対人関係 自己と他者 「タテ社会」 VS 「ヨコ社会」 個人と集団 親族名称、呼称	レビューシートを使って、理解度チェック (120 分)
第6回	●レビューセッション	中間テストに備える (120 分)
第7回	●中間テスト	
第8回	●日本語のバリエーション 地域差 - 方言 ジェンダー差 - 男ことば、女ことば 世代差 - 若者ことば	○授業の復習とノートの整理 (120 分) ○問題に答える。(60 分)
第9回	●日本社会・文化から見る日本語 「ウチ」・「ソト」 「ホンネ」と「タテマエ」 「義理」と「人情」 「ハレ」と「ケ」	○授業の復習とノートの整理 (120 分) ○問題に答える。(60 分)
第10回	●日本語のパーバル・ノンパーバルコミュニケーション 日本語の言語コミュニケーション 日本語の非言語コミュニケーション	○授業の復習とノートの整理 (120 分) ○問題に答える。(60 分)
第11回	プレゼンテーションの準備	◎プレゼンテーションの準備 (180 分)
第12回	プレゼンテーション①	◎プレゼンテーションの準備 (180 分)
第13回	プレゼンテーション②	レビューシートを使って、理解度チェック (120 分)
第14回	●学期のまとめ レビューセッション 授業アンケートなど	レビューシートを使って、理解度チェック (120 分) ★プレゼンテーションの PPT、スクリプト
第15回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	JPE304-Y51	2.科目名	日本語教育の実践と評価		3.単位数	2
4.授業担当教員	越山泰子					
5.授業科目の区分	日本語教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	日本語教師養成プログラム		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	(目的) この授業では、外国語としての日本語教育における実践と評価の方法について学習します。 (概要) 日本語の様々な特徴、評価法における実例を参照しながら、日本語教育の実践と評価に関する基礎知識を養います。					
18.学習目標とDPとの関連	1) 外国語としての日本語基礎知識を習得する。 2) 日本語教育の方法に着目し、その実態や特徴について説明することができる。 3) 日本語教育において用いられる評価方法について学び、実際に評価方法を使って評価できる。 DP (4) 問題発見・解決力 根拠にもとづいて、問題を発見したり解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができます。 (6) 専門的知識・技能の活用力 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができます。					
19.教科書・教材	特になし					
20.参考文献						
21.成績評価	クラスでの活動、グループワーク 10% 宿題 20% 中間試験 20% プレゼンテーション 20% 総括試験 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	越山：火曜日 4 時間目（研究室）、木曜日 3 時間目（学習支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス、ウォーミングアップ			授業の復習		
第 2 回	・ 外国語教育と日本語教育 外国語を指導する教授法とその特徴 教授法と日本語教育			○授業の復習とノートの整理（120 分） ○問題に答える。（60 分）		
第 3 回	・ 日本語教育の方法 シラバス、教材、教具			○授業の復習とノートの整理（120 分） ○問題に答える。（60 分）		
第 4 回	・ 教室活動① 「読む力・書く力」を向上させるための指導			○授業の復習とノートの整理（120 分） ○問題に答える。（60 分）		
第 5 回	・ 教室活動② 「聞く力・話す力」を向上させるための指導			レビューシートを使って、理解度チェック（120 分）		
第 6 回	・ これまでのまとめとレビュー			中間テストに備える（120 分）		

第 7 回	中間テスト	
第 8 回	・日本語教育と評価 日本語教育で用いる評価方法とその特徴	○授業の復習とノートの整理（120 分） ○問題に答える。（60 分）
第 9 回	・評価力を育てる① 「読む力・聞く力」を評価する	○授業の復習とノートの整理（120 分） ○問題に答える。（60 分）
第 1 0 回	・評価力を育てる② 「話す力・書く力」を評価する	○授業の復習とノートの整理（120 分） ○問題に答える。（60 分）
第 1 1 回	・プレゼンテーションの準備	◎プレゼンテーションの準備（180 分）
第 1 2 回	・プレゼンテーション	◎プレゼンテーションの準備（180 分）
第 1 3 回	・プレゼンテーション	レビューシートを使って、理解度チェック (120 分)
第 1 4 回	・学期のまとめ 授業のレビュー 授業アンケート	レビューシートを使って、理解度チェック (120 分)
第 1 5 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	JPN107-Y51	2.科目名	日本研究	3.単位数	2
4.授業担当教員	Richard Leckie				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	英語教育学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 This course introduces various forms of traditional Japanese culture and their role in shaping Japan's cultural identity. It encourages students, both Japanese and international, to take a fresh look at Japanese culture within a broader global context. 【概要】 At home, students will read teaching materials about traditional Japanese culture on WebClass. There will be regular short quizzes in class in relation to these materials. In the classroom, students will investigate and present about the culture of Japan and other countries. Students will make oral reports about contemporary Japanese culture at the end of the semester and submit reports based on their presentations as their final assignment.				
18.学習目標と DPとの関連	1. Improving knowledge of Japanese culture. 2. Viewing Japanese culture in a wider global context. 3. Understanding individual versus cultural differences. 4. Improving reading comprehension through regular homework quizzes. 5. Improving speaking ability through regular oral presentations. 【関連する DP】 (1)自律性 (3)多様性理解 (5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	Course materials provided by teacher				
20.参考文献	None				
21.成績評価	Students' scores will be calculated as follows. In addition to completing all assignments on time and attending at least 2/3 of classes, students must achieve a total of 60 or more in order to pass. (1) Participation 30% (2) Homework presentations 20% (3)				
22.コメント	Bring your laptop to all class meetings				
23.オフィスアワー	Talk to the instructor before or after class, or contact by email				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
Week 1	Introduction to course			Reading + Homework Presentation (4hrs/week)	
Week 2	Japanese poetry			Reading + Homework Presentation (4hrs/week)	
Week 3	Japanese traditional clothing			Reading + Homework Presentation (4hrs/week)	
Week 4	Japanese tea ceremony			Reading + Homework Presentation (4hrs/week)	
Week 5	Japanese flower arrangement			Reading + Homework Presentation	

		(4hrs/week)
Week 6	Japanese gardens	Reading + Homework Presentation (4hrs/week)
Week 7	Japanese traditional music and instruments	Reading + Homework Presentation (4hrs/week)
Week 8	Japanese visual arts	Reading + Homework Presentation (4hrs/week)
Week 9	Japanese sports and martial arts	Reading + Homework Presentation (4hrs/week)
Week 10	Japanese performing arts	Reading + Homework Presentation (4hrs/week)
Week 11	Japanese traditional festivals	Preparing for Final Presentation & Report (4hrs/week)
Week 12	Student presentations	Preparing for Final Presentation & Report (4hrs/week)
Week 13	Student presentations	Preparing for Final Presentation & Report (4hrs/week)
Week 14	Student presentations	Preparing for Final Presentation & Review (4hrs/week)
Week 15	Sum-up of course	

1.授業コード (ナンバリング)	JPN209-Y51	2.科目名	日本の食文化		3.単位数	2
4.授業担当教員	小磯学					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 回生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件	特にありません	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	特にありません					
17.授業の目的と概要	【目的】?類史における食文化を振り返りつつ、その中に日本の食文化を位置付ける。 【概要】日本の??化の歴史と多様性について、その文化的地理学的背景について解説する。					
18.学習目標と D P との関連	【本科目の学習目標】 ☆下記を説明できること： ①文化発生や道具発明の原点が、「食」への好奇心と情熱であったこと。 ②食の獲得?法の発達と農耕・牧畜の発明や都市と文明の成立との関係。 ③精神文化としての食文化。 ④「食べない」文化＝食のタブー。? ☆以下に挙げる観光学科の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 K1?歴史・伝統・?化・?然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる。 K2?グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関?を持つ。 K4?異なる価値観を理解し、?分の考えや?本の魅?を的確に伝えるコミュニケーション?を備える。 ★日本の食文化を体系的に知り、現代日本で暮らす自分の食文化がどう形成されたものかを考える。多様な文化を理解する上で和食を原点に置き、歴史的な視点で広く世界を捉える視点を養う。					
19.教科書・教材	授業の主な内容を資料として配ります。それをもとに独自の教科書を作ってみて下さい。					
20.参考文献	・石毛直道（監修）『講座 食の文化』シリーズ ・岡田哲『食の文化を知る事典』東京堂出版??? ・谷泰『神・人・家畜』平凡社 ・宗田好史他『和食文化学入門』臨川書店					
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、 授業でお話したこと、配付したスライドをよく理解していること。					
22.コメント						
23.オフィスアワー	月曜 2 限：学修支援センター、水曜 2 限：研究室 3-309					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 イントロダクション	・イントロダクション ・?類の歴史と食文化（1） 「文化」とはなにか：まず「食文化」の前に、そもそも「文化」とは何か、それはいつ誕生したのかを考える。人類誕生以前のサルの段階ですでに文化は発祥し、そしてそれは食に関わる「場」であったことが推定される。			アサインメント（以下を説明できること） ・「?化」成立の 3 要件。? ・サルからヒトへの進化を決定づけた??化。		
第 2 回 ?類の歴史と食文化（2）	?類の歴史と食文化（2） ?と道具の使?、そして心の発達： 人類が誕生したのはアフリカの草原地帯である。そ			・草原地帯に適応（食資源を獲得）するために発達した、人間の肉体の短所を補う道具。		

	こは食資源に限られるだけでなく、肉食獣のいる危険な土地だった。効率よく食資源を手に入れるためには、か弱い肉体をもつ人間は道具を発達させることで生き延びてきた。	
第3回 過去1万年における画期(1)	過去1万年における画期(1) 狩猟・採集 vs. 農耕と牧畜： 食資源を手に入れる方法(生業)は4つしかない。このうち農耕と牧畜は、その後の人類の「繁栄(同時に地球の環境を限界まで消費し汚染する)」を決定づけるものだった。	・今日の人類の99.999%を支える生業の「発明」
第4回 過去1万年における画期(2) 都市革命	過去1万年における画期(2) 都市革命： 人類史上初めて登場した「都市+村」がセットになった社会=文明は、多様な職業と専業(プロ)化、階層社会を生み出すとともに、文明間の対立・戦争をより過激なものへとしていった。	・新たな生業が基盤となって成立した「文明」。
第5回 過去1万年における画期(3)	過去1万年における画期(2) 都市革命： 人類史上初めて登場した「都市+村」がセットになった社会=文明は、多様な職業と専業(プロ)化、階層社会を生み出すとともに、文明間の対立・戦争をより過激なものへとしていった。	・新たな生業が基盤となって成立した「文明」。
第6回 「食べない」文化(1) ヒンドゥー教の場合	「食べない」文化(1) ヒンドゥー教の場合： 改めて1万年前に眼を向けると、牧畜の成立とは「動物を殺すことなく動物性食材=乳製品をに入れる方法」の発明でもあった。つまり、人類誕生以来続けてきた肉食を、宗教的な立場から「否定」することを可能にしたのであった。	・牧畜が可能にした肉食のタブー(禁忌)。
第7回 日本の食文化	「日本の食文化」とは言いますが、皆さん毎日どんな食事をしていますか？日本人である皆さん自身の食生活が「日本の食文化」なのですが、毎日和食ばかり食べている訳ではないでしょう。カレーライスもハンバーグもファストフードもコンビニ弁当も、イタリアンやフレンチ、中華もインド料理もけっこう食べています。それが日本の食文化、こんなにいろいろな食事が可能な国は、実はけっこう珍しいのです。だから、最初に世界各地の食文化と比べ、日本の食文化の特徴をいろいろ考えてみます。	〈アサイメント〉 和食と日本食の違いを述べて下さい。 〈事前学習〉 好きな食物を10品ほど選び、日本のもの、海外のものに分けて書き出して下さい。
第8回 「食べない」文化(2)	「食べない」文化(2) ユダヤ教・イスラーム教の場合： これらの宗教では、家畜を殺し食すことに抵抗はない。それは神から人間に与えられたものだからである。しかし同時に、「肉と乳製品を同時に食す」ことやブタ食のタブーなど、独自の食規制を設けそれを守ることで信仰の証としてきた。	・食のタブーの多様性。
第9回 日本の食文化、現代の食生活の問題点	「和食－日本人の伝統的な食文化」は2013年ユネスコ無形文化遺産に登録、世界に認められた文化的価値は、自然を尊ぶ、四季折々の食材、調度品や器の美です。でも、伝統的食文化は急速に失われ、だから保護すべき文化になったのです。多様な外国の食文化を取	〈アサイメント〉 関東と関西で食文化はどう違うか 〈事前学習〉一人で食べる(個食)、家族と食べる、友人や知人と食べる、皆さん自身のこの1週間の食事を振り返り、それぞれの回数

	り入れたこともあります。現代では孤立や貧困が問題です。今晚の食事を取れない子供も増え、「子供食堂」の活動が盛んです。 また、日本人の食の好みは多様、だからバラバラに食事をする人もいます。関東出身のお父さんと関西のお母さんでは食文化が大きく違います。友達とか恋人同士で	を調べて表にしてください。
第 10 回 和食の歴史から大饗料理	和食の歴史①：和食の歴史は縄文時代や弥生時代にさかのぼります。昆布、鰹節、茸や果実や山菜の多くは縄文時代からあり、米や麦は弥生時代のもので。縄文の名残は北海道東北と沖縄に残っています。弥生時代は近畿や東海に残っています。 続いて古墳時代や古代の奈良・平安時代は、神饌料理と大饗料理です。神社に今も残る神饌は神にささげる食です。その後、飛鳥藤原時代、奈良時代、平安時代と中国文化の影響を受けながら、貴族料理が発達、やがて全国に広がりました。それが大饗料理、今もよく使う調味料の原型ができた時代です。塩、酒、酢、	〈アサイメント〉大饗料理の食材を調べて下さい。 〈事前学習〉 和食の旨味にはグルタミン酸、イノシン酸、グアニル酸、アスパラギン酸、コハク酸があります。それぞれを含む食材を調べて下さい。
第 11 回 本膳料理と精進料理	和食文化②は、精進料理と本膳料理、今も残る高級日本料理の原型です。鎌倉時代は武士の時代、南宋（中国）に渡った栄西が禅宗の臨済宗を持ち帰り、道元は少し遅れて曹洞宗の禅を伝えました。禅の教えに精進料理があります。仏教は殺生を禁じ肉食を避けたが、肉魚に代わる「もどき」料理、雁（がん）肉の代わりががんもどきです。また食事の作法を詳しく決めました。 一方、武士の食文化は本膳料理です。品数が多く食べきれず、持ち帰り家族や家来に上げるのです。お土産とかお持ち帰りの始まりです。現代は独り暮らしが多いのに持ち帰る人が	〈アサイメント〉 授業で紹介した道元の「典座教訓」に書いてある食事作法の一つ紹介して下さい。 〈事前学習〉 どんな宗教と関わりがありますか？家族や親戚の身近な宗教、お寺や神社を調べておいてください。
第 12 回 茶懐石と会席料理	和食文化③は、精進料理の影響で発達した懐石料理です。その後、大衆化し会席料理になりました。茶道を嗜まない多くの皆さんに懐石料理は縁遠いものです。でも簡単に解説します。本格的な茶懐石を最初に紹介し、現代の懐石料理屋さんで楽しむ懐石料理、美味しく食べる方法をお話しします。神戸山手キャンパスには茶室があり茶道部もありますので、お点前を見てもらいます。 一方、会席料理とは江戸時代の宴会の料理、江戸と京坂の食文化は分かれて発達、料亭も違います。豊かになった人々が外食、お酒を飲む習慣ができました。薄茶で始まり濃茶で終	〈アサイメント〉 江戸（東京）で生まれた料理にはどんなものがあるか探してみてください。 〈事前学習〉 江戸（東京）で有名な観光地を調べてみてください。
第 13 日 近代化と西洋料理の導入	和食文化④：近代化と西洋料理の導入、偽洋風料理と和食 それまでもポルトガルやスペインから、江戸時代にも出島を通じてオランダと中国から食文化が入っていましたが、江戸時代末の開国で西洋文化が一気に入ります。まず肉食、横浜と神戸の開港で滞在する欧米	〈アサイメント〉 神戸市内で一番古いコーヒー店、紅茶店、洋菓子屋、和菓子店を調べて下さい。 〈事前学習〉 学校給食の思い出を書いて下さい。一番好きなメニューはなんでしたか。

	人が渴望した新鮮な牛肉は神戸では豊富で、横浜にも運ばれ「神戸ビーフ」として世界中に知られました。そう、だから神戸と横浜が洋食の本場だと知られました。でも、海外を知らない当時の日本人には変な誤解が多く、その後の間違った異文化理解に繋がりました。	
第 14 回 戦後の食文化、食糧難から飽食の時代へ	和食文化⑤：戦後の食文化、ファストフードとファミレス 太平洋戦争が終わった当時、人々は食料不足に苦しみました。アメリカの援助で小麦粉と牛乳（脱脂粉乳）が大量に届き、早速栄養不足の子供たちの給食になりました。最初はタダでした。その 20 年後に最初の大阪万博が開かれます。その時にはケンタッキーとマクドナルドが華々しく入ってきました。国内資本も負けずにスカイラークやロイホが生まれました。この 1970 年当時の食生活が現在まで続いています。	〈アサイメント〉 一番好きなファストフードとファミレスを上げて下さい。 〈事前学習〉 神戸、大阪、京都で行ってみたい飲食店は何かですか。
第 15 回 現代の日本食文化と未来の和食	世界に広がる和食の世界、飲食業界を就職先に狙うなら 和食がユネスコ無形遺産に登録され、その海外進出が盛んになりました。今や世界に 20 万店の日本料理店があり、日本国内の 30 万店に近づいています。一方で、家庭で料理しなくなった分、外食産業や食品加工業が盛んになりました。重工長大産業が栄えた昔と違い、生産額、事業所数、従業者数などどれを見ても食関連産業が大きくなりました。でも多くの人はその実態を知りません。特に関西には食品大手が集まっています。就活の参考に、関西の飲食業界を紹介します。もう一つの科目「フードビジ	〈アサイメント〉 最終課題です。もし飲食関係に就職先を考えるなら、飲食店、食品製造業、食料品店、農業畜産業、漁業などどんな業種のどんな仕事がいいか述べて下さい。

1.授業コード (ナンバリング)	LAW101-Y51	2.科目名	法律学概論	3.単位数	2
4.授業担当教員	出嶋陽介				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～
10.取得資格の要件			11.先修条件	日本国憲法、および人権と法を並行履修、あるいは履修済みであることが望ましい。	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および講義前演習	
16.履修制限	特に設けない。				
17.授業の目的と概要	本科目の目的は、法律学（法学）を全般的に講義し、いわゆる legal mind（法的思考力）の涵養を目指す。さらに、可能な限りの事例研究を通じて、法律的な観点から問題を分析、解決できる実践的能力を養っていくことを目的とする。 法治国家である我が国は、暴力に頼らずに、法に則って解決することを建前としている。従って、この世の中に存在する紛争（トラブル）を法（ルール）に基づいて決着をつけることが大前提となっている。 そして、法に則って解決する能力は、社会人にとって必須のスキルとして求められるのである。 このようなことから、講義前チェックテスト（講義前演習）、講義、アフターフォローとしての講義前チェックテストの解説の構成で進行する。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマ・ポリシーの（2）社会的貢献性、（6）専門的知識・技能の活用に関連している。 具体的な学習目標は、以下のとおりである。 ①法律（あるいは法）がなぜ社会にとって必要なかを理解できるようになる。 ②法律（法）に従って、問題を公平に解決できる思考ができるようになる。 ③legal mind（法的思考力）を身に付け、法的に解決できるようになる。				
19.教科書・教材	末川 博（編）『法学入門 第 6 版補訂版』（2014 年） 有斐閣双書				
20.参考文献	必要に応じて配布するか、講義中に案内する。				
21.成績評価	評価方法と配点は次のとおりである。 ①小テスト 1 回目（第 5 回目の講義時に実施） 最大 25% 〈学習目標①および③に対応〉 ②小テスト 2 回目（第 10 回目の講義時に実施） 最大 25% 〈学習目標①および③に対応〉 ③総括試験（第 15 回目に実施） 最大 50% 〈学習目標②に対応〉 以上の評価対象を実施した上で、合計 60%以上となった場合に、合格（単位認定）とする。 ※ 小テストは、各回 15 分程度のものを予定しており、かつ講義中に WebClass のテスト機能を利用する。したがって				
22.コメント	①WebClass を利用して、講義資料配布や小テスト実施を行うので、パソコンを積極的に活用してもらう予定となっている。 ②新聞やニュースなどで、法律や裁判に関する報道に接して、法律が現実社会において、どのように機能するのかを考えながら、講義に参加して欲しい。				
23.オフィスアワー	研究室を持っていないので、質問や要望等があれば、講義の前後に受け付ける。また、WebClass のメール機能を使った問い合わせも可（ただし毎日チェックしていないので、回答には数日を要することもある）。				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	（講義）講義の進め方と現実社会における法の必要性について説明を行なう。第 1 回目は履修者確定の時期ではないので、次回以降の進行についても説明をして			（復習） 講義ノートの整理	

	いきたい。	
第 2 回	(講義)「第 1 講 法と何か」 「法」ないしは「法律」という用語は多義的であり、文脈に応じてその概念を理解しなければならない。ここでは、規範の性質、社会規範である法と道徳の相違を中心に講義を行う。テキスト 22～30 ページ該当 (講義前演習) 法律の基本知識に関する確認テスト	(予習) テキスト 22-30 ページを読んで、社会規範の性質、法と道徳の関係について確認する。 (復習) 講義ノートの整理
第 3 回	(講義)「第 2 講 法の発展」 法は歴史的経過と共に変化し、発展してきた。現代法の源流は、近代ヨーロッパに求めることができる。そこで、近代法の形成から現代法に至るまでの経過、そして我が国の法制にどのような影響を与えたのかを中心に解説する。テキスト 33～43 ページ該当 (講義前演習) 近代法に関する確認テスト	(予習) テキスト 33-43 ページを読んで、法の歴史、国家と法の関係について確認する。 (復習) 講義ノートの整理
第 4 回	(講義)「第 4 講 裁判の基準」 法律的に紛争を解決するということは、解決するための基準が必要となる。それを法源 (source of law) という。つまり、裁判官は我が国において有効な法源を適用して紛争解決を図るのである。そこで、我が国で有効な法源とは、どのような種類があり、どのような性質を持つものなのかを講義していきたい。テキスト 57～71 ページ該当 (講義前演習) 法源に関する確認テスト	(予習) テキスト 57-71 ページを読んで、法の種類にどのようなものがあるかを確認する。 (復習) 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 5 回	(講義)「第 3 講 法と裁判」 法律に則って紛争を解決する場所は裁判所である。民事訴訟、刑事訴訟、行政訴訟はすべて裁判所で審理する。そこで、三審制を採用している裁判制度 (司法制度)、民事訴訟と刑事訴訟の構造、裁判員制度を中心に講義する。テキスト 45～55 ページ該当 (講義前演習) 裁判制度に関する確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト (第 1 回目) を実施するので、パソコンを持参すること。 ※	(予習) テキスト 45-55 ページを読んで、裁判制度の関係を理解しておく。 (復習) 講義ノートの整理
第 6 回	(講義)「第 6 講 近代国家と憲法」 我々の基本的な人権および国家の基本構造を定めるのが憲法である。先進国の憲法は、自由主義的あるいは民主主義的内容の憲法であり、その起源は 18 世紀にまで遡る。そこで、なぜ憲法が生成されたのか、その歴史的背景を探りつつ、基本原理と現代的意味を解説していきたい。また、大日本帝国憲法と日本国憲法の比較を通じて、我が国の立憲主義と国家の変遷について講義する。テキスト 82～91 ページ該当 (講義前演習) 憲法についての確認テスト	(予習) テキスト 82-91 ページを読んで、近代憲法の成立と原理を理解しておく。 (復習) 講義ノートの整理
第 7 回	(講義)「第 7 講 権力分立」 フランスのモンテスキューは、その著書である「法の精神」で、権力の集中は権力濫用に繋がり、国民の自由が否定されると説いた。ゆえに、権力分立 (三権分立) は人権保障に必要であると結論付けたのであった。自由主義的かつ民主主義的憲法は、権力分立構造	(予習) テキスト 93-103 ページを読んで、国会、内閣、裁判所の基本構造を確認する。 (復習) 講義ノートの整理

	を取り入れている。日本国憲法も、三権分立を採用し、国会、内閣、裁判所に国家三権を担当させている。ここでは、各々の権能を中心に講義をする。テキスト 93～103 ページ該当 (講義前演習) 統治機構についての確認テスト	
第 8 回	(講義)「第 8 講 基本的人権」 憲法は、統治機構と基本的人権の 2 本柱からなる。基本的人権は、個人の活動の自由を保障する自由権、政治に参加する権利を保障する参政権、経済的社会的弱者を救済する社会権などを保障する。すべての人権について詳細に解説することは出来ないが(詳細は日本国憲法の履修を求める。)、様々な人権が個人の活動をバックアップするものとなっている。ここでは、基本的人権の全体像と個人の活動との関係性を意識して講義する。テキスト 105～123 ページ該当 (講義前演習) 基本的人権に関する確認テスト	(予習) テキスト 105-123 ページを読んで、基本的人権の全体像を確認する。 (復習) 講義ノートの整理
第 9 回	(講義)「第 9 講 犯罪と刑罰」 我が国は、罪刑法定主義を大原則としており、犯罪と刑罰は法律に定められるべきことを求めている。これは、刑罰権の濫用を防ぐと共に、個人の自由を保障することを狙いとしている。ここでは、犯罪の成立要件、刑罰の種類、死刑について講義をする。テキスト 125～133 ページ該当 (講義前演習) 犯罪と刑罰に関する確認テスト	(予習) テキスト 125-133 ページを読んで、犯罪、刑罰、罪刑法定主義について理解する。 (復習) 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 10 回	(講義)「第 10 講 家族」 民法は、私的領域の様々な状況に応じた規定を置いている。家族関係についても同様である。家族関係を定めた民法の規定を「家族法」と学問上位置づけている。ここでは、親族、婚姻、離婚、親子、相続など家族法の基本的な事項を講義する。テキスト 135～145 ページ該当 (講義前演習) 親族、婚姻、離婚などについて確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト(第 2 回目)を実施するので、パソコンを持参すること。 ※	(予習) テキスト 135-145 ページを読んで、親族関係、婚姻、離婚などについて理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 11 回	(講義)「第 11 講 契約の自由」 成人年齢が満 20 歳から満 18 歳に引き下げられ、それまで法定代理人の同意を必要とした 18、19 歳の者は単独で契約の当事者となった。他方で、法律上、契約がどのような場合に成立するのか、理解が不十分なために、契約にまつわるトラブルも絶えない。ここでは、契約の成立要件、効果、契約解除、契約違反を理由とした制裁などを講義する。テキスト 147～157 ページ該当 (講義前演習) 契約に関する確認テスト	(予習) テキスト 147-157 ページを読んで、契約の成立要件、効果などについて理解する。 (復習) 講義ノートの整理

第 12 回	（講義）「第 13 講 損害賠償」 日常生活においては、何らかの行為によって他者に損害を加えたり、逆に損害を被ることもある。法律的には、不法行為と称されている。ここでは、不法行為が成立する要件、換言すると、損害賠償義務が発生する要件を説明し、不法行為の現代的意義について講義をする。テキスト 170～179 ページ該当 （講義前演習）損害賠償に関する確認テスト	（予習） テキスト 170-179 ページを読んで、損害賠償制度について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 13 回	（講義）「第 16 講 生活の保障」 近代法は、消極国家政策（市民生活に国家が干渉しないという方針）が採用されたため、個人の自由を重んじられた。他方、資本主義の発展によって、富める者と貧しき者との格差が甚だしくなった。20 世紀になり、弱者救済を国家的責任においてなすべきであると主張され、それが社会権という人権の成立を促したのであった。ここでは、社会権成立の背景や社会権を具体化する立法や制度を概観することによって、弱者救済がいかに必要なのかを人権や各種の立法から解説する。テキスト 203～213 ページ該当 （講義	（予習） テキスト 203-213 ページを読んで、社会権の意義、社会保障の仕組みについて理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 14 回	（講義）「第 18 講 国際社会と日本」 これまで国内法を中心に講義をしてきたが、国家間の関係、すなわち国際関係にも法が存在し、それを国際法という。国際法は、国内法と比較して不完全ながら、人権、環境、安全保障、海洋、外交、軍事などの分野で規範を形成している。ここでは、国際法の種類、日本との関係でいえば、日米安全保障体制の問題を中心に講義する。テキスト 227～245 ページ該当 （講義前演習）国際関係に関する確認テスト	（予習） テキスト 227-245 ページを読んで、日米安全保障体制について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 15 回	総括試験の実施	

1.授業コード (ナンバリング)	LAW101-m51	2.科目名	法律学概論	3.単位数	2
4.授業担当教員	出嶋陽介				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～
10.取得資格の要件			11.先修条件	日本国憲法、および人権と法を並行履修、あるいは履修済みであることが望ましい。	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および講義前演習	
16.履修制限	特に設けない。				
17.授業の目的と概要	本科目の目的は、法律学（法学）を全般的に講義し、いわゆる legal mind（法的思考力）の涵養を目指す。さらに、可能な限りの事例研究を通じて、法律的な観点から問題を分析、解決できる実践的能力を養っていくことを目的とする。 法治国家である我が国は、暴力に頼らずに、法に則って解決することを建前としている。従って、この世の中に存在する紛争（トラブル）を法（ルール）に基づいて決着をつけることが大前提となっている。 そして、法に則って解決する能力は、社会人にとって必須のスキルとして求められるのである。 このようなことから、講義前チェックテスト（講義前演習）、講義、アフターフォローとしての講義前チェックテストの解説の構成で進行する。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマ・ポリシーの（2）社会的貢献性、（6）専門的知識・技能の活用に関連している。 具体的な学習目標は、以下のとおりである。 ①法律（あるいは法）がなぜ社会にとって必要なかを理解できるようになる。 ②法律（法）に従って、問題を公平に解決できる思考ができるようになる。 ③legal mind（法的思考力）を身に付け、法的に解決できるようになる。				
19.教科書・教材	末川 博（編） 『法学入門 第 6 版補訂版』（2014 年） 有斐閣双書				
20.参考文献	必要に応じて配布するか、講義中に案内する。				
21.成績評価	評価方法と配点は次のとおりである。 ①小テスト 1 回目（第 5 回目の講義時に実施） 最大 25% 〈学習目標①および③に対応〉 ②小テスト 2 回目（第 10 回目の講義時に実施） 最大 25% 〈学習目標①および③に対応〉 ③総括試験 （第 15 回目に実施） 最大 50% 〈学習目標②に対応〉 以上の評価対象を実施した上で、合計 60％以上となった場合に、合格（単位認定）とする。 ※ 小テストは、各回 15 分程度のをを予定しており、かつ講義中に WebClass のテスト機能を利用する。したがって				
22.コメント	①WebClass を利用して、講義資料配布や小テスト実施を行うので、パソコンを積極的に活用してもらう予定となっている。 ②新聞やニュースなどで、法律や裁判に関する報道に接して、法律が現実社会において、どのように機能するのかを考えながら、講義に参加して欲しい。				
23.オフィスアワー	研究室を持っていないので、質問や要望等があれば、講義の前後に受け付ける。また、WebClass のメール機能を使った問い合わせも可（ただし毎日チェックしていないので、回答には数日を要することもある）。				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	（講義）講義の進め方と現実社会における法の必要性について説明を行なう。第 1 回目は履修者確定の時期ではないので、次回以降の進行についても説明をして			（復習） 講義ノートの整理	

	いきたい。	
第 2 回	(講義)「第 1 講 法と何か」 「法」ないしは「法律」という用語は多義的であり、文脈に応じてその概念を理解しなければならない。ここでは、規範の性質、社会規範である法と道徳の相違を中心に講義を行う。テキスト 22～30 ページ該当 (講義前演習) 法律の基本知識に関する確認テスト	(予習) テキスト 22-30 ページを読んで、社会規範の性質、法と道徳の関係について確認する。 (復習) 講義ノートの整理
第 3 回	(講義)「第 2 講 法の発展」 法は歴史的経過と共に変化し、発展してきた。現代法の源流は、近代ヨーロッパに求めることができる。そこで、近代法の形成から現代法に至るまでの経過、そして我が国の法制にどのような影響を与えたのかを中心に解説する。テキスト 33～43 ページ該当 (講義前演習) 近代法に関する確認テスト	(予習) テキスト 33-43 ページを読んで、法の歴史、国家と法の関係について確認する。 (復習) 講義ノートの整理
第 4 回	(講義)「第 4 講 裁判の基準」 法律的に紛争を解決するということは、解決するための基準が必要となる。それを法源 (source of law) という。つまり、裁判官は我が国において有効な法源を適用して紛争解決を図るのである。そこで、我が国で有効な法源とは、どのような種類があり、どのような性質を持つものなのかを講義していきたい。テキスト 57～71 ページ該当 (講義前演習) 法源に関する確認テスト	(予習) テキスト 57-71 ページを読んで、法の種類にどのようなものがあるかを確認する。 (復習) 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 5 回	(講義)「第 3 講 法と裁判」 法律に則って紛争を解決する場所は裁判所である。民事訴訟、刑事訴訟、行政訴訟はすべて裁判所で審理する。そこで、三審制を採用している裁判制度 (司法制度)、民事訴訟と刑事訴訟の構造、裁判員制度を中心に講義する。テキスト 45～55 ページ該当 (講義前演習) 裁判制度に関する確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト (第 1 回目) を実施するので、パソコンを持参すること。 ※	(予習) テキスト 45-55 ページを読んで、裁判制度の関係を理解しておく。 (復習) 講義ノートの整理
第 6 回	(講義)「第 6 講 近代国家と憲法」 我々の基本的な人権および国家の基本構造を定めるのが憲法である。先進国の憲法は、自由主義的あるいは民主主義的内容の憲法であり、その起源は 18 世紀にまで遡る。そこで、なぜ憲法が生成されたのか、その歴史的背景を探りつつ、基本原理と現代的意味を解説していきたい。また、大日本帝国憲法と日本国憲法の比較を通じて、我が国の立憲主義と国家の変遷について講義する。テキスト 82～91 ページ該当 (講義前演習) 憲法についての確認テスト	(予習) テキスト 82-91 ページを読んで、近代憲法の成立と原理を理解しておく。 (復習) 講義ノートの整理
第 7 回	(講義)「第 7 講 権力分立」 フランスのモンテスキューは、その著書である「法の精神」で、権力の集中は権力濫用に繋がり、国民の自由が否定されると説いた。ゆえに、権力分立 (三権分立) は人権保障に必要であると結論付けたのであった。自由主義的かつ民主主義的憲法は、権力分立構造	(予習) テキスト 93-103 ページを読んで、国会、内閣、裁判所の基本構造を確認する。 (復習) 講義ノートの整理

	を取り入れている。日本国憲法も、三権分立を採用し、国会、内閣、裁判所に国家三権を担当させている。ここでは、各々の権能を中心に講義をする。テキスト 93～103 ページ該当 (講義前演習) 統治機構についての確認テスト	
第 8 回	(講義)「第 8 講 基本的人権」 憲法は、統治機構と基本的人権の 2 本柱からなる。基本的人権は、個人の活動の自由を保障する自由権、政治に参加する権利を保障する参政権、経済的社会的弱者を救済する社会権などを保障する。すべての人権について詳細に解説することは出来ないが(詳細は日本国憲法の履修を求める。)、様々な人権が個人の活動をバックアップするものとなっている。ここでは、基本的人権の全体像と個人の活動との関係性を意識して講義する。テキスト 105～123 ページ該当 (講義前演習) 基本的人権に関する確認テスト	(予習) テキスト 105-123 ページを読んで、基本的人権の全体像を確認する。 (復習) 講義ノートの整理
第 9 回	(講義)「第 9 講 犯罪と刑罰」 我が国は、罪刑法定主義を大原則としており、犯罪と刑罰は法律に定められるべきことを求めている。これは、刑罰権の濫用を防ぐと共に、個人の自由を保障することを狙いとしている。ここでは、犯罪の成立要件、刑罰の種類、死刑について講義をする。テキスト 125～133 ページ該当 (講義前演習) 犯罪と刑罰に関する確認テスト	(予習) テキスト 125-133 ページを読んで、犯罪、刑罰、罪刑法定主義について理解する。 (復習) 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 10 回	(講義)「第 10 講 家族」 民法は、私的領域の様々な状況に応じた規定を置いている。家族関係についても同様である。家族関係を定めた民法の規定を「家族法」と学問上位置づけている。ここでは、親族、婚姻、離婚、親子、相続など家族法の基本的な事項を講義する。テキスト 135～145 ページ該当 (講義前演習) 親族、婚姻、離婚などについて確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト(第 2 回目)を実施するので、パソコンを持参すること。 ※	(予習) テキスト 135-145 ページを読んで、親族関係、婚姻、離婚などについて理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 11 回	(講義)「第 11 講 契約の自由」 成人年齢が満 20 歳から満 18 歳に引き下げられ、それまで法定代理人の同意を必要とした 18、19 歳の者は単独で契約の当事者となった。他方で、法律上、契約がどのような場合に成立するのか、理解が不十分なために、契約にまつわるトラブルも絶えない。ここでは、契約の成立要件、効果、契約解除、契約違反を理由とした制裁などを講義する。テキスト 147～157 ページ該当 (講義前演習) 契約に関する確認テスト	(予習) テキスト 147-157 ページを読んで、契約の成立要件、効果などについて理解する。 (復習) 講義ノートの整理

第 12 回	（講義）「第 13 講 損害賠償」 日常生活においては、何らかの行為によって他者に損害を加えたり、逆に損害を被ることもある。法律的には、不法行為と称されている。ここでは、不法行為が成立する要件、換言すると、損害賠償義務が発生する要件を説明し、不法行為の現代的意義について講義をする。テキスト 170～179 ページ該当 （講義前演習）損害賠償に関する確認テスト	（予習） テキスト 170-179 ページを読んで、損害賠償制度について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 13 回	（講義）「第 16 講 生活の保障」 近代法は、消極国家政策（市民生活に国家が干渉しないという方針）が採用されたため、個人の自由を重んじられた。他方、資本主義の発展によって、富める者と貧しき者との格差が甚だしくなった。20 世紀になり、弱者救済を国家的責任においてなすべきであると主張され、それが社会権という人権の成立を促したのであった。ここでは、社会権成立の背景や社会権を具体化する立法や制度を概観することによって、弱者救済がいかに必要なのかを人権や各種の立法から解説する。テキスト 203～213 ページ該当 （講義	（予習） テキスト 203-213 ページを読んで、社会権の意義、社会保障の仕組みについて理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 14 回	（講義）「第 18 講 国際社会と日本」 これまで国内法を中心に講義をしてきたが、国家間の関係、すなわち国際関係にも法が存在し、それを国際法という。国際法は、国内法と比較して不完全ながら、人権、環境、安全保障、海洋、外交、軍事などの分野で規範を形成している。ここでは、国際法の種類、日本との関係でいえば、日米安全保障体制の問題を中心に講義する。テキスト 227～245 ページ該当 （講義前演習）国際関係に関する確認テスト	（予習） テキスト 227-245 ページを読んで、日米安全保障体制について理解する。 （復習） 講義ノートの整理
第 15 回	総括試験の実施	

1.授業コード (ナンバリング)	LAW102-M51	2.科目名	人権と法 (法学)		3.単位数	2
4.授業担当教員	出嶋陽介					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義および講義前演習	
16.履修制限	特に設けないが、日本国憲法を既に履修したか、または同時並行的に履修していることが望ましい。					
17.授業の目的と概要	本科目は、日本国憲法で履修する基本的人権の知識を基礎に、我々が日常生活を送るうえで直面する様々な場面（誕生～就労～死亡）において、必要とされる法律知識とその根拠となる権利・自由について理解を深め、将来その知識を活用できるようにすることを目的としている。 具体的な一例をあげると、就職して退職するまで一労働者として勤務するが、労働者は雇用される立場にあるので、どうしても立場が弱くなりがちである。そこで、労働者の立場を守る様々な法律が制定され、労働者が不当な目に遭わないよう、法的な保護がなされている。それを踏まえて、本科目では、どのような形で法律的に保護されているのかを身に付けてもらおうというものである。 ゆえに、より発展的に言えば、知識として学習し、実社会において実践できるよう応用力も涵養するだけでなく、資格試験や就職試験対策の基礎となるようにもしていきたい。 講義の進行としては、講義前チェックテスト（成績評価対象外）を毎回実施し、講義の理解を深めるためのポイントを押さえてもらう。そして、講義でそのポイントを確認し、最後に講義前チェックテストの解説をして、完結するという内容にしていこう予定である。 また、2 回に分けた小テストと総括試験（いずれも成績評価対象）を実施し、より緻密で高度な学習を達成できているかを判定する予定である。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、ディプロマ・ポリシーの（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力に関連している。 具体的な学習目標は、以下のとおりである。 ①様々な生活場面における法律問題を理解し、法的に適切な対処ができるようになる。 ②法律の条文に慣れ親しみ、条文の意味内容を理解できるようにする。 ③他者に対する人権や自由を尊重できるようにする。					
19.教科書・教材	副田隆重・浜村彰・棚村政行・武田万里子 『ライフステージと法 第8版』 有斐閣アルマ					
20.参考文献	講義資料等は、WebClass を通じて配布する。					
21.成績評価	成績評価については、以下の全ての評価対象を実施した上で、合計が 60% 以上の場合に、合格とする。 ① 小テスト（2 回） 50%（各 25% の 2 回分で最大）・・・学習目標①に対応 ② 総括試験 50%（最大）・・・学修目標②と③に対応 ※ 2 回分の小テストは、5 回目と 10 回目の講義時間を使い、WebClass で実施するので（15 分程度）、少なくとも当日はパソコンを必携することを求める。 ※ ※ 出席点および平常点の評価は一					
22.コメント	法律は独特の用語が目立ち、難解と思えそうだが、条文を読むことに慣れてしまうと苦にならない。講義を通じて、基本的な考えを理解することは大切であるが、分からないことがあれば積極的に質問してほしい。					
23.オフィスアワー	研究室を持っていないので、質問や要望等があれば、講義の前後に受け付ける。また、WebClass のメール機能で問い合わせも可。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション（シラバス内容についての補足説明、受講上の注意点、講義の進め方など） （講義）本格的な講義を始める前に、講義の理解をスムーズにするために必要とされる法律概念や予備知識を説明する。	（予習） テキスト i -vi ページ（プレリユード）を読んでおくこと。 （復習） 講義ノートの整理
第 2 回	（講義）テキスト stage1「社会人へのパスポート」をテーマに、年齢と法律との関係を見つつ、どのような場面で年齢が法律と関わってくるのかを理解する。また、法律によって個人に与えられた権利をどこで主張できるのか、誰によって守ってもらえるのかも講義する。テキスト 2-11 ページ該当 （講義前演習）年齢と法律に関する確認テスト	（予習） テキスト 2-11 ページを読んで、法律が年齢によって異なる扱いをするのはなぜかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 3 回	（講義）テキスト stage2「働く自由・女であることの自由」をテーマに、男女平等の時代にあっても、女性が見えないガラス張りの雇用環境によって劣遇されている現実を裁判例から見ていく。それを踏まえて、女性を法的に救済する立法にどのようなものがあるのかを講義する。ひいては、女性差別解消の方策を一緒に考えていきたい。テキスト 14-40 ページ該当 （講義前演習）女性差別を解消する法律に関する確認テスト	（予習） テキスト 14-40 ページを読んで、女性が差別される背景がどこにあるのか、また立法上の対応にどのようなものがあるかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理
第 4 回	（講義）テキスト stage3「働きたいらいろ」をテーマに、勤労の自己決定、非正規労働者の法律的保護とその限界を講義する。テキスト 42-68 ページ該当 （講義前演習）労働法に関する確認テスト	（予習） テキスト 42-68 ページを読んで、労働者が法律的にどのような保護を受けているのかを確認する。 （復習） 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 5 回	（講義）テキスト stage4「スマートな消費者をめざして」をテーマに、消費者保護立法の基本的知識を習得する。そして、消費者はなぜ弱い立場に立たされるのかを説明していきたい。テキスト 70-111 ページ該当 （講義前演習）契約など民法の基本的知識に関する確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト（1 回目）の実施 ※	（予習） テキスト 70-111 ページを読んで、消費者保護が求められる場面と法律的対応との関係を理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理
第 6 回	（講義）テキスト stage4「スマートな消費者をめざして」をテーマに、損害賠償制度について講義する。契約違反や法律上の権利や利益を侵害された場合に、どのように損害を賠償させるのかを説明していきたい。テキスト 70-111 ページ該当 （講義前演習）損害賠償制度に関する確認テスト	（予習） テキスト 70-111 ページを読んで、損害賠償制度について理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理
第 7 回	（講義）テキスト stage5「恋愛のルール」をテーマに、恋人間で成立する法律問題、特に性的暴力、婚約、不倫など一般的なトピックを題材に、どのような法律的責任が発生するのかを説明していきたい。テキスト 114-135 ページ該当 （講義前演習）男女間に適用される法律に関する確認	（予習） テキスト 114-135 ページを読んで、恋人間で適用される法律にどのようなものがあるか理解しておく。 （復習） 講義ノートの整理

	テスト	
第 8 回	(講義) テキスト stage6「結婚の夢と現実」をテーマに、結婚に関する法律を講義する。特に法律婚と事実婚の法律的な違い、夫婦別姓、相続など一般的なトピックを題材に、成立要件や効果を説明する予定である。テキスト 138-159 ページ該当 (講義前演習) 婚姻など夫婦間に適用される法律に関する確認テスト	(予習) テキスト 138-159 ページを読んで、婚姻が成立するための条件や婚姻後夫婦にどのような権利義務が発生するのか確認する。 (復習) 講義ノートの整理
第 9 回	(講義) 第 8 回までで講義できないトピック、特にテキストに言及されている Column のうち、幾つかを取り上げて、余録的なアプローチから「法律の別の顔」を講義する。	(予習) 第 1 回から第 8 回までの講義内容を整理し、中間確認テストに備える。 (復習) 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 10 回	(講義) テキスト stage7「子どもを産む・産まない」をテーマに、出産に関する自己決定(墮胎を含む。)、代理出産、生殖医療と法律・倫理について説明する。テキスト 162-181 ページ該当 (講義前演習) 出産や子供の権利についての確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト(2 回目)の実施 ※	(予習) テキスト 162-181 ページを読んで、女性の自己決定を中心に出産の自由について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 11 回	(講義) テキスト stage8「子どもと親のビミョーな関係」をテーマに、法律的な親子関係、特に親権や養育・監護権、虐待など親子間で起こりうる法律的な問題について講義する。テキスト 184-210 ページ該当 (講義前演習) 親子関係の法律に関する確認テスト	(予習) テキスト 184-210 ページを読んで、親子関係に関する法律について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 12 回	(講義) テキスト stage9「ふたたびの出発」をテーマに、離婚にまつわる法律について講義する。特に、離婚の成立要件、離婚の効果などを中心に扱うことにする。テキスト 212-230 ページ該当 (講義前演習) 離婚の法律に関する確認テスト	(予習) テキスト 212-230 ページを読んで、どのような場合に離婚が成立し、離婚成立後の元夫婦間の法律関係について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 13 回	テキスト stage10「親の介護はだれが？」をテーマに、介護保険を軸とした法律問題について講義する。テキスト 232-251 ページ該当 (講義前演習) 介護保険に関する確認テスト	(予習) テキスト 232-251 ページを読んで、介護保険制度の基本的な構造について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 14 回	(講義) テキスト stage11「親が死んだら、夫が死んだら、自分が死んだら」をテーマに、法的な死亡の定義、遺言と相続、生存親族の義務などについて講義する。テキスト 254-273 ページ該当 (講義前演習) 相続に関する確認テスト	(予習) テキスト 254-273 ページを読んで、相続制度の基本的な構造について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 15 回	総括試験の実施	

1.授業コード (ナンバリング)	LAW104-A51	2.科目名	日本国憲法	3.単位数	2
4.授業担当教員	出嶋陽介				
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 副専攻(世界と日本を考える) 副専攻(平等を考える) 幼稚園一種	11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義および講義前演習		
16.履修制限	特に設けない。				
17.授業の目的と概要	本科目の目的は、国家の基礎法である日本国憲法を通じて、人権感覚と憲法が目指すところを修得することにある。 憲法の成立経緯は講義で詳細に話す予定であるが、我々の自由が確保され、また権力の濫用を封じるための歯止めとなっている非常に重要な国法である。それゆえに、憲法の理解なくして、自由や人権を語るわけには行かないのである。 加えて、これからの時代は、豊かな人権感覚を備えた人材が求められている。それは、政治家や公務員だけに限られず、一般市民にも必要な教養なのである。 また、教職課程の科目でもあるため、教員を目指す学生は憲法が保障する自由や権利とは一体何かを十分に学習することは、将来役に立つであろう。 このようなことから、講義前チェックテスト(講義前演習)、講義、アフターフォローとしての講義前チェックテストの解説の構成で進行する。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマ・ポリシーの(2)社会的貢献性、(6)専門的知識・技能の活用に関連している。 具体的な学習目標は、以下のとおりである。 ①権利や自由がなぜ必要なのかを説明できるようになる。 ②憲法規範に従って、問題を解決できる思考ができるようになる。 ③人権感覚を身に付け、法的に解決できるようになる。				
19.教科書・教材	吉田仁美(編) 『スタート憲法 第3版』(2020 年) 成文堂				
20.参考文献	必要に応じて配布する。				
21.成績評価	評価方法と配点は次のとおりである。 ①小テスト 1 回目(第 5 回目の講義時に実施) 最大 25% 〈学習目標①および③に対応〉 ②小テスト 2 回目(第 10 回目の講義時に実施) 最大 25% 〈学習目標①および③に対応〉 ③総括試験 (第 15 回目に実施) 最大 50% 〈学習目標②に対応〉 以上の評価対象を実施した上で、合計 60%以上となった場合に、合格(単位認定)とする。 ※ 小テストは、各回 15 分程度のものを予定しており、かつ講義中に WebClass のテスト機能を利用する。したがって				
22.コメント	①WebClass を利用して、講義資料配布や小テスト実施を行うので、パソコンを積極的に活用してもらう予定となっている。 ②憲法を中心に社会を見つめ、人権を尊重するということとはどのような意味を持つものなのかを考えながら、講義に参加して欲しい。				
23.オフィスアワー	研究室を持っていないので、質問や要望等があれば、講義の前後に受け付ける。また、WebClass のメール機能を使った問い合わせも可(ただし毎日チェックしていないので、回答には数日を要することもある)。				

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	(講義) 講義の進め方と憲法の概念についての説明を行なう。第 1 回目は履修者確定の時期ではないので、憲法総論として日常生活と憲法との関係について講義するつもりである。	(復習) 講義ノートの整理
第 2 回	(講義) 憲法史 憲法が成立する背景として存在する近代人権宣言について説明する。ここでは、憲法の成立由来ならびに明治憲法及び日本国憲法についての説明をし、憲法の基礎的性格を明らかにする。テキスト 1～7 ページ該当 (講義前演習) 憲法の基本知識に関する確認テスト	(予習) テキスト 1-7 ページを読んで、憲法の基本原理、大日本帝国憲法と日本国憲法の相違について確認する。
第 3 回	(講義) 人権享有主体性 (外国人の人権保障) 基本的人権総論と題して、外国人に対する人権保障について説明する。とりわけ、日本人と同等同質の生活を送る定住外国人に、憲法はどこまで人権を保障するのか解説する。テキスト 12～13 ページ該当 (講義前演習) 人権享有主体に関する確認テスト	(予習) テキスト 12-13 ページを読んで、外国人の人権保障について、憲法がどのような態度をとっているのかを確認する。 (復習) 講義ノートの整理
第 4 回	(講義) 幸福追求権 (新しい人権) 人権の一般規定である 13 条では、幸福追求権が保障されている。そこで、近年新しい人権として主張されるようになった、特に、新しい人権や自己決定権の意義と限界についての説明をしていくことにする。テキスト 22,24～29 ページ該当 (講義前演習) 新しい人権に関する確認テスト	(予習) テキスト 22-29 ページを読んで、特に幸福追求権と自己決定権との関係を理解しておく。 (復習) 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 5 回	(講義) 平等権 近代人権宣言は、自由と平等を御旗としているが、そのうちの平等権について説明する。その中で、差別の問題と平等の意義及び平等権が争われた事例についての講義する。テキスト 32～33,36-37 ページ該当 (講義前演習) 平等権に関する確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト (第 1 回目) を実施するので、パソコンを持参すること。 ※	(予習) テキスト 32-37 ページを読んで、特に差別と平等権との関係を理解しておく。 (復習) 講義ノートの整理
第 6 回	(講義) 思想良心の自由、信教の自由 憲法は精神的自由を保障し、思想良心の自由、信教の自由、表現の自由を保障する。ここでは、前二者について講義をし、なぜ個人の内心の自由を保障する必要があるのか、戦前の状況との比較を通じて解説する。テキスト 38～39,42～45 ページ該当 (講義前演習) 精神的自由、特に思想信条の自由と信教の自由についての確認テスト	(予習) テキスト 38-45 ページを読んで、内心の自由とはどのようなものか、なぜ精神領域への自由を保障すべきなのかを確認する。 (復習) 講義ノートの整理
第 7 回	(講義) 表現の自由 前回に引き続き、精神的自由の中でもコアな人権である表現の自由について講義をし、なぜ表現の自由を手厚く保障する必要があるのか、戦前の状況との比較を通じて解説する。テキスト 46～49,52-55 ページ該当 (講義前演習) 表現の自由についての確認テスト	(予習) テキスト 46-49,52-55 ページを読んで、内心の自由とはどのようなものか、なぜ精神領域への自由を保障すべきなのかを確認する。 (復習) 講義ノートの整理
第 8 回	(講義) 人身の自由①	(予習)

	人身の自由とは、かつて国家権力が人民を不当に処罰したところから、刑罰権の濫用がなされないよう、憲法上のルールとして保障されたものである。ここでは、奴隷的拘束の禁止、適正手続の保障、令状主義を説明する。テキスト 64～71 ページ該当 (講義前演習) 人身の自由 (予習該当範囲) に関する確認テスト	テキスト 64-71 ページを読んで、適正手続の保障、令状主義について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 9 回	(講義) 人身の自由② 前週に引き続き、公平の裁判所による迅速な裁判を受ける権利、証人審問権・喚問権、弁護人依頼権、残虐な刑罰の禁止を講義する。テキスト 64～67 ページ該当 (講義前演習) 人身の自由 (予習該当部分) に関する確認テスト	(予習) テキスト 64-71 ページを読んで、公平な裁判所の迅速な裁判を受ける権利、証人審問権、証人喚問権、弁護人依頼権、残虐刑の禁止について理解する。 (復習) 講義ノートの整理、小テストに向けた復習
第 10 回	(講義) 生存権 弱者救済の人権である生存権を講義する。生存権は近年の社会情勢から注目されており、国家がいかに弱者を救済するべきか、議論が立たなされている。この点から、生存権が必要とされる意義や限界、生存権の将来について一緒に考えていきたい。 (講義前演習) 生存権について確認テスト ※ WebClass を利用した小テスト (第 2 回目) を実施するので、パソコンを持参すること。 ※	(予習) テキスト 76-77 ページを読んで、生存権が必要とされた背景について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 11 回	(講義) 国会① 憲法は統治機構に関する規定も置いているが、その中でも第 11 回目は国会について講義をする。特に、民主政治の基盤となる国会、そしてそもそも民主主義や民主政治とは何かを考えていきたい。その他にも、衆議院の優越、国会議員の特権などにも目を向けていくことにする。テキスト 98～109 ページ該当 (講義前演習) 国会、内閣に関する確認テスト	(予習) テキスト 90-91,98-109 ページを読んで、国会の性格、国会の権限について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 12 回	(講義) 国会②、内閣 前回に引き続き、国会の権能や議院内閣制、内閣について講義をする。そして、行政権を担当する内閣の権限や機能を説明をする。テキスト 98～109 ページ該当 (講義前演習) 国会、内閣に関する確認テスト	(予習) テキスト 90-91,98-109 ページを読んで、議院内閣制の仕組み、内閣の権限について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 13 回	(講義) 裁判所① 国会、内閣に次いで、統治機構の三本柱の一角を占める裁判所について講義をする。裁判所は基本的人権の砦として、国民の権利や自由を守る役割を果たしている。また、中立的な裁判を実現するために、司法権の独立という仕組みも導入されている。このような点から、裁判所が憲法を頂点とした法の支配を実現するために果たす役割、第 13 回では、司法権という概念、三審制 (司法制度)、司法権の独立を説明をする。テキスト	(予習) テキスト 110-117 ページを読んで、司法権の概念、司法権の独立について理解する。 (復習) 講義ノートの整理

	ト 110～117 ページ該当 (講義前演習) 裁判所に関する確認テスト	
第 14 回	(講義) 裁判所② 前回に引き続き、司法権の講義をする。裁判所に重要な役割の一つに、違憲審査権(違憲立法審査権)が憲法によって定められている。これは法の支配を実現する手段として、国会や内閣に対する裁判所の抑制機能となっている。そこで、国民の基本的人権を守るために機能する違憲審査権が政治的権力である国会や内閣に対して、どのような抑制機能を果たすのかを説明していくことにする。テキスト 110～117 ページ該当 (講義前演習) 裁判所に関する確認テスト	(予習) テキスト 110-117 ページを読んで、三権分立の構造の中で、違憲審査権が占める役割について理解する。 (復習) 講義ノートの整理
第 15 回	総括試験の実施	

1.授業コード (ナンバリング)	LAW104-Y51	2.科目名	日本国憲法	3.単位数	2
4.授業担当教員	佐橋謙一				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件	必須ではありませんが、興味のある学生には、春学期の「法学（人権と法）」を併せて受講することを勧めます。	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的：現代社会の様々な現象や問題に対して、現代法の枠組を慎重に検討しつつ、自立して取り組めることを目的とします。 概要：日本の法システムの基盤となる日本国憲法について、裁判例などの運用実態を参照しつつ解説します。また、憲法の諸原理と関連する刑事法、民事法、労働法、知的財産法などの個別法領域についても概観していきます。				
18.学習目標と DPとの関連	DP1（自律性）、DP2（ルール遵守と他者協働）、DP4（問題発見と解決）に関連します。具体的には： (1)現代社会の法的政治的な主体としての個人の地位を深く理解できる。 (2)現代社会のさまざまな社会制度や法領域について、必要な背景知識を踏まえて論じられる。 (4)法や政治に関わる諸問題について、既往の議論を踏まえて取り組むことができる。				
19.教科書・教材	定期的に資料を配付します。教科書は使用しません。なお、レジュメや関連資料を、オンラインでも公開していく予定です。予習復習に活用して下さい。				
20.参考文献	講義中に適宜紹介します。 学習指導要領「社会」「公民」に対応します。				
21.成績評価	1. 講義中に、アンケートや簡単なテストを定期的に行います。また、講義中に質疑を行いますので、その際の応答や参加姿勢も考慮します。主に到達目標(1)、(4)に関連します。…合わせて40 点満点 2. 講義内容の理解度を確認するための期末試験を実施します。主に到達目標(1)、(2)に関連します。…60 点満点 いずれも、そこまでの講義内容全体をカバーするかたちで行います。 全体で 60 点以上が単位認定となります。アンケートは、4 回中 3 回以上の提出を必要とします。				
22.コメント	現代社会の基本枠組は、法という形で整備されています。それゆえ、法学の基本概念をきちんと理解しておくことは、現代社会で主体的に行動するうえできわめて重要です。大人になれば、選挙権のような権利を行使して政治に関わる機会も増えてきますし、私生活でもさまざまな場面で契約当事者になる場面も出てくるでしょう。そうした場合に、適切な判断をするための基本的知識を学んでいきましょう。				
23.オフィスアワー	質問や相談は、講義前後の時間に受け付けます。				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
1	イントロダクション（本講義の目標、概要、評価方式等について）。 法とは何か（法、法制度、国家の社会学的な捉え方）。			復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。	
2	現代国家と法Ⅰ（法の分類。憲法と法律）。			復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。	
3	現代国家と法Ⅱ（公法と私法）。			復習：今回の復習（授業ノートの整理）。	

	アンケート。	予習：次回の予習（講義内で指示する）。
4	日本国憲法と公的機関Ⅰ（憲法と国家）。 ディスカッションと解説（アンケートに関して）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
5	日本国憲法と公的機関Ⅱ（国家の存立と権力分立）	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
6	日本国憲法と公的機関Ⅲ（公法の運用。行政法の諸原則）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
7	日本国憲法と公的機関Ⅳ（刑事法の枠組。罪刑法定主義を初めとした諸原則）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
8	日本国憲法と公的機関Ⅴ（刑事法の展望。判例に即した検討）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
9	日本国憲法と人権Ⅰ（人権の基本的性質と構造）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
10	日本国憲法と人権Ⅱ（人権が制約される条件とその根拠）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
11	日本国憲法と人権Ⅲ（判例に即した検討：平等権について）	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
12	日本国憲法と人権Ⅲ（判例に即した検討：自由権等について）。 アンケート。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
13	私法の基本原則Ⅰ（私的自治原則とそれに関連する諸原則）。 ディスカッションと解説（アンケートに関して）。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。 予習：期末試験の勉強。
14	期末試験（※オンライン授業になった場合は、レポート課題に変更する可能性がある）	復習：期末試験の復習。 予習：次回の予習（講義内で指示する）。
15	私法の基本原則Ⅱ（原則に対する現代的修正）。 総括：現代社会における法と政治（生命倫理や法的思考について）。 期末試験の解説。 アンケート。	復習：今回の復習（授業ノートの整理）。

1.授業コード (ナンバリング)	LIN101-A51	2.科目名	英語学Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	長瀬慶來					
5.授業科目の区分	発展科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻 初等英語教育コース			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	高校教諭 1 種(英語) 中学教諭 1 種 (英語) 中学教諭 2 種 (英語)		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	英語の歴史をその始まりの 5 世紀頃から現代英語までどのような発展を遂げたか辿り、その変化を知ることによって英語の現在および未来を知る手掛かりとする、 1) 序章 世界語としての英語 2) 英語の始まり 古英語期 3) 中英語期 4) 近代英語期 5) 19 世紀から現代英語期 併せて、英語が世界に広がって多様化していった過程とその結果生じた様々な方言・アクセントについて検討していく。同時に、言語習得の観点から、英語教育と第 2 言語習得についても見ていく。					
18.学習目標と DPとの関連	1. コミュニケーション能力 2. 課題発見・課題解決能力 3. 第 2 言語習得に関する専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	中尾俊夫他編『図説 英語史入門』 1988 年 大修館書店					
20.参考文献						
21.成績評価	小課題 10% パフォーマンス・プレゼンテーション 30% レポート 20% 試験 40%					
22.コメント	積極的な参加と英語によるパフォーマンスの向上を期待します。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 水曜日昼休み 研究室オフィスアワー 木曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回：英語 学序説Ⅰ	英語学序説Ⅰ 1) 世界語としての英語 2) 色々な英語			ゲルマン民族大移動について、図式化したレポート		
第 2 回：英語 学序説Ⅱ	英語学序説Ⅱ 1) 英語史研究の目的、時代区分 2) 英語の祖先語 3) グリムの法則、ヴェルネルの法則			ゲルマン語から英語への発展について的小レポート		
第 3 回：英語	古英語Ⅰ			古英語の特徴を A4 一枚に纏める		

の始まりー古 英語期Ⅰ	古英語概説	
第4回：古英 語期Ⅱ	古英語Ⅱ ベオウルフ	『ベオウルフ』の書き出しの文を語彙・文法を分析して、日本語に訳し、A4一枚にまとめる。
第5回：中英 語期Ⅰ	中英語Ⅰ 中英語概説	中英語の特徴をA4一枚に纏める
第6回：中英 語期Ⅱ	中英語Ⅱ チョーサー『カンタベリー物語』	チョーサー『カンタベリー物語』序の歌の語彙と文法を分析して、日本語に訳し、A4一枚にまとめなさい。
第7回：近代 英語期Ⅰ	近代英語Ⅰ 近代英語概説	近代英語の特徴をA4一枚に纏めなさい。
第8回：近代 英語期Ⅱ	近代英語Ⅱ シェイクスピア『ロミオとジュリエット』	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』のバルコニーシーンの語彙と文法を分析し、A41枚にまとめて提出する。
第9回：現代 英語期 世界の英語へ	現代英語期 大英帝国の繁栄と英語の展開	7つの海を支配していった大英帝国の世界進出に伴い、全世界へと広がっていった英語の状況をA4一枚にまとめなさい。
第10回：世界 の英語Ⅰ World EnglishesⅠ	世界の英語Ⅰ 連合王国の英語	連合王国（イギリス）内の英語の諸方言について、A4一枚にまとめなさい。
第11回：世界 の英語Ⅱ World EnglishesⅡ	世界の英語Ⅱ アメリカとカナダの英語	北米（アメリカとカナダ）に進出していった英語がその後どのような発展を遂げたか、発音と文法を中心にA4一枚にまとめなさい。
第12回：世界 の英語Ⅲ World EnglishesⅢ	世界の英語Ⅲ オーストラリアとニュージーランドの英語	流刑地として始まったオーストラリアを中心とする豪州の英語の発展について、発音・文法を中心に、A4一枚にまとめなさい。
第13回：世界 の英語Ⅳ World EnglishesⅣ	世界の英語Ⅳ アジアの英語	イギリスおよびアメリカの植民地であったアジアの諸国（香港、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドパキスタン、セイロン、バングラデシュ、等）において、英語がどのように発展していったかをA4一枚でまとめなさい。
第14回：英語 の将来	英語の未来	世界共通語（リンガ・フランカ）として発展してきた英語の未来について、A41枚でまとめなさい。
第15回：ふり かえりと試験	ふりかえりと試験	最終レポートの持参

1.授業コード (ナンバリング)	LIN102-Y51	2.科目名	英語学Ⅱ	3.単位数	2
4.授業担当教員	有本純				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科 グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校 1 種(英語) 中学 1 種(英語)教 員免許 (必修)		11.先修条件	なし (英語学 1 を履修していることが望まし い)	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	lecture, presentation, pair work	
16.履修制限	none (内容が高度になるので、受講は 2 年生以上が望ましい)				
17.授業の目的と概要	<概要> Based on English Linguistics I, this course will further students' knowledge of English linguistics, especially on syntax, semantics, pragmatics, and related areas such as information structure, comparison between English and Japanese, and discuss some topics about those fields and give a presentation for a practical language class. <目的> Understanding the linguistic theory and using your knowledge to apply it for language teaching.				
18.学習目標と D P との関連	DP(4) 問題発見・解決力の学修に関連しています。 1) Students can understand theories of syntax, semantics, and related area in English linguistics. 2) Students can use logical thinking to analyze language phenomena. 3) Students can use knowledge for teaching grammar.				
19.教科書・教材	textbook: none Handouts are given on the Web Class.				
20.参考文献	Taishukan's Encyclopedia of English Linguistics. Crystal (2003) A Dictionary of Linguistics and Phonetics. Blackwell any English-English / English-Japanese dictionary Other reference books will be mentioned in the class.				
21.成績評価	1) Homework (HWK) 3 点×5 回=15 点 (answer questions) 学習目標 1 に対応 2) Quiz 5 点×3 回=15 点 (review quiz) 学習目標 2 に対応 3) Presentation 7 点×2 回=14 点 (explaining grammar & vocabulary)学習目標 3 に対応 4) Report 8 点×2 回=16 点 (summary of your presentations) 同上およびふりかえり 5) Exam 40 点 (総括試験)				
22.コメント	1. Understanding is the key to this course, no memorizing work. In the final exam, y o u c a n bring a dictionary and the handout given to the Web Class. 2. Your submission after the deadline will not be accepted except due to unavoidable circumstances. 3				
23.オフィスアワー	なし				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
1	Introduction (syllabus, course objectives, etc.) Syntax 1 (統語論: Major Units, word Order, Parts of Speech)			HWK 1	
2	Syntax 2 (Verb: Tense, Aspect), Pair Work			HWK 2	
3	Syntax 3 (Verb: Mood), Quiz 1			HWK 3	

4	Syntax 4 (Structure of Noun Phrase), Quiz 2	Review
5	Syntax 5 (Articles), Review of Syntax, Quiz 3 Explaining grammatical items (説明・担当決定)	Preparation of Group Work
6	Group work: Explaining grammatical items (質問受付) Semantics 1 (意味論: Introduction)	Make a PowerPoint file & Practice Presentation
7	Presentation on explaining grammatical items: individual	Write a Report 1
8	Semantics 2 (Synonymy, Antonymy), Submit Report 1 (Web Class)	Review Report 1
9	Semantics 3 (Hyponym, Semantic Relations of Sentences)	Review
10	Pragmatics (語用論: Speech Act Theory, Felicity Conditions, Cooperative Principle)	Review
11	Review of Semantics & Pragmatics Comparison of words between English & Japanese	HWK 4
12	Speech Level, Discussion theme: Do katakana words support or disturb vocabulary learning? (説明・担当決定)	HWK 5
13	Speech Level (Group Work), Information Structure	Make a PowerPoint file & Practice Presentation
14	Presentation on Katakana Words: individual	Write a Report 2
15	Final Exam: You can use a dictionary and handouts, but no PC or smartphone. (総括試験: 辞書・配付資 料参照可: PC・スマホ不可) Submit Report 2 (Web Class)	Review for the Exam Report 2

1.授業コード (ナンバリング)	LIN203-A51	2.科目名	英語音声学Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	長瀬慶來					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育学部（初等英語教育コース） 国際コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	高校教諭 1 種(英語)、中学教諭 1 種 (英語)		11.先修条件	英語音声学 1 を履修していることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	lecture, activity		
16.履修制限	教職課程の学生は必修 受講を希望する学生は、第 1 回目の授業に必ず出てください。					
17.授業の目的と概要	目的：英語音声学の理論的側面を学び、自身の発音を改善して EIL（国際語としての英語）を基 準とするレベル以上に発音能力を引き上げることを目的としている。 概要：prosody と呼ばれる強勢、リズム、イントネーションに関する理論と発音指導による矯正 を行い、合わせて子音・母音といった個別音についても、同様に理論と実践の両面を扱う。					
18.学習目標と DP との関連	DP(6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 1)日本語の音声と比較し、英語音声学の理論を説明できる 2) 英語発音が英語指導者レベルにまで達する					
19.教科書・教材	片山、長瀬、上斗『英語音声学の基礎』研究社 ISBN9784327421342 .JC.Wells 『英語のイントネーション』研究社					
20.参考文献	必要に応じて、授業中に指示する。					
21.成績評価	1) 発音テスト：8 点× 5 回=40 点（文強勢、イントネーション、音声変化、子音、母音）学 習目標 2 に対応 2) レポート：10 点× 2 回=20 点（母音および子音に関する課題）学習目標 1 に対応 3) 総括試験：40 点（筆記および発音実技） ＊合格基準：発音テスト 3 回以上受験、レポートは 2 回とも提出、総括試験を受験					
22.コメント	発音ソフトを使用する。 必要な資料は Web Class で配布する。 ＊オンライン授業になった場合は、録音用アプリの使い方について、別途説明する。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み センターオフィスアワー：木曜日お昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	導入（シラバス説明、発音評価アプリの使用説明）、発 音診断テスト、 発音器官の構造と名称、子音・母音の分類基準と発音 記号について			予習：教科書 第 7 章（45 分）		
2	発音診断テストの返却と説明、第 7 章 語強勢、文強 勢、リズム（発音練習）			予習：教科書 第 6 章、発音練習（60 分）		
3	第 6 章 弱形（聞き取りと発音）、音節、音節構造、音 節主音			予習：教科書 第 8 章、発音練習（60 分）		
4	第 8 章 イントネーション 1（ピッチ、音調核、種類と 文法・話者の心的態度との関係）			予習：教科書 第 8 章、発音練習（60 分）		
5.	第 8 章 イントネーション 2（発音練習）、発音テスト			予習：教科書 第 5 章、発音練習（60 分）		

	1（文強勢）	
6	第5章 音声変化（連結、脱落、同化、弱化）、発音テスト1の返却と説明	予習：教科書 第3章、発音練習（60分）
7	第3章 子音1（破裂音、鼻音、摩擦音）、発音テスト2（イントネーション）	予習：教科書 第3章、発音練習（60分）
8	第3章 子音2（破擦音、側音、接近音、子音群）、発音テスト2の返却と説明	予習：教科書 第4章、発音練習（30分）、レポート1作成（60分）
9	第4章 母音1（前舌）、発音練習、発音テスト2の返却と説明 レポート1 Web Class へ提出	予習：教科書 第4章、発音練習（60分）
10	第4章 母音2（中舌、後舌）、子音の復習、発音テスト3（音声変化）	予習：教科書 第4章、発音練習（60分）
11	第4章 母音3（二重母音）、発音練習、発音テスト3の返却と説明	レポート2作成（60）、発音練習（30分）
12	第4章 母音の復習、パラグラフの音読、発音テスト4（子音） レポート2： Web Class へ提出	復習、発音練習（50分）
13	パラグラフの音読、発音テスト4の返却と説明、発音テスト5（母音）	復習、音読練習（90分）
14	パラグラフの音読、全体の復習、発音テスト5の返却と説明	復習、音読練習（90分）
15	総括試験（筆記と発音実技）	

1.授業コード (ナンバリング)	MED104-M51	2.科目名	臨床栄養学		3.単位数	1
4.授業担当教員	粕谷幸司					
5.授業科目の区分	専門基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	専門基礎科目			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	栄養系の種類とはたらき、消化・吸収、体内代謝について、ライフステージ別の栄養や疾患別食事療法について、さらにチーム医療としての NST や、栄養アセスメントから栄養ケア計画までの栄養ケアマネジメントに必要な知識と手法を学習する。					
18.学習目標と DPとの関連	看護を行う上で必要不可欠な臨床栄養学に関する基礎的知識を修得する。					
19.教科書・教材	≪系統看護学講座 専門基礎分野≫人体の構造と機能[3]栄養学 医学書院をご用意ください。					
20.参考文献	日本人の食事摂取基準 2020 CKD 診療ガイドライン 2018 糖尿病治療ガイド 2022-2023 高血圧治療ガイドライン 2019 急性、慢性心不全診療ガイドライン 2021 糖尿病食品交換表 第9版					
21.成績評価	各授業終了時に、授業内容のまとめシートを提出する（約3割）と、総括試験（約7割）で評価する。 授業内容のまとめシート（30%）・総括試験（70%） 各回ごとにまとめシート（A4サイズ1/2ページ）提出あり。					
22.コメント	まずは?頃の??活に関?を持ち、?分の健康と??活について考えてみましょう。そして、看護と栄養学の関わりについて学習していきましょう。 毎回の授業にまとめシート（当日の授業を自分でまとめたレポート）を提出してもらいます。授業終了後、回収します。 ※締め切り期限を過ぎたものについては原則として認めません。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	栄養学と看護、栄養状態の評価・判定、栄養ケアマネジメント 日本人の食事摂取基準、国民健康・栄養調査			まとめシート提出		
第2回	栄養素の種類とはたらき、エネルギー代謝			まとめシート提出		
第3回	栄養素の消化・吸収、栄養素の体内代謝			まとめシート提出		
第4回	ライフステージと栄養①② 乳児期、幼児期、学童期、思春期・?年期、成?期、妊娠期・授乳期、更年期、高齢期			まとめシート提出		
第5回	臨床栄養?疾患別?事療法の実際① 循環器疾患、消化器疾患			まとめシート提出		
第6回	臨床栄養?疾患別?事療法の実際② 消化器疾患続き、栄養代謝疾患			まとめシート提出		
第7回	臨床栄養?疾患別?事療法の実際③			まとめシート提出		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	MED107-M51	2.科目名	疾病・治療論Ⅰ（内科系）		3.単位数	1
4.授業担当教員	吉田明弘					
5.授業科目の区分	専門基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では、看護学を学ぶうえで必要不可欠な疾患・治療についての基礎的知識を習得することをねらいとする。代表的な内科系疾患（循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、血液疾患、免疫疾患、内分泌代謝疾患、腎・泌尿器疾患）をとりあげ、疾患の病因、症状、検査、治療・合併症について学習するとともに、臨床現場で出会う看護の対象が抱えているであろう様々な疾患とその治療について理解するための学習の視点・方法を学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	人間についての幅広い専門知識を用いて対象者を多面的にとらえ、論理的思考に基づいて看護問題・課題を考えることができる。（レベル2）：本講義では専門知識として代表的な内科系疾患について学修し、他の内科系疾患を学習する視点や方法を学びます。					
19.教科書・教材	1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院. 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器 医学書院. 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4] 血液・造血器 医学書院. 4. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器 医学書院. 5. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝 医学書院. 6. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院. 7. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー・膠原					
20.参考文献	1. 医療情報科学研究所編： 病気が見える（シリーズ），メディックメディア 2. 佐藤千史,井上智子編： 病態生理ビジュアルマップ（シリーズ），医学書院					
21.成績評価	総括試験により評価する					
22.コメント	北播磨総合医療センターの豊富な経験を持つ専門医が、実臨床を踏まえて講義します。本講義では、各器官系の代表的な内科系疾患について学習します。講義で学んだ内科系疾患の学習の視点・方法をもとに、他の内科系疾患についての学習を主体的に進めていきましょう。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	各器官系における代表的な内科的疾患または病態をとりあげ、病因、症状・徴候、検査、治療・合併症の概略について講義する。			○教室外学習（予習、復習）/◎教室外グループ学修/★提出物/◆持参物◆		
1 回目	免疫系（三崎健太先生） アレルギー・膠原病					
2 回目	腎・泌尿器系（白井敦先生） 慢性腎臓病					
3 回目	循環器系（吉田明弘先生） 症状と検査 虚血性心疾患					
4 回目	呼吸器系（西村善博先生） 慢性閉塞性肺疾患（COPD）					
5 回目	血液造血器系（杉本健先生） 急性骨髄性白血病・悪性リンパ腫					
6 回目	内分泌代謝系（安友佳朗先生） 糖尿病					
7 回目	循環器系（吉田明弘先先生） 不整脈 心筋疾患					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	MED108-M51	2.科目名	疾病・治療論Ⅱ（外科系）		3.単位数	1
4.授業担当教員	中村哲					
5.授業科目の区分	看護学科	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では、看護学を学ぶうえで必要不可欠な疾患・治療についての基礎的知識を習得することをねらいとする。代表的な外科系疾患（循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、脳・神経外科疾患、整形外科疾患）をとりあげ、疾患の病因、症状、検査、治療・合併症を習得するとともに、臨床現場で出会う看護の対象が抱えているであろう様々な疾患とその治療について理解するための学習の視点・方法を学ぶ。また、周手術期における全身管理や集中治療に関する基礎的知識を学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	人間についての幅広い専門知識を用いて対象者を多面的にとらえ、論理的思考に基づいて看護問題・課題を考えることができる。（レベル2） 本授業では、周手術期管理の基礎、外科的治療が必要な疾患の病因、症状、検査、治療・合併症を臨床の医師より授業を受けます。					
19.教科書・教材	1. 矢永勝彦，小路美喜子編著，矢永勝彦，星順隆，他著(2011). 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論．東京，医学書院。 2. 浅野浩一郎，梅村美代志，他(2011).系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器．東京，医学書院。 3. 上塚芳郎，岡田彩子，他(2011). 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器．東京，医学書院。 4. 金田智，川原英之，他(2011). 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器．東京，医学書院。 5. 井手隆文，竹村信彦，他					
20.参考文献						
21.成績評価	出席状況及び最終テストにより評価する。					
22.コメント	豊富な経験を持つ専門医が実臨床を踏まえて講義します。3年次の実習が始まるまでに、基礎的な知識をしっかりと学んでください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
				○教室外学習（予習、復習）/◎教室外グループ学修/★提出物/◆持参物◆		
1 回目	周手術期管理 2（橋本和磨先生） 手術侵襲、および術後の全身管理・集中治療について講義する。					
2 回目	周手術期管理 1（石本大輔先生） 麻酔学の基礎、および術前・術中の全身管理について講義する。					
3 回目	整形外科系（岡山明洙先?） 代表的な整形外科疾患である大腿骨近位部骨折および腰椎椎間板ヘルニア等に関して講義する。					
4 回目	消化器系（中村哲先生）					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	MED109-M51	2.科目名	疾病・治療論Ⅲ（精神/老年）		3.単位数	1
4.授業担当教員	原賢太、川村 剛					
5.授業科目の区分	専門基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	講義概要 本講義では、看護学を学ぶうえで必要不可欠な疾患・治療についての基礎的知識を習得することをねらいとする。代表的な精神疾患の病因、症状、検査、治療について学ぶ。また、加齢現象、および高齢者に特有な疾患の病因、症状、検査、治療について学ぶ。本講義では、代表的な疾患とその治療の学びを通して、臨床現場で出会う患者が抱えているであろう様々な疾患とその治療について理解するための学習の視点・方法を学習する。					
18.学習目標と DPとの関連	生命を尊び、対象者がもつ価値観、信条の多様性を理解し、それらをありのまま受け入れ、相手の立場を尊重する行動や態度をとることができる。 人間や健康を総合的に捉え、説明することができる。					
19.教科書・教材	精神：「系統看護学講座」精神看護学 1 精神看護の基礎、医学書院. ISBN978-4-260-04213-0 老年：「系統看護学講座」専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論、医学書院. ISBN978-4-260-00668-2					
20.参考文献	精神：講義の際に必要なに応じて提示する。					
21.成績評価	精神：総括試験 50％ 老年：総括試験 50％					
22.コメント	超高齢社会を迎えた日本の医療において、老年医学の知識は不可欠です。しっかり勉強しましょう。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	〇4 回 （原賢太先生） 老年医学において、加齢による心身の変化や高齢者に特徴的な疾患（認知症、精神・神経疾患）をとりあげ、病因、症状、検査、治療等の概略、学習の視点について講義する。 第 1 回 高齢者に多い症候と老年症候群 第 2 回 認知症 第 3 回 脳梗塞と高齢者で注意すべき感染症 第 6 回 骨粗しょう症および高齢者の内分泌・代謝疾患					
	〇4 回（川村剛先生） 精神医学における代表的な精神疾患について原因、症状、検査、治療等の概略について講義する。 第 4 回 総論 第 5 回 統合失調症 第 7 回 躁うつ病					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	MED110-M51	2.科目名	疾病・治療論Ⅳ（母性/小児）		3.単位数	1
4.授業担当教員	川崎圭一郎、松尾博哉					
5.授業科目の区分	専門基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では、看護学を学ぶうえで必要不可欠な疾患・治療についての基礎的知識を習得することをねらいとする。妊娠・分娩・産褥期の経過と周産期の特徴的な疾患について取り上げ、病因、症状、検査、治療について学ぶ。また、小児期の特徴的な疾患・障害を取り上げ、疾患の疫学、病因、症状、検査、治療、合併症、発達への影響について学習する。					
18.学習目標と DPとの関連	本講義では、代表的な疾患とその治療に関する学びを通して、臨床現場で出会う患者が抱えているであろう様々な疾患とその治療について理解するための学習の視点・方法を学習する。					
19.教科書・教材	(川崎) 「系統看護学講座」専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論、医学書院. ISBN978-4-260-01990-3 (松尾) 「系統看護学講座」専門分野Ⅱ 母性看護学 1 母性看護学概論、医学書院. ISBN9784260042253 「系統看護学講座」専門分野Ⅱ 母性看護学 2 母性看護学各論、医学書院. ISBN9784260042239 「系統看護学講座」専門分野Ⅱ 成人看護学 9 女性生殖器、医学書院. ISBN9784260035675					
20.参考文献	1. 臨床病態学 小児編 ISBN978-4-86174-005-3 (川崎) 2. 看護師・看護学生のための レビューブック 2014 第 15 版 ISBN978-4-89632-469-3 (川崎)					
21.成績評価	小児 (川崎)：最終試験 (50 点) ?性(松尾)：最終試験 (50 点)					
22.コメント	川崎：分からないことを分からないままにしないで質問して下さい。 松尾：体調を整えて、授業に臨んでください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	(川崎) 小児期の感染症をはじめとする代表的な疾患とその治療の概要について講義する。 1) 感染症と予防 小児によくみられる感染症と予防接種について学習する。 2) 小児の内科疾患・外科関連疾患 小児によくみられる内科疾患・外科関連疾患について学習する。 ※相互に関連する内容も多いので前後することもあります。 ※最終試験					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	MED203-A51	2.科目名	医学一般		3.単位数	2
4.授業担当教員	濱名傳平					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福祉			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	高校(福祉) 社会福祉士受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	現実の医療・社会福祉環境を提示しながら、社会福祉士・高校教諭（福祉）に必要な医学知識を学ぶ講義を行います。					
18.学習目標と DPとの関連						
19.教科書・教材	新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病 第3版 医学一般 社会福祉士養成講座編集委員会編集					
20.参考文献						
21.成績評価	総括試験・確認テスト・講義への取り組み・出席率					
22.コメント	教科書を棒読みするような講義は決してしません！ 国家試験対策の為だけの講義は決してしません！ 学内で『一番楽しい & 一番為になる & 一番受けたい 講義』を 目指します！！					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	ライフステージにおける心身の変化と健康課題（1）					
2	ライフステージにおける心身の変化と健康課題（2）					
3	健康および疾病の捉え方					
4	身体構造と心身機能					
5	疾病と傷害の成り立ちおよび回復過程					
6	リハビリテーションの概要と範囲					
7	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション（1）					
8	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション（2）					
9	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション（3）					
10	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション（4）					
11	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション（5）					
12	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション（5）					
13	疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション（6）					
14	公衆衛生					
15	総括試験					

1.授業コード (ナンバリング)	MNG104-Y52	2.科目名	ホスピタリティマネジメント		3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義を中心とする		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	『目的』 ・授業では、ホスピタリティ産業における最大の目標である「顧客満足実現」について様々な事業や企業を事例を基にその重要性について学ぶ。将来従事する仕事に生きる発想やスキルを身につける。 『概要』 ・授業では、「商品としてのホスピタリティ」の概念を明らかにする。ホスピタリティ産業の経営と管理上必要とされる理論の考察を通じて、顧客満足について正確に理解し、ホスピタリティ産業では、どのようにモノやサービスを提供すればよいのか、そのために人材をどのようにマネジメントすればよいのか、などについて学ぶ。また、優れた顧客満足活動を実践している企業の経営についても考察し、理論がホスピタリティの実践にどのように役立つのかも学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	『学習目標』 1. ホスピタリティ産業の事産業特性を具体的に説明できる。 2. 「ホスピタリティ」「サービス」「おもてなし」などの概念の違いを歴史的な背景を踏まえて説明できる。 3. 特にホスピタリティ産業においてなぜ顧客満足や従業員満足が重要なのかについて説明できる。 4. ホスピタリティ論の学びを通じて、就職活動など、自らのキャリア形成の参考にすることができ る。 『関連するディプロマポリシー』 ①自律性③多様性理解④問題発見・解決力⑥専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書は使用しない。 資料を配布する。					
20.参考文献	必要に応じて授業中に紹介する。					
21.成績評価	授業参加姿勢 20% (学修目標の1・2・3・4 に対応) 授業理解確認レポート (毎授業) 50% (学修目標の1・2・3・4 に対応) 最終確認テスト 30% (学修目標の1・2・3・4 に対応)					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室 OA(3-306 号室)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	・オリエンテーション 講義内容について、成績評価等 ・サービス / ホスピタリティとは？ ① 日本社会の現状と観光立国宣言 ② サービス/ホスピタリティとは？			予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成		

		・パソコンは持参すること
第2回	・今なぜ、ホスピタリティを重視するのか ・商品としてのサービス/ホスピタリティ	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第3回	・ホスピタリティ産業のビジネス環境の変化について	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第4回	・日本のホスピタリティ産業の現況について - 経済全体におけるホスピタリティ産業規模 - ホスピタリティ産業の地域経済に及ぼす効果 - 宿泊産業に期待される役割等	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第5回	・日本のホスピタリティ産業の課題について	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第6回	・日本のホスピタリティ産業の課題について② - 宿泊施設 ホテル、旅館のビジネス特性等と課題	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第7回	・1回～6回までの復習 ・サービスの概念・サービスの特徴（特性）について① - サービスの定義、基本的性質（特性）、構成要素の全体像について	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第8回	・サービスの概念・サービスの特徴（特性）について② - サービスの成果を左右する態度変数 - 交通サービス、ホテルサービスの構造 - サービスの現状認識	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第9回	・サービス/ホスピタリティ・マネジメント - サービス・マネジメントシステム - マーケットセグメンテーション - サービスコンセプト - 組織理念と文化	予習：事前に資料を配布、予習ポイントを指示するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成

		・パソコンは持参すること
第 10 回	・サービス/ホスピタリティ・マネジメント② - サービスデリバリーシステム - サービス・デリバリー設計のためのツール（サービスブループリント・サービス・スクリプト） - TDL のサービス・マネジメント・システム - スーパーホテル Lohas 東京駅八重洲中央口のマネジメント・システム	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第 11 回	・サービス・マーケティング・ミックスの要素 - サービス・マーケティングの 4 P - 宿泊産業における 4 P - レベニューマネジメントとイールドマネジメント事例	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第 12 回	・顧客満足を実現する組織と人材① - サービス（ホスピタリティ）企業における人材の役割 - 日本のホスピタリティ産業の特徴と課題	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第 13 回	・顧客満足を実現する組織と人材② - 従業員満足の考え方と顧客満足 - 関係性マーケティングの考え方	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成 ・パソコンは持参すること
第 14 回	・関係性（Relationship）マーケティングの考え方と顧客満足 - 関係性マーケティングの考え方 『事例紹介と学習』	予習：事前に資料を配布するので読んでおくこと。 復習：自分の言葉で学習内容をまとめ要約出来るように努める。 ・授業確認レポート作成. ・パソコンは持参すること
第 15 回	・全体の復習と確認テストの実施	確認テストの実施 パソコンは持参すること。 Web Class でテスト提出。

1.授業コード (ナンバリング)	MNG201-A51	2.科目名	経営戦略論		3.単位数	2
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	経営学科				9.履修学年	2 年生～
10.取得資格の要件			11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	●目的 皆さんは「戦略」という言葉をよく聞くことがあると思います。戦略という言葉が、多くの分野で様々な使われ方をしているので、混乱してしまうかもしれませんが、一般的には、戦いに勝つための大局的な方策や、大きな視点から目標を達成するための計画や方針のことを指します。経営学のなかでも実に幅広く使われています。例えば、経営戦略、企業戦略、事業戦略、成長戦略、市場戦略、競争戦略、マーケティング戦略、製品戦略など他にも数多くあります。それぞれに違いはあるのですが、多くは共通している部分があります。 経営という言葉は「組織」を対象にして使われる言葉です。そして、経営戦略は、長期的な視野にたって、組織のヒト、モノ、カネを使って、未来に向かって何をしようとするのか、その組織の方向付けをおこなうことです。この授業の目的は、皆さんに、経営戦略の基本的な概念を理解し、「戦略の使い手」となる基礎を身につけてもらうことです。経営戦略論を学ぶことは、それは同時に、周囲の状況を見極めて、未来に向けての目的を考え、「我が身にどのような戦略を立てるか」自らの生き方の方向を考えることでもあるのです。 ●概要 テキストは『1 からの戦略論(第 2 版)』を使って講義していきます。加えて、1 年次開講の「経営学概論」で使った参考書『ゼミナール経営学入門』からも経営戦略論に関する部分を取り出して、経営学概論の続きを深掘りしていきます。経営学概論で学習した「外部の環境マネジメント①～④」を見直しておきましょう。皆さんは、15 回の講義を通じて、経営学で一般化されている様々な戦略について理解し、そのメカニズムを考えます。各戦略論の概念を理解したうえで、ビジネス誌からも企業事例を抜粋し、その概念を使ってどのように企業の戦略を読み取れるか、現代的なトピックにもチャレンジします。 最初は講義形式で始めますが、学習は決して一人ではありません。授業は「互学互修」がテーマです。皆さんの状況を見ながら、途中で反転学習を行います。お互いから学び、お互いが基礎的な理論を確認していけるように進めていきます。状況をみて、途中から反転授業に切り替えます。皆さん自身がディスカッションを通じて、チーム・ワークで行うようにしてコミュニケーション力を高めます。					
18.学習目標と DP との関連	科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学習に関連しています。 (1)経営戦略論の基礎的な知識を理解します。 (2) 他者を理解し、自分の考えを整理して他者にわかりやすく伝えることができようにします。 (3)協働して学習し、成果を生み出していくチームワーク力を高めていきます。 (4)今日的な企業の問題に対して、経営戦略論のフレームを通して問題を整理し、企業の対応戦略を読み取る力をつけます。					
19.教科書・教材	・ 嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎(2016)『1 からの戦略論(第 2 版)』碩学舎/中央経済。 ISBN：978-4-502-16741-6					

20.参考文献	・伊丹敬之・加護野忠男(2022)『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版。 ISBN-978-4-532-13526-3 ・遠藤功(2020)『ビジネス新・教養講座 企業経営の教科書』日本経済新聞出版。 ISBN：978-4-532-11431-2 ・現在の企業を理解するうえで、「日経ビジネス」や「週刊ダイヤモンド」などのビジネス誌も利用します。	
21.成績評価	・毎回の授業の振り返りアンケート：15%(授業への貢献度として評価します) - ー学習目標の(1)に対応します，学びを確認します。 ・小テストをおこないます。20%（実施時期は授業の進捗状況によります） - ー学習目標の(1)に対応します。 ・グループによる課題発表：40% - ー学習目標の(3)に対応します。 ・最終テスト：25% - ー学習目標の(1)と(2)に対応します。	
22.コメント	・経営学は企業の現実を扱いますから，時代に応じて新しいテーマがたくさん生まれてきます。しかし，それに惑わされることなく現実の経営を理解するには，基本をしっかり身につけることが大切です。経営学概論での参考書『ゼミナール経営学入門』も使います。この1冊をしっかり読み込んで経営学を理解していくことは，皆さんが，道を切り開いてくうえで，大きな自信と指標になります。 ・毎回テキストを読んでくる箇所を指定します。決して多くありませんので，必ず「読む」という習慣をつけましょう。そして毎日のなかに「考える」という時間をと	
23.オフィスアワー	・研究室オフィスアワー：(前期)月曜日第3限 15:00～16:15(研究室 805)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	「オリエンテーション：戦略って何だ。」 ・内容：授業の進め方を説明します。皆さんの「学び」の意識をはっきりさせます。その上で、「戦略」という言葉について考えます。企業とは何か，社会と経済，市場と流通，消費の大きな視点から，経営における戦略の意義を考えます。	・アサインメント 経営戦略論のノートを作ります。今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉で，自らの戦略をタイトルにしましょう。これは仮のタイトルです。最後にどのように変わるか，そのプロセスが大切です。次週に発表してもらいます。
第2回	「戦略グループ分け：経営戦略は企業の数ほどあるのか」 これから学習するチームを作りますから，休んではいけません。まず2人のペア・ワークから進めて，先週の宿題を皆さんで共有します。皆さんの発表を土台にして，組織の経営戦略のあり方や意義について理解します。	アサインメント 今日の振り返りをノートに自由に記入してください。何を発見したか，何を思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいのでWEB CLASS にあげておきましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第3回	「組織構造のデザイン」 ・経営学概論で学習した「組織のマネジメント①，②」に対応します。経営戦略論に入る前に，組織構造の基本デザインにはどのようなものがあるかを確認します。古典的な組織構造は，現代でも有効な側面があります。いくつかの組織デザインを現代の企業から確	アサインメント 今日の振り返りをノートに自由に記入してください。何を発見したか，何を思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいのでWEB CLASS にあげておきましょう。テキストの中から「読んでおく

	認します。	べき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第 4 回	「組織のコンティンジェンシー理論」 ・ 前は組織のデザインについて確認しました。この理解のうえでコンティンジェンシー理論を学習します。コンティンジェンシー理論は、組織の行動や組織の構造が、その周囲の状況や環境に依存するという考え方で 1970 年代に発展しました。適切な戦略を選択するための基盤として重要な概念なので先に学習しておきます。	今日の振り返りをノートに自由に記入してください。何を発見したか、何を思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第 5 回	「アンゾフの成長戦略」 ・ ここからは、経営学概論で学習した「外部の環境マネジメント①～④」を深掘りしていきます。再度、学習した箇所を見直しておきましょう。 経営学なかで戦略論の議論が活発になるのは 1960 年代です。その初期の戦略をアンゾフの成長戦略から進めます。これは戦略の基礎になり、企業の発展の方向を考えるうえで現代でも必須のフレームです。必ず「使える」ようにしてください。このフレームの有効性を現代の企業に事例から確認します。	・ 今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、何を思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・ 皆さんの学習状況によりますが、このあたりから反転学習にします。次週から結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションに入ります。
6 回	「ポストン・コンサルティング・グループのプロダクト・ポートフォリオ・マネジメント」 ・ プロダクトは製品ですが事業と考えても同じです。アンゾフの成長戦略では考えられていなかった資金の流れを全社的に管理することで、複数の事業や製品を有する企業を全体として利益と成長をバランス良く達成しようとするものです。このフレームも戦略論の基礎として重要です。皆さんがこのフレームを使って現代の企業の戦略が理解できるように学習します。	・ 今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・ 結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第 7 回	前回の続きのなかでマイケル・ポーターの博士論文を取り上げます。このポーターの論文で戦略論が大きく変わります。40 年以上前のフレームですが、現代でも業界の構造を捉え、競争戦略を考えるうえでとても有効です。このポーターのフレームを使って業界の構造を捉える練習をします。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・ 結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第 8 回	「経営の環境をどう捉えるのか」 ・ 企業は経営環境をどのように認識すればいいでしょうか。経営学概論で学習した「外部の環境マネジメント①～④」を見直し、SWOT や PEST、3C などのフレームを使って、企業の外部環境を分析してみます。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・ 結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。

第 9 回	「ポーターの競争戦略②」 再び、ポーターの競争戦略の次のステップに入ります。同じ業界で、同じ経営環境にあっても、その企業の戦略はさまざまです。ポーターの基本戦略のフレームから、なぜそのような違いが生まれたのか、実際の企業を例にとって考えていきます。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第 10 回	「製品ライフサイクルと経営戦略」 ここはマーケティング論の製品ライフ・サイクル管理とも重なる部分です。製品ライフサイクルの各ステージではどんな戦略が有効なのでしょう。各ステージで捉えられる市場機会も変わります。また世界的な視野で製品のライフサイクルと捉えることで、グローバルへ展開の機会ともなります。実際の企業の例から確認してみましょう。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第 11 回	「コトラーの市場の地位別の戦略」 同じ業界でも企業の大きさ(ヒト・モノ・カネなどの経営資源)はまちまちです。大きさだけでなく、その経営資源の「質」もまちまちです。つまり、市場の地位が違います。市場の地位という視点からみると、採用する戦略が異なってきます。実際に企業の戦略をコトラーの地位別戦略のフレームから捉えてみましょう。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第 12 回	「バーニーの経営資源に基づく戦略(リソース・ベースド・ビュー)」 2000 年代になって、企業の経営戦略は、製品・サービスの位置(ポジショニング)よりも、企業のもつ経営資源をいかにして活用するのか(リソース・ベースド・ビュー)、他社が真似できない独自の強みを活かすことが重要になる(コア・コンピタンス)という議論がされるようになりました。実際の企業事例からバーニーの戦略論を検討します。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第 13 回	「ビジネス・システムという考え方」 ビジネスにおいては、顧客が適切と認める価値「カスタマー・バリュー」を提供することが大切です。企業が顧客にどのような価値をどのような仕組みで提供するのか、このビジネスの仕組みをビジネス・システムといいます。そのためには企業の内部と外部にある企業との連携をうまく構築し、ビジネスのシステムとして機能させる必要があります。実際に、企業はどのようなビジネス・システムが構築しているのかを確認します。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第 14 回	「ビジネス・ドメインとエイペルの事業の定義」 ・ドメインとは「領域」という意味です。その企業が何をするのか、事業の範囲を決めると何をする企業であるのかがよくわかってきます。我々は何もので、何	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。

	をするのか、その企業のドメインを定義することは、企業活動に焦点をあてることになり、企業の方向性、つまり戦略を決めることにつながります。企業のケースからドメインについてディスカッションしてみます。	・結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第 15 回	「まとめと総括：テストと経営戦略論を通じて学んだこと」 経営学を全体的にとらえるアプローチには、経営管理論、経営組織論、経営戦略論があります。そのなかで学習した「経営戦略論」のパートが終わりました。これまでの学習の理解を確認します。 その後で、経営学概論で学習した他の経営分野とのつながりを見いだせたでしょうか。皆さんが学習した経営戦略論で学んだことをディスカッションします。今後の経営学の学びに結びつけます。	今日のテストを振り返って、経営学概論のノートを見直して補強してください。 次の経営学の学習にむけて、経営戦略論のノートを完成させます。どこにつまずいたのか、さらにどの分野を伸ばしたいのか、印象に残ったことは何か、自らの考えを整理してください。

1.授業コード (ナンバリング)	MNG202-A51	2.科目名	経営組織論		3.単位数	2
4.授業担当教員	肖威					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業では、個人と組織との関係を考察しながら、組織論の基本概念を習得することを目的とする。キャリア・ステージに沿って、組織の中の個人、リーダーシップ、組織の設計及び変革について学習する					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（2）社会的貢献性、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ・個人と組織の関係について多様な視点から考えることができる ・キャリア形成のプロセスを理解し、説明できる ・リーダーシップの意義を理解し、理想的なリーダー像を説明できる ・組織設計、組織運営の基本について理解することができる					
19.教科書・教材	稲葉祐之等『キャリアで語る経営組織—個人の論理と組織の論理』有斐閣、2012					
20.参考文献	加護野忠男等編著『1からの経営学』（第2版）碩学社、2012 年 嶋口充輝他『1からの戦略論』（第2版）碩学社、2016 伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール 経営学入門』					
21.成績評価	①個人ワーク：40 点（詳細は授業時に説明） ②GW プレゼン：20 点 ③総括試験：40 点 合格ライン：60 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー	木曜日昼休み センターオフィスアワー 木曜日 3 限 研究室オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 講義内容：①講義概要、学習目標、評価方法等 ②Q:人はなぜ働くのか			○個人ワーク：経営の仕組み、付加価値、経営資源について復習しよう。120 分		
第 2 回	Ⅰ.キャリアデザインとは（教材 1 第 12 章）			○ワーク①：将来の仕事の選択に当たって、あなたは①企業に就職し、組織の一員として働きたいのか、それとも②自ら起業し、経営者として働きたいのか。150 分		
第 3 回	Ⅰ.キャリアデザインとは（2） 映画鑑賞『October Sky』①			ワーク：映画の感想を書こう。		
第 4 回	映画鑑賞『October Sky』②			個人ワーク：先輩に「リアリティ・ショック」の経験があったか、社会人になってからどのような変化があったか？個人と組織の関係に		

		ついてどのように考えているのか、など訊ねてみよう。120 分
第 5 回	II.入社する（社会化と組織文化）（1） 講義内容： ・組織社会化と組織社会化プロセス ・リアリティ・ショック	次回は PC 持参 ワーク②：自分の関心を持つ企業の組織文化を調べよう。 120 分
第 6 回	II.入社する（社会化と組織文化）（2） 講義内容：組織文化、同質性の怖さと過剰な社会化	*PC 持参 ◎グループワーク：企業間の組織文化の比較 150 分
第 7 回	III.ミクロ組織のマネジメント（2） 講義内容：リーダーシップの意義、優れたリーダーとは 中間レポート提出（WEB CLASS にて）	○ 個人ワーク：予習 優れたリーダーとは何かについて考えよう。 120 分
第 8 回	講義内容：臨機応変のリーダー行動、長期的視点のリーダー行動 ◎グループワーク：リーダーシップの比較	GW リーダーシップの類型について 120 分
第 9 回	IV.組織構造（1） 講義内容：組織構造のデザイン	○ 個人ワーク：予習＆復習 120 分
第 10 回	IV.組織構造（2） コンティンジェンシー理論	復習 120 分
第 11 回	V.コンフリクト・マネジメント-1 講義内容：コンフリクトとは何か	○個人ワーク：集団の失敗について学習しよう 120 分
第 12 回	V.コンフリクト・マネジメント-2 講義内容：コンフリクトの解消	○個人ワーク：ダイバシティ・マネジメントの現状を調べよう。
第 13 回	VI.あこがれの経営企画室 講義内容：組織デザインの基本スタンス、分業及び調整	GW プレゼンに向けての準備 120 分
第 14 回	・ GW プレゼン（組織文化とリーダーシップの比較）	○個人ワーク 総括試験に向けて復習 120 分
第 15 回	・ 総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	MNG202-M51	2.科目名	経営組織論		3.単位数	2
4.授業担当教員	肖威					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業では、個人と組織との関係を考察しながら、組織論の基本概念を習得することを目的とする。キャリア・ステージに沿って、組織の中の個人、リーダーシップ、組織の設計及び変革について学習する					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（2）社会的貢献性、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ・個人と組織の関係について多様な視点から考えることができる ・キャリア形成のプロセスを理解し、説明できる ・リーダーシップの意義を理解し、理想的なリーダー像を説明できる ・組織設計、組織運営の基本について理解することができる					
19.教科書・教材	稲葉祐之等『キャリアで語る経営組織—個人の論理と組織の論理』有斐閣、2012					
20.参考文献	加護野忠男等編著『1 からの経営学』（第 2 版）碩学社、2012 年 嶋口充輝他『1 からの戦略論』（第 2 版）碩学社、2016 伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール 経営学入門』					
21.成績評価	①個人ワーク：40 点（詳細は授業時に説明） ②GW プレゼン：20 点 ③総括試験：40 点 合格ライン：60 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー	木曜日昼休み センターオフィスアワー 木曜日 3 限 研究室オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 講義内容：①講義概要、学習目標、評価方法等 ②Q:人はなぜ働くのか			○個人ワーク：経営の仕組み、付加価値、経営資源について復習しよう。120 分		
第 2 回	Ⅰ.キャリアデザインとは（教材 1 第 12 章）			○ワーク①：将来の仕事の選択に当たって、あなたは①企業に就職し、組織の一員として働きたいのか、それとも②自ら起業し、経営者として働きたいのか。150 分		
第 3 回	Ⅰ.キャリアデザインとは（2） 映画鑑賞『October Sky』①			ワーク：映画の感想を書こう。		
第 4 回	映画鑑賞『October Sky』②			個人ワーク：先輩に「リアリティ・ショック」の経験があったか、社会人になってからどのような変化があったか？個人と組織の関係に		

		ついてどのように考えているのか、など訊ねてみよう。120 分
第 5 回	II.入社する（社会化と組織文化）（1） 講義内容： ・組織社会化と組織社会化プロセス ・リアリティ・ショック	次回は PC 持参 ワーク②：自分の関心を持つ企業の組織文化を調べよう。 120 分
第 6 回	II.入社する（社会化と組織文化）（2） 講義内容：組織文化、同質性の怖さと過剰な社会化	*PC 持参 ◎グループワーク：企業間の組織文化の比較 150 分
第 7 回	III.ミクロ組織のマネジメント（2） 講義内容：リーダーシップの意義、優れたリーダーとは 中間レポート提出（WEB CLASS にて）	○ 個人ワーク：予習 優れたリーダーとは何かについて考えよう。 120 分
第 8 回	講義内容：臨機応変のリーダー行動、長期的視点のリーダー行動 ◎グループワーク：リーダーシップの比較	GW リーダーシップの類型について 120 分
第 9 回	IV.組織構造（1） 講義内容：組織構造のデザイン	○ 個人ワーク：予習＆復習 120 分
第 10 回	IV.組織構造（2） コンティンジェンシー理論	復習 120 分
第 11 回	V.コンフリクト・マネジメント-1 講義内容：コンフリクトとは何か	○個人ワーク：集団の失敗について学習しよう 120 分
第 12 回	V.コンフリクト・マネジメント-2 講義内容：コンフリクトの解消	○個人ワーク：ダイバシティ・マネジメントの現状を調べよう。
第 13 回	VI.あこがれの経営企画室 講義内容：組織デザインの基本スタンス、分業及び調整	GW プレゼンに向けての準備 120 分
第 14 回	・ GW プレゼン（組織文化とリーダーシップの比較）	○個人ワーク 総括試験に向けて復習 120 分
第 15 回	・ 総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	MNG205-A51	2.科目名	ホスピタリティマネジメント		3.単位数	4
4.授業担当教員	中山美佐子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学科 英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、視聴覚教材を使用、グループディスカッション、プレゼンテーション		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【【目的】】 ○ 企業がどのような施策を執り、そこで働く社員が具体的に、どのような行動をとること で、顧客満足度を追求しているのかを、実際の企業の取り組み事例から学ぶ。 その学びを、社会でどう生かすか考え、アルバイト、インターンシップ、就職先で工夫と実践 ができることをめざす。 【【概要】】 ● 接客マナーや、電話応対、クレーム応対など、実際に仕事に就いたときに「できる」こと を身につけることと、ホスピタリティマネジメントとして顧客満足度を上げる経営のための、 視点や思考を身につけることの両立をめざす。 ● 新型コロナによるパンデミックによって、「顧客満足」「従業員満足」「サービス」などの、 あり方に変化がある。時代や人が求めるホスピタリティとは何かを考え、時代が変わっても通 用するホスピタリティマインドを身につける。 ● 本授業では、一方的に授業を受けるのではなく、自分の意見を言語化して発言したり、グ ループ学習を通して、他者の経験や考えから学ぶことも重要視する。毎授業グループワーク・ グループディスカッションを行う。 ● 事例は主に視聴覚教材、自らの体験、他者の体験談などから学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ○ 企業活動においても、行政、その他においても、「顧客視点」「顧客目線」が、経済を動か す基本である。本講義では、「顧客満足の基本」について、顧客・社員・経営など多角的な視点 から学び、真の「ホスピタリティ」とは何かを考察したり、話し合う中で、現状の問題解決と より高い目標達成をめざす。 ○ 学んだホスピタリティ精神、態度、思考を、学習環境や実習、インターンシップなどにお いて、行動レベルで発揮できることをめざす。 本科目の学習目標（身につくスキル）は、次のとおりです。 ①社会人としての言葉づかい（電話応対含む）、立ち居振る舞い、挨拶、ご案内ができる ②ホスピタリティの基本を知り、顧客満足度をあげるホスピタリティ経営の仕組みについて理 解する。その上で具体策を考える。 ③自分のパーソナリティを知り、サービス業での実習での強み弱みを自覚して、行動・表情・ 表現をセルフコントロールする行動目標を持ち、実践する。 ④クレーム対応の基本を知る。感情のセルフコントロールの方法を知り、職場の人間関係・お 客様対応に生かすための自己育成目標を立てる。					
19.教科書・教材	①適宜、資料を webclass で配布します。 ②感情診断アセスメント（2 回分 1000 円）→授業中に説明します。					

	○毎回パソコンを持参してください。小テスト等を webclass 上で行う場合があります。	
20.参考文献	「日本でいちばん大切にしたい会社シリーズ 1～8巻」あさ出版 「社会人ホスピタリティ 要点チェック&確認問題」日本ホスピタリティ検定協会編 「【2020 年度版】ホスピタリティ検定 公式テキスト&問題集」経済法令研究会 「顧客満足 CS の知識」小野譲司著 日経文庫 「顧客満足ってどうやるの？」佐藤知恭著 日本経済新聞社 「ホスピタリティ・マネジメント入門」第2版 服部勝人著 丸善 「カスタマーサクセスとは何か」弘子ラザヴィ著 英治出版 「ホスピタリティマネジメント」(第2版)徳江順一郎 同文館出版 「伊那	
21.成績評価	●ミニレポート 30% 【学習目標②③④】 ●小テスト 30% 【学習目標①】 ●最終レポート 40% 【学習目標②③④】 ※それぞれのテーマ・内容については授業内に伝えます。	
22.コメント	●ホスピタリティの考え方や具体例には、生活の中でも出会うことができます。日頃から、学習する意識で企業人の行動を観察したり、新聞やビジネス雑誌などで、最新の情報を得ておきましょう。 ●遅刻・早退・欠席は、自己責任です。抜けた授業内容は自力でキャッチアップすること。 ●受講者の理解度、世の中のトレンド、その他の理由で、講座内容に変更が生じる場合があります。その場合、授業内、または、Webclass などでお知らせします。	
23.オフィスアワー	○授業内に質疑応答の時間が無かった場合、webclass のメッセージで、授業の内容についての質問に対応します。 ○授業についての「お知らせ」は、webclass の「お知らせ」または「タイムライン」で案内します。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】「ガイダンス」 ●講座の目的と進め方 ・講座参加の留意事項 ●シラバスをベースに、講座の内容、評価方法ほかについて案内する 【第2回】 ●基本姿勢の練習（立ち姿・座り姿・立ち方・座り方） ●基本姿勢の説明図を作成する	シラバス必携 ※この科目専用のノートを1冊用意してください。（B5以上の大きさのもの）または、パソコンにこの授業のノートを取るためのファイルを作成ください。
【第3回】 【第4回】	【第3回】「ホスピタリティの基本」 ●ホスピタリティとは ●顧客満足（CS）とは何か、全体像を理解する 【第4回】「自己理解」① ●感情診断アセスメント ●ホスピタリティ精神の発揮を邪魔するもの ●グループワーク	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC上のファイル可）を作り、毎回持参する ●パソコンも毎回持参する。小テストも webclass 上で行う場合があります。
【第5回】 【第6回】	【第5回】【第6回】 ●クレーム対応の基本 ●アンガーマネジメントの基本とトレーニング。感情的にならない対応のために。 ●怒りの仕組み ●怒り感情とは ●衝動のコントロール、思考のコントロール、行動のコントロール	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノート（PC上のファイル可）を作り、毎回持参する ●アンガーマネジメント診断結果 ●アンガーマネジメント診断結果から、改善ポイントを見出し、問題解決に向けてトレーニングを開始する。 ※のちにレポートにして提出

	●「べきの違い」の理解とすり合わせ ●クレーム対応のNG ※アンガーマネジメントトレーニングのプロセスと結果は、のちに中間レポートとして提出する（詳細は授業内で案内します）	
【第7回】 【第8回】	【第7回】マナー力アップ ●第一印象、あいさつ、表情 ●初対面の挨拶「名刺の扱い」と「名刺の渡し方・受け取り方」 【第8回】ケーススタディ DVD「出会いの瞬間」 ●事例企業「かぶらやグループ」「ホンダクリオ新神奈川」「オートウェーブ」「神崎屋」他	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する ●名刺入れ、または、名刺入れと同じ形状の代わりになるものを持参する
【第9回】 【第10回】	【第9回】「ホスピタリティの基本」事前期待と顧客満足度 ●お客様の事前期待と顧客満足度の関係 ●顧客満足の評価基準 【第10回】ケーススタディ DVD「心をくばる、心を表す」 ホスピタリティマインドの表現や行動、考え方から、お客様の感動を呼ぶサービスについて気づく。 事例企業： 「ホテル志戸平」「焼肉一番カルビ」「サントアン」「かぶらやグループ」「BAGZY」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する
【第11回】 【第12回】	【第11回】「自己理解」②・「他者理解」・「他者適応」 ●DVDより。4タイプで自己理解と他者理解を深める ●4タイプ別コミュニケーションの取り方について ●4タイプ別コミュニケーションの注意点、のびしたい点 【第12回】グループワーク ●タイプ別、接客の好み・留意点 ●仕事上の強みと弱み ●職場でのコミュニケーションのコツ	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する
【第13回】 【第14回】	【第13回】マナー力アップ 「言葉づかい」「接客用語」 ●3種の敬語 ●ビジネス対応言葉 ●ワンランクアップの言葉づかい 【第14回】ケーススタディ DVD「高め続けるお客様満足」 事例企業：「ネットトヨタ南国」「ザ・リッツカールトン大阪」「四国管財」「オオゼキ」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する
【第15回】 【第16回】	【第15回】【第16回】マナー力アップ 「電話対応の基本」① ※言葉づかい小テスト ●言葉づかい小テストの振り返りと、解説	○タイプ別コミュニケーションについての、ミニレポート提出（詳細は授業内で案内します） ●前回までの復習をしておく

	●電話対応の基本、受け方・かけ方 ●電話の取り次ぎ ※実習	●この科目専用のノートを作り、毎回持参する
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 マナー力アップ 「電話対応の基本」② ●電話対応の復習 ●不在電話の対応と処理 ●様々な場面の電話対応 ●就職活動での電話対応の場面トレーニング 【第 18 回】 ケーススタディ：チームワーク① DVD 「全員がお客様係」 ●接客担当ではなくとも、社員全員がお客様の方を向いて行動・仕事をしている企業について学ぶ。 事例企業： 「サントアン」「新和建設」「かぶらやグループ」「ネットヨタ南国」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】「ホスピタリティの基本」 ●いい会社とは グループディスカッション&プレゼンテーション 【第 20 回】 ケーススタディ：チームワーク② DVD 「心を一つにする」 ●組織が理念の実現に向かってベクトルを合わせることの意義について学ぶ。 事例企業： 「ホンダクリオ新神奈川」「川越胃腸病院」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ステークホルダーとは、 ●誰のために、企業は存在するのか 【第 22 回】「ホスピタリティの基本」 ●顧客とは誰か ●従業員満足と顧客満足 ●従業員満足とは何か	●感情のコントロールのトレーニングについてレポートを書く ●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】【第 24 回】 ケーススタディ DVD「常に考える 未来工業」 ●他社と差をつけるには、何をすればいいのか ●戦わずに勝つ ブルーオーシャン戦略 事例企業：「未来工業」 グループディスカッション&プレゼンテーション	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】【第 26 回】 社員の意識研究 「いい会社をつくりましょう」 ステークホルダー（広い意味での利害関係者）の視点を持って学ぶ。 ケーススタディ：「伊那食品工業」 グループワーク：寒天の製造で、確固たるファンを獲得し、業界トップとなった企業の社員の意識、組織風土の作り方について学び、「良い会社」と言われる要因を、分析する。	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する ●2 度目のアンガーマネジメント診断受検
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】【第 28 回】 総合事例研究 日本経営品質大賞に 2 度も輝いた企業の、CS・ホスピタリティの考え方や実践、行動の定着について考え	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する

	る。 ケーススタディ：「ザ・リッツカールトン大阪」 グループワーク：ホスピタリティではトップクラスの企業がどのように、その向上に取り組んでいるのか、研究し発表する。(グループディスカッション・プレゼンテーション)	
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】【第 30 回】 ●学びの総括。 ●気づきの共有と振り返り、または復習 ●最終レポートの評価ポイントと解説	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する ○最終レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	MNG205-Y51	2.科目名	ホスピタリティマネジメント		3.単位数	4
4.授業担当教員	中山美佐子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学科 英語コミュニケーション学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、視聴覚教材を使用、グループディスカッション、プレゼンテーション		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 ○ 企業がどのような施策を執り、そこで働く社員が具体的に、どのような行動をとること で、顧客満足度を追求しているのかを、実際の企業の取り組み事例から学ぶ。 その学びを、社会でどう生かすか考え、アルバイト、インターンシップ、就職先で工夫と実践 ができることをめざす。 【概要】 ● 接客マナーや、電話応対、クレーム対応など、実際に仕事に就いたときに「できる」こと を身につけることと、ホスピタリティマネジメントとして顧客満足度を上げる経営のための、 視点や思考を身につけることの両立をめざす。 ● 新型コロナによるパンデミックによって、「顧客満足」「従業員満足」「サービス」などの、 あり方に変化がある。時代や人が求めるホスピタリティとは何かを考え、時代が変わっても通 用するホスピタリティマインドを身につける。 ● 本授業では、一方的に授業を受けるのではなく、自分の意見を言語化して発言したり、グ ループ学習を通して、他者の経験や考えから学ぶことも重要視する。毎授業グループワーク・ グループディスカッションを行う。 ● 事例は主に視聴覚教材、自らの体験、他者の体験談などから学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ○ 企業活動においても、行政、その他においても、「顧客視点」「顧客目線」が、経済を動か す基本である。本講義では、「顧客満足の基本」について、顧客・社員・経営など多角的な視点 から学び、真の「ホスピタリティ」とは何かを考察したり、話し合う中で、現状の問題解決と より高い目標達成をめざす。 ○ 学んだホスピタリティ精神、態度、思考を、学習環境や実習、インターンシップなどにお いて、行動レベルで発揮できることをめざす。 本科目の学習目標（身につくスキル）は、次のとおりです。 ①社会人としての言葉づかい（電話応対含む）、立ち居振る舞い、挨拶、ご案内ができる ②ホスピタリティの基本を知り、顧客満足度をあげるホスピタリティ経営の仕組みについて理 解する。その上で具体策を考える。 ③自分のパーソナリティを知り、サービス業での実習での強み弱みを自覚して、行動・表情・ 表現をセルフコントロールする行動目標を持ち、実践する。 ④クレーム対応の基本を知る。感情のセルフコントロールの方法を知り、職場の人間関係・お 客様対応に生かすための自己育成目標を立てる。					
19.教科書・教材	①適宜、資料を webclass で配布します。 ②感情診断アセスメント（2 回分 1000 円）→授業中に説明します。					

	○毎回パソコンを持参してください。小テスト等を webclass 上で行う場合があります。	
20.参考文献	「日本でいちばん大切にしたい会社シリーズ 1～8巻」あさ出版 「社会人ホスピタリティ 要点チェック&確認問題」日本ホスピタリティ検定協会編 「【2020 年度版】ホスピタリティ検定 公式テキスト&問題集」経済法令研究会 「顧客満足 CS の知識」小野譲司著 日経文庫 「顧客満足ってどうやるの？」佐藤知恭著 日本経済新聞社 「ホスピタリティ・マネジメント入門」第2版 服部勝人著 丸善 「カスタマーサクセスとは何か」弘子ラザヴィ著 英治出版 「ホスピタリティマネジメント」(第2版)徳江順一郎 同文館出版 「伊那	
21.成績評価	●ミニレポート 30% 【学習目標②③④】 ●小テスト 30% 【学習目標①】 ●最終レポート 40% 【学習目標②③④】 ※それぞれのテーマ・内容については授業内に伝えます。	
22.コメント	●ホスピタリティの考え方や具体例には、生活の中でも出会うことができます。日頃から、学習する意識で企業人の行動を観察したり、新聞やビジネス雑誌などで、最新の情報を得ておきましょう。 ●遅刻・早退・欠席は、自己責任です。抜けた授業内容は自力でキャッチアップすること。 ●受講者の理解度、世の中のトレンド、その他の理由で、講座内容に変更が生じる場合があります。その場合、授業内、または、Webclass などでお知らせします。	
23.オフィスアワー	○授業内に質疑応答の時間が無かった場合、webclass のメッセージで、授業の内容についての質問に対応します。 ○授業についての連絡事項は、webclass の「お知らせ」または「タイムライン」で案内します。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	【第1回】「ガイダンス」 ●講座の目的と進め方 ・講座参加の留意事項 ●シラバスをベースに、講座の内容、評価方法ほかについて案内する 【第2回】 ●基本姿勢の練習（立ち姿・座り姿・立ち方・座り方） ●基本姿勢の説明図を作成する	シラバス必携 ※この科目専用のノートを1冊用意してください。（B5以上の大きさのもの）または、PC上で毎回ノートを取る専用のファイルを作成してください。
【第3回】 【第4回】	【第3回】「ホスピタリティの基本」 ●ホスピタリティとは ●顧客満足（CS）とは何か、全体像を理解する 【第4回】「自己理解」① ●感情診断アセスメント ●ホスピタリティ精神の発揮を邪魔するもの ●グループワーク	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する（PC上のファイル可） ●パソコンも毎回持参する。小テストも webclass 上で行う場合があります。
【第5回】 【第6回】	【第5回】【第6回】 ●クレーム対応の基本 ●アンガーマネジメントの基本とトレーニング。感情的にならない対応のために。 ●怒りの仕組み ●怒り感情とは ●衝動のコントロール、思考のコントロール、行動のコントロール	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する（PC上のファイル可） ●アンガーマネジメント診断結果 ●アンガーマネジメント診断結果から、改善ポイントを見出し、問題解決に向けてトレーニングを開始する。 ※のちにレポートにして提出

	●「べきの違い」の理解とすり合わせ ●クレーム対応のNG ※アンガーマネジメントトレーニングのプロセスと結果は、のちに中間レポートとして提出する（詳細は授業内で案内します）	
【第7回】 【第8回】	【第7回】マナー力アップ ●第一印象、あいさつ、表情 ●初対面の挨拶「名刺の扱い」と「名刺の渡し方・受け取り方」 【第8回】ケーススタディ DVD「出会いの瞬間」 ●事例企業「かぶらやグループ」「ホンダクリオ新神奈川」「オートウェーブ」「神崎屋」他	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する ●名刺入れ、または、名刺入れと同じ形状の代わりになるものを持参する
【第9回】 【第10回】	【第9回】「ホスピタリティの基本」事前期待と顧客満足度 ●お客様の事前期待と顧客満足度の関係 ●顧客満足の評価基準 【第10回】ケーススタディ DVD「心をくばる、心を表す」 ホスピタリティマインドの表現や行動、考え方から、お客様の感動を呼ぶサービスについて気づく。 事例企業： 「ホテル志戸平」「焼肉一番カルビ」「サントアン」「かぶらやグループ」「BAGZY」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する
【第11回】 【第12回】	【第11回】「自己理解」②・「他者理解」・「他者適応」 ●DVDより。4タイプで自己理解と他者理解を深める ●4タイプ別コミュニケーションの取り方について ●4タイプ別コミュニケーションの注意点、のびしたい点 【第12回】グループワーク ●タイプ別、接客の好み・留意点 ●仕事上の強みと弱み ●職場でのコミュニケーションのコツ	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する
【第13回】 【第14回】	【第13回】マナー力アップ 「言葉づかい」「接客用語」 ●3種の敬語 ●ビジネス対応言葉 ●ワンランクアップの言葉づかい 【第14回】ケーススタディ DVD「高め続けるお客様満足」 事例企業：「ネットトヨタ南国」「ザ・リッツカールトン大阪」「四国管財」「オオゼキ」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する
【第15回】 【第16回】	【第15回】【第16回】マナー力アップ 「電話対応の基本」① ※言葉づかい小テスト ●言葉づかい小テストの振り返りと、解説	○タイプ別コミュニケーションについての、ミニレポート提出（詳細は授業内で案内します） ●前回までの復習をしておく

	●電話対応の基本、受け方・かけ方 ●電話の取り次ぎ ※実習	●この科目専用のノートを作り、毎回持参する
【第 17 回】 【第 18 回】	【第 17 回】 マナー力アップ 「電話対応の基本」② ●電話対応の復習 ●不在電話の対応と処理 ●様々な場面の電話対応 ●就職活動での電話対応の場面トレーニング 【第 18 回】 ケーススタディ：チームワーク① DVD 「全員がお客様係」 ●接客担当ではなくとも、社員全員がお客様の方を向いて行動・仕事をしている企業について学ぶ。 事例企業： 「サントアン」「新和建設」「かぶらやグループ」「ネットヨタ南国」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する
【第 19 回】 【第 20 回】	【第 19 回】「ホスピタリティの基本」 ●いい会社とは グループディスカッション&プレゼンテーション 【第 20 回】 ケーススタディ：チームワーク② DVD 「心を一つにする」 ●組織が理念の実現に向かってベクトルを合わせることの意義について学ぶ。 事例企業： 「ホンダクリオ新神奈川」「川越胃腸病院」	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する
【第 21 回】 【第 22 回】	【第 21 回】 ステークホルダーとは、 ●誰のために、企業は存在するのか 【第 22 回】「ホスピタリティの基本」 ●顧客とは誰か ●従業員満足と顧客満足 ●従業員満足とは何か	●感情のコントロールのトレーニングについてレポートを書く ●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する
【第 23 回】 【第 24 回】	【第 23 回】【第 24 回】 ケーススタディ DVD「常に考える 未来工業」 ●他社と差をつけるには、何をすればいいのか ●戦わずに勝つ ブルーオーシャン戦略 事例企業：「未来工業」 グループディスカッション&プレゼンテーション	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する
【第 25 回】 【第 26 回】	【第 25 回】【第 26 回】 社員の意識研究 「いい会社をつくりましょう」 ステークホルダー（広い意味での利害関係者）の視点を持って学ぶ。 ケーススタディ：「伊那食品工業」 グループワーク：寒天の製造で、確固たるファンを獲得し、業界トップとなった企業の社員の意識、組織風土の作り方について学び、「良い会社」と言われる要因を、分析する。	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する ●2 度目のアンガーマネジメント診断受検
【第 27 回】 【第 28 回】	【第 27 回】【第 28 回】 総合事例研究 日本経営品質大賞に 2 度も輝いた企業の、CS・ホスピタリティの考え方や実践、行動の定着について考え	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する

	る。 ケーススタディ：「ザ・リッツカールトン大阪」 グループワーク：ホスピタリティではトップクラスの企業がどのように、その向上に取り組んでいるのか、研究し発表する。(グループディスカッション・プレゼンテーション)	
【第 29 回】 【第 30 回】	【第 29 回】【第 30 回】 ●学びの総括。 ●気づきの共有と振り返り、または復習 ●最終レポートの評価ポイントと解説	●前回までの復習をしておく ●この科目専用のノートを作り、毎回持参する ○最終レポート提出

1.授業コード (ナンバリング)	MNG206-M51	2.科目名	地域マネジメント		3.単位数	4
4.授業担当教員	上山修一					
5.授業科目の区分	基幹科目 地域マネジメント分野 の実務経験のある教員による授業	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義形式		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	地域は、少子高齢化による人口減少、首都圏への一極集中などにより、地域の安全・安心はもとより、存続 そのものが危機にさらされている。この問題を解決するために地域住民が真の豊かで暮らしていけるよう、従来の考え方や習慣、体制にとらわれないイノベーションの発想を活かしつつ、市民、企業、行政などの関係者が主体的に協働して実践していくあり方が重要となってきた。 地方創生の定義やその意味するところについて、現状の地域の問題と課題を理解しながら、地域ビジネスの視点から、地域人材づくりに対する基本的 な考え方はもとより、地域資源の現状評価、ビジネステーマの発見、地域活性化策の考案までのプロセスの概要を理解できるスキルの獲得を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	・ 地域マネジメントの概念を理解し、地域の現状と問題、動向を理解できるようになる ・ 地域活性化の基本的な方法を理解できるようになる。					
19.教科書・教材	教科書の購入は、不要です。適宜、資料を配布します。					
20.参考文献						
21.成績評価	①中間レポート評価（1 回程度を実施予定）で評価 50% ②「考案した簡単な提案書提出」か、「最終課題レポート提出」による評価で 50%として判断する。 ※場合により総括試験を実施し、緊急事態の場合は、レポート課題で代替する可能性もある。 尚、この講義は、出席点は成績判定には考慮しませんが、出席は毎回するようにしてください。					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	【第 1 回】 1.ガイダンス(シラバスに記載の本授業の目標、内容、評価方法、進め方、留意 点など授業の概要を説明) 2.地域マネジメントとは何か、基礎をどのように理解すればよいのか？ 【第 2 回】 1.地域マネジメントの具体的事例から、現状を理解する。			復習：今回の復習及び授業ノート の整理		

	【第 3 回】 1. 地域の現状の問題点と課題について 2. 地域の活性化の方法とはどんなものか？ 【第 4 回】 地域における産業構造や産地などの特徴 1. 産地や企業城下町にの動向 について	復習：今回の復習及び授業ノート の整理
	第 5 回】 地域づくりの枠組みと、その課題 について 1. 地域づくり人材とは 2. 地域づくり人材育成はどのようにされるべきなのか、 【第 6 回】 地域活性化の課題 1. 地域マーケティング 2. グローカル発想 3. 交流人口戦略	復習：今回の復習及び授業ノート の整理
	【第 7 回】 地域資源の評価 1. 地域資源とは何か、再度考えてみる。 2. 地域資源の活用や評価の方法 【第 8 回】 地域マーケティングについて 1. 地域マーケティングとは何か、 2. 地域マーケティングの方法等について	復習：今回の復習及び授業ノート の整理
	第 9 回】 地域中小企業の活性化対策について 金融政策・税制・各種中小企業支援策について 【第 10 回】 地域のブランディングについて 1. 地域におけるブランドとは何か？ 2. 地域団体商標の具体例(農林水産、伝統工芸・産業、お土産物など) 3. 地域ブランド戦略の概要について	復習：今回の復習及び授業ノート の整理
	第 11 回】 ローカル・ベンチャーについて ・何もないところから始まったベンチャー精神で数々の苦難を乗り越えてきたことから理解できることは何か。 【第 12 回】 持続可能な地域を造ることについて ・長期的かつ、住民主体の地域づくりはどうすれば可能なのか？ ★レポート課題（予定） 「これからの地域マネジメントについて」	復習：今回の復習及び授業ノート の整理
	【第 13 回】 問題解決手法「ソーシャルデザイン」とは、観光、育児、地域産業、高齢化、コミュニティ、災害対策など 社会の抱えるさまざまな課題を地域の創造力でクリエイティブに解決する方法について 【第 14 回】 地域を変えるデザインとは、 1. コミュニティを元気にすることについて 2. 地域主導で行うことの大切さとは、	復習：今回の復習及び授業ノート の整理

	【第 15 回】第 16 回 前半の総括演習問題：予定。グループワークを予定 課題（仮）：地域資源等を活用した地域活性化の方法とマネジメントはどんなものか？	復習：今回の復習及び授業ノート の整理
	事例研究 1：地域資源活用についての事例研究・討議	復習：今回の復習及び授業ノート の整理
	事例研究 2：地域づくり人材育成についての事例研究・討議	復習：今回の復習及び授業ノート の整理
	事例研究 3：地域マーケティング（観光マーケティング）の事例研究・討議	復習：今回の復習及び授業ノート の整理
	事例研究 4：ローカルベンチャーの事例研究・討議	復習：今回の復習及び授業ノート の整理
	事例研究 5：ふるさと納税と地域マネジメントの事例研究・討議	復習：今回の復習及び授業ノート の整理
	事例研究 6：「スポーツ×文化×観光」による地方創生の事例研究・討議	復習：今回の復習及び授業ノート の整理
	地域マネジメントの総括：「最終演習」	最終演習では、ノート等の持ち込み可能とします。

1.授業コード (ナンバリング)	MNG211-A51	2.科目名	サービス企画論		3.単位数	2
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	2年生～	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	●目的 市場にはおびただしいほどのサービスや商品が現れます。そして、私たちはそのなかから気に入ったものを選択し購入しています。あなたはなぜそれを選択したのでしょうか。ここを起点にサービスや商品の企画を始めます。といっても、この企画の範囲はとても広いものです。この講義ではサービスや商品アイデアの企画と、そのアイデアをどのようにして伝えるのか、この2つに焦点をあてます。表面的な「カワイイ、カッコイイ」を越えて、サービスや商品を通じてどのようにして生活課題を解決していくのかを企画する過程、そして、そのプロモーションはどうあるべきかを立案する過程を理解していきます。 この講義では、この2つを理解する過程を通じて、アイデアの企画力とそれを市場に伝える伝達力を身につけることが目的です。サービスと商品の企画を学ぶことは、皆さんの創造力とコミュニケーション力を高めることでもあります。 ●概要 テキストは『1からの商品企画』を使って講義していきます。最初は「サービスとは何か」商品論から入り、商品もサービスという「サービス・ドミナント」の考え方を学びます。そして企画の一連のプロセスに従って学習していきます。 サービスや商品を企画するためにいかにして情報を収集するか。そして、収集した情報をもとに企画のコンセプト設計や視覚化をおこないます。アイデアの創出、コンセプトの開発、プロトタイプイング(試作品開発)の手法を学習します。最終には、企画したものが、消費者のニーズに合ったものか、顧客ニーズとの検証というステップで学習します。 授業は「互学互修」がテーマです。最初に企画チームを作ります。最初は講義形式ですが、皆さんの理解が進んだところで、反転授業にします。皆さんからテキスト・プレゼンテーションをおこなってもらいます。互いから学び、お互いが企画プロセスを確認していけるように進めていきます。また、途中で「実務家」をお招きし、サービスや商品を作り出し、それを人々に伝える実際の現場について講義いただきます。企画のフレームを理解し、実務の現場を確認した最終には、各企画チームで、企画提案のプレゼンテーションをおこなってもらいます。					
18.学習目標と DPとの関連	科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（6）専門的知識・技能の活用力の学習に関連しています。 (1)企画のプロセスを理解し、各ステップでとられる企画手法の基礎的な知識を理解します。 (2) 他者を理解し、自分の考えを整理して他者にわかりやすく伝えることができようにします。 (3)協働して学習し、成果を生み出していくチームワーク力を高めていきます。 (4)今日的な市場課題に対して、企画フレームを通して問題を整理し、創造力とその伝達力をつけます。					
19.教科書・教材	・ 西川英彦・廣田章光(2012)『1からの商品企画』碩学舎/中央経済。ISBN：978-4-502-69300-7					
20.参考文献	●参考書					

	・現在の企業を理解するうえで、「日経トレンド」「日経ビジネス」や「週刊ダイヤモンド」などのビジネス誌も利用します。	
21.成績評価	・毎回の授業の振り返りアンケート：20% (授業への貢献度として評価します) - ー学習目標の(1)に対応します，学びを確認します。 ・小テストを数回おこないます。30%（実施時期は授業の進捗状況によります） - ー学習目標の(1)に対応します。 ・グループによる課題発表：30% - ー学習目標の(3)に対応します。 ・最終プレゼンテーション：20% - ー学習目標の(1)と(2)に対応します。	
22.コメント	・最初に分けた企画チームで最後まで学習します。テキストの企画の流れをチーム全員で理解し，同時進行でチームの企画を練り上げていきます。企画をするというのは簡単なことではありません。授業内でできることはわずかです。授業外での学習が非常に多くなります。チームで力を合わせて乗り切ってください。 ・毎回テキストを読んでくる箇所を指定します。決して多くありませんので，必ず「読む」という習慣をつけましょう。そして毎日のなかに「考える」という時間をとってください。 ・普段の日常には企画のヒントとなる現象でいっぱいです。フ	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	「オリエンテーション：企画って何だ。」 ・内容：授業の進め方を説明します。皆さんの「学び」の意識をはっきりさせます。その上で，「企画する」という言葉について考えます。15回をかけて何をするのか。その概要を説明します。	ノートを作ります。今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。そして短い言葉で，今日の発見をタイトルにしておきましょう。来週までの自分自身の広告企画を考えてきてください。これは15回が終わったあとに，振り返り作り変えてください。就職において自分を考えるいい材料になります。
第2回	「企画チームの編成：世の中の現実は何人の数ほど存在する」 これから学習する企画チームを作りますから，休んではいけません。まず2人のペア・ワークから進めて，先週の宿題を皆さんで共有します。自己広告プレゼンテーションをしてみましょう。皆さんの発表を土台にして，企画チームを編成し，これからの企画学習のあり方や企画することの意義を考えます。	今日の振り返りをノートに自由に記入してください。何を発見したか，思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいのでWEB CLASS にあげておきましょう。チームメンバーはお互いに連絡がとれるようにしておいてください。
第3回	「商品論とサービス」 最初は商品論から学習します。サービスもまた商品であり，商品・サービスには様々なアプローチがあります。いくつかのアプローチから，これから企画に向き合う対象である商品とサービスの属性や分類方法，商品の概念を理解します。	今日の振り返りをノートに自由に記入してください。何を発見したか，思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいのでWEB CLASS にあげておきましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第4回	・サービスや商品を企画するには，企画に含まれる要素を段階的にわけて考えることが有効です。企画にはどんな作業があるのかを分解し，段階的にわけて考え	今日の振り返りをノートに自由に記入してください。何を発見したか，思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは

	ます。この回では、これからおこなう企画への大きな地図を理解し、その進め方とプロセスの全体像を確認します。	簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第 5 回	「データの収集の方法」 ・データは自らが収集するか、他の人や会社が収集した既存のデータを活用するか、また量的なデータを扱うのか、質的なデータを扱うのかで、データ収集の方法がかわります。扱うデータにはどんなものがあるか大きな理解をしてから、主に扱うデータの収集、インタビュー法をチームで体験してみます。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・皆さんの学習状況によりますが、このあたりから反転学習にします。次週から結成した企画チームで、テキスト・プレゼンテーションに入ります。
第 6 回	表例としてあがるのはエスノグラフィーです。対象者の動作の「ありのままの使用現場」を観察しようとするものです。「エスノグラフィー」は、もともと民俗学などで行われる「現場に入り込み、そこに潜む意味を探る」アプローチです。参与観察ともいいます。実際に使ってみましょう。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した戦略グループで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第 7 回	商品やサービスの企画をおこなうのは企業だけではありません。消費者のイノベーションによって生まれたものはたくさんあります。最終的に商品を購入して使っているのは消費者だから、よく分かって利用しているリードユーザーに具体的にどんなサービスやものがほしいのか、消費者自身に企画を担ってもらおうとするものです。事例をみながら、考えていきます。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想や思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した企画チームで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第 8 回	「アイデアの創出」 ・ここからはアイデアの創出です。アイデアは企画の最初におこなう大事な作業です。曖昧模糊とした手探り状態から、どのようにすれば出せるのでしょうか。この回でアイデア創出のいくつかの手法を学び、実践します。これからはチーム活動を一層活発化させていってください。	・アサインメント 今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した企画チームで、テキスト・プレゼンテーションの準備をしてください。
第 9 回	「コンセプトの開発」 ・コンセプトはターゲットに選定した顧客に提供する価値は何かを定義したものです。誰に(WHO)、何を(WHAT)、どうやって(HOW)届けるのか、ここで企画プロセスが統合されます。商品においてはプロトタイプを開発したり、サービスにおいても開発したサービスが顧客が抱えている課題を解決することになっているかを検証しながら、顧客が解決したい課題に到達するまで、いったりきたりして練り上げていきます。	概要が理解できたところで、結成した企画チームで、企画の準備にとりかかってください。

第 10 回	「実務家による企画現場の実際」 このあたりで、実務家に登壇いただき、実際にどのようにアイデアをコンセプト、そしてプリに作りあげているのかを、説明いただきます。但し、実務家の時間の都合で他の回になるかもしれません。	聞いた内容を振り返り、ノートに記入してください。実務家の話から何を発見したのでしょうか。何を感じたのでしょうか。感想を WEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した企画チームで、テキスト・プレゼンテーションの準備と企画の準備にとりかかってください。
第 11 回	「プロトタイピング」 テキストとビデオを使ってプロトタイピングのプロセスを学びます。考えたコンセプトを実際の手仕事にしてみると、色々な問題や課題に気が付きます。ここではその手法と手順を学びます。もしくは、伝わる企画プレゼンテーションの方法について考えます。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・結成した企画チームで、企画の準備をしてください。
第 12 回	「企画の実践①：着想からコンセプト開発へ」 チーム内で、これまで商品企画で積み上げてきた内容を確認します。チームで収集してきたデータを、これまで学習した手法をつかって、アイデアを創出し、コンセプトを練り上げていく作業に取り組みます。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・チーム内で頻繁に連絡をとりあい、コンセプト作りを進めてください。
第 13 回	「企画の実践②：コンセプト開発からプロトタイピングへ」 先週に、引き続きコンセプト開発を精緻化させていきます。チーム内でプロトタイピングをおこない、企画の検証をすすめていきます。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・最終の企画発表の準備をしてください。
第 14 回	「最終企画発表①」 ・各チームが考案した企画をプレゼンテーションします。皆さんは、その企画案についてアイデアの創造性、実行可能性、プレゼンテーションの納得性の評価をおこないます。	今日の振り返りをノートに記入してください。何を発見したか、思ったかを記録しておくことが大切です。感想を簡単でいいので WEB CLASS にあげておきましょう。 ・最終の企画発表の準備をしてください。
第 15 回	最終企画発表②とまとめと総括」 ・各チームが考案した企画をプレゼンテーションします。皆さんは、その企画案についてアイデアの創造性、実行可能性、プレゼンテーションの納得性の評価をおこないます。	サービス企画論のノートを完成させます。どこにつまずいたのか、さらにどの分野を伸ばしたいのか、印象に残ったことは何か、自らの考えを整理してください。

1.授業コード (ナンバリング)	MNG211-M51	2.科目名	サービス企画論		3.単位数	2
4.授業担当教員	上山修一					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義形式	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	モノが豊になった現代においては、農業・工業生産中心の産業からサービス業への移行起きている。外食産業や小売業でも販売している商品そのものよりも、どのようにその商品を提供するかというサービスに重点が置かれ始めている。サービスの提供方法は業種、業態、顧客、等の状況により異なるが、顧客を満足させなければいけないという観点では同じである。そのためには、従業員満足度と顧客満足度を計数的に分析し、明確なゴールを設定し、対応しなければならない。授業では講義や、一部議論などを行い、色々なサービス業の分析を通じてサービスを理解し、企画立案能力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	基礎知識の習得とケーススタディを通して、サービス産業を理解し、その社会的重要性を学ぶ。 その上で、実際に事業計画を立てて、ビジネスモデル（ビジネスプラン）等を作ることを目標とする。					
19.教科書・教材	適宜、簡易なレジメを授業中に配布する。					
20.参考文献						
21.成績評価	①レポート評価（1 回程度を実施予定）で50％ ※レポート課題は、設問を提示して解答を要求する予定です。（原則、記述式） ?②期末に提出いただく「考案した簡単なビジネスの提案書」による評価で50％として判断する。 ?※場合により、総括試験を実施する予定。（緊急事態の場合課題レポートで代替える可能性あり） ?尚、この講義は、「出席点は成績判定には加点しません」が、出席は毎回するようにするようになしてください。					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	・ ガイダンス ・ サービスとは何か、サービス産業とは何か？					
	・ サービス産業の現状と今後について ・ 第3次産業のサービスについて			講義ノート復習などを行い、復習をする。		
	・ サービスとは、第3次産業だけではないということの理解をする 第1次産業や第2次産業のサービス部門について 事例：自動車製造業や農業のサービスマーケティング			講義ノート復習などを行い、復習をする。		

	・マーケティングとは何か、サービスマーケティングの基礎について ・ビジネスプランとマーケティングの関係について	講義ノート復習などを行い、復習をする。
	世の中に存在する、ビジネスプランの思考方法について 既存企業や、ベンチャーなどの起業において注目されているビジネスプランについて事例を基に、これまでの学習や経験で培った知識・技術を 活用したビジネスプランの講義および討議をする。	講義ノート復習などを行い、復習をする。
	ビジネスモデルとは、(基礎) ビジネスモデル類型について	講義ノート復習などを行い、復習をする。
	ビジネスに必要なサービスマーケティングを考える。	講義ノート復習などを行い、復習をする。
	・クラウドファンディングとは何か、クラウドファンディングの事例と、可能性 ・ビジネスプランとクラウドファンディングの関係について ★ レポート課題（予定）：サービス業におけるマーケティングの重要性について	講義ノート復習などを行い、復習をする。 レポート課題に着手をすること。
	ビジネスモデルとは、(復習)・ビジネスプランとは、ビジネスモデルの作成・ビジネスプランの作成とはどのようにしていくのか、(フレームワークの活用方法について) ・グループワークにて、簡単な、ビジネスモデルの練習 <前半>	講義ノート復習などを行い、復習をする。
	ビジネスモデルとは、(復習)・ビジネスプランとは、ビジネスモデルの作成・ビジネスプランの作成とはどのようにしていくのか、(フレームワークの活用方法について) ・グループワークにて、簡単な、ビジネスモデルの練習 <後半>	講義ノート復習などを行い、復習をする。
	ビジネスモデルの事例研究①	講義ノート復習などを行い、復習をする。
	ビジネスモデル事例研究②	講義ノート復習などを行い、復習をする。
	ビジネスプラン事例研究①	講義ノート復習などを行い、復習をする。
	討議+個人ワーク① 「自己が思考するビジネスプランを作成」 課題：サービス産業又は、サービス部門でクラウドファンディング等を活用したビジネスプランの作成演習」	PC 等持参できる場合は持参すること。 講義ノート復習などを行い、復習をする。

	討議＋個人ワーク② 「自己が思考するビジネスプランを作成」 課題：サービス産業又は、サービス部門でクラウドファンディング等を活用したビジネスプランの作成演習」	PC 等持参できる場合は持参すること。 講義ノート復習などを行い、復習をする。

1.授業コード (ナンバリング)	MNG213-A51	2.科目名	マネジメント・サイエンス		3.単位数	2
4.授業担当教員	北村正仁					
5.授業科目の区分	企業で実務経験がある 教員による授業科?	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	経営学科		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	【目的】 ・経営（マネジメント）という人間の組織的活動であるビジネス課題に対して、科学的かつ論理的な解決策を導き出す考え方や方法論について学ぶ。 【概要】 ・「マネジメント・サイエンス」とは、経営課題（マネジメント課題）を科学的に解決するため、論理的・合理的な意思決定を行うことである。 ・授業の前半は、数理的な手法を学ぶ前に言語データを扱う手法や代表的なセオリーについて学ぶ。 ・具体的には、経営戦略や事業戦略を考える代表的なセオリーとしての「ビジネス・フレームワーク」を学ぶ。 ・授業の後半は、数理的な手法を中心に様々な数的・量的な課題や事象を理解し、科学的かつ論理的な解決策を導き出すために参考となる基礎的手法を学ぶ。 ・具体的には、科学的なマネジメントを行っていくためのベースとなる「オペレーションズ・リサーチ」の各種理論の基礎的な解説を行う。 ・マネジメントサイエンスは数的、量的な問題を扱う学問であるが、できるだけ数式や数学計算に頼らない授業を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目の学習目標は DP の（４）問題発見・解決力、（６）専門的知識・技能の活用力、に関連しています。 学習目標① マネジメント・サイエンスとは何かを理解し説明できる。 学習目標② 代表的なビジネス・フレームワークについて理解し説明できる。 学習目標③ オペレーションズ・リサーチの各種理論の基礎について理解している。 学習目標④ 提示された課題やデータについて、マネジメントサイエンスの各種理論の基礎を活用して、解決策を導き出せる。					
19.教科書・教材	・授業ごとに必要な資料を用意して解説します。（WebClass にて提示します） ・下記の「参考文献」を参考にして下さい。					
20.参考文献	・『すぐわかるマネジメント・サイエンス入門』著：野口博司 日科技連出版社（2007） ・『入門オペレーションズ・リサーチ』著：松井泰子、根本俊男、宇野毅明 東海大学出版会（2008）					
21.成績評価	・毎回課題（毎回の授業内容の振り返り：3 点×14 回） 42 点 ・小テスト（第 6 回授業後に小テストを行う） 20 点 ・総括試験（ノート・資料持込可）（15 回目の授業回で実施） 50 点					
22.コメント	※授業内容は、シラバスの順番や内容を一部変更する場合があります。 ※本講座は「教科書」が無いため、授業資料を基に各自で自作ノートを作成することを推奨します。					
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・オリエンテーション 授業の目的と概要、シラバス、成績評価 マネジメントサイエンスとは ・新しい事業領域の設計法 マネジメントサイエンスにおける用語 新しい事業領域の設計	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 2 回	・新しい事業領域の評価法 事業領域の評価 事業の戦略展開	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 3 回	・戦略立案法 ポジショニングによる戦略立案法 PPM (Product Portfolio Management) その他のポジショニングによる戦略立案法	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 4 回	・戦術展開法 (N7 手法) 新 QC 7 つ道具 (N7) 手法と戦術展開 戦術立案のための準備 N7 手法による戦術展開法	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 5 回	・戦略展開の基本法則 経営戦略展開の基本法則 マーケティング戦略理論	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 6 回	・数理的手法 企業における数理的手法の活用事例 ・小テスト (前半を対象とした小テスト)	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 7 回	・在庫管理 (効率の良い保管方法を求める)	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 8 回	・日程計画 (PERT 法) (仕事をスマートに実行する)	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 9 回	・階層化意思決定法 (AHP 法) (決め方を決める)	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 10 回	・ゲーム理論 (ライバルとの駆け引きに勝つ)	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 11 回	・線形計画 (仕事の効率を高める)	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 12 回	・ネットワーク計画 (最適な通り道を見つける)	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 13 回	・投票力指数 (投票者の選挙への影響力をはかる)	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 14 回	・動的計画 (小さい順に解くのがミソ)	・ WebClass にて毎回課題を出題するので、次回授業までに解答すること。
第 15 回	・総括試験 総括試験と解説	

1.授業コード (ナンバリング)	MNG215-A51	2.科目名	アントレプレナーシップ論		3.単位数	2
4.授業担当教員	福本哲也					
5.授業科目の区分	基幹科目 ビジネスデザイン マーケティング、プランニング分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	[目的] アントレプレナーシップとは、リスクテイキングを厭わず、能動的に新たな試みに取り組んで行動する「企業家（起業家）」の活動と精神のことをいう。本講義では、今経営者だけでなく、経済社会を構成する全てのプレイヤーに必要なアントレプレナーシップを学ぶ。そして、職業選択の一つとして、起業があることを理解し、また、自分たちが起業家になることが可能であることを知っていく。 [概要] 本講義では、アントレプレナーシップを実感できる事例紹介・人物紹介を交えながら、できるだけ分かり易く説明を行う。また、講義では単なる座学に終わることなく、アントレプレナーシップを自身のキャリア形成の指針にまで高めるため、ほぼ毎回、個ワークまたグループワークを行い、実践的でメリハリのついた学習ができるようになっている。 なお、講義内容を次週までに公開するので、予習として読み込んでくる必要があるのと同時に、毎回、パソコンを利用して個ワーク、グループワーク、情報収集や報告を行うので、必ず持参すること。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次のとおりです。 ①アントレプレナーシップの理論や専門用語が理解でき、その意味を説明できる＝知的好奇心 ②人物の功績、社会やビジネスの課題について情報収集ができ、アントレプレナーシップ視点で分析できる＝情報収集/分析力 ③アントレプレナーシップを高め、キャリア育成の為のツールとして活用できる＝思考/構想 [関連するディプロマポリシー] （１）自立性 （２）社会的貢献（３）多様性理解（４）問題発見・解決力（５）コミュニケーションスキル（６）専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	山田幸三・江島由裕 『1からのアントレプレナーシップ』 碩学舎 ,2017 年 ISBN:978-4-502-22281-8 定価:本体 2,400 円+税					
20.参考文献	都度、紹介する。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 (1)授業中の課題、小テスト:15 点 (2)授業中のワーク:15 点 (3)中間レポート「課題テーマは別途発表」:20 点 (4)総括試験「インターネットマーケティングの概念を理解していること、それを用いた企業や商品事例の分析」:40 点					

	(5)e-ポートフォリオ「アントレプレナーシップ論で学んだことを自分の言葉と考え方で表現できる」：10点	
22.コメント	アントレプレナーシップ論は、企業や新市場を育た人をはじめ、生活者や街・お店を観察すること、また、私達の身近な様々な製品やサービス、情報に興味を持つことから始まります。その視点と行動をもつことがアントレプレナーシップ獲得の一步となります。人や街、企業活動や製品、サービスに関心を持って受講することを期待しています。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： センターオフィスアワー：	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	第1回 ○オリエンテーション ・講義の概要、講義の流れ ○教員自己紹介 ○アントレプレナーシップとは、基礎理論 ・アントレプレナーの勧め	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる(60分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第2回	第2回 ○アントレプレナーシップの社会的意義 ーアントレプレナーの果たす役割とは何か？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる(60分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第3回	第3回 ○アントレプレナーシップと倫理教育 ーアントレプレナーには何が必要か？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる(60分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第4回	第4回 ○独立アントレプレナー ーアントレプレナーはいかにして新たな事業を創造するのか？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる(60分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第5回	第5回 ○ファミリー・アントレプレナー ーファミリー・ビジネスは保守的なのか？ 「ユニクロ」を事例に学ぶ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる(60分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第6回	第6回 ○コーポレート・アントレプレナー ー社内からアントレプレナーを生み出すには何が必要なのか？ 「セブンイレブン」事例から学ぶ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる(60分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第7回	第7回 ○アカデミック・アントレプレナー ー大学の研究現場からアントレプレナーは生まれるのか？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる(60分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する

		[中間レポート] 作成と提出
第 8 回	第 8 回 ○ソーシャル・アントレプレナー ーアントレプレナーは社会的問題を解決できるのか？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 9 回	第 9 回 ○誕生・成長初期のアントレプレナーシップ ーどのようなビジネスモデルで勝負するのか？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 10 回	第 10 回 ○成長期のアントレプレナーシップと外部資源 ーいかに獲得して活用するのか？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 11 回	第 11 回 ○成長期のアントレプレナーシップと内部資源 ーいかに蓄積して組織を強くするのか？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 12 回	第 12 回 ○長寿企業とアントレプレナーシップ ービジネスシステムは伝統産業をいかに存続させたか？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 13 回	第 13 回 ○アントレプレナーシップとエスニック・マイノリティ ーコミュニティはアントレプレナーの活力をいかに生み出すのか？ ○グローバル・アントレプレナーシップ ー新興国企業はいかにしてグローバル化するのか？	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 14 回	第 14 回 ○アントレプレナーシップとエコシステム ーなぜシリコンバレーはアントレプレナーを輩出し続けるのか？ アントレプレナーを産む「エコシステム」	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 15 回	第 15 回 ○総括試験	[復習] 総括試験の振り返り

1.授業コード (ナンバリング)	MNG216-A51	2.科目名	ウェルビーイング経営		3.単位数	2
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	2 年生～
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	●目的 今日の企業経営において「ウェルビーイング(well-being)」という言葉が重要なテーマとして注目されています。ウェルビーイング経営は、従業員が身体的・精神的・社会的に良好な状態を保ちながら、やりがいを持って働けるように環境を整備することを目指すものですが、SDGs で掲げられる目標と絡んで、その対象の範囲は広く、色々な角度から議論されています。 ウェルビーイングについては、心理学、経済学、経営学など様々な領域で蓄積されてきた研究成果がありますが、ウェルビーイング経営を理解するには、その根幹にある経営学の分野の人的資本経営や人的資源管理の基礎的な概念をきっちりと理解しておくことが大切です。経営理念から人的資源管理で扱う諸理論、雇用や複利厚生についての基本的な概念を理解したうえで、現代のウェルビーイング経営への理解を深めていきます。 地域や企業における実践事例を取り上げながら、人々がウェルビーイングな状態で生活し、働くために地域政策や企業経営においてどのような方策が必要かを考えます。 これは、皆さん自身の生活や人生をどのように構築していくのか、それが自分にとって満足のいくものであるのか、自らの幸せをどう評価するのかを考えることにつながります。 ●概要 概念的な理解は『1 からの人的資源管理』を土台にして、皆さんが経営学概論で使った『ゼミナール経営学入門』も利用します。これらの概念を理解したうえで、ビジネス誌からの抜粋し、その概念を使ってどのように読み取れるか、現代的なトピックにチャレンジします。 最初は講義形式で始めますが、学習は決して一人ではありません。皆さんの状況を見ながら、反転学習を行います。授業は「互学互修」がテーマです。お互いから学び、お互いが基礎的な理論を確認していけるように進めていきます。 皆さん自身がディスカッションを通じて、チーム・ワークで行うようにしてコミュニケーション力を高めます。					
18.学習目標と DP との関連	科目の学習目標は以下の DP（ディプロマ・ポリシー）の学習に関連しています。 (1) 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができます。(DP の(1)自律的で主体的な態度に対応) (2) コミュニケーションスキル他者を理解し、自分の考えを整理して他者にわかりやすく伝えることができようにします。協働して学習し、成果を生み出していくチームワーク力を高めています。(DP の(5) コミュニケーションスキルに対応) (3)ウェルビーイング経営の基礎にある人的資本経営や人的資源管理の知識を理解します。その上で、ウェルビーイングに関わる今日的な企業の問題を整理し考える力をつけます。(DP の(6) 専門的知識・技能 の活用力に対応)					
19.教科書・教材	・西村孝史・島貫智行・西岡由美(2022)『1 からの人的資源管理』碩学舎/中央経済社。ISBN：978-4-502-40701-7					
20.参考文献	伊丹敬之・加護野忠男(2022)『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版。 ISBN-978-4-532-13526-3（中古で多く出回っている「ゼミナール経営学入門第3版」でも同じ					

	です。) ・青木慶 (?2023)『スキルシェアのすすめーなぜ知の共有がウェルビーイングを向上させるのかー』? 千倉書房?. ISBN-13-978-4-805-11302-8 ・遠藤功(2020)『ビジネス新・教養講座 企業経営の教科書』日本経済新聞出版。 ISBN : 978-4-532-11431-2 ・現在の企業を理解するう	
21.成績評価	・毎回の授業の振り返りアンケート：20%(授業への貢献度として評価します) ー学習目標の(1)に対応します，学びを確認します。 ・小テストを4回おこないます。20% ー学習目標の(3)に対応します。 ・グループによる課題発表：40% ー学習目標の(2)と(3)に対応します。 ・最終テスト：20% ー学習目標の(3)に対応します。	
22.コメント	・経営学は企業の現実を扱いますから，時代に応じて新しいテーマがたくさん生まれてきます。しかし，それに惑わされることなく適応するには，基本をしっかりと身につけることが大切です。授業の進め方と方法が学期の途中で変更になる場合には，別途提示します。 ・毎回テキストを読んでくる箇所を指定します。決して多くありませんので，必ず「読む」という習慣をつけましょう。そして毎日のなかに「考える」という時間をとってください。 ・それには，授業を通じて，思ったこと，考えたことを大切にメモすることが有効です。この蓄積があなたを	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：(後期)月曜日第4限 15:00～16:15(研究室 805)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	「オリエンテーション：「幸せ」をどう測ればいいのか。」 ・内容：授業の進め方を説明します。皆さんの「学び」の意識をはっきりさせます。その上で，「ウェルビーイング」という言葉について考えます。ウェルビーイングの概念について学術的な知見を学び，ウェルビーイングとは何かについて考えます。	ウェルビーイング経営のノートを作ります。 今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。簡単でいいので WEB CLASS にあげてください。
第2回	「ウェルビーイング・チームづくり」 これから学習するチームをつくりますから，休んではいけません。まず2人のペア・ワークから進めて，先週の宿題を皆さんで共有します。企業の人的資源管理を学び，その上でウェルビーイングのあり方や意義について議論するチームを結成します。	学んだ内容に対して，どのように思ったのか，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげてください。
第3回	「人的資源管理とは何か，企業のウェルビーイングの根本にある考え方」 企業の経営にとって，従業員の活用はなぜ重要なのか，組織を構成する一人ひとりの能力や委嘱の発揮が，経営戦略とどう結びつくのかを捉えます。	学んだ内容に対して，どのように思ったのか，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第4回	皆さんは，必ず何らかの組織に所属しています。企業に入ると一人が様々な立場で複数の組織に属していることに気が付きます。企業は一人では成し遂げられな	学んだ内容に対して，どのように思ったのか，今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でい

	い難しい目標を達成しているのですが、それには仕事を分けて、それぞれの仕事を調整する必要があります。この回では、人をマネジメントする組織構造について考えます。	いので WEB CLASS にあげてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第 5 回	・ 日本的経営について学びます。その特徴は、人的資源管理にあります。その内容を学び、その是非についてディスカッションします。	学んだ内容に対して、どのように思ったのか、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第 6 回	「人材育成とキャリア、人的資源管理②」 ・ 働く人々の成長を促す仕組みについて考えていきます。従業員が仕事する上で必要な能力を身につける「人材を育成する」こと、従業員の「キャリア開発」をすることの 2 点から捉えてみます。	学んだ内容に対して、どのように思ったのか、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第 7 回	人的資源管理で扱う基礎的な要素を学習します。これには採用管理、人事評価、配置・異動、報酬管理、雇用調整、労働時間管理、労使関係などがあります。知っておきたいポイントを説明します。扱う範囲が広いので 2 回にわける場合があります。	学んだ内容に対して、どのように思ったのか、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第 8 回	「企業の安全経営と健康経営、人的資源管理④」 従業員が、それぞれの能力を発揮して働くことと、企業がそのための環境づくりをおこなうことは、企業の競争に優位性を築く源泉になります。また企業には、従業員が健康的に働くための職場づくりする責任があります。	学んだ内容に対して、どのように思ったのか、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第 9 回	先進的な企業では「病気でない」状態の確保から、ウェルビーイング高めることに注目する企業がでてきます。なぜウェルビーイングという概念が登場するようになったのか、人的資源管理の視点からその状況を理解します。	学んだ内容に対して、どのように思ったのか、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第 10 回	「ウェルビーイング」の始まりは古い。カネボウの明治の工場経営」 引き続き、ウェルビーイングという概念の歴史を概観して、企業がどのような時代背景のもとで、何が問題となったのか、従業員の複利厚生への考え方、施策の発展過程を理解します。	学んだ内容に対して、どのように思ったのか、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげてください。テキストの中から「読んでおくべき」箇所を伝えます。次回までにしっかり読んでおいてください。
第 11 回	「職場のメンタルヘルスへの関心」 職場の健康問題といえば、身体の問題が中心でし	学んだ内容に対して、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。簡単

	たが、近年では、体だけでなく心の健康、職場のメンタルヘルスへの対策は重要な経営課題となっています。この回では「職場のメンタルヘルス」について考えます。	でいいので WEB CLASS にもあげてください。このあたりで最終のグループ課題に取り組みます。
第 12 回	「職場のハラスメント防止」 職場の内でおこるもめごとやいじめは、個人間の問題として扱われるケースが多くありました。しかし近年では企業の構造に宿る「ハラスメント」に問題として位置づけられるようになってきています。この回では「職場のハラスメント防止」について考えます。	学んだ内容に対して、どのように思ったのか、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげてください。各チームの 14・15 回のプレゼンテーションむけて準備をしてください。
	「ダイバーシティと多様な働き方」 すべての人が自分らしく働くことができる組織を実現することは簡単なことではありません。多くの企業が、より自分らしく働くことができる環境を提供しようとしています。この回では「ダイバーシティ」や「インクルージョン」の基本的な考え方を人的資源管理の視点から考えていきます。	学んだ内容に対して、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。簡単でいいので WEB CLASS にもあげてください。各チームの 14・15 回のプレゼンテーションむけて準備をしてください
第 14 回	「企業におけるウェルビーイングの事例研究①」 各チームから、企業における健康経営や生産性向上の観点からも注目されている働き方とウェルビーイングについての研究や実践例を紹介してもらい、ディスカッションを通じて、ウェルビーイングの経営的効果について考えていきます。 学んだ内容に対して、どのように思ったのか、今日の授業で印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。思ったことは簡単でいいので WEB CLASS にあげてください。次週から各チームのプレゼンテーションです。これまでの資料を整理して報告の準備をしてください	今日の発表について、内容の質、プレゼンテーションの納得性の評価をおこなってください。次週も各チームのプレゼンテーションです。これまでの資料を整理して報告の準備をしてください。
第 15 回	「企業におけるウェルビーイングの事例研究②」 先週に引き続き、各チームから、企業における健康経営や生産性向上の観点からも注目されている働き方とウェルビーイングについての研究や実践例を紹介してもらい、ディスカッションを通じて、ウェルビーイングの経営的効果について考えていきます。	今日の発表について、内容の質、プレゼンテーションの納得性の評価をおこなってください。15 回で書き続けてきた自分のノート整理し、「ウェルビーイング経営」の学びは何であったのか、を確認しましょう。

1.授業コード (ナンバリング)	MNG302-A51	2.科目名	コンプライアンス		3.単位数	2
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	今日の経営において「コンプライアンス Compliance」が極めて重要視されるようになっていきます。企業の不祥事スキャンダルが相次いで起こるのはなぜでしょうか。コンプライアンスとは「法令遵守」と訳されていますが、コンプライアンスは、組織が法律と規制を遵守するという問題の解釈にはとどまりません。 経営学はよい経営をするための学問です。企業の経営の舵取り役を担うのが経営者ですが、経営者が向かう先は誰がどうやって決めるのでしょうか。これは「企業倫理」や「コーポレート・ガバナンス corporate governance(企業統治)」にかかわる問題となります。ガバナンスとは、決定された目的に照らして、企業経営が行われるように経営者を誘導し、適切な経営が行われているかどうかを監視する制度と慣行をいいます。企業の目的そのものの決定にかかわる、経営者がなす企業経営上の決定よりも上位にある概念です。 つまり、企業のコンプライアンスを理解するためには、その基礎にある経営学のガバナンスについての議論を理解しておくことが必要になります。この授業では、ガバナンスについての基本的な概念を理解したうえで、現代のコンプライアンスへの問題を考えられることを目的とします。また、コンプライアンスを学ぶことは皆さん自身が、社会において「何をなすべきか」、「誠実」であることや「自らを律する」ことを考えることでもあります。 ●概要 講義形式ですが、ディスカッションが中心になります。必ず課題文献を読んできてください。問題の捉え方は、皆さんが経営学概論で使った『ゼミナール経営学入門』を参考にします。企業倫理や企業の社会的責任、コーポレート・ガバナンスなどコンプラアンスにかかわる部分を取り出して深掘りしていきます。これらの概念を理解したうえで、ビジネス誌からの抜粋し、その概念を使ってどのように読み取れるか、現代的なトピックにチャレンジします。 最初は講義形式で始めますが、学習は決して一人ではありません。皆さんの状況を見ながら、反転学習を行います。授業は「互学互修」がテーマです。お互いから学び、お互いが基礎的な理論を確認していけるように進めていきます。皆さん自身がディスカッションを通じて、チーム・ワークで行うようにしてコミュニケーション力を高めます。					
18.学習目標と DPとの関連	科目の学習目標は以下の DP（ディプロマ・ポリシー）の学習に関連しています。 ①自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができます。(DP の(1)自律的で主体的な態度に対応) ②コミュニケーションスキル他者を理解し、自分の考えを整理して他者にわかりやすく伝えることができようにします。協働して学習し、成果を生み出していくチームワーク力を高めていきます。(DP の(5) コミュニケーションスキルに対応) ③コンプライアンスを考える企業の経営理念やガバナンスの知識を理解します。その上で、コンプライアンスに関わる今日的な企業の問題を整理し考える力をつけます。(DP の(6) 専門的知識・技能 の活用力に対応)					
19.教科書・教材	伊丹敬之・加護野忠男(2022)『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞出版。 ISBN-978-4-532-13526-3（中古で多く出回っている「ゼミナール経営学入門第3版」でも内容は同じです）					

20.参考文献	・遠藤功(2020)『ビジネス新・教養講座 企業経営の教科書』日本経済新聞出版。ISBN：978-4-532-11431-2 ・今井祐(2021)『新コンプライアンス経営』？文眞堂。ISBN-13-978-4-830-95135-0 ・浜辺陽一郎(2023)『図解 コンプライアンス経営(第5版)』。ISBN-13 -978-4-492-09333-7 ・現在のコンプライアンス問題を「日経ビジネス」や「週刊ダイヤモンド」などのビジネス誌からも取り上げます。	
21.成績評価	・毎回の授業の振り返りアンケート：15%(授業への貢献度として評価します) - ー学習目標の①に対応します，学びを確認します。 ・小テストをおこないます。20% - ー学習目標の③に対応します。 ・グループによる課題発表：40% - ー学習目標の①，②，③に対応します。 ・最終テスト：15% - ー学習目標の(3)に対応します。	
22.コメント	・経営学は企業の現実を扱いますから，時代に応じて新しいテーマがたくさん生まれてきます。しかし，それに惑わされることなく適応するには，基本をしっかり身につけることが大切です。 ・毎回テキストを読んでくる箇所を指定します。決して多くありませんので，必ず「読む」という習慣をつけましょう。そして毎日のなかに「考える」という時間をとってください。 ・それには，授業を通じて，思ったこと，考えたことを大切にメモすることが有効です。この蓄積が，あなたを変えていきます。その時わからなかったことも，後にはわかるようになります	
23.オフィスアワー	(後期)月曜日第4限 15:00～16:15(研究室 805)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	「オリエンテーション。」 ・内容：授業の進め方を説明し，「学び」の意識を確認します。昨今，マスコミを賑わしているコンプライアンスとは何でしょうか。企業経営にとってコンプライアンスとはどういう位置づけをもつものでしょうか。講義に入る前に，広く「コンプライアンス」という言葉についてディスカッションします。	15回で学習するノートを作ります。学習した「内容」だけでなく，「何を思ったか」が大事です。印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。WebClassにもアップしてください。
第2回	「コンプライアンス・チーム分け」 これから学習するチームを作りますから，休んではいけません。まず2人のペア・ワークから進めて，グループ分けします。先週の議論とWebClassのコメントを全員で共有し，グループ単位でディスカッションします。	学習した「内容」だけでなく，「何を思ったか」が大事です。印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。WebClassにもアップしてください。来週までに，課題読んでおくテキスト箇所を伝えます。
第3回	「企業という生き物と経営者の役割」 企業という組織全体のマネジメントをおこなうのが経営者です。なかには自治体の人口をはるかに超える大企業も多く存在します。その経営者の本質的な意味は何でしょうか。経営者の顔にはどんなものがあるのか，先週の課題から，グループ単位でディスカッションします。	学習した「内容」だけでなく，「何を思ったか」が大事です。印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。WebClassにもアップしてください。来週までに，課題読んでおくテキスト箇所を伝えます。
第4回	「コーポレート・ガバナンスとそのメカニズム」 企業は「ヒト」と「カネ」を経営者の采配に委ねています。では，企業そのものを，だれが，どのようにして統治(ガバナンス)するのでしょうか。その中心課	学習した「内容」だけでなく，「何を思ったか」が大事です。印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。WebClassにもアップしてください。来週までに，課題文献を読んで

	題は経営者をいかにしてチェックするかです。読んできた内容を、グループ単位でディスカッションし、グループ単位でディスカッションし、コーポレート・ガバナンスのメカニズムについて考えます。	きてください。
第 5 回	「企業の社会的責任とは何か」 ・伝統的な社会的責任の考え方を理解し、その上で起こった様々な消費者問題と社会問題について第3回で学習した理論をベースにしてディスカッションします。企業の社会的責任はどうあるべきなのか、企業のメセナ活動、慈善活動、企業市民としての社会的責任を考えます。	学習した「内容」だけでなく、「何を思ったか」が大事です。印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。WebClassにもアップしてください。来週までに、課題文献を読んできてください。
第 6 回	「CSR（企業の社会的責任）と CSV(企業価値創造)の考え方」 「企業の共有価値の創造」は企業の利益と社会的課題の解決を両立させることによって、社会問題の解決と企業の競争力向上を両立させ企業と社会の双方に価値を生み出す取り組みを指す社会貢献をいいます。いくつかの事例から SDGs と密接に関係していることを捉えていきます。	学習した「内容」だけでなく、「何を思ったか」が大事です。印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。WebClassにもアップしてください。来週までに、課題文献を読んできてください。
第 7 回	「コンプライアンス問題の出現」 ・1990年代始めに日本企業の経営環境は激的に変化しました。日本企業の海外進出や課外取引が急拡大したことで異なる地域や国の法規制への対応もそのひとつですが、木金機関が引き起こした金融不安と経済崩壊があります。読んできた内容を踏まえて、企業内部のコンプライアンス意識についてディスカッションします。	学習した「内容」だけでなく、「何を思ったか」が大事です。印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。WebClassにもアップしてください。来週までに、課題文献を読んできてください。
第 8 回	「コンプライアンス問題の拡大」 ・コンプライアンス問題に最も大きな影響を与えた「エンロン事件」とは、何が原因だったのでしょうか。課題文献を読んで、浮き彫りにされたコンプライアンス問題とその対応策についてディスカッションします。	学習した「内容」だけでなく、「何を思ったか」が大事です。印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。WebClassにもアップしてください。来週までに、課題文献を読んできてください。
第 9 回	「世界経済を狂わせたコンプライアンス問題」 ・この極めて大きな世界経済を揺るがす経金融危機を引き越した「サブプライム・ローン」と、その後の「リーマン・ショック」と取り上げます。当時これが起こっていることは誰もわかっていませんでした。なぜ、このようなことが起こったのでしょうか。企業を越えたコンプライアンス問題についてディスカッションします。	学習した「内容」だけでなく、「何を思ったか」が大事です。印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。WebClassにもアップしてください。来週までに、課題文献を読んできてください。
第 10 回	「日本の止まらないコンプライアンス問題①」 ・日本においても様々なコンプライアンス問題が起こっています。コンプライアンス違反は、刑事・民事・行政の法的な責任だけでなく、市場から評価は、市場から退場という代償を払うことになります。コンプライアンス問題は後を絶たないのでしょうか。いくつか	学習した「内容」だけでなく、「何を思ったか」が大事です。印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。WebClassにもアップしてください。13回からは、各グループによるコンプライアンス問題の報告になります。資料の収集と発表の準備に取り掛かってくださ

	の事例をみて、グループ間でディスカッションします。	い。
第 11 回	「日本の止まらないコンプライアンス問題②」 引き続き、日本においても起こっているコンプライアンス問題を取り上げます。企業は市場からの排除という代償を払うことにもかわらず、コンプライアンス問題は後を絶たないのか、企業の対応はどのようにあるべきだったのか、グループ間でディスカッションします。	学習した「内容」だけでなく、「何を思ったか」が大事です。印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。WebClass にもアップしてください。13 回からは、各グループによるコンプライアンス問題の報告になります。資料の収集と発表の準備に取り掛かってください。
第 12 回	企業の活動領域はグループ企業だけでなく取引企業も含めると広範囲にわたります。それだけに様々なリスクに対応する必要がある、コンプライアンス過敏やコンプライアンス疲れといった弊害も指摘されます。いくつかの事例からコンプライアンスのネガティブな側面も捉え、この問題がなぜ生じるのかを考えてみます。	学習した「内容」だけでなく、「何を思ったか」が大事です。印象に残ったことを自分の言葉で書きましょう。WebClass にもアップしてください。次週も各チームのプレゼンテーションです。これまでの資料を整理して報告の準備をしてください。
第 13 回	「コンプライアンスのグループ事例研究①」 各チームから、企業におけるコンプライアンスにかかわる事件をとりあげてもらい、何かコンプライアンス違反であったのか、その事件が企業経営に与えた影響、そしてどうすれば防止できていたのか、これまで学習した企業倫理、経営者論、コーポレート・ガバナンス、企業の社会的責任などの観点からディスカッションします。	発表について、内容の質、プレゼンテーションの納得性の評価をおこなってください。次週も各チームのプレゼンテーションです。これまでの資料を整理して報告の準備をしてください。
第 14 回	「コンプライアンスのグループ事例研究②」 前回に引き続き、各チームから、企業におけるコンプライアンスにかかわる事件をとりあげてもらい、何かコンプライアンス違反であったのか、その事件が企業経営に与えた影響、そしてどうすれば防止できていたのか、これまで学習した企業倫理、経営者論、コーポレート・ガバナンス、企業の社会的責任などの観点からディスカッションします。	発表について、内容の質、プレゼンテーションの納得性の評価をおこなってください。次週も各チームのプレゼンテーションです。これまでの資料を整理して報告の準備をしてください。
第 15 回	「コンプライアンスのグループの事例研究③とテスト」 先週に引き続き、各チームのコンプライアンス事例を紹介してもらいます。ディスカッションを通じて、コンプライアンスの経営的効果について考えていきます。最終回では、最終のテストもおこないます。	今日の発表について、内容の質、プレゼンテーションの納得性の評価をおこなってください。15 回で書き続けてきた自分のノート整理し、「コンプライアンス」の学びは何であったのかを確認しましょう。

1.授業コード (ナンバリング)	MNG303-M51	2.科目名	顧客満足論		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡部清一					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学部経営学科			9.履修学年	3 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	■営利、非営利を問わず、経営上で非常に重要であると認識されている「顧客満足：CS（Customer Satisfaction）」の基礎を学びます。 ■「顧客満足」と共に最近注目されている「顧客経験価値：CX（Customer Experience）」などについても学習し、顧客心理やマーケティング、経営戦略について幅広い知識の習得とビジネスにおける対応力を身につけます。					
18.学習目標と DPとの関連	■「顧客満足」に必要な知識を習得することにより、「コミュニケーション能力」「問題発見能力」「課題設定・課題解決能力」等を養うことを目標としています。					
19.教科書・教材	■教科書：『サービスにおける顧客優位のマーケティング』 今村一真著 同分社出版 ■参考書：『CX 戦略』 田中達男著 東洋経済新報社 『感動 CX』 八木典裕他著 東洋経済新報社 『おもてなし幻想』 マシュー・ディクソン他著 実業之日本社					
20.参考文献	■適宜、講義において紹介致します。					
21.成績評価	■ノートテイク： 50% 「顧客満足論」専用ノート（B5 版・KOKUYO/Campus）を作成し、毎回の講義ノートを作成する。 ①講義内容のまとめ ②アサインメント（宿題） ③気付き ※ノートテイクの内容により、評価致します。 尚、ノートは指定ノートを使用して下さい。（指定番以外は提出不可） ■最終総括試験：50%					
22.コメント	■「顧客満足」を学ぶことにより、「コミュニケーション能力」を高め、顧客の心とつながり感動を与える経営とは何かを身につけてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【顧客満足とは何か】 ・オリエンテーション：本講義の目的・内容・進め方・受講の留意点			■「顧客満足論」専用ノート（A4 版）を準備し、毎回の授業に持参すること。 ■毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。		
【第 2 回】	【顧客満足（CS）と顧客経験価値（CX）について】 ・顧客経験価値について ・顧客満足と顧客経験価値はどう違うのか			■【研究対象企業の選定】 「顧客満足度」の向上に取り組んでおり、成長が期待できる上場企業 1 社選定し、その企業内容を調べノートにまとめる。		
【第 3 回】	【顧客満足（CS）と品質・製品マーケティング】 ・マーケティングの中核としての製品戦略 ・価格設定のマーケティング戦略			■本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。		

【第 4 回】	【顧客満足（CS）とサービスマーケティング】 ・ サービスの分類 ・ サービスの特性	■ 本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。
【第 5 回】	【顧客満足（CS）とリレーションシップマーケティング】 ・ 相互作用性重視のマーケティング ・ カスタマーリレーションシップマネジメント	■ 本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。
【第 6 回】	【顧客満足（CS）とソーシャルマーケティング】 ・ 価値共創概念 ・ SDGs への取り組み	■ 本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。
【第 7 回】	【顧客満足（CS）とコミュニケーション対応】 ・ 消費者への効果的な情報伝達 ・ 消費者との対話	■ 本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。
【第 8 回】	【顧客満足（CS）と顧客経験価値（CX）の経営戦略】 ・ 顧客満足を高め収益を上げるために	■ 本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。
【第 9 回】	【顧客経験価値（CX）/ケーススタディ①】 ・ 「水戸ヤクルト販売」	■ 「水戸ヤクルト販売」の顧客満足度、顧客経験価値それぞれの向上に向けた提案を行う。
【第 10 回】	【顧客経験価値（CX）/ケーススタディ②】 ・ 「えちぜん鉄道」	■ 「えちぜん鉄道」の顧客満足度、顧客経験価値それぞれの向上に向けた提案を行う。
【第 11 回】	【顧客経験価値（CX）に対する新たな対応】 ・ デジタル時代の顧客に起きている変化 ・ 新たなマーケットにつながる新しいカギ	■ 本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の「顧客経験価値」の取り組みについて調べノートに記述する。
【第 12 回】	【顧客経験価値（CX）/顧客との新たな関係①】 ・ 顧客との新たな関係を気付くための戦略	■ 本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の「顧客経験価値」の取り組みについて調べノートに記述する。
【第 13 回】	【顧客経験価値（CX）/顧客との新たな関係②】 ・ 顧客との新たな関係を気付くための戦略	■ 本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の「顧客経験価値」の取り組みについて調べノートに記述する。
【第 14 回】	【最終総括試験】	■ 講義ノートの提出
【第 15 回】	【最終総括講義】 ・ これまでの講義内容を振り返って	

1.授業コード (ナンバリング)	MNG303-y51	2.科目名	顧客満足論		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡部清一					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学部経営学科			9.履修学年	3 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	■営利、非営利を問わず、経営上で非常に重要であると認識されている「顧客満足：CS（Customer Satisfaction）」の基礎を学びます。 ■「顧客満足」と共に最近注目されている「顧客経験価値：CX（Customer Experience）」などについても学習し、顧客心理やマーケティング、経営戦略について幅広い知識の習得とビジネスにおける対応力を身につけます。					
18.学習目標と DPとの関連	■「顧客満足」に必要な知識を習得することにより、「コミュニケーション能力」「問題発見能力」「課題設定・課題解決能力」等を養うことを目標としています。					
19.教科書・教材	■教科書：『サービスにおける顧客優位のマーケティング』 今村一真著 同分社出版 ■参考書：『CX 戦略』 田中達男著 東洋経済新報社 『感動 CX』 八木典裕他著 東洋経済新報社 『おもてなし幻想』 マシュー・ディクソン他著 実業之日本社					
20.参考文献	■適宜、講義において紹介致します。					
21.成績評価	■ノートテイク： 50% 「顧客満足論」専用ノート（B5 版・KOKUYO/Campus）を作成し、毎回の講義ノートを作成する。 ①講義内容のまとめ ②アサインメント（宿題） ③気付き ※ノートテイクの内容により、評価致します。 尚、ノートは指定ノートを使用して下さい。（指定番以外は提出不可） ■最終総括試験：50%					
22.コメント	■「顧客満足」を学ぶことにより、「コミュニケーション能力」を高め、顧客の心とつながり感動を与える経営とは何かを身につけてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【顧客満足とは何か】 ・オリエンテーション：本講義の目的・内容・進め方・受講の留意点			■「顧客満足論」専用ノート（A4 版）を準備し、毎回の授業に持参すること。 ■毎回の授業で提示される課題を、ノートにまとめる。		
【第 2 回】	【顧客満足（CS）と顧客経験価値（CX）について】 ・顧客経験価値について ・顧客満足と顧客経験価値はどう違うのか			■【研究対象企業の選定】 「顧客満足度」の向上に取り組んでおり、成長が期待できる上場企業 1 社選定し、その企業内容を調べノートにまとめる。		
【第 3 回】	【顧客満足（CS）と品質・製品マーケティング】 ・マーケティングの中核としての製品戦略 ・価格設定のマーケティング戦略			■本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。		

【第 4 回】	【顧客満足（CS）とサービスマーケティング】 ・ サービスの分類 ・ サービスの特性	■ 本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。
【第 5 回】	【顧客満足（CS）とリレーションシップマーケティング】 ・ 相互作用性重視のマーケティング ・ カスタマーリレーションシップマネジメント	■ 本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。
【第 6 回】	【顧客満足（CS）とソーシャルマーケティング】 ・ 価値共創概念 ・ SDGs への取り組み	■ 本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。
【第 7 回】	【顧客満足（CS）とコミュニケーション対応】 ・ 消費者への効果的な情報伝達 ・ 消費者との対話	■ 本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。
【第 8 回】	【顧客満足（CS）と顧客経験価値（CX）の経営戦略】 ・ 顧客満足を高め収益を上げるために	■ 本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の顧客満足向上の取り組みについて調べノートに記述する。
【第 9 回】	【顧客経験価値（CX）/ケーススタディ①】 ・ 「水戸ヤクルト販売」	■ 「水戸ヤクルト販売」の顧客満足度、顧客経験価値それぞれの向上に向けた提案を行う。
【第 10 回】	【顧客経験価値（CX）/ケーススタディ②】 ・ 「えちぜん鉄道」	■ 「えちぜん鉄道」の顧客満足度、顧客経験価値それぞれの向上に向けた提案を行う。
【第 11 回】	【顧客経験価値（CX）に対する新たな対応】 ・ デジタル時代の顧客に起きている変化 ・ 新たなマーケットにつながる新しいカギ	■ 本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の「顧客経験価値」の取り組みについて調べノートに記述する。
【第 12 回】	【顧客経験価値（CX）/顧客との新たな関係①】 ・ 顧客との新たな関係を気付くための戦略	■ 本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の「顧客経験価値」の取り組みについて調べノートに記述する。
【第 13 回】	【顧客経験価値（CX）/顧客との新たな関係②】 ・ 顧客との新たな関係を気付くための戦略	■ 本日の講義テーマに沿って、「研究対象企業」の「顧客経験価値」の取り組みについて調べノートに記述する。
【第 14 回】	【最終総括試験】	■ 講義ノートの提出
【第 15 回】	【最終総括講義】 ・ これまでの講義内容を振り返って	

1.授業コード (ナンバリング)	MNG308-Y51	2.科目名	ホスピタリティ・コーチング		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	3～4 年	
10.取得資格の要件	※***@***		11.先修条件	ホスピタリティマネジメント論		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	特にありません。					
17.授業の目的と概要	目的：本講義では、サービス産業における接客技術についての知識を学ぶとともに、モチベーションをマネジメントするためのコーチングの技能を修得することを目的とする。 概要：前半ではエアラインを例にホスピタリティについて演習を行いながら、ホスピタリティの実践におけるポイントを学ぶ。後半はそうしたホスピタリティの実践的な知識をベースに、人材育成において重要となるコーチングについて基本的な知識を講義を通じて学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、学科 DP における（１）自律性（３）多様性理解（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル（６）専門的知識・技能の活用力に該当する。 具体的な目標としては以下のとおりである。 ①ホスピタリティの意義と現代社会における有用性について理解する。 ②ホスピタリティを実践している企業の具体的な取り組みなどについて理解する。 ③コーチングの必要性和具体的な実践におけるポイントを理解する。					
19.教科書・教材	教科書はありません。毎回、レジメを配布します。					
20.参考文献						
21.成績評価	①授業理解度（講義内容の理解）・・・40 点 （講義において配布する資料に要点を記入し、内容の理解を深める。そして毎回設定する課題に対して講義内容を踏まえて自分の考えを記述し、提出する。）※学習目標①、②、③に対応 ②ホスピタリティおよびコーチングに関する実技・・・30 点 （授業の中で行うホスピタリティの演習において、講義内容が実践できるかどうかを評価する。）※学習目標①、②、③に対応 ③確認テスト・・・30 点 （講義全体を通してホスピタリティおよびコーチングのポイントを理解し、考察することができる）※学習					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 講義の進め方、目的、評価などの概要を伝える。			講義レビュー・次回の予習		
第 2 回	ホスピタリティについての考察 ローマ帝国の時代にまで遡り、ホスピタリティの意味や意義について考察し、その本質を理解する。また現代社会にいてホスピタリティを捉えることの重要性について考察する。			講義レビュー・次回の予習		
第 3 回	ホスピタリティと出会う場 社会と個人と言う関わりの中で、ホスピタリティが作用している意義を理解する。特に多様性の意義が唱えられる現代においてホスピタリティの役割を考察す			講義レビュー・次回の予習		

	る。	
第 4 回	企業のホスピタリティに関する取り組み 企業の活動における「顧客の声に耳を傾ける」という 企業の本質的な活動について、エアラインを例にホスピタリティという視点から考察する。	講義レビュー・次回の予習
第 5 回	ホスピタリティとマニュアル マニュアルの意義とそのマニュアルを超えたサービス に向けたホスピタリティの意義について考察する。ど のような仕組みでマニュアルを超えたサービスを目指 すのかについてエアラインを例に検証する。	講義レビュー・次回の予習
第 6 回	個人としてホスピタリティの能力 個人のホスピタリティに関する能力を上げるため の様々な企業の信組について考察する。特に環境の変 化の中で、ホスピタリティを伸長させる組織について エアラインを例に解説する。	講義レビュー・次回の予習
第 7 回	ホスピタリティの原動力としてのモチベーション キャビンアテンダントを例に、形として残らないホスピタリティにおいて、どのようにモチベーションを高めていくのかについて考察する。また、ホスピタリティとキャリアにつても考察する。	講義レビュー・次回の予習
第 8 回	地域活性化に貢献するホスピタリティ 地域活性化を目指す活動において、無形資産であるホスピタリティがどのように貢献するのかを考察する。	講義レビュー・次回の予習
第 9 回	コーチングによる会話 コーチングが企業においてどのように貢献するのかについて考察する。また、コーチングに関する誤った理解について検証する。	講義レビュー・次回の予習
第 10 回	コーチングの基本（集中） クライアントが語る問題について、コーチングとしてどのように対処することで、より高い次元へと移行できるかというポイントについて考察する。	講義レビュー・次回の予習
第 11 回	コーチングの基本（アクティブリプレイ） コーチングの手法の一つであるミラーリングについて理解する。内省を促すような会話を用い、課題のポイントを整理し、具体的な指摘を行うスキルについて考察する。	講義レビュー・次回の予習
第 12 回	コーチングの基本（脳を探る） 脳の中にある本質的なものを見つける方法を掴む。具体的には固有の価値観などから作られている物語から	講義レビュー・次回の予習

	離れることについて理解する。	
第 13 回	コーチングの基本（着地点） 筋道から外れずに、問題の核心に切り込み、気づきを具体的な行動変容へとつなげる。クライアントが求めるものが何であるかを解き明かすスキルについて考察する。	講義レビュー・次回の予習
第 14 回	コーチングによる習慣化 クライアントに対する対応に関して、脳内の習慣化を達成する。	講義レビュー・次回の予習
第 15 回	ホスピタリティとコーチングのまとめ ホスピタリティにおけるポイントの整理とコーチングのスキルや習慣化に関する理解を踏まえ、企業における個人としての取り組みについて考える。	講義レビュー

1.授業コード (ナンバリング)	MOR101-M51	2.科目名	生命と倫理（倫理学）		3.単位数	2
4.授業担当教員	森本誠一					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(公民) 中学(社会) 副専攻 (生命と生活を考える)		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は低いでしょう。授業の終わりには毎回リアクションペーパーを提出してもらい、次の授業の冒頭でそれを取り上げます。また、授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世の中で何が起きているのか知らなければ倫理的な判断のしようがありません。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業は、医療者としてだけでなく、患者やその家族としても直面する可能性の高い生命・医療倫理学上の問題を知り、そうした問題に対して私たちがどのように考え、対処したり振る舞ったりしたらよいのかを理解し実践できるようになることを目的としています。 【概要】 以上の目的を達成するために、この授業では倫理学の基本的な考え方を学んだ上で、安楽死・尊厳死、脳死・臓器移植、生殖補助医療といった生命・医療倫理学上の諸問題を概観しつつ、具体的な事例に基づいた事例検討をグループで行います。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 (1) 事実の問題と価値の問題を区別して考えられる (2) 倫理学の基本的な概念と代表的な倫理理論を理解し説明できる (3) 生命倫理学上の基本的なテーマとその論点について理解し説明できる [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	霜田求（編著）『テキストブック 生命倫理〔第2版〕』法律文化社、2022 年					
20.参考文献	柘植尚則『プレップ倫理学 増補版』弘文堂、2021 年 徳永哲也『ベーシック 生命・環境倫理——「生命圏の倫理学」序説』世界思想社、2013 年 児玉聡『功利主義入門——はじめての倫理学』ちくま新書、2012 年 ピーター・シンガー（山内友三郎、樫則章・監訳）『グローバリゼーションの倫理学』昭和堂、2005 年					

	ジェームズ・レイチェルズ（次田 憲和・訳）『新版 現実をみつめる道徳哲学』晃洋書房、2017年 江口聡（監訳）『妊娠中絶の生命倫理——哲学者たちは何を議論したか』勁草書房、2011年	
21.成績評価	授業中課題（WebClassでのリフレクション提出） 15% グループワークのワークシート前半 20% グループワークのワークシート後半 20% 授業内容に関する課題調査 15% 定期試験 30%	
22.コメント	この授業では、みなさんが常識だと思っていること、当たり前だと思っていることを疑い、それらが本当に当たり前なのかどうかをみなさんに問いかけながら授業を進めていきます。一つ一つの問いかけはすぐには答えられないような難しい問題かもしれませんが、決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、ぜひ肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。	
23.オフィスアワー	履修上の相談がある場合には授業の前後に声をかけてください。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回「イントロダクション」	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第2回「現代社会の諸問題」	現代社会の倫理的問題について、写真などを交えて学修します。「なぜ倫理学を学ばなければならないのか」「なぜ倫理学が必要なのか」という疑問に答えるべく、現代社会で私たちが考えるべき倫理的諸問題を確認します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第3回「生命・医療倫理学」	古典的な医の倫理とされるヒポクラテスの誓いから医療倫理の四原則まで、生命・医療倫理学の歴史を大まかに学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第4回「患者中心の医療」	インフォームド・コンセント、インフォームド・チョイス、セカンド・オピニオンといった患者中心の医療を特徴づける生命・医療倫理学上の基本的な概念を学修します。	◆ノートパソコン持参◆ ◎グループで発表へ向けて準備150分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第5回「事例検討1回目前半」	生命・医療倫理学および倫理理論についての具体的な講義を受ける前に、まずはみなさんが漠然と抱いている倫理観・道徳観に基いて生命・医療倫理に関する事例をグループで検討します。第13回、14回の授業で再び同様の事例を検討することで、この講義を受講することによってみなさんがどのように成長したのかを実感します。事例検討は2回に分けて行います。 ・グループ内でブレインストーミング（頭の体操、意見を自由に出し合うこと）を行います。 ・グループ内で出し合った意見に基いて議論します。 ・グループで話し合った内容を発表に向け	◆ノートパソコン持参◆ ◎グループで発表後の反省会120分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日12分）84分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習120分
第6回「事例検討1回目後」	生命・医療倫理学に関する事例検討の後半です。 ・グループで発表に向けた最終的な調整を行います。	◆ノートパソコン持参◆ ◎グループで発表へ向けて準備150分

半」	・グループで発表を行います。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 7 回「安楽死・尊厳死」	国内外の安楽死・尊厳死をめぐる歴史を概観した上で、安楽死・尊厳死に対する倫理的な考え方を学習します。授業の中で尊厳死に関わる映像資料を視聴します。	★グループワークのワークシート ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 8 回「脳死・臓器移植」	脳死がどのようなものなのか、遷延性意識障害（植物状態）との比較で確認した上で、日本における法制度の要点に触れながら脳死・臓器移植に対する倫理的な考え方を学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 9 回「生殖に関する倫理学 (1)」	人工授精・体外受精・顕微授精、受精卵・精子・卵子の提供、および代理母ががどのようなものか確認した上で、それらがはらむ倫理的問題について学修します。また、私たちが素朴に抱きがちな「自然である」「不自然である」という感情が何なのかを授業を通して反省します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 10 回「生殖に関する倫理学 (2)」	着床前診断、出生前診断がどのようなものか確認したうえで、それらがはらむ倫理的問題について学修します。また、近年の高性能なエコー検査が投げかける新たな倫理的問題についても学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 11 回「選択的人工妊娠中絶」	胎児に何らかの障害がある（かもしれない）ということが、妊娠している女性にとって中絶を決断するきっかけとなることがあります。この決断をするまでの過程でパートナーや家族の意見が影響をおよぼすこともあれば、彼女たちを取り囲む社会の状況が影響することもあるでしょう。さて、胎児に障害があるという理由で中絶を決断することは、何か倫理的問題を引き起こすのでしょうか。また、受精卵、胎児、母体などを検査して胎児に障害があるかどうかを調べることやそうした技術を開発して世に出していくことには何か倫理的問題があるのでしょうか。今	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 12 回「人工妊娠中絶」	現在、日本で行われている人工妊娠中絶の根拠となっている母体保護法について要点を確認しながら、日本の中絶を取り巻く社会的状況について概観します。また、中絶に関する倫理学上の議論を学修します。	○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 13 回「事例検討 2 回目前半」	生命・医療倫理学および倫理理論についての一通りの授業を受けた結果どのような成長をしたのか確かめるため、生命・医療倫理に関する事例をグループで検討します。事例検討は 2 回に分けて行います。 ・グループ内でブレインストーミング（頭の体操、意見を自由に出し合うこと）を行います。 ・グループ内で出し合った意見に基いて議論します。 ・グループで話し合った内容を発表に向けて模造紙にまとめます。	◆ノートパソコン持参◆ ◎グループで発表へ向けて準備 150 分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認 (毎日 12 分) 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 14 回「事例	生命・医療倫理学に関する事例検討の後半です。	◆ノートパソコン持参◆

検討 2 回目後半」	・グループで発表に向けた最終的な調整を行います。 ・グループで発表を行います。	◎グループで発表へ向けて準備 150 分 ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日 12 分） 84 分 ○予習、授業ノートの整理をしながら復習 120 分
第 15 回「総括試験、まとめ、全体のふり返し」	総括試験を行います。試験が終わったあとは試験問題について解説します。その際、授業全体をふり返しながら、これまで何を学修してきたのか一緒に確認します。さらに、成績評価の方法・基準についても再確認します。授業に対する質問や意見を出す時間も設けます。	★グループワークのワークシート ○新聞で授業のテーマに関連する記事を確認（毎日 12 分） 84 分 ○授業ノートの整理をしながら復習 120 分

1.授業コード (ナンバリング)	MOR101-Y51	2.科目名	生命と倫理	3.単位数	2
4.授業担当教員	Bartneck Tobias				
5.授業科目の区分	基盤教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	高校(公?) 中学(社会) 副専攻(生命 と生活を考える)		11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限	なし				
17.授業の目的と概要	【目的】 本講義では、倫理理論の基礎知識を学ぶとともに、現代社会における「生命」の諸問題に対する意識を高めることを目的とします。 【概要】 本講義では、倫理学の基礎概念と代表的理論を紹介します。倫理学の立場から、「生命」をめぐる現代社会の諸問題、特に「インフォームド・コンセント」、「人工妊娠中絶」、「延命治療」、「安楽死」、「遺伝子工学」、「人間強化技術」や「トランスヒューマニズム」などのような、医療および近年の科学技術の発展を背景とした諸問題について考察していきます。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 日常生活における倫理的問題に気づき、倫理的概念を用いてその問題にいかに対処すべきかを学ぶこと。 と。 自分自身が当たり前になっていることを疑い、社会の常識を問い直す力を身につけること。 また、さまざまな考え方や価値観を理解し、多角的に問題をとらえ、倫理的な知識を用いて自分の 疑問や意見を明確に表現する能力を養うこと。 【関連するディプロマポリシー】 (1)自律性 (3)多様性理解 (4)問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力				
19.教科書・教材	毎回、資料を配布し、WebClass で公開します(教科書は使用しません)。				
20.参考文献	適宜、授業中に紹介します。				
21.成績評価	二回のレポート(400~1200 字)と毎回のコメントシートで評価します。 毎回のコメントシート (全 15 回合計)30 点 中間レポート(第 8 回講義)30 点 期末レポート(第 15 回講義)40 点 出席確認は、コメントシートで行います。 詳しい内容は授業で説明します。				
22.コメント	本講義は、単に情報を伝えたり、決まった答えを示したりするのではなく、自分なりに自由に 考え、問いを立てることの楽しさ・有意義さをお伝えできればと思います。				
23.オフィスアワー	質問等は、授業の前後で対応します。				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
【第 1 回】	【ガイダンス】 本授業の進め方、成績評価の方法などの確認、授業目的・概要の解説			【以下第 15 回講義まで共通】 Web Class を 使うので、パソ コンを持参してください。 予習:Web Class 上にアップロ ードされる授業 資料を事前に 目を通しておいてください。	

		復習:授業ノートを整理し、わからないところがないか確認してください。 毎回授業後にコメントシートを書いてもらいます。
【第2回】	倫理・倫理学とはなにか	
【第3回】	生命倫理の歴史と問題意識	
【第4回】	インフォームド・コンセント概念について	
【第5回】	出生前診断・人工妊娠中絶をめぐって①	
【第6回】	人工妊娠中絶をめぐって②	
【第7回】	臓器移植の諸問題	
【第8回】	【レポート書き方講座・相談会】	中間レポート提出(Web Class)
【第9回】	延命治療をめぐって	
【第10回】	安楽死・尊厳死をめぐって	
【第11回】	自殺をめぐって	
【第12回】	遺伝子工学の倫理的諸問題	
【第13回】	人間強化技術の倫理	
【第14回】	トランスヒューマニズム	
【第15回】	【まとめと振り返り・レポート相談会】	期末レポート提出(Web Class)

1.授業コード (ナンバリング)	MRK102-Y51	2.科目名	マーケティング論		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	U S J のマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 アクティブラーニング導入科目（グループディスカッション、プレゼンテーション）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 1. 身近な題材を用いた実践的なワークを通じて、マーケティングの視点を体得する 2. 自らのキャリアも含め、世の中で起きていることをマーケティング視点で考える習慣を付ける 3. マーケティングに対する興味・関心を高め、受講後も学習を継続する動機付けとする 概要： 10 年前までのユニバーサル・スタジオ・ジャパン（U S J）は、来場者が思うように集まらず、経営破綻の危機に陥っていました。それが今や、日本を、いや世界を代表する一大テーマパークとして、たくさんの来場者で賑わっています。その U S J の危機を救ったのが、「マーケティング」の力なのです。 この講義では、U S J の奇跡の復活など、今まさに起きていること、これから起こることを、マーケティングの視点で体感し理解します。授業では、テーマパークの新アトラクション企画など、学生の皆さんが具体的にイメージしやすい、身近で親しみのある題材を多用します。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(4)問題発見・解決力および(6)専門的知識・技能の活用力と最も深く関連しています。マーケティングフレームワークの基本を理解し習得することで、消費者視点に立った戦略的思考を身に付け、問題発見と専門知識を使った問題解決ができるようになります。					
19.教科書・教材	資料は webclass で配布					
20.参考文献	適宜紹介します					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ?対象回の「提出課題」 10 点 （各回 2 点 x 5 回） ?対象回の「授業のまとめシート」 14 点 （各回 1 点 x 9 回、15 回目のみ 5 点） ?グループワークのプレゼンテーション 26 点 （各回 6 点 x 3 回、4 回目のみ 8 点） ?総括試験 50 点 *総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。					
22.コメント	遅刻・早退が 20 分を超える場合は欠席とします。（厳守）					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	講義：マーケティングの実例 マーケティングへの関心を高めるために、身近な商品の開発や宣伝に、マーケティングの考え方がどのように活用されているのかの実例をご紹介します。ま			予習：「マーケティング」という言葉の意味を調べてまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：マーケティングの活用事例を振り返る		

	た、授業の進め方、評価方法等について説明を行います。	
第2回	講義：マーケティングの全体像 マーケティング思考の全体像を示し、今後のクラス進行においてどの部分をどのように取り上げるかを概観します。また、中でも特に重要な要素である「環境分析」および「ターゲティング」について、実務における具体例を示しながら、マーケティング思考の効果を実感していただきます。	提出課題：あなたが好きな商品やサービスの、「ターゲット」は誰かを考えて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：ターゲットの重要性について振り返る
第3回	講義：環境分析 マーケティングで最初に行うべき「環境分析」について、基礎的なフレームワークを学びます。 グループワークを始めます。あなたが好きなエンターテインメントの分野（音楽、ドラマ、スポーツイベント、ゲームなど）を選択して、環境分析を行います。	予習：あなたが好きなエンターテインメントの分野を考えてくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第4回	グループワーク：エンターテインメントの環境分析 グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第5回	プレゼンテーション：エンターテインメントの環境分析 講義：環境分析の具体例 既存の商品・サービスにおける環境分析の具体例をご紹介します	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第6回	講義：マーケティングプロセス 基本的なマーケティングプロセスであるSTP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）について、身近な業界の事例を用いて、基礎的なフレームワークを学習します。	提出課題：「セグメンテーション」の言葉の意味を調べてまとめる 授業のまとめシート：提出 復習：復習とノート整理
第7回	講義：マーケティングの4P マーケティング戦略を実行する際の基本的なフレームワークである4P（製品戦略、価格戦略、プロモーション戦略、流通戦略）について学習します。 2回目のグループワークを始めます。各グループが商品・サービスを選択し、その「値上げ」を企画していただきます。	提出課題：あなたが「安い」と思う商品やサービスを一つ挙げて、なぜそれを安いと感じるかについて書き出す 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第8回	グループワーク：値上げをしよう グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第9回	プレゼンテーション：値上げをしよう 講義：マーケティングの全体像（まとめ） ここまでで学習した一連のマーケティングフレームワークについてまとめます	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第10回	講義：マーケティング戦略の具体例 USJの新アトラクション企画を題材に、実際のビジネスでマーケティングフレームワークがどのように活	提出課題：東京ディズニーランドとUSJの入場料の推移を調べてまとめる 授業のまとめシート：提出

	用されているかについて学習します。 3回目のグループワークを始めます。大型テーマパークを想定し、これまで学習してきたマーケティングフレームワークを使って、新アトラクションを企画していただきます。	復習：グループで課題を進行
第 11 回	グループワーク：テーマパークの新アトラクショングループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスさせていただきます。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第 12 回	プレゼンテーション：テーマパークの新アトラクション（中間発表） ここまでグループでディスカッションしてきた内容を発表していただきます。教授からのコメントを受けて、次回の最終発表に向けてさらに議論を深めてください。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：不要 復習：教授からのコメントを受けて、さらに議論を深める
第 13 回	プレゼンテーション：テーマパークの新アトラクション（最終発表） 講義：マーケティングとブランディング マーケティング戦略で重要な役割を果たすのが「ブランド」です。ブランドとは何か？その効果について学習します。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 14 回	まとめと統括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する。 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	提出課題：講義全体および統括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 授業のまとめシート：提出（5 倍加点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード (ナンバリング)	MRK201-A51	2.科目名	マーケティングリサーチ		3.単位数	2
4.授業担当教員	福本哲也					
5.授業科目の区分	展開科目 マーケティング分野に おける実務経験のある 教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	[目的] 本講義では、マーケティングリサーチの基礎理論、特にマーケティング全般視点からのリサーチの意味を理解しそのリサーチ手法を学ぶことを目的としている。マーケティングリサーチは、様々な製品やサービス、そして企業戦略の重要な戦略、指針づくりのための情報収集と分析活動であり、今後の様々な機会に大きく影響する。 [概要] 本講義では、マーケティングリサーチ理論を実感できる事例紹介を交えながら、できるだけ分かり易く説明を行う。また、講義では単なる座学に終わることなく、マーケティングリサーチを実際に使える技術にまで高めるため、ほぼ毎回、個ワークまたグループワークを行い、実践的でメリハリのついた学習ができるようになっている。 なお、講義内容を次週までに公開するので、予習として読み込んでくる必要があるのと同時に、毎回、パソコンを利用して個ワーク、グループワーク、情報収集や報告を行うので、必ず持参すること。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次のとおりです。 ①マーケティングリサーチの理論や専門用語が理解でき、その意味を説明できる=知的好奇心 ②社会やビジネスの課題について情報収集ができ、マーケティングリサーチ視点で分析できる=情報収集/分析力 ③マーケティングリサーチ技術を高め、プランニングの為のツールとして活用できる=思考/構想 [関連するディプロマポリシー] (1) 自立性 (2) 社会的貢献 (4)問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	恩蔵直人・富田健司 『1からのマーケティング分析 (第2版)』 碩学舎 ,2022 年 ISBN:978-4-502-42161-7 定価:本体 2,400 円+税					
20.参考文献	都度、紹介する。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 (1)授業中の課題、小テスト:15 点 (2)授業中のワーク:15 点 (3)中間レポート「課題テーマは別途発表」:20 点 (4)総括試験「インターネットマーケティングの概念を理解していること、それを生かした企業や商品事例の分析」:40 点 (5)e-ポートフォリオ「マーケティングリサーチで学んだことを自分の言葉と考え方で表現できる」:10 点					

22.コメント	マーケティングリサーチは、生活者や街・お店を観察すること、また、私達の身近な様々な製品やサービス、情報に興味を持つことから始まります。少し注意をすればその微妙な変化や違い、またその理由が見えてきます。その視点と行動がマーケティングリサーチの技術獲得の一步となります。メディア、情報、人や街、企業活動や製品、サービスに関心を持って受講することを期待しています。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	第 1 回 ○オリエンテーション ・講義の概要、講義の流れ ○教員自己紹介 ○マーケティングの役割とは ・マーケティングのステップとリサーチ（調査）の役割とポジション	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 2 回	第 2 回 ○マーケティングリサーチ（調査）の役割 ・STP、ターゲットを決めるプロセス ・リサーチから導きだされる細分化の基準 ・リサーチから導き出される回答の色々	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 3 回	第 3 回 ○マーケティングリサーチの実態を調査会社の事例から具体的に学ぶ ・マーケティングリサーチの役割 ・マーケティングリサーチの流れ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 4 回	第 4 回 ○ 調査の意義と限界 ・調査の限界を考える ・調査の意義を再認識する	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 5 回	第 5 回 ○インサイト（潜在意識）を知る、探る、活用する ・インサイトとは ・インサイトから導き出されたコト・・・マーケティングの事例から ・インサイトの発見が人を動かす	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 6 回	第 6 回 ○激増するデータ、変わる調査手法 ・マーケティングデータの種類と、調査の意味 ・1次データと2次データ ・増え続ける「コンシューマー・ジェネレイティド・メディア」「ライフログ」	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 7 回	第 7 回 ○2つの調査手法 ・「定量調査」「定性調査」 ・デジタル時代の調査手法	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する [中間レポート]

		作成と提出
第 8 回	第 8 回 ○定量調査を深く学ぶ ・ 定量調査の代表的手法 ・ 定量調査の目的 ・ 定量調査のメリット、デメリット	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 9 回	第 9 回 ○定量調査を具体例から学ぶ ・ リサーチデザイン ・ 調査票の作成 ・ サンプルングと誤差	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 10 回	第 10 回 ○定量調査の分析手法 1 ・ データ分析の手法 ・ グラフの色々 ・ クロス集計について、クロス集計の事例	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 11 回	第 11 回 ○定量調査の分析手法 2 ・ 平均と標準偏差 ・ 相関分析 ・ 回帰分析 ・ 因子分析	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 12 回	第 12 回 ○定性調査を深く学ぶ ・ 定性調査の代表的手法 ・ デプスインタビュー ・ エスノグラフィー ・ 定性調査の得意とするところ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 13 回	第 13 回 ○新しい定性調査 1 ・ 個人起点のマーケティング ・ 9 つのターゲット	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 14 回	第 14 回 ○新しい定性調査 2 ・ 個人起点のマーケティング ・ ベンチマーク	[予習] 総括試験の準備 [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 15 回	第 15 回 ○総括試験	[復習] 総括試験の振り返り

1.授業コード (ナンバリング)	MRK201-M51	2.科目名	マーケティングリサーチ		3.単位数	2
4.授業担当教員	広沢俊宗					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	ビジネス統計学が履修済みであること。	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	履修希望者が 30 名を超える場合には抽選をして、第 1 講目に履修登録者を確定する。履修を希望する場合は、必ず第 1 講目に出席すること。欠席した場合は履修できないことがあるので、注意すること。					
17.授業の目的と概要	マーケティングリサーチでは、マーケティングに関するテーマを設定し、さまざまな調査を活用する。今回のテーマは、「関西国際大学三木キャンパスの魅力」であり、観察法、インタビュー法、質問紙法、さらに文研研究によりさまざまな情報を収集することにより、パワーポイントを作成し、発表する。ここでは、マーケティング思考法をベースに量的調査および質的調査の理論なども活用しつつ、演習形式によって構築していく。なお、データ分析に関しては、統計ソフト SPSS を活用する。					
18.学習目標と DPとの関連	①「調査企画書作成」、「調査設計」、「調査の実施」、「データ分析」、「報告書作成」、「プレゼンテーション資料の作成」、「プレゼンテーション」の一連の過程を経験することによって、各自が自らさまざまな調査を実施できるようにする。 ②上記一連の過程を自律的かつ計画的に実施する。 ③高校生やその保護者および大学生にアピールできる成果物を構築する。					
19.教科書・教材	必要に応じて、随時、紹介する。					
20.参考文献	??茂?・藤?清 著 『知的な論?・レポートのための リサーチ??』 くろしお出版 竹田茂生・藤木清編『知のワークブックー大学生と新社会人のための』 くろしお出版 竹田茂生・藤木清編「ゼロからの統計学 ー使えるシーンが見えるー」 くろしお出版					
21.成績評価	パワーポイントの作成：30% 学習目標①②に対応(評価点 30%以上が合格最低ライン) プレゼンテーション： 30% 学習目標①に対応(評価点 6%以上が合格最低ライン) 総括レポート : 40% 学習目標①に対応(評価点 24%以上が合格最低ライン) なお、科目の合格基準は、3つのレポートの評価点合計が、60%以上である。					
22.コメント	リサーチ入門、ビジネス統計学で学修した成果を活用しつつ、発想法でも並行して学ぶ知識および技術を生かして、説得力のある成果物を作成してほしい。 フル充電したノート PC を毎回持参してください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 [SA]	オリエンテーションー履修者を確定したのち、マーケティングの科目特性、先修条件、授業内容（授業計画）、評価方法などについて説明する。			大学のパンフレットなどをリサーチする。 (120 分)		
【第 2 回】 [SA]	チーム作りと企画立案 チームビルディングを行い、各チームで実行する企画内容について検討します。PDCA サイクルでいう plan の段階を進めます。			大学の魅力領域について、リサーチする。 (120 分)		
【第 3 回】 [SA]	企画実施のための調査法（1） 企画実施に向けて、適切な調査法を習得する。			調査法について復習する。(120 分)		

【第 4 回】 [SA]	企画実施のための調査法（2） 企画実施に向けて、適切な調査法を習得する。	調査法について復習する。（120 分）
【第 5 回】 [SA]	企画実施のための調査法（3） 企画実施に向けて、適切な調査法を習得する。	調査法について復習する。（120 分）
【第 6 回】 [SA]	企画実施のための調査法（4） 企画実施に向けて、適切な調査法を習得する。	調査法について復習する。（120 分）
【第 7 回】 [SA]	魅力領域における実査（1） 各テーマに応じた魅力データを収集し、まとめる。	収集したデータを整理する。（120 分）
【第 8 回】 [SA]	魅力領域における実査（2） 各テーマに応じた魅力データを収集し、まとめる。	収集したデータを整理する。（120 分）
【第 9 回】 [SA]	魅力領域における実査（3） 各テーマに応じた魅力データを収集し、まとめる。	収集したデータを整理する。（120 分）
【第 10 回】 [SA]	パワポの構成立案	パワポを構成する。（120 分）
【第 11 回】 [SA]	パワポの作成	パワポを作成する。（120 分）
【第 12 回】 [SA]	パワポの完成とプレゼンテーション準備	パワポに即した発表原稿を考える。（120 分）
【第 13 回】 [SA]	パワポによるプレゼン実施と評価	パワポと発表原稿について、ふりかえる。 （180 分）
【第 14 回】 [SA]	パワポおよびのプレゼンの修正（音声入力）	パワポと発表に関して、必要に応じて修正する。（180 分）
【第 15 回】 [SA]	パワポとプレゼンの総括【総括レポートの提出】	パワポと発表に関して総括を行い、レポートの素材を収集する。（120 分）

1.授業コード (ナンバリング)	MRK203-Y51	2.科目名	消費者心理	3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	総合社会学科	9.履修学年	2 年～		
10.取得資格の要件	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	職業選択からはじまり、職業、会社組織での役割などの社会と個人との関係は生涯にわたって続き、絶えず変化していく。自らの人生およびキャリアを考え、それをデザインしていくうえにおいて必要な心理学的知識を習得するとともに、自らの内面を捉える論理的思考力を身につける。 また、消費者の心理やビジネスコミュニケーションを学ぶとともに、職場環境の中で生じる様々な問題とそれに対処するための知識を身につける。本授業では、このような観点からキャリアにまつわる心理学的な知見を学ぶ。				
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP の (1) 自律性 (2) 社会的貢献性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①産業・組織心理学が扱う、諸領域の基礎的な理論について説明できる。 ②組織の中で生じる人の行動や、様々な問題とそれに必要な支援について具体的に理解し、説明できる。 ③消費者の購買行動の規定因に関わる心理について理解し、説明できる。 ④産業・組織心理学の知見を自分自身の就業・キャリア発展に活かすことができる。				
19.教科書・教材	webclass にレジメをアップしますので、授業開始までに印刷しておくこと。				
20.参考文献	経営とワークライフに生かそう！産業・組織心理学 改訂版 山口裕幸ら著 有斐閣 サクッとわかるビジネス教養行動経済学 阿部誠監修 新星出版社				
21.成績評価	1. 各回のミニレポート×14 回＝60％（学習目標の②③④に対応） 2. 到達度確認テスト：40％（学習目標の①②③④に対応）				
22.コメント	※前日までに次回のレジメ(ppt の穴抜き)を webclass に用意します。 レジメは授業前に印刷をしておいてください。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)			
	ガイダンス：産業・組織心理学とは				
第 2 回	説得における態度とは何か、説得の影響				
第 3 回	社会的証明とネットレビューの心理学				
第 4 回	ネガティブポイントをポジティブに見せる方法				
第 5 回	承諾を得やすくするためのユニットアスキング				
第 6 回	説得時における数字の効果				
第 7 回	従業員のモチベーションを高める心理学				
第 8 回	職場のコミュニケーション				
第 9 回	特典付加の心理学				
第 10 回	広告・マーケティング①				

第 11 回	広告・マーケティング②	
第 12 回	心理的財布と支払い	
第 13 回	苦情行動・クレーマー	
第 14 回	ラストシーンの心理学	
第 15 回	到達度確認テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	MRK205-Y81	2.科目名	プロジェクトマネジメント論		3.単位数	1
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	全専攻			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件	経営学概論、経済学概論、観光政策論、マーケティングを履修していることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、ワークショップ		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 ビジネスはもちろんノンプロフィット活動においても、一人で目標を達成することは難しく、大きな目標から身近な小さな目標まで、プロジェクト化することが必ず求められます。 目標達成に必要な資金やメンバーなどの資源をどう確保するのか、目標達成に至る過程でどのようなリスクがあるのか、ステークホルダーは誰なのか、どのように組織をつくり、まとめ、動かしていくのか、どのような工程と予算を作り、管理していくのかなど、プロジェクトのマネジメント（管理）業務は他分野に及びます。こうしたプロジェクトの管理運営をしていくリーダーがプロジェクト・マネージャーです。 本授業では、プロジェクトマネジメントに必要な基本的な知識とスキルを身につけることを目的としています。 【概要】 講義と個人ワーク、そしてディスカッションやブレインストーミングなどのグループワークを組み合わせたワークショップ形式で授業を進め、実践的なスキルを身につけてもらいたいと考えています。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技能の活用力に対応しています。 この授業の学習目標は、次の通りです。 ①プロジェクトおよびプロジェクトマネジメントについて理解し、説明することができる。 ②プロジェクトの企画、実行・管理、終了を行うことができる。 ③リーダーシップ及びチームビルディングについてのスキルを習得し、実践することができる。 ④グループディスカッション、ブレインストーミングを効率よく効果的に行うことができる。 この授業での学習を通じて、疑問を持ち、深く考え、豊かに発想する力を身につけましょう。					
19.教科書・教材	・適宜、資料を配布します。（配布は紙ではなく、WEBCLASS での配信となります。）					
20.参考文献	・「プロジェクトマネジメント」実践講座/2017/日本実業出版社/伊藤 大輔 ・Project Management 進化論 クリティカルチェーン・プロジェクトマネジメント/ 2022/プレジデント社/後藤 智博, 渡瀬 智, 西郷 智史					
21.成績評価	課題①プロジェクト調査…10%（ルーブリックによる評価）【学習目標の①に対応】 課題②達成目標の設定…10%（ルーブリックによる評価）【学習目標の①に対応】 課題③工程表とコスト計画の作成…15%（ルーブリックによる評価）【学習目標の②、③、④に対応】 課題④予備調査計画の立案…15%（ルーブリックによる評価）【学習目標の②、③、④に対応】 課題⑤リスクリストとステイクホルダーリストの作成…20%（ルーブリックによる評価）【学習目標②、③、④に対応】 課題⑥課題解決策の作成…20%（ルーブリックによる評価					
22.コメント	・ハイフレックス授業となる場合もありますので、PC（電済）とイヤフォン、ヘッドフォンを持参するようにして下さい。					

	・授業内での個人ワーク、ディスカッション、ブレインストーミングを行います。 ・ノート、筆記用具、PC は必ず持参して下さい。 ・理解するのが難しい場合は、遠慮せずに質問して下さい。また、OH も活用して下さい。	
23.オフィスアワー	宗田：火曜 3 コース（研究室/3-308）、火曜 2 コース(学修支援センター)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	《イントロダクション》 授業計画、評価方法、評価基準等について説明します。 《ブロック 1》プロジェクトマネジメントとは ①講義：プロジェクトの意味、プロジェクトマネジメントの目的、プロセス、必要とされる知識やスキルについて、現実のビジネスシーンでのプロジェクトマネジメントの実例を交えて説明します。 ②個人ワーク：プロジェクトを一つ取り上げ、そのプロジェクトの概要をまとめます。	【課題①】 プロジェクトを一つ取り上げ、そのプロジェクトの概要をまとめて下さい。（個人ワーク）
【第 2 回】	《ブロック 1》プロジェクトマネジメントとは ①講義：プロジェクトマネジメントは何か、プロジェクトマネジメントの 3 つの視点（目標設定、計画、実行）、プロジェクトに立ちはだかる 3 つの壁、ステークホルダーとは？などについて、現実のビジネスシーンでのプロジェクトマネジメントの実例を交えて説明します。 ②ディスカッション：各自調たプロジェクト（課題①）について発表し、意見交換します。	
【第 3 回】	《ブロック 2》Initiating と Planning（開始と企画） ①講義：Initiating 目標設定、逆算試行（制約思考を軽減、修正力、チームオーガナイズなど）、ステークホルダーの特定とマネジメントなど、プロジェクトの準備段階に行うべきことを学びます。	
【第 4 回】	《ブロック 2》Initiating と Planning（開始と企画） ①講義：Planning 到達目標の明確化と優先順位付け、目標達成の要素の把握（WBS）、工程表の作成、コスト計画の策定などを学びます。 ②個人ワーク：身近な達成目標を設定してみましょう。 ③ディスカッション：達成目標を発表し、グループディスカッションで意見交換します。	【課題②】 達成目標を設定してみよう。（個人ワーク）
【第 5 回】	《ブロック 2》Initiating と Planning（開始と企画） ①個人ワーク：Planning 工程表とコスト計画を作成します。	【課題③】 工程表とコスト計画を作成します。（個人ワーク）
【第 6 回】	《ブロック 3》予備調査 ①講義：目標達成のためには、何を知っておくべきか（課題の発見）、どのようなデータが必要か（データ収集）、どのような調査方法（定量調査と定性調査）が適切かについて考察します。	

【第 7 回】	《ブロック 3》予備調査 ①個人ワーク：調査項目、調査方法を明確化します。 ②グループワーク：それぞれの調査項目、調査方法を発表し、ディスカッションを通じてインプルーブします。	【課題④】 調査計画を作成します。（個人ワーク）
【第 8 回】	《ブロック 3》予備調査 ①個人ワーク：オープンデータを活用し予備調査を行います。 ②グループワーク：それぞれの調査結果を発表し、ディスカッションを通じて課題を発見します。	
【第 9 回】	《ブロック 4》Executing & Monitoring and Controlling（実行と管理） ①講義：実行段階に求められる、進捗管理、リスク管理など様々な管理（マネジメント）事項とモニタリング、PDCA サイクルについて学びます。	
【第 10 回】	《ブロック 4》Executing & Monitoring and Controlling（実行と管理） ①個人ワーク：それぞれの目標達成過程でのリスクの洗い出しとステークホルダーの明確化を行います。 ②グループワーク：それぞれのリスクとステークホルダーを発表し、ディスカッションを通じてインプルーブします。	【課題⑤】 リスクリストとステークホルダーリストを作成します。（個人ワーク）
【第 11 回】	《ブロック 4》Executing & Monitoring and Controlling（実行と管理） ①講義：リーダーシップとは？チームビルディングとは？役割分担の方法などもっとも難しく重要なヒューマンリソース・マネジメントの考え方について学びます。	
【第 12 回】	《ブロック 4》Executing & Monitoring and Controlling（実行と管理） ①グループワーク：フリライダーを出さない組織運営について、ディスカッションし、具体的な方策やリーダーとしての考え方、行動を考えます。	
【第 13 回】	《ブロック 4》Executing & Monitoring and Controlling（実行と管理） ①発表と評価：フリライダーを出さない組織運営についての具体的な方策やリーダーとしての考え方、行動をまとめ発表し、相互評価します。	【課題⑥】 フリライダーを出さないための具体的方策についてまとめ発表します。（グループワーク）
【第 14 回】	《ブロック 5》Closing（完了） ①講義：結果分析、結果報告、利益分配などプロジェクトの完了時になすべきことを学びます。時には撤退や失敗に終わることもあるプロジェクトの官僚の方法についても学びます。	
【第 15 回】	《ブロック 6》リフレクション ①個人ワーク：今回の授業を通じての気づき等について	【課題⑦】 リフレクション・レポートの作成と発表

	てレポートを作成し、発表します。	

1.授業コード (ナンバリング)	MRK208-Y51	2.科目名	プロダクトデザイン実践演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本久					
5.授業科目の区分	演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	★各自毎回ノートパソコンが必要です。デザイン制作のためのフリーソフトなどもインストールしてもらう必要があります。					
17.授業の目的と概要	【目的】本講義の目的は様々なプロダクトのデザインの調査および制作を通じて、リサーチ力とデザインアイデアの能力を高めることである。 【概要】様々な形で存在するプロダクト（製品）のデザインやコンセプトについての調査研究。またロゴやカラー、機能デザインなど、与えられたテーマに従って実際にデザイン制作を行うなどし、リサーチ力およびデザインアイデア能力の向上を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①様々なプロダクトのデザインを調査し、まとめることができる。 ②デザイン制作の各種基本を身につける。 ③デザイン企画・制作とともに、適切なプレゼンテーション向けコンテンツの制作ができる。					
19.教科書・教材	授業内で資料の配布や Web ページ等の紹介をします					
20.参考文献	授業内で適宜紹介します					
21.成績評価	調査レポート等 20% 各デザイン演習での課題 60% 最終課題・成果物 20% 各課題は内容とともに取り組み姿勢も併せ評価します					
22.コメント	授業外での作業が多いので、積極的に取り組むようにしてください 授業の進行状況により、多少の変更や順番の入れ替えなど行うこともあります					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センタオフィスアワー：水曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	はじめに 授業ガイダンス			授業内容の復習		
2	様々なプロダクト・デザイン <調査①>			授業内容の復習・調査		
3	様々なプロダクト・デザイン <調査②>			授業内容の復習・調査		
4	調査レポート課題 【課題 1】			授業内容の復習・課題の制作		
5	様々なプロダクト・デザイン <ロゴデザイン①>			デザイン制作の復習・練習		
6	様々なプロダクト・デザイン <ロゴデザイン②>			デザイン制作の復習・練習		
7	デザイン制作課題<ロゴデザイン> 【課題 2】			授業内容の復習・課題の制作		
8	様々なプロダクト・デザイン <カラーデザイン①>			デザイン制作の復習・練習		
9	様々なプロダクト・デザイン <カラーデザイン②>			デザイン制作の復習・練習		
10	デザイン制作課題<カラーデザイン> 【課題 3】			授業内容の復習・課題の制作		
11	様々なプロダクト・デザイン <形のデザイン①>			デザイン制作の復習・練習		
12	様々なプロダクト・デザイン <形のデザイン②>			デザイン制作の復習・練習		
13	デザイン制作課題<形のデザイン> 【課題 4】			授業内容の復習・課題の制作		

14	【最終課題】機能とデザイン課題 【課題5】	デザインの企画考案・課題制作
15	最終課題提出、総括および振り返りシート提出	振り返りシートを提出する

1.授業コード (ナンバリング)	MRK301-A51	2.科目名	アジアマーケティング論		3.単位数	2
4.授業担当教員	肖威					
5.授業科目の区分	共通選択	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	制限なし			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	「マーケティング」の修得	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	世界中がアジア市場に注目しているのは周知のとおりであり、日本からも様々な企業がアジア市場の開拓に着手している。とはいえ、アジアは広く、そして深い。いくつもの国、民族、宗教が存在し、気候や文化が違う。また、経済水準や消費パターンも異なる。差異を見れば数え切れないほど存在し、各国市場の全体像をキャッチするのは大変難しい。一方、共通性もある。アジア市場の「多様性」と「共通性」を把握するのは本講義の目的である。この講義では、アジアの国々でビジネスを展開している日系企業のケーススタディを通して、グローバルマーケティングの基礎を学習していく。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・グローバルマーケティングの基礎を理解し、応用できる ・アジアの主要な国や地域の市場特性を理解できる ・アジアの国や地域にあうビジネス提案ができる					
19.教科書・教材	適宜資料配布。					
20.参考文献	・『1 からのマーケティング』（第 4 版）石井 淳蔵（著，編集），廣田 章光（著，編集），& 1 その他、碩学社。 ・『アジア・マーケティングをここから始めよう。』博報堂アジア生活研究プロジェクト著、PHP 研究所。 ・『日本企業のグローバル・マーケティング』大石芳裕、白桃書房。 ・『1 からのグローバルマーケティング』小田部 正明（編集），栗木 契（編集）、 & 1 その他、碩学社。					
21.成績評価	ワークシート：30％ プレゼンテーション：40％（中間 10％+期末 30％） 期末レポート：30％ 合格ライン：60％					
22.コメント	アジアの国々について関心を持ち、特に若者の消費行動について情報収集をしてみよう。					
23.オフィスアワー	秋学期： 木曜日昼休み センターオフィスアワー 木曜日 3 限 研究室オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 講義内容：講義概要、学習目標、評価方法等 グループ分け & 分担確定 WS1 ○○国概要			PC 持参		

第 2 回	第 1 章 マーケティングの基本 (1) 講義内容：1 年次秋に勉強したマーケティングの復習 (1)	○マーケティングの復習 (1-2 章) (120 分) ・ PC 持参
第 3 回	第 1 章 マーケティングの基本 (2) 講義内容：学生による講義と補足説明	・ PC 持参 ○マーケティングの復習 (3-4 章) (120 分)
第 4 回	第 1 章 マーケティングの基本 (3) 講義内容：学生による講義と補足説明 第 3 章 グローバル文化環境 講義内容：インドネシアにおけるグリコ	・ PC 持参 ◎マーケティングの復習 (5-6 章) (120 分) WS2：ユニクロについて
第 5 回	第 1 章 マーケティングの基本 (4) 講義内容：学生による講義と補足説明 第 4 章 グローバル市場調査 (1) 講義内容：インドのインスタントヌードル市場	・ PC 持参 ◎マーケティングの復習 (7-9 章) (120 分)
第 6 回	第 4 章 グローバル市場調査 (2) GW アジア各国の若者の消費文化	・ PC 持参
第 7 回	第 5 章 グローバル市場参入戦略 講義内容：味千ラーメンの事例で学ぶ海外市場の参入方法 GW プレゼン 1『各国の概要と若者の消費文化』	○復習 (60 分)
第 8 回	第 6 章 グローバル製品戦略 (1) 講義内容：中国におけるダイキンの製品戦略	○プレゼン資料 1 を見直し、提出 (120 分)
第 9 回	第 6 章 グローバル製品戦略 (2) 講義内容：GW	○WS3 (90 分)
第 10 回	第 7 章 グローバル価格戦略 (1) 講義内容：価格設定の諸要因	○WS4 (60 分) ○資料収集 & プレゼン作成 (120 分)
第 11 回	第 7 章 グローバル価格戦略 (2) 講義内容：GW	○WS5 (60 分) ○資料収集 & プレゼン作成 (120 分)
第 12 回	第 8 章 教育サービスの海外展開 (1) 講義内容：KUMON のアジア進出	○WS6 (90 分) ○資料収集 & プレゼン作成 (120 分)
第 13 回	第 8 章 教育サービスの海外展開 (2) 講義内容：なぜサービス企業が国際化できるのか	○資料収集 & プレゼン作成 (120 分)
第 14 回	GW: (プレゼン) アジアでのビジネスチャンスー考案 1	○GW プレゼン作成 (150 分)
第 15 回	GW: (プレゼン) アジアでのビジネスチャンスー考案 2	レポート作成・提出 (240 分)

1.授業コード (ナンバリング)	MRK301-M51	2.科目名	アジアマーケティング論		3.単位数	2
4.授業担当教員	肖威					
5.授業科目の区分	共通選択	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	制限なし			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	「マーケティング」の修得	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	世界中がアジア市場に注目しているのは周知のとおりであり、日本からも様々な企業がアジア市場の開拓に着手している。とはいえ、アジアは広く、そして深い。いくつもの国、民族、宗教が存在し、気候や文化が違う。また、経済水準や消費パターンも異なる。差異を見れば数え切れないほど存在し、各国市場の全体像をキャッチするのは大変難しい。一方、共通性もある。アジア市場の「多様性」と「共通性」を把握するのは本講義の目的である。この講義では、アジアの国々でビジネスを展開している日系企業のケーススタディを通して、グローバルマーケティングの基礎を学習していく。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・グローバルマーケティングの基礎を理解し、応用できる ・アジアの主要な国や地域の市場特性を理解できる ・アジアの国や地域にあうビジネス提案ができる					
19.教科書・教材	適宜資料配布。					
20.参考文献	・『1 からのマーケティング』（第 4 版）石井 淳蔵（著，編集），廣田 章光（著，編集），& 1 その他、碩学社。 ・『アジア・マーケティングをここから始めよう。』博報堂アジア生活研究プロジェクト著、PHP 研究所。 ・『日本企業のグローバル・マーケティング』大石芳裕、白桃書房。 ・『1 からのグローバルマーケティング』小田部 正明（編集），栗木 契（編集）、 & 1 その他、碩学社。					
21.成績評価	ワークシート：30％ プレゼンテーション：40％（中間 10％+期末 30％） 期末レポート：30％ 合格ライン：60％					
22.コメント	アジアの国々について関心を持ち、特に若者の消費行動について情報収集をしてみよう。					
23.オフィスアワー	秋学期： 木曜日昼休み センターオフィスアワー 木曜日 3 限 研究室オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 講義内容：講義概要、学習目標、評価方法等 グループ分け & 分担確定 WS1 ○○国概要			PC 持参		

第 2 回	第 1 章 マーケティングの基本 (1) 講義内容：1 年次秋に勉強したマーケティングの復習 (1)	○マーケティングの復習 (1-2 章) (120 分) ・ PC 持参
第 3 回	第 1 章 マーケティングの基本 (2) 講義内容：学生による講義と補足説明	・ PC 持参 ○マーケティングの復習 (3-4 章) (120 分)
第 4 回	第 1 章 マーケティングの基本 (3) 講義内容：学生による講義と補足説明 第 3 章 グローバル文化環境 講義内容：インドネシアにおけるグリコ	・ PC 持参 ◎マーケティングの復習 (5-6 章) (120 分) WS2：ユニクロについて
第 5 回	第 1 章 マーケティングの基本 (4) 講義内容：学生による講義と補足説明 第 4 章 グローバル市場調査 (1) 講義内容：インドのインスタントヌードル市場	・ PC 持参 ◎マーケティングの復習 (7-9 章) (120 分)
第 6 回	第 4 章 グローバル市場調査 (2) GW アジア各国の若者の消費文化	・ PC 持参
第 7 回	第 5 章 グローバル市場参入戦略 講義内容：味千ラーメンの事例で学ぶ海外市場の参入方法 GW プレゼン 1『各国の概要と若者の消費文化』	○復習 (60 分)
第 8 回	第 6 章 グローバル製品戦略 (1) 講義内容：中国におけるダイキンの製品戦略	○プレゼン資料 1 を見直し、提出 (120 分)
第 9 回	第 6 章 グローバル製品戦略 (2) 講義内容：GW	○WS3 (90 分)
第 10 回	第 7 章 グローバル価格戦略 (1) 講義内容：価格設定の諸要因	○WS4 (60 分) ○資料収集 & プレゼン作成 (120 分)
第 11 回	第 7 章 グローバル価格戦略 (2) 講義内容：GW	○WS5 (60 分) ○資料収集 & プレゼン作成 (120 分)
第 12 回	第 8 章 教育サービスの海外展開 (1) 講義内容：KUMON のアジア進出	○WS6 (90 分) ○資料収集 & プレゼン作成 (120 分)
第 13 回	第 8 章 教育サービスの海外展開 (2) 講義内容：なぜサービス企業が国際化できるのか	○資料収集 & プレゼン作成 (120 分)
第 14 回	GW: (プレゼン) アジアでのビジネスチャンスー考案 1	○GW プレゼン作成 (150 分)
第 15 回	GW: (プレゼン) アジアでのビジネスチャンスー考案 2	レポート作成・提出 (240 分)

1.授業コード (ナンバリング)	MRK303-a52	2.科目名	広告論（遠隔:三木 C 発信）		3.単位数	2
4.授業担当教員	齋藤勝洋					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	学芸員資格		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	広告は企業の多様な戦略の中でも、特に市場、顧客、ユーザー等へ直接に影響する戦略である。しかもインターネットや数々のメディアの普及によって、昨今、その重要性は飛躍的に高まっている。 講義では、こうした広告の背景にある戦略構造、発想、そして実際の作成計画とその手法について体系的に学ぶものである。なお、講義では多くの事例を採り上げ、紹介する予定である。					
18.学習目標と DPとの関連	ベンチマーク ・問題発見・解決力 レベル 3 ・コミュニケーションスキル レベル 3 ・専門的知識・技能の活用力 レベル 3					
19.教科書・教材	岸 志津江・嶋村 和恵・田中 洋『現代広告論 第 3 版』有斐閣,2000 年 04 月					
20.参考文献	適時、配布する。					
21.成績評価	中間レポート：20% 授業の課題：10% 中間テスト：30% 総括テスト：40%					
22.コメント	広告論はマーケティングと密接に関係している。受講者はマーケティングのテキスト、広告戦略等も合わせて読み、復習するとより理解が深まる。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	イントロダクション：講義の進め方、内容、評価方法、授業の目的、テキストの紹介等を行う。また、広告とは何か、概要を説明する。 ○広告に対する認識（30 分）			授業外学習：第 1 章の読み込み		
第 2 回	第 1 章「広告とはなに何か」を用いて、広告の定義と種類、機能について理解すると共に、広告を我々はどうの様に捉えているのか、そして送り出すのかといった送信者と受信者の立場の違いを理解する。 ○広告の種類と違い（40 分）			授業外学習：第 2 章の読み込み		
第 3 回	第 2 章「マーケティング計画と広告」を用いて、マーケティングと広告がどのような関係にあるのか、そして昨今では広告が重視されてどのように運用されているのかを理解する。 ○マーケティングと広告の関係（30 分）			授業外学習：第 3 章の読み込み		
第 4 回	第 3 章「マーケティング・コミュニケーション組織」を用いて、広告によって形成される企業外部の組織、広告代理店や調査会社等の紹介を行い、複雑な産業構			授業外学習：第 4 章の読み込み		

	造を理解する。 ○組織の構造と流れ（40 分）	
第 5 回	第 4 章「広告計画の構造と調査」を用いるが、ここからは実際に企業がどの様に広告を作成するのか、その組織的運用が主となる。まずは、広告を企業内部でどの様に考えるか、その為の調査について理解する。 ○広告計画の考え方の流れ（50 分）	第 5 章の読み込み
第 6 回	第 5 章「広告戦略の立案」を用いて、次の段階として調査結果や企業内部での意志決定を受けての広告計画の立案の手法について理解する。 ○広告戦略立案の注意点（30 分）	第 6 章の読み込み
第 7 回	第 6 章「広告予算の決定方法」を用いて、広告計画をどの様に実行に移すのか、予算をどの様に立てればよいのか、そして外部の企業をどの様に構成すれば良いのかを理解する。	第 7 章の読み込み
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	第 7 章「広告コミュニケーション過程と効果」を用いて、こうして実行された広告戦略に対して、どの様に区かを測定し、評価し、そして次の広告戦略につなげればよいのかを理解する。	第 8 章の読み込み
第 10 回	第 8 章「広告の表現計画」を用いて、ここからは広告代理店等が実際にどの様に広告を作成するのか、そのプロセスをみていき、戦術レベルでの作成方向と組織について理解する。 ○表現計画の注意点（30 分）	第 9 章の読み込み
第 11 回	第 9 章「広告の媒体計画」を用いて、実際に広告をする際に、どのような媒体にどのような広告を出すべきであるのか、その測定方法と考え方を理解する。又、企業を事例として一社選択し、これまでの学習からその広告戦略を分析する。 ○媒体計画の注意点（30 分）	第 10 章の読み込み ○中間レポート「テーマ」は授業中に提示する。提出は 2 週間後に WEbClass
第 12 回	第 10 章「ブランド・コミュニケーション管理」を用いて、広告を行って生まれた企業にとって重要なブランドを用いて、ユーザーと如何にしてコミュニケーションをとるか、という新しい手法を理解する。 ○ブランドの理解（30 分）	第 11 章の読み込み
第 13 回	第 11 章「広告効果の測定」を用いて、より具体的な広告の効果をどの様に測定するか、特に各種類の広告における測定方法についてより具体的に理解する。 ○測定方法の種類と判断方法（40 分）	第 12 章の読み込み
第 14 回	第 12 章「広告関連の法規と規制」を用いて、こうした規制の存在の理由から広告の持つ危険性と法的規制、自主的規制、日本における広告の特徴について理解する。 ○法規制について（30 分）	
第 15 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	MRK303-m51	2.科目名	広告論		3.単位数	2
4.授業担当教員	齋藤勝洋					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	学芸員資格		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	広告は企業の多様な戦略の中でも、特に市場、顧客、ユーザー等へ直接に影響する戦略である。しかもインターネットや数々のメディアの普及によって、昨今、その重要性は飛躍的に高まっている。 講義では、こうした広告の背景にある戦略構造、発想、そして実際の作成計画とその手法について体系的に学ぶものである。なお、講義では多くの事例を採り上げ、紹介する予定である。					
18.学習目標と DPとの関連	ベンチマーク ・問題発見・解決力 レベル3 ・コミュニケーションスキル レベル3 ・専門的知識・技能の活用力 レベル3					
19.教科書・教材	岸 志津江・嶋村 和恵・田中 洋『現代広告論 第3版』有斐閣,2000 年 04 月					
20.参考文献	適時、配布する。					
21.成績評価	中間レポート：20％ 授業の課題：10％ 中間テスト：30％ 総括テスト：40％					
22.コメント	広告論はマーケティングと密接に関係している。受講者はマーケティングのテキスト、広告戦略等も合わせて読み、復習するとより理解が深まる。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	イントロダクション：講義の進め方、内容、評価方法、授業の目的、テキストの紹介等を行う。また、広告とは何か、概要を説明する。 ○広告に対する認識（30分）			授業外学習：第1章の読み込み		
第2回	第1章「広告とはなに何か」を用いて、広告の定義と種類、機能について理解すると共に、広告を我々はどうの様に捉えているのか、そして送り出すのかといった送信者と受信者の立場の違いを理解する。 ○広告の種類と違い（40分）			授業外学習：第2章の読み込み		
第3回	第2章「マーケティング計画と広告」を用いて、マーケティングと広告がどのような関係にあるのか、そして昨今では広告が重視されてどのように運用されているのかを理解する。 ○マーケティングと広告の関係（30分）			授業外学習：第3章の読み込み		
第4回	第3章「マーケティング・コミュニケーション組織」を用いて、広告によって形成される企業外部の組織、広告代理店や調査会社等の紹介を行い、複雑な産業構			授業外学習：第4章の読み込み		

	造を理解する。 ○組織の構造と流れ（40 分）	
第 5 回	第 4 章「広告計画の構造と調査」を用いるが、ここからは実際に企業がどの様に広告を作成するのか、その組織的運用が主となる。まずは、広告を企業内部でどの様に考えるか、その為の調査について理解する。 ○広告計画の考え方の流れ（50 分）	第 5 章の読み込み
第 6 回	第 5 章「広告戦略の立案」を用いて、次の段階として調査結果や企業内部での意志決定を受けての広告計画の立案の手法について理解する。 ○広告戦略立案の注意点（30 分）	第 6 章の読み込み
第 7 回	第 6 章「広告予算の決定方法」を用いて、広告計画をどの様に実行に移すのか、予算をどの様に立てればよいのか、そして外部の企業をどの様に構成すれば良いのかを理解する。	第 7 章の読み込み
第 8 回	中間テスト	
第 9 回	第 7 章「広告コミュニケーション過程と効果」を用いて、こうして実行された広告戦略に対して、どの様に区かを測定し、評価し、そして次の広告戦略につなげればよいのかを理解する。	第 8 章の読み込み
第 10 回	第 8 章「広告の表現計画」を用いて、ここからは広告代理店等が実際にどの様に広告を作成するのか、そのプロセスをみていき、戦術レベルでの作成方向と組織について理解する。 ○表現計画の注意点（30 分）	第 9 章の読み込み
第 11 回	第 9 章「広告の媒体計画」を用いて、実際に広告をする際に、どのような媒体にどのような広告を出すべきであるのか、その測定方法と考え方を理解する。又、企業を事例として一社選択し、これまでの学習からその広告戦略を分析する。 ○媒体計画の注意点（30 分）	第 10 章の読み込み ○中間レポート「テーマ」は授業中に提示する。提出は 2 週間後に WEbClass
第 12 回	第 10 章「ブランド・コミュニケーション管理」を用いて、広告を行って生まれた企業にとって重要なブランドを用いて、ユーザーと如何にしてコミュニケーションをとるか、という新しい手法を理解する。 ○ブランドの理解（30 分）	第 11 章の読み込み
第 13 回	第 11 章「広告効果の測定」を用いて、より具体的な広告の効果をどの様に測定するか、特に各種類の広告における測定方法についてより具体的に理解する。 ○測定方法の種類と判断方法（40 分）	第 12 章の読み込み
第 14 回	第 12 章「広告関連の法規と規制」を用いて、こうした規制の存在の理由から広告の持つ危険性と法的規制、自主的規制、日本における広告の特徴について理解する。 ○法規制について（30 分）	
第 15 回	総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	MRK305-A51	2.科目名	インターネットマーケティング		3.単位数	2
4.授業担当教員	福本哲也					
5.授業科目の区分	展開科目 マーケティング分野に おける実務経験のある 教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	[目的] 本講義では、マーケティングの基礎理論をベースに、インターネット環境の急速な進展に伴い激変するマーケティング技術を学ぶ。特にインターネットにより高度化したリサーチ手法、戦術立案視点の「4P」の視点を中心に、授業を構成する。インターネット活用はマーケティング技術の高度化・効率化・精度向上との相性も非常に高く、様々な製品やサービス、そして企業戦略立案の重要な手法となる。その理解は今後の様々な学修に大きく影響する。 [概要] 本講義では、インターネットマーケティング理論を実感できる事例紹介を交えながら、できるだけ分かり易く説明を行う。また、講義では単なる座学に終わることなく、マーケティングを実際に使える技術にまで高めるため、ほぼ毎回、個ワークまたグループワークを行い、実践的でメリハリのついた学習ができるようになっている。 なお、講義内容を次週までに公開するので、予習として読み込んでくる必要があるのと同時に、毎回、パソコンを利用 して個ワーク、グループワーク、情報収集や報告を行うので、必ず持参すること。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次のとおりです。 ①インターネットマーケティングの理論や専門用語が理解でき、その意味を説明できる=知的な好奇心 ②インターネットを使い、社会やビジネスの課題について情報収集ができ、マーケティング視点で分析できる=情報収集/分析力 ③インターネットマーケティング技術を高め、プランニングの為にツールとして活用できる = 思考/構想 [関連するディプロマポリシー] (1) 自立性 (2) 社会的貢献 (4)問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	西川英彦・ 澁谷 覚 『1からのデジタル・マーケティング』碩学舎 ,2019 年 ISBN:978-4-502-28991-0 定価:本体 2,400 円+税					
20.参考文献	都度、紹介する。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 (1)授業中の課題、小テスト:15 点 (2)授業中のワーク:15 点 (3)中間レポート「課題テーマは別途発表」:20 点 (4)総括試験「インターネットマーケティングの概念を理解していること、それを用いた企業や商品事例の分析」:40 点					

	(5)e-ポートフォリオ「インターネットマーケティングで学んだことを自分の言葉と考え方で表現できる」：10点	
22.コメント	インターネットマーケティングはスマホの登場以降画期的な進化を続けている。身近なスマホから得られる生活者や街・お店、また、様々な製品やサービスなど情報はインターネットマーケティングの基本となるものである。スマホでの検索から始まる日常、その暮らし方にはインターネットマーケティングのヒントが一杯です。そんな暮らし方に興味を持ち受講することを期待しています。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	第1回 ○オリエンテーション ・講義の概要、講義の流れ ○教員自己紹介 ○デジタル社会のマーケティング、インターネットマーケティングとは ・「アマゾン」を事例に学ぶ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる(60分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第2回	第2回 ○デジタルマーケティングの基礎知識1 ・そもそもマーケティングとは、マーケティングの基礎知識 ・デジタルマーケティングとは何か ・マーケティングがデジタルに変わると何が変わるのか?	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる(60分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第3回	第3回 ○デジタルマーケティングの基礎知識2 ・デジタルマーケティングの特性① 「検索性」「双方向性」「即時性」 ・デジタルマーケティングの特性② 「ターゲティング」と「パーソナライゼーション」	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる(60分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第4回	第4回 ○デジタル社会の消費者行動 :「食ベログ」を事例に学ぶ ・デジタル時代の消費者行動モデル 「AIDMA」から「AISAS」へ ・デジタルマーケティングの基本 「集客→育成→商談」 ・カスタマージャーニーとタッチポイント 顧客の消費行動を分析・予測する ・デジタルマーケティングの重要な5つのKPI	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる(60分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第5回	第5回 ○デジタル社会のリサーチ(調査) :「グーグル」を事例に学ぶ ・デジタルマーケティングに必修の「データ計測と分析」 グーグルアナリティクス、直帰率 ・増大する、価値のある「消費者生成メディア」	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる(60分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する

第 6 回	第 6 回 ○デジタル時代のプロモーション戦略の基本 1 4P①: Promotion ○デジタルメディアへのシフト ：競合サイトと差別化し、ライバルに勝つ ・WEB サイトの役割と種類 自社メディア（オウンドメディア）における価値のあるキーワード SEO、リスティング広告	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 7 回	第 7 回 ○デジタル時代のプロモーション戦略の基本 2 4P②: Promotion ・重要な KPI: PV 数、ユーザー数、直帰率、回遊率 ・WEB デザイン、WEB ライティング ・デジタルサイネージ ○進化しつづける WEB マーケティング ・ディスプレイ広告 ・リマーケティング広告 ・LIVE 配信	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する [中間レポート] 作成と提出
第 8 回	第 8 回 ○プロモーション戦略の拡張 ○インフルエンサー ・SNS マーケティング ・インフルエンサーマーケティング ・ショート動画 ・ステマ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 9 回	第 9 回 ○デジタル社会の新しいビジネスモデル ：「メルカリ、SHIN、D2C」事例から学ぶ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 10 回	第 10 回 ○デジタル・マーケティングの基本概念 ：「無印良品」事例に学ぶ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 11 回	第 11 回 ○商品戦略の基本 4P③：Product ：「アップル」「レゴ」事例に学ぶ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 12 回	第 12 回 ○価格戦略の基本 4P④: Price ：「ANA」「アエビーアンドビー」事例に学ぶ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 13 回	第 13 回 ○チャネル戦略の基本 4P⑤: Place	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60分）

	：「ユニクロ」「ウーバー」事例に学ぶ	分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 14 回	第 14 回 ○デジタル社会のロジスティクス ：「ヤマト運輸」事例に学ぶ ○デジタル社会の情報システム ：「セールスフォースドットコム」事例に学ぶ	[予習] 総括試験の準備 [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 15 回	第 15 回 ○総括試験	[復習] 総括試験を振り返る

1.授業コード (ナンバリング)	MRK305-M51	2.科目名	インターネットマーケティング		3.単位数	2
4.授業担当教員	齋藤勝洋					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	インターネットマーケティングとはインターネットを利用したマーケティングの総称である。インターネットマーケティングにおいては、ビジネスやIoTの様々な手法や技術が活用され、市場は拡大している。既に amazon や楽天、アリババといった企業だけでなく、ファーストリテリングや ZOZO Town 等、企業独自のインターネットビジネスが展開され、小売業の中で確固たる地位を占めつつある。 こうした状況を受け、本講義ではインターネットを利用したビジネス全般の基礎について学びながら、インターネットビジネスの進展とマーケティングの変化、市場の原価を理解することを目指す。なお、HP を視聴することが多いので、毎回の PC 持参が必要である。 また、毎回、前回の振り返りワークと、その回の個人若しくはグループワークがあるので、必ずこれを指示に従って行うことが求められる。					
18.学習目標と DP との関連	ベンチマーク ・多様性理解 レベル3 ・問題発見・解決力 レベル3 ・専門的知識・技能の活用力 レベル3					
19.教科書・教材	西川英彦・澁谷寛 編『1 からのデジタル・マーケティング』 ISBN：9784502289910 価格：2,640 円 出版社：碩学舎					
20.参考文献	授業中に適時、指示する。					
21.成績評価	授業中のワーク：10% 中間テスト：30% 中間レポート：20% 総括テスト：40%					
22.コメント	毎回、企業や商品について調べるので、PC を持参すること					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 01 回	・オリエンテーション、授業の進め方について ・最新の ICT とインターネット、マーケティングの関係について ○インターネットビジネスとは (60 分)			教室外学習：第 1 章の読み込み		
第 02 回	第 1 章「デジタル社会のマーケティングーアマゾンー」その② ○インターネットビジネスの特徴とは (60 分)			教室外学習：第 2 章の読み込み		
第 03 回	第 2 章「デジタル社会の消費者行動ー食ベログ」その① キーワード：食ベログ/カスタマー・ジャーニー/デジタル・リテラシー			教室外学習：第 3 章の読み込み		

	○デジタル時代の消費者行動の特徴 (60 分)	
第 04 回	第 3 章「デジタル社会のビジネスモデル—メルカリ—」 キーワード：メルカリ/プラットフォーム/ネットワーク効果 ○デジタル社会におけるビジネスモデルの特徴 (60 分)	教室外学習：第 4 章の読み込み 中間レポートを次週に提出
第 05 回	第 4 章「デジタル・マーケティングの基本—無印良品—」 キーワード：無印良品/協働/マーケティング・ミックス ○デジタル社会でのマーケティング・ミックス (60 分)	教室外学習：第 5 章の読み込み
第 06 回	第 5 章「製品戦略の基本—アップル—」 キーワード：アップル/デジタル財/IoT ○デジタル時代の製品戦略 (60 分)	教室外学習：第 6 章の読み込み
第 07 回	第 6 章「製品戦略の拡張—レゴ—」 レゴ/クラウドソーシング/イノベーション・コミュニティ ○製品概念の拡張と市場創造・拡張 (60 分)	
第 08 回	中間テスト	教室外学習：第 7 章の読み込み
第 09 回	第 7 章「価格戦略の基本—ANA—」 キーワード：ANA/時期に対応したダイナミック・プライシング/顧客に対応したダイナミック・プライシング ○EC ビジネスの展開下での価格戦略 (60 分)	教室外学習：第 8 章の読み込み
第 10 回	第 8 章「価格戦略の拡張—エアビーアンドビー—」 キーワード：エアビーアンドビー/消費者間取引のダイナミック・プライシング/電子決済 ○製品価格の概念の変化 (60 分)	教室外学習：第 9 章の読み込み
第 11 回	第 9 章「チャネル戦略の基本—ユニクロ—」 キーワード：ユニクロ/ダイレクトモデル(直販)/オムニチャネル ○流通経路について (60 分)	教室外学習：第 10 章の読み込み
第 12 回	第 10 章「チャネル戦略の拡張—ウーバー—」 キーワード：ウーバー/消費者間取引/シェアリング・エコノミー ○新しい取引・流通経路について (60 分)	教室外学習：第 11 章の読み込み ○中間レポート「プラットフォームビジネスの概要まとめと、これからのプラットフォームビジネスの提案」を WebClass 提出を提示
第 13 回	第 11 章「プロモーション戦略の基本—ローソンクルー♪あきこちゃん—」 キーワード：ローソンクルー♪あきこちゃん/トリプル・メディア/コンテンツ・マーケティング ○現代におけるプロモーションの変化と多様化 (60 分)	教室外学習：第 12 章の読み込み ○中間レポート提出
第 14 回	第 12 章「プロモーション戦略の拡張—トリップアドバイザー—」 キーワード：トリップアドバイザー/クチコミ/共同格	教室外学習：第 13 章の読み込み

	付け ○プロモーションにおける各構成員の役割変化（60分）	
第 15 回	第 13 章 デジタル社会の研究 ― グーグル キーワード：検索、SEO、google、ビッグデータ、ソーシャル・リスニング ○デジタル社会における研究の意義と機能（60分）	○授業で学んだこと、発見したこと等を e ポートフォリオにまとめる。

1.授業コード (ナンバリング)	MRK306-Y51	2.科目名	デジタルマーケティング B		3.単位数	2
4.授業担当教員	齋藤勝洋					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	インターネットマーケティングとはインターネットを利用したマーケティングの総称である。インターネットマーケティングにおいては、ビジネスやIoTの様々な手法や技術が活用され、市場は拡大している。既に amazon や楽天、アリババといった企業だけでなく、ファーストリテリングや ZOZO Town 等、企業独自のインターネットビジネスが展開され、小売業の中で確固たる地位を占めつつある。 こうした状況を受け、本講義ではインターネットを利用したビジネス全般の基礎について学びながら、インターネットビジネスの進展とマーケティングの変化、市場の原価を理解することを目指す。なお、HP を視聴することが多いので、毎回の PC 持参が必要である。 また、毎回、前回の振り返りワークと、その回の個人若しくはグループワークがあるので、必ずこれを指示に従って行うことが求められる。					
18.学習目標と DP との関連	ベンチマーク ・多様性理解 レベル3 ・問題発見・解決力 レベル3 ・専門的知識・技能の活用力 レベル3					
19.教科書・教材	西川英彦・澁谷寛 編『1からのデジタル・マーケティング』 ISBN：9784502289910 価格：2,640 円 出版社：碩学舎					
20.参考文献	授業中に適時、指示する。					
21.成績評価	授業中のワーク：10% 中間テスト：30% 中間レポート：20% 総括テスト：40%					
22.コメント	毎回、企業や商品について調べるので、PC を持参すること					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 01 回	・オリエンテーション、授業の進め方について ・最新の ICT とインターネット、マーケティングの関係について ○インターネットビジネスとは (60 分)			教室外学習：第 1 章の読み込み		
第 02 回	第 1 章「デジタル社会のマーケティングーアマゾンー」その② ○インターネットビジネスの特徴とは (60 分)			教室外学習：第 2 章の読み込み		
第 03 回	第 2 章「デジタル社会の消費者行動ー食ベログ」その① キーワード：食ベログ/カスタマー・ジャーニー/デジタル・リテラシー			教室外学習：第 3 章の読み込み		

	○デジタル時代の消費者行動の特徴 (60 分)	
第 04 回	第 3 章「デジタル社会のビジネスモデル—メルカリ—」 キーワード：メルカリ/プラットフォーム/ネットワーク効果 ○デジタル社会におけるビジネスモデルの特徴 (60 分)	教室外学習：第 4 章の読み込み 中間レポートを次週に提出
第 05 回	第 4 章「デジタル・マーケティングの基本—無印良品—」 キーワード：無印良品/協働/マーケティング・ミックス ○デジタル社会でのマーケティング・ミックス (60 分)	教室外学習：第 5 章の読み込み
第 06 回	第 5 章「製品戦略の基本—アップル—」 キーワード：アップル/デジタル財/IoT ○デジタル時代の製品戦略 (60 分)	教室外学習：第 6 章の読み込み
第 07 回	第 6 章「製品戦略の拡張—レゴ—」 レゴ/クラウドソーシング/イノベーション・コミュニティ ○製品概念の拡張と市場創造・拡張 (60 分)	
第 08 回	中間テスト	教室外学習：第 7 章の読み込み
第 09 回	第 7 章「価格戦略の基本—ANA—」 キーワード：ANA/時期に対応したダイナミック・プライシング/顧客に対応したダイナミック・プライシング ○EC ビジネスの展開下での価格戦略 (60 分)	教室外学習：第 8 章の読み込み
第 10 回	第 8 章「価格戦略の拡張—エアビーアンドビー—」 キーワード：エアビーアンドビー/消費者間取引のダイナミック・プライシング/電子決済 ○製品価格の概念の変化 (60 分)	教室外学習：第 9 章の読み込み
第 11 回	第 9 章「チャネル戦略の基本—ユニクロ—」 キーワード：ユニクロ/ダイレクトモデル(直販)/オムニチャネル ○流通経路について (60 分)	教室外学習：第 10 章の読み込み
第 12 回	第 10 章「チャネル戦略の拡張—ウーバー—」 キーワード：ウーバー/消費者間取引/シェアリング・エコノミー ○新しい取引・流通経路について (60 分)	教室外学習：第 11 章の読み込み ○中間レポート「プラットフォームビジネスの概要まとめと、これからのプラットフォームビジネスの提案」を WebClass 提出を提示
第 13 回	第 11 章「プロモーション戦略の基本—ローソンクルー♪あきこちゃん—」 キーワード：ローソンクルー♪あきこちゃん/トリプル・メディア/コンテンツ・マーケティング ○現代におけるプロモーションの変化と多様化 (60 分)	教室外学習：第 12 章の読み込み ○中間レポート提出
第 14 回	第 12 章「プロモーション戦略の拡張—トリップアドバイザー—」 キーワード：トリップアドバイザー/クチコミ/共同格	教室外学習：第 13 章の読み込み

	付け ○プロモーションにおける各構成員の役割変化（60分）	
第 15 回	第 13 章 デジタル社会の研究 ― グーグル キーワード：検索、SEO、google、ビッグデータ、ソーシャル・リスニング ○デジタル社会における研究の意義と機能（60分）	○授業で学んだこと、発見したこと等を e ポートフォリオにまとめる。

1.授業コード (ナンバリング)	MRK307-Y51	2.科目名	ローカルプロダクトデザイン論		3.単位数	2
4.授業担当教員	橘セツ					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	3 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】現在の日本各地の農産物から銘菓にいたるまでのローカルプロダクツの構造と類型について、その来歴などの歴史・環境・経済・社会・文化の文脈を通して理解することが本授業の目的です。さらに、これらのローカルプロダクツが、いかに日本の産業振興・地域活性化の手段としてデザインされてきたのか観光との関係について具体例を通して理解することを目的とします。 【概要】この科目は、日本各地の「ローカルプロダクツの文化論－農産物から銘菓まで」をテーマに学習します。江戸時代の農学者・大蔵永常は『公益国産考』において、領主の財政危機と農民困窮を救うために自己の見聞を元に産業振興・生産向上の手段について具体的に説いています。現在においても日本各地のローカルプロダクツとしての名産物は江戸時代における産業振興にルーツを持つものがたくさんあります。 授業では、まず、大蔵永常の『公益国産考』を読みながら、本書に紹介されている日本の産物とその考え方について学びます（はじめの5回）。それを踏まえて、日本各地、具体的には、北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州・沖縄地方のローカルプロダクツについて、その産物がどのように名産となり銘菓となったのかについて、産業振興と観光に焦点を当てながら歴史・環境・経済・社会・文化の文脈を考慮しながら具体例を紹介します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）・KUISS 学修ベンチマークの以下の項目と関連しています (1)自律的で主体的な態度(自律性) (2)社会に能動的に貢献する姿勢(社会的貢献性) (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力(多様性理解) 学習目標 本科目の学習目標は以下の通りです。 1 ローカルプロダクト（地域の名産）についてのデザインとその課題を説明できる。 2 ローカルプロダクト（地域の名産）の類型について説明できる。 3 ローカルプロダクト（地域の名産）と観光インパクトの関係について説明できる。					
19.教科書・教材	教科は特に指定しません。教材資料は、Web Class で、配布します					
20.参考文献	大蔵永常（土屋喬雄校訂）『公益国産考』岩波文庫。 そのほか、授業中にたくさん紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と採点は以下の通りです。 ・授業中のコメントシート(授業内レポート)・・・20% 【学習目標 123 に対応】 ・授業中の発表・・・20% 【学習目標 123 に対応】 ・中間試験（確認試験）・・・25% 【学習目標 123 に対応】 ・期末試験・35% 【学習目標 123 に対応】 授業中のコメントシート、確認試験・統括試験の記述部分と発表は、ルーブリック評価で採点					

	します。	
22.コメント	受講生のみなさんは、観光や旅行に行った時や故郷に帰省した時に、どのようなお土産を探して購入しましたか。受講生のみなさんが買ったことのある産物や銘菓などのお土産について、それがローカルプロダクトとして、どのようにその地域の産業を支えたのか、産業振興と観光の視点から、具体的に考えてみると理解が深まります。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	オリエンテーション	
第2回	大蔵永常の『公益国産考』を読む：紙・楮・杉・檜・菜種・紅花	準備学習:関連文献を読む(120分)
第3回	大蔵永常の『公益国産考』を読む：砂糖・木綿・桑・琉球蘭・漆	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第4回	大蔵永常の『公益国産考』を読む：茶・麻・葛・玉蜀黍・芋・薩摩薯・蜜柑・葡萄	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第5回	大蔵永常の『公益国産考』を読む：柿・梨・桐・養蚕・絹織・藍・素麺	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第6回	北海道のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第7回	東北地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分) 中間試験の準備学習
第8回	中間試験(確認試験) 関東地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第9回	中部地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第10回	近畿地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第11回	中国地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)

第 12 回	四国地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60 分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60 分)
第 13 回	九州地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60 分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60 分)
第 14 回	期末試験 沖縄地方のローカルプロダクツ	準備学習:期末試験の準備として関連文献を読む(120 分)
第 15 回	まとめ	返却された期末試験の復習

1.授業コード (ナンバリング)	NAD201-M51	2.科目名	国際看護論		3.単位数	1
4.授業担当教員	伊藤尚子、杉野美礼					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部 看護学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	看護職は、国際的な視野から健康課題を考えることができ、国際社会で活躍できる能力を養うことが必要となってきた。本授業では、国際看護の概念を学習し、世界における健康問題とそれに対する戦略の潮流を理解したうえで、実際の国際看護活動に必要な知識を得る。さらに日本国内における国際看護として在留外国人への支援について学習する。					
18.学習目標と DPとの関連	世界の健康問題と戦略・課題を知り、看護による国際協力の意義および活動の場所と対象について説明できる。?授業内課題・総括試験 異文化看護論を理解し、国際看護活動におけるアセスメントや活動に影響を及ぼす因子についての考察を述べられる。?授業内課題・総括試験 さらに日本国内における在留外国人を対象とした看護活動のための実践について具体的に述べられる。。?授業内課題・総括試験 本授業は DP 1～6 すべてと関連します。					
19.教科書・教材	講義中に参考資料を配布					
20.参考文献	日本国際看護学会：国際看護学入門 第 2 版、医学書院、2020 森淑江他：国際看護: 国際社会の中で看護の力を発揮するために（看護学テキスト NiCE）、南江堂、2019					
21.成績評価	総括試験＝筆記試験（60％） 授業内課題(40%)…毎授業で提出					
22.コメント	看護の仕事は病院だけではなく。地域や家庭、そして海外も活動範囲です。「ひと」のいるところすべてに看護の意義は存在します。看護はいろいろな可能性を秘めています。世界に目を向けて看護活動の視野を広げましょう。					
23.オフィスアワー	後ほど記入					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	1. 国際看護とは 1) 国際看護の概念 2) 看護による国際協力の意義 3) 国際看護の活動の場所と対象			1 年時の「看護学原論」で学習した「看護の本質」と「看護の国際化」を復習しておく。 授業内に課題を提示しますので、指定した用紙に記述して提出してください。		
第 2 回	2. 世界の健康格差と戦略の潮流 1) 世界の健康問題 2) 世界の健康問題に対する戦略 3) 世界の健康問題に対する課題			海外の国のニュースを 1 つ以上見ておく。 授業内に課題を提示しますので、指定した用紙に記述して提出してください。		
第 3 回	3. 日本の国際協力 1) 日本の国際協力の歴史 2) 日本の国際協力の実際			日本と他の国々の関係性に注意して新聞やニュースなどを見ておく。 授業内に課題を提示しますので、指定した用紙に記述して提出してください。		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NAH101-M51	2.科目名	成人健康看護学概論		3.単位数	1
4.授業担当教員	高見沢恵美子、岩下真由美					
5.授業科目の区分	専門科目 看護分野における実務 経験 のある教員による授業 科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	1 年生	
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師	11.先修条件	基礎看護学概論 基礎看護方法論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学実習Ⅰ 生化学 薬理学 臨床栄養学 免疫学 病態学 疾病・治療			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	急性/慢性看護学実習の履修を開始するまでに履修し単位を取得しておく					
17.授業の目的と概要	【目的】対象への看護に有用な概念および理論について学ぶことを目的とする。 【概要】看護専門職者、とくに看護師、保健師活動において対象とする成人期にある人々の身体・心理・社会的特徴、健康問題の特徴について学修を深める。 この科目では、成人期にある人の健康の維持・増進や疾病からの回復を促進するための健康レベルに応じた看護実践に関わる基本概念を修得することをねらいとする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の額主目的に関連するディプロマポリシーは、以下の通りです。 (1) 自律性、(3) 多様性理解、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門知識・技能の活用力 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①ライフサイクルにおける成人期の特徴と発達課題について説明できる。 ②成人期にある人々への看護に有用な概念および理論について説明できる。					
19.教科書・教材	林直子、鈴木久美、酒井郁子他(2022)、成人看護学概論（改訂第4版）社会に生き世代をつなぐ成人の健康を支える 南江堂					
20.参考文献	授業内で提示する。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 レポート課題 30%(各授業での課題を含む) 中間試験 30％ 総括試験 40％ 授業で提示された課題は指定の日時までに指定された方法で提出する。 レポート課題に関しては各授業の理解内容を問う。 中間試験は第1～3回目の授業内容とする。 統括試験は第4～7回目の授業内容とする。 レポート課題を提出することが単位認定の前提となるので注意してください。					
22.コメント	成人看護学分野の基礎となる授業で、成人期にある人の看護実践に関わる基本概念を学修する。					

	授業でわからないことは積極的に質問し、主体的に学びを深めていきましょう。	
23.オフィスアワー	高見沢恵美子 : センター；火曜日昼休み 研究室；月曜日 2 限 岩下真由美 : センター；火曜日昼休み 研究室；木曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 11 月 13 日(水) 3 限 (4-202 教室)	【対面】オリエンテーション 成人期にある人の特徴 (1) 【オンディマンド】 1. 成人各期(青年期・壮年期・中年期(向老期)の身体的・心理社会的特徴 【対面】 2. 成人を取り巻く今日の状況 <岩下>	1.テキスト P1~32, p 33~55 を熟読して授業に臨むこと。 2.授業の終了時に、課題を提示するので、期限までに Web Class に提出すること。
第 2 回 11 月 20 日 (水)3 限 (4-202 教室)	成人期にある人の特徴 (2) 3. 成人期にある人の健康 4. 保健・医療・福祉政策と今日の健康課題 5. 生活習慣に関連する健康障害－生活習慣病 <高見沢>	1.テキスト P77~153 を熟読して授業に臨むこと。 2.授業の終了時に、課題を提示するので、期限までに Web Class に提出すること。
第 3 回 11 月 27 日 (水)3 限 (4-202 教室)	成人期にある人々への看護に有用な概念および理論 (1) 【1 部オンディマンド】 1. 成人期にある人の意思決定を支える看護 【対面】 2. 家族の捉え方と家族支援の方法 <岩下> 中間試験	1.テキスト P192~196、P214~223、P288~297 を熟読して授業に臨むこと。 2.授業の終了時に、課題を提示するので、期限までに Web Class に提出すること。
第 4 回 12 月 4 日(水)3 限 (4-202 教室)	成人期にある人々への看護に有用な概念および理論 (2) 3. 成人期にある人と関係を構築する際に基盤となる概念 1) ケアリングに基づいた関係 2) パートナーシップを構築する 3) その人のレジリエンスに目を向ける 4) 問題をもつ大人と看護師の人間関係 <房間>	1.テキスト P156-P169 を熟読して授業に臨むこと。 2.授業の終了時に、課題を提示するので、期限までに Web Class に提出すること。
第 5 回 12 月 18 日 (水)3 限 (4-202 教室)	成人期にある人々への看護に有用な概念および理論 (3) 4. 成人期にある人の発達を促進する援助に必要な理論や概念 【1 部オンディマンド】 1) 成人のセルフケアを育む 【対面】 2) 自己効力感を高める 【対面】 3) 成人学習を促進する <岩下>	1.テキスト P197-P213 を熟読して授業に臨むこと。 2.授業の終了時に、課題を提示するので、期限までに Web Class に提出すること。

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NAH205-M51	2.科目名	急性・慢性看護技術演習		3.単位数	1
4.授業担当教員	高見沢恵美子、岩下真由美、白石夕起子、野村浩、平野通子					
5.授業科目の区分	専門科目 看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格			11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	【目的】 健康状態の急激な変化により生命の危機状態にある、あるいは慢性疾患や障害とともに生活している成人患者・家族の最適な健康状態の回復・維持に働きかけるための看護援助に関する知識・技術を習得することを目指す。 【概要】 周手術期に関する技術、呼吸・循環機能、代謝機能を維持促進するための看護技術およびフィジカルアセスメント技術について学修する。 それぞれ授業で技術のロールプレイを行うため、事前に技術実施に必要な内容について課題を課します。課題については、指定された日に授業で資料を配布し説明する。課題について自己学習でレポートを作成し、授業で技術を実施し、グループメンバーからフィードバックを得る、技術に関するアクティブラーニングを行う。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、ディプロマポリシーの(1)自律性、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識技能の活用力と関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 1.演習技術の目的・手順・留意点について説明できる。 2.演習技術を実施できる。					
19.教科書・教材	資料を配布する。					
20.参考文献	授業で適宜紹介する。					
21.成績評価	総括試験 5 0 % (課題と技術実施に関する筆記試験を行う) 技術実施 3 0 % 課題レポート 2 0 %(第 1 回ガイダンス時に配布する日程表に記載してある第 2 回～第 14 回の事前学習課題) ※課題レポートを提出することが単位認定の前提となるので注意すること。					
22.コメント	事前学習に真摯に取り組み、根拠に基づいて演習技術を習得していきましょう。					
23.オフィスアワー	高見沢恵美子：センター火曜日 12:15～13:15 岩下真由美：センター火曜日 12:15～13:15					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 2-401 10 月 1 日(火)2 限	A クラス ガイダンス ス		B クラス ガイダン		グループ配置・AB クラスの日程表・課題と演習時の服装等について説明します。	
第 2 回	術前処置／術前訓練		血糖値測定		10 月 5 日(木)に実施要項・事前課題を配布す	

10月8日(火)2限	(アクティブラーニング)		る。
第3回 10月8日(火)3限	術前処置／術前訓練 (アクティブラーニング)	血糖値測定	
第4回 10月22日 (火)2限	血糖値測定 術前訓練 (アクティブラーニング)	術前処置／術	10月5日(木)に実施要項・事前課題を配布する。
5回 10月22日 (火)3限	血糖値測定 術前訓練 (アクティブラーニング)	術前処置／術	
第6回 11月5日(火)2限	フィジカルアセスメント セスメント (アクティブラーニング)	フィジカルア	11月2日(木)に実施要項・事前課題を配布する。
第7回 11月12日 (火)2限	インスリン注射 術後観察 (アクティブラーニング)		11月16日(木)に実施要項・事前課題を配布する。
第8回 11月12日 (火)3限	インスリン注射 術後観察 (アクティブラーニング)		
第9回 11月26日 (火)2限	BLS(1次救急蘇生法) 自己注射指導 (アクティブラーニング)	インスリン自	11月23日(木)に実施要項・事前課題を配布する。
第10回 11月26日 (火)3限	輸液管理 自己注射指導 (アクティブラーニング)	インスリン	
第11回 12月3日(火)2限	心電図 急蘇生法) (アクティブラーニング)	BLS(1次救	12月7日(木)に実施要項・事前課題を配布する。
第12回 12月3日(火)3限	心電図 (アクティブラーニング)	輸液管理	
第13回 12月17日 (火)2限	術後観察 (アクティブラーニング)	心電図	12月21日(木)に実施要項・事前課題を配布する。
第14回 12月17日 (火)3限	術後観察 (アクティブラーニング)	心電図	
第15回 2-401 1月7日(火)2限	まとめ	まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	NAH207-M51	2.科目名	精神看護援助論		3.単位数	2
4.授業担当教員	櫻井信人、西村美登里					
5.授業科目の区分	精神看護学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	看護師、保健師、助産師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	精神の健康問題を抱える人々とその家族の特徴や、精神看護の役割と課題について理解を深め、精神看護の援助方法と技術に関する知識や理論の習得をねらいとする。具体的には、精神の健康問題に関する知識や、精神的健康問題をもつ患者に対するコミュニケーション技法を含む精神看護援助技術について学ぶ。					
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（1）自律性、（3）多様性理解、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 【精神看護援助論の学習目標】 精神看護の援助対象者を人として理解し、尊重する態度を身につけることができる。 精神疾患の知識、アセスメント能力、看護問題、ストレングスなどの視点を身につけることができる。 精神看護援助の知識と技術を身につけることができる。 自己理解と精神看護援助に必要なコミュニケーション技術を身につけることができる。					
19.教科書・教材	医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 1 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学 2					
20.参考文献	自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード第 3 版、長谷川雅美著、日綜研、2020 精神看護学第 2 版 学生－患者のストーリーで綴る実習展開、田中美恵子編著、医歯薬出版、2015 実践オレム-アンダーウッド理論、南裕子編著、講談社、2005					
21.成績評価	課題については提出要件を満たし、合計で 6 割以上、かつテストでの点数が 6 割以上であることを合格基準とする。 プロセスレコード（6%）・・・記載の仕方を理解し、正しく記載できているか評価 授業内課題・感想 11 月 24 日（3%）・12 月 15 日（3%）・12 月 22 日（3%）・1 月 22 日（3%）（計 12%）・・・記載内容を踏まえて評価 看護過程のグループワークと発表（10%）・・・グループワークの参加度と役割、発表時の他者評価を総合して評価 看護過程課題（12%）・・・グループワークと発表を踏まえて追記修正されたもの					
22.コメント	毎回の学修の積み重ねが重要です。3 年次の実習に直接関わり、国家試験取得に不可欠な科目であるため、遅刻欠席はせずに主体的に取り組みましょう。 アクティブラーニングの姿勢を求めます。積極的に挙手をして授業に参加しましょう。 授業で用いるパワーポイントの撮影は禁止します。しっかりノートを取りましょう。ノートは実習時に確認をします。 また、授業資料は WebClass に載せますので、復習に用いてください。成績開示は随時しています。					
23.オフィスアワー	（櫻井）センターオフィスアワー水曜日 1 時間目、研究室オフィスアワー水曜日昼休み （西村）センターオフィスアワー水曜日 1 時間目、研究室オフィスアワー水曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

9月29日 【第1回・2回】 櫻井	(1 限) オリエンテーション 精神看護援助論について ケアの前提・原則・方法 (教科書 2-p2～27) (2 限) 関係をアセスメントする、プロセスレコードの意義と書き方 (教科書 2-p28～45)	宿題：プロセスレコードの作成、次回範囲の教科書を事前に読んでおくこと。
10月6日 【第3回・4回】 櫻井	(1 限) 患者－看護師関係における感情体験、チームのダイナミクス (教科書 2-p45～68) (2 限) 回復を支援する 回復の意味、リカバリー (教科書 2-p70～113)	★プロセスレコードを提出 宿題：次回授業範囲の依存症の看護 (病態生理を含む) について、各自図書館を利用しながら事前学習をしておくこと。
10月13日 【第5回】 西村	(1 限) 精神科における治療と看護 (依存症の看護)	宿題：次回の授業範囲、統合失調症、気分障害、不安障害の看護 (病態生理を含む) について、図書館を利用しながら事前学習をしておくこと。
10月20日 【第6回・7回】 櫻井	(1 限) 精神科における治療と看護 (統合失調症の看護) (2 限) 精神科における治療と看護 (気分障害、不安障害の看護)	宿題：中間テストの学習
10月27日 【第8回】 櫻井、西村 【第9回】 櫻井	(1 限) 中間テスト 45 分 その後、(1・2 限) 看護過程の展開	宿題：看護過程個人ワーク
11月3日 【第10・11回】 櫻井、西村	看護過程の展開 1 G～8 G (1 限) 精神症状の理解 妄想かるた (2 限) 事例検討グループワーク 看護過程の展開 9 G～16 G (1 限) 事例検討グループワーク (2 限) 精神症状の理解 妄想かるた	パソコンを持参 宿題：次回範囲の教科書を事前に読んでおくこと。
11月10日 【第12回】 西村	(1 限) 地域におけるケアと支援 (教科書 2-p116～129・150～177) 地域生活を支えるケアの方法と実際	宿題：次回の範囲の教科書を読んでおくこと。
11月13日 【第13・14回】 櫻井	教室は 4-101 (2 限) 入院治療の意味 (教科書 2-p196～254) (3 限) グループワーク	パソコンを持参 ★11月17日に発表のグループ→パワーポイント資料をウェブクラスに提出、発表に向けた準備をする。
11月17日 【第15回】 櫻井・西村	(1 限) 事例検討グループワークの発表 (セルフケア)	★発表の評価を提出 宿題：次回の範囲の教科書を読んでおくこと。
11月24日 【第16回・17回】 溝畑	(1 限) 災害時のメンタルヘルスと看護 (教科書 2-p374～388) (2 限) アンガーマネジメント	★アンガーマネジメントを通しての学びと感想の提出 ★12月1日に発表のグループ→パワーポイント資料をウェブクラスに提出、発表の準備を

		する。
12月1日 【第18回・19回】 櫻井、西村	(1限・2限) 事例検討グループワークの発表(看護計画)	★発表の評価を提出 宿題: 看護過程個人ワーク 宿題: 次回の範囲の教科書を読んでおくこと。
12月8日 【第20回】 西村 12月11日 【第21回】 櫻井	12月8日、教室は2-401 (1限) 地域生活を支えるシステムと社会資源 (教科書2-p130~149・178~194) 学校・職場におけるメンタルヘルスと精神看護 12月11日、教室は4-101 (2限) 身体をケアする(教科書2-p256~310)	12月8日 宿題: 次回の範囲の教科書を読んでおくこと。 12月11日 宿題: 次回の範囲の教科書を読んでおくこと。
12月15日 【第22回】 櫻井 【第23回】 西村 12月22日 【第24・25回】 櫻井	12月15日 (1限) 医療の場におけるメンタルヘルスと看護 リエゾン精神看護(教科書2-p350~372) (2限) アルコール依存症、当事者の体験 12月22日 (1限) 安全をまもる リスクマネジメント、緊急事態に対処する (教科書2-p312~348) (2限) CVPPP 実技	12月15日 ★看護過程の課題を授業前に提出 ★2限の講義を通しての学びと感想の提出 宿題: 次回の範囲の教科書を読んでおくこと。 12月22日 動きやすい服装で来ること。 ★2限の講義を通しての学びと感想の提出 宿題: 1月15日の資料を配布する。次回までに解いておくこと。
1月15日 【第26・27回】 櫻井 1月19日 【第28回】 西村	1月15日、教室は4-101 (1限・2限) 精神看護学の復習、国家試験問題の解説 1月19日、教室は2-401 (2限) 看護師のメンタルヘルス(教科書2-p390~411)	1月15日 宿題: 次回の範囲の教科書を読んでおくこと。 1月19日 宿題: テストに向けての自己学習
1月22日 【第29回】 櫻井、西村 【第30回】 櫻井、西村 大村病院看護師	教室は4-101 (1限) テスト (2限) 大村病院よりゲストスピーカー 精神科病棟での看護、精神看護の奥深さについて	★2限の講義を通しての学びと感想の提出

1.授業コード (ナンバリング)	NBS101-M51	2.科目名	遺伝学		3.単位数	1
4.授業担当教員	佐藤智佳					
5.授業科目の区分	人間と健康	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 日常診療で必須の知識となっているヒトの遺伝学・多様性を十分に理解し、さらに患者・家族が置かれている状況を理解する。 【概要】 臨床遺伝学の基本的知識また、遺伝カウンセリングの概要について、教科書や演習を通して学び、遺伝性疾患に関わるチーム医療の現状とあり方について考えを深める。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の(3)多様性理解(6)専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 1 遺伝学の基本・多様性（病気が病気でないかの二項対立ではないこと）を理解する。 2 家系図を描くことができる。 3 遺伝学的検査の基本的な結果や方法が理解できる。 4 遺伝形式やその特徴を説明できる。 5 遺伝医療における倫理的配慮を説明できる。					
19.教科書・教材	羊土社 「基礎から学ぶ 遺伝看護学」					
20.参考文献	1.適宜、資料を配付します。 2.その他、関連サイトの URL や関連論文の文献情報は授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 小レポート：10点 講義時間中に家系図を書く演習をしますので、それを小レポートとして、提出。 小テスト：30点 最終講義中に、WebClass を用いて、小テストを実施。 最終レポート：60点 講義全体のまとめとして、WebClass にレポート提出。					
22.コメント	看護師として、遺伝学での学びをどのように役立てていくかを具体的に考えながら、取り組んでください。 全ての方の積極的関与が必要です。 レポート作成時には、不適切なインターネットサイトからの引用ではなく、学術的な文献を参考にして、文章作成するようにしてください。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1・2回】	遺伝の概念、DNA、遺伝子、染色体の構造、細胞分裂 遺伝子変異・多型、多様性			復習:今回の復習（WebClass での資料） 予習:次回の予習(WebClass で資料を事前提示)		
【第3・4回】	遺伝形式、遺伝と家系図の関係、家系図記載演習 染色体異常、染色体異常症、不育、不妊			復習:前回及び今回の復習（WebClass での資料） 予習:次回の予習(WebClass で資料を事前提示)		
【第5・6回】	遺伝子疾患（メンデル遺伝、ミトコンドリア遺伝、多因子遺伝）			復習:前回及び今回の復習（WebClass での資料）		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NCH216-M51	2.科目名	老年看護援助論		3.単位数	2
4.授業担当教員	原本久美子、高田美子、八木良子					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	専門科目			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	看護師、助産師、保健師		11.先修条件	老年健康看護学概論		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業目的】 老年期における心身の変化や特有の疾患・症状について理解し、高齢者とその家族に対する基本的な看護援助の知識・技術の習得をねらいとする 【概要】 高齢者の日常生活、おおび加齢に伴う症状や徴候のアセスメントの方法、加齢と疾病に伴う生活機能の変化と、喪失した生活機能の再構築と適応に向けての看護援助の方法について学習するとともに、脳梗塞の高齢者の紙上事例を用いて看護過程を展開する 【対応する学科の教育目標】 人間についての幅広い専門知識を用いて対象者を多方面に捉え、論理的思考に基づいて、看護問題・課題を考えることができる					
18.学習目標と D P との関連	【学習目標】 ① 高齢者の加齢と疾病に伴う生活機能の変化と、喪失した生活機能の再構築と適応に向けての看護援助の方法を説明できる ② 高齢者の特徴を踏まえた看護過程の実際を脳梗塞の紙上事例を用いて展開できる 【DP との関連】 DP1 自律的で主体的な態度 DP3 多様性理解 DP4 問題発見・解決力 DP6 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 リンダ J・カルペニート；看護診断ハンドブック第 12 版,医学書院（全員購入すること）					
20.参考文献	亀井智子編；根拠と事故防止から見た老年看護技術,医学書院 山田律子他編；生活機能からみた老年看護過程,医学書院 藤崎都；フィジカルアセスメント完全ガイド,Gakken					
21.成績評価	【評価の方法】 ・高齢者の障害された生活機能構築に向けての援助についてグループワーク、デモンストレーションを行い、援助方法の資料を作成、提出し発表する ・紙上事例による看護過程展開をグループワーク実施後、個人の意見や考えを追加してまとめ提出する ・総括試験により知識の確認を行う 【最終評価得点】 ① 紙上事例による看護過程展開：40%(個人 30%、グループ 10%)（目標①） ② 筆記試験：60%（目標②）					
22.コメント	看護過程展開は、個人ワークの結果をグループワークをしながらまとめていくため、必ず、個人ワークをしてから授業に臨んでください オンライン授業になる場合は、変更点は改めて指示します。					

23.オフィスアワー	原本 火曜 9:30~10:30	
	高田 水曜 9:30~10:30	
	八木 水曜 9:30~10:30	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回目 10/3(木) 2 限・3 限	全体導入 (担当: 原本) 授業の構成、展開する事例、評価について (生活機能とは) 高齢者の加齢と疾病に伴う喪失した生活機能の再構築に向けての 援助 (担当: 原本) 生活機能評価、高齢者の身体可動性障害時の看護	持参するもの リンダ・カルペニート 看護診断ハンドブック 12 版 授業の予習、復習をしっかりと行ってください。
2 回目 10 月 10 日(木) 2 限・3 限	高齢者によくみられるコミュニケーション障害と看護 (担当: 八木・高田) 難聴、構音障害、失語症の看護 高齢者への清潔の看護 (担当: 八木・高田) 高齢者に多い皮膚トラブルと清潔ケア 皮膚掻痒症への対応、褥瘡ケア、爪切り、耳垢除去	持参するもの リンダ・カルペニート 看護診断ハンドブック 12 版 授業の予習、復習をしっかりと行ってください。
3 回目 10 月 17 日(木) 2 限・3 限	高齢者の栄養と食生活の援助 (担当: 八木・高田) 摂食・嚥下障害時の看護、口腔ケア、義歯の取扱い	持参するもの リンダ・カルペニート 看護診断ハンドブック 12 版 授業の予習、復習をしっかりと行ってください。
4 回目 10 月 24 日(木) 2 限・3 限	生活リズムの変調を整える看護(担当: 原本) 高齢者の睡眠障害、高齢者に多いせん妄の理解と看護	持参するもの リンダ・カルペニート 看護診断ハンドブック 12 版 授業の予習、復習をしっかりと行ってください。
5 回目 10 月 31 日(木) 2 限・3 限	認知症高齢者と家族の理解と看護 (担当: 原本)	持参するもの リンダ・カルペニート 看護診断ハンドブック 12 版 授業の予習、復習をしっかりと行ってください。
6 回目 11 月 7 日(木) 2 限・3 限	高齢者の排泄パターンの変調と看護(担当: 原本) 便秘、尿失禁時の看護 技術演習、看護過程演習の導入(担当: 原本)	持参するもの リンダ・カルペニート 看護診断ハンドブック 12 版 授業の予習、復習をしっかりと行ってください。
7 回目 11 月 14 日(木) 2 限・3 限	第 7~14 回は、A 組と B 組に分かれて授業を行う 詳細は別紙配布 (担当: 原本、高田、八木) ① A 看護過程の展開 → 老年看護技術 ② B 老年看護技術 → 看護過程の展開 【老年看護過程の展開】 脳梗塞の紙上事例についての看護過程をアセスメントから看護計画の立案までグループと個人で取り組み、グループワークの発表と個人ワークの提出を行う ・事例の理解	持参するもの リンダ・カルペニート 看護診断ハンドブック 12 版 授業の予習、復習をしっかりと行ってください。

	病態・病状経過、検査結果、治療、生活機能障害の理解、病態・生活機能のアセスメント 【老年看護技術の演習】 以下の技術を1つ選択し、グ	
8回目 11月21日(木) 2限・3限	A組：病態・生活機能関連図と看護診断 B組：技術の学修（DVD、テキスト等）、技術演習	持参するもの リンダ・カルペニート 看護診断ハンドブック 12 版 授業の予習、復習をしっかりと行ってください。
9回目 11月28日(木) 2限・3限	A組：看護目標と計画立案 B組：技術の学修（DVD、テキスト等）、技術演習	持参するもの リンダ・カルペニート 看護診断ハンドブック 12 版 授業の予習、復習をしっかりと行ってください。
10回目 12月5日(木) 1限・2限	A組：看護過程の発表・質疑 B組：老年看護技術発表・質疑	持参するもの リンダ・カルペニート 看護診断ハンドブック 12 版 授業の予習、復習をしっかりと行ってください。
11回目 12月12日(木) 1限・2限	A組：担当技術の選択・決定、技術の学修（DVD、テキスト等） B組：事例の理解 病態・病状経過、検査結果、治療、生活機能障害の理解、病態・生活機能のアセスメント	持参するもの リンダ・カルペニート 看護診断ハンドブック 12 版 授業の予習、復習をしっかりと行ってください。
12回目 12月19日(木) 1限・2限	A組：技術の学修（DVD、テキスト等）、技術演習(ナレーション、グループ間で調整) B組：病態・生活機能関連図と看護診断	持参するもの リンダ・カルペニート 看護診断ハンドブック 12 版 授業の予習、復習をしっかりと行ってください。
13回目 1月9日(木) 1限・2限	A組：技術の学修（DVD、テキスト等）、技術演習(グループ間で調整) B組：看護目標と計画立案	持参するもの リンダ・カルペニート 看護診断ハンドブック 12 版 授業の予習、復習をしっかりと行ってください。
14回目 1月16日(木) 1限・2限	A組：看護技術発表・質疑 B組：看護過程の発表・質疑	提出用記録のまとめ方について 持参するもの リンダ・カルペニート 看護診断ハンドブック 12 版 授業の復習をしっかりと行ってください。
15回目 1月23日(木) 1限・2限	筆記試験(総括試験)	

1.授業コード (ナンバリング)	NCH218-M51	2.科目名	在宅看護援助論		3.単位数	2
4.授業担当教員	畑吉節未、鵜飼知鶴、榎田恵子					
5.授業科目の区分	専門科目 在宅看護分野における 実務経験のある教員に よる授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	看護師		11.先修条件	在宅看護学概論		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習 緊急事態宣言等の場合は、Zoom による遠隔 授業とする。		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 在宅看護学の対象者（あらゆる健康段階・発達段階・疾患・医療処置）に対し、求められる能力（①尊厳を守る看護②信頼関係を築く看護③意思決定を支える看護④暮らしの場における健康危機と管理の看護⑤支援体制を構築する看護）を統合的に学ぶ。 【概要】 在宅看護における日常生活援助、医療的ケア援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的展開方法を学ぶ。また、さまざまな事例から、療養者と家族、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実践を学び、既存の看護の知識を応用し、在宅看護の実践に結び付ける。					
18.学習目標と DPとの関連	本学の DP(1) 自律的で主体的な態度（自律性）(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）(4) 問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門性に対応しています。 1.在宅看護技術の特徴を理解することができる。 2.家庭訪問技術を理解することができる。 3.対象特性に応じたアセスメントができ、在宅における療養者とその家族の生活上の課題を検討し看護過程の展開技術を理解することができる。 4.療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントの展開について検討できる。 5.在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を検討することができ、療養者の状況に応じた在宅看護の特異的なケアを具体的に実施することができる。 6.訪問看護の実践をイメージし、在宅看護の特性を理解することができる。					
19.教科書・教材	A：臺有桂他（2023）.ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 地域療養を支える技術,メディカ出版,大阪。 B：臺有桂他（2022）.ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア,メディカ出版,大阪。					
20.参考文献	C:角田直枝（2020）.よくわかる在宅看護 改訂第 3 版,Gakkenn,東京。 各単元の課題：各日程の Web class にアップしている（2 日前）。事前に各自でダウンロードし、学修しておくこと（対面授業の場合は、印刷物を配布する）。 D:医学情報科学研究所（2017）.病気がみえる vol.7(脳・神経),メディックメディア,東京.他					
21.成績評価	1.試験受験資格；授業回数の 2 / 3 以上の出席者とする。 出席確認 ①通常開講時；カードリーダーとコメント票提出により出席とする。					

	※出席票提出は、授業時間終了直後までとする。 ②遠隔授業期間の場合；授業開始時に Zoom（チャット）により出席登録を行うこと。 ※学籍番号、氏名を入力。また、課題を期限内に Web class に提出すること。 2.試験（中間 20％・統括 30％）50％ 中間テストの結果で自身の課題を認識し、自己学習を行う。 3.講義・演習・レポート レポ	
22.コメント	本授業は在宅看護学実習を見据え、そのイメージ化を図るまでの重要な科目になります。そのため、在宅看護に関わる知識・技術の理解をするために、事前学習課題の実施、講義・演習への積極的な態度が臨まれます。演習では、看護の領域で求められる、自律性・問題発見能力、解決力、協調性を身に着けるために、グループでの行動が多くなります。そのためにはグループメンバーには誠実な態度で向き合うようにしましょう。	
23.オフィスアワー	オフィスアワー；畑、煤田（水曜日昼休み） センターオフィスプログラム；畑、煤田（木曜日昼休み）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1,2 回（煤田） 10 月 2 日	第 1 回； オリエンテーション 在宅看護に求められる 5 つの能力 在宅看護援助技術の特徴 在宅看護援助論 30 回のスケジュール 日常生活援助技術演習 4 回の説明 日常生活を支える看護技術（ベッド上）の説明 尊厳を守る看護とは 排泄：排便・浣腸・おむつ交換 清潔：清拭・寝衣交換 活動：ベッドからの移動、ベッド上の移動 グループワーク（事例の課題から生活援助を考える） 第 2 回 グループワーク （排泄・清潔・活動）援助計画と手順書を作成 必要物品の確認 障害がある療養者の清潔ケア（寝衣交換、清拭） 教科書：P.84-	第 1 回 ○事前学修 脊髄損傷の病態生理 浣腸・排便の看護技術 提出日：○月○日 12 時締切 ○授業後リフレクシオンシートの提出 第 2 回 ○事前課題：福祉用具（スライディングシート） ○授業後リフレクシオンシートの提出 グループごとの援助計画と手順書 必要物品 提出期限：
第 3,4 回(煤田) 10 月 9 日	第 3 回グループワーク 日常生活を支える看護技術（演習 1） 援助計画の実施 第 4 回 日常生活を支える看護技術（演習 2） 援助計画の実施	第 3 回 技術演習はグループで実施 （療養者・訪問看護師・家族役を決めておくこと） ○授業後リフレクシオンシートの提出 技術演習のため、実習着着用で参加 第 4 回 ○授業後リフレクシオンシートの提出 技術演習のため、実習着着用で参加
第 5,6 回(煤田) 10 月 16 日	第 5 療養を支える看護技術（医療ケア） 医療ケアの原理原則、薬物療法、疼痛管理 輸液管理（在宅中心静脈栄養法、末梢静脈栄養法） 教科書：P.106-108、P.108-112、P.175-185	第 5 回 ○課題学修ノートを作成する 提出日：○月○日 12 時締切 第 6 回 ○課題学修ノートを作成する

	第 6 回 療養を支える看護技術（医療ケア） 気管カニューレ管理、在宅酸素療法（HOT） 在宅人工呼吸療法（HMV）：非侵襲的陽圧換気療法（NPPV） 教科書：P.117-123、P.123-137	提出日：○月○日 12 時締切
第 7,8 回（煤田） 10 月 23 日	第 7 回 療養を支える看護技術（医療ケア）褥瘡 褥瘡の実際（褥瘡評価ツール DESIGN-R ?） 褥瘡発生要因アセスメント、ポジショニング 教科書：P.155-159 事例紹介 発生要因を考える、ブレーデンスケール評価をする 第 8 回 褥瘡の発生要因からポジショニング【演習 4】 ドレッシング材を考える	第 7 回 ○事前課題：褥瘡発生要因 ブレーデンスケール ○授業後リフレクションシートの提出 技術演習のため、実習着着用で参加 第 8 回 ○事前課題： 事例のポジショニングを考える ドレッシング材を調べる ○授業後リフレクションシートの提出 技術演習のため、実習着着用で参加
第 9,10 回(鵜飼・煤田) 10 月 30 日	第 9 回； 療養を支える看護技術（医療ケア）排泄【演習 3】 膀胱留置カテーテルの管理（車いす） ストーマ装具の交換 教科書：P.137-145 第 10 回； 意思決定を支える看護【講義・グループワーク】 事例紹介 「退院にあったってどんな支援が必要か」 退院前カンファレンスに必要な職種	第 9 回 ○事前課題： ○事前課題：ストーマ管理 ○授業後リフレクションシートの提出 技術演習のため、実習着着用で参加 第 10 回 ○事前課題 乳がんの病態生理、がん末期症状 退院前カンファレンス DVD 視聴 課題提出（退院前カンファレンスシナリオ）
第 11,12 回（畑、鵜飼、煤田） 11 月 6 日	第 11 回 【演習 5】 退院前カンファレンス発表（3 グループ） 第 12 回 在宅療養におけるケアマネジメントの展開【講義・演習 6】 事例紹介 課題抽出	第 11 回 ○授業後リフレクションシートの提出 技術演習のため、実習着着用で参加 第 12 回 ○事前課題：社会資源の種類と内容 ○課題学修ノートを作成する ◆ノートパソコン持参 ○授業後リフレクションシートの提出
第 13,14 回(煤田) 11 月 13 日	第 13 【演習 7】 サービスの検索と居宅サービス計画の立案 グループ内での意見交換 第 14 回 介護保険における居宅サービス計画立案 グループ内で意見交換 グループ発表 教科書：B P.121-139	第 13 回 ◆ノートパソコン持参 ○授業後リフレクションシートの提出 第 14 回 ◆ノートパソコン持参 課題提出

第 15,16 回 11 月 20 日 中間試験：煤田・鵜飼・畑 授業：畑	第 15 回 ; 中間評価 看護過程の展開【講義】 在宅看護における看護過程の展開の特徴 考え方（目標志向型） 情報収集の項目とアセスメントのポイント 健康障害・健康の段階・発達課題・個別な生活課題 看護過程演習の進め方 事例紹介 第 16 回 ; 看護過程の展開【演習 9】 療養者のプロフィール（基本情報） 発表・まとめ	第 15 回 ○事前課題 パーキンソン病の病態生理 第 16 回 ◆ノートパソコン持参 ○事後学修：療養者のプロフィールのまとめ
第 17,18 回 (畑、鵜飼、煤田) 11 月 27 日	第 17 看護過程の展開【グループワーク】【演習 10】 健康障害 発表・まとめ 第 18 回 看護過程の展開【グループワーク】【演習 11】 健康の段階 発表・まとめ	第 17 回 ◆ノートパソコン持参 ○事前課題：健康障害 ○事後学修：健康障害まとめ 第 18 回 ◆ノートパソコン持参 ○事前課題：健康の段階 ○事後学修：健康段階のまとめ
第 19,20 回 (煤田) 12 月 4 日	第 19 回 看護過程の展開【グループワーク】【演習 12】 発達課題 発表・まとめ 第 20 回 看護過程の展開【グループワーク】【演習 13】 個別な生活の課題 発表・まとめ	第 19 回 ◆ノートパソコン持参 ○事前課題：発達課題 ○事後学修：発達課題のまとめ 第 20 回 ◆ノートパソコン持参 ○事前課題：個別な生活課題 ○事後学修：個別な生活の課題のまとめ
第 21,22 回(煤田) 12 月 11 日	第 21 看護過程の展開【グループワーク】【演習 14】 導かれた看護の方向性 発表・まとめ 22 回 看護過程の展開【グループワーク】【演習 15】 受け持ち事例を取り巻く社会資源の状況 発表・まとめ	第 21 回 ◆ノートパソコン持参 ○事前課題：導かれた看護の方向性 ○事後学修：導かれた看護の方向性のまとめ 第 22 回 ◆ノートパソコン持参 ○事前課題：受け持ち事例を取り巻く社会資源の状況 ○事後学修：受け持ち事例を取り巻く社会資源の状況のまとめ
第 23,24 回(鵜飼、煤田) 12 月 18 日	第 23 回 看護過程の展開【グループワーク】【演習 16】 看護課題の抽出と優先順位 発表・まとめ 24 回	第 23 回 ◆ノートパソコン持参 ○事前課題：看護課題の抽出 ○事後学修：看護課題の抽出と優先順位のまとめ

	看護過程の展開【グループワーク】【演習 17】 看護計画立案 発表・まとめ	第 24 回 ◆ノートパソコン持参 ○事前課題：看護計画立案 ○事後学修：看護計画立まとめ 看護過程レポート提出期限：
第 25,26 回 (榎田) 1 月 8 日	第 25 回 事例で学ぶ在宅看護の技術【演習 18】 ロールプレイ 事例は看護過程展開した療養者で看護計画をもとにロールプレイを実施する。グループワークを行う 配役を決め、家庭訪問時のシナリオ作成する 第 26 回； 事例で学ぶ在宅看護の技術ロールプレイ【演習 19】 技術練習	第 25 回 ◆ノートパソコン持参 ○ロールプレイ演習シナリオと必要物品の提出：○月○日 17 時締切 第 26 回 ○授業後リフレクションシートの提出 技術演習のため、実習着着用で参加
第 27,28 回 (畑、鵜飼、榎田)1 月 15 日	第 27 回； 事例で学ぶ在宅看護の技術ロールプレイ【演習 20】 技術練習 第 28 回； 事例で学ぶ在宅看護の技術ロールプレイ【演習 21】 発表 1 ロールプレイ演習教員評価・学生からの評価	第 27 回 ○授業後リフレクションシートの提出 技術演習のため、実習着着用で参加 第 28 回 ○授業後リフレクションシートの提出 技術演習のため、実習着着用で参加
第 29,30 回 (畑、鵜飼、榎田)1 月 22 日	第 29 回；統括試験（30 分） 事例で学ぶ在宅看護の技術ロールプレイ【演習 22】 発表 2 ロールプレイ演習教員評価・学生からの評価 第 30 回；訪問看護過程の展開 看護計画 記録提出 事例で学ぶ在宅看護の技術ロールプレイ【演習 23】 発表 3 ロールプレイ演習教員評価・学生からの評価	○第 29 回 授業後リフレクションシートの提出 技術演習のため、実習着着用で参加 ○第 30 回 ○授業後リフレクションシートの提出 技術演習のため、実習着着用で参加

1.授業コード (ナンバリング)	NCH301-M51	2.科目名	公衆衛生看護学概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	藤原和美、中世古恵美、久井志保					
5.授業科目の区分	公衆衛生看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択 (公衆衛生看護 学分野選択の場 合は必修)	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	看護師、保健師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（うち、オンデマンド講義 7 回）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 公衆衛生看護活動に必要な基本的考え方及び知識を修得することを目的とする。 【概要】 公衆衛生行政の目的、公的支援としての保健師活動のあり方、保健医療福祉財政の仕組み、政策化の方法、保健・福祉・医療の連携について具体例を用いて理解を深める。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の、（１）自律性、（４）問題発見・解決力、（６）専門的知識・技能の活用の学修に関連しています。 本科目の学習目標（身につく知識とスキル）は以下の通りです。 1)公衆衛生看護の理念・対象・場について臨床看護と対比しながら特徴を述べることができる。 2)社会環境の変化に伴う保健師の役割の変遷の要点を説明できる。 3)公衆衛生看護活動の対象別の特徴とその特徴にあったアプローチを説明できる。 4)公衆衛生看護活動における施策化のプロセスとその意義を説明できる。 5)公衆衛生看護活動における公衆性看護管理、健康危機管理の目的と意義の概要について説明できる。 6) 地球規模の健康課題と日本における国際保健活動の実践について説明できる。					
19.教科書・教材	標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論（医学書院） 国民衛生の動向 2024/2025（厚生労働統計協会）					
20.参考文献	保健師業務要覧 第 3 版 井伊久美子他編集 日本看護協会出版会 公衆衛生がみえる（メディック・メディア）					
21.成績評価	講義終了時（対面講義・オンデマンド講義）の課題（5 点×10 回） 50 % 中間試験 20 % 総括試験 30%					
22.コメント	保健師は看護と公衆衛生の両方の専門性を有し、地域全体の健康度の向上を目指して個人、家族、集団、地域全体を対象に公衆衛生看護活動を展開します。保健師は公衆衛生の視点から、地域全体の健康課題を見出し、解決策を提案する力が求められます。この科目では、公衆衛生看護活動の理念、対象、場、展開方法について学び、地域の健康課題に対処するための基本的な考え方や知識を身につけます。本科目は公衆衛生看護学を学ぶ上で最も基本となる重要な科目です。今までに学んだ看護学の知識を基盤としながら、本科目を学び、保健師としての専門性と公					
23.オフィスアワー	：研究室 水曜日昼休み、 センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 久井：研究室 水曜日昼休み、 センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み 中世古：研究室 水曜日昼休み センターオフィスアワー（図書館）火曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

1 回目 対面講義①	科目ガイダンス オンデマンド講義オリエンテーション ＜公衆衛生の理念＞ ・公衆衛生の理念・目的・目標、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションの概念について学ぶ。	
2 回目 オンデマンド ①	＜公衆衛生看護活動の基盤＞ 公衆衛生看護の定義、公衆衛生看護活動の理念を始め活動の基盤となる考え方を学ぶ	事後課題① 提出期限 月 日 () 9:00 まで (Web Class)
3 回目 オンデマンド ② 視聴期限： /	＜公衆衛生看護の歴史＞ 公衆衛生看護の歴史的変遷について学ぶ。	事後課題② 提出期限 月 日 () 9:00 まで (Web Class)
4 回目 オンデマンド ③ 視聴期限：	＜社会環境の変化と健康課題(健康格差を含む)＞ 看護の対象者を取り巻く社会環境の変化と健康課題の変遷、現在の健康課題や健康格差の実態について学ぶ。	事後課題③ 提出期限 月 日 () 9:00 まで (Web Class)
5 回目 オンデマンド ④ 視聴期限：	＜公衆衛生看護の対象、保健師活動と倫理＞ 公衆衛生看護の対象（個人・家族、集団、地域）についてその特徴を学ぶ 公衆衛生看護における倫理についてその基本的考え方を学ぶ。	事後課題④ 提出期限 月 日 () 9:00 まで (Web Class)
6 回目 オンデマンド ⑤ 視聴期限：	公衆衛生看護の場①行政機関、国際保健 公衆衛生看護の活動の場（行政機関）の特徴を学ぶ。 地球規模の健康課題と健康課題解決に向けた国際保健医療協力（ODA など）について学ぶ	事後課題⑤ 提出期限 月 日 () 9:00 まで (Web Class)
7 回目 オンデマンド ⑥ 視聴期限：	＜公衆衛生看護の場②職域・学校＞ ・産業保健の場と対象の特性、職域における健康問題と産業保健活動の概要を学ぶ ・学校保健の場と対象の特性、学校における健康問題と学校保健活動の概要を学ぶ	事後課題⑥ 提出期限 月 日 () 9:00 まで (Web Class)
8 回目 オンデマンド ⑦ 視聴期限：	＜公衆衛生看護管理、健康危機管理＞ 公衆衛生看護管理と健康危機管理の基本について学ぶ	事後課題⑦ 提出期限 月 日 () 9:00 まで (Web Class)
9 回目 対面講義②	＜オンデマンド講義のまとめ＞ 第1～7回までの知識を確認するための中間テスト ＜公衆衛生看護活動の方法①個人・家族へのアプローチ(家庭訪問・健康相談)＞ 個人・家族へのアプローチの特徴を学ぶ。	
10 回目 対面講義?	＜公衆衛生看護活動の方法②集団へのアプローチ(健康診査・健康教育・グループ支援)＞ 集団・グループへのアプローチの特徴を学ぶ。 健康診査、健康教育、グループ支援の方法について学ぶ。	

1 1 回目 対面講義④	<公衆衛生看護活動の方法③地域へのアプローチ(地区活動・地域ケアシステムの構築)> 地域へのアプローチとして、地区活動、地域包括ケアシステム・シエンネットワークの構築について学ぶ。	事後課題⑧ 提出期限 月 日 () 9:00 まで (Web Class)
1 2 回目 対面講義⑤	<市町村における保健師活動の実際(特別講師)> 兵庫県内で市町保健師として活動している保健師による特別講師をおこなう。 住民に最も身近な保健サービスを提供する市町保健師の特別講義から市町における保健師活動の特徴について学び、公衆衛生看護学実習(保健所・市町村)に活かす。	事後課題⑨ 特別講義からの学びについて 提出期限 月 日 () 9:00 まで (Web Class)
1 3 回目 対面講義⑥	<日本の国際保健医療協力の実例(特別講義 JICA ボランティアセミナー)> 国際協力機構(JICA)がJICA海外ボランティアの活動についての普及啓発のために実施しているJICAボランティアセミナーの事業を利用する。 JICA海外ボランティアの保健師隊員として開発途上国で国際保健医療協力活動の実践経験のある講師から国際保健医療協力活動の実例について学ぶ。	事後課題⑩ 特別講義からの学びについて 提出期限 月 日 () 9:00 まで (Web Class)
1 4 回目 対面講義⑦	<地区診断と施策化> ・保健師の行う地域アセスメントの特徴と地域の健康課題を解決するため事業化、施策化に向けた活動の方法について学ぶ。	
1 5 回目 総括試験	<総括試験> 試験範囲は第1～14回のうち、特別講義(12回、13回)を除いた回のすべて	

1.授業コード (ナンバリング)		NCH302-M81	2.科目名	公衆衛生看護展開論		3.単位数	2
4.授業担当教員		藤原和美、中世古恵美、久井志保					
5.授業科目の区分		公衆衛生看護分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択 (公衆衛生看護 学分野選択の場 合は必修)	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻		保健医療学部看護学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件		保健師、看護師		11.先修条件			
12.研究室		※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address		※※※		15.授業形態	講義 (集中)		
16.履修制限							
17.授業の目的と概要		【目的】 発達段階の特性(母子・成人・高齢者)及び健康課題の特性(精神障がい・障がい児者・難病・感染症)に応じた行政保健師の支援方法の基本的知識を修得すること目的とする。 【概要】 保健活動において基盤となる発達段階の特性(母子・成人・高齢者)及び健康課題の特性(精神障がい・障がい児者・難病・感染症)に対する法律、政策、制度を理解し、それをもとにした各発達段階、健康課題に対する保健師の支援方法を学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連		本科目の学習目標は DP (ディプロマポリシー) の、(1) 自律性、(4) 問題発見・解決力、(6) 専門的知識・技能の活用の学修に関連しています。 本科目の学習目標 (身につく知識とスキル) は以下の通りです。 1) 各発達段階 (母子・成人・高齢者) ならびに健康課題 (感染症・精神障がい・難病・障がい児者) に対する保健活動の基盤となる法律、政策、制度について説明できる。 2) 発達段階 (母子・成人・高齢者) 及び健康課題 (感染症・精神障がい・難病・障がい児者) の特性に応じた保健師の支援方法の要点について説明できる。 3) 在留外国人の生活や健康課題の特性、在留外国人に適用される保健サービスの概要について理解し、在留外国人の基本的人権を尊重すると共に異文化、多様性を考慮した保健活動について考えることができる。					
19.教科書・教材		標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 国民衛生の動向 2024/2025 (厚生労働統計協会)					
20.参考文献		保健師業務要覧 (日本看護協会出版会)、公衆衛生がみえる (メディック・メディア)					
21.成績評価		講義時および終了時の課題(10点×6)60% 総括試験40%					
22.コメント		本科目では、各発達段階 (母子・成人・高齢者) ならびに健康課題 (感染症・精神障がい・難病・障がい児者) に対する保健活動の基盤となる法律、制度、政策と発達段階と健康課題の特性に応じた保健師の支援方法について学びます。 保健師としてさまざまな発達段階、健康レベルにある地域住民の健康を支援するためには、発達段階と健康課題の特性についての知識をもつことに加えて、地域住民の健康と生活を支える法律、制度、政策についての知識をもつことが必要です。法律、制度、政策についての知識は保健師としてだけでなく看護職として対					
23.オフィスアワー		：研究室 水曜日昼休み、 センターオフィスアワー (図書館) 火曜日昼休み 久井：研究室 水曜日昼休み、 センターオフィスアワー (図書館) 火曜日昼休み 中世古：研究室 水曜日昼休み、 センターオフィスアワー (図書館) 火曜日昼休み					
24.授業回数		25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回		＜第1回：講義 母子保健1＞			事後課題①		
第2回		・母子保健の関連政策・施策・事業の概要					

1.授業コード (ナンバリング)	NFN104-M51	2.科目名	基礎看護技術Ⅱ（治療援助）		3.単位数	1
4.授業担当教員	蛭子真澄、梅田智子、紀ノ岡浩美、志保田幸子					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	療養を支えるための診療補助行為に関わる基本的な看護技術の習得を目指す。講義、視聴覚教材の視聴、デモンストレーション見学、患者役・看護師役のロールプレイを通し、感染予防に関わる援助技術や、薬物療法に関わる援助技術等について学習する。					
18.学習目標と DPとの関連	本学の DP(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技術の活用力 に対応しています。 ① 診療・治療に伴う援助に必要な知識を理解し説明できる。 ② 診療・治療に伴う援助に必要な技術の基礎を理解し演習で実践できる。 ③ 感染予防に関わる援助方法を理解し演習で実践できる。 ④ 薬物療法に関わる援助方法を理解し演習で実践できる。					
19.教科書・教材	基礎看護技術Ⅰ：医学書院 基礎看護技術Ⅱ：医学書院					
20.参考文献						
21.成績評価	総括試験 50％ 提出物（内容評価含む） 30％ グループワーク 20％					
22.コメント	毎時間予習して、主体的に臨むこと					
23.オフィスアワー	蛭子：センターオフィスアワー：水曜日 3 時間目（第 1 看護学実習室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	ガイダンス 診療の援助技術・診療時の援助・感染予防			ユニフォーム、ナースシューズ着用。髪の毛等は基礎看護学実習Ⅰに準じて整えること（以降、特に指示がなければ同様） 該当部のテキスト、ナーシングスキルなどで事前学習すること（以降、同様）		
2～5	感染予防 演習：無菌操作、ガウンテクニック etc					
6～9	排泄機能障害の援助 演習；浣腸、一時的導尿 etc					
10～14	薬物療法の援助 演習：皮下注射 etc					
15	まとめ・総括試験					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NFN106-M51	2.科目名	基礎看護方法論(フィジカルアセスメント)		3.単位数	1
4.授業担当教員	蛭子真澄、梅田智子、紀ノ岡浩美、志保田幸子					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	看護の対象となる方の身体状態を把握する意義と重要性を理解し、系統的に観察・評価を行うための看護技術の習得を目指す。講義・視聴覚教材の視聴、デモンストレーション見学、患者役・看護師役のロールプレイを実施し、主に、呼吸・循環に関するアセスメント、消化器系に関するアセスメント、脳神経系に関するアセスメント、運動器系に関するアセスメント等を通して、フィジカルアセスメントの基本技術について学習する。					
18.学習目標と DPとの関連	本学の DP(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技術の活用力に対応しています。 ① 看護におけるヘルスアセスメントの目的と意義を理解し説明できる。 ② フィジカルアセスメントの目的と意義を理解し説明できる。 ③ フィジカルアセスメントに関わる基本技法を理解し演習で実践できる。					
19.教科書・教材	基礎看護技術Ⅰ：医学書院 基礎看護技術Ⅱ：医学書院 はじめてのフィジカルアセスメント：メディカルフレンド社					
20.参考文献						
21.成績評価	総括試験 50% 提出物 20% 技術到達チェック 20% グループワーク 10%					
22.コメント	形態機能学等の既習の知識を整理し、毎時間、ナースングスキル等を活用して、主体的な姿勢で臨むこと。 実習室開放時間等を活用し、技術習得に努力すること。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜日 3 時間目（第 1 看護学実習室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1～4	ガイダンス ヘルスアセスメントの意義・目的 フィジカルイグザミネーションの基本的知識 健康歴の聴取、身体計測			ユニフォーム、ナースシューズ着用。髪の毛等は基礎看護学実習Ⅰに準じて整える。（以降、特に指示がない限り同様） 該当部のテキスト、ナースングスキルなどで事前学習すること（以降、同様）		
5～12	呼吸・循環・体温のアセスメント 演習：バイタルサインの測定、心音・呼吸音聴取 etc					
13	消化器系のアセスメント 演習：腹部の触診、腸音の聴取 etc					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NFN107-M51	2.科目名	基礎看護技術Ⅰ（生活援助）		3.単位数	2
4.授業担当教員	蛭子真澄、梅田智子、紀ノ岡浩美、志保田幸子					
5.授業科目の区分	看護分野における実務 経験のある教員による 専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	あらゆる看護援助の基盤となる、安全・安楽な療養生活を支援するための看護技術の習得を目指す。講義、視聴覚教材の視聴、デモンストレーション見学、患者役・看護師役のロールプレイを実施し、主に、環境を整えるための援助、食生活や排泄を整えるための援助、清潔や衣服を整えるための援助、活動・休息に関わる援助等を通して、安全・安楽、自立を目指した看護技術を学習する。また、看護の対象となる人々との援助的人間関係の構築について探求する。					
18.学習目標と DPとの関連	本学の DP(1) 自律的で主体的な態度（自律性）、(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技術の活用力に対応しています。 ①看護実践に共通する基本的技術の概念を理解し説明できる。 ②看護専門職者によるケアの対象となる人々と援助的関係を構築するための基本的なコミュニケーションについて理解し、ロールプレイ演習で実践できる。 ③療養環境を整えるための援助方法を理解し演習で実践できる。 ④日常生活行動を整えるための援助方法を理解し演習で実践できる。					
19.教科書・教材	基礎看護技術Ⅰ：医学書院 基礎看護技術Ⅱ：医学書院					
20.参考文献						
21.成績評価	総括試験 50％ 提出物（内容チェック含む）20％ 技術到達チェック(実習室開放自主練習参加) 20％ グループワーク 10％					
22.コメント	既習の知識の整理を行っておくこと。 毎時間、予習して主体的に臨むこと。 実習室開放時間等を活用して、技術習得に努力すること。					
23.オフィスアワー	蛭子：センターオフィスアワー：水曜日 3 時間目（第 1 看護学実習室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1～10	ガイダンス・看護技術の基本的要素・療養環境を整える援助、活動・休息を整える援助 演習：手洗い、ベッドメイキング（ボディメカニクス含む）、リネン交換、体位変換 etc			ユニフォーム、ナースシューズ着用。 髪の毛等身づくろいについては、基礎看護学実習Ⅰに準じること。 （特に指示がないかぎり、次回以降も同様） 該当部のテキスト、ナーシングスキルなどで事前学習すること（以降、同様）		
11～20	清潔の援助 演習：清拭、部分浴、洗髪、寝衣交換 etc					
21～28	食生活・排泄を整える援助					

[illegible]

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NFN302-M51	2.科目名	看護マネジメント		3.単位数	1
4.授業担当教員	都留美恵子、梅田智子					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必須	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	専門科目			9.履修学年	看護学科 3 年	
10.取得資格の要件	なし			11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義 (第 4～7 回は遠隔授業)	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	看護専門職者が良質な看護サービスを提供する上で「マネジメント」の必要性を理解し基本的知識を習得出来、個人や組織の役割について理解することおよびケア提供者である看護専門職者としてのありようをマネジメントの視点で考えられることを目標とする。具体的には現在の医療システムにおけるサービス提供システムを知り、安全で質の高い看護を提供するための組織体制についてマネジメントの視点から学ぶ。さらに組織化のプロセス、リーダーシップ及びフォロアースhip、ストレスマネジメント・コンフリクトマネジメント、リスクマネジメントに関する知識・技術を学習する。					
18.学習目標と DPとの関連	具体的目標 ①医療提供システムにおける看護サービスの仕組みを理解し説明できる (保健医療福祉の動向と課題を知り看護にどのような影響があるかを理解できる) ②安全で質の高いサービスを提供するための組織・体制上の課題について説明できる ③看護管理に必要な基本的知識を理解し説明できる (リーダーシップ、フォロアースhip、ストレスマネジメント、コンフリクトマネジメント、リスクマネジメント) ④看護管理の構造を理解し説明できる (組織の基本的構造、医療サービスの構造、労務管理、人材育成、キャリア開発、マネジメント) ⑤個人と組織の関係をマネジメントの視点で理解し説明できる					
19.教科書・教材	看護の統合と実践 看護管理 第 10 版 上泉和子 小山秀夫 笥敦夫 鄭佳紅					
20.参考文献	井部俊子他 看護管理学習テキスト 第 3 版 第 2 巻 看護サービスの質管理 2022 年版					
21.成績評価	レポート 30% 最終テスト 70%					
22.コメント	マネジメント（管理）は管理者だけが行うものではなく、ひとりの看護師（看護学生）として非常に重要な考え方・判断・行動につながる内容です。共に考え、学びましょう。					
23.オフィスアワー	月曜日 12：15～13：15 2 号館 2－7 研究室（梅田） (相談事項あれば時間調整の上、上記以外の時間でも可能)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	看護とマネジメント			レポート課題はに授業内提示します。 授業単元を教科書参考文献で予習しておくこと 授業で学習したことを整理し知識の定着を図ること 医療保健福祉に関するニュースや新聞等を管理的視点で視聴しレポートに活かすこと		
	看護ケアのマネジメント					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NFN304-M51	2.科目名	看護倫理Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	櫻井信人					
5.授業科目の区分	専門教育科目 専門科目 基礎看護学	6.必修・ 選択の区分	必須	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	保健医療学部看護学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	臨地実習での看護経験をもとに、対象者の人権を尊重し擁護した看護実践について考える。本講義では、それぞれの領域における看護実践で直面する倫理的課題について学ぶ。どのような倫理的課題が存在するのかを理解した上で、倫理的ジレンマに対する意思決定の方法を学び、看護師として必要となる倫理的視点を養う。 授業は全8回、オムニバス形式とし、各領域の教員がそれぞれの専門領域の看護倫理について講義を行う。					
18.学習目標と DPとの関連	DP1 自律的で主体的な態度 DP4 問題発見・解決力 DP6 専門的知識・技能の活用 1. 患者・家族の人権擁護について説明できる。 2. 患者・家族の意思決定を支える看護のあり方を検討できる。 3. 精神・母性のアドボケイトを事例を通して理解し、倫理的課題・倫理的ジレンマを解決する方略を検討できる。 4. 自らの倫理的判断が必要な体験を省察し、支援のあり方を検討できる。 5.人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 についても理解し、臨床で行われる臨床研究についても検討することができる 6. 専門職として職業的倫理観を省察する。					
19.教科書・教材	授業内容に応じて、文献の紹介、資料の配布を行う。					
20.参考文献	宮坂道夫他：系統看護学講座 別巻 看護倫理（第2版）、医学書院、2018 日本看護協会監修：看護職の基本的責務 2023 年版、日本看護協会出版会、2023					
21.成績評価	講義内容への参加度（30％） プレゼンテーション（30％） 課題レポート（40％）					
22.コメント						
23.オフィスアワー	事前にメール予約すること					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回目 4/6（土）	授業展開 及び授業内容 1.人の生命の尊厳と権利の尊重（吉沢） 看護の特性として看護倫理の本質を考究する					
第2回目 4月13日 （土）	・ 生命倫理、医療倫理、アドボケイトの役割（吉沢） 生命倫理に関わる人権侵害、医療倫理の四原則、看護に特徴的な 倫理機能について					
第3回 4月18日 （木）	生殖看護や母性・助産を取り巻く倫理的課題（吉沢）					
第4回	事例を用いた母性のアドボケイトの検討①倫理的課					

4月27日 (土)	題と課題に関 わる人々の価値観、意図する調整の方向性 (吉沢)	
第5回 5月2日 (木)	事例を用いた母性のアドボケイトの検討②看護の倫理 原則と課題 解決のための方略の検討 (吉沢)	
第6回 5月11日 (土)	研究倫理と臨床活動と看護師の役割について (吉沢)	
第7回目 5月16日 (木)	患者・家族の人権擁護やインフォームドコンセント (吉沢) 臨床現場で重視すべき人権擁護と治療の承諾の意味 を探究する	
第8回 5月25日 (土)	患者・家族の意思決定をささえる看護 (吉沢) 患者が主体である意思決定について、一単位として の家族の視点 から支援する看護を追及する	
第9回目 5月30日 (木)	事例を用いた精神のアドボケイトの検討①看護の倫理 原則と課題 解決のための方略の検討 (櫻井)	
第10回目 6月8日 (土)	事例を用いた精神のアドボケイトの検討②看護の倫理 原則と課題 解決のための方略の検討 (櫻井)	
第11回目 6月13日 (木)	事例を用いた精神のアドボケイトの検討③看護の倫理 原則と課題 解決のための方略の検討 (櫻井)	
第12回目 6月22日 (土)	事例を用いた精神のアドボケイトの検討④看護の倫理 原則と課題 解決のための方略の検討 (櫻井)	
第13回目 6月27日 (木)	事例を用いた精神のアドボケイトの検討⑤看護の倫理 原則と課題 解決のための方略の検討 (櫻井)	
7月6日 (土)	事例を用いた精神のアドボケイトの検討⑥看護の倫理 原則と課題 解決のための方略の検討 (櫻井)	
第15回 7月6日 (土)	学生が体験した臨床上の倫理的判断を必要とする場面 での体験を 振り返り、倫理的課題・倫理的ジレンマを分析し課 題に関わる人々 の価値観を理解し、意図する調整の方向性及び課題 を解決するため の方略を検討する。多面的なものの考え方や専門職 者としての規律 と態度、責務、倫理的支援の在り方を学修する(吉沢)	

1.授業コード (ナンバリング)	NHF202-M51	2.科目名	小児看護援助論		3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾ひとみ、黒川麻里					
5.授業科目の区分	専門科目 小児看護分野における 実務経験のある教員に よる授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的と概要】 疾病と入院による子どもと家族への影響を理解するための基盤となる理論を学び、Family centered care の観点から生活者である子どもの成長発達を促進し、健康段階に応じた子どもと家族への看護の特徴を理解する。また、成人への移行を円滑にするための看護や、教育の場における子どもの看護についても展望する。					
18.学習目標と DPとの関連	DP1：病気をもつ子どもと家族の苦痛を緩和し、セルフケア獲得にむけての支援について説明し、支援を工夫できる。 DP2・3：地域で生活する多様な背景をもつ子どもが健全に育つための支援について考えることができる。 DP4・6：病気をもつ子どもと家族の生活と成長・発達に、健康段階・入院による環境の変化や入院体験が及ぼす影響を説明できる。 DP5:円滑なグループワークによって、病気をもつ子どもと家族への看護を工夫できる。					
19.教科書・教材	子どもの生活機能の発達とからだの仕組みー看護形態機能学の視点からー金芳堂 奈良間美保, 他 (2020): 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 第14 版 医学書院.					
20.参考文献	授業中に適宜、紹介する。					
21.成績評価	【試験】総括試験 50% 【課題等】アセスメント 50%					
22.コメント	自己学習とグループワークを通じ、学生同士で学び合うことを大切にします。欠席することのないよう体調の自己管理は十分に行うこと。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 研究室オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1-2 (10/4) 担当：松尾	○オリエンテーション・子どものからだ・病気の理解 小児看護学における健康段階別看護の特徴を理解する 子どもの体の理解・病気の理解の発達を理解する					
3-4 (10/11) 担当：松尾	○入院・治療・処置における子どもと家族の生活への影響と看護 子どもの入院による環境の変化への適応、苦痛を伴う処置への反応、の発達とプリパレーションの役割を理解する					
5-6 (10/18) 1-2 限 担当：松尾	○急性期にある子どもと家族の看護 子どもに多い症状の発生機序と対症看護を理解する 小児外来におけるトリアージについて理解する					

7-8 (10/25) 1-2 限 担当：松尾	○急性期における子どもの看護 小児期の手術の術前・術中・術後管理の特徴について 理解する子どもの痛みの把握方法について理解する	
9-10 (11/1) 担当：松尾	○慢性期にある子どもと家族の看護 移行期支援について理解する 慢性疾患をもつ子どものからだ・病気の理解の発達を 理解する 病気を持つ子どものセルフケア育成の支援を理解する	
11-12 (11/8) 担当：松尾	○終末期にある子どもと家族の看護 子どものターミナルケアの特徴を理解する ○NICU で育つ子どもと家族の看護 NICU で育つ子どもと家族の看護を理解する	
13-14 (11/15) 1- 2 限 担当：松尾	○災害時の子どもの看護・被虐待児の看護 災害による子どもと家族への影響を理解する 虐待をうけた子どもの看護について理解する	
15・16 (11/22) 担当：松尾	○障害児の看護 障害児と家族の看護の特徴について理解する ○演習のオリエンテーション 小児看護におけるアセスメントについて理解する	
17・18 (11/29) 1- 2 限 担当教員	○事例の病態図作成・発表 事例の疾患の病態・検査・治療・看護について理解す る	
19-20 (12/6) 担当教員	○事例のアセスメント・発表（動く・息をする・ポン プ機能） 事例の子どもの疾患・治療・入院による、動く、息を する・ポンプ機能への影響の評価方法を理解する	
21-22 (12/13) 担当教員	○事例のアセスメント・発表（食べる） 事例の子どもの疾患・治療・入院による、食べる機能 への影響の評価方法を理解する	
23-24 (12/20) 担当教員	○事例のアセスメント・発表（トイレに行く・睡眠） 事例の子どもの疾患・治療・入院による、トイレに行 く、睡眠の機能への影響の評価方法を理解する	
25-26 (1/10) 担当教員	○事例のアセスメント・発表（お風呂に入る） 事例の子どもの疾患・治療・入院による、お風呂に入 る機能への影響の評価方法を理解する	
27-28 (1/17) 担当教員	○事例に対する看護実践の発表 事例の子どもと家族への看護を実践・評価を理解する	
29 (1/26-3 限) 30 (1/26-4 限) 担当教員	3 限 事例に対する看護実践の発表 事例の子どもと家族への看護を実践・評価を理解 する 4 限 総括試験・まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	NHF204-M51	2.科目名	母性看護援助論		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉沢豊子、有本梨花、吉田明莉					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	看護師国家試験受験科目		11.先修条件	母性看護援助論		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 妊娠・分娩・産褥期に起こる心身の変化と社会的側面の特徴を理解したうえで、マタニティサイクルにある女性とその家族の看護について実践できる 【概要】 妊娠・分娩・産褥期に起こる心身の変化と社会的側面の特徴について学び、マタニティサイクル各期における看護実践に必要な課題を理解し、マタニティサイクルにある女性とその家族に必要な支援について実践できる能力を聴講やグループワークを通して獲得する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目は、看護学科 DP(4)-(6)に該当する科目です (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力 1) 既習の生殖生理に関する知識を基盤にマタニティサイクル各期（妊娠・分娩・産褥・育児期）に起こる心身の変化と日常生活の特徴について理解し、看護の課題と支援の方法について説明できる。 2) マタニティサイクル各期に起こる正常からの逸脱、およびハイリスク妊娠・分娩の問題について理解し、看護の課題と支援の方法について説明できる。 3) 胎児期・新生児の生理と発育・発達について理解し、看護の課題と支援の方法について説明できる。 4) マタニティサイクル各期にある女性とその家族の特性を理解し、看護の課題と支援の方法について説明できる。					
19.教科書・教材	1.小林康江他編著 ナーシング・グラフィカ 母性看護学②母性看護の実践 メディカ出版 2022 2.荒木奈緒他編著 ナーシング・グラフィカ 母性看護学③母性看護学技術 メディカ出版 2022 3.「系統看護学講座」専門分野Ⅱ 母性看護学 2 母性看護学各論、医学書院、ISBN9784260042239 4. 医療情報科学研究所編集 メディックメディア 病気がみえる vol.10: 産科					
20.参考文献	「系統看護学講座」専門分野Ⅱ 母性看護学 1 母性看護学概論、医学書院、ISBN9784260042253 「系統看護学講座」専門分野Ⅱ 成人看護学 9 女性生殖器、医学書院、ISBN9784260035675					
21.成績評価	レポート：3 回（各 5～15 点）学習目標 1）～4） レポート①10 点 レポート②5 点 レポート③15 点 テスト 70 点（小テスト 30 点 総括テスト 40 点） 小テスト：学習目標 1）～4） 総括テスト：学習目標 1）～4）					

22.コメント	本授業で学習する内容が 3 年次に履修する母性看護学実習（臨地実習）の基礎となります。 実習で出会う対象者の方々に、看護者としての責任が果たせるよう、母性看護学の知識・技術を実践に身につられるよう、毎回の授業の内容に該当するテキストのページを参照して事前事後学習をして授業に臨んでください。 テキストは 1-3 を毎回使用します	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
10/1 1 回 火 3 限 2 回 火 4 限	【講義】 マタニティサイクルにある人々の看護の主要な概念（有本）	【事前課題】 テキスト 2 第 2
10/9 3 回 水 4 限 4 回 水 5 限	【講義】 妊婦の看護（有本）	【事前課題】 テキスト 2 第 2
10/15 5 回 火 3 限 6 回 火 4 限	【講義】 妊娠期の異常（有本）	【事前課題】 テキスト 2 第 3
10/23 7 回 水 4 限 8 回 水 5 限	【講義】 妊娠期の看護・健康教育（事例検討）（有本）	【事前課題】 テキスト 2 第 2.3 【授業はじめ】 小テスト① 10 点
10/ 29 9 回 火 3 限 10 回 火 4 限	【演習】 妊娠期の事例と看護過程発表（有本）	【持参資料】 テキスト第 2.3 病気が見える 10 産科 【事後課題】 レポート① 妊娠期看護過程 10 点
11/5 11 回 火 3 限 12 回 火 4 限	【講義】 産婦の看護・分娩時の異常（吉沢）	【持参資料】 テキスト 2.第 4.5
11/19 13 回 火 3 限 14 回 火 4 限	【講義】 産褥期における看護（吉田）	【事前課題】 テキスト 2 第 6.7
11/20 15 回 水 4 限 16 回 水 5 限	【講義】 産褥期における看護（吉田）	【事前課題】 テキスト 2 第 6.7
11/27 17 回 水 4 限	【講義】 新生児の看護（吉田）	【事前課題】 テキスト 2 第 8

18回 水 5限		【授業はじめ】 小テスト②10点
12/4 19回 水 4限 20回 水 5限	【演習 1】 産褥期の事例と看護過程（有本） 【演習 2】 （吉沢・有本・吉田） 1. 褥婦に対する看護技術 進行性変化・退行性変化のアセスメント 2. 新生児に対する看護技術 新生児のフィジカルアセスメント（計測含む） 沐浴 ※23・24回（演習 1：産褥期の事例展開）と 25・26回（演習 2：褥婦・新生児に対する看護技術）はクラスを 1/2 に分け、2回で展開する	【事前課題】 WEBCLASS の動画を視聴 レポート② ②演習レポート 5点 【持参資料】 荒木奈緒他編著 ナーシング・グラフィカ 母性看護学③母性看護学技術 メディカ出版 2022 病気が見える 10 産科 【演習の準備】 実習に準じた服装で演習に臨む ・ユニフォーム ・ナースシューズ ・爪を短く切り、髪を整えて演習に参加すること。 【冬休み中の課題】 授業中に提示
12/10 21回 火 3限 22回 火 4限	【演習 1】 産褥期の事例と看護過程（有本） 【演習 2】 1. 褥婦に対する看護技術（吉沢・有本・吉田・他） 進行性変化・退行性変化のアセスメント 2. 新生児に対する看護技術 新生児のフィジカルアセスメント（計測含む） 沐浴 ※23・24回（演習 1：産褥期の事例展開）と 25・26回（演習 2：褥婦・新生児に対する看護技術）はクラスを 1/2 に分け、表・裏で展開する	【事前課題】 WEBCLASS の動画を視聴 レポート② ②演習レポート 5点 【持参資料】 荒木奈緒他編著 ナーシング・グラフィカ 母性看護学③母性看護学技術 メディカ出版 2022 病気が見える 10 産科 【演習の準備】 実習に準じた服装で演習に臨む ・ユニフォーム ・ナースシューズ ・爪を短く切り、髪を整えて演習に参加すること。 【冬休み中の課題】 授業中に提示
12/18 23回 水 4限 24回 水 5限	【演習】 産褥期の事例と看護過程発表（有本）	レポート③ 産褥期の看護過程・関連図 15点
1/7 25回 火 3限 26回 火 4限	【講義】 産褥期の異常と看護（有本）	【事前課題】 テキスト 2 第 8
1/14 27回 火 3限	【講義】 新生児期の異常と看護（有本）	【事前課題】 テキスト 2 第 10

28 回 火 4 限		【授業はじめ】 小テスト③10 点
1/21 29 回 火 3 限 30 回 火 4 限	【総括】 3 限目 総括テスト 【講義】 4 限目 特別な配慮が必要な妊産婦と家族への支援（有本） 1）特定妊婦と生まれた時への支援 2）不妊治療後の妊娠・出産 3）外国人妊産婦褥婦への支援 4）災害時の妊産婦の支援	【事前課題】 テキスト 2 第 11

1.授業コード (ナンバリング)	NHF206-M51	2.科目名	ウイメンズヘルス		3.単位数	1
4.授業担当教員	齋藤いずみ					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	助産師国家試験受験科目			11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限	助産コースを履修希望者は必須科目です。 希望しない方も履修可能です。					
17.授業の目的と概要	女性の健康に関する基盤となる考え方を学ぶ。 1. 女性の身体の仕組みを理解する。 2. 女性のライフサイクルに沿った健康問題とケアについて理解する。 3. 現代女性に特別に支援が必要な健康問題を理解し支援を考える。 4. 性科学の概念を理解しセクシュアリティへの支援を考える。 5. 性の多様性について理解し社会における看護の役割を考える。 6. 性感染症を理解し予防教育について考える。 7. 家族計画や避妊に関する理解を深め、セクシュアルカウンセリング・性教育について学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	1) 女性の身体の仕組み(解剖・生理・機能)について説明できる。 2) 思春期から更年期・老年期までの女性のヘルスケアについて説明できる。 3) 不妊症・ドメスティックバイオレンス、月経障害で悩む女性への支援について説明できる。 4) 性科学の概念を理解し、セックス、ジェンダー、セクシュアリティの関係を説明できる。 5) 生の多様性として、性同一性障害・性分化疾患、同性愛について説明できる。 6)性感染症とその予防について説明できる 7)家族計画の基礎知識、避妊法、セクシュアルカウンセリング、性教育について学ぶ。					
19.教科書・教材	助産師基礎教育テキスト 2 巻 ウイメンズヘルスケア 日本看護協会出版会 (新版)					
20.参考文献	助産学講座 第 2 巻 基礎助産学 1 助産師業務要覧 第 3 版 基礎編 改訂があれば新版					
21.成績評価	レポート提出 (4 回) 50% 最終試験 40% 学習への参加 10%					
22.コメント	授業資料は、ウェブクラスにアップしますので各自印刷して授業に出席してください					
23.オフィスアワー	時間を確認しアポイントメントを取ってください					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回	オリエンテーション 男女の身体のしくみ (外性器・内性器) 女性の生理学 女性の一生と性ホルモン ホルモン動態・基礎体温・月経周期に伴う心身の変化 女性が発症しやすい疾患などについて 担当			ウーマンズヘルスのテキスト持参 レポート課題 月経と射精のメカニズムについて A4 用紙 1 枚 に 800 字程度にまとめてウェブクラスのレポート BOX に提出する(10 点) 日時制限有確認してください。未提出、提出遅れは 0 点とな		

	()	ります
2 回	生涯における女性のケア ウーマンズヘルスケアとは 思春期女性の支援 更年期女性への支援 担当 ()	テキスト 思春期の健康問題について自身の思春期の頃を振り返ってレポートする。 「高校生に対する健康メッセージ」800 字程度 (10 点) ウェブクラスのレポート BOX に提出する時間制限有確認してください。未提出、提出遅れは 0 点となります
3 回	現代女性に特別に支援を要する健康問題 不妊に悩む女性への支援 不妊症の原因・検査・治療 不妊治療と自己決定 不妊カップルの心理と支援 不妊に関する社会的資源・保険の活用など 担当 ()	
4 回	現代女性に特別に支援を要する健康問題 ドメスティックバイオレンスへの支援 月経障害への支援 担当 ()	テキスト 助産師基礎教育テキスト第 2 版 レポート課題 (10 点) レポート課題は授業時にお知らせします。web クラスに提出してください 未提出、提出遅れは 0 点となります
5 回	性科学 性科学・セックスとジェンダー セクシュアリティ 性反応・性指向・性行動 など 性の多様性 LGBTQ について 担当 ()	助産師基礎教育テキスト第 2 版 レポート 自分が中学生の頃に受けた性教育を例にとり、現状の性教育の課題について論じなさい。 受けてない場合はその現状から述べてください。 20 点 1200 文字程度 ウェブクラスのレポート BOX に提出してください。未提出、期間外の提出は 0 点となります
6 回	性感染症と予防教育 各種性感染症の診断と治療 性感染症の予防 HPV ワクチンの実際 担当 ()	助産師基礎教育テキスト第 2 版
7 回	セクシュアルヘルス 家族計画の基礎知識 各種避妊法 担当 ()	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NHF207-M51	2.科目名	助産学概論		3.単位数	1
4.授業担当教員	齋藤いずみ					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	学部 2 年	
10.取得資格の要件	助産師国家試験受験資格取得に必修			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限	助産師希望者（法律上男子は助産師として国家資格は得られません）					
17.授業の目的と概要	17.授業の目的と概要					
	目的					
	本科目では、助産の概念、定義とその業務、助産学を支える理論と研究、助産師に求められる倫理、諸外国の助産と本邦との相違、歴史的背景と今後の課題等を学ぶ					
17.授業の目的と概要	概要					
	授業は、助産の根本ともいえる、専門職とは？、母子、その家族更には社会を支える助産の役割とは？、社会的責任や業務内容？といった助産師を目指す者としての基本的考えかたやその構成要素を自ら学び、自身の糧となるよう学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標					
	①助産とは（概念）について説明できる					
	②助産の成り立ち（歴史的背景）を説明できる					
18.学習目標と DPとの関連	③助産に必要な理論や研究の状況を学び自身が研究者、専門職者として必要なスキルを発見する					
	④本邦と諸外国の助産の発展の背景や社会的立場の違い、教育制度の違いを学ぶ					
	⑤助産師に必要な倫理的考え方（多様性の理解、態度、思考）を説明する					
18.学習目標と DPとの関連	関連する DP					
	自ら学ぶ、考える自律性、様々な背景を持つ対象の理解（多様性）、社会に起こっている現象や状況を分析する問題発見能力とそれを解決するための方策、最後に専門的知識の習得・技能を培うための学習姿勢と活用					
19.教科書・教材	基礎助産学（1）助産学概論 医学書院 新版のもの					
20.参考文献	資料や参考文献は随時紹介する					
21.成績評価	筆記試験 50％ 授業中に提出指定されたレポート 40％ 授業への参加及び意見の発表 10％					
22.コメント	助産師を目指す者としての始まりです。様々な意見や考え方を認めながら積極的に意見を述べましょう					
23.オフィスアワー	オフィスアワーの確認をし、アポイントメントを取ってください					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回目	助産とは？ 助産の定義 助産の意義・本質 助産の対象とする人々 助産が専門職者として社会的認知を得るために必要な要件 担当 （ ）			レポート課題と様式を提示する「助産の責務について自身の考えを述べなさい」800 字 評価配点（10 点） 指定期日までに提出されなければ 0 点とする。		
2 回	助産に関与する概念 リプロダクティブヘルス			レポート課題の提示「SDGs の考え方に助産学が貢献できることとは？」800 字 評		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NHF303-M81	2.科目名	助産診断技術学Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	齋藤益子、小河原みゆき、中島通子、松尾博哉					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	3 年から	
10.取得資格の要件	助産師国家試験受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	助産学選択分野を志望している者					
17.授業の目的と概要	妊娠・産褥・新生児期各期における助産診断過程を理解し、心身の特徴と経過を診断する。 妊婦、褥婦、胎児・新生児とその家族が正常な経過をたどるために必要な助産援助を講義、演習を通して習得する。					
18.学習目標と DPとの関連	妊婦・胎児、褥婦、新生児の正常経過について説明できる。 妊娠・胎児、産褥、新生児期の各期のアセスメントの視点と必要な助産援助が説明できる。 妊婦・胎児、褥婦、新生児の援助に必要な助産技術を習得することができる。 妊婦・胎児、褥婦、新生児の事例を通して、助産過程を展開することができる。					
19.教科書・教材	①助産学講座 2 基礎助産学(2) 母子の基礎科学 医学書院 ②助産学講座 3 基礎助産学(3) 母子の健康科学 医学書院 ③助産学講座 4 基礎助産学(4) 母子の健康科学 医学書院 ④助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ 第6版 医学書院 ⑤助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ 第6版(1) 妊娠期 医学書院 ⑥助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ 第6版(2) 分娩期・産褥期 医学書院 ⑦助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ 第6版(3) 新生児期・乳幼児期 医学書院 ⑧マタニティ診断ガイドブック第					
20.参考文献	20.参考文献 ①助産学講座 1,2,3,4、医学書院。 ②家族計画指導の実際 医学書院 ③実践 マタニティ診断 第5版、日本助産診断実践学会編、医学書院。 ④病が見える、産科 第4版、医療情報科学研究所、メディックメディア。 ⑤マタニティサイクルの実践保健指導 妊娠期、鈴木由美、丸善プラネット、2013。 ⑥マタニティサイクルの実践保健指導 産褥期、鈴木由美、丸善プラネット、2013。 ⑦ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程、第3版、太田操、医歯薬出版。 ⑧図説 CTG テキストー助産実践能力習熟段					
21.成績評価	演習レポート・課題レポート(提出物の内容、期限など) 30% 保健指導の発表 30% 試験(妊娠・産褥・新生児・乳児の生理的変化など基礎的知識) 30% 学修への参加 10% 合計 100 点とする					
22.コメント						
23.オフィスアワー	アポイントメントを取ってください					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NHF304-M51	2.科目名	助産管理		3.単位数	1
4.授業担当教員	齋藤いずみ					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	助産師国家試験受験科目		11.先修条件	助産師選択分野選抜者		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	1.助産業務に関する法令や倫理規定を学び、助産業務の範囲、専門職としての役割と責務を理解する。 2.助産管理の概念、助産業務上の管理・運営の実際と課題を学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	1.助産業務に関する法令を説明できる。 2.助産業務に関する倫理規定を説明できる。 3.助産業務に法的範囲を説明できる。 4.助産師の役割と責務を説明できる。 5.助産業務を取り巻く医療事故の特徴を説明できる。 6.助産に関するサービスの評価方法を説明できる。 7.助産に関するリスクマネジメントの特徴を説明できる。 8.病院・診療所における助産業務管理の特徴を説明できる。 9.助産所における助産業務管理の特徴を説明できる。 10.平時の災害への備えと被災時の対応ができる。					
19.教科書・教材	1.助産学講座 10 助産管理 医学書院 2.福井トシ子編：助産師業務要Ⅰ巻(基礎編) 日本看護協会出版会					
20.参考文献	1.助産業務ガイドライン 2019 改定 日本助産師会					
21.成績評価	最終試験 50% レポート 4 回 各 10%合計 40% 授業への参加・発言回数・質疑の内容 10% 合計 100 点とする					
22.コメント						
23.オフィスアワー	授業前後の昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 助産業務の概念と特性 助産管理・看護管理の基本 レポート課題あり 担当()			テーマに関連するテキストの内容について事前に読んでくること 以後も同じ		
第 2 回	助産業務に係る法令・法的責務(中島)			復習		
第 3 回	助産業務を取り巻く法律・医療事故 レポート課題あり授業時に課題を提示する。 担当()			復習		
第 4 回	助産の評価とリスクマネジメント(中島) レポート課題あり授業時に課題を提示する。			復習		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NHF305-M81	2.科目名	地域母子保健		3.単位数	1
4.授業担当教員	齋藤いずみ					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件	助産師国家試験受験科目		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限	助産師選択コースの学生					
17.授業の目的と概要	母子保健制度や施策を理解し、地域で活動、ケア、実践できることを目的とする。地域母子保健の視点で「育児支援」「産後ケア事業」「児童虐待予防」「メンタルヘルスケア」「性教育」などを理解し、活動、ケア、実践できる力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 地域母子保健の概念を理解できる。 2. 地域母子保健活動の意義が説明できる。 3. 母子保健の動向と課題が説明できる。 4. 地域包括ケアシステムについて理解できる。 5. 産前・産後の地域母子保健活動について理解できる。 6. 地域における児童虐待予防やメンタルヘルス、性教育などの活動について理解できる。 7. 国際母子保健の現状と課題について理解できる。					
19.教科書・教材	助産学講座 9 医学書院					
20.参考文献						
21.成績評価	レポート提出 (3 回) 30 点 最終試験 60 点 学習への参加 10 点					
22.コメント	授業の内容は前後する場合があります。 その際は前後の時間に次回の予告をします。					
23.オフィスアワー	火曜日の授業前後の時間 11：40－12：30					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 地域母子保健の概念・意義 地域母子保健の変遷 地域における助産師の役割 母子の健康に関わる因子について (担当)			助産学講座 9 テキスト持参		
第 2 回	日本における母子保健の動向 日本における母子保健の課題 (担当)			助産学講座 9 テキスト持参 レポート提出		
第 3 回	母子保健行政の動向 母子保健にかかわる法律 (担当)			助産学講座 9 テキスト持参		
第 4 回	母子保健制度の概要			助産学講座 9 テキスト持参		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	NHF306-M81	2.科目名	産褥・新生児の助産診断技術学		3.単位数	2
4.授業担当教員	齋藤いずみ					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	看護学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件	助産師国家試験受験科目		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義形式		
16.履修制限	助産選択生					
17.授業の目的と概要	分娩が終了し産褥期にある女性の生理的変化並びに正常逸脱状態・ハイリスクの診断に必要な知識・技術・診断を理解し産褥期における助産過程を展開できる能力を培う。 産褥期にある女性の心理的变化を学び、女性とその家族に対する支援並びに社会資源の活用等について学び、展開できる能力を培う。 産褥期にある女性に必要な育児技術・知識・技術を習得し教育・指導が展開できる能力を培う。 胎児期から新生児期の生理的変化並びに胎児期からのアセスメントを通し、正常及び正常逸脱の予測、ケアを行う為の知識・技術・態度を学修し新生児期の助産過程が展開できる力を修得する。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 科学的根拠に基づいた産褥期・新生児期のアセスメントと技術提供ができる。 2. 産褥期にある女性に対しエビデンスに基づく精神心理的状态に寄り添う実践ができる。 3. 褥婦および新生児の健康状態の維持及び向上に向けた支援方法を理解する。 4. 育児に必要な技術の習得、親子関係・家族関係形成に向けた支援方法を理解する。 5. 女性にとって妊娠・出産・産褥の持つ意味を考え、周産期における助産師の役割について考察する。 6. 産褥期女性・新生児期にある児に対する診断及び診断の根拠を示し、技術提供できる。 7. 正常・異常・正常逸脱の判断、周産期周辺に関与する法律・社会資源を活用できる能力を修得する。					
19.教科書・教材	1. 助産学講座 助産診断・技術学Ⅱ 3 新生児期・乳幼児期 医学書院 2. 助産学講座 助産診断・技術学Ⅱ 7 分娩期 産褥期 医学書院 3. 今日の助産 南江堂 第4版 4. 助産学講座 基礎助産学 (2). 母子の基礎科学 医学書院 5. 助産学講座 基礎助産学 (4). 母子の心理社会 医学書院 6. マタニティ診断 ガイドブック 第5版 日本助産診断・実践学会					
20.参考文献	1. プリンシプル産婦人科学 2、坂元正一他、メディカルビュー社 2. 病が見える 産科 医療情報科学研究所 メディックメディア 3. 産婦人科診療ガイドライン 産科編, 2023 日本産科婦人科学会 最新改訂版 4. 助産業務ガイドライン 2019 日本助産師会 5. NCP R 新生児蘇生法テキスト, 2020 日本周産期・新生児医学会, メジカルビュー社					
21.成績評価	筆記試験 50% (25%×2回) 指導案作成 30%					

	プレゼンテーション 授業参加状況 20%	
22.コメント	母性看護学からの発展科目です、事前学習をしっかりと行って授業に出席してください。	
23.オフィスアワー	各担当教員に連絡しアポイントメントを取ってください	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回	オリエンテーション ①産褥期 新生児期の授業を 15 回で構成している。 ②産褥期から新生児へと関連続けて進行する。母性看護の学習を発展させ助産の視点から幅広く、深く学習する。 ③自ら学び・深めること、 妊娠・出産を通して産褥期・新生児期へと繋がることを念頭に置き、対象に対し根拠生のあるアセスメントし診断を行う。この一連の助産過程が展開するための学習である。 産褥期の定義 産褥の生理 (全身の変化 局所の変化) 担当 ()	助産診断技術学Ⅱ 助産学講座 8 新生児期・乳幼児期 助産診断技術学Ⅱ 助産学講座 7 分娩期産褥期 今日の助産
2 回	産褥期の全身変化と特徴 ① 全身の変化 ② 器官別変化 ③ 局所的変化 ④ 乳房の変化 (基礎助産学2 乳房の構造と乳汁分泌) から産褥期の 変化学習 ⑤ 月経の再開 (基礎助産学2 生殖生理に関するホルモン動態・卵巣機能 視床下部) 担当 ()	助産学講座2・基礎助産学 母子の基礎科学 助産学講座4 基礎助産学 母子の心理 助産学講座 8 助産診断技術学Ⅱ 新生児期・乳幼児期 助産学講座 7 助産診断技術学Ⅱ 分娩期産褥期 今日の助産
3 回	産褥期の助産診断 類型と①身体的診断・②心理・社会・発達の診断 各項目 に対する診断類型細目 (マタニティアセスメントガイド参照)	マタニティアセスメントガイド 助産診断技術学Ⅱ 7 今日の助産
4 回	産褥期のフィジカルアセスメント 褥婦の健康診査に必要な技術と視点 産褥期の経過診断 生殖器の回復過程のアセスメント 創傷治癒過程のアセスメント 母乳育児栄養確立の診断 乳汁産生のアセスメント	マタニティアセスメントガイド 助産診断技術学Ⅱ 7 今日の助産
5 回	産褥期の心理社会的変化 心理的特徴と影響要因 出産体験の想起 褥婦の日常生活行動の充足と適応 家族形成と社会的変化 社会資源の活用	助産診断技術学Ⅱ 7 分娩期 産褥期 医学書院 今日の助産 第5版

6 回	退行性変化促進の支援 子宮復古促進へのケア 早期離床 会陰部創傷の治癒促進 感染予防 生活支援 セルフケア 産後の生活に関する支援 日常生活適応への支援 安静 栄養 排泄 心理・社会的側面への支援 母子関係形成 パースレビュー メンタルヘルス 産後うつ マタニティブルー 産後家族計画への支援 家庭社会生活復帰への支援 退院後の生活支援 栄養 育児支援 清潔 家事・育児の支援 社会資源の活用 訪問指導の利用 育児行動獲得への支援 家族支援 産褥期における保健指導案の作成 (家族計	マタニティアセスメントガイド 助産診断技術学Ⅱ 7 今日の助産 保健指導案の作成 評価 (30%)
7 回	産褥期の異常・偶発疾患 産褥期に起こる問題 身体 (周産期感染症) 性器の異常 血管系の異常 (VTE) 乳房・乳腺異常、分泌異常 産後後遺症 (HDP 帝王切開後 糖尿病 産褥心筋症) 産褥期に起こる精神的な問題 マタニティブルーズ 産褥精神病 産後鬱 ハイリスク・異常褥婦へのアセスメントと支援 ①要因のアセスメント ②支援 (復古不全 糖尿病 HDP 出血後 感染症 帝王切開後) 乳房管理 中間試験 (25 点) 担当 ()	マタニティアセスメントガイド 助産診断技術学Ⅱ 7 今日の助産
8 回	事例展開 提示された事例の助産過程の展開を実施する。 アセスメント 診断 支援計画 評価 修正 担当 ()	各自で計画修正まで作成する
9 回	新生児期 助産ケアにおける 新生児・乳幼児の位置づけ 児の成長・発達と助産ケア新生児のアセスメントとケア 新生児の適応生理と成長・発達 呼吸 循環 体温 肝機能 消化器系 水分 免疫系 行動と感覚器系 担当 ()	助産診断技術学Ⅱ 8 新生児期・乳幼児期 今日の助産
10 回	新生児のアセスメントとケア 新生児の適応生理と成長・発達 呼吸 循環 体温 肝機能 消化器系 水分 免疫系 行動と感覚器系	助産診断技術学Ⅱ 8 新生児期・乳幼児期 今日の助産 アセスメントガイド

	9 回目にく 担当（ ）	
11 回	11 回 正常逸脱状態にある新生児の診断 呼吸障害 心雑音 循環障害（チアノーゼ含む） 消化器症状（嘔吐 腹部膨満 吐血 下血 ） 低体温と発熱 治療含む（光線療法 輸液管理 呼吸の確立支援） NCPR アリゴリズム 担当（ ）	NCPR テキスト（購入者は持参） 助産診断技術学 8 新生児・乳幼児期
12 回	12 回 出生後 24 時間以内の新生児のアセスメントとケア 胎児期からのリスク把握 分娩侵襲に生ずるリスク 出生直後の胎外生活適応の評価と支援 異常の早期発見と支援 成長発達の評価と支援（身体計測 評価法含む 感 染予防 母子接触） 担当（ ）	同上資料 教科書持参
13 回	13 回 生後 7 日（退院までの）アセスメントとケア 胎外循環適応状態と評価と支援 成長発達の評価と支援 スクリーニング検査 代謝異 常及び聴覚含む 異常の早期発見 担当（ ）	同上教科書 資料持参
14 回	14 回 乳幼児のアセスメントとケア 乳幼児の成長発達 心理社会的発達 乳幼児のアセスメントとケア 身体的成長・発 達と支援 （視覚、聴覚、栄養 心理社会 情緒 言 語 ） 成長と発達に影響する要因と評価 養育者のアセスメントとケア 事故防止 入湯 叔父健康診査 予防接種 受診行動 治療とケア 呼吸管理、光線療法 輸液管理 担当（ ） 試験（25 点）	同上 教科書 資料持参
15 回	15 回 新生児の疾患と診断治療 先天性心疾患 消化器の疾患 外表奇形 染色体異	これまで使用した資料 教科書

	常 感染症 低出生体重児・早産児のケア 特徴と疾患 RDS 無呼吸発作 PDA 動脈管開存 NEC 壊死性腸炎等 乳幼児の疾患とケア 感染症 RS ウイルス ブドウ球菌感染 ロタウイルス ノロウイルス水痘 流行性耳下腺炎 アレルギー 疾患 乳幼児突然死症候群 虐待症候群 発達障害 等 担当 ()	

1.授業コード (ナンバリング)	NUT101-A51	2.科目名	食と健康		3.単位数	2
4.授業担当教員	橋本堂史					
5.授業科目の区分	基盤教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限	教務課の指示に従うこと。					
17.授業の目的と概要	【目的】この科目は、食の成分がヒトの健康や疾病と密接に関わっていることが理解できるようになることを目的とします。 【概要】具体的には、食品の一次機能、二次機能、三次機能の基本的概念を学びます。さらに、それぞれの機能に関わる食品の成分について学ぶと共に疾病について学ぶことで、疾病予防を促す食生活を自ら考え、実施できるようになります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（6）専門的知識・技能の活用能力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ① 食の基本的な機能性の概念を説明できるようになる。 ② 三大栄養素および五大栄養素の重要性を説明できるようになる。 ③ おいしさの重要性が説明できるようになる。 ④ 食の成分が関与する疾病について説明できるようになる。 ⑤ 健康のために必要な食生活を実施できるようになる。					
19.教科書・教材	適宜、資料を配布します。					
20.参考文献	・『食と健康』中谷延二他 ・『食品健康学』中谷延二他 ・『食品機能性の科学』産業技術サービスセンター					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・総括試験（第 15 回の講義時に実施）・・・20% [学習目標①～⑤に対応] ・中間試験（第 8 回の講義時に実施）・・・20% [学習目標①～③に対応] ・プレゼンテーション・・・10% [学習目標④⑤に対応] ・小テスト（第 8 回と第 15 回の講義を除き、毎回実施）・・・50% [学習目標①～⑤に対応] 注意 1）評価方法はあくまでも目安であり、講義の進捗状況などにより若干の変更を行うこともあります。 注意 2）中間試験および総括試験は WebClass で行います。必ず受験時に充電された					
22.コメント	公欠・欠席・遅刻・早退などは大学の規則に従いますので、個別に特別な理由がある場合には教務課に相談ください。 公欠については必ず大学に申請してください。大学からの公欠連絡以外には受け付けません。					
23.オフィスアワー	キャンパス内での質問は講義時間の前後に教室で受け付けます。 また、メールでの質問などは随時受け付けます。ただし、***宛のメールのみ受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	・オリエンテーション（シラバスについて） ・講義「食品の機能性について」・・・食品機能の概念を学ぶ。 ・小テスト「食品の機能性について」			・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。		
【第 2 回】	・講義「糖質の科学」・・・三大栄養素のひとつ「糖質（炭水化物）」について学ぶ。			・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。		

	・小テスト「糖質の科学」	
【第3回】	・講義「脂質の科学」・・・三大栄養素のひとつ「脂質」について学ぶ。 ・小テスト「脂質の科学」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第4回】	・講義「タンパク質の科学」・・・三大栄養素のひとつ「タンパク質」について学ぶ。 ・小テスト「タンパク質の科学」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第5回】	・講義「微量栄養素の科学」・・・微量栄養素である「ビタミン」と「ミネラル」について学ぶ。 ・小テスト「微量栄養素の科学」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第6回】	・講義「食品の味・香・色①」・・・味や味覚を中心に食品の二次機能について学ぶ。 ・小テスト「食品の味・香・色①」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第7回】	・講義「食品の味・香・色②」・・・香や色を中心に食品の二次機能について学ぶ。 ・小テスト「食品の味・香・色②」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第8回】	・中間試験・・・第1回から第7回までの講義内容についての試験を行う。 ・中間試験の解説・・・試験の模範解答について解説する。	パソコンを持参すること。
【第9回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「酸化ストレス」・・・生体内酸化ストレスとそれに関連した疾病について学ぶ。 ・小テスト「酸化ストレス」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第10回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「肥満と食生活」・・・肥満に関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「肥満と食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第11回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「糖尿病と食生活」・・・糖尿病に関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「糖尿病と食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第12回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「動脈硬化症と食生活」・・・動脈硬化症に関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「動脈硬化症と食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第13回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「がんと食生活」・・・がんに関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「がんと食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）

【第 14 回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「アレルギーと食生活」・・・アレルギーに関する基礎知識を学ぶと共にそれに関わる食生活について考える。 ・小テスト「アレルギーと食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第 15 回】	・総括試験・・・第 1 回から第 14 回までの講義内容についての試験を行う。 ・総括試験の解説・・・試験の模範解答について解説する。 ・まとめ	パソコンを持参すること。

1.授業コード (ナンバリング)	NUT101-Y51	2.科目名	食と健康		3.単位数	2
4.授業担当教員	橋本堂史					
5.授業科目の区分	基盤教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限	教務課の指示に従うこと。					
17.授業の目的と概要	【目的】この科目は、食の成分がヒトの健康や疾病と密接に関わっていることが理解できるようになることを目的とします。 【概要】具体的には、食品の一次機能、二次機能、三次機能の基本的概念を学びます。さらに、それぞれの機能に関わる食品の成分について学ぶと共に疾病について学ぶことで、疾病予防を促す食生活を自ら考え、実施できるようになります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ① 食の基本的な機能性の概念を説明できるようになる。 ② 三大栄養素および五大栄養素の重要性を説明できるようになる。 ③ おいしさの重要性が説明できるようになる。 ④ 食の成分が関与する疾病について説明できるようになる。 ⑤ 健康のために必要な食生活を実施できるようになる。					
19.教科書・教材	適宜、資料を配布します。					
20.参考文献	・『食と健康』中谷延二他 ・『食品健康学』中谷延二他 ・『食品機能性の科学』産業技術サービスセンター					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・総括試験（第 15 回の講義時に実施）・・・20% [学習目標①～⑤に対応] ・中間試験（第 8 回の講義時に実施）・・・20% [学習目標①～③に対応] ・プレゼンテーション・・・10% [学習目標④⑤に対応] ・小テスト（第 8 回と第 15 回の講義を除き、毎回実施）・・・50% [学習目標①～⑤に対応] 注意 1）評価方法はあくまでも目安であり、講義の進捗状況などにより若干の変更を行うこともあります。 注意 2）中間試験および総括試験は WebClass で行います。必ず受験時に充電された					
22.コメント	公欠・欠席・遅刻・早退などは大学の規則に従いますので、個別に特別な理由がある場合には教務課に相談ください。 公欠については必ず大学に申請してください。大学からの公欠連絡以外には受け付けません。					
23.オフィスアワー	キャンパス内での質問は講義時間の前後に教室で受け付けます。 また、メールでの質問などは随時受け付けます。ただし、***宛のメールのみ受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	・オリエンテーション（シラバスについて） ・講義「食品の機能性について」・・・食品機能の概念を学ぶ。 ・小テスト「食品の機能性について」			・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。		
【第 2 回】	・講義「糖質の科学」・・・三大栄養素のひとつ「糖質（炭水化物）」について学ぶ。			・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。		

	・小テスト「糖質の科学」	
【第3回】	・講義「脂質の科学」・・・三大栄養素のひとつ「脂質」について学ぶ。 ・小テスト「脂質の科学」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第4回】	・講義「タンパク質の科学」・・・三大栄養素のひとつ「タンパク質」について学ぶ。 ・小テスト「タンパク質の科学」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第5回】	・講義「微量栄養素の科学」・・・微量栄養素である「ビタミン」と「ミネラル」について学ぶ。 ・小テスト「微量栄養素の科学」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第6回】	・講義「食品の味・香・色①」・・・味や味覚を中心に食品の二次機能について学ぶ。 ・小テスト「食品の味・香・色①」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第7回】	・講義「食品の味・香・色②」・・・香や色を中心に食品の二次機能について学ぶ。 ・小テスト「食品の味・香・色②」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。
【第8回】	・中間試験・・・第1回から第7回までの講義内容についての試験を行う。 ・中間試験の解説・・・試験の模範解答について解説する。	パソコンを持参すること。
【第9回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「酸化ストレス」・・・生体内酸化ストレスとそれに関連した疾病について学ぶ。 ・小テスト「酸化ストレス」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第10回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「肥満と食生活」・・・肥満に関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「肥満と食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第11回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「糖尿病と食生活」・・・糖尿病に関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「糖尿病と食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第12回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「動脈硬化症と食生活」・・・動脈硬化症に関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「動脈硬化症と食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第13回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「がんと食生活」・・・がんに関する基礎知識を学ぶと共にそれを予防する食生活について考える。 ・小テスト「がんと食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）

【第 14 回】	・グループプレゼンテーション・・・課題となった食品の機能性について発表する。 ・講義「アレルギーと食生活」・・・アレルギーに関する基礎知識を学ぶと共にそれに関わる食生活について考える。 ・小テスト「アレルギーと食生活」	・WebClass で配布する資料をプリントして持参する、またはパソコンを持参すること。 ・プレゼンテーション資料（講義内で告知された締切日厳守。提出先は WebClass のメッセージに添付することで提出。）
【第 15 回】	・総括試験・・・第 1 回から第 14 回までの講義内容についての試験を行う。 ・総括試験の解説・・・試験の模範解答について解説する。 ・まとめ	パソコンを持参すること。

1.授業コード (ナンバリング)	PED101-A51	2.科目名	初等情報機器活用論 (1/4)		3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	幼稚園教諭、小学校教諭		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習、実験		
16.履修制限	コンピュータ演習室を使用するため受講可能数が 40 名です。					
17.授業の目的と概要	学校での ICT の活用は進んできており、メールでのやり取り、サーバーで一元管理された校務用のプログラムを用いて校務処理する学校が増えている。多くの教師がパソコンを日常的な校務処理や教材作成のツールとして用いるようになっている。そこで、本演習では Excel の関数処理を中心に学び、効率よくパソコンを扱えるようになることを目指す。 また、小学校教育でプログラミング学習が導入されることに対応し、その概要を知り、授業を構想することができることを目標とする。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学修目標は教育学部 DP (4) 問題発見・解決力につながるものである。 ・学習内容である ICT 機器の活用力は、問題解決のための必要な力の一つである。 ①点数計算や学級通信作成のための、Excel の簡単な関数処理や Word 文書の加工を行う事ができる。 ②プログラミング教育の目的・内容を理解し、説明できる。 ③プログラミング教育の授業案を作成できる。 ④学校・園で利用されている ICT 機器について説明できる。					
19.教科書・教材	講義用テキスト					
20.参考文献						
21.成績評価	①Excel や Word の演習ファイルの提出 (5 点×8=40 点) ②Excel の小テスト (30 点) ③プログラミング教育のワークシート (5 点) ④プログラミング教育の授業案・振り返りシート (20 点) ⑤学校・園で利用されている ICT 機器に関するレポート (5 点)					
22.コメント	校務処理の習熟は、教師として非常に大切な資質になります。定番ソフトである Word、Excel のスキルアップをワークシートと練習ファイルによる段階的な演習により行います。また、インターネットからの情報収集やプログラミング学習について学びます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業の目的、テキスト、演習ファイルの活用方法及び事前・事後学習課題について Webclass 活用法及び評価方法についての説明を行う。さらにペアと LC メンバーを決定する。 事前・事後学習課題の Webclass への提出により出席確認を行う。 Excel の基本 (表のレイアウト、印刷設定)、関数処理の基本の演習を行う。 (テキスト p1～3, 演習 1 の sheet) ○ テキスト課題 1～4 をもとに事前学習をする。 (60 分)			● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)		

第 2 回	2 ソート・条件文の作成 ソート（並び換え）機能，条件文（if 文）作成の演習をする。 （テキスト p3～4 及び Excel 演習 3～4 の sheet） ○ テキスト課題 5～8 をもとに事前学習をする。（60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 3 回	3 countif 関数による計数 (1) counif 関数による評価判定 （テキスト p5～6 及び Excel 演習 5～6 の sheet） ○ テキスト課題 9～11 をもとに事前学習をする。（60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 4 回	(2) 評価判定の条件文の応用及び(3)さまざまな関数の設定 if 文による成績処理の分岐方法を示した Excel ファイルの演習を行う。 （テキスト p6～7 及び Excel 演習 5～6 の sheet） ○ テキスト課題 10～12 をもとに事前学習をする。（60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 5 回	4 グラフ作成の基本 (1)表からグラフへ (2)グラフ作成の応用 （テキスト 7～8 及び Excel 演習 7～8） ○ テキスト課題 13～17 をもとに事前学習をする。（60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 6 回	5 さまざまなグラフの作成と Word への貼り付け （テキスト 9～10 及び Excel 演習 8～8-1） ○ テキスト課題 18～21 をもとに事前学習をする。（60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 7 回	6 文字列関数やオートフィルター機能 (1)オートフィルター機能 (2)いろいろな文字列変換関数 （テキスト 11～12 及び Excel 演習 9～10） ○ テキスト課題 22～26 をもとに事前学習をする。（60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 8 回	7 配列数式の活用 (1),(2)配列数式を用いて関数処理したり，度数分布表の作成する。 （テキスト 13～14 及び Excel 演習 11～12） ○ テキスト課題 27～31 をもとに事前学習をする。（60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 9 回	8 集計の裏ワザ（ピボットテーブルの活用）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）

	関数を用いず、ピボットテーブルの活用による集計をします。 また、クロス集計（分析）をピボットテーブルを用いて演習し、実用的なグラフ（度数分布表、クロスグラフ）を作成する。 （テキスト 15～16 及び Excel 演習 11～12）	出する。(15 分)
第 10 回	中間試験 ・エクセルの演習試験	中間試験の解答を Webclass に提出
第 11 回	ワードを用いた教材・資料作り	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 12 回	インターネットからの情報収集と資料作り	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 13 回	プログラミング学習についての情報収集と講義。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 14 回	プログラミング学習を題材とした授業づくり（学習指導略案）。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 15 回	授業における発問の重要性と TP 案作り。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)

1.授業コード (ナンバリング)	PED101-A52	2.科目名	初等情報機器活用論 (2/4)		3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	幼稚園教諭、小学校教諭		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習、実験		
16.履修制限	コンピュータ演習室を使用するため受講可能数が 40 名です。					
17.授業の目的と概要	学校での ICT の活用は進んできており、メールでのやり取り、サーバーで一元管理された校務用のプログラムを用いて校務処理する学校が増えている。多くの教師がパソコンを日常的な校務処理や教材作成のツールとして用いるようになっている。そこで、本演習では Excel の関数処理を中心に学び、効率よくパソコンを扱えるようになることを目指す。 また、小学校教育でプログラミング学習が導入されることに対応し、その概要を知り、授業を構想することができることを目標とする。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学修目標は教育学部 DP (4) 問題発見・解決力につながるものである。 ・学習内容である ICT 機器の活用力は、問題解決のための必要な力の一つである。 ①点数計算や学級通信作成のための、Excel の簡単な関数処理や Word 文書の加工を行う事ができる。 ②プログラミング教育の目的・内容を理解し、説明できる。 ③プログラミング教育の授業案を作成できる。 ④学校・園で利用されている ICT 機器について説明できる。					
19.教科書・教材	講義用テキスト					
20.参考文献						
21.成績評価	①Excel や Word の演習ファイルの提出 (5 点×8=40 点) ②Excel の小テスト (30 点) ③プログラミング教育のワークシート (5 点) ④プログラミング教育の授業案・振り返りシート (20 点) ⑤学校・園で利用されている ICT 機器に関するレポート (5 点)					
22.コメント	校務処理の習熟は、教師として非常に大切な資質になります。定番ソフトである Word、Excel のスキルアップをワークシートと練習ファイルによる段階的な演習により行います。また、インターネットからの情報収集やプログラミング学習について学びます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業の目的、テキスト、演習ファイルの活用方法及び事前・事後学習課題について Webclass 活用法及び評価方法についての説明を行う。さらにペアと LC メンバーを決定する。 事前・事後学習課題の Webclass への提出により出席確認を行う。 Excel の基本 (表のレイアウト、印刷設定)、関数処理の基本の演習を行う。 (テキスト p1～3, 演習 1 の sheet) ○ テキスト課題 1～4 をもとに事前学習をする。 (60 分)			● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)		

第 2 回	2 ソート・条件文の作成 ソート（並び換え）機能，条件文（if 文）作成の演習をする。 （テキスト p3～4 及び Excel 演習 3～4 の sheet） ○ テキスト課題 5～8 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 3 回	3 countif 関数による計数 (1) counif 関数による評価判定 （テキスト p5～6 及び Excel 演習 5～6 の sheet） ○ テキスト課題 9～11 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 4 回	(2) 評価判定の条件文の応用及び(3)さまざまな関数の設定 if 文による成績処理の分岐方法を示した Excel ファイルの演習を行う。 （テキスト p6～7 及び Excel 演習 5～6 の sheet） ○ テキスト課題 10～12 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 5 回	4 グラフ作成の基本 (1)表からグラフへ (2)グラフ作成の応用 （テキスト 7～8 及び Excel 演習 7～8） ○ テキスト課題 13～17 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 6 回	5 さまざまなグラフの作成と Word への貼り付け （テキスト 9～10 及び Excel 演習 8～8-1） ○ テキスト課題 18～21 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 7 回	6 文字列関数やオートフィルター機能 (1)オートフィルター機能 (2)いろいろな文字列変換関数 （テキスト 11～12 及び Excel 演習 9～10） ○ テキスト課題 22～26 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 8 回	7 配列数式の活用 (1),(2)配列数式を用いて関数処理したり，度数分布表の作成する。 （テキスト 13～14 及び Excel 演習 11～12） ○ テキスト課題 27～31 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 9 回	8 集計の裏ワザ（ピボットテーブルの活用）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）

	関数を用いず、ピボットテーブルの活用による集計をします。 また、クロス集計（分析）をピボットテーブルを用いて演習し、実用的なグラフ（度数分布表、クロスグラフ）を作成する。 （テキスト 15～16 及び Excel 演習 11～12）	出する。(15 分)
第 10 回	中間試験 ・エクセルの演習試験	中間試験の解答を Webclass に提出
第 11 回	ワードを用いた教材・資料作り	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 12 回	インターネットからの情報収集と資料作り	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 13 回	プログラミング学習についての情報収集と講義。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 14 回	プログラミング学習を題材とした授業づくり（学習指導略案）。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 15 回	授業における発問の重要性と TP 案作り。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)

1.授業コード (ナンバリング)	PED101-A81	2.科目名	初等情報機器活用論 (3/4)		3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	幼稚園教諭、小学校教諭		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習、実験		
16.履修制限	コンピュータ演習室を使用するため受講可能数が 40 名です。					
17.授業の目的と概要	学校での ICT の活用は進んできており、メールでのやり取り、サーバーで一元管理された校務用のプログラムを用いて校務処理する学校が増えている。多くの教師がパソコンを日常的な校務処理や教材作成のツールとして用いるようになっている。そこで、本演習では Excel の関数処理を中心に学び、効率よくパソコンを扱えるようになることを目指す。 また、小学校教育でプログラミング学習が導入されることに対応し、その概要を知り、授業を構想することができることを目標とする。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学修目標は教育学部 DP (4) 問題発見・解決力につながるものである。 ・学習内容である ICT 機器の活用力は、問題解決のための必要な力の一つである。 ①点数計算や学級通信作成のための、Excel の簡単な関数処理や Word 文書の加工を行う事ができる。 ②プログラミング教育の目的・内容を理解し、説明できる。 ③プログラミング教育の授業案を作成できる。 ④学校・園で利用されている ICT 機器について説明できる。					
19.教科書・教材	講義用テキスト					
20.参考文献						
21.成績評価	①Excel や Word の演習ファイルの提出 (5 点×8=40 点) ②Excel の小テスト (30 点) ③プログラミング教育のワークシート (5 点) ④プログラミング教育の授業案・振り返りシート (20 点) ⑤学校・園で利用されている ICT 機器に関するレポート (5 点)					
22.コメント	校務処理の習熟は、教師として非常に大切な資質になります。定番ソフトである Word、Excel のスキルアップをワークシートと練習ファイルによる段階的な演習により行います。また、インターネットからの情報収集やプログラミング学習について学びます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業の目的、テキスト、演習ファイルの活用方法及び事前・事後学習課題について Webclass 活用法及び評価方法についての説明を行う。さらにペアと LC メンバーを決定する。 事前・事後学習課題の Webclass への提出により出席確認を行う。 Excel の基本 (表のレイアウト、印刷設定)、関数処理の基本の演習を行う。 (テキスト p1～3, 演習 1 の sheet) ○ テキスト課題 1～4 をもとに事前学習をする。 (60 分)			● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)		

第 2 回	2 ソート・条件文の作成 ソート（並び換え）機能，条件文（if 文）作成の演習をする。 （テキスト p3～4 及び Excel 演習 3～4 の sheet） ○ テキスト課題 5～8 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 3 回	3 countif 関数による計数 （1）counif 関数による評価判定 （テキスト p5～6 及び Excel 演習 5～6 の sheet） ○ テキスト課題 9～11 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 4 回	（2）評価判定の条件文の応用及び（3）さまざまな関数の設定 if 文による成績処理の分岐方法を示した Excel ファイルの演習を行う。 （テキスト p6～7 及び Excel 演習 5～6 の sheet） ○ テキスト課題 10～12 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 5 回	4 グラフ作成の基本 （1）表からグラフへ （2）グラフ作成の応用 （テキスト 7～8 及び Excel 演習 7～8） ○ テキスト課題 13～17 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 6 回	5 さまざまなグラフの作成と Word への貼り付け （テキスト 9～10 及び Excel 演習 8～8-1） ○ テキスト課題 18～21 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 7 回	6 文字列関数やオートフィルター機能 （1）オートフィルター機能 （2）いろいろな文字列変換関数 （テキスト 11～12 及び Excel 演習 9～10） ○ テキスト課題 22～26 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 8 回	7 配列数式の活用 （1）（2）配列数式を用いて関数処理したり，度数分布表の作成する。 （テキスト 13～14 及び Excel 演習 11～12） ○ テキスト課題 27～31 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 9 回	8 集計の裏ワザ（ピボットテーブルの活用）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）

	関数を用いず、ピボットテーブルの活用による集計をします。 また、クロス集計（分析）をピボットテーブルを用いて演習し、実用的なグラフ（度数分布表、クロスグラフ）を作成する。 （テキスト 15～16 及び Excel 演習 11～12）	出する。(15 分)
第 10 回	中間試験 ・エクセルの演習試験	中間試験の解答を Webclass に提出
第 11 回	ワードを用いた教材・資料作り	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 12 回	インターネットからの情報収集と資料作り	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 13 回	プログラミング学習についての情報収集と講義。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 14 回	プログラミング学習を題材とした授業づくり（学習指導略案）。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 15 回	授業における発問の重要性と TP 案作り。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)

1.授業コード (ナンバリング)	PED101-A82	2.科目名	初等情報機器活用論 (4/4)		3.単位数	2
4.授業担当教員	大西洋史					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	幼稚園教諭、小学校教諭		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習、実験		
16.履修制限	コンピュータ演習室を使用するため受講可能数が 40 名です。					
17.授業の目的と概要	学校での ICT の活用は進んできており、メールでのやり取り、サーバーで一元管理された校務用のプログラムを用いて校務処理する学校が増えている。多くの教師がパソコンを日常的な校務処理や教材作成のツールとして用いるようになっている。そこで、本演習では Excel の関数処理を中心に学び、効率よくパソコンを扱えるようになることを目指す。 また、小学校教育でプログラミング学習が導入されることに対応し、その概要を知り、授業を構想することができることを目標とする。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学修目標は教育学部 DP (4) 問題発見・解決力につながるものである。 ・学習内容である ICT 機器の活用力は、問題解決のための必要な力の一つである。 ①点数計算や学級通信作成のための、Excel の簡単な関数処理や Word 文書の加工を行う事ができる。 ②プログラミング教育の目的・内容を理解し、説明できる。 ③プログラミング教育の授業案を作成できる。 ④学校・園で利用されている ICT 機器について説明できる。					
19.教科書・教材	講義用テキスト					
20.参考文献						
21.成績評価	①Excel や Word の演習ファイルの提出 (5 点×8=40 点) ②Excel の小テスト (30 点) ③プログラミング教育のワークシート (5 点) ④プログラミング教育の授業案・振り返りシート (20 点) ⑤学校・園で利用されている ICT 機器に関するレポート (5 点)					
22.コメント	校務処理の習熟は、教師として非常に大切な資質になります。定番ソフトである Word、Excel のスキルアップをワークシートと練習ファイルによる段階的な演習により行います。また、インターネットからの情報収集やプログラミング学習について学びます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業の目的、テキスト、演習ファイルの活用方法及び事前・事後学習課題について Webclass 活用法及び評価方法についての説明を行う。さらにペアと LC メンバーを決定する。 事前・事後学習課題の Webclass への提出により出席確認を行う。 Excel の基本 (表のレイアウト、印刷設定)、関数処理の基本の演習を行う。 (テキスト p1～3, 演習 1 の sheet) ○ テキスト課題 1～4 をもとに事前学習をする。 (60 分)			● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)		

第 2 回	2 ソート・条件文の作成 ソート（並び換え）機能，条件文（if 文）作成の演習をする。 （テキスト p3～4 及び Excel 演習 3～4 の sheet） ○ テキスト課題 5～8 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 3 回	3 countif 関数による計数 （1）counif 関数による評価判定 （テキスト p5～6 及び Excel 演習 5～6 の sheet） ○ テキスト課題 9～11 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 4 回	（2）評価判定の条件文の応用及び（3）さまざまな関数の設定 if 文による成績処理の分岐方法を示した Excel ファイルの演習を行う。 （テキスト p6～7 及び Excel 演習 5～6 の sheet） ○ テキスト課題 10～12 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 5 回	4 グラフ作成の基本 （1）表からグラフへ （2）グラフ作成の応用 （テキスト 7～8 及び Excel 演習 7～8） ○ テキスト課題 13～17 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 6 回	5 さまざまなグラフの作成と Word への貼り付け （テキスト 9～10 及び Excel 演習 8～8-1） ○ テキスト課題 18～21 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 7 回	6 文字列関数やオートフィルター機能 （1）オートフィルター機能 （2）いろいろな文字列変換関数 （テキスト 11～12 及び Excel 演習 9～10） ○ テキスト課題 22～26 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 8 回	7 配列数式の活用 （1）（2）配列数式を用いて関数処理したり，度数分布表の作成する。 （テキスト 13～14 及び Excel 演習 11～12） ○ テキスト課題 27～31 をもとに事前学習をする。 （60 分）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）
第 9 回	8 集計の裏ワザ（ピボットテーブルの活用）	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。（15 分）

	関数を用いず、ピボットテーブルの活用による集計をします。 また、クロス集計（分析）をピボットテーブルを用いて演習し、実用的なグラフ（度数分布表、クロスグラフ）を作成する。 （テキスト 15～16 及び Excel 演習 11～12）	出する。(15 分)
第 10 回	中間試験 ・エクセルの演習試験	中間試験の解答を Webclass に提出
第 11 回	ワードを用いた教材・資料作り	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 12 回	インターネットからの情報収集と資料作り	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 13 回	プログラミング学習についての情報収集と講義。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 14 回	プログラミング学習を題材とした授業づくり（学習指導略案）。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)
第 15 回	授業における発問の重要性と TP 案作り。	● 学習課題を Webclass への成果物として提出する。(15 分)

1.授業コード (ナンバリング)	PED102-A51	2.科目名	体育講義		3.単位数	2
4.授業担当教員	大平誠也					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こ			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	生涯にわたって健康な生活を送るための科学的な知識や方法、戦略についての理解を深める。 その上で、子どもたちを取り巻く環境、児童期における体育の重要性と安全確保について学び を深める。社会との有機的なかわりを見据えた講義で、深い学びの形成を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	DP との関連 ②教育・社会事象を概念から体系的な知識を使って理論的に説明 ③コミュニケーション力の獲得・実践 生涯スポーツの観点から、身体活動や運動の効果について理解することができる（知識） 学びを生かして、身体活動や運動の大切さを表現し、波及させる技能を習得することができる （技能） 自らの生活習慣を見直し、行動変容に取り組むことができる（態度）					
19.教科書・教材	必要に応じて資料を配布					
20.参考文献	アクティブ・チャイルド 60min.一子どもの身体活動ガイドライン 竹中晃二他					
21.成績評価	①授業の振り返りシート（20％） ②グループワークシート（3 回分 30％） ③ミニレポート（10％） ④総括試験（40％）					
22.コメント	将来、教員となるみなさんに必要な知識、調査力、表現力を総合的に学ぶ講義（一部演習も含 む）です。外部講師による専門的な知識も身につけます。 今年度は、授業の順序が入れ替わることがあります。					
23.オフィスアワー	火曜日 12 時 15 分から 13 時 15 分					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス 体育・スポーツに期待するものは？文化としてのスポ ーツ シラバス、進め方について			○ペア、グループ学習についてまとめてお く。 40 分 ○文化としてのスポーツについて調べてお く。 50 分		
第 2 回	感染症について考える ～Covid19 を例に～			○コロナ禍の生活についてまとめておく。 50 分 ○Covid19 についての知識をまとめておく。 (70 分)		
第 3 回	感染症について考える ～ワクチン接種について～			○ワクチン接種のメリット、デメリットにつ いてまとめておく。		

		50 分 ○ワクチン接種についての記事を収集しておく。 40 分
第 4 回	生活習慣病について考える	○若年性生活習慣病についてまとめておく。 40 分 ○他の生活習慣病について調べておく。 50 分
第 5 回	自分を知り、自分を改善する ～寝ない、食べない、運動しないとダイエット～	○代謝、ダイエットについてまとめておく。 50 分 ○理想の私を具体化（イラスト、数値）しておく。 40 分 (自分だけがわかればよい)
第 6 回	年齢と体力について ～発達と老化～	○人の発達と老化についてまとめる。 50 分 ○ロコモティブシンドロームについて調べておく。 40 分
第 7 回	QOL の向上に向けて ～ロコモティブシンドロームについて考える～ (尼崎市高齢介護課連携授業) 基本講義 (30 分) - 地域講義 (20～30 分・VTR 等) - グループワーク グループワーク①	○グループワークをブラッシュアップし、次回提出する。 1 時間 ○体力について調べておく。 30 分
第 8 回	認知症における運動の効果について考える ～運動は認知症予防に貢献できるか～	○認知症についてまとめておく。(50 分) ○認知症の方に出会ったらどう行動するかについてまとめる。(50 分)
第 9 回	生涯スポーツについて ～今、なぜ、生涯スポーツなのか～	○スポーツ政策についてまとめておく。 40 分 ○中、高校の部活動の功罪について自分のまとめておく。 50 分
第 10 回	部活動について ～学校運動部の光と影～	○学校運動部とスポーツクラブ (J リーグ下部組織など) を比較的に検討し、まとめておく。 50 分 ○子どもの体力について文部科学省の HP から経年変化を調べておく。 40 分
第 11 回	子どもの体力について ～子どもを取り巻くスポーツ環境から～	○運動の生活化についてまとめておく。 40 分 ○トレーニングについて調べておく。 50 分
第 12 回	トレーニングについて ～筋トレすれば、するほど…～	○さまざまなトレーニングについてまとめておく。 40 分

		○日常起こり得るけがについての対処法を調べる方法を考えておく 50 分 （次回は、ジグソー法で行うので調べ方を知っていることは必須です）
第 13 回	運動（体育）とリスク① ～こんな時、どうする。日常編～ 通常起こりうるけがについて理解を深め、その対処法をまとめる （ジグソー法） グループワーク②	○グループワークをブラッシュアップし、次回提出する。 1 時間 ○学校における運動領域における危機管理について調べておく。 30 分
第 14 回	運動（体育）とリスク② ～小学校における運動領域の危機管理～ 小学校における運動領域の危機管理について理解を深める 基本講義（30 分） - 外部講師の講義（20～30 分・VTR 等） - グループワーク グループワーク③	○グループワークをブラッシュアップし、次回提出する。 1 時間 ○ソーシャルキャピタルについて調べておく。 30 分
第 15 回	まとめ；生涯スポーツで地域の活性化 ～地域とともにスポーツを～ 総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	PED201-A51	2.科目名	初等国語科教育法		3.単位数	2
4.授業担当教員	中西一彦					
5.授業科目の区分	基幹 国語教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育学部			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）小学校一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	[目的] 授業を作るためのプロセスと意義を理解し、実践することをめざす。 [概要] ・講義とグループワークを中心とする授業を通して、国語科教育の実際を知り、現状における課題を浮き彫りにし、これからの国語科教育の歩むべき方向を知る。 ・授業を作ることに必要となる教師の国語力とはいかなるものかを明らかにする。					
18.学習目標とDPとの関連	本科目は DP の（4）問題発見・解決力と（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています。国語力を基礎として、教材研究から実際の授業を行える段階までの力量を身につけることができる。 具体的には、 ?学習指導要領と教科書との関連を把握することができる。 ?教材(学習材)研究を通じて、指導案を作成することができる。 ?指導案に基づく模擬授業を行い、批評会に参加することができる。 ?書写指導について実践を通して指導法を学ぶことができる。					
19.教科書・教材	授業時に適宜プリント等を配布する。					
20.参考文献	大村はま「教えるということ」「教室をいきいきと」（筑摩書房） 益地憲一「小学校国語科の指導」（建帛社） 小学校国語科学習指導要領					
21.成績評価	授業記録（毎回の 100 字コメント） 30% レポート 30%（10%×3） 毛筆漢字作品（第 8 回提出） 教材新聞（グループ作成） 第 12 回提出 学習指導案（個人作成） 第 13 回提出 総合レポート（第 14 回提出） 40%					
22.コメント	書写指導のために、以下の毛筆セットを各自で準備してください。 筆ペン、筆（大筆）、墨液、半紙（20 枚）、文鎮、墨池（硯でも可）、毛筆用下敷き					
23.オフィスアワー	後日確定後連絡					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【第 1 回】オリエンテーション 国語科授業において、大事にしたいことは何かについて意見交換する。 授業記録として、100 字コメント用紙に記入する。（以降毎回記入する）			○「じどうしゃくらべ」を原稿用紙に視写する。（240 分）		

第 2 回	【第 2 回】教材研究の方法を学ぶ。 視写を行った教材（学習材）を用いて、教材研究の実 際を知る。 学習指導要領における目標及び内容を理解する。（←目 標?）	○教材研究の方法を用いて実際に教材研究を 行う。（150 分） ○「じどうしゃくらべ」の指導案を検索す る。（90 分）
第 3 回	【題 3 回】国語科学習指導案研究(←目標?) 指導案の形式と作成の手順を学ぶ。 指導案に記載の各項目について知る。	○指導案を B4 用紙に視写する。（120 分） ◎板書計画、発問計画を作成する。（120 分）
第 4 回	【第 4 回】模擬授業 視写を行った教材を用いた模擬授業を受け、授業のみか たを実地体験する。 模擬授業についてグループで研究協議を行い、報告す る。	○模擬授業をふまえて、授業作りのプロセス をまとめる。（240 分）
第 5 回	【第 5 回】百人一首を楽しむ。 古典の授業の必要性を知る。	○百人一首のうちの 10～20 首を憶える。 （240 分）
第 6 回	【第 6 回】百人一首を用いた授業を考える。 古典の学習における指導上の留意点を理解する。	○ひらがな、カタカナのものの漢字を調べ る。（240 分）
第 7 回	【第 7 回】書写指導の方法を学ぶ。 筆ペンを用いて書写指導の基本を知る。 文字を丁寧に書くことの重要性と文字指導の必要性を 知る。	◆筆ペンを持参する。 ○毛筆漢字作品の課題を練習する。（240 分）
第 8 回	【第 8 回】書写指導一毛筆による漢字指導（←目標?） 実際に毛筆を用いて漢字作品を仕上げる。 書写指導の留意点を実感する。	◆毛筆セットを持参する。 ○書写指導の要点をまとめる。（240 分） ★毛筆漢字作品を提出する。
第 9 回	【第 9 回】教材新聞の実際と作り方を学ぶ。 国語科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材 研究に活用する。	◎物語文教材の教材新聞の構想を練る。（240 分）
第 10 回	【第 10 回】物語文の教材研究と指導案および教材新聞 作り 指導案を作成するための教材研究手順の確認と指導案 および教材新聞を始める。（←目標?）	◎物語文教材の指導案および教材新聞作りを 進める。（240 分）
第 11 回	【第 11 回】物語文教材研究と指導案および教材新聞作 りを進める。（←目標?）	◎物語文教材の教材新聞を仕上げる。（240 分）
第 12 回	【第 12 回】物語文の指導案を仕上げる。 発問計画、板書計画をグループで検討する。	★グループ教材新聞提出。 ○グループ指導案をもとに各自指導案を作成 する。（240 分）
第 13 回	【第 13 回】代表グループによる物語文の模擬授業を実 施する。 授業研究協議会を開く。（←目標?）	★個人国語科学習指導案提出。 ○総合レポート課題について準備する。（240 分）
第 14 回	【第 14 回】総合レポート「国語の授業を作るための必 須事項」を仕上げる。 国語科授業の全体構造を理解する。	○これまでの授業内容をふり返し、まとめ る。（240 分） ★総合レポートを授業内に記述し提出する。
第 15 回	【第 15 回】総合レポートをふまえて「国語科授業」に ついて意見交流を行う。 国語科の全体構造を把握する。	○「国語科授業」に関する気づきをまとめ る。（240 分）

1.授業コード (ナンバリング)	PED202-A51	2.科目名	初等音楽科教育法		3.単位数	2
4.授業担当教員	島川香織					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）	小学校一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【概要】学習指導要領に基づく音楽科基礎理論を根拠として小学校音楽科の学習指導案の作成を学ぶ。モデル授業のビデオや学習指導案例を解釈したうえで、テキスト事例を基本にグループで模擬授業を行う。模擬授業の実施結果をレポートし、音楽科の指導内容を改めて捉え直す。最終的に具体的授業像につながる学習指導案を作成する。					
18.学習目標と DPとの関連	DP【社会に能動的に貢献する姿勢(社会的貢献性)】に関連しています。 集団や社会のために他者とともに行動し貢献することができる。 【学修目標】 ・学習指導要領における音楽科目の目標と構造を理解する ・学年における指導上の留意点を理解したうえで、教材の活用・授業設計・学習評価の方法を理解する ・学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した学習指導案を作成する ・模擬授業とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付ける					
19.教科書・教材	新訂版 小学校音楽科の学習指導 ー生成の原理による授業デザインー 廣済堂あかつき					
20.参考文献	生成を原理とする 21 世紀音楽カリキュラム ー幼稚園から高等学校までー 東京書籍					
21.成績評価	最終指導案作成 2 6 % 授業を通した指導案作成① 4 %② 4 %③ 1 0 % ワークシート 1 6 % (2 % × 8 回) 模擬授業指導案 1 0 % 模擬授業実践結果レポート 1 0 % 小テスト 2 0 %(1 0 % × 2 回)					
22.コメント	採用試験に課されることの多いソプラノリコーダーを持参 講義を聴くだけではない参加型授業であることを認識し授業に臨むこと。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
2024/10/03	オリエンテーション 学習指導案と音楽科の授業像 教科教育における学習指導案の位置づけと授業の目標を理解する。 新旧音楽科の授業比較を通して、これからの音楽科の授業に対するイメージをつかむ。 ワークシート① 指揮法及びリコーダー演奏の基礎を習得する。			○ [学修課題 予・復習] 指揮法及びリコーダー演奏の基礎を理解する。2 h		
2024/10/10	音楽科の指導内容と教材研究 学習指導案作成において教材研究の方法を理解する。			○ [学修課題 予・復習] テキスト p. 8～10、p. 18、p. 160～161、p. 27～p 32を読む。 4 h		

	ワークシート② 歌唱共通教材(1・2年生)の指揮	歌唱共通教材(1・2年生)の指揮 1 h
2024/10/17	音楽科における知覚・感受と共通事項 学習指導要領における共通事項を認識し、音楽科における知覚・感受を理解する。 ワークシート③ 歌唱共通教材(3・4年生)の指揮	○ [学修課題 予・復習] テキスト p. 19～p. 32を読む。 5 h 歌唱共通教材(3・4年生)の指揮 1 h
2024/10/24	音楽科の指導内容の構成 学習指導案作成において指導内容の構成を理解する。 ワークシート④歌唱共通教材(5・6年生)の指揮	○ [学修課題 予・復習] テキスト p. 35～p. 44を読む。 3 h 歌唱共通教材(5・6年生)の指揮 1 h
2024/10/31	指導内容と年間指導計画および学習指導案 指導内容と年間指導計画および学習指導案との関連を理解する 音楽科の学力 学習指導案作成において、音楽科の学力構造に基づく評価の観点と評価方法を理解する。 子どもの安心につながる指導案をグループで考案する。指導案① ワークシート⑤ 歌唱共通教材(1・2年生)のリコーダー演奏	○ [学修課題 予・復習] テキスト p. 12～p. 15、p. 32～p. 34を読む。 3 h 歌唱共通教材(1・2年生)のリコーダー演奏 1 h
2024/11/07	音楽科の目標 学習指導案作成において音楽科の目標を学校教育における位置づけと関連させて理解する。 子どもの安心につながる指導案をグループで考案する。指導案② ワークシート⑥ 歌唱共通教材(3・4年生)のリコーダー演奏 音楽科の単元構成の原理 学習指導案作成において音楽科の単元構成の方法を理解する。	○ [学修課題 予・復習] 歌唱共通教材(3・4年生)のリコーダー演奏 1 h
2024/11/14	音楽科の指導方法 学習指導案作成において音楽科授業の指導法を理解する。 ワークシート⑦歌唱共通教材(5・6年生)のリコーダー演奏	○ [学修課題 予・復習] 次回学習指導案提出に向けた最終チェック 4 h 歌唱共通教材(5・6年生)のリコーダー演奏 1 h 次回指揮法及びリコーダー演奏テストの準備 4 h
2024/11/21	音楽科学習指導の構造 学習指導案作成事例の授業実践を通して、学習指導案の構成要素と学習過程を総合的に理解する。 授業を通して作成した指導案を提出する。指導案③ 指揮法小テスト リコーダー小テスト	◎ [学修課題 復習] 模擬授業実践結果レポートを提出する。2 h

2024/11/28	模擬授業の検討 グループごとに、実践する模擬授業(鑑賞・器楽・歌唱・音楽づくり)について検討する。	◎ [学修課題 予・復習] グループごとに、実践する模擬授業(鑑賞・器楽・歌唱・音楽づくり)について検討し、模擬授業指導案を作成。 5 h
2024/12/05	模擬授業①「鑑賞」 モデル授業案による模擬授業を通して、学習指導案の構成要素と学習過程を総合的に理解する。 音楽学習の領域・分野ごとの授業づくりの特徴を理解する。 模擬授業実践結果レポートを提出する。	◎ [学修課題 復習] 模擬授業実践結果レポートを提出する。 2 h
2024/12/12	模擬授業②「音楽づくり」 モデル授業案による模擬授業を通して、学習指導案の構成要素と学習過程を総合的に理解する。 音楽学習の領域・分野ごとの授業づくりの特徴を理解する。 模擬授業実践結果レポートを提出する。	◎ [学修課題 復習] 模擬授業実践結果レポートを提出する。 2 h
2024/12/19	模擬授業③「器楽」 モデル授業案による模擬授業を通して、学習指導案の構成要素と学習過程を総合的に理解する。 音楽学習の領域・分野ごとの授業づくりの特徴を理解する。 模擬授業実践結果レポートを提出する。	◎ [学修課題 復習] 模擬授業実践結果レポートを提出する。 2 h
2024/01/09	模擬授業④「歌唱」 モデル授業案による模擬授業を通して、学習指導案の構成要素と学習過程を総合的に理解する。 音楽学習の領域・分野ごとの授業づくりの特徴を理解する。 模擬授業実践結果レポートを提出する。	◎ [学修課題 復習] 模擬授業実践結果レポートを提出する。 2 h テキスト p. 45～p. 52を読む 3 h
2024/01/16	音楽科の学習評価 音楽科の評価の観点と評価方法、評定への導き方を理解する。 ワークシート⑧	○ [学修課題 予・復習] 次回最終指導案作成に向け検討する。 5 h
2024/01/23	学習指導案の作成 指定された条件による学習指導案を作成し提出する。	

1.授業コード (ナンバリング)	PED203-A51	2.科目名	初等図画工作科教育法		3.単位数	2
4.授業担当教員	大西洋史					
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習(講義・実技を含む。うち 5 回分はオン デマンドで実施)			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目では、図画工作科の「目標」「指導内容」「指導方法」「評価」を子どもの成長と表現・製作の発達といった観点や美術教育の歴史的変遷などから捉え直し、この教科の意味や価値についての認識を深めます。 その上で、題材や授業を具体的に構想する力や子どもの自発的・主体的な学習を保障しながら授業を展開する力など、図画工作科に関する理論的・実践的力量の形成をはかります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の (1) 自律的で主体的な態度 (6) 専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①図画工作科の教育目標や指導理念、教材開発の視点、学習内容について説明できるようにします。 ②子どもの視点に立った教科内容の理解を深め、表現・鑑賞教材の具体的な授業場面を想定した授業設計を行うとともに効果的な指導方法の習得を目指します。 ③児童の造形発達の特徴について理解を深め、児童の造形活動や作品に対して受容、共感、反応する力を養います。					
19.教科書・教材	①大橋功『美術教育概論（新訂版）』2018. ISBN978-4536601030、もしくは、大橋功『美術教育概論（改訂版）』2009. ISBN978-4-536-60021-7 1 年次に購入したもので良い。 ②文部科学省『小学校学習指導要領解説図画工作編』日本文教出版 最新版 ③『小学校図画工作科教科書 1・2 上, 1・2 下, 3・4 上, 3・4 下, 5・6 上, 5・6 下』日本文教出版 ①は「造形Ⅰ」（1 年春学期）、「保育内容・表現Ⅰ」（2 年春学期）、「図画工作科Ⅰ」（2 年春学期）、「図画工作科Ⅱ」（					
20.参考文献	辻泰秀『造形教育の教材と授業づくり』日本文教出版, 2012. ISBN978-4-536-60056-9					
21.成績評価	① 受講ノート=10%（毎回の授業について感想や質問などを 200 字程度でまとめる） ② グループワーク（4 回分）=20%（翌週の授業時に提出） ③ 個人ワーク（10 回）=30%（翌週の授業開始までに webclass に提出） ④ 作成した学習指導案の内容=20% ⑤ レポート課題=20% ①は、学習目標①の達成、②は、学習目標②の達成、③は、学習目標の②③の達成、④は、学習目標②の達成、⑤は、学習目標①②③の達成状況を評価します。					
22.コメント	○本講義では、実際の小学校での具体的な実践にも触れながら演習型の授業を行います。 ○受講生を 3～4 人を基準とするグループに分け、協調自立学習として展開します。したがって、欠席や遅刻は自らの学習効果を損なうだけでなく、グループのメンバーへの迷惑になるということを十分自覚して責任ある態度で学習に参加しましょう。 ○作品を制作しながら学習することが多いので、汚れてもよい服装で参加しましょう。「自分・					

	友達・教室を汚さない」が基本です。 ※オンデマンド回分の学習確認は、webclass で記入する「授業内課題」の実施	
23.オフィスアワー	木曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 SAO	ガイダンス 活動グループのグルーピング 図画工作科の意義と課題について 教科書 pp.94～99	○復習及び授業ノートの整理 (120 分) ★資料のダウンロード・プリントアウト (60 分)
第 2 回 オンデマンド 授業	子どもの造形活動を捉える視点 自分たちが学んできた図画工作科の授業の交流と、学習指導要領における図画工作科の内容について 教科書 pp.100～107 個人ワーク：課題「思い出してみよう」	○復習及び授業ノートの整理 (60 分) ★個人ワーク：課題「思い出してみよう」(60 分)
第 3 回 オンデマンド 授業	教材づくりの基礎 図画工作科で用いられる材料・用具・用法について 教科書 pp.150～160 個人ワーク：課題「ひとつの用具を採り上げ、指導時の安全指導についてポイントを整理しよう」	◆ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理 (60 分) ★個人ワーク：「ひとつの用具を採り上げ、指導時の安全指導についてポイントを整理しよう」(60 分)
第 4 回 オンデマンド 授業	学習指導要領と美術教育の変遷・今日的課題について 教科書 pp.32～37 個人ワーク：課題「他の教科・領域と関連させた図画工作科の題材を見つけよう」	◆ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理 (60 分) ★◎個人ワーク：課題「他教科と関連させて行う図画工作科の題材について、学習指導案を Web で探して内容について考えよう。」(60 分)
第 5 回 SAO	表現活動の授業づくり①（造形遊び） 「造形遊び」のねらいと特徴について 教科書 pp.122～127 個人ワーク：課題「造形あそびの作品をつくろう」	◆ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理 (60 分) ★個人ワーク：課題「自然物を使った造形あそびの作品をつくろう」(60 分)
第 6 回 SAO	表現活動の授業づくり②（絵にあらわす） 「絵にあらわす」のねらいと特徴について 教科書 pp.128～131 個人ワーク：課題「絵に表す題材を見つけよう」 描画ソフトによる製作	◆ノートパソコン◆ 復習及び授業ノートの整理 (60 分) ★個人ワーク：課題「コラージュ技法を使った作品をつくろう」(60 分)
第 7 回 SAO	表現活動の授業づくり③（立体にあらわす） 「立体にあらわす」のねらいと特徴 教科書 pp.128～131 個人ワーク：課題「針金を使った造形物をつくろう」	◆ノートパソコン◆ 復習及び授業ノートの整理 (60 分) ★個人ワーク：課題「針金を使った造形物をつくろう」(60 分)
第 8 回 SAO	表現活動の授業づくり④（工作にあらわす） 「工作にあらわす」のねらいと特徴 教科書 pp. 132～137 個人ワーク：課題「身近な材料で動くおもちゃをつくろう」	◆ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理 (60 分) ★個人ワーク：課題「身近な材料で動くおもちゃをつくろう」(120 分)
第 9 回 SAO	表現活動の授業づくり⑤（絵や立体，工作にあらわす）	◆スマートフォン・タブレットのいずれか、ノートパソコン◆

	「絵や立体，工作にあらわす」のねらいと特徴 グループワーク 1：課題「グループでストーリーを考え，オリジナルキャラクターをつくったり動かしたりしてアニメーションをつくろう」 動画編集アプリ「ストップモーション」を使った製作	○復習及び授業ノートの整理（60 分） ★◎グループワークⅡ：課題「グループでストーリーを考え，オリジナルキャラクターをつくったり動かしたりしてアニメーションをつくろう。」（240 分）
第 10 回 SAO	表現活動の授業づくり⑥（鑑賞） 鑑賞のねらいと特徴 教科書 pp.144～149 個人ワーク：課題「鑑賞ワークシートをつくろう」 ワープロソフト「WORD」による製作	◆ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理（60 分） ★個人ワーク：課題「鑑賞学習で使えるワークシートをつくろう」（60 分）
第 11 回 オンデマンド 授業	評価の方法 学習評価の目的と評価の観点について 教科書 pp.118～120 個人ワーク：課題「題材の評価基準を作成しよう」	◆ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理（60 分） ★個人ワーク：課題「題材の評価基準を作成しよう」（60 分）
第 12 回 オンデマンド 授業	カリキュラム編成と授業の構想 指導案の書き方と留意点について 授業計画と授業構想について 教科書 pp.108～117 個人ワーク：課題「インターネットなどで学習指導案を検索し，指導案を作成しよう」 Web での検索、ブラウザの使用	◆ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理（60 分） ★個人ワーク：課題「図画工作科の学習指導案を書いてみましょう。」（120 分） <webclass に提出>
第 13 回 SAO	授業をつくる① 図画工作科の授業づくりについて 作成してきた学習指導案を基に、模擬授業を計画しよう グループワーク 2「グループで 1 つ題材を選んで、題材紹介のプレゼンテーションをつくろう」 Web での検索、ブラウザの使用	◆ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理（60 分） ★グループワーク：課題「模擬授業を計画しよう（プレゼンをつくろう）」（120 分） <webclass に提出>
第 14 回 SAO	授業をつくる② 図画工作科の授業づくりについて グループワーク 3：課題「グループで 1 つ題材を選んで，学習指導案を作成し模擬授業をしよう」1 プレゼンテーションソフトの使用	◆ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理（60 分） ★◎グループワークⅢ：課題「グループで 1 つ題材を選んで，学習指導案を作成し模擬授業をしよう」（240 分） ○レポート作成（課題は講義時に説明します）
第 15 回 SAO	授業をつくる③ 図画工作科の授業づくりについて グループワーク 3：課題「グループで 1 つ題材を選んで，学習指導案を作成し模擬授業をしよう」2 総括 プレゼンテーションソフトの使用	◆ノートパソコン◆ ○復習及び授業ノートの整理（60 分） ★個人ワーク：課題「学習指導案を作成しよう」 ○レポート作成 <webclass に提出>

1.授業コード (ナンバリング)	PED205-A51	2.科目名	初等体育科教育法		3.単位数	2
4.授業担当教員	大平誠也					
5.授業科目の区分	基幹科目 保健体育科教育分野に おける実務経験のある 教員の授業科目	6.必修・ 選択の区分	小学校必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉子ども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）	小学校一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習（3回はオンデマンド授業）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	小学校における体育科の各運動領域の特性やねらいを理解し、学年や発達に応じた指導計画を作成する力を育成し、学習指導案作成を通して教材研究し、授業を創造的に展開していける力を養成する。 その際、運動が持つ特性を理解し、児童が運動それぞれが持つ固有の楽しさに触れることができるような学習活動を展開する。					
18.学習目標と DPとの関連	【DP との関連】②教育・社会事象を概念から体系的な知識を使って理論的に説明 ③コミュニケーション力の獲得・実践 本講義のテーマは、体育授業づくりの視点とその活用である。体育における教師の児童と関わる素地を育成することが目的である。以下の3点を学習の目標とする。 ① 自らの体育学習観を振り返り、運動の楽しさを核とした授業づくりの基盤を確立することができる。 ② 授業実践上の教師の構えを身につけ、教材研究を反映した授業づくりができる。 ③ 体育授業づくりの視点を明確にし、単元計画を立案し、指導案の作成ができる。					
19.教科書・教材	学習指導要領解説（体育編）文部科学省 東洋館出版（各学校で体育科の教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準が書かれています。） 初等体育授業づくり入門 岩田靖他編著 大修館書店（授業で扱う指導案の書き方についてまとめられた書籍です。）					
20.参考文献	体育科教育学入門 高橋建夫他 大修館書店（授業内で扱う内容についてまとめられた書籍です。） 保健科教育法入門 日本保健科教育学会編 大修館書店（授業内で扱う体育科保健領域についてまとめられた書籍です。）					
21.成績評価	以下の課題を提出要件を満たし、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とする。配点は以下のとおりである。 ①小課題 20 点【学習目標①に対応】（第2回、第3回） ②学習指導案 20 点【学習目標③に対応】（第11回、第12回） ③交流ワーク（演習）20 点【学習目標②に対応】（授業後のふりかえりである大福帳） ④総括テスト 40 点					
22.コメント	体育授業と学級経営には関連があると言われています（日野ら、2000）。体育の授業実践力を身につけ、優れた教員への第一歩としましょう。					
23.オフィスアワー	毎週火曜日の3週目は、研究室で質問等を受け付けています。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション 講義；「小学校で体育授業を行う教師に必要な資質と能力」 ・授業の進め方について			○体育科と他の教科の違いについてまとめておく。 1 時間 ○体育授業を行う教師にとって必要な資質と		

	・体育科の目標について オンデマンドにて実施。Webclass に課題を提出することによって出席となります。	能力についてまとめる。 40 分 ○自らが受けてきた小学校体育の授業についてまとめる。 50 分
第 2 回	講義；体育科教育のこれまでとこれから ～r 歴史的変遷～ オンデマンドにて実施。Webclass に課題を提出することによって出席となります。	○遊びについてまとめる。50 分 ○体育が果たしてきた役割について調べておく。 50 分
第 3 回	講義；学習指導要領のこれまでとこれから ～より良い学習指導案に向けて～ オンデマンドにて実施。Webclass に課題を提出することによって出席となります。	○体育の役割を社会的背景を踏まえてまとめる。 50 分 ○学習指導要領の変遷について調べておく。 50 分
第 4 回	講義；体育のカリキュラム論 「体育授業で何を教えるのか」	○社会的背景を踏まえて、学習指導要領の果たした役割をまとめる。 50 分 ○自分が体験したよい体育授業についてまとめる。 40 分
第 5 回	講義；小学校で体育授業を行う教師として知っておきたいこと ～よい体育授業に存在するもの～	○よい体育授業に存在するものについてまとめる。 50 分 ○体育科の領域・内容について調べておく。 40 分
第 6 回	講義；学習指導案の作成 ～単元計画と学習指導案の作成～	○単元計画及び学習指導案作成のポイントをまとめる。50 分 ○体育指導場面で頻繁に表れる場面についてまとめる。40 分
第 7 回 演習（体育館）	講義と活動；こんな時、どうする？ ～場面指導とマイクロティーチング～	○場面ごとにマイクロティーチングの方法を整理しておく。 50 分 ○体づくり運動と他の領域の違いについて調べておく。 40 分
第 8 回	講義と活動；指導案作成と模擬授業① ～体づくり運動系～	○必要の充足の視点から、体づくり運動をまとめる。50 分 ○陸上運動の特性について調べておく。 40 分
第 9 回	講義と活動；指導案作成と模擬授業② ～陸上運動系～	○走運動を中心に陸上運動について整理しておく。 50 分 ○保健領域について調べておく。 40 分
第 10 回	講義と活動；指導案作成と模擬授業③ ～保健領域～	○薬物乱用の事例から、保健の授業についてまとめる。

		50 分 ○器械運動（特に跳び箱）について調べておく。 50 分
第 11 回 演習（体育館）	講義と活動；指導案作成と模擬授業④ ～器械運動系～	○技の系統性と課題の視点を柱に器械運動についてまとめておく。 50 分 ○ボール運動（ゴール型）について調べておく。
第 12 回	講義と活動；指導案作成と模擬授業⑤ ～ボール運動系～	○ゲームの様相の観点（攻防分離から攻防争乱）から、ゴール型ゲームをまとめておく。 50 分 ○ネット型ゲームについて調べておく。 40 分
第 13 回	講義と活動；指導案作成と模擬授業⑥ ～水泳運動系～	○安心安全の観点から水泳運動についてまとめておく。 50 分 ○水泳授業の評価について調べておく。 50 分
第 14 回	講義と活動；授業全体のふりかえり ～事例問題を通した総合的なふりかえり～ 講義全体で学んだ知識の整理（習得）及び事例問題を通した総合的なふりかえり（活用）。	○グループによるまとめを完成させる（時間内にできないときは、次回までに提出）。 ○他の教科と比較し、体育の独自性についてまとめておく。
第 15 回	講義；総括 体育科の独自性とは 総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	PED205-A52	2.科目名	初等体育科教育法		3.単位数	2
4.授業担当教員	大平誠也					
5.授業科目の区分	基幹科目 保健体育科教育分野に おける実務経験のある 教員の授業科目	6.必修・ 選択の区分	小学校必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉子ども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信）	小学校一種	11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習（3回はオンデマンド授業）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	小学校における体育科の各運動領域の特性やねらいを理解し、学年や発達に応じた指導計画を作成する力を育成し、学習指導案作成を通して教材研究し、授業を創造的に展開していける力を養成する。 その際、運動が持つ特性を理解し、児童が運動それぞれが持つ固有の楽しさに触れることができるような学習活動を展開する。					
18.学習目標と DPとの関連	【DP との関連】②教育・社会事象を概念から体系的な知識を使って理論的に説明 ③コミュニケーション力の獲得・実践 本講義のテーマは、体育授業づくりの視点とその活用である。体育における教師の児童と関わる素地を育成することが目的である。以下の3点を学習の目標とする。 ① 自らの体育学習観を振り返り、運動の楽しさを核とした授業づくりの基盤を確立することができる。 ② 授業実践上の教師の構えを身につけ、教材研究を反映した授業づくりができる。 ③ 体育授業づくりの視点を明確にし、単元計画を立案し、指導案の作成ができる。					
19.教科書・教材	学習指導要領解説（体育編）文部科学省 東洋館出版（各学校で体育科の教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準が書かれています。） 初等体育授業づくり入門 岩田靖他編著 大修館書店（授業で扱う指導案の書き方についてまとめられた書籍です。）					
20.参考文献	体育科教育学入門 高橋建夫他 大修館書店（授業内で扱う内容についてまとめられた書籍です。） 保健科教育法入門 日本保健科教育学会編 大修館書店（授業内で扱う体育科保健領域についてまとめられた書籍です。）					
21.成績評価	以下の課題を提出要件を満たし、期日中に定められた方法で提出することを合格基準とする。 配点は以下のとおりである。 ①小課題 20 点【学習目標①に対応】（第2回、第3回） ②学習指導案 20 点【学習目標③に対応】（第11回、第12回） ③交流ワーク（演習）20 点【学習目標②に対応】（授業後のふりかえりである大福帳） ④総括テスト 40 点					
22.コメント	体育授業と学級経営には関連があると言われています（日野ら、2000）。体育の授業実践力を身につけ、優れた教員への第一歩としましょう。					
23.オフィスアワー	毎週火曜日の3週目は、研究室で質問等を受け付けています。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション 講義；「小学校で体育授業を行う教師に必要な資質と能力」 ・授業の進め方について			○体育科と他の教科の違いについてまとめておく。 1 時間 ○体育授業を行う教師にとって必要な資質と		

	・体育科の目標について オンデマンドにて実施。Webclass に課題を提出することによって出席となります。	能力についてまとめる。 40 分 ○自らが受けてきた小学校体育の授業についてまとめる。 50 分
第 2 回	講義；体育科教育のこれまでとこれから ～r 歴史的変遷～ オンデマンドにて実施。Webclass に課題を提出することによって出席となります。	○遊びについてまとめる。50 分 ○体育が果たしてきた役割について調べておく。 50 分
第 3 回	講義；学習指導要領のこれまでとこれから ～より良い学習指導案に向けて～ オンデマンドにて実施。Webclass に課題を提出することによって出席となります。	○体育の役割を社会的背景を踏まえてまとめる。 50 分 ○学習指導要領の変遷について調べておく。 50 分
第 4 回	講義；体育のカリキュラム論 「体育授業で何を教えるのか」	○社会的背景を踏まえて、学習指導要領の果たした役割をまとめる。 50 分 ○自分が体験したよい体育授業についてまとめる。 40 分
第 5 回	講義；小学校で体育授業を行う教師として知っておきたいこと ～よい体育授業に存在するもの～	○よい体育授業に存在するものについてまとめる。 50 分 ○体育科の領域・内容について調べておく。 40 分
第 6 回	講義；学習指導案の作成 ～単元計画と学習指導案の作成～	○単元計画及び学習指導案作成のポイントをまとめる。50 分 ○体育指導場面で頻繁に表れる場面についてまとめる。40 分
第 7 回 演習（体育館）	講義と活動；こんな時、どうする？ ～場面指導とマイクロティーチング～	○場面ごとにマイクロティーチングの方法を整理しておく。 50 分 ○体づくり運動と他の領域の違いについて調べておく。 40 分
第 8 回	講義と活動；指導案作成と模擬授業① ～体づくり運動系～	○必要の充足の視点から、体づくり運動をまとめる。50 分 ○陸上運動の特性について調べておく。 40 分
第 9 回	講義と活動；指導案作成と模擬授業② ～陸上運動系～	○走運動を中心に陸上運動について整理しておく。 50 分 ○保健領域について調べておく。 40 分
第 10 回	講義と活動；指導案作成と模擬授業③ ～保健領域～	○薬物乱用の事例から、保健の授業についてまとめる。

		50 分 ○器械運動（特に跳び箱）について調べておく。 50 分
第 11 回 演習（体育館）	講義と活動；指導案作成と模擬授業④ ～器械運動系～	○技の系統性と課題の視点を柱に器械運動についてまとめておく。 50 分 ○ボール運動（ゴール型）について調べておく。
第 12 回	講義と活動；指導案作成と模擬授業⑤ ～ボール運動系～	○ゲームの様相の観点（攻防分離から攻防争乱）から、ゴール型ゲームをまとめておく。 50 分 ○ネット型ゲームについて調べておく。 40 分
第 13 回	講義と活動；指導案作成と模擬授業⑥ ～水泳運動系～	○安心安全の観点から水泳運動についてまとめておく。 50 分 ○水泳授業の評価について調べておく。 50 分
第 14 回	講義と活動；授業全体のふりかえり ～事例問題を通した総合的なふりかえり～ 講義全体で学んだ知識の整理（習得）及び事例問題を通した総合的なふりかえり（活用）。	○グループによるまとめを完成させる（時間内にできないときは、次回までに提出）。 ○他の教科と比較し、体育の独自性についてまとめておく。
第 15 回	講義；総括 体育科の独自性とは 総括試験	

1.授業コード (ナンバリング)	PED206-A51	2.科目名	初等学校経営論 (2021 年度生以前)		3.単位数	2
4.授業担当教員	百瀬和夫					
5.授業科目の区分	展開科目 教育の基礎的理解に関する科目 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	6.必修・ 選択の区分	選択 教職選択必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習 (一部) 単独		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】「社会的な教育機関である学校の特性・構造等を理解し、学校経営の基礎・基本について学ぶ。」 【概要】 ○社会の中での学校の役割が理解できる。 ○ギガスクール構想の意義とこれからの学校・学級の姿について理解できる。 ○学校組織の構造と特性が理解できる。 ○教職員の職務の特性が理解できる。 ○学校経営・学級経営の本質が理解できる。 ○教師力について理解し、実践力の基礎を身につけることができる。					
18.学習目標と D P との関連	【D P に基づく本授業の学修目標】 (1)自律性：社会的な教育機関である学校の特性・構造等について、自らの経験を振り返りと対照しながら理解できるようになること。 (4)問題発見・解決力：知りえた内容に刺激を受けて、新たな疑問や関心を持つことができる。 (6)専門的知識・技能の活用力：必要かつ信頼できる情報を取捨選択して集め、問題解決のために要点を整理・保存することができる。 【詳細】 (1-1) 社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。 (1-2) 学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。 (4-1) 現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。 (4-2) 学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。 (6) 学校の管理下で起こる多様な事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解し活用できるようにする。					
19.教科書・教材	○笑育ドリル～「育てる」をもっと楽しく・おもしろく～ ※「生徒指導・進路指導論」でも使用します。					
20.参考文献	○笑育のすすめ～「笑顔」の力で教育が変わる～ エイチエス出版					
21.成績評価	○グループワークを含む学修記録としての、					

	ワークシートの作成（ほぼ毎時）と提出	…	60%
	○小レポート（学級通信づくり）	…	20%
	○学期末まとめのテスト	…	20%
22.コメント	○教科書「笑育ドリル」を演習などに使用します。必ず購入してください。＊同じ教科書を「生徒指導・進路指導論」でも使用します。2冊購入する必要はありません。 ○小学校生活は誰もが経験しています。いろいろな思い出があると思いますが、皆さんが受けてきた教育には、どのような意味やねらいがあったのでしょうか。一緒に学んでいきましょう。アクティブラーニングを基本とした講義と言うものは、集団思考に価値があります。即ち、出席してナンボです。第1回目から15回目までしっかりと出席できる人を待っています。		
23.オフィスアワー			
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)	
【第1回】	オリエンテーション ・ 受講のルールの確認 ・ シラバスの詳細等々	○小学校での「全校朝会」について想起して、その意義や意味について考察してくる（90分）	
【第2回】	◇社会状況の変化と学校教育の課題1） ・ 学校の歴史 ・ 学校をめぐる近年の課題について ・ 「全校朝会」の意義と意味について ・ グループ討議 ・ 「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「朝の会」について想起して、その意義や意味について考察してくる（180分）	
【第3回】	◇社会状況の変化と学校教育の課題2） ・ 子どもを巡る社会の変化と課題 ・ 学校制度と小学校の役割 ・ 社会構造の変化と学校 ・ 「朝の会」の意義と意味について ・ グループ討議 ・ 「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「終わりの会」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120分）	
【第4回】	◇社会状況の変化と学校教育の課題3） ・ PISA 型調査から見た日本の教育課題 ・ 学びの個別化・最適化について ・ 「終わりの会」の意義と意味について ・ グループ討議 ・ 「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「給食」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120分）	
【第5回】	◇学校教育制度について考える1） ・ 公教育の原理と理念（教育基本法から） ・ 「給食」の意義と意味について ・ グループ討議 ・ 「ワークシートの作成」	○クラスで実施していた「掃除のルール」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120分）	
【第6回】	◇学校教育制度について考える2） ・ 教育制度を支える教育行政の仕組みと理念 ・ 「掃除のルール」の意義と意味について	○各クラスで実施していた「当番活動」について想起して、その意義や意味について考察してくる（120分）	

	・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	
【第 7 回】	◇学校教育制度について考える 3) ・教育制度をめぐる諸課題 ・「当番活動」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「係活動」について想起して、その意義や意味について考察してくる (120 分)
【第 8 回】	◇学校や教育行政機関の目的と学校経営 1) ・公教育の目的と学校経営 ・「係活動」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○ 各クラスで実施していた「シールの活用」について想起して、その意義や意味について考察してくる (120 分)
【第 9 回】	◇学校や教育行政機関の目的と学校経営 2) ・学校の年間計画と学校評価 ・「当番活動」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各自が小学校で経験した「宿題」について想起して、その意義や意味について考察してくる (90 分)
【第 10 回】	◇学校や教育行政機関の目的と学校経営 3) ・学校経営の仕組み (校務分掌等) とその方法 ・「宿題」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各自が小学校で経験した「シャープペンシルのルール」について想起して、その意義や意味について考察してくる (90 分)
【第 11 回】	◇学校や教育行政機関の目的と学校経営 4) ・教職員の連携 ・「シャープペンシルのルール」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「席替え」について想起して、その意義や意味について考察してくる (90 分)
【第 12 回】	◇学校と地域の連携 1) ・地域との連携と協働のあり方 ・「席替えのルール」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「指名の仕方」について想起して、その意義や意味について考察してくる (90 分)
【第 13 回】	◇学校と地域の連携 2) ・地域との連携と開かれた学校づくり ・「音読」の意義と意味について ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○各クラスで実施していた「音読指導」について想起して、その意義や意味について考察してくる (120 分)
【第 14 回】	◇学校安全への対応 1) ・「学校危機管理」のあり方について ・グループ討議	○ レポート課題については、自宅ですらにまとめる。(240 分)

	・「ワークシートの作成」	
【第 15 回】	◇学校安全への対応 2) ・安全管理と安全教育の課題 ・学修のまとめ小学校のこれから…教師のこれから… ・グループ討議 ・「ワークシートの作成」	○全時のふり返りとまとめ（120 分）

1.授業コード (ナンバリング)	PED207-A51	2.科目名	初等教育方法論（2021 年度生以前）		3.単位数	2
4.授業担当教員	中嶋康二					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科子ども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本科目では、これからの社会を担う?供たちに求められる資質・能?を育成するために必要な、教育の効果・効率を高めるためのさまざまな手法や授業設計の考え方のほか、コンピュータやインターネットなどの ICT を教育において効果的に活用する方法を学びます。将来の授業運営に生きる知識とスキルを身につけます。 <わたしが「教えたか?」よりも、子どもたちが「学んだか?」>という観点に重点を置いた、教育の方法や技術について学びましょう。 授業においては、授業設計の活動などでは、進捗管理や相互レビューなどでグループやペア学習を行います。また、各回の作業では、WebClass をはじめとした ICT ツールを活用することで利用効果を実際に経験します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標（=?につくスキル）は次の通りです。 ① 子どもが身につけるべき資質・能力とは何かを説明できる。 ② 教育?法の基本原理に基づいた授業設計手法を適用した授業設計を作成できる。 ③ 学びを支援する指導技術に基づいた学習指導案を授業設計に盛り込むことができる。 ④ 授業設計や指導方略において、必要に応じて適切な ICT 活用を盛り込むことができる。 [関連するディプロマポリシー] （1）自律性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	『教育の?法と技術 Ver.2～ID と ICT でつくる主体的・対話的で深い学び』稲垣 忠 著，北?路書房，2022 年					
20.参考文献	『ICT 活用の理論と実践－DX 時代の教師をめざして』稲垣忠・佐藤和紀編著，北大路書房，2021 年 『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』堀田龍也・佐藤和紀，三省堂，2019 年 その他、授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 （1）オンライン小テスト（学習目標 1・2・3・4 に対応）20% →各小テストは、満点で合格です。（何度でも受験可） →実施時期は、授業の中で指示します。 （2）中課題：学習課題分析図（学習目標 2 に対応）25% （3）小課題（1）：単元の授業計画案（学習目標 3 に対応）10% （4）小課題（2）：ICT 活用計画案（学習目標 4 に対応）10% （5）最終課題：学習指導案のための授業デザイン検討シート					
22.コメント	・ 各回の授業で提示される予習・復習は、下表の「26. アサインメント（宿題）など」の欄に記載しています。（個人差はありますが）それぞれ 120 分程度の作業となることを想定していま					

	す。	
23.オフィスアワー	質問等があれば随時問い合わせてください。 木曜日の授業後の時間で調整し対応します。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
ブロック 1 第 1 回	・本科目の授業デザインについて解説 ・これから子どもたちに育みたい資質・能力（情報活用能力を含む）について（第 1 章）	[予習] シラバスと教科書第 1 章を読む [復習] 子どもたちに育みたい資質・能力について、自分の意見をまとめる
第 2 回	・教師に求められる授業力とは（第 2 章） ・授業の魅力を高める ICT の活用（第 12 章） →教育における先端技術の活用について ・主体的学びの促進 ・個別最適学習や共同学習を実現するための ICT 活用の意義 ・学習ログの活用や情報セキュリティの重要性	[予習] 第 2・12 章を精読／理想の教師像について自分の意見をまとめる [復習] 教師を目指す上で重要と考える点をまとめる
第 3 回	授業デザインの基本形について学ぶ（第 3・4 章） ・メーガー 3 つの質問 ・ガニェ 9 教授事象 など	[予習] 第 3・4 章を精読 [復習] 授業企画案を作成する
第 4 回	・授業企画を書き出してみる ←受講者間で相互レビュー ・学習目標の分類（第 4 章）	[予習] 自分の体験で印象に残っている「よい授業」を書き出す [復習] 授業企画案を完成して提出
第 5 回	・学習目標の構造化と系列化 ・学習課題分析図の作成方法（第 9 章）	[予習] 第 9 章を精読／学習目標の分類についての知識をまとめてみる [復習] 自分の授業企画案の学習目標について分類を確認し、必要に応じて修正する
第 6 回	学習課題分析図を作成する（第 9 章） ←受講者間で相互レビュー	[予習] 課題分析図の種類・構成についてまとめる [復習] 自分の授業企画案に基づいた課題分析図を描いてみる ◆中課題：課題分析図を WebClass から提出
第 7 回	評価方法：学習目標と適切に対応させる（第 11 章）	[予習] 第 11 章を精読する／授業企画案の学習目標に対応する評価方法を検討する [復習] 授業企画案の学習目標に対応する評価方法を修正する。
ブロック 2 第 8 回	・学習環境について ・デジタルコンテンツの役割について ・教室内外の対話・協働を支える ICT の活用について（特別な支援を必要とする学習者への対応を含む） ・学習指導法（発問などについて） など	[予習] 第 5・6 章を精読する [復習] 授業企画書の指導案を検討する

第 9 回	・主体的な学習活動について（ケラーARCS モデル）（第 10 章） ・ICT による学びの保障（学習率：キャロル 時間モデル）（第 7 章） ・オンライン授業の意義と活用方法について	[予習] 第 7・10 章を精読する [復習] 授業企画案の指導方法をブラッシュアップする ◆小課題（1）：単元授業計画案「単元・各回の授業検討ワークシート」を WebClass から提出
第 10 回	・ICT の使い方を教える ・情報モラル・セキュリティ教育の重要性について（第 13 章） ・これからの学校・教師の役割について（第 14 章） ・大学との連携等による外部の教育リソースの活用について	[予習] 第 13・14 章を精読する [復習] ICT を活用した授業案を検討する ◆小課題（2）：ICT 活用計画案を WebClass から提出
第 11 回	・ICT を使った授業を考えてみる ・学校の ICT 環境の整備について ・ICT 環境や効果的な ICT 活用の事例を参照 ・ICT を活用した指導方法の修練	[予習] ICT を活用した授業について事例を調べる [復習] 授業企画案の ICT 活用案をブラッシュアップする
ブロック 3 第 12 回	・探究する学習のための授業設計について ・学習指導案のための授業デザインワークシートの作成方法（第 8 章） ・各回の授業内容検討シートの作成（ICT 活用の適用検討を含む）	[予習] 第 8 章を精読する／学習指導案を作成開始する [復習] 学習指導案のための授業デザインワークシートを作成する
第 13 回	・情報活用能力のカリキュラムマネジメント ・校務における ICT 活用について ・学習課題分析図の最終版を完成 ←受講者間で相互レビュー	[予習] 中課題で提出した課題分析図を見直す [復習] 課題分析図をブラッシュアップする
第 14 回	・最終課題「学習指導案のための授業デザイン」の完成 ・授業デザイン案（最終課題の学修成果）をグループ内共有→相互レビュー ・Q&A	[予習][復習] これまでに学んだことを活かして学習指導案のための授業デザインワークシートをブラッシュアップする。
第 15 回	・学んだ事項の総括 ・授業後に実践できるものとなることを目指したふりかえり	[予習] 学習指導案のための授業デザインワークシートを完成する ◆最終課題：学習指導案のための授業デザインワークシートを WebClass から提出する

1.授業コード (ナンバリング)	PED210-A51	2.科目名	図画工作Ⅱ		3.単位数	1
4.授業担当教員	大西洋史					
5.授業科目の区分	基幹科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校二種（通信） 小学校一種 幼稚園一種	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習(講義・実技を含む)			
16.履修制限	造形室の収容人数及び良好な活動環境を確保するために、履修者数を最大 48 人とします。人数が多い場合には、初回の授業で抽選を行います。					
17.授業の目的と概要	本科目では、図画工作科の「目標」「指導内容」「指導方法」「評価」を子どもの成長と表現・製作の発達といった観点や美術教育の歴史的変遷などから捉え直し、この教科の意味や価値についての認識を深めます。 その上で、題材や授業を具体的に構想する力や子どもの自発的・主体的な学習を保障しながら授業を展開する力など、図画工作科に関する理論的・実践的力量の形成をはかります。 特に、「工作にあらわす」、「鑑賞」領域の題材について、製作や活動を通して指導のポイントなどの理解を深め、授業を計画実施できる能力を養います。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律的で主体的な態度（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ・図画工作科の指導理念，教材開発の視点，内容について理解を深めます。 ・子どもの視点に立った教科内容の理解を深め，図画工作科の具体的な指導方法の習得を目指します。 ・児童の造形発達の特徴について理解を深め、児童の造形活動や作品に対して受容、共感、反応する 力を養います。					
19.教科書・教材	①大橋功『美術教育概論（新訂版）』2018. ISBN978-4536601030、もしくは、大橋功『美術教育概論（改訂版）』2019. ISBN978-4-536-60021-7、1 年次に購入したもの ②文部科学省『小学校学習指導要領解説図画工作編』日本文教出版 ③『小学校図画工作科教科書 1・2 上，1・2 下，3・4 上，3・4 下，5・6 上，5・6 下』日本文教出版 ①は「造形Ⅰ」（1 年春学期）、「保育内容・表現Ⅰ」（2 年春学期）、「図画工作科Ⅰ」（2 年春学期）、「図画工作科Ⅱ」（2 年秋学期）、					
20.参考文献	辻泰秀『造形教育の教材と授業づくり』日本文教出版，2012. ISBN978-4-536-60056-9					
21.成績評価	① 受講ノート=10％（毎回の授業について感想や質問などを 200 字程度でまとめる） ② グループワーク（模擬授業）=20％ ③ 個人ワーク（活動①～⑩）=20％ ④ 作成した学習指導案=20％ ⑤ 提出課題の内容=30％ ・それぞれの評価基準は，1 回目の授業で配布します。 ・①③④⑤は学科の学習目標達成，②は KUIS 学習ベンチマーク達成の評価に用いる					
22.コメント	○本講義では，実際の小学校での具体的な実践にも触れながら演習型の授業を行います。 ○受講生を 3～4 人を基準とするグループに分け，協調自立学習として展開します。したがって，欠席や遅刻は自らの学習効果を損なうだけでなく，グループのメンバーへの迷惑になると					

	いうことを十分自覚して責任ある態度で学習に参加しましょう。 ○作品を制作しながら学習することが多いので、汚れてもよい服装で参加しましょう。「自分・友達・教室を汚さない」が基本です。 ※後半の授業で、美術館を利用した鑑賞学習の体験に出かけます。交通費と入館料が別	
23.オフィスアワー	木曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	ガイダンス(本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、準備物、課題の提出方法、受講上の留意点などについて) グループづくり 活動①「つくってまわして!」(工作にあらわす 1)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第2回	活動②「大空高く舞い上がれ!」(工作にあらわす 2)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第3回	活動③「土と手と火の魔法(陶芸)その1」(工作にあらわす 3)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第4回	活動③「土と手と火の魔法(陶芸)その2」(工作にあらわす 3)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第5回	活動④「めいろで GO! その1」(工作にあらわす 4)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第6回	活動④「めいろで GO! その2」(工作にあらわす 4)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第7回	「工作にあらわす」のねらいと特徴について 授業づくり①「工作にあらわす」領域の授業づくり	★学習指導案の作成 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第8回	活動⑤「みる、かんがえる、はなす、きく(対話型鑑賞)」(鑑賞 1)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第9回	活動⑥「アートカードゲームをしよう(アートゲーム型鑑賞)」鑑賞 2	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第10回	活動⑦「ポロックさんに教えてもらおう(鑑賞からの製作)」(鑑賞 3)	○提出課題と画像整理 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第11回	「鑑賞」のねらいと特徴について 教科書 pp.128～131 授業づくり②「鑑賞」領域の授業づくり	★学習指導案の作成 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第12回	授業をつくる① 指導案の書き方と留意点について 教科書 pp.112～117	★◎学習指導案の作成 (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第13回	授業をつくる② 模擬授業・リフレクションⅠ	○模擬授業の振り返り (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第14回	授業をつくる③ 模擬授業・リフレクションⅡ	○模擬授業の振り返り (60 分) ○復習及び授業ノートの整理 (60 分)
第15回	授業をつくる④ 模擬授業の評価とリフレクション 本講義の振り返り	○復習及び授業ノートの整理 (60 分)

1.授業コード (ナンバリング)	PED211-A51	2.科目名	国語Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	中西一彦					
5.授業科目の区分	展開 国語教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育学部			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	[目的] 「聞く・話す、読む、書く」の基礎的技能的レベル向上を図り、国語力の伸長をめざす。 [概要] 大村はまの実践から「教えるということ」の本質を探ることを第一義とする。					
18.学習目標とDPとの関連	本科目は DP の(4)問題発見・解決力と(6)専門的知識・技能の活用力に関連しています。 大村はま先生の言葉にふれ、「言葉を育てる」とは、どのようなことなのかを感得する。					
19.教科書・教材	授業時に随時連絡する。また、適宜プリント等を配布する。					
20.参考文献	大村はま「教えるということ」(筑摩書房) 野矢茂樹「大人のための国語ゼミ」(山川出版社) 川辺秀美「22 歳からの国語力」(講談社現代新書)					
21.成績評価	授業記録(毎回の 100 字コメント) 30% レポート 30% (10%×3) 壁新聞(グループ作成) 第 5 回提出 大村はま双六(全体作成) 第 9 回提出 大村はまエッセイ 第 13 回提出 総合レポート(第 14 回) 40%					
22.コメント	「大村はま国語教室」の本質に少しでも迫り、子どもたちとの「実の場」において「教えること」にワクワクドキドキできる先生になってほしいと願っています。					
23.オフィスアワー	後日確定後連絡					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【第 1 回】オリエンテーション 大村はまを知る。			○大村はまについて調べる。(240 分)		
第 2 回	【第 2 回】KUIS s 壁新聞発行 複数のグループに分かれ、取材を含め、壁新聞記事を作成することを知る。			◎壁新聞編集会議を継続して行う。(240 分)		
第 3 回	【第 3 回】KUISs 壁新聞編集会議 編集方針を確認し、役割分担を決め、取材も含め、実際の記事作成にとりかかる。			◎壁新聞作成の役割に応じた取材活動を進める。(240 分)		
第 4 回	【第 4 回】KUIS s 壁新聞発行準備 模造紙に記事を記入し始める。			○各自記事作成執筆を進める。(240 分)		
第 5 回	【第 5 回】KUIS s 壁新聞発行 模造紙を完成し、掲示板に貼る。			★壁新聞を発行掲示する。 ◎分担し、壁新聞への反応を聞き取り調査する。(240 分)		
第 6 回	【第 6 回】KUIS s 壁新聞読者反応分析会 壁新聞の読者へのアンケートから、それぞれの出来栄			○壁新聞への出来栄について、各自でまとめる。(240 分)		

	えに対する分析を行う。	
第 7 回	【第 7 回】大村はまの実践年表をもとに、大村はま双六を作成する。	○大村はまについて各自で調べる。(240 分)
第 8 回	【第 8 回】大村はま双六作成継続。	★双六について各自調べる。(240 分)
第 9 回	【第 9 回】大村はま双六完成。	○大村はま実践を読む。(240 分)
第 10 回	【第 10 回】大村はま実践に学ぶ。 大村はま国語教室の実践にはどのようなものがあるのかを知る。	○大村はま実践を深く読む。(240 分)
第 11 回	【第 11 回】大村はま実践から学ぶ。 大村はま国語教室の実践から、何を学び得たかを各自明らかにする。	○「大村はま実践から学び得たこと」をまとめる。(240 分)
第 12 回	【第 12 回】大村はま国語教室からの学び 大村はま実践から学び得たことを報告し合う。	○報告会の記録をまとめる。(240 分)
第 13 回	【第 13 回】大村はま実践をまとめる。 大村はま実践の本質を 800 字のエッセイにまとめる。	★大村はまエッセイを提出する。 ○総合レポートの準備を行う。(240 分)
第 14 回	【第 14 回】総合レポートを記述し提出する。 「大村はま実践から学び得たこと」をテーマに、総合レポートを授業内に記述し、提出する。	★総合レポートを提出する。 ○これまでの授業内容をふり返る。(240 分)
第 15 回	【第 15 回】総合レポートを踏まえてふり返る。 大村はま実践、新聞作成等から、「国語力」についての所感を披露し合う。	○「国語力」についての他の人たちの所感をまとめる。(240 分)

1.授業コード (ナンバリング)	PED224-A51	2.科目名	総合的な学習の時間の指導法 (小)		3.単位数	1
4.授業担当教員	松尾和宣					
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	小学校教諭一種免許 小学校教諭二種免許 (通信)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、小学校「総合的な学習の時間」の成立の背景とその理念を捉え、探究的な活動について協議することを目的とします 【概要】 ○小学校総合的な学習の時間の基本理念（目標・内容等）について学ぶ ○活動内容に応じたテーマ設定、活動計画、活動案の作成法について学ぶ ○作成した活動案の検討・分析を通して、授業技術について学ぶ ○グループワーク、模擬授業等の活動を通して、授業の奥深さ、面白さを体感する ○SDG s をテーマにした教材開発に取り組む					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP④問題発見・解決力 ⑤コミュニケーションスキル ⑥専門的知識・技能の活用力に関連します (1) 総合的な学習の時間の背景を知り、目標について説明することができる (2) 探究的なテーマ、横断的・総合的な学習を展開することにより、総合的な学習の時間の意義と約 割を理解する。 (3) 探究的な学習を進めていくことにより、「主体的・対話的で深い学び」の授業法をイメージす る。 (4) 子供の認識・思考・経験等を視野に入れた授業設計の重要性を理解する。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。					
20.参考文献	○小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編 ○講義の中で適宜提示します					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです ・毎時間の授業ワークシートの作成 20% 《学習目標(1)(2)に対応》 ・「探究的」に適う活動テーマ及び活動の概要を立案することができる 20% 《学習目標(2)(3)に対応》 ・立案したテーマ、活動案をポスターにまとめ表現できる 20% 《学習目標(3)(4)に対応》 ・総括試験 40% 《総括・ふりかえり》					
22.コメント	○毎時間パソコンとイヤホン（ヘッドホン）を準備します。 ○「総合的な学習の時間」は、「探究的な活動」がキーワードとなります。学習指導委要領の理念「社会に開かれた教育課程」や「主体的・対話的で深い学び」での授業改善等、「総合的な学習の時間」を通して具体的に考えていきたいです。1 時間目から 15 時間目までしっかり出席して、学修仲間と時間と場を共有できる人を待っています。					

23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	○オリエンテーション ・受講のルール ・授業の概要、学修目標、授業の進め方	学習指導要領解説「総合的な学習の時間」第2章目標、目標の趣旨を要約し理解する。 (90分)
【第2回】	○総合的な学習の時間の成立について ○探究的な見方・考え方、横断的・総合的な学習の意義について	小学校総合的な学習の時間実践例の情報収集 ① (90分)
【第3回】	○実践事例の収集と分析 ・現代的な課題を捉え、課題解決に向けての探究的プロセスを考える ○学習活動案作成に向けてのテーマ（探究課題）について考える	小学校総合的な学習の時間実践例の情報収集 ② (90分)
【第4回】	○実践事例に学ぶ①～実践事例の検討～ ・「環境」身近な自然環境とそこに起きている環境問題 ・「福祉」身のまわりの高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々 収集した実践事例から総合的な学習の時間の目標・指導計画や「主体的、対話的で深い学び」の授業活動の仕組みを捉える。	小学校総合的な学習の時間実践例の情報収集 ③ (90分)
【第5回】	○実践事例に学ぶ②～実践事例の検討～ ・「伝統文化」地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々 ・「防災」防災のための安全なまちづくりとその取組 収集した実践事例から総合的な学習の時間の目標・指導計画や「主体的、対話的で深い学び」の授業活動の仕組みを捉える。 各教科等との関連性を考え、横断的な学習の本質を捉える。	
【第6回】	○総合的な学習の時間の授業づくりを学ぼう① ・探究課題の設定 ・活動計画（学習形態等） ・模擬授業を想定した1時間の活動 小グループで実践例を基に指導（活動）計画の立案	探究的なテーマを考え、テーマに従って授業イメージをデザインする。(90分)
【第7回】	○総合的な学習の時間の授業づくりを学ぼう② ・探究課題の設定 ・活動計画（学習形態等） ・模擬授業を想定した1時間の活動 小グループで実践例を基に指導（活動）計画の立案	探究的なテーマを考え、テーマに従って授業イメージをデザインする。(90分)
【第8回】	○総合的な学習の時間も授業づくりを学ぼう③ ・探究課題の設定 ・活動計画（学習形態等） ・模擬授業を想定した1時間の活動 小グループで実践例を基に指導（活動）計画の立案	グループで協議した内容をポスターで表現し、発信の準備をする。(90分)

【第 9 回】	○ポスターセッション① ・グループで作成した「総合的な学習の時間」のテーマ、ねらい、指導計画等をポスターにまとめ発信する。	グループで協議した内容をポスターで表現し、発信の準備をする。(90 分)
【第 10 回】	○ポスターセッション② ・グループで作成した「総合的な学習の時間」のテーマ、ねらい、指導計画等をポスターにまとめ発信する。	選択した題材で、模擬授業の構想を話し合う。(90 分)
【第 11 回】	○総合的な学習の時間での「防災教育」について①	選択した題材で、模擬授業の構想を話し合う。(90 分)
【第 12 回】	○総合的な学習の時間での「防災教育」について②	選択した題材で、模擬授業の構想を話し合う。(90 分)
【第 13 回】	○SDG s の理念を取り入れた総合的な学習の時間の取組	各グループのポスター・模擬授業の成果から、総合的な学習の時間の教科の価値とねらいをまとめる。(90 分)
【第 14 回】	○まとめのテスト&レポート	
【第 15 回】	○まとめ ・これまでの学修をふりかえり、児童の資質・能力を育てる授業（活動）について、課題となる点を具体的に検討し、交流する。	まとめのレポート

1.授業コード (ナンバリング)	PED225-A51	2.科目名	特別支援教育総論（2021 年度生以前）		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田裕彦					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	教職必須	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科子ども学専攻			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	幼稚園、小学校教諭		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義及び演習		
16.履修制限	幼稚園・小学校教諭免許取得予定者					
17.授業の目的と概要	目的：特別支援教育の歴史的経緯及び理念について知り、今日的な教育課題としての障害のある子ども、特別な支援を必要とする子どもの教育の基本について学ぶ。本講義全体を通して、自らの経験と照らし合わせながら、障害のとらえ方、共生社会実現に向けた教育のあり方について考えていけるようにする。 概要：それぞれの障害に関する基礎的な面をイメージできるようおさえながら、教育体制のあり方や基礎的な環境整備・合理的な配慮について解説する。特に、個々の実態に応じて、目標を設定し、その達成ための手立てを示す個別の指導計画に基づいて指導する自立活動については、具体的に実践事例をあげて紹介する。通常の学級における合理的配慮の在り方、障害のあるなしに関わらない個別最適化の授業など特別支援教育の現状および今日的課題について取り上げる。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（2）社会的貢献性，（3）多様性理解，（4）問題発見・解決力，（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ・教育・社会福祉従事者として、その人がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域、保護者、他職種等との連携・協働を行うことができる。 ・教育・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 本科目の学習によって基本的な知識及び技能の習得を目指し、多様な子ども一人ひとりへの具体的な支援の手立てを考えていく。指導現場での様々な事象や現象について触れながら特別支援教育の基本を理解し、将来の進路に向けた資質向上につながるようにする。授業の中でのディスカッションを通じてコミュニケーションスキルを高める。					
19.教科書・教材	・文部科学省（2018）特別支援学校幼稚園部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成 29 年 4 月告示），海文堂出版，484 円 ・障害のある子供の教育支援の手引（文部科学省、2021） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm ・その他、授業用に作成した資料を提示します。					
20.参考文献	関連する参考文献は授業の中で紹介します。					
21.成績評価	授業内発表・レポート 70% 小テスト 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	木曜 4 限（研究室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	第 1 回 導入 障害と特別支援教育 ICF、障害者権利条約から障害者差別解消法、特別支援教育につながる流れについて理解する。			◆ノートパソコン◆ 授業用資料・ワークシート 第 2 回目以降については授業の中で指示します		
第 2 回	自立活動の教育課程上の位置づけと内容					

第3回	第3回 知的障害の理解と支援・指導 ◎知的障害の困り感について体験ワークをすることでイメージする	
第4回	視覚障害の理解と支援・指導 ◎視覚障害の困り感についてワークをすることでイメージする	
第5回	聴覚障害の理解と支援・指導 ◎聴覚障害の支援について実技を交えて体験することでイメージする。	
第6回	肢体不自由の理解と支援・指導 ◎肢体不自由の支援・指導について実践例を通してイメージする	
第7回	病弱・重度重複障害の理解と支援・指導 ◎事例を通して、イメージを膨らませる。	
第8回	発達障害の理解と支援（行動面）	
第9回	発達障害の理解と支援（学習面）	小テスト
第10回	発達障害の理解と支援（コミュニケーション面）	
第11回	特別支援教育を必要とする児童生徒とその支援	
第12回	個別の指導計画と指導の実際	
第13回	特別支援教育における校内体制	
第14回	教育と家庭、福祉との連携	
第15回	共生社会実現に向けて	

1.授業コード (ナンバリング)	PED308-A51	2.科目名	理科Ⅱ	3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	教員免許状取得予定者			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件	幼稚園教諭、小学校教諭		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義、演習、実験	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本演習では、具体的な小学校理科の教材をもとに、それを指導するための教師の予備知識や授業の設計、評価、実験・観察のスキル、授業中の指導技術や教師としての心構え等について学び、理科好きの子どもを育てる理科学習指導の意義と楽しさを伝えることを目標とする。				
18.学習目標と DP との関連	・教科書やその他の教材から効果的に楽しく学べる実験を調べ、教材として確立する（情報収集・活用力）。 ・科学的なものの見方、考え方について知り、日常の中で行う論理的な思考ができるようになる（論理的思考・判断力）。 ・模擬授業などの発表の場で、楽しく・分かりやすく指導内容を説明できる（自己表現力）。 ・自由思考実験に主体的・協働的に参加し、考察を行う事ができる。				
19.教科書・教材	・小学校理科の観察、実験の手引き詳細（文部科学省、インターネットからダウンロード可）、配布資料				
20.参考文献	・小学校の教科書（4、5、6 学年）				
21.成績評価	1 各演習後のワークシート評価（40%） 2 演習内容の相互評価（15%） 3 模擬授業のワークシート、指導案、評価資料及び模擬授業評価 30%） 4 生物・地学分野の小テスト（15%）				
22.コメント	自由思考実験は大学生にとっても小学生にとってもとても楽しい実験です。ぜひ受講して下さい。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	オリエンテーション ・理科Ⅱの演習概要（扱う小学校理科教材） ・HG（ホームグループ）編成・協同学習のガイダンス			実験結果を含むワークシートの提出	
第 2 回	教材研究①小 5 「植物の発芽，成長，結実」，「流水のはたらき」，「天気の変化」，小 6 「人の体のつくりとはたらき」，「土地のつくりと変化」等について、基本的な履修過程にそって HG 内の担当を決定する。			実験結果を含むワークシートの提出	
第 3 回	生物・地学実験① 教材研究②担当分野の教材について、発表する。			実験結果を含むワークシートの提出	
第 4 回	生物・地学実験② 教材研究③担当分野の教材について、発表する。			実験結果を含むワークシートの提出	
第 5 回	生物・地学実験③ 教材研究④担当分野の教材について、発表する。			実験結果を含むワークシートの提出	
第 6 回	自由思考実験① 教材研究⑤担当分野の教材について、発表する。			実験結果を含むワークシートの提出	
第 7 回	自由思考実験②			実験結果を含むワークシートの提出	

	教材研究⑥担当分野の教材について、発表する。	
第 8 回	自由思考実験③ 教材研究⑦担当分野の教材について、発表する。	実験結果を含むワークシートの提出
第 9 回	指導案作成	実験結果を含むワークシートの提出
第 10 回	指導案の修正	実験結果を含むワークシートの提出
第 11 回	発問のポイント	指導案の提出
第 12 回	模擬授業①	授業評価表の提出
第 13 回	模擬授業②	授業評価表の提出
第 14 回	模擬授業③	授業評価表の提出
第 15 回	模擬授業④	授業評価表の提出

1.授業コード (ナンバリング)	PED309-A51	2.科目名	道徳教育の指導法		3.単位数	2
4.授業担当教員	上原昭三					
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 幼稚園一種	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	< 授業の目的 > 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等について理解を深めるとともに、道徳教育に関する実践的な指導力を身に付ける。 < 授業の概要 > ①学習指導要領解説などの記述を基に、講義や演習を通して、道徳の意義や原理等について理解を深め、道徳科の目標や内容、指導計画等について学ぶ。 ②学んだ知識・技能を活用して、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業を行う。					
18.学習目標と DPとの関連	DP との関連：多様性理解、問題発見解決力、専門知識の活用力 ①道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。 ②道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。 ③子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。 ④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。 ⑤学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。 ⑥道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。 ⑦道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。 ⑧授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。 ⑨道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。 ⑩模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。					
19.教科書・教材	必要に応じて、資料等を配布いたします。					
20.参考文献	学習指導要領解説 特別な教科 道徳編					
21.成績評価	ワークシートの記述 10%・・・①②③④⑤ 小レポート「模擬授業の資料を設定しそれについて解説する」 20%・・・④⑤⑥⑦ 模擬授業 20%・・・⑤⑥⑦ 指導案「本時の展開を作成する」 20%・・・⑧⑨ 道徳授業指導案「模擬授業の反省をもとに、本時の展開以外の項目を加筆し指導案を完成させる」 20%・・・⑧⑨⑩ レポート「模擬授業の振り返り」 10%・・・⑩					
22.コメント	○グループを組んで学習を進めていきます。座席を指定します。 ○よりよい道徳の授業について考えよう。 これまでに学んだ教職科目（教育学概論、発達心理学、教育心理学、教職概論 初等教育課程論 初等教育方法論 等）について復習したうえで受講してほしいと考えています。					
23.オフィスアワー	月曜日 昼休み					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	オリエンテーション 学修目標、ベンチマーク 「道德教育の指導法」講義の概要と受講ルールについて	学習指導要領解説（特別な教科道德編）をダウンロードまたは購入し、第1章第2節の2「道德性の発達と道德教育」に目を通しておく。また、発達心理学で学んだ幼児期から児童期、思春期にかけての発達の流れを整理しておく。(180分)
	子どもの発達と道德 児童の道德性の発達とそれ呼応した指導の在り方等について 低学年、中学年、高学年における指導のポイントについて、それぞれの発達の特性を対比させながら検討していく。	○教職科目で学んだ、明治以降の教育の歩み戦後の学習指導要領の変遷について整理しておく。(120分) ○本時で学んだことについて、ワークシートや講義ノートで確認しておく。(60分)
	道德教育の変遷と現状 学習指導要領に沿って、「道德」および「道德教育」に対する考え方や重点について検討する	学習指導要領解説（道德編）「道德教育の目標」「道德教育の内容」に関する個所について目を通しておく。(80分) ○本時で学んだことについて、ワークシートや講義ノートで確認しておく。(60分)
	道德教育の目標と内容 学習指導要領解説（特別な教科としての道德編）を参照しながら、道德教育の目標や内容とその具体的例についてグループで話し合い検討する。	○学習指導要領解説（道德編）「道德教育の指導計画」「道德の時間」に関する個所について目を通しておく。(80分) ○本時で学んだことについて、ワークシートや講義ノートで確認しておく。(60分)
	道德教育の指導計画と「道德科」のねらい 学習指導要領解説（特別な教科としての道德編）を参照しながら、道德教育の指導計画や「道德」の授業の在り方や方法、考え方についてグループで話し合い検討する。	○第2回～5回の内容についての課題レポートを作成し11月 日までに WebClass へ提出する。(240分)
	「道德」の授業の考え方と方法① 教材や情報機器の効果的な活用法や、道德の評価、授業の段階（導入、展開、終末）の意味や内容、授業形態・方法（アクティブラーニング等）など授業の作り方、について学ぶ	○本時で学んだことについて、ワークシートや講義ノートで確認しておく。(60分)
	「道德」の授業の考え方と方法② 資料の提示、発問、児童の反応予測、板書、効果的な討論の進め方など具体的な授業の作り方、について学ぶ	○本時で学んだことについて、ワークシートや講義ノートで確認しておく。(60分)
	「道德」の授業…授業記録から学ぼう 実際に行われた授業の記録（教師の発問と児童の発言）を読みながら、教師の意図やねらい、技術について検討する。 個人ワーク⇒グループワーク を行う。	○本時で学んだことについて、ワークシートや講義ノートで確認しておく。(60分)

	「道徳」の授業…実践された指導案を検討しよう 実際の授業のながれや教師の動き、発問、児童の発言や思考・思いの変化などをどのように指導案へ表現していくのかをつかみ、指導案の形式や作成方法について学ぶ。 小グループに分かれて検討する	○本時で学んだことについて、ワークシートや講義ノートで確認しておく。(60分)
	授業づくり 班ごとに、道徳資料を選択しそれに基づいた模擬授業を行うための指導案および具体的な授業の台本(発問、助言、児童の発言・反応を記したもの)を作成する。また、板書計画や教具なども作成する。	◎残っている模擬授業の準備を行う。(480分)
	授業づくり 班ごとに、道徳資料を選択しそれに基づいた模擬授業を行うための指導案および具体的な台本(発問、助言、児童の発言・反応を記したもの)を作成する。また、板書計画や教具なども作成する。	○模擬授業の指導案を完成し1月 日までにWebClassへ提出する。(480分)
	模擬授業 いくつかの班で1つの大グループをつくり、その中で模擬授業(1班30分程度を行う)を行う。また、授業について全員で協議を行い、指導計画、ねらい、進め方、技術、評価など授業改善について検討する。またそれにもとづいて、指導案を修正する。	○模擬授業の指導案を完成し1月 日までにWebClassへ提出する。(480分)
	模擬授業 いくつかの班で1つの大グループをつくり、その中で模擬授業(1班30分程度を行う)を行う。また、授業について全員で協議を行い、指導計画、ねらい、進め方、技術、評価など授業改善について検討する。またそれにもとづいて、指導案を修正する。	○模擬授業の指導案を完成し1月 日までにWebClassへ提出する。(480分)
	道徳教育と他の教育活動 道徳教育および道徳の時間と生徒指導、各教科、特別活動、総合的な学習の時間との関連やすみわけ、連携などについて、学習指導要領解説(道徳編)を参照しながら検討する。	○本時で学んだことについて、ワークシートや講義ノートで確認しておく。(60分)
	振り返り 15回の授業で気づいたこと、学んだことをもとに、現場で道徳教育および道徳の授業を行う上で、自身が大切にすべきこと、課題とすべきことなどについて話し合う。	○最終課題レポートを作成し、1月末までにWebClassへ提出する(課題は授業中に連絡)(240分)

1.授業 コード (ナン バリン グ)	PED309-Y81	2.科目名	道徳教育の指導法		3.単位数	2
4.授業 担当教 員	岡本義裕					
5.授業 科目の 区分	中高教職	6.必修・ 選択の区分	教職中学必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修 可能な 専攻	中高教職			9.履修学年	2 年～	
10.取得 資格の 要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校 一種中学(英語) 中学(社会) 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究 室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E- Mail Addres s	※※※		15.授業形態	講義（部分的に演習的活動も含める）		
16.履修 制限						
17.授業 の目的 と概要	道徳教育は、自己の生き方や人間としての在り方を考え、主体的な判断の下に自律的に行動し、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。本授業では、そうした道徳の学びの意義や原理等を踏まえ、目標や内容、指導計画等を明確にしながら、学校の教育活動全体を通じて道徳教育を推進していくと共に、その要となる道徳科においても「考え、議論する道徳」としての授業を展開していく実践力の基盤を培うために、以下の内容の理解・修得を目指す。 ○道徳の本質（道徳とは何か）への理解。 ○道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）についての理解。 ○子供の心の成長と道徳性の発達についての理解。 ○学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容への理解。 ○学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性への理解。 ○道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴についての理解。 ○道徳科における教材の特徴把握と、それを踏まえた（活かした）授業設計の修得。 ○授業のねらいや指導過程を明確にした、道徳科の学習指導案作成の修得。 ○道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方についての理解。 ○授業改善の視点の確立（模擬授業の実施とその振り返りを通して）。					
18.学習 目標と DP との関 連	・道徳教育の本質的な意義やその基礎的な在り方を理解することができる。 ・上記を現行学習指導要領のねらいと重ね、今後の道徳教育の指針や課題、具体的な方策を見極めることができる。 ・上記2点を具体的な授業として構想し、習得した指導案の作成などに関する知識・技能も活用しながら、実際の展開として構築していくことができる。					
19.教科 書・教	○文部科学省(2018)『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（下記のいずれかで準備） ・ダウンロード					

材	https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_011.pdf ・ 教育出版 ISBN-10: 4316300849 ISBN-13: 978-4316300849 * 講義の進捗状況に即してレジメ等を配布していく。	
20.参考文献	○渡邊満他編(2016)「シリーズ「特別の教科 道徳」を考える 1 「特別の教科 道徳」が担うグローバル化時代の道徳教育」 北大路書房 ISBN 978-4762829222 ○渡邊満他編(2016)「シリーズ「特別の教科 道徳」を考える 3 中学校における「特別の教科 道徳」の実践」 北大路書房 ISBN 978-4762829284	
21.成績評価	①各回提出する「講義内容総括（小レポート）」での記述内容<40%> ②各回授業での受講態度（指導案の共同作成など、様々なねらいや形態で行われるグループワークやアクティビティーへの主体的参加・貢献の様子を含む）<20%> ③「最終個別課題：講義の主題や重点事項を形式や内容に充分反映させた学習指導単元案（具体的な要件等については最終段階の講義内で説明）」の量的・質的完成度<40%> 以上により総合的に評価する。但し、「受講態度が好ましくない」「最終個別課題を提出していない」等の場合は、評価の対象とならない。	
22.コメント	適宜グループワークを取り入れていくので、そこでの諸活動に主体的創造的共同的に参加すること。	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等に対応する。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	<第一部 道徳・道徳教育の現状と問題の所在> 第1回 講義に関するガイダンスと事前アンケート	
第2回	<第一部 道徳・道徳教育の現状と問題の所在> 第2回 道徳教育及び道徳の学習時間に対するイメージから見えるもの	
第3回	<第一部 道徳・道徳教育の現状と問題の所在> 第3回 これまでの道徳教育（道徳の学習時間）の特徴と問題点	
第4回	<第一部 道徳・道徳教育の現状と問題の所在> 第4回 教科化の中で「特別の教科：道徳」が目指すもの	
第5回	<第二部 新たな道徳教育への展望と課題> 第5回 道徳でどんな力を伸ばすのか（道徳的判断力の視点）	
第6回	<第二部 新たな道徳教育への展望と課題> 第6回 道徳の何をめぐりどんなことに取り組むのか（価値の共同探究）	
第7回	<第二部 新たな道徳教育への展望と課題> 第7回 道徳的探究をどう深めるか（体験的な学びとの一体化）	
第8回	<第二部 新たな道徳教育への展望と課題> 第8回 議論する力をどう高めるか（論理性の伸長）	
第9回	<第三部 考え議論する道徳授業の構想>	

	第 9 回 価値相対化教材（モラルジレンマなど）とクローズドエンドの授業展開	
第 10 回	< 第三部 考え議論する道徳授業の構想 > 第 10 回 モラルディスカッションの概要と合意・了解形成へのディスカルの過程	
第 11 回	< 第四部 具体的な授業づくりのプロセス > 第 11 回 学習指導案の作成手順	
第 12 回	< 第四部 具体的な授業づくりのプロセス > 第 12 回 教材解釈とねらいの設定	
第 13 回	< 第四部 具体的な授業づくりのプロセス > 第 13 回 学習単元及び本時の学習の構成	
第 14 回	< 第四部 具体的な授業づくりのプロセス > 第 14 回 模擬授業（もしくは、学習指導案の相互評価）	
第 15 回	< 第四部 具体的な授業づくりのプロセス > 第 15 回 講義のまとめと実習授業での目標確認	

1.授業コード (ナンバリング)	PED310-A51	2.科目名	初等英語教育研究		3.単位数	2
4.授業担当教員	長瀬慶來					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	小学校一種 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	小学校では 2020 年から 3 年、4 年の担任は外国語活動を指導、5 年、6 年の担任は英語科を指導しなくてはなりません。また、その影響で、幼稚園や保育園の課内や課外で英語を扱う園が増えてきています。 小学校外国語活動や英語科の指導方法は皆さんが中学で英語を学んだ方法とは大きく異なります。小学校文化に合った、そして子どもの発達段階に合った指導方法でなくてはなりません。このクラスでは、皆さん自身の英語力もアップしながら、実践的に初等英語指導法を学びます。さらに、毎時間授業の振り返りとして受講ノートを書き、講師のフィードバックを受け、学んだものを確実にしていきます。					
18.学習目標と DP との関連	①小学校外国語活動と英語科の目標がわかり、外国語活動の授業の流れがわかる。 ②第二言語習得理論や英語教授法を知り、それらの小学校英語活動・小学校英語教育での活用方法がわかる。(専門的知識・技能の活用力の養成) ③初等英語教育の課題を発見し、それを解決していく能力を養成する ④教室英語を授業内で使うことができる。 ⑤外国語活動の模擬授業をペアまたはグループでコミュニケーションに行うことができる。(コミュニケーション能力の養成)					
19.教科書・教材	酒井ほか『小学校で英語教えるためのミニマム・エッセンシャルズ』三省堂 樋口ほか『小学校英語教育内容論入門』研究社 検定教科書『Junior Sunshine 5, 6』開隆堂					
20.参考文献	岡秀夫・金森強(編)(2009)『小学校英語教育の進め方ー「ことばの教育」として(改訂版)』成美堂. 山田・長瀬『小学生からの英語絵辞典』研究社					
21.成績評価	第二言語習得理論・英語教授法レポート 20%【学習目標②に対応】 中間テスト 30%【学習目標①、③、④に対応】 模擬授業(指導案作成、振り返り含む) 30%【学習目標④、⑤に対応】 受講ノート 20%【学習目標全てに対応】					
22.コメント	・初回授業では、レポートについて説明したり、テキスト担当箇所決定をしたりしますので、必ず出席してください。 ・教育実習で授業を欠席する場合は、必ず担当講師に連絡をしてください。テキストで自習する箇所や課題をお伝えします。					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー 水曜日昼休み 研究室オフィスアワー 木曜日昼休み					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	・オリエンテーション ・小学校外国語教育概論 ・小学校英語授業体験	予習：次回の予習 テキスト2冊持参 レポート作成 第3回授業時に提出、発表
【第2回】	・「外国語教育の意義と言語習得理論」 ・教室英語	レポート作成 次回提出
【第3回】	・「基礎的な外国語指導法（レポート発表）」 ・教室英語	レポート提出、発表 予習：次回の予習
【第4回】	・「教材の構成と内容」	予習：次回の予習 テキスト担当者発表準備
【第5回】	・「言語材料と4技能の指導」	復習：中間テスト準備
【第6回】	・「授業の基本的な流れと活動例」 教案作成	復習：中間テスト準備
【第7回】	・中間テスト ・教材研究①－児童が英語に楽しく触れ、慣れ親しむ 活動1：うた、チャンツ	予習：次回の予習 次回テキスト発表担当者準備
【第8回】	・「教材研究①－児童が英語に楽しく触れ、慣れ親しむ 活動2：クイズ、ゲーム、絵本」	予習：次回の予習 次回テキスト発表担当者準備
【第9回】	・「教材研究②－児童が創意工夫し、生き生きと英語を 使う活動」	予習：次回の予習 次回テキスト担当発表者準備
【第10回】	・「授業づくり－事前準備から振り返りまで」 ・「評価について」	模擬授業準備（グループ）
【第11回】	・模擬授業準備	模擬授業準備（グループ）
【第12回】	・模擬授業1	模擬授業準備（グループ）
【第13回】	・模擬授業2	模擬授業準備（グループ）
【第14回】	・模擬授業3	予習：次回の予習
【第15回】	・「豊かな小学校外国語教育をめざして－外国語活動の 成果を課題を踏まえて」 ・総括	全ての受講ノート持参

1.授業コード (ナンバリング)	PED313-A51	2.科目名	社会Ⅱ		3.単位数	2												
4.授業担当教員	松尾和宣																	
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期													
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～													
10.取得資格の要件	小学校一種		11.先修条件															
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※														
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義														
16.履修制限																		
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、特に小学校 5 年/6 年生の単元についての教材研究を通して、小学校社会科教育についての理解を深めることを目的とします 【概要】 ○社会Ⅰで学んだ小学校社会科教育の目標・内容等のねらいやポイントなどの理解を深め、社会科の教育実践力向上をめざす。 ○小学校社会科教育の目標・内容と具体的な実践との比較研究 ○社会科教育における資料の活用を中心とした学習スキルを検討・研究する ○発表活動、グループワークなどの体験を通した指導法の研究																	
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP ①自律性 ④問題発見・解決力 ⑥専門的知識・技能の活用力 (1) 5 年・6 年生の単元の概要について説明することができる (2) 「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点から、学習展開を構成することができる。 (3) 発問・板書・ノート指導等を効果的に活用し模擬授業を行うことができる (4) グループで模擬授業を実施し、改善策を立てることができる																	
19.教科書・教材	適宜資料を配布																	
20.参考文献	○文部科学省小学校学習指導要領 ○講義の中で適宜提示																	
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです <table><tr><td>・毎時間のワークシートの作成</td><td>20%</td><td>《学習目標(1)に対応》</td></tr><tr><td>・学習指導案の作成</td><td>20%</td><td>《学習目標(2)(4)に対応》</td></tr><tr><td>・模擬授業の実施</td><td>30%</td><td>《学習目標(3)に対応》</td></tr><tr><td>・総括試験</td><td>30%</td><td>《総括・ふりかえり》</td></tr></table>						・毎時間のワークシートの作成	20%	《学習目標(1)に対応》	・学習指導案の作成	20%	《学習目標(2)(4)に対応》	・模擬授業の実施	30%	《学習目標(3)に対応》	・総括試験	30%	《総括・ふりかえり》
・毎時間のワークシートの作成	20%	《学習目標(1)に対応》																
・学習指導案の作成	20%	《学習目標(2)(4)に対応》																
・模擬授業の実施	30%	《学習目標(3)に対応》																
・総括試験	30%	《総括・ふりかえり》																
22.コメント	社会Ⅰで学んだことをいかして、高学年の社会科学習を中心に学んでいきましょう。講義は参加してナンボの世界です。1 時間目から 15 時間目までしっかりと出席できる人を待っています。																	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する																	
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)														
【第 1 回】	オリエンテーション ○社会科Ⅱ 学習内容の概要と受講のルール ○シラバスについての詳細な解説 ◎5 円玉を使った社会科授業にチャレンジ			○日本の食糧生産の問題点について調べてくる (90 分)														

【第2回】	実践事例研究「日本の食糧生産1）」 ○前回課題の発表 ◎指導案の検討・分析 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第3回】	実践事例研究「日本の食糧生産2）」 ○授業の導入のコツ（天ぷらと豆腐） ○グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第4回】	実践事例研究「日本の食糧生産2）」 ○指導案の作成と検討 ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分） ○日本の水産業の問題点について調べてくる（120分）
【第5回】	実践事例研究「日本の水産業1）」 ○前回課題の発表 ○指導案の作成と検討 ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第6回】	実践事例研究「日本の水産業2）」 ○指導案の作成と検討 ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第7回】	実践事例研究「歴史学習の基礎知識」 ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第8回】	実践事例研究「縄文時代」 ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分） ◎縄文時代までの子どもが喜ぶ歴史クイズをつくる（180分）
【第9回】	実践事例研究「弥生時代」 ◎歴史クイズ合戦 ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第10回】	実践事例研究「大仏建立」 ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）
【第11回】	実践事例研究「平安貴族と庶民の暮らし」 ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90分）

【第 1 2 回】	実践事例研究「鎌倉武士のくらし」 ◎歴史クイズ合戦 ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分）
【第 1 3 回】	実践事例研究「信長・秀吉・家康の政治」 ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○本時のふり返りとまとめ（90 分） ○「大仏建立」指導案作成
【第 1 4 回】	まとめのテストと指導案作成	○指導案の完成（1 8 0 分）
【第 1 5 回】	これまでの学びのまとめ ◎グループワークで意見交換 ○ワークシートの作成	○社会Ⅱの総まとめ（120 分）

1.授業コード (ナンバリング)	PED319-A51	2.科目名	算数Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	上原昭三					
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 興味深い算数指導を行うことを念頭に、算数Ⅰでの学修を1歩進めた、知識・技能・考え方を身につけることをめざす。 概要： ・教員採用選考試験で出題された数学の問題演習を通じて算数・数学的な知識および考え方を深める。 ・実践事例を参照しながら、(子どもたちの) 日常事象や身近にある素材を活かした教材(教具)づくりの考え方や方法について学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	DP との関連：問題発見解決力、専門知識の活用力 ①算数指導に必要な数学的な知識や概念、考え方を身に着ける。 ②小学校算数教育と中・高の数学とのつながりについて指導者の視点から説明することが出来る。 ②日常の事象や身近な素材を教材化するための方法や考え方を身に着ける。					
19.教科書・教材	必要に応じてプリント等を配布します					
20.参考文献	特に指定しない					
21.成績評価	○ワークシート： 30%・・・①に対応 ○教材(教具)の作成：20%・・・③に対応 ○プレゼンテーション：10%・・・①③に対応 ○小レポート： 20%・・・①②に対応 ○最終課題：20%・・・①②③に対応					
22.コメント	○自ら考え、グループで考え、全員で考え、主体的に「考える」ことを楽しもう。 ○間違いから学ぶことが多いです。間違いをよりよい解決へと高めていくことを、この授業に参加する全員の協力の目的としたいです。 ○よりよい解決に達することを目指しますが、「解けたらいい」「分かったらいい」という自分本意な取り組み方は認めません。「解けること」「分かること」が、同じ授業で学ぶ全体の財産にしようとする態度を求めます。 ?主たる目的ではありませんが、教員採用試験対策(数学)にもなると思います。					
23.オフィスアワー	月曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
2024/09/26	オリエンテーション ・この授業での授業の進め方、学修目標、ベンチマーク 算数の教材教具に関する基本的な理解					
	・算数・数学的な知識や概念について…数と式① 教員採用試験小学全科(数学)で出題されている問題などから、算数指導上必要とされる知識・概念・考			○取り組んだ課題について、その解法や考え方をワークシートにまとめると共に、別解についても追究しておく(180分)		

	え方について検討する。	
	・算数・数学的な知識や概念について…数と式② 教員採用試験小学全科（数学）で出題されている問題などから、算数指導上必要とされる知識・概念・考え方について検討する。	○取り組んだ課題について、その解法や考え方をワークシートにまとめると共に、別解についても追究しておく（１８０分）
	・算数・数学的な知識や概念について…方程式① 教員採用試験小学全科（数学）で出題されている問題などから、算数指導上必要とされる知識・概念・考え方について検討する。	○取り組んだ課題について、その解法や考え方をワークシートにまとめると共に、別解についても追究しておく（１８０分）
	・算数・数学的な知識や概念について…方程式② 教員採用試験小学全科（数学）で出題されている問題などから、算数指導上必要とされる知識・概念・考え方について検討する。	○取り組んだ課題について、その解法や考え方をワークシートにまとめると共に、別解についても追究しておく（１８０分）
	・算数・数学的な知識や概念について…関数① 教員採用試験小学全科（数学）で出題されている問題などから、算数指導上必要とされる知識・概念・考え方について検討する。	○取り組んだ課題について、その解法や考え方をワークシートにまとめると共に、別解についても追究しておく（１８０分）
	・算数・数学的な知識や概念について…関数② 教員採用試験小学全科（数学）で出題されている問題などから、算数指導上必要とされる知識・概念・考え方について検討する。	○取り組んだ課題について、その解法や考え方をワークシートにまとめると共に、別解についても追究しておく（１８０分）
	・算数・数学的な知識や概念について…図形① 教員採用試験小学全科（数学）で出題されている問題などから、算数指導上必要とされる知識・概念・考え方について検討する。	○取り組んだ課題について、その解法や考え方をワークシートにまとめると共に、別解についても追究しておく（１８０分）
	・算数・数学的な知識や概念について…図形② 教員採用試験小学全科（数学）で出題されている問題などから、算数指導上必要とされる知識・概念・考え方について検討する。	○取り組んだ課題について、その解法や考え方をワークシートにまとめると共に、別解についても追究しておく（１８０分）
	・算数・数学的な知識や概念について…図形③ 教員採用試験小学全科（数学）で出題されている問題などから、算数指導上必要とされる知識・概念・考え方について検討する。	○取り組んだ課題について、その解法や考え方をワークシートにまとめると共に、別解についても追究しておく（１８０分）
	・算数・数学的な知識や概念について…場合の数と確率 教員採用試験小学全科（数学）で出題されている問題などから、算数指導上必要とされる知識・概念・考え方について検討する。	○取り組んだ課題について、その解法や考え方をワークシートにまとめると共に、別解についても追究しておく（１８０分） ●小レポート提出
	・小・中学校での算数・数学授業の実践事例を参考に、教材教具を開発する。	◎残っている教材教具の開発についての作業を行う（３６０分） ◎発表の準備（１２０分）
	・開発した教材教具のねらい、活用法、効果などについてプレゼンテーションを行う。	◎発表の反省や課題を整理する（１８０分）

	・教材教具発表会①の反省をもとに，教材教具の改善	◎残っている教材教具の開発についての作業を行う（３６０分）
	まとめと反省	○最終課題の作成（２４０分）

1.授業コード (ナンバリング)	PED323-A51	2.科目名	外国語の指導法		3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	小学校教諭（コアカリ科目）		11.先修条件	「外国語」（春学期）を先修していることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、「外国語」（春学期）の応用的科目であり、小学校における外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する応用的な知識や指導技術を実践的に身に付けることを目的とします。 【概要】 具体的には、児童期の第 2 言語習得の特徴、4 技能の指導、評価等の外国語活動や外国語科を指導する上で必要な応用的知識を学び、教材研究や模擬授業の中でそれらの知識や理解をより実践的に身に付け、活用することが求められます。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①「外国語」（春学期）の内容をふまえ、児童期の第 2 言語習得理論や小学校外国語における 4 技能など外国語を指導する上で必要な知識がわかるようになる。 ②①の知識や理解を実践の中で活用できるようになる。					
19.教科書・教材	①樋口忠彦（代表）（2023）『最新・小学校英語内容論入門』研究社 ②文部科学省検定済教科書・小学校外国語科用「Here We Go! 5」光村図書（5 年生用） ③文部科学省検定済教科書・小学校外国語科用「Here We Go! 6」光村図書（6 年生用） ※上記、教科書は全冊購入することになります。					
20.参考文献	樋口忠彦・高橋一幸・加賀田哲也・泉恵美子（2017）『Q&A 小学校英語指導法事典—教師の質問 112 に答える』教育出版。 小学校学習指導要領 最新版 小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編 最新版 樋口忠彦（代表）（2023）『最新・小学校英語教育法入門』研究社（春学期に購入済のもの） 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 外国語・外国語活動 東洋館出版社 {WEB 資料, https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r02032 }					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ・課題 1：毎回のコメントと授業貢献度 20 % [学習目標①に対応] ・課題 2：小テスト、課題 30 % ? [学習目標①に対応]					

	・課題3：教材研究発表 10% [学習目標②に対応] ・課題4：模擬授業発表（学習指導案含む） 20% [学習目標②に対応] ・課題5：レポート（総括振り返り） 20% [学習目標①、②に対応]	
22.コメント	「外国語」（春学期）では小学校英語教育の基礎理論と「外国語活動」（中学年）における実践的な指導方法・評価規準の設定について、「外国語の指導」（秋学期）では、「外国語」（春学期）で学習した内容をふまえて、「外国語」（高学年）における、より実践的な指導方法・評価規準の設定について学びます。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日昼休み センターオフィスアワー：秋学期は未定	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	・オリエンテーション：授業の進め方、学習の仕方など ・外国語活動、外国語科の役割と方向 テキスト pp.1-12	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第2回】	・聞くこと、話すこと テキスト pp.14-31 ・教室英語	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第3回】	・読むこと、書くこと テキスト pp.32-49 ・教室英語	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習、スモールトークの準備
【第4回】	・技能統合的な活動 ・母語を利用した「ことばへの気づき」活動 - テキスト pp.50-61 ・スモールトーク	復習：今回の復習及びノートの整理 予習：次回の予習、スモールトークの準備
【第5回】	・音声の指導 テキスト pp.98-110 ・スモールトーク	復習：今回の復習及びノートの整理 予習：次回の予習、 グループワーク：発表者はグループで発表準備
【第6回】	・語彙の指導 テキスト pp.111-123	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習、 グループワーク：発表者はグループで発表準備
【第7回】	・音声と文字の関係の指導（フォニックスの基礎） - テキスト pp.124-135	復習：第1回から第7回までの復習、中間テスト準備
【第8回】	・文字、単語、文の書き方の指導 - テキスト pp.136-147	復習：今回の復習 予習：次回の予習
【第9回】	・中間テスト ・文、文構造、文法の指導 テキスト pp.148-165（オンデマンド課題）	復習：今回の復習及びノートの整理 予習：次回の予習
【第10回】	・ライム、うた、絵本、児童用物語 pp.166-182	復習：今回の復習及びノートの整理 予習：次回の予習

		グループワーク：学習指導案(第1案)の作成 第11回に提出
【第11回】	・新3観点の評価作り ・国際理解と国際交流 pp.183-199	復習：今回の復習及びノートの整理 予習：次回の予習 グループワーク：模擬授業準備
【第12回】	・学習指導案の検討・修正 ・教材研究と教材開発の工夫 pp. 201-218	復習：今回の復習及びノートの整理 グループワーク：模擬授業準備、学習指導案 完成
【第13回】	・マイクロティーチング（模擬授業）（グループ 1）	復習：模擬授業に参加して、または模擬授業 を行って振り返り記入 グループワーク：模擬授業準備、学習指導案 完成 提出物：学習指導案（模擬授業者）
【第14回】	・マイクロティーチング（模擬授業）（グループ 2）	復習：模擬授業に参加して、または模擬授業 を行って振り返り記入 予習：次回の予習,レポート作成 第15回授業時に提出 提出物：学習指導案（模擬授業者）
【第15回】	・まとめ ・リフレクション（振り返り）	提出物：レポート

1.授業コード (ナンバリング)	PED324-A81	2.科目名	幼児理解		3.単位数	2
4.授業担当教員	椋田善之					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	無し					
17.授業の目的と概要	【目的】 1. 教師の行う教育相談の役割と特徴を理解し、教育相談の方法と理論を学ぶ。 2. 幼児教育現場における幼児の姿から発達を読み取り、その実態と問題を臨床的に捉え、その特徴や援助の在り方、保護者との連携についてのアセスメントを理解をする。 【概要】 フィールドワークやワークショップにより、子どもとのつながり方・理解や援助の仕方の原則を理解し、保護者との関係づくりや内外の資源と連携・支援のための知識と技能を習得する。					
18.学習目標と DPとの関連	幼稚園教諭免許に必要な幼児理解について、以下の①～③を本科目の到達目標とする。 ①基盤となる理論および幼児教育の特質との関連を理解する。 ②幼児理解の具体的な技法である、観察、面接、アセスメントの実際を理解し、身につける。 ③.幼児期の子どもやその保護者をめぐる多様な問題に対して、多面的かつ柔軟に 把握し、援助の方法が理解できる。					
19.教科書・教材	「親・保育者(せんせい)のための子育て・保育カウンセリングワークブック」 清水勇・阿部祐子著 学事出版					
20.参考文献	「子どもの理解と保育・教育相談」小田豊 秋田貴代美編 みらい					
21.成績評価	1 日ごとの振り 20 点×3 日 最終レポート 40 点					
22.コメント	幼稚園の現場の姿や、子どもの実態や保護者との関係づくりについてお話を伺い、幼児の観察・援助や保護者対応について悩みや解決にいたる考え方を深めます。 コロナにより現場での授業は中止します。 全てキャンパスで対面授業となります。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 令和 5 年 2 月 4 日(土)	保育における相談ニーズとカウンセリングマインド ・ 保育・教育相談の在り方と課題 ・ 保育に求められるカウンセリングマインド ・ 保育所・幼稚園における実際の保育・教育相談とは			教科書		
第 2 回 令和 5 年 2 月 4 日(土)	子どもの育ちと保護者支援 ・ 子育て不安 ・ 子育て困難 ・ 保護者の成長の場としての園 ・ 保護者の成長とは					
第 3 回 令和 5 年 2 月 6 日(月)	子どもの育ちを支える子ども理解と保育者の援助 1 子どもの育ちと子ども理解と保育者の援助の関係を理解する					

第4回 令和5年 2月6日(月)	子どもの育ちを支える子ども理解と保育者の援助2 子どもの育ちと子ども理解と保育者の援助の関係を理解する	
第5回 令和5年 2月6日(月)	子どもの発達とは 様々な発達	
第6回 令和5年 2月20日 (月)	発達障害の理解と保育1 発達障害の理解	教科書
第7回 令和5年 2月20日 (月)	発達障害の理解と保育2 発達障害の理解と保護者への対応	
第8回 令和5年 2月20日 (月)	3.4.5.歳児の乳児の発達をとらえる1 ・ 発達の課題と発達の過程 ・ 保育のなかでどのように発達をとらえるか	
第9回 令和5年 2月20日 (月)	保育者の相談場面でのカウンセリング技法の活用 1 保護者のクレームから考える ・ 受容・共感・自己一致 ・ 傾聴 の演習	
第10回 令和5年 2月20日 (月)	保護者支援 ・ 子育て支援 ・ 親育ち	
第11回 令和5年 2月21日 (火)	保育者のメンタルヘルス 1 ・ 保育者の実態と悩み	教科書
第12回 令和5年 2月21日 (火)	保育者のメンタルヘルス 2 ・ 保育者としての成長	
第13回 令和5年 2月21日 (火)	3.4.5.歳児の乳児の発達をとらえる 2 ・ 発達の課題と発達の過程 ・ 保育のなかでどのように発達をとらえるか	
第14回 令和5年 2月21日 (火)	事例を用いて幼児理解と保育者の専門的実践力について1 ・ 事例研究と演習	
第15回 令和5年 2月21日	事例を用いて幼児理解と保育者の専門的実践力について2 ・ 事例研究と演習	

(火)	まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	PED325-Y51	2.科目名	生徒・進路指導論（中・高）		3.単位数	2
4.授業担当教員	小松郁夫					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	授業を通じて、生徒指導と進路指導の在り方を学ぶことが目的です。 生徒指導は学校生活を充実させ、進路指導は将来を充実させる指導で、教職を志すための重要な教養となります。本授業では、生徒指導と進路指導学に関する知識を学び、グループワーク、ロールプレイングを行い、探究的に考えていきます。また、SDGs の 4 番目の目標の「質の高い教育をみんなに」も授業中にとりあげ、グローバルな教師像も検討します。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の目標は以下の通りです。 ①生徒指導について理解し、説明をできるようになる。 ②進路指導について理解し、説明をできるようになる。 ③生徒指導の問題について、課題設定とその解決をできるようになる。 ④進路指導を多面的な分析を交えて、行うことができるようになる。 ⑤グループワークなどで、傾聴と論理的な思考ができ、自分の意見を発信できるようになる。					
19.教科書・教材	その都度、資料を配付します。					
20.参考文献	文部科学省 「生徒指導提要」 横山明子編著「生徒指導・進路指導・キャリア教育論」図書文化社					
21.成績評価	以下のすべてについて、定められた期日・方法で提出することを条件とします。 各課題の内容、様式、提出方法は授業中に説明します。 配点は以下の通り。 ・最終課題（学習目標①に対応）40 点 ・中間課題（学習目標②に対応）30 点 ・グループワーク（学習目標③～⑤に対応）15 点 ・提出物 15 点					
22.コメント	大学生が持つ学校イメージは、出身校による影響があると思います。グループワークなどを通じて、各メンバーの経験を共有し、生徒指導と進路指導の在り方を考えられる授業を目指します。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室等で、受講生からの質問等に対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション（本授業の目標、内容、成績評価、受講上の留意点等） グループディスカッションで、各自の大学入学以前の学校生活などについて、感想を交換する。			予習：生徒指導、進学指導に関する新聞やインターネット上の記事を切り抜き、興味をもった理由をつけて提出できるようにしておく。		
第 2 回	講義「生徒指導の意義と課題」 「教育課程における生徒指導の位置付け」 活動：各メンバーの自分が受けた、進路指導について			復習：今回の講義の要点の整理確認 予習：指示されたポイントについて意見をまとめておく		

	て、情報を交換し、良い点と悪い点を共有。 予習で調べた記事と感想を提出。	
第3回	講義「集団指導と個別指導について」 生徒指導と進路指導の両面から考える グループワーク 学校における集団指導と個人指導の 必要性和目的を整理する。	予習：グループワークに備えて、やる気を引 き出す指導について、具体的な指導法を考え ておく。
第4回	活動「やる気を引き出す指導」 生徒から能動的な行動を引き出す方法について、検討 し、具体的方法をまとめて発表し共有する。	復習と予習：新しい指導法を一つまとめて文 章にしておく
第5回	活動：面談のロールプレイング 担任と生徒の教育相談の課題を設定し、各グループで 方針、共通理解について検討し、プレゼンを行い共有 する。	復習：要点の整理確認 予習： 次回の予習
第6回	講義「学校における生徒指導体制」 校内組織と指導の方針、理解、運営などについて学 ぶ。 中間課題の提示	復習：要点の整理確認 予習：中間課題の作成
第7回	講義「教育相談の意義」 活動：教育相談のロールプレイング 担任と生徒の相談事例から、教員と生徒とのかかわり 方を考える。 中間課題の提出	復習：要点の整理確認 予習：次回の予習
第8回	講義「生徒指導の進め方」 学級担任、ホームルーム指導について学ぶ。 組織的対応と関係機関との連携、教職員の役割、守秘 義務や説明責任等について学ぶ。	復習：要点の整理確認 予習： 自分が受けた進路指導についてまとめ ておく
第9回	講義「学校における進路指導について」 進路指導の歴史や変遷、最近の学校における生徒指 導・進路指導・キャリア教育について学ぶ。 活動：具体的な教育相談の課題を設定し、その解決に ついて考える。	復習：要点の整理確認 予習： 進路指導とキャリア教育の違いについ てまとめる。
第10回	講義「進路指導・キャリア教育の実践について」 進路指導からキャリア教育への変遷、多様とされる未 来を考えた、先進的であるとされるキャリア教育の事 例を紹介。 活動：自分の受けた進路指導、キャリア教育につい て、優れた点を評価し、共有する。	復習：要点の整理確認 予習：キャリアカウンセリングについて、調 べておく。
第11回	講義「ガイダンスとカウンセリングについて」 活動：キャリアカウンセリングのロールプレイングを	復習：要点の整理確認 予習：次回の予習

	通じて、スキルを学ぶ。	
第 1 2 回	講義「アセスメントについて」 進路指導に使われるアセスメントについて学ぶ。 中学校や高等学校で行われる進路指導について事例を紹介する。 活動：各学校の特長ある方法を題材に感想を共有する。	復習：要点の整理確認 予習：次回の予習
第 1 3 回	講義「生徒指導における法制度等」 生徒指導に関連する法律等の知識を学ぶ。 活動：法律的事例について検討し、感想をまとめる。 最終課題の提示。	復習：要点の整理確認 予習：最終課題の作成
第 1 4 回	活動：グループワーク SDGs の 4 番目の目標の「質の高い教育をみんなに」等、大きな視野から教師像を議論する。 最終課題の提出	復習：要点の整理確認 予習：SDGs について理解を深めておく。
第 1 5 回	活動：グループ面談 教師のやりがいや存在意義について共有。授業を振り返っての意見交換。 授業アンケートの実施	最終課題の提出 (グループ面談時に提出) 出欠の確認

1.授業コード (ナンバリング)	PED402-M01	2.科目名	特別活動の指導法		3.単位数	2
4.授業担当教員	松田忠喜					
5.授業科目の区分	教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科、経営学科、英コミ学科、社会学科			9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	中学社会、高校公民、中学英語、高 校英語、高校情報		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義科目		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 特別活動は、小・中・高・特別支援学校の教育課程に位置付く教育活動です。したがって、学校現場では、自分が担当する教科に関わらず、すべての教師が特別活動の指導にあたることになります。 そこで、本授業では、特別活動の教育的意義や目標・内容、指導法や評価の在り方等について理解し、実践的な指導力を身に付けるとともに、学びを今後の自己の生き方に生かすことができるようにします。 【概要】 近年、情報化・少子高齢化など急速な社会変化の中で、人間関係の希薄化が進み、子どもたちの自主性、社会性などを身に付ける機会が激減しています。そこで、多様な集団活動や体験活動を通して「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を育成する資質・能力の三つの視点とする特別活動の果たす重要な役割を追究します。 本授業では、新学習指導要領に基づいて授業を行います。一方的な講義ではなく、3 分間スピーチをはじめ、ともに考え・話し合う場や実際に学級会を行う実践的な活動など学生側の自主的、主体的な活動を織り交ぜながら、特別活動の指導法を身に付けていきます。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 特別活動の教育的意義を理解した上で、特別活動の目標を具現化する方法を明らかにし、実践的な指導力を身に付ける。 ?特別活動の教育的意義や目標・内容を列挙することができる。 ②模擬授業、具体的事例などを通して指導方法の在り方を探求し、実践に生かせる指導力を身に付けることができる。 ③自主的、主体的に授業に参加し、教育の今日的課題の解決に向けて、特別活動の果たすべき役割を説明できる。 【関連するディプロマ・ポリシー】 (1) 自律性 (4) 問題発見・解決力					
19.教科書・教材	21 世紀社会に必要な「生き抜く力」を育む 特別活動の理論と実践 第 3 版 中園大三郎・松田修 編著 学術研究出版 2000 円（税抜） ISBN 978-4-910733-90-6					
20.参考文献	?文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）」（東山書房・2017 年） ②文部科学省「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）」（東山書房・2018 年） ③文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編」（東山書房・2017 年） ④文部科学省「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 特別活動編」（東京書籍・2018 年）					

	⑤文部科学省「学級・学校文化を創る特別活動 中学校・高等学校編」（東京書籍・2023年） ⑥杉田洋 「よりよい人間関係を築く特別活動」（図書文化社 2009年）	
21.成績評価	評価に当たっては、上記 18 に示した学習目標②③の達成度を授業意欲・態度を含めて総合的に行います。 1. 評価の方法 ・毎回の振り返り内容、小レポート、最終レポート、授業での役割・活躍度等 2. 成績の配分 ・模擬授業、3 分間スピーチ、グループワーク、役割分担等の主体的な参加（学習目標②③に対応）【15%】 ・授業での提出物（小レポート）（学習目標②に対応）【20%】 ・毎授業後に記入して提出する「振り返り」の内容（学習目標②③に対応）【25%】 ・最終レポート（学習目標②③に対応）【40%】	
22.コメント	学校時代の思い出として特別活動（主に学校行事）を挙げる学生は多くいます。そこで、本授業では特別活動の教育的意義や価値をふまえ、生徒がよりよい学級・学校生活をめざして自主的、実践的に活動できるための効果的な指導・支援の在り方を学生のみなさんとともに考えていきます。 「なすことによって学ぶ」という特別活動の方法原理を理解するためにも授業に自主的、実践的に参加することを期待します。 特別活動を多面的多角的にとらえ、人としての在り方生き方を考えるため、原則として各授業の初めに「私と特別活動」というテーマで「	
23.オフィスアワー	授業前後の教室内 Eメールでの質問や連絡等	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション（本授業の目標・内容、進め方、評定算出方法の確認、受講上の留意点についてなど） ・3 分間スピーチの実施方法、振り返りカードの記入の仕方など ・特別活動とは（教育課程における特別活動の位置づけとその意義） ・なぜ特別活動が重要なのか ・学級経営や生徒指導と大きく関わる特別活動	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示）
【第 2 回】	・特別活動の歴史的変遷 ・【グループワーク】子どもたちを取り巻く現状と課題から見た特別活動への期待と役割	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示）
【第 3 回】	・特別活動に関わる指導理論 ・【グループワーク】特別活動の教育的意義	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示）
【第 4 回】	・特別活動の目標 ・特別活動の内容（学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示） 【レポート作成】特別活動の目標と内容 ＊手書きで作成し、第 11 回講義までに提出
【第 5 回】	学級活動・ホームルーム活動（1） ・目標・内容、全体計画・年間指導計画、指導上の留	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料

	意点	を事前提示) * 自分たちで話し合う「学級会の議題」を考えておく。
【第 6 回】	学級活動・ホームルーム活動（2） ・「話し合い活動」の指導ポイント ・【ディスカッション（話し合い）】：次回話し合う学級会の議題決定（合意形成の実際）	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示） 【宿題】学級会ノートの作成 * 作成したノートを次回の模擬授業で使用
【第 7 回】	学級活動・ホームルーム活動（3） ・【演習】模擬授業（学級活動・ホームルーム活動：話し合い活動「学級会」）	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示）
【第 8 回】	生徒会活動 ・目標・内容、指導計画、指導上の留意点	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示）
【第 9 回】	学校行事 ・目標・内容、指導計画、指導上の留意点	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示）
【第 10 回】	・特別活動と生徒指導 ・学級経営との関連 ・特別活動における人間形成と部活動 ・【グループワーク】生徒指導や学級経営に大きく関わる特別活動のあり方	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示）
【第 11 回】	・特別活動と各教科との関連 ・特別活動と総合的な学習（探究）の時間との関連 ・特別活動と道德教育	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示）
【第 12 回】	・特別活動におけるキャリア教育 ・言語活動の充実 ・学級活動・ホームルーム活動（話し合い活動）における指導案作成の実際	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示） 【宿題】学級会ノートの作成 * 作成したノートを次回の模擬授業で使用 【レポート作成】指導案作成 * 最終回までに WebClass から提出
【第 13 回】	学級活動・ホームルーム活動（4） ・【演習】模擬授業（学級活動・ホームルーム活動：話し合い活動とゲーム集会活動） ・最終レポート課題の提示と説明	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示） 【最終レポート作成】レポート課題の提示と作成
【第 14 回】	・特別活動の評価 ・家庭、地域社会、関係機関との連携	復習：今回の復習、授業ノートの整理 予習：次回の予習（教科書、WebClass で資料を事前提示） 【最終レポート作成】
【第 15 回】	・【グループワーク】これからの学校教育と特別活動 ・特別活動の指導法のまとめ	復習：今回の復習、授業ノートの整理 【最終レポート提出】

1.授業コード (ナンバリング)	PED403-A51	2.科目名	教職実践演習 (小)		3.単位数	2
4.授業担当教員	百瀬和夫、上山敏弘、梶正義、松尾和宣					
5.授業科目の区分	展開科目 小学校・特別支援教育 分野における実務経験 のある教員による授業 科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	小学校一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	○4年生の春学期まで履修状況が『履修カルテ』に記述済みであること ○小学校教育実習が履修済みであること ※これまでに学修してきた教職科目に関する成績等の記録が履修カルテに記述済みでありことを証明するために、履修カルテの印刷物の提出を1限目に求めます。					
17.授業の目的と概要	○学習指導について、模擬授業、ロールプレイ、授業参観、学習指導案研究等により授業力を高める。 ○学級経営において、現職教員の講話、実践事例研究、グループによる演習等により指導実践力を高める。 ○学校の服務、校務分掌などの実際について知り、社会性を身に付ける。 ○特別支援などの知見から、子ども理解・指導理解を深め、対人関係能力(対応力)を高める。					
18.学習目標と DPとの関連	DPに基づく学習目標は以下の通りである。 (6) 専門的知識・技能の活用力：大学生活での学びの総まとめとして履修カルテを活用し、これまでの知識や経験をさまざまな演習を通して統合し、生きた実践力を高める。 (1) 自律性：自分で設定した目標の実現に向けて、積極的に取り組み、やり遂げられるまで継続することができる。 (5) コミュニケーションスキル：他者との相互理解を深めながら、社会のために主体的に行動することができる。					
19.教科書・教材	適宜案内する					
20.参考文献	適宜案内する					
21.成績評価	①小レポート (2 回) …20% ②中レポート (1 回) …15% ③大レポート (1 回) …20% ④学級経営案・指導案の作成 の作成 …20% ⑤履修カルテの完成 …25%					
22.コメント	○教職を目指してきた皆さんにとって、まさに大学生活の学びの集大成です。これまで得た知識と経験をこの演習で統合し、教職に向けて実力を養いましょう。					
23.オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み (メールで確認)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回目】	オリエンテーション (全体) ※全体が入る教室の割り当てのため、時間と教室変更			○今日の学びのふり返りとまとめ (120 分)		

	の可能性があります。 ○9 月末時点での、未登録者のグループ分けについては、履修登録完了後、9F 研究室前に貼りだします。 ○教育実践演習のねらいについて ○履修カルテを元に、自己の課題を確認する。	
【第 2 回目】	サービスと教育活動① ○校務全般についての理解 ・校務分掌 ・職員組織 ・地域と学校等	○今日の学びの振り返りとまとめ（120 分）
【第 3 回目】	サービスと教育活動② ○着任から始業式までの動きと準備 ・学級編成 ・学級開きの準備	○着任の挨拶の作成（120 分）
【第 4 回】	サービスと教育活動③ ○始業式から PTA 総会まで ・授業開き ・授業参観 ・学級懇談会等の動きと準備 ○授業開きの案作成	○小レポート：これまでの学びの振り返りとまとめ作成（270 分）⇒提出次回
【第 5 回目】	生徒指導・生活指導① ○実践事例研究：「いじめ」の問題と対応 ○ロールプレイ	○今日の学びの振り返りとまとめ（120 分）
【第 6 回】	生徒指導・生活指導② ○実践事例研究：「体罰」の問題と対応 ○ロールプレイ	○今日の学びの振り返りとまとめ（120 分）
【第 7 回】	生徒指導・生活指導③ ○実践事例研究：「苦情」の問題と対応 ○ロールプレイ ○保護者理解、地域理解を含めて	○小レポート：これまでの学びの振り返りとまとめ作成（120 分）⇒提出次回
【第 8 回】	現場の小学校長の話を聞く（全体） ※全体が入る教室の割り当てのため、時間と教室変更の可能性がります。 ○「若い教師に期待するもの（仮題）」	○中レポート：講話のまとめ作成（120 分）⇒提出次回
【第 9 回】	学級経営と学習指導① ○学級経営における「学級目標」について考える ○グループワークでの討議	○今日の学びの振り返りとまとめ（120 分）
【第 10 回】	学級経営と学習指導② ○「朝の会」「終わりの会」「当番活動」「係活動」等、「学級活動」について考える ○グループワークでの討議	○今日の学びの振り返りとまとめ（120 分）

【第 1 1 回】	学級経営と学習指導③ ○「学習規律」、「学習のルール」について考える ○模擬授業 ○グループワークでの討議	○学級経営案の作成（270 分）⇒提出次回
【第 1 2 回】	児童理解と授業づくり① ○特別支援教育の知見をいかした児童理解 ○グループワークでの討議	○今日の学びのふり返りとまとめ（120 分）
【第 1 3 回】	児童理解と授業づくり② ○特別支援教育の知見をいかした指導理解 ○グループワークでの討議	○今日の学びのふり返りとまとめ（120 分）
【第 1 4 回】	児童理解と授業づくり③ ○指導案の作成 ○グループワークでの討議	○指導案の仕上げ（120 分）⇒提出次回
【第 1 5 回】	これまでの学びの総まとめ ※全体が入る教室の割り当てのため、時間と教室変更の可能性あります。 ○大レポートの作成	○「学校現場に向けて！」大レポートの仕上げ（270 分）

1.授業コード (ナンバリング)	PED403-A55	2.科目名	教職実践演習（小） ※水 2 登録不可者		3.単位数	2
4.授業担当教員	百瀬和夫					
5.授業科目の区分	展開科目 小学校・特別支援教育 分野における実務経験 のある教員による授業 科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件	小学校一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	○4 年生の春学期まで履修状況が『履修カルテ』に記述済みであること ○小学校教育実習が履修済みであること ※これまでに学修してきた教職科目に関する成績等の記録が履修カルテに記述済みでありこと を証明するために、履修カルテの印刷物の提出を 1 限目に求めます。					
17.授業の目的と概要	○学習指導について、模擬授業、ロールプレイ、授業参観、学習指導案研究等により 授業力を高める。 ○学級経営において、現職教員の講話、実践事例研究、グループによる演習等により 指導実践力を高める。 ○学校の服務、校務分掌などの実際について知り、社会性を身に付ける。 ○特別支援などの知見から、子ども理解・指導理解を深め、対人関係能力（対応力） を高める。					
18.学習目標と D P との関連	DP に基づく学習目標は以下の通りである。 (6) 専門的知識・技能の活用力：大学生活での学びの総まとめとして履修カルテを活用し、これ までの知識や経験をさまざまな演習を通して統合し、生きた実践力を高める。 (1) 自律性：自分で設定した目標の実現に向けて、積極的に取り組み、やり遂げられるまで継 続することができる。 (5) コミュニケーションスキル：他者との相互理解を深めながら、社会のために主体的に行動す ることができる。					
19.教科書・教材	適宜案内する					
20.参考文献	適宜案内する					
21.成績評価	①小レポート（2 回） …20% ②中レポート（1 回） …15% ③大レポート（1 回） …20% ④学級経営案・指導案の作成 の作成 …20% ⑤履修カルテの完成 …25%					
22.コメント	○教職を目指してきた皆さんにとって、まさに大学生活の学びの集大成です。これまで得た知 識と経験をこの演習で統合し、教職に向けて実力を養いましょう。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回目】	オリエンテーション（全体） ※全体が入る教室の割り当てのため、時間と教室変更			○今日の学びのふり返りとまとめ（120 分）		

	の可能性があります。 ○9 月末時点での、未登録者のグループ分けについては、履修登録完了後、9F 研究室前に貼りだします。 ○教育実践演習のねらいについて ○履修カルテを元に、自己の課題を確認する。	
【第 2 回目】	サービスと教育活動① ○校務全般についての理解 ・校務分掌 ・職員組織 ・地域と学校等	○今日の学びの振り返りとまとめ（120 分）
【第 3 回目】	サービスと教育活動② ○着任から始業式までの動きと準備 ・学級編成 ・学級開きの準備	○着任の挨拶の作成（120 分）
【第 4 回】	サービスと教育活動③ ○始業式から PTA 総会まで ・授業開き ・授業参観 ・学級懇談会等の動きと準備 ○授業開きの案作成	○小レポート：これまでの学びの振り返りとまとめ作成（270 分）⇒提出次回
【第 5 回目】	生徒指導・生活指導① ○実践事例研究：「いじめ」の問題と対応 ○ロールプレイ	○今日の学びの振り返りとまとめ（120 分）
【第 6 回】	生徒指導・生活指導② ○実践事例研究：「体罰」の問題と対応 ○ロールプレイ	○今日の学びの振り返りとまとめ（120 分）
【第 7 回】	生徒指導・生活指導③ ○実践事例研究：「苦情」の問題と対応 ○ロールプレイ ○保護者理解、地域理解を含めて	○小レポート：これまでの学びの振り返りとまとめ作成（120 分）⇒提出次回
【第 8 回】	現場の小学校長の話を聞く（全体） ※全体が入る教室の割り当てのため、時間と教室変更の可能性がります。 ○「若い教師に期待するもの（仮題）」	○中レポート：講話のまとめ作成（120 分）⇒提出次回
【第 9 回】	学級経営と学習指導① ○学級経営における「学級目標」について考える ○グループワークでの討議	○今日の学びの振り返りとまとめ（120 分）
【第 10 回】	学級経営と学習指導② ○「朝の会」「終わりの会」「当番活動」「係活動」等、「学級活動」について考える ○グループワークでの討議	○今日の学びの振り返りとまとめ（120 分）

【第 1 1 回】	学級経営と学習指導③ ○「学習規律」、「学習のルール」について考える ○模擬授業 ○グループワークでの討議	○学級経営案の作成（270 分）⇒提出次回
【第 1 2 回】	児童理解と授業づくり① ○特別支援教育の知見をいかした児童理解 ○グループワークでの討議	○今日の学びのふり返りとまとめ（120 分）
【第 1 3 回】	児童理解と授業づくり② ○特別支援教育の知見をいかした指導理解 ○グループワークでの討議	○今日の学びのふり返りとまとめ（120 分）
【第 1 4 回】	児童理解と授業づくり③ ○指導案の作成 ○グループワークでの討議	○指導案の仕上げ（120 分）⇒提出次回
【第 1 5 回】	これまでの学びの総まとめ ※全体が入る教室の割り当てのため、時間と教室変更の可能性あります。 ○大レポートの作成	○「学校現場に向けて！」大レポートの仕上げ（270 分）

1.授業コード (ナンバリング)		PSY101-A51	2.科目名		心理学概論Ⅰ	3.単位数		2
4.授業担当教員		木原香代子						
5.授業科目の区分		基礎科目	6.必修・ 選択の区分		必修	7.開講学期・ 年度		2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻		教育福祉学科子ども学専攻 教育福祉学科福祉学専攻				9.履修学年		1 年生～
10.取得資格の要件					11.先修条件			
12.研究室		※※※			13.電話番号		※※※	
14.E-Mail Address		※※※			15.授業形態			
16.履修制限								
17.授業の目的と概要		【目的】 現代の心理学は知覚、認知、発達、社会、パーソナリティーなどさまざまな領域においてそれぞれの世界観をもちつつ、研究が行われている。心理学を概観する際には、それぞれの領域のどの部分が共通し、どの部分が異なるのかを理解することが重要であると考えられる。それぞれの領域の問題意識と方法論を学ぶことによって、人の心の働きを理解していくことを目的とする。 【概要】 基礎的な領域を中心に心理学の理論や研究方法について講義する。心理学が扱う問題と日常生活で感じる問題とをリンクさせながら、心理学がわれわれの行動を解明するためにどのような役割を担っているのかについて説明していく。						
18.学習目標と DPとの関連		本科目の学習目標は以下の通りである。 ①心理学の基本的な研究方法と理論を説明することができる。 ②心理学それぞれの領域の理論や現象を説明することができる。 ③日常生活でみられるさまざまな現象を心理学の理論と結びつけることができる。 [関連するディプロマポリシー] (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力						
19.教科書・教材								
20.参考文献		『グラフィック心理学』北尾倫彦ほか（著），サイエンス社 1997 年 『サイコロジー事始め』金児暁嗣（編），有斐閣 2003 年 『心理学 新版（New Liberal Arts Selection）』無藤隆ほか（著），有斐閣 2018 年						
21.成績評価		点数の配点は以下の通りである。合計 60 点以上で合格となる。 (1) 小テスト（40%）：毎回の講義後に実施する小テスト (2) 最終課題（60%）：最終週の授業で実施する総括試験 学習目標①②③に対応して、基本概念や語句を理解しているかを問う問題を出す。						
22.コメント		皆さんがイメージする心理学と、学問としての心理学とではギャップを感じるかもしれない。しかしながら心理学が扱う問題は、日常生活で感じる問題とリンクしていることが多い。心理学がわれわれの行動を解明するためにどのような役割を担っているのかについて、自分の生活と照らし合わせながら理解するとよいだろう。						
23.オフィスアワー								
24.授業回数		25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)		
1 回目		【授業の概要と導入、心理学の歴史と方法】 心理学とはどんな学問だろうか				【予習】 シラバスを読む（授業外学習） 【復習】 授業ノートの整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）		
2 回目		【心と脳】				【予習】		

	心は身体のどこにあるのだろうか	インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
3 回目	【子どもの発達】 ヒトに生まれ、「人」になること	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
4 回目	【青年期・中年期・老年期】 青年期以降の発達	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
5 回目	【感覚と知覚】 この世界を感じ、意味づけること	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
6 回目	【学習】 経験から学び、行動を変えること	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
7 回目	【記憶のしくみ】 覚えることと忘れること	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
8 回目	【記憶方略】 よりよく覚えるためには	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）

9 回目	【日常記憶】 日常生活における記憶の機能	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
10 回目	【思考と言語】 考えることのしくみ	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
11 回目	【感情と動機づけ】 喜怒哀楽と意欲をめぐって	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
12 回目	【パーソナリティ】 心の個人差と適応を知る	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
13 回目	【社会的認知】 他者を知ることのしくみ	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す（授業外学習） 【復習】 授業ノートを整理する（授業外学習） 小テストを実施する（宿題）
14 回目	【人間関係】 人と人が向き合うとき	【予習】 インターネットなどを活用し、テーマに関連したニュースやトピックスを探す 【復習】 授業ノートを整理する 小テストを実施する
15 回目	【総括試験】 総括試験とふりかえり	【予習】 総括試験の準備をする（小テストの復習、ノートの整理）

1.授業コード (ナンバリング)	PSY108-A51	2.科目名	教育心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉村啓子					
5.授業科目の区分	専攻必修基幹	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育・保育コース			9.履修学年	1 年	
10.取得資格の要件	保育士資格：選択必修 幼稚園教諭免許状、小学校教諭免許 状：教職に関する科目必修		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	この科目は、教育における心理学的な法則や事実を理解し、効果的な教育を展開するために必要 な教育心理学の基本的な知識を得ることを目的とします。具体的には、①学習活動、②被教育 者の特徴、③教育効果の評価と測定です。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解（4）問題発見・解決力 （6）専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①様々な学習活動について理解し、説明できるようになる。 ②被学習者の特徴について理解し、個々にあった教育を提案できるようになる。 ③学修における評価の意味を理解し、評価の方法を考えることができるようになる。					
19.教科書・教材	「ガイドライン学校教育心理学」ナカニシヤ出版					
20.参考文献	授業中に指示する					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 小テスト：30 点 〔学習目標①、②に対応〕 小課題：10 点 〔学習目標①、②に対応〕 課題（教育心理学のテスト作成）：20 点 〔学習目標③に対応〕 総括テスト：40 点 〔学習目標①、②、③に対応〕					
22.コメント	講義形式が中心ですが、受け身にならないように積極的に参加してください。					
23.オフィスアワー	水曜日 2 限目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 回目	教育心理学とは何か一近接する学問領域 t の関連 教科書 p 2- p 4 参照			【復習】小テストのための準備 【予習】教科書 p30 を読み、疑問点などを書 く。		
2 回目	学習について：条件づけ			【復習】小テストのための準備 【予習】教科書 p31 を読み、疑問点などを書 く。		
3 回目	学習について：条件づけ、試行錯誤、観察学習、洞察 など			【復習】小テストのための準備 【予習】教科書 p32 を読み、疑問点などを書 く。		
4 回目	動機付け一内発的動機、外発的動機			【復習】小テストのための準備 【予習】教科書 p42、p46 を読み、疑問点など を書く。		
5 回目	学習指導法一教室で見られる授業形態の多様性を理解 する。			【復習】小テストのための準備 【予習】教科書 p43-44、 p 47 を読み、疑問点 などを書く。		
6 回目	発見学習、有意味受容学習、アクティブラーニング			【復習】小テストのための準備		

	について	【予習】教科書 p5-7、p 14-23 を読み、疑問点などを書く。
7 回目	被教育者の特性—発達的な違い	【復習】小テストのための準備 【予習】教科書 p66-69 を読み、疑問点などを書く。
8 回目	被教育者の特性—パーソナリティーの違い	【復習】小テストのための準備 【予習】教科書 p36-37 を読み、疑問点などを書く。
9 回目	知能検査と知能指数	【復習】小テストのための準備 【予習】教科書 p60-64 を読み、疑問点などを書く。
10 回目	人間関係と学級集団	【復習】小テストのための準備 【予習】教科書 p93-94 を読み、疑問点などを書く。
11 回目	不適応について	【復習】小テストのための準備 【予習】教科書 p50-54 を読み、疑問点などを書く。
12 回目	評価の種類と方法	【復習】小テストのための準備 【予習】教科書 p65 を読み、疑問点などを書く。
13 回目	評価のゆがみ、評価する際の留意事項	【復習】教育心理学のテストを作成するための準備 【予習】教科書 p52-53 を読み、疑問点などを書く。
14 回目	教育心理学のテストを作る。 1 回目から 13 回目までの授業内容を踏まえ、教育心理学のテストを作る。	【復習】総括テストのための学習
15 回目	教育に必要な統計の基礎知識	【復習】総括テストのための学習

1.授業コード (ナンバリング)	PSY113-Y51	2.科目名	災害心理学Ⅰ (2023 年度生・2024 年度生)		3.単位数	2						
4.授業担当教員	太田裕彦											
5.授業科目の区分	【基幹科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期							
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	1 年							
10.取得資格の要件			11.先修条件									
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※								
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義								
16.履修制限												
17.授業の目的と概要	この授業では、災害心理学で扱う問題の中から、特に災害の種類と特徴について学び、これまで社会はどのように災害と向き合ってきたかについて考える。また、災害発生に関係する人間の心理的特性についても理解を深める。											
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)のうち、2.社会や他者に能動的に貢献する姿勢、4.問題発見解決力、6.専門的知識技能の活用の学修に関連する。 本科目の学習目標は次の通りである。 ①災害にはどのようなものがあるか説明できる ②災害時の心理について基礎的な事項を説明できる ③災害後の心理的問題について、基礎的な事項を説明できる ④災害時の支援のあり方の基本について説明できる ⑤被災時の自己や他者との関わり方について、我が身に引きつけて理解している											
19.教科書・教材	特に指定しない											
20.参考文献	適宜紹介する											
21.成績評価	<table border="0"> <tr> <td>①各授業におけるミニレポート</td> <td>52%</td> </tr> <tr> <td>②最終レポート</td> <td>48%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100%</td> </tr> </table>						①各授業におけるミニレポート	52%	②最終レポート	48%	合計	100%
①各授業におけるミニレポート	52%											
②最終レポート	48%											
合計	100%											
22.コメント												
23.オフィスアワー												
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)								
第 1 回	オリエンテーション 本授業のねらいや進め方等について説明する			各回の授業終了後、自分なりの気づき・疑問あるいは過去の体験のもつ意味などをミニレポートとして WebClass から入力・提出すること								
第 2 回	安全・安心・災害			各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。								
第 3 回	災害の種類と範囲			各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。								
第 4 回	自然災害と環境 (1)			各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。								
第 5 回	自然災害と環境 (2)			各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。								
第 6 回	自然災害と環境 (3)			各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。								
第 7 回	災害時の心理的特性 (認知バイアス 1)			各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。								

第 8 回	災害時の心理的特性（認知バイアス 2）	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 9 回	災害時の心理的特性（パニック・失見当識）	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 10 回	災害時の心理的特性（うわさ・風評被害）	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 11 回	認知バイアスの克服に向けて	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 12 回	災害情報の問題	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 13 回	防災教育の問題	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 14 回	被災者の支援	最終総括試験に向けて第 2～14 回までの内容について復習をしておく
第 15 回	最終レポート作成に向けて	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY114-Y51	2.科目名	心理学研究法Ⅱ（2023 年度生・2024 年度生）		3.単位数	2
4.授業担当教員	沼田真美					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	心理学は、心の働きを科学的に探求する学問である。目に見えない「心」を測定する、人の心を科学的、客観的にとらえるということはどういうことか、そのプロセスの理解は非常に重要である。本授業では、研究法の中でも特に調査法に関する知識およびスキルを身につけることを目的とする。また、統計的仮説検定や研究論文作成など、今後の心理学の学習および研究に必要なスキルの獲得も目指す。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 与えられた課題に対し、先行研究を収集し、特定の科学的データ収集を設計・実施できる。 具体的には、心理学研究法のうち、主に質問紙調査法の手法に対する理解を深め、仮説の設定やデータ分析を通して、卒業論文に向けて実践的な学びを身に着けることを目標とする。					
19.教科書・教材	各回ウェブクラスを通して資料を配布する					
20.参考文献	授業内で適宜紹介する					
21.成績評価	・各回の小課題 60％ ・最終レポート 40％ ※詳細は授業時に説明する					
22.コメント	沼田の担当するセンターオフィスアワーには、心理学研究法Ⅱの不明点等があれば、適宜回答する。 ※心理学研究法Ⅱは必修科目であるため、卒業するためには必ず単位を取得する必要がある。 ※					
23.オフィスアワー	初回授業内でお伝えします					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	【第 1 回】オリエンテーション					
	【第 2 回】研究倫理とは					
	【第 3 回】実験法 1：実験を体験してみよう					
	【第 4 回】実験法 2：方法部分を書いてみよう					
	【第 5 回】実験法 3：問題と目的部分を書いてみよう					
	【第 6 回】実験法 4：結果部分を書いてみよう					
	【第 7 回】実験法 5：考察と引用文献を書いてみよう					
	【第 8 回】調査法 1：質問紙調査とは・調査へ参加してみよう					
	【第 9 回】調査法 2：個人テーマを決めてみよう					
	【第 10 回】調査法 3：質問紙の作成					
	【第 11 回】調査法 4：グーグルフォームを作成しよう					
	【第 12 回】調査法 5：調査前の内容確認と修正					

	【第 13 回】調査法 6：データ処理と入力・分析前の下準備	
	【第 14 回】調査法 7：分析の実施・結果のまとめ	
	【第 15 回】最終レポートの作成	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY116-Y51	2.科目名	学習・言語心理学 (2024 年度生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	公認心理師 認定心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】					
	学習心理学および言語心理学に関する基礎知識を学ぶ。 特に、条件づけは行動療法の理論的基礎となっているので重視する。					
	【概要】					
	心理学において学習とは、経験によって生じる比較的永続的な心の変化を意味する。 学習は人間だけでなく、様々な生物に見られる現象であり、動物を用いた研究も紹介する。 言語は人間と人間以外の生物を隔てるものであり、言語の獲得について解説する。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】					
	(1)経験を通して人の行動が変化する過程を説明できる。 (2)言語の習得における機序について概説できる。					
	【関連するディプロマポリシー】					
	(3)多様性理解 (4)問題発見・解決力 (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	講義資料を適宜配布する。					
20.参考文献	中島 定彦 (2020). 学習と言語の心理学 昭和堂 郷式 徹・西垣 順子 (2019). 学習・言語心理学——支援のために知る「行動の変化」と「言葉の獲得」—— 川畑 直人・大島 剛・郷式 徹 (監修) 公認心理師の基本を学ぶテキスト ミネルヴァ書房 楠見 孝 (編) (2019). 学習・言語心理学 野島 一彦・繁樹 算男 (監修) 公認心理師の基礎と実践 遠見書房					
21.成績評価	(1)各回課題 50% (2)総括試験 50%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜昼休み ＊メールで事前に連絡をしてください。上記時間以外も対応可です。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション			授業内容の復習		
【第 2 回】	生得的行動・初期学習・順化			授業内容の復習		
【第 3 回】	古典的条件づけ (1)			授業内容の復習		
【第 4 回】	古典的条件づけ (2)			授業内容の復習		
【第 5 回】	オペラント条件づけ (1)			授業内容の復習		
【第 6 回】	オペラント条件づけ (2)			授業内容の復習		
【第 7 回】	さまざまな学習 (1)			授業内容の復習		
【第 8 回】	さまざまな学習 (2)			授業内容の復習		
【第 9 回】	言語の諸相 (1)			授業内容の復習		

【第 10 回】	言語の諸相（２）	授業内容の復習
【第 11 回】	言語の獲得（１）	授業内容の復習
【第 12 回】	言語の獲得（２）	授業内容の復習
【第 13 回】	学習と言語の障害	授業内容の復習
【第 14 回】	総復習	授業内容の復習
【第 15 回】	総括試験	授業内容の復習

1.授業コード (ナンバリング)	PSY201-A51	2.科目名	精神保健学 ※こども学 3 年～ 福祉学 2 年～		3.単位数	2
4.授業担当教員	松本恵美子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	こども学 3 年～ 福祉学 2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 保育士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	①近年、人々の生活はだんだんとストレスフルになり、精神保健はますます現代人にとって身近な問題となっている。その状況を踏まえ、精神保健の歴史と成り立ちからその意義について学ぶ。 ②精神保健を自分自身の問題ととらえ直したうえで、まずは、精神医学的な知識をしっかりと学び、身近なものとする。 ③精神医学、心理学、社会福祉学等、関連領域の理論が統合された学習をすることで、人間の精神病理の成り立ちと対応につて理解する。 ④精神保健の法・制度などのシステムについて学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマポリシーの 1) 自立性、3) 多様性理解、6) 専門的知識・技能の活用力の k 週に関連する ①精神疾患についての知識を深める ②誰もが精神的な病理を経験する可能性があることを理解し、心の病に苦しむ人の立場に立ち、問題解決のために、共に寄り添い、歩むための共感性及び精神を持てるようになる。 ③精神疾患に関する予防から治療に至るまでのシステムを理解し、情報を使いこなせるようになる。					
19.教科書・教材	指定しない。 必要に応じて資料配布する。					
20.参考文献	適時、紹介する					
21.成績評価	①講義終了時の小レポート (1 %×15 回) 15 %・・・学習目標②に対応 ②アサインメントのレポート (5 %×4 回) 20 %・・・学習目標①③に対応 ③疾病別パンフレットの作成(グループ別) 25 %・・・学習目標①③に対応 ④振り返り・総括試験 40 %・・・振り返り・総括					
22.コメント	精神障害は、3 障害の中で最も長く厳しい差別の対象として残存し、サポートの内容は貧弱なままに放置されてきたといってよい。今こそ、精神障害について正しい理解を身に付け、誰もがなりうる疾患という認識の下、精神保健が社会システムの中で果たすべき役割について、しっかりと考え、学んでほしいと思う。 そして精神を病んで生きると言うことがどれほど過酷なことなのかを十分に理解し、寄り添えるような専門性を身に付け、精神障害者の真のサポーターとして育ててほしい。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	* あなたの、精神病に対する”本音”を見ってみる * 精神保健を学ぶにあたって 我が国で「心の病気」が広まりつつあるといわれているが、その状況はどのようになっているのか、具体的なデータを使ってみてみ			?レポート① 「精神障害」という言葉に対するイメージと理解について		

	る。	
第 2 回	* 精神医療の歴史について学ぶ ・ 西洋と日本の精神医学の歴史、精神障害者に対する人権意識の変遷について学ぶ。 ・ この過程はとりもなおさず、精神障害者に対する差別の変遷について理解することにつながる、この学びの過程で自分の中の差別意識をしっかりと確認する。 ★レポート① 提出締め切り	○授業で出てきた、私的看護、人権侵害など、明確に理解しておくべきと感じた用語について調べる。
第 3 回	* 脳及び神経の発達について ・ 脳の発達と、脳各部位の機能について知る ・ 特に脳の器質性の疾患について理解する。	?調査（フィールドワーク） グループに分れて、メンバーの居住区の区役所を訪問し、精神障害者に対する福祉制度について調査する。
第 4 回	* 精神医学の概念について 精神医学は人間の精神現象とその障害を扱う学問である。 その学問の方法としては自然科学的な検査等と、人文科学的、心理療法等の側面を持つ。 この二つの流れを統合することで精神医学の世界を理解する。 * 診断法について 精神障害に関する診断は、医学、社会学、心理学等、あらゆる情報から総合的に判断する。 これらさまざまな診断のためのツールや理論について学ぶ。	?レポート② 先週の調査の結果を、各自レポートにまとめる ★次週提出 ?プレゼンテーション準備 各グループで、先週の調査の結果をまとめ発表できるように準備しておく PP の作成 ★次週発表
第 5 回	* プレゼンテーション 地域での精神保健サービスについての調査結果を発表する (各グループ) * 代表的な精神疾患Ⅰ 代表的な精神疾患の状態像について、3 回に分けて学ぶ。 1 回目は、統合失調症、双極性障害、依存などについて。	?生活史のとり方についてグループごとに練習をしておく。 そのうえで、どのような点が難しかったのか、どのような工夫がいたと感じたのかなど、発表できるよう準備しておく
第 6 回	* プレゼンテーション 問診の難しさについて感じたことについて発表する（2 名） * 代表的な精神疾患Ⅱ 神経症、ストレス、摂食障害、人格障害、精神遅滞など	?調査（フィールドワーク） グループに分かれて、メンバーの居住区にある保健所に出向いて、アルコール依存症に対する取組みについて聞き取り調査をする。

	について学ぶ	
第 7 回	* 代表的な精神疾患 III 情緒障害、自閉症スペクトラム障害、A D H D、行為障害、PTSD など、比較的新しい概念について学ぶ。	?レポート③ 先週の聞き取り調査の結果を、各自レポートにまとめる。 ★次週提出 ?発表準備 次週グループごとに調査結果を発表できるよう、準備をしておく。 ★次週発表
第 8 回	* プレゼンテーション アルコール依存患者への取り組みについて、調査結果を発表する。(全グループ) * 治療法Ⅰ 薬物療法を中心とした、身体的治療法を学ぶ。色々なヘルスケア水準での精神療法について学ぶ。 ★レポート③ 提出締め切り	?地域における精神衛生活動について調べておく
第 9 回	* 治療法Ⅱ 精神科リハビリテーションの内容と、地域サポートの在り方について学ぶ	?精神病院見学に際して知りたいこと、質問したいことを整理して、準議しておく。
第 1 0 回	* 精神病院見学実習 実際に病院を訪れ、病院における精神科治療の状況《デイケア、ナイトケアなどの福祉的援助や救急対応の状況なども含めて）を実際に体験し、学修する機会とする。	?フィールドワーク 見学の結果をレポートのまとめて提出する ★次週提出 ?発表準備 見学実習の感想を発表できるよう準備しておく ★次週発表
第 1 1 回	* プレゼンテーション 病院見学実習の学びについて発表（3人） * 病院精神医療 病院精神医療は、地域精神医療への大きな転換を迫られている。 しかし、病院精神医療の必要性を否めない状況が一方にある。 今後の病院精神医療の在り方について考える。 * 精神科救急医療について 精神科救急医療の需要は年々高まるばかりであるが、その背景を知り、精神科救急医療の在り方について学ぶ。	?文献調査 グループごとに、精神障害者の社会適応や就労支援についてどのような機関がどのように支援をしているのか(地域での精神障害者支援)について文献調査をする ?発表準備 地域での精神障害者支援について調査した結果を、グループごとにまとめ、発表準備をしておく。 ★次週発表
第 1 2 回	* プレゼンテーション 地域での障害者支援について調査した結果を	○なぜ、日本では精神科救急医療が未熟なままであったのか、その背景について、自分な

	表する（全グループ） * 地域精神保健について 精神障害者医療・福祉は地域精神科医療・福祉へと、その流れを大きく変えてきている。この流れを支える福祉システム、医療制度について学ぶ。	りに考察してみる。
第 1 3 回	* 心の病気についてのパンフレットづくり I ・ 1 グループ 1 疾患について、一般の人が読んで、その疾患について理解できるようなパンフレットを作る ・ 発表用の PP を作成する ◆PC を持参すること	?グループごとに、パンフレットと PP を完成させる（
第 1 4 回	* 心の病気についてのパンフレットづくり II ・ 出来上がったパンフレットについてグループごとに発表 ・ それぞれに、受けたコメントを反映させてパンフレットの加筆修正を行う ◆PC 持参	?パンフレットを完成させる ★次週提出 ?レポート⑤ 「精神保健について学んで、感じた事」をテーマにレポート作成。 ★次週提出
第 1 5 回	* 学びの振り返り * 総括試験 ★レポート⑤ 提出 ★パンフレット、PP 提出	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY202-Y52	2.科目名	心理学研究法 (2022 年度生以前 秋春通年)		3.単位数	4
4.授業担当教員	沼田真美、斎藤元幸					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期～2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	心理学は、心の働きを科学的に探求する学問である。目に見えない「心」を測定する、人の心を科学的、客観的にとらえるということはどういうことか、そのプロセスの理解は非常に重要である。本授業では、各研究法に関する知識およびスキルを身につけることを目的とする。特に後半では、実験法と調査法に焦点をあてて学ぶ。また、統計的仮説検定や研究論文作成など、今後の心理学の学習および研究に必要なスキルの獲得も目指す。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 与えられた課題に対し、先行研究を収集し、特定の科学的データ収集を設計・実施できる。 後半では、実験法および質問紙調査法の手法に対する理解を深め、仮説の設定やデータ分析を通して、卒業論文に向けて実践的な学びを身に着けることを目標とする。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	『公認心理師スタンダードテキストシリーズ 4 心理学研究法』 監修 下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 編著 三浦麻子・小島康生・平井啓 ミネルヴァ書房					
21.成績評価	【心理学研究法 1】 ・各回小課題 50％ ・中間レポート 25％ ・期末レポート 25％ 【心理学研究法 2】 ・各回小課題 60％ ・最終レポート 40％					
22.コメント	○春学期・心理学研究法 1○ 斎藤の担当するセンターオフィスアワーには、心理学研究法Ⅰの不明点等があれば、適宜回答する。 ○秋学期・心理学研究法 2○ 沼田の担当するセンターオフィスアワーには、心理学研究法Ⅱの不明点等があれば、適宜回答する。 ※心理学研究法は必修科目であるため、卒業するためには必ず単位を取得する必要がある。※					
23.オフィスアワー	初回授業内でお伝えします					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	【第 1 回】オリエンテーション 【第 2 回】実験法 1					

	【第 3 回】実験法 2 【第 4 回】実験法 3	
	【第 5 回】調査法 1 【第 6 回】調査法 2	
	【第 7 回】調査法 3 【第 8 回】中間レポート記入	
	【第 9 回】観察法 1 【第 10 回】観察法 2	
	【第 11 回】観察法 3 【第 12 回】面接法 1	
	【第 13 回】面接法 2 【第 14 回】面接法 3	
	【第 15 回】期末レポート記入 【第 16 回】ガイダンス、心理学研究法Ⅰの振り返り	
	【第 17 回】実験法①：実験を体験してみよう 【第 18 回】実験法②：実験を振り返ってみよう	
	【第 19 回】実験法③：方法の確認と記述 【第 20 回】実験法④：結果の確認と分析・記述	
	【第 21 回】実験法⑤：問題と目的の確認と記述 【第 22 回】実験法⑥：考察と引用文献の確認と記述	
	【第 23 回】調査法①：調査法の確認と個人テーマ決め 【第 24 回】調査法②：質問紙の作成	
	【第 25 回】調査法③：グループ分けとグループフォームへの入力 【第 26 回】調査法④：調査実施前の確認・データ取得	
	【第 27 回】調査法⑤：データ処理と入力 【第 28 回】調査法⑥：分析の実施	
	【第 29 回】調査法⑦：結果のまとめ 【第 30 回】最終レポートについて	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY209-Y51	2.科目名	心理学実験		3.単位数	4
4.授業担当教員	沼田真美、斎藤元幸、堀尾強					
5.授業科目の区分	基幹	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年次以上	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件	心理学研究法		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義及び演習		
16.履修制限	心理学研究法の単位が取得できていることが必須条件 1 回目の授業に出ていない場合は履修登録できない クラス分けを行うので、必ず自分のクラスで受講すること					
17.授業の目的と概要	この科目では、心理学の基礎的な実験、調査、検査について学ぶ。 具体的には、以下の課題を行う a ミュラーリヤーの錯視 b 鏡映描写 c 系列位置効果（語の記銘）課題 d ストループ効果 e パーソナル・スペース f 心的回転 について、研究の目的を明確にし、調査項目を手続きに落とし込んだ企画をたて、実験の実施から、データの集計、統計処理、得られた結果の解釈をまとめて報告書に作成するまでのプロセスを学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	与えられた課題に対し適切な科学的データ収集を設計・実施できることを目指す。 具体的には以下のことを達成する。 ①目的にそった実験手続きの企画立案ができる。 ②実験結果の集計と、SPSS を駆使した分析ができる。 ③問題発見から、問題解決までの過程を論理的に明確な報告書にすることができる。					
19.教科書・教材	各実験ごとに WEBCLASS で資料を配布する					
20.参考文献	各回で適宜紹介する					
21.成績評価	実習ごとにレポートを課す。 基本的に提出は各検査・実験完全終了の翌週とするので、決められた期限までに提出すること。 大・小課題では学習目標①②③を問う。 ・大課題（レポート）：80％ ・小課題（随時）：20％					
22.コメント	履修希望の学生は必ず最初の授業に出席して下さい。 グループ分けを初回ガイダンスでお知らせしますので、そのグループで授業を受けてください。 配当グループで参加しない場合、成績がつけられません。 一度でも欠席すると各実験・課題遂行が極めて困難となるため、必ず授業へ出席して下さい。 最低限のパソコン操作（Excel、Word、文献検索など）を身に着けていること 実習作業が多く、終了しない場合は授業外学習を求める 統計学Ⅰを習得済みであることを前提に授業を進める					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

	1 ガイダンス（全員対象） SA が入る	
	2 授業の進め方などの説明 SA が入る	
	3 回目以降は 3 つのクラスに分けて、授業の目的に示した a-f の 6 つの課題をクラス別を実施する。 3 課題 1 の説明 4 課題 1 の実施	レポート作成（180 分）
	5 課題 1 の集計とデータ処理 6 課題 1 の考察とレポート作成	レポート作成（180 分）
	7 課題 2 の説明 8 課題 2 の実施	レポート作成（180 分）
	9 課題 2 の集計とデータ処理 10 課題 2 の考察とレポート作成課題	レポート作成（180 分）
	11 課題 3 の説明 12 課題 3 の実施	レポート作成（180 分）
	13 課題 3 の集計とデータ処理 14 課題 3 の考察とレポート作成	レポート作成（180 分）
	15 これまでのふりかえり 16 後半の説明	レポート作成（180 分）
	17 課題 4 の説明 18 課題 4 の実施	レポート作成（180 分）
	19 課題 4 の集計とデータ処理 20 課題 4 の考察とレポート作成課題	レポート作成（180 分）
	21 課題 5 の説明 22 課題 5 の実施	レポート作成（180 分）
	23 課題 5 の集計とデータ処理 24 課題 5 の考察とレポート作成	レポート作成（180 分）
	25 課題 6 の説明 26 課題 6 の実施	レポート作成（180 分）
	27 課題 6 の集計とデータ処理 28 課題 6 の考察とレポート作成	レポート作成（180 分）

	29 全体のまとめ (SA が入る) 30 総ふり返し (SA が入る)	レポート作成 (180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	PSY210-Y51	2.科目名	感情・人格心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	沼田真美					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士，公認心理師			11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】人間の性格，人格，感情に関する基礎理論を学ぶことを目的とする。 【概要】われわれ人間はひとりひとり違う存在であり、それぞれ個別のユニークな性質（＝個性）を持っている。「人格／性格／パーソナリティ」は、「個性」を意味するだけでなく、対人関係のあり方やその人をとりまく文化、社会的環境や、無意識の力動性などに関わりながら成立している。さらに、人間の一つ一つの行動には感情が大きく影響している。感情はどのようにして生じ、制御するためにはどうすればよいのか理解することも人間理解には必要となる。本講義では、人格／性格／パーソナリティとは何かを考えるために、まずその成り立ちや理論的背景を学ぶ。さらに、感情の生起に関する理論や制御の方法について学ぶことを通して自己理解および他者理解を深めていく。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業は DP（ディプロマ・ポリシー）のうち多様性理解，専門的知識技能の活用力が学修に関連しています。 ①人格をめぐる諸理論を学ぶとともに、このことを通して自己理解、他者理解を深める ②感情に関する諸理論を学び、感情が行動に及ぼす影響について理解する。 ③学んだ知識を整理するとともに、それらを他者にも理解しやすい表現で伝えることができる					
19.教科書・教材	適宜 WEBCLASS にアップする					
20.参考文献	馬場禮子著『精神分析的人格理論の基礎』岩崎学術出版社 河合隼雄 【著】 『ユング心理学入門』，培風館／岩波現代文庫 島義弘著『パーソナリティと感情の心理学』サイエンス社 小塩真司著『はじめて学ぶパーソナリティ心理学－個性をめぐる冒険』ミネルヴァ書房					
21.成績評価	1. 各回の小課題：50％（目標①②③に該当） 2. 総括試験：50％（目標①②③に該当）					
22.コメント	【注意】 初回授業時に授業概要と受講の注意点を説明します。各自シラバスをかならず持参してください。 ※下記スケジュールは、シラバス公開後に変更になることがあります。必要に応じて授業中にアナウンスを行いますので、注意してください。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：初回授業でお知らせします ＊オフィスアワー以外でも相談・質問を受けます。ウェブクラスのメール等でご連絡ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション			・ 感想レポートの提出		
【第 2 回】	人格の概念及び形成 ・ 人格，性格，気質等について ・ 遺伝要因，環境要因について			・ 授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・ 感想レポートの提出		
【第 3 回】	特性論（オールポートとアイゼンク）と類型論（クレッチマー）			・ 授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・ 感想レポートの提出		
【第 4 回】	類型論（ユングのタイプ論）			・ 授業内容を整理し、ノートにまとめる。		

		・感想レポートの提出
【第 5 回】	性格特性を測定する ・ 性格の 5 因子論 (NEO-PI-R) ・ YG 性格検査	・ 授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・ 感想レポートの提出
【第 6 回】	心の構造 (フロイト) 1) 構造論と局所論 2) 心的装置	・ 授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・ 感想レポートの提出
【第 7 回】	発達過程と人格形成 ・ フロイトの発達理論 ・ エリクソンのライフサイクル理論	・ 授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・ 感想レポートの提出
【第 8 回】	マラーの分離個体化理論 ピアジェの発達理論 スターンの情動調律	・ 授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・ 感想レポートの提出
【第 9 回】	<中間テスト> パーソナリティ障害の種類と概要	・ 授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・ 感想レポートの提出
【第 10 回】	パーソナリティ障害の理解と対応	・ 授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・ 感想レポートの提出
【第 11 回】	感情の概念と理論 ・ 感情、情緒、気分について ・ 感情にまつわる古典的理論	・ 授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・ 感想レポートの提出
【第 12 回】	感情をコントロールすることの重要性 ・ 感情が行動に与える影響について ・ アンガーマネジメント	・ 授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・ 感想レポートの提出
【第 13 回】	自律訓練法の理論と実践	・ 授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・ 感想レポートの提出
【第 14 回】	マインドフルネスストレス逓減法 ・ 理論と実際の活用例 ・ 実際の体験	・ 授業内容を整理し、ノートにまとめる。 ・ 感想レポートの提出 ・ 感情と行動の関係性に関するレポートの提出
【第 15 回】	<総括テスト>	・ 理解できていなかった点について、授業ノ ートを使って復習し、次年度以降の学びに備 える。

1.授業コード (ナンバリング)	PSY211-Y51	2.科目名	健康・医療心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	道免逸子					
5.授業科目の区分	【基幹科目】臨床心理分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	公認心理師受験資格に必要な認定心理士指定科目		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この講義の目的は、健康増進という課題の中で臨床心理の視点をどのように役立てられるか、自分の考えが持てるようになることである。 健康心理学という比較的新しい分野が扱う諸問題を概観し、ストレスとその影響や予防と健康増進の意義について学ぶ。授業の中で、対象者の理解度や状態に応じて、適宜グループワークも実施する。					
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の 1.自律的で意欲的な態度、2.社会に能動的に貢献する姿勢、6.専門知識・技能の活用力に関連している。 本科目の学習目標は次の通りである。 ① 健康心理学とはどういう学問であるかわかっている ② ストレスとその影響について説明できる ③ ストレス対処法についての基本が身についている ④ 予防と健康増進の意義について説明できる ⑤ 健康増進に役立つ臨床心理の視点を持っている					
19.教科書・教材						
20.参考文献	授業中に適宜紹介する。					
21.成績評価	毎回のコミュニケーションシート 4 × 13 52% 中間振り返り 24% 総括テスト 24%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー： 水曜 昼休み センターオフィスアワー： 金曜 昼休み 学修支援センター					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス 健康心理学とは			コミュニケーションシートの提出		
第 2 回	ストレス（1）ストレスの生理と影響			コミュニケーションシートの提出		
第 3 回	ストレス（2）ストレスコーピング、アセスメント			コミュニケーションシートの提出		
第 4 回	ストレス（3）災害時における心理支援			コミュニケーションシートの提出		
第 5 回	保健活動における心理的支援（1）依存症、認知症など			コミュニケーションシートの提出		
第 6 回	保健活動における心理的支援（2）食や睡眠に関連した問題			コミュニケーションシートの提出		
第 7 回	中間ふりかえり			コミュニケーションシートの提出		
第 8 回	医療現場における心理（1）			コミュニケーションシートの提出		
第 9 回	医療現場における心理（2）			コミュニケーションシートの提出		

第 10 回	医療現場における心理（3）	コミュニケーションシートの提出
第 11 回	子どもの心理（1）発達障害、愛着障害など	コミュニケーションシートの提出
第 12 回	子どもの心理（2）小児期逆境体験	コミュニケーションシートの提出
第 13 回	子どもの心理（3）いじめ	コミュニケーションシートの提出
第 14 回	コミュニティ心理学とアウトリーチ	コミュニケーションシートの提出
第 15 回	総括テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY212-Y51	2.科目名	社会・集団・家族心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件	司法・犯罪心理学、臨床心理学概論、特に産業・組織理学などの専門科目を履修済みであることが望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義形式であるが、理解促進のために適宜グループワークや簡易な実験を行うことがある。		
16.履修制限	人数が過多の場合、抽選を実施する					
17.授業の目的と概要	社会・集団・家族心理学は、人間と社会のかかわりに関するありとあらゆるテーマを対象にした学問です。そのため、私たちの生活に密接にかかわる内容を様々に含んでいます。社会心理学の知見は日常生活での経験にはじまり、日々報じられる様々な事件や社会問題を考えたり、意味づけたりする助けになります。 【授業概要】 本科目では、人間の行なう多面的な社会行動を、個人の行動レベル、対人相互作用における行動レベル、小集団での行動レベルなどの側面から考察し、人間の社会行動の一般法則を明らかにしようとするものである。具体的には、社会的認知、社会的感情、態度と行動、対人コミュニケーション、対人魅力、親密な人間関係、集団の心理学などを取り扱う。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の (1) 自律性 (2) 社会的貢献性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①個人の態度や行動決定に関する基本的知識が説明できる。 ②対人関係や集団における人の意識および行動について基本的知識を説明できる。 ③家族、集団および文化が個人に及ぼす影響に関する基本的知識を説明できる。 ④"①②③"の知識をもとに問題を発見し、具体的な解決策を提示することができる。					
19.教科書・教材	脇本竜太郎（編） 2023. 「基礎からまなぶ社会心理学 第2版（ライブラリ基礎からまなぶ心理学 4）」 サイエンス社. (本体¥2,585)					
20.参考文献	①山岸俊男 「社会心理学キーワード（有斐閣双書—KEYWORD SERIES）」 有斐閣. ②土肥伊都子（編） 「自ら挑戦する社会心理学」 保育出版社. ③松田幸弘（編） 「人間関係の社会心理学」 晃洋書房.					
21.成績評価	・ 授業毎ミニレポート：30% （各回の理解度を測るため、専門用語等の解説を求める：学習目標①②③④を問う） ・ 中間テスト：30% （前半の知識の定着度を測る：学習目標①④を問う） ・ 期末テスト：40% （後半の知識の定着度を測る：学習目標②③④を問う）					
22.コメント	※人数の把握をしたいので、履修希望学生は初回までに履修登録を必ず済ましておいてください。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【第 1 回】 ガイダンス・社会心理学とは何か 授業内容・学習目標・授業の進め方などを説明す			講義内容を復習する。		

	る。 社会心理学とはどのような学問かを理解する。	
第 2 回	【第 2 回】社会的認知:様々なものごとに対する推論と判断① 社会的認知に関する基本的な考え方、用語を学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 3 回	【第 3 回】社会的感情：感情の機能と役割 感情・気分の役割について学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 4 回	【第 4 回】態度と説得？ 態度がどのように形成され、変化するのかを学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 5 回	【第 5 回】態度と説得？ 態度がどのように形成され、変化するのかを学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 6 回	【第 6 回】社会的自己 ”自分”に関する知識、イメージがどのようにつくられるのか学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 7 回	【第 7 回目】公正さに関する心理 公正・不公正なものごとに対する心理について学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 8 回	【第 8 回】ふりかえり①・中間試験 前半のまとめ、および中間試験を行う。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 9 回	【第 9 回】対人行動 援助行動と攻撃行動の生起メカニズムについて学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 10 回	【第 10 回】対人関係 友人関係から親密な関係への移行の心理、関係性の中で生じる心理について学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 11 回	【第 11 回】受容と排斥 他者からのサポートと、排斥が及ぼす影響について学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 12 回	【第 12 回】集団の中の個人 集団に所属することが我々にどのような心理的影響を与えているか学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 13 回	【第 13 回】集団間関係の心理学① 集団間葛藤を中心に関係悪化の過程について学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 14 回	【第 14 回】集団間関係の心理学② 集団間葛藤を中心に関係悪化の解決法について学ぶ。	講義資料・教科書の該当箇所を熟読し、復習する。
第 15 回	【第 15 回】ふりかえり②・期末試験 全体のまとめ、および期末試験を行う。	予習：試験にむけて総復習をおこなう。

1.授業コード (ナンバリング)	PSY214-Y51	2.科目名	災害心理学（2020～2022 年度生 秋春通 年）		3.単位数	4
4.授業担当教員	道免逸子、太田裕彦					
5.授業科目の区分	【基幹科目】	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期～2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 前半は太田担当で 2024 年度秋学期に授業を 15 週分行う。 後半は道免担当で 2025 年度春に授業を 15 週分行う。		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業の目的は、被災者、被害者、及び援助者の心理的諸問題についての専門的理解を深め、こうした問題への対処法を身につけることである。 授業の概要は以下のようなものである。まず災害心理学で扱う問題について全体像を掴み、災害発生時の心理、発生後の心理について学ぶ。また、災害の種類と特徴について学び、これまで社会はどのように災害と向き合ってきたかについても考察する。これらの知識、理解をもとに、被災者、被害者、及び援助者の心理的問題への対処法を身につける。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)のうち、2.社会や他者に能動的に貢献する姿勢、4.問題発見解決力、6.専門的知識技能の活用の学修に関連します。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①災害にはどのようなものがあるか説明できる ②災害時の心理について基礎的な事項を説明できる ③災害後の心理的問題について、基礎的な事項を説明できる ④災害時の支援のあり方の基本について説明できる ⑤被災時の自己や他者との関わり方について、我が身に引きつけて理解している					
19.教科書・教材	特に指定しない					
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	【前半（太田）】50％ ①各授業におけるミニレポート（13 回分）26％ ②前半総括レポート 2 回～13 回の内容 24％ 【後半（道免）】50％ ①各授業における小レポート 7 回 35％ ②期末試験 16 回～2 8 回の内容 15％					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜日昼休み（道免） センターオフィスアワー：金曜日昼休み 山手 1 号館学習支援室（道免）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 本授業のねらいや進め方等について説明する			各回の授業終了後、自分なりの気づき・疑問 あるいは過去の体験の捉え直しなどをミニレ ポートとして WebClass から入力・提出する こと		
第 2 回	安全・安心・災害					

第 3 回	災害の種類と範囲	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 4 回	自然災害と環境（１）	
第 5 回	自然災害と環境（２）	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 6 回	自然災害と環境（３）	
第 7 回	災害時の心理的特性（認知バイアス 1）	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 8 回	災害時の心理的特性（認知バイアス 2）	
第 9 回	災害時の心理的特性（パニック・失見当識）	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 10 回	災害時の心理的特性（うわさ・風評被害）	
第 11 回	認知バイアスの克服に向けて	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。
第 12 回	災害情報の問題	
第 13 回	防災教育の問題	各回のミニレポートとして WebClass から入力・提出すること。また第 15 回の間試験に向けて第 2～14 回までの内容について復習をしておく
第 14 回	被災者の支援	
第 15 回	前半総括レポート作成に向けて： 第 2 回～14 回までの内容を踏まえた総括レポートの作成について説明する	
第 16 回	後半部分のオリエンテーション	
第 17 回	過去の災害とそこから始まったもの	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。内容は、授業の中で大事だと思ったこと、なぜそう思ったか、について。
第 18 回	災害が直接心身に及ぼす影響 1	
第 19 回	災害が直接心身に及ぼす影響 2	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。
第 20 回	災害が直接心身に及ぼす影響 3	
第 21 回	災害が間接的に心身に及ぼす影響 1	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。
第 22 回	災害が間接的に心身に及ぼす影響 2	
第 23 回	災害の中・長期的影響 1	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。
第 24 回	災害の中・長期的影響 2	
第 25 回	災害の多角的視点	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。
第 26 回	サイコロジカル・ファーストエイド 1	
第 27 回	サイコロジカル・ファーストエイド 2	毎回授業の終わりに、webclass よりコミュニケーションシートを提出する。
第 28 回	災害支援と援助者のケア	

第 29 回	心的トラウマ後成長（PTG）	第 30 回の総括試験に向けて第 16～28 回までの内容について復習をしておく
第 30 回	総括テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY305-Y51	2.科目名	環境心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	太田裕彦					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	環境心理学は人間と環境との関係を研究するわけであるが、さまざまな学問分野にまたがる学際的領域である。本講義ではまず環境心理学の成立過程や諸理論・方法論を概説する。その後は環境心理学の広大な領域から代表的な研究対象を取り上げて解説していく。					
18.学習目標と DPとの関連	1) 環境と人間の関係性そのものに気づき、考えられるようになること 2) 環境の持つ客観的物理的な特性と、その環境に対して人間が抱く主観的心理的な特性との間にどのような差異があるかを理解できるようになること					
19.教科書・教材	必要に応じて資料を配布する。					
20.参考文献	朝倉心理学講座 1 2 「環境心理学」 佐古順彦・小西啓史編 2007 年 その他、必要に応じて紹介する。					
21.成績評価	ミニレポート（第 2～14 回の 13 回分）		52%			
	最終総括試験		48%			
	合計 100%					
22.コメント	私たちが生きて活動していく上で絶対に切り離せないのが「環境」です。普段当たり前になっていて気付かないこの環境に気付き、いろいろと考えて見てください。あなたの生活がきっと違ってくることでしょう。 授業の中で必要に応じてグループワークを行い、他者との交流の中から視点を広げていってもらうことも考えています。 なお各回の授業の終了時にミニレポートを書いてもらいますが、そこに気付きや疑問などをどしどし書いてください。次回の授業において取り上げて解説します。授業改善にもつなげます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)			
第 1 回	オリエンテーション 本講義のねらいや進め方、評価法などについて説明する。		○個人ワーク：今回の授業に関する復習<150 分>。以下第 14 回まで同様。			
第 2 回	環境心理学とは何か 環境心理学は学際的領域である。その成立の歴史的背景や対象となる広範な問題について概説する。		今回の授業終了後、気づきや疑問、あるいは過去の体験のとらえなおしをミニレポートとして WebClass から提出すること。第 14 回まで同様。			
第 3 回	環境心理学の視点と方法 環境心理学において採用される主な視点や理論、また方法について概説する。					
第 4 回	環境認知 人間は環境をどのようにとらえているか。環境認知のあり方について考える。					

第 5 回	空間行動（１） 人間と空間との相互作用の過程で現れるさまざまな行動について、なわばりやパーソナルスペースの観点からとらえる。	
第 6 回	空間行動（２） 同上。	
第 7 回	環境評価（１） 景観の問題を中心に、我々が環境を評価するとはどういうことなのか考える。	
第 8 回	環境評価（２） 同上。	
第 9 回	生態学的心理学 環境心理学の初期から重要な観点を提供する生態学的心理学を取り上げ、今後の展望を探る。	
第 10 回	住環境 住まうことを居住環境の観点から考える。	
第 11 回	教育環境 学習環境の代表として学校環境を取り上げ、教育環境の特性と問題を考える。	
第 12 回	職場環境 労働環境の代表例としてオフィス環境を取り上げ、その特性や諸問題について考える。	
第 13 回	地球環境問題（１） 地球規模の環境にかかわる諸問題について取り上げる。	
第 14 回	地球環境問題（２） 地球規模の環境にかかわる諸問題について取り上げる。	○個人ワーク：最終試験に向けて第 2～14 回の授業内容を中心に、授業全般の復習＜960 分＞
第 15 回	最終総括試験の実施	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY313-Y51	2.科目名	捜査心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山誠					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学部心理学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件	司法犯罪心理学または応用犯罪心理学の単位 を取得したか、履修中であること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	犯罪捜査における供述心理学（容疑者の取調べ）、心理学を活用した科学捜査としてのポリグラフ検査、犯罪者プロファイリング、犯罪者のパーソナリティと障害について学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	現代の犯罪捜査の方法について理解し、その実践方法を学ぶ ① 犯罪捜査においては、容疑者と取調官間でラポールの形成に始まり、良好なコミュニケーション技術を駆使して行うことが、容疑者の自供を引き出し、事件の真相を明らかにするうえで重要かを理解し、その手法について学ぶ ② 科学捜査の手法（ポリグラフ検査、犯罪者プロファイリング）の方法について学ぶ ③ 過去に起きた重要事件を事例を通じて、その背景、原因・理由、犯行の経緯を読み解き、犯罪の立証するために、心理学のどのような知見が利用されているかを理解する					
19.教科書・教材						
20.参考文献	資料を配付する					
21.成績評価	・グループ 20%：取り調べに必要な心理学的手法についてグループ討議を行う。 ・レポート 20%：わが国で実施されているポリグラフ検査の質問方法、反応パターン、日米の違いなどについてまとめる ・期末試験 60% ・実験参加：生理反応を測定する卒業研究、学会発表に向けた実験に参加したものには1回につき、若干の加点をする					
22.コメント	(0) 司法犯罪心理学を履修していないと内容の理解は困難と考えたほうが良い (1) レポート作成に当たって a. レポートに引用する文献は、図書館にある専門書や学術雑誌を利用し、その際、出典を明確にしておくこと b. ネットは一次検索として用いるのはかまわないが、なるべく公的機関のホームページなどの情報に基づくこと 出所が不明確、無責任で根拠のない匿名記事は決して引用しないこと c.専門知識+自分の考え 前提となる理論を明らかにした上で自分の考えについても述べること 理論に基づかない、自分の単なる思い					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	ガイダンス					
	取調べの心理学 供述心理学について学ぶ					
	供述心理学 2 自供に至る心理過程について学ぶ					

	取り調べの可視化、司法面接	
	生理心理学がもたらす科学捜査（ポリグラフ検査） ① 死刑求刑事件	
	生理心理学がもたらす科学捜査（ポリグラフ検査） ② 松本清張の「霧の旗」に類した冤罪を訴えた事件	
	ポリグラフ検査 我が国と諸外国の違い	
	FBI方式とリバプール方式の犯罪者プロファイリングとは？ 職人型刑事の経験と勘に依存したプロファイリングと統計学型プロファイリング	
	地理的プロファイリング 強姦事件のプロファイリング事例	
	科学捜査が解決に導いた事例 強姦殺人事件をめぐる事例報告	
	神戸連続児童殺傷事件における挑戦状のプロファイリング そして酒鬼薔薇聖斗が少年院を出たあとの「絶歌」に書かれたことは？	
	障害に伴う実母殺人未遂事件(1) 「真実の口」に書かれた犯行動機	
	障害に伴う実母殺人未遂事件(2) 犯行シナリオと女子高校生のブログについて	
	障害に伴う殺人事件 偏差値の高い男子高校生が実際に体験してみないと気が済まなかった殺人の殺人の責任応力に関する判決について説明する	
	振り返りと最終試験	

1.授業コード (ナンバリング)	PSY314-A51	2.科目名	こども発達学		3.単位数	2
4.授業担当教員	多田智栄子					
5.授業科目の区分	教育福祉学科こ	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年生から	
10.取得資格の要件	小学校一種 認定心理士 保育士 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	・ こども発達学では、乳幼児期から青年期に入るまでの子どもの「様子」について学修していきます。 ・ 生まれてきてからの発達をみていくうえでのポイントがあります。 一つ一つ丁寧にみていく必要がありますが、その中でも重要なイベントをいくつかピックアップして発達を考えていきましょう。 ・ 授業の中では、幼児期と児童期に焦点をあてます。 現代を生きる子供たちを理解するためには、生物・心理・社会的観点等からの理解が必要です。 授業の中では、知的な発達や対人関係と人格などとの 関係、学習、メンタルヘルス・・・ など を切り口に考えていきましょう。					
18.学習目標と DPとの関連	・ こども発達学の授業での学習（身につくスキル）は次の通りです。 ①子どもを理解するうえで、今、現在を生きる子どもの姿を「発達」を基盤にして説明ができるようにします。 …現代社会の特徴を学び、子供を取り巻く社会環境とその影響についても理解する必要があります。 ②幼児期と児童期の子供の成長・発達について、身体の成長、知的な発達、対人関係の発達から説明ができるようにします。 …特に「子どものパーソナリティと対人関係の発達」については、向社会的行動を支えるもの、ということにも注目していきます。 ③子どもの発達と学習について、動機づけ理論等から説明ができるようにします。 …学習にも関連させて学びます。学習上のつまずきも考えます。 ④子どもをサポートする観点から、子どもの心の特徴やその発達について説明できるきるようにします。 …子どもの心の発達について、メンタルヘルス、レジリエンスなどについて考えていきます。 精神分析から見た子どもの心の特徴を知りましょう。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します。					
	「児童心理学」や「発達心理学」などで読みやすい本があればみんなで共有しましょう。紹介して下さい。					
20.参考文献	・ 伊藤亜矢子（編著） 2011 エピソードでつかむ児童心理学 ミネルヴァ書房 ・ アニメから読み解く臨床心理学 ・ 無藤隆 他（編）2017 よくわかる発達心理学 第2版 ミネルバヴァ書房					
21.成績評価	以下の内容で評価を行います。 ・ 中間テスト…20 点（学習内容の①・②に対応します） 2 週間前にお知らせします。 ・ 課題レポート…2×10 点（学習内容の②と③に対応します） 2 週間前にお知らせします。					

	・ 期末テスト…60 点（学習内容の①・②・③・④に対応します）	
22.コメント	・ アニメから見る子ども発達学…として絵本やアニメ「ちびまる子ちゃん」「NARUTO」などを取り上げて学びたいとも考えています。絵本やアニメを「こども発達学」的に読みとるとどのような解説ができるか、楽しみにしててください。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・ オリエンテーションで学習の目標や内容についての共通理解をします。 - 自分は何を何を学ぶのかの目標やゴールを確認しましょう。 ・ 絵本から子供の心を理解します。子どものところに戻ってみましょう 「地球からのしつもん」 「なんだろうなんだろう」など	・ 現代社会の特徴を調べてきます。 ・ ・ S D G s について調べておきましょう ・ 子どもの貧困をキーワードとします。
【第 2 回】	・ 現代に生きる子どもについて学習します。 1 - SDG s を考えます。 … 貧困の問題 - 格差社会などなどから 「現代に生きる世界の子ども」の姿を理解します。	復習」 ・ 貧困と子供についてまとめておきましょう。
【第 3 回】	現代に生きる子どもについて学習します。 2 - 学習 1 から - 私たちは何を目指していくのか - 私たちにできることは何か（何から始めるか）などを議論しましょう	・ 現代社会の子供の姿について、自分でキーワードを見つけてまとめておきます。
【第 4 回】	災害などによる子どもたちの健康と発達の保障について考えます - 子どもたちの生活変化と健康や発達での変化を考えましょう ・ PFA など学びます	・ 現代の多忙な子どもたち、と題してまとめをしておきましょう。
【第 5 回】	・ 幼児期・児童期の子供の成長について考えましょう。① - 子どもの知的な発達について学びます。 …子どもの「世界についての理解の発達」について調べていきましょう。	「復習」 ・ 虐待やネグレクトなどと合わせて、子どもの成長や発達に及ぼす影響についてまとめておきましょう。
【第 6 回】	・ 幼児期・児童期の子供の成長について考えましょう。？ - 子どもの知的な発達について学びます。 …子どもの「発達の臨界期」について調べていきましょう。 - ヴィゴツキーの考え方も取り入れていきます。	・ 幼児期・児童期での子供の知的な発達での特別なイベントを一つ取り上げてまとめておきましょう。
【第 7 回】	幼児期・児童期の子供の成長について考えましょう。③ ・ 子どもの対人関係の発達について考えていきましょう。 …向社会的行動を支えるものは何か考えましょう。 - アニメ「サザエさん」「プリキュア」「NARUTO」な	「復習」 ・ 子どもの発達のつまずき」について経験的にをまとめておきましょう。

	どをこども発達学的に読み解いてみましょう。 キーワードは「多様性・共感的な人間関係」	
【第8回】	子どもの発達と学習について考えます ① ・学習の「つまずき」から学習方法、メタ認知、等について学びましょう。	「復習」 ・自分の児童期をイメージして「世界が広がった」と考えられるイベントを思い出してまとめてみましょう。
【第9回】	子どもの発達と学習について考えます ？ ・動機づけについて考えていきましょう。理論的な背景をおさえておきます。 ・動機づけを左右するものは何かを考えましょう。 ・セルフ・ハンディキャッピングとは何かについて知ります。	「復習」 ・「ちびまる子ちゃん」「サザエさん」の子どもの登場人物の行動を学修した「動機づけ」から考えてみよう
【第10回】	子どもの発達と学習について考えます③ ・教師と子どもの人間関係について学びます。 …教師が学級に対して持っている願いや指導（保育）は、学級内の人間関係や学級文化の構築に大きく影響を及ぼします。教師自身、保育者自身の子どもたちへの認知を知ることが大事です。その方法について学びましょう。	「復習」 ・「危機管理」の授業の必要性を考えてまとめてみましょう。
【第11回】	減災について学びます ・減災の考えから子どもたちにできること、子どもたちができることを学びます。 ・減災の授業を組み立てます。	「予習」 ・「愛着」について調べておきましょう。子供に特化してみます。
【第12回】	「愛着」について学びます。1 ・幼児期・児童期の重要なイベントとして愛着について考えていきましょう。 …幼児期や児童期だけでなく障害にわたって見られる心の問題から考えていきます。 児童精神分析から見た子どもの心の特徴を学びましょう。	「復習」 子どものメンタルヘルスについて、関心を持った部分についてまとめておきましょう。
【第13回】	子どもをサポートすることについて学びます。2 ・幼児期・児童期のメンタルヘルスについて考えていきましょう。 …子どもの心の発達について、事例を基にして理解しましょう。	「予習」 ・学習のまとめをしておきます。学習の目標を理解しておきます。
【第14回】	総括試験 ・学習のまとめをします。学習の目標を総括します。	「予習」 ・子どもの人権について、幼稚園・学校場面で考えてみましょう。人権は何？
【第15回】	学習の振り返りに合わせて、子供の人権について考えます。 ・子どもの人権についてを事例から考えます。	「復習」 ・学習の振り返りをします。学習到達目標を見直ししながら、理解をしましょう。

1.授業コード (ナンバリング)	PSY316-Y51	2.科目名	学習・言語心理学（2023 年度生以前）		3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件	公認心理師 認定心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 学習心理学および言語心理学に関する基礎知識を学ぶ。 特に、条件づけは行動療法の理論的基礎となっているので重視する。 【概要】 心理学において学習とは、経験によって生じる比較的永続的な心の変化を意味する。 学習は人間だけでなく、様々な生物に見られる現象であり、動物を用いた研究も紹介する。 言語は人間と人間以外の生物を隔てるものであり、言語の獲得について解説する。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 (1)経験を通して人の行動が変化する過程を説明できる。 (2)言語の習得における機序について概説できる。 【関連するディプロマポリシー】 (3)多様性理解 (4)問題発見・解決力 (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	講義資料を適宜配布する。					
20.参考文献	中島 定彦（2020）. 学習と言語の心理学 昭和堂 郷式 徹・西垣 順子（2019）. 学習・言語心理学——支援のために知る「行動の変化」と「言葉の獲得」—— 川畑 直人・大島 剛・郷式 徹（監修）公認心理師の基本を学ぶテキスト ミネルヴァ書房 楠見 孝（編）（2019）. 学習・言語心理学 野島 一彦・繁樹 算男（監修）公認心理師の基礎と実践 遠見書房					
21.成績評価	(1)各回課題 50% (2)総括試験 50%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜昼休み ＊メールで事前に連絡をしてください。上記時間以外も対応可です。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション			授業内容の復習		
【第 2 回】	生得的行動・初期学習・順化			授業内容の復習		
【第 3 回】	古典的条件づけ（1）			授業内容の復習		
【第 4 回】	古典的条件づけ（2）			授業内容の復習		
【第 5 回】	オペラント条件づけ（1）			授業内容の復習		
【第 6 回】	オペラント条件づけ（2）			授業内容の復習		
【第 7 回】	さまざまな学習（1）			授業内容の復習		
【第 8 回】	さまざまな学習（2）			授業内容の復習		
【第 9 回】	言語の諸相（1）			授業内容の復習		

【第 10 回】	言語の諸相（２）	授業内容の復習
【第 11 回】	言語の獲得（１）	授業内容の復習
【第 12 回】	言語の獲得（２）	授業内容の復習
【第 13 回】	学習と言語の障害	授業内容の復習
【第 14 回】	総復習	授業内容の復習
【第 15 回】	総括試験	授業内容の復習

1.授業コード (ナンバリング)	RED114-Y51	2.科目名	リーディング2 L2 (1/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	川部純巳					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Objective: This course is for improving reading , vocabulary, and critical thinking skills through a textbook that covers global themes, topics and SDGs. Abstract: Students will improve academic reading skills such as skimming, scanning, fact-finding, and paraphrasing. They are challenged to express their own ideas and opinions about global themes and topics. Vocabulary will be strengthened through reading and critical thinking skills. Students are required to actively participate in pairs and groups during class.					
18.学習目標と DPとの関連	Students can 1. improve comprehension of global themes, topics and SDGs 2. develop reading skills such as scanning, skimming, fact-finding, and paraphrasing 3. increase reading speed and fluency 4. strengthen critical thinking skills 5. build vocabulary and use them in speaking and writing DP: 自律性 問題発見、解決力					
19.教科書・教材	Reading for Today : Themes 1 (L. Smith/ N. Mare) National Geographic Learning , Cengage ISBN 9781305579958					
20.参考文献						
21.成績評価	平常点 40 点、English Only 10 点 小テスト 20 点、期末テスト 30 点					
22.コメント	* 授業中の携帯電話の使用を禁止します。 * テキスト忘れや、授業に参加していない(携帯を見ている/居眠り/私語など)、宿題をしていない等の場合には、欠席扱いとなることがあります。 * 授業内での活動及び assignments を重視している為、欠席しないように十分に注意してください。 * 提出期限が過ぎた assignments などは受理しないので点数はゼロである。 * 翻訳機の使用や剽窃が疑われる課題の点数はゼロである。 * やむ終えず欠席してしまった場合、必ず次の授業までに担当教員より学習内容及び宿題を確認し、次の					
23.オフィスアワー	質問は授業の前か後、メール等で受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Day 1: Orientation (Syllabus), Self-introduction Day 2: Chapter 1					
Week 2	DAY 3: Chapter 1					

	DAY 4: Chapter 2	
Week 3	DAY 5: Chapter 2 DAY 6: Chapter 3	
Week 4	DAY 7: Chapter 3 DAY 8: Chapter 4	
Week 5	DAY 9: Chapter 4 DAY 10: Chapter 5	
Week 6	DAY 11: Chapter 5 DAY 12: Chapter 6	
Week 7	DAY 13: Chapter 6 DAY 14: Chapter 7	
Week 8	DAY 15: Chapter 7 DAY 16: Chapter 8	
Week 9	DAY 17: Chapter 8 DAY 18: Chapter 9	
Week 10	DAY 19: Chapter 9 DAY 20: Chapter 10	
Week 11	DAY 21: Chapter 10 DAY 22: Chapter 11	
Week 12	DAY 23: Chapter 11 DAY 24: Chapter 12	
Week 13	DAY 25: Chapter 12 DAY 26: Review	
Week 14	DAY 27: Review DAY 28: Review	
Week 15	DAY 29: Review DAY 30: Final Test	

1.授業コード (ナンバリング)	RED114-Y52	2.科目名	リーディング 2 L2 (2/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	横山雅彦					
5.授業科目の区分	英語教育分野における 実務経験のある教員に よる授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義および演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	英語で日米比較文化論を読む。1冊を読み切ったという自信をつけると同時に、日本語と英語、それぞれの背後にある「心の習慣」を考え、2年生以降のGRへの橋渡しとする。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 1 文単位のリーディングから長文リーディングへ学習を進める。					
	【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、および(5)のコミュニケーションスキルに関連するものである。外国語を学ぶということは、そのままその言語を使う人々や使われている地域を理解することであり、その意味で、この授業を通しての英語学習は総合的な英米地域研究に直結するものである。また、言語の4技能の習得こそコミュニケーションスキルの涵養に他ならない。英語を学ぶことで必然的に母語を相対化し、英語のみならず母語のコミュニケーションスキルを高めることにもつながるだろう。					
19.教科書・教材	Polite Fictions in Collision Why Japanese and Americans Seem Rude to Each Other (金星堂) *購入の方法については、第1回の授業で指示する。					
20.参考文献	Michihiro Matsumoto, The Unspoken Way Haragei: Silence in Japanese Business and Society					
21.成績評価	各講の確認テスト (×36回) 50% 期末テスト 50%					
22.コメント	予習を怠っている学生、居眠りしたり雑談したりする学生には、退席を求め、単位は与えない。また、原則として欠席・途中参加は認めない。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回・第2回	第1回 オリエンテーション／1. You and I are Equals (1) 第2回 1. You and I are Equals (2)					
第3回・第4回	第3回 2. You and I are Close Friends (1) 第4回 2. You and I are Close Friends (2)					
第5回・第6回	第5回 3. You and I are Relaxed (1) 第6回 3. You and I are Relaxed (2)					
第7回・第8回	第7回 4. You and I are Independent (1) 第8回 4. You and I are Independent (2)					
第9回・第10回	第9回 5. People as Individuals (1) 第10回 5. People as Individuals (2)					
第11回・第12回	第11回 Being Original (1) 第12回 Being Original (2)					

第13回・第14回	第13回 Questions, Questions! (1) 第14回 Questions, Questions! (2)	
第15回・第16回	第15回 中間テスト 第16回 ? Answer to the Point! (1)	
第17回・第18回	第17回 8. Answer to the Point! (2) 第18回 9. Conversational Ballgames (1)	
第19回・第20回	第19回 9. Conversational Ballgames (2) 第20回 10. Don't Apologize! (1)	
第21回・第22回	第21回 10. Don't Apologize! (2) 第22回 11. Nobody Tole Me! (1)	
第23回・第24回	第23回 11. Nobody Told Me! (2) 第24回 The Unspoken Way Haragei: Silence in Japanese Business and Society (当日配布プリント)	
第25回・第26回	第25回 The Unspoken Way Haragei: Silence in Japanese Business and Society (当日配布プリント) 第26回 The Unspoken Way Haragei: Silence in Japanese Business and Society (当日配布プリント)	
第27回・第28回	第27回 The Unspoken Way Haragei: Silence in Japanese Business and Society (当日配布プリント) 第28回 The Unspoken Way Haragei: Silence in Japanese Business and Society (当日配布プリント)	
第29回・第30回	第29回 The Unspoken Way Haragei: Silence in Japanese Business and Society (当日配布プリント) 第30回 期末テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	RED115-A51	2.科目名	リーディング総合 1		3.単位数	2
4.授業担当教員	有本純					
5.授業科目の区分	基礎	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	中学英語 1・2 種、高校英語 1・2 種		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習、ペアワーク		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	目的： 音読を通して、英文の内容理解と音声を能動的に習得することを目的としています。短いパッセージの読解から、英語らしい読みにつながる音読活動へ、そしてさらに、その内容を自分のことばで再現する retelling を行う事で、効果的な英語習得につなげます。 概要： これまでのリーディングは、意味理解の手段として和訳することが主体でしたが、この授業ではできるだけ訳さずに内容を理解し、それを発信するペアワークで音読に発展させ、発音面にも注意を向けます。さらに、応用して発表することまで扱います。					
18.学習目標と DP との関連	学習目標： 1) 英文を訳さずに理解できる（真の読解） 2) 内容理解につながる音読が実施できる 3) 自分のことばで内容を英語で再現できる DP(4)：問題発見・解決力、コミュニケーション・スキル					
19.教科書・教材	Pleasure in Reading Aloud and Retelling (2022) A.P. Newell, 山口高嶺 (金星堂) ¥1,800 978-4-7647-4083-9 補助教材は Web Class に掲載します。					
20.参考文献	英和辞典または英英辞典（紙または電子媒体で） 音読の録音用に Audacity（無料アプリ）を P C にインストールしておいてください。					
21.成績評価	1) 音読小テスト（各 Unit）： 8 回×3 点 + 6 回×4 点 = 48 点 学習目標 2 に対応 2) Retelling テスト： 3 回×10 点 = 30 点 学習目標 3 に対応 3) 読解テスト： 22 点 学習目標 1 に対応 * 音読小テストは 7 回以上、Retelling は 2 回以上、最後の読解テストを必ず受験することで 60 点以上が合格です。 * 総括試験は実施しません。					
22.コメント	* 水曜 4・5 限 2 コマ連続の授業の為、確実に予習することを求め、授業中に内容理解を完結させます。 予習内容については、第 1 回目の授業で詳しく説明します。 * 必ず英語の辞書および録音用の PC とマイクロフォンを授業に持参し、「音読小テスト」で使用します。（スマホ辞書は不可）。PC の不具合がある場合は櫓君できません。録音・音声ファイルの提出は授業中に限ります。 * 交通機関・気象状況などにより対面授業が困難な場合でも休講にせず、Z o o m による遠隔授業を実施します。 当日、Web Cla					
23.オフィスアワー	なし					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

1. 2.	1. Introduction (シラバスと授業の進め方説明、Web Class の説明、使用アプリと 提出用フォーマットの説明)、音読とリテリング について説明, Unit 1 There Is More than One Way to Be a Leader 2. Unit 1 意味ごとのまとまりを意識する, 予習内容に ついての説明	1. 毎回、PC と録音用マイクを持参する。 2. Unit 1 Retelling, Unit 2 予習
3. 4.	3. Unit 1 Retelling & 音読小テスト, Unit 2 A Cool Response to Food Waste 内容語と機能語を意識する 4. Unit 2 内容語と機能語を意識する, Retelling (ペ ア)	4. Unit 3 予習
5. 6.	5. Unit 3 Haiku: having Fun with Words and Ideas 6. Unit 3 弱い子音の読み方, Unit 2 Retelling (ペア) & 音読小テスト	6. Unit 4 予習
7. 8.	7. Unit 4 Could your Face Cost you your Privacy? 8. Unit 4 つながる音の読み方, Unit 3 Retelling (ペ ア) & 音読小テスト	8. Unit 5 予習
9. 10.	9. Unit 5 Russia's City of the East, Unit 4 音読小テス ト 10. Unit 5 補足情報と強調情報の読み方, Retelling テ スト 1 (録音)	9. Retelling 練習 10. Unit 6 予習
11. 12.	11. Unit 6 The Healing Power of Music 12. Unit 6 逆接から主張を導く, Unit 5 Retelling (ペ ア) & 音読小テスト	12. Unit 7 予習
13. 14.	13. Unit 7 Looking at Life through the Eyes of a Cat 14. Unit 7 対比情報に注意して読む, Unit 6 Retelling (ペア) & 音読小テスト	14. Unit 8 予習
15. 16.	15. Unit 8 Designing Solutions to Everyday Problems 16. Unit 8 疑問文のイントネーション, Unit 7 Retelling (ペア) & 音読小テスト	16. Unit 9 予習
17. 18.	17. Unit 9 Currying Favor in Britain and Japan 18. Unit 9 並列情報の読み方, Unit 8 Retelling テスト 2 (録音) & 音読小テスト	17. Retelling 練習 18. Unit 10 予習
19. 20.	19. Unit 10 Interacting with Others in a Globalized World 20. Unit 10 数字情報の読み方, Unit 9 Retelling (ペ ア) & 音読小テスト	20. Unit 11 予習
21. 22.	21. Unit 11 The Tragedy of Rana Plaza 22. Unit 11 核心から詳細を述べる, Unit 10 Retelling (ペア) & 音読小テスト	22. Unit 12 予習
23. 24.	23. Unit 12 The Age of Innocence 24. Unit 12 感情を込めて読む, Unit 11 Retelling (ペ ア) & 音読小テスト	24. Unit 13 予習
25. 26.	25. Unit 13 Kiribati: A Paradise on Earth: But for How Much Longer? 26. Unit 13 他の人の発言を紹介する, Unit 12 Retelling	26. Unit 14 予習

	(ペア) & 音読小テスト	
27. 28.	27. Unit 14 Two Great Painters... and a Stormy Friendship 28. Unit 14 メッセージの中陰を際立たせる, Unit 13 Retelling テスト 3 (録音) & 音読小テスト	27. Retelling 練習 28. Unit 15 予習
29. 30.	29. Unit 15 What's in a Name? Unit 14 音読小テスト 30. Unit 15 複雑な文構造を読む, 読解テスト、ふり返り	

1.授業コード (ナンバリング)	RED115-Y51	2.科目名	リーディング総合 1 L3		3.単位数	2
4.授業担当教員	Jonathan Aliponga					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 中学(英語)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Reading Sogo 1 is a 15-week, twice-a-week course. Each class meeting is 90 minutes. The course focuses on Sustainable Development Goals (SDGs), specifically on environmental issues, with Japanese and some international students enrolled in the course. The course uses Making Choices as textbook, which is a comprehensive content-based English language textbook that takes a deeper look into world issues. The activities will help students to build not only vital English language and communication skills, but also a stronger understanding of world environmental problems and some of the proposed solutions focusing on Japan in relation to the countries of the participating non-Japanese students or vice versa. This course uses Problem-Based Learning approach.					
18.学習目標と DPとの関連	At the end of the semester, students are expected to successfully achieve the following abilities set by the Department: 1) 自律的で主体的な態度 (自律性) Autonomous and independent attitude (autonomy) 2) 問題発見・解決力 Problem finding and solving ability 3) コミュニケーションスキル Communication skills 4) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力 (Understanding Diversity)					
19.教科書・教材	SDGs x Discussion by Yoshihara ISBN 9784764741508 Online articles including but not limited to newspapers Japan Today https://japantoday.com Asahi Shimbun https://www.asahi.com/ajw/					
20.参考文献						
21.成績評価	タスク Tasks/Activities (from textbook) = 20% , Mini Presentation (Research and Discuss)= 30, 最終テスト Final Test/Project = 40%, 英語使用 English Only = 10%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Course Orientation: Syllabus, Dropbox CHAPTER 1: WHAT ARE SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS					
Week 2	CHAPTER 4: CAN TECHNOLOGY SOLVE THE WATER CRISIS?					
Week 3	CHAPTER 4: CAN TECHNOLOGY SOLVE THE WATER CRISIS?					
Week 4	CHAPTER 6: WHAT DOES IT MEAN TO BE A SUSTAINABLE CITY?					

Week 5	CHAPTER 6: WHAT DOES IT MEAN TO BE A SUSTAINABLE CITY?	
Week 6	CHAPTER 9: HOW CAN WE REDUCE FOOD WASTE?	
Week 7	CHAPTER 9: HOW CAN WE REDUCE FOOD WASTE?	
Week 8	CHAPTER 10: IS A WORLD WITHOUT PLASTIC POSSIBLE?	
Week 9	CHAPTER 10: IS A WORLD WITHOUT PLASTIC POSSIBLE?	
Week 10	CHAPTER 12: WHAT KIND OF ENERGY IS AFFORDABLE AND CLEAN?	
Week 11	CHAPTER 12: WHAT KIND OF ENERGY IS AFFORDABLE AND CLEAN?	
Week 12	CHAPTER 14: WHY SHOULD WE PROTECT ENDANGERED SPECIES?	
Week 13	CHAPTER 14: WHY SHOULD WE PROTECT ENDANGERED SPECIES?	
Week 14	Final Project preparation and presentations	
Week 15	Final Project preparation and presentations	

1.授業コード (ナンバリング)	RED116-Y52	2.科目名	リーディング総合2 L4		3.単位数	2
4.授業担当教員	フィゴニー啓子					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 中学(英語)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Objective: This course is for improving reading , vocabulary, and critical thinking skills through a textbook that covers global themes, topics and SDGs. Abstract: Students will improve academic reading skills such as skimming, scanning, fact-finding, and paraphrasing. They are challenged to express their own ideas and opinions about global themes and topics. Vocabulary will be strengthened through reading and critical thinking skills. Students are encouraged to actively participate in pairs and groups during class.					
18.学習目標と DPとの関連	Students can 1. improve comprehension of global themes, topics and SDGs 2. develop reading skills such as scanning, skimming, fact-finding, and paraphrasing 3. increase reading speed and fluency 4. strengthen critical thinking skills 5. build vocabulary and use them in speaking and writing DP: 自律性 問題発見、解決力					
19.教科書・教材	Reflect 4, (Christien Lee), National Geographic Learning , Cengage					
20.参考文献	to be announced in class					
21.成績評価	In-class work (quizzes, reports, activities)= 60% , Final exam =40% 毎授業、小テスト、レポート、クラスパフォーマンスが評価される。 最終成績はそれぞれの点数の平均点が合算され、その 60%が平常点(in-class work)になる。 レポート、ホームワーク等の未提出は各ー3 %減点される。 第 29 回目の授業で総括試験(40%)を行う。					
22.コメント	1. 毎授業、単語カード、B5 サイズのルーズリーフ、コンピュータを持参すること。 2. コロナ等の諸事情により急遽オンラインクラスになった場合は、WebClass で連絡事項を確認して、Zoom ミーティングに参加すること。 3.体調不良により出席停止になった場合は、速やかにメールで連絡を入れること。					
23.オフィスアワー	授業の前後、合間に教室または講師控室にて対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Day 1 Orientation (Syllabus), Self-introduction, Vocabulary for Unit 1			Day 2 Homework Vocabulary		

	Day 2 Unit 1 Worlds within Worlds Vocabulary practice, reading, discussion	
Week 2	Day 1 Unit 1 Worlds within Worlds *Vocabulary, reading, discussion Day 2 Unit 1 Worlds within Worlds *Vocabulary, reading, discussion *pair/group work	Day 1 Homework Reading Day 2 Homework Vocabulary
Week 3	Day 1 Unit 1 Worlds within Worlds *Review Unit 1, Vocabulary, reading, writing *pair/group work Day 2 Unit 2 Crossing Cultures *Vocabulary, reading discussion *pair/group work	Day 1 Homework Vocabulary Reading Day 2 Homework Vocabulary Review the unit
Week 4	Day 1 Unit 2 Crossing Cultures *Vocabulary, reading, listening Day 2 Unit 2 Crossing Cultures *Review Unit 2, Vocabulary, reading, writing, discussion *pair/group work	Day 1 Homework Vocabulary Reading Day 2 Homework Vocabulary Review the unit
Week 5	Day 1 Unit 3 Playing with Design *Vocabulary, reading, discussion Day 2 Unit 3 Playing with Design *Vocabulary, reading discussion *pair/group work	Day 1 Homework Vocabulary Reading Day 2 Homework Vocabulary Review the unit
Week 6	Day 1 Unit 3 Playing with Design * Review Unit 3, Vocabulary, reading, discussion Day 2 Unit 4 Our Robot Future *Vocabulary, reading discussion *pair/group work	Day 1 Homework Vocabulary Reading Day 2 Homework Vocabulary Review the unit
Week 7	Day 1 Unit 4 Our Robot Future *Vocabulary, reading, discussion	Day 1 Homework Vocabulary Reading

	Day 2 Unit 4 Our Robot Future * Review Unit 4, Vocabulary, reading discussion *pair/group work	Day 2 Homework Vocabulary Review the unit
Week 8	Day 1 Unit 5 There is No Planet B *Vocabulary, reading discussion *pair/group work Day 2 Unit 5 There is No Planet B *Vocabulary, reading discussion *pair/group work	Day 1 Homework Vocabulary Reading Day 2 Homework Vocabulary Review the unit
Week 9	Day 1 Unit 5 There is No Planet B *Review Unit 5, Vocabulary, reading discussion *pair/group work Day 2 Unit 6 Savvy Shoppers *Vocabulary, reading discussion *pair/group work	Day 1 Homework Vocabulary Reading Day 2 Homework Vocabulary Review the unit
Week 10	Day 1 Unit 6 Savvy Shoppers *Vocabulary, reading discussion *pair/group work Day 2 Unit 6 Savvy Shoppers *Review Unit 6, Vocabulary, reading discussion *pair/group work	Day 1 Homework Vocabulary Reading Day 2 Homework Vocabulary Review the unit
Week 11	Day 1 Unit 7 Who We Are, How We Act *Vocabulary, reading discussion *pair/group work Day 2 Unit 7 Who We Are, How We Act *Vocabulary, reading discussion *pair/group work	Day 1 Homework Vocabulary Reading Day 2 Homework Vocabulary Review the unit
Week 12	Day 1 Unit 7 Who We Are, How We Act *Review Unit 7, Vocabulary, reading discussion *pair/group work Day 2 Unit 8 Learn to Change *Vocabulary, reading discussion	Day 1 Homework Vocabulary Reading Day 2 Homework Vocabulary Review the unit

	*pair/group work	
Week 13	Day 1 Unit 8 Learn to Change *Vocabulary, reading discussion *pair/group work Day 2 Unit 8 Learn to Change *Vocabulary, reading discussion *pair/group work	Day 1 Homework Vocabulary Reading Day 2 Homework Vocabulary Review the unit
Week 14	Day 1 Review Unit 1-4 *Vocabulary, reading discussion *pair/group work Day 2 Review Unit 5-8 *Vocabulary, reading discussion *pair/group work	Day 1 Homework Preparation for the final exam
Week 15	Day 1 Final Exam Final day Consolidation	

1.授業コード (ナンバリング)	REG202-M51	2.科目名	公共サービス論		3.単位数	2
4.授業担当教員	川脇康生					
5.授業科目の区分	展開科目 地域マネジメント分野 の実務経験のある教員 による授業	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業は、公共サービスについての理論と実践を学ぶことを目的にしています。 まず公共の定義を行い、公共を担うさまざまなプレーヤー（国・地方自治体、非営利組織、営利組織、社会的企業など）について、それぞれの社会的役割を詳しく解説します。特に私たちが認識を新たにしなければならないことは、国・地方自治体だけでなく、民間組織や私たち一人ひとりも公共経営の一翼を担っているということです。当事者意識をもって私たちが公共経営に携わらなければならないことは、世界的潮流といっているでしょう。それに加えて、そうならざるを得ない日本特有の事情もあります。それは継続的な景気の悪化により日本が長らく苦しんできた財政赤字の存在です。社会問題を解決するには多くの財政支出を必要とするからです。それだけではありません。国・地方自治体と民間組織が一丸となって、社会問題の解決に挑まなければならないほど、日本の社会問題は多岐にわたり複雑化しています。このような状況下であり、私たちは公共をどうやって経営したらいいのでしょうか。 私たちが公共経営をより有効かつ効率的に運営するための手法について学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	1.公共とは何かを説明できる 2.公共経営の課題と解決の方法について、意見を持つことができる 3.社会貢献の課題と世界市民としての自覚を持つことができる					
19.教科書・教材	講義資料を webclass にアップします。					
20.参考文献	?永佳甫編「公共経営学入門」大阪大学出版会 2015 年 4 月					
21.成績評価	1. 毎回の講義でのワークシートの提出（個人ワーク及びグループワークの提出） 40% 2. 出身地の地域活性化戦略の発表（プレゼンテーション） 20% 3. 学期末レポート 40%					
22.コメント	政府・自治体の厳しい財政状況から、小さな政府、民間でできることは民間に、中央集権から地方分権等への既存の体制を改革していく必要が生じています。そして、新しい公共サービスのあり方が模索が始まっています。 公共サービスの基礎から学んでも、一緒に新しい方向やあり方を考えましょう。					
23.オフィスアワー	学修支援センターオフィスアワー（神戸山手 1 号館 2 階ラーニングコモンズ）：月、昼休み 研究室オフィスアワー（神戸山手 3 号館 2 階 207 室）：火、昼休み ※質問等はメールで問い合わせてください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【第 1 回】 ガイダンス、公共とは何か～消滅可能性都市を事例に日本の課題を考える～			復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること		
第 2 回	【第 2 回】 政府のしくみと役割			復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること		
第 3 回	【第 3 回】 市民社会と地方自治			復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整		

		理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 4 回	【第 4 回】日本の社会問題と経済（少子高齢化、教育、財政赤字、労働生産性、国際競争力・・・）	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 5 回	【第 5 回】新しい公共経営～我が国の様々な社会課題の対応に向けて～	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 6 回	【第 6 回】北欧（デンマーク）の福祉政策の事例研究	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 7 回	【第 7 回】財務省「少子化の要因と少子化社会に関する研究会」報告書	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 8 回	【第 8 回】公共経営の戦略マネジメントモデル	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 9 回	【第 9 回】SWOT 分析を用いた公共経営の分析	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 10 回	【第 10 回】地元自治体（三木市）の事例分析、地方創生一成功の方程式は存在するのか	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 11 回	【第 11 回】公共経営とソーシャル・キャピタル（社会関係資本）	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 12 回	【第 12 回】グローバル化と新しい公共	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 13 回	【第 13 回】高齢社会と社会保障	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 14 回	【第 14 回】出身地の地域再生戦略の発表（学生発表 1）	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 15 回	【第 15 回】出身地の地域再生戦略の発表（学生発表 2）	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること

1.授業コード (ナンバリング)	REG306-A51	2.科目名	防災教育		3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾和宣					
5.授業科目の区分	展開科目 教育分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	選択	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、学校園や施設等のセーフティ・マネージメントに関して理解し、防災・防犯に関しての方策を具体的に提案できる力を身に付けることを目的とします。 【概要】 ○通学途中や学校内で様々な被害や事故に遭遇する事件が頻発しているが、不審者の侵入や校内での事故を防ぐために学校としてどのような安全対策を講じているかを検証する。 ○問題事案が起こった時に、解決策はどのようにすればよいか、最近の事例を基に防犯対策などを検証する。 ○学校という集団生活の場において災害や事故発生時の学校と自宅の保護者との連携の取り方やその訓練方法など、地域の防災計画、そして、学校での事故等の対応について検証する。 ○教職員として、災害直後の具体的な動きを阪神淡路大震災、東北大震災等の事例を基に検討する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DPの①自律性 ④問題発見・解決力 ⑥専門的知識・解決力に関連しています。 (1) 学校園・施設等で発生するリスクをイメージし、対応策を考えることができる (2) 自然災害発災の状況を理解し、減災の方法について考えることができる (3) 阪神・淡路大震災、東日本大震災の事実を知り、その教訓を伝承しようとする意欲をもつ (4) 学校園での「いじめ」「体罰」「校内事故」等の今日的課題を捉え、解決方法を協議することができる。					
19.教科書・教材	特に使わない。毎回プリントを配布する。					
20.参考文献	1. 適宜、資料を配布します。 2. その他、関連サイトの URL や関連資料は授業中に紹介します。.					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです ・毎時間の授業ワークシート 20% 《学習目標(1)に対応》 ・学校事故に関するレポート 20% 《学習目標(4)に対応》 ・自然災害に関するレポート 20% 《学習目標(2)(3)に対応》 ・学級における児童の安全安心に関するレポート 20% 《学習目標(4)に対応》 ・学級における教師の安全安心に関するレポート 20% 《学習目標(4)に対応》					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	○プロローグ 授業の内容と進め方 学校園・施設安全にかかわる幼			安全教育についての復習と次回の予習		

	児・児童・生徒の問題	
第 2 回	1. 安全教育の目標 2. 安全教育の重点 3. 安全教育の領域と構造 4. 安全教育の各領域の内容 ○災害安全に関する内容①	安全教育の復習と次回の予習
第 3 回	○生活安全に関する内容 ・生活安全についてグループワーク	生活安全の復習と交通安全についての予習
第 4 回	○交通安全に関する内容 ・交通安全についてグループワーク	《課題》 「学校事故」に関するレポート作成
第 5 回	○災害安全に関する内容② ・災害安全についてのグループワーク	災害安全の復習
第 6 回	○学校内の安全管理とリスクマネジメント	リスクマネジメントの復習と防災教育の予習
第 7 回	○過去の自然災害に学ぶ防災教育① ・自然災害に関してのグループワーク	過去の災害についての予備調査
第 8 回	○過去の自然災害に学ぶ防災教育 ・調査内容の発信（グループ内）	《課題》自然災害に関するレポート作成
第 9 回	○学校事故の事例と対策	
第 10 回	○学級における子どもたちの「安全・安心」について考える① ・いじめについて考える《グループワーク》	いじめに関する事後調査と体罰に関する予備調査 《課題》学級における児童の安全安心に関するレポート
第 11 回	○学級における子どもたちの「安全・安心」について考える② ・体罰について考える《グループワーク》	体罰に関する事後調査
第 12 回	○学級における教師の「安全・安心」について考える① ・授業づくりのコツについて理解する。	指導案作成の事前調査
第 13 回	○学級における教師の「安全・安心」について考える② ・大人（同僚や上司、保護者）との関わりについて考える	
第 14 回	学級における「安全・安心」のまとめ ・子ども理解と自己理解 ☆レポート作成	《課題》学級における教師の安全安心に関するレポート
第 15 回	○まとめと課題 ・学校教育と防災士	

1.授業コード (ナンバリング)	REG401-y51	2.科目名	復興論 (2019 年生)		3.単位数	2
4.授業担当教員	林万平					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では、阪神・淡路大震災を例に、その復興にまつわる政策的諸課題について講義します。大災害からの復興が議論する領域は、人々の生活再建にとどまらず、地域社会の再生、経済活動の復興等、幅広い分野にわたります。そこで、第一に、阪神・淡路大震災を例に、大災害が被災地域に及ぼした社会・経済的影響、政府や法制度の問題、その後の地域社会・経済の状況等について、事例や文献、研究等を紹介しつつ、大災害と地域経済の関連性について理解を深めます。これにより、今後、日本で発生の蓋然性が高いとされる大災害が発生した場合に、被災地域の復興や被災者の生活再建どのような情報や視点が必要なのか理解することができます。第二に、神戸を含む大災害の長期的な経済復興の現状について紹介します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学修目標は DP の（４）問題発見解決力、（６）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ①大災害にまつわる政策的議論について包括的に理解できる。 ②今後の大災害に向けた地域社会のあり方について、自らの考え方に基づいて議論できる。 ③災害復興が目指す都市形成の事例についての知識を深める。					
19.教科書・教材	林敏彦「大災害の経済学」PHP 新書					
20.参考文献	適宜授業中に示す					
21.成績評価	授業中の提出物 30% 学習目標①、③に対応 中間レポート 30% 学習目標②、総括・振り返りに対応。 最終レポート 40% 学習目標②、総括・振り返りに対応。					
22.コメント	災害は環太平洋地域の国々では今や共通の社会・経済的問題と言えます。 国際的な社会的課題について関心のある方の履修を勧めます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 第 2 回	第 1 回 世界の大災害と阪神淡路大震災 第 2 回 阪神淡路大震災の発生。その時何が起きたか (1) 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。			復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノート		
第 3 回 第 4 回	第 3 回 阪神淡路大震災の発生。その時何が起きたか (2) 第 4 回 阪神・淡路大震災の 緊急対応とそれをめぐる諸問題 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。			復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノート		
第 5 回 第 6 回	第 5 回 法と政治に何ができただのか。(1) 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。			復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノート		
第 7 回	第 6 回 市民から見る阪神・淡路大震災 (1)			復習、授業ノート の整理		

第 8 回	本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	持参物 教科書、ノ ー ト
第 9 回 第 1 0 回	第 7 回 緊急対応から災害復興へ 第 8 回 阪神・淡路震災の 直接経済被害と復興財源 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 1 回 第 1 2 回	第 9 回 阪神・淡路大震災の復興財政とその後の財政 支出 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 3 回 第 1 4 回	第 1 0 回 災害復興計画とその幻 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 5 回 第 1 6 回	第 1 1 回 震災後 10 年とその間の諸問題 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 7 回 第 1 8 回	第 1 2 回 報告に向けての調査設計 本講義は④グループワークに基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 9 回 第 2 0 回	第 1 3 回 阪神・淡路大震災復興基金 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 2 1 回 第 2 2 回	第 1 4 回 震災後の経済的復興の課題 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 2 3 回 第 2 4 回	第 1 5 回 阪神・淡路大震災とは 何であったのか 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 2 5 回 第 2 6 回		
第 2 7 回 第 2 8 回		
第 2 9 回 第 3 0 回		

1.授業コード (ナンバリング)	RSM101-A81	2.科目名	災害と安全		3.単位数	2									
4.授業担当教員	道免逸子														
5.授業科目の区分	基盤教育科目 【臨床 心理分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期										
8.履修可能な専攻				9.履修学年											
10.取得資格の要件	教職科目		11.先修条件												
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※											
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義											
16.履修制限															
17.授業の目的と概要	この授業の目的は、災害について、一人の被災者から、地域、国、地球全体への影響を考え、また、発災直後から中長期までの影響を多角的に捉え、安全を確立するための知恵と力を持つ人になることである。 概要は以下のようなものである。災害の種類、種類別の対応、災害の基礎知識について学び、実際に身の回りでどのようなことが起きるのか、シミュレーションすることで、生きる力を身に着ける。また、災害を心理面、身体面、社会面から考察し、防災、減災について学び、自助力の向上を目指す。災害に関する精神、心理的課題に焦点をあてる災害心理学に対し、この授業では、災害について広く全般的に学ぶ。														
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）のうち、2.社会や他者に能動的に貢献する姿勢、4.問題発見解決力、6.専門的知識技術の活用の学修に関連します。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①災害の多様性について説明できる ②災害が与える影響について多角的に理解し対応できる ③被災者・被害者への適切な支援ができる ④危険から身を守る工夫について知り、人にもアドバイスができる ⑤防災、減災の知識を持ち、人に説明できる														
19.教科書・教材	特に指定しない														
20.参考文献	適宜紹介する														
21.成績評価	<table><tr><td>コミュニケーションシート</td><td>4 点×13 回</td><td>5 2 %</td></tr><tr><td>中間振り返り</td><td></td><td>2 4 %</td></tr><tr><td>総括振り返り</td><td></td><td>2 4 %</td></tr></table>						コミュニケーションシート	4 点×13 回	5 2 %	中間振り返り		2 4 %	総括振り返り		2 4 %
コミュニケーションシート	4 点×13 回	5 2 %													
中間振り返り		2 4 %													
総括振り返り		2 4 %													
22.コメント															
23.オフィスアワー	オフィスアワー： 水曜 昼休み センターオフィスアワー： 金曜 昼休み 学修支援センター														
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)											
第 1 回 10 月 4 日	オリエンテーション 自分の災害リスクについて考える			ノートパソコンは毎回持参 時間中にハザードマップの検索をし、次回までに印刷したものを提出する											
第 2 回 10 月 11 日	災害の種類とその影響			コミュニケーションシートの提出											
第 3 回 10 月 18 日	知っておきたい災害の知識			コミュニケーションシートの提出											
第 4 回 10 月 25 日	災害直後の反応			コミュニケーションシートの提出											
第 5 回 11 月	災害後の課題 1 短期・中期			コミュニケーションシートの提出											

1 日		
第 6 回 11 月 8 日	災害後の課題 2 長期	コミュニケーションシートの提出
第 7 回 11 月 15 日	自助力 1 護身術を身に着ける（警察の人が来てくれるので、時期が前後する可能性あり）	体育館での実施 要上履き コミュニケーションシートの提出 次週の間隔振り返りに向けて 1 回から 7 回の 内容を復習する
第 8 回 11 月 22 日	中間振り返り	
第 9 回 11 月 29 日	日本の災害の特徴	コミュニケーションシートの提出
第 10 回 12 月 6 日	災害種類別対応	コミュニケーションシートの提出
第 11 回 12 月 13 日	安全とは？	コミュニケーションシートの提出
第 12 回 12 月 20 日	防災・減災の試み	コミュニケーションシートの提出
第 13 回 1 月 10 日	自助力 2	コミュニケーションシートの提出
第 14 回 1 月 17 日	国際防災、人道支援	コミュニケーションシートの提出 次週の総括振り返りに向けて 9 回から 14 回 の内容を復習する
第 15 回 1 月 24 日	総括振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	RSM101-Y51	2.科目名	災害と安全		3.単位数	2
4.授業担当教員	道免逸子					
5.授業科目の区分	基盤教育科目 【 臨床 心理分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件	教職科目		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業の目的は、災害について、一人の被災者から、地域、国、地球全体への影響を考え、また、発災直後から中長期までの影響を多角的に捉え、安全を確立するための知恵と力を持つ人になることである。 概要は以下のようなのである。災害の種類、種類別の対応、災害の基礎知識について学び、実際に身の回りでどのようなことが起きるのか、シミュレーションすることで、生きる力を身に着ける。また、災害を心理面、身体面、社会面から考察し、防災、減災について学び、自助力の向上を目指す。災害に関する精神、心理的課題に焦点をあてる災害心理学に対し、この授業では、災害について広く全般的に学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）のうち、2.社会や他者に能動的に貢献する姿勢、4.問題発見解決力、6.専門的知識技術の活用の学修に関連します。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①災害の多様性について説明できる ②災害が与える影響について多角的に理解し対応できる ③被災者・被害者への適切な支援ができる ④危険から身を守る工夫について知り、人にもアドバイスができる ⑤防災、減災の知識を持ち、人に説明できる					
19.教科書・教材	特に指定しない					
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	コミュニケーションシート		4 点×13 回	5 2 %		
	中間振り返り			2 4 %		
	総括振り返り				2 4 %	
22.コメント						
23.オフィスアワー	オフィスアワー： 水曜 昼休み センターオフィスアワー： 金曜 昼休み 学修支援センター					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 10 月 4 日	オリエンテーション 自分の災害リスクについて考える			ノートパソコンは毎回持参 時間中にハザードマップの検索をし、次回までに印刷したものを提出する		
第 2 回 10 月 11 日	災害の種類とその影響			コミュニケーションシートの提出		
第 3 回 10 月 18 日	知っておきたい災害の知識			コミュニケーションシートの提出		
第 4 回 10 月 25 日	災害直後の反応			コミュニケーションシートの提出		
第 5 回 11 月	災害後の課題 1 短期・中期			コミュニケーションシートの提出		

1 日		
第 6 回 11 月 8 日	災害後の課題 2 長期	コミュニケーションシートの提出
第 7 回 11 月 15 日	自助力 1 護身術を身に着ける（警察の人が来てくれるので、時期が前後する可能性あり）	体育館での実施 要上履き コミュニケーションシートの提出 次週の間隔振り返りに向けて 1 回から 7 回の 内容を復習する
第 8 回 11 月 22 日	中間振り返り	
第 9 回 11 月 29 日	日本の災害の特徴	コミュニケーションシートの提出
第 10 回 12 月 6 日	災害種類別対応	コミュニケーションシートの提出
第 11 回 12 月 13 日	安全とは？	コミュニケーションシートの提出
第 12 回 12 月 20 日	防災・減災の試み	コミュニケーションシートの提出
第 13 回 1 月 10 日	自助力 2	コミュニケーションシートの提出
第 14 回 1 月 17 日	国際防災、人道支援	コミュニケーションシートの提出 次週の総括振り返りに向けて 9 回から 14 回 の内容を復習する
第 15 回 1 月 24 日	総括振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	RSM202-Y51	2.科目名	危機管理論	3.単位数	2
4.授業担当教員	高橋浩樹				
5.授業科目の区分	警察分野分野における 実務経験のある教員に よる授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生～
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的：将来企業人等として活動する際のリスクマネジメントを習得します。さらに日常生活に近接している消費者犯罪を捉え、消費者としての安全の確保策を学び、安全安心な学生生活、社会生活を送ることが出来る知識（セーフティーマネジメント力）の習得を目的としています。 概要：危機管理に関する歴史、現状、理論、学生それぞれが一消費者として陥りやすい消費者犯罪についてその手口、被害防止策を学びます。				
18.学習目標と D P との関連	D P の(4)問題発見・解決力(6)専門的知識・技能の学修に関連しています。 ①危機管理が社会の中で問題となっている論点をのべることができる ②問題発生時の事実と意見を区別することができる ③犯罪に関連する専門的知識を獲得することができる				
19.教科書・教材	適宜資料を配布します（教科書は使いません）。				
20.参考文献	前田雅英編集「現代危機管理論－現代の危機の諸相と対策」立花書房(2017) 授業中に適宜紹介します。				
21.成績評価	・第 8 回講義終了後レポート「企業の危機に際する原因と対策」の提出 40% 学習目標①、②に対応 ・総括効果測定 「悪質商法等に対する消費者の被害防止対策に関するレポート」 60% 学習目標③に対応 ※最終レポートに加えて、中間レポートも提出することが単位認定の前提になるとなるので注意すること				
22.コメント	・レポート作成に当たって ①専門書、学術雑誌を利用し、出典を明示すること ②ネット検索によるものは、公共機関の HP に基づき URL 等を明示すること				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：水曜日昼休み				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	・オリエンテーション 授業の目標、内容、進め方、レポート作成等に関する説明			ノートパソコン等を持参して下さい。	
第 2 回	・危機管理の定義、歴史 国家、企業、個人レベルの危機管理とその要素、			予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く)	

	危機管理の歴史	ノートパソコン等を持参して下さい。
第 3 回	・テロリズム 日本におけるテロリズム、国際テロリズム	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 4 回	・テロ対策 テロ対策と歴史 防犯カメラの技術	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 5 回	・捜査 テロ防止のための捜査方法	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 6 回	・企業の危機管理 対策 初動対応等	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 7 回	・危機管理（対策） 情報収集と分析	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 8 回	自然災害 警察官から見た阪神淡路大震災 有事対応各種施策の取組み（実例）	復習：前回授業の振り返り、質問 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 9 回	・企業犯罪（過失犯）交通事故 業務上過失致死、列車・航空機事故等 自動車運転処罰法（過失と故意） 危険運転	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 10 回	・企業犯罪（横領等刑事法、消費者保護関連法） 定義、類型、実例等	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 11 回	・消費者の安全（悪質商法、詐欺商法） 悪質商法の手口、特定商取引法、刑法（詐欺）	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 12 回	・消費者の安全（消費者対策） 消費者団体等における被害防止対策	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 13 回	・消費者の安全（偽ブランド） 海賊版 商法、著作権法等	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。

第 14 回	・ 消費者の安全（金融事犯） ヤミ金 出資法、貸金業法、銀行法	復習：前回授業の振り返り、質問 予習：WebClass で資料を事前提示(第 2 回から 14 回まで 第 8 回を除く) ノートパソコン等を持参して下さい。
第 15 回	・ 統括、振り返り	ノートパソコン等を持参して下さい。

1.授業コード (ナンバリング)	RSM202-Y52	2.科目名	危機管理論	3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕				
5.授業科目の区分	専門教育科目 展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生
10.取得資格の要件			11.先修条件	観光学概論、経営学概論を履修していることが望ましい。	
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 リスクには様々なものがありますが、この科目では純粹リスクを扱います。特に、経営上のリスクに焦点を当て、観光業における個別事象のリスク管理から事業経営継続におけるリスクマネジメントまで必要となる基本的な知識とスキルを修得することを目的とします。 【概要】 まず、基本的な考え方や理論を講義に基づき習得した後、具体的な事例を通じて、より実践的な知識、手法などのポイントを学び、知識の定着を図ることとします。また、災害等の不測の事態に備えるためのリスク管理だけでなく、組織的な原因などについても学習することで、観光産業にとどまらずあらゆる分野の経営において活用できるリスクマネジメントの修得を目指します。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の 【(1)自律性】 【(4)問題発見・解決力】 【(6)専門的知識・技能の活用】に関連しています。 本科目の学習目標は、以下のとおりです。 ①観光産業を例に企業の抱えるリスクの抽出と評価を行うことができる。 ②観光産業を例に企業の抱えるリスクについて具体的な対策を提案することができる。 ③リスク対策として事前に考え、備えるべき事項およびその前提となる組織風土について理解し、説明できる。				
19.教科書・教材	教科書は使用しません。適宜資料を提示、配布します。				
20.参考文献					
21.成績評価	①授業理解度・・・40点 （講義の要点を的確に掴んで、その理解した内容を記述する。また自発的にケーススタディに取り組む）※学習目標①、②、③に対応 ②グループワーク・・・20点 （ケーススタディにおいて自らの意見を積極的に発信し、他者の意見を傾聴する。ルーブリック-チームワークを評価基準とする。）※学習目標①、②、③に対応 ③確認テスト・・・40点 ※学習目標①、②、③に対応				
22.コメント	コロナなどリスクによる影響を実感している学生も多いと思います。この講義では、リスクマネジメントの基本的なプロセスを理解するためにケーススタディなどを活用していきます。エアラインの安全管理部門において、ヒューマンエラーによる事故防止に取り組んだ経験を活かし、履修する学生には、単なるリスクマネジメントだけではなく、会社の組織風土にまで踏み込んでリスクへの備えを考えてもらいたいと考えています。				
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
【第 1 回】	講義：オリエンテーション 担当教員の紹介、講義の目的、内容、進め方、評定算			復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習	

	出の方法、受講上の留意点について説明する。	
【第2回】	講義：危機に対する意識 日本人における危機意識とその原因について考察する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第3回】	講義：リスクとは何か、リスクの種類 リスクの概念と様々なリスクについて確認する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第4回】	講義：リスクマネジメントとリスクアセスメント リスクの管理と評価について確認する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
第5回	ケーススタディ① 旅行業を例にケーススタディに取り組む。※個人ワークおよびグループワーク	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：ケーススタディの読み込み
第6回	ケーススタディ② 旅行業を例にケーススタディに取り組む。※グループ発表と解説	ケーススタディについてグループで発表のための資料を作成する。
【第7回】	講義：リスク戦略 リスクへの処理手段としてのリスクコントロールおよびリスクファイナンスについて確認する。 確認テスト①	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習及び確認テストに備えここまでの振り返り
【第8回】	講義：リスク戦略：リスクの低減・リスク処理について リスクをどこまで管理するのか、どの様な対策が有効であるのかを考える。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第9回】	ケーススタディ③： 旅行業を例にケーススタディに取り組む。※グループワーク・発表・解説	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第10回】	リスク管理計画・リスク対応の組織： リスク管理を組織的に行うための体制について考える。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：ケーススタディの読み込み
【第11回】	ケーススタディ④ 危機管理組織に関するケーススタディに取り組む。※個人ワークおよびグループワーク	ケーススタディについてグループで発表のための資料を作成する。
【第12回】	ケーススタディ⑤ 危機管理組織に関するケーススタディに取り組む。※発表と解説	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第13回】	講義：リスク管理と組織に関する研究 リスクの少ない組織とはどの様な組織かを考える。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第14回】	講義：マスコミ対策・レピュテーションリスク 危機そのものから波及するリスクについて考える。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第15回】	全体の振り返りと確認テスト②	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：確認テストに備えここまでの振り返り

1.授業コード (ナンバリング)	RSM205-Y51	2.科目名	リスク心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	斎藤元幸					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 リスク心理学に関する基礎知識を学ぶ。 【概要】 リスクとは、望ましくない結果が生じる確率とその大きさである。 私たちの社会に存在する様々なリスクを取り上げ、その認知過程について理解・考察を深めていく。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 (1)リスクについての認知過程を説明できる。 (2)リスクに対処する方法について概説できる。 【関連するディプロマポリシー】 (2)社会的貢献性 (4)問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	講義資料を適宜配布する。					
20.参考文献	広田 すみれ・増田 真也・坂上 貴之 (2018). 心理学が描くリスクの世界——行動的意思決定入門—— 慶應義塾大学出版会					
21.成績評価	(1)各回小課題 50% (2)期末レポート 50%					
22.コメント	知覚・認知心理学を履修しておく、授業内容を理解しやすくなります。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜昼休み ＊メールで事前に連絡をしてください。上記時間以外も対応可です。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	オリエンテーション			授業内容の復習		
【第2回】	リスクと意思決定 (1)			授業内容の復習		
【第3回】	リスクと意思決定 (2)			授業内容の復習		
【第4回】	リスクと他者 (1)			授業内容の復習		
【第5回】	リスクと他者 (2)			授業内容の復習		
【第6回】	リスクと集団 (1)			授業内容の復習		
【第7回】	リスクと集団 (2)			授業内容の復習		
【第8回】	リスクと思考 (1)			授業内容の復習		
【第9回】	リスクと思考 (2)			授業内容の復習		
【第10回】	リスクと行動 (1)			授業内容の復習		
【第11回】	リスクと行動 (2)			授業内容の復習		
【第12回】	リスクと健康 (1)			授業内容の復習		
【第13回】	リスクと健康 (2)			授業内容の復習		
【第14回】	リスクと文化			授業内容の復習		

【第 15 回】	総括	期末レポートの作成

1.授業コード (ナンバリング)	RSM301-M51	2.科目名	企業危機管理論		3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦					
5.授業科目の区分	展開科目 「防災・減災分野における実務経験のある教員による授業科目」	6.必修・ 選択の区分	選択 <防災・危機マネジメント専攻コア科目>	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間科学部、経営学部			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	人間学Ⅱ、地域防災減災論(防災入門)の単位取得が望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【本授業では、企業防災を行うための防災教育を主眼とする】 大災害において企業に対する被害を最小限にとどめ、企業活動を迅速に再開し、企業を存続させるために必用となる、災害への備え、災害後の対応についての知識や対処法を、過去の災害における企業対応の成功・失敗事例などから学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	企業において、平常時には大災害への備え、災害発生時には、必要な課題を的確に判断して、先頭に立って、必要なコミュニケーションをとりながらリーダーシップを発揮した防災活動をするなど、企業を通じて地域社会に貢献できる能力を身につける。 【ベンチマーク】 社会的能動性：L3 問題発見力：L3					
19.教科書・教材	授業資料は WebClass で電子配布します。毎回、PC かタブレットを持参のこと(スマホでも可)					
20.参考文献						
21.成績評価	各回提出物：50% 総括レポート：50%					
22.コメント	卒業後に企業や組織に就職した際、職員の防災教育や危機管理マニュアルの作成、防災訓練の実施などに際して、責任者を補佐できるような能力を身につけましょう。このスキルは、就職に際しても、大きな強みとなります。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
金曜 4 限 10/4～12/20 1/10～1/24	<講師名は 2021 年度のもの。講師日程は、今後の調整により変更になる場合があります>			☆講師指定のリフレクション課題レポートを WebCla を使用して提出 (各回共通)		
第 1 回 (10/4)	企業におけるリスクと対策 <企業活動にはどのようなリスクが伴うのか、外部環境や発生要因について学ぶ> 講師：関西国際大学教授 村田昌彦			☆講師指定のリフレクション課題レポートを WebCla を使用して提出してもらうので、カメラ機能の付いたスマホか PC を持参のこと(各回共通)		
第 2 回 (10/11)	組織的対応 (クロスロード) <災害に直面した企業の緊急かつ重要な決断に際して、複数の選択肢から、それぞれの得失について想定しながら、より状況に適した対処法について WS 形式で考える> 講師：関西国際大学准教授 田中綾子			ノート PC 持参のこと		

第 3 回 (10/18)	企業の危機管理事例 <リスクアセスメント①：リスクアセスメントの理解、スポーツにおけるリスクアセス作成のグループ討議> 講師：元 P&G アジア地区健康・環境危機管理統括 古川龍三 関西国際大学教授 村田昌彦	
第 4 回 (10/25)	危機対応①（自社安全管理） <企業活動における自社の安全管理策、危機管理などについて、阪神淡路大震災の経験と教訓をベースに具体的に学ぶ> 講師：神戸新聞経営企画部 徳永 恭子	
第 5 回 (11/1)	企業の危機管理（災害・事故対策） <自然災害や事故などにより、企業経営上甚大な影響を受けた事例、防止対策、今後想定される災害への備え等について、過去の災害や事故の実例から学ぶ> 講師：元サントリーホールディングス(株) 長井直士 関西国際大学教授 村田 昌彦	
第 6 回 (11/8)	学校防災教育の実践と成果 <阪神・淡路大震災後の経験と教訓を活かした防災教育を展開してきた兵庫県立舞子高校から、防災教育の手法、防災分野で活躍している卒業生などについて学ぶ> 講師：兵庫県立舞子高校環境防災科教諭 小寺 真穂 関西国際大学教授 村田 昌彦	
第 7 回 (11/15)	組織的対応（ディベート） <災害に直面した企業の緊急かつ重要な決断に際して、複数の選択肢から、それぞれの得失について想定しながら、より状況に適した対処法についてディベート形式で考える> 講師：関西国際大学准教授 田中 綾子、教授 村田昌彦	
第 8 回 (11/22)	災害時における地域社会への貢献 <平常時に地域と築いた関係を活かして、災害時に地域社会に対してどのような貢献ができるか、それにより企業イメージ・信頼度がどのように変化するのかについて学ぶ> 講師：三ツ星ベルト株式会社経営企画室 社長室 角田正幸 関西国際大学教授 村田 昌彦	
第 9 回 (11/29)	リスクアセスメント演習① <リスクアセスメント②：グループ討議：授業中に起きた地震を想定> 講師：元 P&G アジア地区健康・環境危機管理統括 古川 龍三 関西国際大学教授 村田 昌彦	
第 10 回	リスクアセスメント演習②	

(12/6)	<リスクアセスメント③：火災のリスクと対策、高層ビルの火災(タワリング インフェルノ事前配布・視聴)> 講師：元 P&G アジア地区健康・環境危機管理統括 古川 龍三 関西国際大学教授 村田 昌彦	
第 11 回 (12/13)	企業における新たな危機管理①（サイバーセキュリティ） <企業の新たなリスクとして急増するサイバー攻撃に対する企業の危機管理(サイバーセキュリティ)について学ぶ> 講師：関西国際大学心理学部教授 高橋 浩樹	
第 12 回 (12/20)	企業における新たな危機管理②（人為災害） <企業を取り巻く最近の新たな危機について様々な事例から学ぶ（業務上過失致傷、交通事故）> 講師：関西国際大学心理学部教授 高橋 浩樹	
第 13 回 (1/10)	組織的対応（不祥事対応等を考えるワークショップ） <災害や不祥事などの危機に直面した企業の緊急かつ重要な決断に際して、複数の選択肢から、それぞれの得失について想定しながら、より状況に適した対処法について WS 形式で考える> 講師： 関西国際大学教授 村田 昌彦	
第 14 回 (1/17) 第 15 回 (1/24)	事業継続(BCP)演習 <災害時に、関係機関を含めてサプライチェーンをどのように確保し、企業活動を継続するかについて、企業の具体的な取組みについて学ぶ> 講師： 関西国際大学教授 村田昌彦 総括レポート作成・提出 <例（課題は年末～年明けの授業中にアナウンスします） 各自が就職を希望する企業をモデルケースとして、考えられる脅威、リスクを想定して、リスクが危機事案とならないようにする対応策について考えて、レポートにまとめる>	

1.授業コード (ナンバリング)	RSM301-y51	2.科目名	企業危機管理論		3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦					
5.授業科目の区分	展開科目 「防災・減災分野における実務経験のある教員による授業科目」	6.必修・ 選択の区分	選択 <防災・危機マネジメント専攻コア科目>	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間科学部、経営学部			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	人間学Ⅱ、地域防災減災論(防災入門)の単位取得が望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【本授業では、企業防災を行うための防災教育を主眼とする】 大災害において企業に対する被害を最小限にとどめ、企業活動を迅速に再開し、企業を存続させるために必用となる、災害への備え、災害後の対応についての知識や対処法を、過去の災害における企業対応の成功・失敗事例などから学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	企業において、平常時には大災害への備え、災害発生時には、必要な課題を的確に判断して、先頭に立って、必要なコミュニケーションをとりながらリーダーシップを発揮した防災活動をするなど、企業を通じて地域社会に貢献できる能力を身につける。 【ベンチマーク】 社会的能動性：L3 問題発見力：L3					
19.教科書・教材	授業資料は WebClass で電子配布します。毎回、PC かタブレットを持参のこと(スマホでも可)					
20.参考文献						
21.成績評価	各回提出物：50% 総括レポート：50%					
22.コメント	卒業後に企業や組織に就職した際、職員の防災教育や危機管理マニュアルの作成、防災訓練の実施などに際して、責任者を補佐できるような能力を身につけましょう。このスキルは、就職に際しても、大きな強みとなります。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
金曜 4 限 10/4～12/20 1/10～1/24	<講師名は 2021 年度のもの。講師日程は、今後の調整により変更になる場合があります>			☆講師指定のリフレクション課題レポートを WebCla を使用して提出 (各回共通)		
第 1 回 (10/4)	企業におけるリスクと対策 <企業活動にはどのようなリスクが伴うのか、外部環境や発生要因について学ぶ> 講師：関西国際大学教授 村田昌彦			☆講師指定のリフレクション課題レポートを WebCla を使用して提出してもらうので、カメラ機能の付いたスマホか PC を持参のこと(各回共通)		
第 2 回 (10/11)	組織的対応（クロスロード） <災害に直面した企業の緊急かつ重要な決断に際して、複数の選択肢から、それぞれの得失について想定しながら、より状況に適した対処法について WS 形式で考える> 講師：関西国際大学准教授 田中綾子			ノート PC 持参のこと		

第 3 回 (10/18)	企業の危機管理事例 <リスクアセスメント①：リスクアセスメントの理解、スポーツにおけるリスクアセス作成のグループ討議> 講師：元 P&G アジア地区健康・環境危機管理統括 古川龍三 関西国際大学教授 村田昌彦	
第 4 回 (10/25)	危機対応①（自社安全管理） <企業活動における自社の安全管理策、危機管理などについて、阪神淡路大震災の経験と教訓をベースに具体的に学ぶ> 講師：神戸新聞経営企画部 徳永 恭子	
第 5 回 (11/1)	企業の危機管理（災害・事故対策） <自然災害や事故などにより、企業経営上甚大な影響を受けた事例、防止対策、今後想定される災害への備え等について、過去の災害や事故の実例から学ぶ> 講師：元サントリーホールディングス(株) 長井直士 関西国際大学教授 村田 昌彦	
第 6 回 (11/8)	学校防災教育の実践と成果 <阪神・淡路大震災後の経験と教訓を活かした防災教育を展開してきた兵庫県立舞子高校から、防災教育の手法、防災分野で活躍している卒業生などについて学ぶ> 講師：兵庫県立舞子高校環境防災科教諭 小寺 真穂 関西国際大学教授 村田 昌彦	
第 7 回 (11/15)	組織的対応（ディベート） <災害に直面した企業の緊急かつ重要な決断に際して、複数の選択肢から、それぞれの得失について想定しながら、より状況に適した対処法についてディベート形式で考える> 講師：関西国際大学准教授 田中 綾子、教授 村田昌彦	
第 8 回 (11/22)	災害時における地域社会への貢献 <平常時に地域と築いた関係を活かして、災害時に地域社会に対してどのような貢献ができるか、それにより企業イメージ・信頼度がどのように変化するのかについて学ぶ> 講師：三ツ星ベルト株式会社経営企画室 社長室 角田正幸 関西国際大学教授 村田 昌彦	
第 9 回 (11/29)	リスクアセスメント演習① <リスクアセスメント②：グループ討議：授業中に起きた地震を想定> 講師：元 P&G アジア地区健康・環境危機管理統括 古川 龍三 関西国際大学教授 村田 昌彦	
第 10 回	リスクアセスメント演習②	

(12/6)	<リスクアセスメント③：火災のリスクと対策、高層ビルの火災(タワリング インフェルノ事前配布・視聴)> 講師：元 P&G アジア地区健康・環境危機管理統括 古川 龍三 関西国際大学教授 村田 昌彦	
第 11 回 (12/13)	企業における新たな危機管理①（サイバーセキュリティ） <企業の新たなリスクとして急増するサイバー攻撃に対する企業の危機管理(サイバーセキュリティ)について学ぶ> 講師：関西国際大学心理学部教授 高橋 浩樹	
第 12 回 (12/20)	企業における新たな危機管理②（人為災害） <企業を取り巻く最近の新たな危機について様々な事例から学ぶ（業務上過失致傷、交通事故）> 講師：関西国際大学心理学部教授 高橋 浩樹	
第 13 回 (1/10)	組織的対応（不祥事対応等を考えるワークショップ） <災害や不祥事などの危機に直面した企業の緊急かつ重要な決断に際して、複数の選択肢から、それぞれの得失について想定しながら、より状況に適した対処法について WS 形式で考える> 講師： 関西国際大学教授 村田 昌彦	
第 14 回 (1/17) 第 15 回 (1/24)	事業継続(BCP)演習 <災害時に、関係機関を含めてサプライチェーンをどのように確保し、企業活動を継続するかについて、企業の具体的な取組みについて学ぶ> 講師： 関西国際大学教授 村田昌彦 総括レポート作成・提出 <例（課題は年末～年明けの授業中にアナウンスします） 各自が就職を希望する企業をモデルケースとして、考えられる脅威、リスクを想定して、リスクが危機事案とならないようにする対応策について考えて、レポートにまとめる>	

1.授業コード (ナンバリング)	RSM302-M51	2.科目名	防災・復興組織論		3.単位数	2
4.授業担当教員	林万平					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では、阪神・淡路大震災を例に、その復興にまつわる政策的諸課題について講義します。大災害からの復興が議論する領域は、人々の生活再建にとどまらず、地域社会の再生、経済活動の復興等、幅広い分野にわたります。そこで、第一に、阪神・淡路大震災を例に、大災害が被災地域に及ぼした社会・経済的影響、政府や法制度の問題、その後の地域社会・経済の状況等について、事例や文献、研究等を紹介しつつ、大災害と地域経済の関連性について理解を深めます。これにより、今後、日本で発生 of 蓋然性が高いとされる大災害が発生した場合に、被災地域の復興や被災者の生活再建どのような情報や視点が必要なのか理解することができます。第二に、神戸を含む大災害の長期的な経済復興の現状について紹介します。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学修目標は DP の（４）問題発見解決力、（６）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ①大災害にまつわる政策的議論について包括的に理解できる。 ②今後の大災害に向けた地域社会のあり方について、自らの考え方に基づいて議論できる。 ③災害復興が目指す都市形成の事例についての知識を深める。					
19.教科書・教材	林敏彦「大災害の経済学」PHP 新書					
20.参考文献	適宜授業中に示す					
21.成績評価	授業中の提出物 30% 学習目標①、③に対応 中間レポート 30% 学習目標②、総括・振り返りに対応。 最終レポート 40% 学習目標②、総括・振り返りに対応。					
22.コメント	災害は環太平洋地域の国々では今や共通の社会・経済的問題と言えます。 国際的な社会的課題について関心のある方の履修を勧めます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 第 2 回	第 1 回 世界の大災害と阪神淡路大震災 第 2 回 阪神淡路大震災の発生。その時何が起きたか (1) 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。			復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノート		
第 3 回 第 4 回	第 3 回 阪神淡路大震災の発生。その時何が起きたか (2) 第 4 回 阪神・淡路大震災の 緊急対応とそれをめぐる諸問題 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。			復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノート		
第 5 回 第 6 回	第 5 回 法と政治に何ができたのか。(1) 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。			復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノート		
第 7 回	第 6 回 市民から見る阪神・淡路大震災 (1)			復習、授業ノート の整理		

第 8 回	本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	持参物 教科書、ノ ー ト
第 9 回 第 1 0 回	第 7 回 緊急対応から災害復興へ 第 8 回 阪神・淡路震災の 直接経済被害と復興財源 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 1 回 第 1 2 回	第 9 回 阪神・淡路大震災の復興財政とその後の財政 支出 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 3 回 第 1 4 回	第 1 0 回 災害復興計画とその幻 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 5 回 第 1 6 回	第 1 1 回 震災後 10 年とその間の諸問題 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 7 回 第 1 8 回	第 1 2 回 報告に向けての調査設計 本講義は④グループワークに基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 9 回 第 2 0 回	第 1 3 回 阪神・淡路大震災復興基金 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 2 1 回 第 2 2 回	第 1 4 回 震災後の経済的復興の課題 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 2 3 回 第 2 4 回	第 1 5 回 阪神・淡路大震災とは 何であったのか 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 2 5 回 第 2 6 回		
第 2 7 回 第 2 8 回		
第 2 9 回 第 3 0 回		

1.授業コード (ナンバリング)	RSM302-y51	2.科目名	防災・復興組織論		3.単位数	2
4.授業担当教員	林万平					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では、阪神・淡路大震災を例に、その復興にまつわる政策的諸課題について講義します。大災害からの復興が議論する領域は、人々の生活再建にとどまらず、地域社会の再生、経済活動の復興等、幅広い分野にわたります。そこで、第一に、阪神・淡路大震災を例に、大災害が被災地域に及ぼした社会・経済的影響、政府や法制度の問題、その後の地域社会・経済の状況等について、事例や文献、研究等を紹介しつつ、大災害と地域経済の関連性について理解を深めます。これにより、今後、日本で発生 of 蓋然性が高いとされる大災害が発生した場合に、被災地域の復興や被災者の生活再建どのような情報や視点が必要なのか理解することができます。第二に、神戸を含む大災害の長期的な経済復興の現状について紹介します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学修目標は DP の（４）問題発見解決力、（６）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ①大災害にまつわる政策的議論について包括的に理解できる。 ②今後の大災害に向けた地域社会のあり方について、自らの考え方に基づいて議論できる。 ③災害復興が目指す都市形成の事例についての知識を深める。					
19.教科書・教材	林敏彦「大災害の経済学」PHP 新書					
20.参考文献	適宜授業中に示す					
21.成績評価	授業中の提出物 30% 学習目標①、③に対応 中間レポート 30% 学習目標②、総括・振り返りに対応。 最終レポート 40% 学習目標②、総括・振り返りに対応。					
22.コメント	災害は環太平洋地域の国々では今や共通の社会・経済的問題と言えます。 国際的な社会的課題について関心のある方の履修を勧めます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 第 2 回	第 1 回 世界の大災害と阪神淡路大震災 第 2 回 阪神淡路大震災の発生。その時何が起きたか (1) 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。			復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノート		
第 3 回 第 4 回	第 3 回 阪神淡路大震災の発生。その時何が起きたか (2) 第 4 回 阪神・淡路大震災の 緊急対応とそれをめぐる諸問題 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。			復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノート		
第 5 回 第 6 回	第 5 回 法と政治に何ができただのか。(1) 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。			復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノート		
第 7 回	第 6 回 市民から見る阪神・淡路大震災 (1)			復習、授業ノート の整理		

第 8 回	本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	持参物 教科書、ノ ー ト
第 9 回 第 1 0 回	第 7 回 緊急対応から災害復興へ 第 8 回 阪神・淡路震災の 直接経済被害と復興財源 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 1 回 第 1 2 回	第 9 回 阪神・淡路大震災の復興財政とその後の財政 支出 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 3 回 第 1 4 回	第 1 0 回 災害復興計画とその幻 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 5 回 第 1 6 回	第 1 1 回 震災後 10 年とその間の諸問題 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 7 回 第 1 8 回	第 1 2 回 報告に向けての調査設計 本講義は④グループワークに基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 9 回 第 2 0 回	第 1 3 回 阪神・淡路大震災復興基金 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 2 1 回 第 2 2 回	第 1 4 回 震災後の経済的復興の課題 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 2 3 回 第 2 4 回	第 1 5 回 阪神・淡路大震災とは 何であったのか 本講義は①PBL に基づいて授業を行います。	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 2 5 回 第 2 6 回		
第 2 7 回 第 2 8 回		
第 2 9 回 第 3 0 回		

1.授業コード (ナンバリング)	RSM303-M51	2.科目名	危機管理・防災演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中綾子					
5.授業科目の区分	展開科目 (防災・危機マネジメント専攻コア科目)	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学部、人間科学部			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	「危機管理入門」「セーフティマネジメント論」「危機管理リーダーシップ論」の単位取得が望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	危機管理や災害対策現場で具体的に求められるスキルを身につけることを目的とする。特に危機においては情報収集と発信が、防災においてはマニュアル等のルール整備と訓練の実施は、重要な役割を果たす。そのため、取り扱いに必要な専門的な知識取得のための講義と、実際に役立つ演習を組み合わせた授業を行う。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①危機における情報収集の目的と方法について説明できる ②危機における情報発信の目的と方法について説明できる ③危機対応や防災を目的とした組織行動を理解し共同できる ④危機管理マニュアルの目的の説明と作成ができる ⑤防災訓練の企画立案・実施評価ができる					
19.教科書・教材	授業資料を web クラスで毎回データ配布します。また、ワークに必要な様式等は随時配布します。					
20.参考文献	◇『会社を守る「防災マニュアル」のつくり方』山根 義信 マネジメント社 2011 年 ◇『タイムライン 日本の防災対策が変わる』松尾一郎 廣済堂出版 2016 年 ◇『想定外に備える 企業災害対策マニュアル』キャスリン・マッキー 翔泳社 2011 年 ◇『フリーGIS ソフト MANDARA10 入門』谷謙二 古今書院 2018 年 ◇『スラスラわかる HTML & CSS のきほん 第 2 版』狩野祐東 SB クリエイティブ 2018 年					
21.成績評価	各回提出物：30% グループワークへの貢献：20% 成果物発表：50%					
22.コメント	「セーフティマネジメント論」「危機管理入門」等において、防災・危機への組織的対応の基礎的内容を理解している必要がある。 これまでに学んだ知識を実際に活用し身につける展開科目である。 グループごとに目標を定め、実施し、相互評価を行います。積極的な参画によって、組織に貢献できる危機管理・防災力の向上を実感しよう。					
23.オフィスアワー	火曜日昼休み 研究室（4 号館 5 階）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 (10/4)	＜オリエンテーション＞ この授業で身につける具体的な能力について考え、その手法を理解する。 グループ分けを行います。			☆講師指定のリフレクション課題の提出 (WebClass 使用：第 1 回から 14 回まで各回共通)		

第 2 回 (10/11)	危機管理上の情報の取り扱いについて学ぶ① 情報収集の手法	
第 3 回 (10/18)	危機管理上の情報の取り扱いについて学ぶ② 情報発信の手法-1	
第 4 回 (10/25)	危機管理上の情報の取り扱いについて学ぶ③ 情報発信の手法-2	
第 5 回 (11/1)	情報の種類と効果について学ぶ 動画、写真、テキスト、それぞれの特徴について理解し、使い分ける。	
第 6 回 (11/8)	危機管理・防災に関する企画① グループにおける活動を企画する。 例 ・大学周辺の防災情報の WEB サイトを作成する ・災害時の帰宅ルートマップを作成する ・学生寮等の防災マニュアルを作成する ・学生寮等の防災訓練を実施する ・災害時の安否確認方法に関するマニュアルを作成する など	
第 7 回 (11/15)	危機管理・防災に関する企画② グループにおける活動を企画を発表し、フィードバックを受ける。	
第 8 回 (11/22)	危機管理・防災に関する企画③ グループにおける活動の準備を行う。	
第 9 回 (11/29)	危機管理・防災活動の実施① グループにおいて、活動を実施する。	
第 10 回 (12/6)	危機管理・防災活動の実施② グループにおいて、活動を実施する。	
第 11 回 (12/13)	危機管理・防災活動の実施③ グループにおいて、活動を実施する。	
第 12 回 (12/20)	活動の中間発表と相互評価 活動の記録を簡単にまとめ中間発表し、グループ間で質疑を行う。	
第 13 回 (1/10)	危機管理・防災活動の実施④ 関係先の評価を受け、改善点をまとめる。	
第 14 回 (1/17)	危機管理・防災活動の実施⑤ 活動成果のまとめと最終発表の準備を行う。	
第 15 回 (1/24)	最終発表と相互評価 成果物を発表し、今後の改善策について提案する。(35 点) 他グループの発表内容を評価する。(15 点)	web クラスを使用するため、ノート PC を持参すること。

1.授業コード (ナンバリング)	RSM305-M51	2.科目名	安全安心社会特論		3.単位数	2
4.授業担当教員	林万平					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	地域マネジメント専攻 防災・危機マネジメント専攻			9.履修学年	3 回生	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義形式		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本講義では、社会の安全と人々の安心の双方に目配りしながら、具体的な社会問題への政策対応について吟味しつつ、安全安心な社会の構築に向けた考え方を学ぶ。特に、ここでは2020年以降、世界的な社会問題となっている Covid-19（新型コロナウイルス感染症）によるパンデミックを取り上げる。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学修目標は DP の（４）問題発見解決力、（６）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ①パンデミックにまつわる政策的議論について包括的に理解できる。 ②ポスト・コロナ社会に向けた政策形成のあり方について、自らの考え方に基づいて議論できる。 ③感染症からの安全と人々の安心を考慮する際に、必要な政策アプローチについて説明することができる。					
19.教科書・教材	特になし。					
20.参考文献	適宜授業中に紹介する。					
21.成績評価	授業中の提出物、および中間レポートと最終レポートで評価する。 授業中の提出物（30％） ①に対応 中間レポート（20％） ②、③に対応 最終レポート（30％） ②、③に対応 最終プレゼン（20%）②、③に対応					
22.コメント	新聞記事や文献について調査する事が多いので、根気のある学生の履修を求めます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	パンデミックの始まり ダイヤモンド・プリンセス号の入港			復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノート		
第2回	新型コロナウイルスの登場			復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノート		
第3回	各国政府の対応			復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノート		
第4回	各国政府の対応（2）			復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノート		
第5回	戦後初の緊急事態宣言			復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノート		
第6回	緊急事態宣言の解除			復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノート		
第7回	経済対策			復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノート		

第 8 回	政治の安定性	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 9 回	中間発表と最終レポート課題の発表	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 0 回	ワクチンと変異株	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 1 回	防疫か、経済か	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 2 回	コロナ戦略は正しかったのか	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 3 回	とどまらない変異株の驚異 デルタ株～オミクロン株	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 4 回	日常への回帰ー感染症との共存	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト
第 1 5 回	最終プレゼン	復習、授業ノート の整理 持参物 教科書、ノ ー ト

1.授業コード (ナンバリング)	RSM308-Y51	2.科目名	サイバーセキュリティ論Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高橋浩樹					
5.授業科目の区分	警察分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	サイバーセキュリティ論Ⅰを履修した学生を前提としています。 Ⅱにおいては、サイバー犯罪の捜査、企業のサイバーセキュリティ対策について学びます。 講義への出席が原則です。					
17.授業の目的と概要	目的：情報収集、分析力を身に付け、データに基づく論理的思考力を養うことを目標としま す。 現代社会において必要とされるサイバーセキュリティに関する知識を習得し、サイバーリスク マネジメント力を養成すること目的としています。 概要：実際のサイバー犯罪捜査の方法等を学ぶとともに、企業の対策や取組、制度を学び社会 生活に求められるサイバーセキュリティの知識を習得し、サイバーセキュリティ意識の向上を 目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	DPの(4)問題発見・解決力(6)専門的知識・技能の学修に関連しています。 ①サイバー犯罪等が社会の中で問題となっている論点を述べることができる ②問題発生時の事実と意見を区別することができる ③犯罪に関連する専門的知識を獲得することができる					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します（教科書は使いません）。					
20.参考文献	青林出版 概説サイバー犯罪 法令解説と捜査・公判の実際 日科学技連 基礎から学ぶデジタル・フォレンジック 授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	・第8回講義終了後レポート「サイバー犯罪の特徴、捜査方法について」の提出 40% 学習目標③に対応 ・総括効果測定 「企業のサイバーセキュリティ対策に関するレポート」 60% 学習目標①、②に対応 ※最終レポートに加えて、中間レポートも提出することが単位認定の前提となるので注意する こと					
22.コメント	・レポート作成に当たっては ①書籍、学術雑誌を利用し、出典を明示すること ②ネット検索によるものは、公共機関の HP に基づき URL 等を明示すること					
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：水曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	・オリエンテーション 授業の目標、内容、進め方、レポート作成等に関する 説明			ノートパソコン等を持参して下さい。		
第2回	サイバー犯罪の予防 各種施策			予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、事例、質疑		

		ノートパソコン等を持参して下さい。
第 3 回	サイバー犯罪の捜査 特徴、捜査方法	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 4 回	サイバー犯罪の捜査 捜査方法	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 5 回	サイバー犯罪の捜査 捜査方法	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 6 回	サイバー犯罪の捜査 遠隔操作、搜索差押	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 7 回	サイバー犯罪の捜査 解析実務	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 8 回	企業におけるサイバーセキュリティ 手口	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 9 回	企業におけるサイバーセキュリティ 企業における対策、問題点	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 10 回	企業におけるサイバーセキュリティ 調査委員会	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 11 回	企業におけるサイバーセキュリティ サイバーセキュリティ戦略	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 12 回	企業におけるサイバーリスク セキュリティガバナンス	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 13 回	企業におけるサイバーリスク インシデント対応	予習：WebClass で資料を事前提示 復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 14 回	デジタルフォレンジック	予習：WebClass で資料を事前提示

	実例等	復習：前回授業の振り返り、実例、質疑 ノートパソコン等を持参して下さい。
第 15 回	総括、振り返り	ノートパソコン等を持参して下さい。

1.授業コード (ナンバリング)	SE2208-Y81	2.科目名	ファイナンシャルプランニング（２）		3.単位数	2
4.授業担当教員	飯嶋香織					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	なし（但し 前期開講のファイナンシャル プランニング（1）を履修していることが望 ましい）		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	卒業後の長い人生で必ず必要となる、パーソナル・ファイナンスの基礎知識を修得し、さらに今 後の人生設計を考えることを目標にしている。 ファイナンシャル・プランニング技能検定 3 級の試験合格をめざす。 授業中もファイナンシャル・プランニング技能検定 3 級の試験問題を解き、試験に向けての実 践力を高めるようにしている。ファイナンシャル・プランニング技能検定 3 級の試験合格で今 後の人生設計や就職に生かせるようにする。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は 総合社会学科の DP の「S1.修得した知識技能を通して、現代社会の諸問題 を総合的に理解する力」「2.主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力」の学修に関連してい る。 ①現在及び卒業後の長期の人生設計をお金の面から総合的に考え、今後の人生設計について具体 的なプランを立てることができる。 ②税金、不動産、相続、事業継承などの生活に密着した知識を理解し、説明できる。 ③税金、不動産、相続、事業継承分野のファイナンシャル・プランニング技能検定 3 級の試験 問題を解くことができる。 ④上記の 1～3 についての、ファイナンシャル・プランニング技能検定 3 級の試験問題を解く ことができる。					
19.教科書・教材	必要な資料は授業で配布します。					
20.参考文献	一発合格! FP 技能士 3 級完全攻略テキスト 24-25 年版 前田信弘 ナツメ社 国税庁の HP 所得税 相続税などを中心に閲覧して下さい					
21.成績評価	第 9 回に中間試験を実施：第 1 回から第 8 回までのまとめと振り返りの確認テスト 40％ 学習目標①と②と④に対応 第 15 回に最終試験実施：第 1 回から第 14 回までのまとめと振り返りの確認テスト 60％ 学習目標②と③と④に対応 確認テストはファイナンシャル・プランニング 技能検定 3 級の問題と同程度の難易度 ※ 日本語の難易度が高いため出席のみしていても 中間テスト、最終テストで得点をと ることは出来ない					
22.コメント	原則、対面授業で実施。 ただし、天候不良など登学禁止となり、対面で授業が実施できない場 合は、遠隔での対応となることもある。その場合、授業を ZOOM などで録画して授業内の WEB CLASS で公開することがある。 ファイナンシャル・プランニング 技能検定 3 級 の資格取得を目指す ファイナンシャル プランニング試験の対象は①ライフプランニングと資金計画 ②リスク管 理 ③金融資産設計 ④タックスプランニング ⑤不動産 ⑥相続・事業継承の 6 分野で 前 期に①～③まで後期に④～⑥までの分野を学習する					
23.オフィスアワー	授業後に教室または非常勤講師室					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	ガイダンス 1) タックスプランニング ①所得税、法人税、消費税などの基本的理解	【復習】 P165-175 【次週の予習】 P176-180 ※テキストは毎回の授業に持参は必須
【第2回】	1) タックスプランニング ②所得税の計算手順、税額の計算方法	【復習】 P176-180 【次週の予習】 P181-196
【第3回】	1) タックスプランニング ③利子所得、配当所得、不動産所得、事業所得、給与所得など	【復習】 P181-196 【次週の予習】 P197-216
【第4回】	1) タックスプランニング ④所得税の申告と納付、税額控除	【復習】 P197-216 タックスプランニングの全体の復習 【次週の予習】 P215-228
【第5回】	2) 不動産運用 ①不動産の見方、取引、法律	【復習】 P215-228 【次週の予習】 P229-238
【第6回】	2) 不動産運用 ②不動産に関する法令上の規制	【復習】 P229-238 【次週の予習】 P239-248
【第7回】	2) 不動産運用 ③不動産の取得・保有・譲渡に係る税金	【復習】 P239-248 【次週の予習】 P249-268
【第8回】	2) 不動産運用 ④不動産の賃貸と税金、不動産の有効活用	【復習】 P249-268 【次週の予習】 確認テストの範囲 P166-268
【第9回】	2) 第1回から第8回までのまとめと確認テスト	【確認テスト範囲】 P166-268 【次週の予習】 P269-277
【第10回】	3) 相続・事業承継 ①贈与と税金	【復習】 P269-277 【次週の予習】 P278-284
【第11回】	3) 相続・事業承継 ②相続と法律(1)	【復習】 P278-284 【次週の予習】 P285-292
【第12回】	3) 相続・事業承継 ③相続と法律(2)	【復習】 P285-292 【来週の予習】 P293-303
【第13回】	3) 相続・事業承継 ④相続と税金	【復習】 P293-303 【次週の予習】 P304-318
【第14回】	3) 相続・事業承継 ⑤相続対策、事業承継対策	【復習】 P304-318 【次週の予習】 確認テスト範囲 P166-318
【第15回】	第1回から第14回までのまとめ 振り返りの確認テスト（最終テスト）	【確認テスト範囲】 P166-318

1.授業コード (ナンバリング)	SE2309-Y81	2.科目名	環境マネジメント演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	井上尚之					
5.授業科目の区分	専門科目／J A B 認定 I S O 1 4 0 0 1 元審 査員による授業	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	3 年次～	
10.取得資格の要件	前期の「環境マネジメント論」と本 科目を履修合格することにより内部 環境審査員資格が得られる。		11.先修条件	環境マネジメント論を修得していること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	前期の「環境マネジメント論」の続編であり、「環境マネジメント論」を履修して合格してい ない者は受講不可である。この科目は、特に内部環境監査について深く学習する。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は、D P の「2. 主体的かつ柔軟に行動し問題解決を図る力。」と「S 2. 社 会や文化について科学的に理解する力。」の学修に関連しています。 (1) 内部環境監査の方法をプレゼンできる。 (2) 内部監査を実際に行える知識を理解できる。 (3) ISO14001 の箇条をプレゼンできる。					
19.教科書・教材	井上尚之著『サステナビリティ経営』(大阪公立大学出版会、2022)					
20.参考文献	なし					
21.成績評価	積極的授業参加度・授業中の発表 (45%) (目標 (1) (3) に対応) 総括試験又はレポート (55%) (目標 (2) に対応)					
22.コメント	少人数の授業であるので、授業中のディスカッションによって疑問点を解決すること。 毎回の課題の理解は、授業中のディスカッションによって確認して理解するまで授業中に説明 する。 私語厳禁。私語をする者は受講させない。 指定席以外での受講は認めない。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	6.2.2 環境目標を達成するための取り組みの計画策定			準備学習：教科書を利用するので、各回の授 業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書 く。授業におけるディスカッションで疑問点 を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめ る。		
【第 2 回】	7. 支援 7.1 資源			準備学習：教科書を利用するので、各回の授 業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書 く。授業におけるディスカッションで疑問点 を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめ る。		
【第 3 回】	7.2 力量 7.3 認識			準備学習：教科書を利用するので、各回の授 業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書 く。授業におけるディスカッションで疑問点 を解決する。		

		復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第4回】	7.4 コミュニケーション 7.4.1 一般	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第5回】	7.4.2 内部コミュニケーション 7.4.3 外部コミュニケーション	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第6回】	7.5 文書化した情報 7.5.1 一般	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第7回】	7.5.2 作成及び更新 7.5.3 文書化した情報の管理	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第8回】	8. 運用 8.1 運用の計画及び管理	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第9回】	8.2 緊急事態への準備及び対応	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第10回】	9. パフォーマンス評価 9.1. 監視、測定、分析及び評価 9.1.1 一般	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第11回】	9.1.2 順守評価 9.2 内部監査 9.2.1 一般	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。

		復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第 12 回】	9.2.2 内部監査プログラム	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第 13 回】	9.3 マネジメントレビュー	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第 14 回】	10.改善 10.1 一般 10.2 不適合及び是正処置 10.3 継続的改善 総括試験（55 点）	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
【第 15 回】	総まとめ試験返却	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。

1.授業コード (ナンバリング)	SED201-A51	2.科目名	障害者教育総論		3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	展開科目 特別支援教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 特支 幼稚園一種	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号		※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態		講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	障害児（者）の正しい理解と認識を深めるとともに、特殊教育から特別支援教育への移行を学習していく。平成19年度から始まった特別支援教育は、これまでの「場の教育」から「機会の教育」へと内容が変化している。その基本的な理念と内容について学ぶことで、特別支援教育の今日的課題を考察していきたい。 それらの学習によって基本的な知識及び技能の習得を目指し、障害のある子ども一人ひとりへの具体的な支援の手立てを考えていく。障害児（者）の問題は、人間発達の問題であり、全ての教育の基本になるものである。教職を目指すもの全てに必要な内容であり人としての人間観を育むことで、将来の進路に向けた資質向上につながるようにする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）の獲得に関連しています。 ・教員・社会福祉従事者として、その人がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域、保護者、他職種等との連携・協働を行うことができる。 ・教育・社会事象に関して、教育学や社会福祉学の概念から、体系的な知識を使って理論的に説明することができる。 ・障がい者を取り巻く環境についての説明に必要な、教育や福祉の基本的な概念や理論について、理解し説明することができることを目標とする。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①特別支援教育の授業内容に関して、新たな興味や関心を持って調べることができる。 ②各障害への対応体系の全体像と特別支援教育の基本的知識を身につける。 ③社会的に弱い立場にいる人、困っている人たちがいることに関心をもち、特に各障害について理解し、障がいの有無にかかわらず、相手の立場に立って考え行動する事ができる。 ④各障害における指導の基本的理解をする。 これらの学習によって基本的な知識及び技能の習得を目指し、通常学級における要配慮児一人ひとりへの具体的な支援の手立てを考えていく。指導現場での様々な事象や現象について触れながら発達障害の心理、生理及び指導法を理解し、将来の進路に向けた資質向上につながるようにする。					
19.教科書・教材	特に指定せず、適宜資料等を配布する。					
20.参考文献	よくわかる特別支援教育 湯浅恭正編集 ミネルバ書房 特別支援教育総論 大南英明他 放送大学教育振興会					

21.成績評価	小テストと演習態度の合計 25% 学習目標②③④ 中間レポート課題 25% ① テーマ①②にそった内容理解と完成度および課題追求の意欲 グループワーク等の自主課題提出 10% ①③ まとめと最終テスト 40% ①②③④	
22.コメント		
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・オリエンテーション（本授業のねらいと授業計画・特別支援教育とは） 授業シラバスの説明および、最初の導入としての特別支援教育、障害者理解の説明を行う。	○次回の予習として、特別支援教育関連の書籍を探し、目を通しておく。(120 分)
第 2 回	・特別支援教育の理念（特別支援教育の理念と意義について） 特別支援教育の理念と意義について文部科学省の指導要録等を参考に理解する。	○次回の予習として、特別支援教育関連の書籍を読み、歴史についての質問を考えておく。(120 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分)
第 3 回	・特殊教育から特別支援教育へ（特殊教育の歴史と特別支援教育への移行） 特殊教育の歴史を知り、特別支援教育に移行した背景を理解する。	○次回の予習として、知的障害者に関する書籍を読み、わからないところをチェックする。(120 分) ○次回までに 1～3 回の授業のまとめを行い、小テストに備える。(120 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分)
第 4 回	・知的障害児の教育（知的障害の理解と指導について）小テスト① 知的障害の基礎的な理解と簡単な指導法について知る。	○次回の予習として、肢体不自由児についての書籍を読み、わからないところをチェックする。(120 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分)
第 5 回	・肢体不自由児の教育（肢体不自由の理解と指導について） 肢体不自由児の基礎的な理解と簡単な指導法について知る。 ・授業外活動に関しての課題解決のためのグループワーク。	○次回の予習として、自閉症児についての書籍を読み、わからないところをチェックする。(120 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分)
第 6 回	・自閉症児の教育（自閉症の理解と指導について） 自閉症の基礎的な理解と簡単な指導法について知る。	○次回の予習として、発達障害についての書籍を読み、わからないところをチェックする。(120 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分)
第 7 回	・発達障害児の教育（発達障害の理解と指導について）	○次回の予習として、聴覚障害についての文献を読み、コミュニケーション手段について

	自閉症以外の発達障害についての基礎的な理解と簡単に指導法について知る。	調べておく。(120 分) ○次回までに、4～7 回の授業のまとめを行い、小テストに備える。(120 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分)
第 8 回	・聴覚障害児の教育 (聴覚障害の理解と指導について) 小テスト② 聴覚障害の基礎的な理解とコミュニケーション手段について学ぶ。	○次回の予習として、視覚障害のコミュニケーションについて調べておく。 (120 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分)
第 9 回	・視覚障害児の教育 (視覚障害の理解と指導について) 視覚障害の基礎的な理解と点字等について学ぶ。点字理解のグループワーク。	○次回の予習として、病弱児についての文献を読み、わからないところをチェックしておく。(120 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分)
第 10 回	・病虚弱児の教育 (病虚弱の理解と指導について) 病弱児の基礎的理解とホスピスについて学ぶ。	○次回のレポート提出に向けて、課題の整理とまとめを行う。(240 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分)
第 11 回	・就学前の療育と卒業後の暮らし (就学前の療育の理解と卒業後の進路生活について) 中間レポート提出 幼児期の療育と卒業後の実態を知る。 ・授業外活動に関する課題解決のためのグループワーク。	○次回の予習として、特別支援学校の教育課程について文部科学省のHPを参考に見ておく。(120 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分) ○次回までに 8～9 回の授業のまとめを行い、小テストに備える。(120 分)
第 12 回	・特別支援教育の場と教育課程(特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室の理解について) 特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室の実態を理解し、教育課程の違いを知る。	○次回の予習として、特別支援教育の体制づくりについて予習しておく。(120 分) ○ボランティア、インターンシップ等に参加し、まとめる。(120 分)
第 13 回	・特別支援教育と学校体制作り 特別支援教育コーディネーターの役割と校内支援体制の確立及び センターの機能とその役割について学ぶ	○ボランティア、インターンシップ等のまとめをする。(120 分)
第 14 回	・個別の教育支援計画の理論 (個別の指導計画と支援計画の理解) 個別の指導計画と個別の教育支援計画の実態とアメリカとの比較をする。	○最終テストに向けて授業のまとめを行う。(240 分)
第 15 回	・まとめとテスト 授業のまとめと最終確認テストを行う。	

1.授業コード (ナンバリング)	SED202-A51	2.科目名	知的障害者の自立活動の理論と実際		3.単位数	2
4.授業担当教員	梶正義					
5.授業科目の区分	展開科目 特別支援教育分野における実務経験がある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	特別支援学校教諭		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	知的障害のある幼児児童生徒が、自立と社会参加を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善しようとする力を身につけるための中心的な教育活動が「自立活動」である。この講義では、特別支援教育の中核的領域であるこの自立活動について、具体的な内容と方法を学ぶとともに、個別の指導計画の作成と活用について学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	(1) 自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 (2) 問題発見・解決力 根拠にもとづいて、問題を発見したり解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができる。 (3) 専門的知識・技能 の活用力 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができる。 具体的な目標は以下の通りである。 ・特別支援教育における自立活動の意義について説明することができる。 ・自立活動の6区分とその内容を説明することができる。 ・知的障害教育における自立活動の個別の指導計画略案を子どもを想定しながらたてることができる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。随時資料を配布する。					
20.参考文献	「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編」文部科学省					
21.成績評価	・アサインメントの提出・発表 30％ ・個別の指導計画 20％ ・確認テスト 50％					
22.コメント	自立活動は特別支援教育における中核的な領域です。この領域について学ぶことは、特別支援教育に関する指導力を高めることに繋がります。自立活動の意義と具体的な内容、方法をしっかり学んでください。					
23.オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み（メールで確認）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーションー講義の目標、予定、評価等 授業シラバスの説明および目標、評価と今後の予定について確認する。			特別支援教育総論の授業内容を復習しておく。240 分		
第2回	自立活動 特別支援学校の教育課程の概要を理解し、自立活動の			○学習指導要領の自立活動の目標を調べてまとめる。240 分		

	意義・目標を知る。	
第 3 回	「養護・訓練」から「自立活動」 「養護・訓練」の設置と改訂及び「自立活動」に至った経緯と背景、変遷を学ぶ。	○学習指導要領の自立活動への変遷について調べてまとめる。240 分
第 4 回	自立活動の改訂 自立活動の改訂の背景と具体的内容を学ぶ。	○近年の自立活動の改訂の背景を調べてまとめる。240 分
第 5 回	自立活動の内容①「健康の保持」 健康の保持の内容と具体的な取り組みを学ぶ。 (基本事項を確認した後、グループで具体的な目標と方法を考えてまとめる。)	○自立活動解説書「健康の保持」について調べる。 授業後に、グループワークで考えた目標と方法を各自まとめる。240 分
第 6 回	自立活動の内容②「心理的な安定」 心理的な安定の内容と具体的な取り組みを学ぶ。 (基本事項を確認した後、グループで具体的な目標と方法を考えてまとめる。)	○自立活動解説書「心理的な安定」について調べる。240 分
第 7 回	自立活動の内容③「人間関係の形成」 人間関係の形成の内容と具体的な取り組みを学ぶ。 (基本事項を確認した後、グループで具体的な目標と方法を考えてまとめる。)	○自立活動解説書「人間関係の形成」について調べてまとめる。240 分
第 8 回	自立活動の内容④「環境の把握」 環境の把握の内容と具体的な取り組みを学ぶ。 (基本事項を確認した後、グループで具体的な目標と方法を考えてまとめる。)	○自立活動解説書「環境の把握」について調べてまとめる。240 分
第 9 回	自立活動の内容⑤「身体の動き」 身体の動きの内容と具体的な取り組みを学ぶ。 (基本事項を確認した後、グループで具体的な目標と方法を考えてまとめる。)	○自立活動解説書「身体の動き」について調べてまとめる。240 分
第 10 回	自立活動の内容⑥「コミュニケーション」 コミュニケーションの内容と具体的な取り組みを学ぶ。 (基本事項を確認した後、グループで具体的な目標と方法を考えてまとめる。)	○自立活動解説書「コミュニケーション」について調べてまとめる。240 分
第 11 回	自立活動の内容の相互関連性 自立活動 6 区分の相互関連性について学ぶ。	○自立活動解説書の相互関連性について調べてまとめる。240 分
第 12 回	個別の指導計画の作成① 個別の指導計画と個別の教育支援計画について学ぶ。	○個別の教育支援計画について調べてまとめる。240 分
第 13 回	個別の指導計画の作成② 個別の指導計画を作成する。 (グループワークにより原案を作成する)	○個別の指導計画の具体例を特別支援学校のホームページから検索し参考資料をまとめる。240 分

第 1 4 回	個別の指導計画の作成③ 個別の指導計画を作成する。 （グループワークを行い原案 2 を作成する）	○作成した個別の指導計画を完成させ発表・提出する。240 分
第 1 5 回	講義のまとめと確認テスト	○これまでの講義内容を復習しておく。

1.授業コード (ナンバリング)	SED205-A81	2.科目名	病弱教育総論		3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	特支		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【学修目標】 小児医療や社会の変化のなかで病弱児の生活の実際を学び理解する。 病弱児にとって学校教育の果たす役割、学校教育を受ける上で生じやすい問題を理解する。 特別支援学校学習指導要領に基づき、病弱教育の教育課程・教育内容・教育方法を理解する。 病弱教育の場とそれぞれの場で行われている実践を理解し、子どもとの関わり方を考えながら授業案、教材・教具を工夫することができる。 【本授業の概要】 特別支援教育のなかで病弱児・病弱教育の特徴を理解し、病気の子どもにとって教育の果たす役割を学ぶ。 現状を理解するために、明治期以降のわが国の病弱教育の歴史をふまえて今日の到達点と課題を学ぶ。 病弱児と家族のニーズを事例から学びながら、学校・教師としての役割について考えるとともに関係機関との連携、個別の教育支援計画について学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）（4）問題発見・解決力の学修に関連しています。 ・教員・社会福祉従事者として、その人がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域、保護者、他職種等との連携・協働を行うことができる。 ・教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①病弱虚弱児の教育について、特別支援教育や社会福祉学の概念や理論を用いて説明することができる。 ②病弱児教育に関して興味、関心を持って調べることができる。 ③病弱児・者を理解し、個のニーズにあった指導計画の概略を知る事ができる。 ④小児医療の変化のなかで病気の子どもの実態と、学校教育の果たす役割、実際の授業の進め方について理解し、授業の視点と方法を考えることができる。					
19.教科書・教材	特別支援学校学習指導要領 および総則編、自立活動編					
20.参考文献	全国病弱教育研究会「病気の子どもの教育入門」（クリエイツかもがわ） 猪狩恵美子ほか「仲間とともに育ちあう貝塚養護学校 寄宿舎のある病弱養護学校の実践記録」（クリエイツかもがわ）					
21.成績評価	授業のなかでの小レポート（30％）学習目標①②④ 授業中の発表・質問（20％）①②③ 最終試験（50％）①③④					
22.コメント	特別支援教育の基本となる考え方・しくみについて理解しておいてください。集中講義なので、3日間の予習・復習をしっかりとってください。					
23.オフィスアワー	集中講義期間の休み時間を活用してください。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1	小児医療の進歩と病弱教育	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 HP 「病気の児童生徒のための特別支援教育 病 気の子どもの理解のために」を事前に閲覧 し、要点をメモしておく
2	病弱教育の場と対象	兵庫県内の病弱教育の場について調べましょ う
3	病弱教育の歴史（戦前）	DVD を観て、戦前の病気の子どもの教育につ いて討議しましょう。
4	病弱教育の歴史（戦後）	文部科学省から出された通知をもとに、今日 の病弱教育の改善すべき課題を考えましょ う。
5	病弱教育の今日的課題	主な慢性疾患について症状、治療、生活上の 配慮、学校で気をつけることを調べてきまし ょう
6	主な慢性疾患とその治療の特徴	小児がんの子どもを守る会 HP を調べ、どのよ うな情報が発信されているか確認し、発表し ましょう
7	病気の子どもの心理特性と支援の視点	DVD を見て考えましょう。子どもの気持ち、 教師の関わり方について整理してつぎの時間 に発表してください
8	特別支援学校（病弱）の教育課程と指導法	特別支援学校学習指導要領を見て、特別支援 学校（病弱）の教育の特徴、具体的な実践上 の配慮事項をまとめましょう
9	特別支援学校（病弱）で学ぶ子どものニーズ	DVD を見て、特別支援学校（病弱）の子ども のかかえる困難と支援のあり方を考えましょ う
10	入院中の子どもの教育－院内学級	DVD を見て、院内学級の教育の特徴を考えま しょう
11	入院中の子どもの教育－病院訪問教育	DVD を見て、子どもに関わる際の教師の姿 勢、配慮すべき点を考えましょう
12	通常学級における病気の子どもの学校生活	通常学級における教師の配慮について考えま しょう
13	病気による長期欠席の実態と求められる支援	論文を読み、不登校の場合とのちがいと共通 点を考えましょう
14	ターミナル期に求められる支援と教師の役割	実践例と論文から、ターミナル期の教育でど んなことを大切にしたらよいか考えましょう
15	まとめ	まとめの後、「15 メートルの通学路」を用いて 課題を出します（最終試験）

1.授業コード (ナンバリング)	SED206-A51	2.科目名	LD 等教育総論		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田裕彦					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科子ども学専攻			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	小学校一種 特支 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義及び演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：発達障害児の病理・生理・心理の特徴について理解し、具体的な指導方法を調べることを通して、個々の実態に応じた指導方法を考えることができるようにする。また、特性に応じた環境整備等の支援や他の機関との連携など、現場で必要な力を身につけることを目的とする。 概要：本授業は、学習障害（LD）、注意欠如多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）等を中心とした発達障害の病理・生理や教育課程、教育の具体的な内容・方法について、体験や映像等を取り入れ具体的なイメージを持って理解できるようにする。また、自ら指導計画を作成し、実際に支援・指導を行うことで、自立に向けた指導のポイントをつかむとともに、授業改善の視点を身に着ける。特別支援学校だけでなく特別支援学級、通常学級に在籍している児童生徒を支援することも想定した内容も取り扱う。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力、の学修に関連しています。 1. 発達障害児の定義、病理・生理・心理の特徴について理解し、説明ができる。 2. 発達障害児の個別・集団における指導・支援方法を理解することができる。 3. 言語障害、情緒障害について、その概要を説明することができる。4. それぞれの実態に応じた個別の指導計画を作成、指導、評価・改善ができる。 5. 発達障害児に配慮した環境の整備、教科等の指導を含めた指導案を作成できる。					
19.教科書・教材	・ 障害のある子供の教育支援の手引（文部科学省、2021） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm ・ その他、授業用に作成した資料を提示します。					
20.参考文献	関連する参考文献は授業の中で紹介します。					
21.成績評価	授業内発表・レポート 60% 小テスト 40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜昼休み（研究室） 金曜 2 限（学修支援室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	発達障害をとりまく状況の変化、校内支援体制を含む特別支援教育の動向			◆ノートパソコン◆ 授業用資料・ワークシート 第 2 回目以降については授業の中で指示します		
第 2 回	学習障害（LD） 心理・生理・病理・行動特性					
第 3 回	学習障害（LD） に対する指導・支援					
第 4 回	注意欠如多動症（ADHD） 心理・生理・病理・行動特性					
第 5 回	注意欠如多動症（ADHD） に対する指導・支援					

第 6 回	自閉症（ASD） 心理・生理・病理・行動特性	
第 7 回	自閉症（ASD） に対する指導・支援	
第 8 回	通級による指導や特別支援学級における教育課程の編成と自立活動	
第 9 回	個別事例に対して、自立活動における個別の指導計画の目標と具体的な指導方法を考える。	小テスト
第 1 0 回	個別指導の事例の意図と PDCA サイクルの実際	
第 1 1 回	問題行動へのアプローチ	
第 1 2 回	学級の中で実施する合理的配慮と指導上の工夫	
第 1 3 回	個に応じた指導の充実を目指した I C T を活用した指導の実際	
第 1 4 回	各教科等の個に応じた学習指導の指導上の配慮	
第 1 5 回	家庭・医療、福祉及び関係機関との連携と二次障害	

1.授業コード (ナンバリング)	SED208-A51	2.科目名	特別支援教育基礎		3.単位数	1
4.授業担当教員	吉田裕彦					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	教職必須	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科子ども学専攻			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	幼稚園、小学校教諭		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義及び演習		
16.履修制限	幼稚園・小学校教諭免許取得予定者					
17.授業の目的と概要	目的：特別支援教育の歴史的経緯及び理念について知り、今日的な教育課題としての障害のある子ども、特別な支援を必要とする子どもの教育の基本について学ぶ。本講義全体を通して、自らの経験と照らし合わせながら、障害のとらえ方、共生社会実現に向けた教育のあり方について考えていけるようにする。 概要：それぞれの障害に関する基礎的な面をイメージできるようおさえながら、教育体制のあり方や基礎的な環境整備・合理的な配慮について解説する。特に、個々の実態に応じて、目標を設定し、その達成ための手立てを示す個別の指導計画に基づいて指導する自立活動については、具体的に実践事例をあげて紹介する。通常の学級における合理的配慮の在り方、障害のあるなしに関わらない個別最適化の授業など特別支援教育の現状および今日的課題について取り上げる。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（2）社会的貢献性，（3）多様性理解，（4）問題発見・解決力，（5）コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ・教育・社会福祉従事者として、その人がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域、保護者、他職種等との連携・協働を行うことができる。 ・教育・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 本科目の学習によって基本的な知識及び技能の習得を目指し、多様な子ども一人ひとりへの具体的な支援の手立てを考えていく。指導現場での様々な事象や現象について触れながら特別支援教育の基本を理解し、将来の進路に向けた資質向上につなげるようにする。授業の中でのディスカッションを通じてコミュニケーションスキルを高める。					
19.教科書・教材	・文部科学省（2018）特別支援学校幼稚園部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成 29 年 4 月告示），海文堂出版，484 円 ・障害のある子供の教育支援の手引（文部科学省、2021） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm ・その他、授業用に作成した資料を提示します。					
20.参考文献	関連する参考文献は授業の中で紹介します。					
21.成績評価	授業内発表・レポート 70% 小テスト 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜昼休み（研究室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	第 1 回 導入 障害と特別支援教育 ICF、障害者権利条約から障害者差別解消法、特別支援教育につながる流れについて理解する。			◆ノートパソコン◆ 授業用資料・ワークシート 第 2 回目以降については授業の中で指示します		
第 2 回	自立活動の教育課程上の位置づけと内容					

第3回	第3回 知的障害の理解と支援・指導 ◎知的障害の困り感について体験ワークをすることでイメージする	
第4回	視覚障害の理解と支援・指導 ◎視覚障害の困り感についてワークをすることでイメージする	
第5回	聴覚障害の理解と支援・指導 ◎聴覚障害の支援について実技を交えて体験することでイメージする。	
第6回	肢体不自由の理解と支援・指導 ◎肢体不自由の支援・指導について実践例を通してイメージする	
第7回	病弱・重度重複障害の理解と支援・指導 ◎事例を通して、イメージを膨らませる。	
第8回	発達障害の理解と支援（行動面）	
第9回	発達障害の理解と支援（学習面）	小テスト
第10回	発達障害の理解と支援（コミュニケーション面）	
第11回	特別支援教育を必要とする児童生徒とその支援	
第12回	個別の指導計画と指導の実際	
第13回	特別支援教育における校内体制	
第14回	教育と家庭、福祉との連携	
第15回	共生社会実現に向けて	

1.授業コード (ナンバリング)	SED301-A51	2.科目名	知的障害者の心理・生理・病理		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田裕彦					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科子ども学専攻			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件	特別支援		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義及び演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：知的障害者の心理・生理・病理の基本について学ぶ。 概要：本授業ではまず、基本的な発達のみちすじを知った上で、「全般的な発達の遅れ」である知的障害とはどのような状態かについて学ぶ。「知的能力（知能）」について、最近では、知能検査の結果や学校での学習の達成度だけでなく、より広く「自立した社会生活を送る力」と捉えられていて、環境の調整や周囲のサポートによって変化するとされている。知的障害の原因については、医学的に明らかなものもあるが、大部分は原因不明である。知的障害に併存する障害について自閉症等について解説する。知的障害の診断や評価には、発達の未分化な場合は発達検査を用いるが、軽度の場合は知能検査で知的水準を評価する。適応水準については、適応行動尺度等を用いる。これらの心理検査について基本的な知識を得る。知的障害は医学的に治癒するものではなく、支援の中心は教育である。知的障害の心理・病理・生理に応じた支援方法の基本について理解を図る。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の（2）社会的貢献性、(3)多様性理解、(6)専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 学習目標 ・ 知的障害とはどのような障害なのか、医学的な原因と環境との包括的な状態として理解する ・ 知的障害に併存する障害（ダウン症、自閉スペクトラム症、てんかん等）について理解する ・ 知的障害の評価に用いる心理検査（発達検査、知能検査、適応行動尺度等）について知る ・ 知的障害の心理・生理・病理に応じた支援方法の基本について理解する					
19.教科書・教材	・ 障害のある子供の教育支援の手引（文部科学省、2021） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm ・ その他、授業用に作成した資料を提示します。					
20.参考文献	関連する参考文献は授業の中で紹介します。					
21.成績評価	授業内発表・レポート 60% 小テスト 40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜昼休み（研究室） 金曜 3 限（学修支援室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	導入 知的障害の意味			◆ノートパソコン◆ 授業用資料・ワークシート 第 2 回目以降については授業の中で指示します		
第 2 回	知的障害の生理・病理 関連する疾患，原因についての概要を学ぶ					
第 3 回	知的障害の生理・病理 併存することの多い疾患：染色体異常・てんかん等					

第4回	発達の道筋と乳幼児健診と早期発見のポイント	
第5回	知能検査と行動観察 特性理解	
第6回	知的障害児の感覚・知覚・認知特性	
第7回	知的障害児の言語・コミュニケーション特性	
第8回	知的障害児の運動・動作特性	
第9回	適応行動の困難さと適応検査	小テスト
第10回	自閉症の生理・病理	
第11回	強度行動障害への対応	
第12回	自尊感情と二次障害	
第13回	家族（親・きょうだい）の受け入れと支援	
第14回	他機関との連携と特性に応じた配慮	
第15回	まとめ 事例検討	

1.授業コード (ナンバリング)	SED304-A51	2.科目名	知的障害教育		3.単位数	2
4.授業担当教員	梶正義					
5.授業科目の区分	展開科目 特別支援教育分野における実務経験がある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉こども学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	特別支援学校教諭		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	授業の前半では、まず知的障害教育について概説する。その後、知的障害のある子どもの示すさまざまな学習上の困難や行動上の問題などを知的障害の特性と環境との交互作用の視点からとらえ、さまざまな指導法による望ましい教育的支援の在り方を講義する。具体的には、なぜ子どもがそのように行動するのかを環境との交互作用から捉え、どのように観察し、どのようにアセスメントし、どのように指導していくのかについて述べる。 授業の後半では、「個別的教育支援計画」及び「個別の指導計画」に関わり、その作成意義や手続の講義と演習を行う。具体的には、個別の指導計画に基づいた指導プログラムの試作・発表・討議などを行う。					
18.学習目標と DPとの関連	(1) 自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる。 (2) 問題発見・解決力 根拠にもとづいて、問題を発見したり解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができる。 (3) 専門的知識・技能 の活用力 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができる。 具体的目標は以下の通りである。 ・知的障害の概念と教育課程の編成、自立活動の指導について説明することができる。 ・知的障害のある子どもの示す学習上及び生活上の困難を知的障害の特性および環境との交互作用の視点から理解し説明することができる。 ・アセスメントに基づいた子どもの指導目標の設定ができ、基本的な指導プログラムを立てることができる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。					
20.参考文献	・「応用行動分析で特別支援教育が変わる」山本淳一・池田聡子著（2005）図書文化					
21.成績評価	①ワークシート課題提出 20% ②中間試験 40% ③総括試験 40%					
22.コメント	この講義の内容は、各校種（保幼小中高特別支援学校）における特別支援教育の指導場面では必ず必要とされるものです。応用行動分析学に基づいた、こどものアセスメント・指導プログラムの作成およびその指導技法についての基本を学んでほしいと願っています。					
23.オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み（メールで確認）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

第 1 回	・ 授業の概要と評価の説明 知的障害の理解 ・ 知的障害とは ・ インクルーシブ教育とは	次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第 2 回	知的障害教育の基礎 1 ・ 教育課程の編成と授業の実際	○配付資料を基に講義内容の理解を深める復習（90分） ○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第 3 回	知的障害教育の基礎 2 ・ 領域・教科を合わせた指導と授業の実際	○配付資料を基に講義内容の理解を深める復習（90分） ○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第 4 回	知的障害教育の基礎 3 ・ 自立活動の指導	○配付資料を基に講義内容の理解を深める復習（90分） ○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第 5 回	知的障害教育の基礎 4 ・ カリキュラムマネジメント ・ 子どもの理解と個に応じた指導	○配付資料を基に講義内容の理解を深める復習（90分） ○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第 6 回	望ましい（適切）行動の獲得をめざして ・ 個と環境との交互作用 ・ 新しい行動の獲得	○配付資料を基に講義内容の理解を深める復習（90分） ○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第 7 回	望ましくない（不適切）行動の減少をめざして ・ 個と環境との交互作用 ・ 行動問題の持つ機能と発達との関連 ・ 行動問題への対応法	○配付資料を基に講義内容の理解を深める復習（90分） ○中間試験の準備（120分）
第 8 回	中間試験	○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第 9 回	個別的教育支援計画・個別の指導計画 ・ 個別的教育支援計画・指導計画とは ・ 作成の意義とその活用 ・ さまざまなカリキュラムを通して考える。	○配付資料を基に講義内容の理解を深める復習（90分） ○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第 10 回	米国における IEP から考える関係機関との連携 ・ IEP とは ・ IEP の作成と実行 ・ 保護者及び本人の権利 ・ 日米の比較	○配付資料を基に講義内容の理解を深める復習（90分） ○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90分）
第 11 回	個別の指導計画と指導プログラムの作成にあたって	○配付資料を基に講義内容の理解を深める復

	・子どものアセスメントと指導課題 ・指導課題とその課題分析 ・指導課題に則した指導プログラムの作成 ・指導プログラムの適用と指導評価	習（90 分） ○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90 分）
第 12 回	指導プログラムの作成の試み？ ＜日常生活動作（ADL）の指導①＞ ・着脱衣・整容・清掃・調理などのアセスメント ・指導課題とその課題分析 ・指導プログラムの試作と発表	◎試作プログラムの点検と見直し及びその修正（90 分） ○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90 分）
第 13 回	指導プログラムの作成の試み？ ＜日常生活動作（ADL）の指導②＞ ・買い物・交通機関利用・金融機関利用などのアセスメント ・指導課題とその課題分析 ・指導プログラムの試作と発表	◎試作プログラムの点検と見直し及びその修正（90 分） ○次回講義の予習＝キーワード調べなど（90 分）
第 14 回	指導プログラムの作成の試み？ ＜数の指導 数量概念・基数と序数・加法と減法（10 以下の数）＞ ・数量概念のアセスメント ・指導課題とその課題分析 ＜かな文字の指導＞ ・「読み・書き」のアセスメント ・指導課題とその課題分析 ＜指導プログラムの試作と発表＞	◎試作プログラムの点検と見直し及びその修正（90 分） ○総括試験への準備（120 分）
第 15 回	授業のまとめと総括試験	授業のまとめを行う。

1.授業コード (ナンバリング)	SED305-A51	2.科目名	肢体不自由教育		3.単位数	2
4.授業担当教員	梶正義					
5.授業科目の区分	展開 特別支援教育分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学専攻			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	特支		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	肢体不自由児（者）の正しい理解と認識を深めるとともに、肢体不自由教育の実態、教育課程、指導内容・方法、自立活動、進路等について具体的な実践を学ぶこととする。肢体不自由を主とした特別支援学校及び特別支援学級での教育の中核活動である授業を中心に、「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」、並びに評価と授業改善について学習する。さらに肢体不自由教育における特徴的な指導について、身体の動き、感覚的アプローチ等の実践的理論と指導における活用を理解する。それらの学習によって基本的な知識及び技能の習得を目指し、肢体不自由のある子ども一人ひとりへの具体的な支援の手立てを考えていく。ライフステージそった様々な事象や現象について触れながら肢体不自由児の授業の進め方、指導法等を理解し、将来の進路に向けた資質向上につなげるようにする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）（4）問題発見・解決力の学修に関連しています。 ・教員・社会福祉従事者として、その人がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域、保護者、他職種等との連携・協働を行うことができる。 ・教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①肢体不自由児の教育について、特別支援教育や社会福祉学の概念や理論を用いて説明することができる。 ②肢体不自由教育における教育課程の意義と編成方法、指導の実際について理解し説明することができる。 ③肢体不自由児・者の実態を理解したうえで、個のニーズに応じた授業づくりと個別の指導計画作成の基本を理解し略案を作成することができる。					
19.教科書・教材	「よくわかる肢体不自由教育」安藤隆男・藤田継道編著 ミネルヴァ書房 （改訂版が 2023 年 6 月発刊のため、今年度は教科書とはせずに参考文献とします。）					
20.参考文献	筑波大学付属霧が丘特別支援学校編 肢体不自由教育の理念と実践 ジアース教育新社 文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説（幼稚部・小学部・中学部・高等部・自立活動編）					
21.成績評価	自由課題（30％） 指導略案及び発表（20％） レポート課題（20％） 最終テスト（30％）					
22.コメント	ライフステージにそった様々な事象について触れながら、現場で役立つ肢体不自由児の教育課					

	程や具体的な指導法を学んでいきます	
23.オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み（メールで確認）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 授業シラバスの説明および、最初の導入としての肢体不自由者理解の説明を行う。	○次回の予習として、肢体不自由関連の書籍を探し、目を通しておく。(120 分)
第 2 回 4/20	肢体不自由教育の定義と理解 肢体不自由の全体像を概観する。	○「Ⅰ 肢体不自由の定義と理解」を予習しておく。(120 分) ◎各自次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。(240 分)
第 3 回 4/27	肢体不自由教育の歴史と発展 肢体不自由教育が展開されている歴史と今日までの経過について理解する。	○「Ⅲ肢体不自由教育の歴史と発展」について予習しておく。(120 分) ◎各自で次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。(240 分)
第 4 回 5/11	特別支援教育と肢体不自由教育、そして特別支援学校の役割 特別支援学校のあり方について理解する。	○「Ⅳ特別支援教育の制度と肢体不自由教育」を予習しておく。(120 分) ○肢体不自由教育の変遷についてまとめておく(120 分) ◎各自で次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。(240 分)
第 5 回 5/18	肢体不自由教育におけるアセスメントの意義と活用 様々なアセスメントの方法と活用について理解を広げる。	○「Ⅱアセスメントの方法と活用」を予習しておく。(120 分) ◎各自で次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。(240 分)
第 6 回 5/25	教育課程と教科等の指導 肢体不自由教育が展開されている学校の取組をもとに、教育課程や指導の特徴について理解する。	○「Ⅵ教育課程と教科等の指導」を予習しておく。(120 分) ◎各自で次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。(240 分)
第 7 回 6/1	肢体不自由特別支援学校における個別の指導計画の実践 特別支援学校における個別の指導計画作成に関するシステム作りに焦点を当て、考慮すべき点について理解する。	○特別支援学校の肢体不自由児を対象にした個別の指導計画作成例を調べておく。(120 分) ◎各自で次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。(240 分)
第 8 回 6/8	子どもが輝く授業づくりの基本① 特別支援学校における自立活動の実践を知る（健康	○「Ⅶ自立活動の指導と個別の指導計画」を読んでおく。(120 分)

	の保持、心理的な安定、人間関係の形成)。	◎各自で次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。 (240 分)
第 9 回 6/15	子どもが輝く授業づくりの基本② 特別支援学校における自立活動の実際を知る（身体の動き、環境の把握、コミュニケーション）。	○肢体不自由特別支援学校の授業の実際について調べておく。(120 分) ◎各自で次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。(240 分) ○中間レポート作成のための構成とまとめ (360 分)
第 10 回 6/22	個別の教育支援計画 個別の教育支援計画の作成と基礎的理解について概説する。	○小学校における合理的配慮について考えておく。(240 分) ◎各自で次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。 (240 分)
第 11 回 6/29	評価と授業改善 様々な評価と授業改善について理解する。	○最終レポートのための構成とまとめ。(240 分) ◎各グループで次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。(240 分)
第 12 回 7/6	身体の動きの改善を目指した指導 姿勢、運動動作を中心とした指導法を理解する。	○動作法関する文献を読んでおく。(120 分) ◎各自で次回発表する特別支援学校の事前調査とプレゼンテーション資料の作成をする。 (240 分)
第 13 回 7/13	感覚認知面の改善を目指した指導 感覚運動、認知面の学習を中心とした指導法を理解する。	○感覚統合に関する文献を読んでおく。(120 分) まとめのテストのための授業の振り返りをしておく。(360 分)
第 14 回 7/20	コミュニケーションの改善を目指した指導 レポート提出 コミュニケーション力の向上を中心とした指導法を理解する。	授業の振り返りをしておく。(120 分)
第 15 回 7/27	授業のまとめと総括試験	授業のまとめを行う。

1.授業コード (ナンバリング)	SED307-A51	2.科目名	知的障害者の言語障害指導		3.単位数	2
4.授業担当教員	中尾繁樹					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	特支		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】言語の働きとヒトのコミュニケーション行動がいかに複雑な現象であるかを知ること で、言語・コミュニケーションの発達に障がいのある子どもの多様性を把握し、個のニーズ に応じた言語・コミュニケーション支援のあり方を理解していきます。 【概要】本授業では、知的障害をはじめとする言語・コミュニケーションの発達に障がい のある子どもの支援について理解するために、言語とコミュニケーションの基本概念について学 びます。言語（ことば）は、ヒトに固有の精神活動であり、私たちは、言語を使って他者とコ ミュニケーションすると同時に、言語によって物事を認識し、考えています。また、ヒトのコ ミュニケーションには、動物にはないさまざまな特徴があります。言語活動とコミュニケーシ ョン活動は、私たちにとって最も重要、かつ、高次な精神活動であるだけに、発達に障がい のある子どもたちにとって、いちばん困難が生じやすい発達領域でもあります。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標 DP（ディプロマポリシー）の（2）社会的貢献性、（3）多様性理解、（6）専門的知 識・技能の活用力、の学修に関連しています。 ① 言語とコミュニケーションに関する基本的な用語を理解し、説明できる。 ② 言語の働きやヒトのコミュニケーションの特徴を、自己の経験に結びつけて論じられる。 ③ 言語発達に関わる諸要因について説明できる。 ④ 子どもの言語発達過程の概略を説明できる。 ⑤ 言語・コミュニケーションの発達支援の基本について説明できる					
19.教科書・教材	特定の教科書は用いません。独自に作成した資料を授業の度ごとに配布します。					
20.参考文献	授業の内容に沿って、参考図書を紹介します。					
21.成績評価	① 授業内での討論とノートのまとめ 30% 学修目標①②③④⑤ ② レポート課題 30% ①②③ ③ 最終試験 40% ①②③④⑤					
22.コメント						
23.オフィスアワー	木曜 5 限（学習支援室オフィスアワー） 火曜 5 限（研究室オフィスアワー）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション 知的障害者のコミュニケーションを考えるにあたって 知的障害とコミュニケーション 【学習目標との対応】 学習目標 ①			復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提 示）		
【第 2 回】	知的障害ととコミュニケーションを考えるにあたって コミュニケーションの手段 VTR：知的障害のコミュニケーション手段の分 類方法を考える 講義：知的障害ののコミュニケーションについ て知ることは			復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提 示）		

	【学習目標との対応】 学習目標 ①	
【第3回】	言語とコミュニケーションを考えるにあたって コミュニケーションの手段 認知・思考の手段としての言語 VTR：私たちは世界をどのように認識しているか？ 討論：言語とは 講義：言語の特性と働き 【学習目標との対応】 学習目標 ① ②	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示）
【第4回】	ヒトのコミュニケーションにおける視線の役割（その1） 討議：自閉症の特徴的症状を巡る「なぜ？」 講義：共同注意行動 【学習目標との対応】 学習目標 ③ ④	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示）
【第5回】	ヒトのコミュニケーションにおける視線の役割（その2） 討議：共同注意行動の支援（自閉症児の事例から） 【学習目標との対応】 学習目標 ⑤	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示）
【第6回】	言語習得と社会的相互作用遊び 討議：共同遊びの発達の意義について考える 講義：言語の3つの側面の発達順序 【学習目標との対応】 学習目標 ③ ④	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示）
【第7回】	障がいの重い子どものコミュニケーション支援 討議：共同遊びの発達を促す支援方法を考える 【学習目標との対応】 学習目標 ⑤	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示）
【第8回】	言語習得の認知的基礎 討議：感覚運動的知能の5つの側面の役割 講義：言語の3要素の認知的基礎 【学習目標との対応】 学習目標 ③ ④	小レポート課題提示
【第9回】	初期発話期にある子どもの支援 討議：この時期の子どもに適切な接し方とは 【学習目標との対応】 学習目標 ③ ④	小レポート提出
【第10回】	初期発話期にある子どもの支援 講義：インリアル法の考え方 【学習目標との対応】 学習目標 ③ ⑤	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示）
【第11回】	心の理論（Theory of Mind） 討議：「空気を読む」とは？ 講義：心の理論とその発達 【学習目標との対応】 学習目標 ① ② ③	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示）
【第12回】	ことばのある自閉症児の言語・コミュニケーション支援 講義：自閉症児に見られる困難 討議：事例をもとに支援の実際を考える 【学習目標との対応】 学習目標 ⑤	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示）

【第 13 回】	話しことばから書きことばへ 討議：文字（ひらがな）の読み書きができるようになるためには？ 講義：文字（ひらがな）習得の前提条件と支援の留意点 【学習目標との対応】学習目標 ③ ④ ⑤	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習（WebClass で資料を事前提示）
【第 14 回】	言語・コミュニケーション支援に求められること 討議：「こだわり行動」を例に考える 講義：発達支援の基本方針 【学習目標との対応】学習目標 ⑤	最終試験に向けての準備
【第 15 回】	授業のまとめと最終課題 【学習目標との対応】学習目標①～⑤	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN102-M51	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中綾子					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	・ 経営学部の三木キャンパスの学?は 2 年?進級時に地域マネジ メント専攻に進みます。専攻の学びを深めていくためには経営の基礎知識やマネジメントの基本を学ぶことに加えて、産学連携を通じた実践的な学修機会においてチームでプロジェクトに取り組むことも必要です。 ・ この授業では 2 年?進級時の専攻選択の準備を?うとともに、業界研究や経験学習に向けたグループワークの能力を培います。					
18.学習目標と DP との関連	本科?の学習?標は DP の（１）?律性、（４）問題発?・解決?、（５）コミュニケーションスキルに関連しています。 学習?標① 専攻における学びのテーマの概要について学ぶ 学習?標② 専攻における具体的な学習テーマの探求 学習?標③ 経験学習に向けてグループワークの作法やそれに必要な IT スキルを身につける					
19.教科書・教材	毎回レジュメを配布します。					
20.参考文献						
21.成績評価	e ポートフォリオ??と授業態度 10% グループワークレポート 45% 個?レポート 45%					
22.コメント	・ この授業では教員がグループを編成して、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどを中?に?います。主体性を持って積極的に参加することを望みます。 ・ また、多くの回でワークシートを作成し提出します。授業中の説明や講話のメモを取り、グループでの議論をまとめてレポートを完成させてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 (9/26)	【オリエンテーション】 ・ 演習の進め?をシラバスで確認し、評価基準などを説明します。 ・ 講義で使用する基礎的なアプリケーションについて解説します。			○専攻コースで興味を持った分野をあげ関心について記入する。 ★フル充電の P C を持参のこと		
第 2 回(10/3)	【専攻ケーススタディ①】 地域マネジメント専攻 ・ 三木キャンパスでの地域マネジメント専攻の概要などを学びます。 ・ 専攻とそこでの学びをよく研究すること			「地域マネジメント専攻」について学んだことを 400 字以上にまとめて、WebClass に提出すること。 ★フル充電の P C を持参のこと		
第 3 回(10/17)	【専攻ケーススタディ②】 ビジネスデザイン専攻 ・ 尼崎キャンパスでの専攻の概要について学びます。 ・ 専攻とそこでの学びをよく研究すること			「ビジネスデザイン専攻」について学んだことを 400 字以上にまとめて、WebClass に提出すること。		

		★フル充電の P C を持参のこと
第 4 回(10/24)	チーム・ビルディングに向けたアイスブレイク ー貿易ゲームをやってみよう。チームで協力して勝利 を目指しつつ、国際貿易の基礎について学びます。	授業中に課題を提示するので WebClass に提 出ください。 ★フル充電の P C を持参のこと
第 5 回(10/31)	業界研究・インターンシップに向けた GW 課題 (1) ープレゼンテーションを準備しよう (1)	授業中に課題を提示するので WebClass に提 出ください。 ★フル充電の P C を持参のこと
第 6 回(11/7)	業界研究・インターンシップに向けた GW 課題 (1) ープレゼンテーションを準備しよう (2)	インターンシップ・コーオプ教育について学 んだことを 400 字以上にまとめて、WebClass に提出すること。 ★フル充電の P C を持参のこと
第 7 回(11/14)	業界研究・インターンシップに向けた GW 課題 (1) ープレゼンテーションを準備しよう (3)	業界研究について学んだことを 400 字以上に まとめて、WebClass に提出すること。 ★フル充電の P C を持参のこと
第 8 回(11/21)	プレゼンテーションの発表会	・当日提示される課題を web class に提出す ること ★フル充電の P C を持参のこと
第 9 回(11/28)	動画編集について学ぼう (1) ースマートフォンで動画を撮影して編集してみよう。	・当日提示される課題を web class に提出す ること ★フル充電の P C を持参のこと
第 10 回 (12/5)	動画編集について学ぼう (1) ースマートフォンで動画を撮影した動画素材を DaVinci Resolve で編集してみよう。	・当日提示される課題を web class に提出す ること ★フル充電の P C を持参のこと
第 11 回 (12/12)	業界研究・インターンシップに向けた GW 課題 (2) ー動画を撮影・編集して投稿しよう (1)	・当日提示される課題を web class に提出す ること ★フル充電の P C を持参のこと
第 12 回 (12/19)	業界研究・インターンシップに向けた GW 課題 (2) ー動画を撮影・編集して投稿しよう (2)	・当日提示される課題を web class に提出す ること ★フル充電の P C を持参のこと
第 13 回 (1/16)	業界研究・インターンシップに向けた GW 課題 (2) ー動画を撮影・編集して投稿しよう (3)	名刺作成フォーマットにリジ ャル名刺を作成し てみる ★フル充電の P C を持参のこと (スマホ・タブ レット は不可)
第 14 回 (1/17)	業界研究に向けた準備	・「専攻を学ぶ将来に向けた決意」を各自提出 すること。 ★フル充電の P C を持参すること
第 15 回 (1/24)	経験学習に向けた準備	PM1 で学んだことを e ポ ートフォリオに投稿する。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN102-M52	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	林万平					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	・経営学部の三木キャンパスの学?は2年?進級時に防災・危機マネジメント専攻と地域マネジメント専攻に分かれます。各専攻の学びを深めていくためには経営の基礎知識やマネジメントの基本を学ぶことに加えて、産学連携を通じた実践的な学修機会においてチームでプロジェクトに取り組むことも必要です。 ・この授業では2年?進級時の専攻選択の準備を?うとともに、業界研究や経験学習に向けたグループワークの能力を培います。					
18.学習目標と DPとの関連	本科?の学習?標は DP の（1）?律性、（4）問題発?・解決?、（5）コミュニケーションスキルに関連しています。 学習?標① 専攻選択に向けた各専攻における学びのテーマの概要について学ぶ 学習?標② 専攻選択に向けた志望動機の整理と具体的な学習テーマの探求 学習?標③ 経験学習に向けてグループワークの作法やそれに必要な IT スキルを身につける					
19.教科書・教材	毎回レジュメを配布します。					
20.参考文献						
21.成績評価	eポートフォリオ?と授業態度 10% グループワークポート 45% 個人レポート 45%					
22.コメント	・この授業では教員がグループを編成して、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどを中?に?います。主体性を持って積極的に参加することを望みます。 ・また、多くの回でワークシートを作成し提出します。授業中の説明や講話のメモを取り、グループでの議論をまとめてレポートを完成させてください。 専攻選択については、エントリーシートを順次更新しながら年内をめどに決定します。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回 (9/26)	【オリエンテーション】 ・演習の進め?をシラバスで確認し、評価基準などを説明します。 ・専攻選択に向けたスケジュールなどを説明します ・講義で使用する基礎的なアプリケーションについて解説します。			○各専攻コースで興味を持った点をあげ、専攻コースの希望順を記入する。 ★フル充電のPCを持参のこと		
第2回(10/3)	【専攻ケーススタディ①】 地域マネジメント専攻 ・三木キャンパスでの地域マネジメント専攻の概要などを学びます。 ・専攻とそこでの学びをよく研究すること			「地域マネジメント専攻」について学んだことを400字以上にまとめて、WebClassに提出すること。 ★フル充電のPCを持参のこと		
第3回(10/17)	【専攻ケーススタディ②】 ビジネスデザイン専攻			「防災・危機マネジメント専攻」について学ん		

	・ 尼崎キャンパスでの 2 年生からの新専攻の概要について学びます。 ・ 専攻とそこでの学びをよく研究すること	だことを 400 字以上にまとめて、WebClass に提出すること。 ★フル充電の P C を持参のこと
第 4 回(10/24)	チーム・ビルディングに向けたアイスブレイクー貿易ゲームをやってみよう。チームで協力して勝利を目指しつつ、国際貿易の基礎について学びます。	授業中に課題を提示するので WebClass に提出ください。 ★フル充電の P C を持参のこと
第 5 回(10/31)	業界研究・インターンシップに向けた GW 課題（1）ープレゼンテーションを準備しよう（1）	授業中に課題を提示するので WebClass に提出ください。 ★フル充電の P C を持参のこと
第 6 回(11/7)	業界研究・インターンシップに向けた GW 課題（1）ープレゼンテーションを準備しよう（2）	「経営・マーケティング 専攻」について学んだことを 400 字以上にまとめて、WebClass に提出すること。 ★フル充電の P C を持参のこと
第 7 回(11/14)	業界研究・インターンシップに向けた GW 課題（1）ープレゼンテーションを準備しよう（3）	「ビジネスデザイン専攻」について学んだことを 400 字以上にまとめて、WebClass に提出すること。 ★フル充電の P C を持参のこと
第 8 回(11/21)	プレゼンテーションの発表会	・ 当日提示される課題を web class に提出すること ★フル充電の P C を持参のこと
第 9 回(11/28)	動画編集について学ぼう（1）ースマートフォンで動画を撮影して編集してみよう。	・ 当日提示される課題を web class に提出すること ★フル充電の P C を持参のこと
第 10 回(12/5)	動画編集について学ぼう（1）ースマートフォンで動画を撮影した動画素材を DaVinci Resolve で編集してみよう。	・ 当日提示される課題を web class に提出すること ★フル充電の P C を持参のこと
第 11 回(12/12)	業界研究・インターンシップに向けた GW 課題（2）ー動画を撮影・編集して投稿しよう（1）	・ 当日提示される課題を web class に提出すること ★フル充電の P C を持参のこと
第 12 回(12/19)	業界研究・インターンシップに向けた GW 課題（2）ー動画を撮影・編集して投稿しよう（2）	・ 当日提示される課題を web class に提出すること ★フル充電の P C を持参のこと
第 13 回(1/16)	業界研究・インターンシップに向けた GW 課題（2）ー動画を撮影・編集して投稿しよう（3）	名刺作成フォーマットにデジタル名刺を作成してみる ★フル充電の P C を持参のこと（スマホ・タブレットは不可）
第 14 回(1/17)	業界研究に向けた準備	・「専攻を学ぶ将来に向けた決意」を各自提出すること。 ★フル充電の P C を持参すること
第 15 回(1/24)	経験学習に向けた準備	PM1 で学んだことを e ポートフォリオに投稿する。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-A51	2.科目名	専門演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	百瀬和夫					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学・福祉学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この演習では専門演習Ⅰに引き続き、問題解決型学習(PBL)と、研究テーマの探索、研究方法、論文作成に必要なライティングスキルの向上に自発的に取り組んでいきます。また下記サブテーマを切り口に、各自が興味関心のある具体的研究課題を設定し、そこから研究の問いを導く方法についても学んでいきます。 【概要】 学習内容を深化させるために「保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・特別支援学校の子どもの命を守る」という視点から、救急救命士の現場での具体的課題や経験学修を通して学びを深めテーマに設定して進めていきます。					
18.学習目標と DPとの関連	関連する学科 DP (1) 自律的で主体的な態度（自律性） 教員・社会福祉従事者としての使命と目標を明確に持ち、教育・社会福祉業務に自律的・意欲的に取り組むことができる。 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 教員・社会福祉従事者として社会の動向をふまえ、教育や福祉の現場において必要とされる実践力を身につけ、地域社会や他者のために責任ある行動をとることができる。 (4) 問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 <学習目標> 本授業は、以下の学習目標を設定します。 ①テーマに関連した学術論文を検索できる。 ②①の論文について、論文の結果を要約し、考察できる。 ③地域課題や教育・保育・福祉の今日的課題から関心のある研究テーマを選択することができる ④③を踏まえて、具体的な研究の問いを設定することができる。					
19.教科書・教材	適宜配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	【課題 1】要約文の作成 10%×3=30% 【課題 2】文献リストの作成 10% 【課題 3】先行研究レビューの整理表の作成 10% ※【課題 2】をもとに、研究上の到達点や問題点をまとめる 【課題 4】先行研究レビューと研究の問い 20% ※提出までにプレゼンテーションを行う（具体的な研究の問いをどのように設定したのかを報告する） ※プレゼンテーションにおける他者からの指摘を踏まえ、課題 4 を提出する					

	【課題 5】 ふりかえりシートの提出 20%・KUIS ドリル 10% ○ICT 活用力向上のため、基本的に Webclas	
22.コメント		
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目	オリエンテーション (全体) ■授業の進め方等の説明と受講の心構え ■ラーニングルートマップについて ■e ポートフォリオについて ■秋学期履修登録相互確認 (ゼミアワー)	○ラーニングルートマップ修正 (60 分)
第 2 回目	■研究テーマ作り 春学期に作成したレポートを読み返す。 「こどもたちの命を守る」という視点から、経験学修での学びを振り返る。また、英語圏や東アジアにおける異文化との安全・安心という観点からの視点を広げつつ、地域課題や教育・保育・福祉の今日的課題を把握するための資料を集め、把握した後に研究テーマを決める。(指定のテーマから決めてもいい)	○文献検索サイトを用いて文献検索の練習しつつ、テーマを決める (60)
第 3 回目	■調査及び資料収集① 研究テーマを探る。 研究テーマ(興味のあるテーマ)がある程度決まった時点で、テーマに沿った文献を集め、その中の最も興味のある 1 つの文献を読む。 重要な点などに線を引く。 その論文がどのようなもので、何を明らかにしているかなど、グループで共有する。	○文献検索サイトを用いて文献検索の練習をする (60)
第 4 回目	■考察する① 選んだ 1 つの文献が伝えようとしていること(結果)を要約する。 要約を基に、自分の考えを述べる。 テーマが近い人を集め、ラーニングコミュニティ(学習グループ)を作り、論文に対する自分の考えを他者に共有する。 【課題 1-1】 に取り組む	○これまでの復習をする (60)
第 5 回目	■調査及び資料収集② 1 つの論文では明らかにならなかったこと、研究の課題をさらに明らかにする論文を探す。 探した論文の中から最も興味のある文献を 1 つ絞り読む。 重要な点などに線を引く。 その論文がどのようなもので、何を明らかにしているかなど、グループで共有する。 【課題 1-1】 の提出	○文献検索サイトを活用して研究テーマをリサーチする (90)
第 6 回目	■考察する② 選んだ 2 つ目の文献が伝えようとしていること(結果)を要約する。	○文献リストの作成(60)

	要約を基に、自分の考えを述べる。 テーマが近い人を集め、ラーニングコミュニティを作り、論文に対する自分の考えを他者に共有する。 【課題 1-2】に取り組む	
第 7 回目	■調査及び資料収集③ 2つの論文では明らかにならなかったこと、研究の課題をさらに明らかにする論文を探す。 探した論文の中から最も興味のある文献を1つ絞り読む。 重要な点などに線を引く。 その論文がどのようなもので、何を明らかにしているかなど、グループで共有する。 【課題 1-2】の提出	グループでの先行研究などの共有 (90)
第 8 回目	■考察する③ 選んだ3つ目の文献が伝えようとしていること（結果）を要約する。 要約を基に、自分の考えを述べる。 テーマが近い人を集め、ラーニングコミュニティを作り、論文に対する自分の考えを他者に共有する。 【課題 1-3】に取り組む	グループでの先行研究などの共有 (90)
第 9 回目	■研究テーマの再考 決めていた研究テーマを再確認するため、3つの文献とその他の文献を整理し、テーマを再考する。 ■研究テーマに関する文献収集① 文献検索サイトを用いて、研究テーマに関する文献リストを作成する。 【課題 2】に取り組む 教育・保育現場へ足を運ぶ 【課題 1-3】の提出	○先行研究の整理 (120)
第 10 回目	■研究テーマに関する文献収集② 文献検索サイトを用いて、研究テーマに関する文献リストを作成する。 【課題 3】に取り組む	○先行研究の整理 (90)
第 11 回目	■研究の問いの設定① グループによる【課題 4】の意見交換 【課題 4】に取り組む ■研究計画書の作成 ★【課題 3】の提出	○先行研究にもとづく研究の問いの吟味 (90)
第 12 回目	■教育保育現場の実情と課題 救急救命士の現場からの具体的講話 ■到達確認試験に向けての準備と説明 ★【課題 2】の提出	○プレゼンテーションの準備 (90)
第 13 回目	■プレゼンテーション 先行研究レビューの整理と研究の問いについて報告する 【課題 5】に取り組む	○先行研究の再整理と研究の問いの再検討 (90)

第 14 回目	■先行研究の再整理と研究の問いの修正 プレゼンテーションでの指摘事項を踏まえて、先行研究の再整理と研究の問いを見直す ★【課題 4】の提出	○【課題 4】の提出準備（90）
第 15 回目	■授業のまとめ 【課題 5】の作成と提出 ■学生生活の振り返りを迎えるにあたって、 いかに学生生活の充実を図るかを大テーマとして、 アドバイザーとともに、2 年生の 1 年間を振り返る。 履修カルテ作成 到達確認試験の準備 E-ポートフォリオの作成	○秋学期のふりかえりを e ポートフォリオに 記事投稿する（60）

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-A52	2.科目名	専門演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	島川香織					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学・福祉学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この演習では専門演習Ⅰに引き続き、問題解決型学習(PBL)と、研究テーマの探索、研究方法、論文作成に必要なライティングスキルの向上に自発的に取り組んでいきます。また下記サブテーマを切り口に、各自が興味関心のある具体的研究課題を設定し、そこから研究の問いを導く方法についても学んでいきます。 【概要】 学習内容を深化させるために「保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・特別支援学校の子どもの命を守る」という視点から、教育現場での具体的課題や経験学修を通して学びを深めテーマに設定して進めていきます。					
18.学習目標と DPとの関連	関連する学科 DP (1) 自律的で主体的な態度（自律性） 教員・社会福祉従事者としての使命と目標を明確に持ち、教育・社会福祉業務に自律的・意欲的に取り組むことができる。 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 教員・社会福祉従事者として社会の動向をふまえ、教育や福祉の現場において必要とされる実践力を身につけ、地域社会や他者のために責任ある行動をとることができる。 (4) 問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 <学習目標> 本授業は、以下の学習目標を設定します。 ①テーマに関連した学術論文を検索できる。 ②①の論文について、論文の結果を要約し、考察できる。 ③地域課題や教育・保育・福祉の今日的課題から関心のある研究テーマを選択することができる ④③を踏まえて、具体的な研究の問いを設定することができる。					
19.教科書・教材	適宜配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	【課題 1】要約文の作成 10%×3=30% 【課題 2】文献リストの作成 10% 【課題 3】具体的講話に関する事後レポート ・要約文(web-class) 10% 【課題 4】先行研究レビューと研究の問い 20% ※提出までにプレゼンテーションを行う（具体的な研究の問いをどのように設定したのかを報告する） ※プレゼンテーションにおける他者からの指摘を踏まえ、課題 4 を提出する					

	【課題 5】 ふりかえりシートの提出 10%・KUIS ドリル 10%・到達確認試験の準備 10% ○ICT 活用力向上のため、基本的に Webc	
22.コメント		
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目 10/5	オリエンテーション (全体) ■授業の進め方等の説明と受講の心構え ■ラーニングルートマップについて ■e ポートフォリオについて ■秋学期履修登録相互確認 (ゼミアワー)	○ラーニングルートマップ修正 (60 分)
第 2 回目 10/12	■研究テーマ作り 春学期に作成したレポートを読み返す。 「こどもたちの命を守る」という視点から、経験学修での学びを振り返る。また、英語圏や東アジアにおける異文化との安全・安心という観点からの視点を広げつつ、地域課題や教育・保育・福祉の今日的課題を把握するための資料を集め、把握した後に研究テーマを決める。(指定のテーマから決めてもいい)	○文献検索サイトを用いて文献検索の練習しつつ、テーマを決める (60)
第 3 回目 10/19	■調査及び資料収集①(教育現場での調査の検討・実施) 研究テーマを探る。 研究テーマ(興味のあるテーマ)がある程度決まった時点で、テーマに沿った文献を集め、その中の最も興味のある 1 つの文献を読む。 重要な点などに線を引く。 その論文がどのようなもので、何を明らかにしているかなど、グループで共有する。	○文献検索サイトを用いて文献検索の練習をする (60)
第 4 回目 10/26	■考察する① 選んだ 1 つの文献が伝えようとしていること(結果)を要約する。 要約を基に、自分の考えを述べる。 テーマが近い人を集め、ラーニングコミュニティ(学習グループ)を作り、論文に対する自分の考えを他者に共有する。 【課題 1-1】に取り組む	○これまでの復習をする (60)
第 5 回目 11/2	■調査及び資料収集②(教育現場での調査の検討・実施) 1 つの論文では明らかにならなかったこと、研究の課題をさらに明らかにする論文を探す。 探した論文の中から最も興味のある文献を 1 つ絞り読む。 重要な点などに線を引く。 その論文がどのようなもので、何を明らかにしているかなど、グループで共有する。 【課題 1-1】の提出	○文献検索サイトを活用して研究テーマをリサーチする (90)
第 6 回目 11/9	■考察する② 選んだ 2 つ目の文献が伝えようとしていること(結果)を要約する。	○文献リストの作成(60)

	要約を基に、自分の考えを述べる。 テーマが近い人を集め、ラーニングコミュニティを作り、論文に対する自分の考えを他者に共有する。 【課題 1-2】に取り組む	
第 7 回目 11/16	■調査及び資料収集③(教育現場での調査の検討・実施) 2つの論文では明らかにならなかったこと、研究の課題をさらに明らかにする論文を探す。 探した論文の中から最も興味のある文献を1つ絞り読む。 重要な点などに線を引く。 その論文がどのようなもので、何を明らかにしているかなど、グループで共有する。 【課題 1-2】の提出	グループでの先行研究などの共有 (90)
第 8 回目 11/23	■考察する③ 選んだ3つ目の文献が伝えようとしていること(結果)を要約する。 要約を基に、自分の考えを述べる。 テーマが近い人を集め、ラーニングコミュニティを作り、論文に対する自分の考えを他者に共有する。 【課題 1-3】に取り組む	グループでの先行研究などの共有 (90)
第 9 回目 11/30	■教育保育現場の実情と課題 保育現場からの具体的講話	○先行研究の整理 (120)
第 10 回目 12/7	■研究テーマの再考 決めていた研究テーマを再確認するため、3つの文献とその他の文献を整理し、テーマを再考する。 ■研究テーマに関する文献収集① 文献検索サイトを用いて、研究テーマに関する文献リストを作成する。 【課題 2】に取り組む 【課題 1-3】の提出 ■到達確認試験に向けての準備	○先行研究の整理 (90)
第 11 回目 12/14	■研究テーマに関する文献収集② 文献検索サイトを用いて、研究テーマに関する文献リストを作成する。 【課題 3】に取り組む ■到達確認試験に向けての準備	○先行研究にもとづく研究の問いの吟味 (90)
第 12 回目 12/21	■研究の問いの設定① グループによる【課題 4】の意見交換 【課題 4】に取り組む ■研究計画書の作成 ★【課題 3】の提出 ■到達確認試験に向けての準備 ★【課題 2】の提出	○プレゼンテーションの準備 (90)
第 13 回目	■プレゼンテーション	○先行研究の再整理と研究の問いの再検討

1/11	先行研究レビューの整理と研究の問いについて報告する 【課題 5】に取り組む ■到達確認試験に向けての準備	(90)
第 14 回目 1/18	■先行研究の再整理と研究の問いの修正 プレゼンテーションでの指摘事項を踏まえて、先行研究の再整理と研究の問いを見直す ■到達確認試験に向けての準備 ★【課題 4】の提出	○【課題 4】の提出準備 (90)
第 15 回目 1/25	■授業のまとめ 【課題 5】の作成と提出 ■学生生活の振り返りを迎えるにあたって、 いかに学生生活の充実を図るかを大テーマとして、 アドバイザーとともに、2 年生の 1 年間を振り返る。 履修カルテ作成 到達確認試験の準備 E-ポートフォリオの作成	○秋学期のふりかえりを e ポートフォリオに 記事投稿する (60)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-A53	2.科目名	専門演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科こども学・福祉学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	専門演習Ⅰを履修していることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	指定されたゼミの授業を受講すること					
17.授業の目的と概要	【目的】 この演習では専門演習Ⅰに引き続き、問題解決型学習(PBL)と、研究テーマの探索、研究方法、論文作成に必要なライティングスキルの向上に自発的に取り組んでいきます。また下記サブテーマを切り口に、各自が興味関心のある具体的研究課題を設定し、そこから研究の問いを導く方法についても学んでいきます。 【概要】 学習内容を深化させるために「保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・特別支援学校の子どもの命を守る」という視点から、救急救命士の現場での具体的課題や経験学修を通して学びを深めテーマに設定して進めていきます。					
18.学習目標と DPとの関連	関連する学科 DP (1) 自律的で主体的な態度（自律性） 教員・社会福祉従事者としての使命と目標を明確に持ち、教育・社会福祉業務に自律的・意欲的に取り組むことができる。 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 教員・社会福祉従事者として社会の動向をふまえ、教育や福祉の現場において必要とされる実践力を身につけ、地域社会や他者のために責任ある行動をとることができる。 (4) 問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 <学習目標> 本授業は、以下の学習目標を設定します。 ①テーマに関連した学術論文を検索できる。 ②①の論文について、論文の結果を要約し、考察できる。 ③地域課題や教育・保育・福祉の今日的課題から関心のある研究テーマを選択することができる ④③を踏まえて、具体的な研究の問いを設定することができる。					
19.教科書・教材	適宜配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	【課題 1】要約文の作成 10%×3＝30% 【課題 2】文献リストの作成 10% 【課題 3】先行研究レビューの整理表の作成 10% ※【課題 2】をもとに、研究上の到達点や問題点をまとめる 【課題 4】先行研究レビューと研究の問い 20% ※提出までにプレゼンテーションを行う（具体的な研究の問いをどのように設定したのかを報告する） ※プレゼンテーションにおける他者からの指摘を踏まえ、課題 4 を提出する					

	【課題 5】 ふりかえりシートの提出 20%・KUIS ドリル 10% ○ICT 活用力向上のため、基本的に Webclas	
22.コメント		
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目 (9/27)	オリエンテーション (全体) ■授業の進め方等の説明と受講の心構え ■ラーニングルートマップについて ■e ポートフォリオについて ■秋学期履修登録相互確認 (ゼミアワー)	○ラーニングルートマップ修正 (60 分)
第 2 回目 (10/4)	■研究テーマ作り 春学期に作成したレポートを読み返す。 「こどもたちの命を守る」という視点から、経験学修での学びを振り返る。また、英語圏や東アジアにおける異文化との安全・安心という観点からの視点を広げつつ、地域課題や教育・保育・福祉の今日的課題を把握するための資料を集め、把握した後に研究テーマを決める。(指定のテーマから決めてもいい)	○文献検索サイトを用いて文献検索の練習しつつ、テーマを決める (60)
第 3 回目 (10/11)	■調査及び資料収集① 研究テーマを探る。 研究テーマ(興味のあるテーマ)がある程度決まった時点で、テーマに沿った文献を集め、その中の最も興味のある 1 つの文献を読む。 重要な点などに線を引く。 その論文がどのようなもので、何を明らかにしているかなど、グループで共有する。	○文献検索サイトを用いて文献検索の練習をする (60)
第 4 回目 (10/18)	■考察する① 【課題 1-1】 選んだ 1 つの文献が伝えようとしていること(結果)を要約する。 要約を基に、自分の考えを述べる。 テーマが近い人を集め、ラーニングコミュニティ(学習グループ)を作り、論文に対する自分の考えを他者に共有する。 【課題 1-1】 に取り組む	○これまでの復習をする (60)
第 5 回目 (10/25)	■調査及び資料収集② 1 つの論文では明らかにならなかったこと、研究の課題をさらに明らかにする論文を探す。 探した論文の中から最も興味のある文献を 1 つ絞り読む。 重要な点などに線を引く。 その論文がどのようなもので、何を明らかにしているかなど、グループで共有する。 【課題 1-1】 の提出	○文献検索サイトを活用して研究テーマをリサーチする (90)
第 6 回目 (11/1)	■考察する② 【課題 1-2】 選んだ 2 つ目の文献が伝えようとしていること(結果)を要約する。	○文献リストの作成(60)

	要約を基に、自分の考えを述べる。 テーマが近い人を集め、ラーニングコミュニティを作り、論文に対する自分の考えを他者に共有する。 【課題 1-2】に取り組む	
第 7 回目 (11/8)	■調査及び資料収集③ 2つの論文では明らかにならなかったこと、研究の課題をさらに明らかにする論文を探す。 探した論文の中から最も興味のある文献を1つ絞り読む。 重要な点などに線を引く。 その論文がどのようなもので、何を明らかにしているかなど、グループで共有する。	グループでの先行研究などの共有 (90)
第 8 回目 (11/15)	■考察する③ 【課題 1-3】 選んだ3つ目の文献が伝えようとしていること（結果）を要約する。 要約を基に、自分の考えを述べる。 テーマが近い人を集め、ラーニングコミュニティを作り、論文に対する自分の考えを他者に共有する。 【課題 1-2】の提出 【課題 1-3】に取り組む	グループでの先行研究などの共有 (90)
第 9 回目 (11/22)	■研究テーマの再考 決めていた研究テーマを再確認するため、3つの文献とその他の文献を整理し、テーマを再考する。 ■研究テーマに関する文献収集① 【課題 2】 文献検索サイトを用いて、研究テーマに関する文献リストを作成する。 【課題 2】に取り組む 教育・保育現場へ足を運ぶ 【課題 1-3】の提出	○先行研究の整理 (120)
第 10 回目 (11/29)	■研究テーマに関する文献収集② 【課題 3】 文献検索サイトを用いて、研究テーマに関する文献リストを作成する。 【課題 3】に取り組む	○先行研究の整理 (90)
第 11 回目 (12/6)	■研究の問いの設定① 【課題 4】 グループによる【課題 4】の意見交換 【課題 4】に取り組む ■研究計画書の作成 ★【課題 3】の提出	○先行研究にもとづく研究の問いの吟味 (90)
第 12 回目 (12/13)	■教育保育現場の実情と課題 救急救命士の現場からの具体的講話 ■到達確認試験に向けての準備と説明 ★【課題 2】の提出	○プレゼンテーションの準備 (90)
第 13 回目 (12/20)	■プレゼンテーション 【課題 5】 先行研究レビューの整理と研究の問いについて報告する	○先行研究の再整理と研究の問いの再検討 (90)

	【課題 5】に取り組む	
第 14 回目 (1/10)	■先行研究の再整理と研究の問いの修正 プレゼンテーションでの指摘事項を踏まえて、先行研究の再整理と研究の問いを見直す ★【課題 4】の提出	○【課題 4】の提出準備 (90)
第 15 回目 (1/17)	■授業のまとめ 【課題 5】の作成と提出 ■学生生活の振り返しを迎えるにあたって、 いかに学生生活の充実を図るかを大テーマとして、 アドバイザーとともに、2 年生の 1 年間を振り返る。 履修カルテ作成 (WebClass に入力) 到達確認試験の準備 E-ポートフォリオの作成	○秋学期のふりかえりを e ポートフォリオに 記事投稿する (60)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-A54	2.科目名	専門演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	尾崎慶太					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	2 年生で履修する専門演習Ⅰ・Ⅱでは1 年次に履修した「学習技術」や「初年次セミナー」「基礎演習」を発展させ、研究テーマの探索、研究方法の基礎の習得、論文作成に必要なライティングスキルの向上をねらいとします。 2 年生ゼミでは、1 年間の共通テーマを「地域で安心した生活ができるまちづくり」に設定しています。地域住民の暮らしに着目し、フィールドワークを通して、その人たちの声/語りをともに、人々にとっての well-being や安全・安心について検討していきます。具体的には、尼崎市から委託を受けて、本学学生と尼崎市が共同で福祉実践を行います。 専門演習Ⅱ（秋学期）では、高齢者等の地域住民への見守り活動や障害者、子育て世帯等の孤立を防ぎ、つながりをつくる活動に積極的に参加し、地域住民の安全・安心な暮らしを支える支援の在り方を体験的に学びます。また、そこで得られたデータ等を分析し、まとめて発表することができる専門的技術を獲得していきます。					
18.学習目標と DPとの関連	<学習目標> 本授業は、以下の学習目標を設定します。 ①フィールドワークを通して、地域のニーズを抽出できる。 ②孤立を防ぎ、つながりをつくるための計画を立て実行できる。 ③テーマに関する先行研究を収集し、要約できる。 ④ ①②③を踏まえて、フィールドワークの経験を整理し、説明できる。					
19.教科書・教材	適宜配布する					
20.参考文献						
21.成績評価	【課題 1】活動記録（フィールドワーク）と質的分析シート 25％_学習目標①に対応 ・専門演習Ⅰ・専門演習Ⅱにて行った地域活動を毎回記録して提出する。 【課題 2】文献シート 15％_学習目標③に対応 ・自身が設定したテーマに関連する文献を 5 つ収集し、テキストクリティークを行う。 【課題 3】「MY 活動冊子」30％ 学習目標①②③④に対応 ・専門演習Ⅰにて作成している「MY 活動冊子」を完成させる。 ・内容には、地域活動をどのように行っていったのかを示し（活動記録のまとめ）、それに関連する先行研究を含める。 ・					
22.コメント	1. この科目は「インターンシップⅡ」（春学期集中 尾崎慶太）と関連して進めています。 2. 地域住民の見守り活動やつながりづくりの支援活動の日程は、尼崎市や町会との調整が必要なため授業開始後に皆さんの予定も聞きながら調整していきます。					
23.オフィスアワー	月曜・木曜の昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 10/5	1. 授業の進め方、成績評価、概要の説明 ・授業の進め方や内容、評価の方法について説明を行う。			※本授業はノートパソコン持参を原則とします。 ○課題について情報収集しておく（180）		

	・授業シラバスを持参すること（このシラバスは学びの文脈を俯瞰できる重要な資料であり、ノートやファイルに添付していつでも参照できるようにしておくこと）。 2. グループごとに、夏期休業期間中に実施した活動を整理する。	
第 2 回 10/12	フィールドワークの振り返り ・活動の整理をする。 ・今後の活動目的を設定する	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
第 3 回 10/19	活動計画を立てる ・計画に対するブレインストーミング ・グループ別に今後の計画を発表する。	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
第 4 回 10/26	フィールドワークの実施（学外活動） ・各自の目的を意識して地域活動に参加する ・終了後に活動記録を書く	課題の取組に関するふりかえり（90）
第 5 回 11/2	フィールドワークの振り返り ・活動の整理をする。 ・次回の活動の目的をたてる。 ※グループワークと個別ワークで学びを深める	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
第 6 回 11/9	中間報告会のパワーポイントを作成する ・これまでの活動をまとめ、今後の方向性を示す ・他者からの指摘を受け、後半の活動計画、目的を見直す	成果物を仕上げる（90）
第 7 回 11/16	フィールドワークの中間報告会 ・これまでの活動の中間報告をする ・他者からの指摘を受け、今後の計画や目的を修正する	課題の取組に関するふりかえり（90） 成果物のブラッシュアップ（90）
第 8 回 11/23	文献検索および文献入手 設定したテーマに関する文献を検索する 【課題 2】提出	課題の取組に関するふりかえり（90）
第 9 回 11/30	フィールドワークの実施（学外活動） ・各自の目的を意識して地域活動に参加する ・終了後に活動記録を書く	成果物のブラッシュアップ（90）
第 10 回 12/7	フィールドワークの振り返り ・活動の整理をする。 ※グループワークと個別ワークで学びを深める	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
第 11 回 12/14	テキストクリティーク① 文献を読み込み、整理した内容をグループで共有する	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
第 12 回 12/21	テキストクリティーク② 文献を読み込み、整理した内容をグループで共有する	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
第 13 回 1/11	フィールドワークの最終発表会に向けてポスターを作成する ・これまでの活動をまとめる ・プレゼンテーションの仕方を工夫する	課題に関する情報収集（90） 成果物の準備（90）
第 14 回 1/18	活動の最終発表会 ・フィールドワーク関係者に向けて、これまでの活動の報告をする（予定）	課題の取組に関するふりかえり（90） 成果物のブラッシュアップ（90）

	・他者からの評価を受け、グループと個人の今後の課題を検討する	
第 15 回 1／25	授業のまとめ ふりかえりシート【課題 5】の作成と提出	課題の取組に関するふりかえり (90) 成果物のブラッシュアップ (90)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y51	2.科目名	専門演習Ⅱ(社会)		3.単位数	2
4.授業担当教員	中島康二					
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	データサイエンス専攻			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 2 年生が履修する専門演習Ⅰ・Ⅱでの 1 年間は、4 年生で履修登録する卒業研究までの準備工程に当たります。ゼミの共通テーマ「新神戸駅周辺地域のリサーチ」にもとづいて、問題発見・解決のための調査を行ったり、その成果を文書に記述する作業を通して、卒業研究に必要な知識とスキルを身に付けると同時に、自分の将来の「研究テーマ」を模索します。 【概要】 専門演習Ⅰからの続きの授業となります。 授業では、教室での学び(情報の収集・整理・考察、ディスカッションなど)と、現場での学び(フィールドワーク)を往還しながら進めていきます。 本ゼミでは特に、データサイエンティストに求められる力のひとつ「ビジネス力」に関わるスキルを育てるために、以下の 3 つの作業に取り組みます： A. 街に出て、現地を見て企画提案を考える フィールドワークを通して、新神戸駅周辺の活性化についてアイデアを出すことを目指します。 B. 企画提案に関連する文献を探して・読む 神戸の街づくりのために行われたこれまでの取り組みや、「街づくり」に関わる周辺の課題に関する研究について文献調査し、活性化のためのアイデア出しの材料とします。 C. プロジェクトの企画提案をドキュメントにまとめる方法について学ぶ 「ビジネス力」で求められるスキルのうち、特に論理的思考、課題の定義、プロジェクトマネジメントに注目して、これらのスキルを身に付けるトレーニングをしながら企画提案をドキュメントにまとめます。					
18.学習目標と DP との関連	① 神戸の街の活性化の障壁となっている要因について自分の意見を書き出せる ② テーマに関連する文献を探して要旨を説明できる ③ テーマに関連する過去の取組みを踏まえて、自分の企画提案ができる ④ 企画提案を、「ビジネス力」の要件を満たしてドキュメントにまとめられる 【関連する DP】 1. 自律性 2. 社会的貢献性 3. 多様性理解 4. 問題発見・解決力 5. コミュニケーションスキル 6. 専門的知識・技術の活用力					
19.教科書・教材	必要に応じて適宜配付します。					
20.参考文献						
21.成績評価	以下の各課題を実施したうえで、合計 60 点以上となった場合に合格となります。 (1) フィールドワーク・レポートを含む各回の学習日誌の提出 15% (関連する学習目標①②③) (2) 調査文献リストの提出 15% (学習目標②) (3) 企画書の提出 40% (学習目標①②③④) (4) リフレクションシートの提出 30% (学習目標①②③④)					
22.コメント	・フィールドワークでは、神戸まちづくり会館(まちラボ)の施設や所蔵図書を適宜利用します。(https://kobe-machi-kaikan.city.kobe.lg.jp/machilabo/) ・ゼミ間交流も行います。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y52	2.科目名	専門演習Ⅱ (社会)		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本久					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	文化・メディア専攻			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 2 年生が履修する専門演習Ⅰ・Ⅱでの 1 年間は、4 年生で履修登録する卒業研究までの準備工程に当たります。ゼミの共通テーマ「新神戸駅周辺地域のリサーチ」にもとづいて、問題発見・解決のための調査を行ったり、その成果を文書に記述する作業を通して、卒業研究に必要な知識とスキルを身に付けると同時に、自分の将来の「研究テーマ」を模索します。 【概要】 授業では、教室での学び（情報の収集・整理・考察、ディスカッションなど）と、現場での学び（フィールドワーク）を往還しながら進めていきます。 特に文化・メディア系ゼミとして、神戸地域の地理や歴史や文化、それらの特徴について学習し、知識と教養を身につけます。また画像や映像、サウンド編集、コンテンツ制作などの基本を学習し、発信する力を養います。 ・「こうべまちづくり会館」をはじめ、博物館、図書館などの利用、各種文献や資料などを通じ、神戸の様々な文化や歴史、地理的・地勢的特徴などを学習します。 ・可能であれば具体的な文化活動を体験する機会なども提供できればと考えていますが、自主的に参加や体験をすることを強く奨励します。 ・個人活動、グループ活動、他のゼミとの共同作業なども適宜図っていきたいと考えています。					
18.学習目標と DP との関連	① 神戸の様々な文化やその特徴を学び、幅広い知識や教養を身につける ② 画像や映像、サウンドなどの編集、コンテンツ制作の基礎力を身につける ③ 調査結果を整理しまとめ、各種メディア・コンテンツ制作による情報提供が行える 【関連する DP】 1. 自律性 2. 社会的貢献性 3. 多様性理解 4. 問題発見・解決力 5. コミュニケーションスキル 6. 専門的知識・技術の活用力					
19.教科書・教材	適宜資料を紹介・配布します					
20.参考文献						
21.成績評価	以下の各課題を実施したうえで、合計 60 点以上となった場合に合格となります。 (1) フィールドワーク・レポートを含む各回の学習日誌の提出 15% (関連する学習目標①②③) (2) 調査文献・資料等の提出 15% (学習目標①) (3) 企画書／制作コンテンツ等の提出 40% (学習目標②③) (4) リフレクションシートの提出 30% (学習目標①②③)					
22.コメント	22.コメント ・フィールドワークでは、神戸まちづくり会館（まちラボ）の施設や所蔵図書を適宜利用します。(https://kobe-machi-kaikan.city.kobe.lg.jp/machilabo/) ・ゼミ間交流も行います。 ・取りまとめた成果が、先々の卒業研究テーマに展開できそうか、想像してみる作業を行います。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y53	2.科目名	専門演習Ⅱ (社会)		3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之					
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科共生社会専攻			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 2 年生が履修する専門演習Ⅰ・Ⅱでの 1 年間は、4 年生で履修登録する卒業研究までの準備工程に当たります。 秋学期では、社会学を中心に、まちづくりや共生社会に関する文献を読み、基本的な知識を身に着けます。そのうえで、「観察法」や「インタビュー法」などの社会調査を実施し、社会調査に関する基礎的なスキルを身に着けます。さらに、ゼミの共通テーマ「新神戸駅周辺地域のリサーチ」にもとづいて、問題発見・解決のための調査を行ったり、その成果を文書に記述します。 以上の作業を通して、卒業研究に必要な知識とスキルを身に付けると同時に、自分の将来の「研究テーマ」を模索します。 【概要】(専門演習Ⅰからのつづきの授業です) 授業では、教室での学び(情報の収集・整理・考察、ディスカッションなど)と、現場での学び(フィールドワーク)を往還しながら進めていきます。 秋学期のゼミでは特に、「共生社会とまちづくり」および「社会調査」に関する知識やスキル身につけるために、以下の 2 つの作業に取り組みます： A. 街に出て社会調査を実施する(個別研究) 「神戸の”課題“を発見する」。一人ひとつ個別テーマを設定し、調べてきたことを発表します。 例…「元町駅のバリアフリー状況」、「子育て中の人からみたユニバーサルデザイン」、「外国人にとって日本の電車は“やさしい”か?」、「さんきたアモーレ広場(旧パイ山)居心地調査」、「郊外ニュータウンと地下鉄の現在」、「神戸の若年層の流動と仕事」、「ローカル線の課題」、「駅名・地名の由来」など。 B. 神戸のまちづくりに関するリサーチを実施し、結果をまとめる(共同研究) 春学期に企画立案した、新神戸駅周辺地域のまちづくりに関する調査およびその結果をまとめます。					
18.学習目標と DP との関連	①現代における共生社会やまちづくりに関する社会学的な視点と自分の考えを書き出すことができる。 ②社会調査にもとづいた調査を企画し、実施することができる。 ③調査結果を議論し、自分自身でまとめることができる。 【関連する DP】 1. 自律性 2. 社会的貢献性 3. 多様性理解 4. 問題発見・解決力 5. コミュニケーションスキル 6. 専門的知識・技術の活用力					
19.教科書・教材	必要に応じて適宜配付します。					
20.参考文献	適宜授業内で紹介します。					
21.成績評価	以下の各課題を実施したうえで、合計 60 点以上となった場合に合格となります。 (1) フィールドワーク・レポートを含む各回の学習日誌の提出 15% (関連する学習目標①②③)					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y56	2.科目名	専門演習Ⅱ		3.単位数	2												
4.授業担当教員	大松光寿																	
5.授業科目の区分	警察分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期													
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～													
10.取得資格の要件				11.先修条件														
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※													
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習													
16.履修制限																		
17.授業の目的と概要	【目的】 事件・事故を題材としたグループ討議やプレゼンテーション通じて、専門分野の情報収集力やコミュニケーション能力を身につけることを目的とします。 【概要】 具体的には、班別に事件・事故に関するテーマを自由に選定し、事実関係や背景事情、内在する問題点等について調査・検討したのちにプレゼンを行い、討議することにより専門的知識を学修します。																	
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門的知識・技能、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ① 情報を収集・整理して自己主張する。 ② 他者の主張を理解して自己主張する。 ③ 犯罪の発生と対処について理解する。																	
19.教科書・教材																		
20.参考文献																		
21.成績評価	評価の方法は次のとおりです。 <table border="0"> <tr> <td>・テーマ研究（プレゼン・質疑応答を含む）</td> <td>25 × 2</td> <td>50 %</td> </tr> <tr> <td>・レポート(テーマ1, テーマ2)</td> <td>15 × 2</td> <td>30 %</td> </tr> <tr> <td>・キャリア授業（提出物及び取組み姿勢）</td> <td></td> <td>10 %</td> </tr> <tr> <td>・振り返りレポート</td> <td></td> <td>10 %</td> </tr> </table>						・テーマ研究（プレゼン・質疑応答を含む）	25 × 2	50 %	・レポート(テーマ1, テーマ2)	15 × 2	30 %	・キャリア授業（提出物及び取組み姿勢）		10 %	・振り返りレポート		10 %
・テーマ研究（プレゼン・質疑応答を含む）	25 × 2	50 %																
・レポート(テーマ1, テーマ2)	15 × 2	30 %																
・キャリア授業（提出物及び取組み姿勢）		10 %																
・振り返りレポート		10 %																
22.コメント	毎回ノートパソコンを持参してください。																	
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜昼休み 研究室ーオフィスアワー：月曜昼休み																	
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)														
第1回	○ オリエンテーション：講義の内容と進め方に関する説明 ○ お互いを知り合う：自己紹介（春学期の振り返り） ○ 班編制の実施 ○ 論文検索方法			毎回、ノートパソコンを持参願います														
第2回	研究発表① ？ 事件・事故を中心として班ごとに事実関係を確認のうえ、背景事情や内在する問題点、対策などについて調査研究し、資料作成のうえプレゼンを行う。 ・ 班ごとにテーマの選定 ・ 班内での役割分担を決め、調査・研究			各自、研究テーマを考えて授業に臨むこと														

	・ プレゼン発表準備 * 第5～6回授業において、班ごとにプレゼン	
第3回	研究発表① 班ごとのテーマを調査・研究 * 第5～6回授業において、班ごとにプレゼン	自身の役割分担について整理して、班別討議に臨むこと
第4回	研究発表① 班ごとのテーマを調査・研究 * 第5～6回授業において、班ごとにプレゼン	自身の役割分担について整理して、班別討議に臨むこと
第5回	研究発表① ? 班ごとにプレゼンテーション ? 相互評価 各グループ発表について、疑問点等を質疑検討等すること により、議論を深める。	各班の代表者は、プレゼン資料をウェブクラスに搭載する
第6回	研究発表① ? 班ごとにプレゼンテーション ? 相互評価 各グループ発表について、疑問点等を質疑検討等すること により、議論を深める。	各班の代表者は、プレゼン資料をウェブクラスに搭載する
第7回	キャリア合同ガイダンス(予定) 11月下旬頃(ウィークリーアワー)で実施予定 ?当該週のゼミは、振替休講となる予定。	
第8回	研究発表② ? 事件・事故を中心として班ごとに事実関係を確認のうえ、背景事情や内在する問題点、対策などについて調査研究し、資料作成のうえプレゼンを行う。 ・ 班ごとにテーマの選定 ・ 班内での役割分担を決め、調査・研究 ・ プレゼン発表準備 * 第13～14回授業において、班ごとにプレゼン	自身の役割分担について整理して、班別討議に臨むこと
第9回	研究発表② 班ごとのテーマを調査・研究 * 第13～14回授業において、班ごとにプレゼン	各自が前回の討議内容を理解・整理して、班別最終討議に臨むこと
第10回	研究発表② 班ごとのテーマを調査・研究 * 第13～14回授業において、班ごとにプレゼン	各班の代表者は、プレゼン資料をウェブクラスに搭載する
第11回	研究発表②	

	班ごとのテーマを調査・研究 ＊ 第13～14回授業において、班ごとにプレゼン 文書検索	
第12回	研究発表② 班ごとのテーマを調査・研究 ＊ 第13～14回授業において、班ごとにプレゼン	各自が前回の討議内容を理解・整理して、班別最終討議に臨むこと
第13回	研究発表② ？ 班ごとにプレゼンテーション ？ 相互評価 各グループ発表について、疑問点等を質疑検討等すること により、議論を深める。	各班の代表者は、プレゼン資料をウェブクラスに搭載する
第14回	研究発表② ？ 班ごとにプレゼンテーション ？ 相互評価 各グループ発表について、疑問点等を質疑検討等すること により、議論を深める。	各班の代表者は、プレゼン資料をウェブクラスに搭載する
第15回	振り返りとまとめ ・ 本演習を振り返り、疑問点や課題について討議を行い、課題を解決する。 ・ 本学期の振り返りレポート(800字程度)を作成し、WebClassへ提出する。	各自、春学期の総括を行って授業に臨むこと

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y57	2.科目名	専門演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高橋浩樹					
5.授業科目の区分	警察分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	必修	7.開講学期・年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：社会的耳目を集めた事件や事故、ネット空間における問題点等を題材として、情報の収集と分析、グループ討議、プレゼンテーション、レポートの作成を通して、物事、自己の主張を他者に正しく表現し、伝えるスキルを身に付けることを目的とします。 概要：各班においてテーマを選定し、情報検索、発表案（プレゼン資料、読み原稿等）、レポートの作成及び発表を行います。 ※各回ノートパソコンを持参して下さい 初回にグループ分けを実施しますので、必ず出席してください。					
18.学習目標とDPとの関連	DPの(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門的知識・技能の学修に関連しています。 ① 多様な情報源から必要かつ信頼できる情報を収集し、分類することができる ② 必要な情報を自分の主張の裏付けとして活用することができる ③ 決められた条件の中で知見や考えを表現することができる ④ 他者の発言の論点を理解したうえで自己の意見を示すことができる ⑤ 犯罪に関連する専門的知識を獲得することができる					
19.教	特にありません					

科 書・ 教材		
20.参 考文 献	適宜紹介します。	
21.成 績評 価	・ テーマレポート 60% 学習目標①、②、⑤に対 応 ・ プレゼンテーション 20% 学習目標③に対 応 ・ ディスカッションにおける質疑・発言 20% 学習目標④に対応	
22.コ メン ト		
23.オ フィ スア ワー	センターオフィスアワー：火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：水曜日昼休み	
24.授 業 回 数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・ オリエンテーション：演習の内容と進め方に関する説明 ・ 班編成 ・ 意見聴取、要望・質疑等	ノートパソコンを持参して下さい
第 2 回	第 1 回 論文作成 ・ ディスカッション、グループワーク 社会的反響の大きい事件を中心に各自テーマを選定し、事実認定、対策の検討、論文の作成を行う ・ テーマの選定（導き出す結論の方向性） ・ 情報の収集	各自が論文作成テーマ候補を選定し、考えをまとめておくこと
第 3 回	・ ディスカッション、グループワーク 発表案・論文作成 論文構成の組み立て	発表テーマに関して、班内討議に備え、情報収集、参考文献等の選定、考察のまとめを行うこと
第 4 回	・ ディスカッション、グループワーク 発表案・論文作成 論文構成の組み立て 論文作成	発表テーマに関して、班内討議に備え、情報収集、参考文献等の選定、考察のまとめを行うこと
第 5 回	・ グループワーク 論文の執筆・発表案の作成 第 6 回授業で提出	発表に備え、役割分担の確認、論文の推敲を行うこと
第 6 回	研究発表 ・ プレゼンテーション 各自論文をもとに短時間（5 分程度）でパワーポイントを使用した発表を行う（結論部分は全員がそれぞれ発表）	論文の要旨を簡潔にまとめたパワーポイント資料を作成しておくこと 各班代表者は WebClass に資料を掲載しておくこと 授業終了後、各自レポートを提出
第 7	第 2 回 論文作成	各自が論文作成テーマ候補を選定し、考えをまと

回	・ディスカッション、グループワーク 社会的反響の大きい事件を中心に各自テーマを選定し、事実認定、対策の検討、論文の作成を行う ・テーマの選定（導き出す結論の方向性） ・情報の収集	めておくこと
第 8 回 11/20	キャリア教育① 11/22 1 限 ウィークリーアワーの時間に実施 ゼミ の振替	発表テーマに関して、班内討議に備え、情報収集、参考文献等の選定、考察のまとめを行うこと
第 9 回	・ディスカッション、グループワーク 発表案・論文作成 論文構成の組み立て	発表テーマに関して、班内討議に備え、情報収集、参考文献等の選定、考察のまとめを行うこと
第 10 回	・グループワーク 論文の執筆・発表案の作成 論文作成 ・第 13 回、14 回授業で発表	発表テーマに関して、班内討議に備え、情報収集、参考文献等の選定、考察のまとめを行うこと
第 11 回 12/1	3 年ゼミエントリー合同説明会 12/13 1 限 ウィークリーアワーの時間に実施 ゼミの 振替	発表テーマに関して、班内討議に備え、情報収集、参考文献等の選定、考察のまとめを行うこと
第 12 回 12/18	キャリア教育② 12/20 1 限 ウィークリーアワーの時間に実施 ゼミ の振替	発表テーマに関して、班内討議に備え、情報収集、参考文献等の選定、考察のまとめを行うこと
第 13 回	研究発表 ・プレゼンテーション 各自論文をもとに 10 分間の持ち時間でパワーポイントを使用した発表を行う（半数）	論文の要旨を簡潔にまとめたパワーポイント資料を作成しておくこと 各班代表者は WebClass に資料を掲載しておくこと 他犯の資料を確認し、問題点等を検討しておくこと 授業終了後各自レポートを提出
第 14 回	研究発表 ・プレゼンテーション 各自論文をもとに 10 分間の持ち時間でパワーポイントを使用した発表を行う（半数）	論文の要旨を簡潔にまとめたパワーポイント資料を作成しておくこと 各班代表者は WebClass に資料を掲載しておくこと 他犯の資料を確認し、問題点等を検討しておくこと 授業終了後各自レポートを提出
第 15 回	○ 統括、まとめ 本演習を通して疑問点や課題について討議を行い、問題・課題解決をはかる 第 13 回、14 回で未発表者は発表	各自自らの総括を行い、反省点・改良点等をまとめておくこと

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y58	2.科目名	専門演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科(クラス分けの通り)			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業では、卒業論文執筆につながる基礎的スキルを身に着けることを目的とする。 具体的には心理学に親しみ、論文を読み解き、レジュメを作成すること、質問紙調査を実施し、レポートを作成することを通して、レポートライティングのスキルを身に着ける。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①自分の興味にそった心理学の領域を見つけることができる。 ②論文を読み、説明することができる。 ③レポートを書くことができる。					
19.教科書・教材	なし。					
20.参考文献	適宜、紹介する。					
21.成績評価	①興味ある領域のプレゼンテーション・・・30 点（学習目標①に対応） ②指定された専門書担当部分のレジュメ作成と発表・・・30 点（学習目標②に対応） ③レポート・・・40 点（学習目標③に対応）					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス 春夏学期のふりかえりと目標設定			持参：パソコン 宿題：論文を読み、レジュメを作成する。		
第 2 回	お互いを知り合う～春夏学期の成長と今後の課題について報告する～			宿題：論文を読み、レジュメを作成する。		
第 3 回	論文講読① 興味ある論文をレジュメにまとめ、発表する。 一人 20 分×4 名			持参：発表者はレジュメをゼミの人数分+1 持参すること。 宿題：論文を読み、レジュメを作成する。		
第 4 回	論文講読② 興味ある論文をレジュメにまとめ、発表する。 一人 20 分×4 名			持参：発表者はレジュメをゼミの人数分+1 持参すること。 宿題：論文を読み、レジュメを作成する。		
第 5 回	論文講読③ 興味ある論文をレジュメにまとめ、発表する。 一人 20 分×4 名			持参：発表者はレジュメをゼミの人数分+1 持参すること。 宿題：論文を読み、レジュメを作成する。		
第 6 回	論文講読④ 興味ある論文をレジュメにまとめ、発表する。 一人 20 分×4 名			持参：発表者はレジュメをゼミの人数分+1 持参すること。 宿題：論文を読み、レジュメを作成する。		
第 7 回	論文講読⑤			アサインメント「卒業後の就職に向けて、今か		

	興味ある論文をレジュメにまとめ、発表する。 一人 20 分×4 名	らの大学生活で何をすることが必要か具体的に考え、800 字程度（A4 用紙 1 枚）にまとめなさい。」 宿題：自分の興味ある分野についてまとめたレポートを書く。
第 8 回	論文講読⑥ 興味ある論文をレジュメにまとめ、発表する。 一人 20 分×4 名	持参：発表者はレジュメをゼミの人数分+1 持参すること。 宿題：論文を読み、レジュメを作成する。 宿題：自分の興味ある分野についてまとめたレポートを書く。
第 9 回	キャリア合同ガイダンス ※ウィークリーアワーで実施	持参：発表者はレジュメをゼミの人数分+1 持参すること。 宿題：論文を読み、レジュメを作成する。
第 10 回	3 年ゼミ選択説明会 ウィークリーアワーで実施	宿題：「自分でもやれそうなこと、やってみたいこと、就きたい仕事について、現段階での思い・夢を、800 字程度（A4 用紙 1 枚）にまとめなさい。」
第 11 回	質問紙調査① アンケートの作成	持参：発表者はレジュメをゼミの人数分+1 持参すること。 宿題：論文を読み、レジュメを作成する。 宿題：自分の興味ある分野についてまとめたレポートを書く。
第 12 回	質問紙調査② データの整理	持参：発表者はレジュメをゼミの人数分+1 持参すること。 宿題：論文を読み、レジュメを作成する。 宿題：自分の興味ある分野についてまとめたレポートを書く。
第 13 回	質問紙調査③ データの分析	アサイメント「卒業後の就職に向けて、今からの大学生活で何をすることが必要か具体的に考え、800 字程度（A4 用紙 1 枚）にまとめなさい。」 宿題：自分の興味ある分野についてまとめたレポートを書く。
第 14 回	質問紙調査④ 結果の発表	持参：発表者はレジュメをゼミの人数分+1 持参すること。 持参：レポート
第 15 回	まとめとふりかえり	持参：前回の宿題、パソコン

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y59	2.科目名	専門演習Ⅱ		3.単位数	2										
4.授業担当教員	道免逸子															
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期											
8.履修可能な専攻	心理学科(クラス分けの通り)			9.履修学年	2 年～											
10.取得資格の要件				11.先修条件												
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※											
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習											
16.履修制限																
17.授業の目的と概要	本演習の目的は、卒業論文執筆につながる基礎的スキルを身に着けるために、心理学の専門書や論文を読み解く力、プレゼンテーションの力、レポートを書く力を向上させることである。また、就職活動に必要な自己理解を得、自分について人に説明することができるようにすることも目的とする。 概要は、文献の輪読と要約、心理学に関連した自分の興味関をテーマに、様々なツールを用いて行うプレゼン、問題発見解決力を高めるための、PBL に関連した取り組みなどである。															
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の 1.自律的で意欲的な態度、2.社会に能動的に貢献する姿勢、5.コミュニケーションスキルに関連している。 本科目の学習目標は次の通りである。 ①これから自分が深めていくべき心理学の領域を見つけることができる。 ②論文を読み、内容について説明することができる。 ③レポートを書く基礎力が身に付いている。															
19.教科書・教材																
20.参考文献	適宜、紹介する。															
21.成績評価	<table><tr><td>課題の発表、中間発表各 10 点</td><td>20%</td></tr><tr><td>最終プレゼン 30 点</td><td>30%</td></tr><tr><td>mini-meeting 参加 5 点× 2</td><td>10%</td></tr><tr><td>提出物 3 つ各 10 点</td><td>30%</td></tr><tr><td>振り返りレポート</td><td>10%</td></tr></table>						課題の発表、中間発表各 10 点	20%	最終プレゼン 30 点	30%	mini-meeting 参加 5 点× 2	10%	提出物 3 つ各 10 点	30%	振り返りレポート	10%
課題の発表、中間発表各 10 点	20%															
最終プレゼン 30 点	30%															
mini-meeting 参加 5 点× 2	10%															
提出物 3 つ各 10 点	30%															
振り返りレポート	10%															
22.コメント																
23.オフィスアワー	オフィスアワー： 水曜 昼休み センターオフィスアワー： 金曜 昼休み															
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)												
第 1 回 10 月 4 日	夏休みの振り返り 春学期の講評 PBL 課題決め 輪読 or ミニ講義の希望 面談日程決め			持参：ノープソ 宿題：次回の課題発表の準備												
第 2 回 10 月 11 日	プレゼンの課題と様式について発表 1 人 5 分			持参：ノープソ 宿題： 次回輪読 or ミニ講義の用意 中間発表に向けて準備 mini-meeting 受ける												
第 3 回 10 月 18 日	輪読 or ミニ講義 + ディスカッション			持参：ノープソ 宿題： 次回輪読 or ミニ講義の用意 中間発表に向けて準備 mini-meeting 受ける												

第 4 回 10 月 25 日	輪読 or ミニ講義 + ディスカッション	持参：ノーパソ 宿題： 次回輪読 or ミニ講義の用意 中間発表に向けて準備 mini-meeting 受ける
第 5 回 11 月 1 日	輪読 or ミニ講義 + ディスカッション	持参：ノーパソ 宿題： 中間発表に向けて準備 mini-meeting 受ける
第 6 回 11 月 8 日	プレゼン中間発表会 進捗について発表 1 人 5 分	持参：ノーパソ 宿題： 最終発表に向けて準備 mini-meeting2 回目、3 回目受ける
第 7 回 11 月 15 日	輪読 or ミニ講義 + ディスカッション	持参：ノーパソ 宿題： 最終発表に向けて準備 mini-meeting2 回目、3 回目受ける
第 8 回 11 月 22 日	PBL	持参：ノーパソ 宿題： 最終発表に向けて準備 mini-meeting2 回目、3 回目受ける
第 9 回 11 月 29 日	キャリア合同ガイダンス	持参：ノーパソ 宿題： 最終発表に向けて準備進める mini-meeting2 回目、3 回目受ける
第 10 回 12 月 6 日	3 年ゼミエントリー合同説明会	持参：ノーパソ 宿題： 最終発表に向けて準備 mini-meeting2 回目、3 回目受ける
第 11 回 12 月 13 日	PBL	持参：ノーパソ 宿題： 最終プレゼンの準備
第 12 回 12 月 20 日	最終プレゼン 1 10 分発表 5 分質疑応答 15 分	持参：ノーパソ 宿題： 最終プレゼンの準備
第 13 回 1 月 10 日	最終プレゼン 2 10 分発表 5 分質疑応答 15 分	持参：ノーパソ 宿題： 最終プレゼンの準備
第 14 回 1 月 17 日	最終プレゼン 3 10 分発表 5 分質疑応答 15 分	持参：ノーパソ 宿題： 秋学期を振り返る
第 15 回 1 月 24 日	プレゼン 1 名+予備 お楽しみ会 振り返りレポ ート後日提出	持参：ノーパソ 終了後指定期日内に振り返りレポートの提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y60	2.科目名	専門演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	村田昌彦					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科(クラス分けの通り)			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	・これまでの災害から得られた教訓をベースにした災害への様々な備えを学び、その中でも兵庫県・神戸市が現在懸案としている事項(ex.身近な市民防災、避難所運営など)を題材として抽出する。 ・それについて、学外活動を踏まえた事前調査、関係者からの説明、インタビューを行い、課題発見・解決のグループワークにより提案を取りまとめて、パワーポイント、動画により関係者にプレゼンテーションを行い、評価を受ける。 ・これらを通じて、課題発見・解決に向けた自己の主張を他者に正しく伝えるスキルを身に付けることを目的とします。					
18.学習目標と DPとの関連	DP(ディプロマ・ポリシー)の (1) 自律性 (3) 多様性理解、(4) 問題発見・解決力、の学修に関連。 科目の学習目標は以下のとおり。 ① 多様な情報源から必要かつ信頼できる情報を収集し、分類することができる ② 必要な情報・体験を自分の主張の裏付けとして活用することができる ③ 決められた条件の中で知見や考えを表現することができる ④ 他者の発言の論点を理解したうえで自己の意見を示すことができる ⑤ 防災・減災に関連する専門的知識を獲得することができる					
19.教科書・教材	なし。					
20.参考文献	適宜、紹介する。					
21.成績評価	①興味ある領域のプレゼンテーション・・・30 点（学習目標①に対応） ②指定された専門書担当部分のレジュメ作成と発表・・・30 点（学習目標②に対応） ③レポート・・・40 点（学習目標③に対応）					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 10/2	秋学期のゼミガイダンス ・履修登録確認 ・春夏学期の振り返り 秋学期シラバス確認			持参：パソコン		
第 2 回 10/9	1)ひょうご防災動画コンテスト～ちょっとした防災～へのエントリー ① テーマ決定			宿題：論文を読み、レジュメを作成する。		
第 3 回 10/16	1)ひょうご防災動画コンテスト～ちょっとした防災～へのエントリー ②			持参：発表者はレジュメをゼミの人数分＋1 持参すること。		

	絵コンテ作成	宿題：論文を読み、レジュメを作成する。
第 4 回 10/23	1)ひょうご防災動画コンテスト～ちょっとした防災～へのエントリー ③ 動画撮影	持参：発表者はレジュメをゼミの人数分+1 持参すること。 宿題：論文を読み、レジュメを作成する。
第 5 回 10/30	2) 神戸市避難所運営サポートプログラム ① 神戸市の防災・危機管理について（神戸市危機管理課 講義） 神戸市危機管理センター等の見学 神戸市危機管理センターで 11:00～12:30 実施。 （現地集合・現地解散）	持参：発表者はレジュメをゼミの人数分+1 持参すること。 宿題：論文を読み、レジュメを作成する。
第 6 回 11/6	2) 神戸市避難所運営サポートプログラム ② 避難所生活をもっと安全・快適・健康的に過ごすための課題、 提案に向けたグループワーク	持参：発表者はレジュメをゼミの人数分+1 持参すること。 宿題：論文を読み、レジュメを作成する。
第 7 回 11/13	2) 神戸市避難所運営サポートプログラム ③ 避難所生活をもっと安全・快適・健康的に過ごすための課題、 提案の発表	アサイメント「卒業後の就職に向けて、今からの大学生活で何をすることが必要か具体的に考え、800 字程度（A4 用紙 1 枚）にまとめなさい。」 宿題：自分の興味ある分野についてまとめたレポートを書く。
第 8 回 11/20	2) 神戸市避難所運営サポートプログラム ④ 避難所運営体験 at 海外移住と文化の交流センター 5F ホール<10:45-12:00> （段ボールベッド・マンホールトイレ組立て、 避難者名簿作成等 by 神戸市危機管理室）	持参：発表者はレジュメをゼミの人数分+1 持参すること。 宿題：論文を読み、レジュメを作成する。 宿題：自分の興味ある分野についてまとめたレポートを書く。
第 9 回 11/27	2) 神戸市避難所運営サポートプログラム⑤ 成果のとりまとめ・発表 （災害時には多様な人が被災し、心身ともに影響を受けることに思慮）	持参：発表者はレジュメをゼミの人数分+1 持参すること。 宿題：論文を読み、レジュメを作成する。
第 10 回 12/4	3) -1 キャリア合同ガイダンス ※ウィークリーアワーで実施	宿題：「自分でもやれそうなこと、やってみたいこと、就きたい仕事について、現段階での思い・夢を、800 字程度（A4 用紙 1 枚）にまとめなさい。」
第 11 回 12/11	3) -2 3 年ゼミ選択説明会 ウィークリーアワーで実施	持参：発表者はレジュメをゼミの人数分+1 持参すること。 宿題：論文を読み、レジュメを作成する。 宿題：自分の興味ある分野についてまとめたレポートを書く。
第 12 回 12/18	4) 多様性の理解：異文化体験 <12 月 20 日> 神戸イスラムモスク等を訪問して、GS 連携大学も多いイスラム圏の文化や宗教について学びます（冬、次年度の GS 準備にもなる内容）	持参：発表者はレジュメをゼミの人数分+1 持参すること。 宿題：論文を読み、レジュメを作成する。 宿題：自分の興味ある分野についてまとめたレポートを書く。

第 13 回(1/8)	5 -a) 調査研究・研究発表<1 月 10 日・17 日> 社会的反響の大きい災害、事件、事故を中心に各班ごとにテーマを選定し事実認定、対策の検討、資料の作成、発表を行う。	アサイメント「卒業後の就職に向けて、今からの大学生活で何をすることが必要か具体的に考え、800 字程度（A4 用紙 1 枚）にまとめなさい。」 宿題：自分の興味ある分野についてまとめたレポートを書く。
第 14 回(1/15)	5 - b) 防災教育教材の開発 被災地小学校での心のケアに配慮した防災教育に活用できる防災教材の開発(トコ GS としても活用)	持参：発表者はレジュメをゼミの人数分+1 持参すること。 持参：レポート
第 15 回 1/22	6) 統括、まとめ 本演習を通して疑問点や課題について討議を行い、問題・課題解決をはかる。(ディスカッション)	持参：前回の宿題、パソコン

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y61	2.科目名	専門演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科（クラス分けの通り）			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	専門演習Ⅰに引き続き、卒業論文執筆につながる基礎的スキルを身に着けることを目的とする。 この演習では、心理学の研究が世の中でどのような役割を持っており、学ぶことで何が得られるのか理解し、説明するできるようになることを目指す。また、ディスカッションや専門書の輪読、プレゼンテーション、ライティング等を通して科学的な思考法の基盤を作る。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力（6）専門的知識・技術の活用力の学修に関連しています。 専門演習Ⅰで検討した内容に関連する書籍や学術論文などを読むことでより理解を深める。また、資料をまとめ、発表する技術を身に着ける。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	1. 発表 50% 2. 発表資料の提出 10% 3. 討議への参加 20% 4. 最終レポート 20%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション、発表順の決定 文献検索法の確認及び紹介					
第 2 回	文献発表①					
第 3 回	文献発表②					
第 4 回	文献発表③					
第 5 回	文献発表④					
第 6 回	文献発表⑤					
第 7 回	文献発表⑥					
第 8 回	文献発表⑦					
第 9 回	キャリア合同ガイダンス（ウィークリーアワー）に実施					
第 10 回	3 年ゼミ選択説明会（ウィークリーアワー）で実施					
第 11 回	文献発表⑧					
第 12 回	文献発表⑨					
第 13 回	文献発表⑩					
第 14 回	最終レポートについて					
第 15 回	振り返りとまとめ			最終レポート		

1.授業コード (ナンバリング)	SMN202-Y62	2.科目名	専門演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本真由美					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業では、卒業論文執筆につながる基礎的スキルを身につけることを目的とする。 具体的には心理学に親しみ、論文を読み解き、hand out を作成すること、質問紙調査を実施し、心理学統計に親しみ、レポートを作成することを通して、論文作成スキルを身につける。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性（4）問題発見・解決力、の学習に関連しています。 本科目の学習目標は次の通りです。 ①自分の興味に沿った心理学の領域を見つけることができる。 ②質問紙構成について理解する。 ③質問紙実施結果を基に心理学統計分析を行う。 ④心理学統計結果を報告書にまとめる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。ノートパソコンを毎回持参すること。					
20.参考文献	適宜、紹介します。					
21.成績評価	①質問紙調査・・・30 点（学習目標①に対応） ②関心のあるテーマの hand out 作成と発表・・・30 点（学習目標②に対応） ③レポート(中間と総括)・・・40 点（学習目標③に対応）					
22.コメント	自分の力を信じて、進みましょう。わからないことは、いろいろな人に助けてもらいましょう。					
23.オフィスアワー	水曜日昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	ガイダンス			PC,シラバス		
2	心理学研究法とは			PC、Web Class にまとめましょう。		
3	病跡学とは			PC、Web Class にまとめましょう。		
4	質問紙法とは			PC、Web Class にまとめましょう。		
5	質問紙法実施			PC、Web Class にまとめましょう。		
6	質問紙実施後の集計法			PC、Web Class にまとめましょう。		
7	質問紙調査結果の報告書の書き方			PC、Web Class にまとめましょう。		
8	心理検査レポート作成			PC、Web Class にまとめましょう。		
9	心理学のテーマの選択しよう。			PC、Web Class にまとめましょう。		
10	決めたテーマをまとめましょう。			PC、Web Class にまとめましょう。		
11	まとめたテーマを発表し、話し合いましょう。			PC、Web Class にまとめましょう。		
12	まとめたテーマを発表し、話し合いましょう。			PC、Web Class にまとめましょう。		
13	まとめたテーマを発表し、話し合いましょう。			PC、Web Class にまとめましょう。		
14	まとめたテーマを発表し、話し合いましょう。			PC、Web Class にまとめましょう。		
15	まとめ			PC、Web Class にまとめましょう。		

1.授業コード (ナンバリング)	SMN204-Y51	2.科目名	プロジェクト・マネジメント演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二					
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部観光学科				9.履修学年	2 年次
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	『授業の目的』 授業では、企業や自治体、地域社会と連携しながら、地域に根ざした課題を学びのテーマとして取り上げる。そして、それら課題の解決に向けて、「Team（チーム）」あるいは「Learning Community（主体的な学びの共同体）」を形成し、これまで学んだ知識や技能を統合的に活用しながら企業や自治体、地域住民等と協働して取り組む。 課題解決に向けての協働的な取り組み過程において、「ものごとの見方や考え方」、「資料・データの収集と分析手法」、「議論の進め方」、「柔軟な発想力」、「深く考える力」、「他者への理解や共感」、「不足する知識や技術への気づきと自己能動的学習による知識や技術の修得」、「プレゼンテーション力」など様々な学びを実践することになり、結果として、学生の総合的人間力を高めることになる。これが授業の目的となる。 また、今年度は、観光学科の統一的なテーマとして「ウェルビーイング社会にとって『観光』は不要不急か」ということを念頭に PBL（課題解決型学習）形式で授業を行う。観光は地域社会のウェルビーイングの向上にどのように貢献し、また影響するのか、ということ、1 年間かけて考察する。同時に、企業や地域社会との連携に不可欠なビジネスマナーの修得も目指すことになる。 『授業概要』 具体的には、神戸地域へのインバウンド集客に向けての課題と課題解決のための旅行プランの提案を行う。 まず、①神戸地域の観光集客に向けて課題の抽出②集客に向けてのターゲット設定③地域観光素材の発掘と分析④旅行プラン企画の背景とテーマの設定⑤具体的なプランの作成⑥関係者に向けてプレゼンテーションの実施⑦振り返り、である。					
18.学習目標と DPとの関連	『学習目標』 (1)学んだ知識や技能を統合的に活用することにより課題を発見し、解決することができる。 (2)課題解決あるいは目標達成のために必要となる知識・技能の不足に気づき、それを補うための主体的学習ができる。 (3)他者貢献の意味を理解し、チームビルディングに主体的に参加しチームに貢献することができる。 (4)ビジネスマナーや知識を身につけ、プロジェクトに取り組むモチベーションを備えることができる。 『学習目標と DP との関連』 授業では、企業や地域社会との連携によるプロジェクトマネジメントへのグループワークとしての取り組みを通じて、チーム内でのコミュニケーション能力、多様性の理解、課題発見・対応力、専門知識とスキルの活用力、ビジネスマナーなどの修得を目指すことになる。 ・授業の学習目標は、DP1（自立的で主体的な態度）、DP2（社会に能動的に貢献する姿勢）、DP4（問題発見・解決力）、DP6（専門的知識・技能の活用力「マーケティングの知識・手法に基づき、企業で求められる知識・技能を活用して、課題の解決と新たな企画・提案ができる」）に関連している。					

19.教科書・教材	特になし。適宜、教員がPPTや資料を配布・提示する。	
20.参考文献	指定する参考文献はないが、当該自治体や観光協会、DMO等の発信している情報をWeb等を通じて収集し、分析することになる。必要に応じて、自らこのような情報にアクセスし、情報蓄積やスキルアップを図る努力すること。	
21.成績評価	成績はルーブリックに基づき評価する。 ①外部講師等の講義・説明会におけるワークシート作成や発表、レポート作成：30% ②連携先との取り組み（グループワーク）に関するワークシート作成や発表：50% ③上記項目での活動や学びの振り返り（eポートフォリオにアップロードする）：20%	
22.コメント	当該授業は、演習科目であるため単に教室で聞く姿勢のみでは不十分であり、自らの積極的な取り組みが、プロジェクト遂行には不可欠である。学生はその点をよく理解しチームとしての力を発揮するように努める。PCは毎回利用するので、必ず持参する必要がある。スマートフォンではファイルのレイアウトが崩れるケースやOfficeの機能が異なるため、スマートフォンのみでの参加は認めない。 企業や地域など連携先との取り組みに関わるため、ビジネスマナーを身につける必要がある。	
23.オフィスアワー	山手キャンパス 3-306 研究室	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 10/05	オリエンテーション： ■ 授業の目的と進め方 ■ 春学期のふりかえり	シラバスを事前に読んでおくこと。
【第2回】 10/12	<連携先の課題や取り組みについての学修> 各ゼミの取り組みに応じて、以下の学修を行う その1 ■ インターンシップ連携先の課題の発見・理解 ■ 事前学習、現場学習、事後学習を振り返って、インターンシップ報告会、資料の準備	PC 持参
【第3回】 10/19	<連携先の課題や取り組みについての学修> 各ゼミの取り組みに応じて、以下の学修を行う その2 ■ インターンシップ連携先の課題の発見・理解 ■ 事前学習、現場学習、事後学習を振り返って、インターンシップ報告会、資料の準備	PC 持参
【第4回】 10/26	<連携先の課題や取り組みについての学修> 各ゼミの取り組みに応じて、以下の学修を行う その3 ■ インターンシップ連携先の課題の発見・理解 ■ 事前学習、現場学習、事後学習を振り返って、インターンシップ報告会、資料の準備	PC 持参
【第5回】 11/02	<連携先の課題や取り組みについての学修> 各ゼミの取り組みに応じて、以下の学修を行う その4 ■ インターンシップ連携先の課題の発見・理解 ■ インターンシップ報告会参加作品、グループの決定	PC 持参

【第 6 回】 11/09	<連携先の課題や取り組みについての学修> その 5 ■インターンシップ連携先の課題の発見・理解 ■インターンシップ報告会の事前練習	PC 持参
【第 7 回】 11/16	■ キャリア形成に向けての準備 ・ マイナビ担当者を迎えてのキャリア学習	PC 持参
【第 8 回】 11/23	■キャリア形成に向けての準備 ・ グループディスカッションの実践①	PC 持参
【第 9 回】 11/30	■キャリア形成に向けての準備 ・ グループディスカッションの実践②	PC 持参
【第 10 回】 12/07	■キャリア形成に向けての準備 ・ グループディスカッションの実践③	PC 持参
【第 11 回】 12/14	■到達確認試験の準備・小論文作成 ①	PC 持参
【第 12 回】 12/21	■到達確認試験の準備・小論文作成 ②	PC 持参
【第 13 回】 1/11	■到達確認試験の準備・小論文作成 ③	PC 持参
【第 14 回】 1/18	■到達確認試験の準備・小論文作成 ④	PC 持参 最終レポートをまとめる
【第 15 回】 1/25	PM 演習Ⅱのふりかえり 小論文提出、	最終レポートの提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN204-Y52	2.科目名	プロジェクト・マネジメント演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	李容淑					
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部観光学科			9.履修学年	2 年次	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義・演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 授業は、「ウェルビーイング社会にとって『観光』は不要不急か」をテーマに PBL（課題解決型学習）形式で行います。観光は地域社会のウェルビーイングの向上にどのように貢献し、また影響するのか、ということ、を、1 年間かけて考察していきます。 【概要】 プロジェクトマネジメントの実践 会社や組織では、人と関わりながら仕事に取り組みますが、特にチーム単位での仕事が多くなります。また、業務上のルーティンワークとは別に、個別にプロジェクトを割り振られ、期限内で目標以上の成果を出すことを求められることもあります。そして、プロジェクトを完了させ、成功に導くために行う一連の活動をプロジェクトマネジメントと呼びます。授業では、このプロジェクトマネジメントに必要な基本的スキルを身につけるため、個人・グループでのミッション（果たすべき使命や任務）に取り組んでいきます。具体的には、プロジェクトとして、連携先である企業や地域が抱えている課題を発見し、解決する力を身につけていくこととなります。 同時に、企業や地域と連携して PBL 型学修に取り組むため、必然的にビジネスマナーを習得することにもつながります。					
18.学習目標と DP との関連	授業では、企業や地域社会との連携によるプロジェクトマネジメントへのグループワークとしての取り組みを通じて、チーム内でのコミュニケーション能力、多様性の理解、観光サービスの課題発見・対応力、マーケティング手法に基づく知識とスキルの活用力、ビジネスマナーなどの修得を目指します。 授業の学習目標は、DP1（自律的で主体的な態度）、DP2（社会に能動的に貢献する姿勢）、DP4（問題発見・解決力）、DP6（専門的知識・技能の活用力「マーケティングの知識・手法に基づき、企業で求められる知識・技能を活用して、課題解決と新たな企画・提案ができる」）に関連しています。 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①客観的な情報を集め、分析し、課題を明確にすることができる。 ②地域に関する情報を発見し、観光活用に結び付けることができる。 ③地域に関わる多様な他者の意見を聞き出し、理解することができる。 ④自分の考えを的確にまとめてプレゼンテーションすることができる。					
19.教科書・教材	特になし。適宜、資料を配布します。					
20.参考文献	授業中に指示します。					
21.成績評価	学習成果の統合、リサーチ、プレゼンテーション等に関するルーブリックに基づき評価します。ルーブリックに基づく評価方法については、第 1 回目の授業内で説明します。 ①連携先との調査課題への取り組み：20% ②プレゼンテーション資料の作成およびプレゼンテーション：20%					

	③授業内のワーク：20% ④最終レポート：30% ⑤e ポートフォリオ：10%	
22.コメント	当該授業は、演習科目であるため単に教室で聞く姿勢のみでは不十分であり、自らの積極的な取り組みが、プロジェクト遂行には不可欠です。学生はその点をよく理解してチームとしての力を発揮して欲しい。PC は毎回利用するので、必ず持参する必要があります。スマートフォンではファイルのレイアウトが崩れるケースや Office の機能が異なるため、スマートフォンのみでの参加は認めません。 企業や地域など連携先との取り組みに関わるため、ビジネスマナーを身につける必要があります。	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水 13:15~14:45	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 10/05	オリエンテーション： ■ 授業の目的と進め方 ■ 春学期のふりかえり	シラバスを事前に読んでおくこと。
【第2回】 10/12	<連携先の課題や取り組みについての学修> 各ゼミの取り組みに応じて、以下の学修を行う その1 ■ インターンシップ連携先の課題の発見・理解 ■ 事前学習、現場学習、事後学習を振り返って、インターンシップ報告会、資料の準備	PC 持参
【第3回】 10/19	<連携先の課題や取り組みについての学修> 各ゼミの取り組みに応じて、以下の学修を行う その2 ■ インターンシップ連携先の課題の発見・理解 ■ 事前学習、現場学習、事後学習を振り返って、インターンシップ報告会、資料の準備	PC 持参
【第4回】 10/26	<連携先の課題や取り組みについての学修> 各ゼミの取り組みに応じて、以下の学修を行う その3 ■ インターンシップ連携先の課題の発見・理解 ■ 事前学習、現場学習、事後学習を振り返って、インターンシップ報告会、資料の準備	PC 持参
【第5回】 11/02	<連携先の課題や取り組みについての学修> 各ゼミの取り組みに応じて、以下の学修を行う その4 ■ インターンシップ連携先の課題の発見・理解 ■ インターンシップ報告会参加作品、グループの決定	PC 持参
【第6回】 11/09	<連携先の課題や取り組みについての学修> その5 ■ インターンシップ連携先の課題の発見・理解 ■ インターンシップ報告会の事前練習	PC 持参

【第 7 回】 11/16	■ キャリア形成に向けての準備 ・ マイナビ担当者を迎えてのキャリア学習	PC 持参
【第 8 回】 11/23	■ キャリア形成に向けての準備 ・ グループディスカッションの実践①	PC 持参
【第 9 回】 11/30	■ キャリア形成に向けての準備 ・ グループディスカッションの実践②	PC 持参
【第 10 回】 12/07	■ キャリア形成に向けての準備 ・ グループディスカッションの実践③	PC 持参
【第 11 回】 12/14	■ 到達確認試験の準備・小論文作成 ①	PC 持参
【第 12 回】 12/21	■ 到達確認試験の準備・小論文作成 ②	PC 持参
【第 13 回】 1/11	■ 到達確認試験の準備・小論文作成 ③	PC 持参
【第 14 回】 1/18	■ 到達確認試験の準備・小論文作成 ④	PC 持参 最終レポートをまとめる
【第 15 回】 1/25	PM 演習Ⅱのふりかえり 小論文提出、	最終レポートの提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN205-A54	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅲ(編)		3.単位数	4
4.授業担当教員	田中智子					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年(秋編入)	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	秋編入留学生のみ受講できます					
17.授業の目的と概要	【目的】 1) これから始まる日本語による専門科目の学修やゼミ活動などにスムーズに適応するため、調査力やプレゼンテーション力を身につける。 2) 日本の社会や伝統文化に対する知識を深める。 3) 体験学習に必要な日本語の力を身につける。 4) 自分自身のこれからのキャリアについて考えを深める。 【概要】 この授業では、キャンパスのある尼崎市や近隣の歴史や文化、そして、日本の伝統文化について、グループで文献を調べ、実際に街や施設に行ってみ学をすることで学んでいきます。調べてわかったことは、ワークシートを使ってふりかえるほか、クラスの中で発表をします。授業期間中は、グループ発表や個人発表を課しますが、そのための発表資料の作成方法やふりかえりレポートの日本語等についても適宜指導を行います。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP(ディプロマ・ポリシー)の(4)問題発?・解決?、(5)コミュニケーションスキル、(6)専?的知識・技能の活??.の学修に関連しています。 ・本学の学修環境(これから始まる日本語による専門科目の学修やゼミ活動など)にスムーズに適応するためのプレゼンテーション力を身につける。 ・キャンパスのある尼崎市や日本の伝統文化に関するテーマについて、グループまたは個人で学習し、その内容を理解するとともに他者にも説明できる。 ・自分の目指すキャリアを定め、それを目指すにはどのようにしたらよいかわかる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	「にほんごで文化体験--ことばと文化でつながる」 村田 晶子(監修) アルク 2021 「留学生のための考えを伝え合うプレゼンテーション」 仁科 浩美、くろしお出版、2020					
21.成績評価	成績評価 事前学習のまとめ(個人) 5点×4回=20点 ワークシート(個人) 5点×4回=20点 パワーポイント(グループ) 5点×4回=20点 最終レポート 40点 ※レポート、発表のルーブリックに基づいて評価する。 ※課題を提出し、すべての評価の合計が60点以上である場合に合格とする。					
22.コメント	★授業時間外学修 授業1コマ当たり、2時間の時間外学修(復習、予習)を行うことが求められます。 メディアライブラリー等を活用した、充実した時間を持ちましょう。 ★尼崎城など一部有料の施設があります。また、フィールドワークに行くときは、交通費が必要になる場合もあります。 ★状況により、内容が変更になったり、テーマの順番が入れ替わる場合があります。					
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 週	第 1 回 ・オリエンテーション、アイスブレイク、授業マナー指導 第 2 回 キャリアについて考えよう（日本での就職、大学院進学）、ふりかえり、履修指導	第 1 週 課題：インタビュー項目について、Webclass にアップロードする。(月曜日の 23 時 59 分まで)
第 2 週	第 3 回、第 4 回 「灘五郷について」 ・調査の手法 ・灘五郷についての調査、調査準備 ・インタビュー準備	第 2 週 課題：灘五郷についての文献調査を終わらせる。先輩へのインタビュー項目を Webclass にアップロードする。(月曜日の 23 時 59 分まで)
第 3 週	第 5 回、6 回 フィールドワーク 灘五郷酒造博物館および酒心館見学 ・日本での就職活動や仕事について先輩にインタビュー ・日本の酒造文化について、説明を聞く。 ・日本食を体験する。	第 3 週 課題：調査のふりかえり、Webclass にアップロードする。(月曜日の 23 時 59 分まで)
第 4 週	第 7 回 調べたことのまとめ 第 8 回 発表の練習	第 4 週 課題：発表原稿を修正し、Webclass にアップロードする。(月曜日の 23 時 59 分まで)
第 5 週	第 9 回 発表、尼崎の歴史について調査 第 10 回 尼崎の歴史について調査	第 5 週 終わらなかった部分を終わらせる。Webclass にアップロードする。(月曜日の 23 時 59 分まで)
第 6 週	第 11 回 日本の伝統文化と尼崎の歴史について調べる 第 12 回 調査の計画を立てる	第 6 週 課題：調査の内容をまとめ、Webclass にアップロードする。(月曜日の 23 時 59 分まで)
第 7 週	第 13 回 観光案内所と尼崎城見学 第 14 回 まとめ	第 7 週 課題：調査内容をまとめ、Webclass にアップロードする。(月曜日の 23 時 59 分まで)
第 8 週	第 15 回 尼崎の歴史についてまとめる 第 16 回 発表	第 8 週 課題：フィールドワークのふりかえりシート作成。Webclass にアップロードする。(月曜日の 23 時 59 分まで)
第 9 週	第 17 回 丹波市について調べる 第 18 回 丹波市について調べる	第 9 週 課題：調べたことをまとめ、Webclass にアップロードする。(月曜日の 23 時 59 分まで)
第 10 週	第 19 回 お礼状作成、体験のふりかえり	第 10 週 課題：発表内容を整理し、PPT を Webclass にアップロードする。(月曜日の 23

	第 2 0 回 発表	時 59 分まで)
第 11 週	第 2 1 回 チームでフィールドワーク調査をしよう① 「計画を立てる」 第 2 2 回 チームでフィールドワーク調査をしよう② 「情報を集める」	第 1 1 週 課題：文献調査で終わらなかったところを終わらせ、Webclass にアップロードする。(月曜日の 23 時 59 分まで)
第 12 週	第 2 3 回 チームでフィールドワーク調査をしよう③ 「調査の質問を作る。」 第 2 4 回 チームでフィールドワーク調査をしよう④ 「調査の準備」	課題：調査準備で終わらなかったところを終わらせ、Webclass にアップロードする。(月曜日の 23 時 59 分まで)
第 13 週	第 2 5 回 チームでフィールドワーク調査をしよう⑤ 「現地調査」 第 2 6 回 チームでフィールドワーク調査をしよう⑥ 「現地調査」	課題：調査で分かったことをノートなどにまとめる。Webclass にアップロードする。(月曜 23 時 59 分まで)
第 14 週	第 2 7 回 チームでフィールドワーク調査をしよう⑦ 「調査結果の分析」 第 2 8 回 チームでフィールドワーク調査をしよう⑧ 「調査のまとめ」	課題：終わらなかったところを終わらせる。
第 15 週	第 2 9 回 チームでフィールドワーク調査をしよう⑨ 「発表」 第 3 0 回 全体のふりかえり	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN205-M52	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅲ		3.単位数	4
4.授業担当教員	百濟正和					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 社会にでると会社や組織で人と関わりながら仕事をしますが、特にチームで仕事をするのが多くなります。また、ルーティンワークとは別に、有期で（期限が決められていて）、ミッション（特別な目的）を与えられたプロジェクトに取り組むこともあります。この授業では、プロジェクトマネジメントに必要な基本的スキルを身につけます。 【概要】 以下の 3 つのプロジェクトを推進する。 ・山田錦純米酢“吉川”販売促進プロジェクト（吉川町商工会・但馬醸造所） ・丹波苳商品化プロジェクト（丹波ゆめの樹・苳一笑） ・三木市ゴルフ文化の定着に向けて（三木市ゴルフ協会・ゴルフのまち推進課） また、あじあん祭をマネジメントする「カンパニープロジェクト（物産展）」として参画する。					
18.学習目標と D P との関連	【学習目標】 次の 3 つです。 学習目標①イベントの企画立案および準備、運営ができる。 学習目標②自身の将来のキャリアプランを明確にする。 学習目標③ プロジェクトの目標を達成する。 【DP：卒業の認定に関する方針】 ○問題発見・解決力 組織や集団において情報の収集・分析を行い、問題を発見したり、解決へのアイデアを提案したりできる。 ○コミュニケーションスキル 組織や集団の内外で、他者と意見を交わし調整することができる。 ○専門的知識・技能の活用力 組織や集団の構成員として、マネジメントの知識・技能を、状況に応じて適切に活用することができる。					
19.教科書・教材	授業中に資料を配付します。					
20.参考文献	授業中に紹介します。					
21.成績評価	成績は、WebClas、e ポートフォリオなどの提出データで評価します。 ・学習目標①イベントの企画立案および準備、運営ができる。 30% ・学習目標②自身の将来のキャリアプランを明確にする。20% ・学習目標③ プロジェクトの目標を達成する。30% ・総括レポート：秋学期の学びを統合化する 20%					
22.コメント	プロジェクトマネジメントは、チームワークとスケジュール管理が重要です。遊んでいる学生がいないように全員が前向きに参加することを前提とします。 地域と連携する機会に積極的に参加し、実践的な教育活動の成果とします。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー 月曜日 2 限 学修支援センターオフィスアワー 水曜日 2 限					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1回2回 (9/26)	I ガイダンス プロジェクトマネジメント演習Ⅲの構成とコンセプト	JamBoard、iMovie を使うので、iOS が使用可能なノートPC、タブレット、スマホを準備する。延長コード 持参が望ましい。
3回4回 (10/3)	あじあん祭準備 10月15日16日のあじあん祭に向けて、準備を行う。	参加したISの、受け入れ先についての情報、プログラム、参加初日と最終日の仕事に対する考え方の変化、ISでの学びや反省点を班ごとにPPTにまとめてWebClassに提出。
5回6回 (10/15・16)あ じあん祭	あじあん祭を運営する。【代休：10/24】	iMovie を使うので、iOS が使用可能なノートPC、タブレット、スマホを準備する。延長コード 持参が望ましい（以後共通）。
7回8回 (10/17)	あじあん祭ふりかえり	授業で実施したこと、学んだことをWebClassに各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
9回10回 (10/31)	到達確認試験準備①	授業で実施したこと、学んだことをWebClassに各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
11回12回 (11/7)	登録商標とは何か ゲストスピーカー：岡恵 氏	授業で実施したこと、学んだことをWebClassに各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
13回14回 (11/14)	訴求効果のあるスライド作成	授業で実施したこと、学んだことなど（授業中に提示）をWebClassに各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
15回16回 (11/21)	キャリア教育 ゲストスピーカー：二宮 博 氏（元ガンバ大阪 スカウト）	授業で実施したこと、学んだことなど（授業中に提示）をWebClassに各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：以下、各回共通＞
17回18回 (11/28)	ゴルフ文化の定着①：プラン策定	課題等は次の授業日前日までにWCに提出。 ノートPC、タブレットを持参(必要によりACアダプター、延長コード 持参)：以下、各回共通
19回20回 (12/5)	ゴルフ文化の定着②：プラン発表	課題等は次の授業日前日までにWCに提出。 ノートPC、タブレットを持参(必要によりACアダプター、延長コード 持参)：以下、各回共通
21回22回 (12/12)	到達確認試験準備②	課題等は次の授業日前日までにWCに提出。 ノートPC、タブレットを持参(必要によりACアダプター、延長コード 持参)：以下、各回共通
23回24回 (12/19)	訴求効果のある撮影テクニック ゲスト：Realy 氏 (本学経営学部卒業生)	課題等は次の授業日前日までにWCに提出。 ノートPC、タブレットを持参(必要によりACアダプター、延長コード 持参)：以下、各回共通
25回26回	純米酢「吉川」販路拡大プランの策定	課題等は次の授業日前日までにWCに提出。

(1/16)		ノートPC、タブレットを持参(必要により AC アダプター、延長コード 持参)：以下、各回共通
27 回 28 回 (1/23)	到達確認試験の準備③ 模擬試験	ノートPC、タブレットを持参(必要により AC アダプター、延長コード 持参)：以下、各回共通
29 回 30 回 (1/30)	・到達確認試験の準備 模擬試験の解説など ・2年生のふりかえり～3年生に向けて	ノートPC、タブレットを持参(必要により AC アダプター、延長コード 持参)：以下、各回共通

1.授業コード (ナンバリング)	SMN205-M53	2.科目名	プロジェクトマネジメント演習Ⅲ		3.単位数	4
4.授業担当教員	北村浩二					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 社会にでると会社や組織で人と関わりながら仕事をしますが、特にチームで仕事をするのが多くなります。また、ルーティンワークとは別に、有期で（期限が決められていて）、ミッション（特別な目的）を与えられたプロジェクトに取り組むこともあります。この授業では、プロジェクトマネジメントに必要な基本的スキルを身につけます。 【概要】 以下の３つのプロジェクトを推進する。 ・ あじあん祭をマネジメントする「カンパニープロジェクト（物産展）」として参画する。 ・ 地元企業について知り、将来のキャリアプランを立てる。 ・ 地元企業の課題を見つける。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 次の３つです。 学習目標①イベントの企画立案および準備、運営ができる。 学習目標②自身の将来のキャリアプランを明確にする。 学習目標③ プロジェクトの目標を達成する。 【DP：卒業の認定に関する方針】 ○問題発見・解決力 組織や集団において情報の収集・分析を行い、問題を発見したり、解決へのアイデアを提案したりできる。 ○コミュニケーションスキル 組織や集団の内外で、他者と意見を交わし調整することができる。 ○専門的知識・技能の活用力 組織や集団の構成員として、マネジメントの知識・技能を、状況に応じて適切に活用することができる。					
19.教科書・教材	授業中に資料を配付します。					
20.参考文献	授業中に紹介します。					
21.成績評価	成績は、WebClas、eポートフォリオなどの提出データで評価します。 ・ 学習目標①イベントの企画立案および準備、運営ができる。 30% ・ 学習目標②自身の将来のキャリアプランを明確にする。20% ・ 学習目標③ プロジェクトの目標を達成する。30% ・ 総括レポート：秋学期の学びを統合化する 20%					
22.コメント	プロジェクトマネジメントは、チームワークとスケジュール管理が重要です。遊んでいる学生がいないように全員が前向きに参加することを前提とします。 地域と連携する機会に積極的に参加し、実践的な教育活動の成果とします。 なお、外部講師、学外活動のスケジュールにより、内容を変更することがあります。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

1 回 2 回 (10/3)	Ⅰ ガイダンス、履修登録等 Ⅱ プロジェクトマネジメント演習Ⅲ（地域マネジメント専攻）の構成とコンセプト	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
3 回 4 回 (10/10)	大学祭の意義、大学祭での地域マネジメントの学びを理解し、10 月 28 日 29 日のあじあん祭に向けて、準備を始める。	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
5 回 6 回 (10/17)	あじあん祭準備	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
7 回 8 回 (10/24)	あじあん祭準備	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
9 回 10 回 (10/28・29)	あじあん祭を運営する。【代休：10/31】	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
11 回 12 回 (11/7)	あじあん祭ふりかえり	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
13 回 14 回 (11/14)	Ⅰ 企業説明会事前学習 Ⅱ 大和ハウス工業 講話	授業で実施したこと、学んだことなど（授業中に提示）を WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
15 回 16 回 (11/21)	企業説明会	授業で実施したこと、学んだことなど（授業中に提示）を WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：以下、各回共通＞
17 回 18 回 (11/28)	Ⅰ 企業説明会ふりかえり Ⅱ 三木市危機管理課 講話	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
19 回 20 回 (12/5)	Ⅰ 到達確認試験の準備① Ⅱ ナリス化粧品事前学習	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞
21 回 22 回 (12/12)	ナリス化粧品企業資料館 見学	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日まで：各回共通＞

23 回 24 回 (12/19)	ナリス化粧品 ふりかえり	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日 まで：各回共通＞
25 回 26 回 (1/16)	アスリートのセカンドキャリア	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日 まで：各回共通＞
27 回 28 回 (1/23)	到達確認試験の準備②③ 模擬試験	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日 まで：各回共通＞
29 回 30 回 (1/30)	I 到達確認試験の準備④ II 2 年生のふりかえり～3 年生に向けて	授業で実施したこと、学んだことを WebClass に各自が提出 ＜各回の課題提出は、原則次の授業日の前日 まで：各回共通＞

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-Y51	2.科目名	専門演習Ⅲ	3.単位数	2
4.授業担当教員	横山雅彦				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	4 年次の卒業論文執筆に向けて、担当者の専門である地域研究、比較文明学の方法論を学び、問題の背景に迫るための知識を身につける。同時に、進路選択の準備を行う。				
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 資料の収集、読解、わかりやすい発表、レジュメ作成、論文作成、という一連の作業の達成を最終目標とする。 【DP との関連】 この授業は、本学のディプロマ・ポリシーのうち、とりわけ(3)の多様な文化や背景を理解し受け入れる能力、4)の問題発見・解決力、(5)のコミュニケーションスキル、(6)の専門的知識・技量の応用力と連関するものである。				
19.教科書・教材	エドウィン・O・ライシャワー『ザ・ジャパニーズ』（角川ソフィア文庫） https://www.kadokawa.co.jp/product/321810000917/ 伊東俊太郎『比較文明学を学ぶ人のために』（世界思想社） https://sekaishisosha.jp/book/b354713.html ＊購入方法については、第 1 回の講義で説明する。				
20.参考文献					
21.成績評価	発表 30 点 討議への参加、貢献度 20 点 レポート 50 点				
22.コメント					
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	オリエンテーション				
第 2 回	各回担当を決め、以下の教科書を輪読、講義、討論する。 『ザ・ジャパニーズ』 『比較文明学を学ぶ人のために』				
第 3 回					
第 4 回					
第 5 回					
第 6 回					
第 7 回					
第 8 回					
第 9 回					
第 10 回					
第 11 回					
第 12 回					
第 13 回					

第 14 回		
第 15 回		

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-Y52	2.科目名	専門演習Ⅲ		3.単位数	2
4.授業担当教員	遠藤泰生					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	無し		11.先修条件	専門演習 Ⅱ		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	無し					
17.授業の目的と概要	春秋通年の授業である。 【目的】 卒業論文執筆と卒業後の進路選択の準備を行う。大学での学びは公共の空間に自分を位置づけるための準備であることを知る。 【概要】 さまざまな研究を学ぶ。共通のテキストを輪読すると同時に、学生は各人の問題関心を深める読書を平行して行う。それらの読書やクラスでの報告、討議から得られる知見を、自分の言葉で整理し、最終レポートにまとめる。					
18.学習目標と DP との関連	(4) 問題発見・解決力 卒論のテーマを絞りこむ過程において、先行研究を参考に問題発見や解決のための方法を学ぶ。 (5) コミュニケーションスキル 報告、討議、レポートの執筆を通して、公共の空間に向けて己の見解を論理的に表明する言葉を身に付ける。 (6) 専門的知識・技量の応用力 研究テーマを探す際に専門図書・論文の検索を行い、それらから得られる知見を己の問題関心を磨き出すのに役立てる。					
19.教科書・教材	1. 小泉悠『ウクライナ戦争』（ちくま新書） 2. 池内恵・宇山智彦他『ウクライナ戦争と世界のゆくえ』（東京大学出版会） 3. スヴェトラーナ・アレクシエーヴィチ著『戦争は女の顔をしていない』（岩波書店）					
20.参考文献	1. 本田勝一『日本語の作文技術』（朝日文庫、2015） 2. 佐藤望・横山千晶・湯川武・近藤明彦『アカデミック・スキルズ（第3版）——大学生のための知的技法入門』（慶応義塾大学出版会、2020）					
21.成績評価	授業レポート 30%、討議への貢献 20%、最終レポート 50%。 合算で 60%以上の得点を合格とする。					
22.コメント	輪読する教科書は現代世界をひろく見る視野を育てるのに役立つものを選んでいる。日本語翻訳、英語版、学生はどちらの版で読んでも構わない。You can read some textbooks in English.					
23.オフィスアワー	水曜昼休み、もしくは、事前に予約した時間。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	春学期ゼミレポートのレビュー① 7 名			春学期ゼミペーパーのピアレビュー		
第2回	春学期ゼミレポートのレビュー② 8 名			春学期ゼミペーパーのピアレビュー		
第3回	小泉『ウクライナ戦争』第一章			Text 該当章。卒論テーマの相談開始。		
第4回	小泉『ウクライナ戦争』第二章			Text 該当章。卒論テーマの相談開始。		
第5回	小泉『ウクライナ戦争』第三章			Text 該当章。卒論テーマの相談開始。		
第6回	小泉『ウクライナ戦争』第四章			Text 該当章。卒論テーマの相談開始。		
第7回	小泉『ウクライナ戦争』第五章			Text 該当章。卒論テーマの相談開始。		

第 8 回	アレクシエーヴィチ『戦争は女の顔をしていない』①	Text 該当章。卒論テーマの相談開始。
第 9 回	アレクシエーヴィチ『戦争は女の顔をしていない』②	Text 該当章。卒論テーマの相談開始。
第 10 回	アレクシエーヴィチ『戦争は女の顔をしていない』③	読み上げ原稿とレジュメを準備する。PPT 使用可。
第 11 回	卒業論文のタイトル、問題設定問、目次、先行研究の紹介② 4 名	読み上げ原稿とレジュメを準備する。PPT 使用可。
第 12 回	卒業論文のタイトル、問題設定問、目次、先行研究の紹介③ 4 名	読み上げ原稿とレジュメを準備する。PPT 使用可。
第 13 回	卒業論文のタイトル、問題設定問、目次、先行研究の紹介④ 4 名	読み上げ原稿とレジュメを準備する。PPT 使用可。
第 14 回	卒業論文のタイトル、問題設定問、目次、先行研究の紹介④ 4 名	読み上げ原稿とレジュメを準備する。PPT 使用可。
第 15 回	専門演習における学びのレビュー	学年末レポート（本文約 2500 委）、締め切り授業最終日。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN301-Y54	2.科目名	専門演習Ⅲ		3.単位数	2
4.授業担当教員	Patrick Shorb					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語教育学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	Students Selected by Department. Most continue from previous semester.					
17.授業の目的と概要	At the end of the semester, students are expected to utilize basic research in order to gather and analyze data on research topics related to the themes related to their future graduation essay. Students will be expected to present and discuss the results in presentations and short written reports.					
18.学習目標と D P との関連	Course Objectives					
	This course is designed to start the research processes necessary for graduation thesis. By the time students have completed this course they should be able to:					
	1. Identify Different Ways to Evaluate the Credibility and Reliability of a Source					
	2. Distinguish between an Academic Topic and a Research Question					
	3. Show Understanding of Existing Research Literature by Formulating a Research Question that Builds on It.					
	4. Perform Effectively in Group Work Settings by Collaboratively Completing an In-class Presentation and a Research Project.					
	5. Differentiate between Different Types of Research Data and Explain which Methods are Best to gather it.					
	6. Demonstrate Ability to Analyze Data and Communicate Research Results through an Individual Presentation and Final Project.					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	Weekly Check-in Reports: 16% Class Participation: 14% Presentation 1 (Group Presentation): 10% Written Assignment 1 (Group Project --Primary Source-Data Analysis Report): 20% Presentation 2 (Individual Presentation): 10% Written Assignment 2 (Indi					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Course Introduction: Course Content and assessments Student Interest Inventory			Getting Started: Readings on Information Literacy; Check-in Reports		
Week 2	Becoming a Skeptic: Thinking Critically			Model Research Readings; Check-in Reports		
Week 3	Becoming a Researcher: From Interesting Topic to Research Problem			Model Research Readings; Check-in Reports		
Week 4	Becoming a Scholar: Literature Review Workshop			Group Presentation Preparation		
Week 5	Becoming a Research Collaborator: Group Presentations			Model Research Readings; Check-in Reports		

Week 6	Becoming a Problem Maker: Formulating Research Questions	Model Research Readings; Check-in Reports
Week 7	Becoming a Problem Solver I: Considering Research Methods and Designs	Model Research Readings; Check-in Reports
Week 8	Becoming a Problem Solver II: Research Methods and Designs Continued	Group Project Preparation
Week 9	Becoming a Data Collector: Issues of Collecting and Using Data Group Projects Due	Model Research Readings; Check-in Reports
Week 10	Becoming an Analyst: Data Processing and Analysis	Model Research Readings; Check-in Reports
Week 11	Becoming a Communicator: Issues in Presenting and Communicating Research Results	Individual Literature Presentation
Week 12	Becoming an 'Expert': Pulling Together Literature, Research Question, Research Design and Data Analysis Individual Literature Review Due	Individual Presentation Preparation
Week 13	Presentations 1	Individual Presentation Preparation
Week 14	Presentations 2	Final Project Preparation
Week 15	Becoming a Self-Reflective Learner - Thoughts on the Semester	Final Project Preparation

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-A51	2.科目名	専門演習Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	椋田善之					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの専門演習Ⅰ・Ⅱ、さらに誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭において学修を進めてきた専門演習Ⅲで培ってきた知識や技能をベースに、教育・保育に関わる専門的な知見をさらに深めていく。 【概要】文献や先行研究に当たり、進捗を報告すると共に、ラーニングコミュニティ(LC)内での意見交換を行いながら、自らが取り組むテーマについて多角的に考察を加えていく。最終的には卒業論文の一部を作成する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（DPに基づくもの）は次の通りです。 （１）自律性：様々な教育課題について関心を持ち、修得した知識・技能を生かして、主体的な学びができる。 （６）専門的知識・技能の活用力：必要とされる教育学の体系的な知識や学修成果を言語的な表現だけではなく、非言語的な表現方法も活用して、自らの学びのまとめができる。					
19.教科書・教材	講義に合わせて、適宜プリントや資料を配布する。					
20.参考文献	『図書館の達人』（映像）					
21.成績評価	・ e ポートフォリオへの記入内容 ...10% ・ 中間レポート(10%×2) ...20% ・ 卒業論文第 1 回中間発表（ポスターセッション） ...30%(プレゼンテーションルーブリックによる) ・ 卒業論文第 1 回中間報告書（研究計画含む） ...40%(ライティングルーブリックによる) ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる					
22.コメント	4 年間の学びの集大成である卒業論文の執筆を開始していく、大切な 3 年生の秋学期です。ゼミの仲間と十分に親睦を深めながら切磋琢磨し、学ぶことの楽しさと厳しさを、我々アドバイザーと共に実感していきましょう。					
23.オフィスアワー	センタープログラムにご参加ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション ・ 春学期のふり返りと秋学期の目標の明確化 ・ e ポートフォリオへの前学期リフレクション及び今学期の目標記入			◆ノートパソコン◆ ○e ポートフォリオの点検と整理(180 分)		
【第 2 回】	学術論文へのアプローチ法 ・ 学術論文を読むこと、要約すること、考察すること			◆ノートパソコン◆ ○本時のふり返りと学びのまとめと、先行研究・文献の収集と整理(180 分)		
【第 3 回】	研究テーマの絞り込み ・ 研究の方向性についての討議と交流			○先行研究・文献の収集と整理(180 分)		
【第 4 回】	卒業論文第 1 回中間報告書（研究計画含む）アウトラインの作成と検討① ・ ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書（研究計画含			○先行研究・文献の収集と整理(180 分)		

	む) アウトライン (その 1) の作成と意見交換	
【第 5 回】	卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトラインの作成と検討② ・ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 1) の作成と意見交換	○先行研究・文献の収集と整理(180 分)
【第 6 回】	論文の書き方オリエンテーション(合同) ・論文の書き方について(DVD 視聴)	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン」作成(360 分)
【第 7 回】	社会調査に関するオリエンテーション(合同) ・社会調査の方法、内容について	◆ノートパソコン◆ ★小レポート①「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 1)」 ○先行研究、文献収集と整理のめやすを立てる(180 分)
【第 8 回】	卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトラインの作成と検討③ ・ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 2) の作成と意見交換	◆ノートパソコン◆ ○先行研究・文献の収集と整理(180 分)
【第 9 回】	卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトラインの作成と検討③ ・ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 2) の作成と意見交換	◆ノートパソコン◆ ○卒業論文第 1 回中間発表レジュメ (ポスター) 作成(180 分)
【第 10 回】	仮説や問題解決の方向性の明確化 ・卒業論文第 1 回中間発表レジュメ (ポスター) の作成	◆ノートパソコン◆ ★小レポート②「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 2)」 ○卒業論文第 1 回中間発表レジュメ (ポスター) 作成仕上げ(180 分)
【第 11 回】	卒業論文第 1 回中間発表 (その 1) ・ゼミ内発表① ・意見交換と討議(LC の活用)	◆ノートパソコン◆ ○本時のふり返りと学びのまとめ(180 分)
【第 12 回】	卒業論文第 1 回中間発表 (その 2) ・ゼミ内発表② ・意見交換と討議(LC の活用)	◆ノートパソコン◆ ○LC による意見交換のまとめ作成(180 分)
【第 13 回】	卒業論文第 1 回中間発表 (その 3) ・ゼミ内発表③ ・意見交換と討議(LC の活用)	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む)」作成(180 分)
【第 14 回】	「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む)」の作成	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む)」作成仕上げ(360 分)
【第 15 回】	秋学期のふり返りとまとめ	◆ノートパソコン◆ ★卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) ○振り返り(180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-A52	2.科目名	専門演習Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田裕彦					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの専門演習Ⅰ・Ⅱ、さらに誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭において学修を進めてきた専門演習Ⅲで培ってきた知識や技能をベースに、教育・保育に関わる専門的な知見をさらに深めていく。 【概要】文献や先行研究に当たり、進捗を報告すると共に、ラーニングコミュニティ(LC)内での意見交換を行いながら、自らが取り組むテーマについて多角的に考察を加えていく。最終的には卒業論文の一部を作成する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（DPに基づくもの）は次の通りです。 （１）自律性：様々な教育課題について関心を持ち、修得した知識・技能を生かして、主体的な学びができる。 （６）専門的知識・技能の活用力：必要とされる教育学の体系的な知識や学修成果を言語的な表現だけではなく、非言語的な表現方法も活用して、自らの学びのまとめができる。					
19.教科書・教材	講義に合わせて、適宜プリントや資料を配布する。					
20.参考文献	『図書館の達人』（映像）					
21.成績評価	・ e ポートフォリオへの記入内容 ...10% ・ 中間レポート(10%×2) ...20% ・ 卒業論文第 1 回中間発表（ポスターセッション） ...30%(プレゼンテーションルーブリックによる) ・ 卒業論文第 1 回中間報告書（研究計画含む） ...40%(ライティングルーブリックによる) ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる					
22.コメント	4 年間の学びの集大成である卒業論文の執筆を開始していく、大切な 3 年生の秋学期です。ゼミの仲間と十分に親睦を深めながら切磋琢磨し、学ぶことの楽しさと厳しさを、我々アドバイザーと共に実感していきましょう。					
23.オフィスアワー	センタープログラムにご参加ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション ・ 春学期のふり返りと秋学期の目標の明確化 ・ e ポートフォリオへの前学期リフレクション及び今学期の目標記入			◆ノートパソコン◆ ○e ポートフォリオの点検と整理(180 分)		
【第 2 回】	学術論文へのアプローチ法 ・ 学術論文を読むこと、要約すること、考察すること			◆ノートパソコン◆ ○本時のふり返りと学びのまとめと、先行研究・文献の収集と整理(180 分)		
【第 3 回】	研究テーマの絞り込み ・ 研究の方向性についての討議と交流			○先行研究・文献の収集と整理(180 分)		
【第 4 回】	卒業論文第 1 回中間報告書（研究計画含む）アウトラインの作成と検討① ・ ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書（研究計画含			○先行研究・文献の収集と整理(180 分)		

	む) アウトライン (その 1) の作成と意見交換	
【第 5 回】	卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトラインの作成と検討② ・ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 1) の作成と意見交換	○先行研究・文献の収集と整理(180 分)
【第 6 回】	論文の書き方オリエンテーション(合同) ・論文の書き方について(DVD 視聴)	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン」作成(360 分)
【第 7 回】	社会調査に関するオリエンテーション(合同) ・社会調査の方法、内容について	◆ノートパソコン◆ ★小レポート①「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 1)」 ○先行研究、文献収集と整理のめやすを立てる(180 分)
【第 8 回】	卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトラインの作成と検討③ ・ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 2) の作成と意見交換	◆ノートパソコン◆ ○先行研究・文献の収集と整理(180 分)
【第 9 回】	卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトラインの作成と検討③ ・ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 2) の作成と意見交換	◆ノートパソコン◆ ○卒業論文第 1 回中間発表レジュメ (ポスター) 作成(180 分)
【第 10 回】	仮説や問題解決の方向性の明確化 ・卒業論文第 1 回中間発表レジュメ (ポスター) の作成	◆ノートパソコン◆ ★小レポート②「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 2)」 ○卒業論文第 1 回中間発表レジュメ (ポスター) 作成仕上げ(180 分)
【第 11 回】	卒業論文第 1 回中間発表 (その 1) ・ゼミ内発表① ・意見交換と討議(LC の活用)	◆ノートパソコン◆ ○本時のふり返りと学びのまとめ(180 分)
【第 12 回】	卒業論文第 1 回中間発表 (その 2) ・ゼミ内発表② ・意見交換と討議(LC の活用)	◆ノートパソコン◆ ○LC による意見交換のまとめ作成(180 分)
【第 13 回】	卒業論文第 1 回中間発表 (その 3) ・ゼミ内発表③ ・意見交換と討議(LC の活用)	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む)」作成(180 分)
【第 14 回】	「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む)」の作成	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む)」作成仕上げ(360 分)
【第 15 回】	秋学期のふり返りとまとめ	◆ノートパソコン◆ ★卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) ○振り返り(180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-A54	2.科目名	専門演習Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの専門演習Ⅰ・Ⅱ、さらに誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭において学修を進めてきた専門演習Ⅲで培ってきた知識や技能をベースに、教育・保育に関わる専門的な知見をさらに深めていく。 【概要】文献や先行研究に当たり、進捗を報告すると共に、ラーニングコミュニティ(LC)内での意見交換を行いながら、自らが取り組むテーマについて多角的に考察を加えていく。最終的には卒業論文の一部を作成する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（DPに基づくもの）は次の通りです。 （１）自律性：様々な教育課題について関心を持ち、修得した知識・技能を生かして、主体的な学びができる。 （６）専門的知識・技能の活用力：必要とされる教育学の体系的な知識や学修成果を言語的な表現だけではなく、非言語的な表現方法も活用して、自らの学びのまとめができる。					
19.教科書・教材	講義に合わせて、適宜プリントや資料を配布する。					
20.参考文献	『図書館の達人』（映像）					
21.成績評価	・ e ポートフォリオへの記入内容 ...10% ・ 中間レポート(10%×2) ...20% ・ 卒業論文第 1 回中間発表（ポスターセッション） ...30%(プレゼンテーションルーブリックによる) ・ 卒業論文第 1 回中間報告書（研究計画含む） ...40%(ライティングルーブリックによる) ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる					
22.コメント	4 年間の学びの集大成である卒業論文の執筆を開始していく、大切な 3 年生の秋学期です。ゼミの仲間と十分に親睦を深めながら切磋琢磨し、学ぶことの楽しさと厳しさを、我々アドバイザーと共に実感していきましょう。					
23.オフィスアワー	センタープログラムにご参加ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション ・ 春学期のふり返りと秋学期の目標の明確化 ・ e ポートフォリオへの前学期リフレクション及び今学期の目標記入			◆ノートパソコン◆ ○e ポートフォリオの点検と整理(180 分)		
【第 2 回】	学術論文へのアプローチ法 ・ 学術論文を読むこと、要約すること、考察すること			◆ノートパソコン◆ ○本時のふり返りと学びのまとめと、先行研究・文献の収集と整理(180 分)		
【第 3 回】	研究テーマの絞り込み ・ 研究の方向性についての討議と交流			○先行研究・文献の収集と整理(180 分)		
【第 4 回】	卒業論文第 1 回中間報告書（研究計画含む）アウトラインの作成と検討① ・ ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書（研究計画含			○先行研究・文献の収集と整理(180 分)		

	む) アウトライン (その 1) の作成と意見交換	
【第 5 回】	卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトラインの作成と検討② ・ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 1) の作成と意見交換	○先行研究・文献の収集と整理(180 分)
【第 6 回】	論文の書き方オリエンテーション(合同) ・論文の書き方について(DVD 視聴)	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン」作成(360 分)
【第 7 回】	社会調査に関するオリエンテーション(合同) ・社会調査の方法、内容について	◆ノートパソコン◆ ★小レポート①「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 1)」 ○先行研究、文献収集と整理のめやすを立てる(180 分)
【第 8 回】	卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトラインの作成と検討③ ・ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 2) の作成と意見交換	◆ノートパソコン◆ ○先行研究・文献の収集と整理(180 分)
【第 9 回】	卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトラインの作成と検討③ ・ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 2) の作成と意見交換	◆ノートパソコン◆ ○卒業論文第 1 回中間発表レジュメ (ポスター) 作成(180 分)
【第 10 回】	仮説や問題解決の方向性の明確化 ・卒業論文第 1 回中間発表レジュメ (ポスター) の作成	◆ノートパソコン◆ ★小レポート②「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 2)」 ○卒業論文第 1 回中間発表レジュメ (ポスター) 作成仕上げ(180 分)
【第 11 回】	卒業論文第 1 回中間発表 (その 1) ・ゼミ内発表① ・意見交換と討議(LC の活用)	◆ノートパソコン◆ ○本時のふり返りと学びのまとめ(180 分)
【第 12 回】	卒業論文第 1 回中間発表 (その 2) ・ゼミ内発表② ・意見交換と討議(LC の活用)	◆ノートパソコン◆ ○LC による意見交換のまとめ作成(180 分)
【第 13 回】	卒業論文第 1 回中間発表 (その 3) ・ゼミ内発表③ ・意見交換と討議(LC の活用)	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む)」作成(180 分)
【第 14 回】	「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む)」の作成	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む)」作成仕上げ(360 分)
【第 15 回】	秋学期のふり返りとまとめ	◆ノートパソコン◆ ★卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) ○振り返り(180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-A55	2.科目名	専門演習Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾和宣					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの専門演習Ⅰ・Ⅱ、さらに誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭において、設定した課題を様々な角度から分析する力や、考察する力を身につけ、それを正確かつ効果的に他者に伝えることのできる力を養うために、教育・保育における内容や問題について、データ、資料、学術論文、文献を検索、収集、整理し、教育・保育についての理解を深める。 【概要】論文を作成するための基本的な事項を学び、文献収集や情報の整理に取り組む中でその方法を身につける。ラーニングコミュニティ（LC）を効果的に活用し、多様な知識や方法を習得する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（DP に基づくもの）は次の通りです。 （１）自律性：様々な教育課題について関心を持ち、修得した知識・技能を生かして、主体的な学びができる。 （６）専門的知識・技能の活用力：必要とされる教育学の体系的な知識や学修成果を言語的な表現だけではなく、非言語的な表現方法も活用して、自らの学びのまとめができる。					
19.教科書・教材	講義に合わせて、適宜プリントや資料を配布する。					
20.参考文献	『図書館の達人』（映像）					
21.成績評価	・ e ポートフォリオへの記入内容 ...10% ・ プレゼンテーション ...30%(プレゼンテーションルーブリックによる) ・ 中間レポート(15%×2 回) ...30% ・ 最終レポート ...30%(ライティングルーブリックによる) ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる					
22.コメント	〇いよいよ本格的なゼミ活動のスタートです。「志」を共有するゼミの仲間と親交を深めながら、これまでの学びをベースに、誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭に、自らの CS やボランティア活動などの現場体験を振り返りつつ、興味・関心を持つ分野の研究に深く切り込んでいきましょう。研究することの「面白さ」に開眼してくれることを願っています。 〇コロナウィルスの影響等によって、ZOOM による遠隔で実施する場合があります。webclass 等の情報を常に確認するよう気をつけましょう！					
23.オフィスアワー	センタープログラムにご参加ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション ・ 本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス ・ e ポートフォリオへの前学期リフレクション及び今学期の目標記入 ・ ゼミスタート活動 ・ ゼミ方針策定 ・ アドバイザーの指導方針の説明 ・ ゼミ長の選出とゼミ内役割分担等			◆ノートパソコン◆ 〇e ポートフォリオの点検と整理(180 分)		

【第2回】	論文の書き方オリエンテーション(合同) ・論文の書き方について(DVD 視聴)	○本時で学んだ学習スキルを活用して、資料を集める(180 分)
【第3回】	研究テーマの設定 ・現場体験（CS/ボランティア活動等）からの気づきの掘り起こし ・資料やデータの収集・整理の方法 ・文献購読の方法 レジューメの作成方法等	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第4回】	文献収集・情報整理① ・ゼミ内発表を通じた体験や課題の共有化 ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第5回】	就職ガイダンス(合同)	○ガイダンスのまとめとしてeポートフォリオに感想や考えを入れる(180分)
【第6回】	文献収集・情報整理② ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) ○中間レポートその①の作成 (270 分)
【第7回】	文献収集・情報整理③ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ★中間レポートその① ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第8回】	文献収集・情報整理④ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第9回】	文献収集・情報整理⑤ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) ○中間レポートその②の作成(270 分)
【第10回】	文献収集・情報整理⑥ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン持参◆ ★中間レポートその② ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) ○最終レポートの作成 (270 分)
【第11回】	プレゼンテーション準備① ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ ○最終レポートの作成 (180 分)
【第12回】	プレゼンテーション準備② ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ ○最終レポートの作成 (180 分)
【第13回】	ゼミ内発表① ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ ○最終レポートの作成 (180 分)
【第14回】	ゼミ内発表② ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ ○研究発表の質疑を踏まえて、最終レポートの仕上げ (270 分)
【第15回】	ゼミ内発表③ ・研究発表と質疑応答	◆ノートパソコン◆ ★最終レポート

	・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から） 春学期まとめと秋学期に向けて	○振り返り(180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-A56	2.科目名	専門演習Ⅳ	3.単位数	2
4.授業担当教員	長瀬慶來				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの専門演習Ⅰ・Ⅱ、さらに誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭において、設定した課題を様々な角度から分析する力や、考察する力を身につけ、それを正確かつ効果的に他者に伝えることのできる力を養うために、教育・保育における内容や問題について、データ、資料、学術論文、文献を検索、収集、整理し、教育・保育についての理解を深める。 【概要】論文を作成するための基本的な事項を学び、文献収集や情報の整理に取り組む中でその方法を身につける。ラーニングコミュニティ（LC）を効果的に活用し、多様な知識や方法を習得する。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（DP に基づくもの）は次の通りです。 （１）自律性：様々な教育課題について関心を持ち、修得した知識・技能を生かして、主体的な学びができる。 （６）専門的知識・技能の活用力：必要とされる教育学の体系的な知識や学修成果を言語的な表現だけではなく、非言語的な表現方法も活用して、自らの学びのまとめができる。				
19.教科書・教材	講義に合わせて、適宜プリントや資料を配布する。				
20.参考文献	『図書館の達人』（映像）				
21.成績評価	・ e ポートフォリオへの記入内容 ...10% ・ プレゼンテーション ...30%(プレゼンテーションルーブリックによる) ・ 中間レポート(15%×2 回) ...30% ・ 最終レポート ...30%(ライティングルーブリックによる) ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる				
22.コメント	〇いよいよ本格的なゼミ活動のスタートです。「志」を共有するゼミの仲間と親交を深めながら、これまでの学びをベースに、誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭に、自らの CS やボランティア活動などの現場体験を振り返りつつ、興味・関心を持つ分野の研究に深く切り込んでいきましょう。研究することの「面白さ」に開眼してくれることを願っています。 〇コロナウィルスの影響等によって、ZOOM による遠隔で実施する場合があります。webclass 等の情報を常に確認するよう気をつけましょう！				
23.オフィスアワー	センタープログラムにご参加ください。				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
【第 1 回】	オリエンテーション ・ 本授業の概要と進め方、評価方法のガイダンス ・ e ポートフォリオへの前学期リフレクション及び今学期の目標記入 ・ ゼミスタート活動 ・ ゼミ方針策定 ・ アドバイザーの指導方針の説明 ・ ゼミ長の選出とゼミ内役割分担等			◆ノートパソコン◆ 〇e ポートフォリオの点検と整理(180 分)	

【第2回】	論文の書き方オリエンテーション(合同) ・論文の書き方について(DVD 視聴)	○本時で学んだ学習スキルを活用して、資料を集める(180 分)
【第3回】	研究テーマの設定 ・現場体験（CS/ボランティア活動等）からの気づきの掘り起こし ・資料やデータの収集・整理の方法 ・文献購読の方法 レジューメの作成方法等	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第4回】	文献収集・情報整理① ・ゼミ内発表を通じた体験や課題の共有化 ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第5回】	就職ガイダンス(合同)	○ガイダンスのまとめとしてeポートフォリオに感想や考えを入れる(180分)
【第6回】	文献収集・情報整理② ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) ○中間レポートその①の作成 (270 分)
【第7回】	文献収集・情報整理③ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ★中間レポートその① ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第8回】	文献収集・情報整理④ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分)
【第9回】	文献収集・情報整理⑤ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン◆ ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) ○中間レポートその②の作成(270 分)
【第10回】	文献収集・情報整理⑥ ・テーマの発表と討議	◆ノートパソコン持参◆ ★中間レポートその② ○討議を受けての考察と文献収集と情報整理(180 分) ○最終レポートの作成 (270 分)
【第11回】	プレゼンテーション準備① ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ ○最終レポートの作成 (180 分)
【第12回】	プレゼンテーション準備② ・パワーポイントのスライド作成 ・発表要旨の作成	◆ノートパソコン◆ ○最終レポートの作成 (180 分)
【第13回】	ゼミ内発表① ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ ○最終レポートの作成 (180 分)
【第14回】	ゼミ内発表② ・研究発表と質疑応答 ・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から）	◆ノートパソコン◆ ○研究発表の質疑を踏まえて、最終レポートの仕上げ (270 分)
【第15回】	ゼミ内発表③ ・研究発表と質疑応答	◆ノートパソコン◆ ★最終レポート

	・相互評価（現場体験や課題の共有化の観点から） 春学期まとめと秋学期に向けて	○振り返り(180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-A57	2.科目名	専門演習Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	吉田武大					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】これまでの専門演習Ⅰ・Ⅱ、さらに誰一人取り残すことのない個別最適化された教育・福祉の実践を念頭において学修を進めてきた専門演習Ⅲで培ってきた知識や技能をベースに、教育・保育に関わる専門的な知見をさらに深めていく。 【概要】文献や先行研究に当たり、進捗を報告すると共に、ラーニングコミュニティ(LC)内での意見交換を行いながら、自らが取り組むテーマについて多角的に考察を加えていく。最終的には卒業論文の一部を作成する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標（DPに基づくもの）は次の通りです。 （１）自律性：様々な教育課題について関心を持ち、修得した知識・技能を生かして、主体的な学びができる。 （６）専門的知識・技能の活用力：必要とされる教育学の体系的な知識や学修成果を言語的な表現だけではなく、非言語的な表現方法も活用して、自らの学びのまとめができる。					
19.教科書・教材	講義に合わせて、適宜プリントや資料を配布する。					
20.参考文献	『図書館の達人』（映像）					
21.成績評価	・ e ポートフォリオへの記入内容 ...10% ・ 中間レポート(10%×2) ...20% ・ 卒業論文第 1 回中間発表（ポスターセッション） ...30%(プレゼンテーションルーブリックによる) ・ 卒業論文第 1 回中間報告書（研究計画含む） ...40%(ライティングルーブリックによる) ※すべての評価対象を実施・提出したうえで、合計が 60%以上の評価で合格となる					
22.コメント	4 年間の学びの集大成である卒業論文の執筆を開始していく、大切な 3 年生の秋学期です。ゼミの仲間と十分に親睦を深めながら切磋琢磨し、学ぶことの楽しさと厳しさを、我々アドバイザーと共に実感していきましょう。					
23.オフィスアワー	センタープログラムにご参加ください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション ・ 春学期のふり返りと秋学期の目標の明確化 ・ e ポートフォリオへの前学期リフレクション及び今学期の目標記入			◆ノートパソコン◆ ○e ポートフォリオの点検と整理(180 分)		
【第 2 回】	学術論文へのアプローチ法 ・ 学術論文を読むこと、要約すること、考察すること			◆ノートパソコン◆ ○本時のふり返りと学びのまとめと、先行研究・文献の収集と整理(180 分)		
【第 3 回】	研究テーマの絞り込み ・ 研究の方向性についての討議と交流			○先行研究・文献の収集と整理(180 分)		
【第 4 回】	卒業論文第 1 回中間報告書（研究計画含む）アウトラインの作成と検討① ・ ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書（研究計画含			○先行研究・文献の収集と整理(180 分)		

	む) アウトライン (その 1) の作成と意見交換	
【第 5 回】	卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトラインの作成と検討② ・ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 1) の作成と意見交換	○先行研究・文献の収集と整理(180 分)
【第 6 回】	論文の書き方オリエンテーション(合同) ・論文の書き方について(DVD 視聴)	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン」作成(360 分)
【第 7 回】	社会調査に関するオリエンテーション(合同) ・社会調査の方法、内容について	◆ノートパソコン◆ ★小レポート①「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 1)」 ○先行研究、文献収集と整理のめやすを立てる(180 分)
【第 8 回】	卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトラインの作成と検討③ ・ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 2) の作成と意見交換	◆ノートパソコン◆ ○先行研究・文献の収集と整理(180 分)
【第 9 回】	卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトラインの作成と検討③ ・ゼミ内での卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 2) の作成と意見交換	◆ノートパソコン◆ ○卒業論文第 1 回中間発表レジュメ (ポスター) 作成(180 分)
【第 10 回】	仮説や問題解決の方向性の明確化 ・卒業論文第 1 回中間発表レジュメ (ポスター) の作成	◆ノートパソコン◆ ★小レポート②「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) アウトライン (その 2)」 ○卒業論文第 1 回中間発表レジュメ (ポスター) 作成仕上げ(180 分)
【第 11 回】	卒業論文第 1 回中間発表 (その 1) ・ゼミ内発表① ・意見交換と討議(LC の活用)	◆ノートパソコン◆ ○本時のふり返りと学びのまとめ(180 分)
【第 12 回】	卒業論文第 1 回中間発表 (その 2) ・ゼミ内発表② ・意見交換と討議(LC の活用)	◆ノートパソコン◆ ○LC による意見交換のまとめ作成(180 分)
【第 13 回】	卒業論文第 1 回中間発表 (その 3) ・ゼミ内発表③ ・意見交換と討議(LC の活用)	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む)」作成(180 分)
【第 14 回】	「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む)」の作成	◆ノートパソコン◆ ○「卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む)」作成仕上げ(360 分)
【第 15 回】	秋学期のふり返りとまとめ	◆ノートパソコン◆ ★卒業論文第 1 回中間報告書 (研究計画含む) ○振り返り(180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-A58	2.科目名	専門演習Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	春木裕美					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この演習では、卒業研究に向けた準備として、「災害時でも誰ひとり取り残さない安心できるコミュニティづくり」をテーマに、卒業論文作成に発展できるよう、各自が研究上の問いの探索、研究方法、論文作成などに自発的に取り組むことをねらいとします。 【概要】 春学期（専門演習Ⅲ）での実践に基づいて、研究上の問いと仮説を適宜見直しをしながら、具体的なデータ収集と整理・分析を行い、考察に必要な各種情報の収集と読解を進め、卒業論文の執筆に向けた力を養います。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学修目標は DP の (1)自立性、(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 ①研究テーマを具体的にイメージできる題目を設定している。 ②各章の位置づけを理解し、章立てを完成させている。 ③先行研究レビューの書き方を理解し、着手している。 ④複数の方法を検討したうえで、テーマにふさわしいデータ収集と分析方法を決めている。					
19.教科書・教材	必要に応じて資料を配付します。					
20.参考文献	■テーマの設定方法、研究の進め方 小笠原喜康(2002)「大学生のためのレポート・論文術」、講談社現代新書 河野哲也(2002)「レポート・論文の書き方入門第3版」、慶應義塾大学出版 白井利明・高橋一郎(2013)「よくわかる卒論の書き方第2版」ミネルヴァ書房 ■作文技術、文章の書き方 木暮太一(2011)「学校で教えてくれない『分かりやすい説明』のルール」、光文社新書 木下是雄(1981)「理科系の作文技術」中公新書					
21.成績評価	課題 a「活動の課題を明らかにする」30％ (学習目標①②③に関連) 課題 b「活動を発展させる」30％ (学習目標①②③に関連) 課題 c「取り組みのふりかえり」40％ (学習目標①②③④に関連)					
22.コメント	・本授業は、2 回目から 15 回目までノートパソコン持参を原則とします。 ・成果物は webclass への提出が必要です。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	授業の進め方、成績評価、概要の説明 ・授業の進め方や内容、評価の方法について説明を行う。 ・授業シラバスを持参すること（このシラバスは学びの文脈を俯瞰できる重要な資料であり、ノートやファ			※本授業はノートパソコン持参を原則とします。 ○課題について情報収集しておく（180）		

	イルに添付していつでも参照できるようにしておくこと。	
【第 2 回】	課題 a に関するリサーチとブレインストーミング① ・ 課題 a を検討するための情報収集と検討 ・ 個別ワークとグループワークで深める	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 3 回】	課題 a に関するリサーチとブレインストーミング② ・ 課題 a を検討するための情報収集と検討 ・ 個別ワークとグループワークで深める	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 4 回】	課題 a に関するリサーチとブレインストーミング③ ・ 課題 a を検討するための情報収集と検討 ・ 個別ワークとグループワークで深める	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 5 回】	課題 a に関するプレゼンテーション ・ オンラインで関係者に公開予定	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 6 回】	課題 b 「活動展開を発展させる」 ・ 課題 b に関するブレインストーミング①	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 7 回】	課題 b 「活動展開を発展させる」 ・ 課題 b に関するブレインストーミング②	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 8 回】	課題 b 「活動展開を発展させる」 ・ 課題 b に関するブレインストーミング③	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 9 回】	課題 b に関するプレゼンテーション ・ オンラインで関係者に公開予定	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 10 回】	課題 b に関する実践① ・ 各チームで実践活動に取り組む ・ 活動記録を整理する	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 11 回】	課題 b に関する実践② ・ 各チームで実践活動に取り組む ・ 活動記録を整理する	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 12 回】	課題 b に関する実践③ ・ 各チームで実践活動に取り組む ・ 活動記録を整理する	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 13 回】	課題 b に関する実践④ ・ 各チームで実践活動に取り組む ・ 活動記録を整理する	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 14 回】	課題 b に関する実践⑤ ・ 各チームで実践活動に取り組む ・ 活動記録を整理する	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 15 回】	活動報告会 ・ オンラインで関係者に公開予定	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90) * 課題 c を提出する

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-A59	2.科目名	専門演習Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本秀樹					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この演習では、卒業研究に向けた準備として、「災害時でも誰ひとり取り残さない安心できるコミュニティづくり」をテーマに、卒業論文作成に発展できるよう、各自が研究上の問いの探索、研究方法、論文作成などに自発的に取り組むことをねらいとします。 【概要】 春学期（専門演習Ⅲ）での実践に基づいて、研究上の問いと仮説を適宜見直しをしながら、具体的なデータ収集と整理・分析を行い、考察に必要な各種情報の収集と読解を進め、卒業論文の執筆に向けた力を養います。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学修目標は DP の (1)自立性、(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 ①研究テーマを具体的にイメージできる題目を設定している。 ②各章の位置づけを理解し、章立てを完成させている。 ③先行研究レビューの書き方を理解し、着手している。 ④複数の方法を検討したうえで、テーマにふさわしいデータ収集と分析方法を決めている。					
19.教科書・教材	必要に応じて資料を配付します。					
20.参考文献	■テーマの設定方法、研究の進め方 小笠原喜康(2002)「大学生のためのレポート・論文術」、講談社現代新書 河野哲也(2002)「レポート・論文の書き方入門第3版」、慶應義塾大学出版 白井利明・高橋一郎(2013)「よくわかる卒論の書き方第2版」ミネルヴァ書房 ■作文技術、文章の書き方 木暮太一(2011)「学校で教えてくれない『分かりやすい説明』のルール」、光文社新書 木下是雄(1981)「理科系の作文技術」中公新書					
21.成績評価	課題 a「活動の課題を明らかにする」30% (学習目標①②③に関連) 課題 b「活動を発展させる」30% (学習目標①②③に関連) 課題 c「取り組みのふりかえり」40% (学習目標①②③④に関連)					
22.コメント	・本授業は、2 回目から 15 回目までノートパソコン持参を原則とします。 ・成果物は webclass への提出が必要です。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	授業の進め方、成績評価、概要の説明 ・授業の進め方や内容、評価の方法について説明を行う。 ・授業シラバスを持参すること（このシラバスは学びの文脈を俯瞰できる重要な資料であり、ノートやファ			※本授業はノートパソコン持参を原則とします。 ○課題について情報収集しておく（180）		

	イルに添付していつでも参照できるようにしておくこと。	
【第 2 回】	課題 a に関するリサーチとブレインストーミング① ・ 課題 a を検討するための情報収集と検討 ・ 個別ワークとグループワークで深める	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 3 回】	課題 a に関するリサーチとブレインストーミング② ・ 課題 a を検討するための情報収集と検討 ・ 個別ワークとグループワークで深める	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 4 回】	課題 a に関するリサーチとブレインストーミング③ ・ 課題 a を検討するための情報収集と検討 ・ 個別ワークとグループワークで深める	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 5 回】	課題 a に関するプレゼンテーション ・ オンラインで関係者に公開予定	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 6 回】	課題 b「活動展開を発展させる」 ・ 課題 b に関するブレインストーミング①	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 7 回】	課題 b「活動展開を発展させる」 ・ 課題 b に関するブレインストーミング②	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 8 回】	課題 b「活動展開を発展させる」 ・ 課題 b に関するブレインストーミング③	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 9 回】	課題 b に関するプレゼンテーション ・ オンラインで関係者に公開予定	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 10 回】	課題 b に関する実践① ・ 各チームで実践活動に取り組む ・ 活動記録を整理する	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 11 回】	課題 b に関する実践② ・ 各チームで実践活動に取り組む ・ 活動記録を整理する	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 12 回】	課題 b に関する実践③ ・ 各チームで実践活動に取り組む ・ 活動記録を整理する	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 13 回】	課題 b に関する実践④ ・ 各チームで実践活動に取り組む ・ 活動記録を整理する	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 14 回】	課題 b に関する実践⑤ ・ 各チームで実践活動に取り組む ・ 活動記録を整理する	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90)
【第 15 回】	活動報告会 ・ オンラインで関係者に公開予定	課題に関する情報収集 (90) 成果物の準備 (90) * 課題 c を提出する

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y51	2.科目名	専門演習Ⅳ	3.単位数	2
4.授業担当教員	松井幸太				
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	心理学科	9.履修学年	3 年		
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本ゼミでは、卒業論文を書くための基礎的能力を身につけることを目的とし、文献講読を行う。				
18.学習目標と DPとの関連	各自が関心のある文献を読み、書かれている内容を理解し、まとめる力を身につけるとともに、批判的な視点から独自の考えを主張する力を養うことを目指す。				
19.教科書・教材					
20.参考文献	適宜紹介する				
21.成績評価	1. 授業への貢献度 15% 2. 毎回の授業における小レポート 15% 3. プレゼン発表 40% 4. 最終レポート 30%				
22.コメント					
23.オフィスアワー	火曜 2 限				
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)			
第 1 回	オリエンテーション、講読文献、担当・発表順の決定	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備			
第 2 回	研究のテーマ設定とアウトライン	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備			
第 3 回	研究進行の諸注意？	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備			
第 4 回	研究進行の諸注意？	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備			
第 5 回	文献講読①	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備			
第 6 回	文献講読②	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備			
第 7 回	文献講読③	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備			
第 8 回	文献講読④	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理			

		予習：次回授業の準備
第 9 回	文献講読⑤	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 10 回	文献講読②	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 11 回	研究構想発表①	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 12 回	研究構想発表②	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 13 回	研究構想発表③	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 14 回	研究構想発表④	課題：小レポートの提出 復習：授業内容の整理 予習：次回授業の準備
第 15 回	まとめ	最終レポート

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y53	2.科目名	専門演習Ⅳ (社会)		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本敏幸					
5.授業科目の区分	ゼミ科目	6.必修・ 選択の区分	ゼミ必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	データサイエンス専攻の専門科目			9.履修学年	3 年秋	
10.取得資格の要件	データサイエンス系の資格		11.先修条件	専門演習Ⅲ まで履修済みであること。 「Python プログラミング」「基礎統計学 A」 を受講していることが望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義＋演習		
16.履修制限	特になしだが、BYOD 必携のこと。					
17.授業の目的と概要	目的： データサイエンス応用をテーマにして、基礎的統計学をベースにしたデータ解析・機械学習の 基本技法・分析ツールの活用法などの習得に重きを置き、ビッグデータや高次元データなどの 情報を処理・分析するデータアナリストや地域社会・ビジネス現場の実課題を、データセット をもって解決する基本素養を養うことを目的とする。 概要： 「専門演習Ⅲ」の学習を基にして、「専門演習Ⅳ」では、これまで専門科目で学習した知識や技 術、そして分析ツールのスキルを総合的に活用し、データに基づく意思決定や問題解決につな がる知識と技能を習熟するとともに、ウェブクリエイトを含む情報技術の活用も取り入れ、卒 論研究や卒業制作の方向をある程度絞り込み、研究の切り口やプランを考える。					
18.学習目標と DPとの関連	1. データアクセスの基本を理解し、データ分析ツールの基本的な使いかたを習得する。 また、ツールを用いたデータ加工や可視化方法の活用ができる。 2. 地域社会・ビジネス現場の擬似課題に対し、データに基づいた意思決定や問題解決に つながるデータアナリティクス（統計・機械学習）の手法を理解し、活用できる。 3. ゼミワークを通して、4 年時の卒論研究の方向、切り口、プランを考えることができ る。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：自作 PDF 資料＋自作の演習用コラボノートファイル、関連サイトを活用する 教材：WebClass 及びクラウド共有ファイルサービスにて必要に応じて補助資料を掲載する					
20.参考文献	参考書：必要に応じて紹介する。					
21.成績評価	課題(48%)、リフレクションシート(30%)、期末応用レポート(22%)、 課題は、6 回 X 8 = 48 点【学習?標①②③④⑤に対応】 リフレクションシート：5 回 X 6 = 30 点【学習?標①②③④⑤に対応】 期末応用レポートは、1 X 22 = 22 点【学習?標①②③④⑤に対応】					
22.コメント	講義では、ほぼ毎回でノート PC を利?した演習があるので、BYOD 必携すること					
23.オフィスアワー	第 1 回目の授業でアナウンスします。 __曜__限(学習支援室) 春学期 __曜__限(研究室) 秋学期 __曜__限(研究室)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 1 回 受講ガイダンス ・全体の説明および本科目の位置づけ ・ツールを使用したデータアナリティクス			本講義では PC を利用する。		

	第2回 データサイエンス応用（1） ・オープンデータ e-Stat の活用 ・可視化のためのデータラングリング ・データの可視化	配布資料 課題①
	第3回 データサイエンス応用（2） ・信頼区間とエラーバーの紹介 ・相関分析と仮説検定 ・ばらつきと相関 ・信頼区間と仮説検定	配付資料 リグレーションシート①
	第4回 データサイエンス応用（3） ・予測モデル ・予測精度の評価のための指標 ・テストデータを使った検証 ・新しいデータに対しての予測	配付資料 課題②
	第5回 データサイエンス応用（4） ・相関分析と因子分析 ・クラスタリング ・テキスト分析 - 単語のカウント ・テキスト分析 - トピックモデル	配付資料 リグレーションシート②
	第6回 データサイエンス応用（5） ・クラスタリングとは ・K-Means クラスタリングの使い方と解釈 ・最適なクラスター数を探索 - エルボー法 ・クラスターとカテゴリーの関係の探索	配付資料 課題③
	第7回 振り返り総合演習（1） ・データタイプによるチャートの選び方 ・バーチャートの便利な使い方 ・数値型どうしの関係性をグループごとに可視化する ・地図上にデータを可視化する	配付資料 小テスト①
	第8回 振り返り総合演習（2） ・ラインチャートの使い方 ・色を使ってグループごとにトレンドを描く ・繰り返しを使ってグループごとにチャートを作る ・トレンドライン(線形回帰、Loess)	配付資料 リグレーションシート③
	第9回 振り返り総合演習（3） ・ばらつきの可視化 ・数値とカテゴリーの相関関係の可視化 ・数値どうしの相関関係の可視化	配付資料 課題④
	第10回 文献を読む（1） ・研究プランを考える ・卒論研究の方向を考える	配付資料 リグレーションシート④
	第11回 文献を読む（2） ・研究プランを考える ・卒論研究の方向を考える	配付資料 課題⑤
	第12回 文献を読む（3）	配付資料

	・研究プランを考える ・卒論研究の方向を考える	リグレーションシート⑤
	第 13 回 研究テーマを考える（４） ・研究プランを考える ・卒論研究の方向を考える	配付資料 課題⑥
	第 14 回 文献を読む（５） ・研究プランを考える ・卒論研究の方向を考える	配付資料 課題提出
	第 15 回 総括および期末応用課題	総括 アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y54	2.科目名	専門演習Ⅳ (社会)		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本久					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	※現在 3 年生ゼミで調整中です 3 年生ゼミにおける「文化・メディア」と「データサイエンス」志向の履修生のためのゼミです。 神戸の身近な文化などの調査研究とともに、様々なコンテンツ制作とともに情報発信やプログラミングなどの学習も行っていきます。状況によりますが地域イベントの実施や、メディア作品制作なども行っていきたいと考えています。これらの活動は 4 年生のゼミにおける卒業論文、卒業制作のための礎となります。					
18.学習目標と DP との関連	学習目標は DP の (1) 社会や文化についての科学的理解力および 新たな文化創造、(2)主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力 (3) コミュニケーション力に関連しています。 ①地域の地理や歴史、文化芸術などについて調査活動が行える ②基本的なコンテンツ制作やプログラム作成が行える ③調査に基づくプレゼンテーションや情報発信、コンテンツ／プログラム作品などの制作・発表が行える					
19.教科書・教材	適宜、資料を配付または提示します					
20.参考文献	適宜、資料を配付または提示します					
21.成績評価	取組姿勢 (40%) [学習目標①②に対応] 提出物 (レポート、コンテンツなど) (40%) [学習目標③に対応] プレゼンテーション (20%) [学習目標①②③に対応]					
22.コメント	4 年次の卒業制作または卒業論文に向けて、調査・研究・制作のスキルを身に着けるための実践的な演習です。個人活動として自ら積極的に取り組むことが求められます。 ★リクルートの就活講座が下記日程で入る予定です。 ・第 3 回 (4/25) ・第 6 回 (5/16) ・第 8 回 (5/30)					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センタオフィスアワー：水曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	オリエンテーション (本授業の目標・内容・評定方法・受講上の留意点)			復習：学習内容の確認、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習		
【第 2 回】	・ 調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・ フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク			復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習		
【第 3 回】	・ 調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・ フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク			復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習		

【第 4 回】	・ 調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・ フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 5 回】	・ 調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・ フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第 6 回】	・ 調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・ フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 7 回】	・ 調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・ フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第 8 回】	・ 調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・ フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第 9 回】	・ 調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・ フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 10 回】	・ 調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・ フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第 11 回】	・ 調査研究、コンテンツ制作、プログラミング演習など ・ フィールドワーク／個人ワーク／グループワーク	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：次回テーマの予習
【第 12 回】	期末課題の制作	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第 13 回】	期末課題の制作	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第 14 回】	期末課題の制作	復習：学習内容の反復練習、授業ノートの整理 予習：課題の自主制作
【第 15 回】	プレゼンテーション、まとめ	復習：学習内容の総括、授業ノートの整理

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y55	2.科目名	専門演習Ⅳ (社会)		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	2 年次	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 多文化共生を視野に入れた取材と記事執筆、文献講読、資料作成 【概要】 多文化共生を「小さな文化」を「理解する」ことから考えていこうと思っています。 国籍や宗教など「大きな文化」から始めると、誰かが用意した物語を聞くだけで終わってしまいがちです。このゼミでは、〇〇町の住民しか知らない文化、〇〇のファンしか知らない文化など、もっと小さく、もっと身近な文化を、自分で考えた取材を通じてウェブマガジンの記事にしていってもらいます。[対象の内部からの取材] + [その外部への発信]、それこそが「ある文化を理解する」過程です。そして、そうした異文化理解の上に成り立つ対話こそが、あるべき多文化共生の形だと私は考えています。 こうした訓練を3年生で積んだ後、4年生の卒論では国籍や宗教などの大きな話に進んでくれもいいし、そのまま地域文化やサブカルチャーを追求してくれてもいいし、ウェブマガジンなど情報発信の IT を考えてくれてもいいです。私はどの関心にも対応できます。 具体的には以下3点が、3年生ゼミでの内容になります： A) ウェブマガジン作成 {『神戸自由研究ファイル』,https://kei-nam.com/kobe_studies/}というウェブマガジン（現在1.5 万ビュー）を作っています。個人で、あるいはグループで、調査やチャレンジ、実験の企画を立て、取材をおこない、ここに載せる記事を書いてもらいます。 B) 文献講読 多文化共生に関する理論的な文献を、数ページずつ担当を決め、レジメを作って発表しながら、みんなで読み進めていきます。 C) 教材作成 私の講義科目（文化人類学、比較宗教論、神戸の社会と文化、情報と社会……）では、よく「ゼミで作った」という地図や表、アンケートや動画が教材として登場します。みなさんにもそれを作ってもらいます。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業の学習目標は DP の（S2）社会や文化についての科学的理解力、（S3）新たな文化創造、（2）問題解決力、（3）コミュニケーション力の学修に関連しています。 ①地域文化や地域活性化について、基本的な知識や論点を説明できる ②自分の考えを説得力のあるデータを示しながら伝えることができる ③イベント運営やコンテンツ作成などに、自主的に、かつ他のゼミ生と協調しながら取り組むことができる					
19.教科書・教材	毎回、教材を配布します（教科書は使用しません）					
20.参考文献	授業進行に合わせて紹介していきます。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 ・記事の完成度（企画力、取材力、文章力、レイアウトや画像処理の能力）……50 点（学習目標①②に対応） ・イベントや共同作業、討論などにおける積極性（ゼミの一員としての取り組み）……50 点					

	(学習目標③に対応)	
22.コメント		
23.オフィスアワー	金曜 2 限（学修支援センター）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	[前半] ガイダンス [後半] ウェブマガジン第 6 号進捗報告	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 2 回】	[前半] 文献講読 2 冊目の配布と順番決定 [後半] ウェブマガジン第 6 号作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 3 回】	[前半] ウェブマガジン第 6 号作業 [後半] ウェブマガジン第 6 号作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 4 回】	[前半] 文献講読 発表 1 周目① [後半] ウェブマガジン第 7 号企画会議	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 5 回】	[前半] 文献講読 発表 1 周目② [後半] 教材作成 2 説明と役割分担	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 6 回】	[前半] 文献講読 発表 1 周目③ [後半] 教材作成 2 作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 7 回】	[前半] 文献講読 発表 1 周目④ [後半] 教材作成 2 作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 8 回】	[前半] ウェブマガジン進捗報告 [後半] ウェブマガジン進捗報告	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 9 回】	[前半] 文献講読 発表 2 周目① [後半] 教材作成 2 作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 10 回】	[前半] 文献講読 発表 2 周目② [後半] 教材作成 2 作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 11 回】	[前半] 文献講読 発表 2 周目③ [後半] 教材作成 2 作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 12 回】	[前半] 文献講読 発表 2 周目④ [後半] 教材作成 2 作業	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 13 回】	(キャリア系イベント)	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 14 回】	[前半] ウェブマガジン進捗報告 [後半] ウェブマガジン進捗報告	終わらなかった作業の持ち帰り
【第 15 回】	[前半] 総括 [後半] 総括	終わらなかった作業の持ち帰り

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y58	2.科目名	専門演習Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	沼田真美					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】この演習は、卒業研究に向けて研究テーマ・研究方法・論文作成などについて受講者自身が自発的に取り組むことを主なねらいとしている。 【概要】各受講者の興味・関心に基づいて、行いたい研究領域・内容・対象・方法などを焦点化する。具体的には、春学期に設定したテーマに関する論文や情報を収集し、その読解を進める。そして、それらを集約し、ゼミ内でプレゼンテーションを行うことにより論文作成に必要な技術を学修しながら、卒業研究へとつなげていく。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見解決力、専門的知識技能の活用力の学修と関連しています。 ①自分の興味関心から、先行研究を調べ、研究内容を理解し、他者に紹介できるようになる。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ③興味関心と先行研究の知見をもとに、新たな研究を考えることができるようになる。 ④研究に必要な情報を得るための方法や研究に必要な知識を身につけることができる。 ⑤これまでに学習した知識や経験をもとに、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析することができるようになる。また、それをもとに自己 PR を作成できるようになる。					
19.教科書・教材	適宜配布します。					
20.参考文献	必要に応じて授業時に紹介します。					
21.成績評価	個人テーマに関するレポートの提出（経過報告）：25% 〔学習目標①②③〕に対応 小レポート：25% 〔学習目標①②〕に対応 学期末レポート（研究計画書）：40% 〔学習目標①②③〕に対応 e-ポートフォリオへのふりかえり：10% 〔学習目標④に対応〕					
22.コメント						
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：初回授業内でお伝えします センターオフィスアワー：初回授業内でお伝えします					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション 学期末にはじまる就職活動及び卒業研究に向けての計画の作成					
	文献検索と研究計画の作成の流れ 卒論の使い方と集め方について学ぶ					
	合同ゼミ：キャリア教育「進路実現のために今明確にすべきこと」			課題：自身のキャリアに関するレポート		
	複数論文の比較			課題：複数論文の要約と比較についてのレポ		

	複数の論文をレビューするときの観点等について	ート
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
	4年生卒業論文発表会参加（合同ゼミ） 先輩の発表を聴き、卒業研究のイメージを掴む。	課題：卒論発表会の感想レポート

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y59	2.科目名	専門演習Ⅳ	3.単位数	2
4.授業担当教員	高橋浩樹				
5.授業科目の区分	警察分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	目的：卒業研究に向けて、テーマ設定のための必要な基礎知識と技能を身に付けることを目的とします。また就職活動に向けて具体的な準備を進めます。 概要：研究テーマの設定し、研究計画書を作成します。 また就職活動に向けて実施スキルを身に付けるため、専門演習Ⅲに続いて面接練習を行い想定問答をより良いものにします。				
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディグ リマ・ポリシ-)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ①研究テーマに関する文献・情報収集力を高め、要約する力をつける。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ③研究に必要な専門的知識を身に付けることができるようになる。 ④就職活のの準備をすることで質疑に対する応答力を醸成し、コミュニケーションスキルを高めることができるようになる。 ⑤自らプランを立て、検討を加えながら実践する力を身に付ける。				
19.教科書・教材	特にありません。				
20.参考文献	随時配布します。				
21.成績評価	・ 夏季期間における文献・先行論文の要約（5 本）：15％ 【学習目標①②③に対応】 ・ 各自のテーマに対するプレゼンテーション：30％ 【学習目標①②③④⑤に対応】 ・ キャリア教育に関する課題（レポート）：10％ 【学習目標④⑤に対応】 ・ 研究計画書と文献リストの作成：15％ 【学習目標①②③に対応】 ・ 自己 PR 文の改訂：10％ 【学習目標④に対応】 ・ 面接想定問答の改訂等：20％ 【学習目標④に対応】				
22.コメント	この演習は、卒業研究につながるテーマの設定と就職活動の具体的実施に関する重要なものですから、能動的に取り組んで下さい。				
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜日昼休み 研究室オフィスアワー：水曜日昼休み				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回	オリエンテーション：専門演習Ⅳのねらいや内容、進め方、成績評価についての説明 就職活動に向けての計画づくり			毎回ノートパソコンを持参すること	

第 2 回	進路希望・業界研究 ・志望進路（担保進路を含む）を明確にする ・計画の修正 ※評価と実践等のキャリア教育と連動	志望進路への取り組み内容を明確化・デザイン化する
第 3 回	予定：キャリア教育 ・就職ガイダンス	キャリアに関するレポートの作成
第 4 回	面接実務の実施 ・模擬面接 ・想定問答の改訂（50 問）	前学期に作成した想定問答の改訂
第 5 回	各自の研究テーマと方法論の発表準備① ・各自の関心・興味を基に、研究テーマに関わる資料・論文等の探索を進め、整理統合する	卒業研究に向け、必要な情報の収集と整理・分析を進め発表の準備をする 文献リストの更新
第 6 回	各自の研究テーマと方法論の発表準備② ・各自の関心・興味を基に、研究テーマに関わる資料・論文等の探索を進め、整理統合する	卒業研究に向け、必要な情報の収集と整理・分析を進め発表の準備をする 文献リストの更新
第 7 回	各自の研究テーマと方法論の発表準備③ ・各自の関心・興味を基に、研究テーマに関わる資料・論文等の探索を進め、整理統合する	卒業研究に向け、必要な情報の収集と整理・分析を進め発表の準備をする 文献リストの更新
第 8 回	各自テーマと方法論の発表① 10 分	自己及び他者の発表から得た学びを資料に反映させる
第 9 回	各自テーマと方法論の発表② 10 分	自己及び他者の発表から得た学びを資料に反映させる
第 10 回	各自テーマと方法論の発表③ 10 分	自己及び他者の発表から得た学びを資料に反映させる
第 11 回	自由課題対応 自己 PR 文の改訂	自己 PR 文の作成・提出
第 12 回	卒業研究書の策定①：Word	現時点での卒業研究書を詳しく作成する 4 年次に繋げる
第 13 回	卒業研究書の策定②：Word 文献リストの整理	現時点での卒業研究書を詳しく作成する 4 年次に繋げる
第 14 回	卒業研究書の提出：Word 文献リストの提出 今学期の振り返り	卒業研究対応と志望進路対策を考察する
第 15 回	卒業研究発表会参加 ・4 年生の卒業研究発表会に参加して、自らの研究の経過の点検、展望を行う	4 年生の発表を基に自身の卒業研究方針を点検して変更、修正を行う

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y60	2.科目名	専門演習Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	田中亜裕子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習は、卒業研究に向けて研究テーマ・研究方法・論文作成などについて受講者自身が自発的に取り組むことを主なねらいとしている。各受講者の興味・関心に基づいて、行いたい研究領域・内容・対象・方法などを焦点化する。具体的には、春学期に設定したテーマに関する論文や情報を収集し、その読解を進める。そして、それらを集約し、ゼミ内でプレゼンテーションを行うことにより論文作成に必要な技術を学修しながら、卒業研究へとつなげていく。卒業研究に向けて、研究テーマの設定、研究方法、論文作成などについて主体的に取り組んでいくことをねらいとする。					
18.学習目標と DPとの関連	①自分の興味関心から、先行研究を調べ、研究内容を理解し、他者に紹介できるようになる。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ③興味関心と先行研究の知見をもとに、卒業論文の研究計画を考えることができるようになる。 ④これまでに学習した知識や経験をまとめて、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析することができるようになる。 [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能 の活用力					
19.教科書・教材	適宜配布します。					
20.参考文献	必要に応じて授業時に紹介します。					
21.成績評価	個人テーマに関する発表・質疑応答：20% [学習目標①②③]に対応 小レポート（10本レポート）：30% [学習目標①②]に対応 学期末レポート（研究計画書）：40% [学習目標①②③]に対応 e-ポートフォリオへのふりかえり：10% [学習目標④]に対応					
22.コメント						
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：火曜お昼休み 研究室オフィスアワー：水曜お昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回 4/10	オリエンテーション ブックレポート図書の紹介と興味を持っている領域の共有			ブックレポートの提出（WebClass） 発表者は課題図書を持参すること！		
第2回 4/17	ブックレポート図書の紹介と興味をもっている領域の共有			発表者は課題図書を持参すること！		
第3回 4/24	文献検索と研究計画の作成の流れ 卒論、研究計画書を作成する過程を学ぶ			卒論に向けての文献検索 発表準備		
第4回 5/1	研究テーマに関する調査			卒論に向けての文献検索		

	卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	発表準備
第 5 回 5/8	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	卒論に向けての文献検索 発表準備
第 6 回 5/15 (休み)	5 月 14 日 2 限、2-213、就職活動に向けて（リクナビ）	卒論に向けての文献検索 発表準備
第 7 回 5/22	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	卒論に向けての文献検索 発表準備
第 8 回 5/29	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	卒論に向けての文献検索 発表準備
第 9 回 6/5	研究計画書の作成 研究計画書の作成手順を学び、作成する。	研究計画書の作成
第 10 回 6/12	研究計画書の作成 研究計画書の作成手順を学び、作成する。	研究計画書の作成
第 11 回 6/19	研究計画書の作成 研究計画書の作成手順を学び、作成する。	研究計画書の作成
第 12 回 6/26	研究計画の発表 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	研究計画の修正
題 13 回 7/3	研究計画の発表 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	研究計画の修正
第 14 回 7/10	研究計画の発表 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	研究計画の修正
第 15 回 7/17	4 年生卒業論文発表会参加（合同ゼミ） 先輩の発表を聴き、卒業研究のイメージを掴む。	研究計画書の提出（WebClass）

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y62	2.科目名	専門演習Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	川脇康生					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この演習は、卒業研究に向けて研究テーマ・研究方法・論文作成などについて受講者自身が自発的に取り組むことを主なねらいとしている。 【概要】 各受講者の興味・関心に基づいて、行いたい研究領域・内容・対象・方法などを焦点化する。具体的には、春学期に設定したテーマに関する論文や情報を収集し、その読解を進める。そして、それらを集約し、ゼミ内でプレゼンテーションを行うことにより論文作成に必要な技術を学修しながら、卒業研究へとつなげていく。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目は DP（ディプロマポリシー）のうち、自律性、問題発見解決力、専門的知識技能の活用力の学修と関連しています。 ①自分の興味関心から、先行研究を調べ、研究内容を理解し、他者に紹介できるようになる。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ③興味関心と先行研究の知見をもとに、新たな研究を考えることができるようになる。 ④研究に必要な情報を得るための方法や研究に必要な知識を身につけることができる。 ⑤これまでに学習した知識や経験をもとに、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析することができるようになる。また、それをもとに自己 PR を作成できるようになる。					
19.教科書・教材	適宜配布します。					
20.参考文献	必要に応じて授業時に紹介します。					
21.成績評価	個人テーマに関するレポートの提出（経過報告）：20% 〔学習目標①②③〕に対応 小レポート（10 本レポート）：30% 〔学習目標①②〕に対応 学期末レポート（研究計画書）：40% 〔学習目標①②③〕に対応 e-ポートフォリオへのふりかえり：10% 〔学習目標④に対応〕					
22.コメント						
23.オフィスアワー	学修支援センターオフィスアワー（神戸山手 1 号館 2 階ラーニングコモンズ）：月、昼休み 研究室オフィスアワー（神戸山手 3 号館 2 階 207 室）：火、昼休み ※質問等はメールで問い合わせてください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション					
	学期末にはじまる就職活動及び卒業研究に向けての計画の作成					
	文献検索と研究計画の作成の流れ					
	卒論の使い方と集め方について学ぶ					
	合同ゼミ：キャリア教育「進路実現のために今明確にすべきこと」			課題：自身のキャリアに関するレポート		

	複数論文の比較 複数の論文をレビューするときの観点等について	課題：複数論文の要約と比較についてのレポート
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
	4年生卒業論文発表会参加（合同ゼミ） 先輩の発表を聴き、卒業研究のイメージを掴む。	課題：卒論発表会の感想レポート

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y63	2.科目名	専門演習Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山誠					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科			9.履修学年	3 年生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	卒業研究に向けた問題発見					
18.学習目標と DPとの関連	各自が関心のある書籍や学術雑誌に記載された資料を読み、まとめて発表する力を身につける					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	1. 文献発表 60% 2. 討議への参加 20% 5. 最終レポート 20%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション、講読文献、担当・発表順の決定					
第 2 回	文献講読①					
第 3 回	第 3 回目はウィークリ-アワに差し替えて、キャリア教育（学科合同）「進路実現のために今明確にすべきこと」を実施 アサインメント：自身のキャリアに関するレポート					
第 4 回	文献講読③					
第 5 回	文献講読④					
第 6 回	文献講読⑤					
第 7 回	文献講読			アサイメント「卒業後の就職に向けて、今からの大学生活で何をすることが必要か具体的に考え、800 字程度（A4 用紙 1 枚）にまとめなさい。」		
第 8 回	文献講読⑥					
第 9 回	文献講読⑦					
第 10 回	文献講読					
第 11 回	文献講読⑧					
第 12 回	文献講読⑨					
第 13 回	文献講読			アサイメント「卒業後の就職に向けて、今からの大学生活で何をすることが必要か具体的に考え、800 字程度（A4 用紙 1 枚）にまとめなさい。」		
第 14 回	文献講読⑩					
第 15 回	まとめ			最終レポート		

1.授業コード (ナンバリング)	SMN303-Y64	2.科目名	専門演習Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科 人間心理学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習は、卒業研究に向けて研究テーマ・研究方法・論文作成などについて受講者自身が自発的に取り組むことを主なねらいとしている。各受講者の興味・関心に基づいて、行いたい研究領域・内容・対象・方法などを焦点化する。具体的には、春学期に設定したテーマに関する論文や情報を収集し、その読解を進める。そして、それらを集約し、ゼミ内でプレゼンテーションを行うことにより論文作成に必要な技術を学修しながら、卒業研究へとつなげていく。卒業研究に向けて、研究テーマの設定、研究方法、論文作成などについて主体的に取り組んでいくことをねらいとする。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディグリーポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル(6)専門的知識・技能の活用力、の学修に関連しています。 ①自分の興味関心から、先行研究を調べ、研究内容を理解し、他者に紹介できるようになる。 ②研究論文を能動的かつ批判的に読むことができるようになる。 ②興味関心と先行研究の知見をもとに、卒業論文の研究計画を考えることができるようになる。 ②これまでに学習した知識や経験をまとめて、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析することができるようになる。					
19.教科書・教材	適宜配布します。					
20.参考文献	必要に応じて授業時に紹介します。					
21.成績評価	個人テーマに関するレポートの提出，質疑：25% [学習目標①②③]に対応 小レポート（10 本レポート）：30% [学習目標①②]に対応 学期末レポート（研究計画書）：40% [学習目標①②③]に対応 e-ポートフォリオへのふりかえり：5% [学習目標④に対応]					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション 学期末にはじまる就職活動及び卒業研究に向けての計画の作成					
	文献検索と研究計画の作成の流れ 卒論、研究計画書を作成する過程を学ぶ					
	合同ゼミ：キャリア教育「進路実現のために今明確にすべきこと」			アサインメント：自身のキャリアに関するレポート		

	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究テーマに関する調査 卒論の研究テーマについて調べ、発表する。	
	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
	研究計画書の作成 具体的な研究目的、研究方法を発表する。	
	4年生卒業論文発表会参加（合同ゼミ） 先輩の発表を聴き、卒業研究のイメージを掴む。	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN304-A51	2.科目名	マネジメント専門演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	杉林弘仁					
5.授業科目の区分	実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	3 年生～			9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	●目的 これから皆さんは、一人ひとりが個別の卒業論文を仕上げていくことになります。これまで単位を取ってきた科目とはまったく別の次元で考えて下さい。 卒業論文こそが、大学教育を受けた集大成となります。しかし、論文を書くのはそう簡単なことではありません。1年半をかけて仕上げます。学生時間の4割を「論文」に割くと考えてもよいでしょう。常に頭のなかで論文に向き合っていなければなりません。その論文で最も難しいのは「テーマ」です。どういう「問い」に答える論文を書くのか、この「問い」を作ることが実に難しいのです。これが決まれば7～8割論文に到達できたことになります。 これから、一人ひとりが個別の論文に挑戦していくわけですが、ゼミ生同士のディスカッションはとても有効です。論文には「型」があります。論文を数十本読んで、論文の型になれる。 そのために、CiNii や Web of Science などの図書館データベースから文献検索をすることに慣れておく必要があります。 この半年は、図書館データベースからの検索能力を高め、皆さんが学んだ経営学の中で関心の高い分野から文献を抽出して、数十の論文を読み、その文献を理解するとともに、論文の書き方を身につけることを目的にします。次に研究計画書を作成し、まず1本の論文を書くことに挑戦します。学術論文を作成するノウハウをもつことは、「職業訓練」と同じです。自分の「技」を身につけることになり、これから社会人として生きていく強い武器となります。 ●概要 問題を解くために、まず、情報収集技術を磨きます。図書館データベースを頻繁に利用して論文を検索し、論文の型をつかんでいきます。 一人ひとり個別の論文を書くといって、孤立するわけではありません。この演習でも「互学互修」がテーマです。ゼミ生同士のディスカッションから、互いに助けあい、お互いから学びを修得していきます。					
18.学習目標と DPとの関連	科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力の学習に関連しています。 (1)自律的で主体的な態度 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができます。 (4) 問題発見・解決力 問題を発見したり解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができます。 (5) コミュニケーションスキル 国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができます。 (6) 専門的知識・技能の活用力 自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活					

	用することができます。	
19.教科書・教材	●教科書 ・戸田山和久(2022)『最新版 論文の教室－レポートから卒論まで』NHK 出版。ISBN：978-4-140-91272-0	
20.参考文献	・皆さんの状況に応じて伝えます。	
21.成績評価	・参考文献リスト：20％ ・ゼミ報告：20％ ・研究ノート：20％ ・研究計画書：20％ ・最終論文：20％	
22.コメント	・授業内でできることはわずかです。授業外での学習が非常に多くなります。 ・図書館データベースを利して、文献を検索し、「読む」習慣をつけてください。 ・毎日のなかに「考える」という時間をもって論文に向き合ってください。	
23.オフィスアワー	・研究室オフィスアワー：(後期)月曜 4 時間目(15:00-16:30)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	「オリエンテーション」 ・内容：授業の進め方を説明します。皆さんの「論文を書く」という意識，論文作成のノウハウをもつことの意味をはっきりさせます。	すべて遮断して一人になる時間をもって，今日の意味を 1 時間考えてください。答えがでたら書いてください。
第 2 回	「図書館データベースの利用」 図書館データベースの利用。どんなデータベースがあるのか。何を調べるのに有効かを確認します。論文で，参考文献を書くにはいくつかの「型」があります。このパターンをみにつけます。	図書館データベースを利用して自分の関心のある分野を検索し，関係しそうな論文を抽出し，どんなデータベースを利用したかを含めて，一覧表を作ってきてください。一覧表は参考文献を書くフォーマットに合わせます。
第 3 回	「学修グループの編成」 図書館のデータベースを利用して，皆さんに作成した一覧表を発表してもらいます。発表内容の関連度合いによりグルーピングをします。	引き続き，図書館データベースを利用して自分の関心のある分野を検索し，関係しそうな論文を抽出し，どんなデータベースを利用したかを含めて，今度は，グループで摺り合わせて，一覧表を作ってきてください。一覧表は参考文献を書くフォーマットに合わせます。
第 4 回	「論文の型に慣れる①」 ・これからの回は，皆さんの発表から，著者は，どういう問題を立てているか，これにどう答えているか，その根拠は何か(どう自分の答えを論証したか)を確認していきます。これ以降も図書館データベースを使って，どんどん論文を探していってください。	選択した論文を読み，著者は，どういう問題を立てているか，これにどう答えているか，その根拠は何か(どう自分の答えを論証したか)この 3 点だけを押さえてください。発表資料を作ってください。
第 5 回	「論文の型に慣れる②」 ・引き続き，皆さんの発表から，著者は，どういう問題を立てているか，これにどう答えているか，その根拠は何か(どう自分の答えを論証したか)を確認していきます。	前回と同じです。選択した論文を読み，著者は，どういう問題を立てているか，これにどう答えているか，その根拠は何か(どう自分の答えを論証したか)この 3 点だけを押さえてください。発表資料を作ってください。

第 6 回	「論文の型に慣れる③」 ・前回と同じです。図書館データベースを使って、どんどん論文を探してってください。皆さんの発表から、著者は、どういう問題を立てているか、これにどう答えているか、その根拠は何か(どう自分の答えを論証したか)を確認していきます。	引き続き、選択した論文を読み、著者は、どういう問題を立てているか、これにどう答えているか、その根拠は何か(どう自分の答えを論証したか)この3点だけを押さえてください。発表資料を作ってください。
第 7 回	「研究計画書を作成する①」 ・論文を読んで型になれてきたところで、今度は、研究計画書を作成します。まず、「問い」を作ることですが、これを自分で問いを立てるのはたいへん難しいことです。ここでは経営学概論の参考書に使った『ゼミナール経営学入門』を利用して研究するエリアを決めます。グループ間でのディスカッションを交えながら検討します。	『ゼミナール経営学入門』関心のある章から、その最後にある「演習」をヒントにして、何を調べるのかを考えて、各自、グループ内で検討する発表資料を作ってください。
第 8 回	「研究計画書を作成する②」 ・前回到続いて、研究計画書を作成します。「問い」を作ることは無理なので、前回と同様に経営学概論の参考書に使った『ゼミナール経営学入門』を利用して、グループ間でのディスカッションを交えながらどういう問題に向き合うかを考えます。	『ゼミナール経営学入門』関心のある章から、その最後にある「演習」をヒントにして、何を調べるのかを考えて、各自、グループ内で検討する発表資料を作ってください。
第 9 回	「研究計画書を作成する③」 まだ出口が見えないと思いますが、タイム・スケジュールを作っておきます。論文の構造と照らし合わせて、論文の完成のためには、いつまでに、何をしておかねばならないのか、残された時間から、アウトラインを設定します。	前回と同じです。『ゼミナール経営学入門』関心のある章から、その最後にある「演習」をヒントにして、何を調べるのかを考えて、各自、グループ内で検討する発表資料を作ってください。
第 10 回	「論文を書く①」 ・論文の目的(問題提起/何の問いに答えるのか)のパートを書いてみましょう。大きな目的や夢を最初のほうに書いて、大目的を実現する必要性を述べて、問題提起をしましょう。大目的を実現するために何を必要があるのか、そのためにどのような問題があるのか、自分の研究トピックに誘導します。その他に、提起した問題を解決するために既存研究や自分とよく似た目的のものの紹介します。そして、小目的で、問題解決のために自分が研究で取り組もうとする具体的な目的を書きましょう。	論文は「型にはまった(つまり論文のかたちをした/構造をもった)」文章です。論文は描き始めることから出発します。まず、書いてみることです。書いたあとに、適当な時間をおいて何度も読み直してください。間違いを検出するには何度も読み返しを繰り返すしかありません。
第 11 回	「論文を書く②」 ・書いた論文をグループで読んでもらって、わかりやすいものであるか、お互いに添削します。問題の提示「どういう問題にとりくむか」問題の説明「その問題がどういうものであるか」問題の背景「どうしてそれ	「書くこと」を引き続き挑戦します。論文は「型にはまった(つまり論文のかたちをした/構造をもった)」文章です。書いたあとに、適当な時間をおいて何度も読み直してください。間違いを検出するには何度も読み返しを繰り返す

	が問題として生じてきたのか」，これから解明しようとする「ひとつの問題」に落とし込んでいるかをいくつかの視点でみることで、お互いの文章力をあげていきます。	返すしかありません。
第 12 回	「論文を書く③」 前回の問題提起に対して、自分が主張する考えと、それを論証するパートを書いてみます。色々と調べて考えたら、このような考えに至りましたということ書きます。	前回と同じです。「型にはまった(つまり論文のかたちをした/構造をもった)」文章になっているか、何度も書いてみましょう。関係のない話を織り込んでいないか、主張を裏付ける論理的な構成になっているか、書いたあとに、適当な時間をおいて何度も読み直してください。
第 13 回	「論文を書く④」 ・書いた論文をグループで読んでもらって、わかりやすいものであるか、お互いに添削します。お互いの文章力をあげていきます。	前回と同じです。「型にはまった(つまり論文のかたちをした/構造をもった)」文章になっているか、何度も書いてみましょう。関係のない話を織り込んでいないか、主張を裏付ける論理的な構成になっているか、書いたあとに、適当な時間をおいて何度も読み直してください。
第 14 回	「論文を書く⑤」 ・これまでの書き上げたパートをつないで、最後の結論のパートを書きます。脚注や参考文献もつけます。	書き方は前回と同じです。まず一本を自分の力で完成させることに集中して、仕上げに入ってください。
第 15 回	「次年度に備えて、休暇中の課題説明」 ・さて、皆さんは、ひとまずも論文に取り掛かりました。世の中に生じていることがらはとてつもなく複雑ですから、ひとつの問題でもいろんな論点が互いに絡み合った構造となっています。論文は、この構造を一直線にするもので、なかなか難しいものです。このマネジメント専門演習では、まだ完成ではありません。どういう方法論をもって論証するのか、論文のにとって大切なパートがまだまだ抜け落ちています。最終学年の来年度は、これをベースにして本格的に卒業論文を仕上げていきます。	卒業論文こそが大学教育を受けた集大成です。これを 4 年生から始めたのでは間に合いません。再度、書き上げた論文を何度も見直して完成させてください。休むことなく、この半年で身につけた技術を継続して、自分の「技」を磨いてください。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN304-A52	2.科目名	マネジメント専門演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	福本哲也					
5.授業科目の区分	総合演習科目 マーケティング分野に おける実務経験のある 教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	経営学科				9.履修学年	3 年
10.取得資格の要件			11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	[目的] 本演習では、マーケティングの基礎理論をベースに、論理的な思考を習得し、4 年次での卒業研究につながる準備を行うことを目的としている。マーケティングは、様々な製品やサービス、そして企業戦略の重要な指針、活動であり、卒業研究の大きな支えになる。 [概要] 本演習では、前半でマーケティング理論を実感できる事例紹介を行い、その後各自の興味のある業界や領域を探っていく。その後、各自卒業研究のテーマを想定し、グループワークより一層強い研究テーマに仕上げていく。後半はそのテーマを研究するための情報収集を始めていく。そして4 年次につなげていく。 なお、毎回、パソコンを利用して個ワーク、グループワーク、情報収集や報告を行うので、必ず持参すること。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は次のとおりです。 ①マーケティングの理論を理解し、その理論をベースに興味のある研究テーマを選択できる=知的好奇心 ②社会やビジネスの課題について情報収集ができ、研究視点で分析できる=情報収集/分析力 ③研究テーマを論理的に整理し、構成できる=思考/構想 [関連するディプロマポリシー] (1) 自立性 (2) 社会的貢献 (4)問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6)専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	パワーポイントを作成し提示します。 指定の教科書はありません。					
20.参考文献	都度、紹介する。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次のとおりです。すべての課題を実施・提出したうえで合計 60 点以上で合格となります。 (1)授業中の課題:15 点 (2)授業中のワーク:15 点 (3)中間レポート「課題テーマは別途発表」:20 点 (4)総括試験「私の研究テーマと研究手法」:40 点 (5)e-ポートフォリオ「マネジメント総合演習で学んだことを自分の言葉と考え方で表現できる」:10 点					
22.コメント	まず、興味のある業界や領域を発見することを第一の授業目標とします。次に研究目的を明確にし研究テーマを確定。 さらに情報収集手法や論理的な研究の構成を学びます。この過程は、いずれも各自の主体的で能動的な活動により成り立ちます。積極的な参加に期待します。					
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	第 1 回 ○オリエンテーション ・講義の概要、講義の流れ ○教員自己紹介 ○学生自己紹介 ・各自の興味、関心を語る	[予習] 自己紹介を考えてくる 5 分で、興味のある業界、領域を語れるように
第 2 回	第 2 回 ○マーケティングとは ・マーケティングの意味、マーケティングとは何か 継続的に「価値」を生み出すこと ・マーケティングはプランニングの為のツール	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 3 回	第 3 回 ○ マーケティング事例を学ぶ①ロフト ・プランニングの意味、コンセプトのカタチ（触媒型と射抜き型）	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 4 回	第 4 回 ○マーケティング事例を学ぶ②ZARA とユニクロ ・ビジネスモデルとファッションビジネスの現場	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 5 回	第 5 回 ○マーケティング事例を学ぶ③ファッションビジネスの課題と古着の可能性 ・SDGs、PEST 分析	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 6 回	第 6 回 ○マーケティング事例を学ぶ④キーアイテム ・4P とは ・Product の意味	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 7 回	第 7 回 ○マーケティング事例を学ぶ⑤チャネル研究 ・ブランドビジネス	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する [中間レポート] 作成と提出
第 8 回	第 8 回 ○注目される直近のマーケティング領域： マーケティングの教科書、業界地図 ・どんな課題、業界に興味があるか	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 9 回	第 16 回 ○Promotion ・プロモーションの全体像 ・広告のマネージメント	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでくる（60 分） [復習]

	・コミュニケーションデザインへ	授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 10 回	第 10 回 ○SNS とインフルエンサー ・ Z 世代と SNS ・ インフルエンサー事例 ・ AIDMA → AISAS モデルへ	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる (60 分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 11 回	第 11 回 ○個人研究テーマを探る①	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる (60 分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 12 回	第 12 回 ○個人研究テーマを探る②	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる (60 分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 13 回	第 13 回 ○個人研究テーマ、研究手法を探る① グループワークによる	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる (60 分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 14 回	第 13 回 ○個人研究テーマ、研究手法を探る② グループワークによる	[予習] 事前に提示された講義資料を読んでもくる (60 分) [復習] 授業時のワークを見直し完成させ提出する
第 15 回	第 15 回 ○総括試験 「私の研究テーマと研究手法」	[復習] 総括試験を振り返る

1.授業コード (ナンバリング)	SMN304-A53	2.科目名	マネジメント専門演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	河内山 潔					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	卒論作成に向けた準備を行います。まずグループごとに仮にテーマ（業界）を決定し、テーマ（業界）に沿った基本的文献の精読やデータ収集をしてもらいます。その後、グループ内で調査・研究を行い、その都度結果を小レポートにまとめます。期末にそれらを 5,000 文字程度のレポートとして提出してもらいます。 就職活動のためのサポートプログラムを適宜実施します。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性と（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ・企業に関する情報収集方法 ・経営分析の基本的手法 ・就活対策（一般常識対策、SPI 対策、自己?作成） ・自由応募型インターンシップエントリー対策					
19.教科書・教材	特に指定しない。 必要に応じて資料を配布する。					
20.参考文献	特に指定しない。 必要に応じて指示する。					
21.成績評価	プレゼン等					

	持ち寄った文献・データを精読。グループごとにプレゼン資料作成。読み原稿を作成する。	◎プレゼン準備
第 6 回	中間プレゼンテーション① グループ別に調査結果を中間報告。	◆PC ●課題レポート①としてプレゼン資料および読み原稿を提出する ○個人としてのテーマや業界、企業について先行研究を踏まえて考える
第 7 回	研究計画の設計① ・個人のテーマや業界、企業について検討する。 ・必要となる文献や資料を検索し、リストアップする。	◆PC ○テーマや業界、企業に関連する資料や文献を収集する ○研究計画について考える
第 8 回	研究計画の設計② ・研究計画を立てる。 ・必要な文献や資料を検索する。	◆PC ○研究方法に関連する資料や文献を収集する
第 9 回	研究計画の設計③ ・文献などから、適切な研究方法について考察する。 ・必要な文献や資料を検索する	◆PC ○先行研究を参考にして、テーマの背景や仮説を立てる
第 10 回	研究計画の設計④ ・研究テーマの背景を調べたり、仮説を立てたりする ・必要な文献や資料を検索する	◆PC ○プレゼンの準備
第 11 回	研究計画の設計⑤ ・研究テーマの背景と仮説について発表する。 ・必要な文献や資料を検索する。	◆PC ●課題レポート②として、研究テーマの背景と仮説を提出する ○研究の目的について考える
第 12 回	研究計画の設計⑥ ・テーマと仮説を踏まえて、研究の目的を明確にする	◆PC ○研究目的を文章として書き出す
第 13 回	研究計画の設計⑦ ・研究目的を発表する。 ・必要な文献や資料を検索する。	◆PC ○研究テーマ、研究の目的、仮説、研究方法などこれまでの作業をまとめて、最終レポートにまとめる
第 14 回	研究計画の設計⑧ ・研究テーマ、背景、研究の目的、仮説、研究方法などをまとめてレポート提出する準備を行う。	◆PC ○研究テーマ、研究の目的、仮説、研究方法などこれまでの作業をまとめて、最終レポートにまとめる。
第 15 回	・学期の振り返り ・eポートフォリオの入力 ・最終レポートの提出準備 ・授業アンケート	●最終レポートの提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN304-A54	2.科目名	マネジメント専門演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	陳那森					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習では、基本的には学生個人を基本的単位として、卒業論文作成に向けた準備を行う。その過程の中で、業界・業種に特有の課題を発見し、解決に向けた仮説構築・情報収集・分析を経て、具体的な提案をプレゼンテーションしてもらう。学期末には、これらの取り組みを五千字程度のレポートとしてまとめてもらう。ただし、個人を基本単位とするが、グループワークを否定するものではなく、必要に応じて協同や分担をする自発的な工夫も学生に求めるものである。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力に関連して設定しています。 ?自ら課題を発見し、その要因や背景について説明できる ②収集したデータを分析した結果を説明できる ③発見した課題を分析し、改善計画案を作成できる ④知識・経験とふりかえりの成果を総合化し、体系的にまとめることができる					
19.教科書・教材	使用しない					
20.参考文献	『知へのステップ（第 4 版）』 学習技術研究会編 くろしお出版 2015 年 ISBN：9784874246504 C1081 必要に応じ、適宜提示する					
21.成績評価	課題 10 X 2 = 20% 発表 10 X 2 = 20% 文献リスト作成 10% 最終レポート 40% e ポートフォリオ 10%					
22.コメント	・進路（就職や進学など）についての相談やアドバイスも行います。 ・授業時間外学修 授業 1 コマ当たり、2 時間の時間外学修を行う必要があります。 本講義は週 2 コマのため、1 週間で 4 時間（240 分）の復習、予習を行うことが求められます。 メディアライブラリー等を活用した、充実した時間を持ちましょう。					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 火曜 3 限 研究室オフィスアワー 木曜 3 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	・授業の内容や進め方、履修関係の確認 ・春学期の振り返り、秋学期の目標を e ポートフォリオに入力			○e ポートフォリオへの入力未完了の場合は、次回までに入力しておく。 ○次回の授業で使用する教材を予習しておく		
第 2 回	文献の講読 ・与えられた文献を輪読し、ディスカッションを行い、書き方を理解する			○400 字程度に要約する ○次回の授業で使用する教材を読んでおく。		
第 3 回	文献の講読 ・与えられた文献を輪読し、ディスカッションを行			○400 字程度に要約する		

	い、書き方を理解する	
第 4 回	《キャリアセンター合同説明会》	○e ポートフォリオへの記事投稿
第 5 回	論文の書き方（１） ・論文の構成を理解する。	
第 6 回	論文の書き方（２） ・論理的な書き方を学ぶ。	○論文の書き方を復習する
第 7 回	レジュメの書き方 ・レジュメを作成する。	○発表の準備をする
第 8 回	発表（１） ・レジュメを使って発表する。	
第 9 回	研究テーマの検討 ・研究内容の詳細について考える。	○研究内容を整理する
第 10 回	情報収集 ・研究に必要な情報を考える。	○必要な資料を収集する
第 11 回	先行研究 ・各自の研究テーマについて、先行研究を調べる	○先行研究の内容を整理する
第 12 回	卒論テーマの検討 ・先行研究、収集した情報に基づいて、卒論のテーマを検討する	○卒論の内容を考える
第 13 回	論文の組み立て ・卒論の概要について、考える。	○発表準備をする
第 14 回	発表（２） ・卒論の概要を発表する。	○レポートを作成する
第 15 回	まとめ、これからの卒業研究の進め方について	★レポート提出（WebClass 利用）

1.授業コード (ナンバリング)	SMN304-A55	2.科目名	マネジメント専門演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	林万平					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この演習ではこれまでの専門科目、展開科目、オフキャンパスプログラム、課外活動等から得た知見を総動員して、各自の卒業論文の作成に向けて準備を始めることを目的とする。その際、必要に応じて調査や課外活動による学修も取り入れる。 さらに、履修者の関心に応じて、現代社会・経済に関する議論を紹介し、論文執筆における問題意識の涵養を図る。その際、ゲストスピーカーによる講義も行う。					
18.学習目標と DPとの関連	(1) 卒業研究のテーマを選定し、タイトルを決定する。また、卒論の序文、問題意識、先行研究のリストアップを行う。(自律性) (2) テーマの調査分析に関わる議論を進め、実際に調査可能か検討する。(問題発見・解決力) (3) 課外活動に参加し、レポートの作成を通じて卒論執筆の問題意識を深める。(専門的知識・技能の活用力)					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	フィールド調査・統計分析の結果報告書および結果報告 20% (学習目標①、③) 各種レポート提出・発表 20% (学習目標①、②) 中間発表: 20% (学習目標①、②) 最終発表: 20% (学習目標①、②) 最終レポート: 20% (学習目標①、②)					
22.コメント	卒論の執筆は例年多くの学生が苦戦しますが、時間をかけて進めることで多くの問題を回避することができます。就職活動も始まる時期ですが、基本的にゼミへの出席を優先するようにしてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回 第2回	第1・2回 卒業研究に向けたプロジェクトの進捗確認			文献調査 研究プロジェクトの推進		
第3回	第3回 卒論執筆に向けた文献調査に関する報告(1)			文献調査 研究プロジェクトの推進		
第4回	第4回 卒論執筆に向けた文献調査に関する報告(2)			文献調査 研究プロジェクトの推進		
第5回	第5回 日本の災害研究の紹介(1)			文献調査 研究プロジェクトの推進		
第6回	第6回 日本の災害研究の紹介(2)			文献調査 研究プロジェクトの推進		
第7回	第7回 研究テーマとリサーチクエストンに関する			文献調査		

	議論（１）	研究プロジェクトの推進
第 8 回	第 8 回 研究テーマとリサーチクエスチョンに関する議論（２）	文献調査 研究プロジェクトの推進
第 9 回	第 9 回 中間報告（１）	文献調査 研究プロジェクトの推進 中間報告の作成
第 1 0 回	第 1 0 回 中間報告（２）	文献調査 研究プロジェクトの推進 中間報告の作成
第 1 1 回	第 1 1 回 日本の政策研究の紹介	文献調査 研究プロジェクトの推進 最終レポートの執筆
第 1 2 回	第 1 2 回 調査に関する検討（１）	文献調査 研究プロジェクトの推進 最終レポートの執筆
第 1 3 回	第 1 3 回 調査に関する検討（２）	文献調査 研究プロジェクトの推進 最終レポートの執筆
第 1 4 回	最終報告（１）	文献調査 研究プロジェクトの推進 最終レポートの執筆 最終報告の準備
第 1 5 回	最終報告（２）	文献調査 研究プロジェクトの推進 最終レポートの執筆 最終報告の準備

1.授業コード (ナンバリング)	SMN304-M51	2.科目名	マネジメント専門演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見彰					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	卒論作成に向けた準備を行う。 学びの柱①：提示されたテーマについて、グループで選択、テーマに沿った基本的文献の精読やデータ収集をした後、グループ内で調査・研究を行い、結果を小レポートにまとめてパワーポイントにまとめ発表する。 学びの柱②：アンケート調査の手法を学び、テーマにそって調査票を作成し、データ収集を行う。その後、SPSS 統計パッケージを用いてデータ処理、分析を行う。 学びの柱③：期末にそれらを 3,000 文字程度のレポートとしてまとめ報告書を作成する。 ※就職活動のためのサポートプログラムを適宜実施します。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（1）自律性と（6）専門的知識・技能の活用力の学修を目標にする。 ・スポーツ、健康に関する情報収集方法 ・情報収集・分析の基本的手法 ・就活対策（一般常識対策、SPI 対策、自己アピールの資料の作成）					
19.教科書・教材	知へのステップ 必要に応じて資料を配布する。					
20.参考文献	特に指定しない。 必要に応じて指示する。					
21.成績評価	課題プレゼン等 20% 課題レポート 30% 期末レポート 40% e ポートフォリオ 10%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	センターオフィスアワー：水曜日昼休み 研究室オフィスアワー：水曜日 2 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス ・授業の運営等のガイダンス・履修関係 ・スケジュール確認 ・テーマ設定 ・グループ決定			◆PC ○担当したいテーマ、業界や企業について、 先行研究を調べる		
第 2 回	文献・データ収集① 持ち寄った文献・データを精読。グループごとにプレゼン資料作成準備。			◆PC ○関連する文献を入手し必要となる事項や情報 を調べる		
第 3 回	文献・データ収集② 持ち寄った文献・データを精読。グループごとにプレ			◆PC ◎プレゼン用の PPT を作成する(		

	ゼン資料作成。	
第 4 回	文献・データ収集② 持ち寄った文献・データを精読。グループごとにプレゼン用資料作成。不足する情報についてさらに精査。	◆PC ◎プレゼン用資料の作成
第 5 回	中間プレゼンテーション① グループ別に調査結果を中間報告。	◆PC ◎プレゼン準備
第 6 回	中間プレゼンテーション② グループ別に調査結果を中間報告。	◆PC プレゼン準備
第 7 回	研究計画の設計① ・研究方法の手法 ・何をどのようにあきらかにするのか ・研究テーマの背景を調べたり、仮説を立てたりする ・必要な文献や資料を検索する	◆PC ○テーマや業界、企業に関連する資料や文献を収集する ○研究計画について考える
第 8 回	研究計画の設計② アンケート調査の基本 調査票の設計	◆PC ○研究方法に関連する資料や文献を収集する
第 9 回	研究計画の設計③ S P S S の基本的準備	◆PC ○SPSS 資料を基に復讐する
第 10 回	研究計画の設計④ 調査開始	◆PC ○調査依頼の準備
第 11 回	研究計画の設計⑤ データ分析	◆PC ●課題レポート②として、研究テーマの背景と仮説を提出する ○研究の目的について考える
第 12 回	研究計画の設計⑥ 分析結果発表会	◆PC ○研究目的を文章として書き出す
第 13 回	研究計画の設計⑦ 卒論に向けての計画 テーマ	◆PC ○研究テーマ、研究の目的、仮説、研究方法などこれまでの作業をまとめて、最終レポートにまとめる
第 14 回	研究計画の設計⑧ ・研究テーマ、背景、研究の目的、仮説、研究方法などをまとめてレポート提出する準備を行う。	◆PC ○研究テーマ、研究の目的、仮説、研究方法などこれまでの作業をまとめて、最終レポートにまとめる。
第 15 回	・学期の振り返り ・e ポートフォリオの入力 ・最終レポートの提出準備 ・授業アンケート	●最終レポートの提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN304-M52	2.科目名	マネジメント専門演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	樋田大二郎					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	町を耕す企業、人を耕す企業に関心と呼んでいる。この授業では企業・行政・NPO が自分の目的の実現をおこなうことが町や人を耕す社会貢献になることを経験的に学ぶ。 近年の技術革新や企業活動改革、社会改革改革は地域に新しい可能性をもたらそうとしている。社会的起業、スモールビジネス／コミュニティビジネス、自立分散型社会化（エネルギー＝小規模発電、流通＝小ロット化／顔の見える流通、政治・社会＝地域内分権）、DX 化（⇒仕事や買い物の場所によらない居住地選択）、半農半 X、関係人口などの動向である。 この授業では、新しい動向を促進する地域マネジメントのあり方を考える。					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標とベンチマークは以下である。 ●自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる ●社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができる ●専門的知識・技能の活用力 世界と出会い働きかけるツールとしての専門的知識・技能を使いこなすことができる					
19.教科書・教材	授業の中で紹介する					
20.参考文献	授業の中で紹介する					
21.成績評価	毎回の小レポート（50％）、最終レポート（50％）					
22.コメント	実習が中心になります。主体的・創造的に授業づくりに参加してください。楽しいと感じること、普通と感じること、時にはつまらないと感じることが大事だと考えています。					
23.オフィスアワー	授業の中で紹介する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	アイスブレイクとオリエンテーション					
2	一人一人の物語を予感する：will と can と need			自分の研究関心をメモしておく		
3	テイクコントロール、コヴィー、ブルーオーシャン戦略					
4	実習「共通価値（「三方良し」）の創造」					
5	実習「社会貢献できる企業を考える」					
6	社会性、倫理、道徳					
7	産業と社会の地域主義的転回					
8	人を耕す核となる：共同から協働へ					
9	実習「町おこし人材大賞」					
10	実習「高校生の町おこし」					

11	人生はすごろく	
12	実習「レッツ、パーティ」	
13	卒業研究の will と can と need (1)	
14	卒業研究の will と can と need (1)	
15	よい失敗をすること	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN304-M53	2.科目名	マネジメント専門演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	齋藤勝洋					
5.授業科目の区分	演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	経営学部経営学科					
17.授業の目的と概要	この演習ではそれまでの総合マネジメント演習とは異なり、基本的には学生個々人を基本的単位として、業界・業種に特有の課題を発見し、その解決に向けた仮説構築・情報収集・分析を経て、具体的な提案をプレゼンテーションするものである。ただし個人を基本単位とするが、グループワークを否定するものではなく、必要に応じて協同や分担をする自発的な工夫も学生に求めるものである。小論文指導においては、各コースの特性に応じてアドバイザーがきめ細かく対応する。 なお、この授業は広告論、インターネット・マーケティングと連携をしている。インターネット・マーケティングは広告の一部であり、広告はマーケティングの一部である。本授業はマーケティングを視点として持っており、連携することでよりマーケティングの知識を深め、卒業論文製作に必要な知識と論理的構成を考える力を付けることができる。					
18.学習目標と DPとの関連	【目標とするベンチマーク】 ・自律性 レベル3 ・問題発見・解決力 レベル3 ・専門的知識・技能の活用力 レベル3					
19.教科書・教材	プロジェクトマネジメント演習Ⅳのテキストをそのまま利用する。					
20.参考文献	適時、配布する。					
21.成績評価	・研究計画書：30% ・ゼミ発表： 40% ・授業中の課題：20% ・e-ポートフォリオ：10%					
22.コメント	PCを毎回利用するので、持参すること。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	ガイダンス ・授業内容の説明、輪読担当者の決定、Eポートフォリオ、個別面談			第6章の読み込み 新聞読み込み		
第2回	専門図書論文等講読・輪読 第6章「変化する流通構造」その① 日経新聞発表 ○流通構造について(40分)			日経新聞読み込み		
第3回	専門図書論文等講読・輪読 第6章「変化する流通構造」その② 日経新聞発表 ○流通構造について(40分)			第7章読み込み 日経新聞読み込み		
第4回	専門図書論文等講読・輪読 第7章「日本型取引慣行」その① 日経新聞発表			日経新聞読み込み		

	○商慣行について（40 分）	
第 5 回	専門図書論文等講読・輪読 第 7 章「日本型取引慣行」その② 日経新聞発表 ○商慣行について（40 分）	第 8 章読み込み 日経新聞読み込み
第 6 回	専門図書論文等講読・輪読 第 8 章「流通系列化からの脱却」その① 日経新聞発表 ○流通系列化について（40 分）	日経新聞読み込み
第 7 回	専門図書論文等講読・輪読 第 8 章「流通系列化からの脱却」その② 課題テーマと仮説の構築開始 日経新聞発表 ○流通系列化について（40 分）	第 9 章読み込み 日経新聞読み込み
第 8 回	専門図書論文等講読・輪読（資料・データ収集分析） 第 9 章「ロジスティックス」その① 日経新聞発表 ○ロジスティックスについて（40 分）	日経新聞読み込み
第 9 回	専門図書論文等講読・輪読（研究計画書・企画書指導） 第 9 章「ロジスティックス」その② 日経新聞発表 ○ロジスティックスについて（40 分）	日経新聞読み込み
第 10 回	専門図書論文等講読・輪読（研究計画書・企画書指導） 日経新聞発表	日経新聞読み込み
第 11 回	研究計画書・企画書指導 日経新聞発表	次週までに報告資料（パワーポイント）の完全完成
第 12 回	発表準備 ・報告順番の決定 ・報告資料（パワーポイント）のプレ発表	
第 13 回	研究計画発表	
第 14 回	研究計画発表	
第 15 回	研究計画発表	研究計画書提出

1.授業コード (ナンバリング)	SMN304-M54	2.科目名	マネジメント専門演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	肖威					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	無し					
17.授業の目的と概要	この演習ではそれまでの総合マネジメント演習とは異なり、基本的には学生個々人を基本的単位として、業界・業種に特有の課題を発見し、その解決に向けた仮説構築・情報収集・分析を経て、具体的な提案をプレゼンテーションするものである。これまでに学修してきた経営学の基本的な論点や業界の知識をオーバービューしながら、各自の卒業論文の作成に向けて準備を始める。					
18.学習目標と DPとの関連	各コース科目での学修を取り入れ、関心のある業界の現状と課題を整理し、各業界のグローバル化への対応について考えたうえ、研究テーマの候補をいくつか示す。					
19.教科書・教材	必要に応じて Web class に掲載するもしくは適宜配布。					
20.参考文献	授業中告知する。					
21.成績評価	課題（先行研究論文要約、レジュメ）： 40％ 文献リストの作成 ： 10％ 参考図書、発表 ： 40％ e-ポートフォリオ ： 10％					
22.コメント	「プロジェクトマネジメントⅣ」に継続する科目になるので、配布資料及び各自作成したレポートなどを用意してください。					
23.オフィスアワー	秋学期： 木曜日昼休み センターオフィスアワー 木曜日 3 限 研究室オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション ・春学期の振り返り、秋学期の目標を e ポートフォリオに入力する。 ・履修状況を確認、個別面談の日程を組む			○次回の授業で使用する教材を読んでおく。 (120 分)		
	業界のグローバル競争環境分析 春学期の研究対象業界の現状とその業界のグローバル競争環境（⇒学期の主題）をグループで議論し、その内容についてまとめる			○分担内容について各自で調査しグループでまとめる（240 分）→第 6， 7 回プレゼン		
	輪読『グローバル勝者への道』 ・日本企業のグローバル化への対応を学習する			○各自の関心企業のグローバル化への対応について調べる（180 分）		
	キャリアサポートガイダンス（合同）					
	輪読『日本企業の新しい成長の形』 ・事例企業の記事資料を調べる。 ・代表的なものを 400 字程度にまとめる。					

	論文の書き方 (1) ・ 論文の構成を理解する。 ・ G Wプレゼン (1)	○論文の書き方を復習する。(180 分)
	論文の書き方 (2) ・ 論理的な書き方を学ぶ。 ・ G Wプレゼン (2)	○論文の書き方を復習する。(240 分)
	情報収集 ・ 研究に必要な情報を考える。 ・ 資料リストのファイルを作成する。	○必要な資料を収集する。(480 分)
	先行研究 ・ 各自の研究テーマについて、先行研究を調べる。	○先行研究の内容を整理する。(480 分)
	先行研究の発表 (1) ・ 代表的な先行研究のレジюмеを発表	○発表用の資料作成と修正 (480 分)
	先行研究の発表 (2) ・ 代表的な先行研究のレジюмеを発表	○発表用の資料作成と修正 (480 分)
	卒論テーマの検討 ・ 先行研究、各コース科目での学修を取り入れ、関心のある業界の現状と課題を整理し、研究テーマの候補を検討する。	○卒論の内容を考える。(240 分)
	論文の組み立て ・ レポートの概要について、考える。	○発表準備をする。(240 分)
	発表 (2) ・ 研究テーマの候補を発表する。	○レポートを作成する。(480 分)
	まとめ ・ 授業アンケート ・ レポートの提出	

1.授業コード (ナンバリング)		SMN304-M55	2.科目名		マネジメント専門演習		3.単位数	2
4.授業担当教員		田中綾子						
5.授業科目の区分		総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期		
8.履修可能な専攻		経営学科			9.履修学年	3 年～		
10.取得資格の要件		特になし		11.先修条件	セーフティマネジメント関連科目の単位取得と 防災士資格取得が望ましい			
12.研究室		※※※		13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address		※※※		15.授業形態	演習			
16.履修制限								
17.授業の目的と概要		この演習ではこれまでの専門科目、展開科目、オフキャンパスプログラム、課外活動等から得た知見を総動員し、セーフティマネジメントに関わる様々な事象について、自らの視点や立場を仮定して考察を深める。学習の手法としては、ゼミ生相互による説明・質疑によって進める。 また、地域や学校における研修教材を試作する。						
18.学習目標と DPとの関連		地域や組織内でのプロジェクト企画や研究計画に対し、コメントや評価ができることを目標とします。具体的には、 1. プロジェクト等の成果・効果を説明できる 2. プロジェクト等の評価に適した客観的指標を用いることができる 3. プロジェクト等の改善点を提案できる 4. 協働により得られる多様な視点をプロジェクト等に反映することができる 5. 相手の立場に配慮して反対意見や批評を述べることができる ことを目指す。						
19.教科書・教材		授業中に適宜指定・配布する						
20.参考文献		新聞記事、専門誌、論文等、適宜紹介する						
21.成績評価		演習における発表内容：20％ 演習への貢献：20％ 教材作成への貢献：20％ 通年の活動の自己評価と発信：20％ 卒業研究計画：20％						
22.コメント		卒論執筆に向けた、客観的評価の手法を身につけます。演習への貢献度を重視しますので、積極的に発言してください。						
23.オフィスアワー		火曜日 1 限(4 号館 4 階研究室)						
24.授業回数		25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)			
第 1 回	PDCA サイクルに基づいた、モニタリング・評価の手法			<持参するもの>全回ノートパソコン				
第 2 回	事業評価の手法①							
第 3 回	事業評価の手法②							
第 4 回	事業評価の手法③							
第 5 回	研究計画の発表①							
第 6 回	研究計画の発表②							
第 7 回	研究計画の発表③ 教材の企画							
第 8 回	研究計画の発表④							
第 9 回	改善提案の手法①							
第 10 回	改善提案の手法②							

	教材企画の検討	
第 11 回	論文の構成①	
第 12 回	論文の構成②	
第 13 回	研修教材の試作①	
第 14 回	研修教材の試作②	
第 15 回	プロジェクト評価のまとめ 研究計画書の提出	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN310-Y51	2.科目名	プロジェクト・マネジメント演習Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	専門教育 総合演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	各専攻（エアライン・ホテルブライダル・旅行・観光 ビジネス専攻（地域コース）など				9.履修学年	3 年生以上
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	①先に単位取得が必須の科目：基礎演習または 課題研究Ⅰ・Ⅱのいずれか ②履修を推奨する科目：マーケティング関連 科目、エアラインビジネス論、現代航空事情		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	ゼミ振り分けの人数					
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目（PM 演習Ⅰ・Ⅱ）の目的は、連携先の企業・団体の提示する問題の解決に他者と協働して取り組むことで、これまで学んできた知識や技術を統合的に活用する力を強化することにあります。具体的には、ものごとの見方や考え方、資料・データの収集と分析の方法、議論の進め方、柔軟な発想力、深く考える力、他者への理解や共感、不足する知識や技術への気づきと自己能動的学習による知識や技術の修得、プレゼンテーション力を強化します。 【概要】 今年度の全学年に共通する学科の学びのテーマは「ウェルビーイング社会の実現につながる新たな観光価値をデザインする。」です。3 年次では、「ウェルビーイング社会を実現する観光ビジネスを考える」というテーマで、グローバルに変化し続ける社会と経済のなかで、観光ビジネスはどのようにウェルビーイング社会の実現につながるのかについて、以下の内容に取り組みます。 ①ビジネス構造と機能を理解する ②従来の枠にとらわれない「新しい観光価値」を具体的なアイデアにデザインする ③専門分野のビジネス課題について実現可能な提案をする 具体的な成果物としては、以下を作成します。 ・個人ワークで行う成果計画表 ※「何を、なぜ調べる必要があるのか」課題の背景、要因（なぜそれが課題になっているのか）をまとめる。 ・個人ワークで行う工程表 ・個人ワークで行う調査報告書（6000 字） ・グループによる発表（ポスター形式） 授業を進めるにあたっては、「Team」あるいは「Learning Community」を形成し、協働しながら互いに高めあう学びを目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目（PM 演習Ⅰ・Ⅱ）の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の(6)「専門的知識・技能の活用力…マーケティングの知識・手法に基づき、観光産業で求められる知識・技能を活用して、既存の課題の解決と新たな企画・提案ができる」に関連しています。 【本科目の学習目標】 ①学んだ知識や技能を統合的に活用することにより課題を発見し、解決することができる。 ② 課題解決あるいは目標達成のために必要となる知識・技能の不足に気づき、それを補うための主体的学習ができる。 ③他者貢献の意味を理解し、コミュニケーションを図り、チームビルディングに主体的に参加しチームに貢献することができる。					

	④目標達成に向かって組織、工程、資源のマネジメントを効率的に行うことができる。 ⑤学外の関係者と積極的かつ効率的にコミュニケーションを図り、ビジネスマナーを適切に行動化することができる。 ⑥創り上げたアイデアをわかりやすくまとめ、的確かつ効果的に相手に伝えるプレゼンテーションができる。	
19.教科書・教材	適宜、資料を配信します。	
20.参考文献	なし	
21.成績評価	PM 演習Ⅰ 個人調査の成果物：50% ……学習目標①② 行程表（個人課題で提出したもの）：30% ……学習目標④ 専攻課題文献のまとめ（2本）：20% ……学習目標② PM 演習Ⅱ 調査計画表：20% ……学習目標②④ 発表 PPT（個人課題で提出したもの）：30% ……学習目標③⑤⑥ 調査研究報告書（6000字以上）：50% ……学習目標①② ※成果物の評価にはルーブリック評価表を使用します。授業初回の説明でよく確認してください。 ※本授業は主体的な学習	
22.コメント	エアライン専攻ゼミでは、最終ゴールはもちろんのこと、以下についても取り組みます。 ①調査研究レポートの作成、就活に向けて文章力を鍛える。⇒毎回、PCを持参し、課題のテーマについて文章を作成します。また課題図書も設けます。 ②データの収集および分析力を高める。⇒アンケートの作成やデータ化、データの分析から表やグラフの作成をできるように ITリテラシーを身につけます。 ③就活に向けた情報力を高める。⇒具体的な業界や企業について担当者を決めて発表します。（キャリアプランニングでも同じ課題が出されます。同じ内容でか	
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3号館 3302号室	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 第2回	第1回：オリエンテーション（進め方全体やゼミで目指す方向を確認） 第2回：2年次の研究内容の発表 グループ決定	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第3回 第4回	第3回：研究テーマについての検討（前年度の取り組みについて発表を確認） 第4回：フィールドワークに向けてテーマから確認すべき事項を取りまとめる。フィールドワークは空港見学を予定しており、開催は5月から6月の土曜日の予定。	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第5回 第6回 第7回	第5回：フィールドワーク後のテーマに関する部分をまとめ、更なる調査項目をピックアップ 第6回&第7回：フィールドワーク実施により休講	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第8回 第9回	第8回：成果計画表の作成 第9回：工程表の作成	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第10回 第11回	第10回：合同発表会に向けて準備 第11回：テーマ発表会 ANA 総研によるアドバイス	毎回、課題が示されます。その課題に関して、制限字数を目途に作成し、提出をお願いします。
第12回～第	第12回～第14回：企業からのアドバイスや他大学の	毎回、課題が示されます。その課題に関し

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SMN310-Y52	2.科目名	プロジェクト・マネジメント演習Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均					
5.授業科目の区分	専門教育 総合演習科目	6.必修・ 選択の区分	必修		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	指定なし				9.履修学年	3 年生以上
10.取得資格の要件			11.先修条件	履修を推奨する科目：マーケティング関連科目、および思考法		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	20 名					
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目の目的は、連携先の企業・団体の提示する問題の解決に他者と協働して取り組むことで、これまで学んできた知識や技術を統合的に活用する力を強化することにあります。具体的には、ものごとの見方や考え方、資料・データの収集と分析の方法、議論の進め方、柔軟な発想力、深く考える力、他者への理解や共感、不足する知識や技術への気づきと自己能動的学習による知識や技術の修得、プレゼンテーション力を強化します。 【概要】 今年度の学びのテーマは「ウェルビーイング社会の実現につながる新たな観光価値をデザインする。」です。3 年次では、「ウェルビーイング社会を実現する観光ビジネスを考える」というテーマで、グローバルに変化し続ける社会と経済のなかで、観光ビジネスはどのようにウェルビーイング社会の実現につながるのかについて、以下の内容に取り組みます。 ①ビジネス構造と機能を理解する ②従来の枠にとらわれない「新しい観光価値」を具体的なアイデアにデザインする ③専門分野のビジネス課題について実現可能な提案をする 具体的な成果物としては、以下を作成します。 ・個人ワークで行う成果計画表 ※「何を、なぜ調べる必要があるのか」課題の背景、要因（なぜそれが課題になっているのか）をまとめる。 ・個人ワークで行う工程表 ・個人ワークで行う調査報告書（6000 字） ・グループによる発表（ポスター形式） 授業を進めるにあたっては、「Team」あるいは「Learning Community」を形成し、協働しながら互いに高めあう学びを目指します。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標はDP（ディプロマ・ポリシー）の(6)「専門的知識・技能の活用力…マーケティングの知識・手法に基づき、観光産業で求められる知識・技能を活用して、既存の課題の解決と新たな企画・提案ができる」に関連しています。 【本科目の学習目標】 ①学んだ知識や技能を統合的に活用することにより課題を発見し、解決することができる。 ② 課題解決あるいは目標達成のために必要となる知識・技能の不足に気づき、それを補うための主体的学習ができる。 ③他者貢献の意味を理解し、コミュニケーションを図り、チームビルディングに主体的に参加しチームに貢献することができる。 ④目標達成に向かって組織、工程、資源のマネジメントを効率的に行うことができる。 ⑤学外の関係者と積極的かつ効率的にコミュニケーションを図り、ビジネスマナーを適切に行動化することができる。 ⑥創り上げたアイデアをわかりやすくまとめ、的確かつ効果的に相手に伝えるプレゼンテーションができる。					

19.教科書・教材	適宜、資料を WEB 配信します。	
20.参考文献	なし	
21.成績評価	調査計画表：20%・・・学習目標②④ 発表 PPT（個人課題で提出したもの）：30%・・・学習目標③⑤⑥ 調査研究報告書（6000 字以上）：50%・・・学習目標①② ※成果物の評価にはルーブリック評価表を使用します。授業初回の説明でよく確認してください。 ※本授業は主体的な学習活動を中心として運営されますので、特別な事情の無い欠席については、基本的には認められませんので留意して下さい。	
22.コメント	前期に続いて PBL の取り組みを続ける一方で、活動を通じて感じたさまざまな問題意識を掘り下げ、調査研究報告書をまとめます。 周囲の社会や出来事にしっかり目を向け、好奇心をもって「なぜ？」という問いを持続けましょう。 また、就職に向けて自分の将来についてもしっかりと考えてください。 将来につながる経験と学びが得られるように、ゼミでの活動を十分に活用しましょう。	
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 5 限（秋） 学修支援センター：火曜昼休み（秋）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	《イントロダクション》 授業の目的、学習目標、成績評価の方法、卒業研究、就活との関係について理解しましょう。 《ブロック 1》課題の解決 ①ディスカッション：解決策の検討 調査報告書に基づき、課題解決の方策を検討します。 解決策の検討に必要な知識やスキルが不足していないかも検討しましょう。	【課題 1－1】 解決策の検討において気づいた不足する知識やスキルについて調べ、次回授業で発表・共有して下さい。（担当割り当て個人ワーク）
第 2 回	《ブロック 1》課題の解決 ①ミニ講義+質疑応答+ディスカッション： 課題 1－1 についてのミニ講義を行い、質疑応答の後、ディスカッションを行い、解決策の検討を行います。	【課題 2】 解決策についてのアイデア出しを行い、レポートにまとめ、次回授業時に提出して下さい。（全員個人ワーク）
第 3 回	《ブロック 1》課題の解決 ①ミニ講義+質疑応答： 課題 1－1 についてミニ講義を行い、不足していた知識やスキルを補完します。 ②発表+ディスカッション： グループに分かれ課題 1－2 を各自発表後、ディスカッションを行い、解決策をまとめます。	【課題 1－2】 企画提案書の作り方について調べ、資料を作成し、次回授業で講義をして下さい。（担当割り当て個人ワーク）
第 4 回	《ブロック 2》企画提案 ①ミニ講義：企画提案のまとめ方 企画提案のまとめ方について詳細を理解します。 ②講義：調査研究報告書の作り方 調査研究報告書の構成、書き方、留意点等について理解します。	【課題 1－3】 プレゼンテーション資料の作り方、プレゼンテーションの方法について、調べ次回授業で講義をして下さい。 【課題 3－1】 調査研究報告書のテーマ案と構成を考えて提出して下さい。（全員個人ワーク）
第 5 回	《ブロック 2》企画提案	【課題 3－2】

	①ミニ講義：プレゼンテーションの方法 プレゼンテーション資料の作り方、方法、留意点について理解します。 ②ディスカッション：プレゼンテーション資料 プレゼンテーション資料の構成、内容、デザイン、スタイルについて検討を行います。	調査研究報告書の『調査計画書』を提出してください。(全員個人ワーク) 【課題4－1】 プレゼンテーション資料のラフ案を作成し、次回授業で発表して下さい。
第6回	《ブロック2》企画提案 ①発表+ディスカッション：プレゼンテーション 各自プレゼンテーションラフ案を発表し、ディスカッションを行い、構成、内容、デザイン、スタイル、作業の役割分担を決めましょう。	【課題3－3】 調査研究報告書の執筆を始めてください。(全員個人ワーク) 【課題4－2】 プレゼン資料の作成を開始(担当割り当て個人ワーク)
第7回	《ブロック2》企画提案 ①講義：論理的な文章の書き方 論理的な文章の書き方についての詳細を理解し、調査研究報告書の作成に活用しましょう。	【課題3】 調査研究報告書の執筆を続けて下さい。(全員個人ワーク) 【課題4－3】 プレゼン資料を完成させて下さい。(グループワーク)
第8回	《ブロック2》企画提案 ①制作：プレゼン資料 グループに分かれ、プレゼン資料案を発表し、とりまとめ作業を行います。全体のデザイン、流れに留意して完成させましょう。	【課題3】 調査研究報告書の執筆を続けて下さい。(全員個人ワーク) 【課題4－3】 プレゼン資料を完成させて下さい。(グループワーク)
第9回	《ブロック2》企画提案 ①発表+審査・講評：プレゼンテーション 各グループごとにプレゼンテーションを行います。全員で審査を行い、審査結果を集計・発表後、講評を行います。 1位となったグループは、各グループの良い処を取り入れ、審査結果、講評を参考に、最終案を作成します。	【課題3】 調査研究報告書の執筆を続けて下さい。(全員個人ワーク) 【課題4－4】 1位となったグループは、審査、講評結果を踏まえ、プレゼン資料を完成させて下さい。(グループワーク)
第10回	《ブロック2》企画提案 ①発表+講評：プレゼンテーション 1位グループが発表を行います。全員で講評を行い、ブラッシュアップします。 ②発表+助言・指導：調査研究報告書 調査研究報告書の進捗状況を各自報告、助言指導を行います。	【課題3】 調査研究報告書の執筆を続けて下さい。(全員個人ワーク)
第11回	《ブロック2》企画提案 ディスカッション： 連携先へのプレゼンテーション審査会の企画を立てます。日程、案内状、設営、資材、当日の運営、役割分担について検討して下さい。	【課題3】 調査研究報告書の執筆を続けて下さい。(全員個人ワーク) 【課題4－5】 プレゼンテーション審査会の準備活動開始
第12回	《ブロック2》企画提案 連携先をお招きし、プレゼンテーション審査会を行います。 各自役割分担に応じて活動して下さい。	【課題】 プレゼンテーションでの指摘について整理し、改善点をまとめる。

第 1 3 回	《ブロック 2》企画提案 ①ディスカッション：ふりかえり プレゼンテーションの振り返りを行います。 ②助言・指導 調査研究報告書の作成状況を報告し、修正点・不足している点について理解します。	【課題 3】 調査研究報告書の最終原稿案を提出して下さい。
第 1 4 回	《ブロック 2》企画提案 調査研究報告書の原稿を返却します。コメントを参考に修正を行い、最終原稿を作成して下さい。	【課題 3】 調査研究報告書の最終原稿を作成し提出して下さい。
第 1 5 回	《ブロック 2》企画提案 調査研究報告書の振り返り ・調査方法が適切だったか ・不足している情報はなにか ・分析は適切だったか ・さらに深めるための課題はなにか 等	【課題 5】 振り返りシートをまとめる

1.授業コード (ナンバリング)	SMN401-A51	2.科目名	卒業研究 (秋春)		3.単位数	4
4.授業担当教員	陳那森					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期～2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	4 年間にわたる大学での学習成果として、各自が関心のあるテーマで卒業論文を完成させる (通年)。前半は、論文作成の基礎となる文献研究と資料収集を中心となるが、授業では発表・ 討論を通じて他の学生のテーマについても理解する。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (1) 自律性、(4) 問題発見・解決力、 (5) コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技能の活用力に関連しています。 ①適切なテーマを設定し、テーマに関する文献・資料を収集できる。 ②テーマに関する研究計画書を作成することができる。 ③論文作成過程で、ゼミ内での討論や報告ができる。 ④学びの集大成として、卒業論文を完成させる。					
19.教科書・教材	使用しない					
20.参考文献	適宜指示					
21.成績評価	文献研究・資料収集など課題への取り組み： 20 % 【目標①に対応】 研究計画書： 20 % 【目標②に対応】 中間報告会・最終報告会： 10 % 【目標③に対応】 卒業論文： 50 % 【目標④に対応】					
22.コメント						
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 火曜昼休み 研究室オフィスアワー 金曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
2022 年度秋学 期 第 1 回・第 2 回	ガイダンス、e ポートフォリオ、卒論執筆要領 ・前学期の振り返り、春学期の目標設定を e ポートフ ォリオに入力する。 ・授業の進め方、卒論提出までのスケジュールを確認 する。 研究計画 (1) ・卒論執筆要領を説明する。 ・テーマのねらい、研究方法を検討する。			○ベンチマークチェックを行い、e ポートフォ リオに入力する。(60 分) ◆パソコン◆ ○テーマを見直す。(180 分)		
第 3 回・第 4 回	研究計画 (2) ・論文の目的、概要を整理する。 研究計画 (3) ・資料、参考文献リストを作成する。			○目的、概要を 1,000 字程度にまとめる。 (180 分) ○資料、参考文献リストを完成させる。(180 分)		
第 5 回・第 6 回	中間発表 (1) ・テーマ、研究方法、資料等について報告する。 中間発表 (2) ・テーマ、研究方法、資料等について報告する。			○研究を進める。(180 分) ○研究を進める。(180 分)		
第 7 回・第 8 回	論文構成の検討 ・研究計画書 (目的・研究方法) を見直す。			○研究を進める。(180 分) ★研究計画書を提出する。研究計画書提出期		

	研究計画書の作成 ・資料、参考文献を再検討する。	限（ 月 日（ ）） ○研究を進める。(180 分)
第 9 回・第 10 回	個別研究報告（1） 個別研究報告（2）	○研究を進める。(180 分) ○研究を進める。(180 分)
第 11 回・第 12 回	個別研究報告（3） 個別研究報告（4）	○研究を進める。(180 分) ○研究を進める。(180 分)
第 13 回・第 14 回	報告会準備 中間報告会（1） ・合同で中間報告会を実施する。	○中間報告会資料を作成する。(300 分) ○研究を進める。(180 分) ○研究を進める。(180 分)
第 15 回 2023 年度春学期 第 16 回	中間報告会（2） ・合同で中間報告会を実施する。 ・春学期の振り返り ガイダンス、e ポートフォリオ、卒論執筆要領 ・前学期の振り返り、秋学期の目標設定を e ポートフォリオに入力する。 ・今後のスケジュール、卒論執筆要領を確認する。	★（テーマ変更の場合）研究計画書変更届提出(提出期限 月 日（ ）） ○冬期休暇中に、5,000 字以上を執筆する。 (1440 分) 【春学期】 ◆パソコン◆ ★論文提出（5000 字以上） ○ベンチマークチェックを行い、e ポートフォリオに入力する。(60 分) ○研究を進める。(300 分)
第 17 回・第 18 回	中間研究報告（1） 中間研究報告（2）	○研究を進める。(300 分) ○研究を進める。(300 分)
第 19 回・第 20 回	中間研究報告（3） 中間研究報告（4）	○研究を進める。(300 分) ○研究を進める。(300 分)
第 21 回・第 22 回	個別研究報告（5） ・章ごとに報告する。 個別研究報告（6） ・章ごとに報告する。	○研究を進める。(300 分) ○研究を進める。(300 分)
第 23 回・第 24 回	個別研究報告（7） ・章ごとに報告する。 個別研究報告（8） ・章ごとに報告する。	○研究を進める。(600 分) ○研究を進める。(600 分)
第 25 回・第 26 回	論文要旨 ・論文の要旨をまとめる。 原稿修正	○研究を進める。(600 分) ★原稿提出 ○原稿を修正する。(300 分)
第 27 回・第 28 回	卒論提出 報告会準備	○原稿を修正する。(300 分) ★卒論提出期間内に提出する ○卒論報告会資料を作成する。(240 分)
第 29 回・第 30 回	ゼミ内卒論報告会 最終報告会	○卒論報告会資料を修正する。(120 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SMN405-Y51	2.科目名	卒業研究Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	章志華					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科 データサイエンス専攻			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件				11.先修条件	専門演習Ⅰ～Ⅳを履修済み	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 卒業研究を通じて調査・研究のプロセスを習得し、客観的なデータ収集と探索的なデータ分析を行うことで、データに基づく意思決定や問題解決に必要な能力を育成することを目的とする。 概要： 専門演習Ⅲ・Ⅳで習得した知識・技術と分析ツールのスキルを総合的に活用し、社会的な観点に基づいて、学生自身がテーマ設定からデータ収集・分析、結果の解釈までを一貫して行う。この過程を通して、卒業研究としての成果をまとめる。 「卒業研究Ⅱ」では、研究・執筆過程における論理的な思考と研究の検証を深め、結果をまとめる体験に重点を置く。研究成果は、卒業論文・卒業制作としてまとめ、卒業発表を行う。					
18.学習目標と DPとの関連	1. 社会・地域課題をデータ分析によって解決するための方法論を理解する 2. 実際にデータ分析を行い、課題解決に向けた提案を行う 3. 論理的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力を向上させる 4. 分析結果や研究成果を論文にまとめ、プレゼンテーションを行う [関連するディプロマポリシー] (1) 自律性 (4) 問題発見・解決力 (5) コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	必要に応じて紹介する					
20.参考文献	1. 明石芳彦,「社会科学系論文の書き方」, ミネルヴァ書房； 2. 白井利明, 高橋一郎,「よくわかる卒論の書き方[第2版] (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)」, ミネルヴァ書房； 3. 別府 俊幸, 渡辺 賢治,「まちがいだらけの文書から卒業しよう 基本はここだ! 工学系卒論の書き方」, コロナ社；					
21.成績評価	・ゼミ内発表 10% 【対応目標①～④】 ・中間発表 10% 【対応目標①～④】 ・卒業論文 60% 【対応目標①～④】 ・卒業発表ないし口頭試問 20% 【対応目標①～④】					
22.コメント						
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 木曜3限 (神戸山手) 研究室オフィスアワー 木曜お昼 (神戸山手)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	研究進捗と卒論執筆準備の確認 ・前学期の振り返りと進捗状況の確認 ・卒論執筆準備状況の確認 ・秋学期のスケジュール確認			・夏休み中の研究成果を確認し、卒論執筆の準備状況を確認する。		
第2回	研究計画の遂行 (7)			・研究を遂行する		

	・研究を遂行し、報告する ・執筆状況の報告、個別指導	・卒論原稿を準備する
第3回	研究計画の遂行（8） ・研究を遂行し、報告する ・執筆状況の報告、個別指導	・研究を遂行する ・卒論原稿を準備する
第4回	研究計画の遂行（9） ・研究を遂行し、報告する ・執筆状況の報告、個別指導	・研究を遂行する ・卒論原稿を準備する
第5回	研究計画の遂行（10） ・研究を遂行し、報告する ・執筆状況の報告、個別指導	・研究を遂行する ・卒論原稿を準備する
第6回	研究をまとめる（1） ・卒論執筆 ・執筆状況の報告、個別指導	・研究のまとめと卒論執筆 ・卒論提出原稿案の準備
第7回	研究をまとめる（2） ・卒論執筆 ・執筆状況の報告、個別指導	・研究のまとめと卒論執筆 ・卒論提出原稿案の準備
第8回	研究をまとめる（3） ・卒論執筆 ・執筆状況の報告、個別指導	・研究のまとめと卒論執筆 ・卒論提出原稿案の準備
第9回	卒論最終原稿の確認（1） ・最終原稿の確認と提出準備	・卒論提出原稿案の用意
	卒論最終原稿の確認（2） ・最終原稿の確認と提出準備	・卒論提出原稿案の用意
	☆最終原稿の提出 ・卒論最終原稿の提出	・卒論最終原稿2部提出（紙媒体） ・締切：12月上旬（詳細日程は改めてお知らせします）
	卒論発表資料の準備（1） ・発表原稿の準備	・発表原稿の準備
	卒論発表資料の準備（2） ・発表原稿の準備	・発表原稿の準備
	卒論発表のリハーサル（1） ・セミごとに実施	・卒論発表の練習
	卒論発表のリハーサル（2） ・セミごとに実施	・卒論発表の練習

1.授業コード (ナンバリング)	SMN405-Y52	2.科目名	卒業研究Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	4 年	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	4 年間にわたる大学での学習成果として、各自が関心のあるテーマ設定・独創的な仮説設定により、卒業研究（論文または制作）を完成させる（通年）。授業では発表・討論を通じて他の学生のテーマについても理解する。					
18.学習目標と DPとの関連	情報技術と社会に関する研究テーマを設定する。 ■ そのテーマに関する先行研究（文献・資料）をレビューし、必要なフィールド調査や分析を行う。 ■ これらを通して、研究テーマについて独創的な仮説を設定する。 ■ 卒業研究作成のプロセスで、ゼミ内での討議や発表を行う。 ■ 4 年間の学びの集大成として、卒業研究を完成させる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	ゼミノート（毎回の内容記録・コメント等）：20% 研究計画：20% 中間報告会・最終報告会発表：10% 卒業研究：50%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	<ガイダンス、eポートフォリオ、卒業研究作成要領> ・前学期の振り返り、秋学期の目標設定をeポートフォリオに入力する。 ・今後のスケジュール、卒業研究作成要領を確認する。 ・夏休みの課題を確認する。			○eポートフォリオに入力する		
	<夏休みの課題報告>			★夏季休暇期間中に卒研の40%作成を目途とする。		
	<後期の計画確認>					
	<個別研究報告（1）>					
	<個別研究報告（2）>					
	<個別研究報告（3）>					
	<個別研究報告（4）>					
	<研究要旨> <原稿見直し・修正>			○研究を進める。 ★原稿提出 ○原稿を修正する。		
	<研究要旨> <原稿見直し・修正>			○研究を進める。 ★原稿提出		

		○原稿を修正する。
	<卒研提出> <報告会準備>	
	<卒研提出> <報告会準備>	○原稿を修正する。 ★卒研提出期間内に提出する ○卒研報告会資料を作成する。
	<ゼミ内卒研報告会>	
	<ゼミ内卒研報告会>	
	<最終報告会準備>	
	<最終報告会準備>	

1.授業コード (ナンバリング)	SMN405-Y53	2.科目名	卒業研究Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	4 年次	
10.取得資格の要件			11.先修条件	基礎演習・課題研究・専門演習を修得していること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	テーマを決める?問題設定?調査を経て、卒業論文を執筆する。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の(S1)修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、(S2)社会や文化について科学的に理解する力 (S3) 新たな文化創造のための豊かな感性を涵養し、社会発展に貢献する力。 健やかで 調和のとれた人格と、しなやかで 豊かな知性を自ら形成で きる人間性の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①問題意識を具体化し、テーマを設定しその研究目的を説明できる。 ②調査を計画・実施し、収集したデータの分析ができる。 ③収集したデータをもとに考察し論文にまとめることができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	課題 1 : 卒論計画書…20 点[学習目標①に対応] 課題 2 : 卒業論文…70 点[学習目標②③に対応] 課題 3 : 口頭試問…10 点[学習目標①③に対応]					
22.コメント						
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 3 限、学修支援センター：木曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション			準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする (100 分) 復習：指示された参考文献や資料を読む (100 分)		
	中間報告			準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする (100 分) 復習：指示された参考文献や資料を読む (100 分)		
	中間報告			準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする (100 分) 復習：指示された参考文献や資料を読む (100 分)		
	中間報告			準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする (100 分) 復習：指示された参考文献や資料を読む (100 分)		

		分)
	文献調査	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	中間報告	準備学習：報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分） 課題1 提出
	中間報告	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	中間報告	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	中間報告	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	中間報告	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	中間報告	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	口頭試問	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	口頭試問	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	口頭試問	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分）

		分) 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）
	口頭試問	準備学習：文献やインターネットなどでサーベイをおこない、報告の準備をする（100分） 復習：指示された参考文献や資料を読む（100分）

1.授業コード (ナンバリング)	SMN405-Y54	2.科目名	卒業研究Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部			9.履修学年	4 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	専門演習 3, 4	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業では卒業論文を執筆します。また、関連する文献を読みます。取材を通じて得たデータから文章を軸にした成果物を作成しますこのゼミを通じて、調査計画書や取材、文章作成、成果物の刊行などを行います。					
18.学習目標と DPとの関連	この授業の学習目標は DP（ディプロマポリシー）の自律性、問題発見・解決力、コミュニケーションスキルの学修に関連しています。 ①自身の「共生」をキーワードとするテーマを見つけることができる。（自律性・問題発見・解決力） ②自身のテーマに関連して調査、取材を行う。（コミュニケーションスキル） ③調査、取材から成果物をつくる。（自律性・問題発見・解決力）					
19.教科書・教材	別途指定します。					
20.参考文献	別途指定します。					
21.成績評価	・進捗レポート（全 15 回）・・・30% ・ミニレポート・・・30% ・アウトプットワーク・・・40%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 授業の全体像を説明する。			進捗レポートを作成する		
第 2 回	卒論計画に沿って執筆を行う（1）			進捗レポートを作成する		
第 3 回	卒論計画に沿って執筆を行う（2）			進捗レポートを作成する		
第 4 回	卒論計画に沿って執筆を行う（3）			進捗レポートを作成する		
第 5 回	卒論計画に沿って執筆を行う（4）			進捗レポートを作成する		
第 6 回	卒論計画に沿って執筆を行う（5）			進捗レポートを作成する		
第 7 回	卒論計画に沿って執筆を行う（6）			進捗レポートを作成する		
第 8 回	卒論計画に沿って執筆を行う（7）			進捗レポートを作成する		
第 9 回	卒論計画に沿って執筆を行う（8）			進捗レポートを作成する		
第 1 0 回	卒論計画に沿って執筆を行う（9）			進捗レポートを作成する		
第 1 1 回	卒論計画に沿って執筆を行う（1 0）			進捗レポートを作成する		
第 1 2 回	卒論計画に沿って執筆を行う（1 1）			進捗レポートを作成する		
第 1 3 回	卒論計画に沿って執筆を行う（1 2）			進捗レポートを作成する		
第 1 4 回	卒論計画に沿って執筆を行う（1 3）			進捗レポートを作成する		
第 1 5 回	卒論計画に沿って執筆を行う（1 4）			まとめのアウトプットを提出する。		

1.授業コード (ナンバリング)		SMN405-Y55	2.科目名		卒業研究Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員		八木寛之						
5.授業科目の区分		専門科目	6.必修・ 選択の区分		必修	7.開講学期・ 年度		2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻		社会科学				9.履修学年		
10.取得資格の要件					11.先修条件		基礎演習・課題研究・専門演習を修得していること	
12.研究室		※※※			13.電話番号		※※※	
14.E-Mail Address		※※※			15.授業形態		演習	
16.履修制限								
17.授業の目的と概要		専門演習での議論や調査研究をふまえつつ、受講者各自が、卒業論文執筆のための発表と議論をおこなう。						
18.学習目標と DPとの関連		本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の S2、S3 の学修に関連しています。 ①社会学に関する卒業論文を完成させること。 ②卒業論文発表会にて、自身の卒論をプレゼンできる。						
19.教科書・教材		なし						
20.参考文献		適宜紹介する						
21.成績評価		受講態度、参加姿勢（30 点）：学習目標①②に対応 卒業論文の内容（70 点）：学習目標①②に対応						
22.コメント								
23.オフィスアワー								
24.授業回数		25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】		[活動] オリエンテーション				【予習・復習】 卒業論文執筆の年間計画書を確認する		
【第 2 回】		[活動] 研究計画書の確認				【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画書の確認・修正		
【第 3 回】		[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）				【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第 4 回】		[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）				【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第 5 回】		[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）				【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第 6 回】		[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）				【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第 7 回】		[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）				【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第 8 回】		[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）				【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。		
【第 9 回】		[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）				【予習】ゼミ発表の準備を進めること。		

		【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第 10 回】	[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】研究計画に沿って卒業論文執筆などを進めること。
【第 11 回】	[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。
【第 12 回】	[活動] 卒業論文の執筆／経過報告（授業内発表）	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、卒論を執筆する。
【第 13 回】	[活動] 卒論発表会の準備／ゼミ内発表	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、発表用資料を修正する。
【第 14 回】	[活動] 卒論発表会の準備／ゼミ内発表	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、発表用資料を修正する。
【第 15 回】	[活動] 卒論発表会の準備／ゼミ内発表	【予習】ゼミ発表の準備を進めること。 【復習】発表後の議論を受けて、発表用資料を修正する。

1.授業コード (ナンバリング)	SMN405-Y56	2.科目名	卒業研究Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	南畑淳史					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	3 年
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 (1) 特定の分野の知識の深化：社会学やデータサイエンスの知識や理論を深く理解し、その分野の専門家としての基礎を築く。 (2) 有益な評価・新しい発見・方法・理論の提案：実験を行い、実社会に役立つ評価や結果を提案したり、新しい発見・方法・理論を発見することで社会に貢献する。 (3) 実践的スキルの獲得と応用：今まで習ってきた知識をを用いて研究を実施する。また、足りない部分については自分で獲得する。 (4) 批判的思考能力の養成：様々な情報源から得られる情報を評価し、分析することで、問題解決や意思決定のための批判的思考能力を養う。 (5) コミュニケーション能力の向上：日々の報告・中間報告・研究成果を論文やプレゼンテーションを通じて伝えることで、効果的なコミュニケーション能力を磨く。 【概要】 卒業研究では、社会学やデータサイエンスといった分野で深い学びを積み重ね、その上で新しい発見や社会に役立つ方法、理論を生み出すことを目指しています。この過程で、既に学んだ知識を実際の研究に応用し、足りないスキルは自分で身につけます。また、さまざまな情報を正確に評価し分析する能力も養うことで、問題解決や適切な意思決定ができるようになるのが目標です。					
18.学習目標と DPとの関連	【目標】 卒業研究の過程で、目的の(1)～(6)を身に着け、さまざまな情報を正確に評価し分析する能力も養うことで、卒業研究を完成させ、問題解決や適切な意思決定ができるようになる事が目標です。 DP の 1-6 のすべてに関係しています。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	理科系の作文技術,木下是雄,中公新書,1981					
21.成績評価	最終評価：100%					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	【第 1 回】 ・ 夏休みの作業状況の確認 【第 2 回 - 14 回】 ・ 毎週、ゼミの発表者を決めて、進捗状況を把握する。 【第 15 回】 最終報告会					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SOC102-m51	2.科目名	教育社会学	3.単位数	2
4.授業担当教員	樋田大二郎				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	教育制度・教育マネジメント、教育問題にどのように向かい合うかを社会学の視点から考える。				
18.学習目標と DPとの関連	●自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる ●社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができる ●専門的知識・技能の活用力 世界と出会い働きかけるツールとしての専門的知識・技能を使いこなすことができる				
19.教科書・教材	授業中に紹介する。				
20.参考文献	授業中に紹介する。				
21.成績評価	毎回の小レポート（60％）、最終レポート（40％）				
22.コメント	客観的に冷静にそして熱く教育を考える。なお、この講義では、途中にミニワークショップをおこなう。楽しんで参加して欲しい。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)		
1 回目	・ 授業の導入 ・ 偏差値で人を計ることはできないこと		授業に関連する出来事に触れたり、記事を読んだり、文献を読んでおくことが望まれる。授業後に毎回小レポートを提出すること。		
2 回目	共感的理解-この授業での理解				
3 回目	いじめへの対応の動向といじめの理解、いじめの実態				
4 回目	いじめっ子を集団構造から離脱させる方法－いじめ対策の事例＝集団的出来事を個人的出来事に				
5 回目	不登校（1）見る				
6 回目	不登校（2）知る				
7 回目	不登校（3）理解する				
8 回目	「学校」の多様性（1）5つの海外事例から				
9 回目	「学校」の多様性（2）日本の先進事例				
10 回目	「学校」の多様性（3）日本の先進事例				
11 回目	社会化（1）社会が内在化、身体化される方法と意義				
12 回目	社会化（2）私だって社会化されている				

13 回目	地域の特色を生かした教育＝地域を教材にした教育	
14 回目	教師になる前に考える（1）	
15 回目	教師になる前に考える（2）	

1.授業コード (ナンバリング)	SOC102-y51	2.科目名	教育社会学	3.単位数	2
4.授業担当教員	樋田大二郎				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	教育制度・教育マネジメント、教育問題にどのように向かい合うかを社会学の視点から考える。				
18.学習目標と DPとの関連	●自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる ●社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができる ●専門的知識・技能の活用力 世界と出会い働きかけるツールとしての専門的知識・技能を使いこなすことができる				
19.教科書・教材	授業中に紹介する。				
20.参考文献	授業中に紹介する。				
21.成績評価	毎回の小レポート（60％）、最終レポート（40％）				
22.コメント	客観的に冷静にそして熱く教育を考える。なお、この講義では、途中にミニワークショップをおこなう。楽しんで参加して欲しい。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)		
1 回目	・ 授業の導入 ・ 偏差値で人を計ることはできないこと		授業に関連する出来事に触れたり、記事を読んだり、文献を読んでおくことが望まれる。授業後に毎回小レポートを提出すること。		
2 回目	共感的理解-この授業での理解				
3 回目	いじめへの対応の動向といじめの理解、いじめの実態				
4 回目	いじめっ子を集団構造から離脱させる方法－いじめ対策の事例＝集団的出来事を個人的出来事に				
5 回目	不登校（1）見る				
6 回目	不登校（2）知る				
7 回目	不登校（3）理解する				
8 回目	「学校」の多様性（1）5つの海外事例から				
9 回目	「学校」の多様性（2）日本の先進事例				
10 回目	「学校」の多様性（3）日本の先進事例				
11 回目	社会化（1）社会が内在化、身体化される方法と意義				
12 回目	社会化（2）私だって社会化されている				

13 回目	地域の特色を生かした教育＝地域を教材にした教育	
14 回目	教師になる前に考える（1）	
15 回目	教師になる前に考える（2）	

1.授業コード (ナンバリング)	SOC103-Y51	2.科目名	社会学概論 【心理】		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水美知子					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	教員免許状 高校（公民）、中学（社会）		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	第 1 回目の授業に出席した者に限ります。無断欠席の場合は、履修を取り消すことがあります。また、原則として「対面のみ」で授業を行います。履修登録が教室の収容人数を超えた場合は、第 1 回授業出席者を優先します。					
17.授業の目的と概要	【目的】この科目は、21 世紀の日本社会が抱える問題について知るとともに、社会学のものの見方・考え方になじむことを目的とします。 【概要】社会の動向と自分の人生がどうあるべきかということは、あまり関係がないと思っている人もいないかもしれません。しかし、人間が社会の中に存在し、社会に生きる限り、私たちの人生と世界および日本の動向とは大いに関係しています。授業では、「常識を疑う」「社会の謎を解く」「社会の未来を考える」という 3 つの観点から、身近な人間関係や社会現象について、具体的なトピックスをあげながら、社会的な視点から考えます。					
18.学習目標と D P との関連	この科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の「多様性理解」の学修に関連しています。 ①日頃当たり前と思っているような現象について、データをにもとづいて考え説明することができる。 ②日本社会のさまざまな事象について理解し、その実態や背景を説明することができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。毎回の資料は WebClass 等にあげます。					
20.参考文献	友枝敏雄他編『社会学で描く現代社会のスケッチ』（ファーストステップ教養講座）みらい、2019 年 その他の参考文献は、適宜、紹介します。					
21.成績評価	2 回のレポートと授業中のまとめの問題およびワークシートをもとに総合的に行います。 ○第 1 回課題レポート⇒30％（目標①） ○第 2 回課題レポート⇒30％（目標②） ○○ワークシート⇒計 40％（目標①②）					
22.コメント	●原則対面で授業を行います（体調不良等により出席停止の場合のみ遠隔受講を認めます） ●原則として、資料は WebClass にあげ、課題（レポート等）も WebClass で提出します。 ●PC、スマホをフル充電し、必ず、イヤホンもしくはヘッドセットを持参してください。 ●天候・気候、社会情勢により、急きょ、オンライン授業に切り替えることがあるかもしれません。 ●ノート P C のみならずスマホにも Zoom をインストールしておいてください。 ●履修人数や構成メンバー、受講生の興味・関心により、授業の内容を若干変更すること					
23.オフィスアワー	【神戸山手キャンパス】 ○センターオフィスアワー⇒水曜昼休み（1 号館 2 階ラーニングコモンズ） ○研究室オフィスアワー⇒水曜Ⅱ限（1320 研究室） ※三木キャンパス受講生には、メール、WebClass、ZOOM（予約制）で質問等を受けつけます。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 10/3	オリエンテーション：21世紀の日本社会を生きる ○授業の内容、進め方、評価など ○世界社会の動向 ○日本社会のトレンド ○大学で学ぶことの意味	ワークシート 1 復習：今回の復習
第2回 10/10	I「常識を疑う」テーマ1：友人とは誰のことか？① ○あふれる親密性 ○友人関係の拡がり	復習：今回の復習
第3回 10/17	I「常識を疑う」テーマ1：友人とは誰のことか？② ○親密性の光と陰 ○まとめの問題1	復習：今回の復習 アサインメント：まとめの問題1
第4回 10/24	I「常識を疑う」テーマ2：「絆」を強くすれば自殺は減るのか？① ○「絆」と自殺ー2つの考え方 ○デュルケムの自殺論	復習：今回の復習
第5回 10/31	I「常識を疑う」テーマ2：「絆」を強くすれば自殺は減るのか？② ○社会統合と自殺 ○「絆」を超えて ○まとめの問題2	復習：今回の復習 アサインメント：まとめの問題2
第6回 11/7	I「常識を疑う」テーマ3：「女」「男」とは誰のことか① ○妊娠・出産する男性？ ○マイノリティとマジョリティ ○LGBTQ+ ○SOGIE ○第1回レポート告知	ワークシート 2 復習：今回の復習
第7回 11/14	I「常識を疑う」テーマ3：「女」「男」とは誰のことか② ○性分化とインターセックス ○二元的性別という「現実」	ワークシート 3 復習：今回の復習
第8回 11/21	II「社会の謎を解く」テーマ：なぜいじめを止められないのか？① ○ありふれた出来事としてのいじめ ○いじめの四層構造論	復習：今回の復習
第9回 11/28	II「社会の謎を解く」テーマ：なぜいじめを止められないのか？② ○傍観者が生まれる仕組み ○いじめを少なくするために ○まとめの問題3	復習：今回の復習 アサインメント：まとめの問題3
第10回 12/5	第1回レポート発表会	ワークシート 4 第1回レポート提出
第11回 12/12	III「社会の未来を考える」テーマ：「子どもの貧困」にどう向き合うか？①	復習：今回の復習

	○子どもの貧困とは ○どのくらいの子どもが貧困なのか ○第2回レポート告知	
第12回 12/19	○Ⅲ「社会の未来を考える」テーマ：「子どもの貧困」にどう向き合うか？② ○格差と不平等 ○親の階層と機会の不平等	復習：今回の復習
第13回 1/9	Ⅲ「社会の未来を考える」テーマ：「子どもの貧困」にどう向き合うか？③ ○子どもの貧困はどのようにして起こるのか ○子どもの貧困を減らすために	復習：今回の復習
第14回 1/16	第2回レポート発表会	ワークシート5 第2回レポート提出
第15回 1/23	○授業のふり返りとまとめ ○大学で学ぶことの意味	

1.授業コード (ナンバリング)	SOC103-Y52	2.科目名	社会学概論 【G コミ・英コミ】		3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一、山本晃輔、八木寛之					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科				9.履修学年	1 年次～
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 個別のトピックを通して現代社会を観察し、分析する能力を習得する。日本社会がかかえる問題点を考察し、将来社会を構想するための糸口をさがす。 概要： つぎの 2 つのテーマについて、学習する。 各回の授業テーマと担当者については、各回の授業内容を参照すること。 Ⅰ 社会の謎を解くー現代日本社会におけるさまざまな疑問について考えるー Ⅱ 社会の未来を考えるー社会問題の解決とのぞましい社会の構想ー					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は以下のとおり。 ・社会学の概要を理解することができる。 ・関西国際大学社会学部社会学科で学ぶことの意味を理解することができる。 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 (1) 自律的で主体的な態度(自律性) (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力(多様性理解) (4) 問題発見・解決力					
19.教科書・教材	友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典編『社会学で描く現代社会のスケッチ』みらい、2019 年					
20.参考文献	授業内で適宜指示する。					
21.成績評価	2～13 回授業で出される小レポート (60%) 1、14 回の授業に関する課題・小レポート (10%) 期末試験 (30%)					
22.コメント	3 人の教員が交代で授業をするリレー授業です。一部の授業は 3 人で一緒に行います。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	序章 21 世紀の日本社会を生きるー今、大学で学ぶこと (永井、八木、山本)			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 2 章 「絆」を強くすれば自殺は減るのか？ (永井)			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 10 章 なぜ結婚する人が減っているのか？ (永井)？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 14 章 なぜ「家族」を求めるのか？ (永井)？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 21 章 「人口減少」は地域社会をどう変えるか？ (永井)？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 9 章 なぜ「スマイル」は 0 円なのか？ (山本)？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 12 章 なぜ若者は SNS にはまるのか？ (山本)？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 17 章 「格差と不平等」にどう向き合うか？ (山本)？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 22 章 「移民」は社会をどう変えるか？ (山本)？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		

	第 6 章 日本人がオリンピックで日本代表を応援するのは当たり前か？（八木）？	教科書の該当箇所を読む。復習する。
	第 15 章 なぜネット上で「炎上」が生じるのか？（八木）？	教科書の該当箇所を読む。復習する。
	第 18 章 「子どもの貧困」にどう向き合うか？（八木）？	教科書の該当箇所を読む。復習する。
	第 20 章 「大規模災害」にどう向き合うか？（八木）	教科書の該当箇所を読む。復習する。
	第 23 章 21 世紀における社会と公共性（永井、八木、山本）	教科書の該当箇所を読む。復習する。
	総括試験	教科書を読み直す。試験勉強をする。

1.授業コード (ナンバリング)	SOC104-M51	2.科目名	社会階層と文化（社会学）		3.単位数	2
4.授業担当教員	轟蕙菁					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校（公民）中学（社会）副専攻 （平等を考える）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・グループワーク		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業では、私たちが住む社会における格差の問題について学んでいきます。身近な題材を通して、自らの置かれた立場や、他者の立場を理解したうえで、すべての人が共生できる社会について考えていきます。					
18.学習目標と DPとの関連	・社会階層と文化の結びつきは、いかに社会的不平等の問題と関連しているのかを、学問的、理論的に正しく理解することができる。 ・日常生活における私たちの意識的,無意識的に経験する文化的な差異が、いかに社会階層による不平等問題と結びついているのかを、個々の実体験を踏まえながら議論することで、社会問題をより身近なものとして考えることができる。 ・社会におけるいわゆるマイノリティの人々が直面する社会的問題について理解し、社会問題の解決策を考えることができる。					
19.教科書・教材	なし					
20.参考文献	必要に応じて適宜提示する。					
21.成績評価	・小レポート（＝毎時間配布するワークシートへの取り組み）＝45％ ※ワークシートの記述内容によっては加点有 ・最終レポート＝55％ ※受講人数や受講生の取り組み状況に応じて、プレゼン発表を最終課題とする場合もある。					
22.コメント	本授業は講義を中心に進めつつ、ワークシートを用いた自身の考えを記入し、他者と意見を共有することを通して私たちの身近に潜む「格差と平等」に関する社会問題について考えていきます。よって本授業では、①授業のルールを守りながら、積極的に授業に参加する、②他者の考えを聞き、協力して学ぼうとする意欲のある学生を求めます。 また、受講者のみなさんの興味関心によって、選択的に最終課題としてプレゼン発表をしてもらうことを考えています。					
23.オフィスアワー	授業前後に適宜お声がけください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	イントロダクション ・社会の多様性について考える。 ・身近な問題関心から、社会の何によって人々の意識や行為が分化（層化）するのか考える。					
第 2 回	社会階層とは何か ・社会階層についての基本的な考え方について紹介する。 ・社会において社会階層が存在していることの意義や問題点について考える。					
第 3 回	学歴について考える ・学歴によってどのような社会階層が生じ、何が問題					

	となるのか考える。	
第 4 回	教育格差について考える（学力問題） ・学歴と関わりの深い社会階層が、どのように形成されるのかを学校教育を通して考える。 ・学校教育における学力格差の視点から、社会においてどのように階層が形成されるのか考える。 ・どのような人が低学力傾向にあるのかという視点から、社会階層を不平等の問題として考える。	
第 5 回	男女平等について考える ・社会階層について性別の視点から考える。 ・性別による社会進出のなされかた、就業体系がどのように異なるのか、その背景にある問題を含めて考える。 ・性別による育児休業の取得率が異なる理由について考え、よりよい社会的制度設計について考える。	
第 6 回	セクシャルマイノリティについて考える ・女性、男性という性別分類では捉えきれない多様な性のあり方について考える。 ・女性、男性だけでなく、セクシャルマイノリティを含めたすべての性の人々を包摂する社会には何が必要なのか考える。	
第 7 回	セクシャルマイノリティについて考える（学校教育の視点から） ・学校現場においてセクシャルマイノリティの課題がどのように表出しているのか考える。 ・学校教育の何をどのように変えていけば、すべての性の子どもたちが過ごしやすい学校環境となるのか考える。	
第 8 回	子どもの貧困について考える ・子どもの貧困問題は、子どもたちや子どもたちが大人になってからどのような困難をもたらし、社会階層の形成に結びつくのか考える。 ・子どもの貧困問題を解消していくためには、どのような政策や学校での取り組みが必要なのか考える。	
第 9 回	障がい者について考える ・障がい者が抱えやすい課題について考える。 ・日常生活の中でどのような支援策が必要なのかについて考える。	
第 10 回	家族のかたちについて考える ・現代の家族のかたちと社会階層がどのように結びついているのか考える。 ・多様な家族のあり方が認められていく社会がどのように実現するのか考える。	
第 11 回	エスニックマイノリティについて考える ・「日本人」「外国人」という社会階層について考える。 ・学校現場に外国にルーツをもつ子どもたちが多く在籍するようになった背景について考える。	

	・外国にルーツをもつ子どもたちが学校教育のどのような面で難しさに直面するのか考える。	
第 12 回	コロナ禍がもたらす影響について考える ・社会階層間の差 ・マイノリティグループが抱える困難	
第 13 回	課題準備日 ・最終課題にむけた準備を行う。	
第 14 回	プレゼン発表 ・グループで取り組んだ社会階層と文化に関わるテーマについて発表する。	
第 15 回	まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	SOC104-M52	2.科目名	社会階層と文化（社会学）		3.単位数	2
4.授業担当教員	轟蕙菁					
5.授業科目の区分	人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	高校（公民）中学（社会）副専攻 （平等を考える）		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・グループワーク		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業では、私たちが住む社会における格差の問題について学んでいきます。身近な題材を通して、自らの置かれた立場や、他者の立場を理解したうえで、すべての人が共生できる社会について考えていきます。					
18.学習目標と DPとの関連	・社会階層と文化の結びつきは、いかに社会的不平等の問題と関連しているのかを、学問的、理論的に正しく理解することができる。 ・日常生活における私たちの意識的,無意識的に経験する文化的な差異が、いかに社会階層による不平等問題と結びついているのかを、個々の実体験を踏まえながら議論することで、社会問題をより身近なものとして考えることができる。 ・社会におけるいわゆるマイノリティの人々が直面する社会的問題について理解し、社会問題の解決策を考えることができる。					
19.教科書・教材	なし					
20.参考文献	必要に応じて適宜提示する。					
21.成績評価	・小レポート（＝毎時間配布するワークシートへの取り組み）＝45％ ※ワークシートの記述内容によっては加点有 ・最終レポート＝55％ ※受講人数や受講生の取り組み状況に応じて、プレゼン発表を最終課題とする場合もある。					
22.コメント	本授業は講義を中心に進めつつ、ワークシートを用いた自身の考えを記入し、他者と意見を共有することを通して私たちの身近に潜む「格差と平等」に関する社会問題について考えていきます。よって本授業では、①授業のルールを守りながら、積極的に授業に参加する、②他者の考えを聞き、協力して学ぼうとする意欲のある学生を求めます。 また、受講者のみなさんの興味関心によって、選択的に最終課題としてプレゼン発表をしてもらうことを考えています。					
23.オフィスアワー	授業前後に適宜お声がけください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	イントロダクション ・社会の多様性について考える。 ・身近な問題関心から、社会の何によって人々の意識や行為が分化（層化）するのか考える。					
第 2 回	社会階層とは何か ・社会階層についての基本的な考え方について紹介する。 ・社会において社会階層が存在していることの意義や問題点について考える。					
第 3 回	学歴について考える ・学歴によってどのような社会階層が生じ、何が問題					

	となるのか考える。	
第 4 回	教育格差について考える（学力問題） ・学歴と関わりの深い社会階層が、どのように形成されるのかを学校教育を通して考える。 ・学校教育における学力格差の視点から、社会においてどのように階層が形成されるのか考える。 ・どのような人が低学力傾向にあるのかという視点から、社会階層を不平等の問題として考える。	
第 5 回	男女平等について考える ・社会階層について性別の視点から考える。 ・性別による社会進出のなされかた、就業体系がどのように異なるのか、その背景にある問題を含めて考える。 ・性別による育児休業の取得率が異なる理由について考え、よりよい社会的制度設計について考える。	
第 6 回	セクシャルマイノリティについて考える ・女性、男性という性別分類では捉えきれない多様な性のあり方について考える。 ・女性、男性だけでなく、セクシャルマイノリティを含めたすべての性の人々を包摂する社会には何が必要なのか考える。	
第 7 回	セクシャルマイノリティについて考える（学校教育の視点から） ・学校現場においてセクシャルマイノリティの課題がどのように表出しているのか考える。 ・学校教育の何をどのように変えていけば、すべての性の子どもたちが過ごしやすい学校環境となるのか考える。	
第 8 回	子どもの貧困について考える ・子どもの貧困問題は、子どもたちや子どもたちが大人になってからどのような困難をもたらし、社会階層の形成に結びつくのか考える。 ・子どもの貧困問題を解消していくためには、どのような政策や学校での取り組みが必要なのか考える。	
第 9 回	障がい者について考える ・障がい者が抱えやすい課題について考える。 ・日常生活の中でどのような支援策が必要なのかについて考える。	
第 10 回	家族のかたちについて考える ・現代の家族のかたちと社会階層がどのように結びついているのか考える。 ・多様な家族のあり方が認められていく社会がどのように実現するのか考える。	
第 11 回	エスニックマイノリティについて考える ・「日本人」「外国人」という社会階層について考える。 ・学校現場に外国にルーツをもつ子どもたちが多く在籍するようになった背景について考える。	

	・外国にルーツをもつ子どもたちが学校教育のどのような面で難しさに直面するのか考える。	
第 12 回	コロナ禍がもたらす影響について考える ・社会階層間の差 ・マイノリティグループが抱える困難	
第 13 回	課題準備日 ・最終課題にむけた準備を行う。	
第 14 回	プレゼン発表 ・グループで取り組んだ社会階層と文化に関わるテーマについて発表する。	
第 15 回	まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	SOC104-a51	2.科目名	社会階層と文化		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分	基盤教育科目/人間学総合教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	全学共通				9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・グループワーク		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業は遠隔発信である。山手キャンパスの学生も履修できます。 ただし、山手キャンパスの学生は、春学期開講の山手キャンパス開講授業（対面）の履修を勧めます。 ＊授業の概要 わたしたちの社会は多様な人々で構成されている。「ひとそれぞれ」という表現を日常的に使うこともしばしばである。こうした多様性を生きる一方で、「上流」「下流」「勝ち組」「負け組」といった社会集団をまとめる表現も使用する。 あるいはそれを大枠で「文化」と表現することもある。そしてそうした表現にはなんらかの「差」が前提とされる。この「差」は純粋なちがいともいえるが、格差や不平等と結びついている場合も多い。本授業では、社会における集団を「階層」として捉え、そこにある「文化」に注目しながら「格差」について考える。 なお、本授業では「教育と社会階層」を中心に検討を深める。社会学部「社会階層論」ではさらにこれを拡大して、社会階層の課題を検討する。 ＊授業の目的 社会階層は学問上の考え方である一方で、日常生活感覚に根ざしたものでもある。まずは社会階層と文化の関係を学ぶ。そしてこの社会階層の違いが「賃金」「ライフチャンス」の格差と結びついている。いったなぜこうした格差が存在するのか。そこに生じる格差とどのように向き合っていけば良いのか考える。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP の「社会的貢献性」「多様性理解」「問題発見・解決力」と関連しています。 （１）社会階層という枠組みについて理解する。（問題発見・解決力） （２）社会階層と文化のちがいについて、自らの考えを提示することができる。（多様性理解） （３）社会階層が生みだす格差について、自ら問題点を示すことがきでる。（社会的貢献性） （問題発見・解決力）					
19.教科書・教材	毎回の授業でワークシート等の教材を配布する。					
20.参考文献	授業中に指示する。					
21.成績評価	（１）ディスカッション・ペーパーの作成（3 回） 30% （２）毎回のリアクション・ペーパーの作成 30% （３）最終レポートの作成 40%					
22.コメント	本授業では、社会階層と文化という日常的だけれど悩ましい課題について考えていく。わたしたちの社会は多様な人々で構成されているが、そこにはただの違いに収まらない格差や不平等が存在している。無関心を装うならば「ひとそれぞれでしょ」というだけでよい。しかし、そうした「ひとそれぞれでしょ」という言葉がもつ暴力的な側面について、わたしたちは知っている。社会学はそうした格差や不平等に向きあう学問である。本授業を通じて、「ひとそれぞれ」だけではなく、わたしたちの問題として社会について考えてもらいたいと思います。					
23.オフィスアワー	後日追記します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	・ 授業の内容についての確認			復習とアサインメント		

イントロ	・社会階層とわたし、について考える	「わたしと社会階層」についてのワークシートを作成する（所要時間 90 分）
第 2 回 社会階層とは なにか	・社会階層の具体例として教育における格差について学ぶ ・社会階層と教育についてディスカッションをする	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 3 回 文化とはなにか	・文化という概念について学ぶ ・文化の違いについて考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 4 回 ちがいと不平等	・社会階層と文化の違いが生み出す不平等について知る ・これまでの自らの経験を振り返る	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる（所要時間 90 分）
第 5 回 不平等を具体的に考える	・グループワークを通じて、周囲と自身の社会階層と不平等について考える	復習とアサインメント ★小レポートを作成する（所要時間 90 分）
第 6 回 社会階層と文化を考える （家族）	・家族を事例とし、とくに教育場面における社会階層と文化の違いについて考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 7 回 社会階層と文化を考える （障害）	・障害を事例とし、社会生活における不平等を考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 8 回 社会階層と文化を考える （エスニシティ 1）	・日本における外国人問題から、社会階層と文化について考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 9 回 社会階層と文化を考える （エスニシティ 2）	・日本における外国人問題から、社会階層と文化について考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 10 回 社会階層と文化を考える （ジェンダー 1）	・ジェンダー平等について、具体的事例から考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 11 回 社会階層と文化を考える （ジェンダー 2）	・SOGI について具体的な事例から考える	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる（所要時間 90 分）
第 12 回 わたしたちの社会の不平等	・レポートの書き方を学ぶ ・ディスカッション・ペーパーを交換し、指定の社会問題についてディスカッションする	復習とアサインメント ★小レポートを作成する（所要時間 90 分）
第 13 回 不平等とどの	・社会問題に対峙する活動を知り、ディスカッションをする	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる

ように向き合うか（１）		（所要時間 90 分）
第 14 回 不平等とどのように向き合うか	・ グループで社会問題解決に向けた実践を考案する	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第 15 回 まとめ	・ 社会階層と文化について、ふりかえる ・ 社会階層と文化について、社会問題解決にむけた実践についてふりかえる	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SOC105-Y51	2.科目名	社会学基礎Ⅰ（留学生 オンデマンド）		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本久					
5.授業科目の区分	社会学部社会学科	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義中心に進めますが、講義の途中でディスカッションをしたり、学生さんに質問して答えてもらったりするという質疑応答もおこないます。基礎知識は不要ですが、日頃の気づきや日々のニュースや社会で起こっていることメモし、考えるきっかけにしてもらえればと思います。		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 大学で学ぶことの意味は何でしょうか。この問いをあらためて考えることを出発点にして、社会科学の一分野としての社会学および社会学的な見方を理解する。さらに個別のトピックを通して、現代社会を観察し、分析する能力を習得する。 概要： つぎの 3 つのテーマについて、15 回の授業で学習する。 各回の授業テーマについては、各回の授業内容のところに記しているので、そこを参照すること。 Ⅰ 社会学へのスタート Ⅱ 現代社会のアスペクトー個別のトピックを通して学ぶー Ⅲ 社会学の起源					
18.学習目標と DPとの関連	この科目を学習すると、以下のような知識が身につきます。 1. 大学で学ぶことの意味 2. 大学の学問分野が人文科学、社会科学、自然科学の 3 つから構成されていること。 3. 社会の 4 つの領域が何であるのか。 4. 社会現象を客観的に捉えるための工夫。 5. 「フリーター」「ボランティア行為」「オタク」といった言葉の意味や、「日本人の宗教観」についての知識。 6. 近代西欧における社会学の誕生、社会変動の趨勢についての知識。					
19.教科書・教材	友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典編『社会学で描く現代社会のスケッチ』、みらい、2019 年					
20.参考文献	授業のなかで必要に応じて紹介します。					
21.成績評価	授業中の質疑応答（20％） 授業最後の 1 0 分を書く「本日の授業内容の感想とコメント」（20％） 中間レポート（30％） 期末レポート（30％）					
22.コメント	授業での質疑応答では、大きな声で答えて下さい。 皆さんの前で、自分の考えをまとめた上で、きちんと発表し説明する訓練の場にしたいと思います。 毎回、授業の最後の 1 0 分で、「本日の授業内容の感想とコメント」を書いてもらいます。					
23.オフィスアワー	第 1 回目の授業でアナウンスします。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	I 社会学へのスタート 1. イントロダクション	テキスト序章の予習
第2回	2. 世界社会の動向と日本社会の動向	テキスト序章の予習
第3回	3. 大学で学ぶことの意味	テキスト序章の予習
第4回	4. 大学の学問分野－人文科学、社会科学、自然科学－	配付資料の予習
第5回	5. 社会科学のなかの社会学－政治学、経済学、社会学－	配付資料の予習
第6回	6. 社会学の研究対象としての社会の4つの領域	配付資料の予習
第7回	7. 社会現象を客観的に捉えることはできるのか	配付資料の予習
第8回	II 現代社会のアспект－個別のトピックから学ぶ－ 8. 友人とは誰のことか？	テキスト第1章の予習/中間レポートの提出
第9回	9. 「絆」を強くすれば自殺は減るのか？	テキスト第2章の予習
第10回	10. 美容整形のきっかけとは？	テキスト第3章の予習
第11回	11. 日本人は宗教を信じていないのか？	テキスト第4章の予習
第12回	12. 「未熟」な若者がフリーターやニートになるのか？	テキスト第5章の予習
第13回	13. 日本人がオリンピックで日本代表を応援するのは当たり前か？	テキスト第6章の予習
第14回	14. 「いい人」がボランティアになるのか？	テキスト第7章の予習
第15回	15. 「オタク」は孤独か	テキスト第8章の予習/期末レポートの提出

1.授業コード (ナンバリング)	SOC106-Y51	2.科目名	社会学基礎Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一、山本晃輔、八木寛之					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 個別のトピックを通して現代社会を観察し、分析する能力を習得する。日本社会がかかえる問題点を考察し、将来社会を構想するための糸口をさがす。 概要： つぎの2つのテーマについて、学習する。 各回の授業テーマと担当者については、各回の授業内容を参照すること。 Ⅰ 社会の謎を解くー現代日本社会におけるさまざまな疑問について考えるー Ⅱ 社会の未来を考えるー社会問題の解決とのぞましい社会の構想ー					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は以下のとおり。 ・社会学の概要を理解することができる。 ・関西国際大学社会学部社会学科で学ぶことの意味を理解することができる。 本科目を通した学びは、以下の本学 DP と関連します。 (1) 自律的で主体的な態度(自律性) (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力(多様性理解) (4) 問題発見・解決力					
19.教科書・教材	友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典編『社会学で描く現代社会のスケッチ』みらい、2019 年					
20.参考文献	授業内で適宜指示する。					
21.成績評価	2～13 回授業で出される小レポート（60％） 1、14 回の授業に関する課題・小レポート（10％） 期末試験（30％）					
22.コメント	3 人の教員が交代で授業をするリレー授業です。一部の授業は 3 人で一緒に行います。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	序章 21 世紀の日本社会を生きる――今、大学で学ぶこと（永井、八木、山本）			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 2 章 「絆」を強くすれば自殺は減るのか？（永井）			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 10 章 なぜ結婚する人が減っているのか？（永井）？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 14 章 なぜ「家族」を求めるのか？（永井）？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 21 章 「人口減少」は地域社会をどう変えるか？（永井）？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 9 章 なぜ「スマイル」は 0 円なのか？（山本）？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 12 章 なぜ若者は SNS にはまるのか？（山本）？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 17 章 「格差と不平等」にどう向き合うか？（山本）？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		
	第 22 章 「移民」は社会をどう変えるか？（山本）？			教科書の該当箇所を読む。復習する。		

	第 6 章 日本人がオリンピックで日本代表を応援するのは当たり前か？（八木）？	教科書の該当箇所を読む。復習する。
	第 15 章 なぜネット上で「炎上」が生じるのか？（八木）？	教科書の該当箇所を読む。復習する。
	第 18 章 「子どもの貧困」にどう向き合うか？（八木）？	教科書の該当箇所を読む。復習する。
	第 20 章 「大規模災害」にどう向き合うか？（八木）	教科書の該当箇所を読む。復習する。
	第 23 章 21 世紀における社会と公共性（永井、八木、山本）	教科書の該当箇所を読む。復習する。
	総括試験	教科書を読み直す。試験勉強をする。

1.授業コード (ナンバリング)	SOC107-Y51	2.科目名	社会調査論		3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	社会調査士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	社会調査に関する基礎的な知識と、調査結果の読解能力の習得を目指す。講義の前半では調査の種類とそれぞれの特性、情報の取扱いについての注意事項などを理解することにあてる。後半では官庁統計やマーケティングデータなどさまざまな統計資料に触れ、高度な読解能力を身につける。最終的にはレポートとして調査の設計をすることによって、学んだスキルの定着をはかり、高度なリサーチ・リテラシーの習得を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の (S1) 修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、(S2) 社会や文化について科学的に理解する力の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①社会調査に必要なスキルを身につけ、調査を行うことができる。 ②調査結果をまとめ、プレゼンテーションする能力を身につける。					
19.教科書・教材	伊達平和・高田聖治『社会調査法』学術図書出版社、2020					
20.参考文献						
21.成績評価	小レポート 50 % 期末レポート 50 % 量的調査の調査票及び質問文を作ることができる…30 点 [学習目標①に対応] 質的調査の技術やテクニックを身につけることができる…20 点 [学習目標①に対応] データを適切に加工することができる。20 点 [学習目標①に対応] ワードやエクセルを使って適切な資料を作成できる…30 点 [学習目標②に対応]					
22.コメント	適宜質問を受け付けるので、積極的に発言するように。					
23.オフィスアワー	個人研究室：火曜 4 限、学修支援センター：木曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	[講義] 導入			準備学習：テキストの該当箇所を読む (60 分) 復習：与えられた課題をする (60 分)		
【第 2 回】	[講義] 社会調査とは			準備学習：テキストの該当箇所を読む (60 分) 復習：与えられた課題をする (60 分)		
【第 3 回】	[講義] 社会調査の歴史			準備学習：テキストの該当箇所を読む (60 分) 復習：与えられた課題をする (60 分)		
【第 4 回】	[講義] 質的調査と量的調査			準備学習：テキストの該当箇所を読む (60 分) 復習：与えられた課題をする (60 分)		
【第 5 回】	[講義] 調査の倫理			準備学習：テキストの該当箇所を読む (60 分) 復習：与えられた課題をする (60 分)		

【第 6 回】	[講義] 報告書の読み方(1)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 7 回】	[講義] 報告書の読み方(2)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 8 回】	[講義] 文献・情報検索	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 9 回】	[講義] データの問題点を探る(1)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 10 回】	[講義] データの問題点を探る(2)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 11 回】	[講義] データの問題点を探る(3)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 12 回】	[講義] 国勢調査を読む	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 13 回】	[講義] 官庁統計を読む(1)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 14 回】	[講義] 官庁統計を読む(2)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 15 回】	まとめ	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SOC109-Y51	2.科目名	情報社会学		3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	テレビや携帯電話にパソコン、新聞やラジオなど、私たちの生活は数多くのメディアに囲まれ、それらを介して私たちは膨大な量の情報に接している。こうした社会はしばしば「情報社会」と呼ばれ、それは現代社会を特徴付ける大きな要因のひとつとなっている。本講義では、過去から今日に至るまでのメディアの発展およびその研究動向を概括し、その上で今日のメディア状況、私たちの生活においてメディアが果たす役割について考え、情報社会を生きぬくための知恵や方法を身につける。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（S1）修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、（S2）社会や文化について科学的に理解する力の学修に関連している 本科目の学習目標は次のとおり。 ①情報社会の進展について理解を深め、必要なメディアリテラシーを高める。 ②情報機器端末を効率的に使用できる。 ③複眼的な視座で情報選別ができる。 ④個人情報の適切な管理ができる。					
19.教科書・教材	辻泉・南田勝也・土橋臣吾編『メディア社会論』有斐閣					
20.参考文献						
21.成績評価	小レポート（50 点）　〔学習目標①②に対応〕 期末試験（50 点）　〔学習目標②③④に対応〕					
22.コメント	パワーポイントを利用した講義形式。印刷物を配付する。					
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 3 限、学修支援センター：木曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	〔講義〕はじめに			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 2 回】	〔講義〕メディア社会論のために			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 3 回】	〔講義〕ネットワーク化の来歴——メディアがつかないできたもの			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 4 回】	〔講義〕モバイル・デバイスの来歴——場所感覚の喪失と創出			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 5 回】	〔講義〕コンテンツ・メディアの来歴——ソリッドなスター／リキッドなアイドル			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 6 回】	〔講義〕ソーシャル・メディアの功罪——SNS 的つながりの実相			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 7 回】	〔講義〕デジタル・コンテンツの功罪——データ化した音楽作品とその価値			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 8 回】	〔講義〕ネット広告の功罪——監視社会と消費行動への自由①			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 9 回】	〔講義〕ネット広告の功罪——監視社会と消費行動へ			復習:今回の復習及び授業ノートの整理		

	の自由②	予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
【第 10 回】	〔講義〕 ユビキタス／ビッグデータの功罪——「わたし」という閉域,「みんな」の可視化	復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
【第 11 回】	〔講義〕 メディア社会の構想:再帰化	復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
【第 12 回】	〔講義〕 変わりゆくリアリティ——二項対立から多項対立の時代へ	復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
【第 13 回】	〔講義〕 変わりゆくコンテンツ——鑑賞からプレイへ	復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
【第 14 回】	〔講義〕 変わりゆくテクノロジー——分断された「わたし」からモバイルな社会性へ	復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
【第 15 回】	〔講義〕 おわりにー総括試験	復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく

1.授業コード (ナンバリング)	SOC110-Y51	2.科目名	地域社会学		3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	今日、地域におけるコミュニティの衰退や崩壊がいわれる一方で、コミュニティの重要性がクローズアップされている。地域間の移動が当たり前の現代社会のなかで、地域コミュニティをどのように考えればよいのだろうか。この授業では、社会学のなかでも、とくに都市社会学と地域社会学の議論を参照しつつ、現代社会における地域コミュニティの現実と変容について考える。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の S1.修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力。S2.社会や文化について科学的に理解する力。の学修に関連しています。 ①社会学における地域社会やコミュニティに関する諸議論について説明できる。 ②現代社会において地域社会やコミュニティがどうあるべきかについて、自分なりの考えを持ち、述べることができる。					
19.教科書・教材	教科書はなし。毎回の授業で資料を配布する。					
20.参考文献	平井太郎・松尾浩一郎・山口恵子著『地域・都市の社会学——実感から問いを深める理論と方法』、2022 年、有斐閣ストゥディア 船津衛・浅川達人著『現代コミュニティとは何か——「現代コミュニティの社会学」入門』、2014 年、恒星社厚生閣 森岡清志・北川由紀彦『都市と地域の社会学』2018 年、放送大学 その他、適宜授業内にて紹介する。					
21.成績評価	授業時間内に提示する小課題（20 点）：学習目標①に対応 授業時間内に 2 回実施するレポート課題（40 点×2）：学習目標①②に対応					
22.コメント	地域のなかでの人びとの「つながり」について、肯定的に捉えるか否定的にとらえるかどうかは受講者自身の考えによります。この授業では、それらのことを考える材料を提示するつもりです。					
23.オフィスアワー	個人研究室： 学修支援センター：					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	[講義] イントロダクション			予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。		
【第 2 回】	[講義] 地域と都市はどのように実感されるか			予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。		
【第 3 回】	[講義] 地域・都市はどのように形づくられたか			予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる		

		復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第4回】	〔講義〕空間と場所の問い方	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第5回】	〔講義〕グローバル化とどのように向き合うのか	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第6回】	〔講義〕ナショナルなものと地域・都市	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第7回】	〔講義〕ローカル・トラックとは何か	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第8回】	中間まとめ・ミニレポートの作成①（授業時間内）	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第9回】	〔講義〕都市の公共空間	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第10回】	〔講義〕都市の不平等はどのように進行しているのか	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第11回】	〔講義〕コミュニティはどこから来てどこへ行くのか	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第12回】	〔講義〕「限界集落」の「限界」はどう乗り越えられるか	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第13回】	〔講義〕地域への問いと社会学的想像力	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第14回】	〔講義〕都市の未来，都市の歴史	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第15回】	まとめ・ミニレポートの作成②（授業時間内）	予習：授業内容に関連した用語やニュースな

		どに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を 読み直し、整理する。

1.授業コード (ナンバリング)	SOC202-Y52	2.科目名	社会調査論Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	社会調査士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	社会調査に関する基礎的な知識と、調査結果の読解能力の習得を目指す。講義の前半では調査の種類とそれぞれの特性、情報の取扱いについての注意事項などを理解することにあてる。後半では官庁統計やマーケティングデータなどさまざまな統計資料に触れ、高度な読解能力を身につける。最終的にはレポートとして調査の設計をすることによって、学んだスキルの定着をはかり、高度なリサーチ・リテラシーの習得を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（S1）修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、（S2）社会や文化について科学的に理解する力の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①社会調査に必要なスキルを身につけ、調査を行うことができる。 ②調査結果をまとめ、プレゼンテーションする能力を身につける。					
19.教科書・教材	伊達平和・高田聖治『社会調査法』学術図書出版社、2020					
20.参考文献						
21.成績評価	小レポート 50 % 期末レポート 50 % 量的調査の調査票及び質問文を作ることができる…30 点 [学習目標①に対応] 質的調査の技術やテクニックを身につけることができる…20 点 [学習目標①に対応] データを適切に加工することができる。20 点 [学習目標①に対応] ワードやエクセルを使って適切な資料を作成できる…30 点 [学習目標②に対応]					
22.コメント	適宜質問を受け付けるので、積極的に発言するように。					
23.オフィスアワー	個人研究室：火曜 4 限、学修支援センター：木曜 4 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	〔講義〕 導入			準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）		
【第 2 回】	〔講義〕 社会調査とは			準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）		
【第 3 回】	〔講義〕 社会調査の歴史			準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）		
【第 4 回】	〔講義〕 質的調査と量的調査			準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）		
【第 5 回】	〔講義〕 調査の倫理			準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）		

【第 6 回】	[講義] 報告書の読み方(1)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 7 回】	[講義] 報告書の読み方(2)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 8 回】	[講義] 文献・情報検索	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 9 回】	[講義] データの問題点を探る(1)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 10 回】	[講義] データの問題点を探る(2)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 11 回】	[講義] データの問題点を探る(3)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 12 回】	[講義] 国勢調査を読む	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 13 回】	[講義] 官庁統計を読む(1)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 14 回】	[講義] 官庁統計を読む(2)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 15 回】	まとめ	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SOC205-Y51	2.科目名	データ解析Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	疋田浩一					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学専攻・データサイエンス専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	該当なし		11.先修条件	基礎統計学、社会統計学を履修していることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、統計解析ソフト SPSS を使い、データ解析の基本的な手順を学びます。自分の知りたいことに応じて、適切なデータ分析ができるようになることを目指します。 【概要】 授業では、SPSS の基本的な使い方、データの出力と解釈の方法、変数の変換、二変数の分析について順に学びます。					
18.学習目標と D P との関連	この科目は、DP（6）専門知識・技能の活用力に対応しています 1) SPSS の使い方を理解し、必要なデータを適切に処理できる 2) 基本統計量をはじめとした初歩的なデータ分析を適切に処理できる 3) 二変数の分析と検定結果を出力でき、適切な解釈ができる					
19.教科書・教材	授業内で資料を配布します。					
20.参考文献	授業内に適宜紹介します。					
21.成績評価	出力結果の提出…70%…学修目標 1 と対応 期末レポート…30%…学修目標 2 と対応、学修目標 3 と対応					
22.コメント	データ分析の基礎を身につけ、レポートのかたちで報告できることを目指します。積極的な参加を期待します。データ解析Ⅱを履修することを希望する場合は、80 点以上を取得できるようにしっかり課題に取り組んでください。					
23.オフィスアワー	火 4：研究室 木 3：学習支援センター オフィスアワー以外も、事前に連絡してもらえれば対応します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	オリエンテーション、SPSS の使い方					
2	データセットの読み取り、ラベルのつけ方、欠損値の入力			出力結果 1		
3	変数の尺度のおさらい、質的変数の出力					
4	質的変数の出力			出力結果 2		
5	量的変数の出力					
6	量的変数の出力			出力結果 3		
7	クロス集計表の出力					
8	クロス集計表の出力			出力結果 4		
9	散布図と相関係数					
10	散布図と相関係数			出力結果 5		
11	変数の変換					
12	変数の変換			出力結果 6		
13	総合データ分析（1）					

14	総合データ分析 (2)	
15	総合データ分析 (3)	期末レポートの提出

1.授業コード (ナンバリング)	SOC209-Y51	2.科目名	現代社会論		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水美知子					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	教員免許状 高校（公民）、中学（社会）		11.先修条件	「社会学概論」を履修済であることが望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	おおむね 30 名以内。原則として、第 1 回の授業に出席した者に限ります。履修希望者が多い場合は、選抜を行います（教職課程の履修者を優先）。					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会のさまざまな場面に潜むジェンダーの課題に気づき、各人の問題意識が広がることをめざします。 【概要】 私たちは、ありとあらゆるものを〈分類〉しながら生活しています。そのなかで、「性別」は最も“自然”で“当たり前”な分類と思われるがちです。本科目では、性別が社会によって規定されてきたことを知り、性別に関する私たちの常識がいかに“不思議なこと”なのか、具体的なトピックを通して考えます。					
18.学習目標と DP との関連	この科目の DP（ディプロマ・ポリシー）は、「多様性理解」「問題発見・解決力」の学修に関連しています。 ①ジェンダーに関する問題がいかに社会的な問題とつながっているのかを説明することができる。 ②ジェンダー平等な社会を実現するために私たちがすべきことを提案できる。					
19.教科書・教材	●堀内かおる『10 代のうちに考えておきたいジェンダーの話』岩波書店（岩波ジュニア新書 979）、2023 年。 ISBN-978-4-00-500979-4					
20.参考文献	●瀬地山角・中村圭『図解ポケット ジェンダーがよくわかる本』秀和システム、2022 年 ●内閣府『令和 5 年版 男女共同参画白書』2023 年 ●森田晶子・森脇健介・矢内琴江・弓削尚子『ジェンダーの扉を開こう～自分らしく生きるために～』大和書房、2022 年 ※他の参考文献については、適宜、紹介します					
21.成績評価	○コメントシート（10 回）⇒計 50％…目標①② ○グループ発表（各章の紹介）⇒15％…目標① ○グループ設定課題の発表（企画書・レポート）⇒計 35％…目標②					
22.コメント	●教科書を指定しています。必ず入手（購入）してください。 ●対面受講を原則とします（体調不良等により出席停止の場合のみ遠隔受講を認めます）。 ●原則として、資料は WebClass にあげ、課題（レポート等）も WebClass で提出します。 ●PC、スマホをフル充電し、必ず、イヤホンもしくはヘッドセットを持参してください。 ●天候・気候、社会情勢により、急きょ、オンライン授業に切り替えることがあるかもしれま					

	せん。 ●ノートPCのみならずスマホにも Zoom をインストールしておいてください。	
23.オフィスアワー	【神戸山手キャンパス】 ○センタオフィスアワー⇒水曜昼休み（1号館2階ラーニングコモンズ） ○研究室オフィスアワー⇒水曜Ⅱ限（1320 研究室）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回 10月3日	○オリエンテーション（授業の内容・進め方・評価等） ○教科書「はじめに」の輪読 ○ジェンダーに関するアンケート(WebClass) ○コメントシートの作成・提出	○持参するもの：教科書、ノートPC ○コメントシート（WebClass 提出、10/5㍻切）
第2回 10月10日	○講義：ジェンダー入門 1.ジェンダーは現代の必修科目 2..ジェンダーって何？ 3.性別から自由になろう 4.世界標準のジェンダー常識 5.鍵はアンコンシャス・バイアス ○グループ編成と担当章の決定 ○コメントシートの作成・提出	○持参するもの：教科書、ノートPC ○コメントシート（WebClass 提出、10/12㍻切）
第3回 10月17日	I 10代のうちに考えておきたいジェンダーの話 ○発表準備 ○コメントシートの作成・提出	○持参するもの：教科書、ノートPC ○コメントシート（WebClass 提出、10/19㍻切）
第4回 10月24日	I 10代のうちに考えておきたいジェンダーの話 1 ジェンダーってなんだ？ ○グループ発表 ○講義（ふりかえり+補足） ○コメントシートの作成・提出	○持参するもの：教科書、ノートPC ○コメントシート（WebClass 提出、10/26㍻切）
第5回 10月31日	I 10代のうちに考えておきたいジェンダーの話 2 つくられる「女の子」「男の子」 ○グループ発表 ○講義（ふり返りと補足） ○コメントシートの作成・提出	○持参するもの：教科書、ノートPC ○コメントシート（WebClass 提出、11/2㍻切）
第6回 11月7日	I 10代のうちに考えておきたいジェンダーの話 3 ジェンダー化の装置＝学校？ ○グループ発表 ○講義（ふりかえり+補足） ○コメントシートの作成・提出	○持参するもの：教科書、ノートPC ○コメントシート（WebClass 提出、11/9㍻切）
第7回 11月14日	I 10代のうちに考えておきたいジェンダーの話 4 他者のまなざしの中の自分 ○グループ発表 ○講義（ふりかえり+補足） ○コメントシートの作成・提出	○持参するもの：教科書、ノートPC ○コメントシート（WebClass 提出、11/16㍻切）
第8回 11月	I 10代のうちに考えておきたいジェンダーの話	○持参するもの：教科書、ノートPC

21 日	5 大人になっていく過程で出会うジェンダー ○グループ発表 ○講義（ふりかえり+補足） ○コメントシートの作成・提出	○コメントシート（WebClass 提出、11/23 ㄱ切）
第 9 回 11 月 28 日	○Ⅰ 10 代のうちに考えておきたいジェンダーの話 6 ライフキャリアの実現に必要なこと ○グループ発表 ○講義（ふりかえり+補足） ○コメントシートの作成・提出	○持参するもの：教科書、ノート PC ○コメントシート（WebClass 提出、11/30 ㄱ切）
第 10 回 12 月 5 日	Ⅱ ジェンダー平等な社会の実現に向けて ○グループ課題の説明 ○ワーク：問題の整理、課題の設定	○持参するもの：教科書、ノート PC ○アサイメント：テーマについて調べてくる
第 11 回 12 月 12 日	Ⅱ ジェンダー平等な社会の実現に向けて ○ワーク：グループ課題の決定 ○ワーク：企画書案の作成・提出 ○ワーク：資料の収集	○持参するもの：教科書、ノート PC ○企画書案（WebClass 提出、12/14 ㄱ切） ○アサイメント：テーマに関する資料を収集しておく
第 12 回 12 月 19 日	Ⅱ ジェンダー平等な社会の実現に向けて ○ワーク：資料の整理、切り口の検討	○持参するもの：教科書、ノート PC ○アサイメント：収集した資料を整理して切り口を決めておく ○アサイメント：分析・考察を完成させておく
第 13 回 1 月 9 日	Ⅱ ジェンダー平等な社会の実現に向けて ○ワーク：発表資料の作成 ○発表順の決定	○持参するもの：教科書、ノート PC ○アサイメント：発表資料を完成させておく （WebClass 提出、1/11 ㄱ切）
第 14 回 1 月 16 日	Ⅱ ジェンダー平等な社会の実現に向けて ○グループ設定課題の発表 ○コメントシートの作成・提出	○持参するもの：教科書、ノート PC ○コメントシート（WebClass 提出、1/18 ㄱ切）
第 15 回 1 月 23 日	Ⅱ ジェンダー平等な社会の実現に向けて ○「当たり前」を見直す：だれもが活躍できる社会へ ○期末アンケートの実施 ○コメントシートの作成・提出	○持参するもの：教科書、ノート PC ○コメントシート（WebClass 提出、1/25 ㄱ切）

1.授業コード (ナンバリング)	SOC211-Y51	2.科目名	文化資源の活用と保全		3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【科目の目的】 本科目は、多様な文化資源を対象とするツーリズムの構造と特徴、および観光によるインパクトと文化遺産の観光マネジメントを理解し、説明できるようになることを目的としています。 【科目の概要】 人類の長い歴史のなかで創り出されてきた歴史的・文化的な事物は、現代社会において観光のための「資源」として活用されています。本科目では、多様な文化資源の類型を学んだうえで、特に世代をこえて継承されてきた文化遺産を対象とするツーリズムについて学んでいきます。ヘリテージ・ツーリズムと呼ばれる“遺産観光”が行われるなかで、貴重な遺産をどのように守り、活かして後世に伝えていくことが出来るか。この授業では、文化遺産の意義と保全の難しさ、およびツーリズムインパクトについて学び、保全と活用のバランスについて理解します。 本科目を通じて身につけた文化遺産の持続可能な観光活用の知識とスキルは、旅行業および地域振興にとって有意義なものとなるでしょう。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP の学修に関連しています。 (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）：自分とは異なる考え方や価値観を尊重し、多様な社会的・文化的背景を受け容れながら行動できる。 (4) 問題発見・解決力：様々な社会的・文化的な現象について科学的な視点から理解し、根拠にもとづいた解決のための提案ができる。 本科目の学習目標は以下の通りです。 ① 多様な文化資源の類型とその特徴について説明できる。 ②文化資源の類型に応じた観光活用の手法とそのメリット・デメリットについて説明できる。 ③ 文化遺産の脆弱性と観光インパクトの関係について説明できる。 ④ 文化遺産の観光マネジメントプラン作成法について説明できる					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	藤木庸介（編著）『生きている文化遺産と観光—住民によるリビングヘリテージの継承』学芸出版社、2010 年 Dallen J. Timothy, Cultural Heritage and Tourism: An Introduction, Channel View Books, 2011					
21.成績評価	評価の方法と採点は以下の通りです。 ・授業中のコメントシート・・・20% 【学習目標①②③④に対応】 ・確認試験・・・30% 【学習目標①②③④に対応】 ・総括試験・・・50% 【学習目標①②③④に対応】					
22.コメント	実際に世界遺産を訪れて、授業の内容を振り返りつつ見学すると、より理解が深まります。 また、多様な文化に対する多様な観方を共有するためにも、意見交換の場では積極的に発言してください。					
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 5 限（春） 学修支援センター：火曜昼休み（秋）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

【第1回】	・オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて） ・講義：ヘリテージとヘリテージツーリズムについて	準備学習：関連文献を読む（120分）
【第2回】	講義：文化資源を対象とする観光の概念と歴史 ディスカッション：なぜ人は文化遺産を求めるのか？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第3回】	講義：多様な文化資源を対象とするツーリズム グループワーク：文化遺産が提供する経験とは？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第4回】	講義：文化遺産を対象とするヘリテージツーリズムとその3つの側面 ディスカッション：文化遺産の「商品化」とは？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第5回】	講義：ヘリテージツーリズムの構造と課題 ディスカッション：観光が与える影響とは？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第6回】	講義：ヘリテージツーリズムの対象としての文化遺産 グループワーク：文化遺産の類型と観光への適性	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第7回】	講義：文化遺産の脆弱性：有形遺産 グループワーク：因果関係を考える	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第8回】	講義：文化遺産の脆弱性：無形遺産 【確認試験】前半の内容の理解度を確認（60分）	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第9回】	講義：ツーリズムインパクト（1）：ポジティブな影響	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第10回】	講義：ツーリズムインパクト（2）：ネガティブな影響 ディスカッション：観光は文化遺産にとってプラスかマイナスか	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第11回】	講義：観光による文化遺産の変化とその主体 グループワーク：ツーリズムインパクトの主因はなにか？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第12回】	講義：文化資源の観光マネジメントの考え方	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第13回】	講義：文化遺産のリスクアセスメント グループワーク：白川郷のリスクアセスメント	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第14回】	講義：文化資源を活かした観光の原則 ディスカッション：文化遺産の観光活用の意味	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第15回】	総括試験	これまでの授業を振り返り、ノートをまとめておく

1.授業コード (ナンバリング)	SOC212-Y51	2.科目名	自然資源の活用と保全		3.単位数	2
4.授業担当教員	橘セツ					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目は、グリーン（村落・農村・田園・カントリーサイド・自然・ルーラル）な空間を対象とするツーリズムについて学ぶ授業です。グリーンな空間は、近年、観光資源としての活用のありかたが注目されています。本科目を通じて身につけたグリーンな農村空間の持続可能な観光活用の知識とスキルは、旅行業および地域振興にとって有意義なものとなることをめざします。 【概要】 この授業では、生業に関わるグリーンな空間が、ツーリズムの対象とされ、利用され、消費され、開発されることによってひきおこされる農村のインパクトについて、世界と日本の事例から学び、保全と活用のバランスについて理解します。 本授業は、自然資源をよりよく活用することを探るグリーンツーリズム論を通して、観光学科で取り扱う重要なテーマ「ウェルビーイング社会の実現につながる新たな観光価値をデザインする」ことにアプローチします。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）・KUISs 学修ベンチマークの以下の項目と関連しています (1)自律的で主体的な態度（自律性） (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 本科目の学習目標は以下の通りです。 ① グリーンツーリズムの構造とその課題を説明できる。 ② グリーンツーリズムの類型について説明できる。 ③ グリーンツーリズムと観光インパクトの関係について説明できる。					
19.教科書・教材	教科書は特に指定しない。教材資料は、webclass で、配布します。					
20.参考文献	マイケル・ウッズ（2018）『ルーラル：農村とは何か』農林統計出版 筒井一伸編(2021)『田園回帰がひらく新しい都市農山村関係』ナカニシヤ出版など そのほか、授業中にたくさん紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と採点は以下の通りです。 ・授業中のコメントシート（授業内レポート）・・・・・・20% 【学習目標①②③に対応】 ・授業中の発表・・・・・・20% 【学習目標①②③に対応】 ・中間試験・・・・・・20% 【学習目標①②③に対応】 ・総括試験・・・・・・40% 【学習目標①②③に対応】 授業中のコメントシート、確認試験・統括試験の記述部分と発表は、ルーブリック評価で採点します。					
22.コメント	実際に農業体験などツーリズムの対象となっている日本の農村空間を訪れて、授業の内容をふりかえりつつ見学すると、より理解が深まります。 また、村落社会の生業に関わる歴史・景観・文化に対する多様な視点を共有するためにも、意					

	見交換の場では積極的に発言してください。	
23.オフィスアワー	個人研究室：月曜昼休み 学修支援センター：火曜昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	・オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて） ・講義：農村・農村性・田舎・田園とグリーンツーリズムについて	準備学習：関連文献を読む（120分）
【第2回】	講義：グリーンツーリズムの概念と歴史 ディスカッション：都市に住む人々にとっての農村（村落・田舎・田園・ルーラル）とは？、農村を研究するとのどのようなことか？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第3回】	講義：グリーンツーリズムの動機と類型 グループワーク：グリーンツーリズムが提供する経験とは？ 都市と農村・村落（グリーン・田舎・田園）のイメージの違いとは？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第4回】	講義：グリーンツーリズムの3つの側面（農村空間の三つ折りモデルの理解に向けて） ディスカッション：農村空間の「商品化」とは？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第5回】	講義：グリーンツーリズムの構造と課題：「日本で最も美しい村」連合の活動を手がかりにして（その1） ディスカッション：農村に観光が与える影響（インパクト）とは？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第6回】	講義：グリーンツーリズムの対象としてのグリーン（村落・農村・田園・カントリーサイド・自然・ルーラル）な空間：「日本で最も美しい村」連合の活動を手がかりにして（その2） グループワーク：グリーンツーリズムの類型と観光への適性	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第7回】	講義：グリーン（村落・農村・田園・カントリーサイド・自然・ルーラル）な空間におけるゲストとホストの関係・交流：「日本で最も美しい村」連合の活動を手がかりにして（その3） グループワーク：グリーンツーリズムにおけるゲストとホストの関係を考える	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第8回】	講義：農村をイメージする・農村を利用するとは？農村を消費するとは？ 中間試験	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第9回】	講義：グリーンツーリズムインパクト（1）：ポジティブな影響：都市農村交流人口を手がかりとして 中間試験のふりかえり	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第10回】	講義：グリーンツーリズムインパクト（2）：農村空間における摩擦：都市農村交流人口と田園回帰の諸相 ディスカッション：農村にとってツーリズムのプラス面とマイナス面のバランスについて考えてみよう	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第11回】	講義：ツーリズムによるグリーン（村落・農村・田	準備学習：関連文献を読む（60分）

	園・カントリーサイド・自然・ルール）な空間の変化とその主体：都市農村関係論的田園回帰 グループワーク：農村空間におけるツーリズムインパクトについて考えよう	復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第12回】	講義：グリーン（村落・農村・田園・カントリーサイド・自然・ルール）な空間を開発することをめぐって：農村で生きるとは？農村を演じるとは？農村を規制するとは？農村を再構築するとは？：グリーンツーリズムのマネジメント	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第13回】	講義：グリーンツーリズムの原則 ディスカッション：グリーン（村落・農村・田園・カントリーサイド・自然・ルール）な空間の観光活用の意味　：棚田オーナー制度を手がかりにして考える	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：総括試験に向けて授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第14回】	総括試験	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：総括試験のふりかえり（60分）
【第15回】	まとめ	これまでの授業をふりかえり、ノートをまとめておく

1.授業コード (ナンバリング)	SOC214-Y51	2.科目名	労働社会学		3.単位数	2
4.授業担当教員	飯嶋香織					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	現在、日本は少子高齢化社会の進行の中で、仕事のあり方も大きく変化している。そういった状況下での職業、仕事、会社のありかたなどについての具体的な事例などを通して考えていく。現在、労働のあり方、雇用環境に大きな変化があり、大学生の就職、非正規労働力率の高まり、長期安定雇用の減少といったさまざまな課題を抱えている。 さらに外国人労働者などが日本の労働市場に多く参入するようになってきた。こうした変化の実態を映像資料や各種の統計などを通して理解し、今後の労働のあり方について検討することである。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は 総合社会学科の DP の「S1.修得した知識技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力」「2.主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力」の学修に関連している。 ①日本の雇用システムによって、家族のかたち、日本型福祉や社会政策がどのように規定されてきたのか、それが現在どのように変化してきたのかについて理解し説明できる。 ②女性、非正規労働者、高齢者など、多様な働き方の現状と課題に理解し、説明できる。 ③日本での外国人労働者の現状や抱える課題、日本の労働市場に与える影響などを理解し、説明できる。 ④グローバル化の進行の中で、今後の労働のあり方がどのように変換していくかについて理解し、説明できる。 ⑤現代日本企業のあり方やその変化の動向を学び、大学卒業後の自らの働き方や生活について理解し、説明することができる。 SDGs（持続可能な開発目標）17のゴール の中の 「8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生涯的な雇用と働きがいのある人間らしい（ディーセント・ワーク）を促進する」の視点からも考察していきます。					
19.教科書・教材	指定なし 必要な資料は授業中に配布するか、WEB CLASS にアップします					
20.参考文献	今野晴貴 『ブラック企業 日本を食いつぶす妖怪』 文芸春秋 竹ノ下弘久 『仕事と不平等の社会学』 弘文堂 石田淳 『相対的剥奪の社会学：不平等と意識のパラドクス』 東京大学出版会.					
21.成績評価	授業で提出するレポート 40% （学習目標①と②と③に対応） 中間レポート 20% 最終レポート 40% （学習目標③と④と⑤に対応） 最終レポートは授業の関連する資料を読んで、現在の労働について社会学的な観点から考察する内容 レポートは採点・講評をして各自に返却します。基準に満たない場合は再提出が必要となります。					
22.コメント	原則、対面授業です。ただし、天候不良など登学禁止となり、対面で授業が実施できない場					

	合は、遠隔での対応となります。その場合、授業を ZOOM など録画して授業内の WEB CLASS で公開することがあります。 講義で事例として取り上げるのが日本での事例が中心のため、日本の現状に一定の理解が必要になります。 大学を卒業後、多くの学生が就職することになるであろう。職業、仕事、会社などについての疑問や関心などをデータなどを用いて現実を考えていくのが労働社会学です。それを通して自分がいま生きているこの社会のあ	
23.オフィスアワー	授業後に教室または非常勤講師室	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	日本の現状：少子高齢化の中での働くこと 高齢化社会の労働者 高齢者の労働状況	【復習】配布資料の復習
【第 2 回】	雇用システムの変化 ① 日本型雇用システム 日本の企業と働く社会を考える 自分が将来就きたい職業について考える	【復習】配布資料の復習 【次回の予習】次週の授業内容に関連した動画の視聴(動画は WEB CLASS にアップ)
【第 3 回】	雇用システムの変化 ② 雇用の多様化 日本型雇用慣行の今後 企業の経営戦略の変化と雇用の未来	【復習】配布資料の復習 【次回の予習】次週の授業資料配布
【第 4 回】	雇用システムの変化 ③ 非正規雇用 ニート、フリーター 1990 年代初頭のフリーターが登場した背景と非正規雇用の増加 非正規雇用から正規雇用への移行の困難さ	【復習】レジュメの復習 【次回の予習】中間レポートの課題を配布 課題の資料を読んで不明点などは次の時間に質問してください
【第 5 回】	女性と仕事 ① 就業構造の変化 社会の変化と岐路に立つ日本型福祉社会	【復習】小川 慎一 他著 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』P229-233 【予習】小川 慎一 他著 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』P229-233
【第 6 回】	女性と仕事 ② 均等法の成立・改正とその影響 職場における男女平等の道のりー男女雇用機会均等法施行以降	【復習】小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』P229-233 【予習】小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』P224-254
【第 7 回】	女性と仕事 ③ 非正規雇用と女性 女性の貧困 性別役割分業 育児休業と継続就業 主婦パートの現在	【復習】小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』P224-254 【予習】次週の授業内容に関連した動画の視聴(動画は WEB CLASS にアップ)
【第 8 回】	仕事を取りまく制度 働き始める前に知っておいて欲しいこと 労働に関する法のしくみ、労働基準法、労働組合、労使協議	【復習】中間レポートの提出締め切り 中間レポートは第 9 回目の授業に返却予定 【予習】授業の関連する動画の視聴し、課題を WEB CLASS で回答
【第 9 回】	働き方はどう変わってきたか：技術革新と職場の変化 情報通信技術が変える社会	【復習】小川 慎一 他著『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』P123-P139 【予習】次回のレジュメを配布しますので読んでください
【第 10 回】	過労死・過労自殺 ブラック企業 ブラック企業とは、低賃金・長時間労働、うつ病、過労死	【復習】小川 慎一 他著 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 P123-P139 【予習】小川 慎一 他著 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 P205-228
【第 11 回】	大学生の就活問題	【復習】小川 慎一 他著『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』P205-228

	日本のメリトクラシー 日本の学歴社会	学する 産業・労働社会学』 P123-P139 【予習】最終レポートの課題を配布。課題の資料を読んで不明点などは次の時間に質問してください
【第 12 回】	グローバル化と働くこと① 海外で働くとは	【復習】小川 慎一 他著 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 閣 P255-P260 【予習】小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業有斐閣テキスト P261-278
【第 13 回】	グローバル化と働くこと② 日本における外国人労働者 日本における外国人労働者：日系人と技能実習生	【復習】 小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 有斐閣 P123-P139 【次回の予習】 小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 有斐閣 P205-228
【第 14 回】	感情労働 感情労働の概念 対人サービス業における感情労働 感情労働—現代社会における労働の変容	【復習】 配布資料の復習 最終レポートの最終提出締切 最終レポートは 15 回目に返却
【第 15 回】	まとめ 最終レポートの返却と講評	コメントを書いた最終レポートを返却します。基準に達していない学生は再提出が必要となります。

1.授業コード (ナンバリング)	SOC215-Y51	2.科目名	消費行動・消費社会論		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	職業選択からはじまり、職業、会社組織での役割などの社会と個人との関係は生涯にわたって続き、絶えず変化していく。自らの人生およびキャリアを考え、それをデザインしていくうえにおいて必要な心理学的知識を習得するとともに、自らの内面を捉える論理的思考力を身につける。 また、消費者の心理やビジネスコミュニケーションを学ぶとともに、職場環境の中で生じる様々な問題とそれに対処するための知識を身につける。本授業では、このような観点からキャリアにまつわる心理学的な知見を学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の (1) 自律性 (2) 社会的貢献性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①産業・組織心理学が扱う、諸領域の基礎的な理論について説明できる。 ②組織の中で生じる人の行動や、様々な問題とそれに必要な支援について具体的に理解し、説明できる。 ③消費者の購買行動の規定因に関わる心理について理解し、説明できる。 ④産業・組織心理学の知見を自分自身の就業・キャリア発展に活かすことができる。					
19.教科書・教材	webclass にレジメをアップしますので、授業開始までに印刷しておくこと。					
20.参考文献	経営とワークライフに生かそう！産業・組織心理学 改訂版 山口裕幸ら著 有斐閣 サクッとわかるビジネス教養行動経済学 阿部誠監修 新星出版社					
21.成績評価	1. 各回のミニレポート×14 回＝60％（学習目標の②③④に対応） 2. 到達度確認テスト：40％（学習目標の①②③④に対応）					
22.コメント	※前日までに次回のレジメ(ppt の穴抜き)を webclass に用意します。 レジメは授業前に印刷をしておいてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	ガイダンス：産業・組織心理学とは					
第 2 回	説得における態度とは何か、説得の影響					
第 3 回	社会的証明とネットレビューの心理学					
第 4 回	ネガティブポイントをポジティブに見せる方法					
第 5 回	承諾を得やすくするためのユニットアスキング					
第 6 回	説得時における数字の効果					
第 7 回	従業員のモチベーションを高める心理学					
第 8 回	職場のコミュニケーション					
第 9 回	特典付加の心理学					
第 10 回	広告・マーケティング①					

第 11 回	広告・マーケティング②	
第 12 回	心理的財布と支払い	
第 13 回	苦情行動・クレーマー	
第 14 回	ラストシーンの心理学	
第 15 回	到達度確認テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	SOC217-Y51	2.科目名	家族社会学		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水美知子					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	「社会学基礎Ⅰ」「社会学基礎Ⅱ」を履修済 が望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	原則として、第 1 回目の授業に出席した者に限ります。無断欠席の場合は、履修を取り消す場合もあるので、注意してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、家族の過去、現在、未来について、自分の生き方と社会のあり方とを関連づけながら考えるようになることを目指します。 【概要】 日本の「家族」および「家庭」は、急激な社会の変化にともない、この半世紀ほどの間に大きく変わったと言われています。日本人のライフスタイルにも変化が見られ、夫婦とは、親子とは、そして家族・家庭とは、いったい何なのかが改めて問われています。家族はどのように変わりつつあり、家庭はどのような方向に進もうとしているのでしょうか。					
18.学習目標と DP との関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の「多様性理解」の学修に関連しています。 ①自分の育った家族について他人に語ることができる。 ②自分の結婚観について論理的に説明することができる。 ③ワークファミリーバランスの現状について、問題点を指摘することができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。毎回の配布資料は WebClass 等に挙げます。					
20.参考文献	○山田昌弘『結婚不要社会』朝日新聞出版,2019 年（朝日新書 717） 他については適宜、紹介していきます。					
21.成績評価	・第 1 回レポート（テーマⅠ）⇒20%（目標①） ・第 2 回レポート（テーマⅡ）⇒20%（目標②） ・第 3 回レポート（テーマⅢ）⇒20%（目標③） ・授業中の課題（アサイメント含む）⇒40%（目標①～③）					
22.コメント	●総合社会学科「家族論」を同じ時間帯に開講します。 ●原則対面で授業を行います（体調不良等により出席停止の場合のみ遠隔受講を認めます） ●原則として、資料は WebClass にあげ、課題（レポート等）も WebClass で提出します。 ●PC、スマホをフル充電し、必ず、イヤホンもしくはヘッドセットを持参してください。 ●天候・気候、社会情勢により、急きょ、オンライン授業に切り替えることがあるかもしれません。 ●ノート P C のみならずスマホにも Zoom をインストールしておいてください。 ●グループワークの多い授業					
23.オフィスアワー	【神戸山手キャンパス】 ○センタオフィスアワー⇒水曜昼休み（1 号館 2 階ラーニングコモンズ） ○研究室オフィスアワー⇒水曜Ⅱ限（1320 研究室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	テーマⅠ：「家族」って何だろう？①			提出物：ワークシート		

10月2日	○オリエンテーション（授業の内容・進め方・評価等） ○ワーク：「家族」という言葉から何を連想するか？	復習：今回の復習
第2回 10月9日	テーマⅠ：「家族」って何だろう？② ○ワーク：疑似家族の編成（グループ分け） ○ワーク：家族構成やファミリーコンセプトを設定し、発表する。 ○ワーク：「家族の範囲」についてのミニアンケート ●第1回レポート告知	提出物：ワークシート ：アンケート 復習：今回の復習
第3回 10月16日	テーマⅠ：「家族」って何だろう？③ ワーク：「家族の範囲」についてのミニアンケートの結果をもとに、家族の多様性について考える。	提出物：ワークシート 復習：今回の復習
第4回 10月23日	テーマⅠ：「家族」って何だろう？④ ○ワーク：第1回レポート、ファミリー内発表 ○ワーク：第1回レポート、ファミリー代表の発表 ○テーマのふりかえり	提出物：ワークシート 復習：今回の復習
第5回 10月30日	テーマⅠ：「家族」って何だろう？⑤ ○ワーク：第1回レポート、ファミリー代表の発表（続き） ○テーマのふりかえり	提出：アンケート 復習：今回の復習
第6回 11月6日	テーマⅡ：「結婚」について考える① ○講義：日本における結婚の変遷 ○ワーク：結婚観に関するアンケート	提出物：オークション 復習：今回の復習
第7回 11月13日	テーマⅡ：「結婚」について考える② ○ワーク：結婚相手はどんな人？（オークションの実施） ○第2回レポート課題告知 「結婚する／しない？：わたしの結婚観」	提出物：ワークシート 復習：今回の復習
第8回 11月20日	テーマⅡ：「結婚」について考える③ ○講義：オークション結果の発表 ○ワーク：アンケート結果をもとに結婚観について考える ○講義：データからみた日本の結婚（続）	提出物：ワークシート 復習：今回の復習
第9回 11月27日	テーマⅡ：「結婚」について考える④ ○ワーク：第2回レポート、ファミリー内発表 ○ワーク：第2回レポート、ファミリー代表の発表 ○テーマのふりかえり	提出物：ワークシート 復習：今回の復習
第10回 12月4日	テーマⅢ：家事と就労について考える① ○ワーク：第2回レポートの発表（続） ○第3回レポート課題告知 「ウィズコロナ、アフターコロナ時代の働き方と家	提出物：ワークシート 予習：資料収集

	族：私たちはこう考える」 ○ワーク：テーマに関するディスカッション（ファミリー単位）	
第 1 1 回 12 月 11 日	テーマⅢ：家事と就労について考える② ○講義：新聞記事の検索：『聞蔵』を中心に ○ワーク：テーマに関する記事検索 ○ワーク：テーマに関するディスカッション（2 回目）	提出物：ワークシート 予習：資料収集
第 1 2 回 12 月 18 日	テーマⅢ：家事と就労について考える③ ○ワーク：テーマに関するグループディスカッション（3 回目） テーマと方向性、役割分担を決める。	○予習：資料の収集
第 1 3 回 1 月 8 日	テーマⅢ：家事と就労について考える④ ○ワーク：テーマに関するグループディスカッション（4 回目） 持ち寄ったデータを整理しまとめる。プレゼン資料の作成	持参するもの：ノート P C、調べてきた記事 授業外グループ学習：テーマについて分担して調査
第 1 4 回 1 月 15 日	テーマⅢ：家事と就労について考える⑤ ○ワーク：第 3 回レポートの発表（ファミリー単位）	提出物：ワークシート
第 1 5 回 1 月 22 日	テーマⅢ：家事と就労について考える⑥ ○ワーク：第 3 回レポートの発表（ファミリー単位）（続） ○講義：テーマのふりかえり ○授業アンケートの実施	提出物：ワークシート 第 3 回レポート

1.授業コード (ナンバリング)	SOC218-Y51	2.科目名	ソーシャルデザイン論		3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 現代社会におけるまちづくりのあり方について、商店街などの商業空間や、公園・広場といった公共空間などの身近な生活空間を中心に講義します。都市では、さまざまな立場や考えを持った人びとが同じ地域や場所で生活しています。こうした、異なる人たちと共に（ときに折り合いをつけながら）どのようにして、いっしょに暮らしていけるのかは、都市でのまちづくりの重要なテーマです。この授業をとおして、「社会」という観点から、都市計画やまちづくりについて考える姿勢を身につけることが、本講義の目的です。 【概要】 授業ではまず、都市計画とまちづくりに関する基本的な知識や視点について講義します（最後の第 15 回目の授業で確認テストを実施します）。これらの知識をふまえたうえで、公園・広場などの公共空間および、商店街やショッピングモールなどの商業空間といった都市空間におけるまちづくりのあり方について考えます。授業は担当教員による講義と、おもにレポート課題を作成するためのグループワークを実施する時間に分かれます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の S1、S2 の学修に関連しています。 ①現代社会におけるまちづくりについての基本的な知識や考え方について述べることができる ②商店街、中心市街地、公共空間など、個別トピックにおけるまちづくりの課題について理解し説明することができる。 ③自分にとっての身近な生活空間に関心を持ち、そのあり方について自分なりの意見を持ち説明することができる。					
19.教科書・教材	使用しません。毎回、レジュメと資料を配布します。					
20.参考文献	ジェイン・ジェイコブズ（山形浩生 訳）『新版 アメリカ大都市の死と生』鹿島出版会、2010 年 中島直人・村山顕人ほか『都市計画学:変化に対応するプランニング』学芸出版社、2018 年 笹尾和宏『PUBLIC HACK:私的に自由にまちを使う』学芸出版社、2019 年 満園勇『商店街はいま必要なのか』講談社現代新書、2015 年 満園勇『日本流通史:小売業の近現代』有斐閣、2021 年 広井良典『商店街の復権――歩いて楽しめるコミュニティ空間』ちくま新書、2024 年 その他、適宜授業内で紹介します。					
21.成績評価	レポート課題①（公共空間）：40 点 レポート課題②（商店街）：40 点 ミニテスト（第 15 回で実施）：20 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 2 限目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

【第1回】	〔講義〕 イントロダクション	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。
【第2回】	〔講義〕 都市計画とまちづくりの基本知識①	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること
【第3回】	〔講義〕 都市計画とまちづくりの基本知識②	予習：あらかじめ出題された課題に取り組むこと 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること
【第4回】	〔講義〕 公共空間とまちづくり①：都市公園とは何か	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。 【レポート課題（公共空間）の提示】
【第5回】	〔講義〕 公共空間とまちづくり②：都市公園政策の過去と現在	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。
【第6回】	〔講義〕 公共空間とまちづくり③：都市公園の管理をめぐる問題	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。
【第7回】	〔活動〕 公共空間とまちづくり④：公共空間の管理と「自由」（グループワーク）	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第8回】	〔活動〕 公共空間とまちづくり⑤：公共空間のデザイン（グループワーク）	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第9回】	〔講義〕 商店街とまちづくり①：商店街のなりたち（近現代を中心に）	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。 【レポート課題（商店街）の提示】
【第10回】	〔講義〕 商店街とまちづくり②：商店街活性化政策の変遷	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第11回】	〔講義〕 商店街とまちづくり③：商店街活性化の現代的課題	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第12回】	〔活動〕 商店街とまちづくり④：商店街の現状を調べよう（グループワーク）	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること

【第 13 回】	[活動] 商店街とまちづくり⑤：商店街の現状を調べよう（グループワーク）	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第 14 回】	[活動] 商店街とまちづくり⑤：商店街の現状を調べよう（グループワーク）	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第 15 回】	まとめ・ミニテスト	ミニテストに向けて対策をすること

1.授業コード (ナンバリング)	SOC220-Y51	2.科目名	マスコミ論		3.単位数	2
4.授業担当教員	大西昭彦					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	暗箱のなかの小さな針穴から、私たちは世界をのぞき、ときに声をだしています。この針穴が「メディア」であり、それを通じた情報のやりとりが「マス・コミュニケーション（マスコミ）」です。授業では、現代および歴史に例をとりながら、さまざまなマス・メディアが果たしてきた役割を検証。自分たちがいまどこにいるのか、どこに向かっているのかを知る能力をやしません。					
18.学習目標と DPとの関連	「S1.修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力」 「S2.社会や文化について科学的に理解する力」の学修に関連しています。 1. 変革期にあるマス・コミュニケーションの全体像を理解し、説明できる。 2. 各メディアの特性や仕組み、社会との関わりを理解し、説明できる。 3. 各メディアのコンテンツをとおして時代の流れを理解し、説明できる。 4. メディアの構造や表現法について学び、自らのメディア表現に使うことができる。					
19.教科書・教材	授業でレジュメを配付、資料はプロジェクターで投影					
20.参考文献	適宜紹介					
21.成績評価	授業態度・課題 30 点 （学習目標の1～4に対応） 期末レポート 70 点 （学習目標の1～4に対応）					
22.コメント	メディアによって伝えられるさまざまな分野のコンテンツを中心に、授業を進めます。メディアはふだんの生活のなかで身近に接しているものです。各分野ごとに自分なりの関心や疑問をもち、授業にのぞむとよいでしょう。質問等は授業後またはコメントシートにて受け付けます。 前期の新聞研究とあわせて受講することで、より理解が深まります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に、教室で質問を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	ガイダンス、メディア論導入			復習／レジュメを再確認		
第2回	メディア・コミュニケーション 1／身体とメディア			復習／レジュメを再確認		
第3回	メディア・コミュニケーション 2／集団とメディア			復習／レジュメを再確認		
第4回	メディア・コミュニケーション 3／技術とメディア			復習／レジュメを再確認		
第5回	メディア史（権力とメディア）			復習／レジュメを再確認		
第6回	メディア史（感染症とメディア）			復習／レジュメを再確認		
第7回	メディア史（戦争とメディア）			復習／レジュメを再確認		
第8回	メディア史（経済とメディア）			復習／レジュメを再確認		
第9回	印刷系メディア／新聞・出版			復習／レジュメを再確認		
第10回	電波系メディア／TVを中心に			復習／レジュメを再確認		
第11回	メディアと広告1／構造			復習／レジュメを再確認		
第12回	メディアと広告2／表現			復習／レジュメを再確認		
第13回	メディアと表現1／言葉・音楽と社会			期末レポート課題発表 復習／レジュメを再確認		
第14回	メディアと表現2／絵画・写真史と社会			復習／レジュメを再確認		

第 15 回	メディアと表現 3 / 映画と社会	復習 / レジュメを再確認

1.授業コード (ナンバリング)	SOC221-Y51	2.科目名	サブカルチャー論		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本慎太郎					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： この科目では、日常的に触れるコンテンツから学びの契機を見出す視点を身に付けることを目的とします。 概要： 特に日本において制作されてきた商業アニメを中心に、画面を作る表現の技術、画面に盛り込まれたさまざまな情報とその解釈、こうしたコンテンツの提供を可能にするビジネスの変遷や、見るがわの楽しみ方の変遷について概説します。コンテンツを多様な視点から評価・分析することを経験し、コンテンツに現れた人間活動のさまざまな側面にまつわる学びや研究の手がかりを得ることができます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解 （4）問題発見・解決力 の学修に関係しています。 学修目標は以下の通りです。 ①日常的に接するコンテンツを、技術やその系譜、受容のされかたなどから多角的に検討できる。 ②コンテンツに接することを契機として、自らの興味・関心に基づいた自発的な学習を実施できる。 ③コンテンツについて述べられた様々な文章や議論を批判的に検討できる。					
19.教科書・教材	使いません。毎回、資料を配付します。					
20.参考文献	参考文献や映像作品については、授業中、適宜紹介します。					
21.成績評価	①毎回、授業から得た理解や着想についての短文を提出。各回講義の理解（学修目標①に対応）・授業に積極的に参加し自発的な思考を行えているか（学修目標②に対応）、理解した内容の表現力（学修目標③に対応）、を評価します。 ー60 点 ②最終評価レポート（感染防御対策のため、以前よりアナウンスしておりました総括試験から変更して、レポートとして実施します）：論述形式で実施し、授業内容の理解（学修目標①に対応）と自発的な学習の達成（学修目標②に対応）、また、それらを整理して書く能力（学修目標③に対応）を評価します。 ー40					
22.コメント	成績評価方法①にある短文、および質問などについて、適宜授業内で返答します。これらの教員からの応答は、適宜に双方向性をもたせ、ディスカッションとしても運用します。また、各種の問い合わせなどにはメールや WebClass でも対応します。					
23.オフィスアワー	授業各回の前後にも随時、質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	アニメの背後に見出せるもの ー近年の日本アニメの潮流			ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass な		

		ど、オンラインツールを介して行う予定)。
【第2回】	作画、戦闘、ミュージカル — 『マクロスF』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出 (WebClass など、オンラインツールを介して行う予定)。
【第3回】	アニメの「背景」と画面 — 『機動警察パトレイバー』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出 (WebClass など、オンラインツールを介して行う予定)。
【第4回】	「2次元」の場面表現 — 『ユリ熊嵐』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出 (WebClass など、オンラインツールを介して行う予定)。
【第5回】	情報量のコントロール — 『新世紀エヴァンゲリオン』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出 (WebClass など、オンラインツールを介して行う予定)。
【第6回】	戦闘美少女と魔法少女 — 『美少女戦士セーラームーン』『おジャ魔女ドレミ』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出 (WebClass など、オンラインツールを介して行う予定)。
【第7回】	くりかえしとその終わり — 『魔法少女まどか☆マギカ』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出 (WebClass など、オンラインツールを介して行う予定)。

		可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 8 回】	『おそ松さん』が描く男子	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 9 回】	迫害と主張の世代 — 『ドリフターズ』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 10 回】	「二次創作」とメディアミックス — 『Fate/Grond Order』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 11 回】	「速さ」の革新 — 『けものフレンズ』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 12 回】	宮崎駿のもたらしたもの	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目に

		するコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 13 回】	「現場」体験と地域 ―『ゾンビランドサガ』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 14 回】	好きなものを大切に生きていくーコンテンツのこれから	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 15 回】	まとめ	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。

1.授業コード (ナンバリング)	SOC308-Y51	2.科目名	質的調査法 (1/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業では、社会調査で用いられる様々な質的データの収集と分析の方法を学ぶ。まず、社会学の分野における研究例を紹介しつつ各方法の特徴を概観する。また、一部の方法については実際に質的データの収集と分析を試みることで、質的調査の実践的なスキルの基礎を習得することを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	①社会調査における質的調査の特徴とその意義を理解することができる。 ②インタビュー調査の実査をとおして、インタビューデータをまとめ資料化することができる。 ③フィールドワーク（観察法、新聞記事検索）によるデータの収集と分析ができる。					
19.教科書・教材	テキストおよび資料を配布する。					
20.参考文献	工藤保則・寺岡伸悟・宮垣元編 『〔第3版〕質的調査の方法：都市・文化・メディアの感じ方』 法律文化社、2022 年 その他、適宜紹介します。					
21.成績評価	①観察法に関する小課題…10 点 [学習目標①③に対応] 「路上観察」にかんするミニ課題を出します（第2回） ②新聞記事分析の発表…45 点 [学習目標①③に対応] 読売新聞データベース（ヨミダス）をつかって、平成の日本社会にかんする記事を集め、まとめてもらいます。 ③インタビュー調査のレポート…45 点 [学習目標①②に対応] 社会科学学生にインタビューを実施し、インタビュー記録を文字に起こし、レポートとしてまとめてもらいます。					
22.コメント	グループワークや意見交換などをよくおこなう授業です。 また、授業時間外におこなう作業が多い授業なので、そのつもりで受講してください。					
23.オフィスアワー	個人研究室：金曜昼休み 学修支援センター：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	授業の進め方、評価等についての説明			復習：授業内容をノートなどにまとめる		
【第2回】	質的調査とは何か 量的調査と質的調査、質的調査の意義とは何か			準備学習：授業内にて提示したテキストを読むこと 復習：授業内容をノートなどにまとめる		
【第3回】	観察法：路上観察			準備学習：授業内にて提示したテキストを読むこと 宿題：小課題をすること		
【第4回】	新聞記事分析①課題の提示			準備学習：授業内にて提示したテキストを読むこと 復習：授業内容をノートなどにまとめる		

【第 5 回】	新聞記事分析②テーマを決める	準備学習：調べたいテーマを考えておくこと 宿題：企画書をまとめる
【第 6 回】	新聞記事分析③新聞記事を検索する	授業時間外に新聞記事検索を実施する
【第 7 回】	新聞記事分析④検索結果の整理、まとめ	新聞記事検索結果のデータベースを完成させる
【第 8 回】	新聞記事分析⑤レポートの発表	発表の準備をする
【第 9 回】	インタビュー法①：課題の提示	準備学習：インタビューの対象者と目的を考えておくこと 宿題：インタビューの対象者へのアポイントメントをおこなう
【第 10 回】	インタビュー法②：調査対象の選定	準備学習：インタビューの対象者と目的を考えておくこと 宿題：インタビューの対象者へのアポイントメントをおこなう
【第 11 回】	インタビュー法③：質問項目の作成	準備学習：インタビューのテーマについての先行研究などを調べておく 宿題：質問項目リストを完成させる
【第 12 回】	インタビュー法④：インタビューの実施	授業時間外にインタビュー調査を実施し、データを収集しておくこと。
【第 13 回】	インタビュー法⑤：インタビューデータの整理、文字起こし	準備学習：インタビュー記録の整理（文字起こしなど）をおこなっておくこと 宿題：授業内に提示した方法を参考に、インタビュー記録をレポートとしてまとめる。
【第 14 回】	インタビュー法⑥：インタビューレポートの作成	宿題：授業内に提示された小課題を完成させる
【第 15 回】	まとめ	準備学習：これまでに提出した課題（レポート）をもう一度よく読み、ふりかえる 復習：授業内容をノートなどにまとめる

1.授業コード (ナンバリング)	SOC308-Y52	2.科目名	質的調査法 (2/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水美知子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科・心理学科			9.履修学年	社会学科：2 年～ 心理学科：3 年～	
10.取得資格の要件	社会調査士（選択）		11.先修条件	「社会調査論」「社会調査法」（心理学科は「社会調査法Ⅰ」「同Ⅱ」）履修済であることが望ましい		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義（一部、演習を含む）		
16.履修制限	人数制限あり。おおむね 20 名まで。超えた場合は「社会調査士」資格取得希望者を優先します。第 1 回目の授業に必ず出席してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、質的調査に関する講義と演習を通して、質的調査への理解を深めることを目的とします。 【概要】 前半では、質的調査の意義と特質について理解した上で、質的調査法の種類について調査事例を通して学びます。後半では、具体的なテーマに沿って、2 つの調査法（「観察調査」「インタビュー調査」を予定）について、企画・実査から分析、結果の考察、報告書の作成までを行います。調査体験を通して、質的調査法への理解を深めることをねらいとします。					
18.学習目標と DP との関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の「専門的知識・技能の活用力」の学修に関連しています。 ①質的調査の意義、意類と特質について説明できる。 ②観察調査を企画し、実施することができる。 ③インタビュー調査を企画し、実施することができる。					
19.教科書・教材	使用しない。教材は WebClass にあげる。					
20.参考文献	●工藤保則・寺岡伸吾・宮垣元編『〔第 3 版〕質的調査の方法：都市・文化・メディアの感じ方』法律文化社 その他の文献については適宜、紹介する					
21.成績評価	・調査企画書⇒20%（目標②③） ・調査報告書⇒計 40%（目標②③） ・プレゼンテーション⇒計 10%（目標②③） ・練習問題⇒計 30%（目標①）					
22.コメント	①～④を了解できる人のみ履修してください。 ①調査を実施したり結果をまとめるなど、授業外学習が多い科目です。 ②グループワークが多い授業ですので、出席することが大前提となります。 ③教科書を使用しますが、すべての章を詳しく扱うわけではありません。 ④教室外での調査が予定されているため、常時遠隔受講を希望する方には対応できません。					
23.オフィスアワー	【神戸山手キャンパス】 ○センターオフィスアワー⇒水曜昼休み（1 号館 2 階ラーニングコモンズ） ○研究室オフィスアワー⇒水曜Ⅱ限（1320 研究室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	・オリエンテーション(授業の内容、進め方、評価方法			◆教科書◆（毎回持参）		

	等) ・ 質的調査へのいざない (教科書 第1章) ・ 練習問題	提出物: 練習問題 復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 教科書第2章の精読
第2回	・ 第1章練習問題の発表 ・ 第1章の②輪読 ・ 海外における質的調査の歴史、日本における質的調査の歴史 (教科書第2章) ・ 練習問題 ・ グループ編成	提出物: 練習問題 復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 教科書第3章の精読
第3回	・ 質的調査と量的調査の違い、質的調査と量的調査の関係、質的調査の意義と特質 (教科書第3章) ・ 練習問題	提出物: 練習問題 復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 教科書第4章と第5章を読む
第4回	・ 質的調査の種類①非参与観察法および参与観察法 ・ 調査事例の解説 (教科書第4章、第5章) ・ 練習問題	提出物: 練習問題 復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 教科書第6章と第7章の精読
第5回	・ 質的調査の種類②インタビュー法およびライフヒストリー法 ・ 調査事例の解説 (教科書第6章、第7章) ・ 練習問題	提出物: 練習問題 復習: 今回の復習および授業ノートの整理 予習: 教科書第8章と第9章の精読
第6回	・ 質的調査の種類③文化資料分析法および映像分析法 ・ 調査事例の解説 (教科書第8章、第9章) ・ 練習問題	提出物: 練習問題 復習: 今回の復習およびノートの整理 教室外グループ学習: 観察調査のテーマについて考えてくる。
第7回	観察法の体験① ・ 観察調査のテーマを設定し、調査企画書を作成する。	◆ノートPC◆ 授業外グループ学習: ①企画書を完成させる。 ②第1回調査の実施
第8回	観察調査の体験② ・ 第1回調査結果について、グループ内で話し合い、分析方法を検討する。 ・ 調査が不調だった場合には、調査法を再検討する。	◆ノートPC◆ 授業外グループ学習: 第2回調査を行う。 提出物: 観察法企画書
第9回	観察調査の体験③ ・ 第2回調査結果について、グループ内で話し合い、調査結果をまとめる。 ・ 調査が不調だった場合には、調査法を再度検討する。	◆ノートPC◆ 授業外グループ学習: ①第3回調査 (第2回調査が不調だった場合) ②調査結果の整理 ③報告書の作成 (次回提出) ④プレゼン資料の作成 (次回提出)
第10回	観察調査の体験④ ・ 調査報告書にもとづきプレゼンテーションを行う。	◆ノートPC◆ 授業外グループ学習: インタビュー調査のテーマを考えてくる。 提出物: ①観察法調査報告書 ②プレゼンテーション資料
第11回	インタビュー調査の体験① ・ インタビュー調査のテーマを設定する。	◆ノートPC◆ 授業外グループ学習: 対象者を検討する。

	・調査対象者、人数、質問項目(チェックリスト)を作成する。 ・調査企画書を作成する。	
第12回	インタビュー調査の体験② ・グループ毎にインタビューの練習を行う。 ・インタビュー調査の企画書を完成させる。	◆ノートP C◆ 提出物：インタビュー調査企画書 授業外グループ学習：調査の実施
第13回	インタビュー調査の体験③ ・データを記録としてまとめる。	◆ノートP C◆ 授業外グループ学習：記録を完成させる。
第14回	インタビュー調査の体験④ ・調査結果を整理し、考察を加える。 ・報告書を作成する。	◆ノートP C◆ 授業外グループ学習： ①調査報告書を完成させる。 ②プレゼンテーション資料の作成
第15回	インタビュー調査の体験⑤ ・調査報告書にもとづきプレゼンテーションを行う。 ・授業のふりかえり。	提出物： ①インタビュー調査報告書 ②プレゼンテーション資料

1.授業コード (ナンバリング)	SOC310-Y01	2.科目名	国際地政学		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	講義	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科を中心に他学部他学科を受け入れます。			9.履修学年	1 回生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	特にありません。	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	特にありません。					
17.授業の目的と概要	目的：グローバル化する日本と諸外国の交流を地理・歴史と政治学から考える 概要：国際地政学（Geopolitics）は、グローバルスタディに出かける皆さんが、訪問先の国々と日本との関わりを探るために、欧米や東アジア、極東、南アジア地域の地理と歴史、そして政治の流れを広く学ぶ授業です。この地政学は、19 世紀から 20 世紀初期、アジアやアフリカの未開の地を、イギリスやドイツ、アメリカや日本が征服し、植民地として経営するために発達しました。これらの強国が自国の国民経済の利益最大化のための学問でした。その侵略的な考え方は、第二次世界大戦後の平和な国際社会では避けられていました。21 世紀現在、過去の反省に立ち、自国の歴史観を離れ、グローバル視野から批判的に国際政治史を捉える学問として再構築されました。 グローバルスタディに出た先の国々では地理や歴史の解釈が、皆さんが日本で習ったものと違います。また、国内で暮らす外国籍の人たちの日本に対する見方も、皆さんの認識と違います。その違いはなぜ生じたか、価値観の違いだけでは説明できません。多国籍な教員と学生が学ぶ関西国際大学では、そこで認識の違いの背景を探り、共通認識となる歴史観に立った未来を語り合います。今や世界中からの観光客が日本を訪れる時代です。そんな人々と交流するための基礎知識を学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	神戸のような歴史ある国際都市に暮らしていても身近な異文化には気づきにくいものです。ご年配の外国生まれ市民の皆さんは昔の神戸にも詳しく、その異文化は見えません。一方、最近日本にきたアジアの留学生、日系労働者、技能実習生が増え、学内やアルバイト先で接する機会が増えています。そんな経験から共生社会を考えはじめ、その背景に広がる現代社会の課題、さらには 3 億人もの移民・難民が動く世界の大変化をすることが学習目標、到達目標は異文化コミュニケーションの達人です。					
19.教科書・教材	教科書に代わる読みやすい資料を用意します。毎回の授業スライドを PDF で配ります。					
20.参考文献	小山 望, 勅使河原 隆行他『これからの「共生社会」を考える 多様性を受容するインクルーシブな社会づくり』福村出版、2020 年 宮島 喬多文化共生の社会への条件:日本とヨーロッパ,移民政策を問いなおす』東京大学出版会、2021 年 永吉 希久子『移民と日本社会-データで読み解く実態と将来像』中公新書、2021 年					
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、 授業でお話したこと、配付したスライドをよく理解していること。					
22.コメント						
23.オフィスアワー	火曜 3 コース（研究室/3-308）、火曜 2 コース(学修支援センター)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回：10 月 5 日 世界の国々を学び、国際関係を知る。グ	授業の主な内容と進め方をお話しします。「国際地政学」とはたいそうタイトルですが、ネットやテレビでもよく話題にされるお話です。観光や留学、国際キャリアを目指す皆さんが渡航前に知っておくと何かと便利な世界の常識の話です。グローバルスタディで			○アサインメント：将来留学するとしたらどの国ですか？グローバルスタディではどの国に行きますか？ ○事前学習：皆さんが行ってみたい国を 3 つ挙げてください。その国では日本にどんなイ		

ローバルスタンディのための世界観	も、韓国、中国、台湾、マレーシア、そしてインドネシアがあり、アメリカやオーストラリアもあります。どう違い、それにはどんな理由、背景があるのか。分かりやすい世界史のお話を聞かせます。	メージを持っているか考えて下さい。
第2回：10月12日 日本を取り巻く国際政治、世界経済	さて、海外の人々から日本と日本人はどう見られているのでしょうか。何かと騒がしい韓国や中国と親日と言われる台湾の違いはなぜ生じたのか、マスコミもよく話題にしますが、19世紀末から20世紀前半の植民地支配と戦争の歴史があったからです。また、神戸を始め関西には在日朝鮮韓国人や華僑が多く、皆さんの中にもいるはずです。もちろん留学生もいます。こうした戦前戦後の歴史を韓国や中国ではどう学んだのか、これも国際地政学の重要なテーマです。身近な隣国で自分がどう見られるかを学びます。	○アサイメント：日本を好きな国を一つ上げて下さい。またその逆の例も一つ上げて下さい。 ○事前学習：今年はウクライナ難民がよく語られますが、これ以外の難民の例を一つ上げて下さい。
第3回：10月12日 日本史と世界史、どちらを学ぶ？	日本人の皆さんは当たり前のように、世界史と日本史、高校時代に選び、入試でどちらか選択してきました。では、韓国や中国ではどうでしょう。また、マレーシアやインドネシアではどうか、そもそもその国はいつ成立し、何世紀分の歴史があるのでしょうか。さらに、世界史というのは日本固有の授業科目です。西洋史と中国史を中心に、最近ではアジアや中南米の歴史も教えますが、アフリカやオセアニアにはほとんど触れません。どちらの科目も現代の国際情勢を知るためには決して十分ではないのです。地政学は、その足りない部分を繋ぎ、埋める学問として	○アサイメント：世界史と日本史、どちらを勉強し、印象的だったことを書き出してください。 ○事前学習：神戸に住む中国人を思い出して、いつ頃来た人か考えてみて下さい。
第4回：10月26日 グローバルヒストリー（地球史）から見た日本の歴史	日本は中国文化圏の一部、東夷と呼ばれた太平洋の島々からなる辺境の国でした。文明は中国からもたらされていましたが、世界史との関係で三回の大きな地政学的変化を体験しました。最初は16世紀、スペイン、ポルトガルの進出です。鉄砲やキリスト教が伝来した時代です。二回目が19世紀明治維新、三回目が20世紀の敗戦です。皆さんがよく知る日本史や世界史では教えない国際地政学からみた世界と日本の関係、その見方を学びます。	○アサイメント：南京町で今でも営まれている中国系の文化的伝統を一つ上げて下さい。 ○事前学習：神戸市の9行政区別の在留外国人数を調べて下さい。また、各区で最も在留人数の多い国を挙げて下さい。
第5回：11月2日 身近な国々、韓国/北朝鮮、中国/台湾の戦後史を知る	1945年に連合国（後の国際連合）と日本の戦争は終わりましたが、1950年には朝鮮戦争が始まり、南北に別れた朝鮮と韓国軍を支えるためにアメリカ軍、北を支援した当時ソビエト連合といったロシアと中国の人民解放軍が、朝鮮半島で熾烈な戦いを繰り広げました。その前から台湾に逃れた中国の国民党政府と、中華人民共和国政府は台湾海峡を挟んで緊張関係を続け、今も台湾有事に備えて日本の自衛隊の配備が進んでいます。これも日本史や世界史で教えませんが、国際地政学の重要なテーマです。ぜひ詳しく学んでみてください。	○アサイメント：日本が朝鮮王国を併合したのは何時ですか、それはいつまで続いたか、できるだけ詳しく述べて下さい。 ○事前学習：関西には神戸の他に大阪市など外国籍市民が多く住む町があります。外国人の多い地区を上げて下さい。
第6回：11月9日、もう一つの隣国ロシア	ロシアによるウクライナ侵略が起き、防衛戦争が今も続いています。多くの日本人から見るとロシアは不思議な国、世界の大半の国々の人も異端視しています。	○アサイメント：この授業の受講中に、関西の中で外国籍市民が多くすむ地区を一つ訪れ、報告して下さい。

ア、地政学的理解の勧め	1904～1905年に日露戦争があり、太平洋戦争（第二次世界大戦）末期の1945年には、当時の満州や朝鮮にソ連軍が侵攻し、北方領土と呼ぶ北海道の北東沖の島々が占領されました。日本は何とかロシアと友好関係を回復しようとしたが失敗続き、ソ連がロシアに代わっても同じでした。国際地政学者、特に周辺国の学者は、昔からロシアという国とその国民、領土を研究してきました。分か	○事前学習：外国籍市民には日本に永住する人が多くいます。なぜ自国に戻らないのか理由を想像して書きだして下さい。
第7回：11月16日 高校世界史で習ったアジアの歴史を超えた20世紀後半の東アジアと東南アジア	ロシアとの関係ではロシア革命の結果、1922年に生あれ、1991年に解体したソビエト連邦という国とその共産党の国際的な影響をお話しました。続いて1945年以降、東と東南アジアの国々に、そのどんな影響が及んだかを学びます。アメリカとソ連、東西冷戦の時代です。そこに中国共産党が加わった三大国の代理戦争が、朝鮮戦争とベトナム戦争です。カンボジアやラオス、ミャンマーだけでなく、マレーシアやインドネシアにもその影響が及びました。皆さんが訪れるこれらの国々の若い人は、その歴史をどう感じているのでしょうか。	○アサイメント：ロシアのまちで知っている都市を上げて下さい。その街には、どんな歴史と文化があるか述べて下さい。 ○事前学習：ベトナム戦争について調べて、簡単にまとめて下さい。
第8回：11月23日イエズス会の地政学	講義の後半は東アジアを離れ、より広い世界を見ていきます。ヨーロッパと中南米、ちょっと北米とアフリカの歴史です。まず、16世紀に生れたイエズス会是世界布教を目指し、我々の極東だけでなく、中南米に進出しました。多くの日本人が移民し、今では何万人もの日系人還流移民するペルーやブラジルは、その結果生まれた国々です。カトリックのイエズス会だから「ラテン・アメリカ」、スペイン（イスパノ）とポルトガルの植民地だから「イベリア。アメリカ」と言われます。実際には、進出（侵略）で滅ぼされたインカやアステカなどの国々の人人とイ	○アサイメント：日系人はなぜ急に増加したか、その理由を3点あげて下さい。 ○事前学習：皆さんはキリスト教のカソリックと接点がありましたか？近くに教会がある、カソリック系の学校がある、通った、信者を知っているなど教えて下さい。
第9回：11月30日旧地政学の時代、イギリスとオランダの東インド会社と南アジア、東南アジア	地政学は植民地争奪戦の中で発達した学問です。1588年のアルマダ海戦に勝ったイギリスとオランダは徐々にスペインの植民地を、特にアジアとアフリカで奪い始めます。中南米ほどにスペイン化されていなかったからです。植民地経営にあたったのが東インド会社、英国のインド植民地、マレーシアとシンガポール、オランダ領インドと呼ばれた現在のインドネシアは、徐々にスペインやポルトガルの勢力が追い出され、18世紀以降に開発が進みました。そのパワーバランスを知り、合理的な植民地経営を検討したのが地政学です。その手法はインドで試され、	○アサイメント：日本の植民地だった国々を一つ上げて、今どんな日本の影響が残っているか述べて下さい。 ○事前学習：なぜ、スペインやイギリスは植民地を欲しがったか調べて下さい。
第10回：12月7日地政学の発展、帝国主義と植民地の歴史	日本が植民地獲得を始めた10世紀初頭は、すでに欧米諸国が世界中の発展途上国を分割支配していました。日露戦争でロシアを破り、その権益を手に入れ、第一次世界大戦に参戦し、中国のドイツの権益を奪い、最後はアメリカがスペインや英国から譲渡された太平洋の島々を信託統治しました。朝鮮と台湾の総督府、東洋殖産、南満州鉄道などの国策会社は、インフラを整	○アサイメント：皆さんがアジアの国々に行くとしたら、どんな仕事をしたいか自由に述べて下さい。 ○事前学習：日本はなぜ植民地を必要としたのか調べて下さい。

	備しただけでなく、社会制度を改革し、鉱工業を整備し経済を発展させました。鉄道や建築土木技術を始め、品種改良で暑さや寒さに強いイネが食糧増産を実現しました。こうした日本の帝国	
第 11 回：12 月 14 日 19 世紀の東アジア、明治維新と中国、朝鮮	日清戦争、日露戦争で東アジアは大きく変わりました。大日本帝国による植民地の支配と経営の背後で、支配された国々の人々の暮らし、地域社会も変わっていました。反日・独立運動が知られていますが、変化はそれだけではありません。日本ではあまり紹介されない、当時の中国や朝鮮半島の社会の様子を見ていきます。是非は別として、日本の文化が深く浸透していった様子がよくわかります。	○アサイメント：日清戦争と日露戦争の違いを述べて下さい。 ○事前学習：なぜ、清国政府（今の中国）は、日本に敗れ、またその領土で日本とロシアが戦争するのを許したのか調べて下さい。
第 12 回：12 月 21 日 国際連盟と国際連合、日本の戦前と戦後	第一次世界大戦に参戦した日本は、国際連盟の成立に関与しました。その結果、国際連盟では常任理事国として、様々な利権だけでなく、国際協調を担う大国としての義務を負いました。近代化に遅れながらも、半世紀で先進工業大国の仲間入りをした日本は、こうして手に入れた常任理事国としての特権を大切にしようとして、当時の欧米先進国は考えました。でも、日本政府は国司連盟を脱退、日中戦争を続け、太平洋戦争に向かいました。そして敗戦、今度は経済的には成功しますが、国際政治の中では大きな発言権はありません。その結果、国際地政学の上	○アサイメント：国際連盟に参加した国を調べて下さい。 ○事前学習：国際連盟を日本脱退した理由を事前に調べて下さい。
第 13 回：1 月 11 日 極東とアメリカ、ベトナム戦争後の 50 年と中国の台頭	皆さんが生まれる前、20 世紀後半の東アジアでは戦争が続いていました。その時代、敗戦から立ち直った日本は平和を謳歌していましたが、中国の国共内戦と台湾への移動があり、韓国、ベトナム、カンボジアは戦乱が対照的に続きました。フィリピンやインドネシアでもクーデターや社会的混乱が続きました。今はすっかり平和になり、観光客も行き来しています。現地には、数々の戦争の遺跡が残されています。そして、世界第二位の超大国になった中国が、国際地政学の上で大きな存在感を見せています。この回は、東アジアの戦後を詳しく見ていきます	○アサイメント：ベトナム戦争の原因となった南北の政治対立とはどんな対立か簡単に述べて下さい。 ○事前学習：ベトコンとは何か、簡単に述べて下さい。
第 14 回：1 月 18 日 日米と中国、世界史の転換点に生きる	20 世紀後半から現在まで、日本は最重要同盟国であるアメリカの支援のもと国際政治に参加してきました。アメリカとの経済、社会的な関係も拡大し続けてきました。一方、アメリカに遅れて 1972 年に漸く国交正常化した中国とは、この半世紀の間、貿易は最大に拡大したものの、多くの懸案事項が残り、近くて遠い国だと言われます。今後も中国の経済力は拡大を続けます。密接な関係を保ちつつも、アメリカとは違う関係ができつつあります。やがて、アメリカ一強の時代は終わり、中国が派遣を握る時が来ると言われます。その時に備えて、何を学ぶか	○アサイメント：今の日本で、海外からの人材を必要とする産業部門を一つ上げて、その課題を書き出して下さい。 ○事前学習：これまで学んだ国際地政学の中で関心を持った課題を一つ上げて下さい。
第 15 回：1 月 25 日 国際大	最後に、グローバルスタディに出る皆さんが、留学先で出会った人々と、東アジアや東南アジアの歴史につ	○アサイメント：最終課題を別途発表します。

学から留学して学ぶアジアの地政学	いて話ることができるように、英語で戦後の歴史を話してみましよう。留学生の皆さん囲んでワークショップで、小学校から高校まで学んだ歴史の知識を語り合ってみましよう。それは、もちろん皆さんが外国に出た時の会話に備えたものです。留学生の皆さんと少し話すだけでも、歴史観の違いが分かるはずです。例えば、日本にアメリカ軍はなぜ駐屯しているのかについて。話してみて下さい。日本を外国の侵略から守るため、アジアの国々に日本が侵略し	○事前学習（最終回なので事前学習はありません。）

1.授業コード (ナンバリング)	SOC311-Y51	2.科目名	社会病理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	平野孝典					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目では、犯罪・非行と自殺という2つの社会病理現象について、社会学的に考える方法を学びます。犯罪・非行や自殺を「怖いこと」「自分と関係ないこと」だと思っている方は多いのではないのでしょうか。実はこれらの現象は、私たちの生きている社会のあり方と強く結びついています。犯罪・非行と自殺という現象を社会学の視点から考えることで、私たちの日々の暮らしをより深く理解できるようになります。 【概要】 この科目は、2部から成ります。第1部（第2回～第8回）では、犯罪・非行に関する社会学的な理論や犯罪統計の読み方を学びます。第2部（第9回～第15回）では、自殺に関する社会学理論やジェンダーや災害と自殺との関係について学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は次の通りです。 ①現代日本社会における犯罪・非行と自殺の現状を理解し、説明することができるようになる。 ②代表的な犯罪社会学理論を学習し、犯罪が発生する社会的な原因を説明できるようになる。 ③自殺の社会学理論を学習し、自殺が発生する社会的な原因を説明できるようになる。 〔関連するディプロマポリシー〕 (1) 自律性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力 (5) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。授業資料を WebClass にアップします。					
20.参考文献	岡邊健編『犯罪・非行の社会学：常識をとらえなおす視座〔増訂版〕』有斐閣、2020 年 末木新『自殺学入門：幸せな生と死とは何か』金剛出版、2020 年 このほかの参考文献は授業中に紹介します。					
21.成績評価	点数の配分詳細は次の通りです。中間レポートと最終レポートのいずれも提出したうえで、合計 60 点以上で合格となります。 (1) 中間レポート：35%（犯罪・非行の社会学に関するレポートを課します） (2) 最終レポート：35%（自殺の社会学に関するレポートを課します） (3) 復習クイズ：15%（毎回の授業冒頭で、前回の授業に関連したクイズを解いてもらいます） (4) 授業へのコメント・質問：15%（授業最後の 10～15 分を使い、授業へのコメント・質問を毎回書いてもらいます） 課題の提出には、WebClass を活					
22.コメント	授業の円滑な進行を妨げる行為（授業中の私語や大幅な遅刻など）は厳禁です。 授業資料の配布や課題の提出には、WebClass を活用します。 授業への質問についても、WebClass で受け付けますので積極的に活用してください。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室、WebClass 等で、受講生からの質問等への対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	授業概要の説明			授業の復習		

第 2 回	データから見る犯罪・非行の現状	授業の復習
第 3 回	受験勉強が非行を防ぐ？——コントロール理論	授業の復習
第 4 回	バイトが非行を促進する？——学習理論	授業の復習
第 5 回	ストレスは犯罪のもと？——アノミー論・緊張理論	授業の復習
第 6 回	偏見が犯罪を生み出す？——ラベリング論	授業の復習
第 7 回	犯罪は本当に減っているのか？——暗数問題	第 2 回～第 7 回の授業の復習・中間レポートの執筆
第 8 回	第 2 回～第 7 回のまとめ	授業の復習
第 9 回	データから見る自殺の現状	授業の復習
第 10 回	孤独は体に悪い？——社会的統合と自殺	授業の復習
第 11 回	自殺は模倣されやすい？——自殺の伝染性	授業の復習
第 12 回	なぜ男性は自殺しやすいのか？——ジェンダーと自殺	授業の復習
第 13 回	社会の変化は体に悪い？——社会的規制と自殺	授業の復習
第 14 回	なぜコロナ禍に自殺が増えたのか？——災害と自殺	第 9 回～第 14 回授業の復習・最終レポートの執筆
第 15 回	第 9 回～第 14 回のまとめ	授業の復習

1.授業コード (ナンバリング)	SOC315-Y51	2.科目名	環境社会学		3.単位数	2
4.授業担当教員	疋田浩一					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	地球温暖化、食糧・エネルギー・資源危機、森林破壊、大気・水質汚染等々、環境問題に関わる話題が社会にあふれており、これらの諸問題について知識を深めることは必須といえるでしょう。この授業では講義を通じ、環境問題全般についての基礎的知識の習得と理解を目指します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマポリシー)の (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力、の学修に関連しています ① 環境問題に関する基礎的な知識を理解し説明できる ② 環境問題に関するニュースについて、背景と対応策を説明できる					
19.教科書・教材	適宜資料を配布します					
20.参考文献	藤倉良, 藤倉まなみ(2016), 『文系のための環境科学入門 (新版)』, 有斐閣 ビョルン・ロンボルグ (2007), 『環境危機をあおってはいけない』, 文芸春秋					
21.成績評価	授業各回での課題・・・4 点×14 回=56 点【学習目標①, ②に対応】 講義内容についての Q&A です。講義内容に基づいて回答してください。 最終回総括試験・・・44 点【学習目標①, ②に対応】 筆記試験 (紙資料のみ持込可) ※授業へ 10 回以上出席し, 上記課題+総括試験で合計 60 点以上取得することが, 合格のための条件です					
22.コメント	・体調不良等で対面参加できない人は、事前に連絡があれば Zoom での参加を認めることがあります。 ・遠隔での出席は、「事前連絡」+「Zoom 参加記録」+「Webclass で授業課題を提出 (授業日のうち)」が必要です。					
23.オフィスアワー	個人研究室：金曜昼休み 学修支援センター：木曜 5 限					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【講義】 イントロダクション 環境科学とは			今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく		
【第 2 回】	【講義】 環境問題の歴史			今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく		
【第 3 回】	【講義】 人口増加と貧困問題			今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく		

【第 4 回】	【講義】 経済成長と貧困問題	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 5 回】	【講義】 エネルギー資源	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 6 回】	【講義】 水資源・その他の資源	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 7 回】	【講義】 森林・生物多様性	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 8 回】	【講義】 大気汚染	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 9 回】	【講義】 水質汚染	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 10 回】	【講義】 化学物質	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 11 回】	【講義】 化学物質 2	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 12 回】	【講義】 廃棄物とリサイクル	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 13 回】	【講義】 地球温暖化	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 14 回】	【講義】 エピローグ	今回の復習：講義内容をノートにまとめる 次回の予習：次回の内容について調べておく
【第 15 回】	総括試験	今回の復習：講義内容をノートにまとめる

1.授業コード (ナンバリング)	SOC316-Y51	2.科目名	多文化共生論		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・グループワーク		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	* 授業の概要 共生といっても「私たちにはあまり関心がない」と感じますか。ダイバーシティや SDGs といった言葉もどこか遠い言葉に感じるかもしれません。ですが、現在の国政や行政、企業などでは必修の議論となっています。 本授業は、共生社会実現に向けた「共生の諸課題」について知り、議論を重ねることを目的とします。共生は様々な角度から議論することができますが、本授業では「社会」との関係から深めていきます。(なお、受講生の関心によって授業計画を変更する場合があります。) * 授業の目的 多文化共生の基本的な問題領域を学びます。そのうえで、各種問題領域について議論を行います。これらの議論を通じて、「共生」に関する知識だけでなく、これを主体者として考える素養を育てることがこの授業の目的です。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP の「社会的貢献性」「多様性理解」「問題発見・解決力」と関連しています。 (1) 共生という枠組みについて理解する。(問題発見・解決力) (2) 共生社会の諸問題について、自らの考えを提示することができる。(多様性理解) (3) 共生社会の実現にむけて、自ら問題点を示すことができる。(社会的貢献性)(問題発見・解決力)					
19.教科書・教材	毎回の授業でワークシート等の教材を配布する。					
20.参考文献	・ 河森正人, 栗本英世, 志水宏吉 編 (2016)『共生学が創る世界』大阪大学出版会 ・ 黒川紀章 (1996)『新 共生の思想—世界の新秩序』徳間書店 ・ 井上達夫 (2021)『増補新装版 共生の作法: 会話としての正義』勁草書房 ・ 花崎阜平 (2001)『アイデンティティと共生の哲学』平凡社 ・ 尾崎周二 (2015)『多元的共生社会が未来を開く』農林統計出版 ・ 朝治武 (2022)『全国水平社 1922 - 1942 —差別と解放の苦悩』筑摩書房 ・ 原田正純 (1972)『水俣病』岩波書店 ・ 石牟礼道子 (2					
21.成績評価	(1) ディスカッション・ペーパーの作成 (2 回) 30% (2) 毎回のリアクション・ペーパーの作成 30% (3) 最終レポートの作成 40%					
22.コメント	共生といわれても・・・とみなさんはいいですが、共生を考える社会というのは、いくらか世の中がマシになったと捉えることができます。いままでは、そうしたことを考えることがなかったからです。そしてみなさんにとっても他人事ではありません。シラバスには授業のテーマに関わる「問い」も付記しています。一つでも関心があればぜひ授業を取ってくださいね。					
23.オフィスアワー	後日追記します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 なぜ、共生社会なのか。私	・ 授業の内容についての確認			復習とアサインメント 「わたしと共生」についてのワークシートを作成する (所要時間 90 分)		

私たちはどのような共生を考えるか		
第2回 日本における 共生理論	・日本社会でなぜ共生が議論されるようになったのかを捉える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第3回 日本における 共生の実践	・共生に関する社会の動向	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第4回 共生と社会モデル	・「なぜ、駅にスロープがあるのか？」 ・日本における障害者と社会の関係について学ぶ	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる（所要時間 90 分）
第5回 共生と文化	・「外国人の文化を受け入れることは、日本社会にとってなぜ必要なのか」 ・日本における外国人との共生について知る。	復習とアサインメント ★小レポートを作成する（所要時間 90 分）
第6回 共生とジェンダー	・「なぜ男女平等が重要なのか？」 ・日本におけるフェミニズム運動について知る。	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第7回 共生と人権	・「差別を教えるから、差別がなくなるんだ」という言説は正しいか？ ・被差別部落について学ぶ。	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第8回 共生と不平等 ①	・「税金で低所得者層を支援する意味なんてあるのか」という自己責任論について考える。	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第9回 共生とシティ ズンシップ	・「外国人が地方行政に参加してもいいではないか」という言説は、なぜこんなに批判されるのか	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第10回 共生と歴史	・「なぜ日本と近隣国の関係が緊張的なのか？」 ・歴史修正主義と社会の関係について学ぶ。	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第11回 共生とセク シャルマイノ リティ	・「セクシャルマイノリティについて考えることがなぜ重要なのか？」 ・セクシャルマイノリティと社会の関係について学ぶ。	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる（所要時間 90 分）
第12回 共生とSDGs	・「SDGs は環境問題ですよ？」という理解は正しいか？ ・現在の SDGs の状況について知る。	復習とアサインメント ★小レポートを作成する（所要時間 90 分）
第13回 共生と政治	・「ネトウヨ・ネトサヨ等々、なぜネットでは分断が生まれているのか」 ・政治と社会について共生という観点から考える。	復習とアサインメント ★ディスカッション・ペーパーを完成させる（所要時間 90 分）
第14回 共生と都市	・「高齢化どころか人口が減り続ける日本社会に未来はあるのか」 ・共生と福祉社会について考える	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）
第15回 まとめ	・共生社会についてふりかえる。	復習とアサインメント ディスカッションを通じて考えたことをまとめる（所要時間 90 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SOC318-Y71	2.科目名	ソーシャルデザイン実践演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	社会学部			9.履修学年	3 年生～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	春休み中の集中講義として 5 日間（2 限・3 限・4 限）、対面で実施する予定です。					
17.授業の目的と概要	【目的】 農業は私たちの生命や未来に直接かわる産業でありながら、多くの問題も抱えています。農業が人や環境にもたらす影響、働き手や後継者の不足、農村も含めた地方の衰退、作物の輸入と自給率の低下、天候その他の要因で常に変動する市場、土から離れた都市生活者との価値観の違い……。 こうした問題に取り組む若い農園経営者、平野達也氏をゲスト講師に迎え、みんなで農業の現状と将来を考えていくのがこの集中授業の目的です。 【概要】 平野氏は皆さんと同じ社会学部の出身です。卒業後、一度は一般企業に就職しながら、農業の世界に飛び込み、ゼロからの起業を試みた人物です。平野氏のキャリアは、みなさんが自分の将来を考える上でも有益なヒントになるでしょう。					
18.学習目標と DPとの関連	本プログラムの学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の1「自律的で主体的な態度（自律性）」、2「社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）」の学修に関連しています。 ① 農業をめぐる問題について、具体的に理解し説明することができる。 ② 文献調査や発表準備を自律的に進めることができる。 ③ 私たちの社会全体を視野に入れた農業の未来について、理想や提言を抱くことができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	1. 結果発表の質〔学習目標①〕 成績の 25％ 2. 文献調査と発表準備への取り組み〔学習目標①、②〕 成績の 25％ 3. 最終レポート〔学習目標③〕 成績の 50％					
22.コメント						
23.オフィスアワー	金曜 2 限（学修支援センター）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1 日目	【2 限】 授業の概要説明 【3 限】 平野氏と遠隔で接続。ご経歴やホールアース農場について説明していただく。質疑応答の後、平野氏から農業の現状や未来を考えるためのキーワードをいくつか示してもらう 【4 限】 平野氏に示してもらったキーワードをひとりひとりに（参加人数によってはグループに）わりあてる。2 日目以降、そのキーワードについて各人（各グループ）で調べ、パワーポイントにまとめていく。調べ方やま			ノート PC 持参。 終わらなかった作業があれば持ち帰る。		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SP2303-Y51	2.科目名	産業心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	職業選択からはじまり、職業、会社組織での役割などの社会と個人との関係は生涯にわたって続き、絶えず変化していく。自らの人生およびキャリアを考え、それをデザインしていくうえにおいて必要な心理学的知識を習得するとともに、自らの内面を捉える論理的思考力を身につける。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（1）自律性（2）社会的貢献性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①産業・組織心理学が扱う、諸領域の基礎的な理論について説明できる。 ②組織の中で生じる人の行動や、様々な問題とそれに必要な支援について具体的に理解し、説明できる。 ③産業・組織心理学の知見を自分自身の就業・キャリア発展に活かすことができる。					
19.教科書・教材	webclass にレジュメをアップしますので、授業開始までに印刷しておくこと。					
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	1. 各回の 1minutepaper：1%×14 回=14%（学習目標の②③④に対応） 2. グループワーク時の相互評価：3%×4 回=12%（学習目標の①②③④に対応） 2, 到達度確認テスト：24%×1 回=24%（学習目標の①②③④に対応）					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	ガイダンス：産業・組織心理学の歴史					
第 2 回	産業・組織心理学の研究領域					
第 3 回	採用と就職Ⅰ：採用計画					
第 4 回	採用と就職Ⅱ 募集活動					
第 5 回	モチベーションⅠ モチベーションとは何か					
第 6 回	モチベーションⅡ 内容理論					
第 7 回	モチベーションⅢ 過程理論					
第 8 回	リーダーシップⅠ リーダーシップの特性論					
第 9 回	リーダーシップⅡ リーダーシップの行動論					
第 10 回	リーダーシップⅢ 現代のリーダーシップ論					

第 11 回	ストレスⅠ ストレスとは何か	
第 12 回	ストレスⅡ 職業性ストレス	
第 13 回	ストレスⅢ メンタルヘルスとストレスコーピング	
第 14 回	キャリアとキャリア発達	
第 15 回	到達度確認テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	SPB204-M51	2.科目名	生涯スポーツ論		3.単位数	2
4.授業担当教員	高見彰					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業では、生涯を通じてスポーツはなぜ社会的に求められているのかという基本的課題と、各対象別のスポーツ実践をめぐる諸課題、そして実践指導者としての基本的教養を身につけてもらいたい。21世紀に向けた社会の構造変動とスポーツの文化的、社会的意義との関係を歴史的、社会的に明らかにした後、各対象別の課題を施設、プログラム、指導者、あるいは少年、女性、高齢者、障害者といった対象別内容に分けて概説する。次に我が国のスポーツ振興政策の根幹となるであろう総合型地域スポーツクラブに焦点を当て、地域スポーツ・生涯スポーツのマネジメントにたずさわる人材に必要な知識を解説する。					
18.学習目標と DPとの関連	生涯スポーツ指導者としての教養を身につける これから地域スポーツマネジメントを学んでいく学生にとって、スポーツを幅広く考える視点は絶対に必要である。授業を通して以下のことを理解し、スポーツによる地域づくりに役立てるようにする。 1. スポーツとはなにかについて説明できる 2. 生涯スポーツに関わる組織や仕組みについて理解し説明できる 3. 地域をマネジメントしていくためのスポーツの役割を実践できる 4. スポーツに関わる対象者について興味をもち、社会とのつながりを考え、説明できる 5. スポーツイベントの成り立ちやスポンサード、マネジメントについて理解し、説明できる。 【KUIS 学修ベンチマーク】 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的 貢献性）：集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができるこれからスポーツについて学んでいく学生にとって、スポーツを幅広く考える視点は絶対に必要である。授業を通して以下のことができるようにする。 1. さまざまなスポーツ知識を得るため、新聞やテレビ、web ニュースに毎日目を通すことができる。 2. 「スポーツ文化」「地域スポーツ振興」「ジェンダー」「障がい者スポーツ」「指導者と倫理」「スポーツイベントの作り方」について説明できる。					
19.教科書・教材	授業中に webclass を通じて資料提供をする					
20.参考文献	参考図書（図書館所蔵） 「公認スポーツ指導者養成テキスト」財団法人日本体育協会 「生涯スポーツ実践論」川西正志・野川春男編著、市村出版 「生涯スポーツプログラム」日本レクリエーション協会編、遊技社					
21.成績評価	期末の総括テスト 40 % 期中の中間テスト 40 % スポーツイベント企画立案 20 %					
22.コメント	■履修条件・他の科目との関連 ・5回の欠席で期末試験の受験資格を失います。 ・忌引き、法定伝染病罹患による公欠、ならびに教授会で認められた「欠席」以外はすべて欠					

		席となります。 ・ 授業を真剣に聴き、 ノートしないと授業を理解することができません。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	ガイダンス（シラバスの確認（授業の進め方、授業日程、評価方法、諸注意） 生涯スポーツに関わるキーワードクイズ	シラバスをしっかりとみて来ること。第 1 回目のスポーツ時事クイズを行うので、赤鉛筆あるいはボールペンを持参すること。
第 2 回	スポーツとは スポーツ、生涯スポーツの歴史と定義	スポーツとは何か、生涯スポーツとは何かについてまとめること。 中間テストで問う
第 3 回	スポーツの関わり方「する・みる・ささえる」の考え方と生涯スポーツと関わる意義について	「する・みる・ささえる」の持つ意味について調べてくる 「する・みる・ささえる」の具体的な事例を新聞、ニュースより調べ、まとめておく。中間テストで内容を問う。
第 4 回	青少年のスポーツ参加 青少年スポーツの現状と課題	青少年期のスポーツの特徴、身体の特徴をまとめておく。中間テストで問う。
第 5 回	中高齢者のスポーツ参加 中年層と高齢者スポーツの現状と課題 第 1 回中間小テスト	中高年期のスポーツの特徴、身体の特徴をまとめておく。中間テストで問う。
第 6 回	女性のスポーツ参加 女性スポーツの現状と課題 ジェンダーフリーなスポーツを考える	女性のスポーツの特徴、身体の特徴をまとめておく。中間テストで問う。
第 7 回	障害者のスポーツ参加 障害者スポーツの現状と課題	生涯者のスポーツの特徴、身体の特徴をまとめておく。パラリンピックの歴史についてもまとめておくこと。中間テストで問う。
第 8 回	中間テストと解説 前半部の内容全体について問う	前半部の従業内容をしっかりとまとめること
第 9 回	スポーツボランティアのすすめ スポーツボランティアとは スポーツボランティアの種類と活動	スポーツボランティアについて理解を深めてくことと、スポーツボランティアの事例についてニュースなどであたること。 期末試験にて問う。
第 1 0 回	日本の生涯スポーツ政策（地域スポーツクラブを取り巻く環境） スポーツ振興基本計画を中心にとらえて	日本のスポーツ支える行政機関と組織団体について資料を事前に目を通してくること。期末試験で問う
第 1 1 回	総合型地域スポーツクラブとは 地域スポーツクラブの機能と役割 ヨーロッパのスポーツクラブの事例研究 総合型地域スポーツクラブの立ち上げ方式の分類 地域スポーツクラブの機能と役割 マネジメント指導者の養成目的と役割 日本の地域スポーツクラブの事例研究	総合型地域スポーツクラブについて事前に資料に目を通してくること。期末試験で問う。

第 1 2 回	地域スポーツ指導者に求められること スポーツ指導者とは 地域スポーツ指導者の制度と資質 指導者の心構え、指導の視点（楽しさを伝える工夫）	授業中に見た動画から自分自身のスポーツに対するポリシーをまとめてみる
第 1 3 回	スポーツイベントの作り方。地域を対象にしたスポーツイベントを考えて見よう。	スポーツイベントに必要な要素をまとめておこう。次週のイベント作成に必要です。
第 1 4 回	イベントの作り方。スポーツイベントを作ってみよう	スポーツイベント企画立案レポートを締め切り内に提出すること
第 1 5 回	まとめと総括テスト	前半部（中間試験前）と後半部（中間試験後）について重要事項を問う。

1.授業コード (ナンバリング)	SPP201-Y51	2.科目名	スポーツ心理学	3.単位数	2
4.授業担当教員	山内愛				
5.授業科目の区分	スポーツ心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～
10.取得資格の要件		11.先修条件			
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義・実技		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 運動・スポーツおよび健康づくり活動の実践や指導、サポートに関する心理学の基礎を学び、良好なスポーツ活動を推進するための心理学的アプローチに関する知識を理解、習得することを目的とします。 【概要】 日常の身体運動はもとより、運動やスポーツは様々な文脈の中で取り組まれています。そこでの活動目的は、教育、競技、レクリエーション、健康・医療といったように多岐に渡り、それぞれが抱える課題や問題は異なります。そこで、本講義では、スポーツ心理学の果たす役割について外観した上で、健康スポーツ、競技スポーツ、メンタルトレーニングなどについて学習します。その上で、各人の運動・スポーツ活動に汎化可能な視点を提供しつつ、スポーツ競技場面や健康スポーツに役立つ知識やスキルの習得を目指します。				
18.学習目標とDPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、(6) 専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①スポーツ心理学の基礎的な理論やキーワードを学修し、説明することができる。 ②競技スポーツや健康スポーツを行う場合、あるいは指導者やスタッフとしてスポーツと関わる場合など、それぞれのスポーツにおける立場や場面における心理と理論について学び、それらをスポーツ場面や健康づくり運動の実践に活かせるようになる。				
19.教科書・教材	教科書の購入は不要です。適宜資料を配付します。				
20.参考文献	「教養としてのスポーツ心理学」徳永幹雄 編（大修館書店 2005） 「基礎から学ぶスポーツ心理学」蓑内豊、竹田唯史、吉田聡美（中西出版 2020） 「スポーツメンタルトレーニング教本」日本スポーツ心理学会 編（大修館書店 2016） その他、関連サイトの URL や関連論文の文献情報は授業中に適宜紹介します。				
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 課題 1：授業内の課題レポート（50%）【学習目標①・②に対応】 課題 2：中間レポート（20%）【学習目標①・②に対応】 課題 3：最終レポート（30%）【総括・振り返り】 ※課題は提出要件を満たし、かつ期日中に定められた方法で提出することを合格基準とします。 ※課題 2・3 を提出することが単位認定の前提となります。				
22.コメント	・体験的な理解を深める目的から、授業は講義だけでなく実技も行います。また、可能な範囲でグループワークや学生同士のディスカッションを通して学習します。				
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等にて、質問等へ対応します。				
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	<オリエンテーション・スポーツ心理学概論>		予習：シラバスを確認する・不明な用語につ		

	授業の進め方や授業内容、評価方法などの説明。スポーツ心理学の概要と意義、その役割について	いて調べて予備知識を得る 復習：ガイダンスにて取り扱った内容を見直し、理解を深める
第 2 回	<運動・スポーツと心の健康> 運動・スポーツが身体的・心理的健康に与える効果について	予習：これまでの経験から、運動・スポーツが自身にもたらした効果について振り返りまとめておく 復習：スポーツの心理的效果について復習する
第 3 回	<メンタルトレーニング①> メンタルトレーニングが扱う範囲や目標設定の理論およびその実践方法	予習：自身の活動フィールドでのパフォーマンス発揮に、どのような心理的スキルが必要かまとめておく 復習：授業内で作成した目標設定を実践する
第 4 回	<メンタルトレーニング②> リラクゼーション法・イメージトレーニングの各種技法を紹介。各場面での利用法やその効果について	○授業内容の復習と実践
第 5 回	<メンタルトレーニング③> 各技法を実技を通して学ぶ(リラクゼーション法・イメージ技法・セルフコントロール法) ※フィールドワーク実施	予習：これまでに学習したメンタルトレーニングの技法を確認しておく 復習：授業で実践した内容を振り返りまとめる ◆運動のできる服装を持参すること
第 6 回	<トップアスリートの心理的特徴について> トップアスリートの心理的特徴や選手を取り巻く環境、心理的諸問題と心理サポートの必要性について	予習：トップアスリートにはどのような特徴があるか主観をまとめておく 復習：アスリートのパフォーマンス発揮と心理的問題・課題について考えをまとめる
第 7 回	<スポーツにおける動機づけ・中間レポート> ・内発的・外発的動機づけ、やる気を高める取り組みや指導法について ・中間レポートの説明	予習：運動・スポーツ場面での動機づけと関連する事象としてどのようなものがあるか振り返りまとめておく 復習：講義内容を元に、自己や他者に対する動機づけの方略を考え、実践する 【提出物】中間レポート (詳細は別途提示) 書式：A4 提出先：WebClass
第 8 回	<スポーツにおける集団とチームビルディング> 集団の特徴・チームワーク・チームづくりについて(グループワーク実施)	予習：自身が所属している(してきた)集団の特徴について振り返りまとめておく 復習：チームとしての生産性(パフォーマンス)を上げるためにはどのような工夫が必要か考えをまとめる
第 9 回	<運動、スポーツへの参加と離脱> 運動行動を規定する心理社会的要因や運動行動の変容、バーンアウト、アスリートのキャリアについて	予習：自身のスポーツへの参加や離脱にまつわるエピソードをまとめておく 復習：講義内容を元に、自己や他者に対するスポーツへの参加・離脱に関する対策やサポートの方略について考えをまとめる
第 10 回	<運動・スポーツとストレス対処> ストレス概論とメンタルヘルスのためのストレスマネジメントについて	予習：ストレス・ストレスマネジメントに関する予備知識を得てくる 復習：メンタルヘルスの維持・向上に運動・スポーツがどのように寄与するか考えをまとめる

		める
第 11 回	<効果的なスポーツスキルの獲得方法> 運動学習理論・フィードバック情報など運動学習関連の基礎的事項について	予習：スポーツをはじめとする、スキルの獲得・向上に対する自身の課題を挙げておく 復習：講義内容を元に、自己や他者に対する効果的なスポーツスキル獲得の方略を考え、実践する
第 12 回	<リーダーシップ・コミュニケーション技法> スポーツにおけるリーダーシップ・コミュニケーションスキルを向上させるための有効な手法について	予習：リーダーの資質・コミュニケーション力が高い人の特徴に関して自身の考えをまとめる 復習：講義内容を元に、コミュニケーション能力向上に向けた方略を考え、実践する
第 13 回	<指導者による心理サポート・個人差の考慮> コーチングスキルやカウンセリングマインドなど、スポーツ指導における心理学的なポイントについて	予習：スポーツ場面で指導者がどのような働きかけを行っているのか、自身が受けてきた指導の経験を振り返りまとめる 復習：自身の活動フィールドで活用できる心理サポートについてまとめる
第 14 回	<授業の振り返り> ・これまでの講義の振り返りとまとめ ・最終レポートの内容説明 ・最終レポート①	予習：これまでの講義を振り返り、疑問点、意見等についてまとめる 復習：レポートの作成を通して講義内容の理解を深める 【提出物】最終レポート① (詳細は別途提示) 書式：A4 提出先：WebClass
第 15 回	<総括> ・スポーツの現場や他分野から学ぶスポーツ心理学 ・最終レポート②	予習：これまでの講義を振り返り、疑問点、意見等についてまとめる 復習：レポートのフィードバックを元に今後の活動に生かす 【提出物】最終レポート② (詳細は別途提示) 書式：A4 提出先：WebClass

1.授業コード (ナンバリング)	SPP204-Y51	2.科目名	メンタルトレーニング		3.単位数	2
4.授業担当教員	山内愛					
5.授業科目の区分	スポーツ心理学分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・選択の区分	選択	7.開講学期・年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	「スポーツ心理学」の授業を履修済みであることが望ましい	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義・実技	
16.履修制限	・良好な授業環境を確保するために、履修者数を最大 20 名とします。 ・履修者が多い場合には、初回の授業で抽選を行いますので、必ず出席してください。その際、スポーツ活動に携わっている学生を優先します。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目では、自身の競技場面や指導・サポート場面に活かせるよう、メンタルトレーニングについて、講義と体験的学習を通して理論と技法を学び、身につけることを目的とします。 【概要】 スポーツにおけるメンタルトレーニングとは、アスリートをはじめとするスポーツ活動に携わる者が、競技力向上並びに実力発揮の為に必要な心理的スキルを習得することを目的とした、スポーツ心理学の理念に基づく体系的で教育的な活動です。 メンタルトレーニングについて体験的な理解を深めると共に、各種技法の習得を目指すため、授業は講義だけでなく、実技、グループワーク、学生同士のディスカッション、プレゼンテーションなど、実践的な学習を多く行います。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の(1)自律性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①〈知識の理解・表現〉スポーツ活動における心が及ぼす影響や、それらに対応する心理的スキルについての内容を理解し、説明することができる そのコントロール法の基本的知識や対処法を理解している ②〈関心・意欲〉スポーツ場面で起こるさまざまな心理的な諸問題に関心を持ち、分析、対処法について積極的に取り組むことができる ③〈態度・志向性〉主体的なスポーツ活動や学習を通じて、視野を広く持ち、活力に満ちた社会の一員を志す					
19.教科書・教材	教科書の購入は不要です。適宜資料を配付します。					
20.参考文献	『スポーツメンタルトレーニング教本』(2016)日本スポーツ心理学会[編]/大修館書店 その他、関連サイトの URL や関連論文の文献情報は授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです。 課題 1：毎回の課題レポート・・・70 点【学習目標①・②・③に対応】 課題 2：最終レポート・・・30 点【学習目標①・②・③に対応】 ※課題は 1～3 の全てについて、提出要件を満たし、かつ期日中に定められた方法で提出することを合格基準とします。 ※最終レポートの提出は、成績評価を行う上での必須条件です。					
22.コメント	・授業で学んだ内容を実践するための、各自のスポーツ活動のフィールド(競技スポーツの選手、指導者、サポートスタッフなど)が想定されると望ましいです。 ・授業計画は、受講者の活動状況や要望、授業の進捗等により若干変更される場合があります。					

	す。 ・スポーツ場面や日常生活で感じたこと・気づいたことを日々記録することが望ましいです。記録した内容が本授業の理解を深める手がかりとなります。	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等にて、質問等へ対応致します。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	・オリエンテーション（本授業の目標・内容・評価算出の方法・進め方の確認・受講上の留意点などについて） ・メンタルトレーニング概論	予習：シラバスを事前に確認する、不明な専門用語について調べておく 復習：授業内容の復習
第2回	・アセスメント ・心理検査（Pre Test） ・自己分析 ・練習日誌① 講義：心理的競技能力とパフォーマンスの関係性 実践：検査法／主観的自己分析・検査用紙を用いた客観的自己分析	予習：自身の活動フィールドでの実力発揮における心理的課題を挙げておく 復習：主観的・客観的自己分析を通して自身の取り組み目標について考える
第3回	目標設定① 講義：目標設定の原則と効果機序・動機づけ 実践：目標設定用紙の作成	予習：日々の練習の取り組みについて振り返る 復習：目標設定シートを完成させる
第4回	目標設定② 講義：習慣行動と期限付き行動の立て方 実践：作成した目標設定を元にグループワーク実施	予習：作成した目標設定シートを元に具体的な行動計画を考えておく 復習：行動計画を活動フィールドで実践する
第5回	リラクセーション法① 講義：理想的な心理状態・ストレス下での心身の反応・各種リラクセーション技法の解説 実践：呼吸法・筋弛緩法・自律訓練法・マインドfulness瞑想の実践と評価	予習：自身のパフォーマンス発揮を阻害する心理的要因についてまとめておく 復習：活動フィールドでのリラクセーション法実践
第6回	リラクセーション法②・サイキングアップ ★実践編として、体育館にて実技実施 各種リラクセーション法・サイキングアップの実践と評価	予習：実践したリラクセーション法の疑問点や確認事項をまとめておく 復習：活動フィールドでのリラクセーション法実践
第7回	イメージの機能およびスポーツ選手のイメージ活用（基礎） 講義：スポーツメンタルトレーニングで用いるイメージ想起の多様な種類と役割について 実践：リラクセーション法・イメージトレーニング（基礎）の実践と評価・シェアリング	予習：競技場面におけるイメージについて予備知識を得ておく 復習：活動フィールドでのイメージ技法実践
第8回	イメージの機能およびスポーツ選手のイメージ活用（応用）	予習：実践したイメージ技法の疑問点や確認事項をまとめておく

	講義：スポーツメンタルトレーニングで用いるイメージ想起の多様な種類と役割について 実践：リラクセーション法・イメージトレーニング（応用）の実践と評価・シェアリング・イメージ診断テスト	復習：活動フィールドでのイメージ技法実践
第 9 回	セルフコントロール技法① 講義：円滑な競技活動と実力発揮に対する認知・思考の重要性とそのアプローチ法について 実践：各種セルフコントロール法の作成と実践	予習：ストレス下で起こる自身の心身の反応について振り返っておく 復習：活動フィールドでのセルフコントロール法実践
第 10 回	セルフコントロール技法？ ★実践編として、体育館にて実技実施 セルフコントロール法・イメージ技法の実践と評価	予習：実践したセルフコントロール法の疑問点や確認事項をまとめておく 復習：活動フィールドでのセルフコントロール法実践 ◆運動のできる服装◆
第 11 回	チームビルディング 講義：スポーツ集団の構造と機能、チームビルディングの理論・アプローチ法など 実践：チームビルディングセッションを考える(グループワーク)	予習：自身が所属する集団の特徴について振り返りまとめておく 復習：活動フィールドでのチームづくりの方略を考え実践する
第 12 回	コミュニケーションスキル 講義：スポーツ集団強化のために重要なコミュニケーションのスキルについて 実践：コミュニケーション法の実践（グループワーク）	予習：所属する集団で必要とされるコミュニケーションについて挙げておく 復習：活動フィールドでのコミュニケーション力向上の方略を考え実践する ◆運動のできる服装◆
第 13 回	描画法（風景構成法）を通じて自己をみつめる 講義：さまざまな描画法について・風景構成法の歴史・意義・原則など 実践：風景構成法の実施・シェアリング	予習：描画法について予備知識を得ておく 復習：授業内容の振り返りとまとめ
第 14 回	最終レポート作成にむけて ・これまでの振り返り ・今後のメンタルトレーニング実施計画	予習：これまでの授業を振り返り、実践してきた取り組みについてまとめておく 復習：最終レポートを完成させる 提出物：最終レポート
第 15 回	・最終レポートのフィードバック・修正 ・心理検査（Post Test） ・振り返り・まとめ	予習：最終レポートの追加修正箇所について検討しておく 復習：授業での学びを自身の活動フィールドで継続的に活用する

1.授業コード (ナンバリング)	SPS901-Y51	2.科目名	特別研究Ⅰ（手話基礎）		3.単位数	1
4.授業担当教員	小川知子、上吉川佳代					
5.授業科目の区分	基盤教育(観光学科)	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件	無し	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	最大30名。 手話を目視確認する必要があるため。また、良好な活動環境を確保するため。 選抜方法 30名を超えた場合は、要相談。					
17.授業の目的と概要	【目的】ユニバーサル社会、共生社会を具体的に進める際に必要な言語コミュニケーションツール(日本手話)を身につける。 【概要】講師：聴覚障害のある講師(ろう講師)と聞こえる講師の2名で担当。 音声言語と手話の違いなど手話言語の基礎知識を学ぶとともに、手話の習得と会話場面を想定した演習を行う。聴覚障害者の特性を理解し、聴覚障害者とのコミュニケーション方法を考える。 手話言語の普及と手話のコミュニティの構築に繋げる。					
18.学習目標と DPとの関連	DP(社会的貢献性 多様性理解 コミュニケーションスキル) 【到達できる学習目標】 ①聴覚障害を理解し、手話で簡単な会話ができる。(手話検定5級レベル) ②手話言語の基礎知識を知る。 ③聴覚障害者の暮らしや文化を学び共生社会において聞こえないことによる課題に気づく。					
19.教科書・教材	「今すぐはじめる手話テキスト ～聴さんと学ぼう!～」発行 一般財団法人全日本ろうあ連盟 ￥900+税 参考図書として→ 「DVDで学ぶ手話の本」全国手話検定試験5級対応(手話でステキなコミュニケーション1)三訂 ￥3,080(税込み)					
20.参考文献	手話動画サイト 神戸市手話動画 https://www.city.kobe.lg.jp/a97737/kenko/handicap/syakaikatdudou/shuwagengo.html 全日本ろうあ連盟 https://www.jfd.or.jp/					
21.成績評価	授業態度・コメント提出(講義理解) 20% 技術評価 30% 筆記試験 50%					
22.コメント	・全国手話検定 5 級 に挑戦できるレベルの手話を身につけることができます。 (参考：全国手話検定ホームページ http://kentei.com-sagano.com/) ・講師はろう(聴覚障害当事者)の講師と聞こえる講師のペアです。 ・ろう者とのコミュニケーションに活かせる手話言語、ろう者の文化を学ぶことができます。					
23.オフィスアワー	毎週火曜日 4 時限 15:00-16:30 授業前後に教室にて質問に対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
15 回	授業内容・技術・評定算出の方法・進め方の確認。受			授業コメント提出：講義で理解したこと		

	講上の注意点などについて 技術：様々なコミュニケーション手段 講義：聴覚障害の基礎知識	
	技術：名前を紹介しましょう 講義：手話の成り立ち	授業コメント提出：講義で理解したこと
	技術：家族を紹介しましょう 講義：聞こえのしくみ	授業コメント提出：講義で理解したこと
	技術：数字を使って伝えましょう 講義：聴覚障害者の生活	授業コメント提出：講義で理解したこと
	技術：趣味を紹介しましょう 講義：手話と身振りの違い	授業コメント提出：講義で理解したこと
	技術：仕事について 講義：職場でのコミュニケーション	授業コメント提出：講義で理解したこと
	技術：住所を表しましょう 講義：ろう教育の歴史	授業コメント提出：講義で理解したこと
	技術：自己紹介のまとめ 講義：情報障害とコミュニケーション障害①	授業コメント提出：講義で理解したこと
	技術：1日の生活 講義：情報障害とコミュニケーション障害②	授業コメント提出：講義で理解したこと
	技術：1カ月について グループワーク：共生社会を進めるために	授業コメント提出：講義で理解したこと
	技術：1年の行事 講義：手話通訳について	授業コメント提出：講義で理解したこと
	技術：会話演習① 講義：聴覚障害のまとめ	授業コメント提出：講義で理解したこと
	技術：会話演習②	授業コメント提出：講義で理解したこと
	技術試験(会話 手話検定5級レベル)	
	筆記試験 (知識、手話単語の読み取り)	

1.授業コード (ナンバリング)	SPS902-A51	2.科目名	特別研究Ⅱ（防災教育演習）		3.単位数	2
4.授業担当教員	松尾和宣					
5.授業科目の区分	特別研究	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、学校園や施設等のセーフティ・マネージメントに関して理解し、防災・減災に関しての方策を具体的に提案できる力を身に付けることを目的とします。 【概要】 ○過去の我が国で発生した自然災害の概要について、被害と復興の事実を知る。 ○学校園・施設での避難訓練について考え、自然災害に応じた避難訓練を立案する。 ○避難所についての理解を深め、避難所運営について考える。 ○学校園での防災学習を計画・立案し。指導計画を作成することができる。また、指導計画をもとに模擬授業及び出前授業を行う。 ○地域防災に積極的にに関わり、地域総合防災訓練等に参画する					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP の①自律性 ⑥専門的知識・解決力に関係する。 (1) 災害発生メカニズムとその対策を理解し、児童の発達段階に応じた授業ができる。 (2) 目的に適った防災教育教材を作成することができる。 (3) 防災教育に関する新しい情報や資料を入手し、活用することができる。					
19.教科書・教材	①適宜、資料を配布します ②その他関連サイトの URL や関連資料について授業中に適宜紹介します					
20.参考文献						
21.成績評価	評価の方法と配点は次のとおりです ・毎時間の活動ワークシートの作成 20%【学習目標(1)(2)(3)に対応】 ・課題1：「避難訓練案」立案 20%【学習目標(2)(3)に対応】 ・課題2：「避難所運営で大切にしたいこと」 20%【学習目標(2)(3)に対応】 ・課題3：出前授業に向けて・活動案・板書計画の作成 20%【学習目標(1)(2)(3)に対応】 ・最終レポート 20%【学習目標(1)(2)(3)に対応】					
22.コメント	日本は、阪神・淡路大震災や東日本大震災などの地震・津波、雲仙普賢岳、御嶽山での火山災害などが多発しています。また近い将来、南海トラフ巨大地震の発生も予想されており、世界的にも先進的な防災・減災対策、被災地の復興施策が展開されてきました。この科目では、災害の教訓伝承としての防災教育に注目し、学校園・施設での避難訓練・自然災害発災時の避難所設営・運営を実践的に学んでいきたいと考えます。また、学修の総和としての小学校での防災出前授業及び地域防災の実際としての地域総合防災訓練の参加も計画します。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	○オリエンテーション ・本科目の目標、概要、評価について ○我が国の自然災害に概要 ・阪神・淡路大震災について			○毎回パソコンを持参すること ○グループワークには 360° カメラ等 ICT 機器を活用します。		

	・東日本大震災について	
第2回	○小学校での避難訓練① ・自然災害を想定した避難訓練の現状と課題について	
第3回	○小学校での避難訓練② ・GW：自然災害（地震・津波・土砂災害等）を想定した避難訓練の立案	○PC 持参のこと
第4回	○小学校での避難訓練③ ・自然災害（地震・津波・土砂災害等）を想定した避難訓練案についての発表 ・評価及びふりかえり	【今回の復習】90分：授業ノートをまとめる 【次回の予習】90分：避難所の課題についてweb サイトから情報収集する 課題① 「避難訓練案」立案
第5回	○避難所運営について① ・阪神・淡路大震災発災時の避難所について現状と課題について	
第6回	○避難所運営について② ・HUG（避難所運営ゲーム）から避難所運営について考える	
第7回	○避難所運営について③ ・GW:自然災害発災時の避難所運営まとめ ・学校再開について	課題② 「避難所運営で大切にしたいこと」
第8回	○小学校での防災学習出前授業に向けて① ・小学校での防災教育の現状 ・防災学習についてのビデオ視聴	
第9回	○小学校での防災学習出前授業に向けて② ・防災学習かるた ・クロスロードゲーム ・防災リュックをつくろう	
第10回	○小学校での防災学習出前授業に向けて③ ・GW:出前授業に向けて活動案作成	○課題③ ・活動案・板書計画の作成
第11回	○小学校での防災学習出前授業に向けて④ ・教具の作成 ・GW:活動案に基づいた模擬授業の実施 ・活動案の修正等	
第12回	○小学校での防災学習出前授業に向けて⑤ ・出前授業の実施 ・出前授業評価とふりかえり	
第13回	○尼崎市立小学校での出前授業	課題④ ・レポート「出前授業を通して学んだこと」
第14回	○出前授業ふりかえり ・指導案の修正 ・課題の抽出	
第15回	○まとめ・ふりかえり ○最終レポート作成	

1.授業コード (ナンバリング)	SPS902-M52	2.科目名	特別研究Ⅱ（金融リテラシー・金融経済講座）		3.単位数	2
4.授業担当教員	齋藤勝洋					
5.授業科目の区分	特別研究	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学部学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義形式		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	現在の日本は労働生産性やワークライフバランス等の変革期に入り、特に人生 100 年時代と呼ばれる中で個人資産形成が不可欠となっている。そこで経営学部のファイナンス等の簿記・会計の知識を活かしつつ、高度な金融・経済知力の強化を行うことで学生が卒業後も有意義で安定した人生を構築でき、更に世界市民として世界経済の持続的発展に資することが可能な金融リテラシーを獲得する。 そのため、野村証券との連携による講座を開設し、本学部ならではのきめ細かい学びの展開と野村証券の最新且つ体系化された知識及び分析スキルを本講義で展開し、学生の金融知力醸成を行って他の授業とも関連させ自律的学びも促す。					
18.学習目標と DPとの関連	授業は「自律性」「問題発見・解決力」「情報収集・活用力」「専門的知識・技能の活用力」に関連 ・最新の金融知力（リテラシー）と活用力の獲得 ・学生のキャリアプラン、マネープランの検討力の獲得 ・グローバル経済、産業、企業の分析力と最適解を考える力の獲得					
19.教科書・教材	特になし。毎回、授業前に資料を WebClass にアップロードする。					
20.参考文献	○榊原茂樹・城下賢吾・姜喜永・福田司文・岡村秀夫（2013）『入門証券論 第3版』有斐閣 ISBN 978-4-641-16410-9 ○野崎浩成監修（2023）『ファイナンス思考 むるだけノート』宝島社					
21.成績評価	・毎回のワーク：30% ・中間レポート：30% ・総括プレゼン：40%					
22.コメント	野村証券担当者と本学教員で実施するものであり、単なる講義ではなく自身の資産形成にも大きく資する事から、積極的な質問や議論が期待される。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 01 回	○オリエンテーション<担当：齋藤> ・目的、到達点、評価、概要、毎回の課題等の説明を行う。 ・日経新聞の読み方の紹介と毎回のワークの説明を行う。					
第 02 回	○金融とは何か<担当：齋藤> ・金融の目的、意義、機能、市場に関する基礎知識を学ぶ。 ・金融リテラシーが必要な理由について学ぶ。			◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示		
第 03 回	○株式とは何か<担当：野村証券担当者> ・株式会社と株式、株式市場と証券会社の機能と仕組みについて学ぶ。			◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示		

第 04 回	○債券の基礎Ⅰ＜担当：齋藤＞ ・債券の３つ種類と特長、債券の意義について学ぶ。 ・投資としての債券のメリットとデメリットを学ぶ。 ・実際の債券を調べ、仮想購入を想定し報告する。	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 05 回	○債券の基礎Ⅱ＜担当：齋藤＞ ・債券の変動要素と市場動向、その分析方法を学ぶ。 ・実際の動きをチャート図で分析する。 ・実際の銘柄を選択し、その変動を分析し報告する。	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 06 回	○株式の基礎Ⅰ＜担当：野村證券担当者＞	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 07 回	○株式の基礎Ⅱ＜担当：野村證券担当者＞	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 08 回	○投資信託入門＜担当：齋藤＞ ・投資信託（テーマ・ファンド）について学ぶ。 ・投資信託についてまとめて提出 ・新 NISA について変更点と利用利点、背景を調べてまとめて提出	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 09 回	○日本の株式市場史＜担当：野村證券担当者＞	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 10 回	○外国為替相場の基礎知識＜担当：野村證券担当者＞	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 11 回	○資産運用の考え方＜担当：齋藤＞ ・資産ポートフォリオについて学ぶ。 ・マネーフォワード等の AI 型資産ポートフォリオ等を試用し体験する。 ・資産ポートフォリオをサンプル作成し提出する。	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 12 回	○行動ファイナンス～投資家心理について～＜担当：齋藤＞ ・行動ファイナンス（消費者心理）の動向、見方を学ぶ。 ・自分の行動傾向を把握し、報告を提出する。	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 13 回	○産業展望と投資の考え方＜担当：齋藤＞ ・産業分析の方法と実践を行い、産業展望を掴む。 ・産業分析結果を活かした投資について学ぶ。 ・自分の興味ある産業の検討と、投資手段を検討し報告する。	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 14 回	○ライフプランニング～人生とお金について～＜担当：野村證券担当者＞	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 15 回	○個人ライフプランの発表＜担当：野村證券担当者・齋藤＞	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示

1.授業コード (ナンバリング)	SPS902-Y51	2.科目名	特別研究Ⅱ（犯罪心理学演習）		3.単位数	2
4.授業担当教員	中山誠					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学部心理学科			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習形式（グループでの発表と討議中心）	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	これまでにわが国で発生した事件・事故について、グループで調べて発表し、全体で討議する 犯罪を題材として、社会の問題点を発見し、問題解決能力を身に着ける					
18.学習目標と DPとの関連	過去に発生した事件事故について、次の点について明らかにする 被疑者が逮捕され、公判廷で有罪判決が確定した事例に限定（未解決事案は対象外） 1 事件概要 ① 事件名 ② 発生年月日 ③ 被疑者 ④ 被害者 ⑤ 事件内容 ⑥ 裁判での争点と判決 2 その事件の捜査上の問題点は何か 3 問題解決の手段 4 再犯防止					
19.教科書・教材						
20.参考文献	資料を配付する					
21.成績評価	・グループでの発表 40% : 事件・事故についてプレゼンテーションを作成し口頭発表 ・討議への参加 20% : グループ討議に参加してコメントする。 ・最終レポート（webclass）40%：発表した資料の要約を提出 ・実験参加：生理反応を測定する卒業研究、学会発表に向けた実験に参加したものには1回につき、若干の加点をする					
22.コメント	(1) レポート作成に当たって a. レポートに引用する文献は、図書館にある専門書や学術雑誌を利用し、その際、出典を明確にしておくこと b. ネットは一次検索として用いるのはかまわないが、なるべく公的機関のホームページなどの情報に基づくこと 出所が不明確、無責任で根拠のない匿名記事は決して引用しないこと c. 専門知識＋自分の考え 前提となる理論を明らかにした上で自分の考えについても述べること 理論に基づかない、自分の単なる思いつきや身勝手な意見を最初から書くと高得点は望めない (2) 発表について					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	ガイダンス グループ分け					

	事例 1 の発表と討議	
	事例 2 の発表と討議	
	グループ A による発表	
	グループ B による発表	
	グループ C による発表	
	グループ D による発表	
	グループ A による発表	
	グループ B による発表	
	グループ C による発表	
	グループ D による発表	
	グループ A による発表	
	グループ B による発表	
	グループ C による発表	
	グループ D による発表	

1.授業コード (ナンバリング)	SPS902-Y52	2.科目名	特別研究Ⅱ（公共サービス論）		3.単位数	2
4.授業担当教員	川脇康生					
5.授業科目の区分	展開科目 地域マネジメント分野 の実務経験のある教員 による授業	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業は、公共サービスについての理論と実践を学ぶことを目的にしています。 まず公共の定義を行い、公共を担うさまざまなプレーヤー（国・地方自治体、非営利組織、営利組織、社会的企業など）について、それぞれの社会的役割を詳しく解説します。特に私たちが認識を新たにしなければならないことは、国・地方自治体だけでなく、民間組織や私たち一人ひとりも公共経営の一翼を担っているということです。当事者意識をもって私たちが公共経営に携わらなければならないことは、世界的潮流とっていいでしょう。それに加えて、そうならざるを得ない日本特有の事情もあります。それは継続的な景気の悪化により日本が長らく苦しんできた財政赤字の存在です。社会問題を解決するには多くの財政支出を必要とするからです。それだけではありません。国・地方自治体と民間組織が一丸となって、社会問題の解決に挑まなければならないほど、日本の社会問題は多岐にわたり複雑化しています。このような状況下であり、私たちは公共をどうやって経営したらいいのでしょうか。 私たちが公共経営をより有効かつ効率的に運営するための手法について学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	1.公共とは何かを説明できる 2.公共経営の課題と解決の方法について、意見を持つことができる 3.社会貢献の課題と世界市民としての自覚を持つことができる					
19.教科書・教材	講義資料を webclass にアップします。					
20.参考文献	?永佳甫編「公共経営学入門」大阪大学出版会 2015 年 4 月					
21.成績評価	1. 毎回の講義でのワークシートの提出（個人ワーク及びグループワークの提出） 40% 2. 出身地の地域活性化戦略の発表（プレゼンテーション） 20% 3. 学期末レポート 40%					
22.コメント	政府・自治体の厳しい財政状況から、小さな政府、民間でできることは民間に、中央集権から地方分権等への既存の体制を改革していく必要が生じています。そして、新しい公共サービスのあり方が模索が始まっています。 公共サービスの基礎から学んでも、一緒に新しい方向やあり方を考えましょう。					
23.オフィスアワー	学修支援センターオフィスアワー（神戸山手 1 号館 2 階ラーニングコモンズ）：月、昼休み 研究室オフィスアワー（神戸山手 3 号館 2 階 207 室）：火、昼休み ※質問等はメールで問い合わせてください。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	【第 1 回】 ガイダンス、公共とは何か～消滅可能性都市を事例に日本の課題を考える～			復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること		
第 2 回	【第 2 回】 政府のしくみと役割			復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること		
第 3 回	【第 3 回】 市民社会と地方自治			復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整		

		理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 4 回	【第 4 回】日本の社会問題と経済（少子高齢化、教育、財政赤字、労働生産性、国際競争力・・・）	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 5 回	【第 5 回】新しい公共経営～我が国の様々な社会課題の対応に向けて～	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 6 回	【第 6 回】北欧（デンマーク）の福祉政策の事例研究	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 7 回	【第 7 回】財務省「少子化の要因と少子化社会に関する研究会」報告書	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 8 回	【第 8 回】公共経営の戦略マネジメントモデル	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 9 回	【第 9 回】SWOT 分析を用いた公共経営の分析	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 10 回	【第 10 回】地元自治体（三木市）の事例分析、地方創生一成功の方程式は存在するのか	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 11 回	【第 11 回】公共経営とソーシャル・キャピタル（社会関係資本）	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 12 回	【第 12 回】グローバル化と新しい公共	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 13 回	【第 13 回】高齢社会と社会保障	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 14 回	【第 14 回】出身地の地域再生戦略の発表（学生発表 1）	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること
第 15 回	【第 15 回】出身地の地域再生戦略の発表（学生発表 2）	復習：今回テーマの復習及び授業ノートの整理、ワークシートの提出 ノートパソコンを持参すること

1.授業コード (ナンバリング)	SPS902-Y53	2.科目名	特別研究Ⅱ（モチベーション心理学）		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	授業		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目は人々のモチベーションについて心理学の観点から総括的に把握することを目的とする。 【概要】 日常生活を送り仕事を遂行するにあたりモチベーションマネジメントは欠かせない。本科目では、個人および人々のモチベーションについて概観し、より良く生きていくためにモチベーションを律する方法について具体的事例に照らし合わせながら学んでいく。					
18.学習目標と DPとの関連	①人々がより良く生きることを念頭に学習や仕事に役立つモチベーションのあり方を理解できる。 ②モチベーションの律し方を説明することができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	①総括試験（学習目標①②を問う）（50％） ②各回のミニレポート（学習目標①②を問う）（50％）					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	モチベーションとは何か ・モチベーションとは：動機づけのしくみに迫る					
第 2 回	モチベーションの源泉 ・モチベーションの源泉を探る：内容理論の要因に迫る					
第 3 回	モチベーションの過程【グループワーク】 ・モチベーションはどのような過程をたどるのか？：過程理論を概観する					
第 4 回	学習場面のモチベーション ・学習場面のモチベーションをどのように保つかについて学ぶ					
第 5 回	自律的なモチベーション【グループワーク】 ・モチベーションの律し方について実践的に学ぶ					
第 6 回	働く場面のモチベーションとモチベーションの搾取					

	・モチベーション搾取の現状について概観し搾取を防ぐ方法について学ぶ	
第 7 回	モチベーションの自己志向性と他者志向性 ・自分のため？他者のため？：モチベーションの志向性とその特徴について概観する	
第 8 回	これまで（前半）の授業について振り返る（中間試験）	
第 9 回	集団のモチベーション① ・他者存在を想定したモチベーションについて概観する	
第 10 回	集団のモチベーション②【グループワーク】 ・組織・集団のモチベーションを高める要因および方法について学ぶ	
第 11 回	文化や世代によるモチベーションの相違 ・文化や世代によって異なるモチベーションの様相を学ぶ	
第 12 回	モチベーションの側面：ネガティブな動機とポジティブな動機 ・モチベーションに関わるネガティブ特性とポジティブ特性の 2 側面を概観する	
第 13 回	生き抜くためのモチベーション【グループワーク】 ・過酷な状況下においても生き抜くためのモチベーションについて『夜と霧』を題材にしながら学ぶ	
第 14 回	モチベーションとバーンアウト ・モチベーションの程度とバーンアウト、程良いモチベーションのあり方について学ぶ	
第 15 回	これまで（後半）の授業について振り返る（総括試験）	

1.授業コード (ナンバリング)	SPS902-Y54	2.科目名	特別研究Ⅱ（恋愛心理学）	3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂				
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	心理学科	9.履修学年	2 年生～		
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義 ・ グループワークを行う回もある。		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	本科目では、恋愛における人々の様々な心理・行動についての理解を深める。 近年の恋愛・結婚に関する価値観の変化は、少子化などの日本社会を持続していくにあたっての問題に関連している。また、幸せな恋愛・結婚は高いウェルビーイングをもたらすが、恋愛・結婚には葛藤、失恋・離婚といったネガティブな出来事も生じる可能性があり、DV・ストーカーなどの犯罪に発展するケースも存在する。そこで、恋愛・結婚に関わる出来事を心理学的に理解を深めることは、日本社会の維持、ウェルビーイングを高めるために必要なことであると思われる。				
18.学習目標と DPとの関連	①恋愛・結婚関係特有の心理現象について、主に社会心理学の知見に基づいた説明ができる。 ②恋愛・結婚関係で生じる問題について、その解決に向けたアイデアを提案できる。				
19.教科書・教材	資料を配布する。				
20.参考文献	適宜紹介する。				
21.成績評価	①総括試験（学習目標②を問う）（50％） ②各回のミニレポート（学習目標①②を問う）（50％）				
22.コメント					
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
【第1回】	ガイダンス 恋とは何か？愛とは何か？ 恋と愛の定義や本質について探る。恋愛とは一体なのか、愛とはどのように成立するのかについて考える。				
【第2回】	恋愛と結婚をめぐる状況 現代社会における恋愛と結婚に関する状況を取り上げ、恋愛と結婚の意義や価値観がどのように変化してきたのか 考察する。				
【第3回】	恋愛の進化論：生物学的な視点からの恋愛の理解 恋愛の進化的な視点から考察する。				
【第4回】	恋愛の発達心理学的側面 恋愛が個人の成長や発達に与える影響や、過去の経験が恋愛に及ぼす影響を理解する。				
【第5回】	恋愛とパーソナリティ：恋愛のタイプと相性 個人のパーソナリティが恋愛のタイプや恋愛行動に与える影響を考察する。				

【第 6 回】	恋に落ちる心理 恋に落ちる心理や恋愛に伴う感情の変化、相手への魅力を感じる理由などについて考察する。	
【第 7 回】	恋愛の社会文化的要因 恋愛が文化や価値観などによってどのように影響されるかについて考察する。	
【第 8 回】	恋愛関係の形成と維持 恋愛関係がどのように形成されるのか、その後の維持に重要な要素について考察する。	
【第 9 回】	恋愛関係の形成と維持 恋愛関係がどのように形成されるのか、その後の維持に重要な要素について考察する	
【第 10 回】	恋愛と性：セクシュアリティ 性的指向性の多様性が恋愛に与える影響やセクシュアルマイノリティの恋愛関係について理解を深める。	
【第 11 回】	結婚、仕事、子育て 結婚後の仕事と家庭の調和，恋愛と結婚が個人の人生に与える影響について考察する。	
【第 12 回】	浮気・不倫・・・ 浮気の原因や背景，対処行動について理解する。	
【第 13 回】	恋愛・結婚関係のダークサイド?：嫉妬 親密な関係で生じるネガティブな感情について理解する。	
【第 14 回】	恋愛・結婚関係のダークサイド?：DV，ストーカー 親密な関係で生じる暴力について理解を深める。	
【第 15 回】	まとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	SPS902-a52	2.科目名	特別研究Ⅱ（金融リテラシー・金融経済講座）		3.単位数	2
4.授業担当教員	齋藤勝洋					
5.授業科目の区分	特別研究	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学部学科			9.履修学年	3 年	
10.取得資格の要件	特になし		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義形式		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	現在の日本は労働生産性やワークライフバランス等の変革期に入り、特に人生 100 年時代と呼ばれる中で個人資産形成が不可欠となっている。そこで経営学部のファイナンス等の簿記・会計の知識を活かしつつ、高度な金融・経済知力の強化を行うことで学生が卒業後も有意義で安定した人生を構築でき、更に世界市民として世界経済の持続的発展に資することが可能な金融リテラシーを獲得する。 そのため、野村証券との連携による講座を開設し、本学部ならではのきめ細かい学びの展開と野村証券の最新且つ体系化された知識及び分析スキルを本講義で展開し、学生の金融知力醸成を行って他の授業とも関連させ自律的学びも促す。					
18.学習目標と DPとの関連	授業は「自律性」「問題発見・解決力」「情報収集・活用力」「専門的知識・技能の活用力」に関連 ・最新の金融知力（リテラシー）と活用力の獲得 ・学生のキャリアプラン、マネープランの検討力の獲得 ・グローバル経済、産業、企業の分析力と最適解を考える力の獲得					
19.教科書・教材	特になし。毎回、授業前に資料を WebClass にアップロードする。					
20.参考文献	○榊原茂樹・城下賢吾・姜喜永・福田司文・岡村秀夫（2013）『入門証券論 第3版』有斐閣 ISBN 978-4-641-16410-9 ○野崎浩成監修（2023）『ファイナンス思考 むるだけノート』宝島社					
21.成績評価	・毎回のワーク：30% ・中間レポート：30% ・総括プレゼン：40%					
22.コメント	野村証券担当者と本学教員で実施するものであり、単なる講義ではなく自身の資産形成にも大きく資する事から、積極的な質問や議論が期待される。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 01 回	○オリエンテーション<担当：齋藤> ・目的、到達点、評価、概要、毎回の課題等の説明を行う。 ・日経新聞の読み方の紹介と毎回のワークの説明を行う。					
第 02 回	○金融とは何か<担当：齋藤> ・金融の目的、意義、機能、市場に関する基礎知識を学ぶ。 ・金融リテラシーが必要な理由について学ぶ。			◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示		
第 03 回	○株式とは何か<担当：野村証券担当者> ・株式会社と株式、株式市場と証券会社の機能と仕組みについて学ぶ。			◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示		

第 04 回	○債券の基礎Ⅰ＜担当：齋藤＞ ・債券の３つ種類と特長、債券の意義について学ぶ。 ・投資としての債券のメリットとデメリットを学ぶ。 ・実際の債券を調べ、仮想購入を想定し報告する。	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 05 回	○債券の基礎Ⅱ＜担当：齋藤＞ ・債券の変動要素と市場動向、その分析方法を学ぶ。 ・実際の動きをチャート図で分析する。 ・実際の銘柄を選択し、その変動を分析し報告する。	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 06 回	○株式の基礎Ⅰ＜担当：野村證券担当者＞	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 07 回	○株式の基礎Ⅱ＜担当：野村證券担当者＞	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 08 回	○投資信託入門＜担当：齋藤＞ ・投資信託（テーマ・ファンド）について学ぶ。 ・投資信託についてまとめて提出 ・新 NISA について変更点と利用利点、背景を調べてまとめて提出	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 09 回	○日本の株式市場史＜担当：野村證券担当者＞	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 10 回	○外国為替相場の基礎知識＜担当：野村證券担当者＞	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 11 回	○資産運用の考え方＜担当：齋藤＞ ・資産ポートフォリオについて学ぶ。 ・マネーフォワード等の AI 型資産ポートフォリオ等を試用し体験する。 ・資産ポートフォリオをサンプル作成し提出する。	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 12 回	○行動ファイナンス～投資家心理について～＜担当：齋藤＞ ・行動ファイナンス（消費者心理）の動向、見方を学ぶ。 ・自分の行動傾向を把握し、報告を提出する。	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 13 回	○産業展望と投資の考え方＜担当：齋藤＞ ・産業分析の方法と実践を行い、産業展望を掴む。 ・産業分析結果を活かした投資について学ぶ。 ・自分の興味ある産業の検討と、投資手段を検討し報告する。	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 14 回	○ライフプランニング～人生とお金について～＜担当：野村證券担当者＞	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示
第 15 回	○個人ライフプランの発表＜担当：野村證券担当者・齋藤＞	◆日経新聞読込 ◆まとめワークの提示

1.授業コード (ナンバリング)	SS2101-Y51	2.科目名	まちづくり論		3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 現代社会におけるまちづくりのあり方について、商店街などの商業空間や、公園・広場といった公共空間などの身近な生活空間を中心に講義します。都市では、さまざまな立場や考えを持った人びとが同じ地域や場所で生活しています。こうした、異なる人たちと共に（ときに折り合いをつけながら）どのようにして、いっしょに暮らしていけるのかは、都市でのまちづくりの重要なテーマです。この授業をととして、「社会」という観点から、都市計画やまちづくりについて考える姿勢を身につけることが、本講義の目的です。 【概要】 授業ではまず、都市計画とまちづくりに関する基本的な知識や視点について講義します（最後の第 15 回目の授業で確認テストを実施します）。これらの知識をふまえたうえで、公園・広場などの公共空間および、商店街やショッピングモールなどの商業空間といった都市空間におけるまちづくりのあり方について考えます。授業は担当教員による講義と、おもにレポート課題を作成するためのグループワークを実施する時間に分かれます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の S1、S2 の学修に関連しています。 ①現代社会におけるまちづくりについての基本的な知識や考え方について述べることができる ②商店街、中心市街地、公共空間など、個別トピックにおけるまちづくりの課題について理解し説明することができる。 ③自分にとっての身近な生活空間に関心を持ち、そのあり方について自分なりの意見を持ち説明することができる。					
19.教科書・教材	使用しません。毎回、レジュメと資料を配布します。					
20.参考文献	ジェイン・ジェイコブズ（山形浩生 訳）『新版 アメリカ大都市の死と生』鹿島出版会、2010 年 中島直人・村山顕人ほか『都市計画学:変化に対応するプランニング』学芸出版社、2018 年 笹尾和宏『PUBLIC HACK:私的に自由にまちを使う』学芸出版社、2019 年 満園勇『商店街はいま必要なのか』講談社現代新書、2015 年 満園勇『日本流通史:小売業の近現代』有斐閣、2021 年 広井良典『商店街の復権――歩いて楽しめるコミュニティ空間』ちくま新書、2024 年 その他、適宜授業内で紹介します。					
21.成績評価	レポート課題①（公共空間）：40 点 レポート課題②（商店街）：40 点 ミニテスト（第 15 回で実施）：20 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 2 限目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

【第1回】	〔講義〕 イントロダクション	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。
【第2回】	〔講義〕 都市計画とまちづくりの基本知識①	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること
【第3回】	〔講義〕 都市計画とまちづくりの基本知識②	予習：あらかじめ出題された課題に取り組むこと 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること
【第4回】	〔講義〕 公共空間とまちづくり①：都市公園とは何か	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。 【レポート課題（公共空間）の提示】
【第5回】	〔講義〕 公共空間とまちづくり②：都市公園政策の過去と現在	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。
【第6回】	〔講義〕 公共空間とまちづくり③：都市公園の管理をめぐる問題	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。
【第7回】	〔活動〕 公共空間とまちづくり④：公共空間の管理と「自由」（グループワーク）	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第8回】	〔活動〕 公共空間とまちづくり⑤：公共空間のデザイン（グループワーク）	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第9回】	〔講義〕 商店街とまちづくり①：商店街のなりたち（近現代を中心に）	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。 【レポート課題（商店街）の提示】
【第10回】	〔講義〕 商店街とまちづくり②：商店街活性化政策の変遷	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第11回】	〔講義〕 商店街とまちづくり③：商店街活性化の現代的課題	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第12回】	〔活動〕 商店街とまちづくり④：商店街の現状を調べよう（グループワーク）	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第13回】	〔活動〕 商店街とまちづくり⑤：商店街の現状を調べ	予習：グループワークに向けた課題に取り組

	よう（グループワーク）	むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第 14 回】	〔活動〕 商店街とまちづくり⑤：商店街の現状を調べよう（グループワーク）	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第 15 回】	まとめ・ミニテスト	ミニテストに向けて対策をすること

1.授業コード (ナンバリング)	SS2103-Y51	2.科目名	情報社会論		3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	テレビや携帯電話にパソコン、新聞やラジオなど、私たちの生活は数多くのメディアに囲まれ、それらを介して私たちは膨大な量の情報に接している。こうした社会はしばしば「情報社会」と呼ばれ、それは現代社会を特徴付ける大きな要因のひとつとなっている。本講義では、過去から今日に至るまでのメディアの発展およびその研究動向を概括し、その上で今日のメディア状況、私たちの生活においてメディアが果たす役割について考え、情報社会を生きぬくための知恵や方法を身につける。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（S1）修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、（S2）社会や文化について科学的に理解する力の学修に関連している 本科目の学習目標は次のとおり。 ①情報社会の進展について理解を深め、必要なメディアリテラシーを高める。 ②情報機器端末を効率的に使用できる。 ③複眼的な視座で情報選別ができる。 ④個人情報の適切な管理ができる。					
19.教科書・教材	辻泉・南田勝也・土橋臣吾編『メディア社会論』有斐閣					
20.参考文献						
21.成績評価	小レポート（50 点）　〔学習目標①②に対応〕 期末試験（50 点）　〔学習目標②③④に対応〕					
22.コメント	パワーポイントを利用した講義形式。印刷物を配付する。					
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 3 限、学修支援センター：木曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	〔講義〕 はじめに			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 2 回】	〔講義〕 メディア社会論のために			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 3 回】	〔講義〕 ネットワーク化の来歴——メディアがつかないできたもの			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 4 回】	〔講義〕 モバイル・デバイスの来歴——場所感覚の喪失と創出			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 5 回】	〔講義〕 コンテンツ・メディアの来歴——ソリッドなスター／リキッドなアイドル			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 6 回】	〔講義〕 ソーシャル・メディアの功罪——SNS 的つながりの実相			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 7 回】	〔講義〕 デジタル・コンテンツの功罪——データ化した音楽作品とその価値			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 8 回】	〔講義〕 ネット広告の功罪——監視社会と消費行動への自由①			復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく		
【第 9 回】	〔講義〕 ネット広告の功罪——監視社会と消費行動へ			復習:今回の復習及び授業ノートの整理		

	の自由②	予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
【第 10 回】	〔講義〕 ユビキタス／ビッグデータの功罪——「わたし」という閉域,「みんな」の可視化	復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
【第 11 回】	〔講義〕 メディア社会の構想:再帰化	復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
【第 12 回】	〔講義〕 変わりゆくリアリティ——二項対立から多項対立の時代へ	復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
【第 13 回】	〔講義〕 変わりゆくコンテンツ——鑑賞からプレイへ	復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
【第 14 回】	〔講義〕 変わりゆくテクノロジー——分断された「わたし」からモバイルな社会性へ	復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく
【第 15 回】	〔講義〕 おわりにー総括試験	復習:今回の復習及び授業ノートの整理 予習:次回の教科書の該当箇所を読んでおく

1.授業コード (ナンバリング)	SS2105-Y51	2.科目名	マスコミ論		3.単位数	2
4.授業担当教員	大西昭彦					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	暗箱のなかの小さな針穴から、私たちは世界をのぞき、ときに声をだしています。この針穴が「メディア」であり、それを通じた情報のやりとりが「マス・コミュニケーション（マスコミ）」です。授業では、現代および歴史に例をとりながら、さまざまなマス・メディアが果たしてきた役割を検証。自分たちがいまどこにいるのか、どこに向かっているのかを知る能力をやしません。					
18.学習目標と DPとの関連	「S1.修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力」 「S2.社会や文化について科学的に理解する力」の学修に関連しています。 1. 変革期にあるマス・コミュニケーションの全体像を理解し、説明できる。 2. 各メディアの特性や仕組み、社会との関わりを理解し、説明できる。 3. 各メディアのコンテンツをとおして時代の流れを理解し、説明できる。 4. メディアの構造や表現法について学び、自らのメディア表現に使うことができる。					
19.教科書・教材	授業でレジュメを配付、資料はプロジェクターで投影					
20.参考文献	適宜紹介					
21.成績評価	授業態度・課題 30 点 （学習目標の1～4に対応） 期末レポート 70 点 （学習目標の1～4に対応）					
22.コメント	メディアによって伝えられるさまざまな分野のコンテンツを中心に、授業を進めます。メディアはふだんの生活のなかで身近に接しているものです。各分野ごとに自分なりの関心や疑問をもち、授業にのぞむとよいでしょう。質問等は授業後またはコメントシートにて受け付けます。 前期の新聞研究とあわせて受講することで、より理解が深まります。					
23.オフィスアワー	授業の前後に、教室で質問を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	ガイダンス、メディア論導入			復習／レジュメを再確認		
第2回	メディア・コミュニケーション 1／身体とメディア			復習／レジュメを再確認		
第3回	メディア・コミュニケーション 2／集団とメディア			復習／レジュメを再確認		
第4回	メディア・コミュニケーション 3／技術とメディア			復習／レジュメを再確認		
第5回	メディア史（権力とメディア）			復習／レジュメを再確認		
第6回	メディア史（感染症とメディア）			復習／レジュメを再確認		
第7回	メディア史（戦争とメディア）			復習／レジュメを再確認		
第8回	メディア史（経済とメディア）			復習／レジュメを再確認		
第9回	印刷系メディア／新聞・出版			復習／レジュメを再確認		
第10回	電波系メディア／TVを中心に			復習／レジュメを再確認		
第11回	メディアと広告1／構造			復習／レジュメを再確認		
第12回	メディアと広告2／表現			復習／レジュメを再確認		
第13回	メディアと表現1／言葉・音楽と社会			期末レポート課題発表 復習／レジュメを再確認		
第14回	メディアと表現2／絵画・写真史と社会			復習／レジュメを再確認		

第 15 回	メディアと表現 3 / 映画と社会	復習 / レジュメを再確認

1.授業コード (ナンバリング)	SS2201-y51	2.科目名	教育社会学	3.単位数	2
4.授業担当教員	樋田大二郎				
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	教育制度・教育マネジメント、教育問題にどのように向かい合うかを社会学の視点から考える。				
18.学習目標と DPとの関連	●自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる ●社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができる ●専門的知識・技能の活用力 世界と出会い働きかけるツールとしての専門的知識・技能を使いこなすことができる				
19.教科書・教材	授業中に紹介する。				
20.参考文献	授業中に紹介する。				
21.成績評価	毎回の小レポート（60％）、最終レポート（40％）				
22.コメント	客観的に冷静にそして熱く教育を考える。なお、この講義では、途中にミニワークショップをおこなう。楽しんで参加して欲しい。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
1 回目	・ 授業の導入 ・ 偏差値で人を計ることはできないこと			授業に関連する出来事に触れたり、記事を読んだり、文献を読んでおくことが望まれる。授業後に毎回小レポートを提出すること。	
2 回目	共感的理解-この授業での理解				
3 回目	いじめへの対応の動向といじめの理解、いじめの実態				
4 回目	いじめっ子を集団構造から離脱させる方法－いじめ対策の事例＝集団的出来事を個人的出来事に				
5 回目	不登校（1）見る				
6 回目	不登校（2）知る				
7 回目	不登校（3）理解する				
8 回目	「学校」の多様性（1）5つの海外事例から				
9 回目	「学校」の多様性（2）日本の先進事例				
10 回目	「学校」の多様性（3）日本の先進事例				
11 回目	社会化（1）社会が内在化、身体化される方法と意義				
12 回目	社会化（2）私だって社会化されている				

13 回目	地域の特色を生かした教育＝地域を教材にした教育	
14 回目	教師になる前に考える（1）	
15 回目	教師になる前に考える（2）	

1.授業コード (ナンバリング)	SS2202-Y51	2.科目名	消費生活論	3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	総合社会学科	9.履修学年	2 年～		
10.取得資格の要件	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	講義		
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	職業選択からはじまり、職業、会社組織での役割などの社会と個人との関係は生涯にわたって続き、絶えず変化していく。自らの人生およびキャリアを考え、それをデザインしていくうえにおいて必要な心理学的知識を習得するとともに、自らの内面を捉える論理的思考力を身につける。 また、消費者の心理やビジネスコミュニケーションを学ぶとともに、職場環境の中で生じる様々な問題とそれに対処するための知識を身につける。本授業では、このような観点からキャリアにまつわる心理学的な知見を学ぶ。				
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP の (1) 自律性 (2) 社会的貢献性 (3) 多様性理解 (4) 問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①産業・組織心理学が扱う、諸領域の基礎的な理論について説明できる。 ②組織の中で生じる人の行動や、様々な問題とそれに必要な支援について具体的に理解し、説明できる。 ③消費者の購買行動の規定因に関わる心理について理解し、説明できる。 ④産業・組織心理学の知見を自分自身の就業・キャリア発展に活かすことができる。				
19.教科書・教材	webclass にレジメをアップしますので、授業開始までに印刷しておくこと。				
20.参考文献	経営とワークライフに生かそう！産業・組織心理学 改訂版 山口裕幸ら著 有斐閣 サクッとわかるビジネス教養行動経済学 阿部誠監修 新星出版社				
21.成績評価	1. 各回のミニレポート×14 回＝60% (学習目標の②③④に対応) 2. 到達度確認テスト：40% (学習目標の①②③④に対応)				
22.コメント	※前日までに次回のレジメ(ppt の穴抜き)を webclass に用意します。 レジメは授業前に印刷をしておいてください。				
23.オフィスアワー					
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)			
	ガイダンス：産業・組織心理学とは				
第 2 回	説得における態度とは何か、説得の影響				
第 3 回	社会的証明とネットレビューの心理学				
第 4 回	ネガティブポイントをポジティブに見せる方法				
第 5 回	承諾を得やすくするためのユニットアスキング				
第 6 回	説得時における数字の効果				
第 7 回	従業員のモチベーションを高める心理学				
第 8 回	職場のコミュニケーション				
第 9 回	特典付加の心理学				
第 10 回	広告・マーケティング①				

第 11 回	広告・マーケティング②	
第 12 回	心理的財布と支払い	
第 13 回	苦情行動・クレーマー	
第 14 回	ラストシーンの心理学	
第 15 回	到達度確認テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	SS2204-Y51	2.科目名	家族論		3.単位数	2
4.授業担当教員	清水美知子					
5.授業科目の区分	展開	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学部社会学科			9.履修学年	2 年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	原則として、第 1 回目の授業に出席した者に限ります。無断欠席の場合は、履修を取り消す場合もあるので、注意してください。					
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、家族の過去、現在、未来について、自分の生き方と社会のあり方とを関連づけながら考えるようになることを目指します。 【概要】 日本の「家族」および「家庭」は、急激な社会の変化にともない、この半世紀ほどの間に大きく変わったと言われています。日本人のライフスタイルにも変化が見られ、夫婦とは、親子とは、そして家族・家庭とは、いったい何なのかが改めて問われています。家族はどのように変わりつつあり、家庭はどのような方向に進もうとしているのでしょうか。					
18.学習目標と D P との関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の「多様性理解」の学修に関連しています。 ①自分の育った家族について他人に語ることができる。 ②自分の結婚観について論理的に説明することができる。 ③ワークファミリーバランスの現状について、問題点を指摘することができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。毎回の配布資料は WebClass 等に挙げます。					
20.参考文献	○山田昌弘『結婚不要社会』朝日新聞出版,2019 年（朝日新書 717） 他については適宜、紹介していきます。					
21.成績評価	・ 第 1 回レポート（テーマⅠ）⇒20％（目標①） ・ 第 2 回レポート（テーマⅡ）⇒20％（目標②） ・ 第 3 回レポート（テーマⅢ）⇒20％（目標③） ・ 授業中の課題（アサイメント含む）⇒40％（目標①～③）					
22.コメント	●総合社会学科「家族論」を同じ時間帯に開講します。 ●原則対面で授業を行います（体調不良等により出席停止の場合のみ遠隔受講を認めます） ●原則として、資料は WebClass にあげ、課題（レポート等）も WebClass で提出します。 ●PC、スマホをフル充電し、必ず、イヤホンもしくはヘッドセットを持参してください。 ●天候・気候、社会情勢により、急ぎょ、オンライン授業に切り替えることがあるかもしれません。 ●ノート P C のみならずスマホにも Zoom をインストールしておいてください。 ●グループワークの多い授業					
23.オフィスアワー	【神戸山手キャンパス】 ○センタオフィスアワー⇒水曜昼休み（1 号館 2 階ラーニングコモンズ） ○研究室オフィスアワー⇒水曜Ⅱ限（1320 研究室）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 10 月 2 日	テーマⅠ：「家族」って何だろう？① ○オリエンテーション（授業の内容・進め方・評価			提出物：ワークシート 復習：今回の復習		

	等) ○ワーク：「家族」という言葉から何を連想するか？	
第2回 10月9日	テーマⅠ：「家族」って何だろう？② ○ワーク：疑似家族の編成（グループ分け） ○ワーク：家族構成やファミリーコンセプトを設定し、発表する。 ○ワーク：「家族の範囲」についてのミニアンケート ●第1回レポート告知	提出物：ワークシート ：アンケート 復習：今回の復習
第3回 10月16日	テーマⅠ：「家族」って何だろう？③ ワーク：「家族の範囲」についてのミニアンケートの結果をもとに、家族の多様性について考える。	提出物：ワークシート 復習：今回の復習
第4回 10月23日	テーマⅠ：「家族」って何だろう？④ ○ワーク：第1回レポート、ファミリー内発表 ○ワーク：第1回レポート、ファミリー代表の発表 ○テーマのふりかえり	提出物：ワークシート 復習：今回の復習
第5回 10月30日	テーマⅠ：「家族」って何だろう？⑤ ○ワーク：第1回レポート、ファミリー代表の発表（続き） ○テーマのふりかえり	提出：アンケート 復習：今回の復習
第6回 11月6日	テーマⅡ：「結婚」について考える① ○講義：日本における結婚の変遷 ○ワーク：結婚観に関するアンケート	提出物：オークション 復習：今回の復習
第7回 11月13日	テーマⅡ：「結婚」について考える② ○ワーク：結婚相手はどんな人？（オークションの実施） ○第2回レポート課題告知 「結婚する／しない？：わたしの結婚観」	提出物：ワークシート 復習：今回の復習
第8回 11月20日	テーマⅡ：「結婚」について考える③ ○講義：オークション結果の発表 ○ワーク：アンケート結果をもとに結婚観について考える ○講義：データからみた日本の結婚（続）	提出物：ワークシート 復習：今回の復習
第9回 11月27日	テーマⅡ：「結婚」について考える④ ○ワーク：第2回レポート、ファミリー内発表 ○ワーク：第2回レポート、ファミリー代表の発表 ○テーマのふりかえり	提出物：ワークシート 復習：今回の復習
第10回 12月4日	テーマⅢ：家事と就労について考える① ○ワーク：第2回レポートの発表（続） ○第3回レポート課題告知 「ウィズコロナ、アフターコロナ時代の働き方と家族：私たちはこう考える」	提出物：ワークシート 予習：資料収集

	○ワーク：テーマに関するディスカッション（ファミリー単位）	
第 1 1 回 12 月 11 日	テーマⅢ：家事と就労について考える② ○講義：新聞記事の検索：『聞蔵』を中心に ○ワーク：テーマに関する記事検索 ○ワーク：テーマに関するディスカッション（2 回目）	提出物：ワークシート 予習：資料収集
第 1 2 回 12 月 18 日	テーマⅢ：家事と就労について考える③ ○ワーク：テーマに関するグループディスカッション（3 回目） テーマと方向性、役割分担を決める。	○予習：資料の収集
第 1 3 回 1 月 8 日	テーマⅢ：家事と就労について考える④ ○ワーク：テーマに関するグループディスカッション（4 回目） 持ち寄ったデータを整理しまとめる。プレゼン資料の作成	持参するもの：ノート P C、調べてきた記事 授業外グループ学習：テーマについて分担して調査
第 1 4 回 1 月 15 日	テーマⅢ：家事と就労について考える⑤ ○ワーク：第 3 回レポートの発表（ファミリー単位）	提出物：ワークシート
第 1 5 回 1 月 22 日	テーマⅢ：家事と就労について考える⑥ ○ワーク：第 3 回レポートの発表（ファミリー単位）（続） ○講義：テーマのふりかえり ○授業アンケートの実施	提出物：ワークシート 第 3 回レポート

1.授業コード (ナンバリング)	SS2206-Y51	2.科目名	福祉社会論		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業の目的は福祉について社会的に捉えることにある。福祉は高齢者のためのもの、といった理解があるかもしれないが、誰にとっても必要な事柄である。 ではなぜ福祉が必要なのか。それは誰もが支えなくてはならないものなのか。社会の基盤というのはいったいどういうことなのか。 そこで本授業では福祉について受講者にとって身近な問題から考える。そして社会における福祉の意義や意味について議論する。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP のうち「社会的貢献性」「多様性理解」「問題発見・解決力」と結びついている。学修目標は以下の通りである。 (1) 福祉の社会課題を具体的に提示することができる（問題発見・解決力） (2) 福祉における多様なアクターについて説明することができる（多様性理解） (3) 福祉の社会課題を社会的に説明することができる（問題発見・解決力）					
19.教科書・教材						
20.参考文献	適時提示する 武川正吾他編 2020『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房					
21.成績評価	(1) ディスカッションペーパー（毎回）・・・30% (2) 問題発見ペーパー（5回）・・・30% (3) 課題レポート・・・40%					
22.コメント	福祉について考えることは私たちにとって遠く離れたことのように思えます。ですが私たちの日常に溢れていることがらです。これらをみなで議論することが本授業で取り組むことです。					
23.オフィスアワー	後日追記します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	福祉とはなにか 福祉と社会の関係について学ぶ			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（1）を記入する。		
第 2 回	福祉と社会を考える 福祉に関わる社会的組織、人材を知る			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 3 回	福祉と日本社会（1） 戦後の福祉政策までを概観する			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 4 回	福祉と日本社会（2） 現在の福祉の政治状況について概観する			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（2）を記入する。		
第 5 回	福祉は必要か？（1） 福祉に対する批判・異議申し立てについて考える			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 6 回	福祉は必要か？（2） 将来の福祉について考える。			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 7 回	福祉と社会理論（1） シャドウ・ワーク、福祉レジーム論、ケア			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（3）を記入する。		
第 8 回	福祉と社会理論（2）			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。		

	シティズンシップと外国人	予習：配布資料の予習。
第 9 回	福祉と社会理論（３） 障害者と社会モデル	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（４）を記入する。
第 10 回	社会福祉と当事者（１） 当事者に寄り添った福祉は可能か？	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 11 回	社会福祉と当事者（２） 当事者に寄り添った福祉団体。	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 12 回	福祉の実際（１） 地域福祉と地域包括ケア（高齢者福祉）	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（５）を記入する。
第 13 回	福祉の実際（２） 地域福祉と生活保護（社会保障）	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 14 回	福祉の実際（３） 地域と児童福祉（子どもの福祉）	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：地域課題レポートの作成。
第 15 回	まとめー社会と福祉の関係を考える	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：地域課題レポートの作成。

1.授業コード (ナンバリング)	SS2206-Y52	2.科目名	労働社会学		3.単位数	2
4.授業担当教員	飯嶋香織					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	現在、日本は少子高齢化社会の進行の中で、仕事のあり方も大きく変化している。そういった状況下での職業、仕事、会社のありかたなどについての具体的な事例などを通して考えていく。現在、労働のあり方、雇用環境に大きな変化があり、大学生の就職、非正規労働力率の高まり、長期安定雇用の減少といったさまざまな課題を抱えている。 さらに外国人労働者などが日本の労働市場に多く参入するようになってきた。こうした変化の実態を映像資料や各種の統計などを通して理解し、今後の労働のあり方について検討することである。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は 総合社会学科の DP の「S1.修得した知識技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力」「2.主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力」の学修に関連している。 ①日本の雇用システムによって、家族のかたち、日本型福祉や社会政策がどのように規定されてきたのか、それが現在どのように変化してきたのかについて理解し説明できる。 ②女性、非正規労働者、高齢者など、多様な働き方の現状と課題に理解し、説明できる。 ③日本での外国人労働者の現状や抱える課題、日本の労働市場に与える影響などを理解し、説明できる。 ④グローバル化の進行の中で、今後の労働のあり方がどのように変換していくかについて理解し、説明できる。 ⑤現代日本企業のあり方やその変化の動向を学び、大学卒業後の自らの働き方や生活について理解し、説明することができる。 SDGs（持続可能な開発目標）17のゴールの中の「8.包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生涯的な雇用と働きがいのある人間らしい（ディーセント・ワーク）を促進する」の視点からも考察していきます。					
19.教科書・教材	指定なし 必要な資料は授業中に配布するか、WEB CLASS にアップします					
20.参考文献	今野晴貴『ブラック企業 日本を食いつぶす妖怪』文芸春秋 竹ノ下弘久『仕事と不平等の社会学』弘文堂 石田淳『相対的剥奪の社会学：不平等と意識のパラドクス』東京大学出版会.					
21.成績評価	授業で提出するレポート 40% （学習目標①と②と③に対応） 中間レポート 20% 最終レポート 40% （学習目標③と④と⑤に対応） 最終レポートは授業の関連する資料を読んで、現在の労働について社会学的な観点から考察する内容 レポートは採点・講評をして各自に返却します。基準に満たない場合は再提出が必要となります。					
22.コメント	原則、対面授業です。ただし、天候不良など登学禁止となり、対面で授業が実施できない場					

			合は、遠隔での対応となります。その場合、授業を ZOOM など録画して授業内の WEB CLASS で公開することがあります。 講義で事例として取り上げるのが日本での事例が中心のため、日本の現状に一定の理解が必要になります。 大学を卒業後、多くの学生が就職することになるであろう。職業、仕事、会社などについての疑問や関心などをデータなどを用いて現実を考えていくのが労働社会学です。それを通して自分がいま生きているこの社会のあ
23.オフィスアワー			授業後に教室または非常勤講師室
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)	
【第 1 回】	日本の現状：少子高齢化の中での働くこと 高齢化社会の労働者 高齢者の労働状況	【復習】配布資料の復習	
【第 2 回】	雇用システムの変化 ① 日本型雇用システム 日本の企業と働く社会を考える 自分が将来就きたい職業について考える	【復習】配布資料の復習 【次回の予習】次週の授業内容に関連した動画の視聴(動画は WEB CLASS にアップ)	
【第 3 回】	雇用システムの変化 ② 雇用の多様化 日本型雇用慣行の今後 企業の経営戦略の変化と雇用の未来	【復習】配布資料の復習 【次回の予習】次週の授業資料配布	
【第 4 回】	雇用システムの変化 ③ 非正規雇用 ニート、フリーター 1990 年代初頭のフリーターが登場した背景と非正規雇用の増加 非正規雇用から正規雇用への移行の困難さ	【復習】レジュメの復習 【次回の予習】中間レポートの課題を配布 課題の資料を読んで不明点などは次の時間に質問してください	
【第 5 回】	女性と仕事 ① 就業構造の変化 社会の変化と岐路に立つ日本型福祉社会	【復習】小川 慎一 他著 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』P229-233 【予習】小川 慎一 他著 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』P229-233	
【第 6 回】	女性と仕事 ② 均等法の成立・改正とその影響 職場における男女平等の道のりー男女雇用機会均等法施行以降	【復習】小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』P229-233 【予習】小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』P224-254	
【第 7 回】	女性と仕事 ③ 非正規雇用と女性 女性の貧困 性別役割分業 育児休業と継続就業 主婦パートの現在	【復習】小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』P224-254 【予習】次週の授業内容に関連した動画の視聴(動画は WEB CLASS にアップ)	
【第 8 回】	仕事を取りまく制度 働き始める前に知っておいて欲しいこと 労働に関する法のしくみ、労働基準法、労働組合、労使協議	【復習】中間レポートの提出締め切り 中間レポートは第 9 回目の授業に返却予定 【予習】授業の関連する動画の視聴し、課題を WEB CLASS で回答	
【第 9 回】	働き方はどう変わってきたか：技術革新と職場の変化 情報通信技術が変える社会	【復習】小川 慎一 他著『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』P123-P139 【予習】次回のレジュメを配布しますので読んでください	
【第 10 回】	過労死・過労自殺 ブラック企業 ブラック企業とは、低賃金・長時間労働、うつ病、過労死	【復習】小川 慎一 他著 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 P123-P139 【予習】小川 慎一 他著 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 P205-228	
【第 11 回】	大学生の就活問題	【復習】小川 慎一 他著『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』P205-228	

	日本のメリトクラシー 日本の学歴社会	学する 産業・労働社会学』 P123-P139 【予習】最終レポートの課題を配布。課題の資料を読んで不明点などは次の時間に質問してください
【第 12 回】	グローバル化と働くこと① 海外で働くとは	【復習】小川 慎一 他著 「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 閣 P255-P260 【予習】小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業有斐閣テキスト P261-278
【第 13 回】	グローバル化と働くこと② 日本における外国人労働者 日本における外国人労働者：日系人と技能実習生	【復習】 小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 有斐閣 P123-P139 【次回の予習】 小川 慎一 他著 『「働くこと」を社会学する 産業・労働社会学』 有斐閣 P205-228
【第 14 回】	感情労働 感情労働の概念 対人サービス業における感情労働 感情労働—現代社会における労働の変容	【復習】 配布資料の復習 最終レポートの最終提出締切 最終レポートは 15 回目に返却
【第 15 回】	まとめ 最終レポートの返却と講評	コメントを書いた最終レポートを返却します。基準に達していない学生は再提出が必要となります。

1.授業コード (ナンバリング)	SS2207-Y51	2.科目名	コミュニティ論		3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	今日、地域におけるコミュニティの衰退や崩壊がいわれる一方で、コミュニティの重要性がクローズアップされている。地域間の移動が当たり前の現代社会のなかで、地域コミュニティをどのように考えればよいのだろうか。この授業では、社会学のなかでも、とくに都市社会学と地域社会学の議論を参照しつつ、現代社会における地域コミュニティの現実と変容について考える。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の S1.修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力。S2.社会や文化について科学的に理解する力。の学修に関連しています。 ①社会学における地域社会やコミュニティに関する諸議論について説明できる。 ②現代社会において地域社会やコミュニティがどうあるべきかについて、自分なりの考えを持ち、述べることができる。					
19.教科書・教材	教科書はなし。毎回の授業で資料を配布する。					
20.参考文献	平井太郎・松尾浩一郎・山口恵子著『地域・都市の社会学——実感から問いを深める理論と方法』、2022 年、有斐閣ストゥディア 船津衛・浅川達人著『現代コミュニティとは何か——「現代コミュニティの社会学」入門』、2014 年、恒星社厚生閣 森岡清志・北川由紀彦『都市と地域の社会学』2018 年、放送大学 その他、適宜授業内にて紹介する。					
21.成績評価	授業時間内に提示する小課題（20 点）：学習目標①に対応 授業時間内に 2 回実施するレポート課題（40 点×2）：学習目標①②に対応					
22.コメント	地域のなかでの人びとの「つながり」について、肯定的に捉えるか否定的にとらえるかどうかは受講者自身の考えによります。この授業では、それらのことを考える材料を提示するつもりです。					
23.オフィスアワー	個人研究室： 学修支援センター：					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	[講義] イントロダクション			予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。		
【第 2 回】	[講義] 地域と都市はどのように実感されるか			予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。		
【第 3 回】	[講義] 地域・都市はどのように形づくられたか			予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる		

		復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第4回】	[講義] 空間と場所の問い方	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第5回】	[講義] グローバル化とどのように向き合うのか	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第6回】	[講義] ナショナルなものと地域・都市	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第7回】	[講義] ローカル・トラックとは何か	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第8回】	中間まとめ・ミニレポートの作成①（授業時間内）	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第9回】	[講義] 都市の公共空間	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第10回】	[講義] 都市の不平等はどのように進行しているのか	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第11回】	[講義] コミュニティはどこから来てどこへ行くのか	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第12回】	[講義] 「限界集落」の「限界」はどう乗り越えられるか	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第13回】	[講義] 地域への問いと社会学的想像力	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第14回】	[講義] 都市の未来，都市の歴史	予習：授業内容に関連した用語やニュースなどに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理する。
【第15回】	まとめ・ミニレポートの作成②（授業時間内）	予習：授業内容に関連した用語やニュースな

		どに関心を持ち、調べる 復習：授業内にて配付したプリントや資料を 読み直し、整理する。

1.授業コード (ナンバリング)	SS2211-Y51	2.科目名	サブカルチャー論		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本慎太郎					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： この科目では、日常的に触れるコンテンツから学びの契機を見出す視点を身に付けることを目的とします。 概要： 特に日本において制作されてきた商業アニメを中心に、画面を作る表現の技術、画面に盛り込まれたさまざまな情報とその解釈、こうしたコンテンツの提供を可能にするビジネスの変遷や、見るがわの楽しみ方の変遷について概説します。コンテンツを多様な視点から評価・分析することを経験し、コンテンツに現れた人間活動のさまざまな側面にまつわる学びや研究の手がかりを得ることができます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の（3）多様性理解 （4）問題発見・解決力 の学修に関係しています。 学修目標は以下の通りです。 ①日常的に接するコンテンツを、技術やその系譜、受容のされかたなどから多角的に検討できる。 ②コンテンツに接することを契機として、自らの興味・関心に基づいた自発的な学習を実施できる。 ③コンテンツについて述べられた様々な文章や議論を批判的に検討できる。					
19.教科書・教材	使いません。毎回、資料を配付します。					
20.参考文献	参考文献や映像作品については、授業中、適宜紹介します。					
21.成績評価	①毎回、授業から得た理解や着想についての短文を提出。各回講義の理解（学修目標①に対応）・授業に積極的に参加し自発的な思考を行えているか（学修目標②に対応）、理解した内容の表現力（学修目標③に対応）、を評価します。 ー60 点 ②最終評価レポート（感染防御対策のため、以前よりアナウンスしておりました総括試験から変更して、レポートとして実施します）：論述形式で実施し、授業内容の理解（学修目標①に対応）と自発的な学習の達成（学修目標②に対応）、また、それらを整理して書く能力（学修目標③に対応）を評価します。 ー40					
22.コメント	成績評価方法①にある短文、および質問などについて、適宜授業内で返答します。これらの教員からの応答は、適宜に双方向性をもたせ、ディスカッションとしても運用します。また、各種の問い合わせなどにはメールや WebClass でも対応します。					
23.オフィスアワー	授業各回の前後にも随時、質問等を受け付けます。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	アニメの背後に見出せるもの ー近年の日本アニメの潮流			ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass な		

		ど、オンラインツールを介して行う予定)。
【第2回】	作画、戦闘、ミュージカル — 『マクロスF』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第3回】	アニメの「背景」と画面 — 『機動警察パトレイバー』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第4回】	「2次元」の場面表現 — 『ユリ熊嵐』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第5回】	情報量のコントロール — 『新世紀エヴァンゲリオン』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第6回】	戦闘美少女と魔法少女 — 『美少女戦士セーラームーン』『おジャ魔女ドレミ』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第7回】	くりかえしとその終わり — 『魔法少女まどか☆マギカ』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。

		可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 8 回】	『おそ松さん』が描く男子	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 9 回】	迫害と主張の世代 — 『ドリフターズ』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 10 回】	「二次創作」とメディアミックス — 『Fate/Grond Order』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 11 回】	「速さ」の革新 — 『けものフレンズ』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 12 回】	宮崎駿のもたらしたもの	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目に

		するコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 13 回】	「現場」体験と地域 ―『ゾンビランドサガ』	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 14 回】	好きなものを大切に生きていくーコンテンツのこれから	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。
【第 15 回】	まとめ	ノートパソコンを持参すること。 復習：今回の配付資料(WebClass にても閲覧可能)を中心に、必要に応じてコンテンツに触れながら、講義内容をよく検討する 予習：これまでの講義を踏まえ、日ごろ目にするコンテンツについて、興味をひかれる点や疑問点を検討しておく 提出物：授業の中で短文を提出（WebClass など、オンラインツールを介して行う予定）。

1.授業コード (ナンバリング)	SS2212-Y51	2.科目名	市場調査論		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会科学			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	社会調査士 C 科目			11.先修条件	なし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会科学の分野において問題発見をして、論理的思考・判断力に基づいて問題解決に取り組むためには、情報を収集し活用する力が不可欠である。統計学は、事実を読み取ったり、自分の意見を人に伝えるために、データを収集し表やグラフに加工して簡単な統計分析を行うことは、今後の専門的な学習を行っていくために必要不可欠な能力である。 【概要】 この科目では、データ分析の基礎、すなわちデータから社会的知識を得る技法や、データで事実や意見を伝える技法を学ぶ。 なお、授業参加においては各自がノートパソコンを持参しなければならない。パソコンの基本的な操作スキル、つまり文字入力やファイルの保存と呼び出し、インターネットへの接続などを前もってできるようになっておくこと。					
18.学習目標と DPとの関連	情報収集・活用力、問題発見力、論理的思考・判断力の基礎を身につける。 本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	竹田茂生・藤木清 『ゼロからの統計学―使えるシーンが見える―』 くろしお出版					
20.参考文献	授業内に適宜紹介します					
21.成績評価	中間試験 30% 練習課題 30% 期末レポート 40%					
22.コメント	授業初回時に、より詳しいスケジュール等を説明するので、必ず出席してください。					
23.オフィスアワー	毎週木曜日 3 限目：個人研究室 毎週金曜日 3 限目：学修支援室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	イントロダクション			授業で学んだ内容を復習する		
第 2 回	変数の尺度			授業で学んだ内容を復習する		
第 3 回	質的変数の集計			授業で学んだ内容を復習する		
第 4 回	量的変数の集計：代表値			授業で学んだ内容を復習する		
第 5 回	量的変数の集計：ばらつき具合			授業で学んだ内容を復習する		
第 6 回	グラフの使い方			授業で学んだ内容を復習する		
第 7 回	中間テスト			授業で学んだ内容を復習する		

第 8 回	実証主義と構築主義	授業で学んだ内容を復習する
第 9 回	相関関係と因果関係	授業で学んだ内容を復習する
第 10 回	仮説の立案ワーク	授業で学んだ内容を復習する
第 11 回	クロス集計表の分析	授業で学んだ内容を復習する
第 12 回	散布図と相関係数	授業で学んだ内容を復習する
第 13 回	期末ワーク(1)	期末レポートの作成作業
第 14 回	期末ワーク(2)	期末レポートの作成作業
第 15 回	期末ワーク(3)	期末レポートの作成作業

1.授業コード (ナンバリング)	SS2213-Y51	2.科目名	フィールドワーク		3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この授業では、社会調査で用いられる様々な質的データの収集と分析の方法を学ぶ。まず、社会学の分野における研究例を紹介しつつ各方法の特徴を概観する。また、一部の方法については実際に質的データの収集と分析を試みることで、質的調査の実践的なスキルの基礎を習得することを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	①社会調査における質的調査の特徴とその意義を理解することができる。 ②インタビュー調査の実査をとおして、インタビューデータをまとめ資料化することができる。 ③フィールドワーク（観察法、新聞記事検索）によるデータの収集と分析ができる。					
19.教科書・教材	テキストおよび資料を配布する。					
20.参考文献	工藤保則・寺岡伸悟・宮垣元編 『〔第3版〕質的調査の方法：都市・文化・メディアの感じ方』 法律文化社、2022 年 その他、適宜紹介します。					
21.成績評価	①観察法に関する小課題…10 点 [学習目標①③に対応] 「路上観察」にかんするミニ課題を出します（第2回） ②新聞記事分析の発表…45 点 [学習目標①③に対応] 読売新聞データベース（ヨミダス）をつかって、平成の日本社会にかんする記事を集め、まとめてもらいます。 ③インタビュー調査のレポート…45 点 [学習目標①②に対応] 社会学科学生にインタビューを実施し、インタビュー記録を文字に起こし、レポートとしてまとめてもらいます。					
22.コメント	グループワークや意見交換などをよくおこなう授業です。 また、授業時間外におこなう作業が多い授業なので、そのつもりで受講してください。					
23.オフィスアワー	個人研究室：金曜昼休み 学修支援センター：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第1回】	授業の進め方、評価等についての説明			復習：授業内容をノートなどにまとめる		
【第2回】	質的調査とは何か 量的調査と質的調査、質的調査の意義とは何か			準備学習：授業内にて提示したテキストを読むこと 復習：授業内容をノートなどにまとめる		
【第3回】	観察法：路上観察			準備学習：授業内にて提示したテキストを読むこと 宿題：小課題をすること		
【第4回】	新聞記事分析①課題の提示			準備学習：授業内にて提示したテキストを読むこと 復習：授業内容をノートなどにまとめる		

【第 5 回】	新聞記事分析②テーマを決める	準備学習：調べたいテーマを考えておくこと 宿題：企画書をまとめる
【第 6 回】	新聞記事分析③新聞記事を検索する	授業時間外に新聞記事検索を実施する
【第 7 回】	新聞記事分析④検索結果の整理、まとめ	新聞記事検索結果のデータベースを完成させる
【第 8 回】	新聞記事分析⑤レポートの発表	発表の準備をする
【第 9 回】	インタビュー法①：課題の提示	準備学習：インタビューの対象者と目的を考えておくこと 宿題：インタビューの対象者へのアポイントメントをおこなう
【第 10 回】	インタビュー法②：調査対象の選定	準備学習：インタビューの対象者と目的を考えておくこと 宿題：インタビューの対象者へのアポイントメントをおこなう
【第 11 回】	インタビュー法③：質問項目の作成	準備学習：インタビューのテーマについての先行研究などを調べておく 宿題：質問項目リストを完成させる
【第 12 回】	インタビュー法④：インタビューの実施	授業時間外にインタビュー調査を実施し、データを収集しておくこと。
【第 13 回】	インタビュー法⑤：インタビューデータの整理、文字起こし	準備学習：インタビュー記録の整理（文字起こしなど）をおこなっておくこと 宿題：授業内に提示した方法を参考に、インタビュー記録をレポートとしてまとめる。
【第 14 回】	インタビュー法⑥：インタビューレポートの作成	宿題：授業内に提示された小課題を完成させる
【第 15 回】	まとめ	準備学習：これまでに提出した課題（レポート）をもう一度よく読み、ふりかえる 復習：授業内容をノートなどにまとめる

1.授業コード (ナンバリング)	SS2214-Y51	2.科目名	社会調査法（１）		3.単位数	2
4.授業担当教員	永井純一					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件	社会調査士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	社会調査に関する基礎的な知識と、調査結果の読解能力の習得を目指す。講義の前半では調査の種類とそれぞれの特性、情報の取扱いについての注意事項などを理解することにあてる。後半では官庁統計やマーケティングデータなどさまざまな統計資料に触れ、高度な読解能力を身につける。最終的にはレポートとして調査の設計をすることによって、学んだスキルの定着をはかり、高度なリサーチ・リテラシーの習得を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（S1）修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、（S2）社会や文化について科学的に理解する力の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①社会調査に必要なスキルを身につけ、調査を行うことができる。 ②調査結果をまとめ、プレゼンテーションする能力を身につける。					
19.教科書・教材	伊達平和・高田聖治『社会調査法』学術図書出版社、2020					
20.参考文献						
21.成績評価	小レポート 50％ 期末レポート 50％ 量的調査の調査票及び質問文を作ることができる…30 点　〔学習目標①に対応〕 質的調査の技術やテクニックを身につけることができる…20 点　〔学習目標①に対応〕 データを適切に加工することができる。20 点　〔学習目標①に対応〕 ワードやエクセルを使って適切な資料を作成できる…30 点　〔学習目標②に対応〕					
22.コメント	適宜質問を受け付けるので、積極的に発言するように。					
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 3 限、学修支援センター：木曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	〔講義〕 導入			準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）		
【第 2 回】	〔講義〕 社会調査とは			準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）		
【第 3 回】	〔講義〕 社会調査の歴史			準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）		
【第 4 回】	〔講義〕 質的調査と量的調査			準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）		
【第 5 回】	〔講義〕 調査の倫理			準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）		

【第 6 回】	[講義] 報告書の読み方(1)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 7 回】	[講義] 報告書の読み方(2)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 8 回】	[講義] 文献・情報検索	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 9 回】	[講義] データの問題点を探る(1)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 10 回】	[講義] データの問題点を探る(2)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 11 回】	[講義] データの問題点を探る(3)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 12 回】	[講義] 国勢調査を読む	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 13 回】	[講義] 官庁統計を読む(1)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 14 回】	[講義] 官庁統計を読む(2)	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）
【第 15 回】	まとめ	準備学習：テキストの該当箇所を読む（60 分） 復習：与えられた課題をする（60 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SS2217-Y51	2.科目名	社会調査実習（２）		3.単位数	1
4.授業担当教員	永井純一、八木寛之					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件	社会調査士		11.先修条件	社会調査実習（１）を同時に履修すること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	PC 演習室の収容人数及び良好な活動環境を確保するため、履修者数を最大 10 名とする。					
17.授業の目的と概要	調査の設計から実査、分析までを手がけることによって、他の科目で習得した知識の定着をはかり、社会調査に必要なスキルを身につける。質的調査と量的調査を組み合わせることによって、それぞれの特徴を学び、ひとつのテーマに対して多角的なアプローチをおこなう。調査票を用いた調査が軸だが、その前後に観察調査、聞き取り調査を配置し、それぞれのデータを補完する形で報告書をまとめる。また、報告書の作成以外にも、口頭発表の場を設けるなどして高いプレゼンテーション能力の習得も目指す。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP の（S1）修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力、（S2）社会や文化について科学的に理解する力の学修に関連している。 本科目の学習目標は次のとおり。 ①社会調査に必要なスキルを身につけ、調査を行うことができる。 ②調査結果をまとめ、プレゼンテーションする能力を身につける。					
19.教科書・教材	テキストと資料を配布する					
20.参考文献	適宜紹介する。					
21.成績評価	期末レポート 量的調査の調査票及び質問文を作ることができる…30 点 [学習目標①に対応] 質的調査の技術やテクニックを身につけることができる…20 点 [学習目標①に対応] データを適切に加工することができる。20 点 [学習目標①に対応] ワードやエクセルを使って適切な資料を作成できる…20 点 [学習目標②に対応] SPSS の基本的な操作ができる…10 点 [学習目標②に対応]					
22.コメント						
23.オフィスアワー	個人研究室： 学修支援センター：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	[活動] データ処理・クリーニング（１）			準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと		
【第 2 回】	[活動] データ処理・クリーニング（２）			準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと		
【第 3 回】	[活動] 調査票分析・基礎集計（１）			準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと		
【第 4 回】	[活動] 調査票分析・基礎集計（１）			準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと		
【第 5 回】	[活動] 調査票分析・クロス集計（１）			準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと		
【第 6 回】	[活動] 調査票分析・クロス集計（２）			準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと		
【第 7 回】	[活動] 調査票分析・相関係数（１）			準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと		

【第 8 回】	[活動] 調査票分析・相関係数（2）	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 9 回】	[活動] 調査票分析まとめ	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 10 回】	[活動] インタビュー調査・企画（1）	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 11 回】	[活動] インタビュー調査・実習（1）	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 12 回】	[活動] インタビュー調査・実習（2）	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 13 回】	[活動] 報告書の書き方・作成	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 14 回】	[活動] 発表	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと
【第 15 回】	[活動] まとめ	準備学習：テキストを読むこと 復習：授業内で出された課題に取り組むこと

1.授業コード (ナンバリング)	SS2303-Y51	2.科目名	メディア・文化演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本久					
5.授業科目の区分	演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	★各自毎回ノートパソコンが必要です。デザイン制作のためのフリーソフトなどもインストールしてもらう必要があります。					
17.授業の目的と概要	【目的】本講義の目的は様々なプロダクトのデザインの調査および制作を通じて、リサーチ力とデザインアイデアの能力を高めることである。 【概要】様々な形で存在するプロダクト（製品）のデザインやコンセプトについての調査研究。またロゴやカラー、機能デザインなど、与えられたテーマに従って実際にデザイン制作を行うなどし、リサーチ力およびデザインアイデア能力の向上を目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能の活用力 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①様々なプロダクトのデザインを調査し、まとめることができる。 ②デザイン制作の各種基本を身につける。 ③デザイン企画・制作とともに、適切なプレゼンテーション向けコンテンツの制作ができる。					
19.教科書・教材	授業内で資料の配布や Web ページ等の紹介をします					
20.参考文献	授業内で適宜紹介します					
21.成績評価	調査レポート等 20% 各デザイン演習での課題 60% 最終課題・成果物 20% 各課題は内容とともに取り組み姿勢も併せ評価します					
22.コメント	授業外での作業が多いので、積極的に取り組むようにしてください 授業の進行状況により、多少の変更や順番の入れ替えなど行うこともあります					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：木曜日・昼休み センタオフィスアワー：水曜日・昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1	はじめに 授業ガイダンス			授業内容の復習		
2	様々なプロダクト・デザイン <調査①>			授業内容の復習・調査		
3	様々なプロダクト・デザイン <調査②>			授業内容の復習・調査		
4	調査レポート課題 【課題 1】			授業内容の復習・課題の制作		
5	様々なプロダクト・デザイン <ロゴデザイン①>			デザイン制作の復習・練習		
6	様々なプロダクト・デザイン <ロゴデザイン②>			デザイン制作の復習・練習		
7	デザイン制作課題<ロゴデザイン> 【課題 2】			授業内容の復習・課題の制作		
8	様々なプロダクト・デザイン <カラーデザイン①>			デザイン制作の復習・練習		
9	様々なプロダクト・デザイン <カラーデザイン②>			デザイン制作の復習・練習		
10	デザイン制作課題<カラーデザイン> 【課題 3】			授業内容の復習・課題の制作		
11	様々なプロダクト・デザイン <形のデザイン①>			デザイン制作の復習・練習		
12	様々なプロダクト・デザイン <形のデザイン②>			デザイン制作の復習・練習		
13	デザイン制作課題<形のデザイン> 【課題 4】			授業内容の復習・課題の制作		

14	【最終課題】機能とデザイン課題 【課題5】	デザインの企画考案・課題制作
15	最終課題提出、総括および振り返りシート提出	振り返りシートを提出する

1.授業コード (ナンバリング)	STA102-M51	2.科目名	保健統計学		3.単位数	2
4.授業担当教員	藤木清					
5.授業科目の区分	専門基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 統計学は、データを利用して事実を把握したり、推測したりする方法を体系的に学ぶ学問であり、様々な分野で活用されている。本授業では、特に保健に関連するデータを取り扱い、統計学の基本的な概念を理解するとともに、統計的なものの見方、データの整理の仕方、基礎的な分析手法を身につけることを目的とする。 【概要】 この授業では、はじめに記述的統計分析の基本について整理した後、推測統計的分析手法について学んでいく。確率、確率分布、確率変数など数学的な基礎を学習し、大数の法則や中心極限定理などの推測統計的分析手法の理論的背景をふまえて、推定問題と統計的仮説検定の考え方と方法について学ぶ。さらに、母平均の差の検定など、実際に多く利用されている手法を Excel を用いながら修得する。					
18.学習目標と DP との関連	この科目は KUIS 学修ベンチマークの(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキルに関連します。 ①統計学の基礎理論を理解し、説明できる。 ②推定および検定手法の理論的背景を理解し、適用できる。 ③目的に見合った手法を選択でき、利用できる。					
19.教科書・教材	牧本清子 他著 『疫学・保健統計学 第3版（標準保健師講座）』 医学書院 2015 年 その他、プリントを配布する。					
20.参考文献	豊田修一・星山佳治・宮崎有紀子『看護師・保健師をめざす人のやさしい統計処理』実教出版 2020 年 高木晴良『統計学 第7版（系統看護学講座 基礎分野）』医学書院 2016 年					
21.成績評価	ほぼ毎回のワークシート+Excel 作業ファイル提出 30%（学習目標①②） 中間課題 20%（学習目標①） 総括試験 50%（学習目標①②③） ※この科目の単位を修得する目安として、ワークシートの 6 割以上の提出、Excel 作業実施後のファイルの提出、中間課題及び総括試験での 6 割以上の成績獲得が必要です。					
22.コメント	※すべての授業でノート PC を使用するので、必ず、充電のうえ持参すること。 ※復習の仕方の一例として、毎回の授業で資料として提示されたものを自分で咀嚼（そしゃく）し、ポイントになることを A4 用紙 1 枚程度にまとめましょう。資料で分からないことは、教科書や参考書も参照しましょう。 →総括試験での資料として役立ちます。					
23.オフィスアワー	学修支援センターオフィスアワー					

三木キャンパスみさお館 2 階学習支援室：火昼休み 神戸山手キャンパス 1 号館 2 階ラーニングコモンズ：水昼休み ※それ以外の時間帯で質問をしたいときは電子メールで問い合わせてください。		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション・表とグラフの表現 統計学のできることを知る 表・グラフの基本と書き方の留意点を知る 変数と尺度の種類を知る <テキスト：1-前文～1-a>	○ワーク：4 つの尺度に注意して、健康に関するアンケートの質問項目を考えよう。 予習・復習（4 時間）
第 2 回	量的データの集計（1） データの中心を表す代表値を学ぶ データのばらつきの程度を表す散布度を学ぶ データの標準化の概念を学ぶ <テキスト：1-b、1-d>	★前時のワークシート提出 ○ワーク：量的データを代表値、散布度の観点から考察しよう。 予習・復習（4 時間）
第 3 回	量的データの集計（2） 量的データを度数分布表やヒストグラムにまとめる <テキスト：1-c>	★前時のワークシート提出 ○ワーク：量的データをヒストグラムにまとめて考察しよう。 予習・復習（4 時間）
第 4 回	確率、確率変数と確率分布 確率、確率変数、確率分布の基礎的な概念を学ぶ 連続型の確率分布の概念を学ぶ	★前時のワークシート提出 ○復習（4 時間）
第 5 回	正規分布の活用（1） 正規分布の概念を学ぶ 確率変数の標準化の概念を学ぶ 正規分布に従う確率変数の確率の求め方を知る	○正規分布に従う確率変数を想定して、確率を求めよう。 予習・復習（4 時間）
第 6 回	正規分布の活用（2） 確率からパーセント点の求め方を知る	★前時のワークシート提出 ○正規分布に従う確率変数を想定して、パーセント点を求めよう。 予習・復習（4 時間）
第 7 回	母集団と標本、標本分布 母集団と標本の違いを理解する 標本平均の性質を理解する <テキスト：2-前文～2-a>	★前時のワークシート提出 ○中間課題：これまでの学習内容の確認 予習・復習（4 時間）
第 8 回	統計的推測の基礎と推定問題 中心極限定理の性質を知る t 分布の性質と t 分布表の読み方を知る 点推定と区間推定 <テキスト：2-b>	★中間課題提出 ○予習・復習（4 時間）
第 9 回	統計的仮説検定の方法 母平均の検定方法を知る 2 種類の過誤を理解する	○予習・復習（4 時間）

	<テキスト：3 前文>	
第 10 回	母平均の差の検定（1） <Excel> 母平均の差の検定（対応あり）の概要と方法を知る <テキスト：3c>	○母平均の差の検定（対応あり）を実施して 考察しよう。 予習・復習（5 時間）
第 11 回	母平均の差の検定（2） <Excel> 母平均の差の検定（対応なし）の概要と方法を知る <テキスト：3c>	○母平均の差の検定（対応なし）を実施して 考察しよう。 予習・復習（5 時間）
第 12 回	相関分析（1） <Excel> 2 変数の関係を図で確認する－散布図－ <テキスト：4 前文-4-a>	○相関分析を実施して考察しよう。 予習・復習（5 時間）
第 13 回	相関分析（2） <Excel> 2 変数の関係を統計量で確認する－相関係数－ <テキスト：4 前文-4-a>	○相関分析を実施して考察しよう ○復習（5 時間）
第 14 回	ふりかえり	★作業ファイルの提出
第 15 回	総括試験による総括 （※感染症の状況によってはレポートに変更する場合 あり）	

1.授業コード (ナンバリング)	STA104-Y51	2.科目名	基礎統計学 【社会学科】		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	社会調査士 C 科目		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	【目的】 社会科学の分野において問題発見をして、論理的思考・判断力に基づいて問題解決に取り組むためには、情報を収集し活用する力が不可欠である。統計学は、事実を読み取ったり、自分の意見を人に伝えるために、データを収集し表やグラフに加工して簡単な統計分析を行うことは、今後の専門的な学習を行っていくために必要不可欠な能力である。 【概要】 この科目では、データ分析の基礎、すなわちデータから社会的知識を得る技法や、データで事実や意見を伝える技法を学ぶ。 なお、授業参加においては各自がノートパソコンを持参しなければならない。パソコンの基本的な操作スキル、つまり文字入力やファイルの保存と呼び出し、インターネットへの接続などを前もってできるようになっておくこと。					
18.学習目標と DPとの関連	情報収集・活用力、問題発見力、論理的思考・判断力の基礎を身につける。 本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力（5）コミュニケーションスキル（6）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	竹田茂生・藤木清 『ゼロからの統計学―使えるシーンが見える―』 くろしお出版					
20.参考文献	授業内に適宜紹介します					
21.成績評価	中間試験 30% 練習課題 30% 期末レポート 40%					
22.コメント	授業初回時に、より詳しいスケジュール等を説明するので、必ず出席してください。					
23.オフィスアワー	毎週木曜日 3 限目：個人研究室 毎週金曜日 3 限目：学修支援室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	イントロダクション			授業で学んだ内容を復習する		
第 2 回	変数の尺度			授業で学んだ内容を復習する		
第 3 回	質的変数の集計			授業で学んだ内容を復習する		
第 4 回	量的変数の集計：代表値			授業で学んだ内容を復習する		
第 5 回	量的変数の集計：ばらつき具合			授業で学んだ内容を復習する		
第 6 回	グラフの使い方			授業で学んだ内容を復習する		
第 7 回	中間テスト			授業で学んだ内容を復習する		

第 8 回	実証主義と構築主義	授業で学んだ内容を復習する
第 9 回	相関関係と因果関係	授業で学んだ内容を復習する
第 10 回	仮説の立案ワーク	授業で学んだ内容を復習する
第 11 回	クロス集計表の分析	授業で学んだ内容を復習する
第 12 回	散布図と相関係数	授業で学んだ内容を復習する
第 13 回	期末ワーク(1)	期末レポートの作成作業
第 14 回	期末ワーク(2)	期末レポートの作成作業
第 15 回	期末ワーク(3)	期末レポートの作成作業

1.授業コード (ナンバリング)	STA105-Y51	2.科目名	心理学統計法 (1/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件	統計学Ⅰが履修済みであること。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	人の心理や行動を数量的に把握し、そのデータを統計分析して、目的とする意味ある情報を得るため、①心理学で用いられる統計手法、②統計に関する基礎的な知識を学習する。 具体的には、基礎集計から二変量解析を、カイ二乗検定、平均値の差の検定、相関分析と HAD もしくは SPSS の活用法を学ぶ。 心理統計、HAD もしくは SPSS での解析を学ぶことをとおして、人の心を客観的に把握する方法について学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	与えられた課題に対し、特定の科学的データを分析し、考察できるようになる。 具体的には、 ① 各種分析方法を理解し、HAD、SPSS 等統計ソフトを活用してデータ解析を行えるようになる。 ② 分析結果をエクセル、ワードなどを駆使して表現できるようになる。 ③ ①②をもとに結果を解釈することができるようになる。					
19.教科書・教材	適宜資料を提示する。					
20.参考文献	小宮あすか「Excel で今すぐはじめる心理統計 簡単ツール HAD で基本を身につける」講談社 小塩真司「SPSS と Amos による心理・調査データ解析---因子分析・共分散構造分析まで」東京図書					
21.成績評価	各回の課題レポート×8 つ：50% 学習目標①②に対応 復習課題レポート：10% 学習目標③に対応 最終課題レポート：40% 学習目標③に対応					
22.コメント	※当面はオンライン授業を行います。 ※その間は、各回で webclass に Zoom 授業の招待 URL とレジュメなどを用意します。 ※授業は時間割通りの時間で実施されます。 ----- ※毎回ノート PC を用いて作業を行います。 必ず SPSS をインストールした PC を持参すること。 欠席をすると次の授業についていけなくなります。 もしも欠席してしまった場合には					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 授業内容（授業計画） 評価方法などについて説明する。 統計学Ⅰの振り返りをする。 ※SPSS のインストールを実施する：ノート PC を持参			○復習：第一回目に学んだ内容を復習する (120 分)		

第 2 回	単純集計について解析する。 SPSSによって、単純集計を行う。	○復習：単純集計の結果を考察し、文章化する。(120 分)
第 3 回	χ^2 乗検定とは何か クロス集計の方法、 χ^2 乗検定について理解し、「統計的に有意」ということを学習する。	○「統計的に有意」とはなにか、クロス集計の分析方法を復習する。(120 分)
第 4 回	クロス集計（続）、出力結果の読み方、記述の仕方、値の再割り当てなどを学習する。	クロス集計の結果の見方を確認し、文章化する。(120 分)
第 5 回	「t 検定」とは何か解説する。 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ。 独立したサンプルの t 検定を習得する①	○独立したサンプルの平均値の差の検定を復習する。(120 分)
第 6 回	独立したサンプルの t 検定を習得する② 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ	○独立したサンプルの平均値の差の検定を復習する。(120 分)
第 7 回	対応のあるサンプルの t 検定について学習する。 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ。	○対応のあるサンプルの平均値の差の検定を復習する。(120 分)
第 8 回	相関分析① 相関分析の分析方法を習得する	○相関分析の方法について、復習する。(120 分)
第 9 回	相関分析② 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ。	○相関分析の方法について、復習する。(120 分)
第 10 回	相関分析③ 出力結果の読み取り、結果の記述、解釈の仕方を学ぶ。	○相関分析の方法について、復習する。(120 分)
第 11 回	まとめと補足と復習 クロス集計、平均値の差の検定、相関分析の使い分けができるようにする。	○今までに学習した 3 つの分析方法が使い分けられるようにその特徴を再確認する。(120 分)
第 12 回	最終課題① 分析データを配布し、レポート課題について説明する。	○最終課題分析データについて、分析の視点を明確にする。(180 分)
第 13 回	最終課題② SPSS, エクセル、ワードを駆使してレポート課題に取り組む。	○分析結果をレポートにまとめる。(180 分)
第 14 回	最終課題③ SPSS, エクセル、ワードを駆使してレポート課題に取り組む。	○分析結果をレポートにまとめる。(180 分)
第 15 回	最終課題④ 最終課題を提出する。振り返り授業アンケートを実施する。	○最終課題を提出できるように仕上げる(180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	STA105-Y52	2.科目名	心理学統計法 (2/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	沼田真美					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件	統計学Ⅰが履修済みであること。 基本的な PC 操作、エクセルでの表作成など ができることを前提に進めます。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	※初回授業までに履修登録を済ませておいてください。					
17.授業の目的と概要	人の心理や行動を数量的に把握し、そのデータを統計分析して、目的とする意味ある情報を得るため、①心理学で用いられる統計手法、②統計に関する基礎的な知識を学習する。 具体的には、基礎集計から二変量解析を、カイ二乗検定、平均値の差の検定、相関分析と SPSS の活用法を学ぶ。 心理統計、SPSS での解析を学ぶことをとおして、人の心を客観的に把握する方法について学ぶ。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP (ディプロマ・ポリシー) の (4) 問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 与えられた課題に対し、特定の科学的データを分析し、考察できるようになる。 具体的には、 ① 各種分析方法を理解し、SPSS 等統計ソフトを活用してデータ解析を行えるようになる。 ② 分析結果をエクセル、ワードなどを駆使して表現できるようになる。 ③ ①②をもとに結果を解釈することができるようになる。					
19.教科書・教材	適宜資料を提示する。					
20.参考文献	小塩真司「SPSS と Amos による心理・調査データ解析---因子分析・共分散構造分析まで」東京図書					
21.成績評価	各回の課題レポート×8 つ：50% 学習目標①②に対応 復習課題レポート：10% 学習目標③に対応 最終課題レポート：40% 学習目標③に対応					
22.コメント	※毎回ノート PC を用いて作業を行います。 必ず SPSS をインストールした PC を持参すること。 欠席をすると次の授業についていけなくなります。 もしも欠席してしまった場合には、必ず次回までに欠席した回の補習をおこなってください。 課題もほぼ毎回出ます。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：初回にお伝えします					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション 授業内容 (授業計画) 評価方法などについて説明する。 統計学Ⅰの振り返りをする。 ※SPSS のインストールを実施する：ノート PC を持参			○復習：第一回目に学んだ内容を復習する (120 分)		
第 2 回	単純集計について解析する。 SPSS によって、単純集計を行う。			○復習：単純集計の結果を考察し、文章化する。 (120 分)		
第 3 回	χ ² 乗検定とは何か クロス集計の方法、χ ² 乗検定について理解し、「統計的に有意」ということを学習す			○「統計的に有意」とはなにか、クロス集計の分析方法を復習する。(120 分)		

	る。	
第 4 回	クロス集計（続）、出力結果の読み方、記述の仕方、値の再割り当てなどを学習する。	クロス集計の結果の見方を確認し、文章化する。(120 分)
第 5 回	「t 検定」とは何か解説する。 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ。 独立したサンプルの t 検定を習得する①	○独立したサンプルの平均値の差の検定を復習する。(120 分)
第 6 回	独立したサンプルの t 検定を習得する② 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ	○独立したサンプルの平均値の差の検定を復習する。(120 分)
第 7 回	対応のあるサンプルの t 検定について学習する。 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ。	○対応のあるサンプルの平均値の差の検定を復習する。(120 分)
第 8 回	相関分析① 相関分析の分析方法を習得する	○相関分析の方法について、復習する。(120 分)
第 9 回	相関分析② 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ。	○相関分析の方法について、復習する。(120 分)
第 10 回	相関分析③ 出力結果の読み取り、結果の記述、解釈の仕方を学ぶ。	○相関分析の方法について、復習する。(120 分)
第 11 回	まとめと補足と復習 クロス集計、平均値の差の検定、相関分析の使い分けができるようにする。	○今までに学習した 3 つの分析方法が使い分けられるようにその特徴を再確認する。(120 分)
第 12 回	最終課題① 分析データを配布し、レポート課題について説明する。	○最終課題分析データについて、分析の視点を明確にする。(180 分)
第 13 回	最終課題② S P S S, エクセル、ワードを駆使してレポート課題に取り組む。	○分析結果をレポートにまとめる。(180 分)
第 14 回	最終課題③ S P S S, エクセル、ワードを駆使してレポート課題に取り組む。	○分析結果をレポートにまとめる。(180 分)
第 15 回	最終課題④ 最終課題を提出する。振り返り授業アンケートを実施する。	○最終課題を提出できるように仕上げる(180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	STA105-Y53	2.科目名	心理学統計法 (3/3)		3.単位数	2
4.授業担当教員	板山 昂					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件	統計学Ⅰが履修済みであること。 基本的な PC 操作、エクセルでの表作成など ができることを前提に進めます。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	※初回授業までに履修登録を済ませておいてください。					
17.授業の目的と概要	人の心理や行動を数量的に把握し、そのデータを統計分析して、目的とする意味ある情報を得るため、①心理学で用いられる統計手法、②統計に関する基礎的な知識を学習する。 具体的には、基礎集計から二変量解析を、カイ二乗検定、平均値の差の検定、相関分析と SPSS の活用法を学ぶ。 心理統計、SPSS での解析を学ぶことをとおして、人の心を客観的に把握する方法について学ぶ。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 与えられた課題に対し、特定の科学的データを分析し、考察できるようになる。 具体的には、 ① 各種分析方法を理解し、SPSS 等統計ソフトを活用してデータ解析を行えるようになる。 ② 分析結果をエクセル、ワードなどを駆使して表現できるようになる。 ③ ①②をもとに結果を解釈することができるようになる。					
19.教科書・教材	適宜資料を提示する。					
20.参考文献	小塩真司「SPSS と Amos による心理・調査データ解析---因子分析・共分散構造分析まで」東京図書					
21.成績評価	各回の課題レポート×8 つ：50% 学習目標①②に対応 復習課題レポート：10% 学習目標③に対応 最終課題レポート：40% 学習目標③に対応					
22.コメント	※毎回ノート PC を用いて作業を行います。 必ず SPSS をインストールした PC を持参すること。 欠席をすると次の授業についていけなくなります。 もしも欠席してしまった場合には、必ず次回までに欠席した回の補習をおこなってください。 課題もほぼ毎回出ます。					
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：水曜昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
○第 1 回	オリエンテーション 授業内容（授業計画） 評価方法などについて説明する。 統計学Ⅰの振り返りをする。 ※SPSS のインストールを実施する：ノート PC を持参			○復習：第一回目に学んだ内容を復習する （120 分）		
○第 2 回	単純集計について解析する。 SPSS によって、単純集計を行う。			○復習：単純集計の結果を考察し、文章化する。 （120 分）		
○第 3 回	χ ² 乗検定とは何か クロス集計の方法、χ ² 乗検定に			○「統計的に有意」とはなにか、クロス集計		

	ついて理解し、「統計的に有意」ということを学習する。	の分析方法を復習する。(120 分)
○第 4 回	クロス集計 (続)、出力結果の読み方、記述の仕方、値の再割り当てなどを学習する。	クロス集計の結果の見方を確認し、文章化する。(120 分)
○第 5 回	「t 検定」とは何か解説する。 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ。 独立したサンプルの t 検定を習得する①	○独立したサンプルの平均値の差の検定を復習する。(120 分)
○第 6 回	独立したサンプルの t 検定を習得する② 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ	○独立したサンプルの平均値の差の検定を復習する。(120 分)
○第 7 回	対応のあるサンプルの t 検定について学習する。 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ。	○対応のあるサンプルの平均値の差の検定を復習する。(120 分)
○第 8 回	相関分析① 相関分析の分析方法を習得する	○相関分析の方法について、復習する。(120 分)
○第 9 回	相関分析② 分析方法、出力結果の読み取り、結果の記述の仕方を学ぶ。	○相関分析の方法について、復習する。(120 分)
○第 10 回	相関分析③ 出力結果の読み取り、結果の記述、解釈の仕方を学ぶ。	○相関分析の方法について、復習する。(120 分)
○第 11 回	まとめと補足と復習 クロス集計、平均値の差の検定、相関分析の使い分けができるようにする。	○今までに学習した 3 つの分析方法が使い分けられるようにその特徴を再確認する。(120 分)
○第 12 回	最終課題① 分析データを配布し、レポート課題について説明する。	○最終課題分析データについて、分析の視点を明確にする。(180 分)
○第 13 回	最終課題② S P S S, エクセル、ワードを駆使してレポート課題に取り組む。	○分析結果をレポートにまとめる。(180 分)
○第 14 回	最終課題③ S P S S, エクセル、ワードを駆使してレポート課題に取り組む。	○分析結果をレポートにまとめる。(180 分)
○第 15 回	最終課題④ 最終課題を提出する。振り返り授業アンケートを実施する。	○最終課題を提出できるように仕上げる(180 分)

1.授業コード (ナンバリング)	STM101-A51	2.科目名	データサイエンス		3.単位数	2
4.授業担当教員	大西洋史					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育学部			9.履修学年	1 年秋	
10.取得資格の要件	DS 教育プログラムの必修科目 学科必修科目		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 近年、IoT・AI・機械学習などの新しい情報技術の発達により，データ駆動を特徴とするデジタル時代が到来し，経済、社会、および日常生活のより多くの側面がデータに依存するようになっていいる。そのため、データサイエンスは、科学と産業に同様に革命を起こす分野として浮上しており、今後のビッグデータ社会において，職業人にとって欠かせない基礎的素養となる。この科目はデータ思考の涵養（かんよう）として，社会におけるデータ・AI 利活用，データリテラシー、データ・AI 利活用における留意事項などを学習する。 概要： カリキュラムの内容構成として、大きく「導入」「基礎」「心得」に分類し順に進めていく。 「導入部」では，社会でおきている変化，社会で活用されているデータ、データ・AI 利活用のための技術，データサイエンスの役割，データ・AI 利活用の最新動向などについて学ぶ。 「基礎部」では，データリテラシーとして，データを読む，データを説明する，データを扱うなど，データサイエンスの基本手法などについて学習する。オープンデータなどを使用し，コンピュータを用いた演習を含む。 「心得部」では，データ・AI を扱う上での留意事項として、ELSI、一般データ保護規則 GDPR、AI 倫理や脅威、データ・AI 利活用における事例を紹介する。また，データを守る上での留意事項として，データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシーなどについて学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	1. データ・AI によって起きている、社会および日常生活の中の変化について説明できる。 2. データ・AI 活用領域の広がりに関連づけて、データサイエンスの役割を説明できる。 3. データ・AI 利活用の現場、および利活用のための技術、最新動向について説明できる。 4. 「データを読む、説明する、扱う」に関する基本的な概念と方法について理解している。 5. データ・AI を扱う上での留意事項とデータを守る上での留意事項について説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：『教養としてのデータサイエンス』（北川源四郎／竹村彰通・編 内田誠一／川崎能典／孝忠大輔／佐久間淳／椎名洋／中川裕志／樋口知之 /丸山宏・著，講談社サイエンティフィク） 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。					
20.参考文献	参考書：『データサイエンス入門 第2版』（竹村彰通・姫野哲人・高田聖治 編，学術図書出版社）					
21.成績評価	小テスト：10 回 X4＝40 点 【学習?標①～⑤に対応】 課 題： 10 回 X5＝50 点 【学習?標①～⑤に対応】 アピールシート：1 回 X10＝10 点 【学習?標①～⑤に対応】					
22.コメント	講義では、ノート PC を利?しますので，授業に使える PC を持参してください。					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー：月曜日 4 限					

研究室オフィスアワー：火曜日昼休み		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第1回 インTRODクシヨン ・科?の概要と?的、到達?標、全体の流れなどの説明 ・WebClassの小テスト機能の利用方法について説明 ・事前アンケート	
	第2回 社会でおきている変化(1) 1.1.1 ビッグデータ 1.1.2 検索エンジンとSNS	配付資料 小テスト① 課題①
	第3回 1.1 社会でおきている変化(2) 1.1.3 第4次産業革命 1.1.4 AIの驚異的発達 1.1.5 人間の知的活動とAI	配付資料 小テスト② 課題②
	第4回 社会で活用されているデータ 1.2.1 データの種類 1.2.2 データの所有者 1.2.3 構造化データと非構造化データ 1.2.4 自動翻訳	配付資料 小テスト③ 課題③
	第5回 データとAIの活用領域 1.3.1 事業活動におけるデータ・AI活用の広がり 1.3.2 活用目的ごとのデータ・AI活用の広がり	配付資料 小テスト④ 課題④
	1.4 データ・AI利活用のための技術(1) 1.4.1 誰もが無意識にデータを解析して生きている 1.4.2 さまざまなデータ解析 ー予測 1.4.3 さまざまなデータ解析 ーグルーピングとクラス タリング 1.4.4 さまざまなデータ解析 ー発見 1.4.5 データ解析の関連話題	配付資料 小テスト⑤ 課題⑤
	1.4 データ・AI利活用のための技術(2) 1.4.6 非構造化データ処理 1.4.7 データ可視化 1.4.8 パターン認識技術 1.4.9 人工知能	配付資料 小テスト⑥ KPTシート① Q&A：掲示板：相互レビュー
	1.5 データ・AI活用の現場 1.5.1 データ分析による意思決定 1.5.2 情報技術による自動化 1.5.3 データ分析・自動化の実際 1.5.4 組織的考慮点	配付資料 中間テスト 課題⑥
	1.6 データ・AI利活用の最新動向 1.6.1 AI等を活用した新しいビジネスモデル 1.6.2 AI最新技術の活用例	配付資料 小テスト⑦ 課題⑦

	2.1 データを読む 2.1.1 データの種類 2.1.2 データの分布と代表値 2.1.3 代表値の性質の違い 2.1.4 データのばらつき 2.1.5 観測データに含まれる誤差の扱い 2.1.6 打ち切りや脱落を含むデータ，層別の必要なデータ 2.1.7 相関と因果性 2.1.8 母集団と標本抽出 2.1.9 クロス集計表，相関係数行列，散布図行列 2.1.10 統計情報の正しい理解	配付資料 小テスト⑧ 課題⑧
	2.2 データを説明する 2.2.1 データの表現 2.2.2 データの図解表現 2.2.3 データの比較 2.2.4 不適切なグラフ表現 2.2.5 優れた可視化の例 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料 小テスト⑨ 課題⑨
	2.3 データを扱う 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料 小テスト⑩ 課題⑩
	3.1 データ・AI を扱う上での留意事項 3.1.1 ELSI 3.1.2 一般データ保護規則：GDPR 3.1.3 十分性認定 3.1.4 AI 倫理 3.1.5 AI 脅威論 3.1.6 ブラックボックス化 3.1.7 説明可能性 3.1.8 アカウンタビリティ，透明性，トラスト 3.1.9 公平性 3.1.10 データ・AI 活用における負の事例紹介--データの悪用・目的外利用 3.1.11 データ・AI 活用における負の事例紹介--フラッシュクラッシュ	配付資料 KPT シート② Q&A：掲示板：相互レビュー
	3.2 データを守る上での留意事項 3.2.1 データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシー 3.2.2 データサイエンスと情報セキュリティ 3.2.3 データサイエンスとプライバシー	配付資料 13, 14 回の「心得」部の学習内容に関する感想

	第 15 回 総括テスト 学習振り返りアピールシート作成 学習成果と今後の DS 活用の可能性についてアピールする文書を作成	総括 アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	STM101-A52	2.科目名	データサイエンス		3.単位数	2
4.授業担当教員	谷口一也					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	1 年春	
10.取得資格の要件	DS 教育プログラムの必修科目 学科必修科目		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 近年、IoT・AI・機械学習などの新しい情報技術の発達により、データ駆動を特徴とするディジタル時代が到来し、経済、社会、および日常生活のより多くの側面がデータに依存するようになっている。そのため、データサイエンスは、科学と産業に同様に革命を起こす分野として浮上しており、今後のビッグデータ社会において、職業人にとって欠かせない基礎的素養となる。この科目はデータ思考の涵養（かんよう）として、社会におけるデータ・AI 利活用、データリテラシー、データ・AI 利活用における留意事項などを学習する。 概要： カリキュラムの内容構成として、大きく「導入」「基礎」「心得」に分類し順に進めていく。 「導入部」では、社会でおきている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI 利活用のための技術、データサイエンスの役割、データ・AI 利活用の最新動向などについて学ぶ。 「基礎部」では、データリテラシーとして、データを読む、データを説明する、データを扱うなど、データサイエンスの基本手法などについて学習する。オープンデータなどを使用し、コンピュータを用いた演習を含む。 「心得部」では、データ・AI を扱う上での留意事項として、ELSI、一般データ保護規則 GDPR、AI 倫理や脅威、データ・AI 利活用における事例を紹介する。また、データを守る上での留意事項として、データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシーなどについて学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	1. データ・AI によって起きている、社会および日常生活の中の変化について説明できる。 2. データ・AI 活用領域の広がりに関連づけて、データサイエンスの役割を説明できる。 3. データ・AI 利活用の現場、および利活用のための技術、最新動向について説明できる。 4. 「データを読む、説明する、扱う」に関する基本的な概念と方法について理解している。 5. データ・AI を扱う上での留意事項とデータを守る上での留意事項について説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：『教養としてのデータサイエンス』（北川源四郎／竹村彰通・編 内田誠一／川崎能典／孝忠大輔／佐久間淳／椎名洋／中川裕志／樋口知之／丸山宏・著、講談社サイエンティフィク） 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。					
20.参考文献	参考書：『データサイエンス入門 第2版』（竹村彰通・姫野哲人・高田聖治 編、学術図書出版社）					
21.成績評価	小テスト：10 回 X4＝40 点 【学習?標①～⑤に対応】 課 題： 10 回 X5＝50 点 【学習?標①～⑤に対応】 アピールシート：1 回 X10＝10 点 【学習?標①～⑤に対応】					
22.コメント	講義では、ノート PC を利?しますので、授業に使える PC を持参してください。					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 金曜 2 限（神戸山手）					

研究室オフィスアワー 水曜昼休み（神戸山手）		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第1回 インTRODクシヨン ・科?の概要と?的、到達?標、全体の流れなどの説明 ・WebClassの小テスト機能の利用方法について説明 ・事前アンケート	
	第2回 社会でおきている変化（1） 1.1.1 ビッグデータ 1.1.2 検索エンジンとSNS	配付資料・トピック動画 小テスト① 課題①
	第3回 社会でおきている変化（2） 1.1.3 第4次産業革命 1.1.4 AIの驚異的発達 1.1.5 人間の知的活動とAI	配付資料・トピック動画 小テスト② 課題②
	第4回 社会で活用されているデータ 1.2.1 データの種類 1.2.2 データの所有者 1.2.3 構造化データと非構造化データ 1.2.4 自動翻訳	配付資料・トピック動画 小テスト③ 課題③
	第5回 データとAIの活用領域 1.3.1 事業活動におけるデータ・AI活用の広がり 1.3.2 活用目的ごとのデータ・AI活用の広がり	配付資料・トピック動画 小テスト④ 課題④
	1.4 データ・AI利活用のための技術(1) 1.4.1 誰もが無意識にデータを解析して生きている 1.4.2 さまざまなデータ解析 ―予測 1.4.3 さまざまなデータ解析 ―グルーピングとクラス タリング 1.4.4 さまざまなデータ解析 ―発見 1.4.5 データ解析の関連話題	配付資料・トピック動画 小テスト⑤ 課題⑤
	1.4 データ・AI利活用のための技術(2) 1.4.6 非構造化データ処理 1.4.7 データ可視化 1.4.8 パターン認識技術 1.4.9 人工知能	配付資料・トピック動画 前半（2～7）の振り返り KPTシート① Q&A：掲示板：相互レビュー
	1.5 データ・AI活用の現場 1.5.1 データ分析による意思決定 1.5.2 情報技術による自動化 1.5.3 データ分析・自動化の実際 1.5.4 組織的考慮点	配付資料・トピック動画 小テスト⑥ 課題⑥
	1.6 データ・AI利活用の最新動向 1.6.1 AI等を活用した新しいビジネスモデル 1.6.2 AI最新技術の活用例	配付資料・トピック動画 小テスト⑦ 課題⑦

	2.1 データを読む 2.1.1 データの種類 2.1.2 データの分布と代表値 2.1.3 代表値の性質の違い 2.1.4 データのばらつき 2.1.5 観測データに含まれる誤差の扱い 2.1.6 打ち切りや脱落を含むデータ，層別の必要なデータ 2.1.7 相関と因果性 2.1.8 母集団と標本抽出 2.1.9 クロス集計表，相関係数行列，散布図行列 2.1.10 統計情報の正しい理解	配付資料・トピック動画 小テスト⑧ 課題⑧
	2.2 データを説明する 2.2.1 データの表現 2.2.2 データの図解表現 2.2.3 データの比較 2.2.4 不適切なグラフ表現 2.2.5 優れた可視化の例 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑨ 課題⑨
	2.3 データを扱う 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑩ 課題⑩
	3.1 データ・AI を扱う上での留意事項 3.1.1 ELSI 3.1.2 一般データ保護規則：GDPR 3.1.3 十分性認定 3.1.4 AI 倫理 3.1.5 AI 脅威論 3.1.6 ブラックボックス化 3.1.7 説明可能性 3.1.8 アカウンタビリティ，透明性，トラスト 3.1.9 公平性 3.1.10 データ・AI 活用における負の事例紹介--データの悪用・目的外利用 3.1.11 データ・AI 活用における負の事例紹介--フラッシュクラッシュ	配付資料・トピック動画 後半（8～12）の振り返り KPT シート② Q&A：掲示板：相互レビュー
	3.2 データを守る上での留意事項 3.2.1 データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシー 3.2.2 データサイエンスと情報セキュリティ 3.2.3 データサイエンスとプライバシー	配付資料・トピック動画 13, 14 回の「心得」部の学習内容に関する感想

	第 15 回 学習振り返りアピールシート作成 学習成果と今後の DS 活用の可能性についてアピールする文書を作成	総括 アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	STM101-M51	2.科目名	データサイエンス		3.単位数	2
4.授業担当教員	佐藤広志					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	看護学科 経営学科			9.履修学年	1 年秋	
10.取得資格の要件	DS 教育プログラムの必修科目 学科必修科目		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	オンデマンド型		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	目的： 近年、IoT・AI・機械学習などの新しい情報技術の発達により、データ駆動社会が到来し、多くの側面がデータに依存するようになっていく。データサイエンスは、科学と産業に革新を起こす分野として浮上しており、今後のビッグデータ社会において、職業人にとって欠かせない基礎的素養およびスキルとなる。この科目はデータ思考の涵養（かんよう）として、社会におけるデータ・AI 利活用、データリテラシー、そしてデータ・AI 利活用における留意事項などを学習する。 概要： カリキュラムの内容構成として、大きく「導入」「基礎」「心得」に分類し順に進めていく。 「導入部」では、社会でおきている変化，社会で活用されているデータ、データ・AI 利活用のための技術，データサイエンスの役割，データ・AI 利活用の最新動向などについて学ぶ。 「基礎部」では、データリテラシーとして，データを読む，データを説明する，データを扱うなど，データサイエンスの基本手法などについて学習する。オープンデータなどを使用し，コンピュータを用いた演習を含む。 「心得部」では，データ・AI を扱う上での留意事項として、ELSI、一般データ保護規則 GDPR、AI 倫理や脅威、データ・AI 利活用における事例を紹介する。また、データを守る上での留意事項として、データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシーなどについて学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	1. データ・AI によって起きている、社会および日常生活の中の変化について説明できる。 2. データ・AI 活用領域の広がりに関連づけて、データサイエンスの役割を説明できる。 3. データ・AI 利活用の現場、および利活用のための技術、最新動向について説明できる。 4. 「データを読む、説明する、扱う」に関する基本的な概念と方法について理解している。 5. データ・AI を扱う上での留意事項とデータを守る上での留意事項について説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：『教養としてのデータサイエンス』（北川源四郎／竹村彰通・編 内田誠一／川崎能典／孝忠大輔／佐久間淳／椎名洋／中川裕志／樋口知之 /丸山宏・著，講談社サイエンティフィク） 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。					
20.参考文献	参考書：『データサイエンス入門 第2版』（竹村彰通・姫野哲人・高田聖治 編，学術図書出版社）					
21.成績評価	小テスト：10 回 X5＝50 点 【学習?標①～⑤に対応】 課 題： 10 回 X4＝40 点 【学習?標①～⑤に対応】 アピールシート：1 回 X10＝10 点 【学習?標①～⑤に対応】					
22.コメント	フルオンデマンド型の授業ですので、受講者自身に高度な自己管理能力が問われます。					

	何かにつけて先送りするタイプの人にはおすすりできません。 よく考えて選択してください、	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第 1 回 インTRODダクシヨン（対面による実施を予定） ・ 科?の概要と?的, 到達?標 ・ オンデマンドでの受講の仕方 ・ WebClass の小テスト機能の利用方法 ・ 事前アンケート 第 1 回に限り、対面による受講ガイダンスを予定していますが、webclass 上の案内に変更する場合があります。 対面で行う場合、日時と場所（教室）については、別途メールにて案内します。	
	第 2 回 社会でおきている変化（1） 1.1.1 ビッグデータ 1.1.2 検索エンジンと SNS	配付資料・トピック動画 小テスト① 課題①
	第 3 回 1.1 社会でおきている変化（2） 1.1.3 第 4 次産業革命 1.1.4 AI の驚異的発達 1.1.5 人間の知的活動と AI	配付資料・トピック動画 小テスト② 課題②
	第 4 回 社会で活用されているデータ 1.2.1 データの種類 1.2.2 データの所有者 1.2.3 構造化データと非構造化データ 1.2.4 自動翻訳	配付資料・トピック動画 小テスト③ 課題③
	第 5 回 データと AI の活用領域 1.3.1 事業活動におけるデータ・AI 活用の広がり 1.3.2 活用目的ごとのデータ・AI 活用の広がり	配付資料・トピック動画 小テスト④ 課題④
	第 6 回 データ・AI 利活用のための技術(1) 1.4.1 誰もが無意識にデータを解析して生きている 1.4.2 さまざまなデータ解析 ー予測 1.4.3 さまざまなデータ解析 ーグルーピングとクラスタリング 1.4.4 さまざまなデータ解析 ー発見 1.4.5 データ解析の関連話題	配付資料・トピック動画 小テスト⑤ 課題⑤
	第 7 回 データ・AI 利活用のための技術(2) 1.4.6 非構造化データ処理 1.4.7 データ可視化 1.4.8 パターン認識技術 1.4.9 人工知能	配付資料・トピック動画 前半（2～7）の振り返り KPT シート Q&A：掲示板：相互レビュー

	第 8 回 データ・AI 活用の現場 1.5.1 データ分析による意思決定 1.5.2 情報技術による自動化 1.5.3 データ分析・自動化の実際 1.5.4 組織的考慮点	配付資料・トピック動画 小テスト⑥ 課題⑥
	第 9 回 データ・AI 利活用の最新動向 1.6.1 AI 等を活用した新しいビジネスモデル 1.6.2 AI 最新技術の活用例	配付資料・トピック動画 小テスト⑦ 課題⑦
	第 10 回 データを読む 2.1.1 データの種類 2.1.2 データの分布と代表値 2.1.3 代表値の性質の違い 2.1.4 データのばらつき 2.1.5 観測データに含まれる誤差の扱い 2.1.6 打ち切りや脱落を含むデータ，層別の必要なデータ 2.1.7 相関と因果性 2.1.8 母集団と標本抽出 2.1.9 クロス集計表，相関係数行列，散布図行列 2.1.10 統計情報の正しい理解	配付資料・トピック動画 小テスト⑧ 課題⑧
	第 11 回 データを説明する 2.2.1 データの表現 2.2.2 データの図解表現 2.2.3 データの比較 2.2.4 不適切なグラフ表現 2.2.5 優れた可視化の例 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑨ 課題⑨
	第 12 回 データを扱う 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑩ 課題⑩
	第 13 回 データ・AI を扱う上での留意事項 3.1.1 ELSI と GDPR 3.1.2 AI 倫理と AI 脅威論 3.1.3 ブラックボックス化と説明可能性 3.1.4 アカウンタビリティ，透明性，トラスト、公平性 3.1.5 負の事例学習--データの悪用・目的外利用 3.1.6 負の事例学習--フラッシュクラッシュ	配付資料・トピック動画 後半（8～12）の振り返り KPT シート② Q&A：掲示板：相互レビュー
	第 14 回 データを守る上での留意事項 3.2.1 データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシー	配付資料・トピック動画 13, 14 回の「心得」部の学習内容に関する感

	3.2.2 データサイエンスと情報セキュリティ 3.2.3 データサイエンスとプライバシー	想
	1. 第 15 回 学習振り返りアピールシート作成 2. 学習成果と今後の DS 活用の可能性についてアピールする文書を作成	総括 アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	STM101-Y52	2.科目名	データサイエンス（心理・観光・G コミ）オンデマンド		3.単位数	2
4.授業担当教員	章志華					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理・観光学科			9.履修学年	1 年秋	
10.取得資格の要件	DS 教育プログラムの必修科目 学科必修科目		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	オンデマンド型		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	目的： 近年のビッグデータや AI 技術の発展により、データ駆動型社会が到来しています。データへの依存度が高まる中、データサイエンスはビジネス、政策、社会サービスなど様々な分野で重要な役割を果たしています。データサイエンスは、科学と産業に革新をもたらす分野として注目されており、ビッグデータ社会においては職業人に不可欠なスキルとなっています。この科目は、データ思考を育むことを目的としており、社会におけるデータと AI の活用、データリテラシー、そしてデータと AI の活用における注意点などを学びます。 概要： カリキュラムは、「導入」「基礎」「心得」の三つの部分に分かれています。 導入部では、社会の変化、データの活用、データサイエンスの役割、最新のデータ・AI 技術について学びます。基礎部では、データリテラシーとして、データの読み方、説明の仕方、扱い方など基本手法を学び、コンピュータを使った実習も行います。心得部では、データ・AI を扱う際の倫理的・法的・社会的課題（ELSI）、GDPR、AI 倫理やセキュリティとプライバシーの重要性について学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	1. データと AI が社会や生活に与える影響を説明できる。 2. データサイエンスの役割と重要性が高まっていることを説明できる。 3. データと AI の実際の利活用事例と最新動向を説明できる。 4. データを読み解く基礎的な概念と方法を理解している。 5. データ・AI 利活用における留意点とデータ保護の重要性を説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：『教養としてのデータサイエンス』（北川源四郎／竹村彰通・編 内田誠一／川崎能典／孝忠大輔／佐久間淳／椎名洋／中川裕志／樋口知之 / 丸山宏・著、講談社サイエンティフィク） 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。					
20.参考文献	参考書：『データサイエンス入門 第2版』（竹村彰通・姫野哲人・高田聖治 編、学術図書出版社）					
21.成績評価	小テスト：10 回 X5＝50 点 【学習?標①～⑤に対応】 課 題： 10 回 X4＝40 点 【学習?標①～⑤に対応】 アピールシート：1 回 X10＝10 点 【学習?標①～⑤に対応】					
22.コメント	授業前日にノート PC の動作確認とバッテリー充電を確実に行ってください。					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 木曜 3 限（神戸山手） 研究室オフィスアワー 木曜お昼（神戸山手）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 1 回 イントロダクション（対面による実施） ・ 科?の概要と?的、到達?標					

	・ オンデマンドでの受講の仕方 ・ WebClass の小テスト機能の利用方法 ・ 事前アンケート なお、第 1 回目は対面による受講ガイダンスを実施しますので、 possible の限り参加してください。日時と場所（教室）については、別途メールにてご案内いたします。 どうしてもご参加いただけない場合は、事前にご連絡ください。	
	第 2 回 社会でおきている変化（1） 1.1.1 ビッグデータ 1.1.2 検索エンジンと SNS	配付資料・トピック動画 小テスト① 課題①
	第 3 回 1.1 社会でおきている変化（2） 1.1.3 第 4 次産業革命 1.1.4 AI の驚異的発達 1.1.5 人間の知的活動と AI	配付資料・トピック動画 小テスト② 課題②
	第 4 回 社会で活用されているデータ 1.2.1 データの種類 1.2.2 データの所有者 1.2.3 構造化データと非構造化データ 1.2.4 自動翻訳	配付資料・トピック動画 小テスト③ 課題③
	第 5 回 データと AI の活用領域 1.3.1 事業活動におけるデータ・AI 活用の広がり 1.3.2 活用目的ごとのデータ・AI 活用の広がり	配付資料・トピック動画 小テスト④ 課題④
	第 6 回 データ・AI 利活用のための技術(1) 1.4.1 誰もが無意識にデータを解析して生きている 1.4.2 さまざまなデータ解析 ―予測 1.4.3 さまざまなデータ解析 ―グルーピングとクラスタリング 1.4.4 さまざまなデータ解析 ―発見 1.4.5 データ解析の関連話題	配付資料・トピック動画 小テスト⑤ 課題⑤
	第 7 回 データ・AI 利活用のための技術(2) 1.4.6 非構造化データ処理 1.4.7 データ可視化 1.4.8 パターン認識技術 1.4.9 人工知能	配付資料・トピック動画 前半（2～7）の振り返り KPT シート Q & A：掲示板：相互レビュー
	第 8 回 データ・AI 活用の現場 1.5.1 データ分析による意思決定 1.5.2 情報技術による自動化 1.5.3 データ分析・自動化の実際 1.5.4 組織的考慮点	配付資料・トピック動画 小テスト⑥ 課題⑥
	第 9 回 データ・AI 利活用の最新動向 1.6.1 AI 等を活用した新しいビジネスモデル	配付資料・トピック動画

	1.6.2 AI 最新技術の活用例	小テスト⑦ 課題⑦
	第 10 回 データを読む 2.1.1 データの種類 2.1.2 データの分布と代表値 2.1.3 代表値の性質の違い 2.1.4 データのばらつき 2.1.5 観測データに含まれる誤差の扱い 2.1.6 打ち切りや脱落を含むデータ，層別の必要なデータ 2.1.7 相関と因果性 2.1.8 母集団と標本抽出 2.1.9 クロス集計表，相関係数行列，散布図行列 2.1.10 統計情報の正しい理解	配付資料・トピック動画 小テスト⑧ 課題⑧
	第 11 回 データを説明する 2.2.1 データの表現 2.2.2 データの図解表現 2.2.3 データの比較 2.2.4 不適切なグラフ表現 2.2.5 優れた可視化の例 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑨ 課題⑨
	第 12 回 データを扱う 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑩ 課題⑩
	第 13 回 データ・AI を扱う上での留意事項 3.1.1 ELSI と GDPR 3.1.2 AI 倫理と AI 脅威論 3.1.3 ブラックボックス化と説明可能性 3.1.4 アカウンタビリティ，透明性，トラスト、公平性 3.1.5 負の事例学習--データの悪用・目的外利用 3.1.6 負の事例学習--フラッシュクラッシュ	配付資料・トピック動画 後半（8～12）の振り返り KPT シート② Q&A：掲示板：相互レビュー
	第 14 回 データを守る上での留意事項 3.2.1 データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシー 3.2.2 データサイエンスと情報セキュリティ 3.2.3 データサイエンスとプライバシー	配付資料・トピック動画 13, 14 回の「心得」部の学習内容に関する感想
	1. 第 15 回 学習振り返りアピールシート作成 2. 学習成果と今後の DS 活用の可能性についてアピールする文書を作成	総括 アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	STM101-Y53	2.科目名	データサイエンス ※外部学生用		3.単位数	2
4.授業担当教員	章志華					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	大学間連携科目 他大学の学生向け			9.履修学年	1 年秋	
10.取得資格の要件	数理・データサイエンス・AI 教育プログラム関連の科目		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	オンデマンド型 (初回目は F2F オンライン説明あり)		
16.履修制限	特になし					
17.授業の目的と概要	目的： 近年のビッグデータや AI 技術の発展により、データ駆動型社会が到来しています。データへの依存度が高まる中、データサイエンスはビジネス、政策、社会サービスなど様々な分野で重要な役割を果たしています。データサイエンスは、科学と産業に革新をもたらす分野として注目されており、ビッグデータ社会においては職業人に不可欠なスキルとなっています。この科目は、データ思考を育むことを目的としており、社会におけるデータと AI の活用、データリテラシー、そしてデータと AI の活用における注意点などを学びます。 概要： カリキュラムは、「導入」「基礎」「心得」の三つの部分に分かれています。 導入部では、社会の変化、データの活用、データサイエンスの役割、最新のデータ・AI 技術について学びます。基礎部では、データリテラシーとして、データの読み方、説明の仕方、扱い方など基本手法を学び、コンピュータを使った実習も行います。心得部では、データ・AI を扱う際の倫理的・法的・社会的課題（ELSI）、GDPR、AI 倫理やセキュリティとプライバシーの重要性について学びます。					
18.学習目標と DP との関連	1. データと AI が社会や生活に与える影響を説明できる。 2. データサイエンスの役割と重要性が高まっていることを説明できる。 3. データと AI の実際の利活用事例と最新動向を説明できる。 4. データを読み解く基礎的な概念と方法を理解している。 5. データ・AI 利活用における留意点とデータ保護の重要性を説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：『教養としてのデータサイエンス』（北川源四郎／竹村彰通・編 内田誠一など著，講談社サイエンティフィク） 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。					
20.参考文献	参考書：『データサイエンス入門 第 2 版』（竹村彰通・姫野哲人・高田聖治 編，学術図書出版社）					
21.成績評価	小テスト：10 回 X5＝50 点 【学習?標①～⑤に対応】 課 題： 10 回 X4＝40 点 【学習?標①～⑤に対応】 アピールシート：1 回 X10＝10 点 【学習?標①～⑤に対応】					
22.コメント	授業を受ける際に、ノート PC の動作確認とバッテリー充電を確実に行ってください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 1 回 イントロダクション（対面による実施） ・科?の概要と?的，到達?標					

	・オンデマンドでの受講の仕方 ・WebClass の小テスト機能の利用方法 ・事前アンケート なお、第 1 回目は遠隔対面による受講ガイダンスを実施しますので、 possible の限り参加してください。日時と ZoomURL などは、別途メールにてご案内いたします。	
	第 2 回 社会でおきている変化（1） 1.1.1 ビッグデータ 1.1.2 検索エンジンと SNS	配付資料・トピック動画 小テスト① 課題①
	第 3 回 1.1 社会でおきている変化（2） 1.1.3 第 4 次産業革命 1.1.4 AI の驚異的発達 1.1.5 人間の知的活動と AI	配付資料・トピック動画 小テスト② 課題②
	第 4 回 社会で活用されているデータ 1.2.1 データの種類 1.2.2 データの所有者 1.2.3 構造化データと非構造化データ 1.2.4 自動翻訳	配付資料・トピック動画 小テスト③ 課題③
	第 5 回 データと AI の活用領域 1.3.1 事業活動におけるデータ・AI 活用の広がり 1.3.2 活用目的ごとのデータ・AI 活用の広がり	配付資料・トピック動画 小テスト④ 課題④
	第 6 回 データ・AI 利活用のための技術(1) 1.4.1 誰もが無意識にデータを解析して生きている 1.4.2 さまざまなデータ解析 ー予測 1.4.3 さまざまなデータ解析 ーグルーピングとクラスタリング 1.4.4 さまざまなデータ解析 ー発見 1.4.5 データ解析の関連話題	配付資料・トピック動画 小テスト⑤ 課題⑤
	第 7 回 データ・AI 利活用のための技術(2) 1.4.6 非構造化データ処理 1.4.7 データ可視化 1.4.8 パターン認識技術 1.4.9 人工知能	配付資料・トピック動画 前半（2～7）の振り返り KPT シート Q&A：掲示板：相互レビュー
	第 8 回 データ・AI 活用の現場 1.5.1 データ分析による意思決定 1.5.2 情報技術による自動化 1.5.3 データ分析・自動化の実際 1.5.4 組織的考慮点	配付資料・トピック動画 小テスト⑥ 課題⑥
	第 9 回 データ・AI 利活用の最新動向 1.6.1 AI 等を活用した新しいビジネスモデル 1.6.2 AI 最新技術の活用例	配付資料・トピック動画 小テスト⑦ 課題⑦
	第 10 回 データを読む	

	2.1.1 データの種類 2.1.2 データの分布と代表値 2.1.3 代表値の性質の違い 2.1.4 データのばらつき 2.1.5 観測データに含まれる誤差の扱い 2.1.6 打ち切りや脱落を含むデータ，層別の必要なデータ 2.1.7 相関と因果性 2.1.8 母集団と標本抽出 2.1.9 クロス集計表，相関係数行列，散布図行列 2.1.10 統計情報の正しい理解	配付資料・トピック動画 小テスト⑧ 課題⑧
	第 11 回 データを説明する 2.2.1 データの表現 2.2.2 データの図解表現 2.2.3 データの比較 2.2.4 不適切なグラフ表現 2.2.5 優れた可視化の例 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑨ 課題⑨
	第 12 回 データを扱う 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑩ 課題⑩
	第 13 回 データ・AI を扱う上での留意事項 3.1.1 ELSI と GDPR 3.1.2 AI 倫理と AI 脅威論 3.1.3 ブラックボックス化と説明可能性 3.1.4 アカウンタビリティ，透明性，トラスト、公平性 3.1.5 負の事例学習--データの悪用・目的外利用 3.1.6 負の事例学習--フラッシュクラッシュ	配付資料・トピック動画 後半（8～12）の振り返り KPT シート② Q&A：掲示板：相互レビュー
	第 14 回 データを守る上での留意事項 3.2.1 データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシー 3.2.2 データサイエンスと情報セキュリティ 3.2.3 データサイエンスとプライバシー	配付資料・トピック動画 13, 14 回の「心得」部の学習内容に関する感想
	1. 第 15 回 学習振り返りアピールシート作成 2. 学習成果と今後の DS 活用の可能性についてアピールする文書を作成	総括 アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	STM102-Y51	2.科目名	データサイエンス入門（留）		3.単位数	2
4.授業担当教員	渡辺卓也					
5.授業科目の区分	基礎科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	社会科学部			9.履修学年	1 年秋	
10.取得資格の要件	DS 教育プログラムの必修科目 学科必修科目		11.先修条件	特になし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： 近年、IoT・AI・機械学習などの新しい情報技術の発達により、データ駆動を特徴とするデジタル時代が到来し、経済、社会、および日常生活のより多くの側面がデータに依存するようになってきている。そのため、データサイエンスは、科学と産業に同様に革命を起こす分野として浮上しており、今後のビッグデータ社会において、職業人にとって欠かせない基礎的素養となる。この科目はデータ思考の涵養（かんよう）として、社会におけるデータ・AI 利活用、データリテラシー、データ・AI 利活用における留意事項などを学習する。 概要： カリキュラムの内容構成として、大きく「導入」「基礎」「心得」に分類し順に進めていく。 「導入部」では、社会でおきている変化、社会で活用されているデータ、データ・AI 利活用のための技術、データサイエンスの役割、データ・AI 利活用の最新動向などについて学ぶ。 「基礎部」では、データリテラシーとして、データを読む、データを説明する、データを扱うなど、データサイエンスの基本手法などについて学習する。オープンデータなどを使用し、コンピュータを用いた演習を含む。 「心得部」では、データ・AI を扱う上での留意事項として、ELSI、一般データ保護規則 GDPR、AI 倫理や脅威、データ・AI 利活用における事例を紹介する。また、データを守る上での留意事項として、データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシーなどについて学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	1. データ・AI によって起きている、社会および日常生活の中の変化について説明できる。 2. データ・AI 活用領域の広がりに関連づけて、データサイエンスの役割を説明できる。 3. データ・AI 利活用の現場、および利活用のための技術、最新動向について説明できる。 4. 「データを読む、説明する、扱う」に関する基本的な概念と方法について理解している。 5. データ・AI を扱う上での留意事項とデータを守る上での留意事項について説明できる。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：『教養としてのデータサイエンス』（北川源四郎／竹村彰通・編 内田誠一／川崎能典／孝忠大輔／佐久間淳／椎名洋／中川裕志／樋口知之／丸山宏・著、講談社サイエンティフィク） 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する。					
20.参考文献	参考書：『データサイエンス入門 第2版』（竹村彰通・姫野哲人・高田聖治 編、学術図書出版社）					
21.成績評価	小テスト：10 回 X4＝40 点 【学習?標①～⑤に対応】 課 題： 10 回 X5＝50 点 【学習?標①～⑤に対応】 アピールシート：1 回 X10＝10 点 【学習?標①～⑤に対応】					
22.コメント	講義では、ノート PC を利?しますので、授業に使える PC を持参してください。					
23.オフィスアワー	金曜 3 限(学習支援室)					

		春学期 木曜 3 限(研究室) 秋学期 金曜 4 限(研究室)
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
	第 1 回 イン트로ダクション ・ 科?の概要と?的, 到達?標, 全体の流れなどの説明 ・ WebClass の小テスト機能の利用方法について説明 ・ 事前アンケート	
	第 2 回 社会でおきている変化 (1) 1.1.1 ビッグデータ 1.1.2 検索エンジンと SNS	配付資料・トピック動画 小テスト① 課題①
	第 3 回 社会でおきている変化 (2) 1.1.3 第 4 次産業革命 1.1.4 AI の驚異的発達 1.1.5 人間の知的活動と AI	配付資料・トピック動画 小テスト② 課題②
	第 4 回 社会で活用されているデータ 1.2.1 データの種類 1.2.2 データの所有者 1.2.3 構造化データと非構造化データ 1.2.4 自動翻訳	配付資料・トピック動画 小テスト③ 課題③
	第 5 回 データと AI の活用領域 1.3.1 事業活動におけるデータ・AI 活用の広がり 1.3.2 活用目的ごとのデータ・AI 活用の広がり	配付資料・トピック動画 小テスト④ 課題④
	第 6 回 データ・AI 利活用のための技術(1) 1.4.1 誰もが無意識にデータを解析して生きている 1.4.2 さまざまなデータ解析 ー予測 1.4.3 さまざまなデータ解析 ーグルーピングとクラス タリング 1.4.4 さまざまなデータ解析 ー発見 1.4.5 データ解析の関連話題	配付資料・トピック動画 小テスト⑤ 課題⑤
	第 7 回 データ・AI 利活用のための技術(2) 1.4.6 非構造化データ処理 1.4.7 データ可視化 1.4.8 パターン認識技術 1.4.9 人工知能	配付資料・トピック動画 前半 (2～7) の振り返り KPT シート① Q&A: 掲示板: 相互レビュー
	第 8 回 データ・AI 活用の現場 1.5.1 データ分析による意思決定 1.5.2 情報技術による自動化 1.5.3 データ分析・自動化の実際 1.5.4 組織的考慮点	配付資料・トピック動画 小テスト⑥ 課題⑥
	第 9 回 データ・AI 利活用の最新動向 1.6.1 AI 等を活用した新しいビジネスモデル 1.6.2 AI 最新技術の活用例	配付資料・トピック動画 小テスト⑦

		課題⑦
	第 10 回 データを読む 2.1.1 データの種類 2.1.2 データの分布と代表値 2.1.3 代表値の性質の違い 2.1.4 データのばらつき 2.1.5 観測データに含まれる誤差の扱い 2.1.6 打ち切りや脱落を含むデータ，層別の必要なデータ 2.1.7 相関と因果性 2.1.8 母集団と標本抽出 2.1.9 クロス集計表，相関係数行列，散布図行列 2.1.10 統計情報の正しい理解	配付資料・トピック動画 小テスト⑧ 課題⑧
	第 11 回 データを説明する 2.2.1 データの表現 2.2.2 データの図解表現 2.2.3 データの比較 2.2.4 不適切なグラフ表現 2.2.5 優れた可視化の例 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑨ 課題⑨
	第 12 回 データを扱う 2.3.1 表形式のデータ 2.3.2 データ解析ツール 2.3.3 SSDSE データを扱う	配付資料・トピック動画 小テスト⑩ 課題⑩
	第 13 回 データ・AI を扱う上での留意事項 3.1.1 ELSI 3.1.2 一般データ保護規則：GDPR 3.1.3 十分性認定 3.1.4 AI 倫理 3.1.5 AI 脅威論 3.1.6 ブラックボックス化 3.1.7 説明可能性 3.1.8 アカウンタビリティ，透明性，トラスト 3.1.9 公平性 3.1.10 データ・AI 活用における負の事例紹介--データの悪用・目的外利用 3.1.11 データ・AI 活用における負の事例紹介--フラッシュクラッシュ	配付資料・トピック動画 後半（8～12）の振り返り KPT シート② Q&A：掲示板：相互レビュー
	第 14 回 データを守る上での留意事項 3.2.1 データサイエンスにおけるセキュリティとプライバシー 3.2.2 データサイエンスと情報セキュリティ	配付資料・トピック動画 13, 14 回の「心得」部の学習内容に関する感想

	3.2.3 データサイエンスとプライバシー	
	第 15 回 学習振り返りアピールシート作成 学習成果と今後の DS 活用の可能性についてアピールする文書を作成	総括 アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)		STM301-Y51	2.科目名		データサイエンス論		3.単位数	2
4.授業担当教員		渡辺卓也						
5.授業科目の区分		展開科目		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻		データサイエンス専攻				9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件				
12.研究室		※※※		13.電話番号		※※※		
14.E-Mail Address		※※※		15.授業形態		講義		
16.履修制限								
17.授業の目的と概要		【目的】 近年の AI や IoT をはじめとする情報技術の飛躍的な進歩により、超スマート社会が現実になっていく一方、溢れるデータに対して、科学的な方法でデータを分析・処理し、新たな価値を創出できる人材が社会から強く求められている。データを価値に変換する際には、データサイエンスの俯瞰、データの収集と統合、データ分析と解釈などの能力が不可欠である。この科目は、こうした能力の基本素養の育成を図り、IoT、ビッグデータ、AI などのデータ利活用を巡る技術の理解や、データサイエンスの要素的な知識や技術について幅広く学び、今後実践的に課題解決できる能力の養成の準備を目的とする。 【概要】 データの読み方・可視化・解析方法について学習した後、人工知能における機械学習のしくみについて学習する。						
18.学習目標と DP との関連		① ソサイエティ 5.0 社会におけるデータサイエンスの役割について説明できる ② データサイエンスの基盤知識や技術について説明できる ③ 科学的な方法でデータを分析・処理・可視化する基本方法について説明できる ④ IoT やビッグデータ、オープンデータの活用方法について説明できる ⑤ データサイエンスの手法を用いて問題解決の提案ができる [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (6) 専門的知識・技能 の活用力						
19.教科書・教材		授業中に指定します						
20.参考文献								
21.成績評価		KPT シート(理解できたこと、できなかったこと、質問などをまとめる) 30% 実践課題(データを活用した分析) 30% 総括試験(基礎手法・用語の確認) 40%						
22.コメント								
23.オフィスアワー		毎週木曜日 3 限目：個人研究室 毎週金曜日 3 限目：学修支援室						
24.授業回数		25.授業内容				26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回		イントロダクション				復習：授業ノートの整理 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
第 2 回		データサイエンスの手法の概観				復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
第 3 回		データの可視化と統計手法(1)				復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
第 4 回		データの可視化と統計手法(2)				復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
第 5 回		線形回帰(1)				復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)		
第 6 回		線形回帰(2)				復習：授業ノートの整理、課題作成		

		予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
第 7 回	ロジスティック回帰(1)	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
第 8 回	ロジスティック回帰(2)	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
第 9 回	ディープラーニング	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
第 10 回	教師なし学習(1)	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
第 11 回	教師なし学習(2)	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
第 12 回	レコメンデーション(1)	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
第 13 回	レコメンデーション(2)	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：次回の準備(テキスト、Web 資料)
第 14 回	まとめ	復習：授業ノートの整理、課題作成 予習：総括試験の準備
第 15 回	総括試験	復習：総括試験の反省

1.授業コード (ナンバリング)	STM302-Y51	2.科目名	データサイエンス実践演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	章志華					
5.授業科目の区分	DS 教育プログラム科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	データサイエンス専攻の専門科目 全学（神戸山手 C）			9.履修学年	3 年秋	
10.取得資格の要件	数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの選択(4.オプション)科目		11.先修条件	「Python プログラミング」「基礎統計学 A」を受講していることが望ましい。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的： ビジネスや意思決定の場面で、データサイエンスの技術を活用して課題を解決することが欠かせない。データの収集方法や整理の仕方、データ前処理やデータ可視化、統計学解析の手法や機械学習の典型的モデルのほかに、Python プログラミング技術などを活用し、実際のデータを用いた実践演習も取り上げられる。この科目は、データサイエンス応用の基礎を修得し、Python によるデータアナリティクスの基本を実践的に学ぶ。 概要： データの収集と表現形式の基礎、データ前処理の意義とデータ可視化の基本、のほかに様々な分野の分析業務において、代表的統計学手法と典型的機械学習のモデルなどを内容にして、Jupyter notebook 環境を用いて、Python によるビジネスデータ分析の基本を学習する。					
18.学習目標と DPとの関連	1. データ形式と処理技術の基本、データ前処理の意義を理解している。 2. Python でデータ扱い基本とよく扱うデータ可視化の手法を理解している。 3. 統計学の基本的手法と機械学習の典型的モデルによるデータ分析を理解している。 4. Python によるビジネスデータ分析の基本的流れと基本技法を理解している。 5. 公的データ、マーケティングなどの分野の実践的分析例を理解している。 [関連するディプロマポリシー] (4) 問題発見・解決力 (5)コミュニケーションスキル (6) 専門的知識・技能の活用力					
19.教科書・教材	教科書：実践 Data Science シリーズ『ゼロからはじめるデータサイエンス入門』（辻 真吾，矢吹 太郎）・講談社 教材：WebClass にて必要に応じて補助資料を掲載する					
20.参考文献	参考書 1：応用基礎としてのデータサイエンス 北川など 講談社 教科書 2：Python によるビジネスデータサイエンス『データの前処理』（羽室行信）・朝倉商店					
21.成績評価	課題(48%)、リフレクションシート(30%)、期末応用レポート(22%)、 課題は、6 回 X 8 = 48 点【学習?標①②③④⑤に対応】 リフレクションシート：5 回 X 6 = 30 点【学習?標①②③④⑤に対応】 期末応用レポートは、1 X 22 = 22 点【学習?標①②③④⑤に対応】					
22.コメント	講義では、ほぼ毎回でノート PC を利用した演習があるので、BYOD 必携すること					
23.オフィスアワー	センタオフィスアワー 木曜 3 限（神戸山手） 研究室オフィスアワー 木曜お昼時間（神戸山手）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	第 1 回 受講ガイダンス ・ Python プログラミング環境の構築と確認 ・ プログラミング基礎の復習			本講義では PC を利用する。		
	第 2 回 Python によるデータ分析基礎（1）			配布資料		

	・データ処理技術について ・統計入門とデータ可視化 ・記述統計 ・乱数処理	
	第 3 回 Python によるデータ分析基礎（2） ・検定と推定 ・平均の差の検定と推定 ・独立性の検定	配付資料 リフレクションシート①
	第 4 回 データサイエンス実践のプロセス ・データの前処理とは ・データの前処理タスク ・データ収集とデータ加工	配付資料 課題①
	第 5 回 表構造データの処理技術 ・DataFrame の三要素 ・カラムの操作 ・値の操作 ・レコードの操作 ・結合処理・集計処理	配付資料 リフレクションシート②
	第 6 回 単回帰モデル ・回帰分析とは ・K 最近傍法 ・データと検証 ・パラメータチューニング	配付資料 課題②
	第 7 回 重回帰モデル（1） ・重回帰分析とは ・標準化	配付資料 リフレクションシート③
	第 8 回 重回帰モデル（2） ・入力変数の数とモデルの良さ ・変数選択	配付資料 小テスト①
	第 9 回 分類モデル（1） ・木による分類 ・欠損のあるデータの学習	配付資料 課題③
	第 10 回 分類モデル（2） ・2 値分類の性能指標 ・ロジスティック回帰	配付資料 リフレクションシート④
	第 11 回 時系列予測 ・日時と日時の列 ・時系列データの予測	配付資料 課題④
	第 12 回 実践（1）公的統計 ・データ理解と前処理 ・データ前処理の設計 ・データ前処理の実践	配付資料 リフレクションシート⑤
	第 13 回 実践（2）マーケティング分析 ・分析のための前処理 ・集計・来店間隔の計算と売上金額の比較 ・デシルの生成と RFM 分析	配付資料 課題⑤
	第 14 回 実践（3）ファイナンス分析	配付資料

	・収益率と超過収益率 ・投資信託の価額調整 ・3要因モデル構築用データのクリーニング ・投資信託の評価用データセットの作成	課題⑥
	第15回 総括および期末応用課題	総括 アピールシート

1.授業コード (ナンバリング)	SVL101-Y08	2.科目名	サービスラーニング A (INT 安全安心)	3.単位数	1
4.授業担当教員	高橋浩樹				
5.授業科目の区分	警察分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期～2025 年度 春学期
8.履修可能な専攻				9.履修学年	心理学科
10.取得資格の要件			11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	サービスラーニングの意義と実施内容等に関する事前学習、県警本部サイバー企画課担当官等によるサイバー犯罪の現状、傾向、対策等に関する講義を受けた後、実態調査を実施して、効果的な対策を検討する。その上でサイバー犯罪防止に資する寸劇を実施して防犯啓発を行う。 ①講義、②実態調査活動、③シナリオ作成等、④実演	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】日々巧妙化するサイバー犯罪に焦点を当て、その被害防止対策のための落語等を実施して広報啓発、地域貢献を行うことを目的とします。 【概要】実際の被害事例を学び、専門家の指導を受けて、実演による「防犯落語」を神戸市内、県下（2 か所）で行います。 ①犯罪発生実態等を新聞や Web にて把握する ②サイバー企画課から担当官を招致して実態調査を行う ③広く一般に浸透するプレゼンテーションとして寸劇のシナリオ等を作成する？ ④サイバーセキュリティ月間キャンペーン会場において寸劇を実演する ⑤振り返りの実施 ⑥経験学習発表会への参加				
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマポリシー)の(1)自律性(2)社会貢献性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ? サイバー犯罪の実態、被害防止に資する対策・知識を知ることができる・・・①、④ ? 様々な問題点を発見し、幅広い年代層に対する防犯啓発を行うことができる・・・②、④ ? プレゼンテーションをキャンペーン会場で行うことにより、対話能力を醸成することができる・・・⑤ ? 地域社会の安全意識の向上に資する社会貢献を担うことができる・・・②				
19.教科書・教材	なし				
20.参考文献	なし				
21.成績評価	① 事前学習及び活動時の取組姿勢態度 20 % ② 寸劇実施のための資料作り、練習における取組姿勢、態度 30 % ③ 実演等にあたっての姿勢態度 30 % ④ 総括振り返りレポート（総括は学修ポートフォリオに搭載） 20 %				
22.コメント	真摯に取り組むとともに、ステークホルダー（県警関係部署）や参加メンバーに迷惑をかけないよう安易に欠席することなく、責任を持って意欲的に参加できる人を求めます。				

23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	【2月初旬】 ○ ガイダンス ・ サービスラーニングについての共通認識 ・ 課題選定理由の説明と理解促進 ・ 班編制とリーダー・サブリーダーの選出 ・ その他	パソコン、ノート等持参
第 2 ～ 3 回	【2月初旬】 ○ サイバー犯罪被害実態に関する調査（情報検索） ○ 各人調査内容の発表	パソコン、ノート等持参
第 4 ～ 5 回	【2月初旬】 予定 ○ サイバー犯罪対策課担当者による講義、指導	パソコン、ノート等持参
第 6 ～ 8 回	【2月初旬】 ○ 防犯落語実施のための資料作り	パソコン、ノート等持参
第 9 ～ 10 回	【2月初旬】 ○ 防犯落語実施のための事前訓練の実施 ・ 実演要領の予行練習	パソコン、ノート等持参
第 11～12 回	【2月中旬】 ○ 【予定】 神戸市兵庫区新開地喜楽館での防犯落語実施と準備 ○ 反省会と振り返り	上演時間は 15 分程度
第 13～14 回	【2月中旬】 予定 ○ 神戸市内、県下の「大規模ショッピングセンター」におけるサイバー月間キャンペーン参加（上演 2 回目） ○ 学修ポートフォリオへの記事登載	パソコン持参 経験学習報告会でのプレゼン資料の作成 統括レポート（学修ポートフォリオ）
第 15 回	【経験学習報告会の数日前】 ○ 「経験学習報告会」のプレゼン準備 ○ 全体総括	パソコン持参

報告会	経験学習報告会・・・詳細は後日示達	
	① 防犯落語の上演は２回実施する予定である。 ② 短期間に集中したプログラムであることから、健康管理に努め、欠席しないこと。 ③ 聴衆に分かりやすい「落語」を実施知するため、各人が考えて知恵を出し、前向きに取り組むこと。	

1.授業コード (ナンバリング)	SVL103-Y06	2.科目名	サービスラーニング B（社・商店街活性化 2）		3.単位数	2
4.授業担当教員	行木敬、永井純一					
5.授業科目の区分	コミュニティスタディ (基礎教育科目)	6.必修・ 選択の区分	選択必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期～2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学共通			9.履修学年	1 年生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習	
16.履修制限	・ 5～10 名程度を予定しています。希望者が多い場合は志望理由を元に選考をおこないます。 ・ 6?末の商店街の縁日、10?6?の?楽祭、12 月のクリスマスイベントに参加できない?は履修できません。 ・ 専門家による特別講義や作品の相互評価を水曜 3 限におこないます。水曜 3 限にすでに他の授業が入っている人は履修できません。					
17.授業の目的と概要	10?の宇治川?楽祭にボランティアとして参加しながら、その時の様?を動画に撮ります。それを素材として、?楽祭の宣伝や記録の意味を持つ「アフタームービー」をひとり 1 本仕上げます。それに先立って、6 月に専門家による特別講義（撮影）を受け、6 月末の「メルカロード縁日」を素材に 1 本練習作品を作ります。また完成した動画は 12?、商店街のクリスマスイベントで試写会をおこないます。					
18.学習目標と D P との関連	本プログラムの学習?標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の 1「?律的で主体的な態度（?律性）」、2「社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）」の学修に関連しています。 ① ボランティア活動や動画素材の撮影などに主体的に参画することができる。 ② PR 動画の企画、編集、SNS 対応などを?律的に進めることができる。 ③ 地域活性化の意義や現場の困難について、具体的に理解し説明することができる。 ④ ?分の気づきや考えが伝わる効果的な PR 動画を仕上げ、発信することができる。					
19.教科書・教材	・ {過去の宇治川商店街のサービスラーニングで作成したウェブサイト,https://kei-nam.com/s_learning/} ・ その他の教材や資料も、授業進行に合わせて配布していきます。					
20.参考文献						
21.成績評価	1. 特別講義や縁日を素材とした練習作品の作成への主体的参加とその報告 [学習?標①、②] ?成績の 20% 2. 宇治川?楽祭（10?）でのボランティア活動や動画撮影への主体的参加とその報告 [学習?標①、②] ?成績の 30% 3. クリスマスイベントへの主体的参加とその報告 [学習?標①、②] ?成績の 10% 2. 動画作品のクオリティ [学習?標③、④] ?成績の 20% 4. 動画の再生数を伸ばすための工夫（コメント対応など） [学習?標②、④] ?成績の 20%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	春学期 ?曜 4 限、秋学期 金曜 2 限 (科?代表者???)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 ～ 9 回 【撮影の練習	第 1 回?授業ガイダンス 第 2～3 回?専門家による特別講義（動画撮影）			・ 覚えた撮影技術を?分で試してみてください。 い。		

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SVL103-Y08	2.科目名	サービスラーニング B（伝統工芸持続可能性）		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本敏幸、章志華、中嶋康二					
5.授業科目の区分	サービスラーニング	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期～2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	全学部対象			9.履修学年	2 年生以上	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	●リサーチ入門あるいは同等の科目（社会調査論）が履修済みであること。 ●グローバルな学びに関連する科目、コミュニケーション基礎科目が履修済みであると学びが倍増します。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義形式と実習演習を組み合わせたハンズオン・ヘッズオン形式 プラス 学外でのフィールドワーク（主に週末で学期中に数回実施する）		
16.履修制限	人数が多い場合は履修制限をします。 10－20 名程度。 履修希望者が多い場合は面接で選考します。					
17.授業の目的と概要	サービスラーニングでの学びを大学から離れた遠隔地での学びと結びつけた授業です。 日本人の学生だけではなく、本学で学ぶ留学生たちにも利益が生まれるようにグローバルなサービスラーニングでの経験学習を意識してプログラムを企画してみました。 本授業のテーマは、「田舎と都会が相互依存する未来社会の実現」です。 本授業は、年間を通して、2 部構成でおこないます。どちらも 2 単位です。 （1）春学期・夏学期の部 兵庫県丹波市市島地区の有機野菜の栽培から販売までを 40 年以上行なっている NPO「いちじま丹波太郎」、奥丹地区のムラマチプロジェクトと協働し、田舎と都会が相互依存する未来社会について、両者のウェルネス溢れる未来社会の創造について、いっしょに考えていきます。未来社会において、田舎に住む自分と都会に住む自分がウェルネスを通して Win-Win な関係を構築するにはどうすればいいかについて、「自分ごと」として考えていきます。 （2）秋学期・冬学期の部 兵庫県丹波市市島地区に加えて、青垣地区で菅（すげ）を育てて、菅笠などの菅編みの伝統工芸を未来に伝えようとしている深江菅田保存会（拠点は大阪市東成区深江）と協働で、未来社会のウェルネスについて考えていきます。ここでは、菅編み技法という無形文化財をどうウェルネスに取り込むかという課題にチャレンジしていきます。そして、田舎と都会が相互依存する未来社会について、大学生と地域の方たちの「自分ごと」としての未来社会を創造していきます。					
18.学習目標と DPとの関連	(1)学習目標 以下の 3 点が必須学習目標です。 ①地域/社会問題の発見：活動を通して地域/社会の問題を説明できる SDGs の概念・視点から、地域の未来への持続可能性について、経済・社会・環境の領域で、今そこに行きている人たちの営みのウェルネスを叶えるために解決・克服しなければならない課題を、大学生と地域住民が協働で考えていきます。そこでは、本学のミッション：3C の実践による経験学習を通して、未来社会を生きるフューチャースキルを慣用していきます。 ②知識との関連：地域/社会の問題と自身の専門分野/学問/事前学習から得られた知識とを関連させることができる					

	本科目では、特に、大学生と地域住民の間のコミュニケーションを通じた信頼関係の構築と継続を大切に考えていきます。大学で学んだウェルネスに溢れた未来社会についての知識・経験を地域住民のリーダーたちと共有し、協働で理想の未来社会実現に向けて「自分ごと」として考えていきます。 ③市民としての行動：地域/社会の問題を自分事として捉え、解決に向けた意見を提案できる未来社会を共に生きる人たちと協働で、自分たちが将来住みたくするような未来社会の創造のために解決しなければならない課題について協働で考え、実現に向けての解決策についていっしょに考えていくマインドセットを養っていきます。つまり、異なる世代が一つのチームとなって、よりよい未来社会のために問題発見・問題解決をしていく姿勢を身につけていきます。 ※参照：KUIS 学修ベンチマーク_DP2 社会的貢献性、DP4 問題発見・解決力 AAC&U「Civic Engagement VALUE Rubric 【フィールドワーク参加について】 フィールドワークでは地域の営みについて体験学習の一環で生活に関わる作業体験も計画しています。例えば、稲作体験、畑作業、獣害設備設置作業、菅の刈り入れ作業、菅の植え付け作業などです。こうした作業を地域の人たちといっしょにすることで、心の境界線がなくなり本音でのコミュニケーションができるようになります。 作業着や作業靴等は多少負担になりますが、自己責任でお願いします。 汚れてもいいような服装、靴を準備してフィールドワークに参加してください。 フィールドワークは授業中の扱いとなりますので、怪我や事故については「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」の適用を受けます。 また、賠償責任事故については「学研災付帯賠償責任保険（学研賠）」により保険の適用を受けます。 但し、授業担当者の方で、あらかじめ「(教-22 号) 学外教育活動の実施について（申請）」を提出しておきます。	
19.教科書・教材	随時、資料を WebClass で配布する。	
20.参考文献	授業の進行に合わせて、紹介していく。	
21.成績評価	教室内の学び、フィールドワークでの活動を通じた経験学習を含むので、授業態度、活動への取り組みの姿勢、地域の人たちとの協働活動の姿勢等と合わせて総合的に評価する。 ○事前学習時 ― 30% ○期中学習・チーム活動・取り組みの姿勢 & フィールドワーク ― 40% ○事後学習（チームプレゼン、活動報告資料、ポスター、報告書等） ― 30% *フィールドワーク（数回）は重要な授業の学びの要素です。不参加の場合は成績評価に大きく影響する。 ◆別軸での評価としての目安 個人レベルでの学びの成長 ― 5	
22.コメント	【重要】 ・事前・事後学習、ならびに学内、学外に向けた活動報告会参加することが単位取得の必須条件となる。	
23.オフィスアワー	【時間】金曜日 2 時限目及び昼休み（春学期） 【時間】火曜日 2 時限目及び昼休み（秋学期） 【場所】神戸山手キャンパス 1 号館 2F 学習支援センター *他キャンパス受講生は Zoom に対応（事前に連絡のこと）	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	【オリエンテーション】 プログラム概要、学習目標などについて説明 チーム分け、チームビルディング、チームワーク等 活動地域、人々、営みについて	PC,パッド、スマホを持参すること

	授業運営にあたってのハウスルール	
第 2・3・4 回	【事前学習】 チームベースのアクティブラーニング ・SDGs 概念 ・ウェルネスとは？ ・ディスラプティブ・イノベーション ・田舎と都会が相互依存する未来社会の創造 チーム間での学びの共有 フィールドワーク（1）（現地調査）	PC,パッド、スマホを持参すること チーム活動の記録資料
第 5・6・7・8・9 回	【期中学習 1】 チームベースのアクティブラーニング ・フィールドワークによる現地調査の分析 ・ディスカッション ・クリティカルシンキング ・分析結果のまとめ チーム間での学びの共有 ・フィールドワーク（2）（ステークホルダーへのヒアリング）準備 ・ヒアリングでの調査項目の洗い出し ・フィールドワークシミュレーション ・ヒアリング調査項目の精査 フィールドワーク（2）（ヒアリングによる現地調査）	PC,パッド、スマホを持参すること チーム活動の記録資料
第 10・11・12・13・回	【期中学習 2】 チームベースのアクティブラーニング ・フィールドワーク（2）ヒアリング調査の分析 ・ディスカッション ・クリティカルシンキング（SWOT 分析） ・分析結果のまとめ ・チーム間での学びの共有 ・フィールドワーク（3）（未来社会に向けての課題点のあぶり出し調査）準備 ・課題案の提案 ・フィールドワークシミュレーション ・課題案の精査 ・課題の合意形成から解決策策定のためのディスカッションの進め方について段取りー＞シミュレーション フィールドワーク（3）（未来社会に向け	PC,パッド、スマホを持参すること チーム活動の記録資料
第 14・15 回	【事後学習】 チームごとに活動成果のまとめ 学びの共有： ピッチプレゼン・プレゼン動画作成・ポスター・報告書作成 学びのふりかえり 本授業での学びからその先へ 註：発表の場にはお世話になった地域のステークホルダーの方々も招待しましょう。	PC,パッド、スマホを持参すること チーム活動の記録資料 チーム成果物、すべてをチーム共有フォルダに提出すること

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SVL103-Y15	2.科目名	サービスラーニング B (INT 安全安心 E)		3.単位数	2								
4.授業担当教員	高橋浩樹													
5.授業科目の区分	警察分野における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期～2025 年度 春学期									
8.履修可能な専攻				9.履修学年	心理学科									
10.取得資格の要件				11.先修条件										
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※									
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	サービスラーニングの意義と実施内容等に関 する事前学習、県警本部サイバー企画課担当 官等によるサイバー犯罪の現状、傾向、対策 等に関する講義を受けた後、実態調査を実施 して、効果的な対策を検討する。その上でサイ バー犯罪防止に資する寸劇を実施して防犯 啓発を行う。 ①講義、②実態調査活動、③シナリオ作成 等、④実演									
16.履修制限														
17.授業の目的と概要	【目的】日々巧妙化するサイバー犯罪に焦点を当て、その被害防止対策のための落語等を実施して広報啓発、地域貢献を行うことを目的とします。 【概要】実際の被害事例を学び、専門家の指導を受けて、実演による「防犯落語」を神戸市内、県下（2 か所）で行います。 ①犯罪発生実態等を新聞や Web にて把握する ②サイバー企画課から担当官を招致して実態調査を行う ③広く一般に浸透するプレゼンテーションとして寸劇のシナリオ等を作成する？ ④サイバーセキュリティ月間キャンペーン会場において寸劇を実演する ⑤振り返りの実施 ⑥経験学習発表会への参加 ※ エキスパートコース者は A コース者の指導、補助等への従事となります。													
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマポリシー)の(1)自律性(2)社会貢献性(4)問題発見・解決力(5)コミュニケーションスキル、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ？ サイバー犯罪の実態、被害防止に資する対策・知識を知ることができる・・・①、④ ？ 様々な問題点を発見し、幅広い年代層に対する防犯啓発を行うことができる・・・②、④ ？ プレゼンテーションをキャンペーン会場で行うことにより、対話能力を醸成することができる・・・⑤ ？ 地域社会の安全意識の向上に資する社会貢献を担うことができる・・・②													
19.教科書・教材	なし													
20.参考文献	なし													
21.成績評価	<table><tr><td>① 事前学習及び活動時の取組姿勢態度</td><td>20%</td></tr><tr><td>② 寸劇実施のための資料作り、練習における取組姿勢、態度</td><td>30%</td></tr><tr><td>③ 実演等にあたっての姿勢態度</td><td>30%</td></tr><tr><td>④ 総括振り返りレポート（総括は学修ポートフォリオに搭載）</td><td>20%</td></tr></table>						① 事前学習及び活動時の取組姿勢態度	20%	② 寸劇実施のための資料作り、練習における取組姿勢、態度	30%	③ 実演等にあたっての姿勢態度	30%	④ 総括振り返りレポート（総括は学修ポートフォリオに搭載）	20%
① 事前学習及び活動時の取組姿勢態度	20%													
② 寸劇実施のための資料作り、練習における取組姿勢、態度	30%													
③ 実演等にあたっての姿勢態度	30%													
④ 総括振り返りレポート（総括は学修ポートフォリオに搭載）	20%													
22.コメント	真摯に取り組むとともに、ステークホルダー（県警関係部署）や参加メンバーに迷惑をかけな													

		いよう安易に欠席することなく、責任を持って意欲的に参加できる人を求めます。
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	【2月初旬】 ○ ガイダンス ・ サービスラーニングについての共通認識 ・ 課題選定理由の説明と理解促進 ・ 班編制とリーダー・サブリーダーの選出 ・ その他	パソコン、ノート等持参
第2～3回	【2月初旬】 ○ サイバー犯罪被害実態に関する調査（情報検索） ○ 各人調査内容の発表	パソコン、ノート等持参
第4～5回	【2月初旬】 予定 ○ サイバー犯罪対策課担当者による講義、指導	パソコン、ノート等持参
第6～8回	【2月初旬】 ○ 防犯落語実施のための資料作り	パソコン、ノート等持参
第9～10回	【2月初旬】 ○ 防犯落語実施のための事前訓練の実施 ・ 実演要領の予行練習	パソコン、ノート等持参
第11～12回	【2月中旬】 ○ 【予定】 神戸市兵庫区新開地喜楽館での防犯落語実施と準備 ○ 反省会と振り返り	上演時間は15分程度
第13～14回	【2月中旬】 予定 ○ 神戸市内、県下の「大規模ショッピングセンター」におけるサイバー月間キャンペーン参加（上演2回目） ○ 学修ポートフォリオへの記事登載	パソコン持参 経験学習報告会でのプレゼン資料の作成 統括レポート（学修ポートフォリオ）
第15回	【経験学習報告会の数日前】 ○ 「経験学習報告会」のプレゼン準備	パソコン持参

	○ 全体総括	
報告会	経験学習報告会・・・詳細は後日示達	
	① 防犯落語の上演は2回実施する予定である。 ② 短期間に集中したプログラムであることから、健康管理に努め、欠席しないこと。 ③ 聴衆に分かりやすい「落語」を実施知するため、各人が考えて知恵を出し、前向きに取り組むこと。	

1.授業コード (ナンバリング)	SVL104-Y51	2.科目名	ボランティア論		3.単位数	2
4.授業担当教員	村井琢哉					
5.授業科目の区分	基礎教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学部生が対象			9.履修学年	1 年から	
10.取得資格の要件	高校(英語、公民、福祉) 小学校一 種 中学(英語、社会) 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、ボランティアの基礎的理解と理念及びボランティアの現状や課題について理解を深めることを目的とします。					
	【概要】 複雑化した社会において、主体的に考え動くことができる市民によるボランティア活動について学び、ボランティアの視点から社会や社会問題を見つめ、何ができるかを自ら考えることができるようになること目指します。また福祉に限らず国際協力、環境保護等多岐にわたる実践に触れつつ、どのように主体的な活動が生まれるのかについても学び、ボランティア活動への契機になることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標 ①ボランティアの理念や目的、歴史的背景を理解し、ボランティア活動についての基本的な知識や活動に参加する上での準備やマナーを身につけ、自らアクションすることができる。 ②社会問題や差別、格差、排除、不平等を生み出す背景を理解し、原因を見極めることができる。 ③自分とは異なる価値観や考えを持つ人々への背景を理解し、根拠のある意見を示し解決するために行動することができる。 ④言語的・非言語的な表現を活用して、考えを相手にわかりやすく伝えることができる。 ⑤自分の果たすべき役割や責任を考えながら、社会に貢献できるように行動することができる。					
	19.教科書・教材					
	授業内で適宜テキストを提示します。					
	20.参考文献					
	21.成績評価					
評価については以下の課題を中心に総合的に行います。 ①毎回の小課題（10 回）：30 点（3 点×10 回） ②中間レポート：20 点 ③まとめレポート：50 点						
22.コメント						
講義とあわせてグループ（ペア）ワークを行うため、積極的に取り組んでください。（遅刻などはワークの妨げになるので気をつけてください。）						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション ボランティアとは何か（個人の関心・目指す姿を捉える）			予習：自身のボランティア体験を振り返っておく 復習：提示した課題に取り組む		
第 2 回	ボランティアの基本的考え方（問題への気づき）（個人ワーク：課題の設定）			予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む		
第 3 回	主体性・自発性が発揮できる領域			予習：提示されたテキストを読んでおく。		

		復習：提示した課題に取り組む
第 4 回	自身の存在を捉えなおす（ワーク：be の肩書きを考える）	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 5 回	マイプロジェクトを考える（ワーク）	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 6 回	ボランティアの歴史的背景・意義	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 7 回	ボランティアのコーディネート	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 8 回	災害ボランティアについて考える 中間レポート提出	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 9 回	ボランティアの自発性が発揮できる環境	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 10 回	ボランティアとまちづくり	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 11 回	活動事例から考えるボランティア①：事例は学生の興味・関心分野を紹介する。	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 12 回	活動事例から考えるボランティア②：事例は学生の興味・関心分野を紹介する。	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 13 回	活動事例から考えるボランティア③：事例は学生の興味・関心分野を紹介する。	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 14 回	活動事例から考えるボランティア④：事例は学生の興味・関心分野を紹介する。	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 15 回	授業のまとめ：ボランティアとマイプロジェクトと社会問題 最終レポート提出	復習：提示した課題に取り組む

1.授業コード (ナンバリング)	SVL104-m51	2.科目名	ボランティア論（地域社会）		3.単位数	2
4.授業担当教員	村井琢哉					
5.授業科目の区分	基礎教育科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	全学部生が対象			9.履修学年	1 年から	
10.取得資格の要件	高校(英語、公民、福祉) 小学校一 種 中学(英語、社会) 幼稚園一種		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この科目は、ボランティアの基礎的理解と理念及びボランティアの現状や課題について理解を深めることを目的とします。 【概要】 複雑化した社会において、主体的に考え動くことができる市民によるボランティア活動について学び、ボランティアの視点から社会や社会問題を見つめ、何ができるかを自ら考えることができるようになること目指します。また福祉に限らず国際協力、環境保護等多岐にわたる実践に触れつつ、どのように主体的な活動が生まれるのかについても学び、ボランティア活動への契機になることを目指す。					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標 ①ボランティアの理念や目的、歴史的背景を理解し、ボランティア活動についての基本的な知識や活動に参加する上での準備やマナーを身につけ、自らアクションすることができる。 ②社会問題や差別、格差、排除、不平等を生み出す背景を理解し、原因を見極めることができる。 ③自分とは異なる価値観や考えを持つ人々への背景を理解し、根拠のある意見を示し解決するために行動することができる。 ④言語的・非言語的な表現を活用して、考えを相手にわかりやすく伝えることができる。 ⑤自分の果たすべき役割や責任を考えながら、社会に貢献できるように行動することができる。					
19.教科書・教材	授業内で適宜テキストを提示します。					
20.参考文献						
21.成績評価	評価については以下の課題を中心に総合的に行います。 ①毎回の小課題（10 回）：30 点（3 点×10 回） ②中間レポート：20 点 ③まとめレポート：50 点					
22.コメント	講義とあわせてグループ（ペア）ワークを行うため、積極的に取り組んでください。（遅刻などはワークの妨げになるので気をつけてください。）					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション ボランティアとは何か（個人の関心・目指す姿を捉える）			予習：自身のボランティア体験を振り返っておく 復習：提示した課題に取り組む		
第 2 回	ボランティアの基本的考え方（問題への気づき）（個人ワーク：課題の設定）			予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む		
第 3 回	主体性・自発性が発揮できる領域			予習：提示されたテキストを読んでおく。		

		復習：提示した課題に取り組む
第 4 回	自身の存在を捉えなおす（ワーク：be の肩書きを考える）	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 5 回	マイプロジェクトを考える（ワーク）	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 6 回	ボランティアの歴史的背景・意義	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 7 回	ボランティアのコーディネート	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 8 回	災害ボランティアについて考える 中間レポート提出	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 9 回	ボランティアの自発性が発揮できる環境	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 10 回	ボランティアとまちづくり	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 11 回	活動事例から考えるボランティア①：事例は学生の興味・関心分野を紹介する。	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 12 回	活動事例から考えるボランティア②：事例は学生の興味・関心分野を紹介する。	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 13 回	活動事例から考えるボランティア③：事例は学生の興味・関心分野を紹介する。	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 14 回	活動事例から考えるボランティア④：事例は学生の興味・関心分野を紹介する。	予習：提示されたテキストを読んでおく。 復習：提示した課題に取り組む
第 15 回	授業のまとめ：ボランティアとマイプロジェクトと社会問題 最終レポート提出	復習：提示した課題に取り組む

1.授業コード (ナンバリング)	SVL106-M51	2.科目名	サービスラーニング A (学習支援) 秋・冬学期		3.単位数	1
4.授業担当教員	百済正和					
5.授業科目の区分	リベラルアーツ	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期～冬学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	1～2 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	8～10 名 子どもの心理・発達・教育・福祉・養育などに興味関心のある者 活動日である水曜日の 15 時～16 時に参加できる者					
17.授業の目的と概要	(目的) 社会的貢献である学習支援活動で体験した児童の発達や学習に関する知識やスキルを、大学で学ぶ心理学の授業でのより深い学びにつなげる。 (概要) 三木市立緑が丘小学校の 3～6 年生の児童 (各学年 10 名) に対して、水曜日の放課後 15 時～16 時に学習支援を行う 具体的にはあ、「基礎学力の向上」を目指すことを目的都市、「算数科」「国語科」の自習プリントを活用した学習の個別支援を行う。 児童への支援は、緑が丘小学校の担当指導者の指示のもとに支援を行う。 支援活動の回数は通算 10 回程度である。					
18.学習目標と DPとの関連	大学での授業で学修する心理学的な知識を活用しながら、自らの自動機の経験を活かして、発達途上にある小学生の学びの実態を把握する。 算数科・国語かへの学習支援を通して、児童がどこで何に困難を示しているのを知り、どのような支援の手立て有効であるかを磁土の視点に立って考える。 児童と共に学修課題へ取り組むことにより、より望ましい子どもへの関わり方を学ぶ。 DP(ディプロマポリシー) の (2) 社会的貢献性、の学修に関連しています。					
19.教科書・教材	特に指定なし					
20.参考文献	特に指定なし					
21.成績評価	ステークホルダー (緑が丘小学校) の評価 40% 支援活動記録 20% 振り返りレポート 20% プレゼンテーション 20%					
22.コメント	この活動は、大学の授業で学修した心理学的知識を児童支援で活用する。あるいは、児童支援の体験を心理学に関する授業でより確かな知識とスキルへと高める絶好の機会です。そして、学生の皆さんが有する力で社会貢献することが可能尾です。 ぜひ、このサービスラーニングへ参画してください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	オリエンテーション (シラバス概要説明・サービスラーニングの意義・支援活動の目標と内容・活動スケジュール) 学習支援活動における諸注意と留意事項 (安心安全の確保・個人情報保護・守秘義務など)			サービスラーニングの冊子に記述されている内容の理解と把握		
第 2 回	小学校算数科における各学年の目標と指導内容			授業内容の復習		

	小学校国語科における学年別配当漢字 学習支援活動のスケジュールの作成と確認	発達障害について調べる
第 3 回	発達障害についての理解（定義・行動特性・指導上の 配慮事項など）	学習支援活動における配慮事項と留意点につ いての再確認
第 4 回	学習支援活動①（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 5 回	学習支援活動②（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 6 回	学習支援活動③（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 7 回	学習支援活動④（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 8 回	学習支援活動⑤（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 9 回	学習支援活動⑥（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 10 回	学習支援活動⑦（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 11 回	学習支援活動⑧（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 12 回	学習支援活動⑨（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 13 回	学習支援活動⑩（緑が丘小学校で水曜日 15 時～16 時） 指導者の指示による個別の支援 支援における子どもと支援者の行動記録	記録の整理（良かった点・改善点など）
第 14 回	学習支援活動の振り返り（総括） 記録の整理と集約 プレゼンテーション資料作成	プレゼンテーション資料作成準備

	サービスラーニング報告会の準備	
第 15 回	サービスラーニング報告会での発表	プレゼンテーション資料提出

1.授業コード (ナンバリング)	SVL108-M51	2.科目名	サービスラーニング A（経・地域活性化）		3.単位数	1
4.授業担当教員	上村和美					
5.授業科目の区分	経験学修	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期～冬学期	
8.履修可能な専攻	経営学部・三木キャンパス			9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 この授業では、地域マネジメント専攻の学びへと繋げるために三木市と丹波市をフィールドとした活動を行う。三木市は三木キャンパスの地元地域であり、丹波市は 2014 年の豪雨災害でのボランティアをきっかけに、現在は全学的な包括協定を結んでいる。それらの地域の特色を知り、さらに深い学びへと繋げるきっかけとなるものである。 【概要】 授業は、事前学修とフィールドでの活動（5 回）事後学修から成る。					
18.学習目標と DP との関連						
19.教科書・教材	活動時に WebClass を通じて配付する。					
20.参考文献						
21.成績評価	①事前学修終了後のレポート：10% ②あじあん祭での丹波ブースの運営：20% ③「丹波布ワークショップ」の企画と運営：30% ④成果物の作成と展示：10% ⑤全活動終了後に e ポートフォリオへ個人の総括レポートを投稿する：30%					
22.コメント	フィールド実習の全日程に参加できることが履修条件となります。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 10/18（金） 12：30～13：10	ガイダンス：授業の進行について説明する。 事前学修①：現地活動 丹波市・丹波布を知る。					
【第 2-4 回】 10/19（土）	現地活動① 10/19（土）丹波市訪問（ゆめの樹、サンカラ）					
【第 2-4 回】 10/19（土）	現地活動① 10/19（土）丹波市訪問（ゆめの樹、サンカラ）					
【第 2-4 回】 10/19（土）	現地活動① 10/19（土）丹波市訪問（ゆめの樹、サンカラ）					
【第 5 回】 10/21（月）～ 31（木）の中 の昼休み	現地活動 あじあん祭で「丹波ブース」の設営と運営					
【第 6-9 回】 11/16（土）	あじあん祭で「丹波ブース」の設営と運営					

【第 6-9 回】 11/16（土）	あじあん祭で「丹波ブース」の設営と運営	
【第 6-9 回】 11/17（日）	あじあん祭で「丹波ブース」の設営と運営	
【第 6-9 回】 11/17（日）	あじあん祭で「丹波ブース」の設営と運営	
【第 10 回】 12/20（金）	事前学修② これまでのふりかえりと公開講座「丹波布ワークショップ」準備	
【第 11-14 回】 12/21（土）	三木市立中央図書館にて「丹波布ワークショップ」実施	
【第 11-14 回】 12/21（土）	三木市立中央図書館にて「丹波布ワークショップ」実施	
【第 11-14 回】 12/21（土）	三木市立中央図書館にて「丹波布ワークショップ」実施	
【第 11-14 回】 12/21（土）	三木市立中央図書館にて「丹波布ワークショップ」実施	
【第 15 回】 事後学修	これまでのふりかえり	

1.授業コード (ナンバリング)	SWK201-A51	2.科目名	児童家庭福祉 ※こども学3年生～		3.単位数	2
4.授業担当教員	馬場住子					
5.授業科目の区分	基幹	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育学部教育福祉学科こども学専攻教育・保育コース			9.履修学年	子ども学専攻3年～ 福祉学専攻2年～	
10.取得資格の要件	保育士資格必修		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【授業の目的】 児童家庭福祉の意義と歴史の変遷を知ることから、児童福祉の制度および実施体系についても理解する。また、児童の権利に関する条約や少子化・虐待・障害のある子ども・貧困など現代社会における児童家庭福祉の現状と課題についても理解を深める。児童福祉の専門職として子どもたちに向けた「子どもの権利」に関する教材づくりにも取り組み、実践力を養う。 【授業の概要】 テキストを基に児童家庭福祉の意義および制度、歴史の変遷について解説する。また、現代社会におけるさまざまな児童家庭福祉の現状と課題については、具体的な事例を通して学び、グループワークなどを通してどのように対応すべきかを考える。さらに、虐待・障害のある子ども・貧困家庭などについては、自ら調べ、ロールプレイングすることから児童家庭福祉の動向と今後の展望についての考察に取り組めるようにする。「子どもの権利」に関する教材づくりにも取り組み、学びを共有する。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷および制度や実施体系について理解するため、自ら努力することができる(学科 DP6)。 2. 子ども家庭福祉の現状と課題、動向と展望について理解し、それらの課題解決のために自ら考察することができる(学科 DP4)。 3. 子どもの人権擁護について子ども向けの教材づくりに取り組み、専門的知識を福祉や保育現場で活用することができる力を身に付ける(学科 DP5)。 【関連する学科 DP】 (4) 問題発見・解決力 教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。 (5) コミュニケーションスキル 教員・社会福祉従事者として教育や福祉の現場で円滑にコミュニケーションをとることができるスキルを獲得し、相互の立場を尊重した人間関係を構築することができる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に活用することができる。					
19.教科書・教材	「子どもと家庭の福祉を学ぶ」 松本園子 堀口美智子 森和子 著 ななみ書房 ISBN 978-4-910973-21-0					
20.参考文献	授業内で適宜紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ・課題①：児童福祉に関するキーワードについて各自で調べたこと、考えたこと) についての					

	レポート：5点×11(55%)〔学習目標①に対応〕 ・課題②：「オレンジリボン運動」についてのポスターづくり：ポスター 20点(20%)〔学習目標②に対応〕 ・課題③：「子どもの権利」についての紙芝居づくり：紙芝居 25点(25%)〔学習目標③に対応〕	
22.コメント	児童家庭福祉についての基礎的な専門知識を身に付けるとともにロールプレイなどさまざまな演習を通して支援における実践力も身に付けていただきたいと思います。できれば楽しみながら意欲的に受講していただければと思います。授業についての連絡はWeb Classよりのメール配信で行います。(欠席された方は特に)連絡事項については必ずみておくようお願いいたします。また、担当教員へのご連絡は***までお願いします。尚、履修においては子ども学専攻の方は3年～福祉学専攻の方は2年～となりますのでご注意ください。	
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1回目	児童福祉とは何か-児童とは・児童福祉の目的- レポート課題①(次週授業開始前に提出) 「オレンジリボン運動」について各自で調べる	個人作業 ・復習：児童福祉とは何か、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60分) ・予習：テキスト第2章を読んでおく。(60分)
2回目	児童福祉の課題-子どもの生活環境の変化・心と行動へのケアが必要な子どもたち- レポート課題②(次週授業開始前に提出) 「オレンジリボン運動」を通して子どもの虐待について各自で調べる	個人作業 ・復習：子どもの生活環境の変化と子育てをめぐる問題について、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60分) ・予習：テキスト第3章を読んでおく。(60分)
3回目	児童福祉の理念-子どもの権利・大人の権利- レポート課題③(次週授業開始前に提出) 「オレンジリボン運動」を通して子どもの虐待について各自でできることを考える	個人作業 ・復習：児童福祉の理念と国際的動向について、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60分) ・予習：テキスト第4章を読んでおく。(60分)
4回目	児童福祉の歴史-近代以前～児童福祉法制定まで・欧米における児童福祉の歩み- レポート課題④(次週授業開始前に提出) 「オレンジリボン運動」のポスターづくりについて考える	個人作業 ・復習：児童福祉の歴史・欧米における児童福祉の歩みについて、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60分) ・予習：テキスト第5章を読んでおく。(60分)
5回目	児童福祉および関連施策の体系-家庭の養育環境や子ども自身の課題を基に- レポート課題⑤(次週授業開始前に提出) 「オレンジリボン運動」ポスターづくりの準備をする	個人作業 ・復習：児童福祉の関連施策、児童対策に関わる主な法律など、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60分) ・予習：テキスト第6章を読んでおく。(60分)

6 回目	児童福祉の法制度-児童福祉法を理解する- レポート課題⑥(次週授業開始前に提出) 「オレンジリボン運動」ポスター作りをする(1)	個人作業 ・復習：児童福祉法と児童福祉施設について、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60 分) ・予習：テキスト第 7 章を読んでおく。(60 分)
7 回目	保育-保育をめぐる現状と課題- レポート課題⑦(次週授業開始前に提出) 「オレンジリボン運動」ポスター作りをする(2)	個人作業 ・復習：子ども子育て支援制度など現代の保育をめぐる状況などについて、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60 分) ・予習：テキスト第 8 章を読んでおく。(60 分)
8 回目	児童養護問題-社会的養護の現状と児童養護の今後の課題- レポート課題⑧(次週授業開始前に提出) 「オレンジリボン運動」ポスター作りをする(3)	個人作業 ・復習：児童虐待の背景など、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60 分) ・予習：テキスト第 9 章を読んでおく。(60 分)
9 回目	非行問題-非行の歴史の変遷・非行の背景と法制度- レポート課題⑨(次週授業開始前に提出) 「オレンジリボン運動」ポスターの発表	個人作業 ・復習：非行の背景・非行少年への対応など、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60 分) ・予習：テキスト第 10 章を読んでおく。(60 分)
10 回目	障がい児福祉-障害の定義・障害のある子どものニーズ・障害児福祉の制度- レポート課題⑩(次週授業開始前に提出) 紙芝居づくりについて考える	個人作業 ・復習：障害のある子どもの保育・教育など、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60 分) ・予習：テキスト第 11 章を読んでおく。(60 分)
11 回目	子どもの遊びの保障-子どもの「遊び」を保障する場と制度- レポート課題⑪(次週授業開始前に提出) 紙芝居づくりの構想を練る	個人作業 ・復習：「子どもの権利」としての「遊び」・子どもの「居場所」など、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60 分) ・予習：テキスト第 12 章を読んでおく。(60 分)
12 回目	児童福祉の専門職-行政機関・児童福祉施設などの専門職- 課題⑫紙芝居づくり案の作成	個人作業 ・復習：行政機関・児童福祉施設などの専門職などについて、授業で習ったことを各自でまとめておく。(60 分) ・予習：テキスト第 13 章を読んでおく。(60 分)
13 回目	世界の子どもたち-子どもの権利について考える(1)- 課題⑬紙芝居づくり(1)	個人作業 ・復習：子どもの権利について考える。(60 分)

		・ 予習：子どもの権利について考えたことを発表することができるようにしておく。(60分)
14 回目	世界の子どもたち-子どもの権利について考える(2)- 課題⑭紙芝居づくり(2)	個人作業 ・ 復習：子どもの権利について考える。(60分) ・ 予習：子どもの権利について考えたことを発表することができるようにしておく。(60分)
15 回目	総括-児童家庭福祉の現状と課題について各自で考える- 課題⑮紙芝居づくりの発表	個人作業 授業全体を振り返り、習ったことを復習する。(120 分)

1.授業コード (ナンバリング)	SWK202-A51	2.科目名	地域福祉論	3.単位数	4
4.授業担当教員	岩本裕子				
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期
8.履修可能な専攻	教育福祉学科 福祉学専攻			9.履修学年	1 年～
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義	
16.履修制限					
17.授業の目的と概要	【目的】 地域共生社会の実現に向けて、住民自身が福祉の主体となり、住み慣れた地域でどのようにすれば、より幸せに暮らしていくことができるのか、地域での福祉の現状やあり方やその援助方法について学びます。 【概要】 地域には、高齢者もいれば、障害者も、児童もといった多様な人々が暮らしています。「社会的孤立」が叫ばれる今、共に手を取り合い、タテ割りではなく、領域横断的・包括的に考えていくことで、「地域共生社会の実現」が必要です。本科目では特に「災害時の支援」をキーワードに、様々な経験科目や実践と結びつけながら、地域社会の安全安心を守るために、どうあるべきか、何ができるのか考えることをとおして地域福祉を学んでいきます。				
18.学習目標と DPとの関連	この科目は、学習目標は DP の(1)自律性、(2)社会貢献性、(3)多様性理解、(5)コミュニケーションスキル の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①現代の地域生活上の福祉課題と、地域共生社会の実現に向けた支援体制について説明できる。 ②地域福祉の基本的な考え方、理念、歴史を説明できる ③地域福祉の多様な主体、推進主体について説明できる ④地域を基盤としたソーシャルワークの展開について説明できる				
19.教科書・教材	社会福祉士養成講座（2021）『地域福祉と包括的支援体制』中央法規出版				
20.参考文献	相澤譲治・津田耕一・橋本有理子（2021）『新版 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ〔基礎編〕』みらい 市川一宏・大橋賢作・牧里每治（2013）『地域福祉の理論と方法 第2版』ミネルヴァ書房 上野谷加代子・松端克史・山縣文治編（2012）『よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房 岩間伸之・原田正樹著『地域福祉援助をつかむ』有斐閣 牧里每治・川島ゆり子・加山弾編著（2017）『地域再生と地域福祉ー機能と構造のクロスオーバーを求めてー』相川書房 高森 敬久・加納恵子・高田 真治・平野 隆之著（2003）『地域福祉援				
21.成績評価	用語確認テスト（随時実施）20 点 ワークシート 20 点 プレゼンテーション 20 点 総括レポート 40 点				
22.コメント	講義形式を基本としますが、DVD 等の活用、グループワーク演習、現場のゲスト講師をお招きする等し、できるだけ実際の実践や事例を示しながら、実態が理解できるように努めていきたいと思いますので、主体的な参加が望まれます。				

23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
9/26 第1回 第2回	1. オリエンテーション、授業のルールの確認 地域福祉とは ○イメージを広げる「私が出会った地域福祉の場面」 2. コミュニティ、つながり、助け合い について考える ○私がイメージするコミュニティとは ○いろいろなコミュニティ	○ワークシート課題の検討/記入 (90 分)
10/2 第3回 第4回	3. 社会的排除と社会的孤立について学ぶ ○私達の身近に社会的排除はあるか ○社会的孤立はなぜ起こるのか ホームレス支援の活動の事例から学ぶ 4. 自分たちの周りの地域生活課題について考える	○ワークシート課題の検討・記入 (90 分)
10/17 第5回 第6回	5. 地域で活躍する人々と組織（地域福祉の主体）① ○民生委員、児童委員、保護司 ○NPO、ボランティア ○当事者組織 6. 地域で活躍する人々と組織（地域福祉の主体）② ○NPO,ボランティア 市民活動、社会的起業など多様なセクター ○地縁組織とアソシエイト型組織 ○ 尼崎市内、自分の地域にある NPO 等の組織について調べ、まとめる	○ワークシートの検討・記入 (90 分) 各自 PC 持参
10/24 第7回 第8回	7. 地域で活躍する人々と組織（地域福祉の主体）② ○NPO,ボランティア 市民活動、社会的起業など多様なセクター ○地縁組織とアソシエイト型組織 8. 社会福祉協議会 ○社協の法的位置づけ、歴史 ○社協の特徴、意義と役割 社会福祉法人 ○社会福祉法人の歴史、位置づけ ○今日求められる地域での役割	○ワークシート課題の検討・記入 (90 分) 各自 PC 持参 (社協について調べる)
10/31 第9回 第10回	9. 地域福祉の課題とその解決に向けた実践について学ぶ① 10. 地域福祉の課題とその解決に向けた実践について学ぶ②	○ワークシート課題の検討・記入 (90 分) ゲスト予定 (日程変更の可能性あり。調整の上後日連絡)
11/7 第11回	11. 災害と地域福祉① ○真備町の事例から考える	○ワークシート課題の検討・記入 (90 分)

第 12 回	1 2. 災害と地域福祉② ○大学周辺のフィールドワークについての説明 と検討	
11/14 第 13 回 第 14 回	1 3. 地域福祉計画 ○尼崎市の地域福祉計画、他都市の地域福祉 計画 1 4. コミュニティ・ソーシャルワーク ○展開過程の全体像 ○ニーズ把握と社会資源（地域アセスメント）	○ワークシート課題の検討・記入（90 分） 各自 PC 持参
11/21 第 15 回 第 16 回	1 5. 住民の主体形成と福祉教育・社会資源の開発① 1 6. 住民の主体形成と福祉教育・社会資源の開発② ○福祉教育のプログラムの作成	○ワークシート課題の検討・記入（90 分）
11/28 第 17 回 第 18 回	1 7. 災害と地域福祉③ ○大学周辺のフィールドワークを行う 1 8. 災害と地域福祉④ ○大学周辺のフィールドワークを行う	○ワークシート課題の検討・記入（90 分） 日程は別途メンバーと相談の上実施
12/5 第 19 回 第 20 回	1 9. 災害と地域福祉⑤ ○実施したフィールドワークを振り返って内容 の検討 （「社会調査論Ⅰ」で行った尼崎市について のデータも活用） ○地域アセスメントとしてまとめる 2 0. 災害と地域福祉⑥ 地域アセスメントの内容を共有し、深める	○ワークシート課題の検討・記入（90 分）
12/12 第 21 回 第 22 回	2 1. 災害と地域福祉⑦ ○HUG で疑似体験する避難所運営 2 2. 災害と地域福祉⑧ ○HUG で疑似体験する避難所運営	○ワークシート課題の検討・記入（90 分） PC 持参
12/19 第 23 回 第 24 回	2 3. 災害支援と地域福祉⑨ ○災害ボランティアセンターについて学ぶ 2 4. 災害支援と地域福祉⑩ ○災害ボランティアセンターについて学ぶ	○ワークシート課題の検討・記入（90 分）
1/16 第 25 回 第 26 回	2 5. 災害支援と地域福祉⑪ 2 4. 災害支援と地域福祉⑫	PC 持参
1/23 第 27 回 第 28 回	2 7. 大学周辺地域における「安全・安心の地域福祉 計画」を考える② 2 8. 大学周辺地域における「安全・安心の地域福祉 計画」を考える③	○ワークシート課題の検討・記入（90 分） PC 持参

	○発表	
1/30 第 29 回 第 30 回	2 9．全体振り返り 実践にどう活かす？ 3 0．課題レポート作成に向けて	PC 持参

1.授業コード (ナンバリング)	SWK203-A51	2.科目名	公的扶助論		3.単位数	2
4.授業担当教員	道中 隆					
5.授業科目の区分	展開科目 保健と福祉、行政分野 における実務経験のある 教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義を中心に社会事象の問題や課題を グループディスカッションし、学生の意見、 プレゼン等アクティブラーニングを行う。		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 貧困の格差が拡大する中、働いても生活が困難なボーダーライン層やワーキングプアが大きく裾野を広げている。最後のセーフティネットである生活保護受給者が増加する中、中間的セーフティネットの生活困窮者自立支援制度の利用者も急増している。これらの貧困者を対象とする制度のしくみを理解することを目的とする。 【概要】 救貧的機能の二次的セーフティネットの生活保護の動向や生活困窮者自立支援の制度運用に関する自治体財政、自立支援のあり方、保護の実施体制などについて議論したい。適宜、社会事象をとりあげ生活困窮世帯の自立支援方策について、政策的課題として認識を深める。					
18.学習目標と DPとの関連	①自律的で主体的な態度(自律性) ②社会に能動的に貢献する姿勢(社会的貢献性) ③多様な文化やその背景を理解し受け入れる能力(多様性の理解): 自分とは異なる価値観や考え方を持つ人々の社会的・文化的背景を理解し受け入れることができる ④問題発見・解決力: 生活困窮等貧困に対する理解を深め、新聞等の社会事象から課題を考えることができる。 ⑤コミュニケーションスキル: 多様な方法で情報収集と自己表現ができ意見交換ができる。また必要されるコミュニケーション力を獲得し円滑な人間関係を構築することができる。 ⑥専門的知識・技能の活用力: 教育福祉の専門性に関して社会事象を専門知識を使って説明することができる					
19.教科書・教材	①最新社会福祉士養成講座(2022) 『4 貧困に対する支援』,中央法規 ②道中隆(2016) 『第 2 版 生活保護の面接必携—公的扶助ケースワーク実践 I』 Practical Social Work Series, ミネルヴァ書房					
20.参考文献	・道中隆(2012) 『生活保護と日本型ワーキングプア—貧困の固定化と世代間継承』 ミネルヴァ書房 ・道中隆(2012) 『生活保護のスーパービジョン—公的扶助ケースワーク実践 II』, ミネルヴァ書房 ・道中隆(2016) 『第 2 版 貧困の世代間継承—社会的不利益の連鎖を断つ』 晃洋書房					
21.成績評価	①小課題・ミニコメント(5%×5 回)= 25% 【学習目標①②③に対応】 ②ワーク等.....(5%×5 回)= 25% 【学習目標①③④⑤に対応】					

	③レポート= 10% 【学習目標③④⑥に対応】 ④総括試験= 40% 【学習目標①②③④⑤⑥に対応】 評価は上記①～④の積算方式によって総括評価を行う	
22.コメント	■事例や事象等についての研究・考察 4 回（うち 2 回はグループで検討） ・アサイメントを提出した翌週の授業で意見を発表。ワークシートを提出する ・検討・考察時は他の人と積極的に意見交換する。ワークシートは各個人がまとめる ■レポート課題：『生活保護制度をめぐるスティグマについて』 3,000 字	
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室で、受講生からの質問等への対応を行ないます	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回 10/02】	オリエンテーション (講義の概要、授業の進め方とテキストの使い方など) 第 1 章 公的扶助の概念 概念と範囲,意義と役割 セーフティネット機能とナショナルミニマム機能 〔●①ワーク〕一保護の手前の支援とは	★シラバスと教科書★を必携 ・次回までに小田原市福祉事務所の生活保護 CW ジャンパー事件を調べてくる(2017.1 新聞 等掲載)。
【第 2 回 10/09】	第 2 章 貧困の概念と生活困窮者の生活実態・・・① 教科書 pp18-40 貧困概念、生活実態、保護制度の概要、取り巻く環 境 貧困の概念、貧困とは何か 小田原市福祉事務所考えてみよう! 『DVD 保護 CW ジャンパー事件』 ??《小課題・ミニコメントⅠ》??	○保護の補足性について調べてくる(60 分)。 小野市福祉給付金監視条例について調べてく る(60 分)。 《小課題・ミニコメントⅠ》
【第 3 回 10/16】	第 2 章 貧困の概念・・・・・・・・・・・・・・ ②教科書 pp.14-22 DVD 面接相談員の基本的態度(ここに寄り添う 面接) 貧困の要因と低所得者問題 『小野市福祉給付金監視条例』をめぐる論点整理 ワ ーク 〔●②ワーク〕一事例研究、意見交換、グループで 発表	解説による重要事項の整理 ・次回 ホームレスの実態について調べてくる ・次回 扶養義務について調べてくる
【第 4 回 10/23】	第 3 章 貧困の歴史・・・・・・・・・・・・・・①教科 書 pp.42-64 第 8 章 ホームレスの処遇の実際・・・・・・・・②教科書 pp.168-188 ※参考文献一(道中)「ホームレスの退所行動」『季刊 社会保障研究』 国立社会保障・人口問題研究所 pp.121-133. 〔●③ワーク〕 グループで意見交換、グループで発表する 効果的な面接の方法 〔●④ワーク〕一 DVD 扶養義務をめぐる課題	○夫婦 子ども 2 人(35,30, 9, 4)の 4 人世帯の 月額最低生活費を算定する。ただし 1 級地 の 1 とする(60 分)。
【第 5 回 10/30】	第 4 章 生活保護制度－その 1 第 1 節 生活保護制度・・・・・・・・・・・・①教科 書 pp.65-109 第 2 節 保護の動向・・・・・・・・・・・・①教科	各自がワークシート②にまとめて次回提出 (120 分)

	書 pp.110-122 生活保護法の構成 福祉事務所の体制 福祉事務所の成立と展開、社会福祉主事 ◎第4・5回授業の学修をもとに事例検討 ○演習 最低生活費の算定方法 ○NHK DVD『保護基準の引き下げ』論説 第1章 生活保護制度の概要 第2節 相談窓口での基本的態度・・・・・・②教科書 pp.7-9	
【第6回 11/06】	第4章 生活保護制度のしくみそのⅡ 生活保護法の目的と原理、原則・・・・・・①教科書 pp.62-70 世帯認定 世帯分離の取り扱い(自立助長のための分離) 扶養義務(法第4条保護の補足性)・・・・・・②教科書 pp.4-9 解説による重要事項の整理 グループワーク②の発表、ワークシート提出 事例について研究・考察しグループで意見交換し発表 ??《小課題・ミニコメントⅡ》??	○これまでの授業の復習をしておくこと(180分) 《小課題・ミニコメント》
【第7回 11/13】	第5章 生活保護制度のしくみそのⅢ 保護の種類と内容および方法・・・・・・①教科書 pp.71-84 保護施設・・・・・・①教科書 pp.85-87 第2章 相談窓口の実際 第2節 面接相談と保護の申請から決定まで・・・・・・②教科書 pp.71-84 解説による重要事項の整理 社会的養護演習 【●⑤ワーク】—社会的養護事例	○これまでの授業の復習をしておくこと(180分) ・被保護者の権利および義務について調べてくる
【第8回 11/20】	第5章 生活保護制度のしくみそのⅣ 被保護者の権利および義務・・・・・・①教科書 pp.92-94 不正・不適正対策・・・・・・①教科書 pp.94-96 第3章 保護受給母子世帯の社会的不利益・・・参考書 pp.30-55 解説による重要事項の整理 【●⑥ワーク】—実践的面接相談 1-10 事例・・・・・・②教科書 pp.2-13 最低賃金制度、演習問題 ??《小課題・ミニコメントⅢ》??	各自がワークシート④にまとめて翌週提出(180分) 《小課題・ミニコメントⅢ》
【第9回 11/27】	第5章 最低生活保障水準と生活保護基準・・・・・・①教科書 pp.102-118 最低生活保障水準の考え方 生活保護基準の考え方	○次回予習として、教科書をよく読んでわからないところや疑問点をチェック(120分)

	生活保護基準額の実際・・・②教科書 pp.314-326 第 6 章生活保護の動向・・・①教科書 pp.124-149 被保護人員および被保護世帯数 保護の開始・廃止の動向、医療扶助・介護扶助の動向 【●⑦、⑧ワーク】ー最低賃金制度	
【第 10 回 12/04】	○保護の実施機関(福祉事務所) 社会福祉法、生活保護法 第 7 章 低所得者対策の概要・・・①教科書 pp.150-183 生活困窮者自立支援法 第 12 章自立支援プログラムの実際・・・②教科書 pp.240-249 第 5 章 ホームレスの就労自立支援・・・②教科書 pp.77-109 低所得者、ホームレス、貧困層への自立支援 生活福祉資金貸付制度、住宅給付金制度、ワンストップサービス 解説による重要事項の整理 演習 *グループワーク ⑫B ケース、⑬	○これまでの授業の復習をしておくこと。 (180 分)
【第 11 回 12/11】	第 8 章 生活保護の運営実施体制と関係機関・団体 国・都道府県・市町村の役割・・・①教科書 pp.184-191 福祉事務所の役割・・・①教科書 pp.192-195 福祉事務所専門職の役割・・・①教科書 pp.196-197 【●⑨ワーク】ー社協のしごと、子ども食堂 Matrix ??《小課題・ミニコメントⅣ》??	○これまでの授業の復習をしておくこと。 (180 分)
【第 12 回 12/18】	PW 作成ー生活保護制度のしくみ①ー 第 9 章 貧困・低所得者に対する相談援助活動・・・①教科書 pp.189-213 第 10 章生活保護における自立支援・・・①教科書 pp.228-246 ■■最終レポート課題 ■■ 『生活保護制度を巡るスティグマについて』 3,000 字	★★レポート提出★★
【第 13 回 01/08】	第 10 章 生活保護における自立支援・・・①教科書 pp.215-234 第 6 章 生活保護等の不正受給の現状と課題・・・参考書 pp.110-124 第 7 章 不正受給の社会経済的影響・・・参考書 pp.125-131 生活保護の行財政と制度改革 自治体の財政と今後の課題 【●?ワーク】ー事例について研究・考察し、意見交	パソコン持参

	換 ??《小課題・ミニコメントⅤ》??	
【第 14 回 01/15】	第 8 章 生活保護制度改革の視点と課題・・・・・・・・・・ 参考書 pp.132-139 制度改革の視点 * ワークシート提出 ■■総括試験■■	■■総括試験■■ 実施
【第 15 回 01/22】	全体のまとめ ふりかえり	

1.授業コード (ナンバリング)	SWK206-Y51	2.科目名	福祉社会論		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本晃輔					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	本授業の目的は福祉について社会的に捉えることにある。福祉は高齢者のためのもの、といった理解があるかもしれないが、誰にとっても必要な事柄である。 ではなぜ福祉が必要なのか。それは誰もが支えなくてはならないものなのか。社会の基盤というのはいったいどういうことなのか。 そこで本授業では福祉について受講者にとって身近な問題から考える。そして社会における福祉の意義や意味について議論する。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP のうち「社会的貢献性」「多様性理解」「問題発見・解決力」と結びついている。学修目標は以下の通りである。 (1) 福祉の社会課題を具体的に提示することができる（問題発見・解決力） (2) 福祉における多様なアクターについて説明することができる（多様性理解） (3) 福祉の社会課題を社会的に説明することができる（問題発見・解決力）					
19.教科書・教材	武川正吾他編 2020『よくわかる福祉社会学』ミネルヴァ書房					
20.参考文献	適時提示する					
21.成績評価	(1) ディスカッションペーパー（毎回）・・・30% (2) 問題発見ペーパー（5回）・・・30% (3) 課題レポート・・・40%					
22.コメント	福祉について考えることは私たちにとって遠く離れたことのように思えます。ですが私たちの日常に溢れていることがらです。これらをみなで議論することが本授業で取り組むことです。					
23.オフィスアワー	後日追記します。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	福祉とはなにか 福祉と社会の関係について学ぶ			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（1）を記入する。		
第 2 回	福祉と社会を考える 福祉に関わる社会的組織、人材を知る			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 3 回	福祉と日本社会（1） 戦後の福祉政策までを概観する			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 4 回	福祉と日本社会（2） 現在の福祉の政治状況について概観する			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（2）を記入する。		
第 5 回	福祉は必要か？（1） 福祉に対する批判・異議申し立てについて考える			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 6 回	福祉は必要か？（2） 将来の福祉について考える。			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		
第 7 回	福祉と社会理論（1） シャドウ・ワーク、福祉レジーム論、ケア			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（3）を記入する。		
第 8 回	福祉と社会理論（2） シティズンシップと外国人			復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。		

第 9 回	福祉と社会理論（３） 障害者と社会モデル	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（４）を記入する。
第 10 回	社会福祉と当事者（１） 当事者に寄り添った福祉は可能か？	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 11 回	社会福祉と当事者（２） 当事者に寄り添った福祉団体。	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 12 回	福祉の実際（１） 地域福祉と地域包括ケア（高齢者福祉）	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：問題発見ペーパー（５）を記入する。
第 13 回	福祉の実際（２） 地域福祉と生活保護（社会保障）	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：配布資料の予習。
第 14 回	福祉の実際（３） 地域と児童福祉（子どもの福祉）	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：地域課題レポートの作成。
第 15 回	まとめ－社会と福祉の関係を考える	復習：授業の復習及び授業ノートの整理。 予習：地域課題レポートの作成。

1.授業コード (ナンバリング)	SWK304-A51	2.科目名	更生保護制度		3.単位数	2
4.授業担当教員	川端英樹					
5.授業科目の区分	展開科目／更生保護行政分野における実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福祉学専攻			9.履修学年	3 年生～	
10.取得資格の要件	社会福祉士国家試験及び精神保健福祉士国家試験の受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】社会福祉の専門職として活動する際に必要な更生保護制度についての知識を習得するとともに、実際に展開されている更生保護の諸活動の要点・特色についても理解することを目的とします。 【概要】近年、更生保護制度の下で活動する社会福祉士や精神保健福祉士が増えており、また、社会福祉従事者と保護観察官や保護司などの更生保護従事者とが連携して活動する機会も増えています。 一方、更生保護制度は、過去に非行があった少年や罪を犯した成人が、立ち直って、社会の一員として復帰することを助ける制度であり、安全・安心の社会づくりの一翼を担うものです。 この科目では、実際に展開されている更生保護の諸活動に即しながら、社会福祉士の資格を取得しようとする学生を中心としつつも広く福祉学専攻の学生に対して、教養として知っておくべき更生保護の基礎について解説します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）の学修に関連しています。即ち、社会福祉従事者として社会の動向をふまえ、福祉の現場において必要とされる実践力を身につけ、地域社会や他者のために責任ある行動をとることができるようになるため、近年、社会福祉との関係が深まっている更生保護について、必要な知識が得られます。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①社会福祉における「安全・安心の社会づくり」の重要性について説明できるようになる。 ②「安全・安心の社会づくり」における更生保護の役割と意義について説明できるようになる。 ③社会福祉従事者として、保護観察官や保護司などの更生保護従事者と連携して活動できるようになる。 ④社会福祉士の国家試験に合格するために、有効な知識が得られる。 ⑤保護観察官、少年院教官、少年鑑別所技官又は家庭裁判所調査官になる上で、有効な知識が得られる。					
19.教科書・教材	未定（＊ 9 月の大学からの販売案内までに確定して追加掲載します。）					
20.参考文献	1 令和 5 年版 犯罪白書 法務省 法務総合研究所 編 2 適宜、資料を配付します。 3 関連サイトの URL や関連論文の文献情報は授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	レポート(中間) 40% 総括試験(期末) 60%					
22.コメント	「更生保護制度」は社会福祉士国家試験及び精神保健福祉士国家試験の基礎科目である「刑					

	事司法と福祉」に対応しており、単位を取らないと国家試験は受けられません。したがって、在学中の国家試験合格を目指す人のために、過去問についても、積極的に授業の中で取り上げて解説します。また、社会福祉士でなくても社会福祉の仕事をする上で、更生保護について予備知識を持ち理解を深めておくことはプラスになります。さらに、社会福祉従事者でなくても「安全・安心の社会」で生活するために、社会人の教養として更生保護について知っておくことは	
23.オフィスアワー	授業の前後に、教室や非常勤講師控室で、受講生からの質問等に対応します。	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション 1 法務省企画による DVD ビデオ(30 分)を鑑賞し「立ち直ること、支えること、出会うこと」について、理解を深める。 2 福祉学専攻の学生が更生保護制度を学ぶ意義(社会人として) 安全・安心の社会とは 犯罪のない社会とは 再犯・再非行防止とは	教材、配付資料などによる予習、復習
第 2 回	更生保護とは 1 法務省企画の DVD ビデオ(22 分)を鑑賞し、刑事司法と更生保護の概略をイメージする。 2 福祉学専攻の学生が更生保護制度を学ぶ意義(社会福祉従事者として) 社会福祉と更生保護はどういう関係にあるのか (社会福祉士として) 社会福祉士の新しい活躍の場～保護観察所、地域生活定着支援センター、刑務所、少年院、検察庁など 3 法務省専門職員(人間科学)採用試験について 4 社会福祉士国家試験について	教材、配付資料などによる予習、復習
第 3 回	刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境	教材、配付資料などによる予習、復習
第 4 回	刑事司法	教材、配付資料などによる予習、復習
第 5 回	少年司法	教材、配付資料などによる予習、復習
第 6 回	1 刑事司法と福祉 2 更生保護制度の概要 3 恩赦	教材、配付資料などによる予習、復習
第 7 回	1 生活環境の調整 2 仮釈放等	教材、配付資料などによる予習、復習
第 8 回	更生保護施設見学 更生保護施設 和衷会(大阪市北区) 案内と解説 施設長 國府 実 氏	教材、配付資料などによる予習、復習 中間期レポート作成
第 9 回	保護観察	教材、配付資料などによる予習、復習
第 10 回	1 更生緊急保護 2 犯罪予防活動 3 事例研究	教材、配付資料などによる予習、復習
第 11 回	1 更生保護の担い手	教材、配付資料などによる予習、復習

	2 関係機関・団体	
第 12 回	医療観察制度	中間期レポート提出・締切り 教材、配付資料などによる予習、復習
第 13 回	犯罪被害者支援	教材、配付資料などによる予習、復習
第 14 回	1 刑事司法における福祉の役割と今後の展望 2 社会福祉士国家試験の過去問の解説	教材、配付資料などによる予習、復習
第 15 回	注意事項説明、用紙配布等 10 分 総括試験 45 分 答案用紙回収 5 分 解説と振り返り 30 分	教材、配付資料などによる予習、復習

1.授業コード (ナンバリング)	SWK305-A51	2.科目名	スクールソーシャルワーク論		3.単位数	2
4.授業担当教員	西野緑					
5.授業科目の区分	専攻選択/展開	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科			9.履修学年	3 年・4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】この講義では、スクールソーシャルワークを学校で実践するために、必要な知識、理論、価値を身につけることを目的とする。 【概要】具体的には、現在の子どもや学校の状況およびスクールソーシャルワークで扱う具体的な事象（いじめ、不登校、虐待、非行、発達障害、学級崩壊等）について取りあげ、支援をするにあたって、その背景まで多面的に考察・分析しながら、子どもの最善の利益を念頭に置きながら、チーム学校としてできること、チーム学校の一員としてスクールソーシャルワーカーができることを考える。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力の学修に関連しています。本科目の学習目標は次の通りです。 ① 小中学生をめぐる子どもや家庭や学校の状況を知り、説明できる。 ② 学校の現状と課題、チーム学校についての理解が深まり、説明できる。 ③ 学校で起こる生徒指導上の課題（不登校、虐待、DV、発達障害、貧困やひとり親、非行、問題行動・いじめ、学級崩壊）について、現状と課題を列挙できる。 ④ ③の現状や課題と支援方法を関連づけることができる。 ⑤ スクールソーシャルワークとは何かを理解し、学校におけるソーシャルワーカーの役割を説明できる。					
19.教科書・教材	大塚美和子・西野緑・峯本耕治編（2020）『「チーム学校」を実現するスクールソーシャルワーク』,明石書店.					
20.参考文献	西野緑（2018）『子ども虐待とスクールソーシャルワーク チーム学校を基盤とする「育む環境」の創造』, 明石書店. 川村隆彦（2011）『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』, 中央法規					
21.成績評価	①授業中の発言や質問 5％ ②授業のまとめ＝15％（当日の学びのポイントをまとめる） ③中間レポート＝20％ ④総括試験＝60％					
22.コメント	この授業は、スクールソーシャルワーク演習、スクールソーシャルワーク実習指導、スクールソーシャルワーク実習受講のための基礎となる必須科目である。講義中心ではあるが、グループディスカッション等を取り入れる。実践をふまえた学校現場の最新の状況を伝えるので、子どもをめぐる現在の状況とその背景、学校現場の実際を知ることができる。授業では、参加と尊重を基本的ルールとするため、受講者には積極的な参加（発表、グループワークへの積極的参加等）と尊重（人の発言を傾聴すること）を求める。					
23.オフィスアワー	授業の前後に教室や講師控室等で、受講生からの質問等への対応をする。					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	④グループワーク、⑤プレゼンテーション ・自己紹介と授業の概要。 ・学校における子どもの状況や子どもをめぐる家庭や学校の状況を知る。	学校における子どもの状況や家庭、学校の状況を聞いて、次回のグループディスカッションで自分の考えが発表できるようにまとめておく。
第 2 回	なぜ、スクールソーシャルワークが必要なのか？ ④グループワーク、⑤プレゼンテーション ・スクールソーシャルワーク導入の経緯 ・なぜ今、学校でソーシャルワークが求められているのかを学ぶ。 ・なぜ、チーム学校なのか？	現在の学校の状況と自分自身の小中学校時代を振り返り、何が変わったのか、変化したとすればそれはなぜなのか、授業のまとめを行ない、次回発表できるようにする。
第 3 回	スクールソーシャルワーク実践の実際 ③ディスカッション ・DVD を観賞し、ケース会議の雰囲気をつかむ。 ・スクールソーシャルワーカーの活動を概観する。 ・スクールソーシャルワークの役割を理解する。 ・スクールソーシャルワークに必須の価値や理念について学ぶ。	DVD の感想を書いてくる。
第 4 回	スクールソーシャルワークの支援方法（マイクロレベル個別援助） ①不登校 ④グループワーク ・不登校について理解し、スクールソーシャルワークの不登校支援について学ぶ。	不登校支援について、考えたことや感じたことを書いてくる。
第 5 回	スクールソーシャルワークの支援方法（マイクロレベル個別援助）②虐待 ④グループワーク ・子ども虐待について理解し、スクールソーシャルワークの虐待問題への介入について学ぶ。	虐待に関する新聞記事や読んだ本の中で、関心を持った記事を持参し、概要・背景・選んだ理由等を説明できるようにする。
第 6 回	スクールソーシャルワークの支援方法（マイクロレベル個別援助） ③DV 家庭 ③ディスカッション/ディベート ・DV が子どもに与える影響と支援について学ぶ。	DV に関する新聞記事や読んだ本の中で、関心を持った記事を持参し、概要・背景・選んだ理由等を説明できるようにする。
第 7 回	貧困とひとり親 ④グループワーク ・ひとり親家庭や貧困家庭について理解し、家族支援の枠組みについて学ぶ。	授業内の範囲の教科書を読んでおく。
第 8 回	スクールソーシャルワークの支援方法（マイクロレベル個別援助）	授業内の範囲の教科書の事例を読んで、自分の考えをまとめる。

	④発達障害 ・発達障害について理解し、スクールソーシャルワークとしての支援について学ぶ。 ③ディスカッション	
第 9 回	スクールソーシャルワークの支援方法（マイクロレベル個別援助） ⑤問題行動 ④グループワーク ・問題行動について理解し、スクールソーシャルワークの問題行動の支援について学ぶ。	問題行動に関する本を調べて読む。
第 10 回	スクールソーシャルワークの支援方法（マイクロレベル個別援助）⑦非行 ・非行について理解し、スクールソーシャルワークの非行の支援について学ぶ。 ④グループワーク	授業内の範囲の教科書を読んでおく。
第 11 回	スクールソーシャルワークの支援方法（マイクロレベル集団援助） ①いじめ ③ディスカッション ・いじめについて理解し、支援方法として修復的対話について学ぶ。	授業内の範囲の教科書を読んでおく。
第 12 回	スクールソーシャルワークの支援方法（マイクロレベル集団援助） ②学級崩壊 グループワーク ・学級崩壊について理解し、集団援助としての支援方法について学ぶ。	グループ内で授業内の議論のまとめを行ない、次回発表できるようにする。
第 13 回	SSW のコミュニケーション ⑥プレゼンテーション ・コミュニケーションについて学ぶ ・自分のコミュニケーションを振り返る	アサーションについて調べて、提出する。
第 14 回	スクールソーシャルワークについてのまとめ ④グループワーク ・SSW の機能 ・スクールソーシャルワークのコンサルテーションとスーパーヴィジョンについて学ぶ	総括試験の準備をする
第 15 回	総括試験とまとめ	試験終了後に答え合わせを行うので、間違ったところは、復習しておく。

1.授業コード (ナンバリング)	SWS101-A51	2.科目名	社会福祉概論Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本秀樹					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	社会福祉を構成する様々な要素を概観していきます。学びの範囲は多岐に渡りますが、専門的な関心につなげていけるよう、福祉の思想や哲学をもとに、実践的な理論と具体的な社会問題との接続を試みます。あわせて、日本の社会福祉政策の特徴や今日的な課題について、国際社会の動きを追いながら諸外国との比較によって理解を進めていきます。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、社会的貢献性、問題発見・解決力の学修に関連しています。 ①福祉的な文脈で社会現象を説明することが出来る。 ②持続可能なくらしのための各種制度がわかる。 ③セーフティネットの仕組みについて説明することができる。					
19.教科書・教材	適宜提示します。					
20.参考文献	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）「社会福祉の原理と政策」中央法規 ISBN：978-4-8058-8234-4					
21.成績評価	■毎回のふりかえり：13 回・30%（学習目標①②） ・webclass に提出する ■最終レポート：40%（学習目標①②③） ・webclass に提出する ■学習目標のふりかえり：30%（学習目標①②③） ・学習目標の 3 つの観点に照らし合わせて学びのふりかえりを行う ・webclass に提出する					
22.コメント	毎回パソコンを持参してください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】 10/3	・オリエンテーション ・社会福祉の原理－その意味と展開			【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分）		
【第 2 回】 10/10	社会福祉の歴史 ・社会福祉の歴史を学ぶ視点 ・欧米の社会福祉の歴史的展開 ・日本の社会福祉の歴史的展開			【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【次回までの提出物】 ・ふりかえり①		
【第 3 回】 10/17	社会福祉の思想・哲学、理論 ・社会福祉の思想・哲学 ・社会福祉の理論 ・社会福祉の論点 ・社会福祉の対象とニーズ			【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【次回までの提出物】		

		・ふりかえり②
【第 4 回】 10/24	社会問題と社会構造 ・現代における社会問題 ・社会問題の構造的背景	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【次回までの提出物】 ・ふりかえり③
【第 5 回】 10/31	福祉政策の基本的な視点 ・福祉政策とは何か ・福祉政策において重要な概念・理念	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【次回までの提出物】 ・ふりかえり④
【第 6 回】 11/7	福祉政策におけるニーズと資源 ・ニーズ（必要） ・資源（リソース）	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【次回までの提出物】 ・ふりかえり⑤
【第 7 回】 11/14	福祉政策の構成要素と過程 ・福祉政策の構成要素 ・福祉政策の過程と評価	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【次回までの提出物】 ・ふりかえり⑥
【第 8 回】 11/21	福祉政策の動向と課題 ・福祉政策と包括的支援の現状 ・福祉政策と包括的支援の課題	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【次回までの提出物】 ・ふりかえり⑦
【第 9 回】 11/28	福祉政策と関連施策① ・保健医療政策 ・教育政策 ・住宅政策 ・労働政策	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【次回までの提出物】 ・ふりかえり⑧
【第 10 回】 12/5	福祉政策と関連施策② ・災害政策	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【次回までの提出物】 ・ふりかえり⑨
【第 11 回】 12/12	福祉サービスの供給と利用の過程 ・福祉供給部門 ・福祉供給過程 ・福祉利用過程	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【次回までの提出物】

		・ふりかえり⑩
【第 12 回】 12/19	福祉政策の国際比較① ・国際比較の視点と方法 ・福祉政策の動向：欧米	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【次回までの提出物】 ・ふりかえり⑪
【第 13 回】 1/9	福祉政策の国際比較② ・福祉政策の動向：東アジア ・福祉政策の新しい潮流と国際比較の新しい課題	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【次回までの提出物】 ・ふりかえり⑫
【第 14 回】 1/16	これからの社会福祉－出発点・到達点・展望	【今回の復習】 授業ノートを完成させる（90 分） 【次回の予習】 ・キーワードしらべ（90 分） 【次回までの提出物】 ・ふりかえり⑬
【第 15 回】 1/23	学びのまとめ ・福祉的な文脈で社会現象を説明することが出来る。 ・持続可能なくらしのための各種制度がわかる。 ・セーフティネットの仕組みについて説明することができる。	【提出物】 ・最終レポート ・学習目標のふりかえり ・webclass へ投稿 【今回の復習】 ・学びのまとめをする（180 分）

1.授業コード (ナンバリング)	SWS104-Y51	2.科目名	産業・組織心理学（2023 年度生・2024 年度生）		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	1 年～	
10.取得資格の要件	公認心理師 認定心理士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本講義を通じて産業・組織心理学の主要概念について理解し、働く人々のキャリアや生活をより良くする視点を獲得することを目的とする。 【概要】 産業・組織心理学は、人が働く上で経験する心理および行動の様相について心理学的視点から明らかにしようとする学問である。授業においては、産業・組織における人々の心理および行動、キャリアについて受講者自らが考える時間を設ける。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の（1）自律性（2）社会的貢献性（3）多様性理解（4）問題発見・解決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①産業・組織心理学が扱う、諸領域の基礎的な理論について説明できる。 ②組織の中で生じる人の行動や、様々な問題とそれに必要な支援について具体的に理解し、説明できる。 ③産業・組織心理学の知見を自分自身の就業・キャリア発展に活かすことができる。					
19.教科書・教材	webclass にレジュメをアップしますので、授業開始までに印刷しておくこと。					
20.参考文献	基礎から学ぶ産業・組織心理学 幸田 達郎（著）勁草書房 2020 産業・組織心理学を学ぶー心理職のためのエッセンシャルズ 金井 篤子（編著）北大路書房 2019 よくわかる産業・組織心理学 山口裕幸・金井篤子（編）ミネルヴァ書房 2007					
21.成績評価	1. 各回の 1minutepaper：2％×14 回＝28％（学習目標の②③④に対応） 2. グループワーク時の相互評価：6％×4 回＝24％（学習目標の①②③④に対応） 3. 到達度確認テスト：48％×1 回＝48％（学習目標の①②③④に対応）					
22.コメント	※前日までに次回のレジュメ(ppt の穴抜き)を webclass に用意します。 レジュメは授業前に印刷をしておいてください。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	ガイダンス：産業・組織心理学とは何か ・産業・組織心理学の歴史と研究領域について概観する					
第 2 回	採用と就職Ⅰ 採用計画					

第 3 回	採用と就職Ⅱ 募集活動	
第 4 回	モチベーションⅠ モチベーションとは何か、内容理論	
第 5 回	モチベーションⅡ 過程理論	
第 6 回	リーダーシップⅠ リーダーシップの特性論	
第 7 回	リーダーシップⅡ 行動論	
第 8 回	リーダーシップⅢ 現代のリーダーシップ論	
第 9 回	集団のダイナミックスⅠ 組織と個人の相互作用	
第 10 回	集団のダイナミックスⅡ 組織におけるチームワーク	
第 11 回	企業活動と消費者	
第 12 回	ストレスⅠ ストレスとは何か、職業性ストレス	
第 13 回	ストレスⅡ メンタルヘルスとストレスコーピング	
第 14 回	キャリアとキャリア発達	
第 15 回	到達度確認テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	SWS206-Y52	2.科目名	産業・組織心理学（2022 年度生以前 秋春通 年）		3.単位数	4
4.授業担当教員	沼田真美、有吉美恵					
5.授業科目の区分	基幹科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期～2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科 心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	認定心理士 公認心理師		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	職業選択からはじまり、職業、会社組織での役割などの社会と個人との関係は生涯にわたって 続き、絶えず変化していく。自らの人生およびキャリアを考え、それをデザインしていくうえ において必要な心理学的知識を習得するとともに、自らの内面を捉える論理的思考力を身につ ける。 また、消費者の心理やビジネスコミュニケーションを学ぶとともに、職場環境の中で生じる 様々な問題とそれに対処するための知識を身につける。本授業では、このような観点からキャ リアにまつわる心理学的な知見を学ぶ。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は DP の（1）自律性（2）社会的貢献性（3）多様性理解（4）問題発見・解 決力、の学修に関連しています。 本科目の学習目標は次のとおりです。 ①産業・組織心理学が扱う、諸領域の基礎的な理論について説明できる。 ②組織の中で生じる人の行動や、様々な問題とそれに必要な支援について具体的に理解し、説 明できる。 ③消費者の購買行動の規定因に関わる心理について理解し、説明できる。 ④産業・組織心理学の知見を自分自身の就業・キャリア発展に活かすことができる。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布する					
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	成績評価は、2024 年度秋学期月曜 3 限 50％と 2025 年度春学期 50％を合わせて 100％です。 2024 年度秋学期 有吉（主に組織心理学を担当） 1. 各回の 1minutepaper：1％×14 回＝14％（学習目標の②③④に対応） 2. グループワーク時の相互評価：3％×4 回＝12％（学習目標の①②③④に対応） 3. 到達度確認テスト：24％×1 回＝24％（学習目標の①②③④に対応） 2025 年度春学期 沼田（主に消費者心理学を担当） 1. 各回小課題：25％（学習目標の②③④に対応） 2. 到達度確認テスト：25					
22.コメント						
23.オフィスアワー	初回授業内でお伝えします					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	【第 1 回】ガイダンス：産業・組織心理学の歴史と研 究領域 【第 2 回】採用と就職Ⅰ：採用計画					
	【第 3 回】採用と就職Ⅱ：募集活動 【第 4 回】モチベーションⅠ モチベーションとは何 か、内容理論					

	【第 5 回】モチベーションⅡ 過程理論 【第 6 回】リーダーシップⅠ リーダーシップの特性論	
	【第 7 回】リーダーシップⅡ 行動論 【第 8 回】リーダーシップⅢ 現代のリーダーシップ論	
	【第 9 回】集団のダイナミックスⅠ 組織と個人の相互作用 【第 10 回】集団のダイナミックスⅡ 組織におけるチームワーク	
	【第 11 回】企業活動と消費者 【第 12 回】ストレスⅠ ストレスとは何か、職業性ストレス	
	【第 13 回】ストレスⅡ メンタルヘルスとストレスコーピング 【第 14 回】キャリアとキャリア発達	
	【第 15 回】到達度確認テスト 【第 16 回】ガイダンス：産業・組織心理学ー消費者心理学分野についてー	
	【第 17 回】説得における態度とは何か、説得の影響力 【第 18 回】社会的証明とネットレビューの心理学	
	【第 19 回】ネガティブポイントをポジティブに見せる方法 【第 20 回】承諾を得やすくするためのユニットアスキング	
	【第 21 回】説得時における数字の効果 【第 22 回】従業員のモチベーションを高める心理学	
	【第 23 回】職場のコミュニケーション 【第 24 回】特典付加の心理学	
	【第 25 回】広告・マーケティング① 【第 26 回】広告・マーケティング②	
	【第 27 回】心理的財布と支払い 【第 28 回】苦情行動・クレーマー	
	【第 29 回】ラストシーンの心理学 【第 30 回】到達度確認テスト	

1.授業コード (ナンバリング)	SWS208-A51	2.科目名	ソーシャルワーク論Ⅱ		3.単位数	4
4.授業担当教員	春木裕美					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	高校(福祉) 社会福祉士受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義と演習（うち 1 回はオンデマンドで実施）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 ソーシャルワークの特徴やソーシャルワークの過程を理解し、面接やアセスメントの実際が説明できるようになる。 【概要】 講義と演習を通じてソーシャルワークの展開過程について学びます。また、後半は学びを活かしつつ実際に面接を実施し、災害時のアセスメントシートを作成します。					
18.学習目標と DPとの関連	1. ソーシャルワークにおける人と環境の交互作用について理解する 2. ソーシャルワークの過程とそれにかかる知識と技術の基本を理解する 3. 人権尊重に基づき、ソーシャルワークの知識と価値、倫理を活用していく視点を示すことができる。					
19.教科書・教材	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）「ソーシャルワークの理論と方法 [共通科目]」12 中央法規					
20.参考文献	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（2021）「ソーシャルワークの理論と方法 [社会専門]」6 中央法規 川村俊彦（2003）「事例と演習をとおして学ぶソーシャルワーク」中央法規 岩間伸之（2008）「支援困難事例と向き合う」中央法規					
21.成績評価	・小テスト 20% ・ワークシート、アセスメントシート、個別支援計画などの提出物 40%、 ・プレゼン 20% ・まとめテスト 20%					
22.コメント	ソーシャルワークには様々な場面、プロセスが包含されています。それらが理解できるように、できるだけ具体的にイメージできるよう進めていきたいと思います。 ・資料の配布や成果物の提出は webclass を使います。 ・毎回ノートパソコンを持ってきてください。 ・オンデマンド回分の学習の確認は、WebClass でふりかえりコメントを投稿します。（出欠確認に相当します） ※後半ではゲスト（ちゃれんじどーなっつ）との日程調整によって、実施日が多少変動することもあります。事前に必ずアナウンスします。					
23.オフィスアワー	火曜日の昼休み					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1. 2 回	・オリエンテーション ・ソーシャルワークとは			事前に教科書を読み、調べてくる。授業中配布したワークシート等の課題を記入する 以下、30 回まで同様		
3. 4 回	・人と環境の交互作用に関する理論①（共通第 1 章）			事前に教科書を読み、調べてくる。		
5. 6 回	・人と環境の交互作用に関する理論②（共通第 1 章） ・ソーシャルワークにおける援助関係の形成（社会専			事前に教科書を読み、調べてくる。		

	門第 2 章)	
7. 8 回	・小テスト① ・ソーシャルワークにおける展開過程①（共通第 2-6 章）	事前に教科書を読み、調べてくる。
9.10 回	・ソーシャルワークの展開過程②（共通第 2-6 章）	事前に教科書を読み、調べてくる。
11 回（オンデマンド授業） 12 回（対面）	11 回 ・クライアントの生活理解 12 回 ・ソーシャルワークの面接技術（共通第 8 章）	クライアントの生活理解について、各自、調べた内容を WebClass に UP
13.14 回	・エンゲージメント（共通第 2 章） ・チャレンジードーナツの方とのエンゲージメント	振り返りのワークシート提出する
15.16 回	・アセスメント（共通第 3 章） ・インタビュー項目の作成、インタビュー準備 ・ソーシャルワークの記録（共通第 9 章）	次回までに 各班でインタビュー項目をまとめて WebClass に UP
17.18 回	アセスメント ・チャレンジードーナツとの外出 ・チャレンジードーナツへのインタビュー	振り返りのワークシート提出する
19.20 回	・インタビュー振り返り ・アセスメントの実施	次回までに 各班でアセスメントシートを WebClass に UP
21.22 回	・アセスメントとプランニング実施 ・プランニング（共通第 4 章）	次回までに 各班でプランニングのパワポ完成して WebClass に UP
23.24 回	・チャレンジードーナツの方へのアセスメント・プランニング結果のフィードバック	振り返りのワークシート提出する
25.26 回	・アセスメントとプランニングの修正 ・アセスメント・プランニングのグループ発表	事前に教科書を読み、調べてくる。
27.28 回	・支援の実施とモニタリング（共通第 5 章） ・支援の終結と結果評価、アフターケア（共通第 6 章） ・ケアマネジメント（共通第 10 章）	事前に教科書を読み、調べてくる。
29.30 回	・最終テスト ・全体の振り返り	

1.授業コード (ナンバリング)	SWS209-A51	2.科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		3.単位数	1
4.授業担当教員	尾崎慶太					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福祉学専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 ソーシャルワークの目的・意義を理解し、自身がめざすソーシャルワーカー像や実習動機を具体化できるようになることを目的とします。 【概要】 授業では、個別および集団指導を通し、社会福祉士養成課程におけるソーシャルワーク実習の役割について学習します。また、3年生夏学期および冬学期のソーシャルワーク実習に向けてモチベーションを高めるとともに、自身の思い描く将来のソーシャルワーカー像を具体化できることをめざします。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP の(1)自律性、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識・技能の活用、に関連しています。 本授業は、以下の学習目標を設定しています。 ①社会福祉士の倫理綱領および行動規範について説明できる ②社会福祉士を取り巻く社会状況を踏まえ、自身のめざすソーシャルワーカー像を記述できる ③ソーシャルワーク実習の意義・目的、めざすソーシャルワーカー像を意識した実習動機を記述できる ④ソーシャルワーク実習Ⅰの実習予定施設の概要を説明できる					
19.教科書・教材	適宜資料を配布する					
20.参考文献	・白澤政和・米本秀仁編（2009）日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助実習』中央法規 ・社会福祉実習研究会（2000）『社会福祉実習サブノートー初めて実習生となるあなたへ』中央法規 ・小木曾宏、柏木美和子、宮本秀樹（2005）『よくわかる社会福祉現場実習』明石書店 ・栗山直子、與那嶺司（2006）『福祉実習に行くあなたのための準備本ーこんなときどうする?』相川書房 ・社会福祉実習研究会（2001）『社会福祉の実習事例から学ぶ 実習生のための対人援助技術』中央法規出版 ・対人援助実践研究会（2					
21.成績評価	【課題 1】確認テスト 20%【学習目標①に対応】 ・社会福祉士の倫理綱領および行動規範に関するテスト 【課題 2】レポート 30%【学習目標②に対応】 ・テーマ：社会に求められる社会福祉士と自身のめざすソーシャルワーカー像 ・字数：1,200 字以上 【課題 3】実習動機の作成 20%【学習目標③に対応】 ・ソーシャルワーク実習の意義・目的、めざすソーシャルワーカー像を意識した実習動機 【課題 4】実習予定施設の概要整理ワークシート 20%【学習目標④に対応】 ・ソーシャルワーク実習Ⅰの実習予定施設に関する					
22.コメント						

23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	オリエンテーション ・授業概要、進め方、評価方法 ソーシャルワーク実習の全体像、意義・目的と評価の仕組み ・社会福祉士養成教育における相談援助実習の位置づけ、実習指導の流れ ・社会福祉士養成課程におけるソーシャルワーク実習の内容理解を進める	◆ノート PC 持参を推奨します◆ ○ソーシャルワーク実習の内容に関する資料を読む (90)
【第2回】	社会福祉士の倫理綱領および行動規範① ・社会福祉士の倫理綱領および行動規範の概要を理解する	○社会福祉士の倫理綱領および行動規範を確認する (90)
【第3回】	社会福祉士の倫理綱領および行動規範② ・社会福祉士の倫理綱領および行動規範の概要を理解する	○社会福祉士の倫理綱領および行動規範を用いて事例を検討する (90)
【第4回】	社会福祉士の倫理綱領および行動規範③ ・社会福祉士の倫理綱領および行動規範の概要を理解する 【課題1】確認テスト	○社会福祉士の倫理綱領および行動規範を用いて事例を検討する (90)
【第5回】	なりたいソーシャルワーク像を語る① ・具体的事例を用いながら、ソーシャルワーカーのイメージをつかむ	○なりたいソーシャルワーカー像について400字程度でまとめてくる (90)
【第6回】	なりたいソーシャルワーク像を語る② ・具体的事例を用いながら、ソーシャルワーカーのイメージをつかむ	○なりたいソーシャルワーカー像について修正する (90)
【第7回】	なりたいソーシャルワーク像を語る③ ・自身のなりたいソーシャルワーカー像について記述する	○社会福祉士を取り巻く動向について資料を確認し、ソーシャルワーカー像との関連を検討する (90)
【第8回】	なりたいソーシャルワーク像を語る④ ・自身のなりたいソーシャルワーカー像について記述する	○社会福祉士を取り巻く動向について資料を確認し、ソーシャルワーカー像との関連を検討する (90)
【第9回】	ソーシャルワーク実習の動機を語る① ・ソーシャルワーク実習ⅠとⅡの実習のねらいや内容を理解する	○実習動機を300字程度で作成してくる (90)
【第10回】	ソーシャルワーク実習の動機を語る② ・ソーシャルワーク実習に向けた動機を記述する	○実習動機の修正を行う (90)
【第11回】	ソーシャルワーク実習の動機を語る③ ・ソーシャルワーク実習に向けた動機を記述する	○【課題2】に取り組む (90)
【第12回】	ソーシャルワーク実習の動機を語る② ・ソーシャルワーク実習に向けた動機を記述する	○実習動機の修正を行う (90) ★課題2の提出
【第13回】	ソーシャルワーク実習Ⅰの実習予定施設の概要理解① ・実習予定施設の概要を調べる	○【課題4】に取り組む (90)
【第14回】	ソーシャルワーク実習Ⅰの実習予定施設の概要理解② ・実習予定施設の概要を調べる	○【課題4】に取り組む (90)
【第15回】	本授業のふりかえり	○3年夏実習に向けた現時点の課題を整理して

	・実習に向けた心構え ★課題 5 の作成と提出	おく (90)

1.授業コード (ナンバリング)	SWS211-Y51	2.科目名	広告心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	有吉美恵					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	心理学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目は、広告の特色について心理学の視点から把握することを目指し、各理論を理解しながら実践的視座を身に着けることを目的とする。 【概要】 日常的に目にする広告の効果はどのようなところにあるのか。それを説明するモデルについてまず心理学的視点から理解していく。さらに受講生同士のディスカッションを行うことで理解を深めていく。効果的な広告の要因としてコミュニケーション、広告媒体、付加価値などに着目し、実際の広告を事例に検証していく。さらに効果的な広告を実際に作成してみるワークを行う。					
18.学習目標と DPとの関連	①効果的な広告について心理学の観点から学び、実践的視座を身につける。 ②広告の効果について心理学の視点から説明することができる。					
19.教科書・教材						
20.参考文献						
21.成績評価	①総括試験（学習目標①②を問う）（50%） ②各回のミニレポート（学習目標①②を問う）（24%） ③広告作成のワーク（学習目標①②を問う）（26%）					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	広告と心理学（ガイダンス） ・ 広告に関係する心理学の概念を概観する			事前学習：広告に関連しそうな心理学の概念を調べる/ 事後学習：惹かれる広告を挙げておく		
第2回	広告とマーケティング ・ どこにどんな広告を出すのが効果的なかを学ぶ			事前学習：マーケティングについて調べる/ 事後学習：惹かれる広告と授業内容を照らし合わせて考える		
第3回	消費者行動の理解① ・ 消費者がモノを認知してから購入するまでどのような認知プロセスをたどるのか概観する			事前学習：消費者行動について調べる/ 事後学習：消費者行動についてまとめる		
第4回	消費者行動の理解② ・ 消費者がモノを購入してから次の購入に至るまでの認知プロセスについて概観する			事前学習：リピーターと広告の関係について調べる/ 事後学習：リピーターと広告の関係についてまとめる		
第5回	ブランディングと広告 ・ ブランディングと広告について学ぶ			事前学習：ブランディングについて調べる/ 事後学習 ブランディング実践をイメージす		

		る
第 6 回	広告分析①【グループワーク】 ・これまで学んだ概念および理論を使って実際の広告の魅力を分析しまとめる	事前学習：分析する広告を調べておく/ 事後学習：分析結果をまとめる
第 7 回	広告分析②【グループワーク】 ・前回分析した内容を報告する	事前学習：分析結果を報告できる形にする/ 事後学習：報告内容を整理する
第 8 回	感情と広告 ・人が持つ感情に関連した広告戦略について学ぶ	事前学習：広告に関連する感情にはどのようなものがあるか調べておく/ 事後学習：広告と感情についてまとめる
第 9 回	記憶と広告 ・広告のどのような要素が人の記憶に残るのかについて学ぶ	事前学習：記憶に残っている広告を探す/ 事後学習：広告と記憶についてまとめる
第 10 回	広告の影響 ・広告が及ぼしてきた影響について事例を概観する	事前学習：広告が及ぼす影響について調べる/ 事後学習：広告が及ぼす影響についてまとめる
第 11 回	広告の安全性 ・広告の安全性について広告の受け手である消費者の観点から概観する	事前学習：広告の安全性について関連要因や事例を調べる/ 広告の安全性についてまとめる
第 12 回	広告の在り方について議論する【グループワーク】 ・今後望ましい広告の在り方についてグループで議論する	事前学習：広告の良い側面と悪い側面について調べる/ 今後望ましい広告についてまとめる
第 13 回	広告実践①【グループワーク】 ・グループでテーマを決めて広告を作る	事前学習：各人持ち寄るテーマを考えておく/ 事後学習：次回の報告に向けて作成を進める
第 14 回	広告実践②【グループワーク】 ・グループごとに作成した広告について発表する	事前学習：報告資料の作成/ 事後学習：聴取した報告内容をまとめ振り返る
第 15 回	これまで（後半）の授業について振り返る（総括レポート）	

1.授業コード (ナンバリング)	SWS303-A51	2.科目名	相談援助演習Ⅱ（2020 年度生以前）		3.単位数	2
4.授業担当教員	岩本裕子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福祉学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	高校(福祉) 社会福祉士受験資格	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、総合的かつ包括的な援助の実践的理解をめざします。 【概要】 社会的排除、虐待、家庭内暴力、低所得者、ホームレスやその他危機状態にある相談援助事例を活用し、具体的な相談援助場面及び過程を想定した実技演習を行います。 具体的には、大きくは前半は個別支援編として課題別の相談援助事例を通してインテーク終結までの相談援助場面及び過程を学習します。後半は地域支援編として、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の開発・活用といった地域福祉の援助技術もあわせて総合的な学習をすすめます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目は、学習目標の DP（1）自律性、（3）多様性理解、（4）問題発見・解決力、（5）コミュニケーションスキル、（6）専門的知識・技能活用力 に関連しています。 本授業は、以下の学習目標を設定します。 ①課題を抱えた個人や地域に対する援助過程を理解することができる。 ②課題を抱えた個人や地域住民と目的に応じた面接をすることができる。 ③既成事例に対して、グループでアセスメントすることができる。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布する。					
20.参考文献						
21.成績評価	■テスト 25%×2 回（主に学習目標①②） ・主に学習目標①、②に関することを、記述式で問う。 ・自筆のノート、まとめ等は持ち込み可。 ■プレゼンテーション 40%（主に学習目標②③） ・第 11・12 回、第 25・26 回にプレゼンテーションを行う。 ・プレゼンテーションは、授業内で扱う事例のロールプレイを行う。 ■ふりかえり 10% ・2 回のプレゼンテーション後、および最終回を終えて、学修目標に照らし合わせて行う ・e-portfolio に「相談援助演習Ⅱ」のフォルダを作成し、「事例 1 のプレゼンテーショ					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1・2 回	ガイダンスとクラスメンバーの理解 ・授業の進め方や内容、評価の方法について説明を行う。 ・授業シラバス必携。このシラバスは学びの文脈を俯瞰できる重要な資料であり、ノートやファイルに添付していつでも参照できるようにしておくこと。 ・自己紹介を通して他者理解をすすめる。			○事例①で使用する事例を配布するので、次回までに熟読し専門用語を調べてくる。学修目標(1)リストを活用すること。120 分		

3・4回	【個別支援編】 事例①-1 ・事例に出てくる専門用語を理解する。 ・ソーシャルワーク展開過程におけるインテークを理解する。 ・インテーク場面のロールプレイを通してグループディスカッションを行う。	○事例①におけるインテーク場面での課題について整理してくる。学修目標(1)リストを活用すること。120分
5・6回	事例①-2 ・前回の内容をもとに、インテーク場面のロールプレイを行う。 ・ソーシャルワークの展開過程におけるアセスメントを理解する①	◎グループで事例①のインテーク面接の内容検討、ロールプレイ練習をすすめる。学修目標(1)(2)リストを活用すること。(第11・12回までの各週で120分)
7・8回	事例①-3 ・グループごとにアセスメントシートを作成する。 ・ソーシャルワークの展開過程における支援、モニタリング、終結について理解する。	◎同上
9・10回	事例①-4 ・第7・8回で作成したアセスメントシートを吟味する。 ・ソーシャルワークの展開過程におけるプランニングを理解する。 ・アセスメントシートをもとにした支援計画を検討する。	◎同上
11・12回	事例①-5 ・事例①のインテーク面接のプレゼンテーション	○プレゼンテーションのふりかえりを行う。90分
13・14回	事例①-6 ・プレゼンテーションのふりかえり ・事例①のまとめ	○中間テストに向けた学習 120分 ○「事例1のプレゼンテーションふりかえり」ポートフォリオ投稿
15・16回	事例①のまとめ ・個別支援編まとめテスト ・テストの解説	○事例②で使用する事例を配布するので、次回までに熟読し専門用語を調べてくる。学修目標(1)リストを活用すること。120分
17・18回	【地域支援編】 事例②-1 ・地域編オリエンテーション ・地域支援（コミュニティワーク）の目的・目標・展開過程 ・地域アセスメントについて理解し、行いまとめる。	○インテーク場面での課題について整理してくる。学修目標(1)リストを活用すること。120分
19・20回	事例②-2 ①前回の地域アセスメントの内容をもとに必要な社会資源を検討する。 ②事例について深める（出てくる専門用語を理解する）。 事例の課題解決に必要な社会資源について検討する	◎グループで事例②のインテーク面接の内容検討、ロールプレイ練習をすすめる。学修目標(1)(2)リストを活用すること。(第25・26回までの各週で120分)
21・22回	事例②-3 ・セルフヘルプグループの立ち上げと住民懇談会開催の検討	◎同上

23・24 回	事例②-4 ・グループワーク（発表準備）	◎同上
25・26 回	事例②-5 ・プレゼンテーション（住民懇談会）	○プレゼンテーションのふりかえりを行う。 90 分
27・28 回	事例②-6 ・地域支援編 まとめテスト	○まとめテストに向けた学習 120 分 ○「事例 2 のプレゼンテーションふりかえり」ポートフォリオ投稿
29・30 回	・災害ボランティアセンターシミュレーション	○「受講を終えてのふりかえり」、および「相談援助実習に向けた自己の課題について」、eポートフォリオに記事投稿する。60 分

1.授業コード (ナンバリング)	SWS309-A51	2.科目名	スクールソーシャルワーク演習		3.単位数	1
4.授業担当教員	西野緑					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	3 年、4 年	
10.取得資格の要件			11.先修条件	SSW 論受講者		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】スクールソーシャルワーク演習では、スクールソーシャルワーク論で学ぶ知識や理論や価値を基に、スクールソーシャルワーカーとしての技術や実践力を養うことを目的とする。 【概要】スクールソーシャルワーク論で学んだ学校で起こる事象について、事例検討することを通して、実践力を身につけることを目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	(1) 自立性、(3) 多様性理解、(4) 問題発見・解決力 ・スクールソーシャルワーカーの具体的な動きを知り、説明できるようになる。 ・事例検討を通して、アセスメントとプランニングが実施できる。 ・グループワークでの議論を通して、自分の考え他の人の考えを比較できる。					
19.教科書・教材	大塚美和子・西野緑・峯本耕治編（2020）『「チーム学校」を実現するスクールソーシャルワーク』,明石書店.					
20.参考文献	西野緑（2018）『子ども虐待とスクールソーシャルワーク チーム学校を基盤とする「育む環境」の創造』, 明石書店. 川村隆彦（2011）『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』, 中央法規. 門田光司・奥村賢一（2009）『スクールソーシャルワーカーの仕事ー学校ソーシャルワーク実践ガイド』, 中央法規.					
21.成績評価	①授業中の発言や質問＝10％ ②事例検討のワークシート（3 回分）＝30％（事例検討を行なった週に提出） ③総括試験＝60％					
22.コメント	スクールソーシャルワーク演習は、スクールソーシャルワーク論を受講していることが必須である。また、スクールソーシャルワーク実習をしたい人の必須科目である。グループワークを取り入れ、事例を通して実践力を身につけると同時に自分自身を振り返る。授業では、参加と尊重と守秘を基本的ルールとするため、受講者には積極的な参加（発表、グループワークへの積極的参加等）と尊重（人の発言を傾聴すること）および守秘を求める。					
23.オフィスアワー	授業の前後					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	スクールソーシャルワークの専門的価値 グループワーク ・ソーシャルワークの価値、特に「人権」について学び、自分のこととして考える。 ・スクールソーシャルワークを実践するための視点となるエンパワメントについて学ぶ。 ・グループワーク：事例から考える。			ワークシートは次回に提出すること。		

第 2 回	スクールソーシャルワークで扱う事象とその関連性 グループワーク ・ いじめ、不登校、虐待、非行、発達課題等の生徒指導上の諸課題の背景とその関連性について考える。	生徒指導上の諸課題の関連性について学び、考えたことをまとめる。
第 3 回	スクールソーシャルワーク実践の活動形態 ディスカッション/ディベート ・ 日本におけるスクールソーシャルワーカーの 3 つの活動形態について知り、それぞれの利点と課題について考える。	SSW の 3 つの活動形態について復習し、自分の考えをまとめておく。
第 4 回	事例を通して問題解決能力を高める① - 1 ④グループワーク ・ 事例検討：アセスメント、プランニング、介入等の援助プロセスにおいて展開できる力を身につける。	ワークシートは次回提出すること。
第 5 回	事例を通して問題解決能力を高める① - 2 ④グループワーク エコマップを描いてみよう！ ・ 事例についてのエコマップを描き、援助前と援助後の関係性の違いをエコマップを通して学ぶ。 ・ 先回のワークシート②を基に発表する。	
第 6 回	ケース・マネジメント ④グループワーク ・ ケース・マネジメントの展開過程について学ぶ。	ケースマネジメントについて、テキストで復習する。
第 7 回	SSW のメゾアプローチ：コアチーム会議・ケース会議 ③ディスカッション ・ 校内のチーム・アプローチについて学ぶ ・ ケース会議の展開方法について学ぶ。 ・ ケース会議の事前の準備の重要性について理解する。	テキストでメゾアプローチのところを読んで復習する。
第 8 回	事例を通して問題解決能力を高める② - 1 ④グループワーク ・ 虐待事例を基に、アセスメント力を身につける。 ・ グループワーク③：事例検討	ワークシートは次回に提出すること。
第 9 回	事例を通して問題解決能力を高める② - 2 ④グループワーク ・ アセスメントを基に、プランニング、介入等の援助プロセスにおいて展開できる力を身につける	
第 10 回	スクールソーシャルワークの理論① ③ディスカッション/ディベート ・ SSW に理論が必要な理由	事例の解説をすべて読む

第 11 回	スクールソーシャルワークの理論② ・ SSW の理論の中から特に必要な理論を取り上げる。	SSW の理論の中で、特に関心を持った理論について、調べる。
第 12 回	ディスカッション SSW 実習報告会	4 年生の実習報告を聞いて、感じたことや考えたこと等をまとめる。
第 13 回	事例を通して問題解決力を高める③ - 1 ④グループワーク ・ 事例検討：『スクールソーシャルワーカーの仕事』 ・ 事例を基に、アセスメント力を身につける。 ・ グループワーク⑤：事例検討	ワークシートは次回に提出できるようにまとめること。
第 14 回	事例を通して問題解決力を高める③ - 2 ④グループワーク アセスメント力を基に、プランニングの具体的な選択肢を考える力を身につける。	総括試験の準備をする。
第 15 回	総括試験とまとめ	

1.授業コード (ナンバリング)	SWS310-A51	2.科目名	産業心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	広沢俊宗					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	ビジネス現場におけるさまざまな現象について、心理学から捉えることにより理解を深める。 また、それらの知識を活用し、自分の就活や進路決定に活かしていくことを目的とする。 1) 人は他者をどのように見るのか(対人認知)を理解し、面接場面やビジネス現場で活用する。 2) どのような人が他者に好かれるか(対人魅力)を理解し、魅力的な人間形成を目指す。 3) 人とのコミュニケーション(対人コミュニケーション)を円滑にできるよう、その理論と法則を理解し、面接場面に備える。また、将来、ビジネス現場でも活用できるようにする。 4) 態度変容と説得的コミュニケーションの理論を理解し、顧客にモノを買ってもらえるようなスキルを身につける。 5) チームワークの原理を理解し、集団において仲間とのチームワークを高めることにより、将来、生産性をあげる集団作りをする。また、望ましいリーダーシップについて理解し、後輩(将来的は部下)から信頼されるリーダーを目指す。 7) 消費者の心理を理解し、良いものを安く買うためのスキルを身につける。 上記で学修したことを就活力および将来に活かし、自分の人間形成に役立てる。					
18.学習目標と DPとの関連	①職場環境の中で生じる様々な問題とそれに対処するための専門知識を説明できるようになる。 (専門的知識・技能) ②自らの人生およびキャリアをデザインしていく上で必要な心理学的知識を身につけ、説明することができるようになる。(専門的知識・技能) ③心理学の専門用語・人名を理解し、計画的にまとめていくことができる。(自律性)					
19.教科書・教材	藤本忠明・東 正訓 「ワークショップ 人間関係の心理学」 ナカニシヤ出版					
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	・ 中間レポート： 20% 学学習目標②③に対応 (評価点 1 2 %以上が合格最低ライン) ・ 専門用語・人名解説レポート：40% 学習目標②③に対応 (評価点 2 4 %以上が合格最低ライン) ・ 総括試験：40% 学習目標①に対応 (評価 2 4 0%以上が合格最低ライン)					
22.コメント	・ 欠席回数が 3 分の 1 を超えた場合は、評価の対象外(不合格)となる。 ・ 遅刻 3 回で欠席 1 回にカウントする。 ・ 専門用語・人名解説レポートは、毎回毎回の積み重ねが大切で s る。いつ途中経過を提出させられて も対応できるように普段から真面目に取り組める受講生が望ましい。 ・ 経営学部の学生にとって、心理学の実証的アプローチ(例えば、統計的分析など)を理解すること					

	が難しいケースが見られる。食欲にかつ積極的に学ぶ姿勢の学生が望ましい。 ・総括試験は、心理学用語および人名に関する試験のため、しっかりと理解し、覚えて	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	本科目のガイダンスを行う。 心理学および産業心理学とはどのような学問かを理解する。また、本科目は、経営学科専門科目における唯一の心理学科目であるため、その必要性和重要性を説明する。評価方法などについては、シラバスに沿って説明する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 2 回	他者によりよい印象を与えるためには一対人認知 職場の人々あるいは顧客があなたに対してどのような印象を形成するのか、印象形成の要因とそのメカニズムについて理解する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 3 回	魅力ある人になるためには（１）一対人魅力 人はなぜ、他者に心ひかれるかー魅力の規定因について理解する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 4 回	魅力ある人になるためには（２）一対人魅力 人はなぜ、他者に心ひかれるかー魅力の規定因を活用しながら、自分をより魅力的にするためのストラテジーを考察しよう。そして、面接場面で活かそう。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 5 回	コミュニケーション力を高めるためには（１）一対人コミュニケーション コミュニケーションとは何か、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション、コミュニケーションプロセスモデルなどについて学習する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 6 回	コミュニケーション力を高めるためには（２）一対人コミュニケーション ビジネスコミュニケーションを実践しよう。まず、対面状況でのコミュニケーションスキルをアップさせよう。次に、ビジネス文書でのスキルアップをはかり、提出しよう。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 7 回	中間ふりかえり これまで学習してきたことを活用しながら、自己PRを作成し、グループ内でプレゼンしよう。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 8 回	説得的コミュニケーションと態度変容（１） 顧客をいかに説得するか。顧客の態度を変容させるにはどうすればよいかを考える。さまざまな説得的技法について理解する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 9 回	説得的コミュニケーションと態度変容（２） 顧客が説得される心理をチャルディーニの６つの法則から理解する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 10 回	職場集団の心理学（１）－チームワークのとれた集団とは チームワークの原理を理解し、職場集団になじむためのスキルを学習する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。

第 11 回	職場集団の心理学（２）－望ましいリーダーシップとは リーダーシップとは何か、職場集団における望ましいリーダーシップを考察し、理解する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 12 回	ワークモチベーションとその充足について 仕事のやる気について、外発的動機づけと内発的動機づけの観点から理解する。また、ワークモチベーションを高め、充足するための条件を自己分析する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 13 回	現代人の消費行動 店頭購入とネットショッピングを比較しながら、現代人の購買行動について考察する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 14 回	就職活動の準備と職業選択 自己分析と企業研究を通して職業選択を行い、就職活動計画を構築する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 15 回	総括 産業心理学で学んだことを振り返り、自分のキャリアデザインを構築する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。

1.授業コード (ナンバリング)	SWS310-m51	2.科目名	産業心理学		3.単位数	2
4.授業担当教員	広沢俊宗					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	ビジネス現場におけるさまざまな現象について、心理学から捉えることにより理解を深める。 また、それらの知識を活用し、自分の就活や進路決定に活かしていくことを目的とする。 1) 人は他者をどのように見るのか(対人認知)を理解し、面接場面やビジネス現場で活用する。 2) どのような人が他者に好かれるか(対人魅力)を理解し、魅力的な人間形成を目指す。 3) 人とのコミュニケーション(対人コミュニケーション)を円滑にできるよう、その理論と法則を理解し、面接場面に備える。また、将来、ビジネス現場でも活用できるようにする。 4) 態度変容と説得的コミュニケーションの理論を理解し、顧客にモノを買ってもらえるようなスキルを身につける。 5) チームワークの原理を理解し、集団において仲間とのチームワークを高めることにより、将来、生産性をあげる集団作りをする。また、望ましいリーダーシップについて理解し、後輩(将来的は部下)から信頼されるリーダーを目指す。 7) 消費者の心理を理解し、良いものを安く買うためのスキルを身につける。 上記で学修したことを就活力および将来に活かし、自分の人間形成に役立てる。					
18.学習目標と DPとの関連	①職場環境の中で生じる様々な問題とそれに対処するための専門知識を説明できるようになる。 (専門的知識・技能) ②自らの人生およびキャリアをデザインしていく上で必要な心理学的知識を身につけ、説明することができるようになる。(専門的知識・技能) ③心理学の専門用語・人名を理解し、計画的にまとめていくことができる。(自律性)					
19.教科書・教材	藤本忠明・東 正訓 「ワークショップ 人間関係の心理学」 ナカニシヤ出版					
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	・ 中間レポート： 20% 学学習目標②③に対応 (評価点 1 2 %以上が合格最低ライン) ・ 専門用語・人名解説レポート：40% 学習目標②③に対応 (評価点 2 4 %以上が合格最低ライン) ・ 総括試験：40% 学習目標①に対応 (評価 2 4 0%以上が合格最低ライン)					
22.コメント	・ 欠席回数が 3 分の 1 を超えた場合は、評価の対象外(不合格)となる。 ・ 遅刻 3 回で欠席 1 回にカウントする。 ・ 専門用語・人名解説レポートは、毎回毎回の積み重ねが大切で s る。いつ途中経過を提出させられて も対応できるように普段から真面目に取り組める受講生が望ましい。 ・ 経営学部の学生にとって、心理学の実証的アプローチ(例えば、統計的分析など)を理解すること					

	が難しいケースが見られる。食欲にかつ積極的に学ぶ姿勢の学生が望ましい。 ・総括試験は、心理学用語および人名に関する試験のため、しっかりと理解し、覚えて	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	本科目のガイダンスを行う。 心理学および産業心理学とはどのような学問かを理解する。また、本科目は、経営学科専門科目における唯一の心理学科目であるため、その必要性和重要性を説明する。評価方法などについては、シラバスに沿って説明する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 2 回	他者によりよい印象を与えるためには一対人認知 職場の人々あるいは顧客があなたに対してどのような印象を形成するのか、印象形成の要因とそのメカニズムについて理解する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 3 回	魅力ある人になるためには（１）一対人魅力 人はなぜ、他者に心ひかれるかー魅力の規定因について理解する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 4 回	魅力ある人になるためには（２）一対人魅力 人はなぜ、他者に心ひかれるかー魅力の規定因を活用しながら、自分をより魅力的にするためのストラテジーを考察しよう。そして、面接場面で活かそう。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 5 回	コミュニケーション力を高めるためには（１）一対人コミュニケーション コミュニケーションとは何か、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション、コミュニケーションプロセスモデルなどについて学習する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 6 回	コミュニケーション力を高めるためには（２）一対人コミュニケーション ビジネスコミュニケーションを実践しよう。まず、対面状況でのコミュニケーションスキルをアップさせよう。次に、ビジネス文書でのスキルアップをはかり、提出しよう。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 7 回	中間ふりかえり これまで学習してきたことを活用しながら、自己PRを作成し、グループ内でプレゼンしよう。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 8 回	説得的コミュニケーションと態度変容（１） 顧客をいかに説得するか。顧客の態度を変容させるにはどうすればよいかを考える。さまざまな説得的技法について理解する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 9 回	説得的コミュニケーションと態度変容（２） 顧客が説得される心理をチャルディーニの６つの法則から理解する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 10 回	職場集団の心理学（１）ーチームワークのとれた集団とは チームワークの原理を理解し、職場集団になじむためのスキルを学習する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。

第 11 回	職場集団の心理学（２）－望ましいリーダーシップとは リーダーシップとは何か、職場集団における望ましいリーダーシップを考察し、理解する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 12 回	ワークモチベーションとその充足について 仕事のやる気について、外発的動機づけと内発的動機づけの観点から理解する。また、ワークモチベーションを高め、充足するための条件を自己分析する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 13 回	現代人の消費行動 店頭購入とネットショッピングを比較しながら、現代人の購買行動について考察する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 14 回	就職活動の準備と職業選択 自己分析と企業研究を通して職業選択を行い、就職活動計画を構築する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。
第 15 回	総括 産業心理学で学んだことを振り返り、自分のキャリアデザインを構築する。	テキスト該当章を読み、疑問点を洗い出しておく。

1.授業コード (ナンバリング)	SWS314-A51	2.科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ		3.単位数	2
4.授業担当教員	岩本裕子					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福祉学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	高校(福祉) 社会福祉士受験資格	11.先修条件				
12.研究室	※※※	13.電話番号	※※※			
14.E-Mail Address	※※※	15.授業形態	演習			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、総合的かつ包括的な援助の実践的理解をめざします。 【概要】 社会的排除、虐待、家庭内暴力、低所得者、ホームレスやその他危機状態にある相談援助事例を活用し、具体的な相談援助場面及び過程を想定した実技演習を行います。 具体的には、大きくは前半は個別支援編として課題別の相談援助事例を通してインテーク終結までの相談援助場面及び過程を学習します。後半は地域支援編として、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の開発・活用といった地域福祉の援助技術もあわせて総合的な学習をすすめます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目は、学習目標の DP (1)自律性、(3)多様性理解、(4)問題発見・解決力、(5)コミュニケーションスキル、(6)専門的知識・技能活用力 に関連しています。 本授業は、以下の学習目標を設定します。 ①課題を抱えた個人や地域に対する援助過程を理解することができる。 ②課題を抱えた個人や地域住民と目的に応じた面接をすることができる。 ③既成事例に対して、グループでアセスメントすることができる。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布する。					
20.参考文献						
21.成績評価	■テスト 25%×2 回（主に学習目標①②） ・主に学習目標①、②に関することを、記述式で問う。 ・自筆のノート、まとめ等は持ち込み可。 ■プレゼンテーション 40%（主に学習目標②③） ・第 11・12 回、第 25・26 回にプレゼンテーションを行う。 ・プレゼンテーションは、授業内で扱う事例のロールプレイを行う。 ■ふりかえり 10% ・2 回のプレゼンテーション後、および最終回を終えて、学修目標に照らし合わせて行う					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1・2 回	ガイダンスとクラスメンバーの理解 ・授業の進め方や内容、評価の方法について説明を行う。 ・授業シラバス必携。このシラバスは学びの文脈を俯瞰できる重要な資料であり、ノートやファイルに添付していつでも参照できるようにしておくこと。 ・自己紹介を通して他者理解をすすめる。			○事例①で使用する事例を配布するので、次回までに熟読し専門用語を調べてくる。学修目標(1)リストを活用すること。120 分		

3・4回	【個別支援編】 事例①-1 ・事例に出てくる専門用語を理解する。 ・ソーシャルワーク展開過程におけるインテークを理解する。 ・インテーク場面のロールプレイを通してグループディスカッションを行う。	○事例①におけるインテーク場面での課題について整理してくる。学修目標(1)リストを活用すること。120分
5・6回	事例①-2 ・前回の内容をもとに、インテーク場面のロールプレイを行う。 ・ソーシャルワークの展開過程におけるアセスメントを理解する①	◎グループで事例①のインテーク面接の内容検討、ロールプレイ練習をすすめる。学修目標(1)(2)リストを活用すること。(第11・12回までの各週で120分)
7・8回	事例①-3 ・グループごとにアセスメントシートを作成する。 ・ソーシャルワークの展開過程における支援、モニタリング、終結について理解する。	◎同上
9・10回	事例①-4 ・第7・8回で作成したアセスメントシートを吟味する。 ・ソーシャルワークの展開過程におけるプランニングを理解する。 ・アセスメントシートをもとにした支援計画を検討する。	◎同上
11・12回	事例①-5 ・事例①のインテーク面接のプレゼンテーション	○プレゼンテーションのふりかえりを行う。90分
13・14回	事例①-6 ・プレゼンテーションのふりかえり ・事例①のまとめ	○中間テストに向けた学習 120分 ○「事例1のプレゼンテーションふりかえり」ポートフォリオ投稿
15・16回	事例①のまとめ ・個別支援編まとめテスト ・テストの解説	○事例②で使用する事例を配布するので、次回までに熟読し専門用語を調べてくる。学修目標(1)リストを活用すること。120分
17・18回	【地域支援編】 事例②-1 ・地域編オリエンテーション ・地域支援（コミュニティワーク）の目的・目標・展開過程 ・地域アセスメントについて理解し、行いまとめる。	○インテーク場面での課題について整理してくる。学修目標(1)リストを活用すること。120分
19・20回	事例②-2 ①前回の地域アセスメントの内容をもとに必要な社会資源を検討する。 ②事例について深める（出てくる専門用語を理解する）。 事例の課題解決に必要な社会資源について検討する	◎グループで事例②のインテーク面接の内容検討、ロールプレイ練習をすすめる。学修目標(1)(2)リストを活用すること。(第25・26回までの各週で120分)
21・22回	事例②-3 ・セルフヘルプグループの立ち上げと住民懇談会開催の検討	◎同上

23・24 回	事例②-4 ・グループワーク（発表準備）	◎同上
25・26 回	事例②-5 ・プレゼンテーション（住民懇談会）	○プレゼンテーションのふりかえりを行う。 90 分
27・28 回	事例②-6 ・地域支援編 まとめテスト	○まとめテストに向けた学習 120 分 ○「事例 2 のプレゼンテーションふりかえり」ポートフォリオ投稿
29・30 回	・災害ボランティアセンターシミュレーション	○「受講を終えてのふりかえり」、および「相談援助実習に向けた自己の課題について」、eポートフォリオに記事投稿する。60 分

1.授業コード (ナンバリング)	SWS316-A51	2.科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		3.単位数	2
4.授業担当教員	尾崎慶太					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福祉学専攻			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士受験資格		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	ソーシャルワーク実習指導ⅠおよびⅡで準備してきた内容とソーシャルワーク実習Ⅰでの実習内容を踏まえ、社会福祉士としても求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。とりわけソーシャルワーク実習Ⅰの実習内容を整理し、実習の到達状況を確認しながら、ソーシャルワーク実習Ⅱに向けた実習計画を立てることが本授業の狙いとなる。そのため、実習記録を用い、具体的に体験した事象を社会福祉士の価値・知識・技術の側面から分析し、ソーシャルワーク実習Ⅱの実習先理解と実習目標の設定ができるようになるよう、授業を進めていく。					
18.学習目標と DPとの関連	以下の学習目標をととして、社会福祉士に求められる総合的に対応できる能力を習得することをめざします。 ①ソーシャルワーク実習Ⅰにおける実習計画の到達状況を説明できる ②実習体験の中から支援困難事例を抽出し説明できる ③社会福祉士の価値・知識・技術を踏まえ、支援困難事例に対する最適な解決方法を提案できる ④ソーシャルワーク実習Ⅱに向けた実習計画を作成できる 本授業は、学位授与方針（DP）の（1）自律性と（6）専門的知識・技能の活用力に関連しています。					
19.教科書・教材	適宜資料を配布する					
20.参考文献	・社会福祉士相談援助実習第2版、日本社会福祉士養成校協会（監修）、中央法規 ・社会福祉実習サブノート初めて実習生となるあなたへ（単行本（ソフトカバー））社会福祉実習研究会 中央法規出版（2000/03） ・よくわかる社会福祉現場実習（単行本）小木曾 宏（著）、柏木 美和子（著）、宮本 秀樹（著）明石書店（2005/04） ・福祉実習に行くあなたのための準備本—こんなときどうする?（単行本）栗山 直子（著）、與那嶺 司（著）相川書房（2006/03） ・社会					
21.成績評価	【課題1】ソーシャルワーク実習Ⅰ総括ワークシート 20% ：学習目標①に対応 ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱで作成した実習計画をもとに、実習Ⅰの達成状況を整理する 【課題2】実習で体験した支援困難事例の発表 20% ：実習目標②に対応 ・実習Ⅰで体験した実習内容の中から実習困難事例（あるいは疑問に感じた場面）を抽出して発表する 【課題3】ミニレポート 20% ：実習目標③に対応 ・【課題2】に対するミニレポートを執筆する 【課題4】実習計画（目標）の作成 30% ：学習目標④に対応 ・ソーシャルワーク					
22.コメント	・実習生として相応しい態度特性を身につけること。 ・期限までに実習計画書が完成していない場合は実習延期となる。					
23.オフィスアワー						

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】	オリエンテーション ・授業概要、進め方、評価方法 相談援助実習のねらいと評価の仕組み ・社会福祉士養成教育におけるソーシャルワーク実習の位置づけ、実習指導の流れの再確認	◆ノート PC 持参を推奨します◆ ○【課題1】に取り組む(120)
【第3回】 【第4回】	ソーシャルワーク実習Ⅰのふりかえり ・実習記録および実習計画表にもとづき、ソーシャルワーク実習Ⅰのふりかえりを行う	○【課題1】の修正作業(120)
【第5回】 【第6回】	ソーシャルワーク実習Ⅰのふりかえり ・実習記録および実習計画表にもとづき、ソーシャルワーク実習Ⅰのふりかえりを行う	○【課題1】の完成と提出(120)
【第7回】 【第8回】	実習現場における支援困難事例の共有 ・ソーシャルワーク実習Ⅰで体験した支援困難事例(もしくは疑問に思った場面)の報告	○【課題2】の準備(120)
【第9回】 【第10回】	実習現場における支援困難事例の共有 ・ソーシャルワーク実習Ⅰで体験した支援困難事例(もしくは疑問に思った場面)の報告	○【課題2】の準備(120)
【第11回】 【第12回】	実習現場における支援困難事例の共有 ・ソーシャルワーク実習Ⅰで体験した支援困難事例(もしくは疑問に思った場面)の報告	○【課題3】の作成(120)
【第13回】 【第14回】	ソーシャルワーク実習Ⅱの準備 ・実習先の概要をまとめる	○【課題3】の作成(120)
【第15回】 【第16回】	ソーシャルワーク実習Ⅱの準備 ・実習先の概要をまとめる	○実習先の概要をまとめる(120)
【第17回】 【第18回】	ソーシャルワーク実習Ⅱの準備 ・実習計画の作成	○実習先の概要をまとめる(120)
【第19回】 【第20回】	ソーシャルワーク実習Ⅱの準備 ・実習計画の作成	○【課題4】実習計画を作成する(120)
【第21回】 【第22回】	ソーシャルワーク実習Ⅱの準備 ・実習計画の作成	○【課題4】実習計画を作成する(120)
【第23回】 【第24回】	ソーシャルワーク実習Ⅱの準備 ・実習計画の作成	○【課題4】実習計画を完成させ提出する(120)
【第25回】 【第26回】	ソーシャルワーク実習Ⅱの準備 ・実習記録の作成演習	○「記録」の基本的事項を理解し、指定された様式で記述できるように準備する(120)
【第27回】 【第28回】	ソーシャルワーク実習Ⅱの準備 ・実習記録の作成演習	○実習に向けた準備を行う(120)
【第29回】 【第30回】	本授業のふりかえりと実習直前の準備 ・実習に向けた心構え	○実習に向けた準備を行う(120)

1.授業コード (ナンバリング)	SWS317-A81	2.科目名	ソーシャルワーク実習Ⅱ		3.単位数	4
4.授業担当教員	岩本裕子、尾崎慶太、春木裕美、山本秀樹					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科福			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	社会福祉士		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	社会福祉士受験資格に必要なソーシャルワーク実習は、ソーシャルワーク実習Ⅰ 60 時間、ソーシャルワーク実習Ⅱ 180 時間の合計 240 時間実習になる。実習内容については、実習ⅠとⅡあわせて、以下の 10 項目を実践的に理解することになる。 ソーシャルワーク実習Ⅱは、ソーシャルワーク実習Ⅰとは機能が異なる施設/機関で実習を行うことになり、実習中に取り組む 10 項目の内容を調整しつつ、実習に取り組むことになる。 <ソーシャルワーク実習のねらい> ・ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 ・支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。 ・生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。 ・施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。 ・総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 <実習中に取り組む 10 項目> ①利用者やその関係者（家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的コミュニケーションや円滑な人間関係の形成 ②利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成 ③利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価 ④利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価 ⑤多職種連携及びチームアプローチの実践的理解 ⑥当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会へのはたらきかけ ⑦地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 ⑧施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む） ⑨社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解 ⑩ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解（アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション）					
18.学習目標と DP との関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ①実習目標の達成に向けた具体的な取り組みができる。 ②実習日誌の項目に沿って観察と考察を書き分けることができる。 ③スペシフィックな場面からソーシャルワークのジェネリックな側面を見出すことができる。					

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	SWS406-A51	2.科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ		3.単位数	2
4.授業担当教員	山本秀樹					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	福祉学専攻			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	社会福祉士国家試験受験資格		11.先修条件	実習指導Ⅰ、Ⅱ、および実習を履修していること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	相談援助を専門的援助技術として概念化、理論化し体系立てていくことを目的としています。授業では、個別、集団指導を通して実習記録や実習体験をふまえた課題の整理と考察を行います。実習で経験してきたことを担当教員からスーパービジョンを受けたり、学生同士のピア・スーパービジョンを行ったり、自分自身でセルフ・スーパービジョンをしていきます。そのことを通して、ソーシャルワーカーとしての専門性を向上させていきます。さらに、成果物として実習報告会でプレゼンテーション、実習総括としての最終レポートを作成します。					
18.学習目標と DPとの関連	本授業は DP（ディプロマポリシー）のうち、コミュニケーションスキルの獲得に関連しています。 ①実習で体験した事を社会福祉のキーワードを用いてまとめることができる。 ②実習目標の達成状況を根拠を用いて説明することができる。 ③実習で学んだことを一般化・汎用化することができる。					
19.教科書・教材	■それぞれの実習日誌（ファイル）を用いて授業を進めていきます。忘れずに毎回持参することが必要です。					
20.参考文献	白澤政和・米本秀仁編（2009）日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助実習』中央法規 ISBN978-4-8058-3125-0 川村隆彦編（2014）『事例で深めるソーシャルワーク実習』中央法規 ISBN978-4-8058-3961-4 関西福祉科学大学社会福祉実習教育モデル研究会編『相談援助実習ハンドブック』ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-06980-4					
21.成績評価	■実習総括レポート（40%）学習目標①②③ ・レポート内容：実習で学んだことを本授業を通してさらに深め、実習を総合的に自己評価し、目標の達成度や今後の課題をソーシャルワーカーとしての観点で明らかにする。 ・3,000 字以上 ・提出時期：第 27・28 回 ・webclass に提出 ■中間プレゼンテーション（15%）学習目標①② ・第 11・12 回、第 13・14 回時に相談援助実習指導Ⅰの授業時間に実施する ・3 年生に対して、相談援助実習の内容を分かりやすく発表する ・スライドおよびレジュメを作成する ・webcl					
22.コメント	・実習で経験してきた内容をもとにソーシャルワークの魅力について学内外の他者に向けてプレゼンテーションします。 ・資料や成果物の提出には webclass を使います。 ・毎回実施するグループワークには zoom を使います。 ・ワークシート作成やプレゼンテーションにパソコンが必要です。毎回持参してください。 ・必要に応じ、オフィスアワーを活用して個別スーパービジョンを受けて自己覚知を促してください。					

23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】 【第2回】 10/7	オリエンテーション（授業の目的、進め方、評価方法など） ・「実習を終えて」をテーマにブレインストーミングを行う ・カードワークでまとめた内容をグループごとに発表する	【今回の復習】 ・発表によってわかったこと、感じたことをワークシートに記入し、まとめる(180) 【次回の予習】 ・実習記録を読み返しておく（60）
【第3回】 【第4回】 10/14	実習のふりかえり ・実習記録を読み返し、自分の変化を整理する ・印象に残ったエピソードを抽出し、それに共通する言葉やキーワードを探る ・グループで発表し、共有する	【今回の復習】 ・実習ふりかえりシート(実習目標の達成度)を記入する(180) 【次回の予習】 ・中間プレゼンテーションのスライドおよびレジュメ資料を各自準備する（180）
【第5回】 【第6回】 10/21	中間プレゼンテーションに向けた準備 ・プレゼンテーションのリハーサルを行い、相互にアドバイスを行う。	【今回の復習】 ・スライドおよびレジュメ資料を各自準備する（360）
【第7回】 【第8回】 10/28	「相談援助実習指導Ⅰ」において実習報告会 ・中間プレゼンテーション①(15%) ・相談援助実習指導Ⅰにおいて、3年生に対して実習を通じた自らの学び、ソーシャルワーカーとしての課題について報告を行う。	【提出物】 ・プレゼンテーションのスライドおよびレジュメ 20% 【今回の復習】 ・中間プレゼンテーションのふりかえりをする(180) 【次回の予習】 ・最終プレゼンテーションに向けて発表内容の整理をする（180）
【第9回】 【第10回】 11/4	「相談援助実習指導Ⅰ」において実習報告会 ・中間プレゼンテーション②(15%) ・相談援助実習指導Ⅰにおいて、3年生に対して実習を通じた自らの学び、ソーシャルワーカーとしての課題について報告を行う。	【提出物】 ・プレゼンテーションのスライドおよびレジュメ 20% 【今回の復習】 ・中間プレゼンテーションのふりかえりをする(180) 【次回の予習】 ・最終プレゼンテーションに向けて発表内容の整理をする（180）
【第11回】 【第12回】 11/11	実習プロセスに沿った学びの一般化① ・「職場実習」の段階においてエピソードを選び、その理由をグループで話し合う	【今回の復習】 ・職場実習 ・グループで話し合った内容を、ソーシャルワークの基本理念、援助原則、援助方法などの知識を使い、理論的に説明する(180) 【次回の予習】 ・職種実習の段階についての実習記録を熟読し、気になった点に付箋をはってくる(180)
【第13回】 【第14回】 11/18	実習プロセスに沿った学びの一般化② ・「職種実習」の段階においてエピソードを選び、その理由をグループで話し合う	【提出物】 ・職場実習 【今回の復習】 ・職種実習 ・グループで話し合った内容を、ソーシャル

		ワークの基本理念、援助原則、援助方法などの知識を使い、理論的に説明する（180） 【次回の予習】 ・ソーシャルワーク実習の段階についての実習記録を熟読し、気になった点に付箋をはってくる（180）
【第 15 回】 【第 16 回】 11/25	実習プロセスに沿った学びの一般化③ ・「ソーシャルワーク実習」の段階においてエピソードを選び、その理由をグループで話し合う	【提出物】 ・職種実習 【今回の復習】 ・ソーシャルワーク実習 ・グループで話し合った内容を、ソーシャルワークの基本理念、援助原則、援助方法などの知識を使い、理論的に説明する（180） 【次回の予習】 ・実習プロセスに沿った学びの一般化についてまとめる（180）
【第 17 回】 【第 18 回】 12/2	実習のふりかえりと課題整理① ・実習経験の中から「クライアントのニーズ把握」に関連する事例を抽出し、グループで共有する。	【提出物】 ・ソーシャルワーク実習 【今回の復習】 ・ニーズ把握 ・「ニーズ把握」に関する課題の解決方法について、実習およびこれまでの授業で学んだことをまとめる（180） 【次回の予習】 ・実習記録を読み、「クライアントのニーズ把握」に関連する事例を抽出する（90） ・総括レポートおよび最終プレゼンテーションに取り組む（90）
【第 19 回】 【第 20 回】 12/9	実習のふりかえりと課題整理② ・実習経験の中から「人々との関係形成の力」に関連する事例を抽出し、グループで共有する。	【提出物】 ・ニーズ把握 【今回の復習】 ・他者との関係形成 ・「他者との関係形成」に関する課題の解決方法について、実習およびこれまでの授業で学んだことをまとめる（180） 【次回の予習】 ・実習記録を読み、「人々との関係形成の力」に関連する事例を抽出する(90) ・総括レポートおよび最終プレゼンテーションに取り組む（90）
【第 21 回】 【第 22 回】 12/16	実習のふりかえりと課題整理③ ・実習経験の中から「援助関係形成の力」に関連する事例を抽出し、グループで共有する。	【提出物】 ・他者との関係形成 【今回の復習】 ・援助関係形成 ・「援助関係形成」に関する課題の解決方法について、実習およびこれまでの授業で学んだことをまとめる（180） 【次回の予習】

		・実習記録を読み、「援助関係形成の力」に関連する事例を抽出する(90) ・総括レポートおよび最終プレゼンテーションに取り組む(90)
【第 23 回】 【第 24 回】 12/23	実習のふりかえりと課題整理④ ・実習経験の中から「働きかける力」に関連する事例を抽出し、グループで共有する。	【提出物】 ・援助関係形成 【今回の復習】 ・働きかけ ・「働きかけ」に関する課題の解決方法について、実習およびこれまでの授業で学んだことをまとめる 【次回の予習】 ・実習記録を読み、「働きかける力」に関連する事例を抽出する(90) ・総括レポートおよび最終プレゼンテーションに取り組む(90)
【第 25 回】 【第 26 回】 1/20	実習のふりかえりと課題整理⑤ ・実習経験の中から「人々と連携する力」に関連する事例を抽出し、グループで共有する。	【提出物】 ・働きかけ 【今回の復習】 ・他者との連携 ・「他者との連携」に関する課題の解決方法について、実習およびこれまでの授業で学んだことをまとめる 【次回の予習】 ・実習記録を読み、「人々と連携する力」に関連する事例を抽出する(90) ・総括レポートおよび最終プレゼンテーションに取り組む(90)
【第 27 回】 【第 28 回】 1/27	実習報告会 ・最終プレゼンテーション①(15%)	【提出物】 ・他者との連携 ・実習総括レポート 40% ・プレゼンテーションのスライドおよびレジュメ 30% 【今回の復習】 ・学びのふりかえりに取り組む(360)
【第 29 回】 【第 30 回】 1/28	実習報告会 ・最終プレゼンテーション②(15%)	【提出物】 ・プレゼンテーションのスライドおよびレジュメ 30% 【今回の復習】 ・学びのふりかえりに取り組む(360)

1.授業コード (ナンバリング)	TB2204-Y51	2.科目名	観光経済論		3.単位数	2
4.授業担当教員	井上尚之					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	国際コミ学部 英 語コミ学科必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	1 年以上
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	経済学はお金だけでない、全ての有限なモノを効率的に分配するための手法を考える学問です。住まい、健康、恋愛、働き方、食事といったジャンルも経済学の対照です。経済学の知識は何を選んで何を捨てるかという意志決定をするときの客観的なツールとしても役立ちます。この講義の目的は、ミクロ経済学、マクロ経済、ファイナンス経済学などの基礎をお金をキーワードとして楽しく学びます。 最終目標は上記の内容を皆さんがプレゼンできることです。					
18.学習目標と DPとの関連	グローバル社会で活躍できる人材を養成することをめざし、自ら積極的に行動し、体験を通して社会との関わりの中で考え、行動することができる人間を育成するとともに、それを可能とする学術研究を行うことを目的とする。					
19.教科書・教材	井上尚之『よくわかる基礎経済学ーミクロ経済・マクロ経済ー』（大阪公立大学出版会、2024） マイクを回して読んでもらうので初回から必ず購入しておくこと。					
20.参考文献						
21.成績評価	積極的授業参加度・発表 45%、総括試験 55%					
22.コメント	授業中にマイクを回して順に教科書を読んでもらうので、必ず教科書を購入して持参すること。					
23.オフィスアワー	授業終了後又はメール					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	経済学とは何か 需要と供給			準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。		
第 2 回	市場の失敗 需要曲線の移動・供給曲線の移動			準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。		
第 3 回	需要の価格弾力性・供給の価格弾力性			準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。		
第 4 回	無差別曲線と効用（満足度）			準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書		

		く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 5 回	企業の役割 MC 曲線と AVC 曲線	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 6 回	企業の利潤の最大化 生産に関する曲線	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 7 回	GDP と三面等価の原則 経済成長と景気変動	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 8 回	財政政策と金融政策 日銀による経済政策	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 9 回	ケインズ型消費関数 グラフで読み解く財政政策	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 10 回	インフレギャップとデフレギャップ	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 11 回	IS 曲線	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 12 回	LM 曲線	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書

		く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 13 回	為替レートと物価の関係	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 14 回	経済小史 資本主義の発展 総括試験	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。
第 15 回	総括試験返却 総復習	準備学習：教科書を利用するので、各回の授業範囲の教科書を読み、疑問点をノートに書く。授業におけるディスカッションで疑問点を解決する。 復習：その日の授業内容をノートにまとめる。

1.授業コード (ナンバリング)	TG2101-Y51	2.科目名	国際関係論		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	講義	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科を中心に他学部他学科を受け入れます。			9.履修学年	1 回生～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	特にありません。	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	特にありません。					
17.授業の目的と概要	目的：グローバル化する日本と諸外国の交流を地理・歴史と政治学から考える 概要：国際地政学（Geopolitics）は、グローバルスタディに出かける皆さんが、訪問先の国々と日本との関わりを探るために、欧米や東アジア、極東、南アジア地域の地理と歴史、そして政治の流れを広く学ぶ授業です。この地政学は、19 世紀から 20 世紀初期、アジアやアフリカの未開の地を、イギリスやドイツ、アメリカや日本が征服し、植民地として経営するために発達しました。これらの強国が自国の国民経済の利益最大化のための学問でした。その侵略的な考え方は、第二次世界大戦後の平和な国際社会では避けられていました。21 世紀現在、過去の反省に立ち、自国の歴史観を離れ、グローバル視野から批判的に国際政治史を捉える学問として再構築されました。 グローバルスタディに出た先の国々では地理や歴史の解釈が、皆さんが日本で習ったものと違います。また、国内で暮らす外国籍の人たちの日本に対する見方も、皆さんの認識と違います。その違いはなぜ生じたか、価値観の違いだけでは説明できません。多国籍な教員と学生が学ぶ関西国際大学では、そこで認識の違いの背景を探り、共通認識となる歴史観に立った未来を語り合います。今や世界中からの観光客が日本を訪れる時代です。そんな人々と交流するための基礎知識を学びます。					
18.学習目標と DPとの関連	神戸のような歴史ある国際都市に暮らしていても身近な異文化には気づきにくいものです。ご年配の外国生まれ市民の皆さんは昔の神戸にも詳しく、その異文化は見えません。一方、最近日本にきたアジアの留学生、日系労働者、技能実習生が増え、学内やアルバイト先で接する機会が増えています。そんな経験から共生社会を考えはじめ、その背景に広がる現代社会の課題、さらには 3 億人もの移民・難民が動く世界の大変化をすることが学習目標、到達目標は異文化コミュニケーションの達人です。					
19.教科書・教材	教科書に代わる読みやすい資料を用意します。毎回の授業スライドを PDF で配ります。					
20.参考文献	小山 望, 勅使河原 隆行他『これからの「共生社会」を考える 多様性を受容するインクルーシブな社会づくり』福村出版、2020 年 宮島 喬多文化共生の社会への条件:日本とヨーロッパ,移民政策を問いなおす』東京大学出版会、2021 年 永吉 希久子『移民と日本社会-データで読み解く実態と将来像』中公新書、2021 年					
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、授業でお話したこと、配付したスライドをよく理解していること。					
22.コメント						
23.オフィスアワー	宗田：火曜 3 コース（研究室/3-308）、火曜 2 コース(学修支援センター)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回：10 月 5 日 世界の国々を学び、国際関係を知る。グ	授業の主な内容と進め方をお話しします。「国際地政学」とはたいそうタイトルですが、ネットやテレビでもよく話題にされるお話します。観光や留学、国際キャリアを目指す皆さんが渡航前に知っておくと何かと便利な世界の常識の話です。グローバルスタディで			○アサインメント：将来留学するとしたらどの国ですか？グローバルスタディではどの国に行きますか？ ○事前学習：皆さんが行ってみたい国を 3 つ挙げてください。その国では日本にどんなイ		

ローバースタディのための世界観	も、韓国、中国、台湾、マレーシア、そしてインドネシアがあり、アメリカやオーストラリアもあります。どう違い、それにはどんな理由、背景があるのか。分かりやすい世界史のお話を聞かせます。	メージを持っているか考えて下さい。
第2回：10月12日 日本を取り巻く国際政治、世界経済	さて、海外の人々から日本と日本人はどう見られているのでしょうか。何かと騒がしい韓国や中国と親日と言われる台湾の違いはなぜ生じたのか、マスコミもよく話題にしますが、19世紀末から20世紀前半の植民地支配と戦争の歴史があったからです。また、神戸を始め関西には在日朝鮮韓国人や華僑が多く、皆さんの中にもいるはずです。もちろん留学生もいます。こうした戦前戦後の歴史を韓国や中国ではどう学んだのか、これも国際地政学の重要なテーマです。身近な隣国で自分がどう見られるかを学びます。	○アサイメント：日本を好きな国を一つ上げて下さい。またその逆の例も一つ上げて下さい。 ○事前学習：今年はウクライナ難民がよく語られますが、これ以外の難民の例を一つ上げて下さい。
第3回：10月12日 日本史と世界史、どちらを学ぶ？	日本人の皆さんは当たり前のように、世界史と日本史、高校時代に選び、入試でどちらか選択してきました。では、韓国や中国ではどうでしょう。また、マレーシアやインドネシアではどうか、そもそもその国はいつ成立し、何世紀分の歴史があるのでしょうか。さらに、世界史というのは日本固有の授業科目です。西洋史と中国史を中心に、最近ではアジアや中南米の歴史も教えますが、アフリカやオセアニアにはほとんど触れません。どちらの科目も現代の国際情勢を知るためには決して十分ではないのです。地政学は、その足りない部分を繋ぎ、埋める学問として	○アサイメント：世界史と日本史、どちらを勉強し、印象的だったことを書き出してください。 ○事前学習：神戸に住む中国人を思い出して、いつ頃来た人か考えてみて下さい。
第4回：10月26日 グローバルヒストリー（地球史）から見た日本の歴史	日本は中国文化圏の一部、東夷と呼ばれた太平洋の島々からなる辺境の国でした。文明は中国からもたらされていましたが、世界史との関係で三回の大きな地政学的変化を体験しました。最初は16世紀、スペイン、ポルトガルの進出です。鉄砲やキリスト教が伝来した時代です。二回目が19世紀明治維新、三回目が20世紀の敗戦です。皆さんがよく知る日本史や世界史では教えない国際地政学からみた世界と日本の関係、その見方を学びます。	○アサイメント：南京町で今でも営まれている中国系の文化的伝統を一つ上げて下さい。 ○事前学習：神戸市の9行政区別の在留外国人数を調べて下さい。また、各区で最も在留人数の多い国を挙げて下さい。
第5回：11月2日 身近な国々、韓国/北朝鮮、中国/台湾の戦後史を知る	1945年に連合国（後の国際連合）と日本の戦争は終わりましたが、1950年には朝鮮戦争が始まり、南北に別れた朝鮮と韓国軍を支えるためにアメリカ軍、北を支援した当時ソビエト連合といったロシアと中国の人民解放軍が、朝鮮半島で熾烈な戦いを繰り広げました。その前から台湾に逃れた中国の国民党政府と、中華人民共和国政府は台湾海峡を挟んで緊張関係を続け、今も台湾有事に備えて日本の自衛隊の配備が進んでいます。これも日本史や世界史で教えませんが、国際地政学の重要なテーマです。ぜひ詳しく学んでみてください。	○アサイメント：日本が朝鮮王国を併合したのは何時ですか、それはいつまで続いたか、できるだけ詳しく述べて下さい。 ○事前学習：関西には神戸の他に大阪市など外国籍市民が多く住む町があります。外国人の多い地区を上げて下さい。
第6回：11月9日、もう一つの隣国ロシア	ロシアによるウクライナ侵略が起き、防衛戦争が今も続いています。多くの日本人から見るとロシアは不思議な国、世界の大半の国々の人も異端視しています。	○アサイメント：この授業の受講中に、関西の中で外国籍市民が多くすむ地区の一つ訪れ、報告して下さい。

ア、地政学的理解の勧め	1904～1905年に日露戦争があり、太平洋戦争（第二次世界大戦）末期の1945年には、当時の満州や朝鮮にソ連軍が侵攻し、北方領土と呼ぶ北海道の北東沖の島々が占領されました。日本は何とかロシアと友好関係を回復しようとしたが失敗続き、ソ連がロシアに代わっても同じでした。国際地政学者、特に周辺国の学者は、昔からロシアという国とその国民、領土を研究してきました。分か	○事前学習：外国籍市民には日本に永住する人が多くいます。なぜ自国に戻らないのか理由を想像して書きだして下さい。
第7回：11月16日 高校世界史で習ったアジアの歴史を超えた20世紀後半の東アジアと東南アジア	ロシアとの関係ではロシア革命の結果、1922年に生あれ、1991年に解体したソビエト連邦という国とその共産党の国際的な影響をお話しました。続いて1945年以降、東と東南アジアの国々に、そのどんな影響が及んだかを学びます。アメリカとソ連、東西冷戦の時代です。そこに中国共産党が加わった三大国の代理戦争が、朝鮮戦争とベトナム戦争です。カンボジアやラオス、ミャンマーだけでなく、マレーシアやインドネシアにもその影響が及びました。皆さんが訪れるこれらの国々の若い人は、その歴史をどう感じているのでしょうか。	○アサイメント：ロシアのまちで知っている都市を上げて下さい。その街には、どんな歴史と文化があるか述べて下さい。 ○事前学習：ベトナム戦争について調べて、簡単にまとめて下さい。
第8回：11月23日イエズス会の地政学	講義の後半は東アジアを離れ、より広い世界を見ていきます。ヨーロッパと中南米、ちょっと北米とアフリカの歴史です。まず、16世紀に生れたイエズス会是世界布教を目指し、我々の極東だけでなく、中南米に進出しました。多くの日本人が移民し、今では何万人もの日系人還流移民するペルーやブラジルは、その結果生まれた国々です。カトリックのイエズス会だから「ラテン・アメリカ」、スペイン（イスパノ）とポルトガルの植民地だから「イベリア。アメリカ」と言われます。実際には、進出（侵略）で滅ぼされたインカやアステカなどの国々の人人とイ	○アサイメント：日系人はなぜ急に増加したか、その理由を3点あげて下さい。 ○事前学習：皆さんはキリスト教のカソリックと接点がありましたか？近くに教会がある、カソリック系の学校がある、通った、信者を知っているなど教えて下さい。
第9回：11月30日旧地政学の時代、イギリスとオランダの東インド会社と南アジア、東南アジア	地政学は植民地争奪戦の中で発達した学問です。1588年のアルマダ海戦に勝ったイギリスとオランダは徐々にスペインの植民地を、特にアジアとアフリカで奪い始めます。中南米ほどにスペイン化されていなかったからです。植民地経営にあたったのが東インド会社、英国のインド植民地、マレーシアとシンガポール、オランダ領インドと呼ばれた現在のインドネシアは、徐々にスペインやポルトガルの勢力が追い出され、18世紀以降に開発が進みました。そのパワーバランスを知り、合理的な植民地経営を検討したのが地政学です。その手法はインドで試され、	○アサイメント：日本の植民地だった国々を一つ上げて、今どんな日本の影響が残っているか述べて下さい。 ○事前学習：なぜ、スペインやイギリスは植民地を欲しがったか調べて下さい。
第10回：12月7日地政学の発展、帝国主義と植民地の歴史	日本が植民地獲得を始めた10世紀初頭は、すでに欧米諸国が世界中の発展途上国を分割支配していました。日露戦争でロシアを破り、その権益を手に入れ、第一次世界大戦に参戦し、中国のドイツの権益を奪い、最後はアメリカがスペインや英国から譲渡された太平洋の島々を信託統治しました。朝鮮と台湾の総督府、東洋殖産、南満州鉄道などの国策会社は、インフラを整	○アサイメント：皆さんがアジアの国々に行くとしたら、どんな仕事をしたいか自由に述べて下さい。 ○事前学習：日本はなぜ植民地を必要としたのか調べて下さい。

	備しただけでなく、社会制度を改革し、鉱工業を整備し経済を発展させました。鉄道や建築土木技術を始め、品種改良で暑さや寒さに強いイネが食糧増産を実現しました。こうした日本の帝国	
第 11 回：12 月 14 日 19 世紀の東アジア、明治維新と中国、朝鮮	日清戦争、日露戦争で東アジアは大きく変わりました。大日本帝国による植民地の支配と経営の背後で、支配された国々の人々の暮らし、地域社会も変わっていました。反日・独立運動が知られていますが、変化はそれだけではありません。日本ではあまり紹介されない、当時の中国や朝鮮半島の社会の様子を見ていきます。是非は別として、日本の文化が深く浸透していった様子がよくわかります。	○アサイメント：日清戦争と日露戦争の違いを述べて下さい。 ○事前学習：なぜ、清国政府（今の中国）は、日本に敗れ、またその領土で日本とロシアが戦争するのを許したのか調べて下さい。
第 12 回：12 月 21 日 国際連盟と国際連合、日本の戦前と戦後	第一次世界大戦に参戦した日本は、国際連盟の成立に関与しました。その結果、国際連盟では常任理事国として、様々な利権だけでなく、国際協調を担う大国としての義務を負いました。近代化に遅れながらも、半世紀で先進工業大国の仲間入りをした日本は、こうして手に入れた常任理事国としての特権を大切にしようとして、当時の欧米先進国は考えました。でも、日本政府は国連連盟を脱退、日中戦争を続け、太平洋戦争に向かいました。そして敗戦、今度は経済的には成功しますが、国際政治の中では大きな発言権はありません。その結果、国際地政学の上	○アサイメント：国際連盟に参加した国を調べて下さい。 ○事前学習：国際連盟を日本脱退した理由を事前に調べて下さい。
第 13 回：1 月 11 日 極東とアメリカ、ベトナム戦争後の 50 年と中国の台頭	皆さんが生まれる前、20 世紀後半の東アジアでは戦争が続いていました。その時代、敗戦から立ち直った日本は平和を謳歌していましたが、中国の国共内戦と台湾への移動があり、韓国、ベトナム、カンボジアは戦乱が対照的に続きました。フィリピンやインドネシアでもクーデターや社会的混乱が続きました。今はすっかり平和になり、観光客も行き来しています。現地には、数々の戦争の遺跡が残されています。そして、世界第二位の超大国になった中国が、国際地政学の上で大きな存在感を見せています。この回は、東アジアの戦後を詳しく見ていきます	○アサイメント：ベトナム戦争の原因となった南北の政治対立とはどんな対立か簡単に述べて下さい。 ○事前学習：ベトナムとは何か、簡単に述べて下さい。
第 14 回：1 月 18 日 日米と中国、世界史の転換点に生きる	20 世紀後半から現在まで、日本は最重要同盟国であるアメリカの支援のもと国際政治に参加してきました。アメリカとの経済、社会的な関係も拡大し続けてきました。一方、アメリカに遅れて 1972 年に漸く国交正常化した中国とは、この半世紀の間、貿易は最大に拡大したものの、多くの懸案事項が残り、近くて遠い国だと言われます。今後も中国の経済力は拡大を続けます。密接な関係を保ちつつも、アメリカとは違う関係ができつつあります。やがて、アメリカ一強の時代は終わり、中国が派遣を握る時が来ると言われます。その時に備えて、何を学ぶか	○アサイメント：今の日本で、海外からの人材を必要とする産業部門を一つ上げて、その課題を書き出して下さい。 ○事前学習：これまで学んだ国際地政学の中で関心を持った課題を一つ上げて下さい。
第 15 回：1 月 25 日 国際大	最後に、グローバルスタディに出る皆さんが、留学先で出会った人々と、東アジアや東南アジアの歴史につ	○アサイメント：最終課題を別途発表します。

学から留学して学ぶアジアの地政学	いて話ることができるように、英語で戦後の歴史を話してみましよう。留学生の皆さん囲んでワークショップで、小学校から高校まで学んだ歴史の知識を語り合ってみましよう。それは、もちろん皆さんが外国に出た時の会話に備えたものです。留学生の皆さんと少し話すだけでも、歴史観の違いが分かるはずです。例えば、日本にアメリカ軍はなぜ駐屯しているのかについて。話してみて下さい。日本を外国の侵略から守るため、アジアの国々に日本が侵略し	○事前学習（最終回なので事前学習はありません。）

1.授業コード (ナンバリング)	TG2201-Y51	2.科目名	世界の食文化		3.単位数	2
4.授業担当教員	小磯学					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 回生以上	
10.取得資格の要件			11.先修条件	特にありません		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	特にありません					
17.授業の目的と概要	【目的】?類史における食文化を振り返りつつ、その中に日本の食文化を位置付ける。 【概要】世界と日本の??化の多様性。日本の食文化の文化的、歴史的背景について詳述する。					
18.学習目標と DPとの関連	【本科目の学習目標】 ☆下記を説明できること： ①文化発生や道具発明の原点が、「食」への好奇心と情熱であったこと。 ②食の獲得?法の発達と農耕・牧畜の発明や都市と文明の成立との関係。 ③精神文化としての食文化。 ④「食べない」文化＝食のタブー。? ☆以下に挙げる観光学科の DP（ディプロマ・ポリシー）に関連しています。 K1?歴史・伝統・?化・?然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる。 K2?グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関?を持つ。 K4?異なる価値観を理解し、?分の考えや?本の魅?を的確に伝えるコミュニケーション?を備える。 ★日本の食文化を体系的に知り、現代日本で暮らす自分の食文化がどう形成されたものかを考える。多様な文化を理解する上で和食を原点に置き、歴史的な視点で広く世界を捉える視点を養う。					
19.教科書・教材	授業の主な内容を資料として配ります。それをもとに独自の教科書を作ってみて下さい。					
20.参考文献	・石毛直道（監修）『講座 食の文化』シリーズ ・岡田哲『食の文化を知る事典』東京堂出版??? ・谷泰『神・人・家畜』平凡社 ・宗田好史他『和食文化学入門』臨川書店					
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、 授業でお話したこと、配付したスライドをよく理解していること。					
22.コメント						
23.オフィスアワー	月曜 2 限：学修支援センター、水曜 2 限：研究室 3-309					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回 イントロダクション	・イントロダクション ・?類の歴史と食文化（1） 「文化」とはなにか： まず「食文化」の前に、そもそも「文化」とは何か、それはいつ誕生したのかを考える。人類誕生以前のサルの段階ですでに文化は発祥し、そしてそれは食に関わる「場」であったことが推定される。			アサインメント（以下を説明できること） ・「?化」成立の 3 要件。? ・サルからヒトへの進化を決定づけた??化。		
第 2 回 ?類の歴史と食文化（2）	?類の歴史と食文化（2） ?と道具の使?、そして心の発達： 人類が誕生したのはアフリカの草原地帯である。そこは食資源が限られるだけでなく、肉食獣のいる危険			・草原地帯に適応（食資源を獲得）するために発達した、人間の肉体の短所を補う道具。		

	な土地だった。効率よく食資源を手に入れるためには、か弱い肉体をもつ人間は道具を発達させることで生き延びてきた。	
第3回 過去1万年における画期(1)	過去1万年における画期(1) 狩猟・採集 vs. 農耕と牧畜： 食資源を手に入れる方法(生業)は4つしかない。このうち農耕と牧畜は、その後の人類の「繁栄(同時に地球の環境を限界まで消費し汚染する)」を決定づけるものだった。	・今日の人類の99.999%を支える生業の「発明」
第4回 過去1万年における画期(2) 都市革命	過去1万年における画期(2) 都市革命： 人類史上初めて登場した「都市+村」がセットになった社会=文明は、多様な職業と専業(プロ)化、階層社会を生み出すとともに、文明間の対立・戦争をより過激なものへとしていった。	・新たな生業が基盤となって成立した「文明」。
第5回 過去1万年における画期(3)	過去1万年における画期(2) 都市革命： 人類史上初めて登場した「都市+村」がセットになった社会=文明は、多様な職業と専業(プロ)化、階層社会を生み出すとともに、文明間の対立・戦争をより過激なものへとしていった。	・新たな生業が基盤となって成立した「文明」。
第6回 「食べない」文化(1) ヒンドゥー教の場合	「食べない」文化(1) ヒンドゥー教の場合： 改めて1万年前に眼を向けると、牧畜の成立とは「動物を殺すことなく動物性食材=乳製品をに入れる方法」の発明でもあった。つまり、人類誕生以来続けてきた肉食を、宗教的な立場から「否定」することを可能にしたのであった。	・牧畜が可能にした肉食のタブー(禁忌)。
第7回 日本の食文化	「日本の食文化」とは言いますが、皆さん毎日どんな食事をしていますか？日本人である皆さん自身の食生活が「日本の食文化」なのですが、毎日和食ばかり食べている訳ではないでしょう。カレーライスもハンバーグもファストフードもコンビニ弁当も、イタリアンやフレンチ、中華もインド料理もけっこう食べています。それが日本の食文化、こんなにいろいろな食事が可能な国は、実はけっこう珍しいのです。だから、最初に世界各地の食文化と比べ、日本の食文化の特徴をいろいろ考えてみます。	〈アサイメント〉 和食と日本食の違いを述べて下さい。 〈事前学習〉 好きな食物を10品ほど選び、日本のもの、海外のものに分けて書き出して下さい。
第8回 「食べない」文化(2)	「食べない」文化(2) ユダヤ教・イスラーム教の場合： これらの宗教では、家畜を殺し食すことに抵抗はない。それは神から人間に与えられたものだからである。しかし同時に、「肉と乳製品を同時に食す」ことやブタ食のタブーなど、独自の食規制を設けそれを守ることで信仰の証としてきた。	・食のタブーの多様性。
第9回 日本の食文化、現代の食生活の問題点	「和食－日本人の伝統的な食文化」は2013年ユネスコ無形文化遺産に登録、世界に認められた文化的価値は、自然を尊ぶ、四季折々の食材、調度品や器の美です。でも、伝統的食文化は急速に失われ、だから保護すべき文化になったのです。多様な外国の食文化を取り入れたこともありますが、現代では孤立や貧困が問	〈アサイメント〉 関東と関西で食文化はどう違うか 〈事前学習〉一人で食べる(個食)、家族と食べる、友人や知人と食べる、皆さん自身のこの1週間の食事を振り返り、それぞれの回数を調べて表にして下さい。

	題です。今晚の食事を取れない子供も増え、「子供食堂」の活動が盛んです。 また、日本人の食の好みは多様、だからバラバラに食事をする人もいます。関東出身のお父さんと関西のお母さんでは食文化が大きく違います。友達とか恋人同士で	
第 10 回 和食の歴史から大饗料理	和食の歴史①：和食の歴史は縄文時代や弥生時代にさかのぼります。昆布、鰹節、茸や果実や山菜の多くは縄文時代からあり、米や麦は弥生時代のもので。縄文の名残は北海道東北と沖縄に残っています。弥生時代は近畿や東海に残っています。 続いて古墳時代や古代の奈良・平安時代は、神饌料理と大饗料理です。神社に今も残る神饌は神にささげる食です。その後、飛鳥藤原時代、奈良時代、平安時代と中国文化の影響を受けながら、貴族料理が発達、やがて全国に広がりました。それが大饗料理、今もよく使う調味料の原型ができた時代です。塩、酒、酢、	〈アサイメント〉大饗料理の食材を調べて下さい。 〈事前学習〉 和食の旨味にはグルタミン酸、イノシン酸、グアニル酸、アスパラギン酸、コハク酸があります。それぞれを含む食材を調べて下さい。
第 11 回 本膳料理と精進料理	和食文化②は、精進料理と本膳料理、今も残る高級日本料理の原型です。鎌倉時代は武士の時代、南宋（中国）に渡った栄西が禅宗の臨済宗を持ち帰り、道元は少し遅れて曹洞宗の禅を伝えました。禅の教えに精進料理があります。仏教は殺生を禁じ肉食を避けましたが、肉魚に代わる「もどき」料理、雁（がん）肉の代わりががんもどきです。また食事の作法を詳しく決めました。 一方、武士の食文化は本膳料理です。品数が多く食べきれず、持ち帰り家族や家来に上げるのです。お土産とかお持ち帰りの始まりです。現代は独り暮らしが多いのに持ち帰る人が	〈アサイメント〉 授業で紹介した道元の「典座教訓」に書いてある食事作法の一つ紹介して下さい。 〈事前学習〉 どんな宗教と関わりがありますか？家族や親戚の身近な宗教、お寺や神社を調べておいてください。
第 12 回 茶懐石と会席料理	和食文化③は、精進料理の影響で発達した懐石料理です。その後、大衆化し会席料理になりました。茶道を嗜まない多くの皆さんに懐石料理は縁遠いものです。でも簡単に解説します。本格的な茶懐石を最初に紹介し、現代の懐石料理屋さんで楽しむ懐石料理、美味しく食べる方法をお話しします。神戸山手キャンパスには茶室があり茶道部もありますので、お点前を見てもらいます。 一方、会席料理とは江戸時代の宴会の料理、江戸と京坂の食文化は分かれて発達、料亭も違います。豊かになった人々が外食、お酒を飲む習慣ができました。薄茶で始まり濃茶で終	〈アサイメント〉 江戸（東京）で生まれた料理にはどんなものがあるか探してみてください。 〈事前学習〉 江戸（東京）で有名な観光地を調べてみて下さい。
第 13 日 近代化と西洋料理の導入	和食文化④：近代化と西洋料理の導入、偽洋風料理と和食 それまでもポルトガルやスペインから、江戸時代にも出島を通じてオランダと中国から食文化が入っていましたが、江戸時代末の開国で西洋文化が一気に入ってきます。まず肉食、横浜と神戸の開港で滞在する欧米人が渴望した新鮮な牛肉は神戸では豊富で、横浜にも	〈アサイメント〉 神戸市内で一番古いコーヒー店、紅茶店、洋菓子屋、和菓子店を調べて下さい。 〈事前学習〉 学校給食の思い出を書いて下さい。一番好きなメニューはなんでしたか。

	運ばれ「神戸ビーフ」として世界中に知られました。そう、だから神戸と横浜が洋食の本場だと知られました。でも、海外を知らない当時の日本人には変な誤解が多く、その後の間違った異文化理解に繋がりました。	
第 14 回 戦後の食文化、食糧難から飽食の時代へ	和食文化学⑤：戦後の食文化、ファストフードとファミレス 太平洋戦争が終わった当時、人々は食料不足に苦しみました。アメリカの援助で小麦粉と牛乳（脱脂粉乳）が大量に届き、早速栄養不足の子供たちの給食になりました。最初はタダでした。その 20 年後に最初の大阪万博が開かれます。その時にはケンタッキーとマクドナルドが華々しく入ってきました。国内資本も負けずにスカイラークやロイホが生まれました。この 1970 年当時の食生活が現在まで続いています。	〈アサイメント〉 一番好きなファストフードとファミレスを上げて下さい。 〈事前学習〉 神戸、大阪、京都で行ってみたい飲食店は何かですか。
第 15 回 現代の日本食文化と未来の和食	世界に広がる和食の世界、飲食業界を就職先に狙うなら 和食がユネスコ無形遺産に登録され、その海外進出が盛んになりました。今や世界に 20 万店の日本料理店があり、日本国内の 30 万店に近づいています。一方で、家庭で料理しなくなった分、外食産業や食品加工業が盛んになりました。重工長大産業が栄えた昔と違い、生産額、事業所数、従業者数などどれを見ても食関連産業が大きくなりました。でも多くの人はその実態を知りません。特に関西には食品大手が集まっています。就活の参考に、関西の飲食業界を紹介します。もう一つの科目「フードビジ	〈アサイメント〉 最終課題です。もし飲食関係に就職先を考えるなら、飲食店、食品製造業、食料品店、農業畜産業、漁業などどんな業種のどんな仕事がいいか述べて下さい。

1.授業コード (ナンバリング)	TG2301-Y51	2.科目名	インバウンドビジネス		3.単位数	2
4.授業担当教員	李容淑					
5.授業科目の区分	国際観光における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択必須	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	観光事業論履修必修		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	別になし					
17.授業の目的と概要	インバウンドツーリズムとは何か、日本経済におけるインバウンドツーリズムの重要性を理解し、インバウンドツーリズム産業全体を経営学視点において把握をする。インバウンドツーリズムは、成長著しいアジアをはじめとする世界の需要を取り込むことによって、人口減少・少子高齢化が進展する 日本において、交流人口の拡大によって地域の活力を維持し、社会を発展させることに大きく貢献する。また、インバウンドツーリズム産業の核となる旅行業、宿泊業、輸送業、航空・空港業、お土産販売業、フードビジネス業等について、マクロ視点から、それぞれの業界の特徴と問題点の考察した上で、個々の企業をミクロ的な問題をとりあげ、その企業経営のあり方や、将来展望を模索するものとする。インバウンド観光産業は毎年成長し、2019 年には訪日外国人旅行客が 3,188 万人を突破し、消費額は 4 兆 6 千億円にも到達して、毎年最高記録を立てている。特に 2021 年、東京オリンピックを越え関西地域には、2025 年の世界万博の開催が大阪地域に誘致する計画を控えている。 ところが、最近世界に拡散する COVID-19 の影響で観光産業が大打撃を受けている中、この危機を乗り越えて、ポストコロナを対応する新戦略への大転換の必要である。その時代に合わせた専門知識を持つ人材が必要であろう。 この講義では日本政府が主導する日本の未来を支える重要国家産業として専門家育成戦略に従う『インバウンド主任者実務認定試験』を目指して徹底的な授業を実施します。					
18.学習目標と DPとの関連	この講義では、国家別の人口、民族、宗教、文化、経済指標、海外旅行動向、訪日旅行動向などを統計と調査資料で基づき市場分析し、急激に成長する新しいインバウンド観光の概念と方向性を理解し、実際に実践に対応ができる能力を育てることを目標とする。 ①自分で専門分野を説明できるようにする。 ②外国・外国人について知識とコミュニケーションスキルを鍛える。 ③留学生との授業やグループワークで多様な理解が広がる。 ④観光検定試験の獲得できればエキスパートの専門性を身につけることができる。					
19.教科書・教材	インバウンド実務主任者認定試験 公式テキスト 著者：安田亘宏 観光検定 公式テキスト 著者：安田亘宏					
20.参考文献	観光サービス論 安田亘宏 著 基礎から学ぶ観光プランニング 小塩稲之・安田亘宏 著 インバウンドビジネス 1 インバウンドビジネス 2 著者：村山慶輔 インバウンド実務主任者認定試験 公式過去問題集					

	編：全日本情報学習振興協会 発行：全日本情報学習振興協会	
21.成績評価	毎回のワークシート（OPEN BOOK）を提出 1 回 5 点 X12=60 点 Web Class 模擬テスト 授業態度・テキスト持参も含む」 → 60 % （教科書持参など） 期末テスト→ 本テスト・e ポートフォリオ → 40 %	
22.コメント	社会や関連ビジネスにおいて、積極的な姿勢で参加する学生に期待しています。 授業に対して深く理解し、復習や予習の準備など肯定的な姿勢を求めます。 質問する力、聴く力、質問に答える力、続ける力などを身に付けることを期待しています。 授業の中、アクティブラーニングやグループワークの際、積極的に参加することを求めています。	
23.オフィスアワー	金曜日 3 限 事前予約必須	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回	1. Presentation 学内外の活動の振り返り、ベンチマークに関する事項 評価 インバウンドツーリズム産業総論について、グローバル 化教育について	テキストとパソコン必修
2 回	観光について、 観光の歴史、 旅行会社の誕生、観光元年、観光立国宣言、 OTA とは 訪日観光推進政策年度 観光マーケットの分類①国内旅行②国外旅行③訪日外 国人旅行 宿泊旅行・日帰り旅行 個人旅行・団体旅行 個人旅行・法人旅行 観光の行政、 観光立国推進基本法 観光立国推進基本計画 明日の日本を支える観光ビジョン構想会議とは 観光庁、JNTO とは DMO・DMC とは 日本の登録 DMO について 広域 DMO、地域 DMO、候補 DMO について DMO 支援について	テキストとパソコン必修
3 回	旅行業について、 ①旅行業務に関する取引の公正の維持、 ②旅行者の利便の増進 ③旅行の安定の確保 第 1 種旅行業者・第 2 種旅行業者・ 第 3 種旅行業者・地域限定旅行業者 MICE とは（2025 年以後、IR 大阪など） 航空関連、	テキストとパソコン必修

	FSC,LCC とは クルーズ関連、 為替（世界通貨）について JNTO（日本観光政府局）について Visit Japan 事業（VJ）	
4 回	訪日外国人のビザについて ①十分な経済力者数次ビザ発給開始 （有効期間 3 年、1 回滞在期間 30 日の数次ビザ） ②高所得者訪日目的（観光、商用、知人訪問、航空券、宿泊先を自分で手配可能） ③東北 3 県を 6 県に拡大（過去 3 年以内に訪日歴の廃止） ④中国以外国居住者数ビザ導入 ⑤クレジットカード（ゴールド）所持者の 1 次ビザ申請手続き簡素化。 2019 年も緩和拡大 ビザ取得が免除される国・地域の人、それぞれ国ごとに決められた短期滞在の期間内で報酬を受ける活動に従事することができない ビザ免除国・地域について 多	テキストとパソコン必修
5 回	訪日外国人の消費について、 国・地域別 1 人あたりの消費額 国・地域別一人当たりの買い物代 買い物場所、購入率と単価、 一番満足した購入商品 一番満足した購入商品理由 飲食動向、決済について、 一番満足した飲食 一番満足した飲食理由 インバウンド決済 両替（世界通貨）、 銀聯カード（中国）、新韓カード（韓国）、 Alipay（中国）、コイニー、Wechat Payment（中国）、 Square(アメリカ) 免税について、 消耗品、一般物品の差は 免税店運営、顧客の管理、 日本を出てから後の顧客管理につ	テキストとパソコン必修
6 回	訪日外国人に対し、ビジネスについて 旅行業について、 ランドオペレーター 着地型旅行商品 OTA（Online Travel Agent） パッケージツアー、ダイナミックパッケージツアー 宿泊業について、 ホテルと旅館の差は シティホテル、ビジネスホテル、 リゾートホテル、民泊、民宿、ペンション、	テキストとパソコン必修

	公共の宿、Air B & B の状況	
7 回	インバウンドビジネスについて 鉄道ビジネスについて、豪華電車、九州、関西、関東など 航空ビジネスについて、FSC,LCC、Class 別 道路ビジネスについて、タクシー、 レンタカー（外国人の運転免許証について） 日本で運転できない国、	テキストとパソコン必修
8 回	外国人に対する お土産ビジネス・ショッピングビジネスについて、 外国人が好むお土産種類の工夫 購入率と単価、上位の品目 国土交通省・観光庁が実施するおみやげグランプリ年度別の紹介 受賞する品目紹介 外国人が買い物する場所の順位 飲食ビジネスについて ミシュラン星付きのレストラン 飲食店でのインバウンド対応（決済、言語、PR 方法など） 観光施設ビジネスについて 歴史観光資源、現代観光資源、セクレーション施設、観光施設の SNS PR。 SNS 発信地順位 エンタテインメントビジネスについて 歌舞伎、落語、お相撲、	テキストとパソコン必修
9 回	外国人に対し 観光案内ビジネスについて 観光案内所の種類、カテゴリ 3、2、1、パートナー施設 手ぶら観光カウンター 通訳ガイドについて 地域通訳案内士、観光ボランティアガイド IR 総合型リゾート 通訳支援会社、多言語コールセンター 外国人スタッフ派遣、正社員、契約社員、短期アルバイト インフラ整備 プロモーション関連 コンサルティング会社 広告会社 メディア関連 フリーペーパー、ガイドブック、ウェブメディア シェアリングエコノミーについて Airbnb, Uber, Lyft, Voyagin,Dogvaca	テキストとパソコン必修
10 回	ニューツーリズム ニューツーリズムの背景と誕生 Alternative Tourism、Sustainable Tourism、	テキストとパソコン必修

	エコーツーリズム 日本型エコーツーリズム 世界自然遺産－知床、白神山地、屋久島、小笠原諸島 訪日外国人旅行社のエコツアー成功事例 ロングスティーロンブスティビザ 訪日外国人旅行者のロングスティ事例 グリーンツーリズム 日本型グリーンツーリズム－果実狩り 国際グリーンツーリズム事例 カルチャーツーリズム 日本伝統文化体験 茶道、書道、華道、折り紙、盆栽、和太鼓、歌舞伎、芸者、	
11 回	産業ツーリズム 産業ツーリズム 3 分類 産業遺産、伝統遺産、工場遺産 訪日外国人産業ツーリズム事例 白鶴酒造資料館、パナソニックエコテクノロジーセンター、 ヘルスツーリズム ①温泉療法 ②食事療法 ③運動療法 ④気候療法 ⑤地形療法 ⑥森林療法（森林セラピー） ⑦海洋療法（タラソセラピー） ヘルスツーリズム認定制度 メディカルツーリズム ①治療、②健診③美容・健康増進 医療滞在ビザ ワインツーリズム 酒蔵ツーリズム フードツーリズム ①高級グルメツーリズム ②庶民グルメツーリズム ③マルチグルメツーリズム	テキストとパソコン必修
12 日	日本酒について（利き酒師）特別講義 酒蔵ツーリズム 酒サマライとは？ ミス酒とは？ ミスター酒とは？ 飯米と酒米 酒米の種類（山田錦、美山錦、雄町、キンプなど） 精米とは？ 大吟醸、吟醸、普通酒、本蔵酒 酒作り 5.0 について 擬似米とは 研磨技術、 福井県梵酒の特徴 生物工学バイオテクノロジー、音楽、スピーカー、仕込みとは	テキストとパソコン必修

	SCM とは 地域社会の関係企業構築で共生関係社会へ 5.0 日本酒と UT とのコラボ T シャツ開発 International Wine Challenge でライスインのカテゴリ 新潟県の	
13 回	訪日外国人旅行社への対応姿勢 中国 中国人旅行者の理解 爆買いとは 中国人の国民性 中国人の訪日旅行動向 中国人の旅行トレンド・休暇 中国人の買い物傾向 中国人の食事動向 中国人の旅行情報収集 韓国 韓国人旅行者の理解 韓国人の国民性 韓国人の訪日旅行動向 韓国人の旅行トレンド・休暇 韓国人の買い物傾向 韓国人の食事動向 韓国人の旅行情報収集 台湾 台湾人旅行者の理解 台湾人の国民性 台湾人の訪日旅行動向 台湾人の旅行トレンド・休暇 台湾人の買い物傾向 台湾人の食事動向 台湾人の旅行情報収集	テキストとパソコン必修
14 回	アメリカ人の旅行者の理解 アメリカ人の国民性 アメリカ人の訪日旅行動向 アメリカ人の旅行トレンド・休暇 アメリカ人の買い物傾向 アメリカ人の食事動向 アメリカ人の旅行情報収集 西欧人旅行者へのアプローチ ムスリム旅行者の理解 イスラム教徒の義務付けられた 5 つの行為 ①信仰告白（シャハーダ） ②一日 5 回の礼拝（サラート） ③イスラム歴 9 月（ラマダーン）の断食（サウム） ④喜捨（ザカート） ⑤可能な場合には一生 1 度メッカ巡礼（ハッジ）	テキストとパソコン必修

	はルールとは食事以外の注意事項 ベジタリアン旅行者の理解 ビーガン	
15 回	期末テストとまとめ	テキストとパソコン必修

1.授業コード (ナンバリング)	TOU102-Y51	2.科目名	観光産業概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	国際コミュニケーション学部観光学科			9.履修学年	1 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	特になし	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	本科目の学習目標はディプロマ・ポリシー の「1. 自律的で主体的な態度」と「2. 社会に能動的に貢献する姿勢」「3. 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力」「6. 専門知識・技能の活用力」の学修に関連している。 観光産業を理解するには、社会的・経済的要素に加え、地理・歴史・文化を知る必要がある。これらの知識の習得とともに、観光が今なぜ重要であるといわれているのか、つまり観光の意義と役割を認識することに重点を置く。この授業では観光の基礎知識と観光関連産業の現状と将来、新しい観光のカたちなどを学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、以下の DP に対応している。 2：主体的行動力、問題解決力 3：多様な価値観受容、コミュニケーション能力 K1：歴史・伝統・文化・自然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光 と結びつけて考えることができる ①観光の歴史が理解できるようになる ②観光産業の構造が理解できるようになる ③観光産業の課題や将来性について考えることができるようになる					
19.教科書・教材	授業中に指示する。					
20.参考文献	授業中に適宜紹介する。					
21.成績評価	①課題レポート（毎授業）60％【学修目標①②③】 ②確認テスト 30％【学修目標①②③】 ③平常点 10％【学習目標①②】 課題レポートのコピペ・剽窃・テストの不正行為・出欠に関する不正は点ではなくマイナス評価となり、疑義が生じた時点で教務課に報告する。このため、単位認定全体に大きな影響を与えることを予め理解しておくこと。 課題提出は、WebClass を利用する。メールでの提出および締切後の提出は基本的には認めない。またフォントやファイル名などの提出ルールに添わない課題提出は、大幅な減点対象となる。 欠席は					
22.コメント	・事前配布の講義ノートを持参し空所補充などを完成させて毎授業後に提出する。（ノートパソコンを持参して空所補充などを行う） ・授業内容は、履修人数や進捗状況、理解度等の状況により適宜変更の場合がある。					
23.オフィスアワー	個人研究室：3306 で実施。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	【オリエンテーション】 ・講義内容について ・評価方法について			復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習		

	【講義】 ・観光とは何か	
【第2回】	・観光の定義 ・観光の歴史①	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第3回】	観光の歴史②	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第4回】	観光行動	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第5回】	・観光資源と観光施設 ・国内観光と国際観光	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第6回】 11/6	・観光政策と経済効果	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第7回】 11/13	観光産業の概要	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：レポート課題
【第8回】 11/21	・旅行産業	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第9回】 11/28	・運輸産業：航空と鉄道	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第10回】 12/5	宿泊産業	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第11回】 12/12	宿泊産業②	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第12回】	テーマパークと文化施設	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第13回】	・セレモニー産業 ・新しい観光①	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第14回】	・新しい観光② ・まとめ：観光の変化とこれからの観光への期待	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 試験対策プリントの演習
【第15回】	期末試験：手書きノートのみ持ち込み可	復習：今回の復習及び授業ノートの整理

1.授業コード (ナンバリング)	TOU209-A51	2.科目名	インバウンドツーリズム産業論		3.単位数	2
4.授業担当教員	李容淑					
5.授業科目の区分	講義科目	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	経営学科		11.先修条件	経営 2 年		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	世界では「観光」は 21 世紀の最大の産業であると言われている。観光産業は裾野が広く、多くの業種・業界に渡って経済波及の効果を持つ産業である。特に現代社会における観光産業は、無公害産業、世界最大の雇用産業として脚光を浴び、観光が国際経済に与える影響力が大きくなっている。 世界各国は観光産業を国家戦略産業として育成し、競争優位性を先取りするために熾烈な競争を繰り広げている。他方、近年世界経済は、長年新型コロナウイルス感染症拡大の影響と、感染拡大を防止するために経済活動を人為的に抑制したこと、大幅に悪化した。特に観光業界はさらに痛みに苦しんでいる。新型コロナウイルス感染症拡大前の 2019 年の外国人旅行者受入数は、日本は 3,188 万人で 12 位(アジアで 3 位)となった。 2023 年度には 2,506 万人に回復し、消費額は 2019 年度では 4 兆 8,135 億円で 2023 年には 5 兆 2,923 億円を記録されている。 この講義ではインバウンド観光は日本政府が主導する日本の未来を支える重要国家産業として専門家育成戦略に実務的専門家を輩出して観光関連企業への進出するための資格修得をすることを目標にしています。					
18.学習目標と DPとの関連	この講義では観光産業が日本の未来を支える重要国家産業として専門家育成を目指し、観光関連企業への進出するため資格修得をすることを目標とする。 ① 自分で観光専門分野を説明できるようにする。 ② 多様なビジネスに関連する知識とスキルを発揮することができる ③ 留学生との授業やグループワークでコミュニケーションスキルを高める。 ④ 観光検定に挑戦することでエキスパートの専門性を身につけることができる。					
19.教科書・教材	インバウンド実務主任者認定試験 公式テキスト 観光検定公式テキスト 著者：安田亘宏					
20.参考文献	インバウンドビジネス 1 インバウンドビジネス 2 著者：村山慶輔 インバウンド実務主任者認定試験 公式過去問題集 編：全日本情報学習振興協会 発行：全日本情報学習振興協会 観光サービス論 安田亘宏 著 基礎から学ぶ観光プランニング 小塩稲之・安田亘宏 著					
21.成績評価	毎回のワークシート (OPEN BOOK) Web Class 模擬テスト 授業態度・テキスト持参も含む」 → 60%					

	期末テスト→ 本テスト・eポートフォリオ → 40%	
22.コメント	毎回の授業に積極的な姿勢で準備物や復習をしっかりと求めている。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1回 10月6日 金	オリエンテーション 授業紹介、PDCA	
2回 10月13日 金	観光案内・ 通訳ガイド 観光支援・ 語学関連 通訳支援会社 多言語コールセンター 外国人スタッフ派遣 免税関連サポート 広告会社 メディア関連 ガイドブック ウェブメディア シェアリングエコノミ Airbnb Uber Lyft Voyagin Dog Vacay Kitch Hike Feastly Tastrabbit	
3回 10月20日 金	ニューツーリズム エコツーリズム 日本型エコツーリズム エコツアー成功事例 ロングスティ ロングスティビザ ロングスティ事例	
4回 10月27日 金	グリーンツーリズム 果実狩り 国際グリーンツーリズム COOL JAPAN カルチャーツーリズム 茶道、書道、華道体験 折り紙、盆栽、和太鼓、歌舞伎、忍者 日本伝統工芸体験 手すき和紙体験、江戸手猫点灯、食品サンプル作り、 日本料理体験 寿司作り、そば打ち体験、キャラ弁作り体験	
5回 11月3日 金	産業ツーリズム ヘルスツーリズム メディカルツーリズム ワインツーリズム	
6回 11月17日 金	日本酒について特別講義 日本酒世界化戦略	
7回 11月24日	フードツーリズム	

日金	高級グルメツーリズム 庶民グルメツーリズム マルチグルメツーリズム 食購買ツーリズム 食体験ツーリズム ワイン・酒ツーリズム スポーツツーリズム 見る、する、支えるスポーツツーリズム コンテンツツーリズム フィルムツーリズム アニメツーリズム	
8回 12月1日 金	中国人旅行者への対応姿勢について 中国人旅行者の理解 中国人の国民性 中国人の訪日旅行動向、トレンド、休暇 買い物動向、飲食動向、情報収集について 韓国人旅行者への対応姿勢について 韓国人旅行者の理解 韓国人の国民性 韓国人の訪日旅行動向、トレンド、休暇 買い物動向、飲食動向、情報収集について	
9回 12月8日 金	台湾人旅行者への対応姿勢について 台湾人旅行者の理解 台湾人の国民性 台湾人の訪日旅行動向、トレンド、休暇 買い物動向、飲食動向、情報収集について 香港人旅行者への対応姿勢について 香港人旅行者の理解 香港人の国民性 香港人の訪日旅行動向、トレンド、休暇 買い物動向、飲食動向、情報収集について タイ・ベトナム人旅行者への対応姿勢について タイ・ベトナム人旅行者の理解 タイ・ベトナムの国民性 タイ・ベトナムの訪日旅行動向、トレンド、休暇 買い物動向、飲食動向、情報収集について	
10日 12月15 日金	アメリカ人旅行者への対応姿勢について アメリカ人旅行者の理解 アメリカ人の国民性 アメリカ人の訪日旅行動向、トレンド、休暇 買い物動向、飲食動向、情報収集について ムスリム旅行者の理解 ハラル ハラーム ムスリム旅行者の受け入れ ベジタリアンについて ビーガン、ダイエタリービーガン、フルータリアン	

	ラクト・ベジタリアン ラクト・オボ・ベジタリアン ポーヨー・ベジタリアン	
11回 12月22日 日金	訪日外国人への対応 訪日外国人の満足度 SNS 投稿分析 多言語対応の外国語 アプリ、音声ガイド、HP,SNS 外国人スタッフ 通信環境対応 Wifi,国際ローミング、Sim カード ユニバーサルツーリズム ノーマライゼーション、バリアフリーツーリズム 安全対策 Safety Tips 5言語、地震、台風、津波	
12回 1月12日 日金	インバウンド人材 日本人的能力、ホスピタリティの理解、外国人的能力、 国際人的能力 インバウンド情報 総合情報メディア	
13回 1月19日 日金	インバウンドの集客 外国人旅行者へのアプローチ アプローチタイミング、方法、 ネット予約サイト OTA TTA Booking.com Expedia Agoda.com Hotels.com Hotelworld Trip.com Rakuten Travel jalan.net 旅行博覧会 見本市、旅行相談会、旅行郎売会	
14回 1月26日	インバウンドへの集客 ファムトリップ 旅行ガイドブック フリーペーパー ホームページ インバウンドウェブメディア 店頭メディア 外国人スタッフ	
	期末テスト 振り返り e-portofolio	

1.授業コード (ナンバリング)	TOU209-Y51	2.科目名	インバウンドツーリズム産業論		3.単位数	2
4.授業担当教員	李容淑					
5.授業科目の区分	国際観光における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択必須	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	観光事業論履修必修		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	別になし					
17.授業の目的と概要	インバウンドツーリズムとは何か、日本経済におけるインバウンドツーリズムの重要性を理解し、インバウンドツーリズム産業全体を経営学視点において把握をする。インバウンドツーリズムは、成長著しいアジアをはじめとする世界の需要を取り込むことによって、人口減少・少子高齢化が進展する 日本において、交流人口の拡大によって地域の活力を維持し、社会を発展させることに大きく貢献する。また、インバウンドツーリズム産業の核となる旅行業、宿泊業、輸送業、航空・空港業、お土産販売業、フードビジネス業等について、マクロ視点から、それぞれの業界の特徴と問題点の考察した上で、個々の企業をミクロ的な問題をとりあげ、その企業経営のあり方や、将来展望を模索するものとする。インバウンド観光産業は毎年成長し、2019 年には訪日外国人旅行客が 3,188 万人を突破し、消費額は 4 兆 6 千億円にも到達して、毎年最高記録を立てている。特に 2021 年、東京オリンピックを越え関西地域には、2025 年の世界万博の開催が大阪地域に誘致する計画を控えている。 ところが、最近世界に拡散する COVID-19 の影響で観光産業が大打撃を受けている中、この危機を乗り越えて、ポストコロナを対応する新戦略への大転換の必要である。その時代に合わせた専門知識を持つ人材が必要であろう。 この講義では日本政府が主導する日本の未来を支える重要国家産業として専門家育成戦略に従う『インバウンド主任者実務認定試験』を目指して徹底的な授業を実施します。					
18.学習目標と DPとの関連	この講義では、国家別の人口、民族、宗教、文化、経済指標、海外旅行動向、訪日旅行動向などを統計と調査資料で基づき市場分析し、急激に成長する新しいインバウンド観光の概念と方向性を理解し、実際に実践に対応ができる能力を育てることを目標とする。 ①自分で専門分野を説明できるようにする。 ②外国・外国人について知識とコミュニケーションスキルを鍛える。 ③留学生との授業やグループワークで多様な理解が広がる。 ④観光検定試験の獲得できればエキスパートの専門性を身につけることができる。					
19.教科書・教材	インバウンド実務主任者認定試験 公式テキスト 著者：安田亘宏 観光検定 公式テキスト 著者：安田亘宏					
20.参考文献	観光サービス論 安田亘宏 著 基礎から学ぶ観光プランニング 小塩稲之・安田亘宏 著 インバウンドビジネス 1 インバウンドビジネス 2 著者：村山慶輔 インバウンド実務主任者認定試験 公式過去問題集					

	編：全日本情報学習振興協会 発行：全日本情報学習振興協会	
21.成績評価	毎回のワークシート（OPEN BOOK）を提出 1 回 5 点 X12=60 点 Web Class 模擬テスト 授業態度・テキスト持参も含む」 → 60 % （教科書持参など） 期末テスト→ 本テスト・e ポートフォリオ → 40 %	
22.コメント	社会や関連ビジネスにおいて、積極的な姿勢で参加する学生に期待しています。 授業に対して深く理解し、復習や予習の準備など肯定的な姿勢を求めます。 質問する力、聴く力、質問に答える力、続ける力などを身に付けることを期待しています。 授業の中、アクティブラーニングやグループワークの際、積極的に参加することを求めています。	
23.オフィスアワー	金曜日 3 限 事前予約必須	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回	1. Presentation 学内外の活動の振り返り、ベンチマークに関する事項 評価 インバウンドツーリズム産業総論について、グローバル 化教育について	テキストとパソコン必修
2 回	観光について、 観光の歴史、 旅行会社の誕生、観光元年、観光立国宣言、 OTA とは 訪日観光推進政策年度 観光マーケットの分類①国内旅行②国外旅行③訪日外 国人旅行 宿泊旅行・日帰り旅行 個人旅行・団体旅行 個人旅行・法人旅行 観光の行政、 観光立国推進基本法 観光立国推進基本計画 明日の日本を支える観光ビジョン構想会議とは 観光庁、JNTO とは DMO・DMC とは 日本の登録 DMO について 広域 DMO、地域 DMO、候補 DMO について DMO 支援について	テキストとパソコン必修
3 回	旅行業について、 ①旅行業務に関する取引の公正の維持、 ②旅行者の利便の増進 ③旅行の安定の確保 第 1 種旅行業者・第 2 種旅行業者・ 第 3 種旅行業者・地域限定旅行業者 MICE とは（2025 年以後、IR 大阪など） 航空関連、	テキストとパソコン必修

	FSC,LCC とは クルーズ関連、 為替（世界通貨）について JNTO（日本観光政府局）について Visit Japan 事業（VJ）	
4 回	訪日外国人のビザについて ①十分な経済力者数次ビザ発給開始 （有効期間 3 年、1 回滞在期間 30 日の数次ビザ） ②高所得者訪日目的（観光、商用、知人訪問、航空券、宿泊先を自分で手配可能） ③東北 3 県を 6 県に拡大（過去 3 年以内に訪日歴の廃止） ④中国以外国居住者数次ビザ導入 ⑤クレジットカード（ゴールド）所持者の 1 次ビザ申請手続き簡素化。 2019 年も緩和拡大 ビザ取得が免除される国・地域の人、それぞれ国ごとに決められた短期滞在の期間内で報酬を受ける活動に従事することができない ビザ免除国・地域について 多	テキストとパソコン必修
5 回	訪日外国人の消費について、 国・地域別 1 人あたりの消費額 国・地域別一人当たりの買い物代 買い物場所、購入率と単価、 一番満足した購入商品 一番満足した購入商品理由 飲食動向、決済について、 一番満足した飲食 一番満足した飲食理由 インバウンド決済 両替（世界通貨）、 銀聯カード（中国）、新韓カード（韓国）、 Alipay（中国）、コイニー、Wechat Payment（中国）、 Square(アメリカ) 免税について、 消耗品、一般物品の差は 免税店運営、顧客の管理、 日本を出てから後の顧客管理につ	テキストとパソコン必修
6 回	訪日外国人に対し、ビジネスについて 旅行業について、 ランドオペレーター 着地型旅行商品 OTA（Online Travel Agent） パッケージツアー、ダイナミックパッケージツアー 宿泊業について、 ホテルと旅館の差は シティホテル、ビジネスホテル、 リゾートホテル、民泊、民宿、ペンション、	テキストとパソコン必修

	公共の宿、Air B & B の状況	
7 回	インバウンドビジネスについて 鉄道ビジネスについて、豪華電車、九州、関西、関東など 航空ビジネスについて、FSC,LCC、Class 別 道路ビジネスについて、タクシー、 レンタカー（外国人の運転免許証について） 日本で運転できない国、	テキストとパソコン必修
8 回	外国人に対する お土産ビジネス・ショッピングビジネスについて、 外国人が好むお土産種類の工夫 購入率と単価、上位の品目 国土交通省・観光庁が実施するおみやげグランプリ年度別の紹介 受賞する品目紹介 外国人が買い物する場所の順位 飲食ビジネスについて ミシュラン星付きのレストラン 飲食店でのインバウンド対応（決済、言語、PR 方法など） 観光施設ビジネスについて 歴史観光資源、現代観光資源、セクレーション施設、観光施設の SNS PR。 SNS 発信地順位 エンタテインメントビジネスについて 歌舞伎、落語、お相撲、	テキストとパソコン必修
9 回	外国人に対し 観光案内ビジネスについて 観光案内所の種類、カテゴリ 3、2、1、パートナ施設 手ぶら観光カウンター 通訳ガイドについて 地域通訳案内士、観光ボランティアガイド IR 総合型リゾート 通訳支援会社、多言語コールセンター 外国人スタッフ派遣、正社員、契約社員、短期アルバイト インフラ整備 プロモーション関連 コンサルティング会社 広告会社 メディア関連 フリーペーパー、ガイドブック、ウェブメディア シェアリングエコノミーについて Airbnd, Uber, Lyft, Voyagin,Dogvaca	テキストとパソコン必修
10 回	ニューツーリズム ニューツーリズムの背景と誕生 Alternative Tourism、Sustainable Tourism、	テキストとパソコン必修

	エコーツーリズム 日本型エコーツーリズム 世界自然遺産－知床、白神山地、屋久島、小笠原諸島 訪日外国人旅行社のエコツアー成功事例 ロングスティーロンブスティビザ 訪日外国人旅行者のロングスティ事例 グリーンツーリズム 日本型グリーンツーリズム－果実狩り 国際グリーンツーリズム事例 カルチャーツーリズム 日本伝統文化体験 茶道、書道、華道、折り紙、盆栽、和太鼓、歌舞伎、芸者、	
11 回	産業ツーリズム 産業ツーリズム 3 分類 産業遺産、伝統遺産、工場遺産 訪日外国人産業ツーリズム事例 白鶴酒造資料館、パナソニックエコテクノロジーセンター、 ヘルスツーリズム ①温泉療法 ②食事療法 ③運動療法 ④気候療法 ⑤地形療法 ⑥森林療法（森林セラピー） ⑦海洋療法（タラソテラピー） ヘルスツーリズム認定制度 メディカルツーリズム ①治療、②健診③美容・健康増進 医療滞在ビザ ワインツーリズム 酒蔵ツーリズム フードツーリズム ①高級グルメツーリズム ②庶民グルメツーリズム ③マルチグルメツーリズム	テキストとパソコン必修
12 日	日本酒について（利き酒師）特別講義 酒蔵ツーリズム 酒サマライとは？ ミス酒とは？ ミスター酒とは？ 飯米と酒米 酒米の種類（山田錦、美山錦、雄町、キンプなど） 精米とは？ 大吟醸、吟醸、普通酒、本蔵酒 酒作り 5.0 について 擬似米とは 研磨技術、 福井県梵酒の特徴 生物工学バイオテクノロジー、音楽、スピーカー、仕込みとは	テキストとパソコン必修

	SCM とは 地域社会の関係企業構築で共生関係社会へ 5.0 日本酒と UT とのコラボ T シャツ開発 International Wine Challenge でライスインのカテゴリ 新潟県の	
13 回	訪日外国人旅行社への対応姿勢 中国 中国人旅行者の理解 爆買いとは 中国人の国民性 中国人の訪日旅行動向 中国人の旅行トレンド・休暇 中国人の買い物傾向 中国人の食事動向 中国人の旅行情報収集 韓国 韓国人旅行者の理解 韓国人の国民性 韓国人の訪日旅行動向 韓国人の旅行トレンド・休暇 韓国人の買い物傾向 韓国人の食事動向 韓国人の旅行情報収集 台湾 台湾人旅行者の理解 台湾人の国民性 台湾人の訪日旅行動向 台湾人の旅行トレンド・休暇 台湾人の買い物傾向 台湾人の食事動向 台湾人の旅行情報収集	テキストとパソコン必修
14 回	アメリカ人の旅行者の理解 アメリカ人の国民性 アメリカ人の訪日旅行動向 アメリカ人の旅行トレンド・休暇 アメリカ人の買い物傾向 アメリカ人の食事動向 アメリカ人の旅行情報収集 西欧人旅行者へのアプローチ ムスリム旅行者の理解 イスラム教徒の義務付けられた 5 つの行為 ①信仰告白（シャハーダ） ②一日 5 回の礼拝（サラート） ③イスラム歴 9 月（ラマダーン）の断食（サウム） ④喜捨（ザカート） ⑤可能な場合には一生 1 度メッカ巡礼（ハッジ	テキストとパソコン必修

	はルールとは食事以外の注意事項 ベジタリアン旅行者の理解 ビーガン	
15 回	期末テストとまとめ	テキストとパソコン必修

1.授業コード (ナンバリング)	TOU215-Y51	2.科目名	インバウンド・ツーリズム産業論		3.単位数	2
4.授業担当教員	李容淑					
5.授業科目の区分	国際観光における実務 経験のある教員による 授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択必須	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科専攻			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	観光事業論履修必修		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	別になし					
17.授業の目的と概要	インバウンドツーリズムとは何か、日本経済におけるインバウンドツーリズムの重要性を理解し、インバウンドツーリズム産業全体を経営学視点において把握をする。インバウンドツーリズムは、成長著しいアジアをはじめとする世界の需要を取り込むことによって、人口減少・少子高齢化が進展する 日本において、交流人口の拡大によって地域の活力を維持し、社会を発展させることに大きく貢献する。また、インバウンドツーリズム産業の核となる旅行業、宿泊業、輸送業、航空・空港業、お土産販売業、フードビジネス業等について、マクロ視点から、それぞれの業界の特徴と問題点の考察した上で、個々の企業をミクロ的な問題をとりあげ、その企業経営のあり方や、将来展望を模索するものとする。インバウンド観光産業は毎年成長し、2019 年には訪日外国人旅行客が3,188 万人を突破し、消費額は4 兆6 千億円にも到達して、毎年最高記録を立てている。特に 2021 年、東京オリンピックを越え関西地域には、2025 年の世界万博の開催が大阪地域に誘致する計画を控えている。 ところが、最近世界に拡散する COVID-19 の影響で観光産業が大打撃を受けている中、この危機を乗り越えて、ポストコロナを対応する新戦略への大転換の必要である。その時代に合わせた専門知識を持つ人材が必要であろう。 この講義では日本政府が主導する日本の未来を支える重要国家産業として専門家育成戦略に従う『インバウンド主任者実務認定試験』を目指して徹底的な授業を実施します。					
18.学習目標と DPとの関連	この講義では、国家別の人口、民族、宗教、文化、経済指標、海外旅行動向、訪日旅行動向などを統計と調査資料で基づき市場分析し、急激に成長する新しいインバウンド観光の概念と方向性を理解し、実際に実践に対応ができる能力を育てることを目標とする。 ①自分で専門分野を説明できるようにする。 ②外国・外国人について知識とコミュニケーションスキルを鍛える。 ③留学生との授業やグループワークで多様な理解が広がる。 ④観光検定試験の獲得できればエキスパートの専門性を身につけることができる。					
19.教科書・教材	インバウンド実務主任者認定試験 公式テキスト 著者：安田亘宏 観光検定 公式テキスト 著者：安田亘宏					
20.参考文献	観光サービス論 安田亘宏 著 基礎から学ぶ観光プランニング 小塩稲之・安田亘宏 著 インバウンドビジネス1 インバウンドビジネス2 著者：村山慶輔 インバウンド実務主任者認定試験 公式過去問題集					

	編：全日本情報学習振興協会 発行：全日本情報学習振興協会	
21.成績評価	毎回のワークシート（OPEN BOOK）を提出 1 回 5 点 X12=60 点 Web Class 模擬テスト 授業態度・テキスト持参も含む」 → 60 % （教科書持参など） 期末テスト→ 本テスト・e ポートフォリオ → 40 %	
22.コメント	社会や関連ビジネスにおいて、積極的な姿勢で参加する学生に期待しています。 授業に対して深く理解し、復習や予習の準備など肯定的な姿勢を求めます。 質問する力、聴く力、質問に答える力、続ける力などを身に付けることを期待しています。 授業の中、アクティブラーニングやグループワークの際、積極的に参加することを求めています。	
23.オフィスアワー	金曜日 3 限 事前予約必須	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1 回	1. Presentation 学内外の活動の振り返り、ベンチマークに関する事項 評価 インバウンドツーリズム産業総論について、グローバル 化教育について	テキストとパソコン必修
2 回	観光について、 観光の歴史、 旅行会社の誕生、観光元年、観光立国宣言、 OTA とは 訪日観光推進政策年度 観光マーケットの分類①国内旅行②国外旅行③訪日外 国人旅行 宿泊旅行・日帰り旅行 個人旅行・団体旅行 個人旅行・法人旅行 観光の行政、 観光立国推進基本法 観光立国推進基本計画 明日の日本を支える観光ビジョン構想会議とは 観光庁、JNTO とは DMO・DMC とは 日本の登録 DMO について 広域 DMO、地域 DMO、候補 DMO について DMO 支援について	テキストとパソコン必修
3 回	旅行業について、 ①旅行業務に関する取引の公正の維持、 ②旅行者の利便の増進 ③旅行の安定の確保 第 1 種旅行業者・第 2 種旅行業者・ 第 3 種旅行業者・地域限定旅行業者 MICE とは（2025 年以後、IR 大阪など） 航空関連、	テキストとパソコン必修

	FSC,LCC とは クルーズ関連、 為替（世界通貨）について JNTO（日本観光政府局）について Visit Japan 事業（VJ）	
4 回	訪日外国人のビザについて ①十分な経済力者数次ビザ発給開始 （有効期間 3 年、1 回滞在期間 30 日の数次ビザ） ②高所得者訪日目的（観光、商用、知人訪問、航空券、宿泊先を自分で手配可能） ③東北 3 県を 6 県に拡大（過去 3 年以内に訪日歴の廃止） ④中国以外国居住者数ビザ導入 ⑤クレジットカード（ゴールド）所持者の 1 次ビザ申請手続き簡素化。 2019 年も緩和拡大 ビザ取得が免除される国・地域の人、それぞれ国ごとに決められた短期滞在の期間内で報酬を受ける活動に従事することができない ビザ免除国・地域について 多	テキストとパソコン必修
5 回	訪日外国人の消費について、 国・地域別 1 人あたりの消費額 国・地域別一人当たりの買い物代 買い物場所、購入率と単価、 一番満足した購入商品 一番満足した購入商品理由 飲食動向、決済について、 一番満足した飲食 一番満足した飲食理由 インバウンド決済 両替（世界通貨）、 銀聯カード（中国）、新韓カード（韓国）、 Alipay（中国）、コイニー、Wechat Payment（中国）、 Square(アメリカ) 免税について、 消耗品、一般物品の差は 免税店運営、顧客の管理、 日本を出てから後の顧客管理につ	テキストとパソコン必修
6 回	訪日外国人に対し、ビジネスについて 旅行業について、 ランドオペレーター 着地型旅行商品 OTA（Online Travel Agent） パッケージツアー、ダイナミックパッケージツアー 宿泊業について、 ホテルと旅館の差は シティホテル、ビジネスホテル、 リゾートホテル、民泊、民宿、ペンション、	テキストとパソコン必修

	公共の宿、Air B & B の状況	
7 回	インバウンドビジネスについて 鉄道ビジネスについて、豪華電車、九州、関西、関東など 航空ビジネスについて、FSC,LCC、Class 別 道路ビジネスについて、タクシー、 レンタカー（外国人の運転免許証について） 日本で運転できない国、	テキストとパソコン必修
8 回	外国人に対する お土産ビジネス・ショッピングビジネスについて、 外国人が好むお土産種類の工夫 購入率と単価、上位の品目 国土交通省・観光庁が実施するおみやげグランプリ年度別の紹介 受賞する品目紹介 外国人が買い物する場所の順位 飲食ビジネスについて ミシュラン星付きのレストラン 飲食店でのインバウンド対応（決済、言語、PR 方法など） 観光施設ビジネスについて 歴史観光資源、現代観光資源、セクレーション施設、観光施設の SNS PR。 SNS 発信地順位 エンタテインメントビジネスについて 歌舞伎、落語、お相撲、	テキストとパソコン必修
9 回	外国人に対し 観光案内ビジネスについて 観光案内所の種類、カテゴリ 3、2、1、パートナー施設 手ぶら観光カウンター 通訳ガイドについて 地域通訳案内士、観光ボランティアガイド IR 総合型リゾート 通訳支援会社、多言語コールセンター 外国人スタッフ派遣、正社員、契約社員、短期アルバイト インフラ整備 プロモーション関連 コンサルティング会社 広告会社 メディア関連 フリーペーパー、ガイドブック、ウェブメディア シェアリングエコノミーについて Airbnb, Uber, Lyft, Voyagin,Dogvaca	テキストとパソコン必修
10 回	ニューツーリズム ニューツーリズムの背景と誕生 Alternative Tourism、Sustainable Tourism、	テキストとパソコン必修

	エコーツーリズム 日本型エコーツーリズム 世界自然遺産－知床、白神山地、屋久島、小笠原諸島 訪日外国人旅行社のエコツアー成功事例 ロングスティーロンブスティビザ 訪日外国人旅行者のロングスティ事例 グリーンツーリズム 日本型グリーンツーリズム－果実狩り 国際グリーンツーリズム事例 カルチャーツーリズム 日本伝統文化体験 茶道、書道、華道、折り紙、盆栽、和太鼓、歌舞伎、芸者、	
11 回	産業ツーリズム 産業ツーリズム 3 分類 産業遺産、伝統遺産、工場遺産 訪日外国人産業ツーリズム事例 白鶴酒造資料館、パナソニックエコテクノロジーセンター、 ヘルスツーリズム ①温泉療法 ②食事療法 ③運動療法 ④気候療法 ⑤地形療法 ⑥森林療法（森林セラピー） ⑦海洋療法（タラソセラピー） ヘルスツーリズム認定制度 メディカルツーリズム ①治療、②健診③美容・健康増進 医療滞在ビザ ワインツーリズム 酒蔵ツーリズム フードツーリズム ①高級グルメツーリズム ②庶民グルメツーリズム ③マルチグルメツーリズム	テキストとパソコン必修
12 日	日本酒について（利き酒師）特別講義 酒蔵ツーリズム 酒サマライとは？ ミス酒とは？ ミスター酒とは？ 飯米と酒米 酒米の種類（山田錦、美山錦、雄町、キンプなど） 精米とは？ 大吟醸、吟醸、普通酒、本蔵酒 酒作り 5.0 について 擬似米とは 研磨技術、 福井県梵酒の特徴 生物工学バイオテクノロジー、音楽、スピーカー、仕込みとは	テキストとパソコン必修

	SCM とは 地域社会の関係企業構築で共生関係社会へ 5.0 日本酒と UT とのコラボ T シャツ開発 International Wine Challenge でライスワインのカテゴリ 新潟県の	
13 回	訪日外国人旅行社への対応姿勢 中国 中国人旅行者の理解 爆買いとは 中国人の国民性 中国人の訪日旅行動向 中国人の旅行トレンド・休暇 中国人の買い物傾向 中国人の食事動向 中国人の旅行情報収集 韓国 韓国人旅行者の理解 韓国人の国民性 韓国人の訪日旅行動向 韓国人の旅行トレンド・休暇 韓国人の買い物傾向 韓国人の食事動向 韓国人の旅行情報収集 台湾 台湾人旅行者の理解 台湾人の国民性 台湾人の訪日旅行動向 台湾人の旅行トレンド・休暇 台湾人の買い物傾向 台湾人の食事動向 台湾人の旅行情報収集	テキストとパソコン必修
14 回	アメリカ人の旅行者の理解 アメリカ人の国民性 アメリカ人の訪日旅行動向 アメリカ人の旅行トレンド・休暇 アメリカ人の買い物傾向 アメリカ人の食事動向 アメリカ人の旅行情報収集 西欧人旅行者へのアプローチ ムスリム旅行者の理解 イスラム教徒の義務付けられた 5 つの行為 ①信仰告白（シャハーダ） ②一日 5 回の礼拝（サラート） ③イスラム歴 9 月（ラマダーン）の断食（サウム） ④喜捨（ザカート） ⑤可能な場合には一生 1 度メッカ巡礼（ハッジ	テキストとパソコン必修

	はルールとは食事以外の注意事項 ベジタリアン旅行者の理解 ビーガン	
15 回	期末テストとまとめ	テキストとパソコン必修

1.授業コード (ナンバリング)	TOU218-Y81	2.科目名	観光イベント論	3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史				
5.授業科目の区分	展開科目（専門科目）	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期
8.履修可能な専攻	観光学科を中心に他学科他学部からも履修できます。			9.履修学年	3 年生～
10.取得資格の要件				11.先修条件	ありません。
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	冬学期・集中講義（2月3日～9日予定）
16.履修制限	ありません。				
17.授業の目的と概要	【目的】 イベントには万博など国家的な催しから、お店の販促など幅広い催しの意味です。交通機関が発達した近代社会では、大規模イベントが観光客を集めました。様々なイベントは観光客と主催者や会場の街の人々との交流を進め、町に活気を与える有効な手法となりました。今でも観光客を集めるためにいろいろなイベントが企画されます。その企画力をつけるため、観光イベント論を学びます。「観光とイベントの歴史を学び、集客を企画立案する術を身に付ける」 【概要】 万博は観光イベントの始まりです。多くの人に産業革命の成果を見てもらおうという英国アルバート公の発意でした。その後、見てもらうものは次々と変わりました。工業製品があれば手工芸品があり、美術や音楽、演劇やスポーツのイベントが増えました。オリンピックやワールドカップも大成功したイベントです。一時は MICE(Meeting, Incentive Tour, Conference & Event)を誘致すること集客しようとしていましたが、インバウンドが増えた日本ではあまり言われなくなりました。世界中でイベントが増え、魅力のない土地でイベントをしても人が集まらなくなりました。また、コロナ禍で出かけなくても済むことも分り、今後のイベントづくりは難しくなりました。				
18.学習目標と D P との関連	【この科目の学習目標】 観光イベントの歴史を知り、自分が企画する際に基準とする体系を身に付ける。 【D P との関係】 K1?歴史・伝統・?化・?然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる。 K2?グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関?を持つ。 K4?異なる価値観を理解し、?分の考えや?本の魅?を的確に伝えるコミュニケーション?を備える。				
19.教科書・教材	授業の主な内容を資料として配ります。それをもとに独自の教科書を作ってみて下さい。				
20.参考文献	宗田好史『にぎわいを呼ぶイタリアのまちづくり 歴史的景観の再生と商業政策』学芸出版社 2000 宗田好史『創造都市のための観光振興 小さなビジネスを育てるまちづくり』学芸出版社 2009 宗田好史『なぜイタリアの村は美しく元気なのか 市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社 2012 宗田好史『インバウンド再生 コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社 2020				
21.成績評価	最終レポート 50 点と授業中に数回行う小レポートの合計 50 点、授業でお話したこと、配付したスライドをよく理解していること。				
22.コメント					
23.オフィスアワー	宗田：火曜 3 コース（研究室/3-308）、火曜 2 コース(学修支援センター)				
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)	
第 1 回：観光 イベントとは	この授業では観光イベントのお話をします。イベントとプロモーション、新しい言葉のように聞こえます。			アサインメント：どんなイベントがあるか述べて下さい、	

何か	すが、実は昔からあります。イベントがあったから人は旅行に出かけたのです。団体旅行はイベントに行く音でした。	事前学習：観光イベントにはどんな種類があるか述べて下さい。
第2回：観光イベントの歴史?、団体旅行のために	そもそも観光旅行はイベントを目指していました。中世のキリスト教世界では、聖年などの宗教的なイベントが巡礼を集めました。近代の団体旅行は、日曜日の信者を集めた教会活動としてピクニックに出かけたのが最初です。その主宰者トーマス・クックが次に鉄道でロンドン万博に連れ出して観光ビジネスが発展しました。万博こそ最初の観光イベントです。	事前学習：日本の明治時代にできたイベントを二つ挙げて下さい。
第3回：観光イベントの歴史②、大規模イベントの誕生	1951年のロンドン万博に続いて、パリやニューヨーク、シカゴに広がり、鉄道やホテルが発達した大都市の大規模イベントに国中から人があつまり、国境を越えた観光旅行が増えました。日本も参加したパリ万博では、産業革命の成果、数々の工業製品、欧米諸国が領有した植民地の産物、そして美術品が展示され、遠くに観光旅行できない市民も旅に出た気分を味わいました。中でも日本の工芸品は愛され、競って買い求められました。	アサイメント：鉄道での団体旅行の始まりを述べて下さい。
第4回：観光イベントの歴史③、日本のイベントと観光	明治維新で世界との交流が始まった日本でも、万博を真似て、国際的イベントではありませんでしたが、内国博覧会が東京や京都、大阪で毎年のように開催されました。パリやニューヨークの万博に出品する工芸品を選ぶための展示と言われましたが、全国各地の品々が集まり、多くの人が見学に押し寄せました。日本の観光イベントの始まりです。	アサイメント：日本が出展した商品を述べて下さい。
第5回：万博の歴史とその内容の変遷	世界中に広がった万博の歴史とその内容の変遷を整理してみます。その後の観光イベントのすべてが始まっています。展示施設となった大きな建物、エッフェル塔、温室、エレベータやエスカレータ、市電やモノレール、日本で最初に開かれた大阪万博でも珍しい品々、機会やロボットが展示されました。月の石もありました。	アサイメント：1970年の大阪万博の会場はどこでしょう。その場所が今どうなっているか述べて下さい。
第6回：万博からビエンナーレへ、ヴェネツィアビエンナーレの成功	いろいろな企画が集まっていた万博の中から、美術だけを抜き出して始まったのが、ヴェネツィア・ビエンナーレです。ヴェネツィアは中世から19世紀まで、地中海貿易で栄えた海洋都市国家でした。それがナポレオン戦争以降フランスに占領され、ウィーン講和会議でオーストリア領、19世紀のリソルジメントで統一イタリアに復帰し、地方都市になりました。しかし、経済的に衰退し、その復興のための観光イベントが、有名なビエンナーレです。大きな成功を修め、今も続いています。	アサイメント：ヴェネツィアについて調べて下さい。
第7回：大阪万博の成功、2025年万博の計画	1970年の大阪万博は、1964年の東京オリンピックに匹敵する大規模な観光イベントでした。大成功を修め、今もよく語られます。そして、その栄光をもう一度と2025年には関西大阪万博が計画されています。	アサイメント：2025年関西大阪万博で何が展示されるか調べて下さい。
第8回：美術	ヴェネツィア・ビエンナーレは、その後ダンスや映	アサイメント：日本国内の美術イベントを調

系イベントの世界、ドグメンタ他、	画、建築の展覧会に発展しましたが、やはり美術史に残る重要なイベントとして、常に世界の観光客を集めました。それを真似た音楽や美術のイベントが世界各地に広がりました。ドイツの小さな都市、カッセルではドグメンタが1955年から続いています。ビエンナーレが二年おきならドグメンタは五年おきの美術展です。	べて下さい。
第9回：ミラノ・トリエンナーレ	ミラノ・トリエンナーレは三年おきのイベントです。現在では、世界で最も多くの観光客を集めるイベントとして知られます。1923年にモンツァで装飾芸術のビエンナーレとして始まり、1930年からトリエンナーレとなり、ミラノは1933年から。デザイン・ファッション・建築・都市計画・メディアアートなど、産業と芸術に跨る大イベントです。	アサイメント：ミラノについて調べて下さい。
第10回：2017年のミラノ・世界の食の博覧会	そのミラノで、2017年世界の食の博覧会が開かれました。食をテーマにした初めての取組みでした。イタリアでは、すでにスローフード運動が広がり、トリノで畜産や農産物が、ジェノバでは海産物のスローフード展覧会があったので、それを世界に広げたものです。日本からも出展しただけでなく、多くの観光客がミラノに押し寄せました。	アサイメント：なぜ食文化が人気か調べて下さい。
第11回：音楽イベント、バイロイト音楽祭の誕生と成功	美術と並んで、音楽イベントも重要です。その始めは、バイロイト音楽祭です。ドイツのバイエルン州北部の小さな町バイロイトの祝祭劇場で毎年7月から8月に行われるワーグナーの楽劇の祭典です。1876年に始まりました。その後、世界各地ではジャズやロックの音楽フェスティバルが開かれるようになりました。	アサイメント：ワグナーの楽劇のタイトルを挙げて下さい。
第12回：音楽イベント、ジャズフェスやロックフェスティバル	クラシック音楽の祭典は今や世界100カ所以上で開かれています。この他、ジャズ、レゲエ、ロック、それに日本ではアニメソングのフェスティバルがあり、やはり多くの観光客が集まる音楽イベントとして定着しています。日本には、ヤマハという世界最大の楽器メーカーがあり、若者を音楽の消費者と捉え、盛んにポップコンを開いた時期がありました。	アサイメント：レゲエとはどんな音楽家述べて下さい。
第13回：日本各地の観光イベント	世界や日本国内で成功した数々のイベントを見て、各地で観光イベントが盛んになりました。とはいっても、すべてが成功している訳ではありません。B級グルメとか成功したものもありますが、ヴェネツィア・ビエンナーレのように長く続くものはありません。それに比べ、伝統の祭典、昔ながらのお祭りは今も盛んです。	アサイメント：今まで参加したことのある国内のイベントを挙げて下さい。
第14回：観光イベントの企画の仕方	失敗も多い観光イベントですが、その企画の仕方を考えてみます。地元の人がやりたいイベントの多くは、地元の都合、観光客や消費者にあまり評価されないことが多くあります。プロダクト・オリエンティッドではだめだとよく言われます。その反対、マーケット・オリエンティッドな発想はどうすればできるか、マー	アサイメント：外国人が好む観光イベントにはどんなものがあるでしょう。

	ケティングを考えます。	
第 15 回：観光 イベント論の 振り返り、 人々はなぜ集 まるのか。	授業で紹介した様々な観光イベントを振り返り、なぜ人々が集まったか考えてみましょう。ロンドン万博の時代、イギリスは世界に植民地をもち、その土地に出かける人も多くいました。そのために、自分が行ったことがなく、行っては見たいけれど遠いからいけない人たちのニーズがありました。今では直接出かけることもできますが、それでも博覧会は開かれます。そこにはいろいろな工夫があるのです。	アサイメント：授業で述べたイベントを列記しなさい。 事前学習：観光とは何か述べて下さい。

1.授業コード (ナンバリング)	TOU219-Y51	2.科目名	プロトコル特別演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	近年インバウンド需要の増加により、日本を訪れる外国人の数が増加しているが、外国人をうけ入れるためのマナーについては一般的な理解を得ているとはいえない状況にある。本講義では、国際儀礼や異文化への理解を深め、外国人訪問者に対する適切な対応やマナーを習得する事を目的とする。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）の(2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）と（5）専門的知識・技能の活用力の学修に関連しています。 ○プロトコルの基礎知識を理解できる。 ○プロトコルの歴史と常識を理解できる。 ○プロトコルの国際社会における価値を生かす実践できる。					
19.教科書・教材	Webclass でプリントを配布する https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/protocol/index.html					
20.参考文献						
21.成績評価	総合評価は、ワークシートと小レポート、学期末に行うレポートで評価する。 ワークシート 40%、小レポート 20%、期末レポート 40%					
22.コメント	授業の内容は前後したり変更したりする場合があります。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション					
	習慣・風習・儀礼などについて（1）			ワークシート作成&提出		
	習慣・風習・儀礼などについて（2）			ワークシート作成&提出		
	プログラム・イベント・贈り物などについて（1）			ワークシート作成&提出		
	プログラム・イベント・贈り物などについて（2）			ワークシート作成&提出		
	食事・パーティー・テーブルマナーなどについて（1）			ワークシート作成&提出		
	食事・パーティー・テーブルマナーなどについて（2）			ワークシート作成&提出		
	招待状・席次・座席割りなどについて（1）			ワークシート作成&提出		
	招待状・席次・座席割りなどについて（2）			ワークシート作成&提出		
	敬称・呼称などについて（1）			ワークシート作成&提出		
	敬称・呼称などについて（2）			ワークシート作成&提出		
	国旗の掲揚、取り扱いなどについて（1）			ワークシート作成&提出		
	国旗の掲揚、取り扱いなどについて（2）			プレゼンテーションを準備する		
	プレゼン発表日			振り返りワークシートを書く		
	振り返り					

1.授業コード (ナンバリング)	TOU220-Y51	2.科目名	ホテル実務		3.単位数	2
4.授業担当教員	越知昌賜					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：この科目の目的は、外資系ホテルの進出や DX の進展、顧客のニーズの変化などにより、大きな変革期にあるホテルビジネスのトレンドを捉えるとともに、直近の経営形態やセールス & マーケティング、宿泊、料飲等の実務を学習しさらに今後の在り方を考察することにある。 概要：講義の前半は最近のホテル等宿泊施設のトレンドについて学ぶとともに、この 10 年で大きく変化した所有と運営の在り方について学習する。特に「所有と運営の分離」という大きなトレンドにより生まれた「アセットマネジメント」と「プロパティマネジメント」について、それぞれの役割・機能を学び、このトレンドが今後ホテルビジネスへどのような影響を及ぼすか考察する。後半はホテルビジネスの基本領域であるセールス & マネジメント、宿泊、料飲、管理（総務・経理・施設）についてそれぞれの機能・組織を把握し、それぞれの収益貢献や相互補完性について学ぶ。最後にホテル業界へのキャリアを志向した場合のホテル側の人材システムやキャリアデザインについて概説する。 講義は中央経済社の「ホテル・ビジネス・ブック」を教材として使用するが、購入する必要はなく適宜資料を提供する。当該科目では受け身だけの講義とはせず、実習を組み合わせ、講義で学んだことを実習で分析・考察するアクティブラーニングを通じて理解を深める					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、学科の DP の（１）自立性、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル（６）専門的知識・技能の活用力に該当し、主眼はホテル実務への理解深化と応用力の醸成にある。 ①ホテルビジネスの基礎である経営・組織収益構造の学習と、事例研究を通じ各ホテルの経営戦略など経営の実務を学ぶ→（４）問題発見・解決力、（６）専門的知識・技能の活用力 ②ホテル実務の基本となるセールス & マーケティング、宿泊、料飲、管理の学習を通じてその応用と課題解決を習得する→（４）問題発見・解決力、（６）専門的知識・技能の活用力 ③受講生が自ら顧客側の立場に立ち、OTA の登録・仮定利用を行うなど講義内で様々な課題を実施する。またフィールドワークの実施により地域市場の把握と競合や競争力について考察を行う→（１）自立性、（４）問題発見・解決力、（６）専門的知識・技能の活用力 ④講義内で上記③記載の提案型課題を課し、その成果について発表するとともに小グループで協議・評価を行う→（１）自立性、（４）問題発見・解決力、（５）コミュニケーションスキル					
19.教科書・教材	中央経済社 仲谷秀一、テイラー雅子、中村光信?共著「ホテル・ビジネス・ブック」 ＊購入の必要はない。適宜資料を提供します。					
20.参考文献	オータパブリケーション 福永健司 著 「総支配人の教科書（ホテルマネジメントの要諦）」 嵯峨野書院 杉原淳子 「新ホテル運営戦略論」					
21.成績評価	１．課題レポート及び期中での学習成果チェック 40％ ２．講義及びワークの参加態度・発表内容 30％ ３．最終課題レポートとプレゼンテーション 30％ 定期試験は行わず、上記最終課題レポート及びプレゼンテーションが定期試験同等の評価となる。					

	また単位認定には最終課題だけではなく講義内で課す課題レポートの期限内提出が要件となる。	
22.コメント	PC 持参が必須	
23.オフィスアワー	講義後および適宜オンラインで対応します	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	イントロダクション ホテルの業態とカテゴリー	・ 講義内課題 ビジネスホテルの予約検索等
第 2 回	ホテルの開発から開業まで	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内課題 新規開業ホテルを調べる
第 3 回	ホテルの経営形態① ホテルの所有と運営形態	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内課題及び次回への課題 ホテルの運営形態を調べる
第 4 回	ホテルの経営形態② ホテルの組織と構造	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内および次回への課題 講義名に告知
第 5 回	ホテル実務 事業部門別の業務① 宿泊部門	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内および次回への課題 講義内に告知
第 6 回	ホテル実務 事業部門別の業務② 料飲部門	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内および次回への課題 講義内で告知
第 7 回	ホテル実務 事業部門別の業務③ セールス & マーケティング	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内および次回への課題 講義内告知
第 8 回	ホテル実務 事業部門別の業務④ 管理部門（総務、経理・財務、施設）	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内および時価への課題 講義内で告知
第 9 回	人事システムとキャリアデザイン	・ 講義の復習と次回への予習 ・ 講義内課題 ・ 学習成果レビュー
第 10 回	学習成果の確認 フィールドトリップの目的と概要	学習成果見直し
第 11 回	フィールドトリップ たつの市城下町の調査	調査のレビュー・まとめ
第 12 回	フィールドトリップ たつの市城下町の調査	調査のレビュー・まとめ
第 13 回	フィールドトリップ たつの市城下町の調査	調査レポートの作成と提出
第 14 回	最終課題の説明と作業	最終課題の作成とプレゼン準備
第 15 回	最終課題の提出および発表（プレゼンテーション） 振り返り	講義の振り返り

1.授業コード (ナンバリング)	TOU221-Y51	2.科目名	M I C E ・ I R 概論		3.単位数	2
4.授業担当教員	寺井太郎					
5.授業科目の区分	U S J のマーケティング部において実務経験のある教員による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義 アクティブ・ラーニング導入科目（グループディスカッション、プレゼンテーション）		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	目的：M I C E とは何か、I R とは何かを理解するとともに、そのメリット・デメリットと、日本と世界におけるこれまでと今後を概観します。 概要：MICE(Meeting, Incentive, Convention, Exhibition / Event)、IR(Integrated Resort)は、ともにこれからの社会・観光ビジネスを語るうえで、もっとも重要な概念と言えます。オリンピックを含むスポーツイベント、万博などの博覧会、日々各地で行われている展示会など、具体例を用いてM I C E のメリット・デメリットを理解します。 後半のグループワークでは、I R について、大阪府・市が候補地として立候補している大阪 I R 計画について研究し理解を深めます。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学修目標は、DP(デュプロマポリシー)の(6)専門的知識・技能の活用力と最も深く関連しています。M I C E や I R について専門的な知識を習得し、それを具体的な社会・観光ビジネスに当てはめ活用できるようになります。					
19.教科書・教材	資料は webclass で配布					
20.参考文献	適宜紹介する					
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。 ?対象回の「提出課題」 8 点 （各回 2 点 x 4 回） ?対象回の「授業のまとめシート」 13 点（各回 1 点 x 8 回、15 回目のみ 5 点） ?グループワークのプレゼンテーション 29 点 （各回 7 点 x 3 回、4 回目のみ 8 点） ?総括試験 50 点 *総括試験が 10 点以下の場合は?②の評価は適用されません。					
22.コメント						
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第 1 回	講義：M I C E 、 I R とは これまで国内外で行われてきたM I C E 、 I R に関わる出来事を紹介し、それらがどのようなものかについてイメージを掴んでいただきます。			予習：最近関心を持ったイベント（スポーツイベント、音楽コンサートなど）を書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：M I C E 、 I R の言葉の意味を振り返る		
第 2 回	講義：イベントとは M I C E の「E」であるイベント（Event）について、その内容とメリット・デメリットを理解します。 グループワークを始めます。これまで国内で行われた博覧会について、その効果と弊害をまとめていただきます。			提出課題：これまで日本国内で行われた博覧会を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行		

第3回	グループワーク：博覧会についてまとめよう グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第4回	プレゼンテーション：博覧会についてまとめよう 講義：国内博覧会の歴史と功罪 これまでに国内で行われた博覧会について概観し、そのメリットとデメリットについて考察します。また、2025年に予定されている大阪・関西万博についても解説します。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第5回	講義：展示会、コンベンションとは MICEの「E」である展示会（Exhibition）、MICEの「C」であるコンベンション（Convention）について、具体例に沿って解説します。	提出課題：展示会が行われる会場を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：展示会・コンベンションの言葉の意味を振り返る
第6回	フィールドワーク：展示会を覗いてみよう 神戸市内の展示会場で行われている展示会を現地見学します（日程によっては、WEBもしくは映像での見学となります）	予習：見学する展示会の内容について調べて書き出してくる 授業のまとめシート：不要 復習：見学した展示会の感想をまとめる
第7回	講義：インセンティブとは MICEの「I」であるインセンティブツアー（Incentive Tour）について、その意味と意義を解説します。 2回目のグループワークを始めます。USJなどテーマパークを舞台として、特別なインセンティブツアーを企画してください。	提出課題：東京ディズニーランドの「バケーションパッケージ」について、その内容と値段を調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第8回	グループワーク：インセンティブツアーを企画しよう グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第9回	プレゼンテーション：インセンティブツアーを企画しよう 講義：MICEのまとめ ここまで具体例とともに学んできたMICEについてまとめて解説します。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第10回	講義：IRとは IRの意味、歴史、メリット・デメリットについて解説します。 3回目のグループワークを始めます。候補地として大阪府・市が立候補を表明している大阪IR計画について、予想される効果とリスクをまとめていただきます。	提出課題：大阪IR計画について調べて書き出してくる 授業のまとめシート：提出 復習：グループで課題を進行
第11回	グループワーク：大阪IRの効果とリスク グループでのディスカッションに充てます。必要に応じて、教授からゴリゴリとアドバイスします。	予習：グループで課題を進行 授業のまとめシート：不要 復習：授業でのアドバイスを加味して、さらにグループで課題を進行
第12回	プレゼンテーション：大阪IRの効果とリスク（中間発表）	予習：グループで課題を発表できる状態にする

	ここまでグループでディスカッションしてきた内容を発表していただきます。教授からのコメントを受けて、次回の最終発表に向けてさらに議論を深めてください。	授業のまとめシート：不要 復習：教授からのコメントを受けて、さらに議論を深める
第 13 回	プレゼンテーション：大阪 I R の効果とリスク（最終発表） 講義：I R のまとめ ここまで具体例とともに学んできた I R についてまとめて解説します。	予習：グループで課題を発表できる状態にする 授業のまとめシート：提出 復習：講義を受けて、グループワークの内容を反省し改善する
第 14 回	まとめと統括試験	予習：第 1 回～13 回のノートを整理し復習する。 授業のまとめシート：不要 復習：試験で明快であったところ、不明確であったところを振り返り、書き出す
第 15 回	全体の振り返り、学びのまとめ 皆さんの未来に向けて	提出課題：講義全体および統括試験を経て、教授への質問を作る（一人 1 つ必須） 授業のまとめシート：提出（5 倍加点） 復習：皆さんの未来に向けて、実践！

1.授業コード (ナンバリング)	TOU223-Y51	2.科目名	旅行業演習Ⅰ		3.単位数	2
4.授業担当教員	松村博之					
5.授業科目の区分	専門科目、旅行業分野 の実務経験がある教員 による授業科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	全学年	
10.取得資格の要件	なし		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限	履修人数は、15名までとします。					
17.授業の目的と概要	【目的】 「国内旅行業務取扱管理者」の国家資格取得を目的とします。 この資格は、観光業界、公務員を目指すものにとって有利なものです。 国家試験は、毎年9月に実施されます。 特に観光業界に就職を目指すスキルとして修得することが重要な科目です。 【概要】 JR 運賃・料金、国内航空運賃・料金、貸切バス運賃・料金、フェリー運賃・料金、旅館・ホテルの宿泊料金などに関する解説をします。 講義は、教科書に添ってパワーポイントを使用して行います。また、理解度チェックのために、練習問題を毎回してもらいます。計算問題が中心となりますので、予習復習は計画的・継続的に行う必要があります。					
18.学習目標と DPとの関連	①国内旅行業務取扱管理者試験の合格基準である60%以上の得点を確保すること。 ②各種運賃・料金の算出方法について理解すること。 ③国内旅行に関する知識を修得することで、観光関連産業の理解を深める。 関連するDPは、「専門知識・技術の活用力」です。					
19.教科書・教材	* 旅行実務シリーズ 国内旅行実務 「国内運賃・料金」 (発行：JTB 総合研究所) * 資料は、適宜配布します。					
20.参考文献	* JR 時刻表 * 全国旅行業協会 (ANTA) の HP					
21.成績評価	* 総括試験 (筆記) 60% (学習目標の①、②、③に対応) * 理解度確認テスト (筆記/3回) 30% (学習目標の①、②、③に対応) * 練習問題 (各授業) 10% (学習目標の①、②、③に対応)					
22.コメント	①教科書、参考文献などで予習復習をしっかりと行ってください。 ②総括試験は、15回目の授業で行います。 ③理解度確認テストは、授業中に行います。 ④出欠確認、資格喪失などは大学のルールどおりです。 ⑤授業中は、帽子の着用は禁止です。					
23.オフィスアワー	講義終了後、教室などで対応します。また、メールによる対応をします。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	オリエンテーション (授業の目的、計画、評価、資格取得などの説明)					
第2回	JR 旅客営業規則、乗車券類の概要			教科書：旅客営業規則の概要、乗車券類発売の概要を熟読		
第3回	JR 運賃計算①			教科書：運賃計算の原則、運賃計算の特例を熟読		
第4回	JR 運賃計算②			教科書：運賃計算の原則、運賃計算の特例、		

		運賃の効力・割引の熟読
第 5 回	JR 料金計算①	教科書：料金計算、乗継割引、各新幹線の取扱いを熟読
第 6 回	JR 料金計算② 第 1 回理解度確認テスト	教科書：料金計算、乗継割引、各新幹線の取扱い、第 5 回までの分野を熟読
第 7 回	JR 券の変更、取消し、払戻しなど	教科書：変更、払戻し、運行不能、遅延を熟読
第 8 回	JR 団体乗車券	教科書：団体乗車券の取扱いを熟読
第 9 回	JR 特別企画乗車券、JR 時刻表の読み方	教科書：特別企画乗車券、JR 時刻表の読み方を熟読
第 1 0 回	国内航空運賃・料金① 第 2 回理解度確認テスト	教科書：航空分野を熟読、第 6 回～第 9 回までの内容を復習
第 1 1 回	国内航空運賃・料金②	教科書：航空分野を熟読
第 1 2 回	貸切バス運賃・料金	教科書：貸切バス分野を熟読
第 1 3 回	フェリー運賃・料金	教科書：フェリー分野を熟読
第 1 4 回	宿泊料金 第 3 回理解度確認テスト	教科書：宿泊分野を熟読、第 1 0 回～第 1 3 回の内容を復習
第 1 5 回	まとめ、総括試験	教科書：全分野の復習

1.授業コード (ナンバリング)	TOU305-Y51	2.科目名	航空実務		3.単位数	2
4.授業担当教員	安藤正裕					
5.授業科目の区分	専門教育科目 基幹科目 専攻コア	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年生または 3 年生以上	
10.取得資格の要件				11.先修条件	航空産業論	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】この講義ではエアラインビジネスを基盤として、大手航空会社の経営戦略と台頭著しい L C C の戦略について学びます。 【概要】先ず大手航空会社の戦略を学びます。特に現代の国際線を運航する大手航空会社 (FULL SERVICE AIRLINE=FSC)のネットワーク戦略の基本と他エアラインとの提携戦略について理解します。また、マイレージやコストマネジメントなどの企業戦略について、そのポイントをレストラン経営など身近な例から解説します。後半はローコストキャリア (LCC)の経営についてその特徴と具体的なコスト削減の活動内容を学ぶことができます。そして L C C が F S C とは全く異なるビジネスモデルであることを講義により解説します。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は DP(ディプロマ・ポリシー)の【(2)社会的貢献性】【(4)問題発見・解決力】【(6)専門的知識・技能の活用力】に関連しています。 本科目の学習目標は以下のとおりです。 ①大手航空会社の基本的な経営戦略について学ぶことができる。特に航空会社の商品である航空路線の展開に関するネットワーク戦略について基本的な考え方を学ぶことができる。 ②在庫が出来ない商品を扱う航空会社の収入戦略、コストマネジメント、マイレージなどの顧客戦略について、レストランの経営を例題に詳しく解説し、その基本的な戦略を学ぶことができる。 ③躍進著しいローコストキャリア (L C C) のビジネスモデルについて学ぶことができる。 ④最新の航空会社の経営状況や戦略について学ぶことができる。					
19.教科書・教材	教科書は使用しません。適宜資料を提示、配布します。					
20.参考文献	航空産業入門 (第 2 版) 発行：東洋経済新報社					
21.成績評価	①授業理解度 (講義への理解)・・・40 点 (講義を理解し、講義中にポイントを掴み、配布する資料に要点を記入する。※学習目標①、②、③に対応 ②グループワーク・・・15 点 (講義の中でグループワークにおいて自らの意見を積極的に発信し、他者の意見を傾聴する)※学習目標①、②、③に対応 ③確認テスト・・・45 点 (講義全体を通して航空会社のオペレーションのポイントを理解し、考察することができる)※学習目標①、②、③に対応					
22.コメント	現代航空事情では、エアラインビジネスにおいて学んだ航空業界のビジネスの仕組みを基盤として、航空会社の経営戦略を学びます。ANA や JAL に代表される大手航空会社の戦略と台頭著しい L C C (ローコストキャリア) の戦略を比較していきます。					
23.オフィスアワー	金曜日 昼休み 神戸山手キャンパス 3 号館 3302 号室					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	講義【オリエンテーション】 担当教員の紹介、講義の目的、内容、進め方、評定算出の方法、受講上の留意点について説明する。			復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習		
【第 2 回】	講義 エアラインの特性とコロナ危機			復習：今回の復習及び授業ノートの整理		

	エアライン事業の特性ならびにコロナ危機の影響について説明し、今後のエアライン事業の将来性について考察する。	予習：次回の予習
【第3回】	講義 ハブ＆スポーク戦略とアライアンス 現在の大手航空会社が採用するハブ＆スポーク戦略を詳述し、また、その戦略を更に深めるハブ空港における対応や海外他社との提携（アライアンス）の必要性について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第4回】	講義 レベニューマネジメント戦略 航空産業の特性を踏まえ、座席管理の仕組みと価格との連動について解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第1回確認テストに備えてここまでの振り返り
第5回	講義 マイレージ戦略 エアラインが進めるマイレージ戦略を中心とした対顧客サービスについてケーススタディにより説明し、その戦略について考察する。 第1回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
第6回	講義 生産性の向上とコストマネジメント 航空機の購入など多額の固定費を負担するエアラインにおけるコストマネジメントとIT導入などによる生産性向上の仕組みを解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第7回】	講義 職掌制度と人材マネジメント 労働集約型産業であるエアラインの様々な職種の役割とその人材要件を解説する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第8回】	講義 安全管理 エアラインにとって必須命題である安全運航について、その具体的な内容を詳述する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第9回】	講義 貨物事業戦略 旅客運送とは異なり、コロナ拡大下においても収入を確保している航空貨物事業と貨物のオペレーションについて説明する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第1回確認テストに備えてここまでの振り返り
【第10回】	講義 LCCの誕生と成長 LCCが誕生した背景について米国における規制緩和と関連して解説する。またその後のLCCの急成長の理由を掘り下げて考察する。 第2回確認小テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第11回】	講義 LCCの戦略① LCCにおけるオペレーションにおける様々なコスト削減の仕組みを学習する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第12回】	講義 LCCの戦略② LCCにおける予約販売及びアンシラリー収入に関する様々な活動について学習する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第13回】	講義 LCCのビジネスモデル LCCは単なるコスト削減ではなく、大手航空会社とは全く異なるビジネスモデルを実現していることを説明する。	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習
【第14回】	講義 エアラインを取り巻く現状と課題 現代の航空会社を取り巻く現状、例えば脱炭素化社会	復習：今回の復習及び授業ノートの整理 予習：次回の予習 第1回確認テストに備え

	に向けた現状などにや空飛ぶ車などについて国土交通省の資料を基に解説する。	てここまでの振り返り
【第 1 5 回】	講義 エアラインのオペレーション エアラインのオペレーション全体を振り返り、重要なポイントを整理する。 第 3 回小確認テスト	復習：今回の復習及び授業ノートの整理

1.授業コード (ナンバリング)	TOU308-Y51	2.科目名	ツアーガイド実務		3.単位数	4
4.授業担当教員	小泉園栄					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	English communication 学科 Global communication 学科			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	T50		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Students will learn the basic job of the travel and tourism industries and in depth study of tour guide not only during the tour but thorough follow up before and after each tour. Also, learn a wide range of different travel and tourism jobs and situations. We will go on a field trip (if possible) as like a real tour. Practice making the itinerary and speaking as a tour guide. Learn how to make a professional itinerary.					
18.学習目標と DPとの関連	Gain the knowledge of basic travel industry jobs. Gain the professional English communication skills as well as relationship with other industries. Entry level of tour guide					
19.教科書・教材	Teacher provide prints.					
20.参考文献	Welcome! English for the travel and tourism industry. Cambridge University Press					
21.成績評価	The teacher consider each student's motivation, effort and manner during every lesson, A student's final score is based on: Enthusiasm and high motivation-30% Contents of presentation and role play-30% Assignments and tests - 40%					
22.コメント	To work at tourism industries, you must have extensive knowledges of tourism as well as excellent communication skills. There are no perfect tours, therefore you must be flexible in order to ensure guest satisfaction. Please bring your laptop.					
23.オフィスアワー	If you have any questions, feel free to ask me before or after the class in classroom.					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
1-1 2-1	1-1/1-2 Course Introduction-Talk about your travel experiences ●City code & Airport code Short test Unit 9 Around the world P24 Go on a round the wo			Prepare for your self-introduction and past travel experiences Check airport & city codes Make around -the -world trip itinerary		
3-2 4-2	2-1/2-2 Unit 9 Presentation of your around-the-world trip itinerary Unit 1 Working in travel and tourism. Learn the job for Local			Complete your around -the -world trip plan Make a domestic trip itinerary ① (Your home town)		

	resort representatives. Writing * About your	
5-3 6-3	3-1/ 3-2 Unit 2 Being friendly and helpful P10-11 Listening- Friendly & Unfriendly The most important pieces of advice * Presentation of your home town (domestic	Make your domestic trip itinerary ②
7-4 8-4	4-1/4-2 Unit 3 When in Rome,,, First visit to a Ryokan Suggestions and recommmendations for a visitor to your country. *Presentation of your domestic trip itinerary ②	Make your domestic tour itinerary ③
9-5 10-5	5-1/ 5-2 Unit 4 Dealing with enquiries P14-15 Answering to enquiries Role Play * Presentation of your domestic trip Itinerary ③ * Make your domestic trip itinerary ④	Make your domestic trip itinerary ④
11-6 12-6	6-1/6-2 Unit 5 Different ways of travelling Reading : Afraid of flying? * Presentation of your domestic trip Itinerary ④ * Make your domestic trip itinerary ⑤	Make your domestic trip itinerary ⑤
13-7 14-7	7-1 /7-2 Unit 6 Asking questions P18-19 Practice for asking / answering questions Role Play * Presentation of your domestic trip Itinerary ⑤ * Learn how to make an internation	Make your international trip itinerary ①(your favorite destination)
15-8 16-8	8-1/8-2 Unit 7 Taking a booking P20-21 Practice and Role Play * Presentation of your international trip Itinerary ① * Make your international trip itinerary ②	Make your international trip itinerary ②
	Unit 8 The best way to get there.P22-P23	Make your international trip Itinerary ③

17-9 18-9	* Presentation of your international trip Itinerary ② * Make your international trip itinerary ?	
19-10 20-10	Unit 10 Organising a trip P26-27 *Presentation of your international trip ③ *Make your international trip itinerary ④	Make your international itinerary ④
21-11 22-11	11-1/11-2 Unit 35 To and from the airport P76-P77 * Presentation of your international trip ④ *Make your International trip itinerary ⑤	Make your International trip itinerary ⑤
23-12 24-12	12-1/12-2 Unit 36 Local knowledge P78-P79 * Presentation of your international trip ⑤ *Make your international trip itinerary ⑥ (2nights 3 days)	Make your international trip itinerary ⑥
25-13 26-13	13-1 /13-2 Unit 41 Is there anything I can do? Learn how to deal with problems * Presentation of your international trip itinerary ⑥ *Make your International	Make your international trip itinerary ⑦
27-14 28-14	14-1 /14-2 Unit 42 Dealing with complaints Listening and Role play * Make your international itinerary (Final)	Make your Final international trip itinerary
29-15 30-15	15-1 /15-2 Final exam (Practical business part) *Score announcement.(Tour planning part)	Complete your final international trip itinerary

1.授業コード (ナンバリング)	TOU309-A51	2.科目名	インバウンド商品企画演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	李容淑					
5.授業科目の区分	講義科目	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	経営学科			9.履修学年	2 年生	
10.取得資格の要件	経営学科		11.先修条件	経営 2 年		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義・演習		
16.履修制限	なし					
17.授業の目的と概要	長年コロナ禍の苦しい時期が終わり、新たにインバウンド観光が回復されている中、観光庁や地域観光協会ではインバウンド活性化に全力を尽くしている。各地域では地域らの観光地や観光資源などを世界に PR して海外からのお客様を受け入れることで様々な広報活動を行っている中、最近の観光客は情報源媒体としては SNS を利用することが圧倒的である。特に観光関連の情報を求めている媒体は Youtube/Instagram 動画であって、地域ごとに旅行プランや動画製作に人的資源や予算の拡大が目たつに見えている。 この講義ではインバウンド観光として、地域の観光資源を発掘して、SNS を通じて世界発信することを目的し、グループ単位で観光プランとコンテンツを作って、地域への観光 PR 動画として提供することを目的とする。 このコンテンツ作りの過程を通じて、学生らはコンテンツに関する、旅行プラン、動画編集アプリ、編集方法、音楽投入、字幕作り、フロー仕上げなどのスキルを上げて、実際の地域へコンテンツ提供ができるようにする。					
18.学習目標と DPとの関連	この講義では指定地域の観光地を把握した上、観光地の魅力、ストーリー、グルメ、体験などに基づき、旅行プランを作って写真と動画を編集する。実際のコンテンツを仕上げをして、指定地域へ提供し、HP,Instagram にアップロードして、世界へ発信することを目標とする。 ① 自分で指定地域の観光魅力を発掘することでキーワードをピックアップすることができる ② PR したい場面を企画し、旅行プランづくりができる。 ③ 留学生とのグループ活動でコミュニケーションスキルを高める。 ④ 旅行プランと動画の編集をすることでエキスパートの専門性を身につけることができる ⑤ 完成品をアップロードして、結果を見ることに観光コンテンツの底力の理解ができる。					
19.教科書・教材	SNS／Youtube/TikTok/Instargram などの動画を参考にする。					
20.参考文献	各地域のサイトにアップロードされた公式 PR 動画 SNS／Youtube/TikTok/Instargram などの動画を参考にする。					
21.成績評価	コンテンツ学習事前学習、実践学習、編集学習 過程評価→ 30％ グループ別 コンテンツ発表→ 30％ 個人別活動報告コンテンツ発表（1 分映像） 期末テスト→ コンテンツ完成品提出・e ポートフォリオ → 30％					
22.コメント	毎回の授業に積極的な姿勢で準備物や復習をしっかりとすることを求めている。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

1回 10月6日 金	オリエンテーション 授業紹介、PDCA	
2回 10月 13日 金	・旅行の理解 ・旅行の定義 ・旅行の構成要素 ・旅行会社の役割と業務 ・旅行業の分類 ・OTA ・アメリカ旅行会社歴史 ・日本の旅行会社歴史 ・旅行業の機能	
3回 10月20 日 金	・HOTEL の理解 ・HOTEL の客室タイプ ・HOTEL の機能 ・HOTEL の予約・支払い方法 ・免税店の理解・種類	
4回 10月27 日 金	・鉄道交通 ・ヨーロッパの高速列車 Eurail Pass 寝台夜間列車 ・日本の豪華列車 MIZUKAZE ・JR PASS ・陸上交通 乗用車・レンタカー 貸切バス CITY TOUR BUS	
5回 11月3日 金	航空用語 空港コード 航空コード クルーズ用語 クルーズ分類 クルーズ商品・特徴 世界の代表的なクルーズ クルーズ商品の注意点	
6回 11月10 日 金	旅行会社広告特性 販売促進機能 PR の内容を応じた機能 企画旅行商品の広告 旅行者保険金額基準 旅行商品の分類	
7回 11月17 日 金	HOTEL の予約書作成 ランド会社の手配業務 旅行商品手配の流れ 手配業務の注意点 手配依頼書の使用用語 HOTEL 手配依頼書作成 HOTEL 予約確認書作成	

	自分で HOTEL 予約書を作成しましょう！ 提出	
8 回 11 月 24 日金	旅行商品プランづくり 地域への誘客に向けてマーケティング戦略の立て方 地域の旅行素材の発掘 ツアーを企画する時に必ず入れるポイント ①ツアータイトルツアーの題名をなるもの＝ツアーで伝えたいこと ②企画背景どうしてこのツアーを作ろうと思ったか ③ターゲットどんな人にツアー来て欲しいのか ④テーマツアーを全体を通して伝えたいこと ②③④を考えるときのポイント ⑤日程（コンセプト） ⑥まとめ 旅行プラン作成の事例紹介（大阪旅行プラン）	
9 回 12 月 1 日金	旅行プラン Instagram TRIP、 20 代前半をターゲットに Instagram を活用した旅館滞在プラン INSTAGRAM を活用したプラン 企画背景① 女性の旅行目的 企画背景②20 代女性旅行 傾向企画背景②20 代女性旅行傾向 SNS の利用傾向 インスタジャンル インスタ映え法則 観光スポット 特産物の工夫① 特産物の工夫② 特産物の工夫③ 日本酒化粧水手作り体験 課題 日程表（例） 参考文献	
10 月 12 月 8 日金	旅行プラン Instagram TRIP の動画コンテンツ作り 各グループで旅行企画書作成	
11 回 12 月 15 日金	グループ別 動画編集する グループメンバーの役割点検	
12 回 12 月 22 日金	観光コンテンツづくり グループ別コンテンツ発表① 映像での発表（2～3 分用） 自己評価・質問など	
13 回 1 月 12 日金	観光コンテンツづくり グループ別コンテンツ発表② 映像での発表（2～3 分用） 自己評価・質問など	
14 回 1 月 19 日金	観光コンテンツづくり 個人活動報告映像作り	

	1 分用作成	
15 回 1 月 26 日 金	観光コンテンツづくり 個人映像完成 1 分用提出と振り返り e-ポートフォリオ記入	

1.授業コード (ナンバリング)	TOU314-Y51	2.科目名	観光まちづくり論		3.単位数	2
4.授業担当教員	八木寛之					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 現代社会におけるまちづくりのあり方について、商店街などの商業空間や、公園・広場といった公共空間などの身近な生活空間を中心に講義します。都市では、さまざまな立場や考えを持った人びとが同じ地域や場所で生活しています。こうした、異なる人たちと共に（ときに折り合いをつけながら）どのようにして、いっしょに暮らしていけるのかは、都市でのまちづくりの重要なテーマです。この授業をとおして、「社会」という観点から、都市計画やまちづくりについて考える姿勢を身につけることが、本講義の目的です。 【概要】 授業ではまず、都市計画とまちづくりに関する基本的な知識や視点について講義します（最後の第 15 回目の授業で確認テストを実施します）。これらの知識をふまえたうえで、公園・広場などの公共空間および、商店街やショッピングモールなどの商業空間といった都市空間におけるまちづくりのあり方について考えます。授業は担当教員による講義と、おもにレポート課題を作成するためのグループワークを実施する時間に分かれます。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は DP（ディプロマ・ポリシー）の S1、S2 の学修に関連しています。 ①現代社会におけるまちづくりについての基本的な知識や考え方について述べることができる ②商店街、中心市街地、公共空間など、個別トピックにおけるまちづくりの課題について理解し説明することができる。 ③自分にとっての身近な生活空間に関心を持ち、そのあり方について自分なりの意見を持ち説明することができる。					
19.教科書・教材	使用しません。毎回、レジュメと資料を配布します。					
20.参考文献	ジェイン・ジェイコブズ（山形浩生 訳）『新版 アメリカ大都市の死と生』鹿島出版会、2010 年 中島直人・村山顕人ほか『都市計画学:変化に対応するプランニング』学芸出版社、2018 年 笹尾和宏『PUBLIC HACK:私的に自由にまちを使う』学芸出版社、2019 年 満園勇『商店街はいま必要なのか』講談社現代新書、2015 年 満園勇『日本流通史:小売業の近現代』有斐閣、2021 年 広井良典『商店街の復権——歩いて楽しめるコミュニティ空間』ちくま新書、2024 年 その他、適宜授業内で紹介します。					
21.成績評価	レポート課題①（公共空間）：40 点 レポート課題②（商店街）：40 点 ミニテスト（第 15 回で実施）：20 点					
22.コメント						
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 2 限目					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		

【第1回】	〔講義〕 イントロダクション	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。
【第2回】	〔講義〕 都市計画とまちづくりの基本知識①	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること
【第3回】	〔講義〕 都市計画とまちづくりの基本知識②	予習：あらかじめ出題された課題に取り組むこと 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること
【第4回】	〔講義〕 公共空間とまちづくり①：都市公園とは何か	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。 【レポート課題（公共空間）の提示】
【第5回】	〔講義〕 公共空間とまちづくり②：都市公園政策の過去と現在	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。
【第6回】	〔講義〕 公共空間とまちづくり③：都市公園の管理をめぐる問題	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。
【第7回】	〔活動〕 公共空間とまちづくり④：公共空間の管理と「自由」（グループワーク）	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第8回】	〔活動〕 公共空間とまちづくり⑤：公共空間のデザイン（グループワーク）	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第9回】	〔講義〕 商店街とまちづくり①：商店街のなりたち（近現代を中心に）	予習：授業内容に関連した用語やニュースに関心を持ち、調べること 復習：授業内にて配付したプリントや資料を読み直し、整理すること。 【レポート課題（商店街）の提示】
【第10回】	〔講義〕 商店街とまちづくり②：商店街活性化政策の変遷	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第11回】	〔講義〕 商店街とまちづくり③：商店街活性化の現代的課題	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第12回】	〔活動〕 商店街とまちづくり④：商店街の現状を調べよう（グループワーク）	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第13回】	〔活動〕 商店街とまちづくり⑤：商店街の現状を調べ	予習：グループワークに向けた課題に取り組

	よう（グループワーク）	むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第 14 回】	〔活動〕 商店街とまちづくり⑤：商店街の現状を調べよう（グループワーク）	予習：グループワークに向けた課題に取り組むこと 復習：グループワークの成果をまとめること
【第 15 回】	まとめ・ミニテスト	ミニテストに向けて対策をすること

1.授業コード (ナンバリング)	TOU315-Y51	2.科目名	地域観光インパクト論		3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	特に制限はない。			9.履修学年	3 年生以上	
10.取得資格の要件	特になし。		11.先修条件	DMO 論、観光まちづくり論を履修しておくこと。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【科目の目的】 この科目は、観光が地域に及ぼすさまざまな影響と、それらの影響をマネジメントするための手法について学ぶことを目的としています。 【科目の概要】 観光は世界最大の産業といわれるほど、幅広く多様な分野の事業や人々がかかわることで成立しています。そのため、観光客の増減は地域のさまざまな側面に対して影響を与えます。コロナ禍の前には、国際観光客が 14 億人を超えるほど観光が巨大化し、オーバーツーリズムという言葉が誕生するほど地域に対する影響がクローズアップされました。 本科目では、観光に関わる幅広い分野とその影響関係の構造を理解するとともに、実際に地域の方々が観光の影響をどのようにとらえているかを調査し、観光の影響を最適化するための手法を学びます。					
18.学習目標と DP との関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP と関連しています。 （１）自立的で主体的な態度 （４）問題発見・解決力 本科目の学習目標は以下の通りです。 ①観光に関わるさまざまな分野とその関係について説明できる。 ②観光が地域に与えるさまざまな影響とその仕組みを調査し、分析することができる。 ③観光が地域に与えるさまざまな影響をマネジメントする手法について説明できる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	安部大輔（編著）『ポスト・オーバーツーリズム：界限を再生する観光戦略』学芸出版社、2020 年 高坂晶子（著）『オーバーツーリズム：観光に消費されないまちのつくり方』学芸出版社、2020 年 馬場正尊（編著）『CREATIVE LOCAL：エリアリノベーション海外編』学芸出版社、2017 年 高橋一夫（著）『DMO 観光地経営のイノベーション』学芸出版社、2017 年					
21.成績評価	授業中の課題：20％ 中間レポート：30％ 現地調査の報告：50％					
22.コメント	コロナ禍を経て、観光に対する期待と注目は再び高まっています。世界的にも、コロナ禍は観光事業の重要性を再認識するきっかけとなったように思われます。過疎化や経済衰退に悩む地方の再生にむけて、観光の影響をどのようにマネジメントすればよいのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。					
23.オフィスアワー	金曜：昼休み（学習支援センター）					

24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	オリエンテーション ・ シラバスの説明 ・ 授業の概要説明	予習：観光地域振興の事例を 3 つ調べてくる。
第 2 回	光と地域の構造 ・ 地域の構造を理解する。 ・ 観光の構造を理解する。	復習：観光学概論で説明した観光の構造について見なおしておくこと。
第 3 回	多様なツーリズムとその影響 ・ ニーズの多様化によるさまざまな観光類型とその特徴を理解する。	予習：さまざまなニューツーリズムについて調べてくる。
第 4 回	持続可能な観光の考え方	予習：レスポンシブルツーリズム、リジェネラティブツーリズムについて調べてくる。
第 5 回	観光が地域に与える影響（１） ・ 経済的影響	予習：観光の経済効果について書かれた論文を一つ読んでくる。
第 6 回	観光が地域に与える影響（２） ・ 社会的影響	予習：観光の社会的効果について書かれた論文を一つ読んでくる。
第 7 回	観光が地域に与える影響（３） ・ オーバーツーリズムとは	予習：オーバーツーリズムに関する論文を一つ読んでくる。
第 8 回	到達度確認試験	復習：第 1 回から第 7 回までの内容をノートに手書きでまとめておく。
第 9 回	現地調査の準備（１） ・ 調査テーマと調査対象地の選定 ・ 調査日程の検討	課題：調査してみたいテーマ・視点について考えてくる。
第 10 回	現地調査の準備（２） ・ 調査項目と調査手法の検討	課題：調査テーマを明らかにするために必要な調査項目を考えてくる。
第 11 回	現地調査（１）	調査結果をきちんとまとめておく。
第 12 回	現地調査（２）	調査結果をきちんとまとめておく。
第 13 回	調査結果の整理と分析（１）	調査結果について気づいたことをまとめておく。
第 14 回	調査結果の整理と分析（２）	課題：調査報告をまとめる。
第 15 回	調査結果の発表と振り返り	調査報告をまとめる

1.授業コード (ナンバリング)	TOU321-Y51	2.科目名	ツアープランニング		3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻					9.履修学年	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習形式の授業		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	『授業の目的』 観光交流による地域活性化を目指している国内地域と、観光を学んでいる学生達が連携して新たな地域密着型旅行プランを提案することが目的となる。その際、地域観光資源を「観光地側＝ホストサイド」の視点と「訪問者＝ゲストサイド（学生達）」の視点を交えることによって地域観光素材を再発掘し、地域の魅力をテーマ性のある新たな旅行プランとして開発することが可能となり、新たな交流人口（観光客）を生み出し、観光振興による地域活性化につなげてゆくことになる。 『授業概要』 優れたな旅行プランは単なる思い付きでは企画できない。まず、企画の背景として、地域の観光政策や戦略の分析から始める。次に地域の観光素材を探る。1つの素材だけでは集客力がないのがほとんどである。そこで地域の歴史文化等を参考に旅のテーマを設定し、ストーリーを創造する。その際、重要なポイントとなるのは、テーマに沿ったストーリーを何らかの形で体験（参加）できることである。これが素材への味付けとなる。 また、本授業の特徴は、ツアープランを企画する過程で、ターゲット設定、地域の魅力発掘、商品構成、価格設定、販売方法、広告宣伝等、観光を含むすべてのビジネスで必要不可欠とされるマーケティング手法を実践的に身につけることができることである。 なお、特に受講生が希望する地域が無ければ、プランニングする地域は、私が観光振興に関わっている地域、福井県あわら市を中心とした地域（テーマによって広域にとらえていただいても結構です）とする。					
18.学習目標と DPとの関連	【授業の学修目標】 ①旅行プランの作成を通じて、一般社会で求められている、マーケティング手法による新たな価値を創造する能力や視野が培われる。（DP 専門的知識・技術の活用力） ②地域の課題解決（観光客集客）に向けて、チーム内で徹底的な議論により、意見をまとめて行く、その過程で、相手の意見を聞く＝傾聴力、理解しまとめる＝集約力、自分の意見を伝える＝伝達力、本質を見抜＝洞察力等が備わる。（DP 問題発見・解決力） ③授業での地域の課題解決型旅行プラン作成を通じて、自ら考え、計画し、調査し、協力者を仰ぎ行動し、様々な提案を行うことになる。（DP 自律的で主体的な態度）					
19.教科書・教材	特に使用しない。					
20.参考文献	必要に応じて、適宜資料等を配布する。					
21.成績評価	旅行プランの企画内容 60% チーム・授業への貢献度 20% プレゼンテーション内容 20%					
22.コメント	授業時間内だけでは満足のゆく旅行プラン作成は難しいと考えられるので、授業時間以外の時間、特に復習に充てる時間を十分に確保してもらいたい。 フィールドワークの実施等には交通費等費用が発生（自己負担である）する。					

	各授業の内容は、授業方法、履修者数、進捗状況、理解度等により適宜変更する場合がある。	
23.オフィスアワー	水曜日 3 限目 研究室 OA (3-306 号室)	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回目授業	<導入・インバウンド概要> イントロダクション(科目の目的と予定) 旅行プランニングの基礎理解	事前配布資料を参照 (予習)
第 2 回目授業	・地域観光素材の分析とまとめ① ・地域自治体・観光協会等の観光戦略や観光素材の分析① 『提供した名張市観光素材等を参考に福井県、あわら市、坂井市、各観光協会等のホームページ等から情報を検索しこの地域の自治体等の観光戦略や観光素材を分析し、素材ごとに分類してゆく』	予習・復習を通じて、三重県名張市観光協会が分析した自地域の観光素材について、その分析方法を参考にして、福井県あわら市地域で応用できるような資料等を作成準備する。
第 3 回目授業	・地域観光素材の分析とまとめ② ・地域自治体・観光協会等の観光戦略や観光素材の分析② 『提供した名張市観光素材等を参考に福井県、あわら市、坂井市、各観光協会等のホームページ等から情報を検索しこの地域の自治体等の観光戦略や観光素材を分析し、素材ごとに分類してゆく』	(予習・復習) 福井県あわら周辺地域について、観光戦略の分析、観光素材の発掘。 ・インターネット検索等を利用して地域の観光素材や自治体等の観光戦略等について調べておく。 ・配布された作品についての分析も同時に行う。
第 4 回目授業	・地域観光素材の分析とまとめ③ ・地域自治体・観光協会等の観光戦略や観光素材の分析③	(予習・復習) 福井県あわら周辺地域について、観光戦略の分析、観光素材の発掘。 ・インターネット検索等を利用して地域の観光素材や自治体等の観光戦略等について調べておく。 ・配布された作品についての分析も同時に行う。
第 5 回目授業	・地域観光素材の分析とまとめ④ ・地域自治体・観光協会等の観光戦略や観光素材の分析④	(予習・復習) 福井県あわら周辺地域について、観光戦略の分析、観光素材の発掘。 ・インターネット検索等を利用して地域の観光素材や自治体等の観光戦略等について調べておく。 ・配布された作品についての分析も同時に行う。
第 6 回目授業	・素材の発掘、ターゲット・テーマの設定、テーマに沿ったストーリーの作成等 ① (様々な地域の学生作成旅行プランを参考資料として配布、これらの作品は過去商品化や優秀賞受賞作品等である)	(予習・復習) 旅行素材の発掘、ターゲット・テーマの設定、テーマに沿ったストーリー作成に向けて。 ・予習：配布された作品についての分析を行う。 ・復習：作品の評価点、課題点を抽出し、自身の作品に反映させてゆく。
第 7 回目授業	・素材の発掘、ターゲット・テーマの設定、テーマに沿ったストーリーの作成等 ② (様々な地域の学生作成旅行プランを参考資料として配布、これらの作品は過去商品化や優秀賞受賞作品等である)	(予習・復習) 旅行素材の発掘、ターゲット・テーマの設定、テーマに沿ったストーリー作成に向けて。 ・予習：配布された作品についての分析を行う。 ・復習：作品の評価点、課題点を抽出し、自

		身の作品に反映させてゆく。
第 8 回目授業	・素材の発掘、ターゲット・テーマの設定、テーマに沿ったストーリーの作成等 ③ (様々な地域の学生作成旅行プランを参考資料として配布、これらの作品は過去商品化や優秀賞受賞作品等である)	(予習・復習) 旅行素材の発掘、ターゲット・テーマの設定、テーマに沿ったストーリー作成に向けて。 ・予習：配布された作品についての分析を行う。 ・復習：作品の評価点、課題点を抽出し、自身の作品に反映させてゆく。
第 9 回目授業	・素材の発掘、ターゲット・テーマの設定、テーマに沿ったストーリーの作成等 ④ (様々な地域の学生作成旅行プランを参考資料として配布、これらの作品は過去商品化や優秀賞受賞作品等である)	(予習・復習) 旅行素材の発掘、ターゲット・テーマの設定、テーマに沿ったストーリー作成に向けて。 ・予習：配布された作品についての分析を行う。 ・復習：作品の評価点、課題点を抽出し、自身の作品に反映させてゆく。
第 10 回目授業	・素材の発掘、ターゲット・テーマの設定、テーマに沿ったストーリーの作成等 ⑤ (様々な地域の学生作成旅行プランを参考資料として配布、これらの作品は過去商品化や優秀賞受賞作品等である)	(予習・復習) 旅行素材の発掘、ターゲット・テーマの設定、テーマに沿ったストーリー作成に向けて。 ・予習：配布された作品についての分析を行う。 ・復習：作品の評価点、課題点を抽出し、自身の作品に反映させてゆく。
第 11 回目授業	成果のまとめ	(予習・復習) 企画案発表(提出)に向けての準備。 ・予習：具体的にターゲットやテーマ設定、ストーリーの展開を図る。 ・復習：提出レポートに対する意見を作品に反映させてゆく。
第 12 回目授業	企画案発表(提出)準備 ①(スライド作成・企画案の作成)	(予習・復習) 企画案発表(提出)に向けての準備。 ・予習：具体的にターゲットやテーマ設定、ストーリーの展開を図る。 ・復習：提出レポートに対する意見を作品に反映させてゆく。
第 13 回目授業	企画案発表(提出)準備 ②(スライド作成・企画案の作成)	(予習・復習) 企画案発表(提出)に向けての準備。 ・予習：具体的にターゲットやテーマ設定、ストーリーの展開を図る。 ・復習：提出レポートに対する意見を作品に反映させてゆく。
第 14 回目授業	企画案の発表(提出) ①	(予習・復習) 企画案発表(提出)に向けて

	(パワーポイント・プレゼンテーションスライドに対する評価)	仕上げ。 ・ 予習：発表（提出）に備え、再度全体像を確認。 ・ 復習：発表（提出案）に対して意見があった内容を踏まえて最終報告書を作成する。
第 15 回目授業	企画案の発表（提出）② (パワーポイント・プレゼンテーションスライドに対する評価) 総括	(予習・復習) 企画案発表（提出）に向けて仕上げ。 ・ 予習：発表（提出）に備え、再度全体像を確認。 ・ 復習：発表（提出案）に対して意見があった内容を踏まえて最終報告書を作成する。

1.授業コード (ナンバリング)	TOU323-Y51	2.科目名	ブライダル実務		3.単位数	2
4.授業担当教員	劉争					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	この科目は、ブライダル業界の事情を専門的に学習します。 この科目は、ブライダルビジネスの現状と課題を学び、プランニング、会場、サービスなどに関する知識やスキルを統合的に活用し、課題を発見し、課題を解決するための、実践的なビジネス能力を身につけることを目指します。将来、企業などの観光コンテンツの創出やマネジメントすることが目的です。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマポリシー）の2.主体的行動力、問題解決力、3.多様な価値観受容、コミュニケーション能力、K1.地域資源の活用力の学修に関連しています。 ①日本ブライダル業界の仕組みについて概説し、各業種の役割とその特徴を説明できる。 ②客と企業間のバランスが取れたビジネスを提案できる。 ③ブライダルビジネスの構造を理解したマネジメントができる。 ④婚礼の歴史・伝統・文化を幅広く知り、観光立国の日本と結び付けて考えることができる。					
19.教科書・教材	糸美奈子著『ブライダル業界の動向とカラクリがよくわかる本』秀和システム、2018					
20.参考文献						
21.成績評価	評価の方法と配点は次の通りです。学習成果の統合、リサーチ、プレゼンテーション等に関するルーブリックに基づいて評価します。ルーブリックに基づく評価方法については、第1回目の授業内で説明します。 1. 発問、ディスカッション、ウェディングプランのアウトラインの作成及びブライダルビジネスマナーの修得…25%【学修目標の①④に対応】 2. 課題1：ウェディングプランの作成（個人）…25%【学修目標の①②③に対応】 3. 課題2：ウェディングプランの修正（個人）…25%【学修目標の①②③に対応】 4. 課題3：ウェデ					
22.コメント	・授業時に配布されたプリントを毎回持参してください。質問は授業終了後に教室で受け付けます。 ※課題の作成はエクセル、パワーポイント、メールのスキルが求められます。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	オリエンテーション・授業課題、評価基準の説明			教科書、筆記ノート、筆記用具必須。		
	結婚とフェミニズム					
	ブライダル業界の概況					
	ブライダル業界の収益構造とタイプ別挙式のプロセス			課題1 グループ分け ウェディングプランのアウトライン作成		
	振り返り①			課題1 ウェディングプランのアウトラインを提出		
	ドレスショップビジネスの現状と課題 (学外の元町付近のショップで受講する予定。服装の注意点あり)					

	人前式の流れと披露宴司会者の心得と技術	
	婚活	
	海外の Wedding 事情	課題 2 ウェディングプラン完成案を作成
	披露宴会場と演出について	課題 2 ウェディングプラン完成案を提出
	振り返り②	
	フィールドワーク（ホテル式場、ゲストハウス見学） 3 年ゼミと合同で実施	
	ブライダル業界の課題と未来	課題 3 ウェディングプラン修正案を作成
	振り返り③	課題 3 ウェディングプラン修正案を提出
	優秀プランの選出と公表、学生のプレゼンテーション	

1.授業コード (ナンバリング)	TOU329-Y71	2.科目名	ツーリズム・プロデューサー特別演習		3.単位数	2
4.授業担当教員	小林弘二					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期～冬学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	近年、新しいツーリズムが数多く提唱されてきた。その多くは空振りに終わったが、インバウンドの増加で、昔ながらの団体客も中国人などを集めようとする動きもある。確かに観光ニーズは多様化しており、それに応えるために新しいツーリズムモデルをプロデュースすることもあるだろう。その意味で、これまで提唱された新しいツーリズムの背景を知り、その成否、特に失敗についての理解を深め、観光の歴史を踏まえ、最新の観光学の基盤に立ち、無知な思いこみを廃し、より確かなプロデュース力を養う。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、KUISS 学修ベンチマークの以下の項目と関連している。 (1)自律的で主体的な態度(自律性)、安易に流行を追わない (2)社会に能動的に貢献する姿勢(社会的貢献性)、観光のコンプライアンスの理解 (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力(多様性理解)、自文化を押付けない 学習目標 本科目の学習目標は以下の通りです。 1 観光モデルの構造とその課題、失敗の傾向とその原因を説明できる。 2 観光行動の変化と成熟、それらの類型について説明できる。 3 観光行動とそのインパクトとの関係について説明できる。					
19.教科書・教材	教科は特に指定しません。教材資料は、Web Class で、配布します					
20.参考文献	授業で紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と採点は以下の通りです。 ・授業中のコメントシート(授業内レポート)・・・20% 【学習目標 123 に対応】 ・授業中の発表・・・20% 【学習目標 123 に対応】 ・中間試験（確認試験）・・・25% 【学習目標 123 に対応】 ・期末試験・35% 【学習目標 123 に対応】 授業中のコメントシート、確認試験・統括試験の記述部分と発表は、ルーブリック評価で採点します。					
22.コメント	観光ビジネス分野に進む学生さんの最終学年に用意された科目です。観光学の十分な学修成果をより発展させるための科目です。					
23.オフィスアワー						
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
	ツーリズムモデルの概要： 観光の歴史を踏まえ、これまでに登場した様々なツーリズムモデルを概観し、最新のモデルを探します。世界中には様々な観光の形がありますが、すべてが普及するわけではなく、より本質的なモデルが残り、その地に相応しいものだけが残りました。今も続く、それらのモデルを考えます。			習：3 回生までに履修した授業から、各自観光の歴史を簡単なレポートにまとめてくる 復習：授業で紹介した数々のモデルのうち、五つを選び、その具体的なツアー商品を報告する		

	ツーリズムモデルと現代社会： 現代の社会的課題とツーリズムモデルの関係を紹介します。授業では、ヨーロッパで生まれたアグリツーリズムが日本ではグリーンツーリズムとして紹介され、なかなか定着しない事例をあげ、モデルの限界を述べます。	予習：アグリツーリズム（農村観光）の日本国内の事例を一つ調べてくる 復習：日本のグリーンツーリズムの歴史を簡易年表にまとめる。
	EU の観光政策でのツーリズムモデル、アーバンとルーラル： ヨーロッパ連合（EU）では共通観光政策として、アーバンとルーラルで整理される観光種別を活かした国や自治体の企画があります。その全体像を示し、ツーリズムモデルの作り方のベースを学びます。	予習：ヨーロッパの観光政策の歴史を整理しておく 復習：アグリツーリズムなどヨーロッパのルーラル分野の観光政策は知られるが、アーバン分野はあまり紹介されることがないので、この授業で述べた都市型観光モデルを調べて商品企画を探し出す。
	グリツーリズムのモデル： 日本では最初、農村体験を重視するモデルで推移した農村観光が現在では、食体験、美酒美食が中心になり、当初とは違うモデルと観光地が生まれてきた。その様子を概観しつつ、これから世界の観光市場の影響の中で日本の農村観光モデルを考える。	予習：日本の体験型観光の事例を調べまとめて置く 復習：商品化された農村観光プログラムを探し、できればその評判、顧客の反応を探しておく
	フードツーリズムの現状： 観光学科の授業ではフードツーリズムがあり、国内はもとより世界のトレンドを学びました。フードツーリズムはアグリツーリズムと関係性が強く、変化の様子も似ています。日米欧の比較を通じて、日本のフードツーリズムの可能性を探ります。	予習：ワインの産地のツーリズムモデルを調べてまとめて置く。 復習：日本で、まだ開拓されていないフードツーリズムの企画を紹介する。
	グループディスカッション 1： ツーリズムモデルを考えよう：第 1 回のディスカッションはアグリツーリズムのモデルです。兵庫県には丹波地方に有名な農村があり、今も人を集めています。その実態を調べ、今後一層発展させるための提案をします。	予習：兵庫県の農村、農産物を調べておく 復習：丹波篠山のアグリツーリズムについてグループワークの成果をまとめて提出する
	ユニークヴェニュー、個性的な体験の演出： 国際会議のエクスカージョンとして始まったユニークヴェニューが世界に広がり、各国、各都市のシンボルともいえるイベントになってきた。それぞれが個性的な体験を考え出しており、まさにツーリズムモデルのプロデュースになっている。その最新情報を紹介します。	予習：ユニークヴェニューと呼ばれるツアーモデルを説明できる資料を整える。 復習：美術館を使ったユニークヴェニューの事例を 3 つ以上上げる準備をしておく。
	美術館と歴史的建造物のユニークヴェニュー： 日本でも始まったユニークヴェニューを学びます。アメリカやイタリア、フランスなどの実績を振り返り、	予習：美術館の新企画、ナイトミュージアムと朝の拝観など、世界の主要ミュージアムの取組みを調べて置く

	最初、賛否両論が出た事を知り、同合意形成してきたかを紹介します。	復習：日本での事例を調べ、最低三つを紹介し、小レポートにまとめ、提出する
	ラフォルジュルネというイベント： 1995年にフランスのナント市で始まったラフォルジュルネはすっかり定着し、世界に広がった。日本でもワンコインコンサートなど、誰もが参加できる開かれたコンサートとして各地で開催されている。その全体像を示し、応用するためのポイントをお話します。	予習：ナント市で始まったラフォルジュルネを調べ、報告する 復習：国内でも20年近い歴史のあるイベントとしてラフォルジュルネのリストを作る
	文化庁の『ユニークヴェニュー・ハンドブック』を教材に、数々の歴史的建造物を活用した事例を取り上げ、その功罪を開設します。1990年代には町家再生など、歴史的建造物保存のイベントとして登場したものの、今は開催回数も増え、問題点も明らかになってきました。その批判的意見も含め、状況を述べます。	予習：ネットで、先の文化庁ハンドブックをダウンロードし、眼を通しておく。 復習：
	ユニークヴェニューの演出 これまでも陶芸やゲームなど体験を軸とした観光モデルはあったが、近年のユニークヴェニューのような取り組みは異質なものといっている。その違い、演出の妙を学生さんと一緒に考えていきます。	予習：ホストとゲストに分けて、ユニークヴェニューの体験内容を整理しておく 復習：演出されたユニークヴェニューを一つ上げ、どんな点に配慮が尽くされているかを述べて下さい
	グループディスカッション2： ユニークヴェニューのツーリズムモデルを考えよう： 第2回のディスカッションのテーマはユニークヴェニューです。皆さんそれぞれの得意技を発揮して、提案をして下さい。	予習：提案資料の作成、2度目のディスカッションですから、提案を発表する準備を尽くしてください。 復習：最後のまとめに向けて、演出のポイントの整理をまとめて下さい。
	インバウンドのためのツーリズムモデル： 海外挙式（結婚式）が盛んな日本ではユニークヴェニューと言えば結婚式でした。その企画力を思い出し、ブライダル系の科目を参考に、インバウンド向けのモデルを提案してみましょう。	予習：ブライダルビジネスの簡単な歴史をまとめて置く 復習：なぜ海外挙式が好まれたかまとめて小レポートとする。
	インバウンドのためのツーリズムモデル： 日本文化の体験ツアーのモデルも盛んです。茶道や華道だけでなく、様々な体験型のツーリズムモデルが誕生しています。それらを総覧し、今後の様子を探ります。	予習：ツーリズムモデルの可能性として、今後提案したいモデルを調べて書き出してください。 復習：体験型のポイント、特に評判の悪い体験プログラムを述べて下さい。
	グループディスカッション3： ツーリズムモデルを考えよう：最後のディスカッションは全体のまとめと振り返りです。簡単なテストが用意され、それをもとにディスカッションをします。	予習：ディスカッション資料を用意して下さい。 復習：最終レポートのまとめにかかって下さい。

1.授業コード (ナンバリング)	TOU330-Y51	2.科目名	ツーリズムモデルⅡ		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 冬学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	3 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件	観光政策論、ホテル産業論などを履修していること		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	観光行動にはモデルがある。観光学の発展が遅れた日本では、大手旅行代理店とそれに追随する地方の零細代理店がもっぱら観光ビジネスの中心だったために、そのモデルへの理解が極めて浅い。長年団体客相手やパッケージツアーを売るだけの仕事だったために、自らモデルを作り出す必要がなかったからである。団体客に交通機関や宿泊施設の予約と発券業務を担うのが旅行代理店、すでにあるモデル、次々と欧米先進国から導入される観光のモデルを真似て、予約、発券するだけだった。万博やオリンピック、ブルーやグリーン、ホワイトツーリズム、テーマパーク、パッケージツアーが、大規模な観光市場である日本で次々と生まれ、消費され、消えていった。観光学の本場、西欧諸国では観光の歴史研究が盛んで、モデルはどう生まれたか、それがどう変遷、発展したかの研究の蓄積があり、使い捨てのツーリズムモデルを避ける政策、ビジネス論が発展してきた。地域資源を無為に消費する失敗が続いたからである。 この授業では、ツーリズムモデルの歴史、栄枯盛衰を紹介する。21 世紀の現在、万博やオリンピックはもはや観光対象ですらない。スキーや登山、スポーツ観戦も高齢者とともに消えている。残るモデルには、古典的観光、持続性のある本格的なツーリズムモデルが多い。観光の歴史と古典を知ること、ツーリズムモデルの理解を深め、本来の観光のあり方を学ぶ。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標はディプロマ・ポリシー の「1. 自律的で主体的な態度」と「2. 社会に能動的に貢献する姿勢」「3. 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力」「6. 専門知識・技能の活用力」の学修に関連しています。 1.最新の観光学の知見を自律的に学ぶ態度を養い、観光公害を制御する政策に貢献する姿勢を持つ。 2.多様な文化圏の観光の歴史を知り、間違った地域開発を知り、避け、事業者の利己的な態度を正すことのできる専門知識を養う					
19.教科書・教材	スライドの資料を PDF にして配布します。					
20.参考文献	観光学には膨大な文献があります。欧米の著作は重要な部分を抜き刷りで紹介します。日本語の多くの著作は、授業で取り上げるたびに数冊紹介しますので読んでみて下さい。					
21.成績評価	期末の最終レポート 70%、小レポート 30%					
22.コメント						
23.オフィスアワー	宗田：火曜 3 コース（研究室/3-308）、火曜 2 コース(学修支援センター)					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	観光の歴史を知る、キーワードで知るツーリズム・モデル、オデッセイ、アレグザンダーの遠征、十字軍、巡礼、留学と放浪、吟遊詩人、ロマ（ジプシー）の旅			授業外学習 第 1 回学習内容復習		
【第 2 回】	ヨーロッパの古代から中世の旅に観光の原型を求める。「旅愁」を始めとする旅の感動にはどんなモデルがあったか。それが拡大再生産されて広がった紀行文、旅の文学			授業外学習 第 2 回学習内容復習		

【第 3 回】	ルネッサンスから近代までの歴史、王侯貴族の旅とグランドツアー、テーマパークの原型はルネッサンス建築、風景のお持ち帰りがランドスケープ庭園	授業外学習 第 3 回学習内容復習
【第 4 回】	旅の文学と文学に見る旅、ゲーテ、アンデルセン、マルキド・サドが見たイタリアとその後のイタリア観光、そしてそのツーリズムモデル	授業外学習 第 4 回学習内容復習
【第 5 回】	ヨーロッパの観光、ツーリズムモデルの誕生（大衆化）とその背景にある古典の数々、古典を知らずに追いかけたアメリカの旅行代理店、何も知らずにそのマネだけした日本の旅行代理店、陳腐で安易な JAL パックの猿真似	授業外学習 第 5 回学習内容復習
【第 6 回】	ヨーロッパの 20 世紀前半の観光、ツーリズムとそのモデルの誕生、ロンドンやパリの観光名所はどうモデル化されたか。	授業外学習 第 6 回学習内容復習
【第 7 回】	ヨーロッパの戦災復興とマーシャルプラン、歴史都市の芸術文化を巡る旅、その後大衆化した日本人が分かることもなく、行きたいとは言いもしないのに、美術館、博物館、オペラ座を回る陳腐なモデルはどうして受け入れられたのか？	授業外学習 第 7 回学習内容復習
【第 8 回】	ローマの休日の登場、ディズニーのシンデレラとエリザベス女王、ヨーロッパ観光の女性化、現在の FIT に繋がるツーリズムモデルはどう演出されたか	授業外学習 第 8 回学習内容復習
【第 9 回】	20 世紀末のヨーロッパ観光の大衆化、アメリカ人と日本人の影響、その後の東欧人、アジア人の登場で変わるツーリズムモデル	授業外学習 第 9 回学習内容復習
【第 10 回】	日本の観光史、キーワードでみる旅と旅の文学、万葉集の中の旅、柿本人麻呂、山上憶良、防人、古今集と西行、歌枕、今日まで続く観光地の原点	授業外学習 第 10 回学習内容復習
【第 11 回】	江戸時代の観光、宿場町の娯楽、街道の整備、十篇（返）舎一句の世界、洋の東西の比較から、名所図会と名勝と名所、江戸期に定義された観光地の優位性	授業外学習 第 11 回学習内容復習
【第 12 回】	お伊勢参りとお陰町、伊勢講の文化、伊勢詣が確立させたツーリズムモデルの数々	授業外学習 第 12 回学習内容復習
【第 13 回】	近代日本の観光の歴史、鉄道の発展とツーリズムモデル、日本三景、温泉、船旅、近代文学史と名勝	授業外学習 第 13 回学習内容復習
【第 14 回】	戦後と観光の大衆化で生まれたツーリズムモデルの数々、衰退したモデル、廃墟化したスキー場とスケート場、失敗したテーマパークと観光詐欺師に騙された自治体、ゴーストタウンとなった温泉郷、もはや動員できないプロスポーツ業界、東京オリンピック 2020 の失敗と電通消滅、関西大阪万博の失敗、有名無実化した IR	授業外学習 第 14 回学習内容復習
【第 15 回】	ツーリズムモデルの間違いと繰り返される失敗、成功の見込みもないのに、なぜ新しいモデルに飛びつくのか？	授業外学習 第 15 回学習内容復習

1.授業コード (ナンバリング)	TR2101-Y51	2.科目名	地域創造論		3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	総合社会学科・観光学科（2019 年度以降入学生）			9.履修学年	4 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【科目の目的】					
	本科目は、観光の視点から農山村地域の新たな価値を見出し、創造的なアイデアをデザインする力を養うことを目的としています。					
	【科目の概要】					
	少子高齢化が農山漁村地域のみならず、地方の中小都市にまで多大な影響を及ぼすなか、観光を通じた地域活性化の取り組みが盛んに進められています。その視点は、経済的な効果にとどまらず、住民と訪問者の人間的な関係を促進することまで、多様な側面に及びます。この授業では、そうした地域と観光の状況を概観したうえで、自然と文化の資源の継承と新たな価値創造の視点や方法論を学びながら、グローバル化した観光現象のなかでの『地域創造』を理解します。					
18.学習目標と DPとの関連	この科目を通じて得られた地域創造の視点と方法論の知識は、地域振興の現場に立った時に新しいアイデアと実践の基盤として有意義なものとなるでしょう。					
	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP と関連しています。					
	K1：歴史・伝統・文化・自然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる。					
	K2：グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関+B1 心を持つ。					
	K4：異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える。					
	本科目の学習目標は以下の通りです。					
19.教科書・教材	①さまざまな「地域」の捉え方と「地域活性化」の視点を説明できる。					
	②さまざまな地域の抱える課題を分析し、指摘できる。					
	③地域の個性を活かした地域創造のアイデアを提案できる。					
20.参考文献	特に指定しない。					
	松永安光・徳田光弘（著，編集）『世界の地方創生：辺境のスタートアップたち』学芸出版社、2017 年					
	高橋一夫『DMO 観光地経営のイノベーション』学芸出版社、2017 年					
	宮崎裕二・岩田賢 編『DMO のプレイス・ブランディング』学芸出版社、2020 年					
	高坂晶子『オーバーツーリズム：観光に消費されないまちの作り方』学芸出版社、2020 年					
	馬場正尊、I 中江研ほか『CREATIVE LOCAL：エリアイノベーション海外編』学芸出版社、2017 年					
21.成績評価	大社充『DMO 入門 官民連携のイノベーション 』（地方創生シリーズ）					
	課題レポート		・・・20%	【学習目標①②③④に対応】		
	到達度確認試験		・・・30%	【学習目標①②③に対応】		
22.コメント	総括試験		・・・50%	【学習目標①②③④に対応】		
	価値観の多様化やインバウンド観光、シェアリング文化など、社会の変化にしっかり目を向けながら、新しい地域の在り方について考えていきましょう。					
	※フィールドワークの参加費は自己負担です（2000 円前後）。					

23.オフィスアワー		個人研究室：個人研究室：木曜 5 限（秋） 学修支援センター：火曜昼休み（秋）
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	・オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて） ・ディスカッション：「地域」とはなにか	予習：身の回りの地域の課題について考えてくる。
【第 2 回】	講義：「地域」の捉え方 グループワーク：「地域」の基準	予習：地域の考え方について調べる 復習：授業で学んだ事例や視点について、関連する事例を調べる
【第 3 回】	講義：地域の構造と課題 ディスカッション：地域の課題と原因を考える	予習：地域の課題について調べる 復習：授業で学んだ事例や視点について、関連する事例を調べる
【第 4 回】	講義：デスティネーション・マネジメントの考え方 ディスカッション：地域と観光の関係	予習：創造都市論について調べる 復習：授業で学んだ事例や視点について、関連する事例を調べる
【第 5 回】	デスティネーション・マネジメントの要素①：観光資源&観光サービス ・ディスカッション：観光資源の保全と活用のバランス	予習：歴史的町並みの保全と活用の事例として、イタリアの「アルベルゴ・ディフーズ」について調べておく。 復習：デスティネーション・マネジメントの構成要素を整理しておく。
【第 6 回】	デスティネーション・マネジメントの視点② 交通マネジメント ・ディスカッション：観光交通の在り方考える	予習：観光地で利便性を高めるための交通システムの工夫について調べてくる。 復習：観光地の観光サービス連携のポイントを整理しておく。
【第 7 回】	「観光地域の持続可能性」 ・ディスカッション：地域におけるウエルビーイングと観光の関係を考える	予習：サステナブル・ツーリズムの概念と手法について調べておく。 復習：プレイス・ブランディングのポイントを整理しておく。
【第 8 回】	到達度確認試験	復習：前半の授業のノートを見直し、要点をまとめておく。
【第 9 回】	講義：創造都市論 ディスカッション：都市の創造性	予習：創造都市論について調べる 復習：授業で学んだ事例や視点について、関連する事例を調べる
【第 10 回】	講義：創造農村論 ディスカッション：創造的な農村のあり方	予習：創造農村論と文化経済学について調べる 復習：授業で学んだ事例や視点について、関連する事例を調べる
【第 11 回】	講義：地域資源のマネジメントと関係人口 ディスカッション：地域コミュニティの役割	予習：関係人口について調べる 復習：授業で学んだ事例や視点について、関連する事例を調べる
【第 12 回】	講義：農村と観光：イタリアの取り組み ディスカッション：日本の農村観光の課題とは？	予習：アグリツーリズムについて調べる 復習：授業で学んだ事例や視点について、関連する事例を調べる
【第 13 回】	日本の DMO の事例分析 ・ディスカッション：神戸の観光振興にとって必要な	予習：日本版 DMO から一つを選び、その活動を調べておく。

	ことは？	復習：DMO の基本構造についてまとめておく。
【第 14 回】	海外 DMO の事例分析 ・グループワーク：世界各国の DMO の HP を比較分析する。	予習：世界の DMO から一つを選び、その活動を調べておく。 復習：日本版 DMO の特徴をまとめておく
【第 15 回】	総括試験	予習：それまでの授業の内容を振り返り、要点を整理しておく。

1.授業コード (ナンバリング)	TR2201-Y51	2.科目名	サステナブルツーリズム論		3.単位数	2
4.授業担当教員	橘セツ					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	3 年次～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】現在の日本各地の農産物から銘菓にいたるまでのローカルプロダクツの構造と類型について、その来歴などの歴史・環境・経済・社会・文化の文脈を通して理解することが本授業の目的です。さらに、これらのローカルプロダクツが、いかに日本の産業振興・地域活性化の手段としてデザインされてきたのか観光との関係について具体例を通して理解することを目的とします。 【概要】この科目は、日本各地の「ローカルプロダクツの文化論－農産物から銘菓まで」をテーマに学習します。江戸時代の農学者・大蔵永常は『公益国産考』において、領主の財政危機と農民困窮を救うために自己の見聞を元に産業振興・生産向上の手段について具体的に説いています。現在においても日本各地のローカルプロダクツとしての名産物は江戸時代における産業振興にルーツを持つものがたくさんあります。 授業では、まず、大蔵永常の『公益国産考』を読みながら、本書に紹介されている日本の産物とその考え方について学びます（はじめの5回）。それを踏まえて、日本各地、具体的には、北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州・沖縄地方のローカルプロダクツについて、その産物がどのように名産となり銘菓となったのかについて、産業振興と観光に焦点を当てながら歴史・環境・経済・社会・文化の文脈を考慮しながら具体例を紹介します。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）・KUISS 学修ベンチマークの以下の項目と関連しています (1)自律的で主体的な態度(自律性) (2)社会に能動的に貢献する姿勢(社会的貢献性) (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力(多様性理解) 学習目標 本科目の学習目標は以下の通りです。 1 ローカルプロダクト（地域の名産）についてのデザインとその課題を説明できる。 2 ローカルプロダクト（地域の名産）の類型について説明できる。 3 ローカルプロダクト（地域の名産）と観光インパクトの関係について説明できる。					
19.教科書・教材	教科は特に指定しません。教材資料は、Web Class で、配布します					
20.参考文献	大蔵永常（土屋喬雄校訂）『公益国産考』岩波文庫。 そのほか、授業中にたくさん紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と採点は以下の通りです。 ・授業中のコメントシート(授業内レポート)・・・20% 【学習目標 123 に対応】 ・授業中の発表・・・20% 【学習目標 123 に対応】 ・中間試験（確認試験）・・・25% 【学習目標 123 に対応】 ・期末試験・35% 【学習目標 123 に対応】 授業中のコメントシート、確認試験・統括試験の記述部分と発表は、ルーブリック評価で採点					

	します。	
22.コメント	受講生のみなさんは、観光や旅行に行った時や故郷に帰省した時に、どのようなお土産を探して購入しましたか。受講生のみなさんが買ったことのある産物や銘菓などのお土産について、それがローカルプロダクトとして、どのようにその地域の産業を支えたのか、産業振興と観光の視点から、具体的に考えてみると理解が深まります。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第1回	オリエンテーション	
第2回	大蔵永常の『公益国産考』を読む：紙・楮・杉・檜・菜種・紅花	準備学習:関連文献を読む(120分)
第3回	大蔵永常の『公益国産考』を読む：砂糖・木綿・桑・琉球蘭・漆	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第4回	大蔵永常の『公益国産考』を読む：茶・麻・葛・玉蜀黍・芋・薩摩薯・蜜柑・葡萄	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第5回	大蔵永常の『公益国産考』を読む：柿・梨・桐・養蚕・絹織・藍・素麺	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第6回	北海道のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第7回	東北地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分) 中間試験の準備学習
第8回	中間試験(確認試験) 関東地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第9回	中部地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第10回	近畿地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)
第11回	中国地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60分)

第 12 回	四国地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60 分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60 分)
第 13 回	九州地方のローカルプロダクツ	準備学習:関連文献を読む(60 分) 復習:授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる(60 分)
第 14 回	期末試験 沖縄地方のローカルプロダクツ	準備学習:期末試験の準備として関連文献を読む(120 分)
第 15 回	まとめ	返却された期末試験の復習

1.授業コード (ナンバリング)	TR2202-Y51	2.科目名	グリーンツーリズム論		3.単位数	2
4.授業担当教員	橘セツ					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科			9.履修学年	2 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【目的】 本科目は、グリーン（村落・農村・田園・カントリーサイド・自然・ルーラル）な空間を対象とするツーリズムについて学ぶ授業です。グリーンな空間は、近年、観光資源としての活用のありかたが注目されています。本科目を通じて身につけたグリーンな農村空間の持続可能な観光活用の知識とスキルは、旅行業および地域振興にとって有意義なものとなることをめざします。 【概要】 この授業では、生業に関わるグリーンな空間が、ツーリズムの対象とされ、利用され、消費され、開発されることによってひきおこされる農村のインパクトについて、世界と日本の事例から学び、保全と活用のバランスについて理解します。 本授業は、自然資源をよりよく活用することを探るグリーンツーリズム論を通して、観光学科で取り扱う重要なテーマ「ウェルビーイング社会の実現につながる新たな観光価値をデザインする」ことにアプローチします。					
18.学習目標と D P との関連	本科目の学習目標は、DP（ディプロマ・ポリシー）・KUISs 学修ベンチマークの以下の項目と関連しています (1)自律的で主体的な態度（自律性） (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） (3)多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 本科目の学習目標は以下の通りです。 ① グリーンツーリズムの構造とその課題を説明できる。 ② グリーンツーリズムの類型について説明できる。 ③ グリーンツーリズムと観光インパクトの関係について説明できる。					
19.教科書・教材	教科書は特に指定しない。教材資料は、webclass で、配布します。					
20.参考文献	マイケル・ウッズ（2018）『ルーラル：農村とは何か』農林統計出版 筒井一伸編(2021)『田園回帰がひらく新しい都市農山村関係』ナカニシヤ出版など そのほか、授業中にたくさん紹介します。					
21.成績評価	評価の方法と採点は以下の通りです。 ・授業中のコメントシート（授業内レポート）・・・20% 【学習目標①②③に対応】 ・授業中の発表・・・20% 【学習目標①②③に対応】 ・中間試験・・・・・・20% 【学習目標①②③に対応】 ・総括試験・・・・・・40% 【学習目標①②③に対応】 授業中のコメントシート、確認試験・統括試験の記述部分と発表は、ルーブリック評価で採点します。					
22.コメント	実際に農業体験などツーリズムの対象となっている日本の農村空間を訪れて、授業の内容をふりかえりつつ見学すると、より理解が深まります。 また、村落社会の生業に関わる歴史・景観・文化に対する多様な視点を共有するためにも、意					

	見交換の場では積極的に発言してください。	
23.オフィスアワー	個人研究室：月曜昼休み 学修支援センター：火曜昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	・オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて） ・講義：農村・農村性・田舎・田園とグリーンツーリズムについて	準備学習：関連文献を読む（120分）
【第2回】	講義：グリーンツーリズムの概念と歴史 ディスカッション：都市に住む人々にとっての農村（村落・田舎・田園・ルーラル）とは？、農村を研究するとのどのようなことか？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第3回】	講義：グリーンツーリズムの動機と類型 グループワーク：グリーンツーリズムが提供する経験とは？ 都市と農村・村落（グリーン・田舎・田園）のイメージの違いとは？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第4回】	講義：グリーンツーリズムの3つの側面（農村空間の三つ折りモデルの理解に向けて） ディスカッション：農村空間の「商品化」とは？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第5回】	講義：グリーンツーリズムの構造と課題：「日本で最も美しい村」連合の活動を手がかりにして（その1） ディスカッション：農村に観光が与える影響（インパクト）とは？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第6回】	講義：グリーンツーリズムの対象としてのグリーン（村落・農村・田園・カントリーサイド・自然・ルーラル）な空間：「日本で最も美しい村」連合の活動を手がかりにして（その2） グループワーク：グリーンツーリズムの類型と観光への適性	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第7回】	講義：グリーン（村落・農村・田園・カントリーサイド・自然・ルーラル）な空間におけるゲストとホストの関係・交流：「日本で最も美しい村」連合の活動を手がかりにして（その3） グループワーク：グリーンツーリズムにおけるゲストとホストの関係を考える	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第8回】	講義：農村をイメージする・農村を利用するとは？農村を消費するとは？ 中間試験	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第9回】	講義：グリーンツーリズムインパクト（1）：ポジティブな影響：都市農村交流人口を手がかりとして 中間試験のふりかえり	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第10回】	講義：グリーンツーリズムインパクト（2）：農村空間における摩擦：都市農村交流人口と田園回帰の諸相 ディスカッション：農村にとってツーリズムのプラス面とマイナス面のバランスについて考えてみよう	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第11回】	講義：ツーリズムによるグリーン（村落・農村・田	準備学習：関連文献を読む（60分）

	園・カントリーサイド・自然・ルール）な空間の変化とその主体：都市農村関係論的田園回帰 グループワーク：農村空間におけるツーリズムインパクトについて考えよう	復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第12回】	講義：グリーン（村落・農村・田園・カントリーサイド・自然・ルール）な空間を開発することをめぐって：農村で生きるとは？農村を演じるとは？農村を規制するとは？農村を再構築するとは？：グリーンツーリズムのマネジメント	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第13回】	講義：グリーンツーリズムの原則 ディスカッション：グリーン（村落・農村・田園・カントリーサイド・自然・ルール）な空間の観光活用の意味　：棚田オーナー制度を手がかりにして考える	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：総括試験に向けて授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第14回】	総括試験	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：総括試験のふりかえり（60分）
【第15回】	まとめ	これまでの授業をふりかえり、ノートをまとめる

1.授業コード (ナンバリング)	TR2204-Y51	2.科目名	ヘリテージツーリズム論		3.単位数	2
4.授業担当教員	高根沢均					
5.授業科目の区分	専門科目	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科・(総合社会学科 2019 年度以降入学生)			9.履修学年	4 年次～	
10.取得資格の要件				11.先修条件	世界遺産論を履修していることが望ましい。	
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	【科目の目的】 本科目は、多様な文化遺産を対象とするツーリズムの構造と特徴、および観光によるインパクトと文化遺産の観光マネジメントを理解し、説明できるようになることを目的としています。 【科目の概要】 長い歴史を経て現代に受け継がれてきた歴史的・文化的な遺産は、いま観光資源としての活用の在り方が注目されています。ヘリテージ・ツーリズムと呼ばれる“遺産観光”が行われるなかで、貴重な遺産をどのように守り、活かして後世に伝えていくことが出来るか。この授業では、文化遺産の意義と保全の難しさ、およびツーリズムインパクトについて学び、保全と活用のバランスについて理解します。 本科目を通じて身につけた文化遺産の持続可能な観光活用の知識とスキルは、旅行業および地域振興にとって有意義なものとなるでしょう。					
18.学習目標と DPとの関連	本科目の学習目標は、以下に挙げる観光学科の DP の学修に関連しています。 K1：歴史・伝統・文化・自然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる。 K2：グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関心を持つ。 本科目の学習目標は以下の通りです。 ① ヘリテージ・ツーリズムの構造とその課題を説明できる。 ② ヘリテージ・ツーリズムの類型について説明できる。 ③ 文化遺産の脆弱性と観光インパクトの関係について説明できる。 ④ ヘリテージ・ツーリズムにおける文化遺産の活用状況を分析できる。					
19.教科書・教材	特に指定しない。					
20.参考文献	藤木庸介（編著）『生きている文化遺産と観光一住民によるリビングヘリテージの継承』学芸出版社、2010 年 Dallen J. Timothy, Cultural Heritage and Tourism: An Introduction, Channel View Books, 2011					
21.成績評価	評価の方法と採点は以下の通りです。 ・授業中のコメントシート・・・20% 【学習目標①②③④に対応】 ・確認試験・・・30% 【学習目標①②③④に対応】 ・総括試験・・・50% 【学習目標①②③④に対応】					
22.コメント	実際に世界遺産を訪れて、授業の内容を振り返りつつ見学すると、より理解が深まります。 また、多様な文化に対する多様な観方を共有するためにも、意見交換の場では積極的に発言してください。					
23.オフィスアワー	個人研究室：木曜 5 限（秋） 学修支援センター：火曜昼休み（秋）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
【第 1 回】	・オリエンテーション（本授業の目標・内容・評定算出の方法・進め方の確認、受講上の留意点などについて）			準備学習：関連文献を読む（120 分）		

	・講義：ヘリテージとヘリテージツーリズムについて	
【第2回】	講義：ヘリテージツーリズムの概念と歴史 ディスカッション：なぜ人は文化遺産を求めるのか？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第3回】	講義：ヘリテージツーリズムの動機と類型 グループワーク：文化遺産が提供する経験とは？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第4回】	講義：ヘリテージツーリズムの3つの側面 ディスカッション：文化遺産の「商品化」とは？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第5回】	講義：ヘリテージツーリズムの構造と課題 ディスカッション：観光が与える影響とは？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第6回】	講義：ヘリテージツーリズムの対象としての文化遺産 グループワーク：文化遺産の類型と観光への適性	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第7回】	講義：文化遺産の脆弱性：有形遺産 グループワーク：因果関係を考える	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第8回】	講義：文化遺産の脆弱性：無形遺産 【確認試験】前半の内容の理解度を確認（60分）	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第9回】	講義：ツーリズムインパクト（1）：ポジティブな影響	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第10回】	講義：ツーリズムインパクト（2）：ネガティブな影響 ディスカッション：観光は文化遺産にとってプラスかマイナスか	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第11回】	講義：観光による文化遺産の変化とその主体 グループワーク：ツーリズムインパクトの主因はなにか？	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第12回】	講義：ヘリテージマネジメントの考え方	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第13回】	講義：文化遺産のリスクアセスメント グループワーク：白川郷のリスクアセスメント	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第14回】	講義：ヘリテージツーリズムの原則 ディスカッション：文化遺産の観光活用の意味	準備学習：関連文献を読む（60分） 復習：授業で扱ったテーマや分からなかった用語・概念について調べる（60分）
【第15回】	総括試験	これまでの授業を振り返り、ノートをまとめておく

1.授業コード (ナンバリング)	TR2205-Y51	2.科目名	フードツーリズム論		3.単位数	2
4.授業担当教員	宗田好史					
5.授業科目の区分	展開科目	6.必修・ 選択の区分	選択科目	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	観光学科の専門科目ですが、他学科他学部の学生さんを歓迎します。			9.履修学年	2～3 回生	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態			
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	日本の食品製造業は 30 兆円以上、外食産業は 21 兆円、自動車産業の 15 兆円、観光産業 11 兆円を凌ぐ市場規模に達しています（2018 年）。そのビジネス形態は今も多様に変化しています。消費者と直接接するため現代社会の変化を反映し、国民の日々の生活を支えています。そしてフードビジネスは自動車や電子産業同様に世界に進出し、和食の国際化の立役者でもあります。授業では、フードビジネスを経済・経学の観点から概観し、その社会的特徴を理解することで、観光資源としての可能性を探ります。 また、フードビジネス業界で成功を収めた数々の企業を具体的に見ていくことで、今後も発展が期待されるフードビジネスを通じた和食文化の発信を考える手がかりを探ります。日本を訪れるインバウンドにとってのフードツーリズムを知るために日本の食文化とビジネスを学びます。 授業の後半では、イタリアとフランスを取り上げ、世界のフードツーリズムの最先端事例を知ります。その様子と、今日本で導入が進むフードツーリズムを比較しながら、近未来の観光の形を探ります。					
18.学習目標と DPとの関連	【本科目の学習目標】 日本と世界の「フードビジネス」の全体像を知る。その歴史、関連産業分野への広がりを知り、食品加工業と外食産業を理解する。また、観光との関係で、フードツーリズム、エノガストロノミー、アグリツーリズム、スローフードなどを知る。ディプロマポリシーの「社会的貢献性」「多様性理解」に沿って産業界とその世界的広がりについて充実した内容を学ぶ。これらのキーワードを説明できることが目標です。 【DP（ディプロマ・ポリシー）に関連】 K1?歴史・伝統・?化・?然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる。 K2?グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関?を持つ。 K4?異なる価値観を理解し、?分の考えや?本の魅?を的確に伝えるコミュニケーション?を備える。					
19.教科書・教材	授業中に資料を配布します。参考になる本は、授業の中で紹介します。その一つが、茂木友三郎「キッコーマンのグローバル経営-日本の食文化を世界に-」生産性出版です。この他、宗田の著作をその都度紹介します。					
20.参考文献	宗田好史『創造都市のための観光振興 小さなビジネスを育てるまちづくり』学芸出版社 2009 宗田好史『なぜイタリアの村は美しく元気なのか 市民のスロー志向に応えた農村の選択』学芸出版社 2012 宗田好史『インバウンド再生 コロナ後への観光政策をイタリアと京都から考える』学芸出版社 2020					
21.成績評価	出席点と、授業の際に課すレポート、最終レポートで評価し、期末試験はしない予定です。					
22.コメント						

23.オフィスアワー		宗田：火曜 3 コース（研究室/3-308）、火曜 2 コース(学修支援センター)	
24.授業回数	25.授業内容		26.アサインメント(宿題など)
第 1 回 10 月 5 日：フードビジネスとは何か	ガイダンス：授業内容の説明、食品ビジネスを学ぶ社会的背景と現代的な課題、近年の日本の食品ビジネスの成長とその発展段階、その市場拡大を農業、水産業との比較から考えていきます。観光学科では、世界のフードビジネスも学びます。観光に出かけると食文化は大きな魅力、お土産にも食材は人気です。外食産業を知り、フードツーリズムを学びます。		事前学習：皆さんの好きな食品メーカを 10 社上げて下さい。 アサインメント：海外で楽しみたい食は何ですか？
第 2 回 10 月 12 日：食品ビジネスの歴史	食品ビジネスの歴史：食品ビジネスの背景には、とても長い日本の加工食品業界の歴史があります。それは日本の食文化と密接に結びつき、地域性があります。醤油や味噌、酒には産地があります。この授業では、日本と世界の食文化を知り、近代史から見た食品ビジネスを学び、高度経済成長前後の食生活の変化の中で、日本の食品ビジネスが世界に展開した様子を学びます。		事前学習：味噌と醤油の産地を調べて下さい。 アサインメント：キッコーマンのホームページから海外の製造拠点を調べて下さい。
第 3 回 10 月 19 日：世界のフードビジネス	日本ではキッコーマンが世界的に知られるフードビジネス界の代表選手です。世界にはもっと大きく有名な会社があります。ネスレとかユニリーバなどです。そこで世界のフード・システムを見て、世界の食産業の様子を知り、多様な世界の食ビジネスの国際比較が今日のお話しです。		事前学習：海外の食品メーカーの名前を上げて下さい。 アサインメント：ネスレの商品で皆さんが使ったことのあるものを調べて下さい。
第 4 回 10 月 26 日：フードチェーンの展開	今や、世界の流通システムは巨大化し、欧米先進国や日本は密接に繋がれ、ローカルフードよりもはるかに多くの輸入食品を、我々は消費しています。その食の国際化を可能にした「フードチェーン」の展開のお話です。ロジスティクスとは輸送のこと、どんなに遠くでも少しでも安い方法で確実に届ける仕組みのことです。それがとグローバル化したことでフードビジネスは巨大化しました。日本の食品企業、外食産業もありますが、この世界戦略が得意です。		事前学習：神戸港は日本を代表する港です。どんな海外の食材が輸入されているか調べて下さい。 アサインメント：コンテナ船の大きさを調べて下さい。
第 5 回 11 月 2 日：食生活の変化とフードビジネス	日本人の食生活は大きく変化しました。そのため、フードビジネスでは加工食品を次々と開発し、インスタント食品は大規模化しました。レトルトもコンビニ弁当も、調理品だけでなく菓子類も工場で作られます。このビジネスがどう発展してきたかを知るお話です。前回お話ししたロジスティクスの発達とともに、大量に生産された多様な食品が遠くまで運ばれることで、フードビジネスの市場は拡大、この変化を予測する術を持っていた会社が成功しました。キッコーマンなど有名企業の市場調査手法を紹介します。		アサインメント：冷蔵庫に入っている食品で海外で作られたものを調べてみて下さい。
第 6 回 11 月 9 日：ファストフードの発達と世界展開力	フードビジネスの中でもファストフード業界は最大のもので、マクドナルドが有名です。ファストフードが巨大化した現代社会を捉え、フードビジネスが急拡大しました。これまで述べたロジスティクスの発展が重要ですが、この発展拡大により、社会がどう変わり、我々の食生活がどう変わったかをみます。我々の社会		アサインメント：マクドナルドがどこでどう作られているか、調べてみて下さい。

	がフードビジネスに取り込まれたとも思えるから、これをファストフード化と呼びます。それに反対する人々が始めたのが、スローフード運動です。ファストとスローの近いからフードビジネスを考えます。	
第7回 11月16日：もう一つ巨大化したファミレス業界	ファミレス（ファミリーレストラン）は都市化とともに発展した産業です。アメリカで始まり、日本で大規模化しました。巨大化したフードビジネスの中心的存在です。東京郊外の保谷市（西東京市）のひばりが丘団地のスーパーマーケットが開いたレストラン「すかいらく」は数々の名前です。いろいろな料理を売っています。和食もあれば回転ずし、イタリアンもフレンチもあります。このビジネスモデルはインバウンドにも大人気です。この日本固有の業界を学びます。	事前学習：知っているファミレスの名前を上げて下さい。 アサイメント：セントラルキッチン方式、POS システムなどのお話を復習しておいて下さい。就活にも役立ちます。
第8回 11月23日：飲食業界の全体像を知る	ファストフードとファミレス以外にも飲食業は広がっています。飲食は昔から続く伝統的な業種、零細な個人企業のまま残ったお店が多くあります。ただその9割が短命に終わります。「飲食店はなぜ1年でつぶれるのか」を知り、フードビジネスの経営の側面を見ていきます。 一方、和食文化への関心の高まりから、京都などでは老舗料亭がしっかりと生き残っています。伝統的な食文化を守っているようで、かなり現代的な経営をしています。そして、インバウンドに大人気です。伝統と革新、大企業と零細な事業所、その対比の中でフードビジネスの特殊事情	アサイメント：飲食店を開業しようと思った時に、何が必要か書き出してみして下さい。
第9回 11月30日：世界の食文化と飲食業界	これまで日本を中心にフードビジネスのお話しをしてきましたが、今回から海外に目を向けます。食文化は多様で、フードビジネスの発展の様子もだいぶ違います。すでに紹介した世界でも有名な食品企業はありますが、外食産業の様子は大きく違います。マクドナルドの出店を嫌いファストフード化を否定、スローフード運動を世界に広めたイタリアや、伝統的食文化を守る美食の国フランスなど、固有のフードビジネスを成功させている国のお話しをします。	事前学習：フランスとイタリアの料理を上げて下さい。 アサイメント：今日話に出た外国に関心のある食材、飲食店を上げて下さい。
第10回 12月7日：イタリアのスローフード	1986年に始まったスローフード運動は、イタリアのトリノの郊外ブレに食科学大学を開設し、世界的巨大フードビジネスに対抗しようとしています。スローフードは世界各地に広がり、スローでローカルな食文化を守っています。これは、ガストロノミー観光には魅力です。フードツーリズムも美食だけでなく、スローに健康に美容に、そして環境保全にという展開が起こるからです。有機食材や無農薬の動きも盛んです。イタリアでスローフードがどう広がったかをお話しします。	事前学習：スローフードを知らせて下さい。 アサイメント：オーガニック食品をリストにして下さい。
第11回 12月14日：イタリアのアグリツーリズムとフードビジネス	イタリアにはスローフード以前からアグリツーリズムがあります。農村に行き取れたての食材を楽しむ、農家民宿に泊まる余暇の過ごし方です。農村観光と言われるスタイルで、同時にフードツーリズム、食とワインが人気の秘密です。イタリアの他にもフランスで	事前学習：農村観光をホームページで検索してください。 アサイメント：オーベルジュについて調べて下さい。泊ったことがある人は感想を述べて下さい。

	はグリーンツーリズム、ドイツでは農家民宿、イギリスではB & Bとしてそれぞれ人気のスタイルを持っています。でも日本ではなかなか発達しません。小さいながらローカルな食文化を守る体制の違いを学びます。	
第 12 回 12 月 21 日：フランスのガストロノミーと美酒美食観光	イタリア以上に美食文化の国がフランス、イタリアもエノガストロノミー観光ではフランスから大いに学んでいます。フランスでは、有名なワイン産地にブルゴーニュ、ボルドー、シャンパーニュ地方があり、それぞれの農村景観が世界文化遺産に登録されており、世界から美酒と美食を求める裕福な観光客を集めています。そこには世界有数なワイナリーがあり、LVMH 社系列の世界ブランドのフードビジネス企業が揃っています。このフランス独特のビジネスモデルを学び、フードと観光ビジネスの未来を探ります。	アサイメント：少しワインに詳しくなりましょう。フランスのワイン産地を 5 つ、イタリアの産地を 3 つ挙げて、その特色を述べて下さい。
第 13 回 1 月 11 日：日本のフードツーリズム	もう少し世界をみようと、アメリカのナババレー、スコットランドのウィスキーツアーの話を続けます。この他にも紹介したい国や地域はありますが、日本のフードツーリズムの話に移ります。日本には巨大化したフードビジネスがあるだけでなく、フードツーリズムに取り組む地域があります。京都が輸名ですが、兵庫テロアル、食の創造都市・鶴岡、そして美酒の国新潟などです。和食のユネスコ無形遺産登録を受け、食文化は登録無形文化財にもなりました。各地に地産地消のオーガニックレストランが増えています。小さなフードビジネスの起こし方を学	事前学習：知っているスコッチ・ウィスキーのブランド名を上げて下さい。 アサイメント：日本国内の食文化観光地を上げて下さい。
第 14 回 1 月 18 日：フードビジネスの未来、グローバル化する食文化と観光	こうして、フードビジネスは様々な形に成長してきました。その未来は洋々とし、皆さんが活躍を待っています。一方、食文化はグローバル化し、日本を訪れるインバウンドの最大の楽しみは日本の食文化にあるといえます。実際、今は世界に 20 万店もの日本食店があり、欧米先進国の食品スーパーには普通にお寿司や握り飯が並んでいます。授業を締めくくる前に、未来の食生活と未来のフードビジネス、フードツーリズムを予測するデータをお見せし、一緒に考えていきます。	アサイメント：皆さんが就職したいと思うような企業は見つかりましたか？もしあれば一つ上げて下さい。
第 15 回 1 月 25 日：フードビジネスへの就活、何を用意するか	これまでの授業を振り返り、身につけて欲しい重要なポイントを整理します。フードビジネスは 30 兆円を超える産業、自動車産業の 2 倍、観光産業の 3 倍あります。つまり、求人数もそれだけ多いのです。ただ、自動車産業と違い大手が多いわけではなく、ローカルな零細企業ばかりですが、中にはキッコーマンやサントリーなど世界展開する企業もあり、国際的な人材を求めています。最後に就活に役立つ知識を総ざらいします。	最終回のまとめのレポート課題をお示しします。

1.授業コード (ナンバリング)	TTC301-A52	2.科目名	教育実習Ⅰ (中学・教職3年) 秋・春		3.単位数	5
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分	教職課程科目 教育実践に関する科目	6.必修・ 選択の区分	教職必修	7.開講学期・ 年度	2024年度 秋学期～2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	教職課程を履修し、中学英語1種免許等を希望する学生			9.履修学年	3年生～	
10.取得資格の要件	教職課程登録者		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	教職課程を登録しており、累積GPA2.0を超えている者のみ					
17.授業の目的と概要	【目的】教育実習に必要な最終準備と、実習後の振り返りを行う。 【概要】教育実習に先立って実施する事前指導には、実習に向けての心構え、実習校との連絡事項、手続きに関する事項、教員採用試験への申し込みに関連する事項等についての講義、実習中の業務内容の理解を踏まえ、授業計画の立て方、指導案の書き方、授業の模擬練習の実施等を演習し、その相互評価を含む。本実習期間中は、各実習校の指導教諭の下、実際に教員の職務を体験する。事後指導では、各自の実習の成果を持ち寄り、体験から得たものを相互に報告しあう。					
18.学習目標と DPとの関連	○目標に沿った50分の授業計画を立て、それを実践できる ○教員に必要な服装、話し方ができる ○教育者としての自覚ができる *DPとの関連： (6) 専門的知識・技能の活用力 教職課程や専門科目で学んだ知識を活かして、中学・高校の授業計画を作り、実施することができる					
19.教科書・教材	・山岡大基・田頭憲二(編著)(2023)『英語授業デザインマニュアル』大修館書店(履修者は購入のこと) ・「2021年度生教職の手引き」を使用することがある。					
20.参考文献	1) 中学校・高等学校学習指導要領、総則編および各教科編また、各教科の中学・高校用教科書、教師用指導書等 2) 加藤茂夫・杉山敏・荒木美恵子(著)(2020)『英語科教育実習ハンドブック 第4版』(大修館書店) 3) 教育実習を考える会(編)(2005)『教育実習生のための学習指導案作成教本 英語科』蒼丘書林 授業に関するもの ・小橋雅彦『若い英語教師のための教材研究入門』(2021)大学教育出版 ・笹島茂・宮原万寿子・末森咲・守屋亮(編)(2023)『英語授業をよくする質的研究のすすめ』ひつじ書房 ・白畑					
21.成績評価	・実習校における本実習に対する成績評価・・・50% ・実習ノート・・・10% 毎日の記録が過不足なく記入されているか、 観察授業の記録は、教育者の視点から過不足なく記入されているか 指導案等の資料は記録されているか ・事前段階における模擬授業・・・20% 授業計画2回：計画内容等項目をきちんと書けているか、内容は適切か					

	うち 1 回は模擬授業：計画通りに実行できたか、計画内容、準備等） 他の学生の模擬授業に対する評価シート（評価の観点、態度等） ・事後における報告・・・5% 総計 100%のうち 60%で	
22.コメント	・将来の指導者としての意識を持ち、それにふさわしい言動を心がけましょう。時間厳守、ルールを守ること ・教職カルテを使って振り返り等を実施するので、PC とファイルを指示のあった回には持参すること ・2023 年度秋学期～2024 年度春学期の科目のため、16 回～30 回は 2024 年度の予定です。 ＊実習日程は各自異なりますので、実習校からの実習承諾書で実習の日程と事前打ち合わせの日程を確認しておくこと	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・事前・事後指導の趣旨と位置づけを説明します。 ・実習前後・実習中を通して、守らねばならない項目について確認し、「誓約書」を書き、提出します。 ・各自の実習期間を確認して、模擬授業の順番と日程を決めます。 ・事務的な手続きの最終確認をします。 ・実習先での行動等実習生としての心得について、常識に属する事柄も含めて解説します。 ・法定伝染病（麻疹等）への対策、事前説明会の日程確認と出席、教員採用試験への申し込み、出勤簿への押捺、実習後の挨拶・礼状作成等、様々あります。 ・実習期間中の記録のつけ方、担当する授	ノート PC またはタブレット ★学習指導案・細案の作成（次週提出）120 分
第 2 回	学習指導案と細案の修正 書式や内容を相互に確認し、改善すべき点を確認します。 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。 模擬授業の教員役担当の際は、前日までに該当箇所の教科書コピー・学習指導案・細案・ワークシートをファイルで提出すること	模擬授業の映像をシェアフォルダにアップロードするので、自分の話し方や動きなど、確認すること。 また、同様に過去の先輩の映像も参考に見ておくこと。 ★指導案・細案の修正（60 分）
第 3 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	ノート PC またはタブレット ★模擬授業のための教材選定・教材研究・教材作成（120 分）
第 4 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）

	よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	
第 5～20 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）
第 21 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。 なお、実習期間が早く始まる実習生は、順次実習に出ます。	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）
第 22 回	本実習	
第 23 回	本実習	
第 24 回	本実習	
第 25 回	本実習 なお、早い時期に実習が終わる実習生は、順次、担当教員に終了の報告をし、個別指導を受けることになります。	
第 26 回	プレゼンテーション 事後報告会（1） 相互に実習体験の報告会を実施します。	
第 27 回	プレゼンテーション 事後報告会（2） 相互に実習体験の報告会を実施します。	
第 28 回	プレゼンテーション 事後報告会（3） 相互に実習体験の報告会を実施します。	★教育実習を終えて(レポート)
第 29 回	プレゼンテーション 事後報告会（4） 実習体験の報告会を実施します。 実習後の各種手続き等(実習記録の提出、レポートの提出、礼状の送付等)について確認します。	
第 30 回	総括：実習体験を共有しふりかえりながら、学校や地域などによる差や、様々な教育現場の取り組みを考えます。	★教職カルテ

1.授業コード (ナンバリング)	TTC301-M52	2.科目名	教育実習Ⅰ		3.単位数	5
4.授業担当教員	佐藤広志					
5.授業科目の区分	自由科目 (教職)	6.必修・ 選択の区分	教職必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期～2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 幼稚園一種		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	教職課程の履修登録をする必要がある。 3 年次終了時点の累積 GPA が 2.00 を下回った場合、4 年次の本実習には参加できない。					
17.授業の目的と概要	教育実習は、観察、参加、実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実践を体験的、総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける。					
18.学習目標と DP との関連	(1) 事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。 (1-1)事前指導：教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 (1-2)事後指導：教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。 (2) 観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項：生徒や学習環境に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校の生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 (2-1)生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 (2-2)指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。 (2-3)教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 (2-4)学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。 (3) 学習指導及び学級経営に関する事項：大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。 (3-1)学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。 (3-2)学習指導に必要な基礎的技術（話法、板書、学習形態、授業展開、環境構成等）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。 (3-3)学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。 (3-4)教科指導以外の様々な活動の場面で適切に生徒と関わるすることができる。					
19.教科書・教材	特に指定なし。 自分が実習先で使用する教科書等。					
20.参考文献	中学校・高等学校学習指導要領、総則編および各教科編 また、各教科の中学・高校用教科書、教師用指導書等					
21.成績評価	実習校における本実習に対する成績評価・・・5 5 %					

	実習ノート(事前調査を含む)・・・15% 事前段階における模擬授業(実施分10%、他の実習生に対する評価10%)・・・20% 事後における口頭報告と最終レポート(併せて10%)	
22.コメント		
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
事前1	事前・事後指導の趣旨と位置づけを説明します。 秋学期中に行う、模擬授業の順番と日程を決めます。	模擬授業の準備、教材研究、指導案作成等(1-2h)
事前2	模擬授業のための指導案作成、教材研究のグループワーク 模擬授業の実践を通して、学校の教育活動に参画する意識を高めるます。	
事前3	最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 本来なら、各自がフルサイズ(50分)の授業を1度は体験できるようにしたいのですが、参加人数により調整し、ハーフサイズ(20分程度)とすることがあります。	
	ここまでが秋学期実施分、以下、翌年度春学期実施分	
事前4	実習の心得、各種注意事項の確認。手続き上の論点の解説。 教育実習生として遵守すべき義務等を理解し、実習といえども、生徒の前に立つ限りは教員としてふるまうべき責任があることを自覚する。 各実習校の情報に関する事前調査を宿題とする。学校経営方針及び特色ある教育活動等およびそれらを実施するために敷かれている組織体制等について、各学校や教育委員会が公開しているHP等の情報で外部からわかる範囲のデータを収集し、次回発表する。	学校情報に関する基本調査の収集ととりまとめ(2-4h)
事前5	実習期間中の記録のつけ方を説明する。 実習記録ノートの構造、記録すべき内容、授業観察記録、自分の授業の指導案・板書計画、研究授業の記録等、の書き方について一通り説明する。 調査結果の相互発表。	
本実習	本実習中の課題等 実習ノートの記載事項 1) 生徒との関わり、実態やそれぞれが抱える課題等で気づいたこと 2) 指導教員等が行う授業の観察記録 3) 事前に収集していた実習校の学校経営方針、特色ある教育活動、実施組織体制等の情報に関して、	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	TTC301-Y53	2.科目名	教育実習Ⅰ		3.単位数	5
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	教職課程科目 教育実践に関する科目	6.必修・ 選択の区分	教職必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期～2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科・心理学科の教職課程登録者のみ			9.履修学年	3 年生～	
10.取得資格の要件	教職課程登録者		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	教職課程を登録しており、累積 GPA2.0 を超えている者のみ					
17.授業の目的と概要	【目的】教育実習に必要な最終準備と、実習後の振り返りを行う。 【概要】教育実習に先立って実施する事前指導には、実習に向けての心構え、実習校との連絡事項、手続きに関する事項、教員採用試験への申し込みに関連する事項等についての講義、実習中の業務内容の理解を踏まえ、授業計画の立て方、指導案の書き方、授業の模擬練習の実施等を演習し、その相互評価を含む。本実習期間中は、各実習校の指導教諭の下、実際に教員の職務を体験する。事後指導では、各自の実習の成果を持ち寄り、体験から得たものを相互に報告しあう。					
18.学習目標と DPとの関連	○目標に沿った 50 分の授業計画を立て、それを実践できる ○教員に必要な服装、話し方ができる ○教育者としての自覚ができる * DP との関連： （6）専門的知識・技能の活用力 教職課程や専門科目で学んだ知識を活かして、中学・高校の授業計画を作り、実施することができる					
19.教科書・教材	「2021 年度生教職の手引き」を使用することがある。					
20.参考文献	中学校・高等学校学習指導要領、総則編および各教科編 また、各教科の中学・高校用教科書、教師用指導書等					
21.成績評価	・実習校における本実習に対する成績評価・・・50% ・実習ノート・・・10% 毎日の記録が過不足なく記入されているか、 観察授業の記録は、教育者の視点から過不足なく記入されているか 指導案等の資料は記録されているか ・事前段階における模擬授業・・・20% 授業計画 2 回：計画内容等項目をきちんと書けているか、内容は適切か うち 1 回は模擬授業：計画通りに実行できたか、計画内容、準備等) 他の学生の模擬授業に対する評価シート（評価の観点、態度等) ・事後における報告・・・5% 総計 100%のうち 60%で					
22.コメント	・将来の指導者としての意識を持ち、それにふさわしい言動を心がけましょう。時間厳守、ルールを守ること ・教職カルテを使って振り返り等を実施するので、PC とファイルを指示のあった回には持参すること ・2023 年度秋学期～2024 年度春学期の科目のため、16 回～30 回は 2024 年度の予定です。 * 実習日程は各自異なりますので、実習校からの実習承諾書で実習の日程と事前打ち合わせの					

	日程を確認しておくこと	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・事前・事後指導の趣旨と位置づけを説明します。 ・実習前後・実習中を通して、守らねばならない項目について確認し、「誓約書」を書き、提出します。 ・各自の実習期間を確認して、模擬授業の順番と日程を決めます。 ・事務的な手続きの最終確認をします。 ・実習先での行動等実習生としての心得について、常識に属する事柄も含めて解説します。 ・法定伝染病（麻疹等）への対策、事前説明会の日程確認と出席、教員採用試験への申し込み、出勤簿への押捺、実習後の挨拶・礼状作成等、様々あります。 ・実習期間中の記録のつけ方、担当する授	ノート PC またはタブレット ★学習指導案・細案の作成（次週提出）120 分
第 2 回	学習指導案と細案の修正 書式や内容を相互に確認し、改善すべき点を確認します。 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。 模擬授業の教員役担当の際は、前日までに該当箇所の教科書コピー・学習指導案・細案・ワークシートをファイルで提出すること	模擬授業の映像を katayama のシェアフォルダにアップロードするので、自分の話し方や動きなど、確認すること。 また、同様に過去の先輩の映像も参考に見ておくこと。 ★指導案・細案の修正（60 分）
第 3 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	ノート PC またはタブレット ★模擬授業のための教材選定・教材研究・教材作成（120 分）
第 4 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）
第 5~20 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）
第 21 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）

	役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。 なお、実習期間が早く始まる実習生は、順次実習に出 ます。	
第 22 回	本実習	
第 23 回	本実習	
第 24 回	本実習	
第 25 回	本実習 なお、早い時期に実習が終わる実習生は、順次、担当 教員に終了の報告をし、個別指導を受けることになり ます。	
第 26 回	プレゼンテーション 事後報告会（1） 相互に実習体験の報告会を実施します。	
第 27 回	プレゼンテーション 事後報告会（2） 相互に実習体験の報告会を実施します。	
第 28 回	プレゼンテーション 事後報告会（3） 相互に実習体験の報告会を実施します。	★教育実習を終えて(レポート)
第 29 回	プレゼンテーション 事後報告会（4） 実習体験の報告会を実施します。 実習後の各種手続き等(実習記録の提出、レポートの提 出、礼状の送付等) について確認します。	
第 30 回	総括：実習体験を共有しふりかえりながら、学校や地 域などによる差や、様々な教育現場の取り組みを考え ます。	★教職カルテ

1.授業コード (ナンバリング)	TTC302-M52	2.科目名	教育実習Ⅱ		3.単位数	3
4.授業担当教員	佐藤広志					
5.授業科目の区分	自由科目 (教職)	6.必修・ 選択の区分	教職必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期～2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	中高教職			9.履修学年	3 年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 小学校一種中学(英語) 中学(社会) 幼稚園一種		11.先修条件	なし		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	実習		
16.履修制限	教職課程の履修登録をする必要がある。 3 年次終了時点の累積 GPA が 2.00 を下回った場合、4 年次の本実習には参加できない。					
17.授業の目的と概要	教育実習は、観察、参加、実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実践を体験的、総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける。					
18.学習目標と DP との関連	(1) 事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。 (1-1)事前指導：教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 (1-2)事後指導：教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。 (2) 観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項：生徒や学習環境に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校の生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 (2-1)生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 (2-2)指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。 (2-3)教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 (2-4)学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。 (3) 学習指導及び学級経営に関する事項：大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。 (3-1)学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。 (3-2)学習指導に必要な基礎的技術（話法、板書、学習形態、授業展開、環境構成等）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。 (3-3)学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。 (3-4)教科指導以外の様々な活動の場面で適切に生徒と関わるすることができる。					
19.教科書・教材	特に指定なし。 自分が実習先で使用する教科書等。					
20.参考文献	中学校・高等学校学習指導要領、総則編および各教科編 また、各教科の中学・高校用教科書、教師用指導書等					
21.成績評価	実習校における本実習に対する成績評価・・・55%					

	実習ノート(事前調査を含む)・・・15% 事前段階における模擬授業(実施分10%、他の実習生に対する評価10%)・・・20% 事後における口頭報告と最終レポート(併せて10%)	
22.コメント		
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
事前1	事前・事後指導の趣旨と位置づけを説明します。 秋学期中に行う、模擬授業の順番と日程を決めます。	模擬授業の準備、教材研究、指導案作成等(1-2h)
事前2	模擬授業のための指導案作成、教材研究のグループワーク 模擬授業の実践を通して、学校の教育活動に参画する意識を高めるます。	
事前3	最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 本来なら、各自がフルサイズ(50分)の授業を1度は体験できるようにしたいのですが、参加人数により調整し、ハーフサイズ(20分程度)とすることがあります。	
	ここまでが秋学期実施分、以下、翌年度春学期実施分	
事前4	実習の心得、各種注意事項の確認。手続き上の論点の解説。 教育実習生として遵守すべき義務等を理解し、実習といえども、生徒の前に立つ限りは教員としてふるまうべき責任があることを自覚する。 各実習校の情報に関する事前調査を宿題とする。学校経営方針及び特色ある教育活動等およびそれらを実施するために敷かれている組織体制等について、各学校や教育委員会が公開しているHP等の情報で外部からわかる範囲のデータを収集し、次回発表する。	学校情報に関する基本調査の収集ととりまとめ(2-4h)
事前5	実習期間中の記録のつけ方を説明する。 実習記録ノートの構造、記録すべき内容、授業観察記録、自分の授業の指導案・板書計画、研究授業の記録等、の書き方について一通り説明する。 調査結果の相互発表。	
本実習	本実習中の課題等 実習ノートの記載事項 1) 生徒との関わり、実態やそれぞれが抱える課題等で気づいたこと 2) 指導教員等が行う授業の観察記録 3) 事前に収集していた実習校の学校経営方針、特色ある教育活動、実施組織体制等の情報に関して、	

[illegible]

1.授業コード (ナンバリング)	TTC302-Y53	2.科目名	教育実習Ⅱ		3.単位数	3
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	教職課程科目 教育実践に関する科目	6.必修・ 選択の区分	教職必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期～2025 年度 春学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科・心理学科の教職課程登録者のみ			9.履修学年	3 年生～	
10.取得資格の要件	教職課程登録者		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	教職課程を登録しており、累積 GPA2.0 を超えている者のみ					
17.授業の目的と概要	【目的】教育実習に必要な最終準備と、実習後の振り返りを行う。 【概要】教育実習に先立って実施する事前指導には、実習に向けての心構え、実習校との連絡事項、手続きに関する事項、教員採用試験への申し込みに関連する事項等についての講義、実習中の業務内容の理解を踏まえ、授業計画の立て方、指導案の書き方、授業の模擬練習の実施等を演習し、その相互評価を含む。本実習期間中は、各実習校の指導教諭の下、実際に教員の職務を体験する。事後指導では、各自の実習の成果を持ち寄り、体験から得たものを相互に報告しあう。					
18.学習目標と DP との関連	○目標に沿った 50 分の授業計画を立て、それを実践できる ○教員に必要な服装、話し方ができる ○教育者としての自覚ができる * DP との関連： (6) 専門的知識・技能の活用力 教職課程や専門科目で学んだ知識を活かして、中学・高校の授業計画を作り、実施することができる					
19.教科書・教材	「2021 年度生教職の手引き」を使用することがある。					
20.参考文献	中学校・高等学校学習指導要領、総則編および各教科編 また、各教科の中学・高校用教科書、教師用指導書等					
21.成績評価	・実習校における本実習に対する成績評価・・・50% ・実習ノート・・・10% 毎日の記録が過不足なく記入されているか、 観察授業の記録は、教育者の視点から過不足なく記入されているか 指導案等の資料は記録されているか ・事前段階における模擬授業・・・20% 授業計画 2 回：計画内容等項目をきちんと書けているか、内容は適切か うち 1 回は模擬授業：計画通りに実行できたか、計画内容、準備等) 他の学生の模擬授業に対する評価シート（評価の観点、態度等) ・事後における報告・・・5% 総計 100%のうち 60%で					
22.コメント	・将来の指導者としての意識を持ち、それにふさわしい言動を心がけましょう。時間厳守、ルールを守ること ・教職カルテを使って振り返り等を実施するので、PC とファイルを指示のあった回には持参すること ・2023 年度秋学期～2024 年度春学期の科目のため、16 回～30 回は 2024 年度の予定です。 * 実習日程は各自異なりますので、実習校からの実習承諾書で実習の日程と事前打ち合わせの					

	日程を確認しておくこと	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
第 1 回	・事前・事後指導の趣旨と位置づけを説明します。 ・実習前後・実習中を通して、守らねばならない項目について確認し、「誓約書」を書き、提出します。 ・各自の実習期間を確認して、模擬授業の順番と日程を決めます。 ・事務的な手続きの最終確認をします。 ・実習先での行動等実習生としての心得について、常識に属する事柄も含めて解説します。 ・法定伝染病（麻疹等）への対策、事前説明会の日程確認と出席、教員採用試験への申し込み、出勤簿への押捺、実習後の挨拶・礼状作成等、様々あります。 ・実習期間中の記録のつけ方、担当する授	ノート PC またはタブレット ★学習指導案・細案の作成（次週提出）120 分
第 2 回	学習指導案と細案の修正 書式や内容を相互に確認し、改善すべき点を確認します。 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。 模擬授業の教員役担当の際は、前日までに該当箇所の教科書コピー・学習指導案・細案・ワークシートをファイルで提出すること	模擬授業の映像を katayama のシェアフォルダにアップロードするので、自分の話し方や動きなど、確認すること。 また、同様に過去の先輩の映像も参考に見ておくこと。 ★指導案・細案の修正（60 分）
第 3 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	ノート PC またはタブレット ★模擬授業のための教材選定・教材研究・教材作成（120 分）
第 4 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）
第 5~20 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）
第 21 回	ロールプレイ & 討論 模擬授業と相互評価 最初に決めた順番に従って、模擬授業を実施し、生徒	担当回の模擬授業のための教材選定・研究・作成（180 分）および学習指導案・細案作成（120 分）

	役をつとめた実習生との間で相互評価を実施します。 よりよい授業をできるよう、意見交換をします。 なお、実習期間が早く始まる実習生は、順次実習に出 ます。	
第 22 回	本実習	
第 23 回	本実習	
第 24 回	本実習	
第 25 回	本実習 なお、早い時期に実習が終わる実習生は、順次、担当 教員に終了の報告をし、個別指導を受けることになり ます。	
第 26 回	プレゼンテーション 事後報告会（1） 相互に実習体験の報告会を実施します。	
第 27 回	プレゼンテーション 事後報告会（2） 相互に実習体験の報告会を実施します。	
第 28 回	プレゼンテーション 事後報告会（3） 相互に実習体験の報告会を実施します。	★教育実習を終えて(レポート)
第 29 回	プレゼンテーション 事後報告会（4） 実習体験の報告会を実施します。 実習後の各種手続き等(実習記録の提出、レポートの提 出、礼状の送付等) について確認します。	
第 30 回	総括：実習体験を共有しふりかえりながら、学校や地 域などによる差や、様々な教育現場の取り組みを考え ます。	★教職カルテ

1.授業コード (ナンバリング)	TTC401-A51	2.科目名	教職実践演習（中・高）		3.単位数	2
4.授業担当教員	三好徹明					
5.授業科目の区分	教職課程 教育実践に関する科目	6.必修・ 選択の区分	教職必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	教育福祉学科・経営学科（尼崎 C）の教職課程登録者			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	中英語（教育福祉学科）、中学社会・高校公民（経営学科）		11.先修条件	教育実習を終えた、または履修中の学生		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	中学校または高校で教育実習を終えた・または年度内に実習が終わる予定の教職課程登録者に限る					
17.授業の目的と概要	【目的】教職実践演習は、教職課程に組み込まれている他の授業科目や教職課程外での様々な活動を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認するもので、いわば4年間を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられています。この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待されています。 【概要】 次のような項目について、様々な方法で学びます。 ○学習指導について、模擬授業（マイクロティーチング）、ロールプレイ、授業参観、学習指導案、教材研究等により授業力を高めます。 ○学級経営・生徒理解のために、現職教員の講話、実践事例研究、討論等により理解力・指導力を高めます。 ○学校の服務、校務分掌などの実際について知り、社会性を身に付けます。 ○教員としての社会的な使命・責任・役割を理解し、自覚を促します。					
18.学習目標と DPとの関連	【学習目標】 （１）教材研究の方法を理解し、授業のスキルを磨く （２）学校を取り巻く様々な問題などについて理解する （３）学校の服務、校務分掌などを知る （４）教員としての社会的な使命・責任・役割を理解する （５）教員として自分に不足していることを自覚し、どう伸ばすか、補うか、考える 【DPとの関連】 上記の学習目標は下記のDPとの関連があります。 *DP(6) これまで学んだ教職や専門の知識を統合し、教育実習での経験を踏まえて、将来の教員としての準備に活かします。					
19.教科書・教材	西岡加名恵・石井英真・川地亜弥子・北原琢也（2013）『教職実践演習ワークブッカーポートフォリオで教師力アップー』ミネルヴァ書房					
20.参考文献	・池田修（2013）『新版 教師になるということ』学陽書房 ・山崎準二・紅林伸幸（編著）（2023）『専門職として成長し続ける教師になるために（教職概説）』人言洞 ・該当免許種の学習指導要領、学習指導要領解説 ・その他、関連サイトの URL や関連論文の文献情報は授業中に適宜紹介します。					
21.成績評価	・発表 20%					

	・課題レポート 40% ・教職の意義と使命・責任感について、生徒理解についての評価 20% ・教育実習、模擬授業（マイクロティーチング）の分析と考察 20% ※教職カルテを WecClass に入力し、授業最終回に最終版を提出すること 総計 100%のうち 60%以上が合格です。	
22.コメント	卒業後、教壇に立つ者として、適切な言動を求めます。授業の中では、発表や討論もしますので、積極的な参加を期待します。 ※教職カルテを WecClass に入力し、授業最終回に最終版を提出すること	
23.オフィスアワー	研究室オフィスアワー：月曜日昼休み	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第 1 回】	イントロダクション ・4 年間の学修の振り返り ・履修カルテの確認 ・教育実習の分析と考察 【教科書 p.2~P.5】 ・大学における教員養成の意味とは ・教職実践演習とは	◆ノート PC またはタブレット
【第 2 回】	教師に求められる専門的力量とは（1） 学校現場で求められる教師像—教員の役割と責務 教育実習の総括と分析 【教科書 p.6~P.9】 ・専門職としての教師 ・教師に求められる力量の五つの柱 ・教職の高度化・専門職化のビジョン	○【課題 1-1】各自治体の教育理念等について調べ、まとめる（90 分）
【第 3 回】	教師に求められる専門的力量とは（2） ・教員の服務 ・職務上の服務 ・学校の服務、校務分掌 ・各地方自治体が求める教師像 【課題 1-1】 の提出	○【課題 1-2】前回と異なる自治体の教育理念等について調べ、まとめる（90 分）
【第 4 回】	教師に求められる専門的力量とは（3） 具体的な教師像として、それに到達するための方策を検討する 【教科書 p.26~P.27】 ・教職に求められる教養 【教科書 p.14~P.15】 ・ポートフォリオとは何か—履修カルテとのちがいは 【課題 1-2】 の提出	○【課題 2】求められる教育をどう実現するのか、個人としての考えを論述する（90 分）
【第 5 回】	学校の組織内の人間関係や地域社会の関係者などのかかりについて 【課題 2】 の提出	○【課題 3-1】該当する教育ニュース等調べ、まとめる（60 分）
【第 6 回】	保護者との信頼関係構築 【教科書 p.56~P.57】 ・保護者への対応について考えよう 【課題 3-1】 の提出	○【課題 3-2】該当する教育ニュース等調べ、まとめる（60 分）

【第 7 回】	講話(体験談) * スケジュールは変更になることもあります。 【課題 3-2】の提出	○【課題 4】講話のまとめ (30 分)
【第 8 回】	生徒理解と学級経営の理論 【教科書 p.100~P.113】 ・ 児童・生徒理解に基づいて観察記録を書いてみよう ・ 学級経営のさまざまな手法を学ぼう 【課題 4】の提出	
【第 9 回】	学級経営案の作成と検討 (グループ討論) 【教科書 p.34~P.35】 ・ 学級経営案を書こう	○【課題 5】討論の要約と自分の考察を文章化する (60 分)
【第 10 回】	学級経営上のさまざまな教育的対応 【教科書 p.36~P.39】 ・ 特別支援教育についての理解を深めよう ・ 不登校への対応について考えよう 【教科書 p.48~P.55】 ・ いじめへの対応について考えよう ・ 教師に対する反抗的態度への対応について考えよう 【その他】 ・ 他国籍児童への対応について考えよう ・ ICT リテラシー育成について 【課題 5】の提出	
【第 11 回】	教科等の授業づくりの力量 (1) ・ 知識・技能を確かめる問題や課題をデザインする ・ パフォーマンス課題をデザインする 教材研究 教材作成 (学習プリント、ワークシートづくりなど) 模擬授業 (マイクロティーチング) 【教科書 p.68~p.69】 ・ 児童・生徒のつまづきを研究しよう 【教科書 p.70~p.73】 ・ 単元の教材研究をしよう 【教科書 p.82~p.85】 ・ 知識・技能を確かめる問題や課題をデザインする ・ パフォーマンス課題をデザインする	○授業準備 (90 分)
【第 12 回】	教科等の授業づくりの力量 (2) ・ 参加型の授業をデザインする 教材研究 教材作成 (学習プリント、ワークシートづくりなど) ★教育実習で使用した教科書を持参すること。 模擬授業 (マイクロティーチング) 【教科書 p.92~p.93】 ・ 参加型の授業を考案しよう <参考>	○授業準備 (90 分)

	【教科書 p.66～p.67】 ・教科書の比較研究をしてみよう 【教科書 p.74～p.75】 ・小中高の系統性を考えよう	
【第 13 回】	教師に求められる教科指導能力とは 【教科書 p.60～p.65】 ・教科内容に関する知識・技能 ・自分の実践の教育目標を明確に記述してみよう	○【課題 6】自分の免許種の科目について、どう能力を伸ばしていくのか、目標と具体的な計画を考える（60 分）
【第 14 回】	自己研鑽、研修について 【教科書 p.100～P.113】 ・課題研究力 ・実践記録を読もう ・現代社会における教育のあり方について考えよう ・授業研究をしてみよう 【教科書 p.10～P.11】 ・教師の力量形成とライフコース	
【第 15 回】	求められる教師の資質能力について 振り返り：「教職実践演習から学びえたこと」 【課題 6】の提出	

1.授業コード (ナンバリング)	TTC401-M51	2.科目名	教職実践演習（中・高）		3.単位数	2
4.授業担当教員	梶正義					
5.授業科目の区分	中高教職	6.必修・ 選択の区分	教職必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	人間心理学科・経営学科の4年次生で、教育実習を終えた、または履修中の者			9.履修学年	4年～	
10.取得資格の要件	高校(英語) 高校(公民) 高校(福祉) 中学(英語) 中学(社会)		11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	教職実践演習は、教職課程に組み込まれている他の授業科目や教職課程外での様々な活動を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認するもので、いわば4年間を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられている。この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待されている。					
18.学習目標と DPとの関連	■本授業の学修目標 教師としての使命感や責任感を身につけ、生徒に対する教育的愛情をもつことができる。 最低限の社会性や対人関係能力を身につけ、実際の場面で発揮することができる。 生徒理解や学級経営等、これまで学んできたことを実際の場面で生かすことができる。 教科内容等の指導力について、自分の強みと弱みを分析し、さらなる自己研修の方向性を示すことができる。 上記の目標を達成することで教員として必要とされる専門的知識・技能を身につけて学校現場で活用することができる。					
19.教科書・教材	特になく、必要に応じて資料等を配布する。					
20.参考文献	中学校・高等学校学習指導要領、総則編および各教科編 また、各教科の中学・高校用教科書、教師用指導書等					
21.成績評価	グループ討論・・・30％ ロールプレイング貢献度・・・20％ 模擬授業・・・20％ 最終レポート・・・30％					
22.コメント	教育実習で得たものを確認し、将来教職に就く時の糧としてください。					
23.オフィスアワー	火曜日、水曜日昼休み（メールで確認）					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
第1回	科目概要の説明、進め方の確認、「履修カルテ」を用いた振り返り（自己分析）と教職に向けた課題の確認			教育実習の振り返りを実習ノート及び記録から行う。		
第2回	グループ討論：「あらためて教育実習を振り返る」 実際の教育現場で起きている現代的課題、自分自身が教職者として成長するために必要な要件など、自分たちの実習経験を素材にあぶりだす。			教職実践チェック表により自分自身の実践力の現状を理解し、本講義での重点課題を設定する。		
第3回	グループ討論：ロールプレイング課題の設定			個々の役割やシナリオを決定し、実際にロー		

	前回の討論を踏まえて、現在現場で起きている諸問題について、ロールプレイングを行うとしたら、どのようなテーマが喫緊の課題となるか、どんな役割がありうるかを話し合う。	ルプレイを行うための準備をする。 想定される事例：いじめの発見と解決、体罰の境界判断、保護者とのコミュニケーション等々
第 4 回	設定した課題に関する事例研究 1 ロールプレイングのシナリオ設定に必要な情報を自身の体験以外に広く求めるために資料収集による事例研究を行い、成果を発表する。グループごとに担当するテーマを決め、順番に発表し、相互に比較検討するための討論を行う。	○事例研究用の資料を収集してまとめる。
第 5 回	設定した課題に関する事例研究 2 同上	○事例研究用の資料を収集してまとめる。
第 6 回	三木市教育委員会、三木市内学校長等の講演(予定：時期の変更あり)	○質問内容を用意する。
第 7 回	ロールプレイング実践 1 一定のシナリオに沿ったロールプレイを実際に行ってみて、問題の再現性などを検討する。	○ロールプレイの内容を考える
第 8 回	ロールプレイング実践 2 同上	○同上
第 9 回	ロールプレイング実践 3 同上	○同上
第 1 0 回	教科指導力の再点検：教材研究の深化と模擬授業 1 実習の成果を踏まえて、教科に対する認識をさらに深め、身に付けた教授技術の再点検を行うための模擬授業を行う。実習では十分に展開できなかった教育方法なども積極的に 試行する。	○模擬授業の準備をする。
第 1 1 回	教科指導力の再点検：教材研究の深化と模擬授業 2 同上	○同上
第 1 2 回	教科指導力の再点検：教材研究の深化と模擬授業 3 同上	○同上
第 1 3 回	学級経営・生徒指導・進路指導に関するグループ討論 これまでに行った討論やロールプレイングで取り扱えなかった論点について再提示し、あらためてグループ討論、追加の事例研究などを行う。	○グループ討論、事例研究の資料を用意する。
第 1 4 回	教科外活動、学校行事、クラブ活動等に関するグループ討論 同上	○グループ討論の資料を用意する。

第 1 5 回	最終まとめ：教師の資質能力と自身の到達点の確認 教職者としての自分の到達位置を確認するためのレ ポートの執筆	○レポートの作成と提出

1.授業コード (ナンバリング)	TTC401-Y51	2.科目名	教職実践演習（中・高）		3.単位数	2
4.授業担当教員	片山真理					
5.授業科目の区分	教職課程 教育実践に関する科目	6.必修・ 選択の区分	教職必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション学科・心理学科の教職課程登録者			9.履修学年	4 年生	
10.取得資格の要件	中高英語（英コミ学科）、中学社会・高校公民（心理学科）		11.先修条件	教育実習を終えた、または履修中の学生		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習		
16.履修制限	中学校または高校で教育実習を終えた・または年度内に実習が終わる予定の教職課程登録者に限る					
17.授業の目的と概要	【目的】教職実践演習は、教職課程に組み込まれている他の授業科目や教職課程外での様々な活動を通じて身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終的に確認するもので、いわば4年間を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられています。この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待されています。 【概要】 次のような項目について、様々な方法で学びます。 ○学習指導について、模擬授業、ロールプレイ、授業参観、学習指導案、教材研究等により授業力を高めます。 ○学級経営・生徒理解のために、現職教員の講話、実践事例研究、討論等により理解力・指導力を高めます。 ○学校の服務、校務分掌などの実際について知り、社会性を身に付けます。 ○教員としての社会的な使命・責任・役割を理解し、自覚を促します。					
18.学習目標と DPとの関連	○教材研究の方法を理解し、授業のスキルを磨く ○学校を取り巻く様々な問題などについて理解する ○学校の服務、校務分掌などを知る ○教員としての社会的な使命・責任・役割を理解する ○教員として自分に不足していることを自覚し、どう伸ばすか、補うか、考える *DP(6) これまで学んだ教職や専門の知識を統合し、教育実習での経験を踏まえて、将来の教員としての準備に活かします。					
19.教科書・教材						
20.参考文献	該当免許種の学習指導要領、学習指導要領解説					
21.成績評価	発表 20% 課題レポート 40% 教職の意義と使命・責任感について、生徒理解についての評価 20% 教育実習の分析と考察 20% *教職カルテの最終版を、授業最終回にファイルで提出すること 総計 100%のうち 60%以上が合格です。					

22.コメント	卒業後、教壇に立つ者として、適切な言動を求めます。授業の中では、発表や討論もしますので、積極的な参加を期待します。	
23.オフィスアワー		
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
【第1回】	イントロダクション 4年間の学修の振り返り	◆ノート PC またはタブレット
【第2回】	教師に求められる資質(1) 学校現場で求められる教師像―教員の役割と責務 教育実習の総括と分析	○各自治体の教育理念等について調べ、まとめる(90分)
【第3回】	教師に求められる資質(2) 各地方自治体が求める教師像	○前回と異なる自治体の教育理念等について調べ、まとめる(90分)
【第4回】	教師に求められる資質(3) 具体的な教師像として、それに到達するための方策を検討する	○求められる教育をどう実現するのか、個人としての考えを論述する(90分)
【第5回】	学校の組織内の人間関係や、保護者、地域社会の関係者などのかかわりについて	○該当する教育ニュース等調べ、まとめる(60分)
【第6回】	教育問題とクレイマーペアレンツに対する対処法	○該当する教育ニュース等調べ、まとめる(60分)
【第7回】	講話(現職教員の体験談) *スケジュールは変更になることもあります。 三木との共同開催のため、11/27(月)5限にZoom利用で実施します。 URLは、WenClassにて後日連絡します。	○講話のまとめ(30分)
【第8回】	学級経営の理論と生徒理解	
【第9回】	学級経営案の作成(グループ討論)	○討論の要約と自分の考察を文章化する(60分)
【第10回】	学級経営上の問題点	
【第11回】	教材研究、教材作成(学習プリント、ワークシートづくりなど)と模擬授業	○授業準備(90分)
【第12回】	教材研究、教材作成(学習プリント、ワークシートづくりなど)と模擬授業	○授業準備(90分)
【第13回】	教師に求められる教科指導能力とは	○自分の免許種の科目について、どう能力を伸ばしていくのか、目標と具体的な計画を考える(60分)
【第14回】	自己研鑽、研修について	
【第15回】	求められる教師の資質能力について 「教職実践演習から学べたこと」	

1.授業コード (ナンバリング)	WRT114-Y51	2.科目名	ライティング2 L2 (1/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	有本純					
5.授業科目の区分	基礎	6.必修・ 選択の区分	必修	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	グローバルコミュニケーション学科			9.履修学年	1 年 L2	
10.取得資格の要件	高校教諭1種(英語) 中学教諭1種(英語)		11.先修条件	・受講レベル、トラックについては、受講クラス指定表に従うこと。 ・該当学年以外の者で受講が必要な場合は、英語コーディネイター (Aliponga 先生または伊藤先生) の許可を得ること。		
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	lecture, pair work		
16.履修制限	クラス指定あり L 3					
17.授業の目的と概要	目的: Students learn the structure of a paragraph and its important elements, and then start writing various types of paragraphs, such as descriptions, explanations, and statements. These writing tasks will develop their academic essay writing. 概要: Students learn the basics of writing, and write paragraphs with corrections. 1. Using the Basics for writing and structure of a paragraph 2. Writing descriptive paragraphs 3. Writing explanatory paragraphs 4. Writing statement paragraphs 5. Revising your draft by peer & instructor's evaluation					
18.学習目標と DPとの関連	学習目標 1. Students can write various types of paragraphs and revise them with both peer and instructor review and correction. 2. Students can acquire skills of critical thinking and express their opinions through writing. DP (4) Find & Solve Problems (問題発見・解決力) & (5) Communication Skill (コミュニケーション・スキル)					
19.教科書・教材	教科書は使用しないが、Web Class で教材を配布するので、確実にダウンロードすること。					
20.参考文献	Related materials will be given on the Web Class Always need an English dictionary 文法チェック用に grammarly (無料アプリ) を PC にインストールしておいてください。					
21.成績評価	1) Homework (13 回): 3 点×4 回+ 4 点×3 回+5 点×4 回 = 44 点 学習目標 1・2 に対応 2) Essay (6 回): ①7 点+②③9 点×2 回+④⑤10 点×2 +⑥11 点 = 56 点 学習目標 1・2 に対応 * 合格基準: 宿題は 8 回以上提出、Essay は④⑤⑥を含み 4 回以上提出					
22.コメント	1) 提出物 (HWK & Essay) は Web Class に提出 2) 提出物の相互評価は提出者のみで行うので、未提出者は相互評価に参加できない (=成績は付かない) 3) Web Class 締切後の提出は、原則として受け取りません。 4) 宿題を積み重ねて Essay を完成させます。宿題の内容は Web Class で確認してください。 5) 毎回、英語辞書を持参する (スマホや Web 辞書は使用禁止)。辞書なしでの受講は認めな					

	い。 6) 担当者への連絡は、WebClass のメッセージを使用すること。それ以外のメー	
23.オフィスアワー	なし	
24.授業回数	25.授業内容	26.アサインメント(宿題など)
1. 2.	1. Introduction (syllabus, course objectives), 教材ファイル第 1 回 2. 教材ファイル第 2 ・ 3 回	1. HWK 1 2. HWK 2
3. 4.	3. 教材ファイル第 4 ・ 5 回 4. 教材ファイル第 6 ・ 7 回, 資料説明	3. HWK 3 4. 予習 テーマ準備
5. 6.	5. Procedure / Process (structure, useful expressions), Writing a draft 1 6. Peer evaluation (pair work), Revising (draft 2), 教材ファイル第 8 回	5. HWK 4 6. HWK 5
7. 8.	7. Peer evaluation (pair work), Revising (draft 3), Graph Description: structure 8. Peer evaluation for Essay 1 (pair work), Graph Description (useful expressions, find a topic & a graph)	7. Essay 1
9. 10.	9. Writing a draft 1, 資料説明 10. Peer evaluation (pair work), Revising (draft 2)	9. HWK 6: Draft 2 10. HWK 7: Draft 3
11. 12.	11. Peer evaluation (pair work), Revising (draft 3) 12. Peer evaluation for Essay 2 (pair work), 資料説明	11. Essay 2
13. 14.	13. Classification: Structure, Expressions, Finding a topic 14. Draft 1 (pair work), Revising	13. 予習 テーマ準備 14. HWK 8: Draft 2
15. 16.	15. Peer evaluation (pair work), Revising (draft 2) 16. Revising (draft 3)	15. Essay 3
17. 18.	17. Peer evaluation for Essay 3 (pair work), Comparison / Contrast: Structure 18. Useful Expressions, finding a topic, 資料説明	17. 予習 テーマ準備
19. 20.	19. Peer evaluation (pair work), Writing (draft 1) 20. Peer evaluation (pair work), Revising (draft 2)	19. HWK 9: Draft 2
21. 22.	21. Revising (draft 3) 22. Peer evaluation for Essay 4 (pair work), 資料説明 (Opinion & Reasons: structure, useful expressions, Finding a topic)	20. HWK 10: Draft 3 21. Essay 4 & 予習 テーマ準備
23. 24.	23. Writing a draft 1 24. Peer evaluation (pair work), Revising (draft 2)	23. HWK 11: Draft 2 24. HWK 12: Draft 3
25. 26.	25. Peer evaluation (pair work), Revising (draft 3) 26. Peer evaluation for Essay 5 (pair work), 資料説明	25. Essay 5 26. 予習 Ch.14
27. 28.	27. Problem & Solutions: structure, useful expressions, Finding a topic 28. Writing a Draft 2	27. Draft 1 28. HWK 13: Draft 2
29. 30.	29. Peer evaluation (pair work), Revising (draft 3) 30. Peer evaluation for Essay 6 (pair work), Reflection	29. Essay 6

1.授業コード (ナンバリング)	WRT114-Y52	2.科目名	ライティング2 L2 (2/2)		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本由紀子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件				11.先修条件		
12.研究室	※※※			13.電話番号	※※※	
14.E-Mail Address	※※※			15.授業形態	演習 & 講義	
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	At the end of the semester, L2 students are expected to accomplish good short essays giving different points of view, linking ideas and using accurate and appropriate language about traditional Japan, local and international social issues.					
18.学習目標と DPとの関連	1. Describe a scene or picture accurately using appropriate vocabulary 2. Write a story accurately linking ideas and using appropriate vocabulary 3 Write a short essay giving different points of view, linking ideas and using accurate and appropriate language					
19.教科書・教材	Skills for Better Writing <Basic> 構造で書く英文エッセイ <初級編> 石谷 由美子 著 南雲堂					
20.参考文献	to be announced in class					
21.成績評価	・ Quiz & Mid-term test 40% ・ Final Test 20% ・ assignment & task 40%					
22.コメント	Bring your computer and the textbook.					
23.オフィスアワー	月・木の授業の前後で教室や講師控室で対応す					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Course orientation, Describing a scene or picture accurately using appropriate vocabulary			Worksheet on describing a scene or picture		
Week 2	Part I 第1のパターン：意見サポート型 1 Conclusion / Reasons 理由で押し切る！ A. Are schools necessary? B. Should university entrance examinations be kept?			語彙の予習（各 45 分） 表現の復習（45 分）		
Week 3	2 Social Trend 社会現象を説明する A. Aging society, aging drivers B. The number of books is declining			語彙の予習（各 45 分） 表現の復習（45 分）		
Week 4	3 Result / Cause 原因を究明する A. Adults in Japan become younger B. Why is English the world language now?			語彙の予習（各 45 分） 表現の復習（45 分）		
Week 5	Part II 第2のパターン：パラグラフ並列型 4 Several Explanations いくつかの説明 A. Why did the dinosaurs die out? B. Nazca Lines			語彙の予習（各 45 分） 表現の復習（45 分）		
Week 6	5 Comparison 比較してみよう！ A. Oxford and Cambridge			語彙の予習（各 45 分） 表現の復習（45 分）		

	B. Tokyo University and Kyoto University	
Week 7	6 For and Against 賛成と反対 A. Should Japan accept September admission? B. Should we accept English as an official language?	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
Week 8	7 Classification きちんと分類 A. TV dramas B. TV programs	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
Week 9	Part III 第 3 のパターン：直線フロー型 8 History 歴史を知ろう！ A. Uchimura Kohei B. Ichiro	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
Week 10	9 Process 過程を説明 A. How to make "sukiyaki" B. How to make Japanese curry rice	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
Week 11	10 Cause and Effect 原因と結果 A. The effect of World War II B. The effect of the Battle of Sekigahara	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
Week 12	11 Definition of a New Word 新しい言葉を説明しよう！ A. YouTuber B. Power Spot	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
Week 13	12 Research 調査をしよう！ A. The record number of single fathers in the US B. Acne is a nuisance for young people	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
Week 14	13 New Products 新製品 A. Musio X B. HelloPika	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
Week 15	Final Writing Test	

1.授業コード (ナンバリング)	WRT115-Y51	2.科目名	ライティング総合 1 L3		3.単位数	2
4.授業担当教員	フィゴニー啓子					
5.授業科目の区分	総合演習	6.必修・ 選択の区分	選択	7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻	英語コミュニケーション			9.履修学年	2 年～	
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	Objective: In this class, students progress from paragraph development to essay writing. Abstract: The topics include personal episodes related to favorite activities and daily life as well as learning how to make arguments on social and cultural issues. Students also learn how to write citations and references. In addition, grammar and vocabulary/idioms are developed through exercises focusing on accuracy.					
18.学習目標と DPとの関連	Students can 1. learn how to compose coherent paragraphs. 2. write four 400- word- essays. 3. learn how to write citations and references. 4. develop vocabulary, idioms and grammar. 5. work both individually and cooperatively in pairs and groups. PD: 自律性、問題発見、解決力					
19.教科書・教材	handouts					
20.参考文献	To be announced in class					
21.成績評価	In-class report = 40% Essay = 40% Quizzes = 20% * 毎授業提出するレポート (in-class report)が未提出の場合、各 - 5 %減点となる。 * 総括試験の代わりに、4 本のエッセイ提出が単位認定に不可欠である。 * 提出期限が過ぎた課題レポート、エッセイは受理しない。 * 翻訳機の使用や剽窃が疑われるエッセイの評価点はゼロである。					
22.コメント	1. B5 サイズルーズリーフ、USB メモリ、コンピューターは毎回持参すること。 2. 天候等の諸事情により、急遽、対面からオンラインになった場合は、 WebClass で連絡事項を確認し、Zoom ミーティングに参加すること。 3.体調不良等で出席停止になった場合は、速やかにメールで連絡をいれること。					
23.オフィスアワー	授業の前後、合間に教室または講師控室にて対応する。					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	(1) Orientation : Introducing the syllabus, class rules. writing oneself (2) free writing paragraph writing (1) ~outline, ~topic sentence, supporting details, concluding sentence			Homework paragraph writing		

	pair w	
Week 2	(1) free writing paragraph writing (2) vocabulary, grammar work (2) free writing paragraph writing (3) vocabulary, grammar work pair work	Homework paragraph writing
Week 3	(1) free writing paragraph writing (4) vocabulary, grammar work (2) free writing paragraph writing (5) vocabulary, grammar work pair work	Homework paragraph writing
Week 4	(1) free writing paragraph writing (6) vocabulary, grammar work (2) free writing Quiz paragraph writing (7) vocabulary, grammar work group work	Homework prepare for a quiz (paragraph writing)
Week 5	(1) free writing paragraph writing (8) vocabulary, grammar work (2) free writing paragraph writing (9) vocabulary, grammar work group work	Homework Review vocabulary, grammar
Week 6	(1) free writing analyzing a model essay 1 ~ outline ~introduction, body, conclusion, thesis statement (2) free writing analyzing a model essay 2 ~ outline grammar, vocabulary pair work	Homework Review the model essay
Week 7	(1) free writing analyzing a model essay 3 ~ outline ~introduction, body, conclusion, thesis statement (2) free writing Quiz (model essay)	Homework Review the model essay

	grammar, vocabulary pair work	
Week 8	(1) Essay writing 1 first draft writing an outline and introduction (2) Essay writing 1 second draft writing bodies and conclusion self revising, peer revising pair work	Homework essay writing revising
Week 9	(1) Essay writing 1 final draft peer revising, self editing (2) free writing grammar, vocabulary work pair work	Homework finish the final draft * submit the essay 1
Week 10	(1) Essay writing 2 first draft writing an outline, introduction (2) Essay writing 2 second draft writing bodies, conclusion self editing	Homework writing the essay 2 revising, editing
Week 11	(1) Essay writing 2 final draft self editing, peer revising (2) free writing grammar, vocabulary work pair work	Homework finish the final draft * submit the essay 2
Week 12	(1) Essay writing 3 first draft writing an outline, introduction, bodies, conclusion (2) Essay writing 3 second draft self revising, peer revising, self editing pair work	Homework writing the essay 3 revising, editing
Week 13	(1) Essay writing 3 final draft (2) free writing vocabulary, grammar work pair work	Homework finish the final draft editing * submit the essay 3
Week 14	(1) free writing review essay writing grammar, vocabulary work pair work (2) Essay test	Homework prepare for an essay test
Week 15	(1) review the essay test grammar, vocabulary work (2) Consolidation reflection	

1.授業コード (ナンバリング)	WRT116-Y51	2.科目名	ライティング総合2 L4		3.単位数	2
4.授業担当教員	岡本由紀子					
5.授業科目の区分		6.必修・ 選択の区分		7.開講学期・ 年度	2024 年度 秋学期	
8.履修可能な専攻				9.履修学年		
10.取得資格の要件			11.先修条件			
12.研究室	※※※		13.電話番号	※※※		
14.E-Mail Address	※※※		15.授業形態	演習 & 講義		
16.履修制限						
17.授業の目的と概要	At the end of the semester, L4 students are expected to accomplish good short essays giving different points of view, linking ideas and using accurate and appropriate language about traditional Japan, local and international social issues.					
18.学習目標と DPとの関連	1. Describe a scene or picture accurately using appropriate vocabulary 2. Write a story accurately linking ideas and using appropriate vocabulary 3 Write a short essay giving different points of view, linking ideas and using accurate and appropriate language					
19.教科書・教材	はじめてのパラグラフ・ライティング Smart Writing 仲谷 都 / 吉原 学 / Ruth Fallon 共著 成美堂					
20.参考文献	to be announced in class					
21.成績評価	・ Quiz & Mid-term test 40% ・ Final Test 20% ・ assignment & task 40%					
22.コメント	Bring your computer and the textbook.					
23.オフィスアワー	月・木の授業の前後で教室や講師控室で対応する					
24.授業回数	25.授業内容			26.アサインメント(宿題など)		
Week 1	Course orientation, Describing a scene or picture accurately using appropriate vocabulary			語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)		
Week 2	Chapter 1 What Is a Paragraph? パラグラフとは何か			語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)		
Week 3	Chapter 2 Narration 出来事を語る			語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)		
Week 4	Chapter 3 Process 手続き・手順を説明する			語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)		
Week 5	Chapter 4 Description of Feelings 感情を描写する			語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)		
Week 6	Chapter 5 Description of People 人を描写する			語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)		
Week 7	Chapter 6 Description of Places & Locations 場所を描写する			語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)		
Week 8	Chapter 7 Definition 人物や物事を定義する			語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)		
Week 9	Chapter 8 Comparison & Contrast 比較と対照			語彙の予習 (各 45 分)		

		表現の復習 (45 分)
Week 10	Chapter 9 Cause & Effect 原因と結果	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
Week 11	Chapter 10 Problems & Solutions 問題と解決策	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
Week 12	Chapter 11 Your Opinion-Agree 賛成意見を述べる	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
Week 13	Chapter 12 Your Opinion-Disagree 反対意見を述べる	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
Week 14	Chapter 13 Data Analysis データ分析	語彙の予習 (各 45 分) 表現の復習 (45 分)
Week 15	Final Writing Test	